

静岡県埋蔵文化財センター調査報告 第3集

# 富士石遺跡Ⅱ

第二東名No.142地点

旧石器時代（AT上位）～縄文時代初頭編

第二東名建設事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

長泉町-10

（第1分冊）

2012

中日本高速道路株式会社東京支社  
静岡県埋蔵文化財センター

静岡県埋蔵文化財センター調査報告 第3集

# 富士石遺跡Ⅱ

第二東名No.142地点

旧石器時代（AT上位）～縄文時代初頭編

第二東名建設事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

長泉町-10

（第1分冊）

2012

中日本高速道路株式会社東京支社  
静岡県埋蔵文化財センター



# 序

本書に収録した富士石遺跡は、先史時代の遺跡が多い地域として知られる愛鷹山麓に位置する、後期旧石器時代から中世にかけての複合遺跡です。発掘調査は第二東名（新東名）高速道路の建設に伴って実施され、膨大な量の遺物が出土しました。本書はⅠ・Ⅱ・Ⅲの3巻から成る富士石遺跡の調査報告書の第2巻となります。

本書では後期旧石器時代から縄文時代初頭に関する調査成果を収録しており、約2万9千年前から1万5千年前の時代に愛鷹山麓で生活した人類の生活の変遷を明らかにする膨大な資料群となっています。

中でも重要なのは休場層から出土した「石製装飾品」で、穿孔、線刻のある板状の石製品で、ペンダントとも考えられる資料です。日本列島の旧石器時代の遺跡では狩猟具など利器としての石器は多く出土するものの、こうした石製品の出土は極めて珍しく、旧石器時代人の芸術表現や精神性の一端を垣間見せてくれる稀有な資料であります。

本書が、研究者のみならず、県民の皆様に広く活用され、地域の歴史を理解する一助となることを願います。

最後になりましたが、現地調査及び資料整理並びに本書の作成にあたり、中日本高速道路株式会社東京支社ほか、各関係機関の御援助、御理解をいただきました。この場を借りて厚く御礼申し上げます。

2012年1月

静岡県埋蔵文化財センター 所長  
勝 田 順 也

# 例 言

- 1 本書は、静岡県駿東郡長泉町東野字八分平285-18他に所在する富士石遺跡（第二東名No.142地点）の発掘調査報告書の2冊目である。
- 2 発掘調査は、第二東名建設事業に伴う埋蔵文化財発掘調査業務として、中日本高速道路株式会社（旧日本道路公団建設局）の委託を受け、静岡県教育委員会文化財保護課（旧静岡県教育委員会文化課）の指導のもと、財団法人静岡県埋蔵文化財調査研究所が実施し、平成23年度以降は、静岡県埋蔵文化財センターが同研究所の業務を引き継いで実施した。
- 3 確認調査・本調査及び資料整理の期間は『富士石遺跡Ⅰ』に掲載した。
- 4 現地調査体制は『富士石遺跡Ⅰ』に掲載した。平成21～23年度の体制は以下の通りである。

平成21年度  
（資料整理）平成21年4月～平成22年3月  
東部調査係長 笹原千賀子 常勤嘱託員 阿部 敬

平成22年度  
（資料整理）平成22年4月～平成23年3月  
調査一係長 勝又直人 常勤嘱託員 中村雄紀

平成23年度  
（資料整理）平成23年4月～同7月  
調査一係長 富樫孝志 常勤嘱託員 柴田亮平
- 5 本書の執筆は中村雄紀が行った。
- 6 本書の編集は静岡県埋蔵文化財センターが行った。
- 7 石器実測及びブレースは株式会社ラング、加藤建設株式会社に委託し、一部を静岡県埋蔵文化財調査研究所で行った。

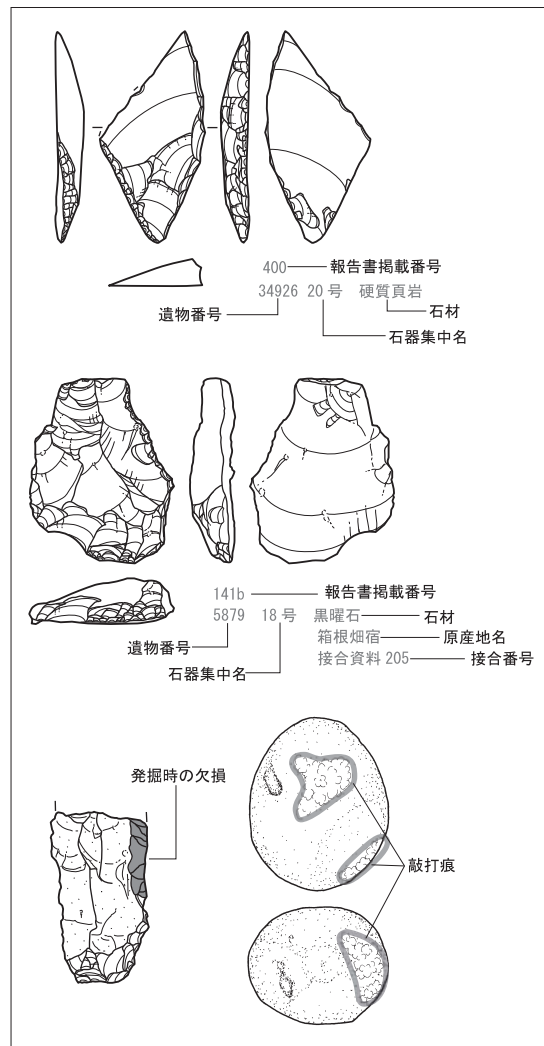
黒曜石産地分析は沼津工業高等専門学校名誉教授（現在）の望月明彦氏に6回に分けて委託した。このうち、主たる旧石器時代の石器の分析結果は『富士石遺跡Ⅰ』に収録済みであり、旧石器時代石器の分析補遺及び縄文時代初頭の石器の分析結果を本書に収録した。縄文時代石器の分析結果は『富士石遺跡Ⅲ』に収録予定である。

第XV文化層13号礫群に関する自然科学分析はパリノ・サーヴェイ株式会社に委託した。その他の炭化物の樹種同定及び年代測定は株式会社加速器分析研究所に委託した。
- 8 発掘調査および資料整理において以下の方々に御指導を賜った。厚くお礼申し上げる。

池谷信之 稲田孝司 小野 昭 国武貞克 小崎 晋 佐藤宏之 白石浩之 高尾好之 廣瀬高文 三好元樹 山田 哲 （五十音順・敬称略）
- 9 発掘調査資料は静岡県教育委員会が保管している。

# 凡 例

- 1 調査区の方眼設定は、国土座標（平面直角座標Ⅷ系）の（-93,120.00, 34,630.00）を原点（A, 0）とし、南北方向に-1～35までの37ラインを、東西方向にZV～ZZ、A～Z、AA～ARの47ラインをそれぞれ10mごとに設定した。座標は平成15年度改訂以前の旧座標を使用している。
- 2 各グリッドの呼称は、該当するライン交点の座標名を採用した。例えば、ライン交点（B, 2）を南西角とする10m×10mの範囲は「B 2グリッド」と記載した。
- 3 出土遺物は通し番号を付し、出土位置を記録した上で取り上げ、この通し番号を遺物番号とした。また、表採・一括など出土位置不明の遺物は80,000番台の遺物番号を任意の順で付与した。
- 4 石材の分類は、静岡県埋蔵文化財調査研究所の内部基準（非公表）に従った。
- 5 黒曜石の産地は、原則として望月明彦氏の分析基準に従い、これらと接合する未分析資料も含めて「～産黒曜石」と表記した。
- 6 石器の実測は、断面と打面の部分展開図を除き、第三角投影図法に準拠した。
- 7 石器実測図の縮尺は、二次加工石器類、剥片類、石核類、接合資料が2／3、礫石器類が1／3を基本とした。但し一部大型の石核は1／3とした。
- 8 石器集中の設定は、3点以上の石器が集中して検出されていることを基準にした。石器集中番号は文化層ごとに通し番号とし、「～号石器集中」とした。礫群の設定は、3点以上の大型礫が集中していることを基準にした。礫群番号は文化層ごとに通し番号を付与し、「～号礫群」とした。
- 9 石器・礫の接合番号はそれぞれ、『富士石遺跡Ⅰ』～『富士石遺跡Ⅲ』で共通の通し番号を付している。
- 10 土坑は、人為によると推定される土中の掘り込みについて設定した。本書で扱う範囲の土坑は1基のみであるため、通し番号は付けていない。
- 11 文化層の設定は、安定的な礫群、密度の高い石器集中、土坑の掘り込み面を基準にした。文化層番号は、『富士石遺跡Ⅰ』所収の文化層に続けて、下層から順にローマ数字で「第～文化層」とした。本書には第XIV文化層以降が収録されている。
- 12 土坑、礫、石器の各分布図・礫群実測図の縮尺は、文化層全体図を1／2,400、その部分拡大図を1／500、遺構別分布図を1／80または1／160とした。また、土坑実測図の縮尺は1／40とした。
- 13 石器の分類、計測方法については第3章第3節に記載した。
- 14 遺物実測図の凡例は右図の通りである。



《遺物実測図凡例》



# 富士石遺跡Ⅱ

—第1分冊—

## 目 次

序  
例言  
凡例  
目次

第1章 調査の概要	1
第1節 発掘調査の概要	1
第2節 整理作業の経過	1
1. 整理作業の経過	1
2. 実測図・遺構図・遺物分布図等の作成について	2
3. 自然化学分析について	2
4. 既発表の速報・資料紹介について	2
第2章 遺跡の位置と環境	3
第1節 地理的環境	3
第2節 歴史的環境	6
第3章 調査の方法	7
第1節 調査区の設定と発掘調査	7
1. 調査区と地形区分	7
2. 試掘坑と土層堆積状況	7
3. 掘削範囲と遺跡の旧地形	14
第2節 土層と文化層	16
第3節 整理作業の方法	19
1. 整理作業の概要	19
2. 文化層と遺構の設定	19
3. 調査区・遺構図面の掲載方法	20
4. 遺物の分類と掲載方法	21
5. 礫の分類	22
6. 遺物の計測方法	22
第4章 遺構と遺物	23
第1節 資料の概要	23



第2節 第XIV文化層	26
1. 北尾根の遺物群	28
2. 中央尾根の遺物群	32
3. 西支谷の遺物群	47
4. 西尾根の遺物群	57
第3節 第XV文化層	59
1. 北尾根の遺物群	61
2. 東尾根（北）の遺物群	68
3. 東尾根（南）の遺物群	70
4. 東支谷の遺物群	73
5. 中央尾根の遺物群	74
6. 西支谷の遺物群	85
7. 西尾根の遺物群	92
第4節 第XVI文化層	125
1. 北尾根の遺物群	127
2. 東尾根の遺物群	144
3. 東支谷（北）の遺物群	148
4. 東支谷（南）の遺物群	164
5. 中央尾根の遺物群	171
6. 西支谷の遺物群	177
7. 西尾根（東）の遺物群	181
8. 西尾根（西）の遺物群	183
第5節 第XVII文化層	186
1. 北尾根の遺物群	188
2. 東尾根の遺物群	189
3. 東支谷の遺物群	201
4. 中央尾根（北）の遺物群	212
5. 中央尾根（南）の遺物群	229
6. 西支谷の遺物群	250
7. 西尾根（北）の遺物群	283
8. 西尾根（南）の遺物群	321
第6節 第XVIII文化層	346
1. 北尾根の遺物群	352
2. 東尾根の遺物群	359
3. 東支谷の遺物群	360
4. 中央尾根の遺物群	372
5. 西支谷の遺物群	395
6. 西尾根（北）の遺物群	401
7. 西尾根（南）の遺物群	405
第7節 第XIX文化層	431
第8節 休場層の土坑	434

第9節 縄文時代初頭の遺物	436
1. 遺物の分布	436
2. 出土石器	436
第10節 表採・一括等の遺物	441
1. 出土遺物	441
第5章 まとめ	443
第1節 遺跡と文化層の概観	443
第2節 富士石遺跡の石器群の変遷	444
1. 第XIV文化層	444
2. 第XV文化層	444
3. 第XVI文化層	445
4. 第XVII文化層	446
5. 第XVIII文化層	450
6. 第XIX文化層	453
7. 縄文時代初頭	453

抄録

# 挿図目次

第1図	富士石遺跡の位置	3	第26図	第XIV文化層中央尾根	
第2図	周辺の遺跡	5	石材別分布	35	
第3図	調査区・グリッドと地形区分	8	第27図	第XIV文化層3号石器集中	
第4図	試掘坑の配置と土層断面の位置	9	器種別分布	36	
第5図	土層の堆積状況(1)	10	第28図	第XIV文化層3号石器集中	
第6図	土層の堆積状況(2)	11	石材別分布	36	
第7図	土層の堆積状況(3)	12	第29図	第XIV文化層4号石器集中	
第8図	土層の堆積状況(4)	13	器種別分布	37	
第9図	土層柱状図の作成方法	14	第30図	第XIV文化層4号石器集中	
第10図	層位別掘削範囲と旧地形	15	石材別分布	37	
第11図	富士石遺跡の基本層序と文化層	17	第31図	第XIV文化層5号石器集中	
第12図	遺物分布図の土層の表示方法	20	器種別分布	38	
第13図	石器の計測方法	22	第32図	第XIV文化層5号石器集中	
第14図	文化層別遺物出土状況(北尾根)	24	石材別分布	38	
第15図	文化層別遺物出土状況 (中央尾根 第XVII・XVIII文化層)	25	第33図	第XIV文化層6号石器集中	
第16図	第XIV文化層遺物分布	27	器種別分布	39	
第17図	第XIV文化層北尾根 器種別分布	28	第34図	第XIV文化層6号石器集中	
第18図	第XIV文化層北尾根 石材別分布	28	石材別分布	39	
第19図	第XIV文化層1号石器集中 器種別分布	29	第35図	第XIV文化層7号石器集中	
第20図	第XIV文化層1号石器集中 石材別分布	29	器種別分布	40	
第21図	第XIV文化層2号石器集中 器種別分布	29	第36図	第XIV文化層7号石器集中	
第22図	第XIV文化層2号石器集中 石材別分布	29	石材別分布	40	
第23図	第XIV文化層1・2号礫群	30	第37図	第XIV文化層8号石器集中	
第24図	第XIV文化層北尾根 石器集中	31	器種別分布	41	
第25図	第XIV文化層中央尾根 器種別分布	34	第38図	第XIV文化層8号石器集中	
			石材別分布	41	
			第39図	第XIV文化層3・4号礫群	42
			第40図	第XIV文化層5号炭化物集中	43
			第41図	第XIV文化層6号炭化物集中	43
			第42図	第XIV文化層7号炭化物集中	43
			第43図	第XIV文化層8号炭化物集中	43
			第44図	第XIV文化層中央尾根 石器集中(1)	44

第45図	第XIV文化層中央尾根 石器集中(2)	45	第68図	第XV文化層遺物分布	60
第46図	第XIV文化層中央尾根 石器集中(3)	46	第69図	第XV文化層北尾根・東尾根 (北)・(南) 器種別分布	62
第47図	第XIV文化層中央尾根 石器集中外	46	第70図	第XV文化層北尾根・東尾根 (北)・(南) 石材別分布	63
第48図	第XIV文化層西支谷・西尾根 器種別分布	48	第71図	第XV文化層1号石器集中 器種別分布	64
第49図	第XIV文化層西支谷・西尾根 石材別分布	48	第72図	第XV文化層1号石器集中 石材別分布	64
第50図	第XIV文化層9号石器集中 器種別分布	49	第73図	第XV文化層1・2号礫群	65
第51図	第XIV文化層9号石器集中 石材別分布	49	第74図	第XV文化層北尾根 石器集中(1)	66
第52図	第XIV文化層10号石器集中 器種別分布	50	第75図	第XV文化層北尾根 石器集中(2)	67
第53図	第XIV文化層10号石器集中 石材別分布	50	第76図	第XV文化層北尾根 石器集中外	67
第54図	第XIV文化層11号石器集中 器種別分布	51	第77図	第XV文化層2号石器集中 器種別分布	69
第55図	第XIV文化層11号石器集中 石材別分布	51	第78図	第XV文化層2号石器集中 石材別分布	69
第56図	第XIV文化層12号石器集中 器種別分布	51	第79図	第XV文化層東尾根(北) 石器集中外	70
第57図	第XIV文化層12号石器集中 石材別分布	51	第80図	第XV文化層3号石器集中 器種別分布	71
第58図	第XIV文化層13号石器集中 器種別分布・4号炭化物集中	52	第81図	第XV文化層3号石器集中 石材別分布	71
第59図	第XIV文化層13号石器集中 石材別分布	52	第82図	第XV文化層3号礫群	72
第60図	第XIV文化層5~7号礫群	53	第83図	第XV文化層東尾根(南) 石器集中	72
第61図	第XIV文化層1号炭化物集中	54	第84図	第XV文化層東支谷 石器集中外	73
第62図	第XIV文化層2号炭化物集中	54	第85図	第XV文化層中央尾根(1) 器種別分布	75
第63図	第XIV文化層3号炭化物集中	55	第86図	第XV文化層中央尾根(1) 石材別分布	75
第64図	第XIV文化層西支谷 石器集中	56	第87図	第XV文化層中央尾根(2)・西支谷 器種別分布	76
第65図	第XIV文化層西支谷 石器集中外	57	第88図	第XV文化層中央尾根(2)・西支谷 石材別分布	76
第66図	第XIV文化層8・9号礫群	58			
第67図	第XIV文化層西尾根 石器集中外	58			

第89図 第X V文化層4・5号石器集中 器種別分布	78	第110図 第X V文化層10号石器集中 石材別分布	97
第90図 第X V文化層4・5号石器集中 石材別分布	79	第111図 第X V文化層11号石器集中 器種別分布	98
第91図 第X V文化層4号礫群	80	第112図 第X V文化層11号石器集中 石材別分布	99
第92図 第X V文化層1号炭化物集中	81	第113図 第X V文化層12号石器集中 器種別分布	99
第93図 第X V文化層中央尾根 石器集中(1)	82	第114図 第X V文化層12号石器集中 石材別分布	99
第94図 第X V文化層中央尾根 石器集中(2)	83	第115図 第X V文化層13号石器集中 器種別分布	100
第95図 第X V文化層中央尾根 石器集中外	84	第116図 第X V文化層13号石器集中 石材別分布	100
第96図 第X V文化層6号石器集中 器種別分布	86	第117図 第X V文化層14・15号石器集中 器種別分布	101
第97図 第X V文化層6号石器集中 石材別分布	86	第118図 第X V文化層14・15号石器集中 石材別分布	101
第98図 第X V文化層7号石器集中 器種別分布	87	第119図 第X V文化層16号石器集中 器種別分布	102
第99図 第X V文化層7号石器集中 石材別分布	87	第120図 第X V文化層16号石器集中 石材別分布	102
第100図 第X V文化層5～7号礫群	87	第121図 第X V文化層17号石器集中 器種別分布	103
第101図 第X V文化層西支谷 石器集中	88	第122図 第X V文化層17号石器集中 石材別分布	103
第102図 第X V文化層西支谷 石器集中外	89	第123図 第X V文化層18号石器集中 器種別分布	104
第103図 第X V文化層西尾根 器種別分布	90	第124図 第X V文化層18号石器集中 石材別分布	105
第104図 第X V文化層西尾根 石材別分布	91	第125図 第X V文化層8～13号礫群	106
第105図 第X V文化層8号石器集中 器種別分布	96	第126図 第X V文化層14～17号礫群	107
第106図 第X V文化層8号石器集中 石材別分布	96	第127図 第X V文化層18・19号礫群	108
第107図 第X V文化層9号石器集中 器種別分布	97	第128図 第X V文化層西尾根 石器集中(1)	112
第108図 第X V文化層9号石器集中 石材別分布	97	第129図 第X V文化層西尾根 石器集中(2)	113
第109図 第X V文化層10号石器集中 器種別分布	97		

第130図 第XV文化層西尾根 石器集中(3) .....	114	第150図 第XVI文化層4号石器集中 器種別分布 .....	134
第131図 第XV文化層西尾根 石器集中(4) .....	115	第151図 第XVI文化層4号石器集中 石材別分布 .....	134
第132図 第XV文化層西尾根 石器集中(5) .....	116	第152図 第XVI文化層5号石器集中 器種別分布 .....	135
第133図 第XV文化層西尾根 石器集中(6) .....	117	第153図 第XVI文化層5号石器集中 石材別分布 .....	135
第134図 第XV文化層西尾根 石器集中(7) .....	118	第154図 第XVI文化層1号礫群 .....	136
第135図 第XV文化層西尾根 石器集中(8) .....	119	第155図 第XVI文化層2~24号礫群(1) .....	137
第136図 第XV文化層西尾根 石器集中(9) .....	120	第156図 第XVI文化層2~24号礫群(2) .....	138
第137図 第XV文化層西尾根 石器集中(10) .....	121	第157図 第XVI文化層北尾根 石器集中(1) .....	140
第138図 第XV文化層西尾根 石器集中(11) .....	122	第158図 第XVI文化層北尾根 石器集中(2) .....	141
第139図 第XV文化層西尾根 石器集中(12) .....	123	第159図 第XVI文化層北尾根 石器集中(3) .....	142
第140図 第XV文化層西尾根 石器集中外 .....	124	第160図 第XVI文化層北尾根 石器集中外 .....	143
第141図 第XVI文化層遺物分布 .....	126	第161図 第XVI文化層11号石器集中 器種別分布 .....	145
第142図 第XVI文化層北尾根・東尾根・ 東支谷(北)・(南) 器種別分布 .....	128	第162図 第XVI文化層11号石器集中 石材別分布 .....	145
第143図 第XVI文化層北尾根・東尾根・ 東支谷(北)・(南) 石材別分布 .....	129	第163図 第XVI文化層44~50号礫群 .....	146
第144図 第XVI文化層1号石器集中 器種別分布 .....	132	第164図 第XVI文化層東尾根 石器集中 .....	147
第145図 第XVI文化層2号石器集中 器種別分布 .....	132	第165図 第XVI文化層6号石器集中 器種別分布 .....	150
第146図 第XVI文化層1号石器集中 石材別分布 .....	132	第166図 第XVI文化層6号石器集中 石材別分布 .....	150
第147図 第XVI文化層2号石器集中 石材別分布 .....	132	第167図 第XVI文化層7号石器集中 器種別分布 .....	151
第148図 第XVI文化層3号石器集中 器種別分布 .....	133	第168図 第XVI文化層7号石器集中 石材別分布 .....	151
第149図 第XVI文化層3号石器集中 石材別分布 .....	133	第169図 第XVI文化層8号石器集中 器種別分布 .....	152
		第170図 第XVI文化層8号石器集中 石材別分布 .....	153
		第171図 第XVI文化層9号石器集中 器種別分布 .....	154

第172図 第XVI文化層9号石器集中 石材別分布 ……………	154	第193図 第XVI文化層16号石器集中 石材別分布 ……………	174
第173図 第XVI文化層10号石器集中 器種別分布 ……………	155	第194図 第XVI文化層56・57号礫群 ……………	175
第174図 第XVI文化層10号石器集中 石材別分布 ……………	155	第195図 第XVI文化層中央尾根 石器集中 ……………	176
第175図 第XVI文化層25号礫群 ……………	156	第196図 第XVI文化層中央尾根 石器集中外 ……………	176
第176図 第XVI文化層26～28号礫群 ……………	157	第197図 第XVI文化層14号石器集中 器種別分布 ……………	178
第177図 第XVI文化層29～43号礫群 ……………	158	第198図 第XVI文化層14号石器集中 石材別分布 ……………	178
第178図 第XVI文化層東支谷（北） 石器集中（1） ……………	161	第199図 第XVI文化層17号石器集中 器種別分布 ……………	179
第179図 第XVI文化層東支谷（北） 石器集中（2） ……………	162	第200図 第XVI文化層17号石器集中 石材別分布 ……………	179
第180図 第XVI文化層東支谷（北） 石器集中外 ……………	163	第201図 第XVI文化層58号礫群 ……………	180
第181図 第XVI文化層12号石器集中 器種別分布 ……………	165	第202図 第XVI文化層西支谷 石器集中 ……………	180
第182図 第XVI文化層12号石器集中 石材別分布 ……………	165	第203図 第XVI文化層西支谷 石器集中外 ……………	180
第183図 第XVI文化層13号石器集中 器種別分布 ……………	166	第204図 第XVI文化層15号石器集中 器種別分布 ……………	182
第184図 第XVI文化層13号石器集中 石材別分布 ……………	166	第205図 第XVI文化層15号石器集中 石材別分布 ……………	182
第185図 第XVI文化層51号礫群 ……………	167	第206図 第XVI文化層55号礫群 ……………	182
第186図 第XVI文化層52～54号礫群 ……………	168	第207図 第XVI文化層西尾根（東） 石器集中 ……………	182
第187図 第XVI文化層東支谷（南） 石器集中（1） ……………	169	第208図 第XVI文化層西尾根（西） 器種別分布 ……………	184
第188図 第XVI文化層東支谷（南） 石器集中（2） ……………	170	第209図 第XVI文化層西尾根（西） 石材別分布 ……………	184
第189図 第XVI文化層東支谷（南） 石器集中外 ……………	170	第210図 第XVI文化層59・60号礫群 ……………	185
第190図 第XVI文化層中央尾根・西支谷・ 西尾根（東） 器種別分布 ……………	172	第211図 第XVI文化層西尾根（西） 石器集中外 ……………	185
第191図 第XVI文化層中央尾根・西支谷・ 西尾根（東） 石材別分布 ……………	173	第212図 第XVII文化層遺物分布 ……………	187
第192図 第XVI文化層16号石器集中 器種別分布 ……………	174	第213図 第XVII文化層北尾根 遺物分布 ……………	188
		第214図 第XVII文化層1号礫群 ……………	188
		第215図 第XVII文化層東尾根 器種別分布 ……………	190

第216図 第XVII文化層東尾根 石材別分布 ……………	190	第236図 第XVII文化層東支谷 5号石器集中 ……………	210
第217図 第XVII文化層1号石器集中 石材別分布 ……………	191	第237図 第XVII文化層東支谷 石器集中外 ……………	211
第218図 第XVII文化層1号石器集中 器種別分布、3・4・7号礫群 ……………	192	第238図 第XVII文化層中央尾根 (北)・(南) 器種別分布 ……………	214
第219図 第XVII文化層2号石器集中 器種別分布、5・6号礫群 ……………	194	第239図 第XVII文化層中央尾根 (北)・(南) 石材別分布 ……………	215
第220図 第XVII文化層2号石器集中 石材別分布 ……………	195	第240図 第XVII文化層6号石器集中 器種別分布 ……………	216
第221図 第XVII文化層3号石器集中 器種別分布 ……………	196	第241図 第XVII文化層6号石器集中 石材別分布 ……………	217
第222図 第XVII文化層3号石器集中 石材別分布 ……………	197	第242図 第XVII文化層7号石器集中 器種別分布、19号礫群 ……………	218
第223図 第XVII文化層2号礫群 ……………	199	第243図 第XVII文化層7号石器集中 石材別分布 ……………	219
第224図 第XVII文化層東尾根 石器集中 ……	200	第244図 第XVII文化層8号石器集中 器種別分布、16～18号礫群 ……………	220
第225図 第XVII文化層東尾根 石器集中外 ……………	201	第245図 第XVII文化層8号石器集中 石材別分布 ……………	221
第226図 第XVII文化層東支谷 器種別分布 ……………	202	第246図 第XVII文化層9号石器集中 器種別分布、20～22号礫群 ……………	222
第227図 第XVII文化層東支谷 石材別分布 ……………	202	第247図 第XVII文化層9号石器集中 石材別分布 ……………	223
第228図 第XVII文化層4号石器集中 器種別分布(西半部)、8号礫群 ……………	204	第248図 第XVII文化層15・23号礫群 ……	224
第229図 第XVII文化層4号石器集中 器種別分布(東半部)、9号礫群 ……………	205	第249図 第XVII文化層中央尾根(北) 石器集中(1) ……………	226
第230図 第XVII文化層4号石器集中 石材別分布 ……………	205	第250図 第XVII文化層中央尾根(北) 石器集中(2) ……………	227
第231図 第XVII文化層5号石器集中 器種別分布(部分)、12号礫群 ……………	206	第251図 第XVII文化層中央尾根(北) 石器集中(3) ……………	228
第232図 第XVII文化層5号石器集中 器種別分布(部分)、13号礫群 ……………	206	第252図 第XVII文化層中央尾根(北) 石器集中外 ……………	228
第233図 第XVII文化層5号石器集中 石材別分布 ……………	207	第253図 第XVII文化層10号石器集中 器種別分布、24・25号礫群 ……………	230
第234図 第XVII文化層10・11・14号礫群 ……	208	第254図 第XVII文化層10号石器集中 石材別分布 ……………	231
第235図 第XVII文化層東支谷 4号石器集中 ……………	209		



第255図 第XVII文化層11号石器集中 器種別分布	233	第275図 第XVII文化層中央尾根(南) 石器集中外(1)	246
第256図 第XVII文化層11号石器集中 石材別分布	233	第276図 第XVII文化層中央尾根(南) 石器集中外(2)	247
第257図 第XVII文化層12号石器集中 器種別分布	234	第277図 第XVII文化層西支谷・西尾根(北) 器種別分布	248
第258図 第XVII文化層12号石器集中 石材別分布	234	第278図 第XVII文化層西支谷・西尾根(北) 石材別分布	249
第259図 第XVII文化層13号石器集中 器種別分布	235	第279図 第XVII文化層18号石器集中 器種別分布	252
第260図 第XVII文化層13号石器集中 石材別分布	235	第280図 第XVII文化層18号石器集中 石材別分布	253
第261図 第XVII文化層14号石器集中 器種別分布	236	第281図 第XVII文化層19号石器集中 器種別分布、30号礫群	254
第262図 第XVII文化層14号石器集中 石材別分布	236	第282図 第XVII文化層19号石器集中 石材別分布	254
第263図 第XVII文化層15号石器集中 器種別分布	237	第283図 第XVII文化層20号石器集中 器種別分布、31号礫群	256
第264図 第XVII文化層15号石器集中 石材別分布	237	第284図 第XVII文化層20号石器集中 石材別分布	257
第265図 第XVII文化層16号石器集中 器種別分布、28号礫群	238	第285図 第XVII文化層21号石器集中 器種別分布、32号礫群	258
第266図 第XVII文化層16号石器集中 石材別分布	238	第286図 第XVII文化層21号石器集中 石材別分布	259
第267図 第XVII文化層17号石器集中 器種別分布、29号礫群	239	第287図 第XVII文化層22号石器集中 器種別分布、33号礫群	260
第268図 第XVII文化層17号石器集中 石材別分布	239	第288図 第XVII文化層22号石器集中 石材別分布	261
第269図 第XVII文化層26・27号礫群	239	第289図 第XVII文化層23号石器集中 器種別分布、34号礫群	262
第270図 第XVII文化層55号礫群	240	第290図 第XVII文化層23号石器集中 石材別分布	263
第271図 第XVII文化層中央尾根(南) 石器集中(1)	241	第291図 第XVII文化層24号石器集中 器種別分布、35・36号礫群	264
第272図 第XVII文化層中央尾根(南) 石器集中(2)	242	第292図 第XVII文化層24号石器集中 石材別分布	265
第273図 第XVII文化層中央尾根(南) 石器集中(3)	243	第293図 第XVII文化層25号石器集中 器種別分布	266
第274図 第XVII文化層中央尾根(南) 石器集中(4)	244		

第294図 第XVII文化層25号石器集中 石材別分布	266	第313図 第XVII文化層29号石器集中 器種別分布、39号礫群	292
第295図 第XVII文化層26号石器集中 器種別分布	268	第314図 第XVII文化層29号石器集中 石材別分布	293
第296図 第XVII文化層26号石器集中 石材別分布	269	第315図 第XVII文化層30号石器集中 器種別分布、40・41号礫群	294
第297図 第XVII文化層37号礫群	270	第316図 第XVII文化層30号石器集中 石材別分布	295
第298図 第XVII文化層西支谷 石器集中(1)	271	第317図 第XVII文化層31号石器集中 器種別分布、43号礫群	296
第299図 第XVII文化層西支谷 石器集中(2)	273	第318図 第XVII文化層31号石器集中 石材別分布	297
第300図 第XVII文化層西支谷 石器集中(3)	274	第319図 第XVII文化層32号石器集中 器種別分布、42・44・45号礫群	298
第301図 第XVII文化層西支谷 石器集中(4)	275	第320図 第XVII文化層32号石器集中 石材別分布	299
第302図 第XVII文化層西支谷 石器集中(5)	276	第321図 第XVII文化層33号石器集中 器種別分布	300
第303図 第XVII文化層西支谷 石器集中(6)	277	第322図 第XVII文化層33号石器集中 石材別分布	300
第304図 第XVII文化層西支谷 石器集中(7)	280	第323図 第XVII文化層34号石器集中 器種別分布	301
第305図 第XVII文化層西支谷 石器集中外(1)	281	第324図 第XVII文化層34号石器集中 石材別分布	301
第306図 第XVII文化層西支谷 石器集中外(2)	282	第325図 第XVII文化層35号石器集中 器種別分布、46号礫群	302
第307図 第XVII文化層西尾根(北) 器種別分布	284	第326図 第XVII文化層35号石器集中 石材別分布	303
第308図 第XVII文化層西尾根(北) 石材別分布	285	第327図 第XVII文化層36号石器集中 器種別分布	304
第309図 第XVII文化層27号石器集中 器種別分布、38号礫群	289	第328図 第XVII文化層36号石器集中 石材別分布	305
第310図 第XVII文化層27号石器集中 石材別分布	289	第329図 第XVII文化層37号石器集中 器種別分布、48~51号礫群	306
第311図 第XVII文化層28号石器集中 器種別分布	290	第330図 第XVII文化層37号石器集中 石材別分布	307
第312図 第XVII文化層28号石器集中 石材別分布	290	第331図 第XVII文化層47・52~54号礫群	309

第332图 第XVII文化層西尾根(北)	
石器集中(1) .....	311
第333图 第XVII文化層西尾根(北)	
石器集中(2) .....	312
第334图 第XVII文化層西尾根(北)	
石器集中(3) .....	314
第335图 第XVII文化層西尾根(北)	
石器集中(4) .....	315
第336图 第XVII文化層西尾根(北)	
石器集中(5) .....	316
第337图 第XVII文化層西尾根(北)	
石器集中(6) .....	317
第338图 第XVII文化層西尾根(北)	
石器集中(7) .....	318
第339图 第XVII文化層西尾根(北)	
石器集中外(1) .....	318
第340图 第XVII文化層西尾根(北)	
石器集中外(2) .....	319
第341图 第XVII文化層西尾根(南)	
器種別分布 .....	322
第342图 第XVII文化層西尾根(南)	
石材別分布 .....	322
第343图 第XVII文化層38号石器集中	
器種別分布(a)、56号礫群 .....	323
第344图 第XVII文化層38号石器集中	
石材別分布(a) .....	323
第345图 第XVII文化層38号石器集中	
器種別分布(b) .....	324
第346图 第XVII文化層38号石器集中	
石材別分布(b) .....	325
第347图 第XVII文化層39号石器集中	
器種別分布(a)、59号礫群 .....	327
第348图 第XVII文化層39号石器集中	
石材別分布(a) .....	327
第349图 第XVII文化層39号石器集中	
器種別分布(b)、57号礫群 .....	328
第350图 第XVII文化層39号石器集中	
石材別分布(b) .....	329
第351图 第XVII文化層39号石器集中	
器種別分布(c)、60号礫群 .....	330
第352图 第XVII文化層39号石器集中	
石材別分布(c) .....	331
第353图 第XVII文化層40号石器集中	
器種別分布、61号礫群 .....	332
第354图 第XVII文化層40号石器集中	
石材別分布 .....	332
第355图 第XVII文化層58・62号礫群 .....	333
第356图 第XVII文化層西尾根(南)	
石器集中(1) .....	334
第357图 第XVII文化層西尾根(南)	
石器集中(2) .....	335
第358图 第XVII文化層西尾根(南)	
石器集中(3) .....	337
第359图 第XVII文化層西尾根(南)	
石器集中(4) .....	338
第360图 第XVII文化層西尾根(南)	
石器集中(5) .....	339
第361图 第XVII文化層西尾根(南)	
石器集中(6) .....	340
第362图 第XVII文化層西尾根(南)	
石器集中(7) .....	341
第363图 第XVII文化層西尾根(南)	
石器集中(8) .....	342
第364图 第XVII文化層西尾根(南)	
石器集中(9) .....	343
第365图 第XVII文化層西尾根(南)	
石器集中(10) .....	344
第366图 第XVII文化層西尾根(南)	
石器集中外 .....	345
第367图 第XVIII文化層遺物分布 .....	347
第368图 第XVIII文化層北尾根・東尾根・	
東支谷 器種別分布 .....	348
第369图 第XVIII文化層北尾根・東尾根・	
東支谷 石材別分布 .....	349
第370图 第XVIII文化層1号石器集中	
器種別分布 .....	350

第371図 第XⅧ文化層1号石器集中 石材別分布 ……………	351	第393図 第XⅧ文化層5号石器集中 石材別分布 ……………	381
第372図 第XⅧ文化層1・2号礫群 ……………	353	第394図 第XⅧ文化層6号石器集中 器種別分布 ……………	382
第373図 第XⅧ文化層3～8号礫群 ……………	354	第395図 第XⅧ文化層6号石器集中 石材別分布 ……………	384
第374図 第XⅧ文化層北尾根 石器集中(1) ……………	357	第396図 第XⅧ文化層7号石器集中 器種別分布 ……………	386
第375図 第XⅧ文化層北尾根 石器集中(2) ……………	358	第397図 第XⅧ文化層7号石器集中 石材別分布 ……………	387
第376図 第XⅧ文化層東尾根 石器集中外 ……………	359	第398図 第XⅧ文化層13～16号礫群 ……………	388
第377図 第XⅧ文化層2号石器集中 器種別分布 ……………	361	第399図 第XⅧ文化層中央尾根 石器集中(1) ……………	390
第378図 第XⅧ文化層2号石器集中 石材別分布 ……………	361	第400図 第XⅧ文化層中央尾根 石器集中(2) ……………	391
第379図 第XⅧ文化層3号石器集中 器種別分布 ……………	362	第401図 第XⅧ文化層中央尾根 石器集中(3) ……………	392
第380図 第XⅧ文化層3号石器集中 石材別分布 ……………	363	第402図 第XⅧ文化層中央尾根 石器集中(4) ……………	393
第381図 第XⅧ文化層9号礫群 ……………	364	第403図 第XⅧ文化層中央尾根 石器集中外 ……………	394
第382図 第XⅧ文化層10～12号礫群 ……………	365	第404図 第XⅧ文化層西支谷・西尾根(北) 器種別分布 ……………	396
第383図 第XⅧ文化層東支谷 石器集中(1) ……………	367	第405図 第XⅧ文化層西支谷・西尾根(北) 石材別分布 ……………	396
第384図 第XⅧ文化層東支谷 石器集中(2) ……………	368	第406図 第XⅧ文化層9号石器集中 器種別分布 ……………	398
第385図 第XⅧ文化層東支谷 石器集中(3) ……………	369	第407図 第XⅧ文化層9号石器集中 石材別分布 ……………	399
第386図 第XⅧ文化層東支谷 石器集中(4) ……………	370	第408図 第XⅧ文化層西支谷 石器集中(1) ……………	400
第387図 第XⅧ文化層東支谷 石器集中外 ……………	371	第409図 第XⅧ文化層西支谷 石器集中(2) ……………	401
第388図 第XⅧ文化層中央尾根 器種別分布 ……………	373	第410図 第XⅧ文化層西支谷 石器集中外 ……………	401
第389図 第XⅧ文化層中央尾根 石材別分布 ……………	373	第411図 第XⅧ文化層8号石器集中 器種別分布 ……………	402
第390図 第XⅧ文化層4号石器集中 器種別分布 ……………	376	第412図 第XⅧ文化層8号石器集中 石材別分布 ……………	403
第391図 第XⅧ文化層4号石器集中 石材別分布 ……………	378		
第392図 第XⅧ文化層5号石器集中 器種別分布 ……………	380		

第413図 第XⅧ文化層西尾根(北) 石器集中	404	第431図 第XⅧ文化層西尾根(南) 石器集中(1)	424
第414図 第XⅧ文化層西尾根(北) 石器集中外	404	第432図 第XⅧ文化層西尾根(南) 石器集中(2)	425
第415図 第XⅧ文化層西尾根(南) 器種別分布	406	第433図 第XⅧ文化層西尾根(南) 石器集中(3)	426
第416図 第XⅧ文化層西尾根(南) 石材別分布	407	第434図 第XⅧ文化層西尾根(南) 石器集中(4)	427
第417図 第XⅧ文化層10号石器集中 器種別分布、17号礫群	408	第435図 第XⅧ文化層西尾根(南) 石器集中(5)	428
第418図 第XⅧ文化層10号石器集中 石材別分布	409	第436図 第XⅧ文化層西尾根(南) 石器集中(6)	429
第419図 第XⅧ文化層11号石器集中 器種別分布	410	第437図 第XⅧ文化層西尾根(南) 石器集中外	429
第420図 第XⅧ文化層11号石器集中 石材別分布	410	第438図 第XⅨ文化層遺物分布	432
第421図 第XⅧ文化層12号石器集中 器種別分布、18号礫群	412	第439図 第XⅨ文化層1号石器集中 器種別分布	433
第422図 第XⅧ文化層12号石器集中 石材別分布	413	第440図 第XⅨ文化層1号石器集中	434
第423図 第XⅧ文化層13号石器集中 器種別分布	414	第441図 第XⅨ文化層石器集中外	434
第424図 第XⅧ文化層13号石器集中 石材別分布	415	第442図 休場層の土坑の位置	435
第425図 第XⅧ文化層14号石器集中 器種別分布	416	第443図 休場層の土坑	435
第426図 第XⅧ文化層14号石器集中 石材別分布	417	第444図 休場層の土坑と縄文時代 2号焼土との位置関係	435
第427図 第XⅧ文化層15号石器集中 器種別分布、19号礫群	418	第445図 縄文時代初頭の遺物分布	437
第428図 第XⅧ文化層15号石器集中 石材別分布	419	第446図 縄文時代初頭の石器(1)	438
第429図 第XⅧ文化層16号石器集中 器種別分布、20号礫群	420	第447図 縄文時代初頭の石器(2)	439
第430図 第XⅧ文化層16号石器集中 石材別分布	421	第448図 縄文時代初頭の石器(3)	440
		第449図 表採・一括等の遺物	442
		第450図 第XⅣ文化層の石器群	444
		第451図 第XⅤ文化層の石器群	445
		第452図 第XⅥ文化層の石器群	446
		第453図 第XⅦ文化層の石器群	447
		第454図 日本列島の後期旧石器時代の 装飾品・芸術品	449
		第455図 第XⅧ文化層の石器群	450
		第456図 第XⅨ文化層・縄文時代初頭の 石器群	453

# 挿表目次

表1	周辺の遺跡	4	表32	第XV文化層東尾根(北) 礫群属性	68
表2	各文化層の概要	23	表33	第XV文化層3号石器集中 石器組成	70
表3	文化層別器種組成表	23	表34	第XV文化層東尾根(南) 礫群属性	70
表4	第XIV文化層 石器組成	26	表35	第XV文化層中央尾根 石器組成	74
表5	第XIV文化層北尾根 石器組成	29	表36	第XV文化層4号石器集中 石器組成	74
表6	第XIV文化層1号石器集中 石器組成	29	表37	第XV文化層5号石器集中 石器組成	74
表7	第XIV文化層2号石器集中 石器組成	29	表38	第XV文化層中央尾根 礫群属性	74
表8	第XIV文化層北尾根 礫群属性	30	表39	第XV文化層西支谷 石器組成	85
表9	第XIV文化層中央尾根 石器組成	33	表40	第XV文化層6号石器集中 石器組成	85
表10	第XIV文化層3号石器集中 石器組成	33	表41	第XV文化層7号石器集中 石器組成	85
表11	第XIV文化層4号石器集中 石器組成	33	表42	第XV文化層西支谷 礫群属性	85
表12	第XIV文化層5号石器集中 石器組成	33	表43	第XV文化層西尾根 石器組成	92
表13	第XIV文化層6号石器集中 石器組成	33	表44	第XV文化層8号石器集中 石器組成	93
表14	第XIV文化層7号石器集中 石器組成	33	表45	第XV文化層9号石器集中 石器組成	93
表15	第XIV文化層8号石器集中 石器組成	33	表46	第XV文化層10号石器集中 石器組成	93
表16	第XIV文化層中央尾根 礫群属性	33	表47	第XV文化層11号石器集中 石器組成	93
表17	第XIV文化層西支谷 石器組成	47	表48	第XV文化層12号石器集中 石器組成	93
表18	第XIV文化層9号石器集中 石器組成	47	表49	第XV文化層13号石器集中 石器組成	93
表19	第XIV文化層10号石器集中 石器組成	47	表50	第XV文化層14号石器集中 石器組成	94
表20	第XIV文化層11号石器集中 石器組成	47	表51	第XV文化層15号石器集中 石器組成	94
表21	第XIV文化層12号石器集中 石器組成	47	表52	第XV文化層16号石器集中 石器組成	94
表22	第XIV文化層13号石器集中 石器組成	47	表53	第XV文化層17号石器集中 石器組成	94
表23	第XIV文化層西支谷 礫群属性	47	表54	第XV文化層18号石器集中 石器組成	94
表24	第XIV文化層西尾根 石器組成	58	表55	第XV文化層西尾根 礫群属性	95
表25	第XIV文化層西尾根 礫群属性	58	表56	第XVI文化層 石器組成	125
表26	第XV文化層 石器組成	59	表57	第XVI文化層北尾根 石器組成	127
表27	第XV文化層北尾根 石器組成	61			
表28	第XV文化層1号石器集中 石器組成	61			
表29	第XV文化層北尾根 礫群属性	61			
表30	第XV文化層東尾根(北) 石器組成	68			
表31	第XV文化層2号石器集中 石器組成	68			

表58 第XVI文化層1号石器集中 石器組成	127	表82 第XVI文化層14号石器集中 石器組成	177
表59 第XVI文化層2号石器集中 石器組成	127	表83 第XVI文化層17号石器集中 石器組成	177
表60 第XVI文化層3号石器集中 石器組成	127	表84 第XVI文化層西支谷 礫群属性	177
表61 第XVI文化層4号石器集中 石器組成	127	表85 第XVI文化層15号石器集中 石器組成	181
表62 第XVI文化層5号石器集中 石器組成	127	表86 第XVI文化層西尾根(東) 礫群属性	181
表63 第XVI文化層北尾根 礫群属性	131	表87 第XVI文化層西尾根(西) 石器組成	184
表64 第XVI文化層東尾根 石器組成	144	表88 第XVI文化層西尾根(西) 礫群属性	184
表65 第XVI文化層11号石器集中 石器組成	144	表89 第XVII文化層 石器組成	186
表66 第XVI文化層東尾根 礫群属性	144	表90 第XVII文化層北尾根 礫群属性	188
表67 第XVI文化層東支谷(北) 石器組成	148	表91 第XVII文化層東尾根 石器組成	189
表68 第XVI文化層6号石器集中 石器組成	149	表92 第XVII文化層1号石器集中 石器組成	189
表69 第XVI文化層7号石器集中 石器組成	149	表93 第XVII文化層2号石器集中 石器組成	189
表70 第XVI文化層8号石器集中 石器組成	149	表94 第XVII文化層3号石器集中 石器組成	189
表71 第XVI文化層9号石器集中 石器組成	149	表95 第XVII文化層東尾根 礫群属性	198
表72 第XVI文化層10号石器集中 石器組成	149	表96 第XVII文化層東支谷 石器組成	201
表73 第XVI文化層東支谷(北) 礫群属性	156	表97 第XVII文化層4号石器集中 石器組成	203
表74 第XVI文化層東支谷(南) 石器組成	164	表98 第XVII文化層5号石器集中 石器組成	203
表75 第XVI文化層12号石器集中 石器組成	164	表99 第XVII文化層東支谷 礫群属性	203
表76 第XVI文化層13号石器集中 石器組成	164	表100 第XVII文化層中央尾根(北) 石器組成	212
表77 第XVI文化層東支谷(南) 礫群属性	164	表101 第XVII文化層6号石器集中 石器組成	213
表78 第XVI文化層中央尾根 石器組成	171	表102 第XVII文化層7号石器集中 石器組成	213
表79 第XVI文化層16号石器集中 石器組成	171	表103 第XVII文化層8号石器集中 石器組成	213
表80 第XVI文化層中央尾根 礫群属性	171	表104 第XVII文化層9号石器集中 石器組成	213
表81 第XVI文化層西支谷 石器組成	177	表105 第XVII文化層中央尾根(北) 礫群属性	213

表106 第XVII文化層中央尾根(南)	表125 第XVII文化層26号石器集中
石器組成 .....229	石器組成 .....267
表107 第XVII文化層10号石器集中	表126 第XVII文化層西支谷 礫群属性 .....267
石器組成 .....232	表127 第XVII文化層西尾根(北)
表108 第XVII文化層11号石器集中	石器組成 .....286
石器組成 .....232	表128 第XVII文化層27号石器集中
表109 第XVII文化層12号石器集中	石器組成 .....286
石器組成 .....232	表129 第XVII文化層28号石器集中
表110 第XVII文化層13号石器集中	石器組成 .....286
石器組成 .....232	表130 第XVII文化層29号石器集中
表111 第XVII文化層14号石器集中	石器組成 .....286
石器組成 .....232	表131 第XVII文化層30号石器集中
表112 第XVII文化層15号石器集中	石器組成 .....287
石器組成 .....232	表132 第XVII文化層31号石器集中
表113 第XVII文化層16号石器集中	石器組成 .....287
石器組成 .....232	表133 第XVII文化層32号石器集中
表114 第XVII文化層17号石器集中	石器組成 .....287
石器組成 .....232	表134 第XVII文化層33号石器集中
表115 第XVII文化層中央尾根(南)	石器組成 .....287
礫群属性 .....232	表135 第XVII文化層34号石器集中
表116 第XVII文化層西支谷 石器組成 .....250	石器組成 .....287
表117 第XVII文化層18号石器集中	表136 第XVII文化層35号石器集中
石器組成 .....251	石器組成 .....287
表118 第XVII文化層19号石器集中	表137 第XVII文化層36号石器集中
石器組成 .....251	石器組成 .....288
表119 第XVII文化層20号石器集中	表138 第XVII文化層37号石器集中
石器組成 .....251	石器組成 .....288
表120 第XVII文化層21号石器集中	表139 第XVII文化層西尾根(北)
石器組成 .....251	礫群属性 .....288
表121 第XVII文化層22号石器集中	表140 第XVII文化層西尾根(南)
石器組成 .....255	石器組成 .....321
表122 第XVII文化層23号石器集中	表141 第XVII文化層38号石器集中
石器組成 .....255	石器組成 .....321
表123 第XVII文化層24号石器集中	表142 第XVII文化層39号石器集中
石器組成 .....255	石器組成 .....326
表124 第XVII文化層25号石器集中	表143 第XVII文化層40号石器集中
石器組成 .....255	石器組成 .....326



表144 第XVII文化層西尾根(南)	
礫群属性	326
表145 第XVIII文化層 石器組成	346
表146 第XVIII文化層1号石器集中	
石器組成	352
表147 第XVIII文化層北尾根 礫群属性	356
表148 第XVIII文化層東尾根 石器組成	359
表149 第XVIII文化層東支谷 石器組成	360
表150 第XVIII文化層2号石器集中	
石器組成	360
表151 第XVIII文化層3号石器集中	
石器組成	360
表152 第XVIII文化層東支谷 礫群属性	365
表153 第XVIII文化層中央尾根 石器組成	372
表154 第XVIII文化層4号石器集中	
石器組成	374
表155 第XVIII文化層5号石器集中	
石器組成	374
表156 第XVIII文化層6号石器集中	
石器組成	375
表157 第XVIII文化層7号石器集中	
石器組成	375
表158 第XVIII文化層中央尾根 礫群属性	375
表159 第XVIII文化層西支谷 石器組成	395
表160 第XVIII文化層9号石器集中	
石器組成	397
表161 第XVIII文化層西支谷 礫群属性	397
表162 第XVIII文化層西尾根(北)	
石器組成	405
表163 第XVIII文化層8号石器集中	
石器組成	405
表164 第XVIII文化層西尾根(北)	
礫群属性	405
表165 第XVIII文化層西尾根(南)	
石器組成	411
表166 第XVIII文化層10号石器集中	
石器組成	411
表167 第XVIII文化層11号石器集中	
石器組成	411
表168 第XVIII文化層12号石器集中	
石器組成	411
表169 第XVIII文化層13号石器集中	
石器組成	411
表170 第XVIII文化層14号石器集中	
石器組成	422
表171 第XVIII文化層15号石器集中	
石器組成	422
表172 第XVIII文化層16号石器集中	
石器組成	422
表173 第XVIII文化層西尾根(南)	
礫群属性	422
表174 第XIX文化層 石器組成	431
表175 第XIX文化層1号石器集中	
石器組成	431
表176 縄文時代初頭 石器組成	440
表177 表採・一括等 石器組成	441
表178 各文化層の石器群	443

# 第1章 調査の概要

## 第1節 発掘調査の概要

富士石遺跡（第二東名No.142地点）の発掘調査は、平成12年度から20年度にかけて実施された。確認調査が平成12年11月から平成14年8月までの間で3期、本調査が平成13年10月から平成21年3月までの間で6期にわたり実施されている。

発掘調査は第二東名高速道路建設に伴い実施されたもので、調査地は調査終了後開発事業者に引き渡され、工事範囲内の遺跡は消滅している。

調査の経過、方法の詳細については『富士石遺跡Ⅰ』に記載されているので参照されたい。

## 第2節 整理作業の経過

### 1. 整理作業の経過

遺構・遺物量が膨大であったため、報告書をⅠ：旧石器時代（AT下位）、Ⅱ：旧石器時代（AT上位）～縄文時代初頭、Ⅲ：縄文時代以降の3冊に分けて刊行することとし、整理作業もこの3つの時代に分けて実施した。

本書（旧石器時代（AT上位）～縄文時代初頭編）に収録された遺構・遺物に関する整理作業は平成21年12月から平成23年6月まで長泉地区事務所において実施した。遺物の洗浄・注記、或いは基礎的な分類と接合作業は現地調査の終わりころにこれと並行して実施され、平成21年度まで行われた。その後平成22年度に報告書刊行に向けての本格的な整理作業に入り、平成23年度に報告書を刊行した。作業工程の大略は以下の通りである。

平成20年度

12月 洗浄・注記

1月～3月 分類

平成21年度

4月～6月 分類・接合

平成22年度

4月 分類・計測

5月～12月 図面編集

6月～1月 遺物実測

1月～2月 遺物写真撮影

1月～3月 版組・編集

平成23年度

4月～7月 校正・収納

## 2. 実測図・遺構図・遺物分布図等の作成について

石器実測図は大部分を外部委託により実施した。まず一部を平成21年8月から12月にかけて株式会社ラングに作成を委託した。また平成22年7月から11月にかけて加藤建設株式会社に作成を委託し、当研究所にて掲載用図面に編集した。以上の外部委託による図面はAdobe社のIllustratorにて作成されている。それ以外は当研究所にて実測図作成・トレースを行った。

分布図・写真図版編集と版組は当研究所にて行った。

分布図は発掘調査段階において（株）シン技術コンサルタント製「遺跡管理システム」に入力された座標情報をもとに、理化学的分析と考古学的分析とによって得られた諸属性を加えて掲載した。

礫群等の実測図は原図の作成を現地調査における測量とともに加藤建設株式会社に委託し、当研究所で編集した。

## 3. 自然科学分析について

黒曜石製遺物については沼津工業高等専門学校の望月明彦氏に依頼し、6次にわたって産地分析を行った。本書の文章、表、図における黒曜石の産地名はこの分析結果に依拠した。

第I黒色帯上部の配石炉状遺構（第XV文化層13号礫群）に関する土壌・炭化材分析はパリノ・サーヴェイ株式会社に委託した。この分析は平成13年度の発掘調査に並行して実施され、分析試料の採取は同社より派遣された技師が発掘調査中の現地にて実施した。

その他の出土炭化材は発掘調査時に一部を採取し、アルミ箔に包んだ上で乾燥剤とともに密封・保管していた。これらの出土炭化材のうち、出土状況や遺存状態の良好と判断されるものを抽出して放射性炭素年代測定及び樹種同定を実施した。本書で扱う後期旧石器時代後半期（AT上位）の試料に関する分析は平成22年度に株式会社加速器分析研究所に委託して行われたものである。

## 4. 既発表の速報・資料紹介について

本遺跡の調査成果の概要については調査年度ごとに当財団発行の年報にて報告されているが、平成16年の調査で国内では珍しい旧石器時代の石製装飾品が出土したことから、同遺物に関しては本書以前に以下の文献で図・写真、或いは資料紹介記事等が掲載されている。なお本報告はその後の整理作業の成果を盛り込んでいることから、記事の内容と必ずしも一致しない点があることをお断りしておく。

岩名建太郎 2006「富士石遺跡の旧石器時代装飾品」『考古学ジャーナル』No.550、25-28頁

笹原芳郎 2004「重層する石器群と謎の遺構―狩りの道具・落とし穴・炉跡―」『愛鷹山を駆けめぐった旧石器人～今、よみがえる3万年前の世界～』財団法人静岡県埋蔵文化財調査研究所設立20周年記念事業公開シンポジウム、10-17頁

堤 隆 2009『ビジュアル版 旧石器ガイドブック』株式会社新泉社

堤 隆 2011『列島の考古学 旧石器時代』河出書房新社

文化庁 編 2006『発掘された日本列島2006』朝日新聞出版社

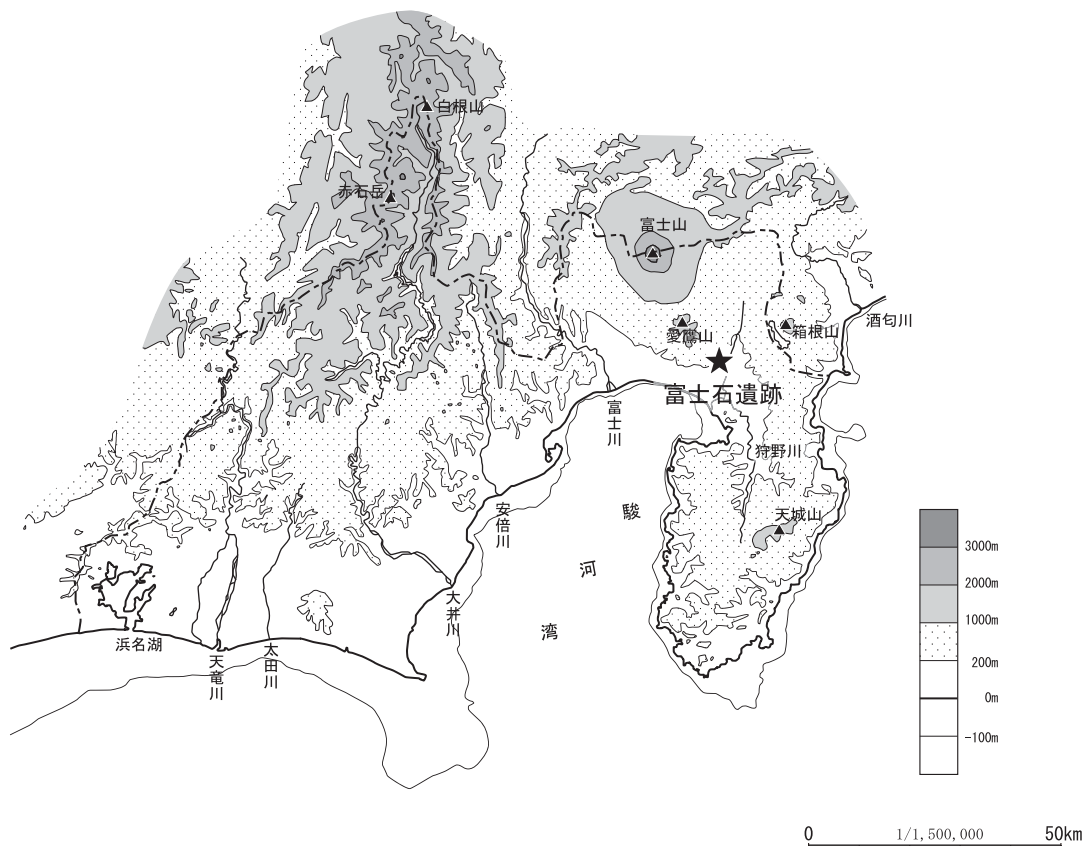
## 第2章 遺跡の位置と環境

### 第1節 地理的環境

富士石遺跡（第二東名No.142地点）は静岡県駿東郡長泉町東野字八分平に所在する。遺跡は愛鷹山南東麓の標高約182～195m（調査時点）に立地し、富士山から駿河湾に流れ下る黄瀬川の支流、藤生沢川の上流部に位置する（第1・2図）。

愛鷹山南東麓、高橋川から梅ノ木沢川に挟まれた範囲の地形は、桃沢川火砕流堆積物により形成された火砕流扇状地にロームが堆積したもので、傾斜のなだらかな斜面となっており、この斜面が樹枝状に開析されて幅の細い尾根が連なる地形となっている。

開析谷の発達は愛鷹山麓でも地区により異なっており、愛鷹山南東麓でも桃沢川以西は比較的幅が広く傾斜のなだらかな斜面となっているが、桃沢川以東ではやや幅の狭い尾根が連続する地形となっている。さらに梅ノ木沢川以北では谷が多く刻まれ、さらに幅の狭い尾根が連なっている。富士石遺跡の一帯はその中で桃沢川と梅ノ木沢川の間地点に位置しており、緩斜面に谷が入り込んだ起伏に富んだ地形となっている。

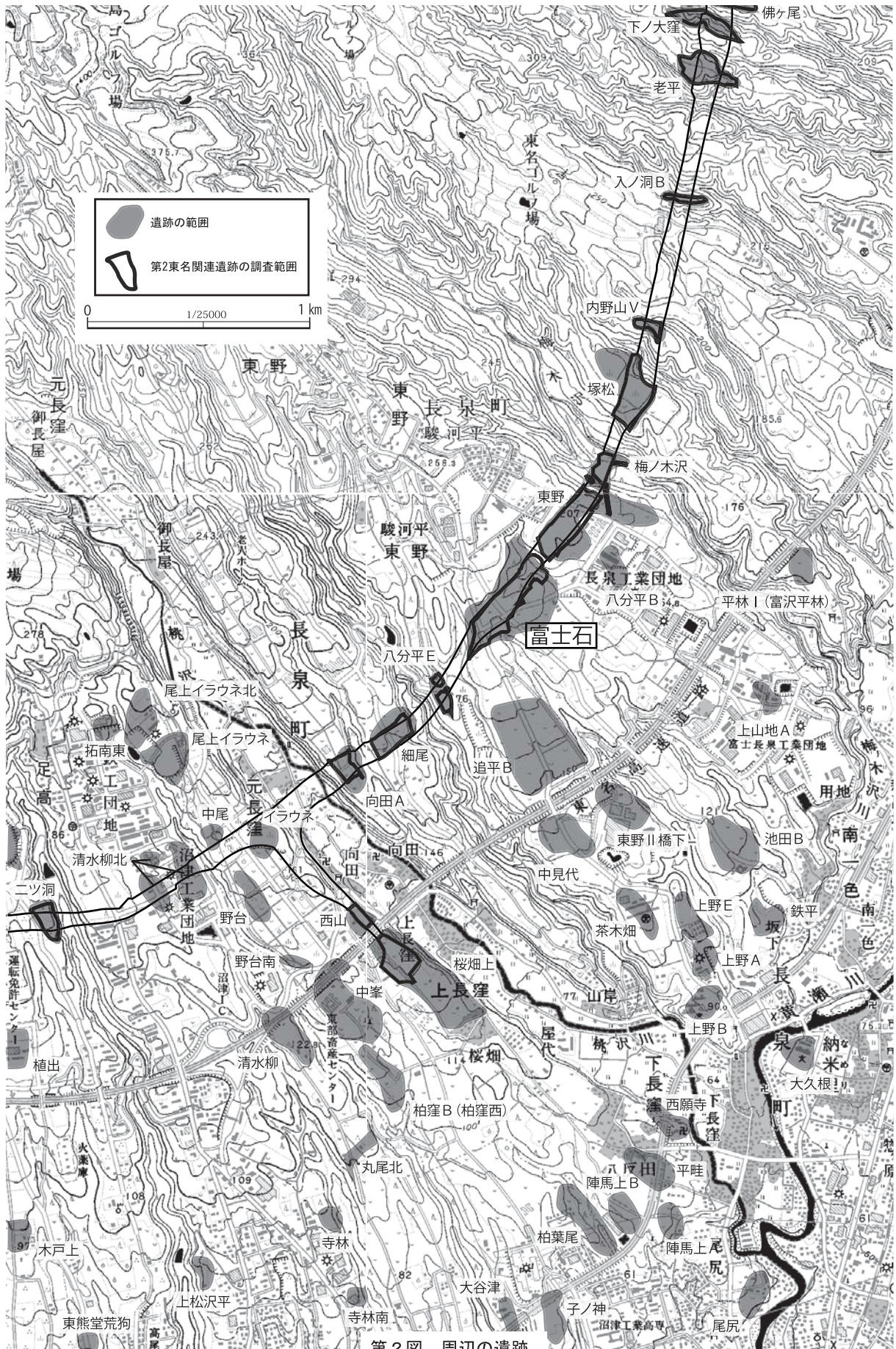


第1図 富士石遺跡の位置

表1 周辺の遺跡

遺跡名	所在地	BB I		B B O	Y L L	砂 川	終 末 期	細 石 刃	草創期		備考
		下 部	上 部						前 半	後 半	
富士石 (二東名)	駿東郡長泉町東野八分平	○	○	○		○	○	+	+		本書
富士石 (町調査)							○				長泉町教委1989
佛ヶ尾	裾野市大畑佛ヶ尾		+●								県埋文2007a
下ノ大窪	裾野市大畑下ノ大窪		○	○			○				県埋文2008a
老平	裾野市大畑老平		+			○	○				県埋文2008b
入ノ洞B	裾野市桃園入ノ洞		+	○	○						県埋文2008c
内野山V	裾野市富沢	●			●		+				県埋文2008c
塚松	裾野市北野富窪			●	○		○	+	+		県埋文2008c
尾畑	裾野市桃園尾畑								表		裾野市1992
梅ノ木沢	駿東郡長泉町東野		○	○	○	○	○	○	+		県埋文2009b・10d
東野	駿東郡長泉町東野		○	○		○		○	+		未報告
八分平B	駿東郡長泉町東野八分平						○				長泉町教委1981
八分平E	駿東郡長泉町東野八分平						○				県埋文2011
上山地A	駿東郡長泉町南一色					○					長泉町教委1990
池田B	駿東郡長泉町下長窪鉄平			●							県埋文2000
鉄平	駿東郡長泉町下長窪鉄平	●				●	○	+	+		県埋文2003a
追平B	駿東郡長泉町東野八分平						○				長泉町教委2006
東野Ⅱ橋下	駿東郡長泉町下長窪八分平					○					長泉町教委2001
中見代	駿東郡長泉町下長窪八分平					○					長泉町教委2001
茶木畑	駿東郡長泉町下長窪						+		+		県埋文1985
上野E	駿東郡長泉町下長窪上野								表		長泉町教委1971
上野A	駿東郡長泉町下長窪上野					○					長泉町教委1971
上野B	駿東郡長泉町下長窪上野								表		長泉町1992
大久根	駿東郡長泉町納米里大久根										長泉町1992
細尾	駿東郡長泉町下長窪東細尾		○			○	○	○	+		県埋文2010a
向田A	駿東郡長泉町下長窪西細尾				○	○		+	+		県埋文2007b
尾上イラウネ北	沼津市足高尾上		○			○	○				沼津市教委1992・2002
尾上イラウネ	沼津市足高尾上						○				沼津市教委1981
拓南東	沼津市足高尾上		○			○			+		沼津市教委1998
イラウネ	駿東郡長泉町元長窪イラウネ		○			○					長泉町教委1986
中尾	駿東郡長泉町元長窪中尾										長泉町教委1986
野台	駿東郡長泉町元長窪野台		○			○		+	+		長泉町教委1986
野台南	駿東郡長泉町元長窪野台			○			●				県埋文2009a
西山	駿東郡長泉町元長窪内出	○					○				県埋文2006
桜畑上 (二東名)	駿東郡長泉町上長窪	○		○		○	○	+	+	+	県埋文2009c
桜畑上 (県道)			○						+		県埋文2003b
桜畑上 (東駿河湾)			○	○	○		○	+	+		県埋文2010b
中峰	駿東郡長泉町上長窪中峰						+	+			県埋文2003b
柏窪B	駿東郡長泉町上長窪中峰										県埋文2003b
西願寺	駿東郡長泉町下長窪西願寺						○				長泉町教委1978
平畦	駿東郡長泉町下長窪平畦						○				長泉町教委1976
陣馬上B	駿東郡長泉町下長窪陣場	○					○				長泉町教委1994
陣馬上A	駿東郡長泉町下長窪陣場						○				長泉町教委1976
尾尻	駿東郡長泉町下長窪尾尻										長泉町1992
柏葉尾	沼津市大岡北小林柏葉尾						○				沼津市教委1996
子ノ神	沼津市大岡北小林子ノ神	○		○							沼津市教委1982
大谷津	沼津市岡一色大谷津						○				沼津市教委1982・1990d
清水柳北東尾根	沼津市足高尾上	○	○		○	+	○		+	○	沼津市教委1989
清水柳北中央尾根	沼津市足高尾上					+	○		+		沼津市教委1989
清水柳	沼津市足高尾上								+		笹津他1976
丸尾北	沼津市足高尾上						○	+	+	○	県埋文2009d
寺林	沼津市足高尾上				○						県埋文2003c
寺林南	沼津市岡宮寺林	+					○				沼津市教委1985a
上松沢平	沼津市岡宮上松沢						○	○	+		県埋文2004
二ツ洞	沼津市足高尾上					○					沼津市教委1990b・1993
植出	沼津市足高尾上					○					県埋文1997
木戸上	沼津市東沢田東大平										沼津市教委1985b

○：石器集中あり ●：礫群のみ、石器集中なし +：散在 表：表採



第二東名高速道路の建設用地はこうした地形を横切る形で設定されており、その中の北東から南西へ長さ約5.6km、幅0.8～1.6kmの区間が富士石遺跡の範囲として調査された。遺跡の西側は沢が流れる標高差約20mの深い谷となっており、八分平E遺跡（No.141-2地点）が位置する尾根との間を隔てている。また北東側にも谷が入り、東野遺跡（No.143地点）との間を区切っている。

## 第2節 歴史的環境

本遺跡が位置する愛鷹山南東麓は先史時代の遺跡が多く、後期旧石器時代初頭から縄文時代まで各時期の遺跡が分布する（第2図・表1）。ここではその中でも本書に収録する後期旧石器時代後半期（二セロームより上位）～縄文時代初頭について概観する。

富士石遺跡は本報告の調査地に近接する地点が1980年、1988年の2度にわたって長泉町教育委員会により調査されている（長泉町教育委員会1981・1989）。このうち1988年の調査では休場層から旧石器時代の資料が出土している。この調査では6つの地点にトレンチ状の調査区を設けており、第1地点で黒曜石製小型尖頭器と石刃から成る石器群、第2地点でガラス質黒色安山岩製の尖頭器を含む石器群、第3地区で礫群、第5地区で礫群と石刃石器群のブロックが出土している。

富士石遺跡に隣接する地点には梅ノ木沢遺跡、東野遺跡があり、後期旧石器時代後半期に関しては富士石遺跡と同時期の資料群が出土している。

遺跡立地の上では、従来旧石器時代の遺跡は主として尾根上に展開していたものと考えられていたが、第二東名関連の遺跡の調査ではそうした尾根の間の谷にも遺跡が確認されている点が注目される。梅ノ木沢遺跡の他、富士石遺跡でも安定した礫群を伴う、単なる流れ込み等とは見られない遺物群が谷部から出土している。

上記の他にも、当該時期の遺跡の密集地帯として知られる愛鷹山南東麓では、後期旧石器時代後半期の資料が重層的に出土した遺跡が数多く知られている。表1には周辺の遺跡とその時期を、富士石遺跡の石器群の時期とおおよその対照が可能なように細分した形で示した。表中で「砂川」は砂川並行期と考えられる愛鷹・箱根第4期前半に相当する時期、「終末期」は同第4期後半に相当するナイフ形石器終末期から尖頭器石器群までの時期を含める。また、「草創期前半」は有茎尖頭器など隆線文系土器以前と見られるもの、「草創期後半」は多縄文系土器群の時期のものである。また「YLL」は、主として休場層下位から出土する砂川並行期直前の時期の石器群である。

愛鷹山南東麓では第I黒色帯下部以降、ナイフ形石器終末期・尖頭器石器群の時期まで安定して遺跡が展開している。愛鷹・箱根第4期に相当する砂川並行期からナイフ形石器終末期・尖頭器石器群の時期ははまだ仮説的な段階にある。但し近年、かつては遺跡数がごく限られていた尖頭器石器群の資料として梅ノ木沢遺跡や本書所収の富士石遺跡が加わっており、注目される場所である。

細石刃石器群の時期には遺物集中部を形成するような石器群は激減し、縄文時代草創期前半には有茎尖頭器や土器片が散在する遺跡ばかりとなる。愛鷹山南東麓で規模の大きな遺跡が再び現れるのは、草創期後半、押圧縄文土器の時期である。

## 第3章 調査の方法

### 第1節 調査区の設定と発掘調査

#### 1. 調査区と地形区分

調査区の配置とグリッドの設定を第3図に示す。グリッドは以下のように設定した。まず旧国土座標（平面直角座標Ⅷ系）の（-93,120.00, 34,630.00）を原点（A, 0）とし、南北方向に-1~35までの37ラインを、東西方向にZV~ZZ, A~Z, AA~ARの47ラインをそれぞれ10mごとに設定した。グリッドの呼称はグリッドの南西の角を成すライン交点の名称とした。

富士石遺跡の位置する愛鷹山南東麓は、樹枝状に開析された細長い尾根が幾筋も走る地形となっている。今回の対象範囲はこうした尾根筋を横断する形で設定されており、起伏に富む地形となっている。

調査開始時の地形では南側と北東側からそれぞれ支谷が入っていた。また、調査開始前には谷の埋没が進んでいたり、上に舗装道路が敷設されていたりして起伏がなくなっていた箇所でも発掘の進行とともに谷の存在が確認され、後期旧石器時代は調査開始時当時よりさらに起伏のある地形であったことが分かった（次項以降参照）。こうした埋没谷の存在も考慮すると、富士石遺跡は地形的に複数の尾根と支谷とに分節することができる。こうした地形上の制約は旧石器時代の遺跡の占地にも影響を与えていたはずであり、事実旧石器時代の遺物は尾根上からその斜面、谷底まで一様に分布しているのではなく、急傾斜地には遺物が少なく、尾根上や谷底でも分布に粗密があるという状況が認められた。したがって行政（遺跡地図）上では1つの遺跡であるものの、このような地形と広大な調査面積とを考慮すると事実上複数の遺跡が包摂されていると見なすことができる。

以下、本書では調査区内を地形により複数の地区に分節して把握することとし、便宜上次のように呼称する（第3図）。埋没谷も含めた谷で分節された尾根を北東側からそれぞれ北尾根、東尾根、中央尾根、西尾根とし、北尾根・東尾根・中央尾根を区切る谷を東支谷、中央尾根と西尾根とを区切る谷を西支谷とする。西尾根は遺跡の北から連続しており、西支谷が入り込んだ部分で大きくくびれつつもさらに調査区外の南側へ続いている。東支谷と西支谷は徐々に浅くなりながら西尾根と中央尾根との間でつながり、鞍部を形成する。中央尾根はこの鞍部で西尾根から枝分れしてさらに南へ連続する尾根であり、東尾根はその尾根から北側へ突き出した部分にあたる。北尾根は北側で西尾根に連なる尾根と合流する。北尾根と東尾根は急傾斜で区切られた突端であるが、中央尾根と西尾根は比較的広い緩斜面地が広がっている。

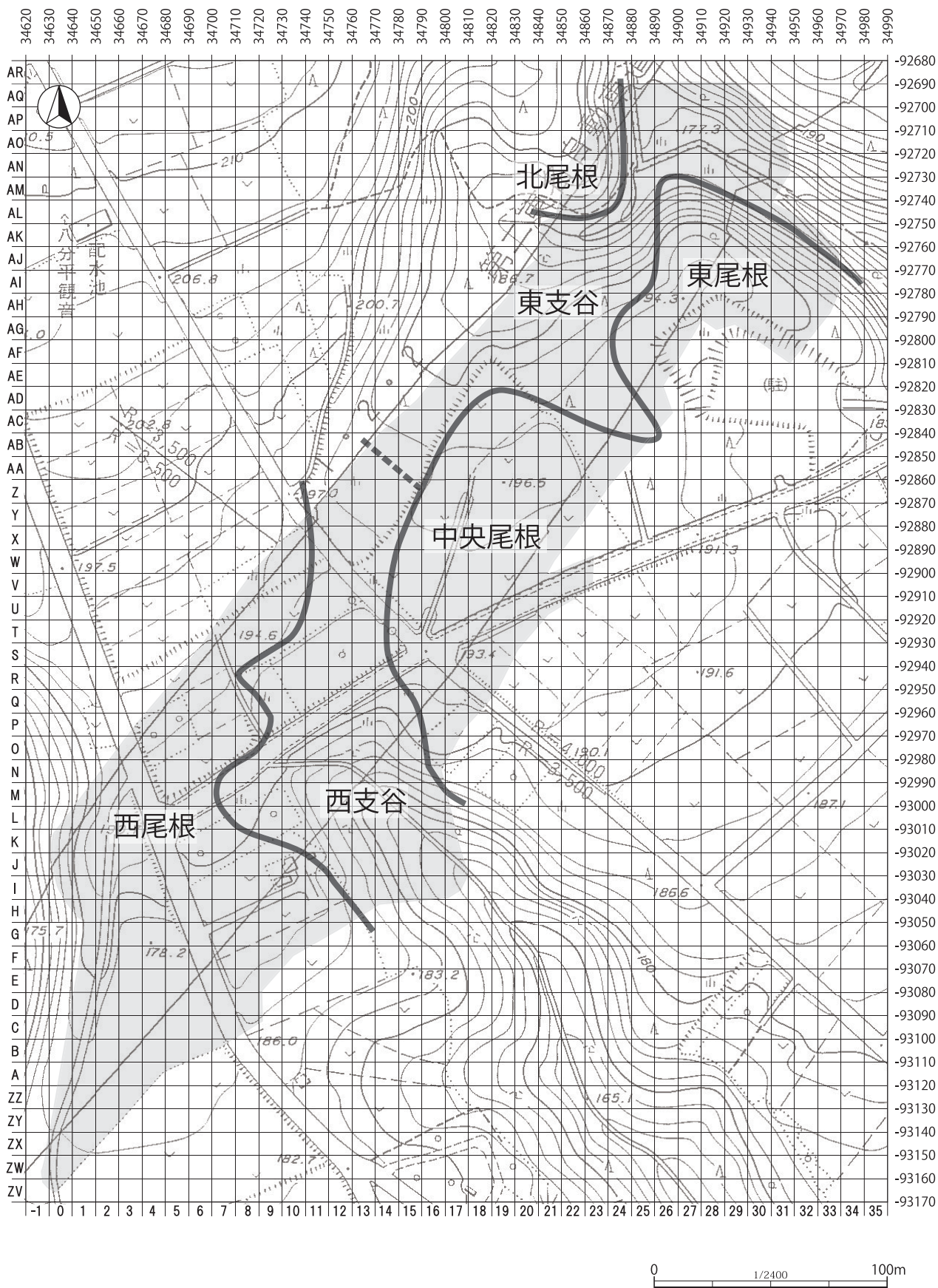
#### 2. 試掘坑と土層堆積状況

本調査の範囲は確認調査における試掘の結果をもとに設定された。それ以下の層に関してはさらに試掘坑をグリッドごとに設け（第4図）、遺物・遺構が確認された範囲に掘削範囲を広げる方法で実施された。同一地点で連続した土層断面図の作成は主としてこれらの試掘坑の掘削に際して作成された。

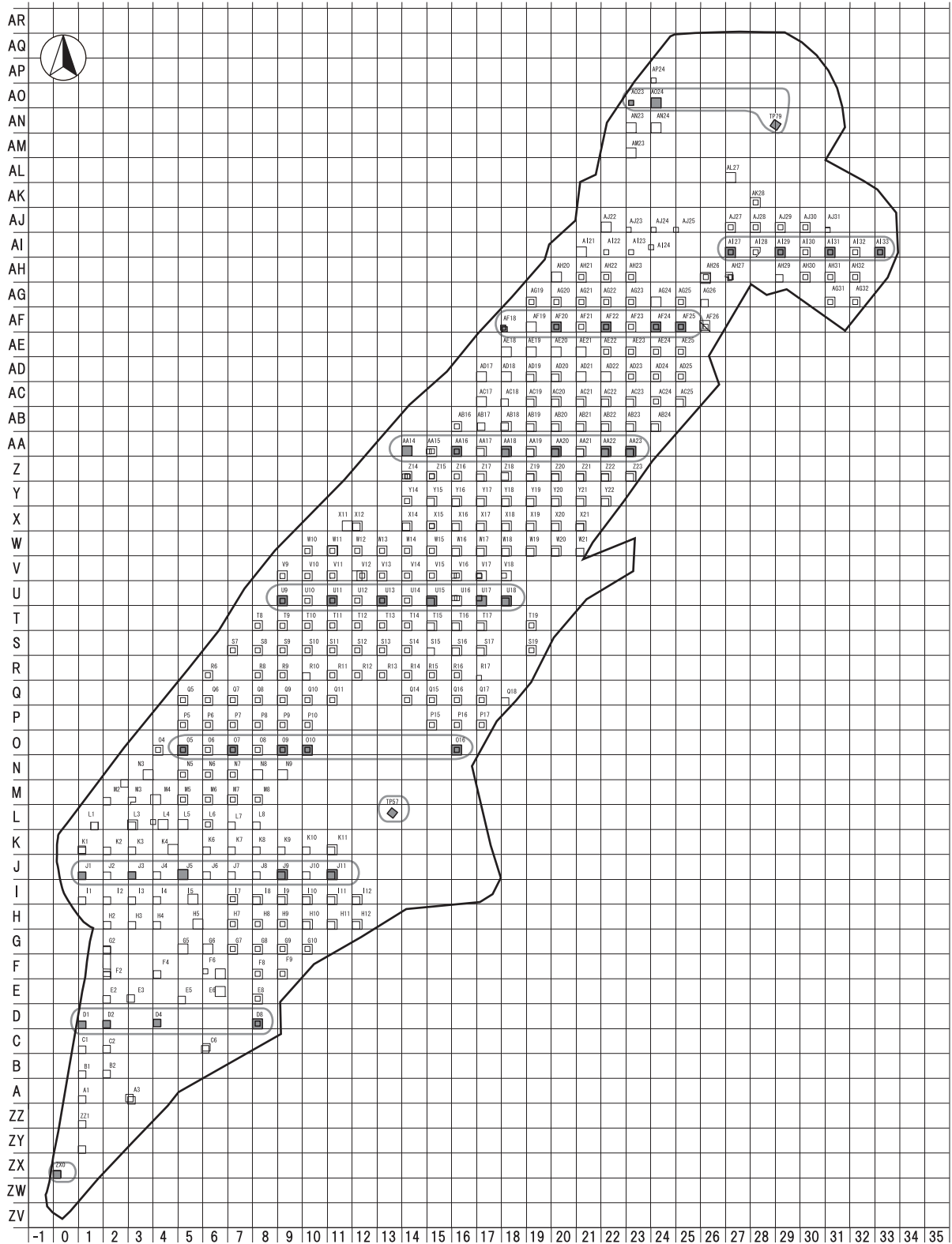
これらの記録をもとに調査区内の土層堆積を柱状模式図で示す（第5~8図）。但し、現地調査の際に作成された試掘坑内の土層図は、厳密には上層から最下層まで連続した土層図となっていないため、この模式図は若干の操作を行って作成したものである。試掘坑は安全性に配慮して掘り方に段差が設けられていたため、土層図はこの段差部分で断絶することとなり、大抵は休場層直下黒色帯（BB0）より上、第Iスコリア層（SC I）~第III黒色帯（BB III）、第IIIスコリア層（SC III）より下の3段階に分けて作成されていた。したがって、第9図に示したように同一試掘坑内でセクションの合成を行った。



第1節 調査区の設定と発掘調査

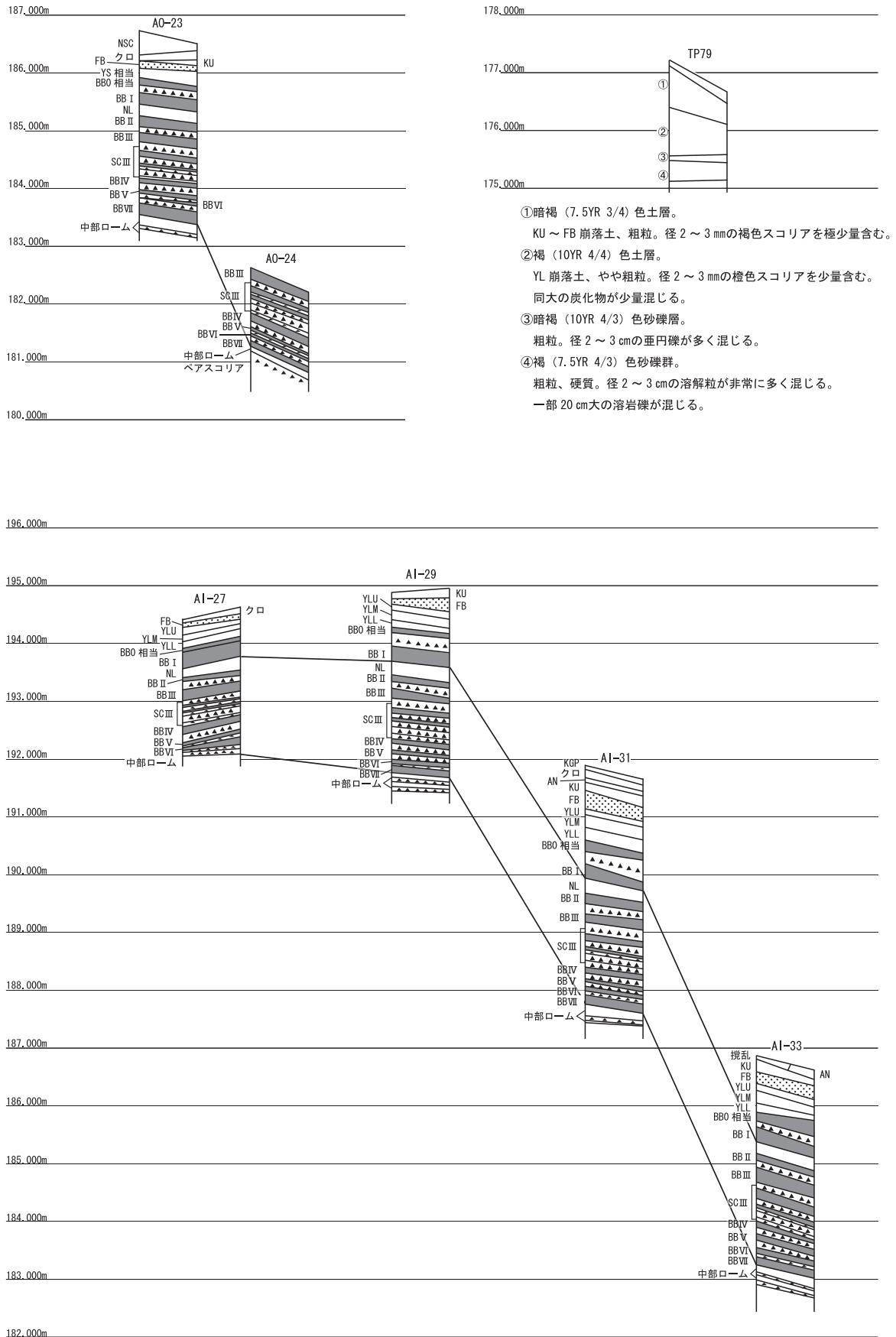


第3図 調査区・グリッドと地形区分



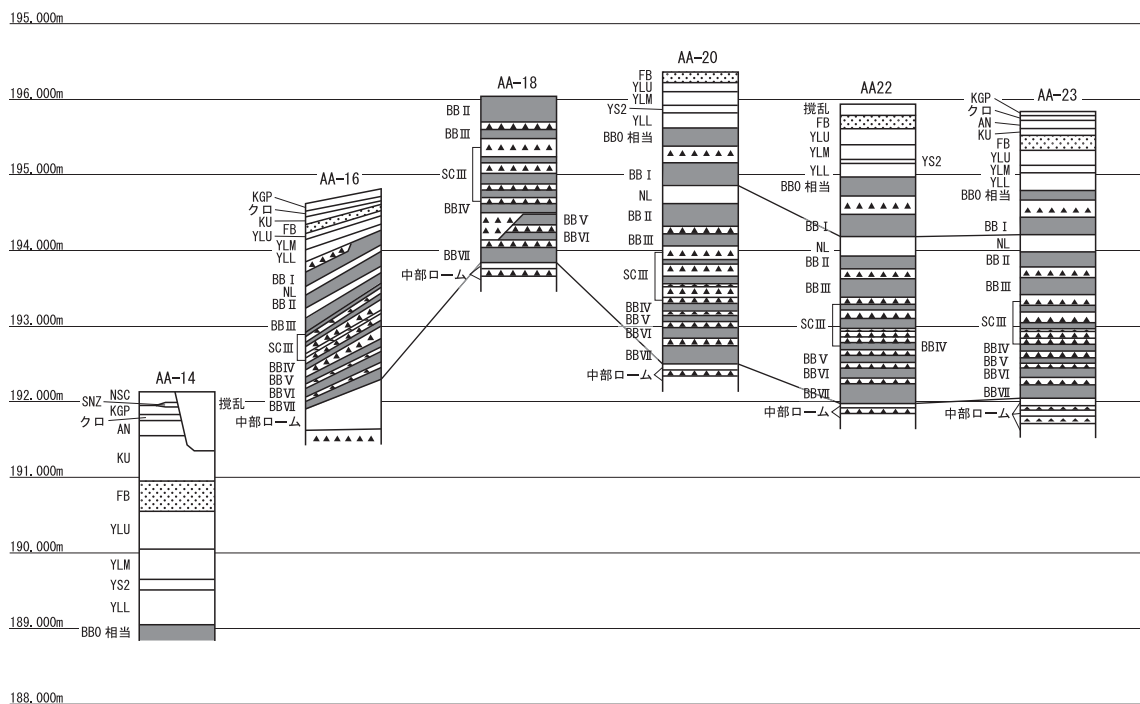
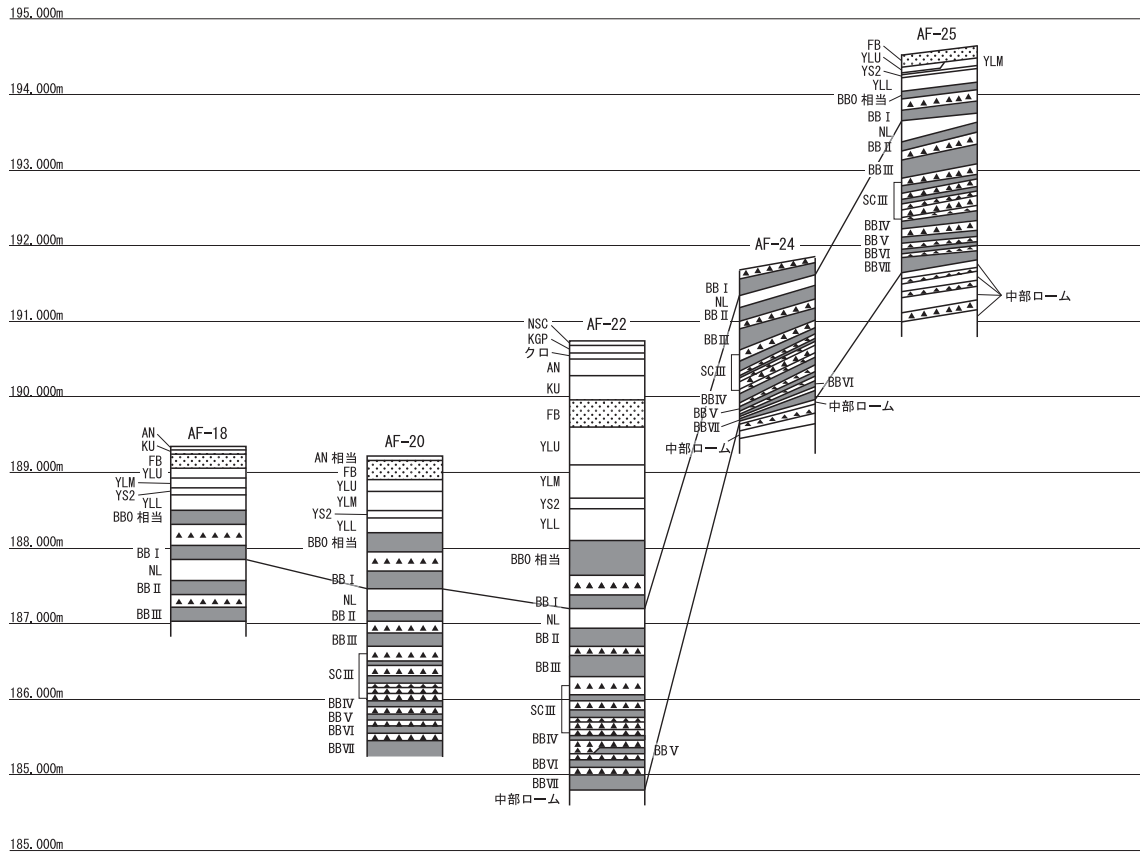
第4図 試掘坑の配置と土層断面の位置

第1節 調査区の設定と発掘調査



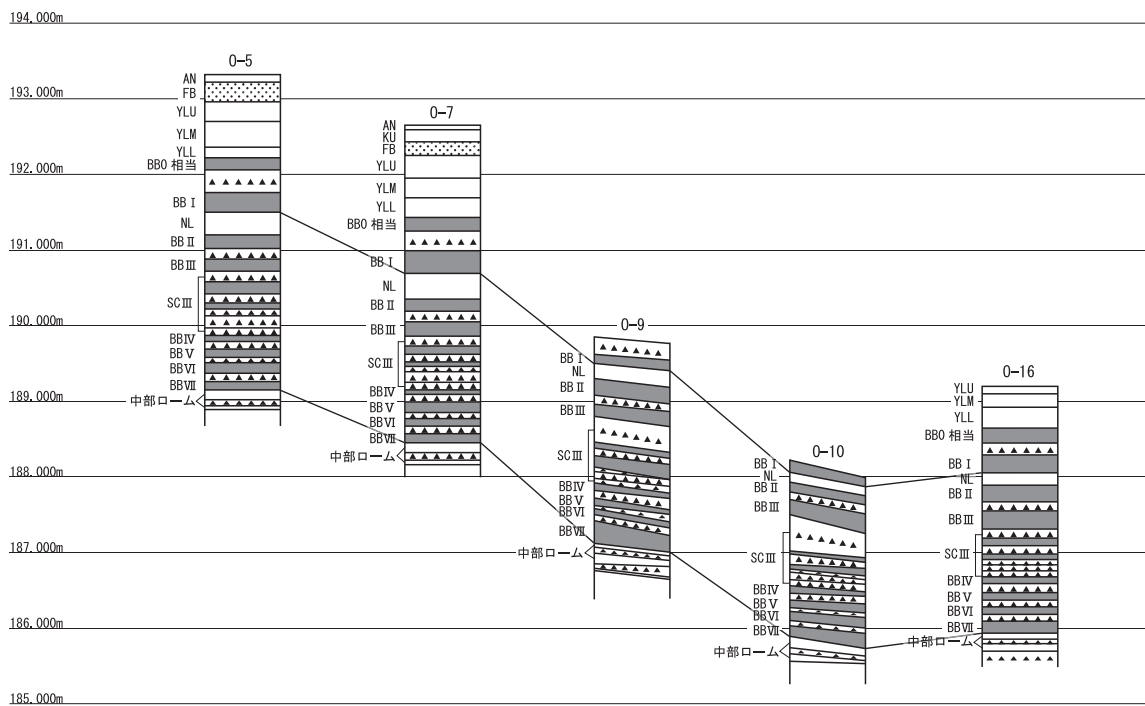
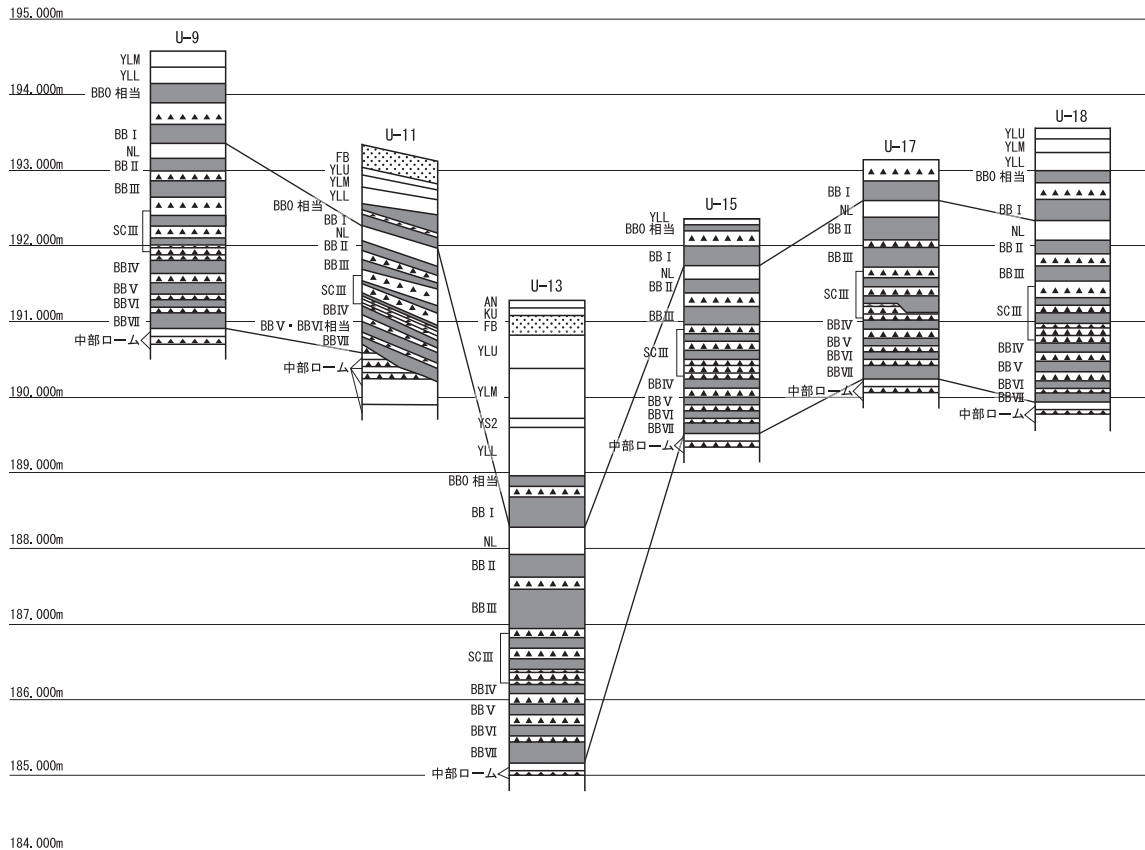
- ①暗褐 (7.5YR 3/4) 色土層。  
KU ~ FB 崩落土、粗粒。径 2 ~ 3 mm の褐色スコリアを極少量含む。
- ②褐 (10YR 4/4) 色土層。  
YL 崩落土、やや粗粒。径 2 ~ 3 mm の橙色スコリアを少量含む。  
同大の炭化物が少量混じる。
- ③暗褐 (10YR 4/3) 色砂礫層。  
粗粒。径 2 ~ 3 cm の垂円礫が多く混じる。
- ④褐 (7.5YR 4/3) 色砂礫群。  
粗粒、硬質。径 2 ~ 3 cm の溶解粒が非常に多く混じる。  
一部 20 cm 大の溶岩礫が混じる。

第5図 土層の堆積状況 (1)

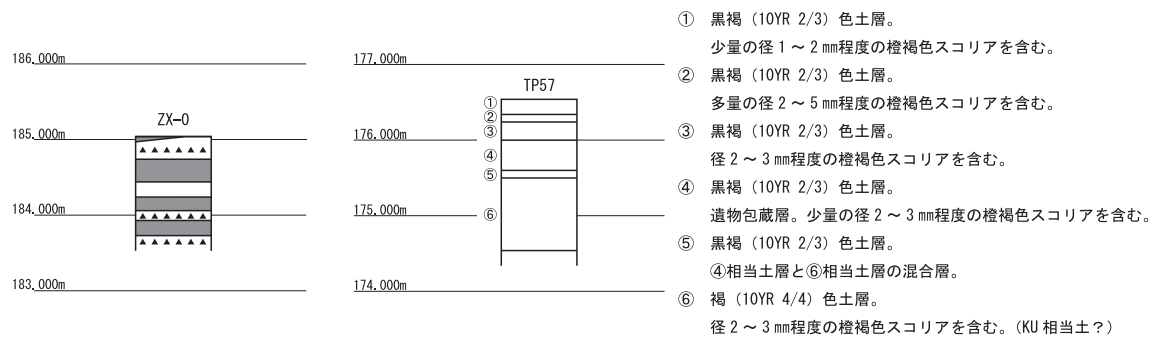
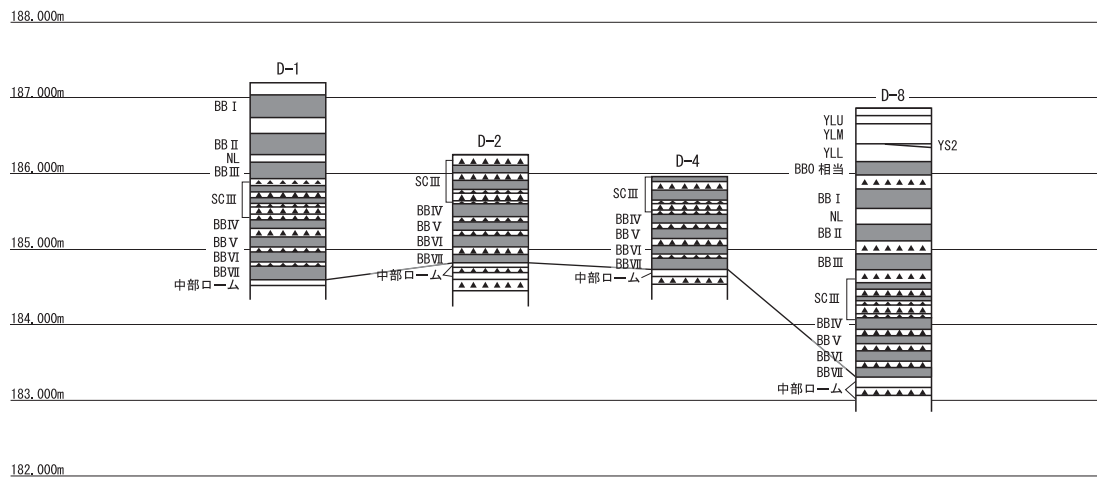
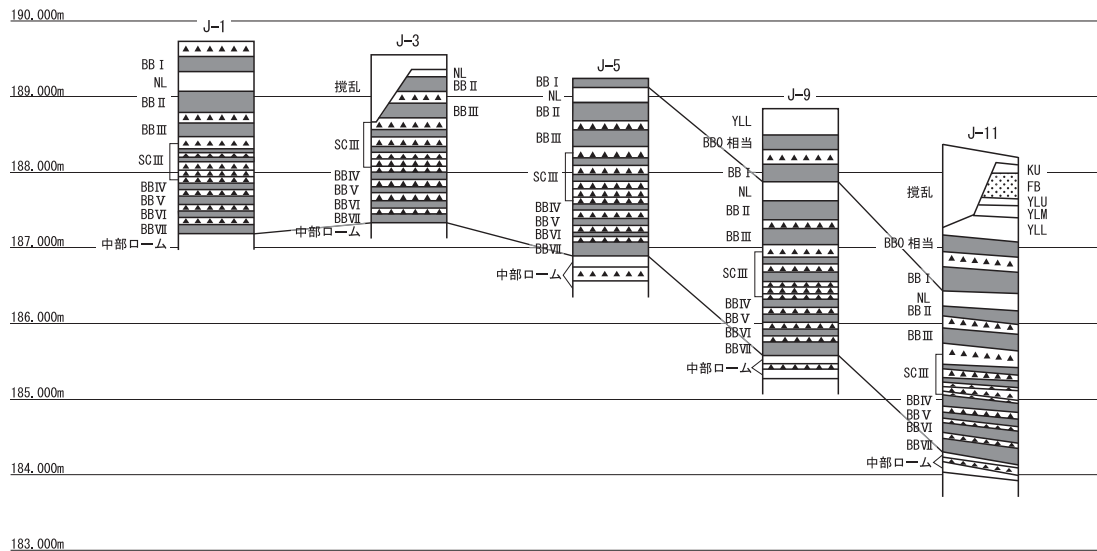


第6図 土層の堆積状況(2)

第1節 調査区の設定と発掘調査



第7図 土層の堆積状況 (3)



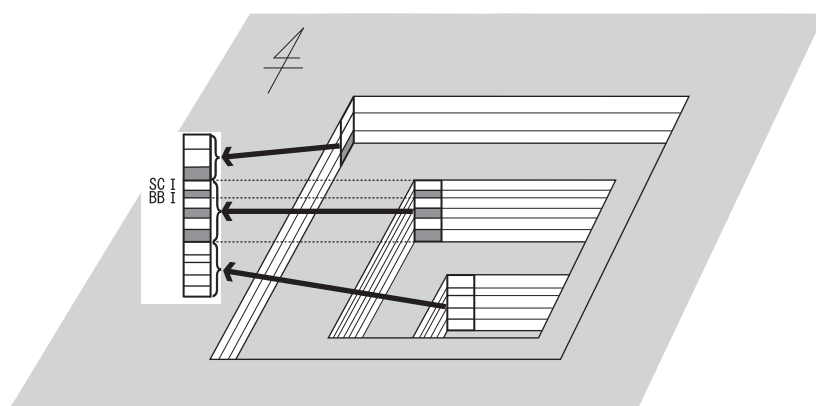
第8図 土層の堆積状況 (4)

試掘坑北西隅のSC I～BB Iの標高を基準とし、それに合わせて不連続な上層と下層の断面図をつなげている（第5～8図の層位名略称は次節参照。但しYLS 2はYs 2と略記した）。

調査区内の土層の堆積状況は地点によって差異が見られる。この点は次項で示す旧地形と対応させるとさらに明瞭となるが、全般的な傾向として尾根上から斜面にかけては層が薄く、或いは堆積が不安定で部分的に観察されなくなる層があるのに対し、谷底の部分では層の堆積が厚くなっている。

谷部に当たるAF-22、AA-14、U-13では休場層の層厚が1.5m以上に達し、通常は断続的にしか観察されない休場層中位と下位との間のスコリア層（YLS 2）が比較的安定して観察された。これらの谷からさらに谷筋を下った傾斜地にあたる箇所では崩壊土が厚く堆積する状況が観察されており、地表下2m以上掘削してもローム層に到達しない状態となっている（TP79、TP57）。

また、尾根上でも、尾根の突端部で面積の狭い北尾根（AO-23）や東尾根（AF-25、AI-27・29）よりも広い中央尾根（AA-20・22・23）の方が堆積が厚い傾向にある。



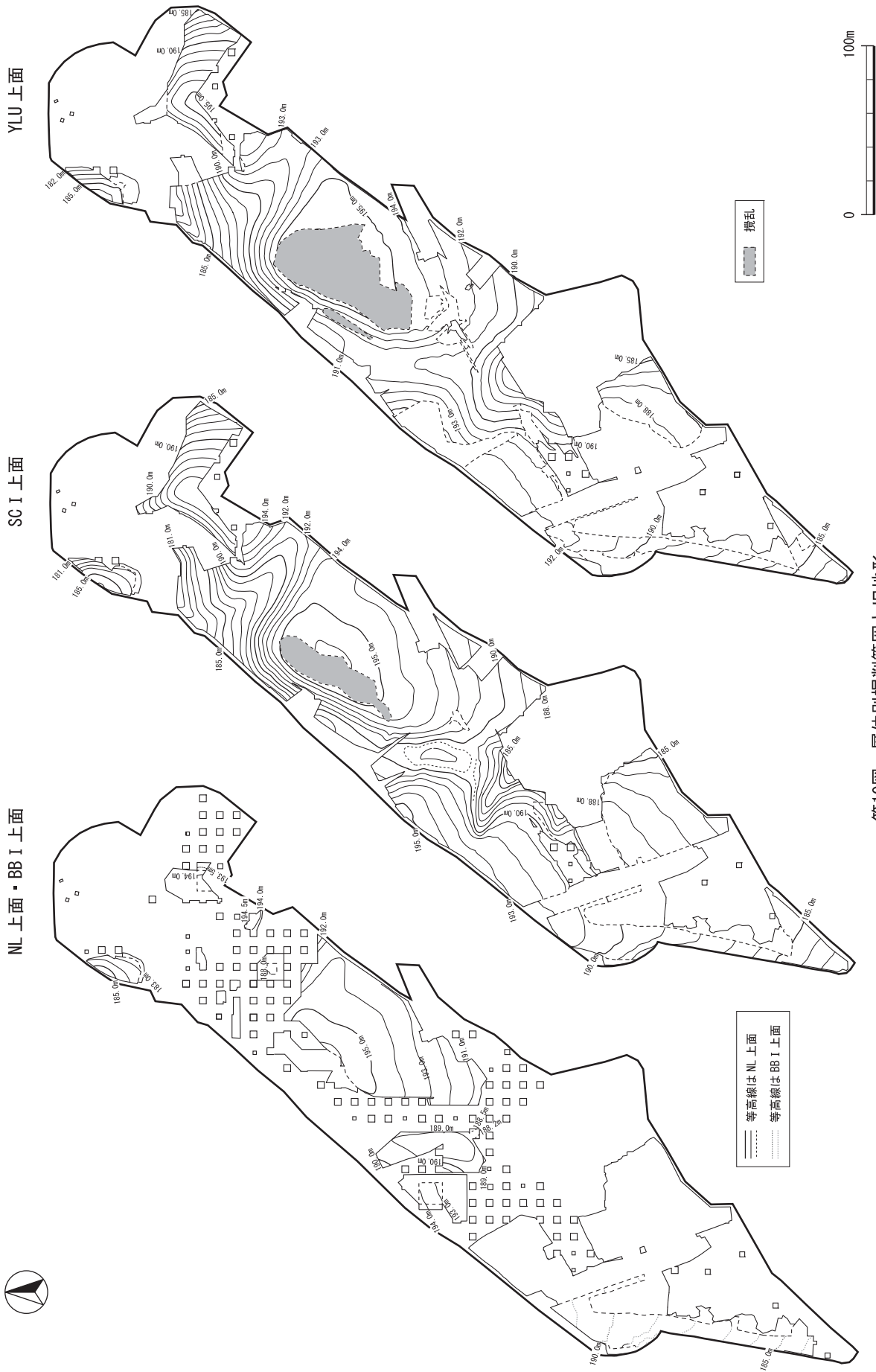
第9図 土層柱状図の作成方法

### 3. 掘削範囲と遺跡の旧地形

前項の試掘坑の掘削の成果に基づき、遺構・遺物の確認面を設定し、調査区を面的に広げて発掘調査が実施された。確認面とした層位においては可能な限り地形の測量を実施しており、ある程度旧地形を把握することができる。本報告書に關係する範囲では3つの層（休場層、第Iスコリア層、第I黒色帯）において地形測量を実施した。第10図に各層位における掘削範囲と地形測量により得られた等高線を示した。掘削範囲内でも地形測量が全域で行われたわけではないので等高線には空白域があり、また第I黒色帯（第10図左）については本調査第I期では第I黒色帯上面、本調査第Ⅲ～Ⅵ期では第I黒色帯下面が測量されているため部分的に異なる層位を示した図となっているが、およそその地形の傾向を把握することが可能である。

調査前の地形（第3図）と比較すると、旧地形は谷が深く、より入り組んだ形になっている。西支谷は西尾根と中央尾根とを大きく分けており、枝分れした小支谷が西尾根側に入っている。また、SC I上面の段階では西尾根と中央尾根との間に浅い窪地が形成されていたようである。東支谷もかつては北尾根と東尾根との間で枝分れし、東尾根と中央尾根とが分けられていた。

これらの支谷は、時代が新しくなると徐々に埋没していったようであり、YLU上面の段階では西支谷の枝分れ部分はやや不明瞭になり、東尾根と中央尾根との間の支谷も浅くなっている。第5～8図の土層の堆積状況も合わせて考えると、全般的に谷部の方が尾根部より堆積が厚いことから後期旧石器時代を通して徐々に谷が埋没していったものと見られ、特に休場層（YLL～YLU）で大きく埋没が進んだ様子が窺える。



第10図 層別掘削範囲と旧地形



## 第2節 土層と文化層

前節で見た富士石遺跡の土層堆積は、愛鷹・箱根山麓の基本層序に対比可能な、黒色帯とスコリア層とが交互に現れる層序を示している。富士石遺跡が位置する愛鷹山南東麓の土壌は箱根・富士山噴出物を主体とする火山灰で構成され、愛鷹ロームと呼称される。愛鷹ロームは、上部ローム層・中部ローム層・下部ローム層に区分されている（愛鷹ローム団研グループ 1969）が、現在のところ明確な人類活動の痕跡が確認されているのは関東の立川ロームに対比される上部ロームの下面までである。

富士石遺跡でも、上部ローム層の第Ⅶ黒色帯以降で遺物が出土した。『富士石遺跡Ⅰ』所収の、後期旧石器時代前半期に当たるニセローム以下の層の資料は第Ⅰ～ⅩⅢの13枚の文化層に分けられている。

本報告では第Ⅰ黒色帯以上の層から出土した後期旧石器時代後半期から縄文時代初頭の資料を扱っている。後期旧石器時代後半期に関しては、第ⅩⅣ～ⅩⅨの6枚の文化層に分けられた。

富士石遺跡の基本層序と文化層との関係をまとめると以下の通りである（第11図）。なお、前節で述べたように丘陵の尾根部（第11図左）と谷部（第11図右）とでは若干堆積状況が異なっていた。基本的には谷部の方が層厚が厚く、休場層中のスコリア層など尾根部では薄く断続的になったり観察されなかったりする層でも谷部では比較的安定して堆積していた。

1層は表土・攪乱層である。畑地の耕作土や整地による盛土など。

2層は黒色土層である。シルト質で粘性が非常に低く、締りも弱い。径2～3mm程度の褐色スコリアを含む。弥生時代以降の遺物包含層である。場所により色調差で上下2層に分けることが可能である（比較的上層が淡い）。

3層は橙～黄褐色スコリア層である。緻密な粒径のスコリアで、縄文時代末から弥生時代初頭に降灰した新期スコリアに比定される。谷の一部で縄文晩期の土器が包含される。

4層は暗赤褐色スコリア層である。径2～5mm程度の粒径のスコリアが集中する。縄文時代後期に降下した砂沢スコリアに比定され、3層の下面で部分的に認められた。

5層は微細な白色軽石粒を含む黒色土層である。但し、上層のスコリア粒が混入する一方、軽石粒も上下の層に拡散が認められることから層の区分が明確でなく、分層されなかった地点もある。軽石は縄文時代後期に降灰したカワゴ平パミスに比定される。

6層は黒色土層である。粘性が弱く、一部に5層と同じ軽石粒が混じるが、密度の差で分層される。縄文時代中期の遺物が包含される。

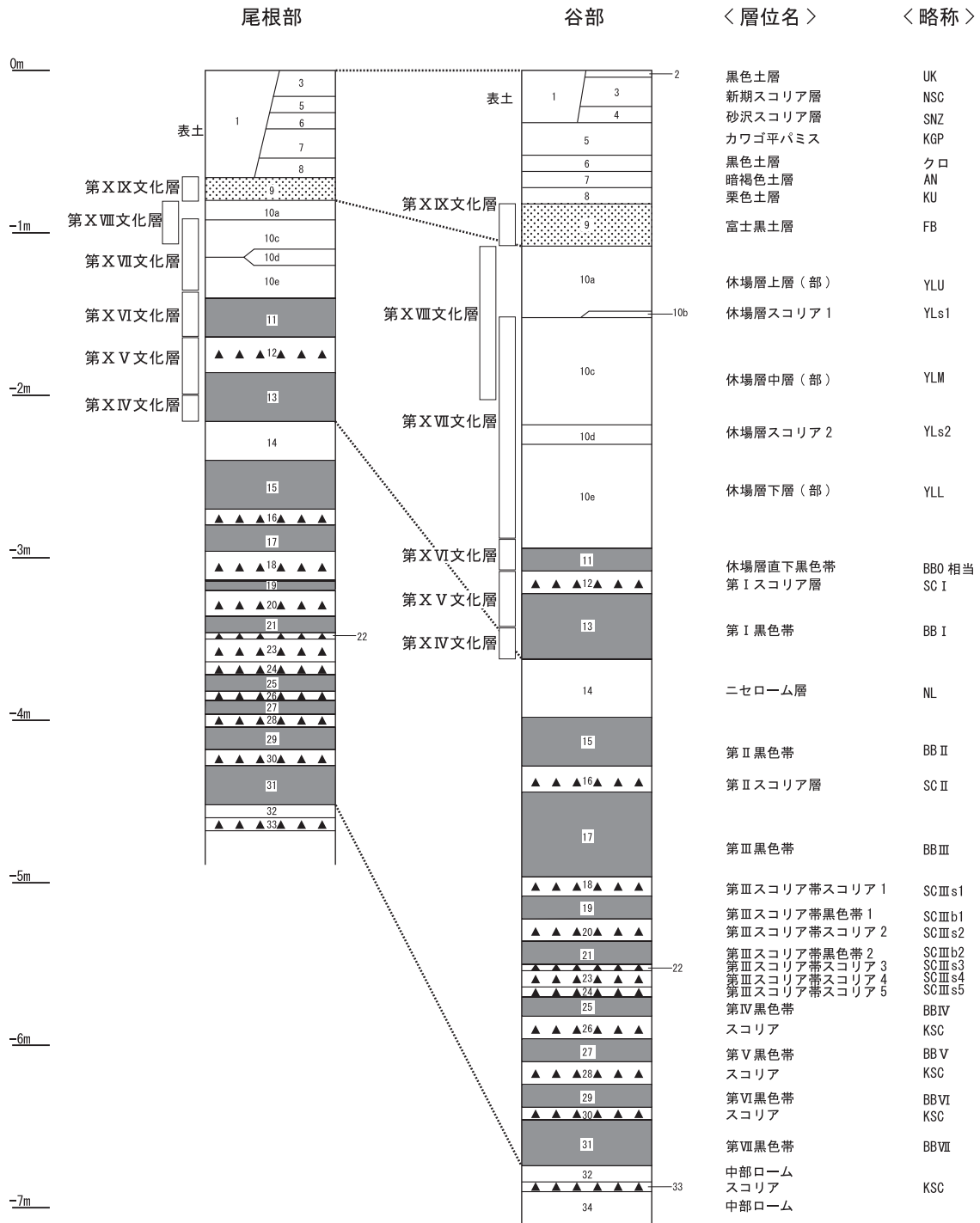
7層は暗褐色土層である。上位の6層と下位の8層に挟まれた漸移層である。

8層は黄褐～褐色の緻密な火山灰質の黄褐色土層である。尾根上では堆積が薄く、色調が暗く9層との差が明瞭でないことから部分的に検出できない場所もあるが、谷中では色調が明るく堆積は厚い。愛鷹・箱根山麓基本層序の栗色土層（KU）に相当する。

9層は暗褐色土層である。アカホヤと考えられる径1～2mm程度の赤褐色スコリアはこの層を中心に認められる。愛鷹・箱根山麓基本層序の富士黒土層（FB）に相当する。8層下位から9層上位部分で縄文時代早期後半の遺物が包含される。縄文時代草創期の遺物は主として9層から出土した。また、旧石器時代第ⅩⅨ文化層の遺物も9層から出土し、一部その下の10層からも出土した。

以上2～9層はいわゆる現世火山灰腐植土層にあたる。これ以下の10層からがローム層である。

10層は黄褐色土層である。愛鷹・箱根山麓基本層序の休場層（YL）に相当する。本層は2枚のスコリア濃集層準を挟んで3枚に分層される。比較的白っぽく、ほとんどスコリアを含まない上層（YLU）、



第11図 富士石遺跡の基本層序と文化層

その下位で部分的に検出される径2～3mm程度の赤褐色スコリアの集中層準（YLs1）を境に中層（YLM）、さらに同種のスコリア層（YLs2）を境に下層（YLL）に分けられる。スコリア層のうち、YLs1は谷部で部分的に認められるのみであり、YLs2も尾根部ではごく一部で観察されるのみであった。10層は第XVII・XVIII文化層の出土層位である。両文化層の出土層位は重複しているが、第XVII文化層がYLMを中心とし、第XVIII文化層がYLM～YLUを中心に出土する傾向があり、後者の方がやや上層に位置づけられる。

11層は褐色～暗褐色土層である。愛鷹・箱根山麓基本層序の休場層直下黒色帯（BB0）に相当するが、実際に色調が暗くなっているのは谷の一部に限られ、ほとんどの地点では休場層下位との色調の差は少ない。その代わり休場層最下位から12層の第Iスコリア層の間に漸移的にスコリアが多くなる層が認められる場合があり、この層を休場層直下黒色帯相当層としてとらえた。本調査地で休場層直下黒色帯としているものは基本的にこの休場層直下黒色帯相当層である。第XVI文化層の主たる出土層準である。

12層は暗赤褐色スコリア層である。発泡の著しい径5～10mm程度のスコリア堆積層である。愛鷹・箱根山麓基本層序の第Iスコリア層（SC1）に相当する。第XV文化層は12層から13層の上部に位置づけられる。

13層は暗褐色土層である。径2～5mm程度の赤褐色スコリアを含む。愛鷹・箱根山麓基本層序の第I黒色帯（BB1）に相当する。第XIV文化層は13層の下部を中心に出土した。

14層は黄褐色土層である。火山灰シルト層で、赤褐・黒色スコリアを含む。その中でも層の上部は比較的スコリアの径が大きく、密度が高い。層の中・下部で火山ガラスの濃集部が点々と見られるが、これは始良丹沢パミス（AT）の火山ガラスと見られる。愛鷹・箱根山麓基本層序のニセローム層（NL）に相当する。第XIII文化層は14層下部を中心に出土した。

15層は褐色土層である。径2～5mm程度の赤褐色スコリアを含む。愛鷹・箱根山麓基本層序の第II黒色帯（BBII）に相当するが、発色が弱く暗い色調は顕著でない。第XII文化層は15層を中心に出土した。

16層は赤褐色スコリア層である。径2～5mm程度のスコリアが集中する。愛鷹・箱根山麓基本層序の第IIスコリア層（SCII）に相当する。

17層は暗褐色土層である。径2～5mm程度の赤褐色スコリアを含む。愛鷹・箱根山麓基本層序の第III黒色帯（BBIII）に相当する。第X文化層は17層上部、第IX文化層は17層中・下部を中心に出土した。

18層は赤褐色スコリア層である。径1～5mm程度のスコリアが厚く累積した層である。愛鷹・箱根山麓基本層序の第IIIスコリア帯（SCIII）のうち最上部の層で、第IIIスコリア帯スコリア1（SCIII<sub>s</sub>1）に相当する。

19層は黒色土層である。愛鷹・箱根山麓基本層序の第IIIスコリア帯黒色帯1（SCIII<sub>b</sub>1）に相当する。第VIII文化層は19層を中心に出土した。

20層は赤褐色スコリア層である。愛鷹・箱根山麓基本層序の第IIIスコリア帯スコリア2（SCIII<sub>s</sub>2）に相当する。第VII文化層は20層を中心に出土した。

21層は黒色土層である。愛鷹・箱根山麓基本層序の第IIIスコリア帯黒色帯2（SCIII<sub>b</sub>2）に相当する。第VI文化層は21層を中心に出土した。

22層は赤褐色スコリア層である。愛鷹・箱根山麓基本層序の第IIIスコリア帯スコリア3（SCIII<sub>s</sub>3）に相当する。

23層は赤褐色スコリア層である。愛鷹・箱根山麓基本層序の第IIIスコリア帯スコリア4（SCIII<sub>s</sub>4）に相当する。

24層は赤褐色スコリア層である。非常に硬質な層である。愛鷹・箱根山麓基本層序の第IIIスコリア帯

スコリア5（SCⅢs5）に相当する。

25層は暗褐色土層である。下層の26層から浮き上がった褐色スコリアを少量含む。愛鷹・箱根山麓基本層序の第Ⅳ黒色帯（BBⅣ）に相当する。第Ⅴ文化層は25層を中心に出土した。

26層は褐色スコリア層（KSC）である。径5～10mm程度のスコリアが集中する。

27層は褐色土層である。上層の26層から沈み込んだ褐色スコリアを含む。愛鷹・箱根山麓基本層序の第Ⅴ黒色帯（BBⅤ）と推測される。第Ⅳ文化層は27層を中心に出土した。

28層は赤褐色スコリア層（KSC）である。径1～2mm程度のスコリアが集中する。第Ⅲ文化層は28層を中心に出土した。

29層は暗褐色土層である。赤褐色スコリアを少量含む。愛鷹・箱根山麓基本層序の第Ⅵ黒色帯（BBⅥ）に相当する。第Ⅱ文化層は29層を中心に出土した。

30層は暗赤褐色スコリア層（KSC）である。径2～3mm程度のスコリアが集中する。

31層は暗褐色土層である。赤褐色スコリアを少量含む。29層に比して、色調が若干黒味を帯びている。愛鷹・箱根山麓基本層序の第Ⅶ黒色帯（BBⅦ）に相当する。第Ⅰ文化層は31層を中心に出土した。

以上10～25層が上部ロームにあたる。

32層以下は中部ロームにあたる。一部の試掘坑でのみ深掘りが実施され、褐色ローム層と赤褐色スコリア層とが交互に堆積する層序が確認されている。

### 第3節 整理作業の方法

#### 1. 整理作業の概要

基礎的な整理作業は現地調査と並行して始められていたが、本書所収の資料の本格的な整理作業は平成22年度に実施した（第1章参照）。

整理作業にあたっては改めて遺物の分類を実施し、現地調査段階で設定されていた遺構やそれらの出土層準等について再検討を行った。以下では文化層・遺構の設定基準とその整理の方法、遺物の分類方法について述べる。

#### 2. 文化層と遺構の設定

文化層の設定は以下の手順で行った。石器の石材・母岩分類と接合作業が完了した段階で、石器を出土地点、接合関係や構成石材をもとにグループ化し、出土層位の検討を行った。異なる石材・母岩が重複して分布する箇所では出土層位と石材・母岩別の垂直分布を検討し、層位的に分離できるか判断を行った。また、礫については現地調査時に礫群・配石などとして認定されていた単位をもとに出土層位の検討を行った。石器・礫の出土層位は現地調査段階での認定を参照しながら、遺物の垂直分布図を土層断面図と対比し、検証を行った。

その上で石器分布と礫分布との対応関係を検討し、両者を層位別にまとめたものを文化層とした。単独出土した石器・礫については、接合関係や母岩別資料、或いは技術形態学的特徴により関連付けられる文化層に含め、そうした判別ができない場合には出土層位に基づいて帰属文化層を決定した。

礫群や石器集中は現地調査の段階で暫定的に設定され、それに基づいて測量・実測等が成されていたが、整理作業の段階で再検討し、以下の基準に基づき設定し直した。

- ・石器集中は石器が3点以上まとまって出土したものとする。
- ・礫群は礫が3点以上まとまって出土したものとする。
- ・原則として平面分布上での出土位置が2m以内の場合を1つのまとまりとした。但し、遺物間距

離が2 m以内でも分布の粗密が顕著な箇所では分離したことがある。また遺物間距離が2 m以上でも、次項に述べるように例外的扱いをしたことがある。

- ・石器と礫は原則的に個別に分布を検討して石器集中・礫群を設定する。但し一部の石器集中は礫群との関連を考慮して設定している。この場合石器だけの分布は集中度が低くやや散漫になっている。

なお、現地調査の段階では礫群と配石とが区別されていたが、再検討の結果両者を有為な形で分離することが困難であったため全て礫群にまとめた。礫群の中には炭化物を多量に伴い、配石炉の性格をもっていた可能性のある遺構もあるが、遺構名としては礫群に統一し、機能や特徴については個別に言及することとした。

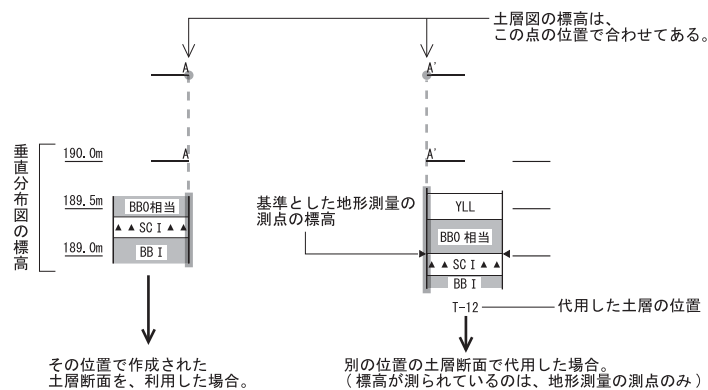
炭化物については、現地調査の際、炭化物の集中範囲の検出面における輪郭、及び試料として採取された一部の炭化材の出土位置が記録されている。本書に掲載した炭化物集中の範囲は現地調査で記録された範囲をそのまま利用し、炭化材試料の出土位置と検出面の層位をもとに文化層への帰属を検討した。また炭化物集中が礫群など他の遺物集中に伴うと見られる場合は、当該遺物集中に準じて帰属文化層を決定した。

### 3. 調査区・遺構図面の掲載方法

前項の方法で設定した文化層・石器集中・礫群・炭化物集中についてはそれぞれ分布図を掲載している。文化層ごとに調査区全体を包括する分布図を縮尺2,400分の1で、その部分拡大図を500分の1で作成し、石器集中・礫群・炭化物集中については縮尺80分の1を原則として作成した（紙面の都合上変則的な縮尺とした場合がある）。実測図を掲載した石器の出土位置はいずれかの分布図に示すようにした。

このうち石器集中・礫群に関しては、平面分布図と垂直分布図を作成した。このうち垂直分布図は原則として地形の傾斜とほぼ垂直な面を投影面として作成し、可能な限り土層断面図を付すようにした。都合の良い位置の土層断面図が現地で記録されていなかった場合は、地形測量（ニセローム上面、第I黒色帯上面、第Iスコリア層上面、第I黒色帯上面、休場層上面にて実施、本章第2節参照）の測点を基準に、その直近で作成された土層断面図を利用して合成した（例えば、第Iスコリア層上面の測点を利用した場合、その点で第Iスコリア層上面の標高を合わせ、その上下の層の厚さは直近の土層断面のもので代用する）。その場合、標高を合わせた点と利用した土層断面の位置を土層断面図に示した（第12図）。

土層図凡例



第12図 遺物分布図の土層の表示方法

#### 4. 遺物の分類と掲載方法

出土石器は以下の基準に基づき分類した。

**尖頭器** 尖頭部を含むほぼ全周を二次加工で整形した尖頭形の石器。

**有茎尖頭器** 尖頭器のうち、基部に着柄のためと考えられる作り出し（茎部）をもつもの。

**角錐状石器** 尖頭器のうち、特に鋸歯縁調整加工で整形されたもの。

**ナイフ形石器** 尖頭形石器で、素材縁辺を残した尖頭部と二次加工により整形された基部をもつ石器。

ここでは基部加工尖頭形石器（尖頭部は素材形状のまま）と背部加工尖頭形石器（尖頭部は片側縁の二次加工により整形）とを一括しており、後者の場合尖頭部の加工と基部加工とを連続させた背部加工となっているものが多い。

**切出形石器** 素材縁辺を刃部に設定し、両側縁を二次加工により整形した石器で、ナイフ形石器よりも先端角が鈍く斜刃～平刃となる石器。側縁を素材打面や折れ面とし二次加工を省略する場合もある。

**搔器** 二次加工で弧状の刃部を作り出した石器。刃部は幅に比して厚く、急斜度の二次加工で整形されている。

**削器** 二次加工により直線状、或いは内湾する刃部を作り出した石器。

**楔形石器** 両極打法が行われた痕跡のある石器。

**礫器** 礫の端部を打ち欠いて刃部を作出した石器。

**敲石・磨石** 自然礫をそのまま利用した石器。敲石は敲打痕と考えられる凹凸や剥落・剥離面が認められること、磨石は磨面と判断される平坦面が形成されていることを基準に設定した。

**二次加工剥片** 二次加工のある石器で、加工痕が部分的なため上記の器種に当てはまらないもの。或いは、二次加工のある石器の破片で小片のため分類不能のもの。意図的な二次加工による剥離はそれ以外の要因による微細な剥離痕との区別が困難な場合もあるが、剥離痕の長さが約2mm以上であること、或いは剥離痕の連続性を目安に区分した。

**石刃・剥片・碎片** 二次加工の認められない剥片については形態的特徴と大きさから石刃・剥片・碎片に分類し、これらを総称する場合は「剥片類」とした。石刃・剥片・碎片は以下の基準で区分した。

まず、現存長で長さ・幅・厚さとも1cm未満のものを碎片とする。

碎片以外の剥片類のうち、両側縁と背面の稜線とが平行かそれに近く、長さが幅の倍以上のものを石刃とした。現存長がそれに満たない場合でも、残存部位から長さが幅の倍以上あったと推定できる場合は石刃に含めた。また例外的に、背面の稜線が側縁と平行しない場合でも、稜付石刃と推定されるものは石刃に含めている。

上記以外の残りを剥片に分類した。

**細石刃** 厳密には前記の剥片類に含まれるものだが、後期旧石器時代終末期に盛行した細石刃剥離技術に伴うものを区分することを目的として別個に分類した。原則的には縦長の剥片で、両側縁及び背面の稜線が平行かそれに近く幅が1.0cm程度以下のものであるが、ここでは時期を限定するため休場層以降の層から出土したことも要件とした。

**細石刃核** 細石刃を剥離した石核。

**石核** 細石刃核以外の石核を一括した。

**原石** 石器石材として搬入されたと考えられる礫をその他から区別して原石とした。デイサイト、輝石安山岩など一般的に礫群に利用される石材のものは基本的に礫とし、剥離痕等がある場合のみ石器として扱ったため、原石として分類されたものはない。

### 5. 礫の分類

出土した石製遺物のうち自然石の状態のもので、剥離痕や使用痕（敲打痕）がないものを礫とした。但し、前述の通り石器石材の可能性が高いものは石器の「原石」として分類した。

礫は表面の特徴から「赤化」（礫表面が赤く変色した状態）、「黒色付着物」（タール状の付着物）を被熱の痕跡として記録した。礫群の分布図ではこうした礫の被熱の有無を区別して図示している。

### 6. 遺物の計測方法

石器の計測に際しては、長さ・幅・厚さの向きを実測図の置き方に準じて設定した。まず器種ごとに縦軸を次のように設定した。

尖頭器、有茎尖頭器、角錐状石器、ナイフ形石器：尖頭部を上とした向き。

切出形石器：基部側両側縁が左右対称となる向き。

搔器、礫器：主たる刃部（二次加工部位）を下とした向き。

削器、二次加工剥片、微細剥離痕剥片、剥片・碎片、細石刃  
：打面を上とし、剥離方向を縦軸とした向き。

楔形石器：主たる両極剥離の打撃部位を上下に置いた向き。

敲石・磨石：長軸の向き。

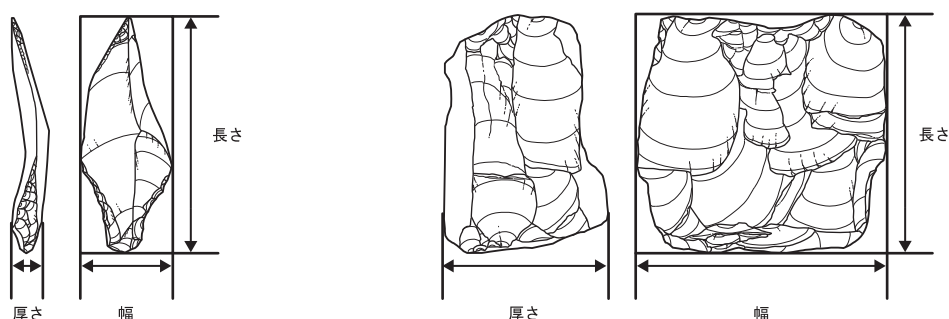
石核・細石刃核：主要な最終剥離面を正面に置き、それに対する打面を上とした向き。

この縦軸に平行で、各辺が石器の輪郭に接する長方形を想定し、その長方形の縦方向の辺を長さ、横方向の辺を幅とした。厚さは石器の反り等を計上せず長さ・幅に直交する方向の最大長を測定した（第13図）。

計測の単位は、長さ・幅・厚さについてはノギスを用いて0.01cm単位で計測した。但し、15cm以上の大きさをもつ場合は0.1cm単位までとした。重量については0.01g単位で計測した。但し、4000g以上の場合は10g単位で計測した。

礫の計測については、長軸を長さとし、これに直交する向きを幅・厚さとした（但し、(幅)  $\geq$  (厚さ) で両者は直交する向きとする）。

計測の単位は、長さ・幅・厚さについては0.1cm単位で、重量は10g単位で計測した。



第13図 石器の計測方法

# 第4章 遺構と遺物

## 第1節 資料の概要

富士石遺跡では中部ローム層最上部から休場層全体にかけて旧石器時代の遺構と遺物が発見された。本書で報告するのは始良丹沢火山灰降灰期以降の、第I黒色帯以上の層から出土した後期旧石器時代後半期から縄文時代初頭に相当する遺物である。対象となる後期旧石器時代後半期の資料は石器3,401点(石製品2点を含む)、礫4,238点である。炭化材も出土しており、当該層位から140点の炭化材試料が回収された。また、縄文時代草創期の所産と考えられる石器35点も合わせて報告する。この他、表採・攪乱などから出土した資料で、旧石器時代から縄文時代初頭の所産と考えられる石器18点もある。

後期旧石器時代後半期の遺物群は出土層位に基づき6つの文化層に区分され、第XIV文化層が第I黒色帯下部、第XV文化層が第I黒色帯上部、第XVI文化層が休場層直下黒色帯、第XVII文化層が休場層下位～中位、第XVIII文化層が休場層中位～上位、第XIX文化層が休場層上位～富士黒土層に相当する。また、縄文時代草創期の遺物は主に富士黒土層から出土した(表2・3)。

文化層名は調査区全体を通して共通のものを用いる。但し、前章で述べたように尾根部、谷部と地点によって堆積状況が異なるため、層序対比の厳密性には限界がある。したがって異なる地形区分に跨って同一文化層の遺物が分布している場合、厳密な同時期性を示しているのではなく、単に層位的な分離

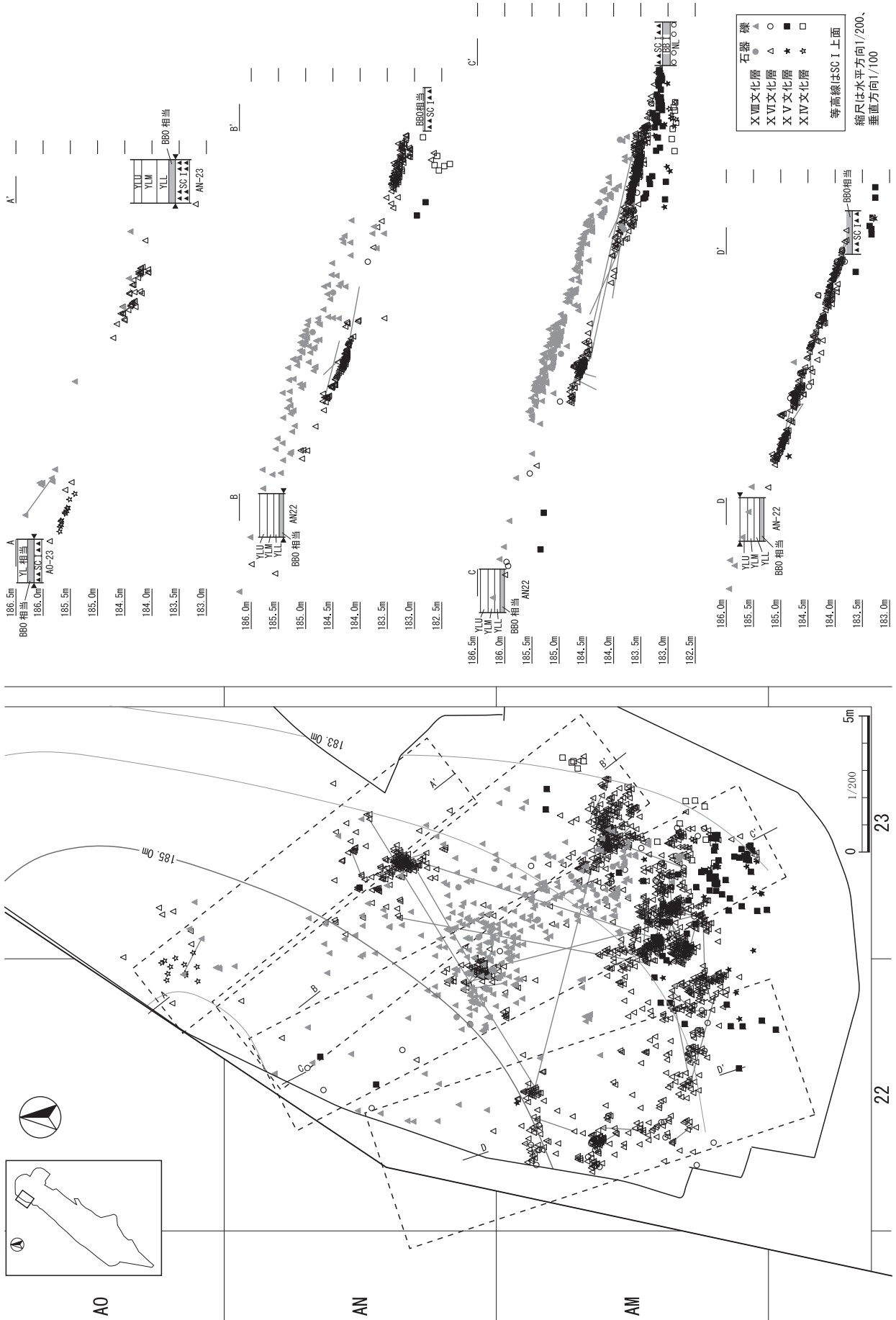
表2 各文化層の概要

文化層名	出土層位	石器	石器集中	礫	礫群	炭化物集中
第XIV文化層	BBI下	185	13	92	9	8
第XV文化層	BBI上	1,448	18	307	19	2
第XVI文化層	BB0	287	17	2,402	60	1
第XVII文化層	YLM	997	40	910	62	
第XVIII文化層	YLU	463	16	527	20	
第XIX文化層	ZN	21	1			
縄文時代初頭	FB	35				

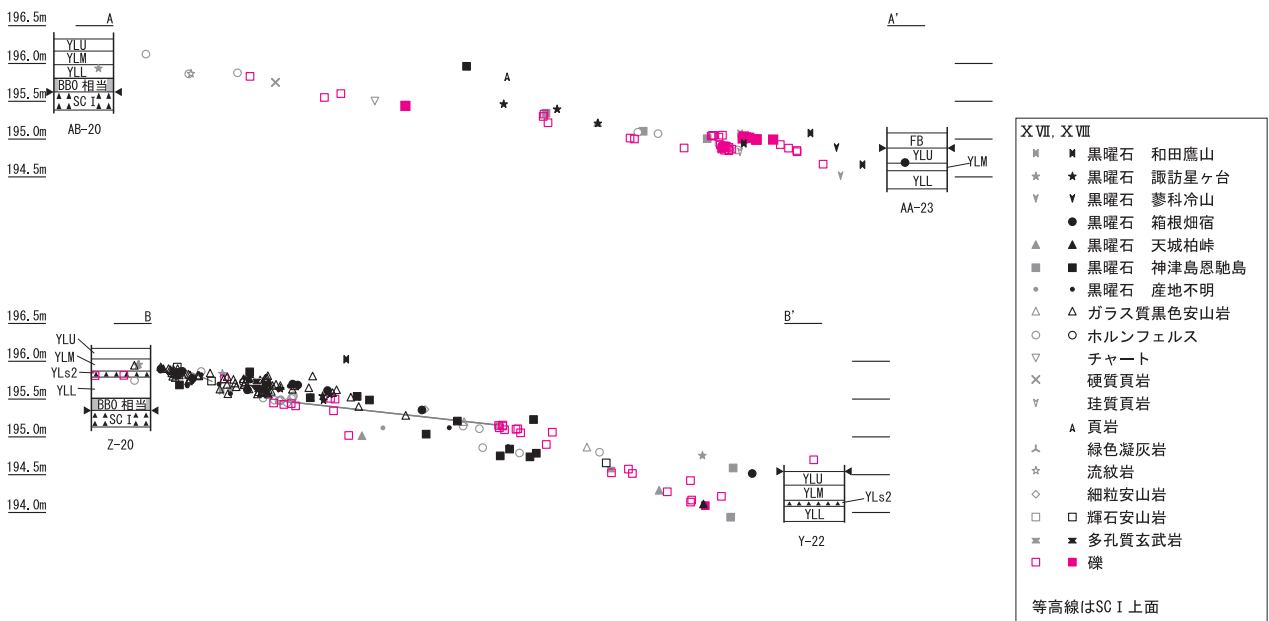
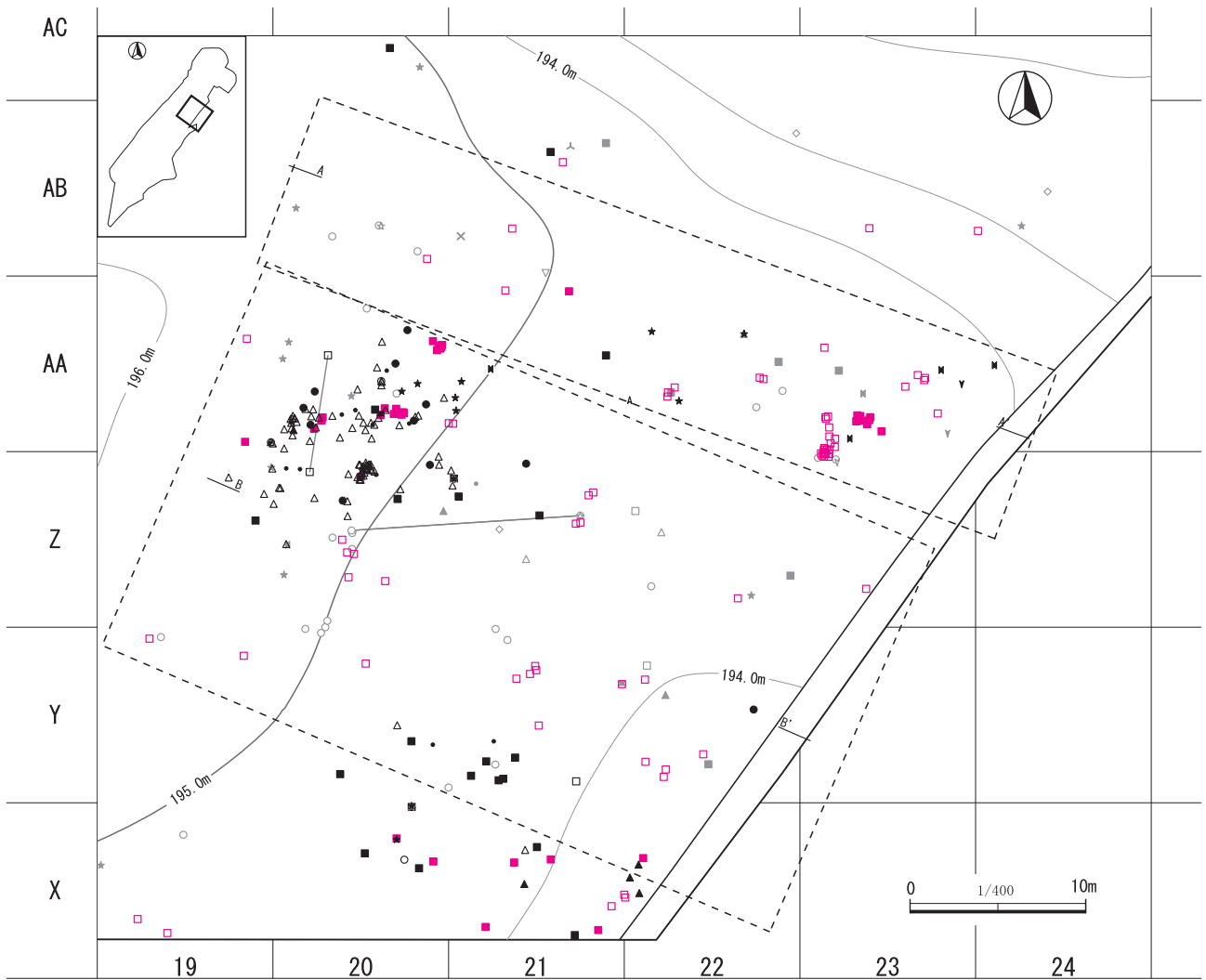
表3 文化層別器種組成

文化層名	出土層位	石製装飾品	尖頭器	尖頭器未製品	有茎尖頭器	角錐状石器	ナイフ形石器	切出形石器	台形石器	彫器	搔器	削器	石錐	楔形石器	基部加工石刃	二次加工剥片	石刃	細石刃	剥片	碎片	細石刃核	石核	原石	礫器	敲石	磨石	台石
第XIV文化層	BBI下						7				1	2		7		3	5		107	40		8			5		
第XV文化層	BBI上					4	24				57	11		5	1	14	32		734	552		7	1	1	4		1
第XVI文化層	BB0					1	9	4	1	1	10	11				4	5		200	8		18		4	9		2
第XVII文化層	YLM	2	27				84	1			5	28		11	2	25	95		614	19		46		11	23		4
第XVIII文化層	YLU		42	11			5	1	1		2	13	1	1		8	5	2	321	14		17		1	15	1	2
第XIX文化層	ZN										1			2							3						
縄文時代初頭	FB		2	1	32																						
表採・一括等			11				3										2	2									





第14図 文化層別遺物出土状況（北尾根）



縮尺は水平方向1/400、垂直方向1/100

第15図 文化層別遺物出土状況（中央尾根 第XVII・XVIII文化層）

や前後関係の区分ができないことを示しているにすぎない。

また一方、同一地区でも重層的に遺物が分布する箇所では、異なる時期の遺物が同一文化層にまとめられたり、逆に同一時期の遺物が別個の文化層に振り分けられたりしている場合がある可能性を完全に否定することはできない。設定した文化層の確度は出土状況に影響を受け地点により異なる。この点で問題となる地点についてここで触れておく。

北尾根では第XIV～XVIII文化層までの遺物が分布しており、特にAM・AN-22・23グリッドでは第XIV・第XV・第XVI・第XVIIの4枚の文化層の遺物が重複している（第14図）。垂直分布では、各文化層は概ね間層を挟んで分離されているようであるが、傾斜地で層の堆積が比較的薄いことから分離の不明確な箇所が幾つかあり、下位の文化層との標高差が10cm程度に過ぎない部分もある。

中央尾根でも各文化層の遺物が重複した分布を示すが、殊に第XVII・第XVIII文化層間は垂直分布上でも重複部分が多く、文化層分離の確度に問題が残るところである（第15図）。石器群の内容や礫群にレベル差があることから、異なる時期の石器群が重複している可能性は高いと考えられるが、単独的な石材や母岩が多く1点1点を確実に時期区分するのは厳密には不可能な状況であり、本報告で提示するのはその一案である。

## 第2節 第XIV文化層

### 概要

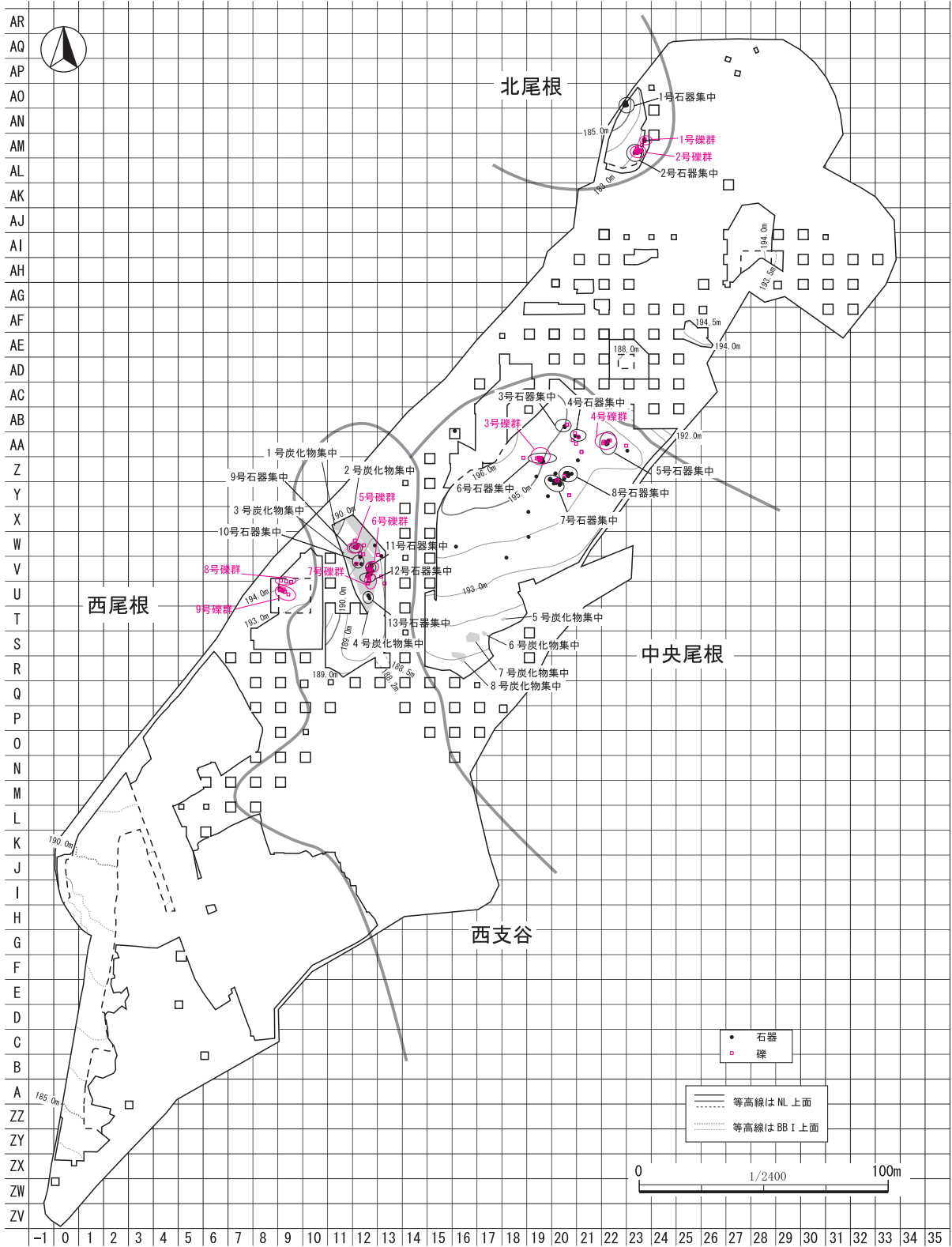
第I黒色帯下部を中心として石器185点、礫92点が出土し、石器集中13か所、礫群9基を認定した（第16図、表4）。地形区分と遺物分布から以下の4群に分けて整理する。

- ①北尾根 1・2号石器集中、1・2号礫群など。
- ②中央尾根 3～8号石器集中、3・4号礫群。また、石器集中、礫群とは別に中央尾根の南斜面に石器が散在する他、遺物を伴わない炭化物集中（5～8号炭化物集中）が分布する。
- ③西支谷 9～13号石器集中、5～7号礫群、1～4号炭化物集中など。
- ④西尾根 8・9号礫群など。

表4 第XIV文化層 石器組成

	ナイフ形石器	搔器	削器	楔形石器	二次加工剥片	石刃	剥片	碎片	石核	敲石	計
黒曜石	和田土屋橋北						1(1)				1(1)
	和田土屋橋南						1				1
	諏訪星ヶ台	2					2				4
	蓼科冷山								1		1
	箱根畑宿			1			2				3
	天城柏峠	3	1		7	2	60(7)	11	4		88(7)
	神津島恩馳島						1				1
	産地不明						4	14			18
	黒曜石計	5	1	1	7	2	71(8)	25	5		117(8)
ガラス質黒色安山岩	2					1	2	2		7	
ホルンフェルス			1		1	5(1)	35	13	1	56(1)	
輝石安山岩									3	3	
中粒砂岩									2	2	
計	7	1	2	7	3	5(1)	107(8)	40	8	5	185(9)

括弧内は全体数の内、微細剥離痕のあるものの点数。



第16図 第XIV文化層遺物分布

遺物は中央尾根と西支谷とに比較的まとまっている。全般的に石器群の規模が小さく、個々の石器集中中は10数点以下の石器から成るものが多い。文化層全体の石材組成は天城柏峠産黒曜石、ホルンフェルスが主体で、ガラス質黒色安山岩、信州産黒曜石などが少数伴うが、これは主として中央尾根や西支谷の石器群における石材組成を反映したものである。

こうした小規模な石器群が地点ごとに残されているとともに、炭化物集中を始めとして炭化物を伴う遺構が多かった点がこの文化層の特徴である。

### 1. 北尾根の遺物群

#### (1) 遺物の分布 (第17・18図)

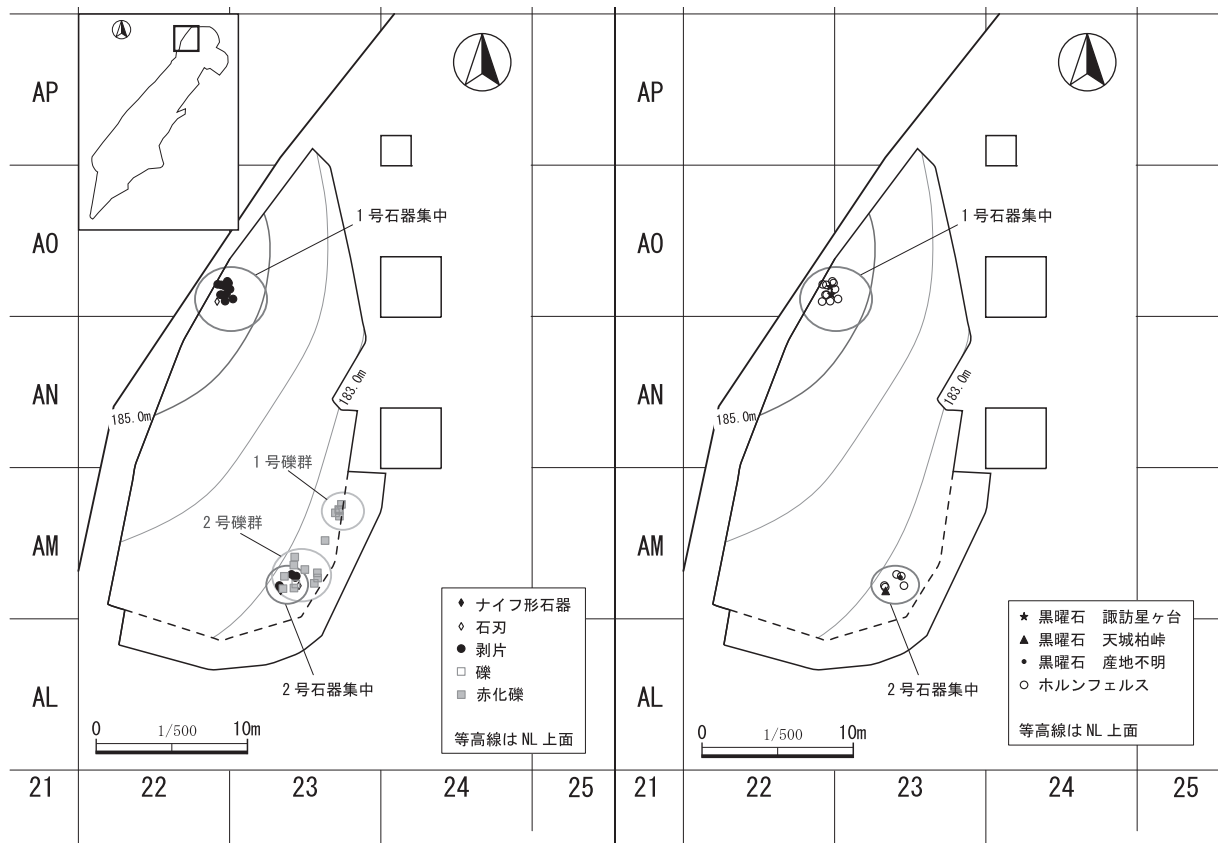
石器19点、礫16点、及び少量の炭化物が出土した (表5・8)。AO-22グリッドに1号石器集中、その南方約20m、AM-23グリッドに2号石器集中、1・2号礫群が分布する。いずれも出土層位は第I黒色帯下部にまとまっている。近接して第XV文化層の遺物が分布するが、出土層位に僅かながら上下差を認めることができたため異なる文化層に分離した。

#### 1号石器集中 (第19・20図、表6)

AO-22グリッド南東部を中心に出土した石器12点から成る。この地点では第I黒色帯が10数cmしかないが、第I黒色帯下部にまとまるものと見られる。炭化物試料が2点採取されており、そのうち1点について放射性炭素年代測定により25,020±90BPの年代が得られた。石器は全て剥片類であり、石材はホルンフェルス主体で信州産黒曜石の小型剥片が2点伴う。

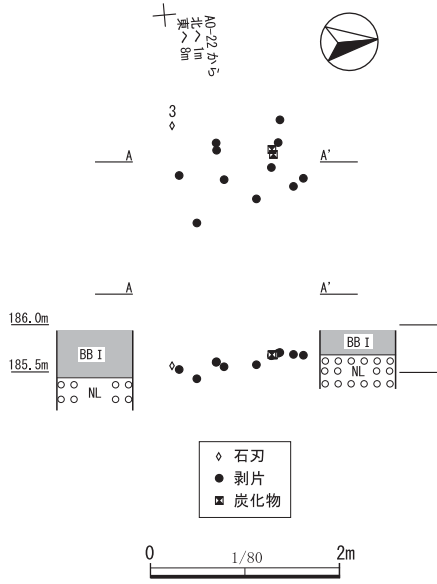
#### 2号石器集中 (第21・22図、表7)

AM-23グリッド南部から出土した石器7点から成る。第I黒色帯下部にほぼ面的にまとまっており、2号礫群と重複する。石器は天城柏峠産黒曜石製のナイフ形石器1点以外は剥片類で、石材はホルンフェ

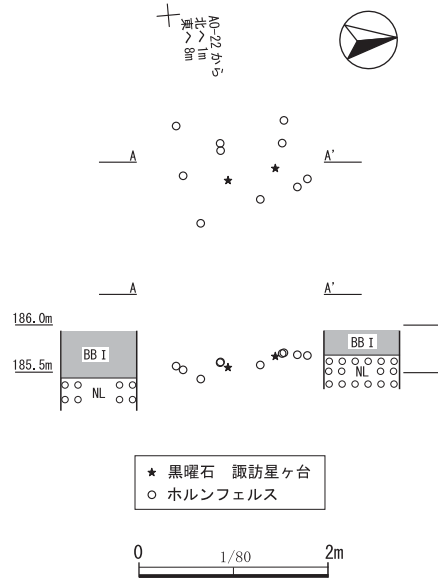


第17図 第XIV文化層北尾根 器種別分布

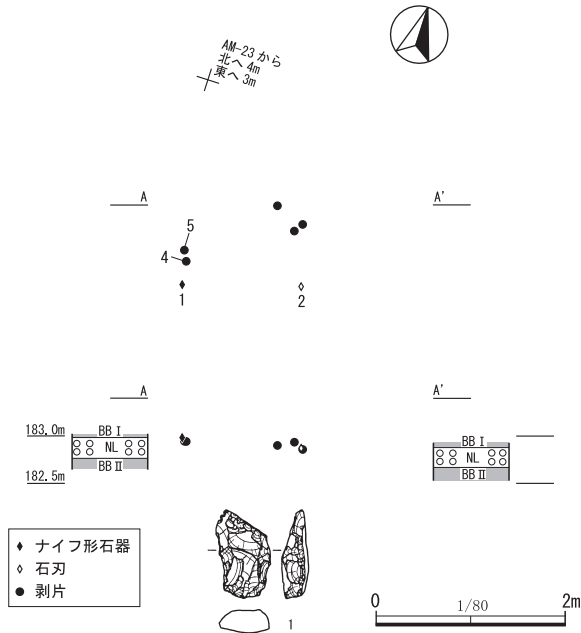
第18図 第XIV文化層北尾根 石材別分布



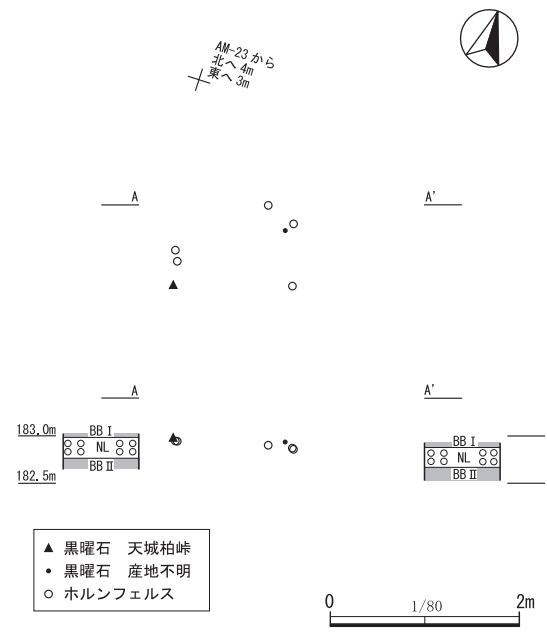
第19図 第XIV文化層1号石器集中 器種別分布



第20図 第XIV文化層1号石器集中 石材別分布



第21図 第XIV文化層2号石器集中 器種別分布



第22図 第XIV文化層2号石器集中 石材別分布

表5 第XIV文化層北尾根 石器組成

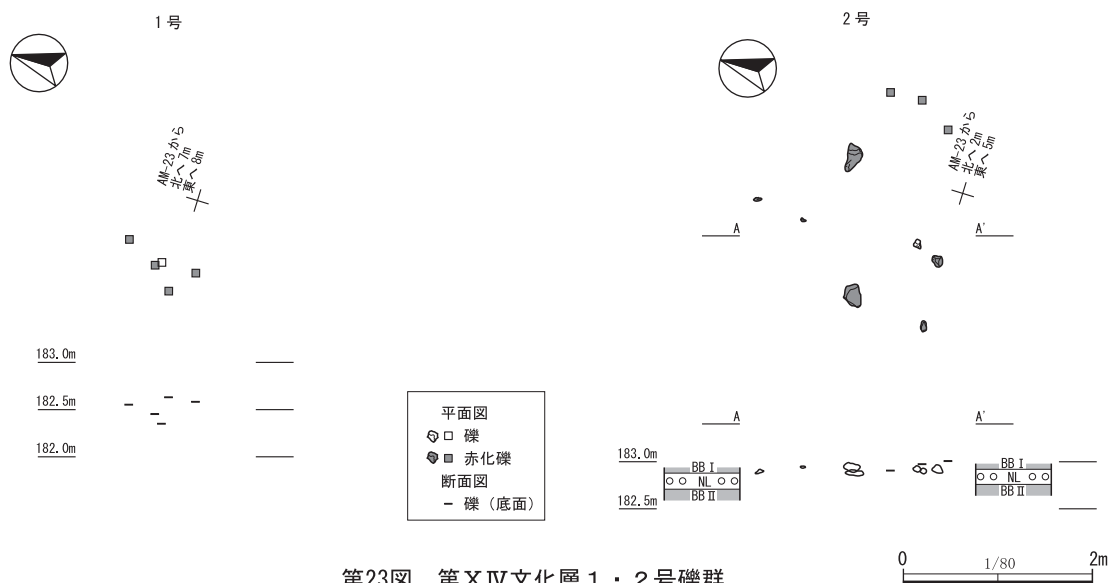
		ナイフ形石器	石刃	剥片	計
黒曜石	諏訪星ヶ台			2	2
	天城柏峠	1			1
	産地不明			1	1
	黒曜石計	1		3	4
ホルンフェルス			2	13	15
計		1	2	16	19

表6 第XIV文化層1号石器集中 石器組成

		石刃	剥片	計
黒曜石	諏訪星ヶ台		2	2
	ホルンフェルス	1	9	10
計		1	11	12

表7 第XIV文化層2号石器集中 石器組成

		ナイフ形石器	石刃	剥片	計
黒曜石	天城柏峠	1			1
	産地不明			1	1
	黒曜石計	1		1	2
ホルンフェルス			1	4	5
計		1	1	5	7



第23図 第XIV文化層1・2号礫群

表8 第XIV文化層北尾根 礫群属性

礫群 番号	構成 礫数	赤化				形態		石材			
		完形		非完形		垂円	垂角	安 山 石	安 山 石	玄 武 岩	玄 武 岩
		非赤化	赤化	赤化1	赤化2						
1号	5	1	1		3	1	4	2	1	1	1
2号	10	1	5	3	1	5	5	3		5	2
遺構外	1		1				1			1	

赤化1：全面が赤化 赤化2：礫の外皮のみ赤化

ルス主体である。

1号礫群（第23図、表8）

AM-23グリッド東部で出土した礫5点から成り、うち4点に被熱の痕跡が認められた。被熱の痕跡がない1点は長径27.3cm・重量4.1kgの大型垂角礫で、その他は長径6～7cmであり、全体の平均は長径10.8cm・重量0.90kgである。出土礫の底面には最大約30cmの標高差があるが、調査時の記録によると取り上げ層位は全て第I黒色帯である。

2号礫群（第23図、表8）

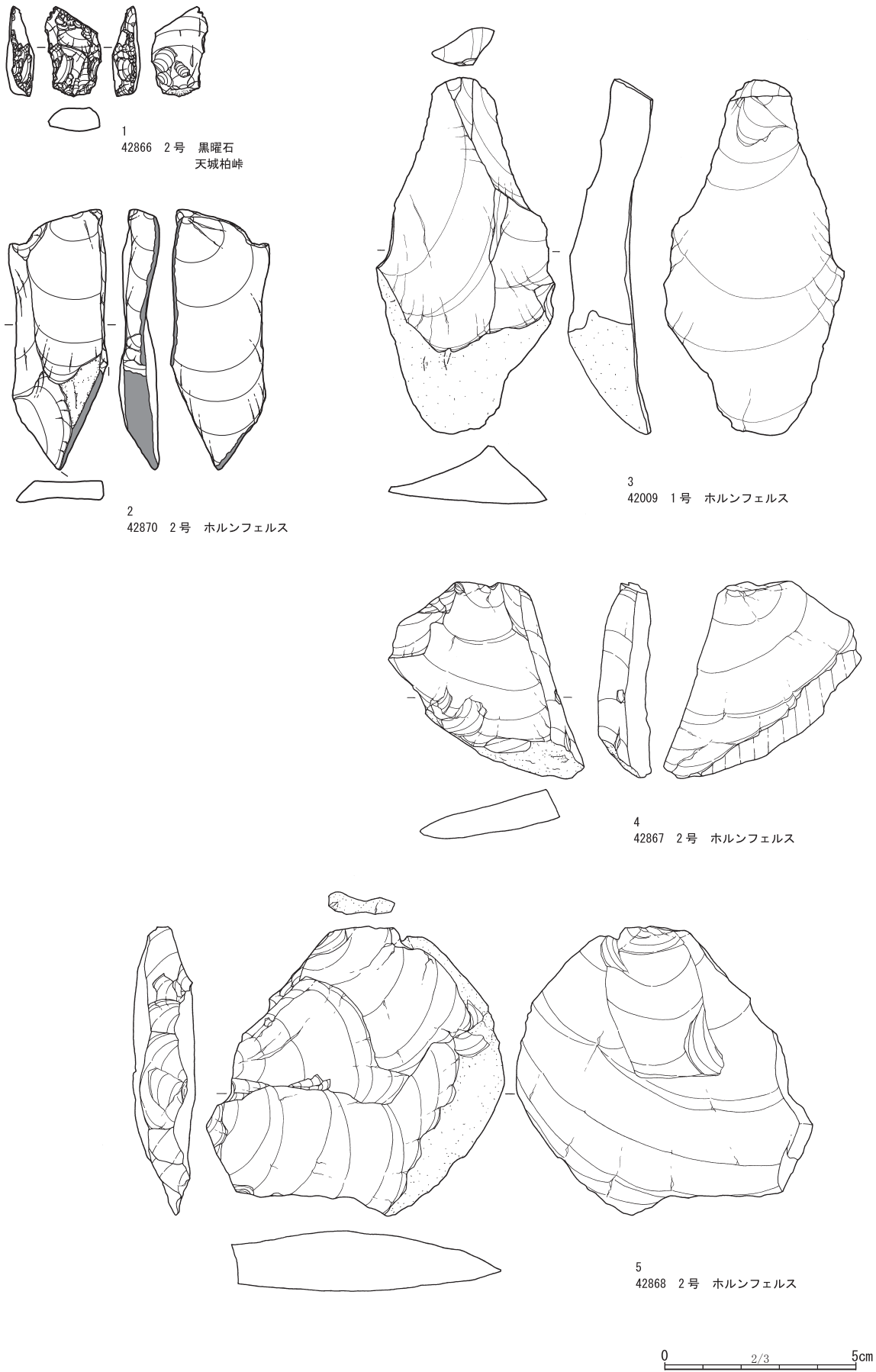
AM-23グリッド南部から出土した礫10点から成り、うち9点に被熱の痕跡が認められた。礫は平均で長径12.6cm・重量0.97kgで、長径25.0cm・重量4.3kg及び長径29.0cm・重量2.7kgの大型垂角礫2点を中心として、径10cm前後の礫が約2mの範囲にまばらに分布する。調査時の記録によると全て第I黒色帯である。

(2) 出土石器（第24図）

北尾根の石器は全て1・2号石器集中の範囲から出土した。

ナイフ形石器（1）

1点出土した。天城柏峠産黒曜石製で礫打面をもち、末端に石核底面を取り込んだ剥片素材で、両側縁を加工している。先端部に石核底面であった平坦面を残し、鋭利な縁辺は僅かな範囲のみとなっている。



第24図 第XIV文化層北尾根 石器集中



## 石刃・剥片類（2～5）

ホルンフェルス製のものは15点出土しており、石刃が2点（2・3）、その他は不定形の剥片（4・5）である。5は左側面に見られる剥離痕から判断して、石核の打面再生剥片の可能性がある。他に黒曜石製の小型剥片が3点あり、分析不可資料も含め全て信州産と見られる。

## 2. 中央尾根の遺物群

### （1）遺物の分布（第25・26図）

石器86点、礫38点が出土した（表9・16）。中央尾根の東側にあたるY～AB-19～22グリッドに3～8号石器集中、3・4号礫群が分布する。これらは径30m程度の範囲にまとまっているが、接合関係は石器集中・礫群内で完結し、石器石材では7・8号石器集中が天城柏峠産黒曜石主体、5号石器集中がガラス質黒色安山岩主体と異なっているなど、石器群の出土位置関係以外にこれらをまとめる関係性は希薄であると言える。この他、中央尾根の西側にも石器が散在する。また南側のT・S-16～18グリッドに5～8号炭化物集中が分布している。

### 3号石器集中（第27・28図、表10）

AB-20グリッド南部から出土した石器4点から成る。出土層位は第I黒色帯下部である。石器は天城柏峠産黒曜石製の二次加工剥片、剥片各1点、ホルンフェルス製の剥片2（接合により1）点から成る。

### 4号石器集中（第29・30図、表11）

AA-20・21グリッドから出土した石器3点から成る。出土層位は第I黒色帯である。石器は天城柏峠産黒曜石製の剥片3点から成る。

### 5号石器集中（第31・32図、表12）

AA-22グリッド西部から出土した石器8点から成る。4号礫群と重複し、出土層位は第I黒色帯下部である。ガラス質黒色安山岩製のナイフ形石器2点、剥片類3点、2点に分割された石核がまとまっており、少し離れてホルンフェルス製の剥片1点が出土している。

### 6号石器集中（第33・34図、表13）

AA-19グリッド南部から出土した石器5点から成る。3号礫群と重複し、出土層位は第I黒色帯である。石器は箱根畑宿産黒曜石2点、諏訪星ヶ台産黒曜石1点、ホルンフェルス2点と中央尾根の石器群では比較的少ない石材がまとまっており、ナイフ形石器1点、削器1点を含む。

### 7号石器集中（第35・36図、表14）

Z-20グリッド南部から出土した石器40点から成る。出土層位は第I黒色帯である。炭化材試料が2点採取されており、そのうち1点について放射性炭素年代測定により $24,680 \pm 90$ BPの年代が得られた。石器は剥片21（接合により19）点、石核3点を含む天城柏峠産黒曜石が主体である。この他剥片類ではホルンフェルス、和田土屋橋南産黒曜石が少数ある。また、輝石安山岩製敲石3点、中粒砂岩製敲石2（接合により1）点が伴う。

### 8号石器集中（第37・38図、表15）

Z-20グリッド東部から出土した石器14点から成る。出土層位は第I黒色帯である。天城柏峠産黒曜石製石器で構成され、西に隣接する7号石器集中と関連性が強い。石器はナイフ形石器、石核各1点の他は剥片類である。

### 3号礫群（第39図、表16）

AA-19グリッド南部から出土した被熱礫26点から成り、破碎礫の割合が多い。ほとんどの礫が径1mの範囲に密集する。礫は長径27.9cm・重量0.89kgの垂角礫が最大で、平均は長径11.5cm・重量0.32kgである。出土層位は第I黒色帯である。

表9 第XIV文化層中央尾根 石器組成

		ナイフ形石器	削器	二次加工剥片	石刃	剥片	碎片	石核	敲石	計
黒曜石	和田土屋橋南					1				1
	諏訪星ヶ台	2								2
	箱根畑宿		1			2				3
	天城柏峠	1		1		37(4)		4		43(4)
	神津島恩馳島					1				1
	産地不明					3	7			10
	黒曜石計	3	1	1		44(4)	7	4		60(4)
ガラス質黒色安山岩	2				1	2	2		7	
ホルンフェルス					3(1)	10	1		14(1)	
輝石安山岩								3	3	
中粒砂岩								2	2	
計		5	1	1	3(1)	55(4)	10	6	5	86(5)

括弧内は全体数の内、微細剥離痕のあるものの点数。

表10 第XIV文化層  
3号石器集中 石器組成

		二次加工剥片	剥片	計
黒曜石	天城柏峠	1	1	2
	ホルンフェルス		2	2
計		1	3	4

表11 第XIV文化層  
4号石器集中 石器組成

		剥片	計
黒曜石	天城柏峠	3	3
計		3	3

表12 第XIV文化層5号石器集中 石器組成

		ナイフ形石器	剥片	碎片	石核	計
	ガラス質黒色安山岩	2	1	2	2	7
	ホルンフェルス		1			1
計		2	2	2	2	8

表13 第XIV文化層6号石器集中 石器組成

		ナイフ形石器	削器	石刃	剥片	計
黒曜石	諏訪星ヶ台	1				1
	箱根畑宿		1		1	2
	黒曜石計	1	1		1	3
	ホルンフェルス			1	1	2
計		1	1	1	2	5

表14 第XIV文化層7号石器集中 石器組成

		石刃	剥片	碎片	石核	敲石	計
黒曜石	和田土屋橋南		1				1
	天城柏峠		21(1)		3		24(1)
	産地不明		3	5			8
	黒曜石計		25(1)	5	3		33(1)
	ホルンフェルス	1		1			2
	輝石安山岩					3	3
	中粒砂岩					2	2
計		1	25(1)	6	3	5	40(1)

括弧内は全体数の内、微細剥離痕のあるものの点数。

表15 第XIV文化層8号石器集中 石器組成

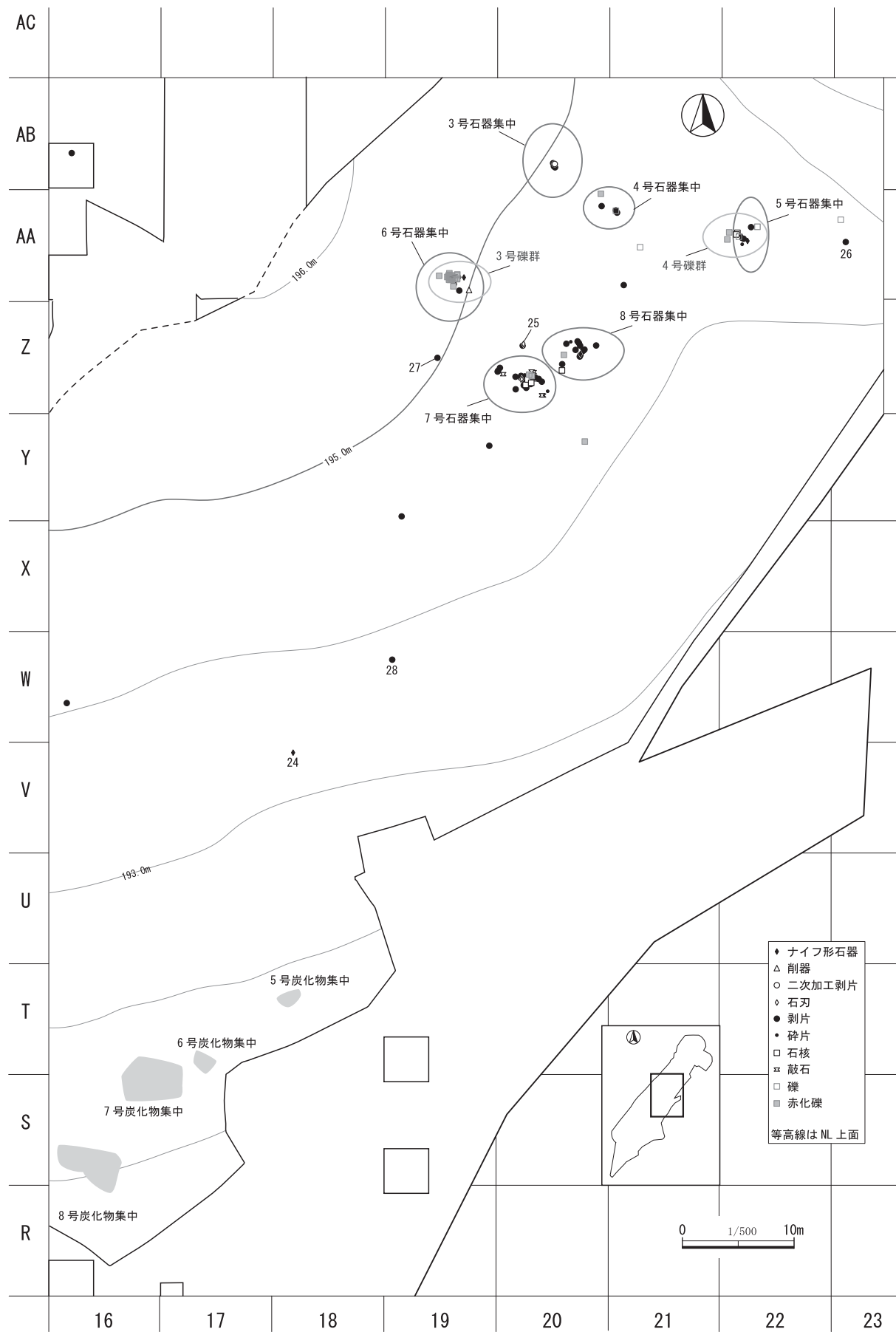
		ナイフ形石器	剥片	碎片	石核	計
黒曜石	天城柏峠	1	11(2)		1	13(2)
	産地不明			1		1
計		1	11(2)	1	1	14(2)

括弧内は全体数の内、微細剥離痕のあるものの点数。

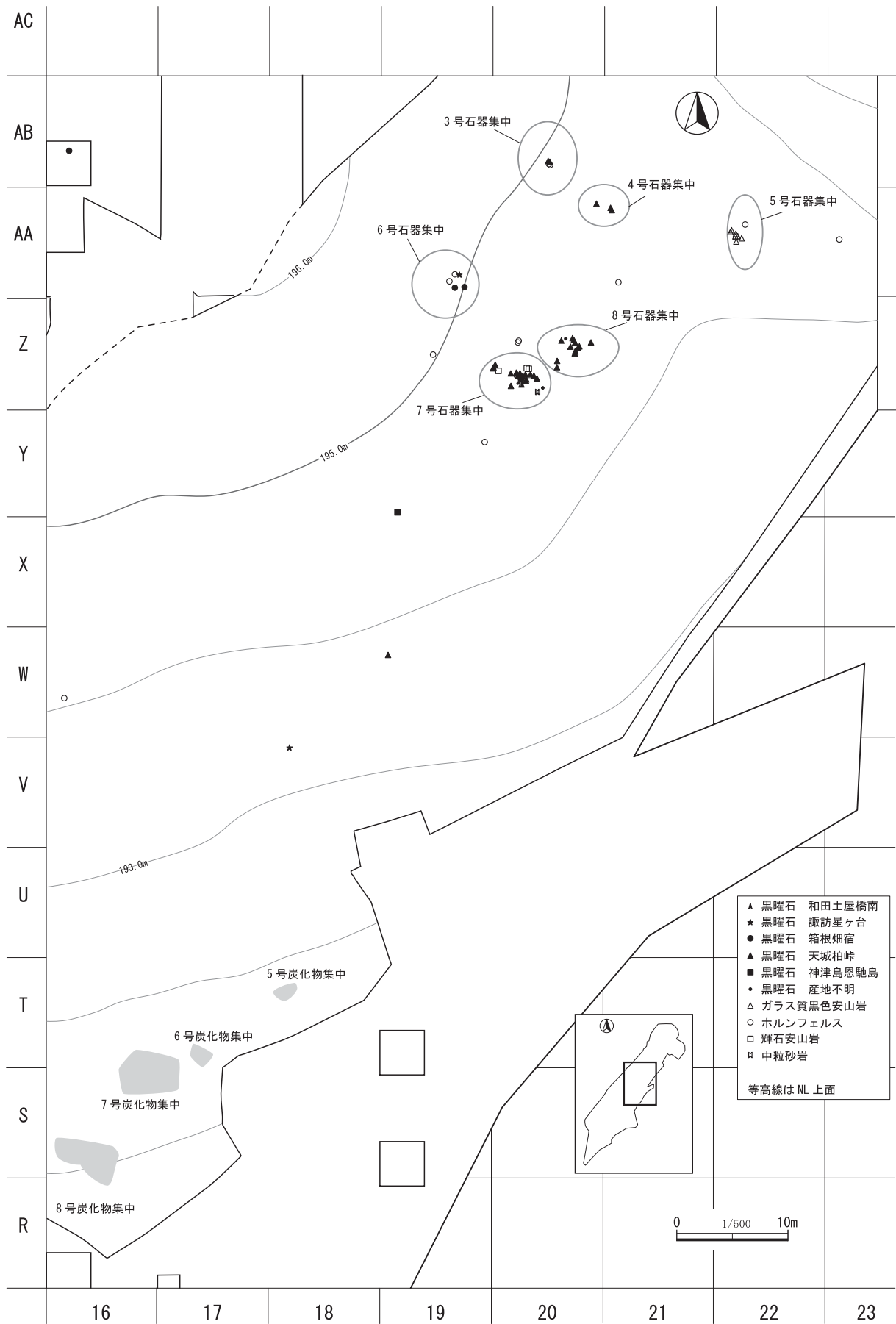
表16 第XIV文化層中央尾根 礫群属性

礫群番号	構成礫数	赤化					形態			石材				
		完形		非完形			垂角	垂円	円	安山岩	輝石安山岩	多孔質	玄武岩	多孔質
		非赤化	赤化	非赤化	赤化1	赤化2								
3号	26		5		16	5	25	1			4		20	2
4号	4	1	1	1		1	2	1	1		2	2		
遺構外	8	2	4	1	1		7	1			1	2		5

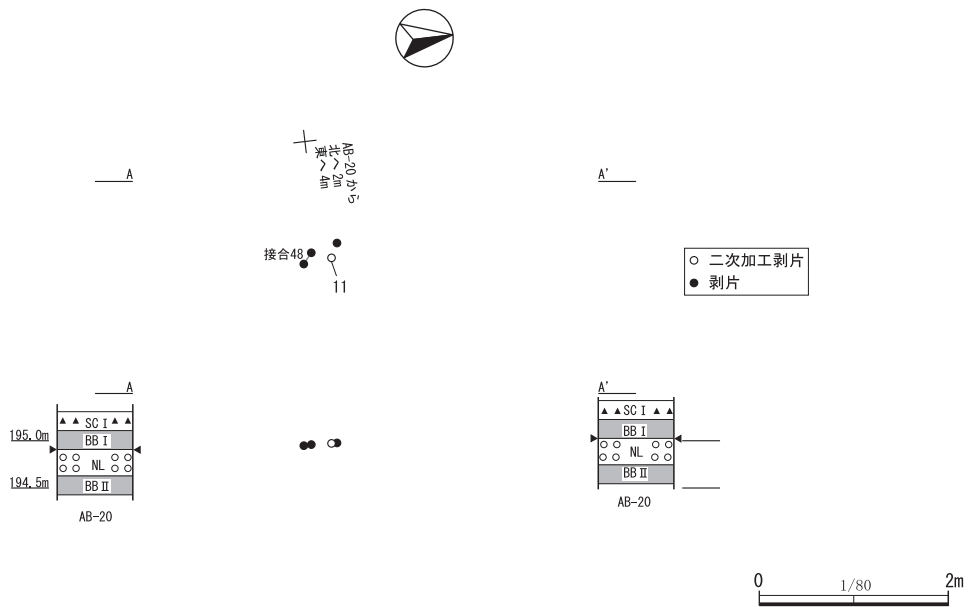
赤化1：全面が赤化 赤化2：礫の外皮のみ赤化



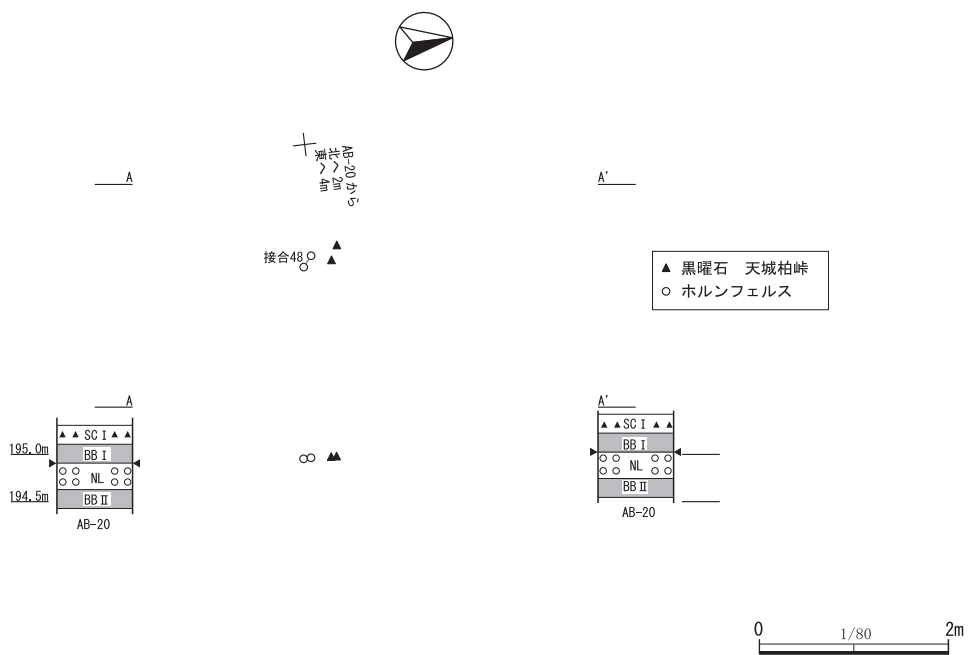
第25図 第XIV文化層中央尾根 器種別分布



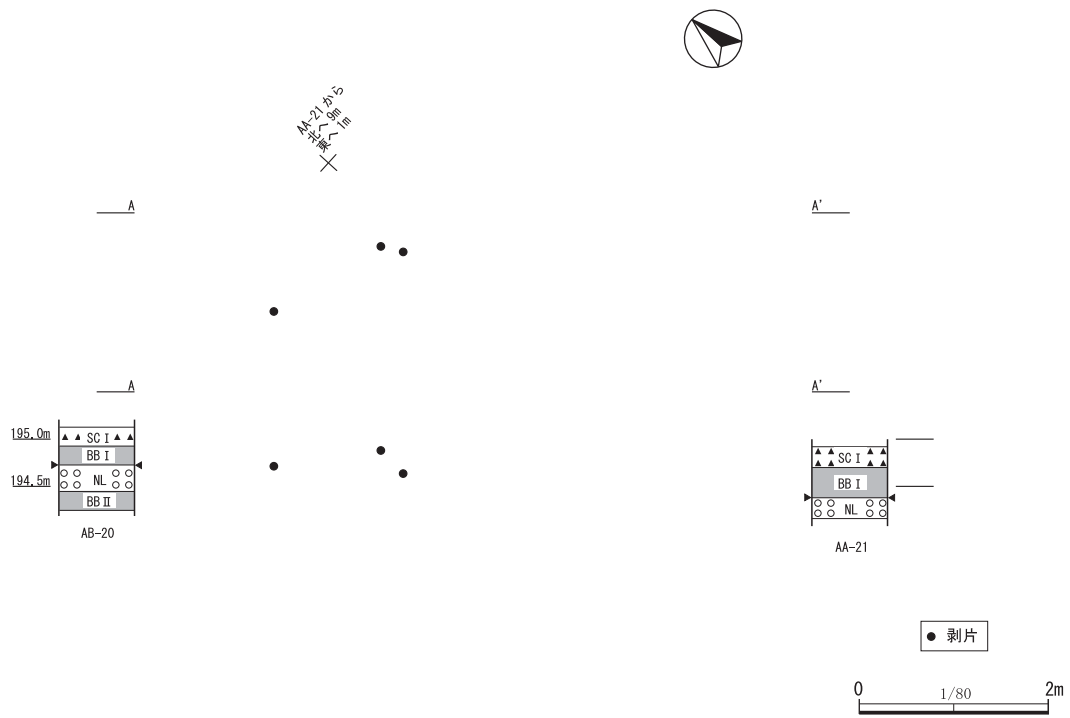
第26図 第XIV文化層中央尾根 石材別分布



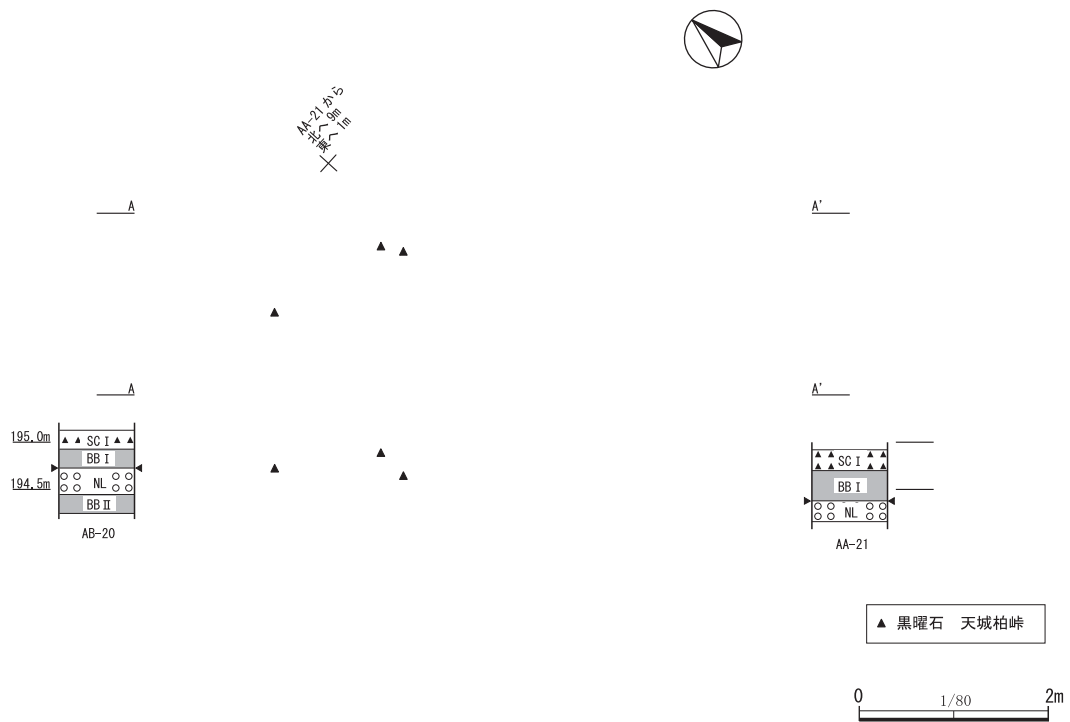
第27図 第XIV文化層3号石器集中 器種別分布



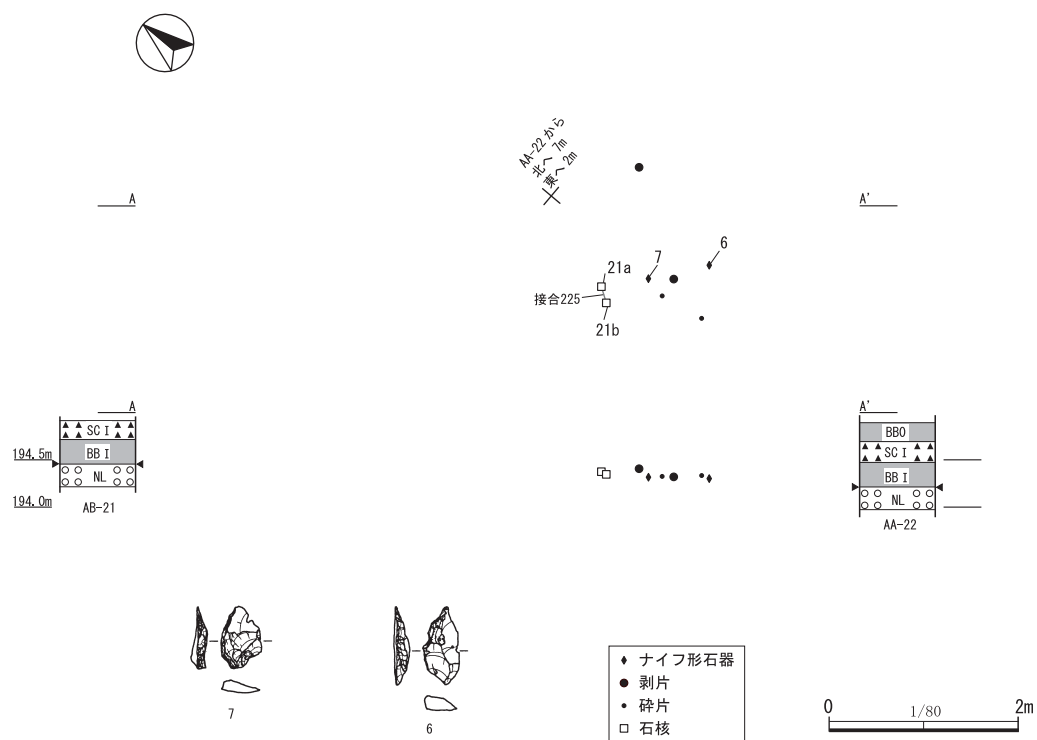
第28図 第XIV文化層3号石器集中 石材別分布



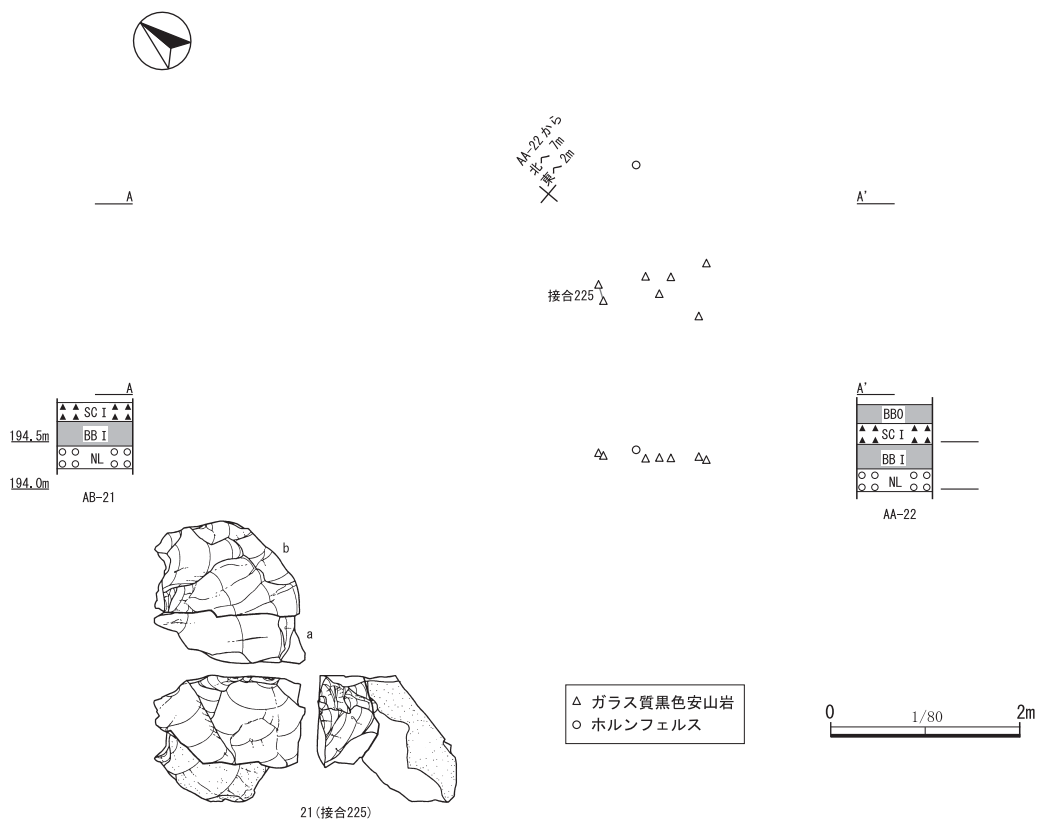
第29図 第XIV文化層4号石器集中 器種別分布



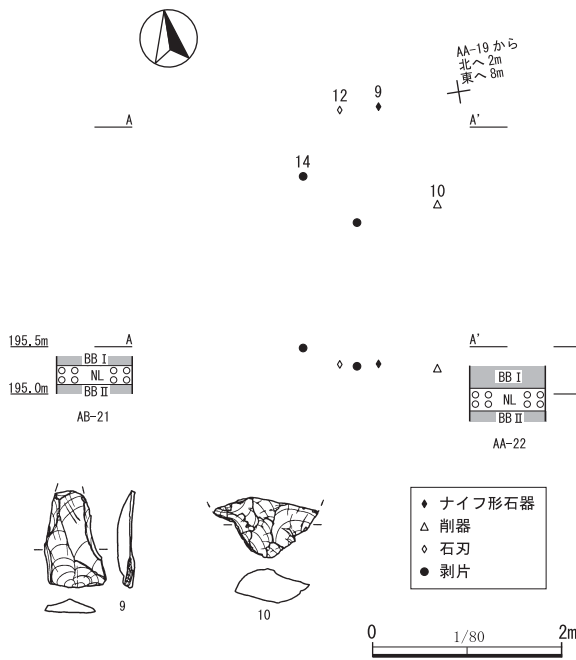
第30図 第XIV文化層4号石器集中 石材別分布



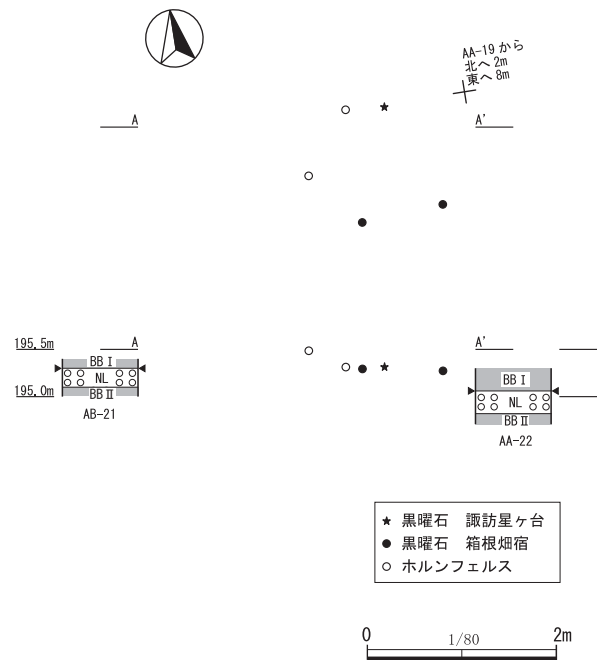
第31図 第XIV文化層5号石器集中 器種別分布



第32図 第XIV文化層5号石器集中 石材別分布



第33図 第XIV文化層6号石器集中 器種別分布



第34図 第XIV文化層6号石器集中 石材別分布

4号礫群 (第39図、表16)

AA-22グリッド東部から出土した礫4点から成り、うち2点に被熱の痕跡が認められた。構成礫は長径17.6cm・重量1.5kgの亜円礫を始め、平均長径15.2cm・重量1.0kgと比較的大型である。出土層位は第I黒色帯である。

5号炭化物集中 (第40図)

T-18グリッドで検出された。炭化物試料6点が採取され、そのうち1点について放射性炭素年代測定により24,670±90BP (142-43)の年代値が得られた。

6号炭化物集中 (第41図)

T-17グリッドで検出された。炭化物試料3点が採取され、そのうち1点について放射性炭素年代測定により25,090±100BP (142-45)の年代値が得られた。

7号炭化物集中 (第42図)

S-16グリッド北東側で検出された。炭化物試料8点が採取され、そのうち1点について放射性炭素年代測定により1,820±30BP (142-46)の年代値が得られた。

8号炭化物集中 (第43図)

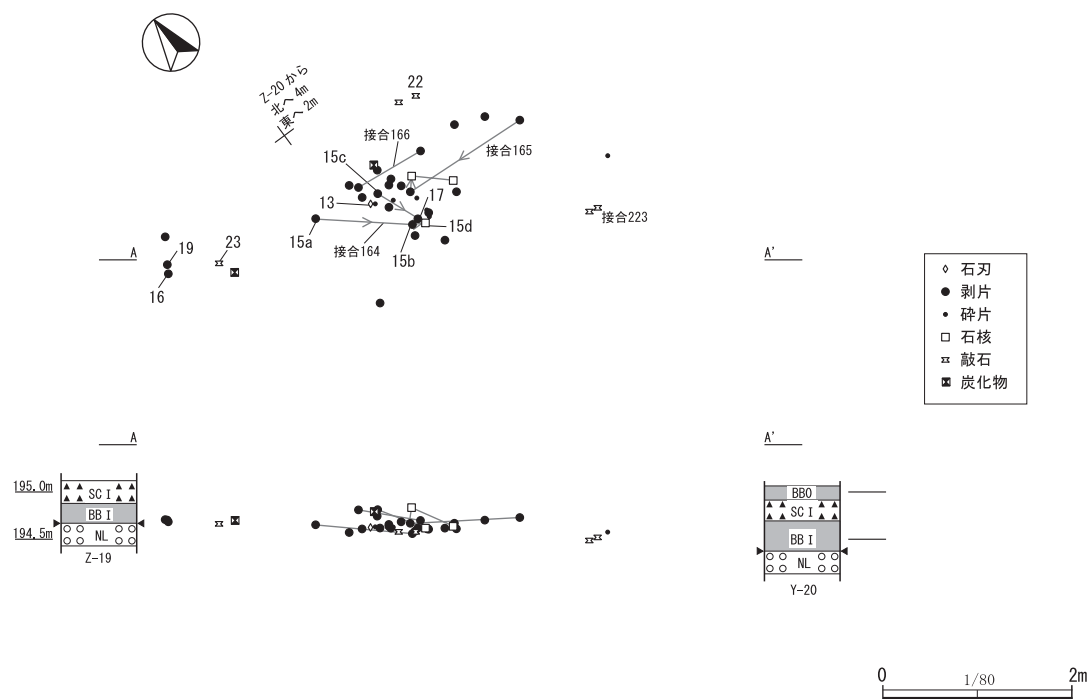
S-16グリッド南西側で検出された。炭化物試料3点が採取され、そのうち1点について放射性炭素年代測定により26,030±110BP (142-47)の年代値が得られた。

(2) 3～8号石器集中の出土石器 (第44～46図)

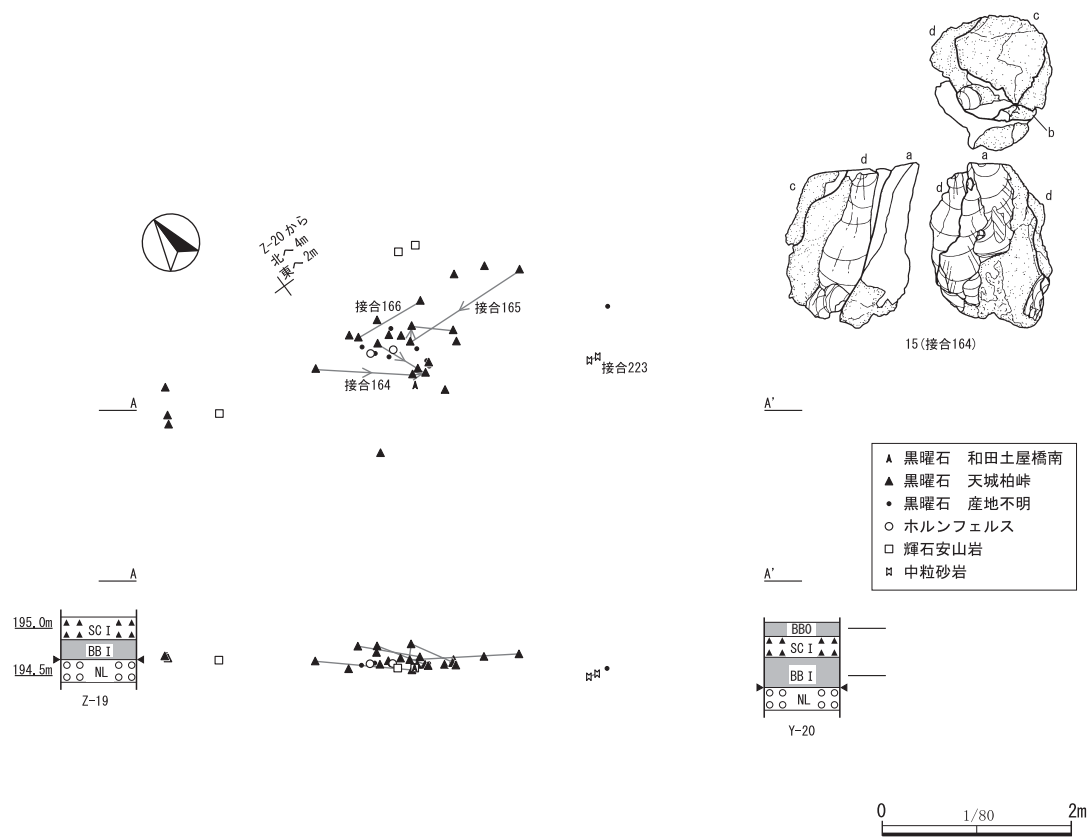
ナイフ形石器 (6～9)

4点出土した。6・7はガラス質黒色安山岩製で、小型の縦長剥片の一侧縁に背部加工したものである。8は天城柏峠産黒曜石製で、幅広剥片を横位に用い、打面側の縁辺を二次加工したものである。9は諏訪星ヶ台産黒曜石製で、縦長剥片の右側縁基部に二次加工したものである。

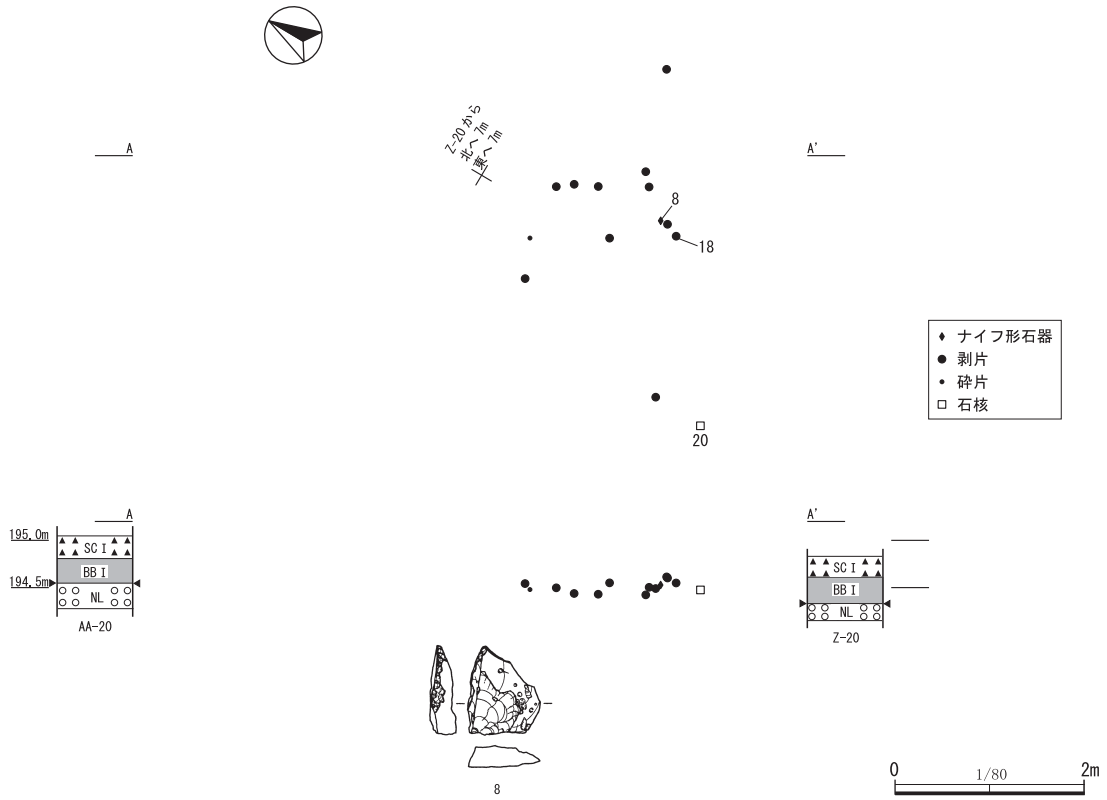




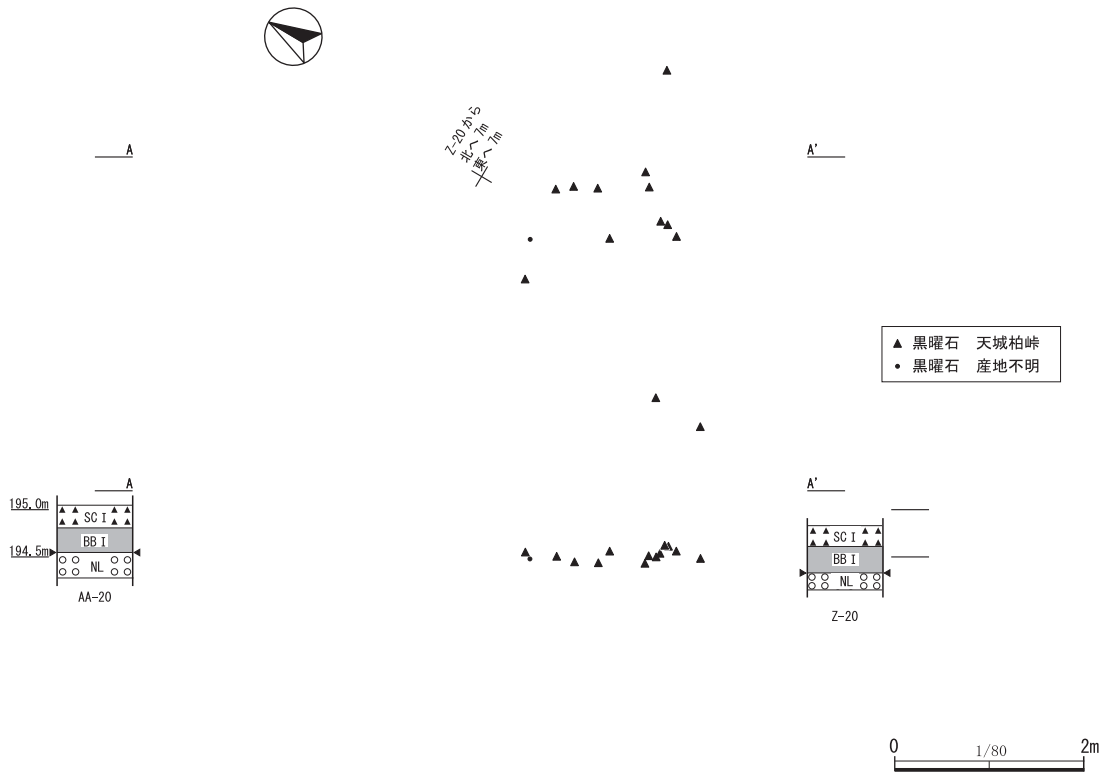
第35図 第XIV文化層7号石器集中 器種別分布



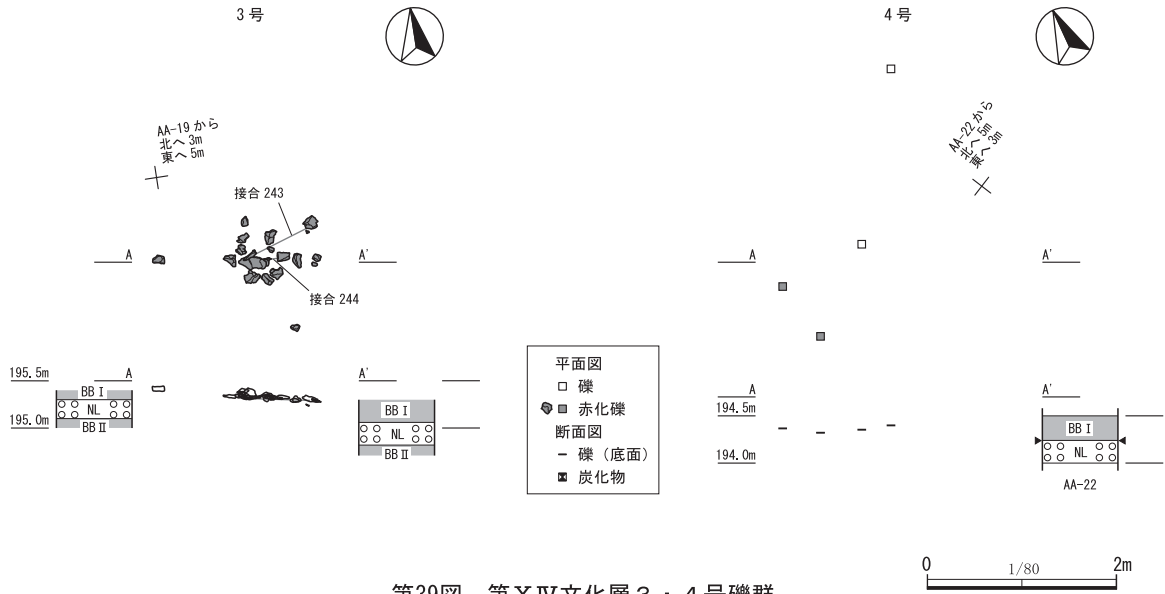
第36図 第XIV文化層7号石器集中 石材別分布



第37図 第XIV文化層8号石器集中 器種別分布



第38図 第XIV文化層8号石器集中 石材別分布



第39図 第XIV文化層3・4号礫群

削器 (10) ・二次加工剥片 (11)

各1点出土した。10は箱根畑宿産黒曜石製の削器の破片で、左側縁にやや内湾する急斜度加工の刃部を設けている。11は天城柏峠産黒曜石製の二次加工剥片で、素材剥片の打面部周辺に二次加工が成されている。

剥片類・石核 (12~21)

石刃2点、剥片・碎片55点、石核6点が出土した。12~14はホルンフェルス製の資料である。12・13は厚手・甲高の石刃で両設打面石核からの剥離を示す。14は縦長剥片で、石刃に近い形状だが背面剥離痕は多方向の剥離を示す。15~20は天城柏峠産黒曜石製の資料である。15（接合資料164）は角礫からの剥片剥離を示す資料で、打面を固定し同一方向へ連続して剥離が行われている。16~19は剥片で、背面に角礫面を残すものが多い。20は石核で、角礫から縦長剥片が剥離されている。21（接合資料225）はガラス質黒色安山岩製の資料で、打面転移を繰り返して上・左・正面から剥離が行われた石核が3つ以上に分割されており、その内2点が接合している。

敲石 (22・23)

5（接合により4）点出土した。図示した2点は輝石安山岩製で、22は細長い垂円礫の一端に、23は円礫の2箇所に敲打痕が認められる。

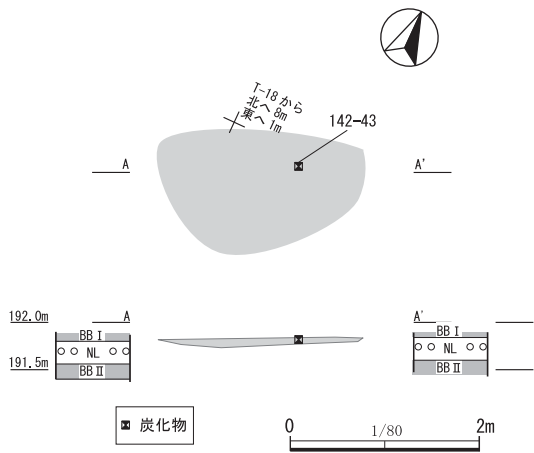
(3) 石器集中外の出土石器 (第47図)

ナイフ形石器 (24)

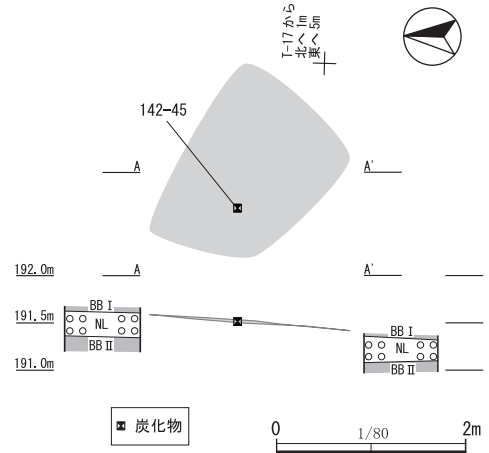
1点出土した。諏訪星ヶ台産黒曜石製で、先端側は素材剥片縁辺を残して基部側は左側縁を加工し、その他は素材剥片の打面・側面をほぼ残して菱形の平面形にしている。

剥片類 (25~28)

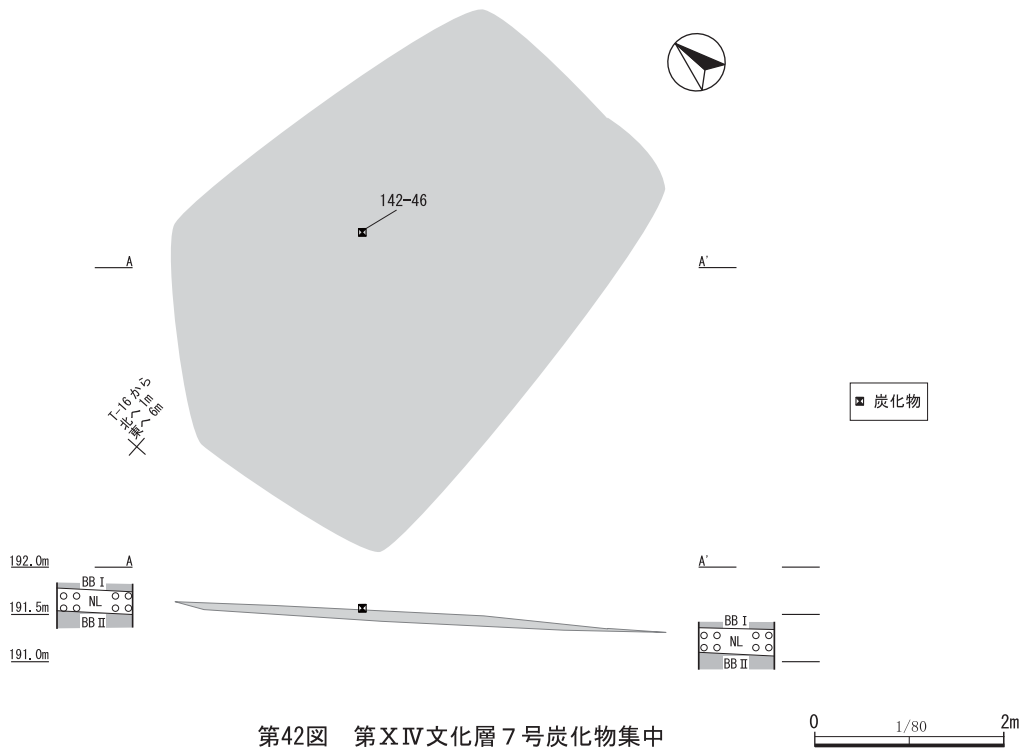
石刃1点、剥片・碎片10点が出土した。25~27はホルンフェルス製で、石器集中の分布域周辺で出土した。25は単剥離打面の石刃、26は縦長剥片で左側縁腹面側に剥離痕が認められ、27は寸詰まりの剥片で末端は節理面となっている。28は天城柏峠産黒曜石製の剥片で小型だが微細剥離痕が認められる。



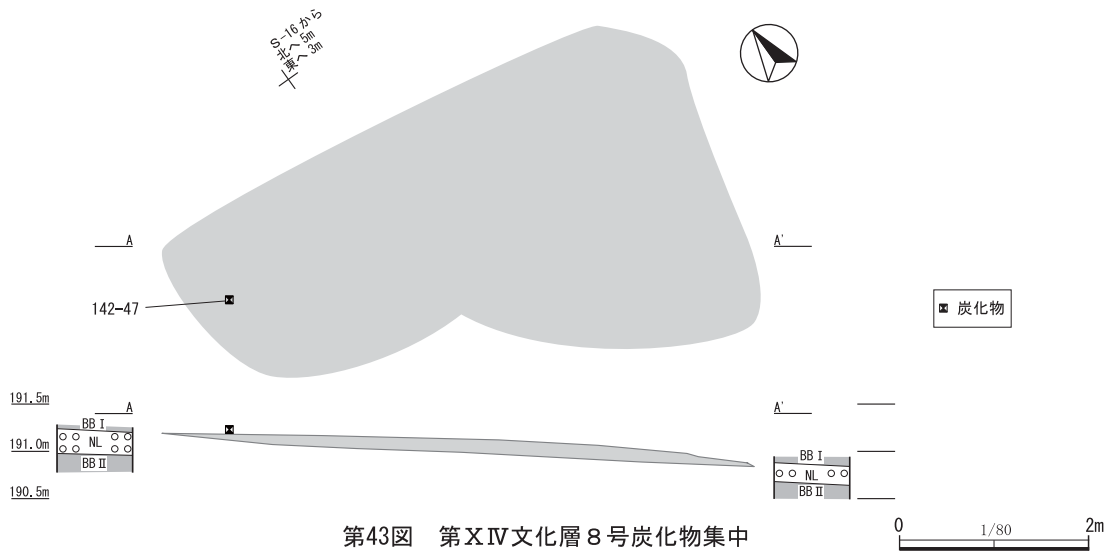
第40図 第XIV文化層5号炭化物集中



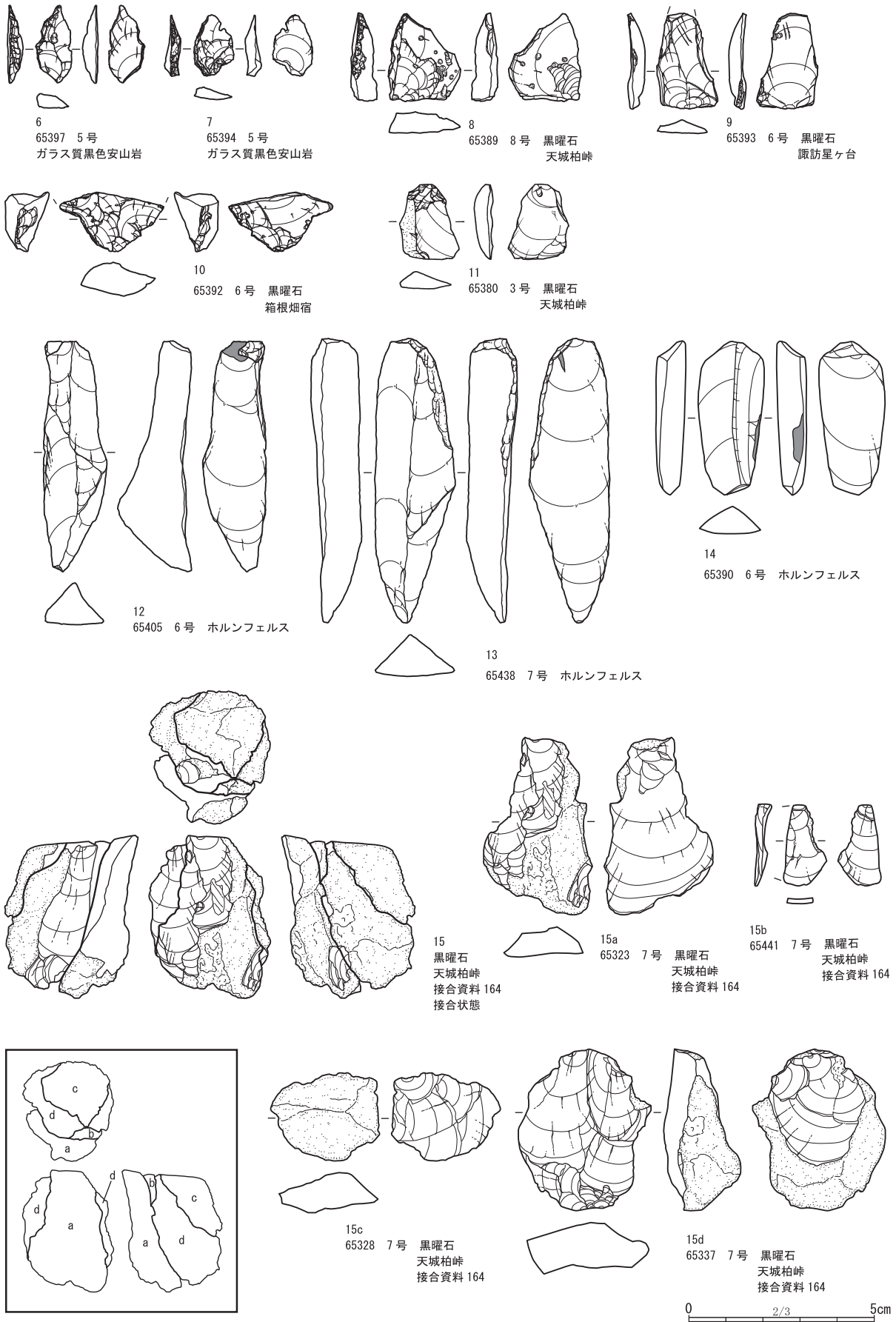
第41図 第XIV文化層6号炭化物集中



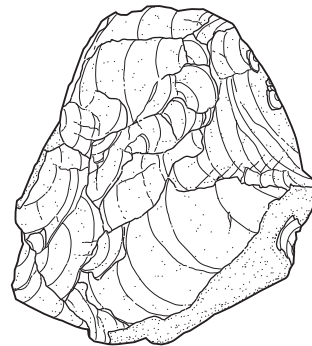
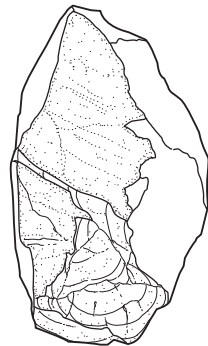
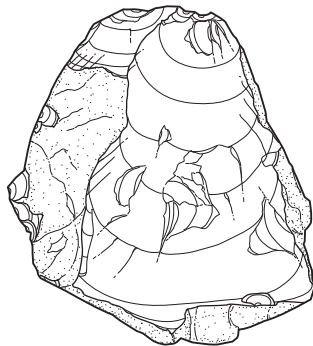
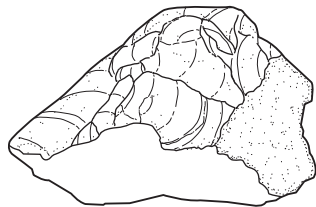
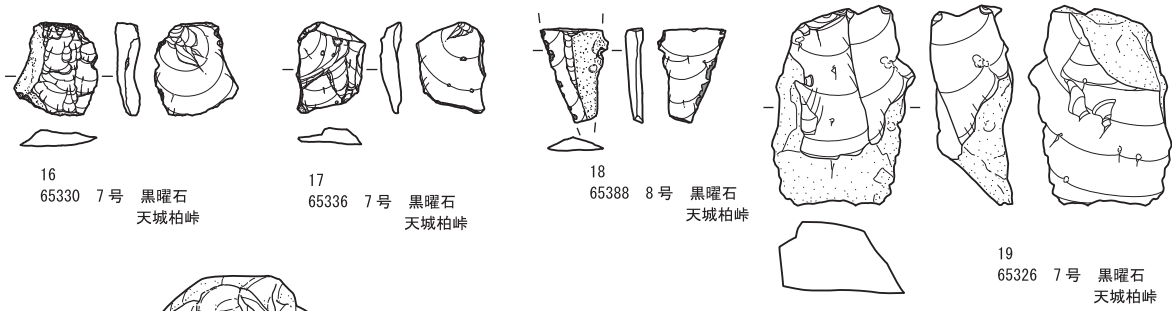
第42図 第XIV文化層7号炭化物集中



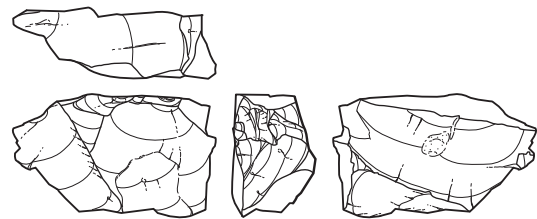
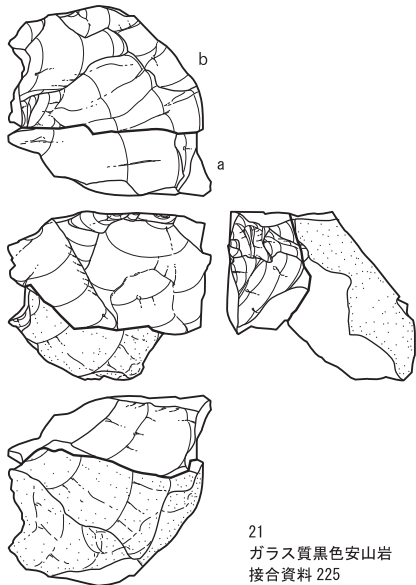
第43図 第XIV文化層8号炭化物集中



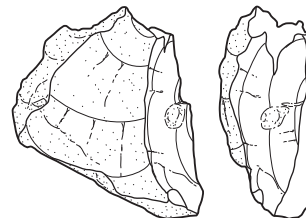
第44図 第XIV文化層中央尾根 石器集中(1)



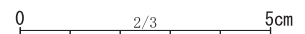
20  
65356 8号 黒曜石  
天城柏峠



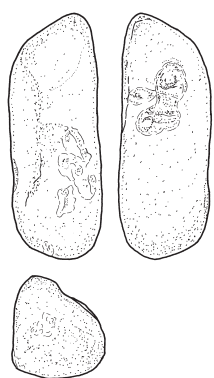
21a  
65336 5号 ガラス質黒色安山岩  
接合資料 225



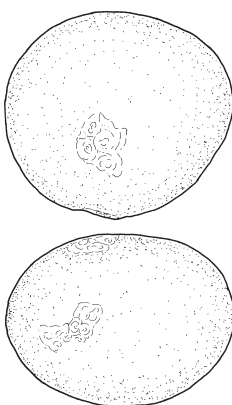
21b  
65387 5号 ガラス質黒色安山岩  
接合資料 225



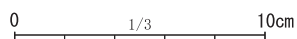
第45図 第XIV文化層中央尾根 石器集中(2)



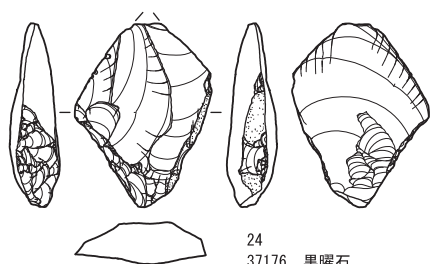
22  
65435 7号 輝石安山岩



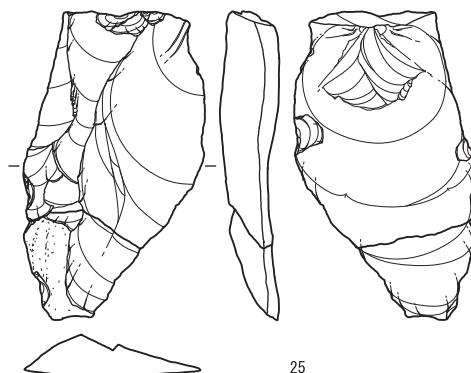
23  
65437 7号 輝石安山岩



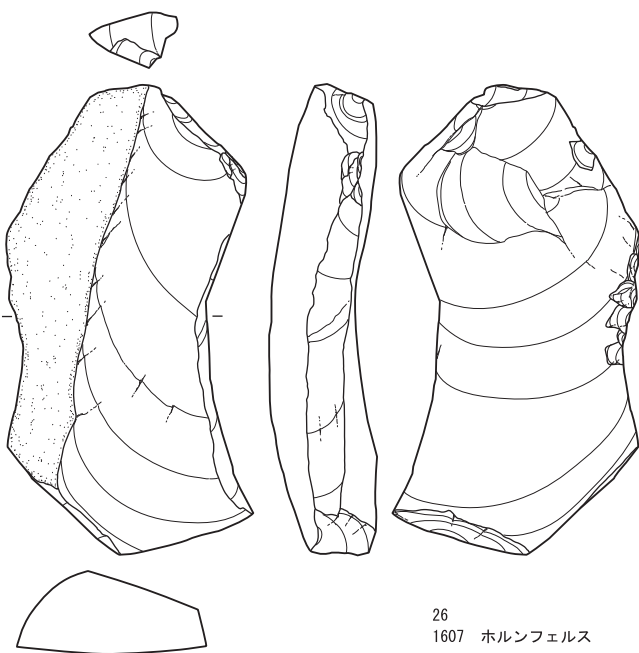
第46図 第XIV文化層中央尾根 石器集中(3)



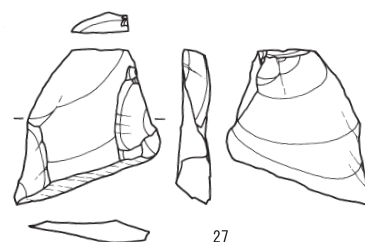
24  
37176 黒曜石  
諏訪星ヶ台



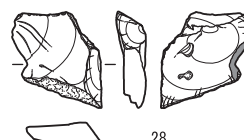
25  
65364 ホルンフェルス



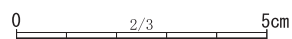
26  
1607 ホルンフェルス



27  
65365 ホルンフェルス



28  
37175 黒曜石  
天城柏峠



第47図 第XIV文化層中央尾根 石器集中外

3. 西支谷の遺物群

(1) 遺物の分布 (第48・49図)

石器79点、礫26点が出土した(表17・23)。U~W-12グリッド周辺に9~13号石器集中、5~7号礫群が分布し、またこれらの遺物群と重複する広い範囲に炭化物が分布しており、1~4号炭化物集中として捉えた。

石器は天城柏峠産黒曜石製とホルンフェルス製とが主体で剥片類も多く出土しているが、接合関係は確認できなかった。石器の大半は9・11・12号石器集中に含まれるが、9号石器集中がホルンフェルス

表17 第XIV文化層西支谷 石器組成

		ナイフ形石器	搔器	削器	楔形石器	二次加工剥片	剥片	碎片	石核	計
黒曜石	蓼科冷山								1	1
	天城柏峠	1	1		7	1	23(3)	11		44(3)
	産地不明							7		7
	黒曜石計	1	1		7	1	23(3)	18	1	52(3)
ホルンフェルス				1		1	12	12	1	27
計		1	1	1	7	2	35(3)	30	2	79(3)

括弧内は全体数の内、微細剥離痕のあるものの点数。

表19 第XIV文化層  
10号石器集中 石器組成

		剥片	石核	計
黒曜石	蓼科冷山		1	1
	天城柏峠	1(1)		1(1)
	黒曜石計	1(1)	1	2(1)
ホルンフェルス		1		1
計		2(1)	1	3(1)

括弧内は全体数の内、微細剥離痕のあるものの点数。

表18 第XIV文化層9号石器集中 石器組成

		削器	楔形石器	二次加工剥片	剥片	碎片	計
黒曜石	天城柏峠		1		3(1)	1	5(1)
	産地不明					1	1
	黒曜石計		1		3(1)	2	6(1)
ホルンフェルス		1		1	3	8	13
計		1	1	1	6(1)	10	19(1)

括弧内は全体数の内、微細剥離痕のあるものの点数。

表20 第XIV文化層11号石器集中 石器組成

		搔器	楔形石器	二次加工剥片	剥片	碎片	計
黒曜石	天城柏峠	1	4	1	9(1)	9	24(1)
	産地不明					6	6
	黒曜石計	1	4	1	9(1)	15	30(1)
ホルンフェルス					1		1
計		1	4	1	10(1)	15	31(1)

括弧内は全体数の内、微細剥離痕のあるものの点数。

表21 第XIV文化層12号石器集中 石器組成

		ナイフ形石器	楔形石器	剥片	碎片	計
黒曜石	天城柏峠	1	1	9	1	12
ホルンフェルス				5	4	9
計		1	1	14	5	21

表22 第XIV文化層13号石器集中 石器組成

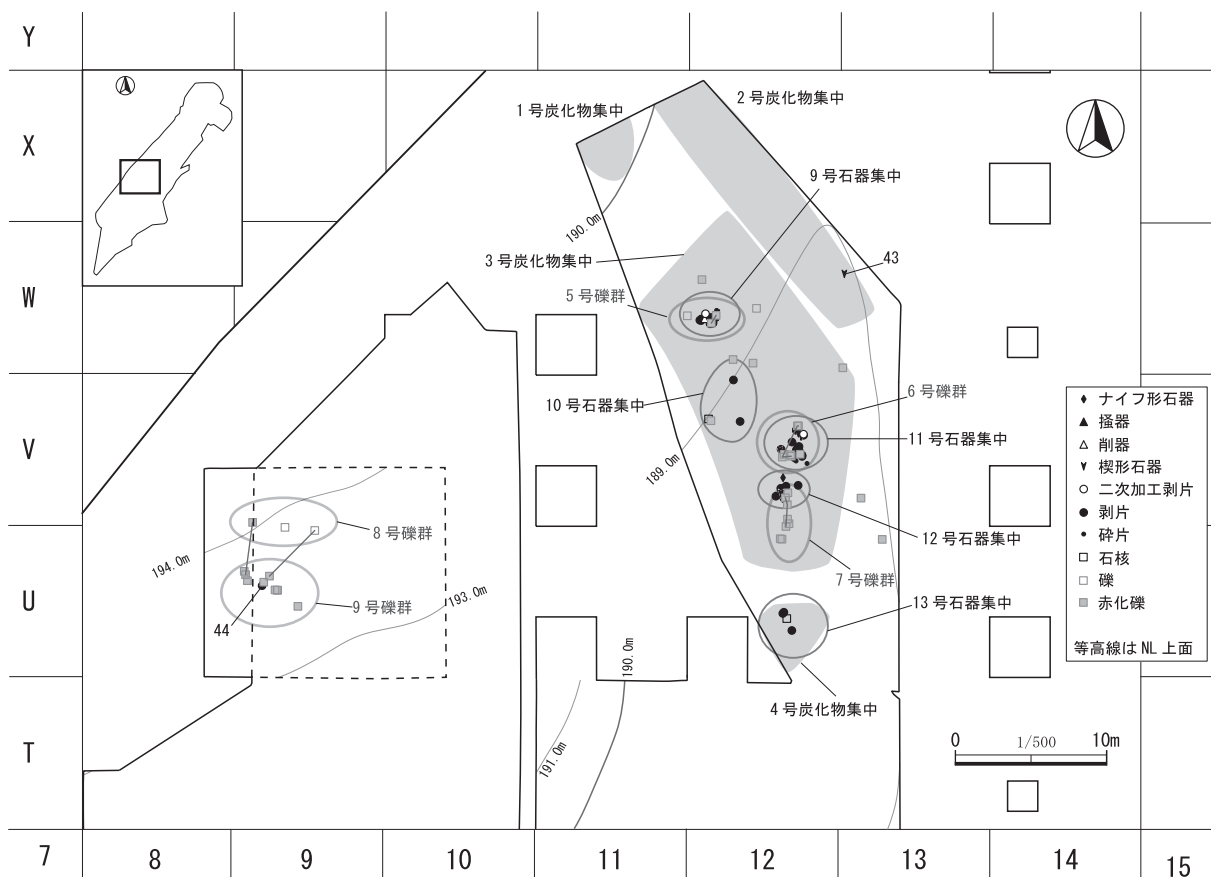
		剥片	石核	計
黒曜石	天城柏峠	1		1
ホルンフェルス		2	1	3
計		3	1	4

表23 第XIV文化層西支谷 礫群属性

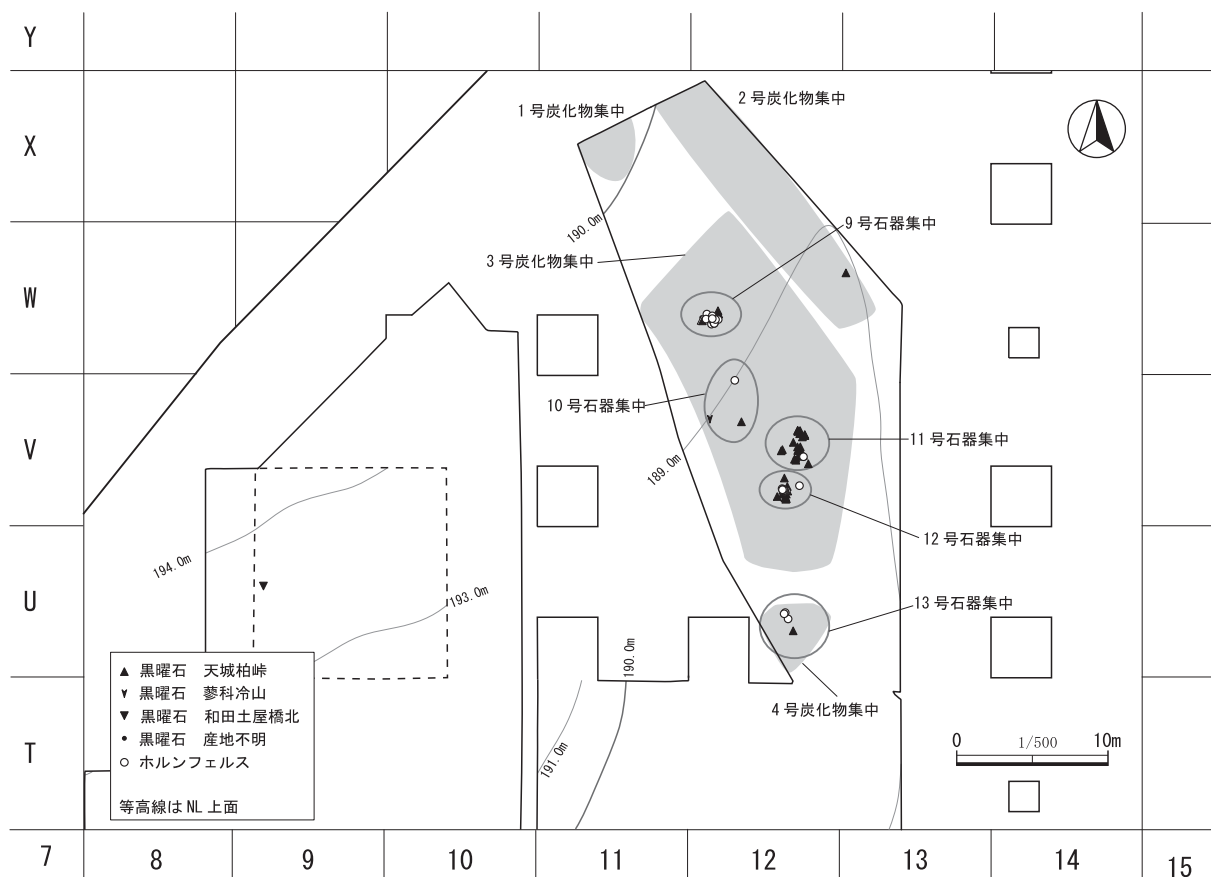
礫群番号	構成礫数	赤化				形態		石材					
		完形		非完形		亜角	亜円	安山岩	輝石岩	安山岩質	多孔隙質	玄武岩	多孔隙質
		非赤化	赤化	非赤化	赤化1								
5号	3			1	2	3		1					2
6号	7		1		6	7		4			2		1
7号	8		2		6	7	1	1	1	1	2		4
遺構外	8	1	1		6	8		6			1		1

赤化1: 全面が赤化

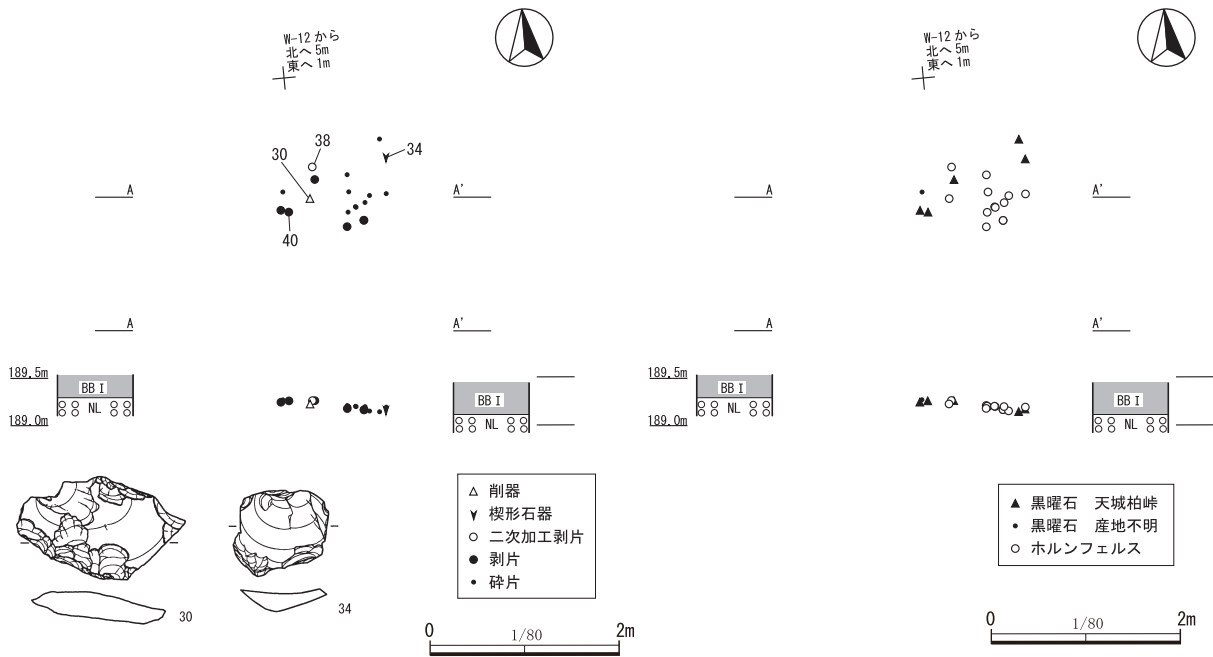




第48図 第XIV文化層西支谷・西尾根 器種別分布



第49図 第XIV文化層西支谷・西尾根 石材別分布



第50図 第XIV文化層9号石器集中 器種別分布

第51図 第XIV文化層9号石器集中 石材別分布

主体、11・12号石器集中が天城柏峠産黒曜石主体と分かれている。

9号石器集中（第50・51図、表18）

W-12グリッド西部から出土した石器19点から成る。5号礫群と重複し、出土層位は第I黒色帯下部である。石器は約3分の2に当たる13点がホルンフェルス製で、残りが黒曜石製である。削器、楔形石器、二次加工剥片各1点が含まれる。

10号石器集中（第52・53図、表19）

V-12グリッド西部から出土した石器3点から成る。出土層位は第I黒色帯である。やや分散した分布を示し、石器石材も蓼科冷山産黒曜石、天城柏峠産黒曜石、ホルンフェルスとそれぞれ異なっている。

11号石器集中（第54・55図、表20）

V-12グリッド東部から出土した石器31点から成る。6号礫群と重複し、出土層位は第I黒色帯下部を中心とする。石器はほとんどが天城柏峠産黒曜石製で、ホルンフェルス製が1点伴う。楔形石器が4点とまとまっている他、搔器、二次加工剥片も各1点出土している。

12号石器集中（第56・57図、表21）

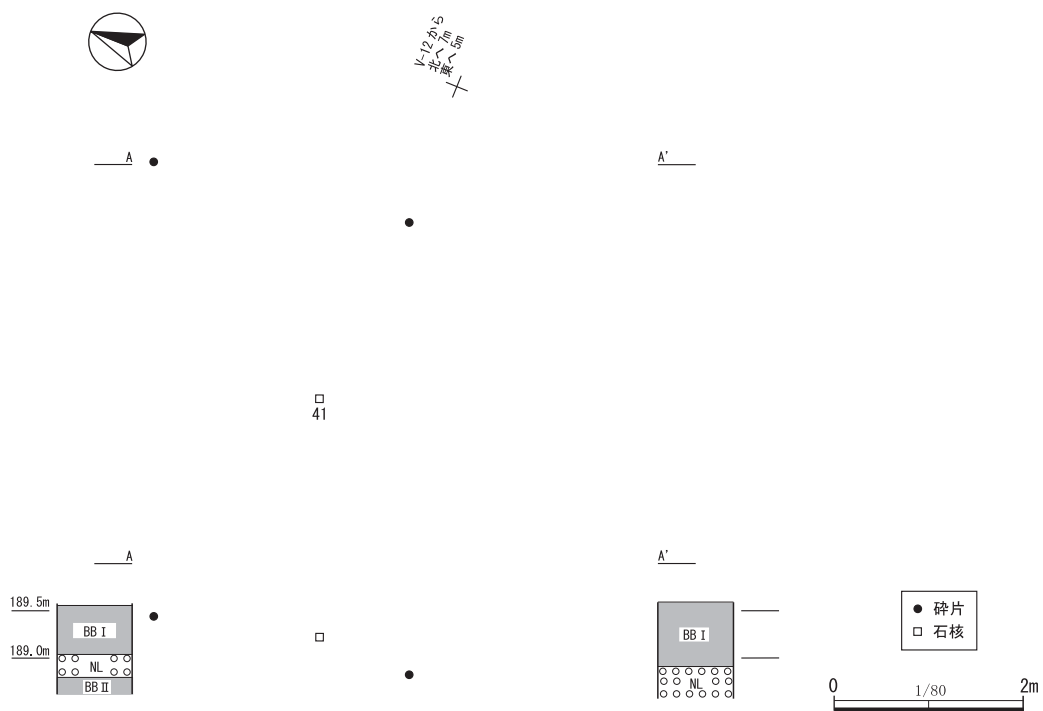
V-12グリッド南東部から出土した石器21点から成る。7号礫群と重複し、出土層位は第I黒色帯下部である。11号石器集中の南に隣接する。石器は12点が天城柏峠産黒曜石製、それ以外の9点がホルンフェルス製である。ナイフ形石器、楔形石器各1点が出土している。

13号石器集中（第58・59図、表22）

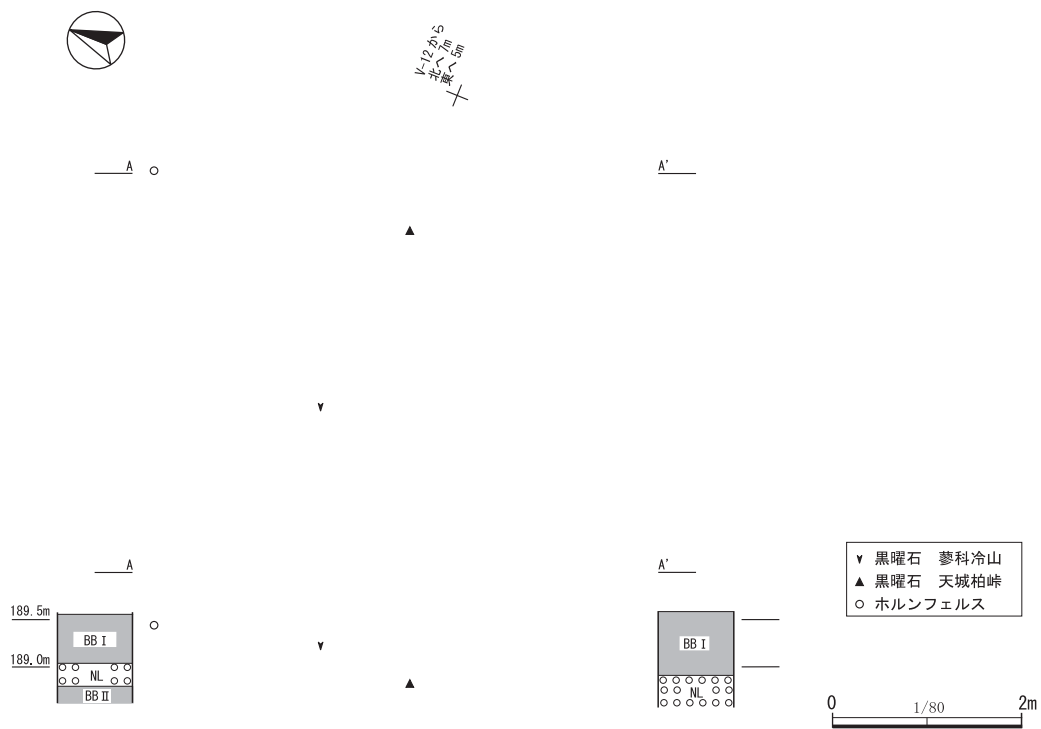
U-12グリッドから出土した石器4点から成る。出土層位は第I黒色帯下部である。石器はホルンフェルス製の石核1点、剥片2点、天城柏峠産黒曜石製の剥片1点である。

5号礫群（第60図、表23）

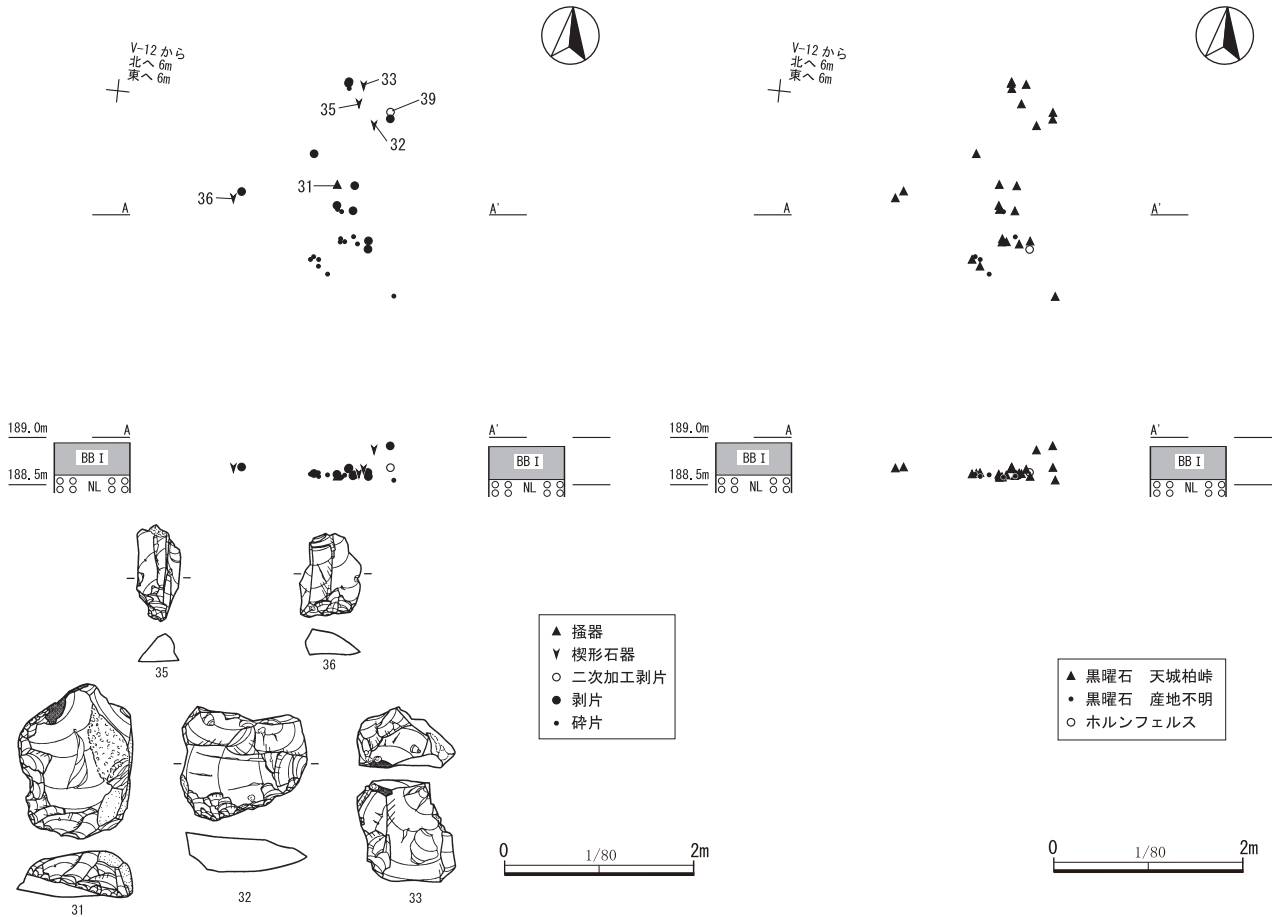
W-12グリッド西部から出土した礫3点から成る。被熱した亜角礫2点（長径17.4cm・重量0.99kg及び長径16.9cm・重量1.1kg）は接合し、やや離れて長径5.6cmの亜角礫が出土した。出土層位は第I黒色帯下部である。



第52図 第XIV文化層10号石器集中 器種別分布

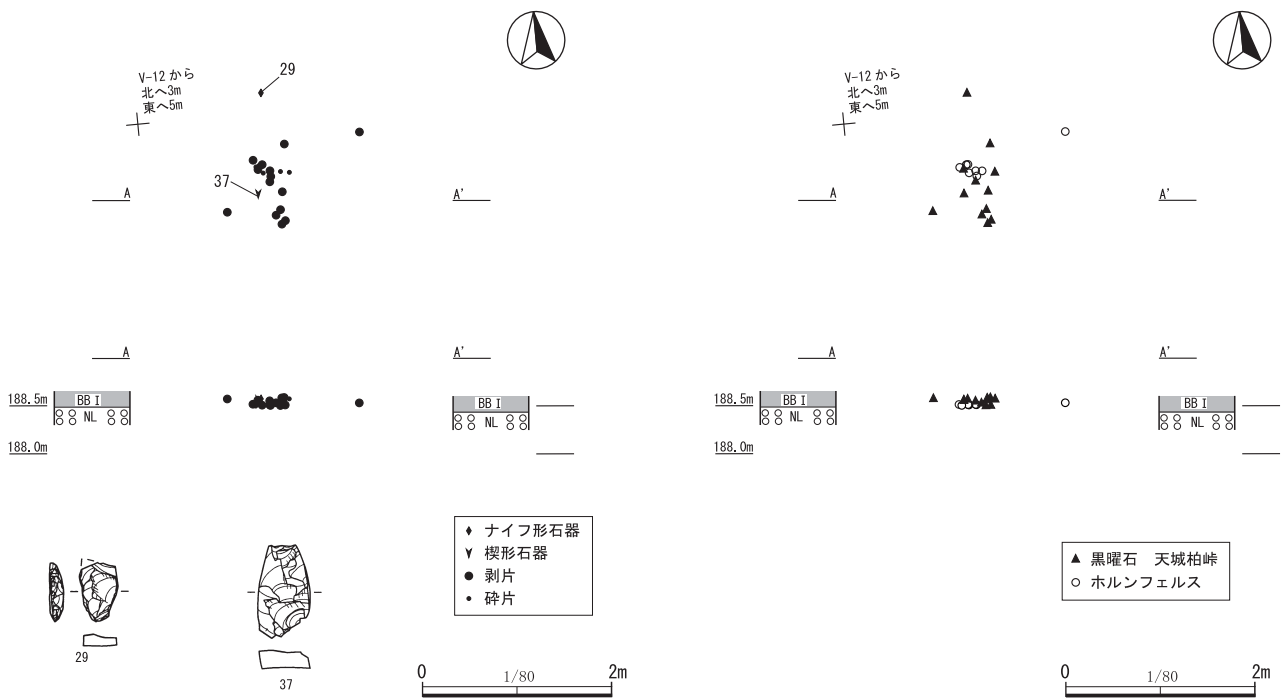


第53図 第XIV文化層10号石器集中 石材別分布



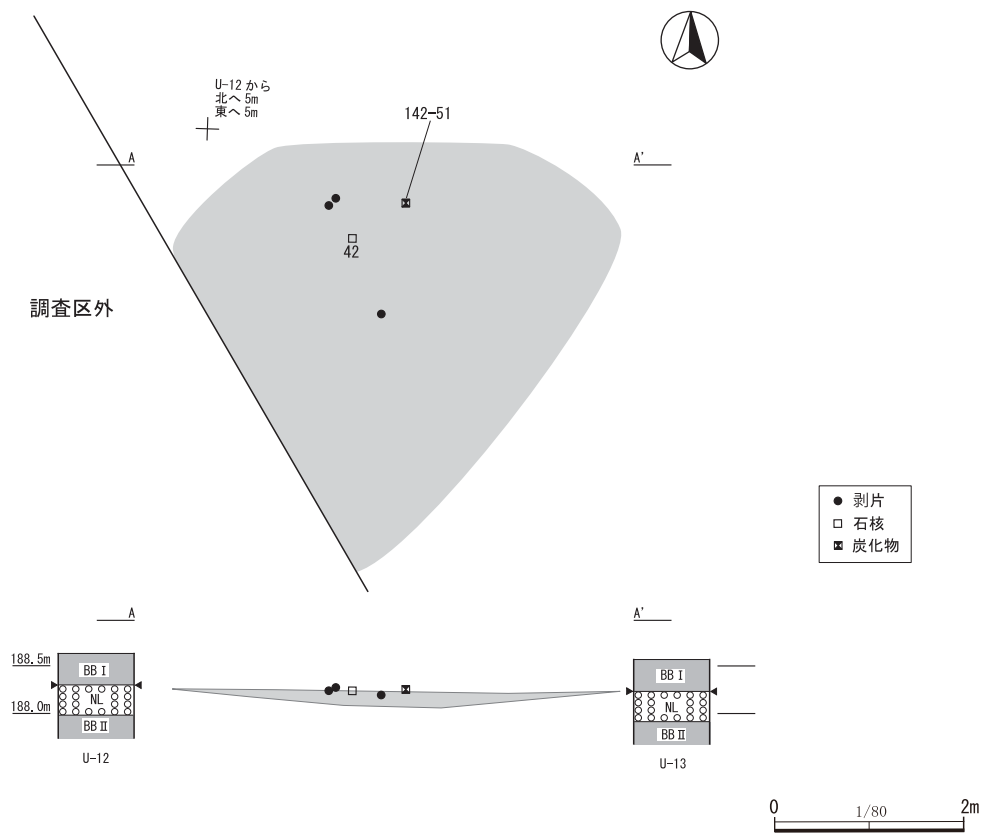
第54図 第XIV文化層11号石器集中 器種別分布

第55図 第XIV文化層11号石器集中 石材別分布

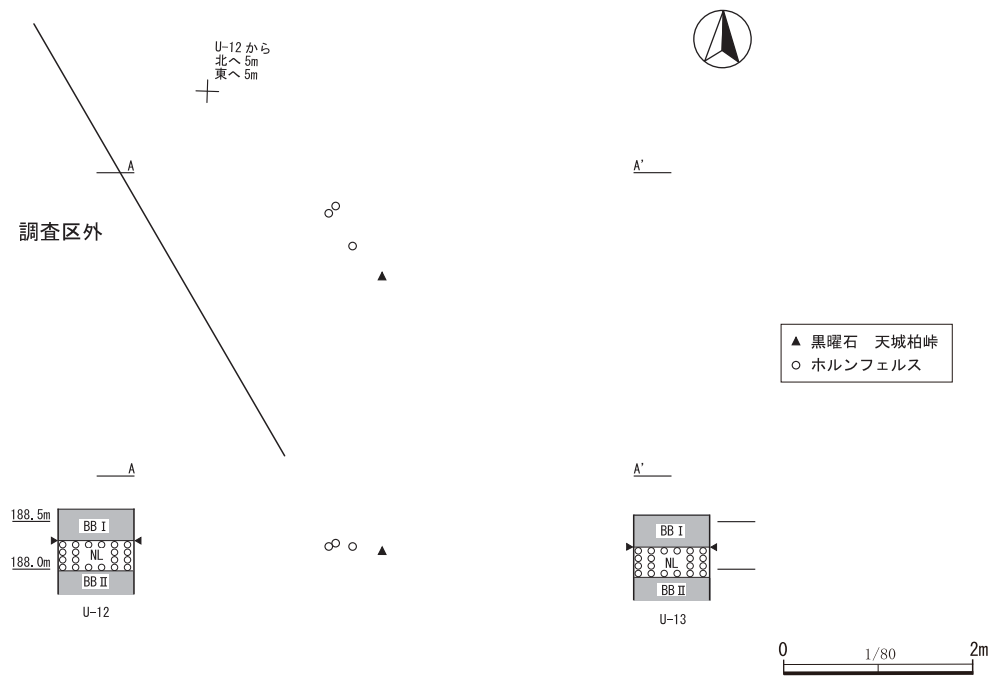


第56図 第XIV文化層12号石器集中 器種別分布

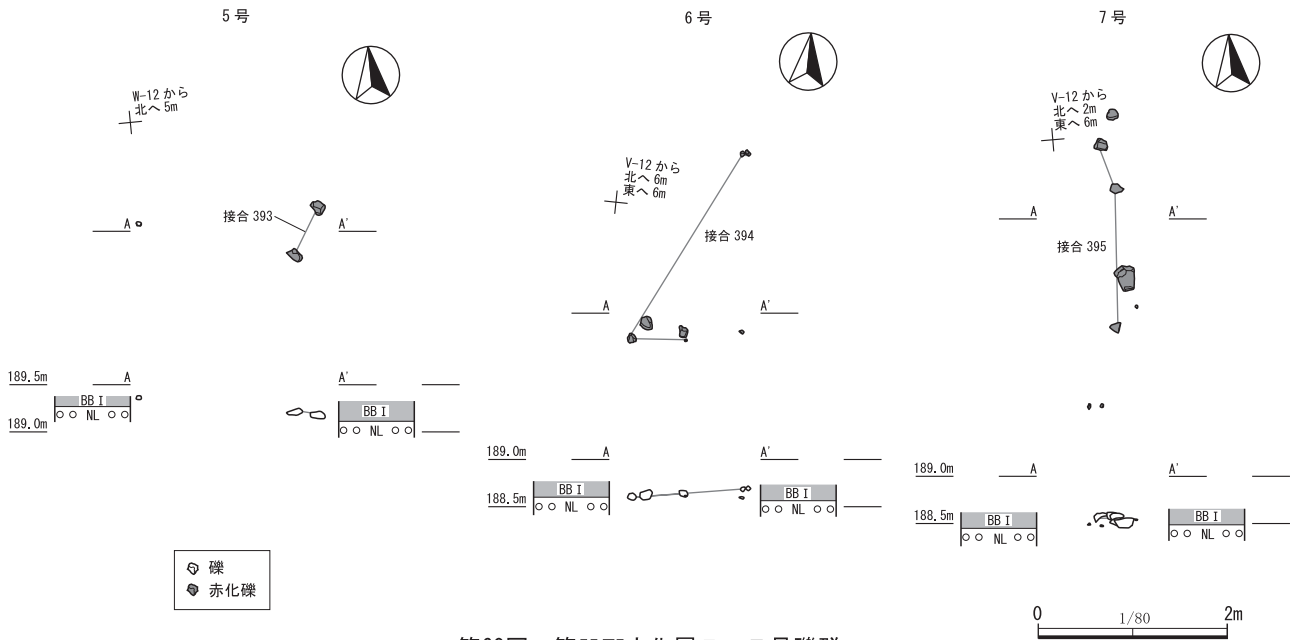
第57図 第XIV文化層12号石器集中 石材別分布



第58図 第XIV文化層13号石器集中 器種別分布・4号炭化物集中



第59図 第XIV文化層13号石器集中 石材別分布



第60図 第XIV文化層5～7号礫群

6号礫群 (第60図、表23)

V-12グリッド東部から出土した被熱礫7点から成る。礫は平均長径8.6cm・重量0.64kgで、長径15.9cm・重量1.9kgの大型亜角礫を中心に大小の礫片が南北に分布する。出土層位は第I黒色帯下部を中心とする。

7号礫群 (第60図、表23)

V-12グリッド南東部から出土した被熱礫8点から成る。長径27.2cm・重量6.1kgの大型の亜角礫、長径10数cmの亜円礫1点と3点に割れた亜角礫がほぼ直線状に並び、小片3点が伴う。出土層位は第I黒色帯下部である。

1号炭化物集中 (第61図)

X-11グリッド中央部で検出された。調査区外に広がっていた可能性もあるが、調査区の崩落を防ぐために安全勾配を設ける必要があった関係上、掘削範囲を広げることができなかった。炭化物試料4点が採取された。

2号炭化物集中 (第62図)

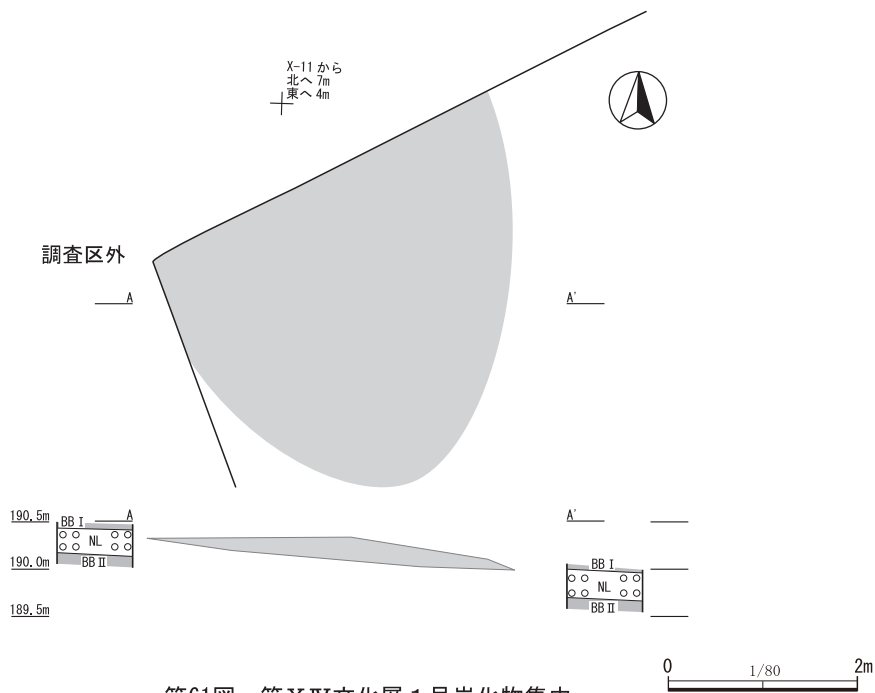
X-11・12、W-12・13グリッドにわたって検出された。帯状の範囲で、南側の3号炭化物集中とほぼ連続する分布を示し、北側は調査区外に広がっていた可能性もある。炭化物試料4点が採取され、そのうち2点について放射性炭素年代測定を実施し、24,550±90BP (142-52)、24,910±90BP (142-53)の年代値が得られた。

3号炭化物集中 (第63図)

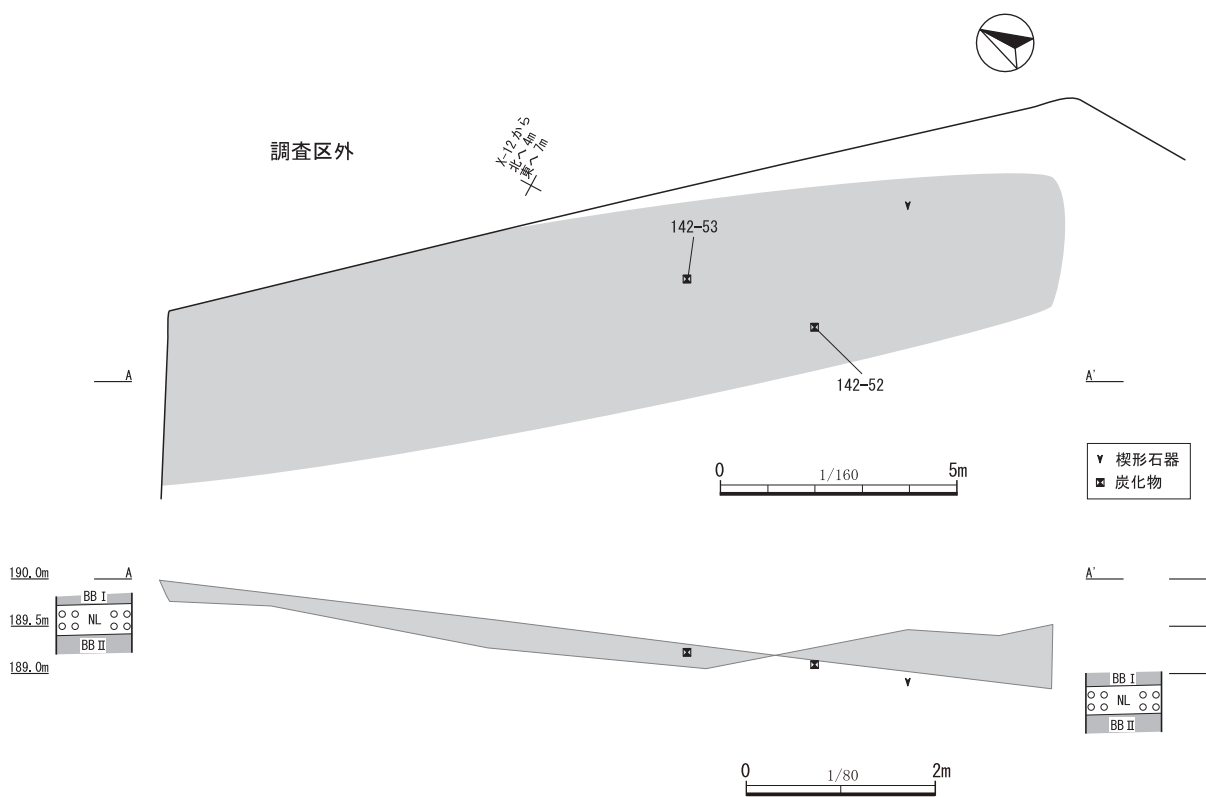
W-11・12、V-12、U-12グリッド一帯で検出された。南北20m、東西10mの広い範囲にわたって分布し、西支谷の石器群の主要部分にあたる9～12号石器集中、5～7号礫群と重複する。炭化物試料10点が採取され、そのうち3点について放射性炭素年代測定を実施し、24,630±90BP (142-48)、24,800±100BP (142-49)、25,060±100BP (142-50)の年代値が得られた。

4号炭化物集中 (第58図)

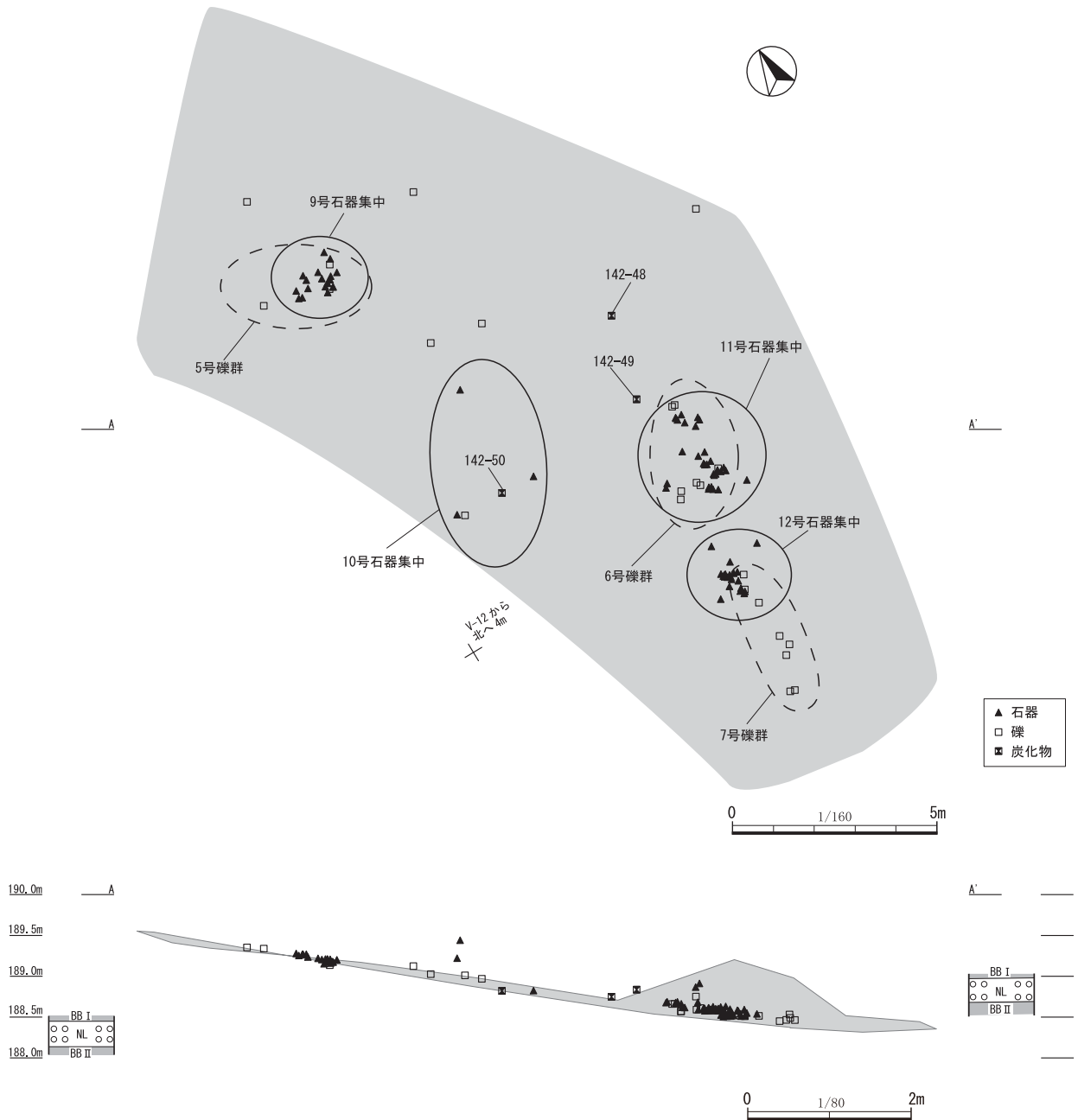
U-12グリッド南部で検出された。炭化物試料3点が採取され、そのうち1点について放射性炭素年代測定を実施し、24,590±100BP (142-51)の年代値が得られた。13号石器集中が重複して分布する。



第61図 第XIV文化層1号炭化物集中



第62図 第XIV文化層2号炭化物集中



第63図 第XIV文化層3号炭化物集中

(2) 9～13号石器集中の出土石器 (第64図)

ナイフ形石器 (29)

1点出土した。天城柏峠産黒曜石製で、両側縁の加工は対向調整となっている。先端部を欠き、切出形石器であった可能性もある。

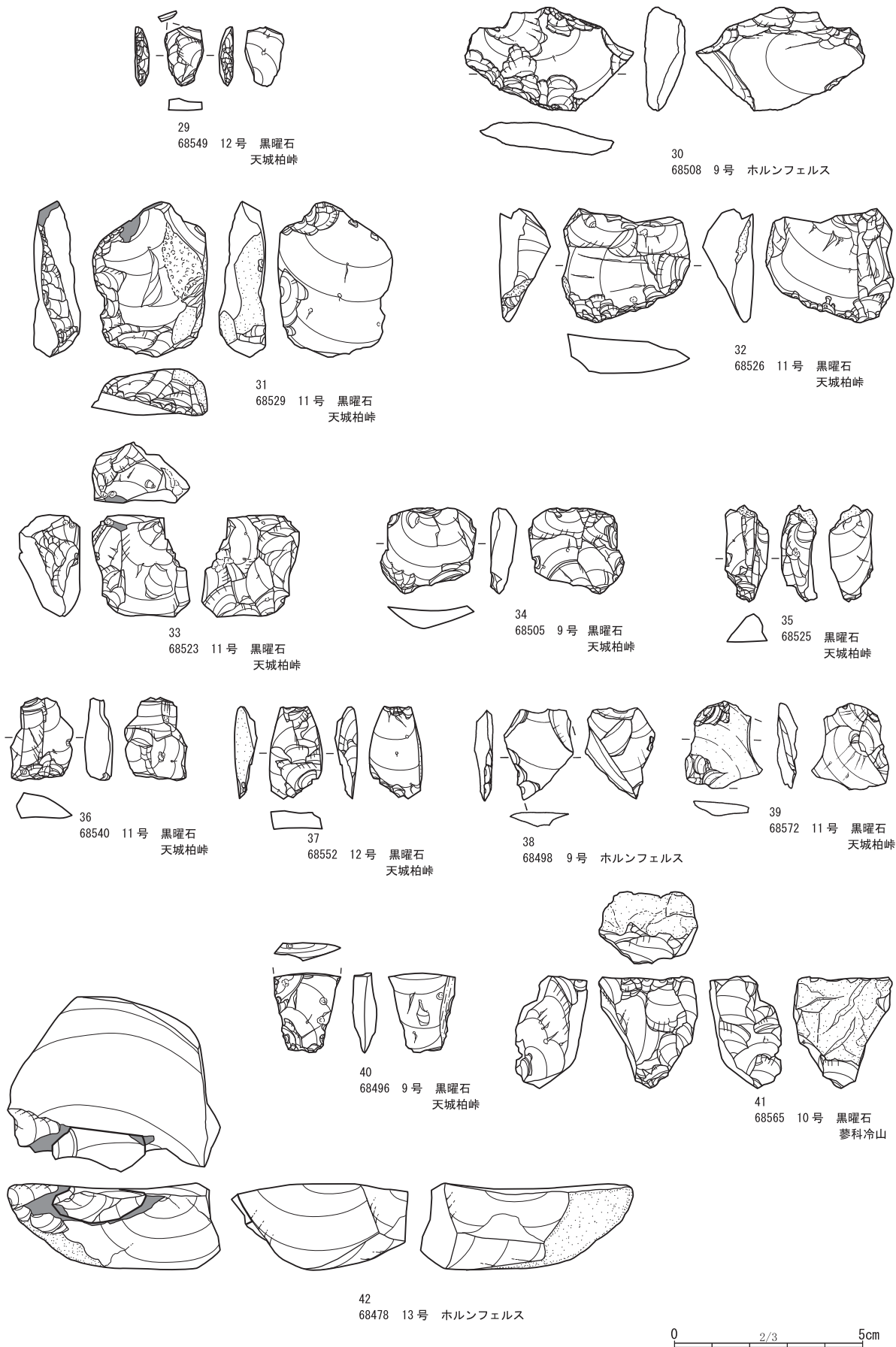
削器 (30) ・ 搔器 (31)

各1点出土した。30はホルンフェルス製の削器で幅広剥片を素材とし、打面部の対辺に連続的な平坦剥離を施している。31は天城柏峠産黒曜石製の搔器で、厚手の剥片を縦位に用い、末端から左側縁を加工している。

楔形石器 (32～37)

6点出土した。全て天城柏峠産黒曜石製で、34の左側縁裏面に二次加工が認められる以外は基本的に





第64図 第XIV文化層西支谷 石器集中

上下から剥離が入っている。33は厚手の素材で石核からの転用と見られる。

#### 二次加工剥片 (38・39)

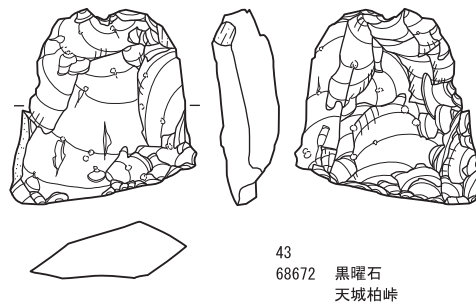
2点出土した。38はホルンフェルス製で左側縁が二次加工されており、削器等の破片の可能性はある。39は天城柏峠産黒曜石製で、両極剥離による剥片である。打点側に平坦剥離が見られるが両極剥離に伴い生じたものの可能性もある。

#### 剥片類・石核 (40~42)

剥片・碎片65点（出土位置記録なし1点を含む）、石核2点が出土した。11・12号石器集中を中心に天城柏峠産黒曜石製のものが多い。総じて小型のものが多く、比較的大きい長さ3、4cm程度のものは自然面の残るものが多い。40は天城柏峠産黒曜石製の剥片で、小型だが微細剥離痕が左側縁から末端に認められる。41は蓼科冷山産黒曜石製の石核である。角礫素材で打面転移を繰り返して消費が進み小型化している。42はホルンフェルス製の石核である。剥片素材で素材腹面を打面として幅広剥片が剥離されている。

### (3) 石器集中外の出土石器 (第65図)

石器集中外の遺物は43の天城柏峠産黒曜石製楔形石器1点のみである。2号炭化物集中の範囲内のW-12グリッドで出土した。



第65図 第XIV文化層西支谷 石器集中外

## 4. 西尾根の遺物群

### (1) 遺物の分布 (第48・49図)

石器1点、礫12点及び少量の炭化物が出土した（表24・25）。U-9グリッドを中心に8・9号礫群があり、遺物の出土はこの周辺に限られる。

#### 8号礫群 (第66図、表25)

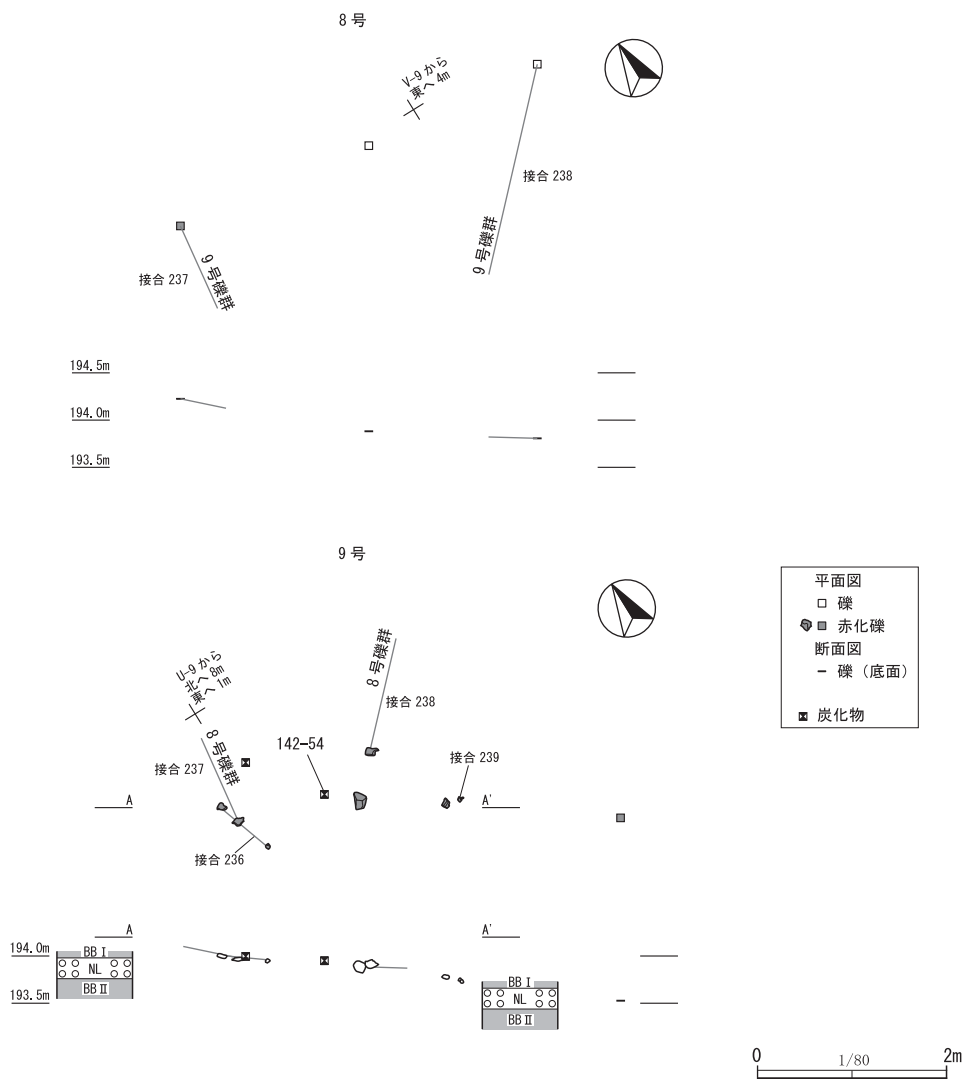
U-9グリッド北部を中心に出土した礫3点から成り、うち1点に被熱の痕跡が認められた。礫は長径4~9cmの比較的小型の垂角礫で、うち2点はすぐ南に位置する9号礫群の礫と接合する。調査時の所見では全て第I黒色帯出土である。

#### 9号礫群 (第66図、表25)

U-9グリッドから出土した被熱礫9点から成る。長径16.1cm・重量約2.4kgの大型垂角礫を中心にやや分散して分布し、東に少し外れて長径12.7cm・重量約1.8kgの垂角礫が分布する。礫は平均で長径10.9cm・重量0.68kgの大きさである。出土層位は第I黒色帯下部である。

### (2) 出土石器 (第67図)

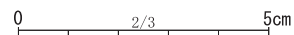
9号礫群の範囲から1点のみ出土した。44は和田土屋橋北産黒曜石製の剥片である。右側縁から端部縁辺に微細剥離痕が認められる。



第66図 第XIV文化層8・9号礫群



44  
64236 黒曜石  
和土屋橋北



第67図 第XIV文化層西尾根 石器集中外

表24 第XIV文化層  
西尾根 石器組成

		剥片	計
黒曜石	和土屋橋北	1(1)	1(1)
計		1(1)	1(1)

括弧内は全体数の内、微細剥離痕のあるものの点数。

表25 第XIV文化層西尾根 礫群属性

礫群番号	構成礫数	赤化			形態		石材			
		完形		非完形	亜角	亜円	安山岩	輝石玄武岩	玄武岩	多孔質
		非赤化	赤化	赤化1						
8号	3	2	1	1	3	1	2			
9号	9		1	8	7	2	3	5	1	

赤化1：全面が赤化

## 第3節 第XV文化層

## 概要

第I黒色帯上部から第Iスコリア層を中心として石器1,448点、礫307点が出土し、石器集中18か所、礫群19基を認定した（第68図、表26）。遺物分布から以下の7群に分けて整理する。

- ①北尾根 1号石器集中、1・2号礫群など。
- ②東尾根（北） 2号石器集中など。
- ③東尾根（南） 3号石器集中、3号礫群。
- ④東支谷 少数の遺物が散在する。
- ⑤中央尾根 4・5号石器集中、4号礫群。この他、石器集中、礫群とは別に尾根上に石器が散在し、また遺物を伴わない炭化物集中（1号炭化物集中）が分布する。
- ⑥西支谷 6・7号石器集中、5～7号礫群など。
- ⑦西尾根 8～18号石器集中、8～19号礫群、2号炭化物集中など。

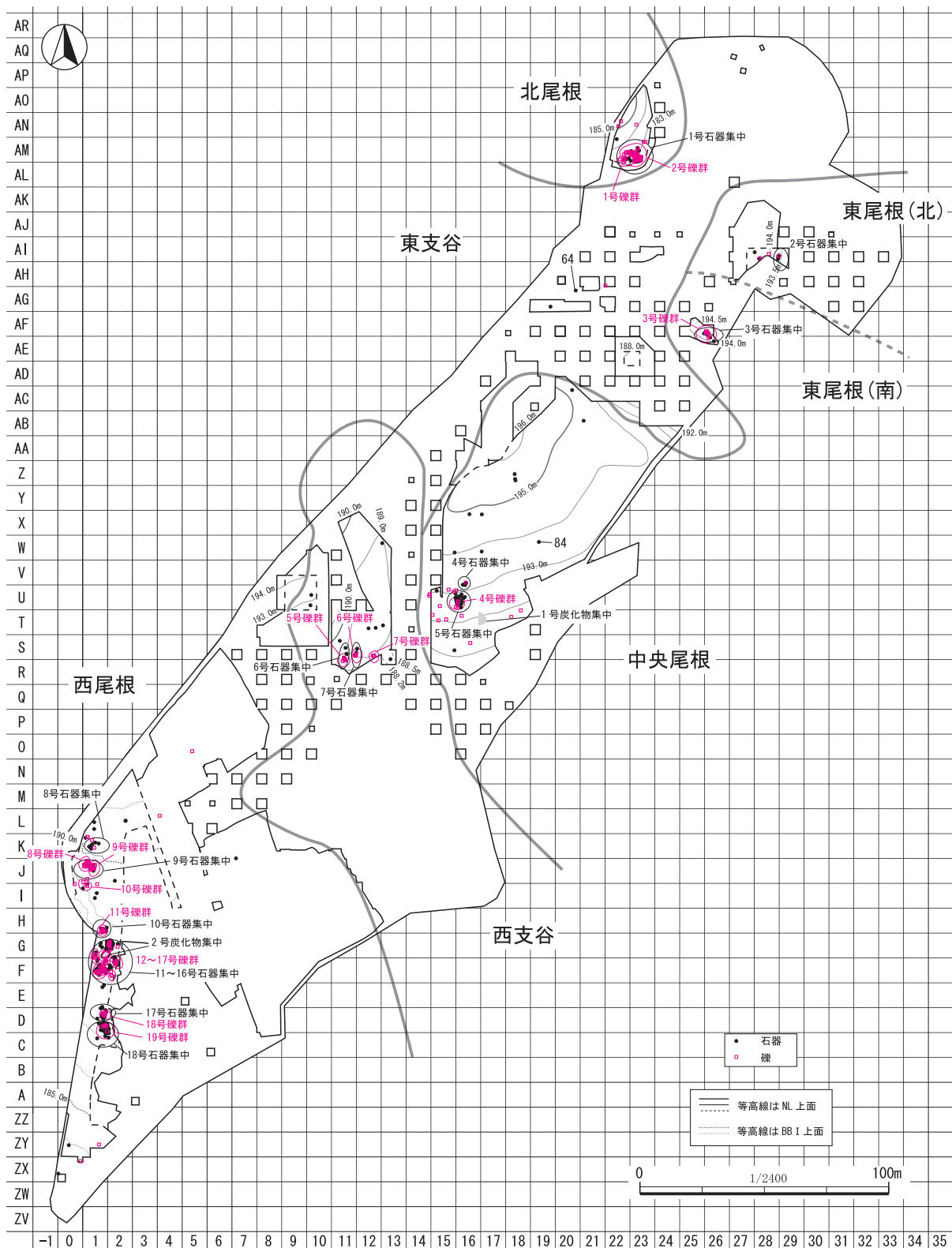
石器の出土点数では本遺跡最大の規模となる文化層であるが、遺物分布には偏りがあり、石器、礫を合わせた遺物の8割以上は西尾根から出土している。その他の地点は石器、礫を合わせても100点以下の小規模な遺物群となっている。石材組成では約3分の2が箱根畑宿産黒曜石で、これは西尾根、及び中央尾根の石器群の主体となっている石材である。全ての地点で出土しているホルンフェルスがこれに次いでいる。

特徴的な遺構としては、西尾根で出土した配石炉状遺構（13号礫群）がある。

表26 第XV文化層 石器組成

	角錐状石器	ナイフ形石器	搔器	削器	楔形石器	基部加工石刃	二次加工剥片	石刃	剥片	碎片	石核	原石	礫器	敲石	台石	計
黒曜石	和田鷹山		1	1					4							6
	和田土屋橋西						1									1
	蓼科冷山								2							2
	箱根畑宿	2	8	47(1)	2	2	1	6	8	571(14)	298	4				949(15)
	天城柏峠			1		3		3	1	9(2)		1				18(2)
	神津島恩馳島				2					2						4
	産地不明	1		1					73	252						327
	黒曜石計	3	9	50(1)	4	5	1	10	9	661(16)	550	4	1			1,307(17)
ガラス質黒色安山岩	1	3	3	1				3	24	2	3					40
ホルンフェルス		12	4	5			2	17	31							71
珪質頁岩							1	3(1)	4(1)							8(2)
頁岩									2							2
珪質シルト岩							1		3							4
玉髓									1(1)							1(1)
緑色凝灰岩									1							1
流紋岩				1												1
細粒安山岩									3							3
輝石安山岩									4				1	2	1	8
玄武岩														1		1
細粒砂岩														1		1
計	4	24	57(1)	11	5	1	14	32(1)	734(18)	552	7	1	1	4	1	1,448(20)

括弧内は全体数の内、微細剥離痕のあるものの点数。



第68図 第XV文化層遺物分布

1. 北尾根の遺物群

(1) 遺物の分布 (第69・70図)

石器19点、礫75点が出土した(表27・29)。AM-23グリッドを中心に1号石器集中、1・2号礫群が重複して分布し、遺物の大半はそれらの範囲にまとまっている。遺物集中外からは石器1点、礫5点が出土した。

1号石器集中 (第71・72図、表28)

AM-23グリッドを中心に出土した石器18点から成る。傾斜地のため垂直分布で約50cmのレベル差があるが、調査時の記録では全て第I黒色帯内からの出土とされている。1・2号礫群と重複して分布しており、石器自体の分布密度は高くない。石器はホルンフェルス製が主体だが、接合関係は確認できなかった。箱根畑産黒曜石、ガラス質黒色安山岩、緑色凝灰岩製石器が伴う。搔器3点、削器1点が出土している。

1号礫群 (第73図、表29)

AM-22グリッド南東部を中心に出土した礫6点から成り、うち5点に被熱の痕跡が確認できた。礫は最大で長径15.0cm、それ以外は4～10cm程度で、平均で長径9.0cm・重量0.42kgの大きさである。調査時の記録では全て第I黒色帯内からの出土とされている。

2号礫群 (第73図、表29)

AM-23グリッドを中心に出土した礫64点から成り、うち2点以外に被熱の痕跡が確認できた。調査時の記録では全て第I黒色帯内からの出土とされている。礫は径7mの範囲に広がっており、その分布から2群以上に分けられる可能性もある。礫は長径21.7cm・重量4.9kgのものを最大として1kg超の礫が13点含まれ、大型礫が目立つ。平均の大きさは長径10.7cm・重量0.66kgである。

表27 第XV文化層北尾根 石器組成

		角錐状石器	搔器	削器	石刃	剥片	計
黒曜石	箱根畑産		1				1
	黒曜石計		1				1
ガラス質黒色安山岩		1				2	3
ホルンフェルス			2		3	8	13
緑色凝灰岩						1	1
流紋岩				1			1
計		1	3	1	3	11	19

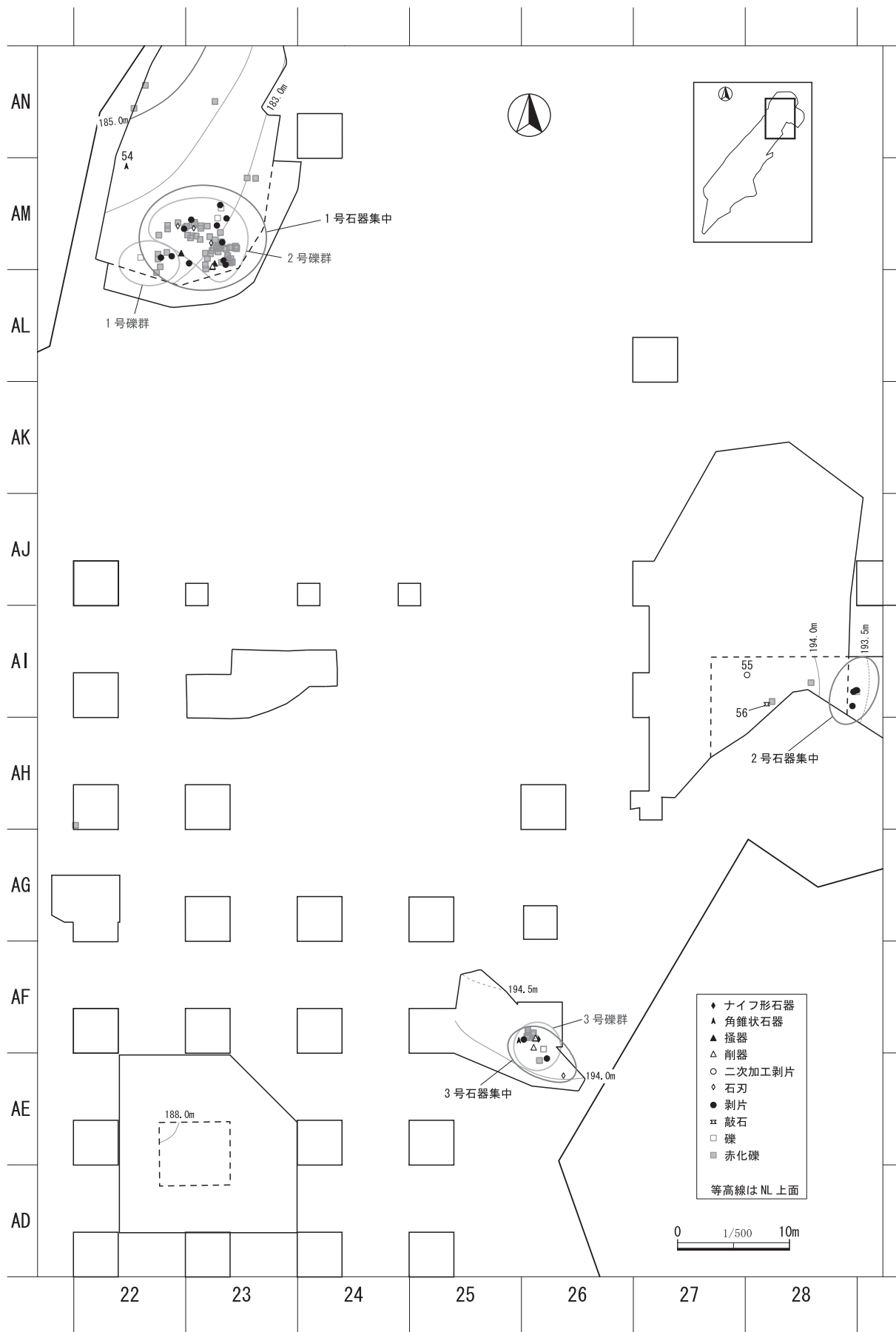
表28 第XV文化層1号石器集中 石器組成

		搔器	削器	石刃	剥片	計
黒曜石	箱根畑産	1				1
ガラス質黒色安山岩					2	2
ホルンフェルス		2		3	8	13
緑色凝灰岩					1	1
流紋岩			1			1
計		3	1	3	11	18

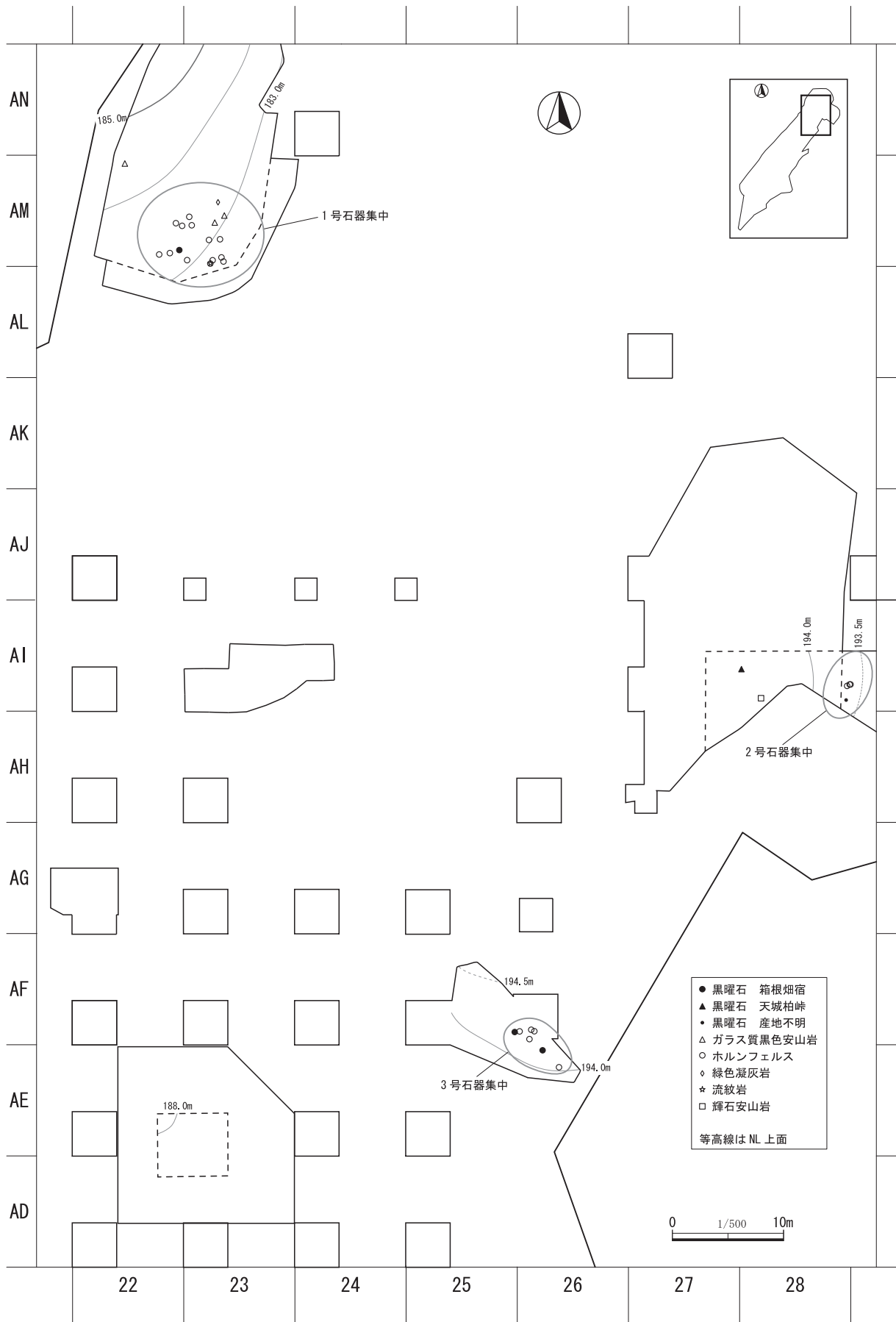
表29 第XV文化層北尾根 礫群属性

礫群番号	構成礫数	赤化				形態			石材						
		完形		非完形		亜角	亜円	円	安山岩	輝石	安山岩	多孔質	玄武岩	玄武岩	多孔質
		非赤化	赤化	赤化1	赤化2										
1号	6	1	4		1	3	2	1	4			2			
2号	64	2	26	21	15	51	12	1	26	7		23		8	
遺構外	5		2	2	1	3	2		4			1			

赤化1：全面が赤化 赤化2：礫の外皮のみ赤化



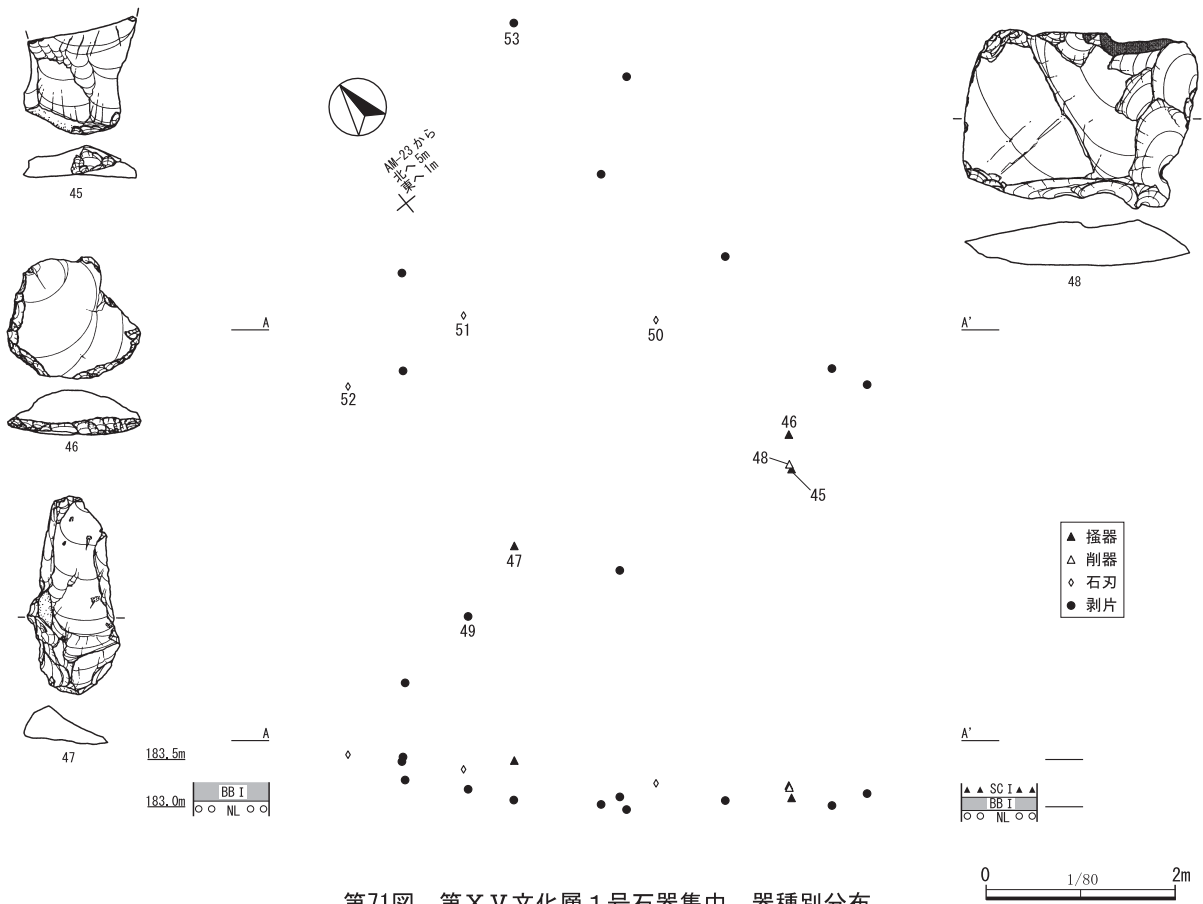
第69図 第XV文化層北尾根・東尾根（北）・（南）器種別分布



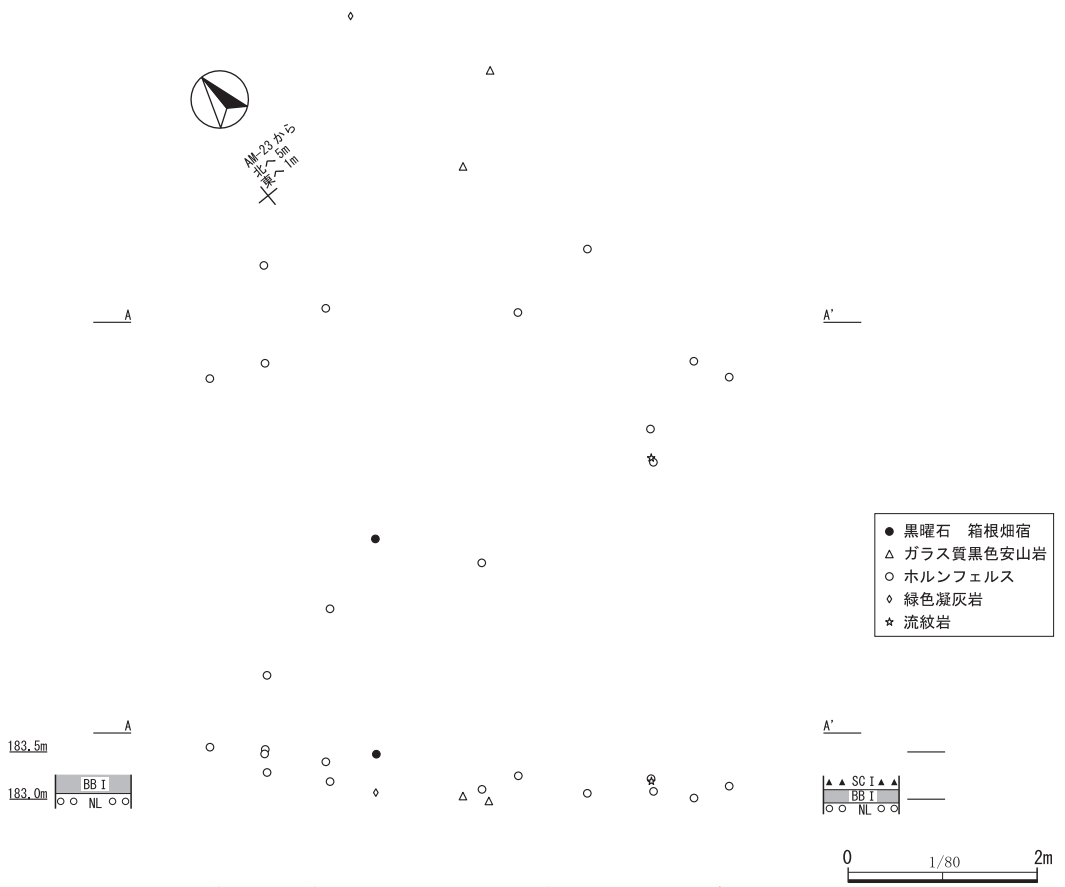
第70図 第XV文化層北尾根・東尾根（北）・（南） 石材別分布



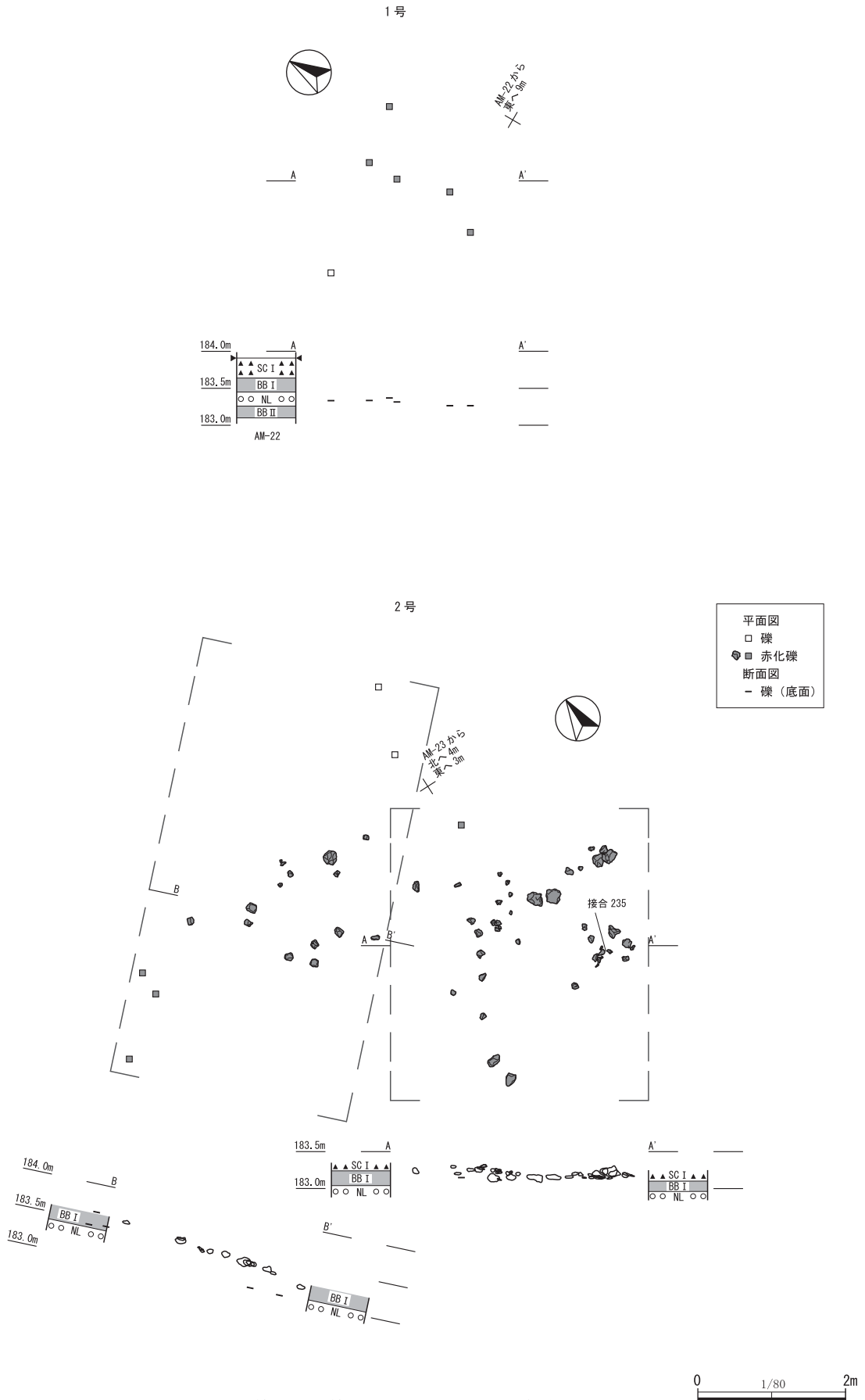
第3節 第XV文化層



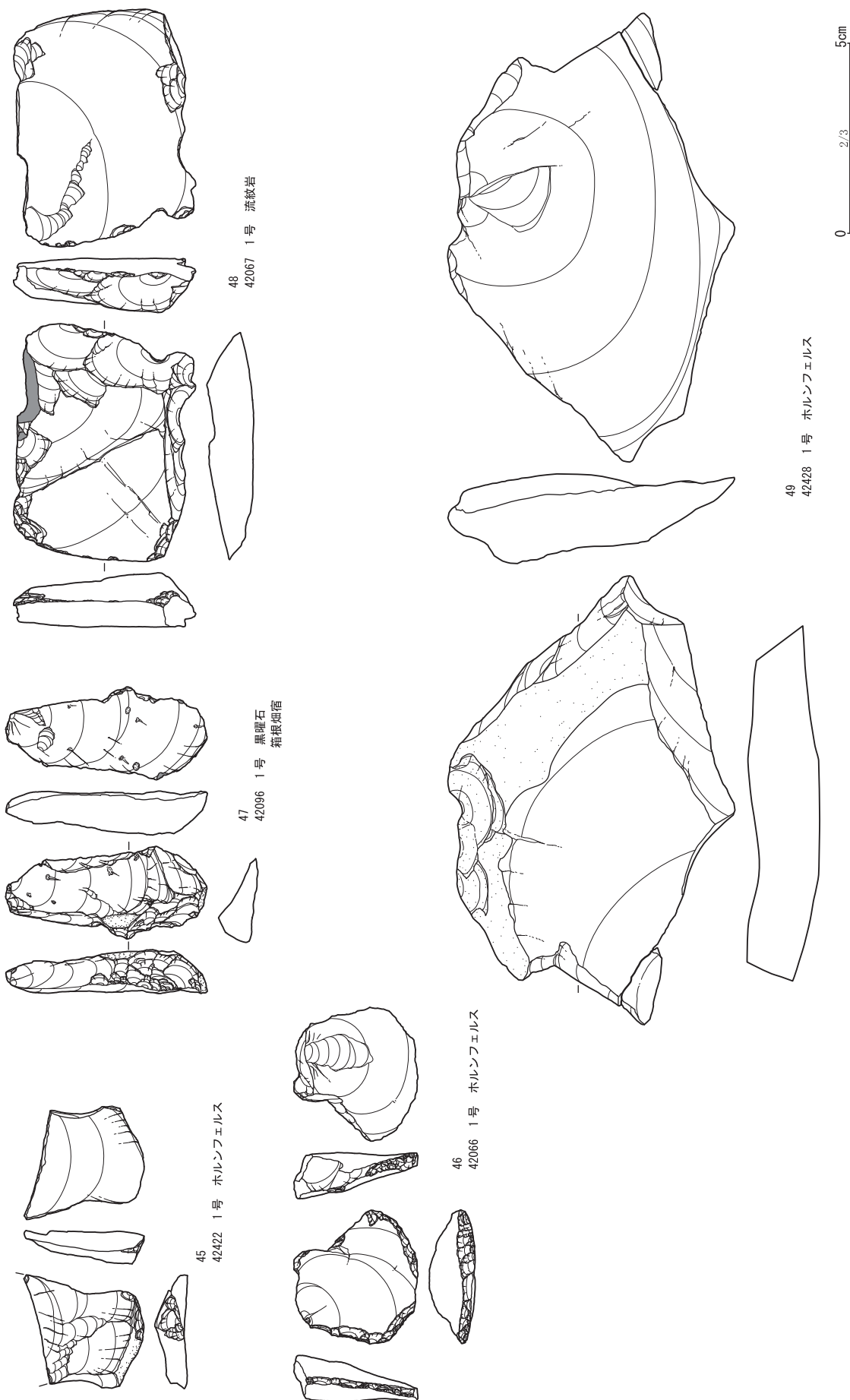
第71図 第XV文化層1号石器集中 器種別分布



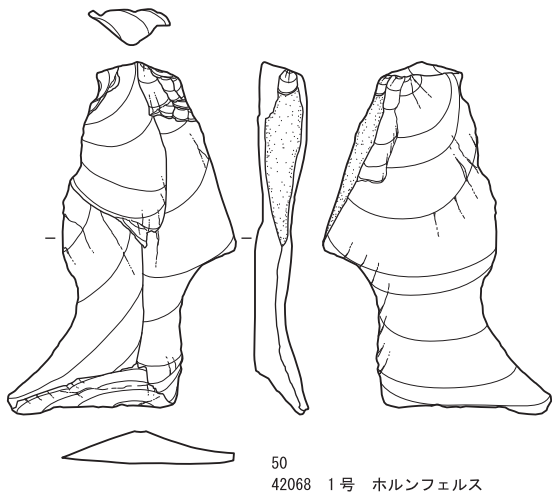
第72図 第XV文化層1号石器集中 石材別分布



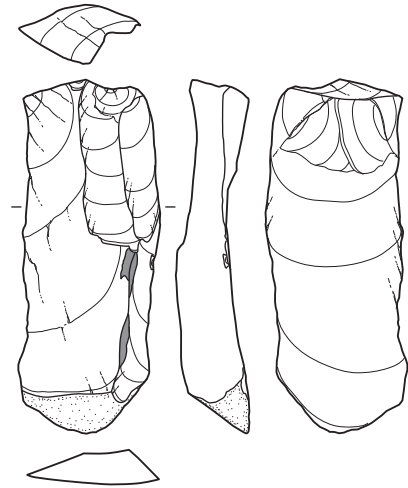
第73図 第XV文化層1・2号礫群



第74図 第XV文化層北尾根 石器集中 (1)



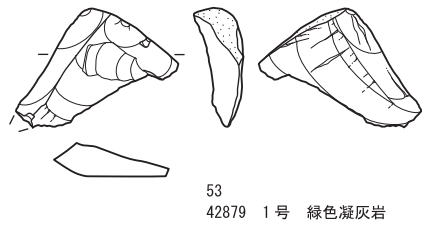
50  
42068 1号 ホルンフェルス



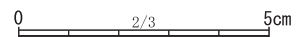
51  
42072 1号 ホルンフェルス



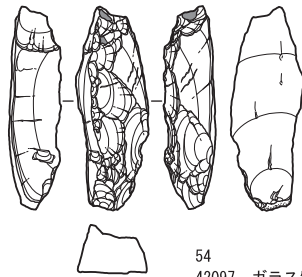
52  
42069 1号 ホルンフェルス



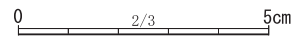
53  
42879 1号 緑色凝灰岩



第75図 第XV文化層北尾根 石器集中(2)



54  
42097 ガラス質黒色安山岩



第76図 第XV文化層北尾根 石器集中外

(2) 1号石器集中の出土石器 (第74・75図)

搔器 (45~47)

3点出土した。45・46はホルンフェルス製で、45は二次加工が素材末端の一部に限られ、46は二次加工が両側縁まで巡っている。47は箱根畑宿産黒曜石製で、左側縁の末端側に二次加工が成されている。

削器 (48)

1点出土した。流紋岩製で、幅広剥片の右側縁と端部側の2辺を鋸歯縁状に加工している。

剥片類 (49~53)

石刃3点、剥片11点が出土した。49~52はホルンフェルス製である。49は背面に垂円礫面が広く残り、原礫に近い段階で剥離されたと見られる大型の剥片である。50~52は石刃とした資料で、52は背面が横方向の剥離痕で構成された稜付石刃と見られる資料である。53は緑色凝灰岩製で、打面側は円礫面となっている。何らかの石器の製作に伴う剥片と見られるが同石材の資料は出土していない。

(3) 石器集中外の出土石器 (第76図)

石器集中外の出土石器は1点である。54はガラス質黒色安山岩製の角錐状石器である。基部に礫打面を残置し、右側縁基部に二次加工を入れた後、稜上調整で厚みを減じて断面台形に仕上げている。先端は左側縁から数条の階段状調整が入っており、尖頭形を呈していないが、これが本来意図された形なのか破損や再加工の結果であるのかは不明である。石器集中、礫群と数m離れたAM-22グリッド北部から出土した。

2. 東尾根 (北) の遺物群

(1) 遺物の分布 (第69・70図)

東尾根の北側突端部にあたる地区で石器6点、礫3点が出土した (表30・32)。全てAI-28グリッド内に位置しており、比較的まとまって出土した石器4点を2号石器集中とした。

2号石器集中 (第77・78図、表31)

AI-28グリッド東部から出土した石器4点から成る。東側へ下る傾斜地に位置し、出土層位は第I黒色帯上部である。

表30 第XV文化層東尾根 (北) 石器組成

		二次加工剥片	剥片	敲石	計
黒曜石	天城柏峠	1			1
	産地不明		1		1
	黒曜石計	1	1		2
ホルンフェルス			3		3
輝石安山岩				1	1
計		1	4	1	6

括弧内は全体数内の、微細剥離痕のあるものの点数。

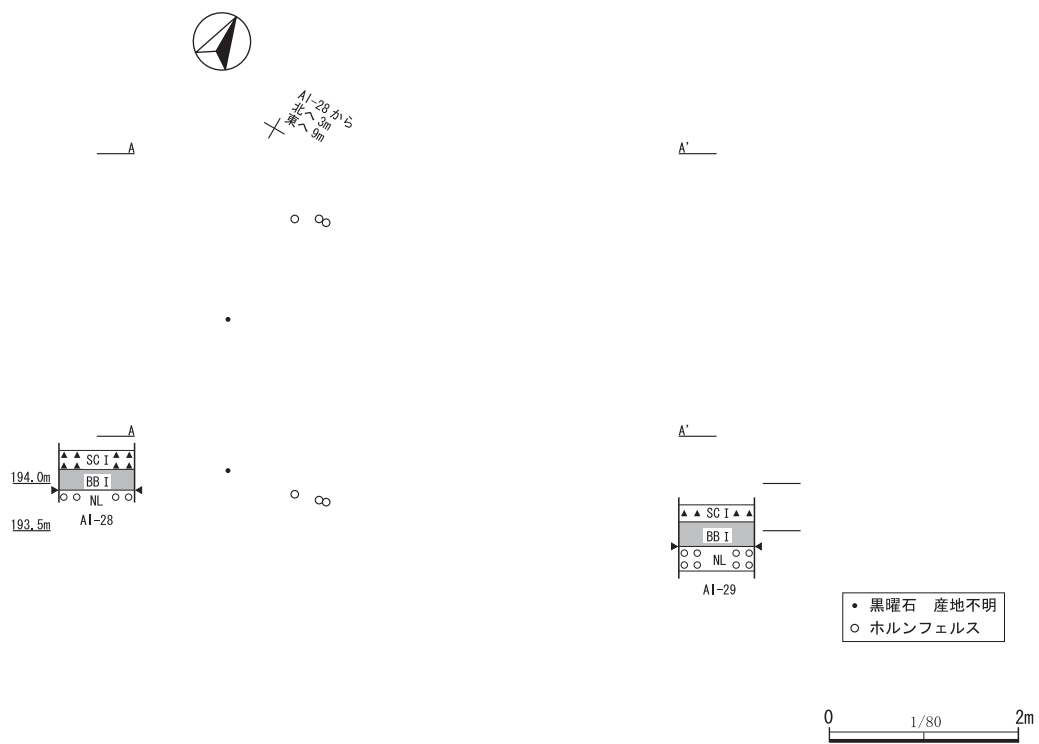
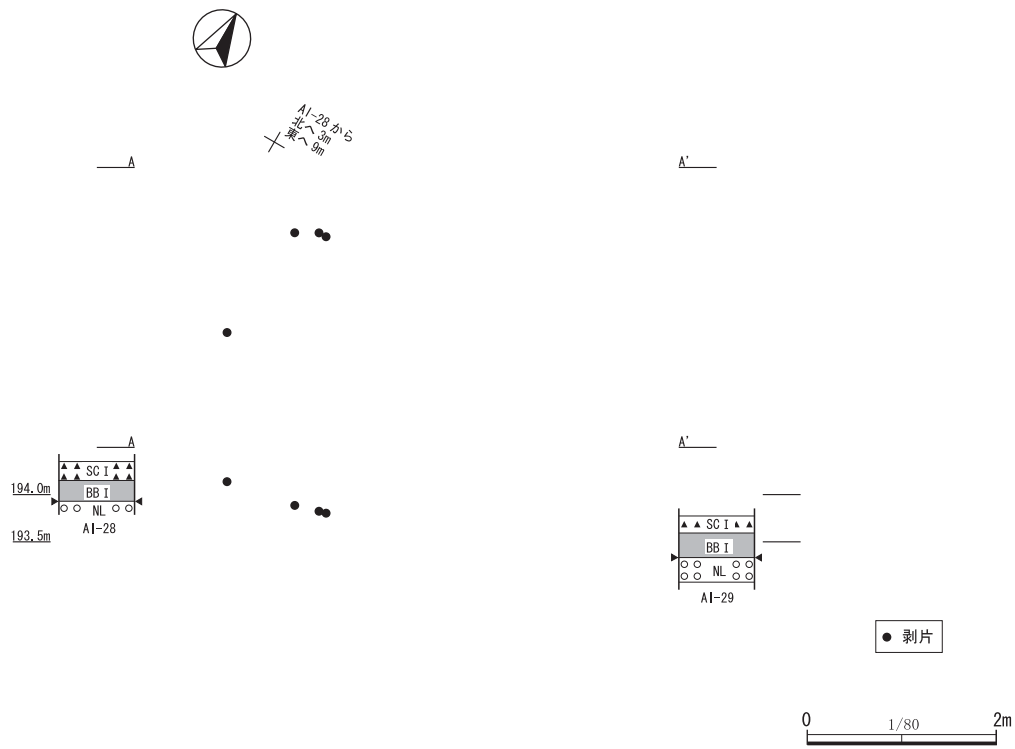
表31 第XV文化層  
2号石器集中 石器組成

		剥片	計
黒曜石	産地不明	1	1
ホルンフェルス		3	3
計		4	4

表32 第XV文化層東尾根 (北) 礫群属性

礫群番号	構成礫数	赤化			形態		石材	
		完形		非完形	垂角	円	安山岩	輝石玄武岩
		非赤化	赤化	赤化1				
遺構外	3	1	1	1	1	2	2	1

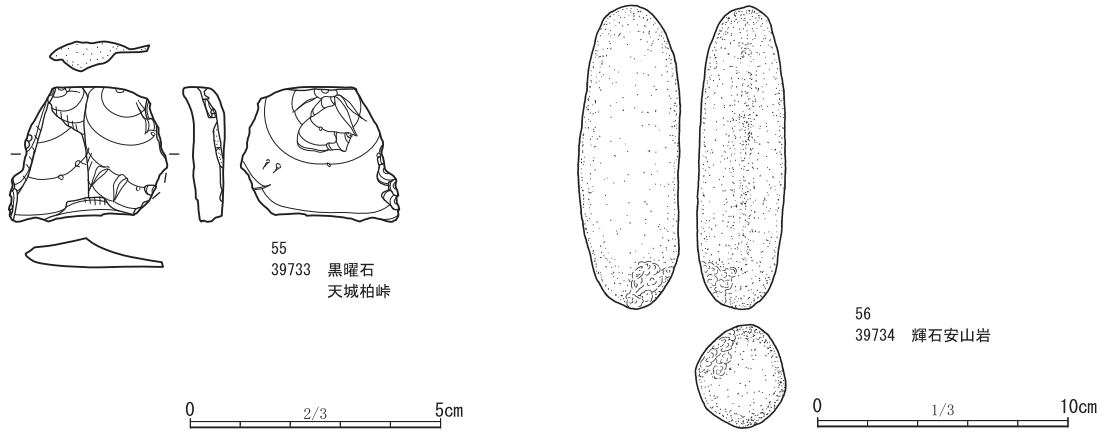
赤化1：全面が赤化



(2) 出土石器 (第79図)

2号石器集中で不定形の剥片4点、集中外で二次加工剥片、敲石各1点が出土した。

55は天城柏峠産黒曜石製の二次加工剥片である。打面と右側縁に角礫面が残り、左側縁腹面側に二次加工が認められる。56は輝石安山岩製の敲石である。棒状の円礫の端部に敲打痕が認められる。



第79図 第XV文化層東尾根(北) 石器集中外

3. 東尾根(南)の遺物群

(1) 遺物の分布 (第69・70図)

東尾根の南側斜面にあたる地区で石器7点、礫12点が出土した。遺物はAF-26グリッド南西部を中心とした箇所にとまっております、それぞれ3号石器集中、3号礫群としてまとめた(表33・34)。

3号石器集中 (第80・81図、表33)

AF-26グリッド南西部を中心に出土した石器7点から成る。3号礫群と重複し、出土層位は第I黒色帯上部である。石器はホルンフェルス製5点、箱根畑産黒曜石製2点で、角錐状石器1点、ナイフ形石器1点、削器2点が含まれ、定型石器の割合が高い。

3号礫群 (第82図、表34)

AF-26グリッド南西部を中心に出土した礫12点から成り、そのうち10点に被熱の痕跡が認められた。礫の構成は長径16.3cm・重量1.0kgを最大に10cm超の礫6点、6～8cm程度の礫6点であり、平均で長径9.7cm・重量0.34kgである。出土層位は第I黒色帯である。

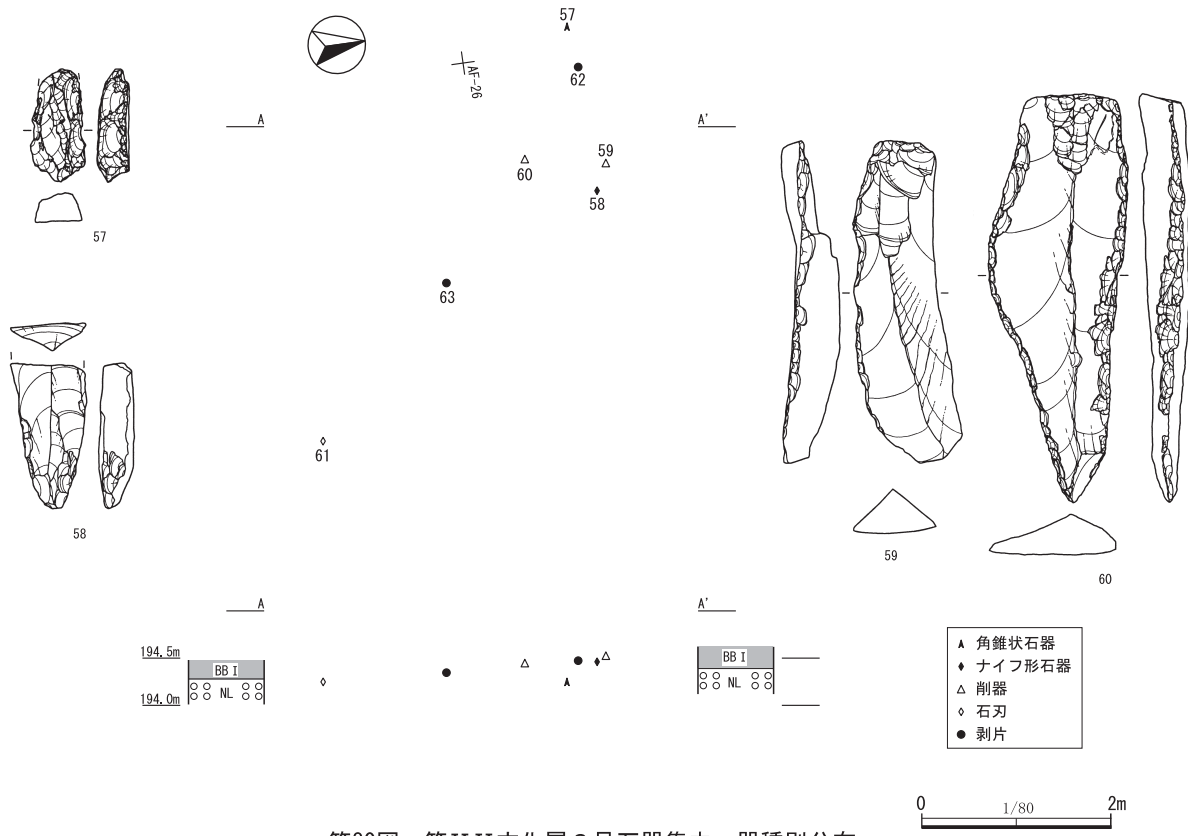
表33 第XV文化層3号石器集中 石器組成

		角錐状石器	ナイフ形石器	削器	石刃	剥片	計
黒曜石	箱根畑産	1				1	2
	ホルンフェルス		1	2	1	1	5
計		1	1	2	1	2	7

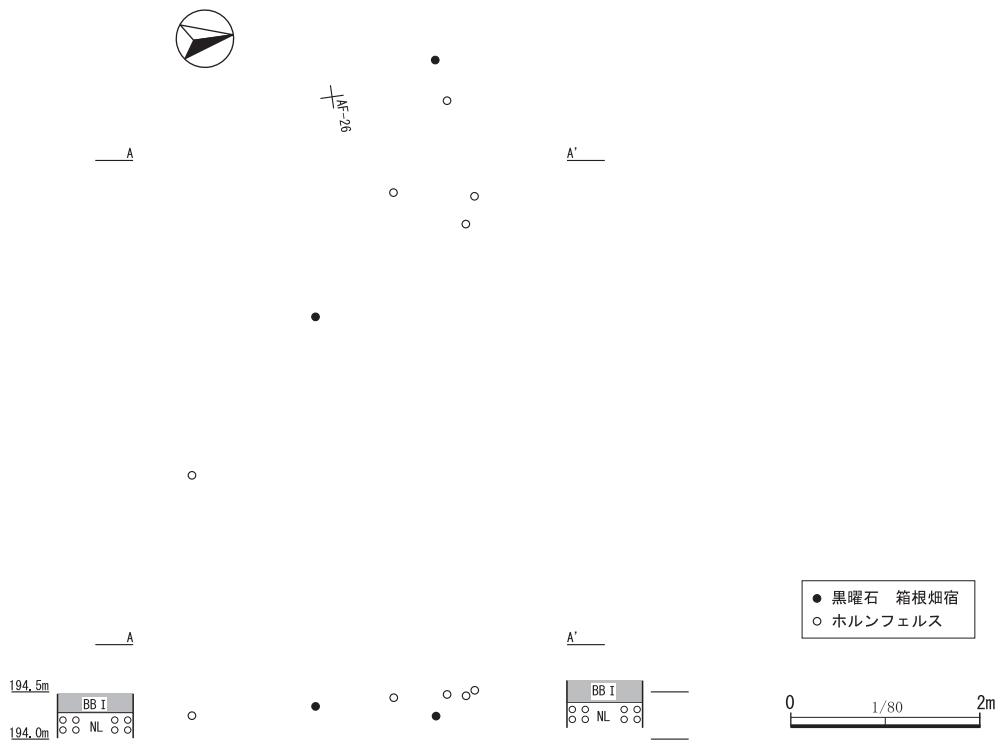
表34 第XV文化層東尾根(南) 礫群属性

礫群番号	構成礫数	赤化			形態			石材			
		完形		非完形	角	垂角	垂円	安山岩	輝石	玄武岩	多孔質
		赤化	非赤化								
3号	12	1	2	9	1	8	3	5	5	2	

赤化1：全面が赤化

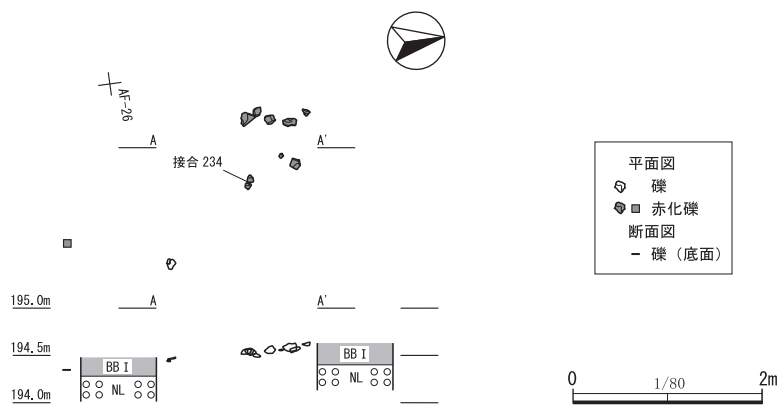


第80図 第XV文化層3号石器集中 器種別分布

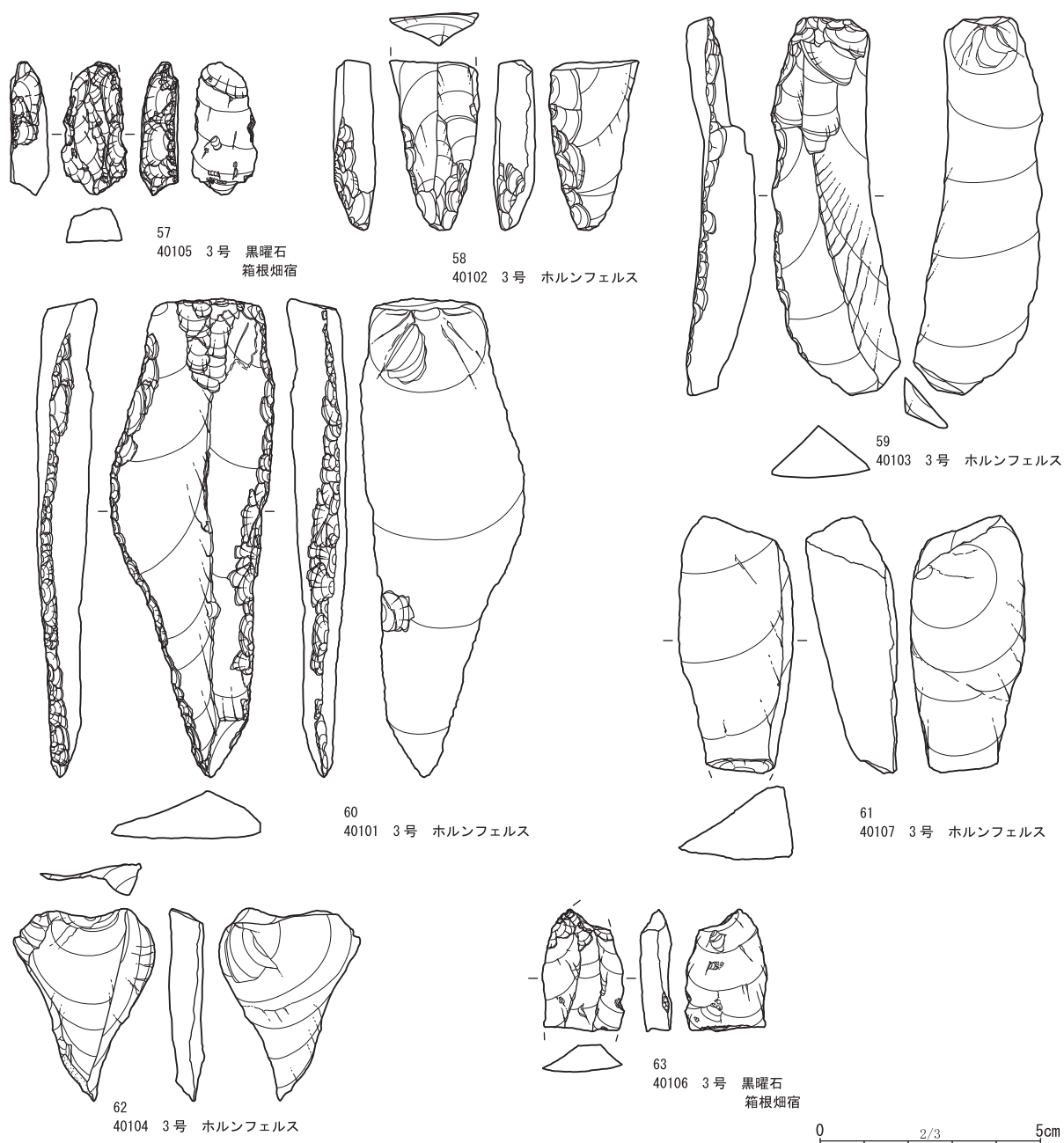


第81図 第XV文化層3号石器集中 石材別分布





第82図 第XV文化層3号礫群



第83図 第XV文化層東尾根(南) 石器集中

## (2) 3号石器集中の出土石器 (第83図)

## 角錐状石器 (57)

1点出土した。箱根畑宿産黒曜石製である。両側縁を厚形鋸歯縁加工で成形しており、階段状末端の剥片を素材とし、基部に素材末端の平坦面を残している。先端は折損した後、右側縁から加工が施されている。

## ナイフ形石器 (58)

1点出土した。ホルンフェルス製で、二次加工の形態から基部側の破片と判断しているが、中間部で大きく折損しているため確実ではない。両側縁背面側への加工に加え右側縁腹面側には平坦剥離が施されている。

## 削器 (59・60)

2点出土した。ともにホルンフェルス製で単剥離打面の石刃を素材とし、59では左側縁、60では両側縁のほぼ全域にわたり二次加工が成されている。

## 剥片類 (61~63)

石刃1点、剥片2点が出土した。61はホルンフェルス製の石刃で広い単剥離打面をもつ甲高の形状である。打点が右側縁側に偏っており、これは同石材の剥片62でも同様である。63は箱根畑宿産黒曜石の剥片である。背面稜が側縁とほぼ並行で、折損しているが石刃状の形態であった可能性がある。

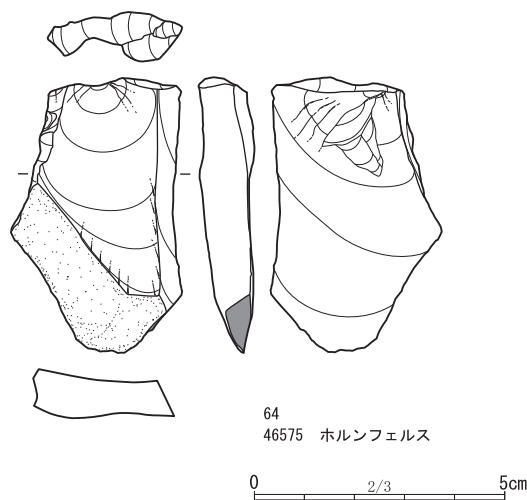
## 4. 東支谷の遺物群

## (1) 遺物の分布 (第68図)

石器2点、礫1点が出土した。出土地点は石器がAG-19、AG-20グリッド、礫がAH-22グリッドと分散しており、特定のまとまりは認められない。

## (2) 出土石器 (第84図)

二次加工剥片、剥片各1点が出土した。64はホルンフェルス製の二次加工剥片で、左側縁に僅かに二次加工が認められる。AG-20グリッド出土。



第84図 第XV文化層東支谷 石器集中外

5. 中央尾根の遺物群

(1) 遺物の分布 (第85~88図)

石器75点、礫22点の他、炭化材が比較的まとまって出土した (表35・38)。遺物の大半は4・5号石器集中、4号礫群、1号炭化物集中など中央尾根地区の南側のU-16グリッド周辺に分布し、この地区の中央部から北側には少数の遺物が散在していた。

南側の石器集中の石器群はこの文化層では西尾根に次ぐ規模のもので、箱根畑宿産黒曜石を主体とする。

4号石器集中 (第89・90図、表36)

V-16グリッド南西部を中心に出土した石器4点から成る。出土層位は第I黒色帯から第Iスコリア層である。石器は全て箱根畑宿産黒曜石製で、このうち3点が搔器である。

表35 第XV文化層中央尾根 石器組成

	角錐状石器	ナイフ形石器	搔器	削器	二次加工剥片	石刃	剥片	碎片	計
黒曜石	和田鷹山						1		1
	蓼科冷山						1		1
	箱根畑宿	1		7		1	38	3	50
	天城柏峠						1(1)		1(1)
	神津島恩馳島				1		1		2
	産地不明			1			4		5
	黒曜石計	1		8	1	1	46(1)	3	60(1)
ガラス質黒色安山岩		1	1			2	2	6	
ホルンフェルス		2		1		3	2	8	
玉髓							1(1)		1(1)
計	1	3	9	2	1	5	51(2)	3	75(2)

括弧内は全体数の内、微細剥離痕のあるものの点数。

表36 第XV文化層  
4号石器集中 石器組成

	搔器	剥片	計
黒曜石			
箱根畑宿	3	1	4
計	3	1	4

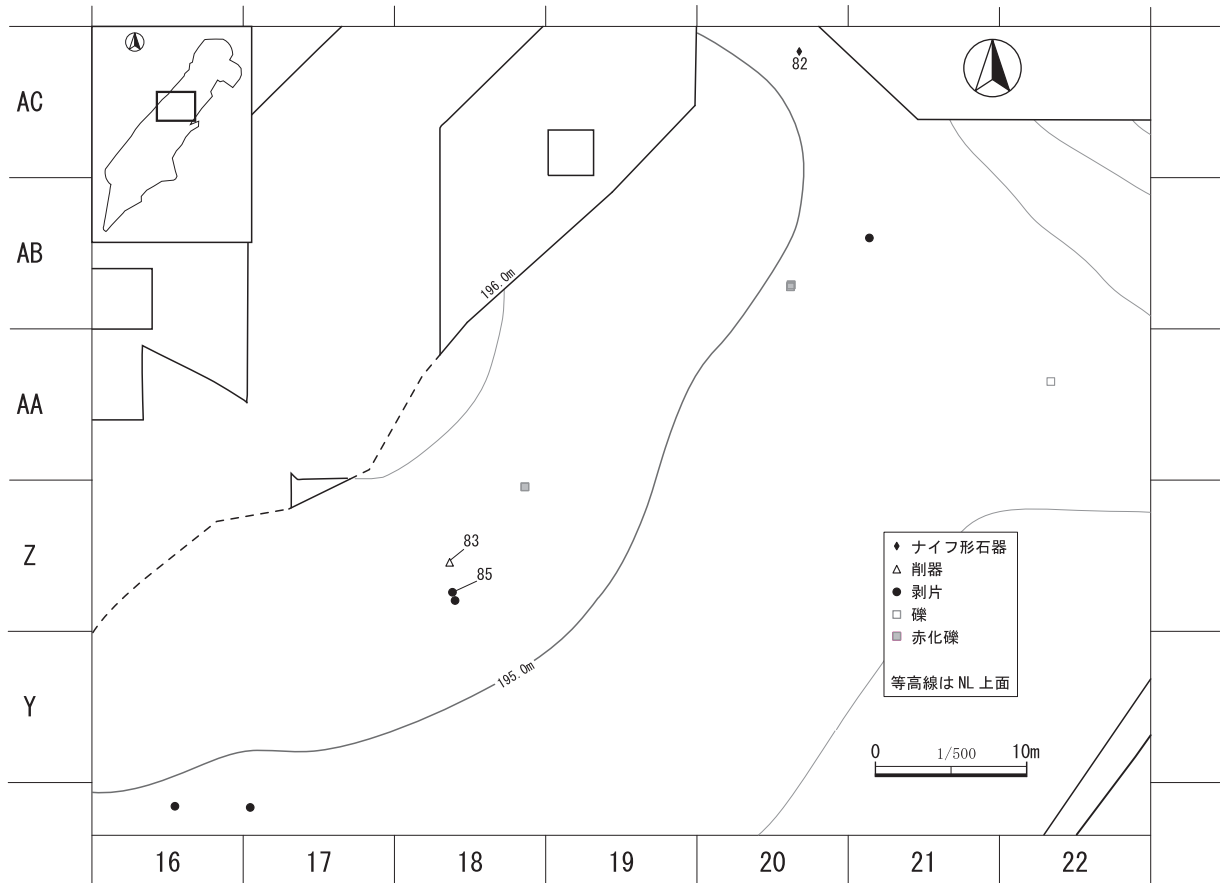
表37 第XV文化層5号石器集中 石器組成

	ナイフ形石器	搔器	削器	二次加工剥片	石刃	剥片	碎片	計	
黒曜石	和田鷹山					1		1	
	蓼科冷山					1		1	
	箱根畑宿		4		1		35	3	43
	産地不明		1				4		5
	黒曜石計		5		1		41	3	50
ガラス質黒色安山岩		1			2			3	
ホルンフェルス	2		1		3			6	
計	2	6	1	1	5	41	3	59	

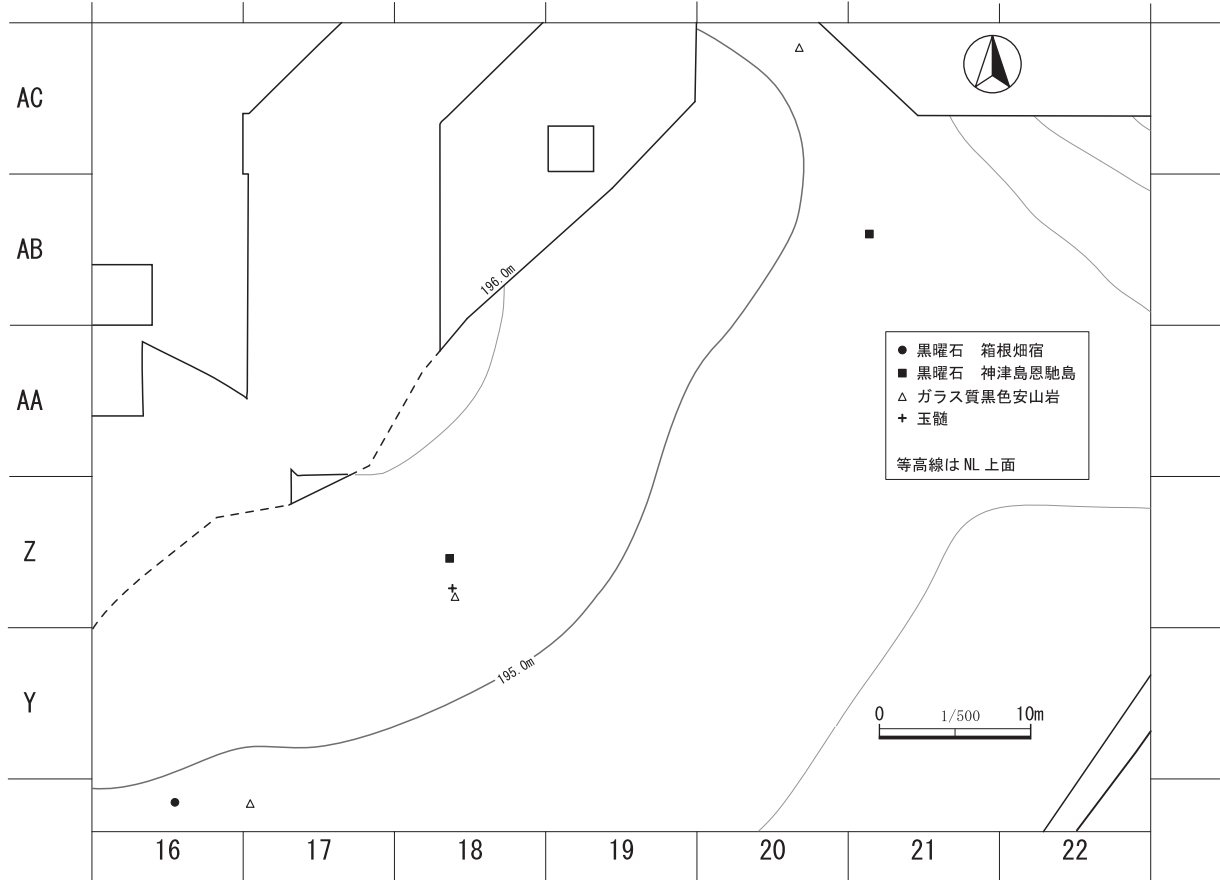
表38 第XV文化層中央尾根 礫群属性

礫群番号	構成礫数	赤化			形態				石材			
		完形		非完形	角	亜角	亜円	円	安山岩	輝石	玄武岩	多孔質
		赤化	赤化1	赤化2								
4号	5	2	2	1		3	1	1		4	1	
遺構外	17	10	4	3	1	12	4			7	7	3

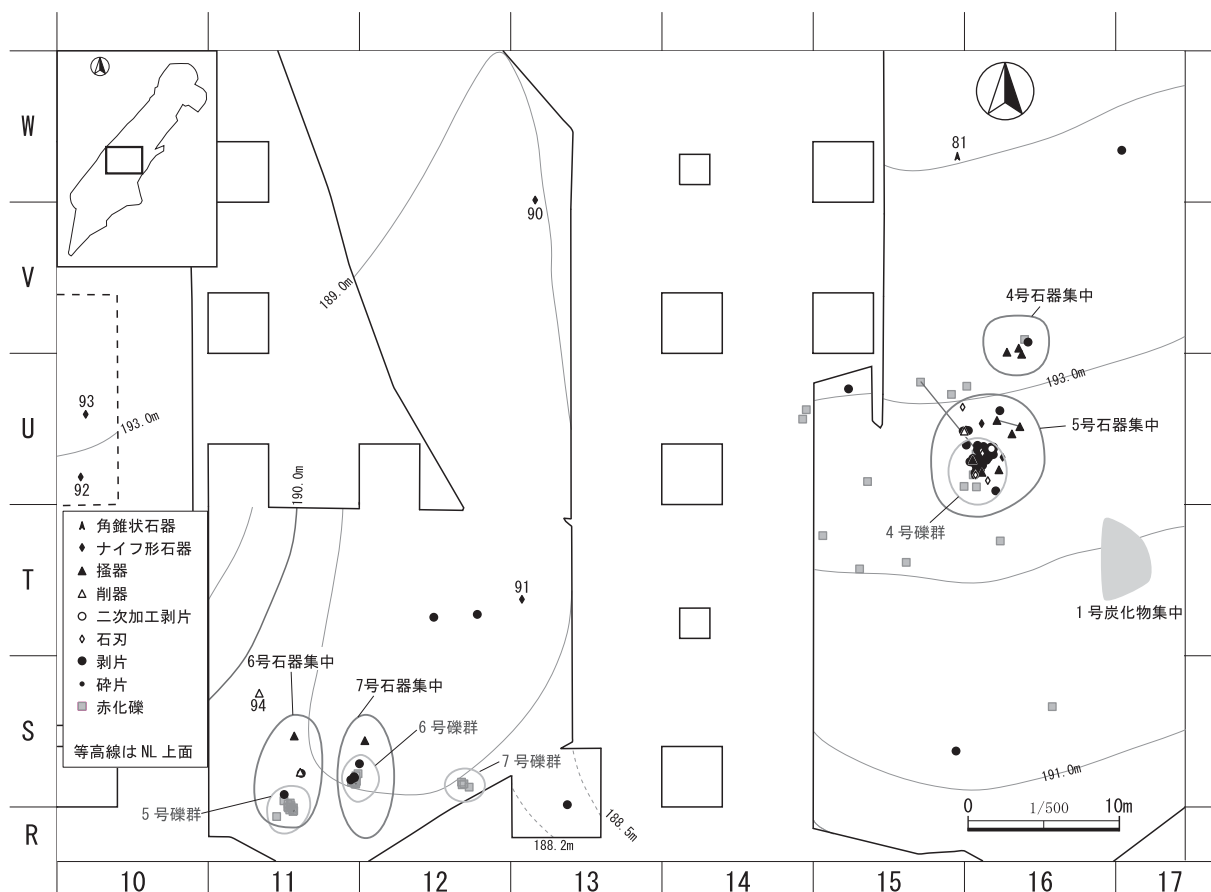
赤化1: 全面が赤化 赤化2: 礫の外皮のみ赤化



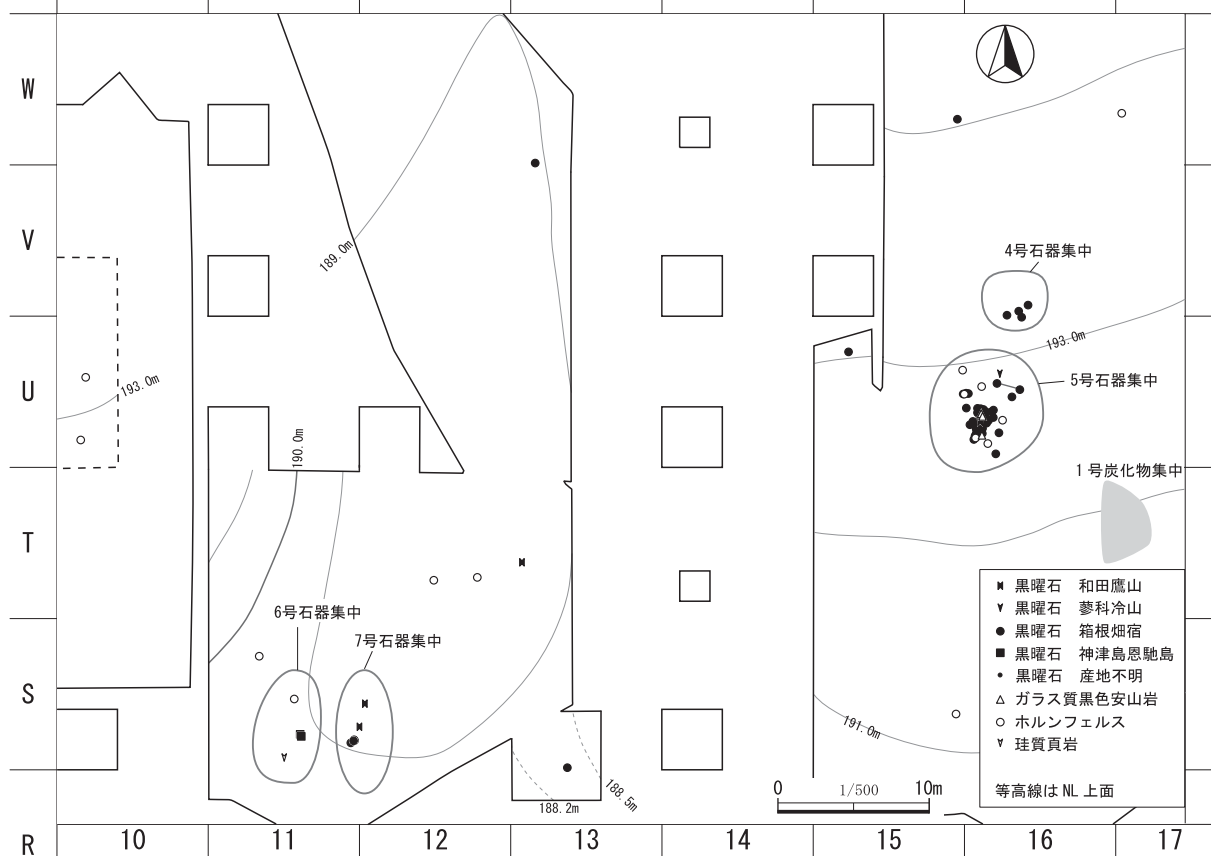
第85図 第X V文化層中央尾根（1）器種別分布



第86図 第X V文化層中央尾根（1）石材別分布



第87図 第XV文化層中央尾根(2)・西支谷 器種別分布



第88図 第XV文化層中央尾根(2)・西支谷 石材別分布

## 5号石器集中（第89・90図、表37）

U-16グリッド西半部を中心に出土した石器59点から成る。特に径約2mの範囲に密集しており、4号礫群はこの密集部分と重複して分布していた。主たる出土層位は第I黒色帯で、一部が第Iスコリア層、休場層直下黒色帯から出土した。石器は箱根畑宿産黒曜石製が主体でホルンフェルス、ガラス質黒色安山岩、信州産黒曜石が伴う。ナイフ形石器2点、搔器6点、削器、二次加工剥片各1点が含まれる。

## 4号礫群（第91図、表38）

U-16グリッド南西部を中心に出土した礫5点から成る。全て被熱礫で、長径11.8cm・重量1.4kgの垂円礫を始め5～8cmの礫で構成される。平均の大きさは長径7.5cm・重量0.38kgである。出土層位は第I黒色帯である。被熱礫は礫群の外部10数mの範囲にも点在し、1点は礫群礫と接合する。また、礫群の西側のU-15グリッドでは長径23.8cm、重量約8.0kgの大型礫も出土している。

## 1号炭化物集中（第92図）

T-16・17グリッドで検出された。炭化物の分布域は5.0m×3.5mで、炭化材試料が5点採取された。そのうち1点について放射性炭素年代測定により23,980±90BP（142-44）の年代値が得られた。

## （2）4・5号石器集中の出土石器（第93・94図）

## ナイフ形石器（65・66）

ホルンフェルス製のものが2点出土した。65は節理面打面で先細りの寸詰まりな縦長剥片を素材とし、左側縁基部を二次加工している。66は単剥離打面の縦長剥片を素材とし、基部側両側縁と左側縁先端側とを二次加工しており、特に左側縁は厚形の加工になっている。先端部は折損している。

## 搔器（67～74）

9点出土した。67～70・72・73は箱根畑宿産黒曜石製で、71も分析不可であったが箱根畑宿産黒曜石製の可能性が高い。67は寸詰まりの剥片の右側縁先端側にやや内湾する二次加工が施されている。さらに先端部（67a）の折損後、その折面に数回の二次加工が成されている（67b）。搔器に分類したが、折損前後とも二次加工の範囲が限定的な型のものである。68・69は二次加工が端部から側縁部まで及ぶもので、基部には素材打面と見られる剥離面を残し、右側縁基部側の角を斜めに落とした形態となっている。70も基部に平坦な素材面を残すが刃部加工は末端側の一辺に限られている。71は素材剥片の打面側を二次加工しており、弧状の刃部がほぼ半周している。72・73は比較的厚手の素材の長軸側の一端に刃部を設けたもので、72は両端を切断して長方形にした剥片を素材とし、73は素材剥片の打面側を刃部としている。74はガラス質黒色安山岩製搔器の刃部側破片と見られる資料である。加工はやや粗いが縁辺を潰す微細な加工で刃部が弧状になっている。

## 削器（75）

1点出土した。ホルンフェルス製でやや幅広の縦長剥片を素材とし、右側縁に基部から先端にわたり二次加工が施されている。

## 二次加工剥片（76）

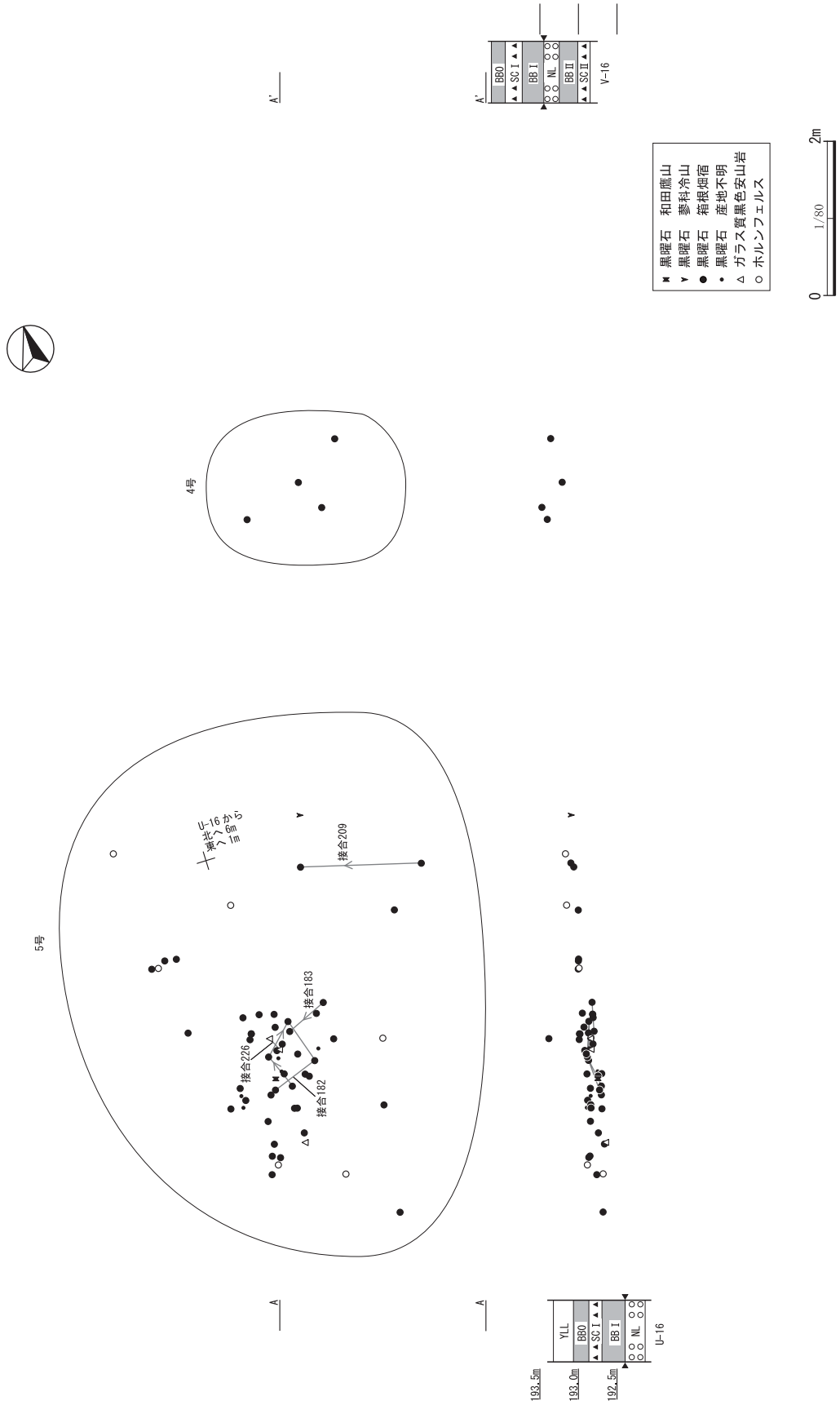
1点出土した。箱根畑宿産黒曜石製で、背面の大部分を礫面とする剥片を素材とし、末端部を打ち欠いたものである。

## 剥片類（77～80）

石刃5（接合により4）点、剥片42（接合により39）点、碎片3点出土した。石刃を全て図示した。77～79はホルンフェルス製で、打面の残る77、78は単剥離打面である。背面剥離痕にはしばしば横方向の剥離痕が見られることから、安定的に石刃が製作されていたものかは疑問が残るが、先細りの形態となる傾向が窺える。80はガラス質黒色安山岩製である。やはり単剥離打面で末端は外反剥離（ヒンジ・

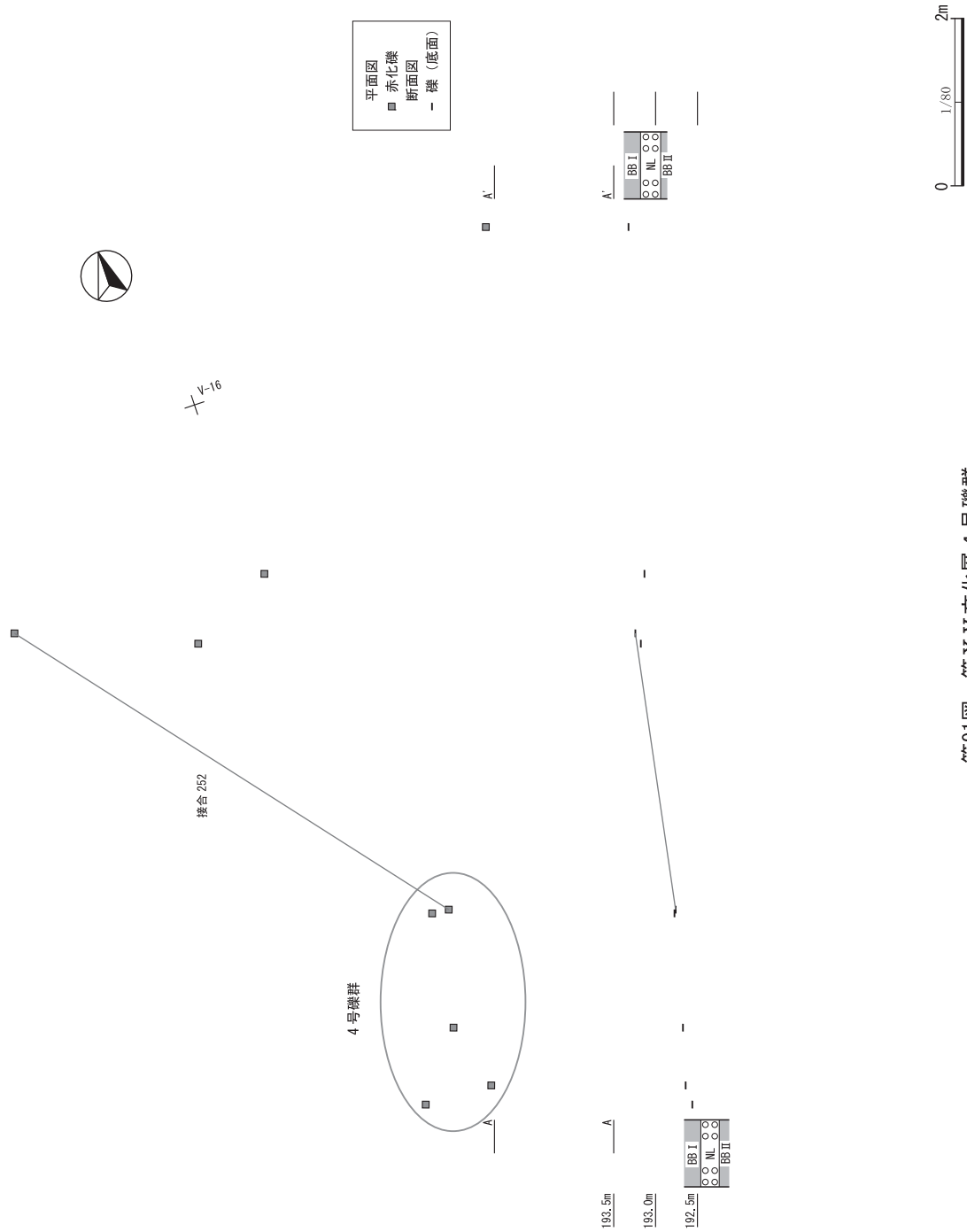


第89図 第XV文化層4・5号石器集中 器種別分布

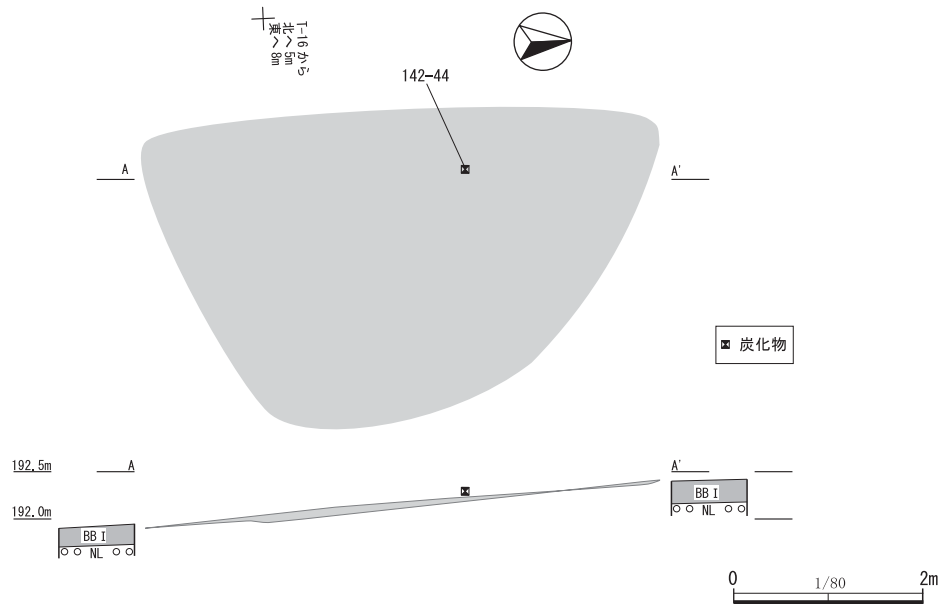


第90図 第ⅤⅥ文化層 4・5号石器集中 石材別分布





第01图 第XV文化層4号磔群



第92図 第XV文化層1号炭化物集中

フラクチャー) となっている。その他の剥片類は箱根畑宿産を主体とする黒曜石製であり、ホルンフェルス、ガラス質黒色安山岩は、定型石器以外では石刃のみが存在している。

### (3) 石器集中外の出土石器 (第95図)

#### 角錐状石器 (81)

1点出土した。素材剥片を縦位に用いており、左側縁が対向調整で大幅に加工されているのに対し、右側縁は加工度が低く、ナイフ形石器との中間的な形態を示す資料である。4号石器集中の北側10数mのW-15グリッド内の地点で出土し、箱根畑宿産黒曜石製であることから石器集中の石器群と関連するものの可能性もある。

#### ナイフ形石器 (82)

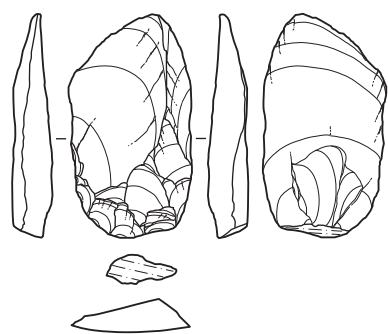
1点出土した。ガラス質黒色安山岩製で単剥離打面の石刃を素材とする。打面側を基部として、右側縁は基部のみを加工し、左側縁は基部を含め先端までを断続的に加工している。AC-20グリッド出土。

#### 削器 (83)

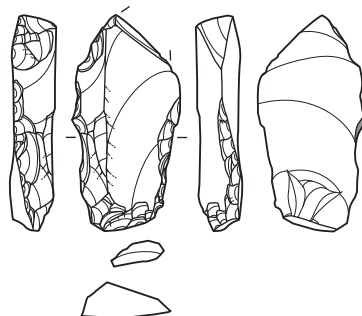
神津島恩馳島産黒曜石製で、縦方向に折断された剥片を素材とし、右側縁の表裏に加工を施して鋸歯状の刃部を設けている。

#### 剥片類 (84・85)

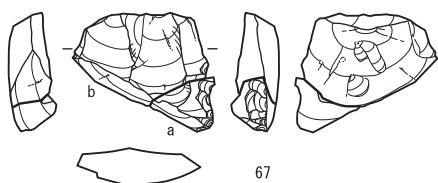
剥片9点が出土し、そのうち2点を図示した。84は天城柏峠産黒曜石製で、流理構造で薄く剥がれた板状の礫を折断、分割したものである。右側縁裏面側に微細剥離痕が認められる。85は玉髓製で、側方からの剥離で形成された稜の部分が剥離されたものである。



65  
37220 5号 ホルンフェルス



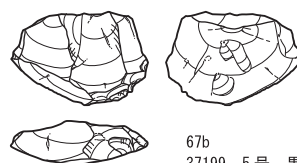
66  
37194 5号 ホルンフェルス



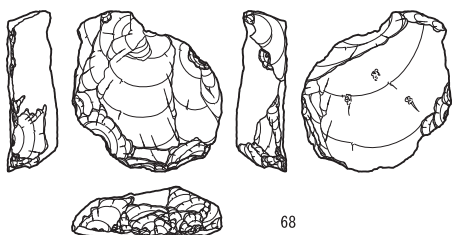
67  
黒曜石  
箱根畑宿  
接合資料 209  
接合状態



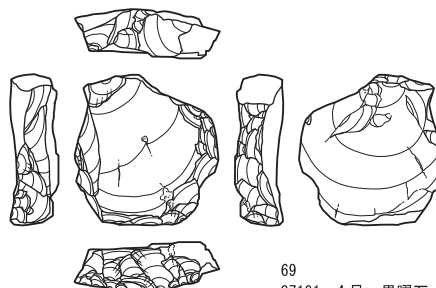
67a  
37202 5号 黒曜石  
箱根畑宿  
接合資料 209



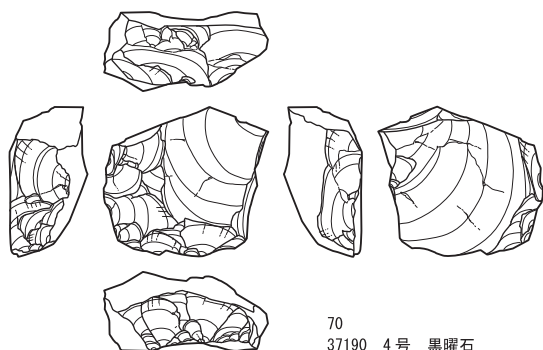
67b  
37199 5号 黒曜石  
箱根畑宿  
接合資料 209



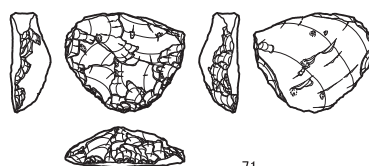
68  
37192 4号 黒曜石  
箱根畑宿



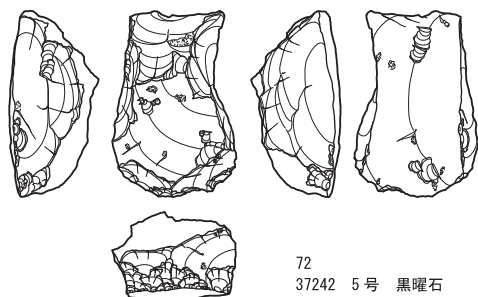
69  
37191 4号 黒曜石  
箱根畑宿



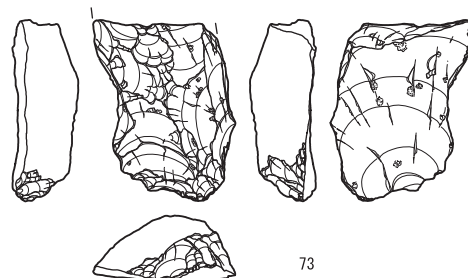
70  
37190 4号 黒曜石  
箱根畑宿



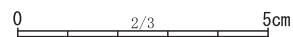
71  
37230 5号 黒曜石  
産地不明



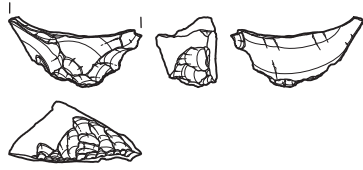
72  
37242 5号 黒曜石  
箱根畑宿



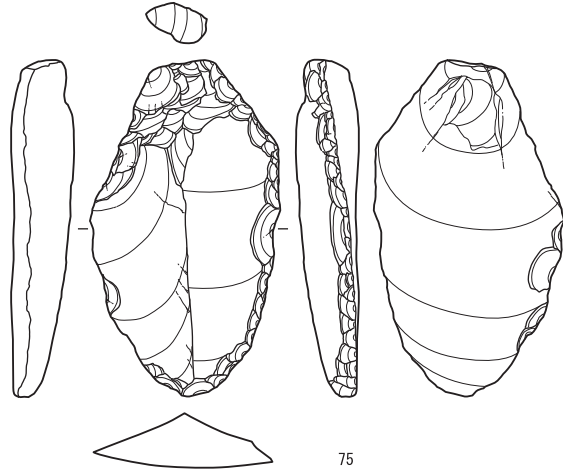
73  
37201 5号 黒曜石  
箱根畑宿



第93図 第XV文化層中央尾根 石器集中(1)



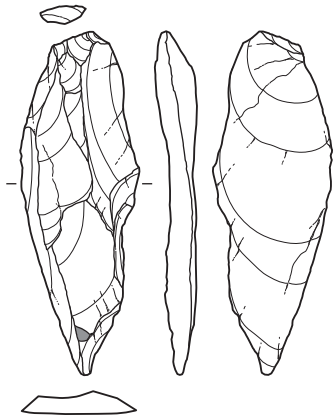
74  
37237 5号 ガラス質黒色安山岩



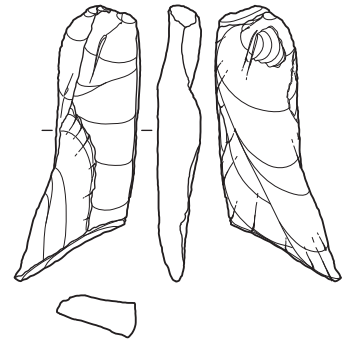
75  
37252 5号 ホルンフェルス



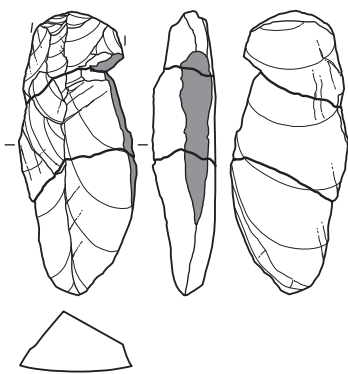
76  
37218 5号 黒曜石  
箱根畑宿



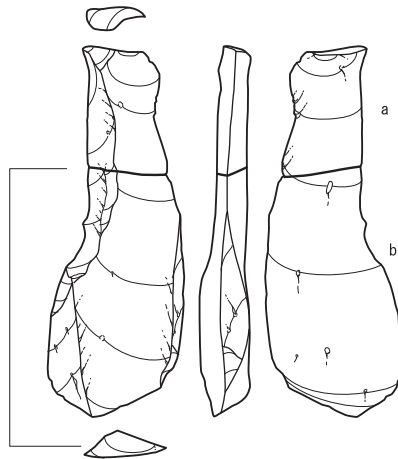
77  
37203 5号 ホルンフェルス



78  
37195 5号 ホルンフェルス



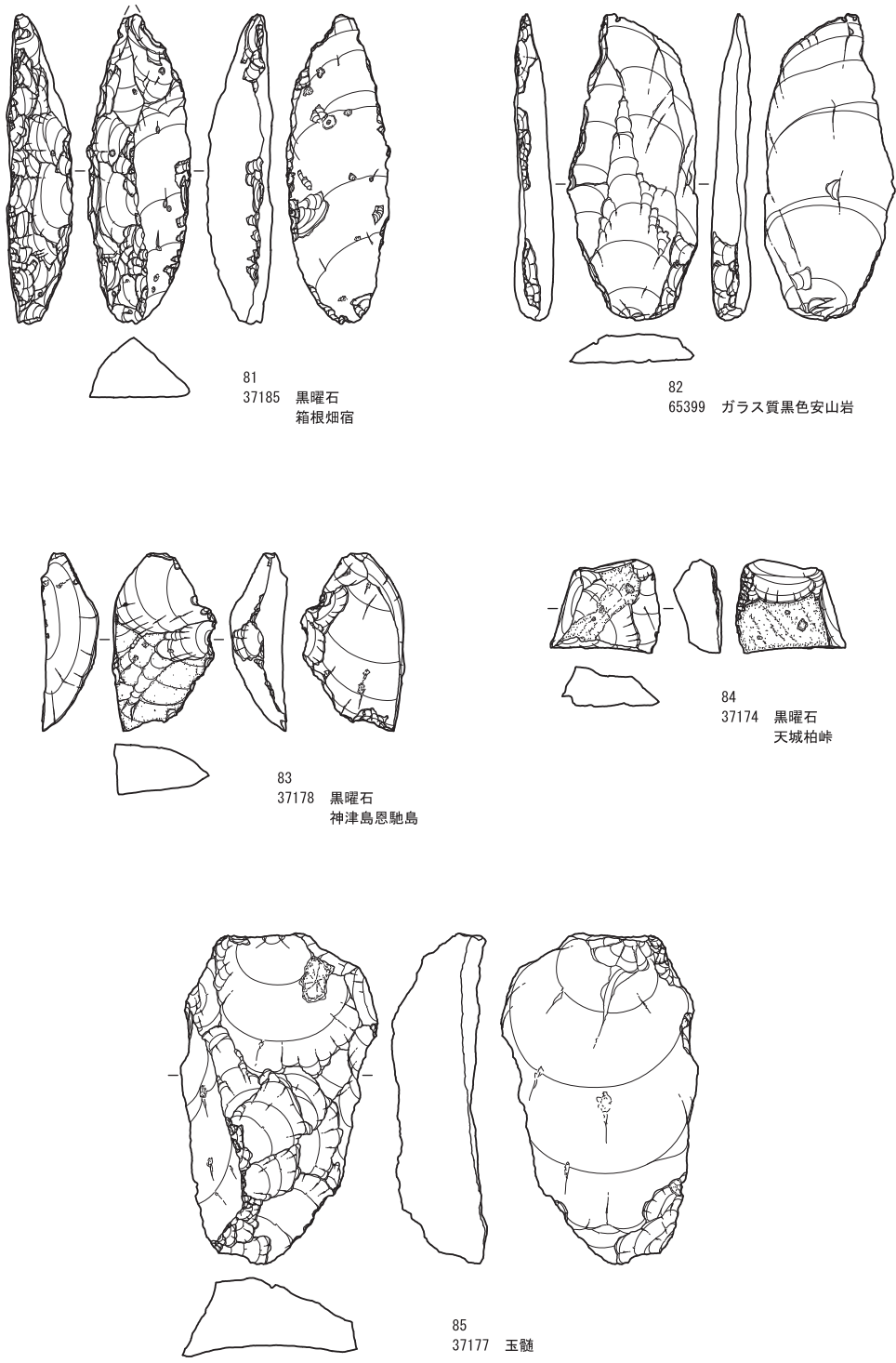
79  
37244 5号 ホルンフェルス



80  
5号 ガラス質黒色安山岩  
接合資料 226  
接合資料

0 2/3 5cm

第94図 第XV文化層中央尾根 石器集中(2)



第95図 第XV文化層中央尾根 石器集中外

6. 西支谷の遺物群

(1) 遺物の分布 (第87・88図)

石器18点、礫25点、及び少量の炭化物が出土した (表39・42)。S-11・12グリッド周辺に6・7号石器集中、5～7号礫群が分布し、遺物の大半はこの部分にまとまっている。石器は点数が少ない割に石材の種類が多く、接合資料も確認されていないなど、石器製作の行われた痕跡が乏しい。

6号石器集中 (第96・97図、表40)

S-11グリッドから出土した石器4点から成る。5号礫群と重複し、出土層位は第I黒色帯上部である。分布の密集度は低く、石器は神津島恩馳島産黒曜石製2点、ホルンフェルス製、珪質頁岩製各1点で搔器、削器各1点を含む。

7号石器集中 (第98・99図、表41)

S-11グリッド東部から出土した石器6点から成る。出土層位は第I黒色帯上部である。石器は南側に箱根畑宿産黒曜石製剥片4点がまとまり、この部分で6号礫群と重複する。北側に離れて和田鷹山産黒曜石製の搔器、剥片が1点ずつ分布する。

5号礫群 (第100図、表42)

R・S-11グリッド境界部付近で出土した礫13点から成る。径1mの範囲にほぼまとまり、全ての礫に被熱の痕跡が認められた。礫の大きさは長径10～20cmのもの10点、長径4～5cmの小片3点から成り、平均で長径13.4cm・重量0.62kgである。出土層位は第I黒色帯上部である。

6号礫群 (第100図、表42)

S-11グリッド南東部で出土した被熱礫8点から成る。礫は径1mの範囲に広がり、大きさは平均で長径9.2cm・重量0.26kgである。長径14.0cm・重量1.1kgの亜円礫が最大で、それ以外の7点は2個体の礫が割れたものである。出土層位は第I黒色帯上部である。炭化物試料2点が採取され、そのうち1点について放射性炭素年代測定により24,140±100BP (142-58)の年代値が得られた。

表39 第XV文化層西支谷 石器組成

		ナイフ形石器	搔器	削器	剥片	計
黒曜石	和田鷹山	1	1		1	3
	箱根畑宿	1			5	6
	神津島恩馳島			1	1	2
	黒曜石計	2	1	1	7	11
ホルンフェルス		2	1	1	2	6
珪質頁岩					1(1)	1(1)
計		4	2	2	10(1)	18(1)

括弧内は全体数の内、微細剥離痕のあるものの点数。

表40 第XV文化層6号石器集中 石器組成

		搔器	削器	剥片	計
黒曜石	神津島恩馳島		1	1	2
	ホルンフェルス	1			1
珪質頁岩				1(1)	1(1)
計		1	1	2(1)	4(1)

括弧内は全体数の内、微細剥離痕のあるものの点数。

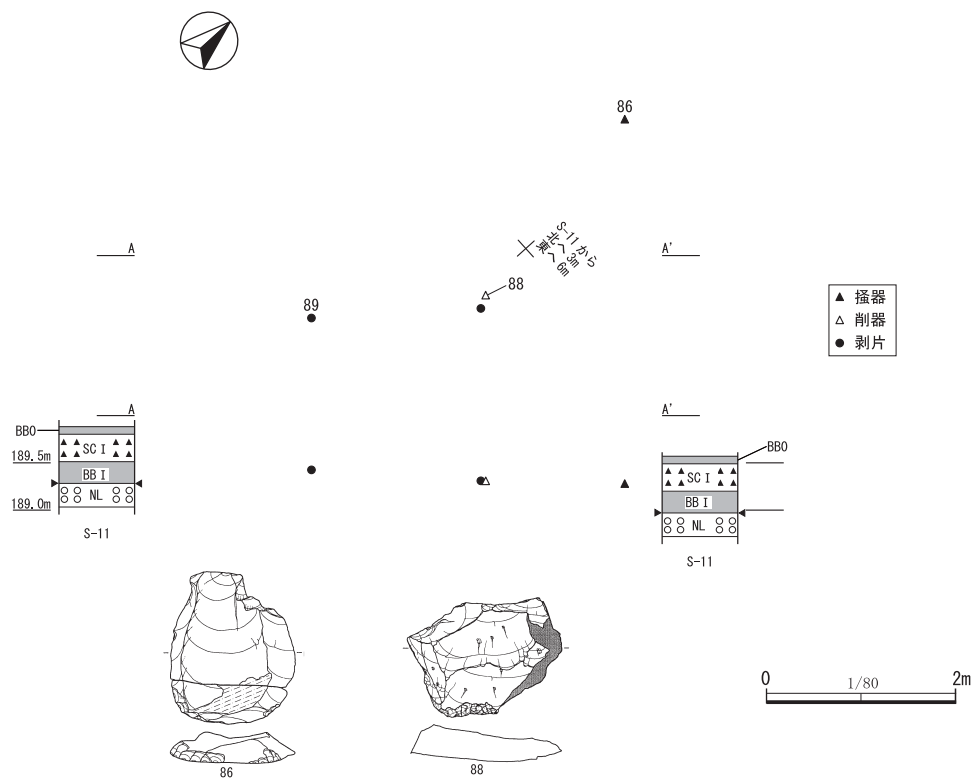
表41 第XV文化層  
7号石器集中 石器組成

		搔器	剥片	計
黒曜石	和田鷹山	1	1	2
	箱根畑宿		4	4
計		1	5	6

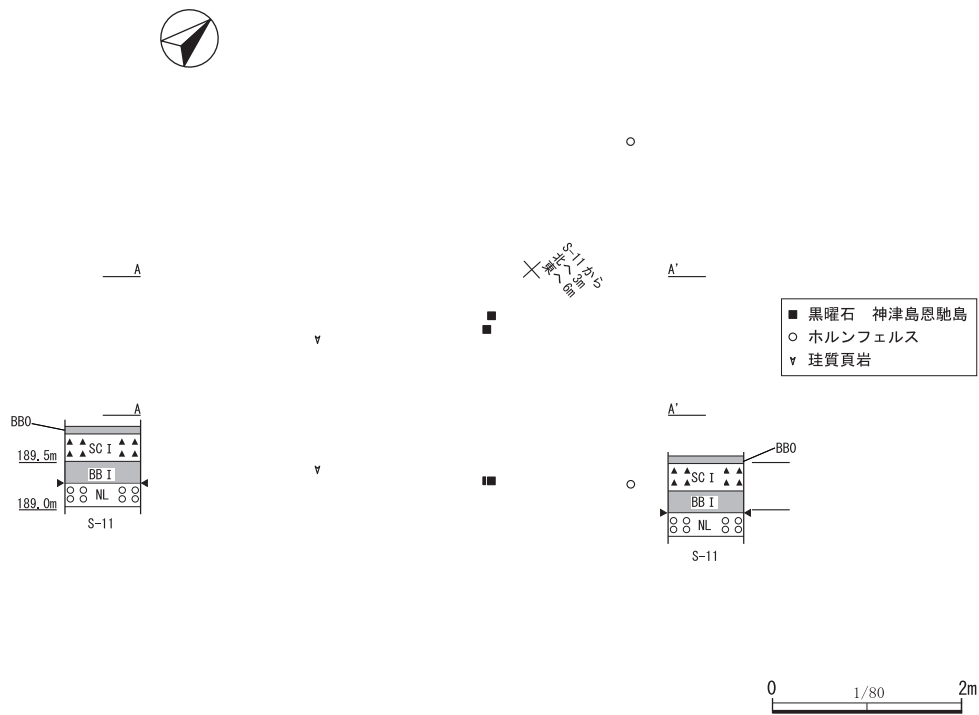
表42 第XV文化層西支谷 礫群属性

礫群番号	構成礫数	赤化			形態		石材				
		完形	非完形		亜角	亜円	安山岩	輝石 安山岩	多孔質 安山岩	玄武岩	多孔質 玄武岩
			赤化1	赤化2							
5号	13	2	3	8	9	4	6			3	4
6号	8	1	7		7	1	5	2		1	
7号	4	3		1	2	2	3			1	

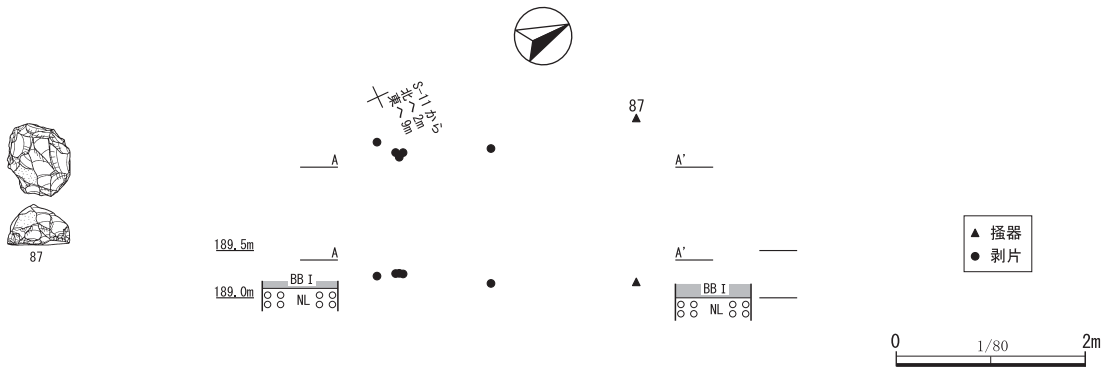
赤化1：全面が赤化 赤化2：礫の外皮のみ赤化



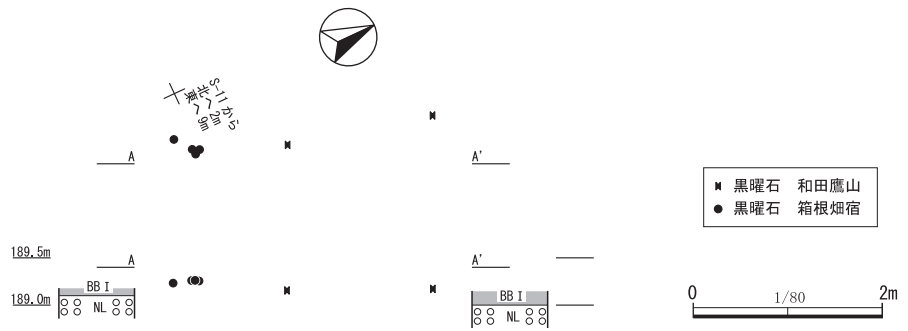
第96図 第XV文化層6号石器集中 器種別分布



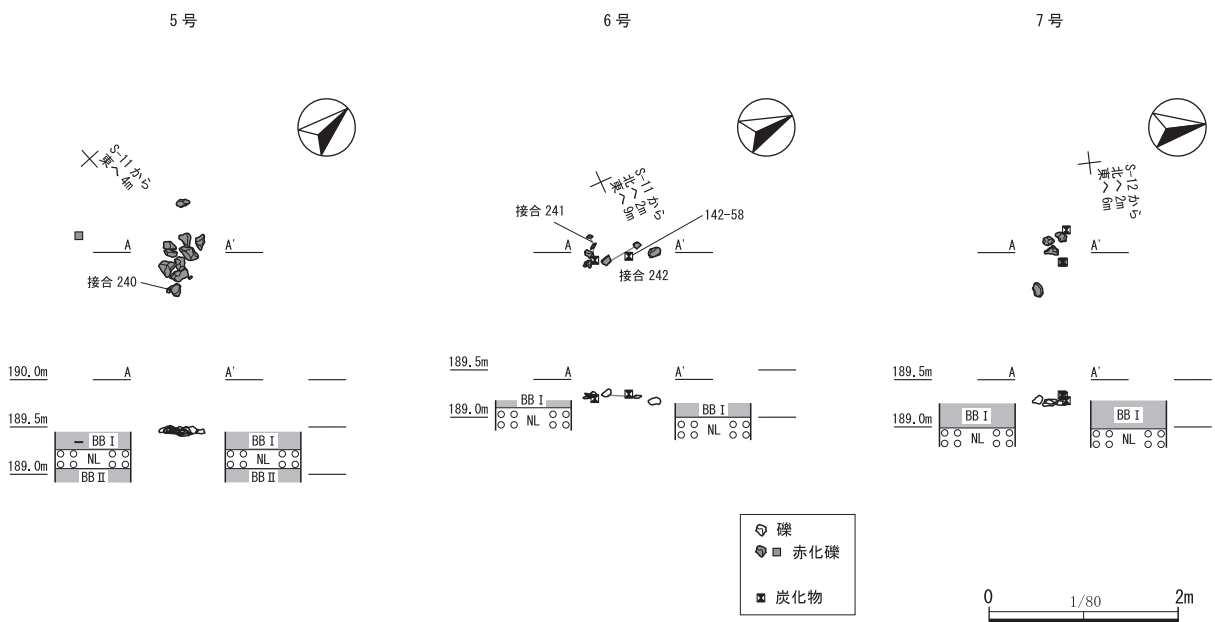
第97図 第XV文化層6号石器集中 石材別分布



第98図 第XV文化層7号石器集中 器種別分布

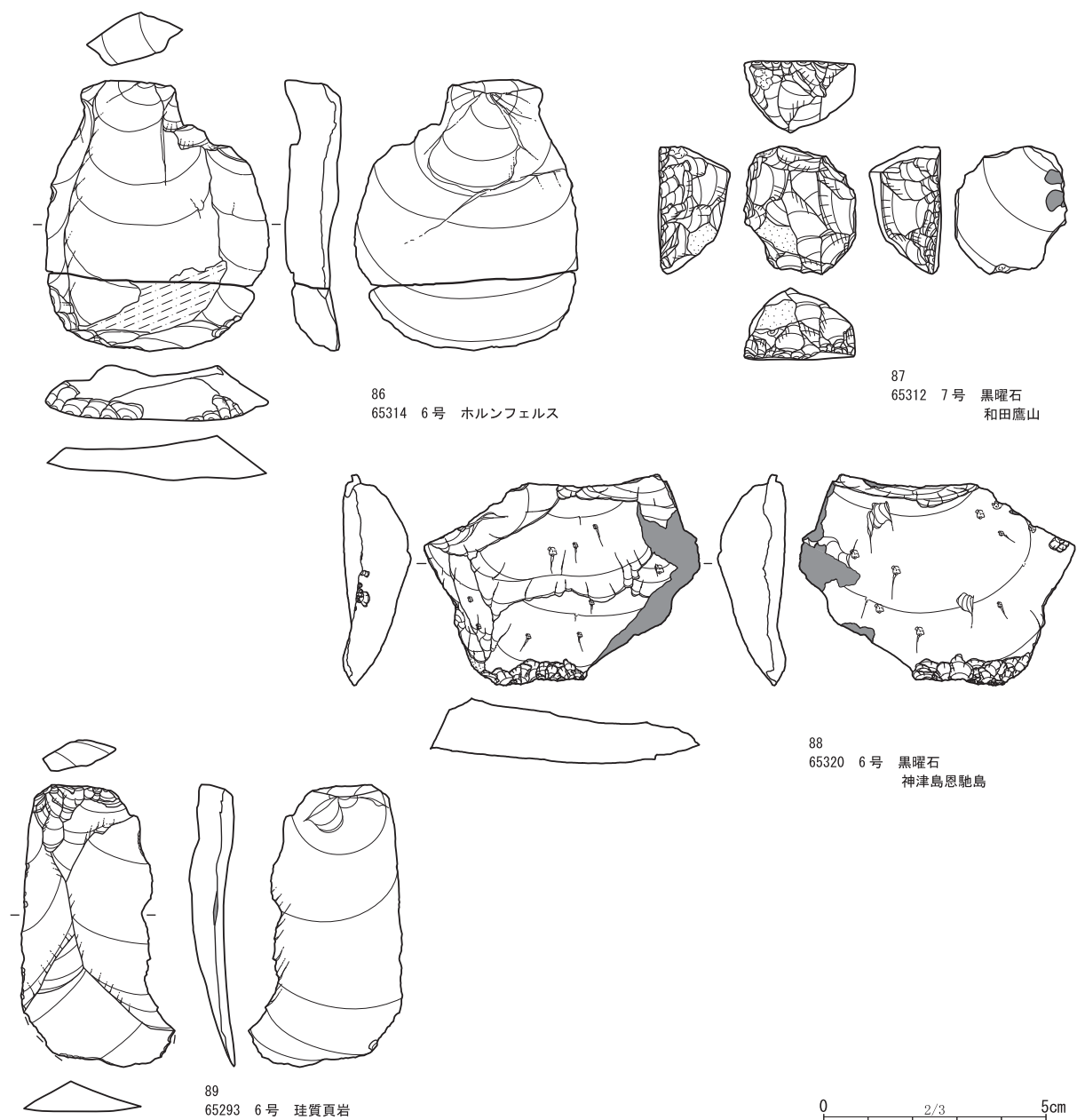


第99図 第XV文化層7号石器集中 石材別分布



第100図 第XV文化層5～7号礫群





第101図 第XV文化層西支谷 石器集中

7号礫群 (第100図、表42)

S-12グリッド南東部で出土した被熱礫4点から成る。出土層位は第I黒色帯上部である。礫は長径11~16cmで、平均で長径13.5cm・重量0.65kgの大きさである。炭化物試料3点が採取され、そのうち1点について放射性炭素年代測定により23,770±90BP (142-57)の年代値が得られた。

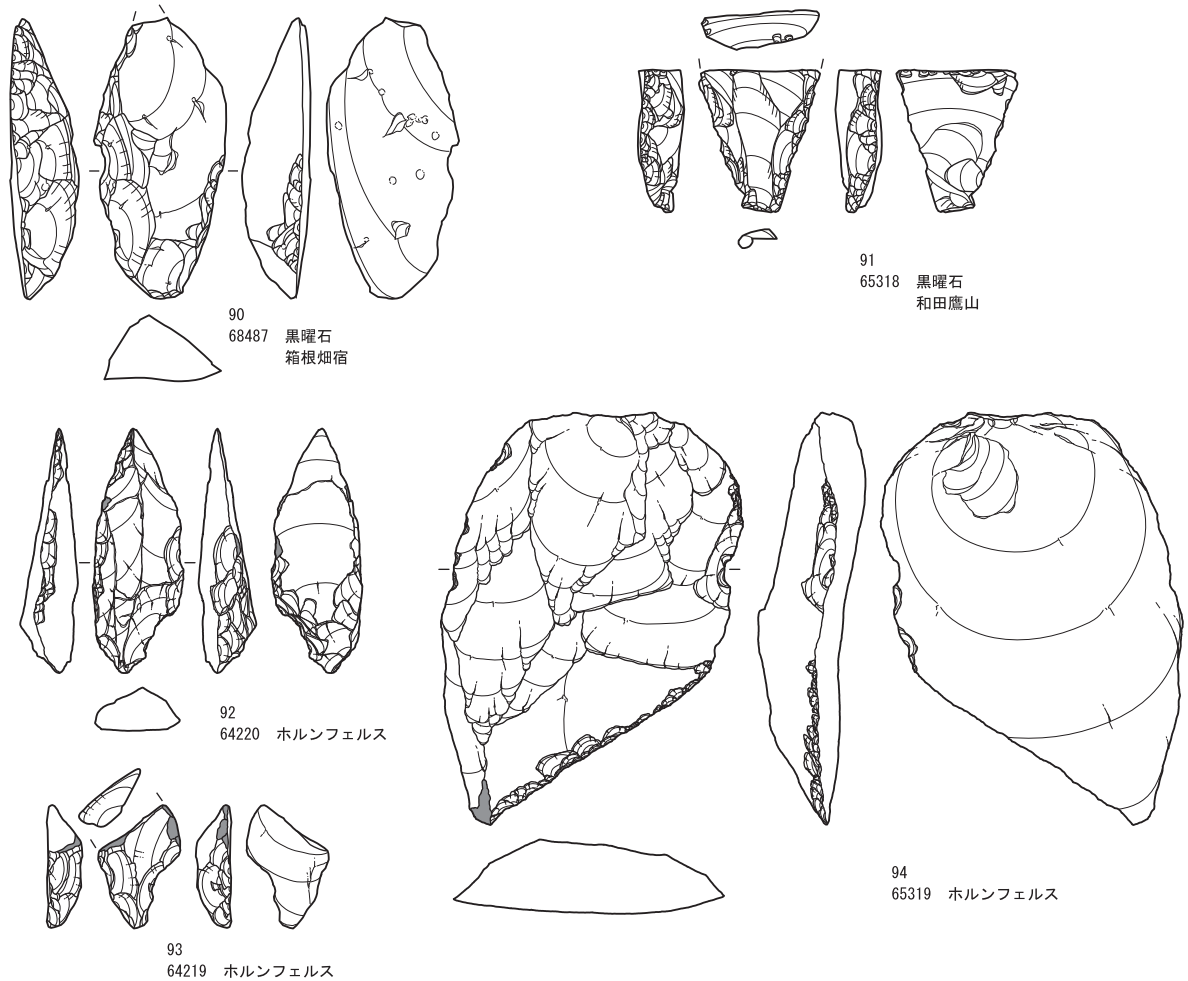
(2) 6・7号石器集中の出土石器 (第101図)

搔器 (86・87)

2点出土した。86はホルンフェルス製で、単剥離打面の幅広剥片を素材とし、末端の左側と右側に刃部加工が施されている。87は和田鷹山産黒曜石製で、厚手の素材の全周が加工されている。

削器 (88)

1点出土した。神津島恩馳島産黒曜石製で、幅広剥片の末端側縁辺に両面加工の刃部を設けている。



第102図 第XV文化層西支谷 石器集中外

剥片類 (89)

剥片が7点出土し、1点図示した。89は珪質頁岩製で石刃状の形態を成す。単剥離打面で頭部調整が顕著に見られる。

(3) 石器集中外の出土石器 (第102図)

ナイフ形石器 (90~93)

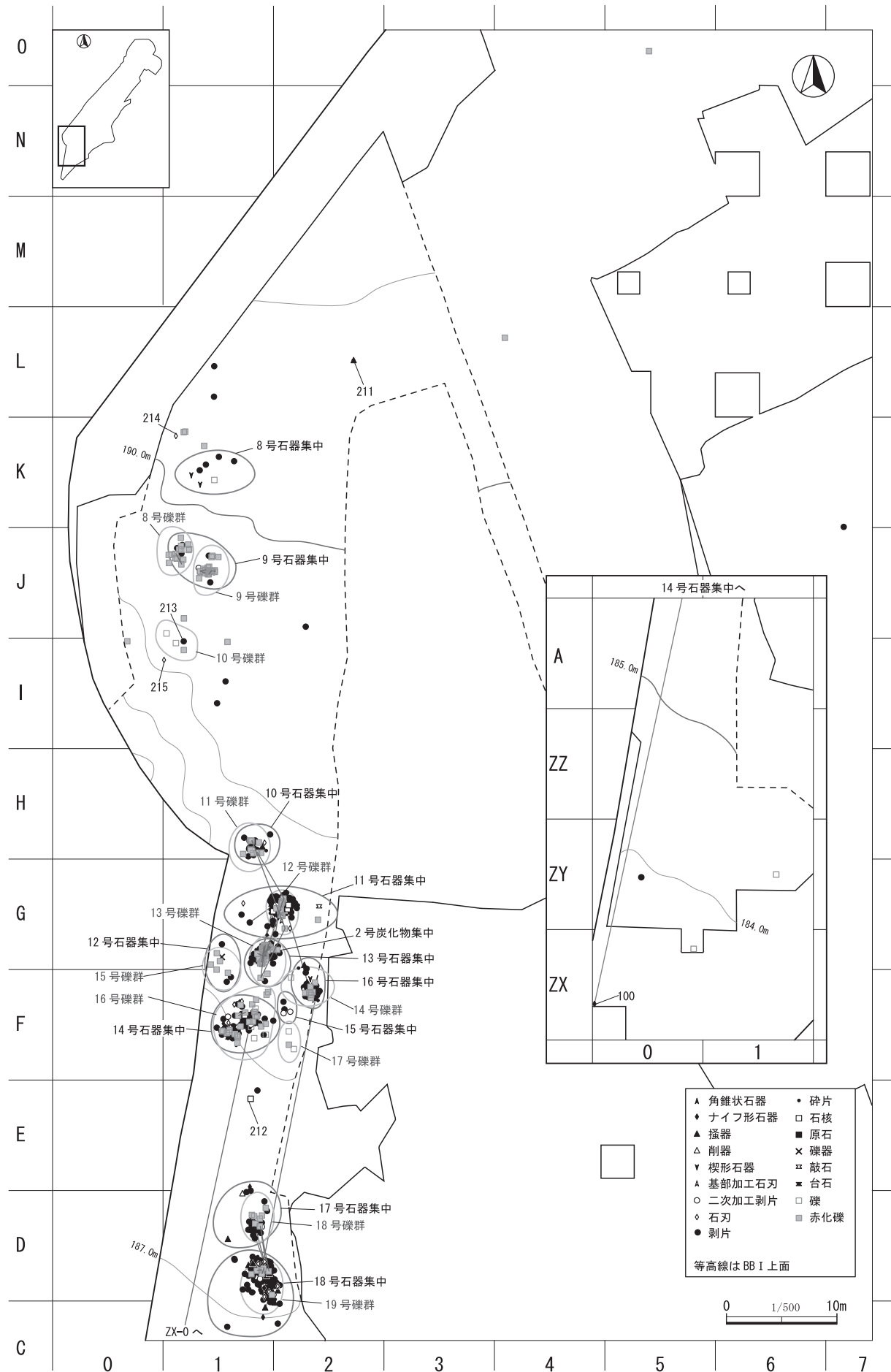
4点出土した。90は箱根畑宿産黒曜石製の幅広剥片を斜位に用いた二側縁加工のものである。背部加工は素材剥片の打面側で、鋸歯縁厚形加工となっている。W-13グリッド出土。91は和田鷹山産黒曜石製の基部側破片と見られる資料で、基部に打面を残置し両側縁を加工している。T-13グリッド出土。92はホルンフェルス製で、右側縁は基部腹面側を中心に階段状調整が施され、左側縁は先端部及び中ほどに断続的に調整が施されている。93はホルンフェルス製で、基部側破片と見られる資料である。両側縁に厚形の鋸歯状調整が施され、右側縁の基部加工がやや内湾する。少なくとも右側縁上部は素材縁辺が残されていたようである。92・93はU-10グリッド出土で、厳密には西尾根の東側、西支谷に向かう斜面上に位置する。

削器 (94)

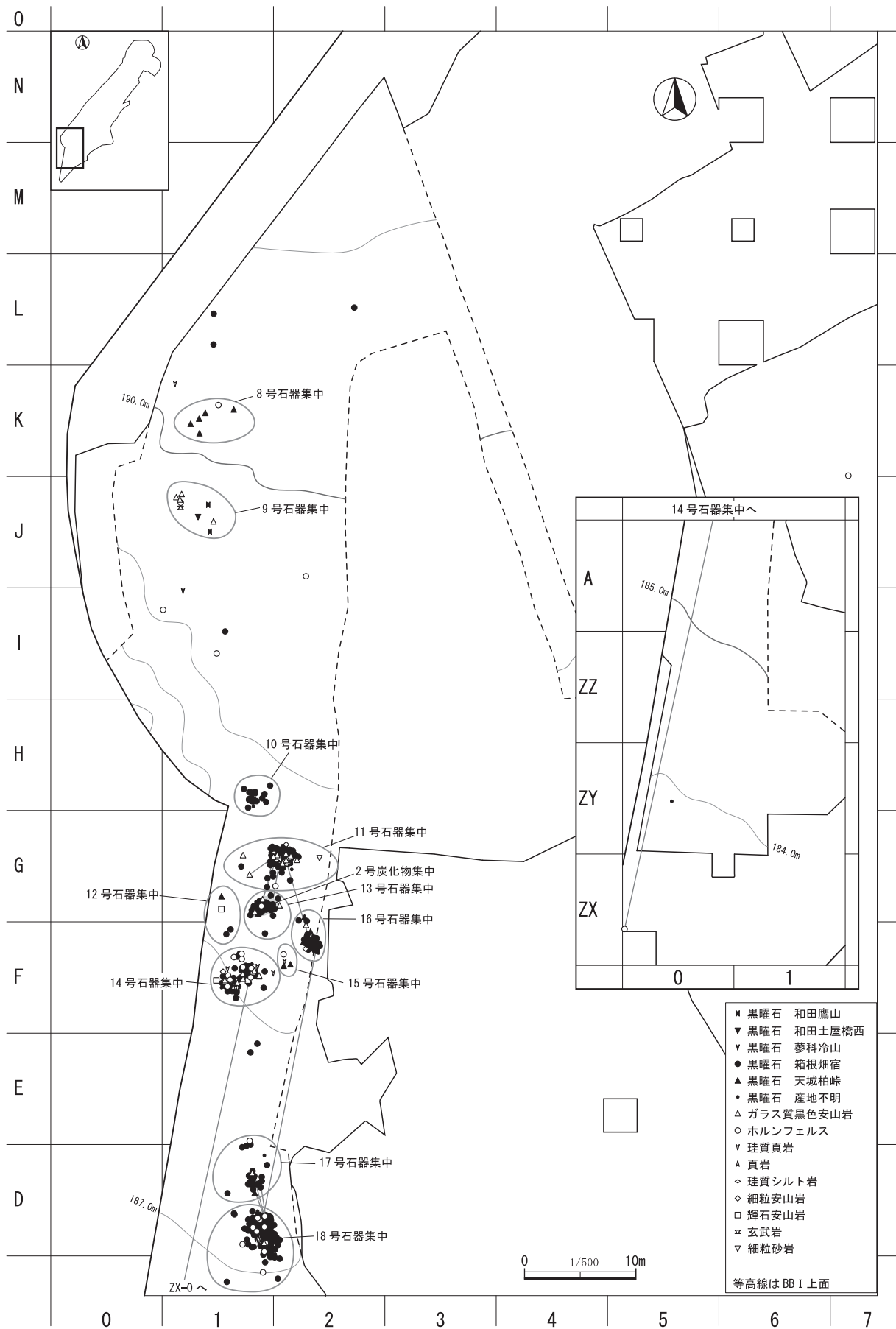
94はホルンフェルス製で、単剥離打面の剥片を素材とし、右側縁下半部に二次加工が施されている。

剥片類

ホルンフェルス製2点がT-12グリッドから、箱根畑宿産黒曜石製1点がS-13グリッドから出土した。



第103図 第XV文化層西尾根 器種別分布



第104図 第XV文化層西尾根 石材別分布

7. 西尾根の遺物群

(1) 遺物の分布 (第103・104図)

石器1,318点、礫169点、及び炭化物がまとまって出土した (表43・55)。大部分は西尾根の西側、谷に面する部分に南北に分布しており、この範囲に8～18号石器集中、8～19号礫群、2号炭化物集中がある。これらはさらに、K・J-1グリッド周辺の北側の遺物群 (8・9号石器集中、8～10号礫群を含む)、G・F-1・2グリッド周辺の中部の遺物群 (10～16号石器集中、11～17号礫群、2号炭化物集中を含む)、D-1グリッド周辺の南側の遺物群 (17・18号石器集中、18・19号礫群を含む) の3つに分かれて分布すると見なすことができる。中部の遺物群と南側の遺物群とは密集度の高い石器集中があり、石器は箱根畑産黒曜石製が主体で、1個体だが接合関係があるなど共通性、関連性が高い。一方北側の遺物群は石器の分布密度が低く、天城柏峠産黒曜石やガラス質黒色安山岩の方が多など、性格を異にしている。

特徴的な遺構としては、中部の遺物群に含まれる13号礫群があり、2号炭化物集中を伴い、配石炉であった可能性がある遺構として注目される。

8号石器集中 (第105・106図、表44)

K-1グリッドから出土した石器6点から成る。出土層位は第Iスコリア層である。石器は楔形石器2点を含む天城柏峠産黒曜石製5点、ホルンフェルス製1点である。

9号石器集中 (第107・108図、表45)

J-1グリッド西部から出土した石器9点から成る。8号礫群、9号礫群と重複し、出土層位は調査時の記録によると第I黒色帯上部から第Iスコリア層である。石器は和田土屋橋西産黒曜石製二次加工剥片1点、玄武岩製敲石1点と、剥片類 (ガラス質黒色安山岩製4点、和田鷹山産黒曜石製2点、ホルンフェルス製1点) である。

10号石器集中 (第109・110図、表46)

H-1グリッド南東部から出土した石器20点から成る。11号礫群と重複し、出土層位は第I黒色帯上部から第Iスコリア層である。石器は産地不明資料も含めて全て箱根畑産黒曜石製と見られ、搔器、

表43 第XV文化層西尾根 石器組成

	角錐状石器	ナイフ形石器	搔器	削器	楔形石器	基部加工石刃	二次加工剥片	石刃	剥片	砕片	石核	原石	礫器	敲石	台石	計
黒曜石	和田鷹山								2							2
	和田土屋橋西						1									1
	蓼科冷山								1							1
	箱根畑産		7	39	2	2	1	5	8	527(14)	295	4				890(14)
	天城柏峠			1		3		2	1	8(1)		1				16(1)
	産地不明	1								67	250					318
	黒曜石計	1	7	40	2	5	1	8	9	605(15)	545	4	1			1,228(15)
ガラス質黒色安山岩		2	2	1				1	20	2	3					31
ホルンフェルス		7	1(1)	1			1	10	14							34(1)
珪質頁岩							1	3(1)	3							7(1)
頁岩									2							2
珪質シルト岩							1		3							4
細粒安山岩									3							3
輝石安山岩									4				1	1	1	7
玄武岩														1		1
細粒砂岩														1		1
計	1	16	43(1)	4	5	1	11	23(1)	654(15)	547	7	1	1	3	1	1,318(17)

括弧内は全体数の内、微細剥離痕のあるものの点数。

二次加工剥片各1点を含む。

11号石器集中（第111・112図、表47）

G-2グリッド西部を中心に出土した石器320点から成る。出土層位は第I黒色帯上部から第Iスコリア層で、休場層下位出土の3点も上層への浮き上がりと捉えてここに含めた。径約2mの範囲に密集しており、この部分に重複して12号礫群が分布する。石器は黒曜石（未分析資料も全て箱根畑宿産と見られる）製298点、ガラス質黒色安山岩製13点、ホルンフェルス製2点、珪質シルト岩製4点、細粒安山岩製、輝石安山岩製、細粒砂岩製各1点で、角錐状石器1点、ナイフ形石器5（接合により4）点、搔器7（接合により5）点、削器2点、基部加工石刃1点、二次加工剥片3点、敲石、台石各1点などを含む。

表44 第XV文化層  
8号石器集中 石器組成

		楔形石器	剥片	計
黒曜石	天城柏峠	2	3	5
	ホルンフェルス		1	1
	計	2	4	6

表45 第XV文化層  
9号石器集中 石器組成

		二次加工剥片	剥片	敲石	計
黒曜石	和田鷹山		2		2
	和田土屋橋西	1			1
	黒曜石計	1	2		3
	ガラス質黒色安山岩		4		4
	ホルンフェルス		1		1
	玄武岩			1	1
	計	1	7	1	9

表48 第XV文化層  
12号石器集中 石器組成

		剥片	礫器	計
黒曜石	箱根畑宿	2		2
	天城柏峠	1		1
	黒曜石計	3		3
	輝石安山岩		1	1
	計	3	1	4

表49 第XV文化層13号石器集中 石器組成

		搔器	楔形石器	剥片	碎片	石核	計
黒曜石	箱根畑宿	1	1	29	7		38
	天城柏峠			1(1)			1(1)
	産地不明			4	2		6
	黒曜石計	1	1	34(1)	9		45(1)
	ガラス質黒色安山岩			2		1	3
	ホルンフェルス	1					1
	計	2	1	36(1)	9	1	49(1)

括弧内は全体数の内、微細剥離痕のあるものの点数。

表46 第XV文化層10号石器集中 石器組成

		搔器	二次加工剥片	石刃	剥片	碎片	計
黒曜石	箱根畑宿	1	1	1	13	2	18
	産地不明				2		2
	計	1	1	1	15	2	20

表47 第XV文化層11号石器集中 石器組成

		角錐状石器	ナイフ形石器	搔器	削器	基部加工石刃	二次加工剥片	石刃	剥片	碎片	石核	敲石	台石	計
黒曜石	箱根畑宿		4	6(1)	1	1	2	2	129(1)	67	1			213(2)
	産地不明	1							24	60				85
	黒曜石計	1	4	6(1)	1	1	2	2	153(1)	127	1			298(2)
	ガラス質黒色安山岩			1	1			1	7	1	2			13
	ホルンフェルス		1						1					2
	珪質シルト岩						1		3					4
	細粒安山岩								1					1
	輝石安山岩												1	1
	細粒砂岩											1		1
	計	1	5	7(1)	2	1	3	3	165(1)	128	3	1	1	320(2)

括弧内は全体数の内、微細剥離痕のあるものの点数。

表50 第XV文化層14号石器集中 石器組成

	ナイフ形石器	搔器	楔形石器	二次加工剥片	石刃	剥片	碎片	石核	敲石	計
黒曜石	箱根畑宿		6	1		1	38(2)	29	2	77(2)
	天城柏峠						2			2
	産地不明						8	12		20
	黒曜石計		6	1		1	48(2)	41	2	99(2)
ガラス質黒色安山岩		1					6	1		8
ホルンフェルス	3			1	6	2				12
珪質頁岩				1	2(1)	2				5(1)
細粒安山岩						1				1
輝石安山岩						4			1	5
計	3	7	1	2	9(1)	63(2)	42	2	1	130(3)

括弧内は全体数の内、微細剥離痕のあるものの点数。

表51 第XV文化層15号石器集中 石器組成

	二次加工剥片	剥片	計
黒曜石			
天城柏峠	2		2
ホルンフェルス		1	1
珪質頁岩		1	1
計	2	2	4

表52 第XV文化層16号石器集中 石器組成

	搔器	楔形石器	石刃	剥片	碎片	計	
黒曜石	箱根畑宿	1			32	12	45
	天城柏峠	1	1	1			3
	産地不明				3	11	14
	黒曜石計	2	1	1	35	23	62
ガラス質黒色安山岩				1		1	
細粒安山岩				1		1	
計	2	1	1	37	23	64	

表53 第XV文化層17号石器集中 石器組成

	ナイフ形石器	搔器	削器	二次加工剥片	剥片	碎片	計	
黒曜石	箱根畑宿		1	1	1	25(2)	3	31(2)
	天城柏峠					1		1
	産地不明					5	8	13
	黒曜石計		1	1	1	31(2)	11	45(2)
ガラス質黒色安山岩	1						1	
ホルンフェルス	1						1	
計	2	1	1	1	31(2)	11	47(2)	

括弧内は全体数の内、微細剥離痕のあるものの点数。

表54 第XV文化層18号石器集中 石器組成

	ナイフ形石器	搔器	削器	二次加工剥片	石刃	剥片	碎片	原石	計
黒曜石	箱根畑宿	3	22		1	4	255(8)	175	460(8)
	天城柏峠							1	1
	産地不明						20	156	176
	黒曜石計	3	22		1	4	275(8)	331	637(8)
ガラス質黒色安山岩	1								1
ホルンフェルス	1		1		3	5			10
頁岩						2			2
計	5	22	1	1	7	282(8)	331	1	650(8)

括弧内は全体数の内、微細剥離痕のあるものの点数。

接合資料は南隣に位置する13号石器集中の石器と接合するもの2個体、16号石器集中の石器と接合するもの1個体がある。

12号石器集中 (第113・114図、表48)

F・G-1グリッドから出土した石器4点から成る。調査時の記録では2点が第Iスコリア層出土、別の2点が休場層下位出土とされているが、垂直分布を検討した結果同一面上に分布するものと判断して

同一文化層に含めた。石器は輝石安山岩製礫器1点と黒曜石製剥片（箱根畑宿産2点、天城柏峠産1点）である。

13号石器集中（第115・116図、表49）

G-1グリッド南東部から出土した石器49点から成る。出土層位は第I黒色帯上部から第Iスコリア層で、13号礫群、2号炭化物集中が重複して分布する。石器は黒曜石（箱根畑宿産主体で、天城柏峠産1点を含む）製45点、ガラス質黒色安山岩製3点、ホルンフェルス製1点で、搔器2点、楔形石器1点を含み、11号石器集中の石器との接合資料が2個体ある。

14号石器集中（第117・118図、表50）

F-1グリッドから出土した石器130点から成る。出土層位は第I黒色帯上部から第Iスコリア層で、一部は休場層直下黒色帯に及ぶ。16号礫群と重複するが、石器分布は径1.5m程度の密集部2つに分かれるような状態を示す。石器は黒曜石（箱根畑宿産主体で、天城柏峠産2点を含む）製99点、ホルンフェルス製12点、ガラス質黒色安山岩製8点、珪質頁岩製5点、輝石安山岩製5点、細粒安山岩製1点で、ナイフ形石器3（接合により2）点、搔器7点、楔形石器1点、二次加工剥片2点などを含む。このうち、ホルンフェルス製ナイフ形石器の破片は南方へ約85m離れたZX-0グリッド、休場層中位で出土した破片と接合した。

北西側の石器分布域から外れた個所で炭化材試料が4点採取されており、このうち3点について放射性炭素年代測定を実施したが、5,270±30BP（142-60）、5,210±30BP（142-63）、5,020±30BP（142-64）といずれも出土層位に比べて極端に新しい年代値であった。

15号石器集中（第117・118図、表51）

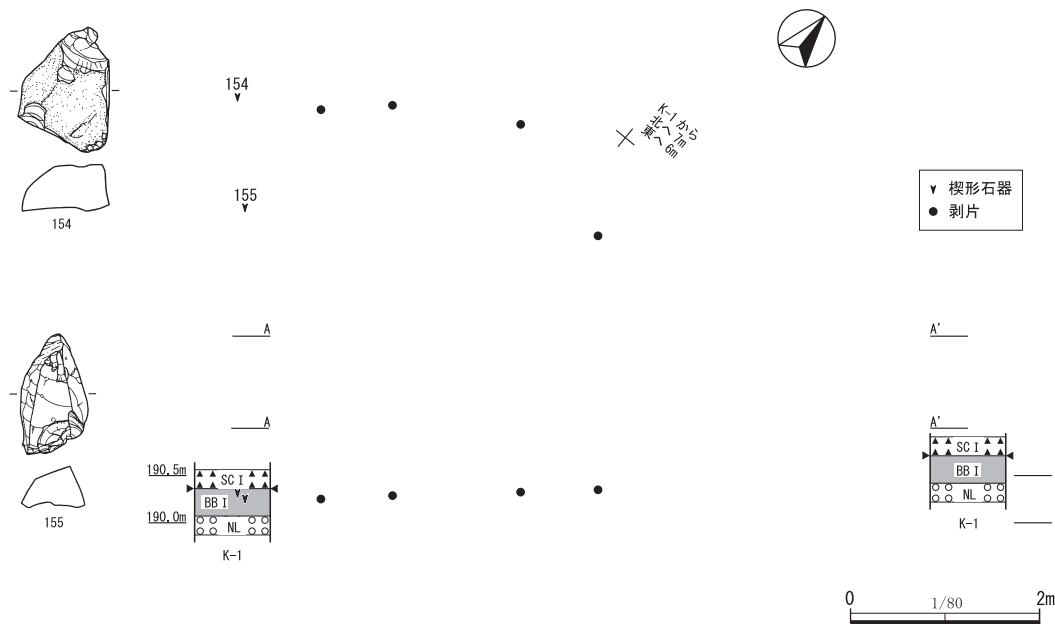
F-2グリッドから出土した石器4点から成る。出土層位は第I黒色帯上部である。14号石器集中と16号石器集中との間に位置する小規模な石器集中であり、石器は天城柏峠産黒曜石製の二次加工剥片2

表55 第XV文化層西尾根 礫群属性

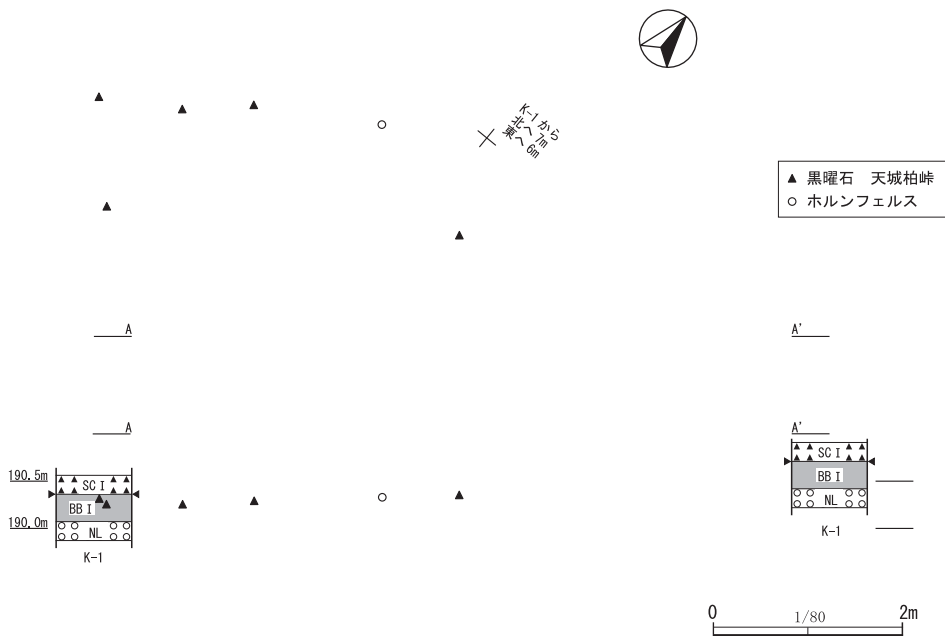
礫群 番号	構成 礫数	赤化					形態				石材								
		完形		非完形			不明	亜角	亜円	円	不明	安山岩	輝石 安山岩	多孔質 安山岩	玄武岩	多孔質 玄武岩	石玄武岩	カンラン	不明
		非赤化	赤化	非赤化	赤化1	赤化2													
8号	15		12			3		10	5			11		2	2				
9号	24		6		15	3		23	1			13	1	10					
10号	3			2		1		3				3							
11号	9	1	2		3	3		8	1			5	2	2					
12号	11				7	4		9	2			6	3	2					
13号	35		8		8	18	1	33	1		1	22	6	2	1	3		1	
14号	9		5	1	1	2		4	5			7	1	1					
15号	5		5					4	1			3	1		1				
16号	29	2	18	2	5	2		19	9	1		17	8	3	1				
17号	3	2				1		2	1			3							
18号	7		1		1	5		6	1			5		2					
19号	7				2	5		5	2			6		1					
遺構外	12		5	2	3	1	1	8	3		1	6	1	2	2				1

赤化1：全面が赤化 赤化2：礫の外皮のみ赤化

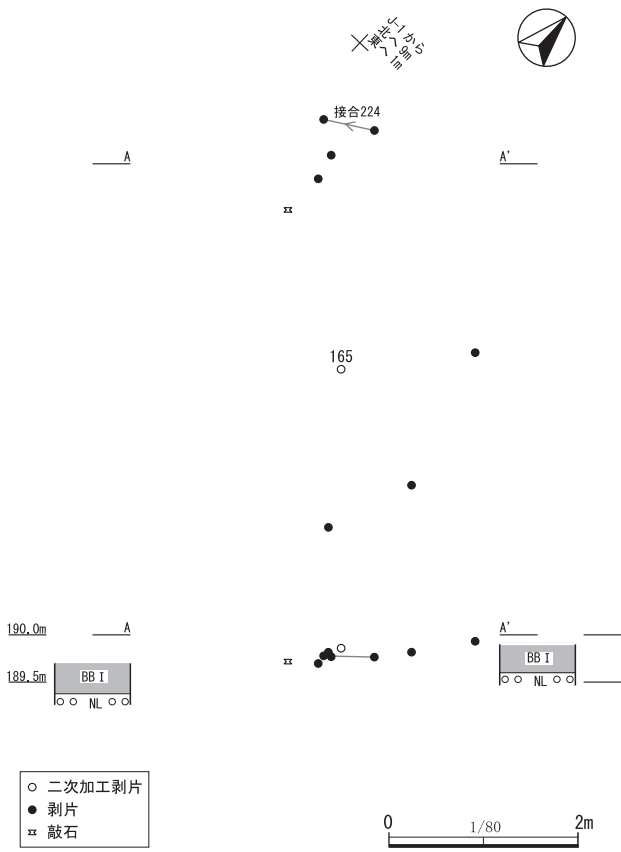




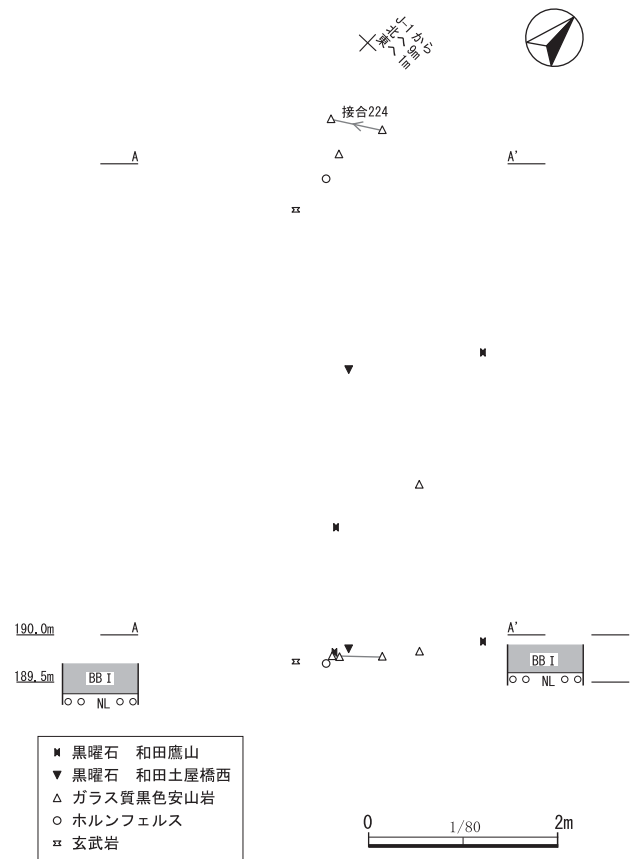
第105図 第XV文化層8号石器集中 器種別分布



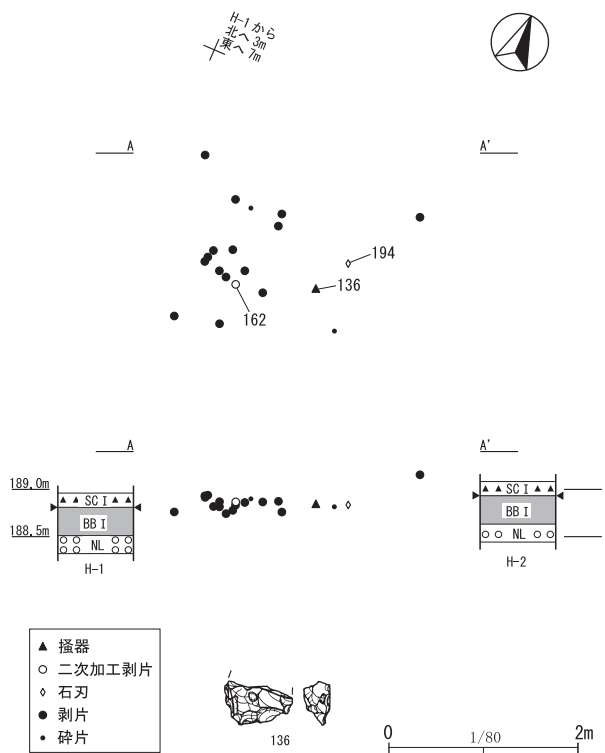
第106図 第XV文化層8号石器集中 石材別分布



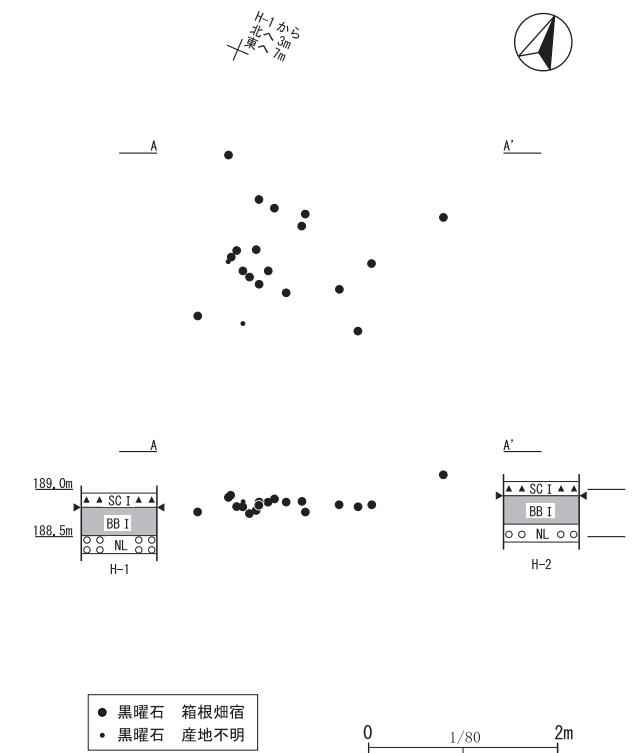
第107図 第X V文化層9号石器集中 器種別分布



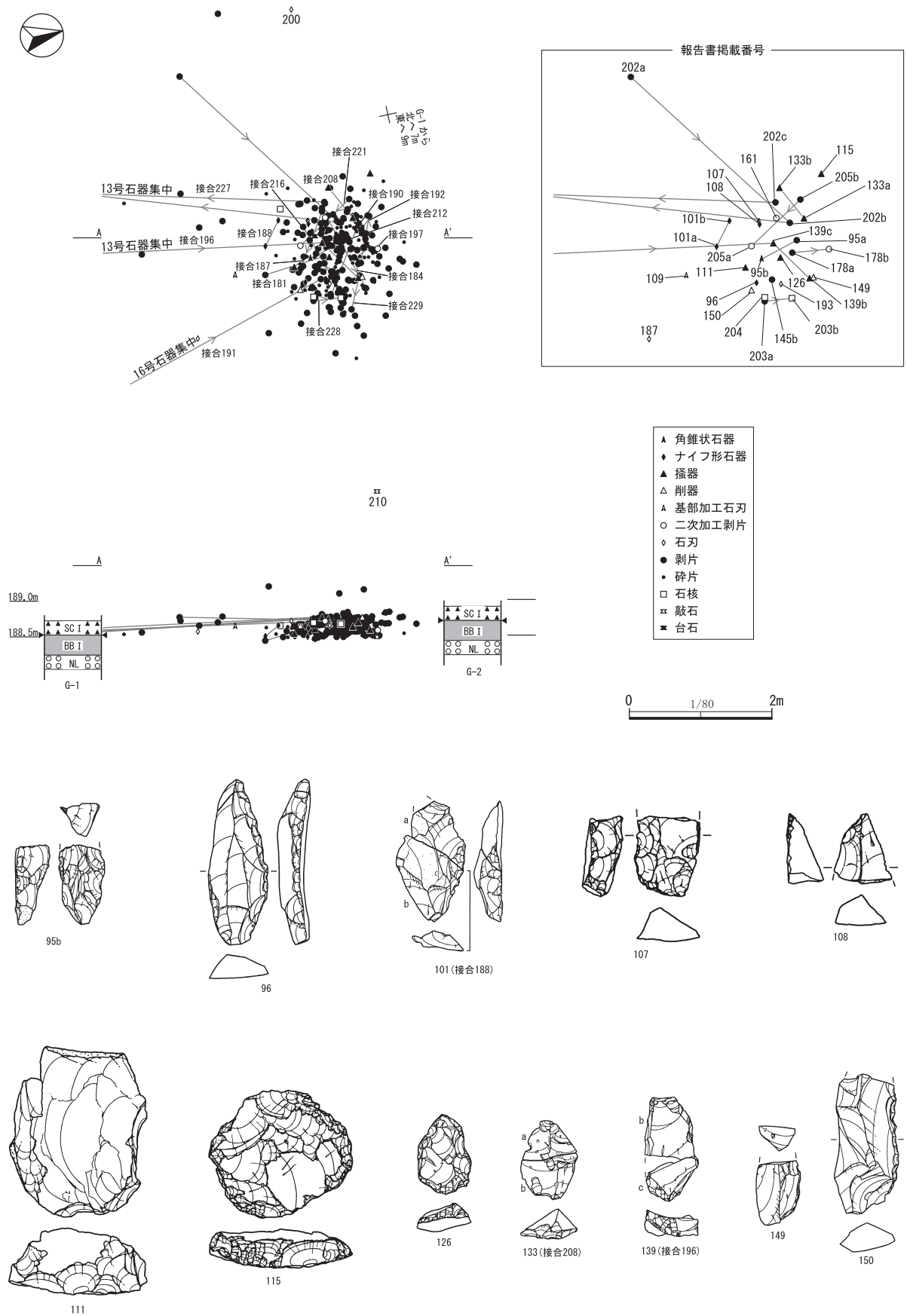
第108図 第X V文化層9号石器集中 石材別分布



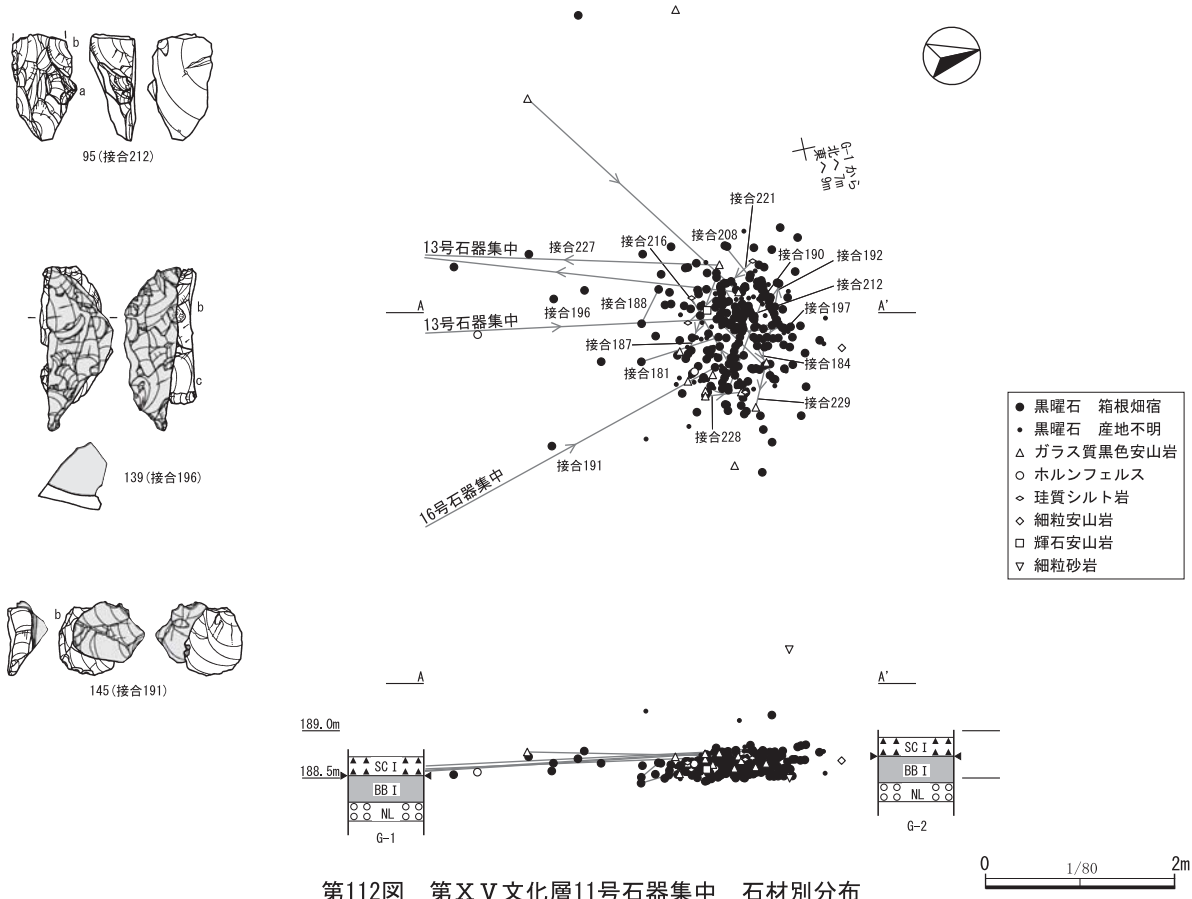
第109図 第X V文化層10号石器集中 器種別分布



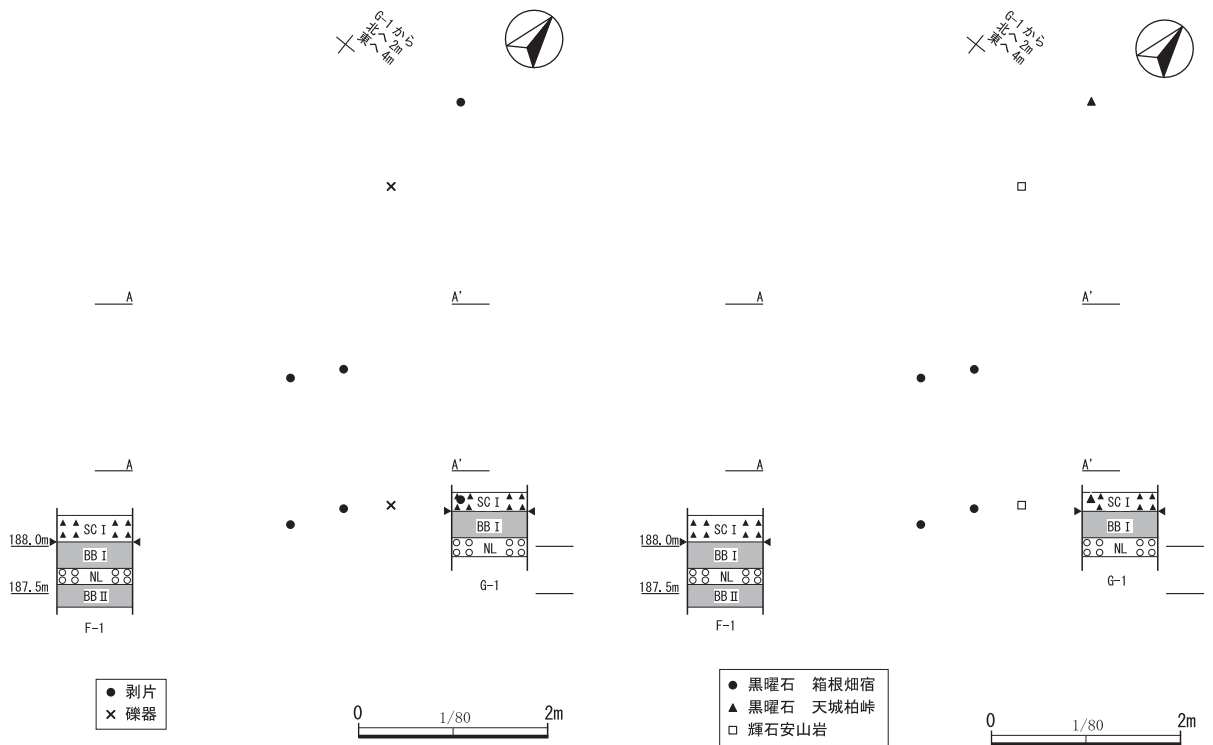
第110図 第X V文化層10号石器集中 石材別分布



第111図 第XV文化層11号石器集中 器種別分布

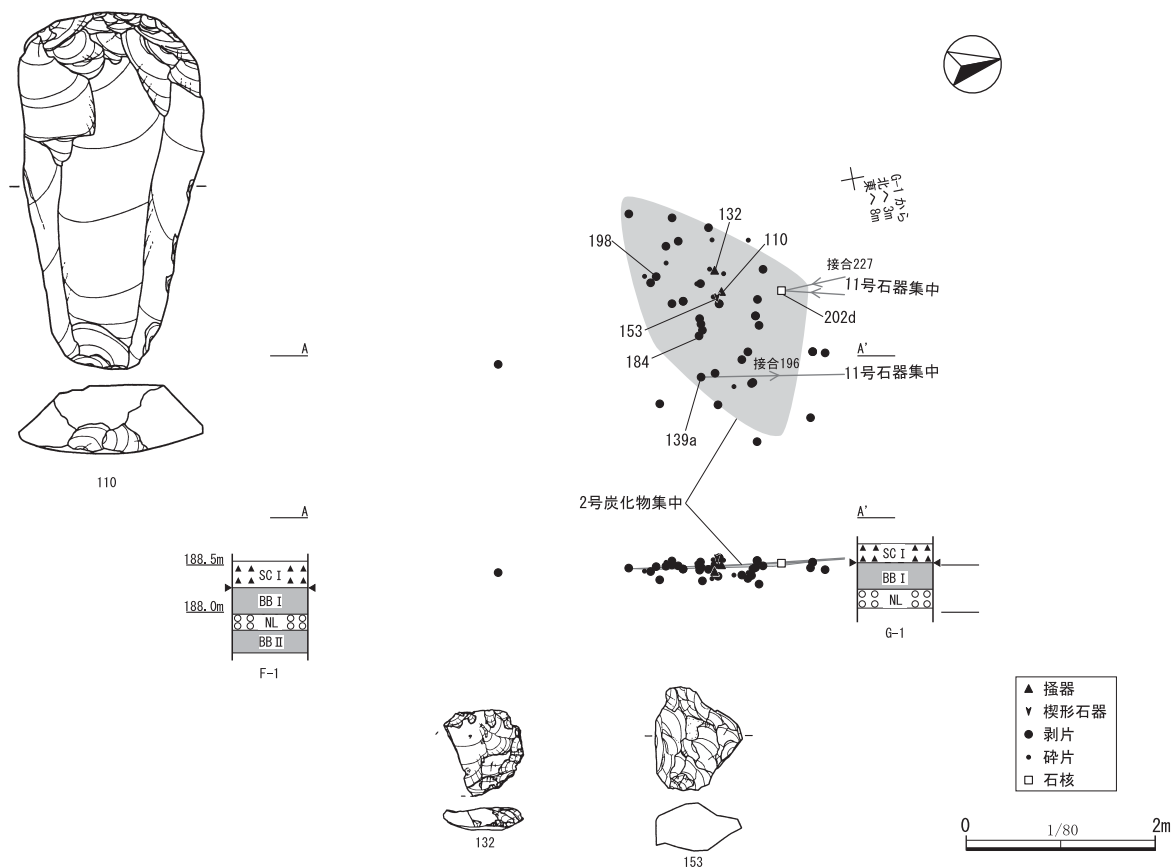


第112図 第XV文化層11号石器集中 石材別分布

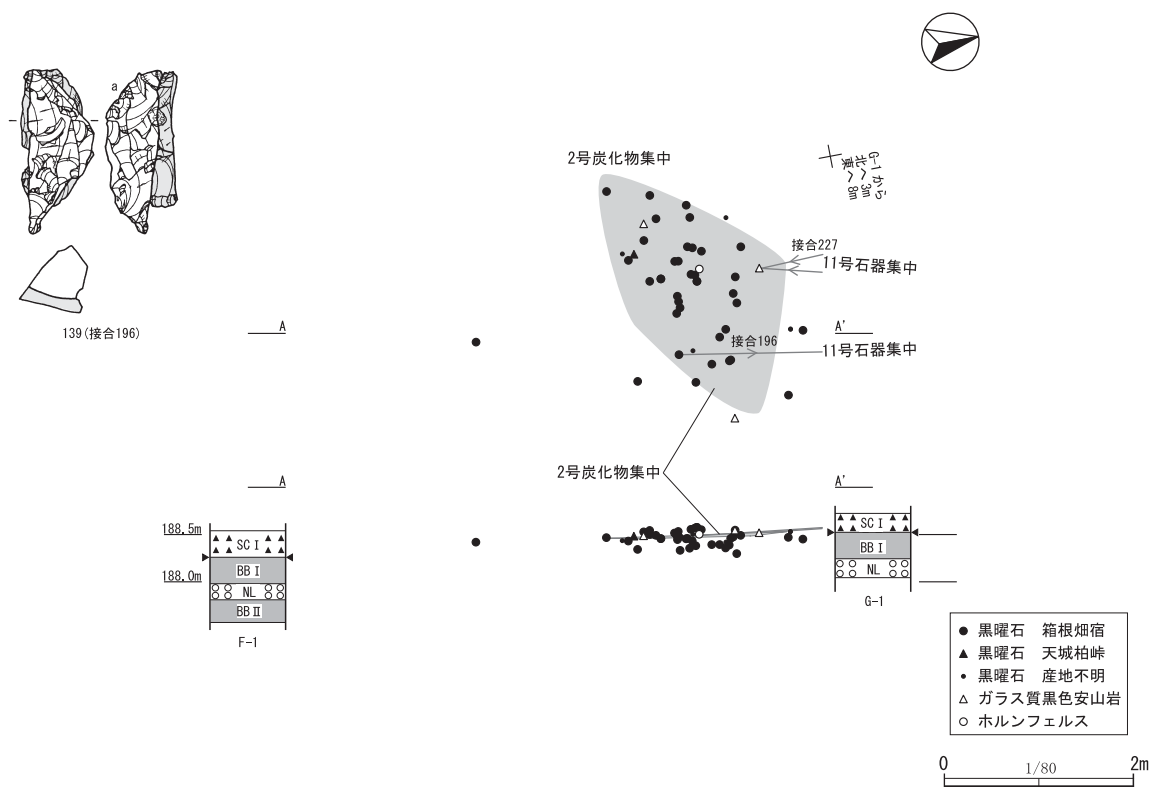


第113図 第XV文化層12号石器集中 器種別分布

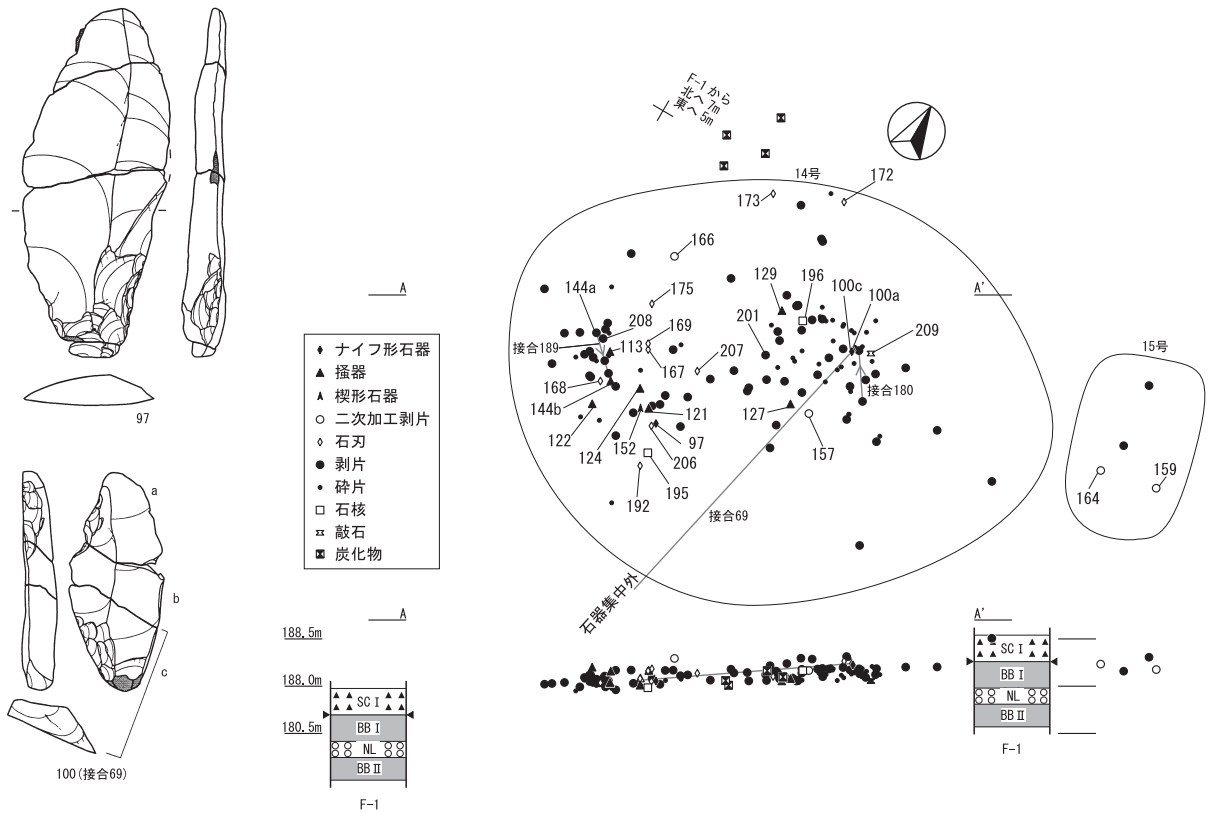
第114図 第XV文化層12号石器集中 石材別分布



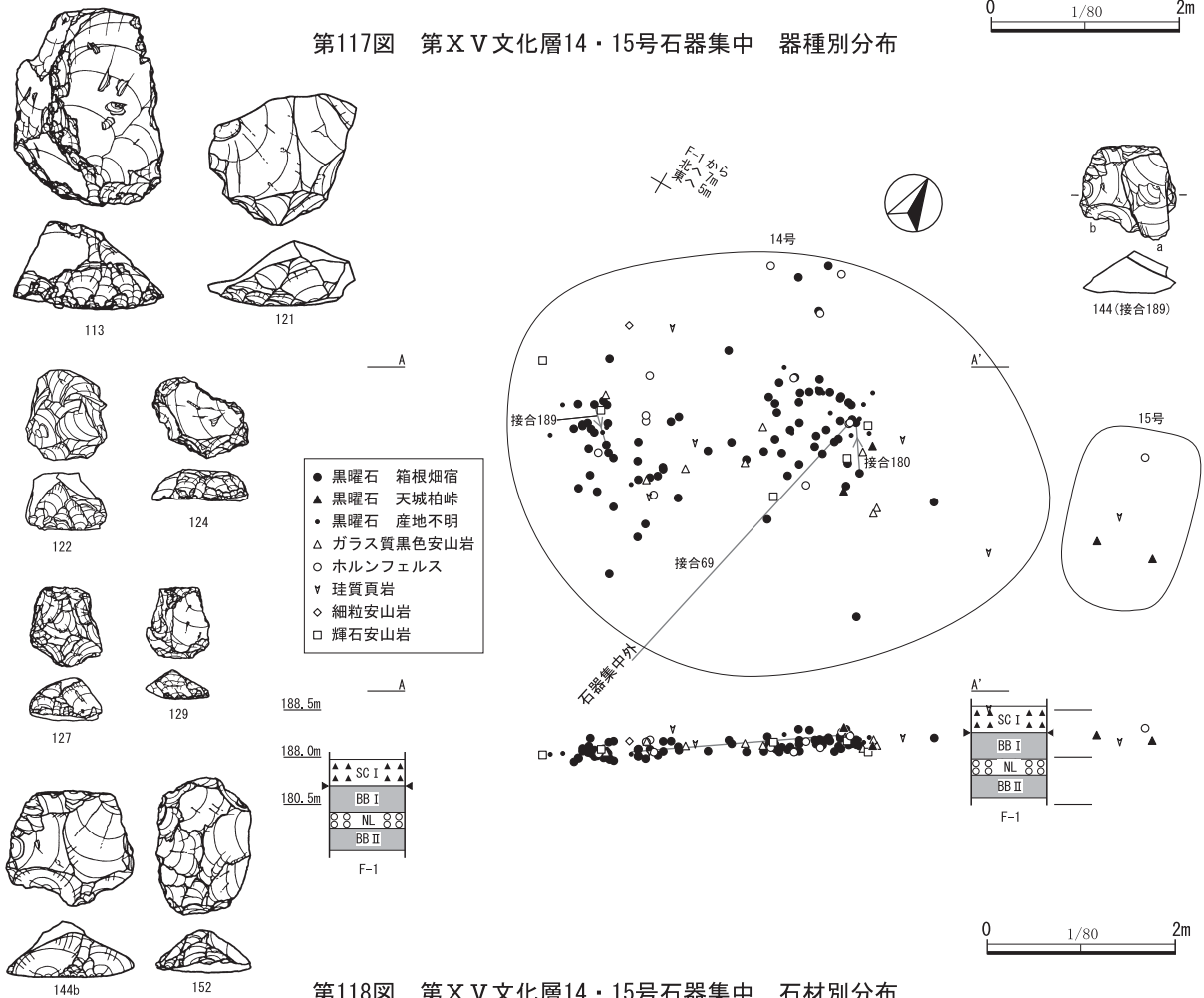
第115図 第XV文化層13号石器集中 器種別分布



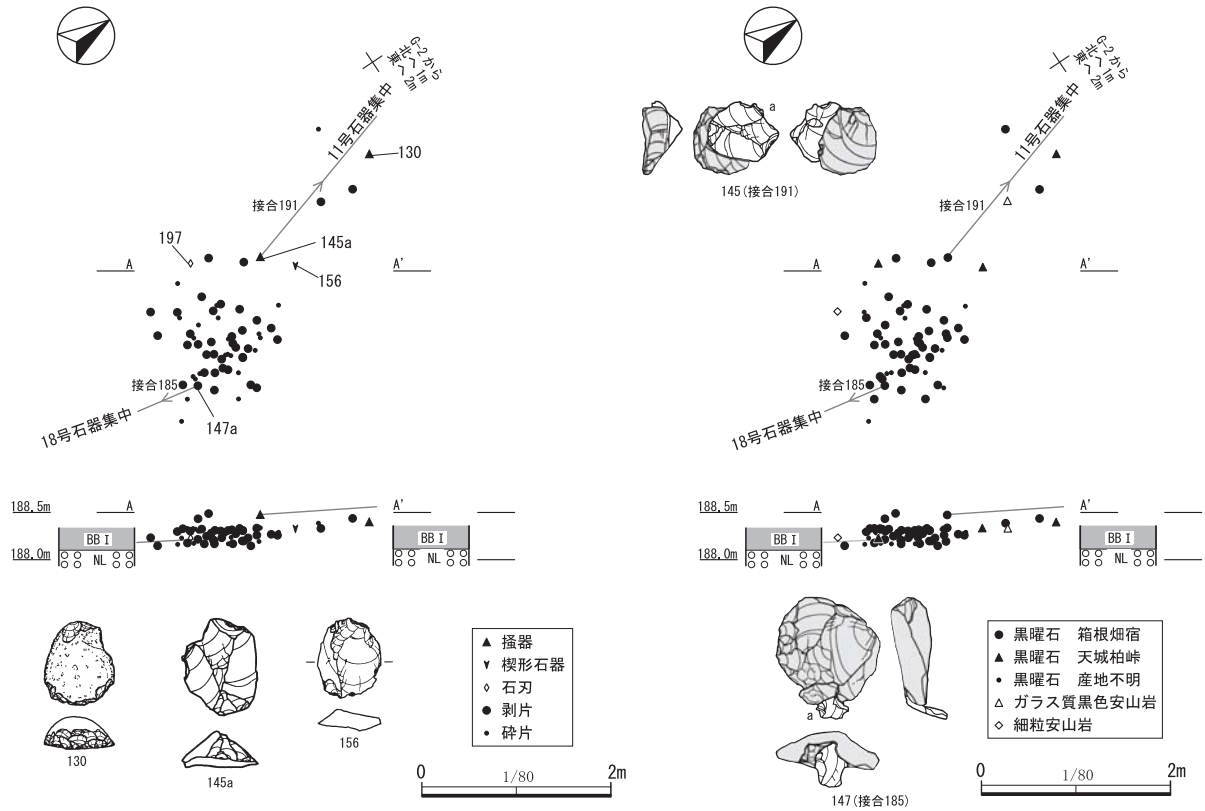
第116図 第XV文化層13号石器集中 石材別分布



第117図 第XV文化層14・15号石器集中 器種別分布



第118図 第XV文化層14・15号石器集中 石材別分布



第119図 第XV文化層16号石器集中 器種別分布

第120図 第XV文化層16号石器集中 石材別分布

点、ホルンフェルス製、珪質頁岩製の剥片各1点である。

16号石器集中 (第119・120図、表52)

F-2グリッド北部を中心に出土した石器64点から成る。出土層位は第I黒色帯で、一部が第Iスコリア層から出土した。14号礫群と重複する。石器は黒曜石(箱根畑宿産主体で、天城柏峠産3点を含む)製62点、ガラス質黒色安山岩製、細粒安山岩製各1点で、搔器2点、楔形石器1点などを含み、11号石器集中の石器との接合資料、18号石器集中の石器との接合資料が各1個体ある。

17号石器集中 (第121・122図、表53)

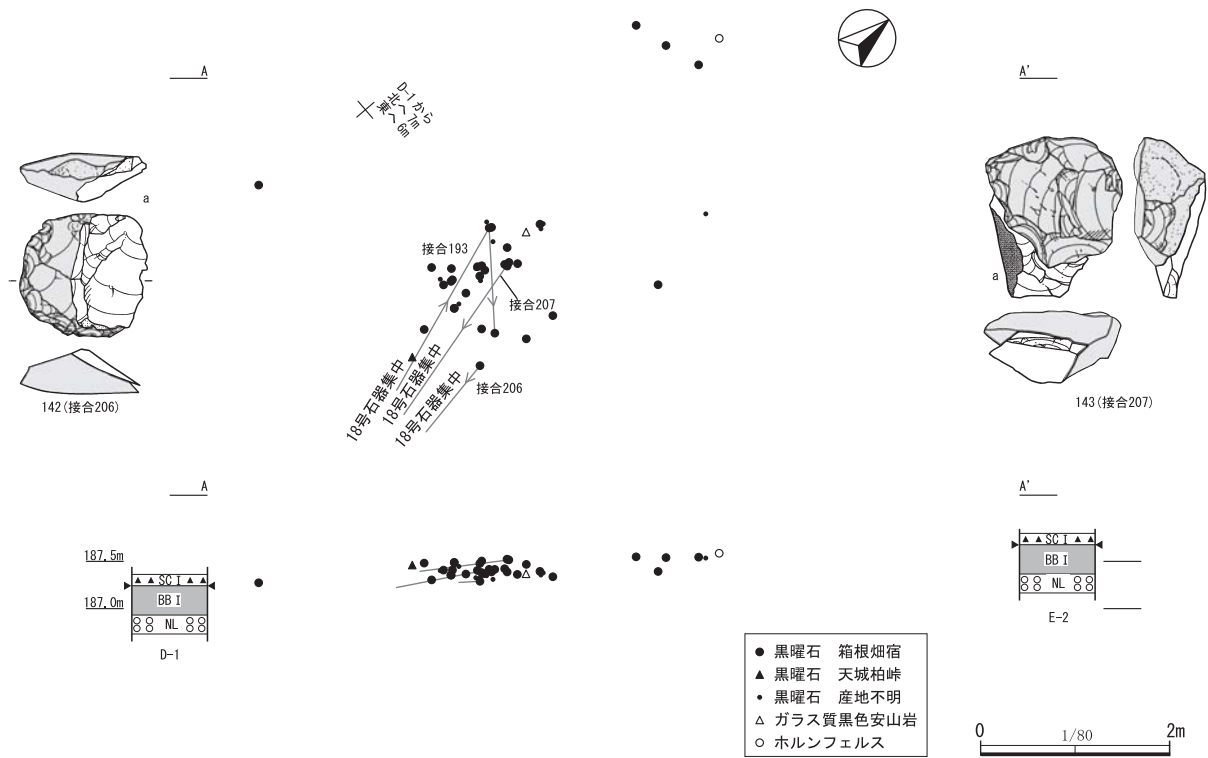
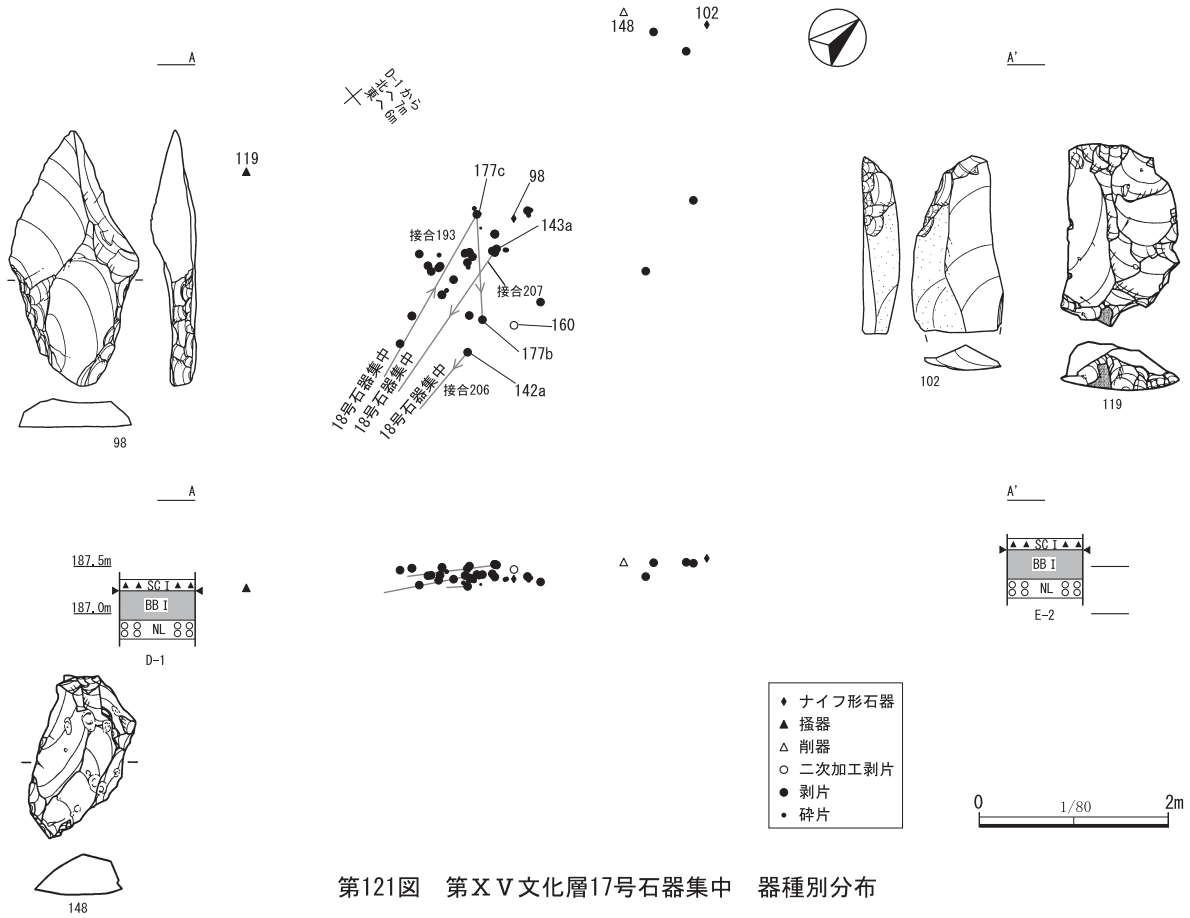
D-1グリッド北東部を中心に出土した石器47点から成る。出土層位は第I黒色帯上部から第Iスコリア層である。18号礫群と重複する。石器は黒曜石(箱根畑宿産主体で、天城柏峠産1点を含む)製45点、ガラス質黒色安山岩製、ホルンフェルス製各1点で、ナイフ形石器2点、搔器、削器、二次加工剥片各1点などを含む。18号石器集中の石器との接合資料が3個体ある。

18号石器集中 (第123・124図、表54)

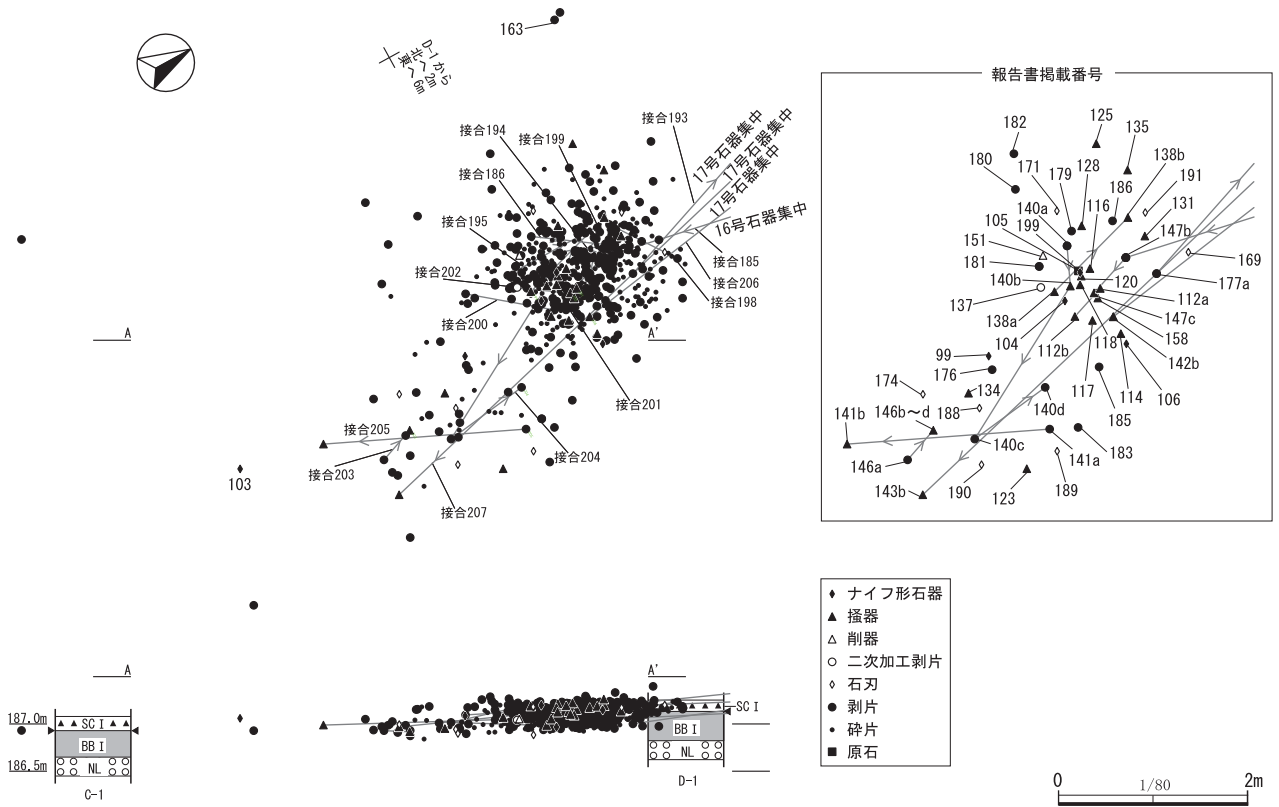
D-1グリッド南東部を中心に出土した石器650点から成る。出土層位は第I黒色帯上部から第Iスコリア層で、19号礫群と重複する。第XV文化層最大の石器集中で、特に北側の径1.5mの範囲に密集する。石器は黒曜石(箱根畑宿産主体で、天城柏峠産1点を含む)製637点、ホルンフェルス製10点、頁岩製2点、ガラス質黒色安山岩製1点で、ナイフ形石器5点、搔器22(接合により20)点、削器、二次加工剥片各1点などを含む。16号石器集中の石器との接合資料が1個体、17号石器集中の石器との接合資料が3個体ある。

8号礫群 (第125図、表55)

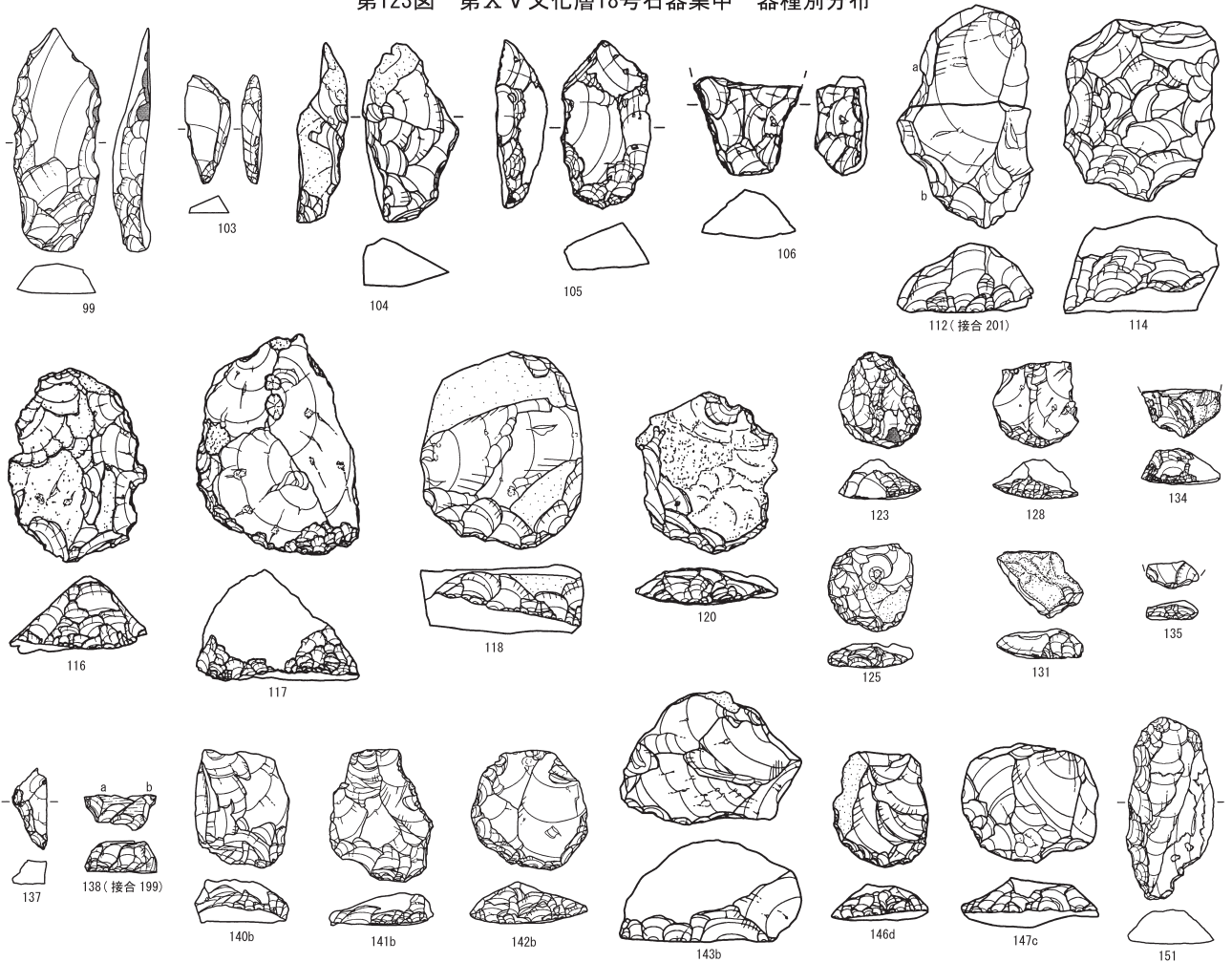
J-1グリッド北西部で出土した被熱礫15点から成る。出土層位は第I黒色帯上部である。礫は長径

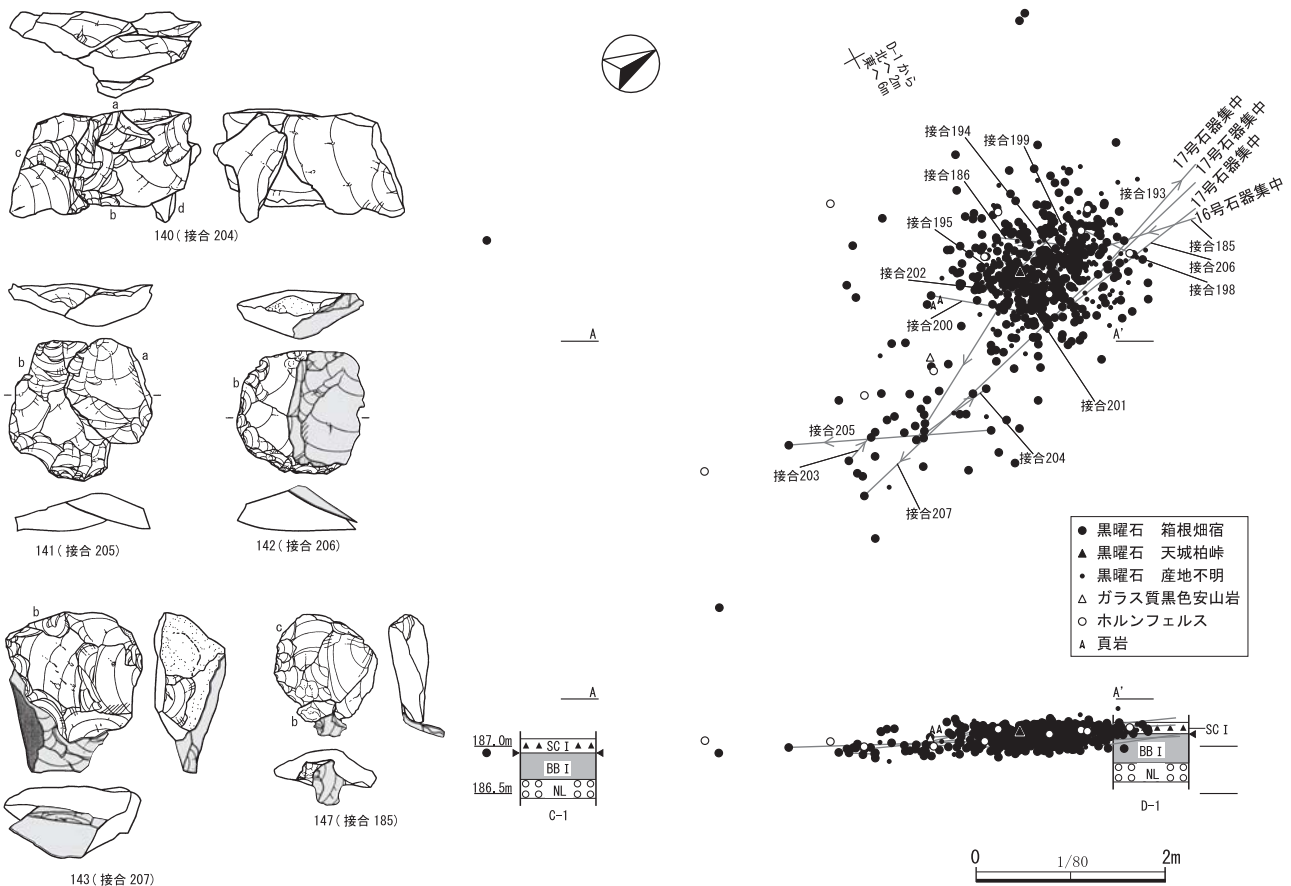






第123図 第XV文化層18号石器集中 器種別分布





第124図 第XV文化層18号石器集中 石材別分布

19.8cm・重量1.5kgのもの、長径17.6cm・重量2.0kgのものが最大級で、平均では長径12.6cm・重量0.74kg。

9号礫群 (第125図、表55)

J-1グリッド、8号礫群の東側で出土した被熱礫24点から成る。出土層位は主に第I黒色帯上部で、1点が第Iスコリア層出土である。礫は長径23.1cm・重量4.4kgが最大で、平均で長径11.1cm・重量0.59kg。

10号礫群 (第125図、表55)

I-1グリッド北西部付近で出土した礫3点から成り、そのうち1点に被熱の痕跡が確認できた。出土層位は調査時の記録によると2点が第Iスコリア層、1点が第I黒色帯上部である。礫は長径6～9cm、平均で長径7.2cm・重量0.16kg。

11号礫群 (第125図、表55)

H-1グリッド南東部で出土した礫9点から成り、そのうち8点に被熱の痕跡が確認できた。出土層位は第I黒色帯上部である。礫は長径17.1cm・重量1.6kgのものが最大で、平均で長径11.1cm・重量0.44kgである。2個体の礫が12・13号礫群の礫と接合した。

12号礫群 (第125図、表55)

G-2グリッド西部付近で出土した被熱礫11点から成る。出土層位は第I黒色帯上部である。礫の平均の大きさは長径8.4cm・重量0.16kgである。

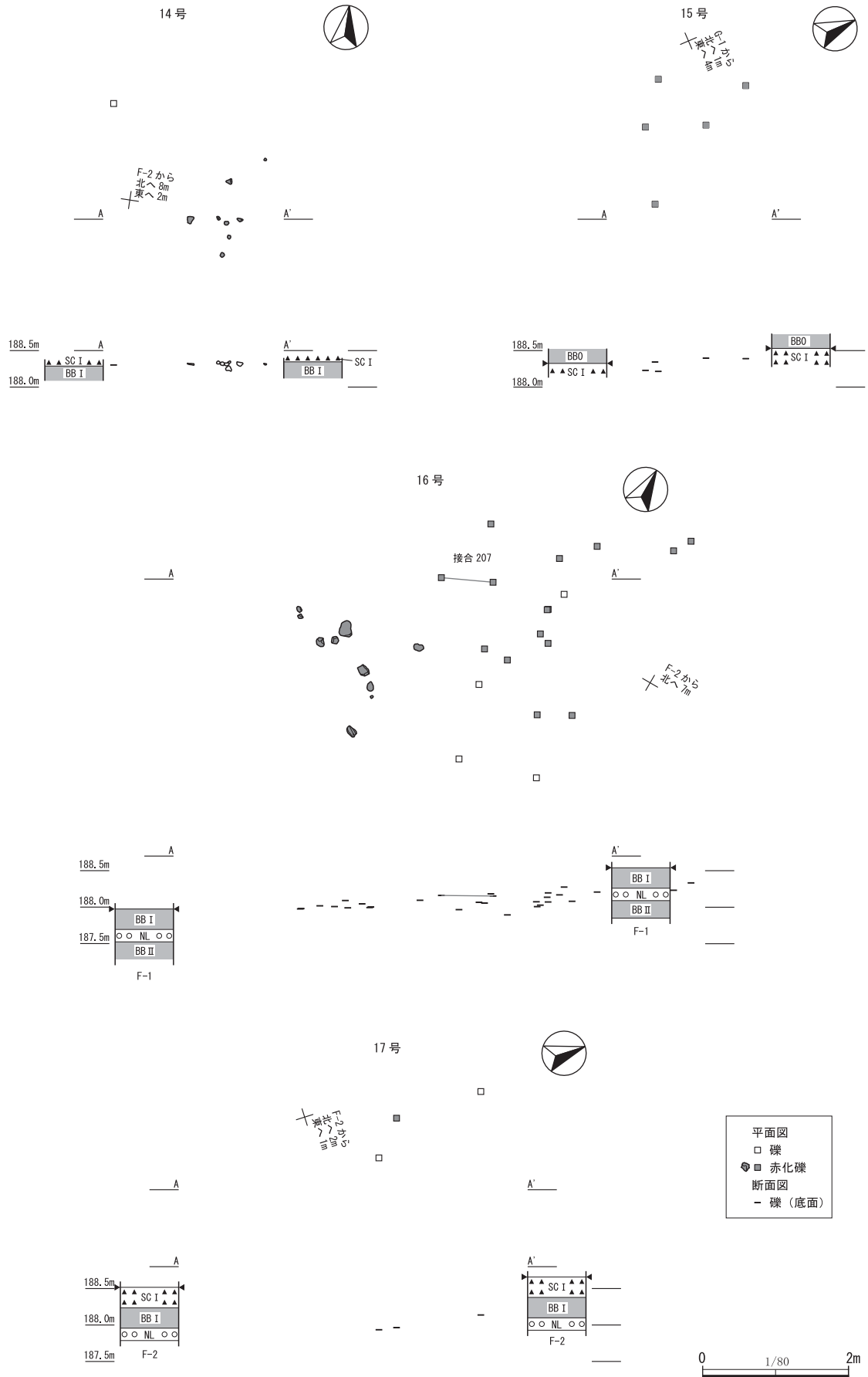
13号礫群 (第125図、表55)

G-1グリッド南東部付近で出土した礫35点から成り、そのうち34点に被熱の痕跡が認められた。出土層位は第I黒色帯上部である。長径20～30cmの垂角礫が平坦面を上に向けた状態で5点配置されてお

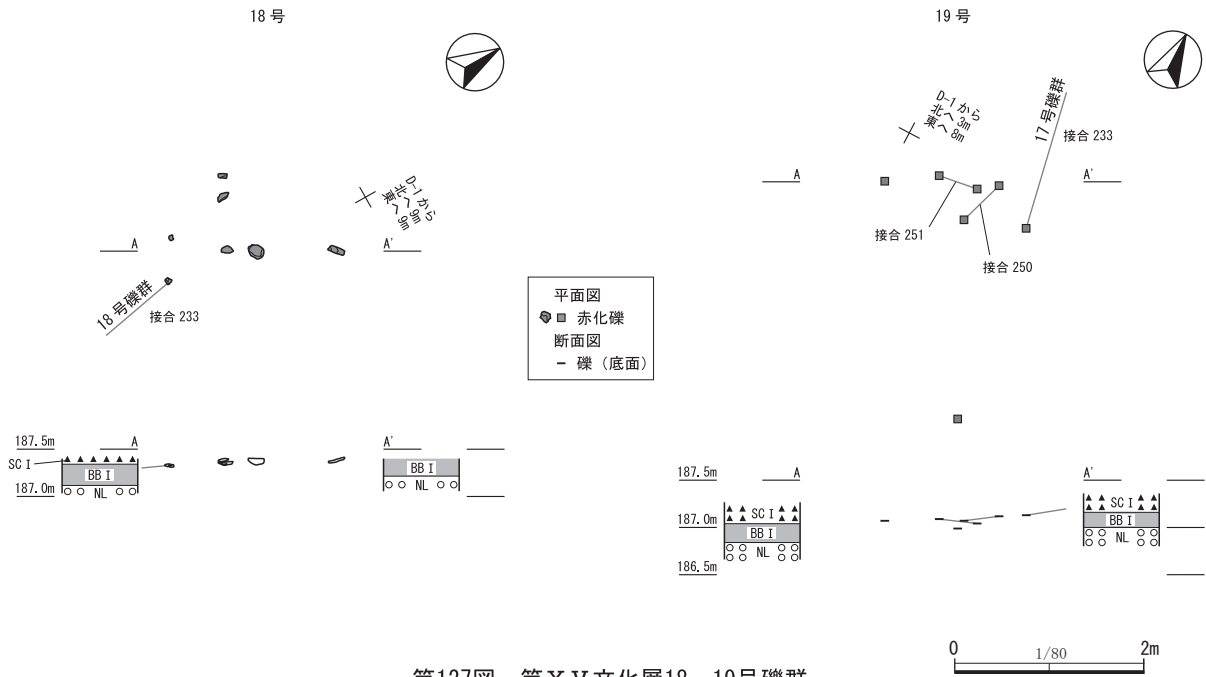
第3節 第XV文化層



第125図 第XV文化層8~13号礫群



第126図 第XV文化層14~17号磔群



第127図 第XV文化層18・19号礫群

り、この礫に囲まれた範囲を中心として炭化物が面的に集中して出土した（2号炭化物集中）。その他の小礫片は多くが礫群内で接合し、11・12号礫群と接合関係のあるものが2個体ある。

こうした出土状況から、この遺構は配石炉の可能性が想定され、現地調査の際に自然科学分析を含む精査が実施された（附編参照）。礫の平均の大きさは長径11.8cm・重量1.3kgである。

14号礫群（第126図、表55）

F-2グリッド北部で出土した礫9点から成り、8点に被熱の痕跡が確認できた。出土層位は第I黒色帯上部である。礫の平均の大きさは長径7.6cm・重量0.14kgである。

15号礫群（第126図、表55）

F・G-1グリッドにかけて出土した被熱礫5点から成る。調査時の記録では1点が休場層直下黒色帯、2点が休場層下位であるが、重複して分布する12号石器集中とほぼ同じ面から出土しており、この文化層に属するものとして捉えた。礫の大きさは長径8～11cm、平均で長径9.8cm・重量0.36kgである。

16号礫群（第126図、表55）

F-1グリッドから出土した礫29点から成り、25点に被熱の痕跡が確認できた。出土層位は調査時の記録によると第I黒色帯である。礫は大きいもので長径23.4cm・重量3.1kg、長径21.5cm・重量4.4kgのものがあ、平均で長径10.6cm・重量0.69kgである。

17号礫群（第126図、表55）

F-2グリッド西部から出土した礫3点から成り、1点に被熱の痕跡が確認できた。出土層位は第I黒色帯である。礫の大きさは平均で長径8.2cm・重量0.32kgである。

18号礫群（第127図、表55）

D-1グリッド北東部から出土した被熱礫7点から成る。出土層位は第I黒色帯上部である。礫は大きいもので長径17.8cm・重量1.5kg、長径18.7cm・重量0.39kgのものがあ、平均で長径12.5cm・重量0.39kgである。

19号礫群（第127図、表55）

D-1グリッド南東部から出土した被熱礫7点から成る。出土層位は第I黒色帯上部である。礫は全て長径10cm以下で、平均で長径7.1cm・重量0.09kgである。

## (2) 8～18号石器集中の出土石器 (第128～139図)

## 角錐状石器 (95)

1点出土した。分析では産地不明であったが箱根畑宿産黒曜石製と見られ、素材剥片を横位に用いて両側縁を加工しており、調整剥片1点(95a)が接合した。器体の中ほどで折損している。

## ナイフ形石器 (96～108)

15(接合により13)点出土した。96はホルンフェルス製、石刃素材で、基部に打面を残し二側縁を加工している。97もホルンフェルス製、石刃素材で、打面を残し主に右側縁の基部を加工している。98はガラス質黒色安山岩製で、尖鋭な末端をもつ剥片を素材とし、打面を残して基部側の両側縁を加工したものである。99はガラス質黒色安山岩製で先細りの剥片を素材とする。両側縁を加工し、先端部のみ素材縁辺を残している。100はホルンフェルス製、石刃素材で、左側縁の基部側に平坦加工、先端側に急斜度加工を施している。101は箱根畑宿産黒曜石製で、急斜度加工により打面側を斜めに切り取っている。102はホルンフェルス製で縦長剥片を素材とし、先端部を左側縁から急斜度加工で斜めに截断している。103はホルンフェルス製、縦長剥片素材で、基部は両側縁の加工で尖基とし、先端は右側縁から斜めに截断している。104は箱根畑宿産黒曜石製で、右側縁基部側に弱く内湾する加工を施し、左側縁は基部に僅かな加工がある以外はほとんど礫面となっている。105は箱根畑宿産黒曜石製で、打面部を折断し左側縁部に急斜度加工を施している。

106～108はナイフ形石器の破片と考えられる資料で、全て箱根畑宿産黒曜石製である。106・107は単剥離打面を残した基部側破片、108は先端側破片でいずれも厚形鋸歯縁加工で整形されている。

## 基部加工石刃 (109)

1点出土した。箱根畑宿産黒曜石の石刃を素材とし、左側縁基部側に二次加工がなされている他、両側縁に微細な剥離痕が断続的に認められる。末端部は先細りではなく、階段状末端で鋭利な縁辺でもないためナイフ形石器からは除外した。

## 搔器 (110～147)

42(接合により38)点出土した。110～138には搔器単体の資料、139～147には搔器と剥片類との接合資料を図示した。110がホルンフェルス製、111・121がガラス質黒色安山岩製、130が天城柏峠産黒曜石製で、それ以外は箱根畑宿産黒曜石製である。形態と大きさに幅があり、長さ2cm程度のものから長さ4cm以上、厚さ1cm以上のものまでである。

110は特に大型で、他と比べてやや異質な形態のもので、頭部調整の顕著な石刃を素材とし、端部を僅かに加工したものである。111～121は相対的に大型のものである。素材剥片を縦位に用い、打面を基部に残すもの(112・113・116・119～121)と、剥片を横位に用いるもの(111・114・117・118)とがある。刃部加工の範囲も多様であり、下縁から片側縁に及ぶもの(112・114・116・117)、両側縁に及ぶもの(115)、下縁と基部に加工のあるもの(118)がある。

122～133は小型のものである。大型品と同じく形態や刃部加工の範囲に多様性があり、厚手で両側縁に刃部加工が及ぶもの(122・123・127)がある一方、加工が部分的で片方に偏るもの(131)もある。134～138は搔器破片とみられる資料で、小型品の一部と見られる。

139～147は搔器が含まれる接合資料で、搔器の素材製作等が分かるものである。

139(接合資料196)は厚手の剥片の端部から縦長剥片が連続して剥離されており、2枚目の薄手の剥片が搔器に加工されている。搔器(139b・c)は刃部加工が左側縁に偏ったもので、3つ以上に折れ、そのうち2片が接合している。

140(接合資料204)は不定形の幅広剥片を打面転移しながら剥離する工程を示す。そのうち厚手の剥片1点を横位に用いて搔器(140b)に加工している。

141（接合資料205）、142（接合資料206）、143（接合資料207）、145（接合資料191）は単剥離或いは自然面の打面から剥片を連続剥離する工程を示すもので、それぞれ1点が搔器に加工されている。141bは端部以外に側縁の基部側に弱く内湾する二次加工が施され、142bは刃部加工が両側縁まで連続している。143bは甲高の剥片の右側縁を刃部として加工を行っている。145では小型でやや甲高の剥片が剥離されている。145aは素材剥片を横位に用いた搔器で、図中下端部に刃部が設けられている他、上端部にも部分的に急斜度加工が認められる。

144（接合資料189）は打面転移を伴う剥片剥離工程を示し、このうち厚手の剥片が搔器に加工されている（144b）。左側縁と下端部に細かな急斜度剥離が入っているが、左下部分が大きく剥離されており両者は連続していない。

146（接合資料203）は搔器の背面に、搔器の素材に先行して剥離されたと見られる剥片類が3点接合している。147（接合資料185）は搔器に剥片2点が接合している。147aは搔器の素材剥離に先行して、石核の底面から剥離されたものと考えられる。147bは刃部加工に伴い剥離された剥片である。

#### 削器（148～151）

4点出土した。148・149は箱根畑宿産黒曜石製である。148は右側縁が折断されており、その折れ面に急斜度の二次加工で刃部を設けている。149は右側縁及び末端部を二次加工しており、特に末端部が分厚い加工となっている。150はガラス質黒色安山岩製で、右側縁を二次加工して鋸歯状の刃部を設けている。151はホルンフェルス製で、左側縁に厚形の加工で刃部を設け、また右側縁先端側も二次加工で鋸歯状を成している。

#### 楔形石器（152～156）

5点出土した。全て黒曜石製で、152・153が箱根畑宿産、154～156が天城柏峠産である。152・153・156が剥片素材、154・155は石核などが素材であると考えられる。

#### 二次加工剥片（157～166・205）

11点出土した。157は箱根畑宿産黒曜石製で左側縁を二次加工している。削器としてもよい資料だが、中ほどを大きく剥離するなど加工が粗いため二次加工剥片とした。159は天城柏峠産黒曜石製の礫打面をもつ剥片が素材で、左側縁と端部の折れ面とが交わる角の部分に二次加工している。158・160・163は箱根畑宿産黒曜石製で、158は左側縁中ほどを、160は小型剥片の左側縁を、また163は右側縁を部分的に二次加工したものである。161・162・164は小型の破片資料で、何らかの石器の破片の可能性もある。161・162が箱根畑宿産黒曜石製、164は天城柏峠産黒曜石製で、末端は礫面となっている。165は和田土屋橋西産黒曜石製で、小型だが抉入状の加工が認められる。腹面の末端はヒンジ・フラクチャーとなり、剥離が表側に回り込んでいる。166は珪質頁岩製で先細りの石刃の左側縁基部を加工したものである。基部加工のナイフ形石器とした石器に比べると加工が粗いため二次加工剥片に分類した。

剥片類と接合した205については次項で述べる。

#### 剥片類・石核・原石（167～204・206～208）

石刃21点、剥片645点、碎片546点、石核6点、原石1点が出土した。

167～176はホルンフェルス製の資料である。図示していないものを含めこの石材の剥片類は20点あるが、そのうち9点が石刃（167～175）で、それ以外の幅広剥片（176）等とほぼ拮抗する数となっている。打面の残っているものでは幅の広い単剥離打面をもつものが多い。

177～199は黒曜石製の資料である。西尾根の石器群の主体を成す石材であり、産地別では箱根畑宿産が大部分を占め、産地分析ができなかった風化した資料や小型の碎片等も大部分が箱根畑宿産と見られる。その他では天城柏峠産10点、和田鷹山産2点となっている。177～196は箱根畑宿産黒曜石製の資料である。177（接合資料193）などのように、背面に側方や下方からの剥離痕が見られるものが多く、打

面転移を繰り返しながら剥離された寸詰まりの剥片が多い。小型の剥片が多いが、二次加工剥片（178b）や微細剥離痕のあるものが一部存在する。石刃とした資料が8点（187～194）あるが、背面には側方からの剥離をもつものがしばしば観察され、安定的に石刃が剥離されたものかは疑わしい。石核は剥片類に比べて少なく、3点出土した。そのうち2点を図示した（195・196）。いずれも消費が進んで小型化したもので、打面転移を繰り返して剥片剥離が行われている。197～199は天城柏峠産黒曜石製の資料である。剥片類（197・198）はいずれも長さ3 cm以下の小型品である。また、原礫が1点出土している（199）。

200～204はガラス質黒色安山岩製の資料である。200は石刃とした石器で、頭部調整が認められる。稜上にも剥離があるが二次加工か否か判然としない。201は単剥離打面の剥片で、幅広のものが縦方向に分割されたものと見られる。202（接合資料227）は剥片素材石核から剥離された剥片が石核と接合している。203（接合資料228）も同様の資料と考えられる。204は石核で、打面転移が繰り返され多方向からの剥離痕が残されている。

上記以外では、珪質シルト岩製、珪質頁岩製、頁岩製、細粒安山岩製、輝石安山岩製の資料が数点ずつ出土した。205は珪質シルト岩の接合資料である。垂角礫の端部から剥片が剥離されたもので、うち一方（205a）では腹面がさらに剥離されている。石核の可能性もあるが、個々の剥離痕が小さいため二次加工剥片とした。206・207は珪質頁岩製の石刃である。ともに黒色を呈する石材で、単剥離打面から剥離されている。208は輝石安山岩製の剥片である。剥片石器の石材としては稀な石材であるが、背面などに礫面が残っておらず、やや消費が進んだ石核から剥離されたことが分かる。

#### 礫石器類（209・210）

礫器1点、敲石3点、台石1点が出土し、敲石2点を図示した。209は輝石安山岩の垂角礫を利用したもので、図中下端部に敲打痕が認められる。裏面には剥離面が観察されるが、打撃角が大きく人為によるものか不明である。210は細粒砂岩の円礫を利用したもので、図中の表と下端に敲打痕が認められる。

#### （3）石器集中外の出土石器（第140図）

14号石器集中出土のナイフ形石器と接合する破片（100b）以外では、搔器、石核各1点、剥片類12点がある。K-7グリッドから出土したホルンフェルス製剥片以外は石器集中の周辺から出土しており、共伴する資料群の可能性が高い。

#### 搔器（211）

幅広剥片を横位に用い、両端に刃部を設けている。下端は右側縁寄りに急斜度加工が施され、上端は階段状剥離で整形された後さらに微細な剥離が加えられている。L-2グリッド出土。

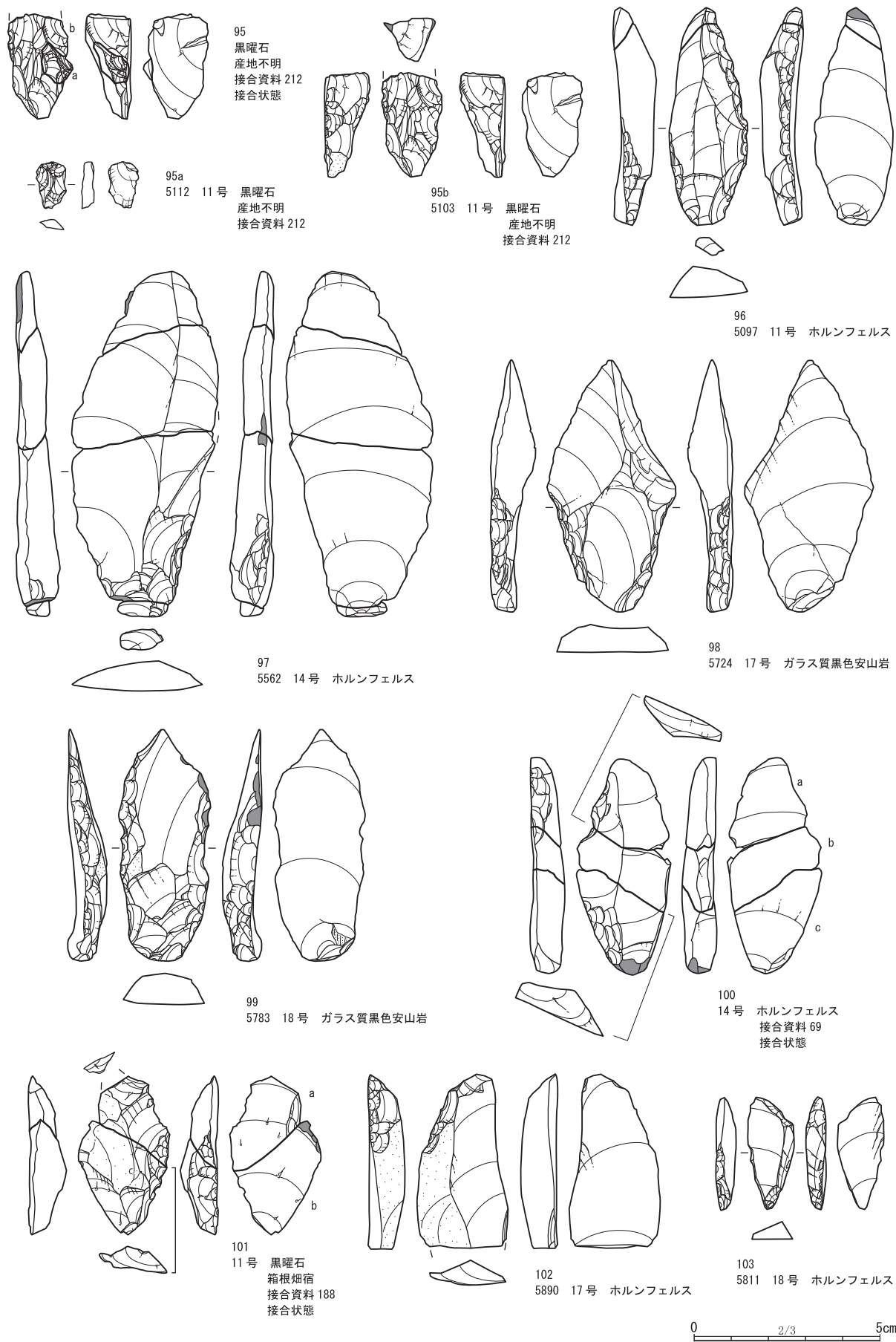
#### 石核（212）

箱根畑宿産黒曜石製で、上面側には一部角礫面が残るが他は剥離面で覆われ、消費が進んでいる。E-1グリッド出土。

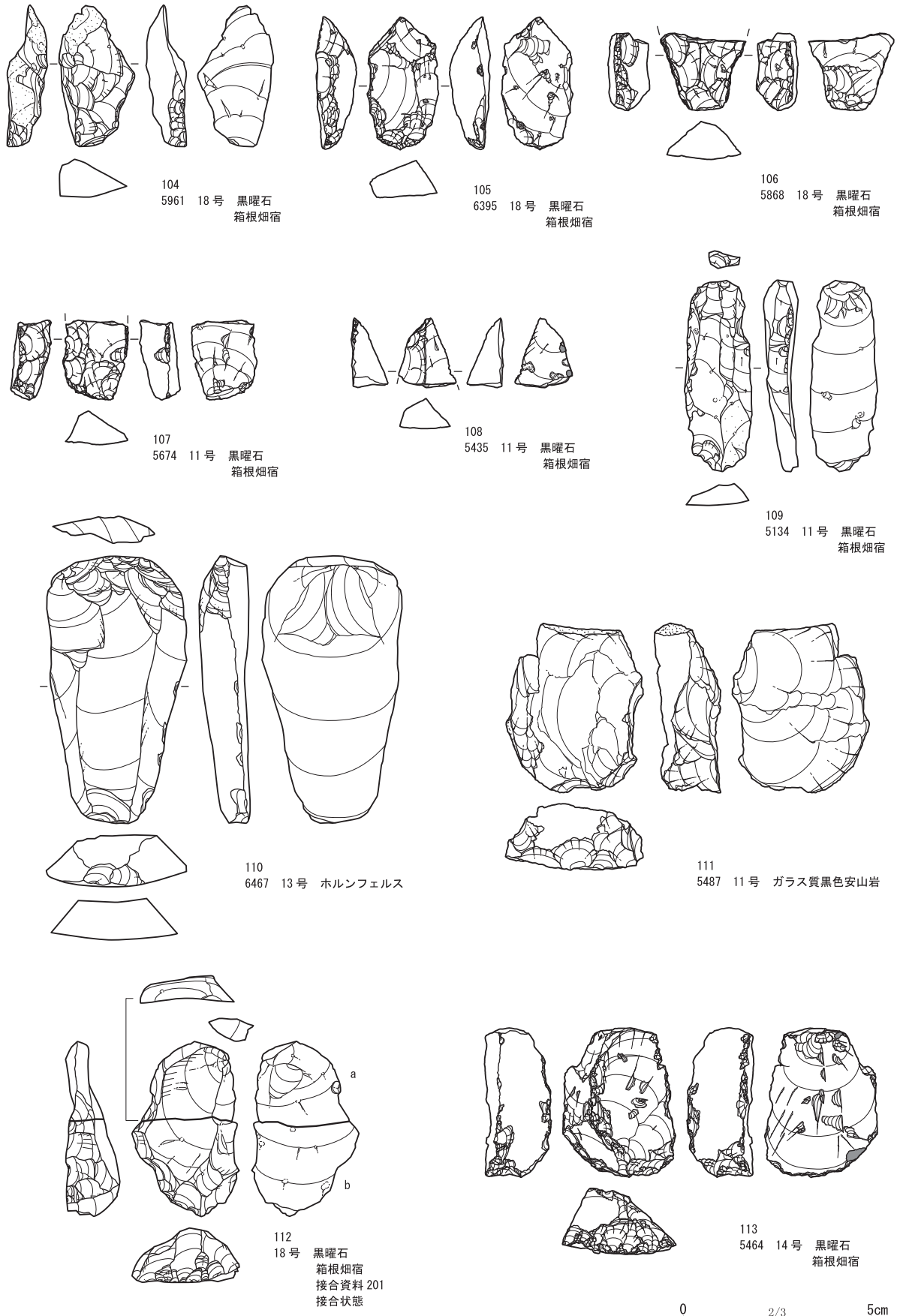
#### 剥片類（213～215）

石刃2点、剥片9点、碎片1点が出土した。213は蓼科冷山産黒曜石製の剥片で、西尾根ではこの産地の黒曜石の唯一の出土例である。I-1グリッド出土。214・215は石刃で、幅広の単剥離打面であるなど石器集中の石刃と共通した特徴をもつ。214が珪質頁岩製でK-1グリッド出土、215がホルンフェルス製でI-1グリッド出土である。

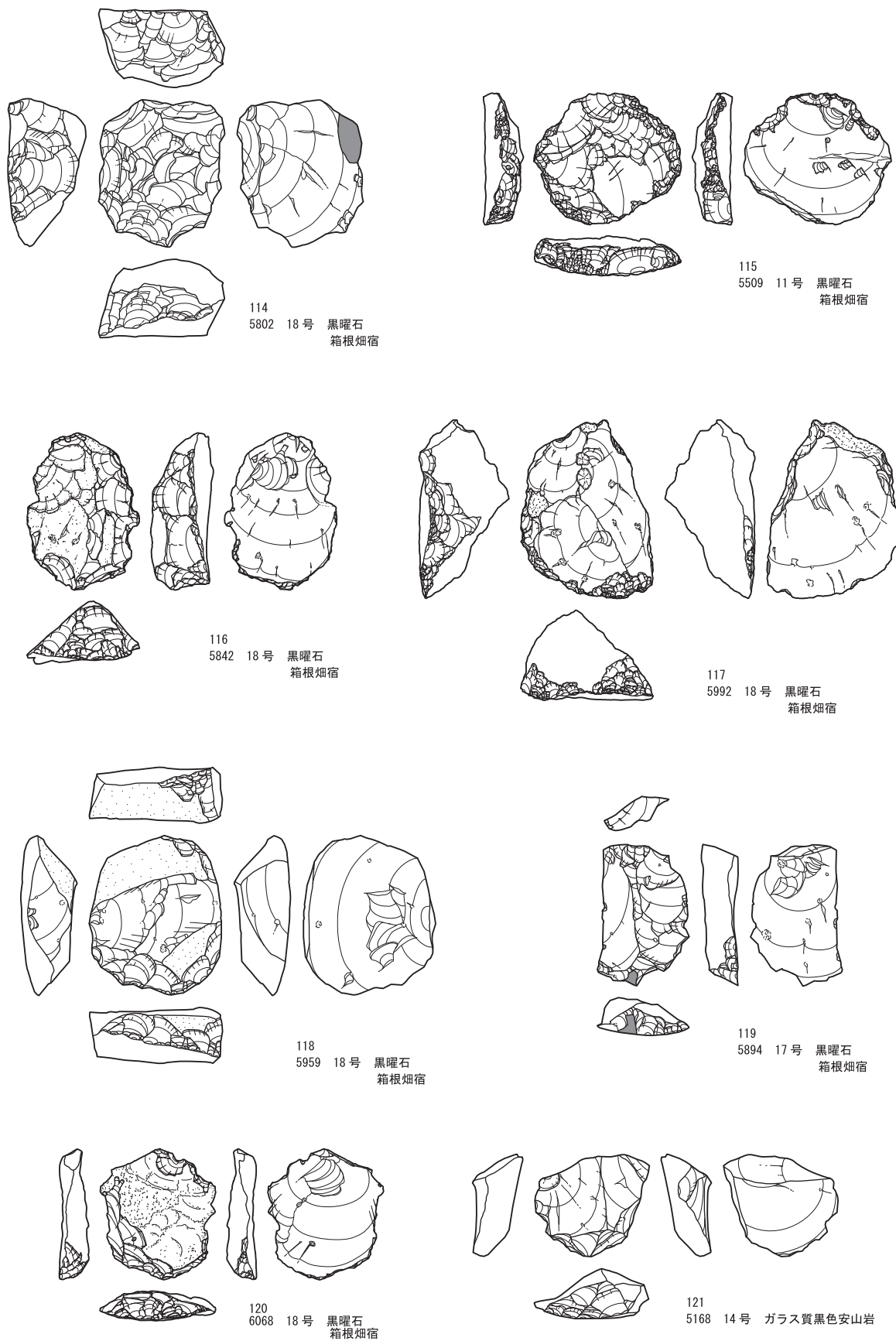




第128図 第XV文化層西尾根 石器集中(1)

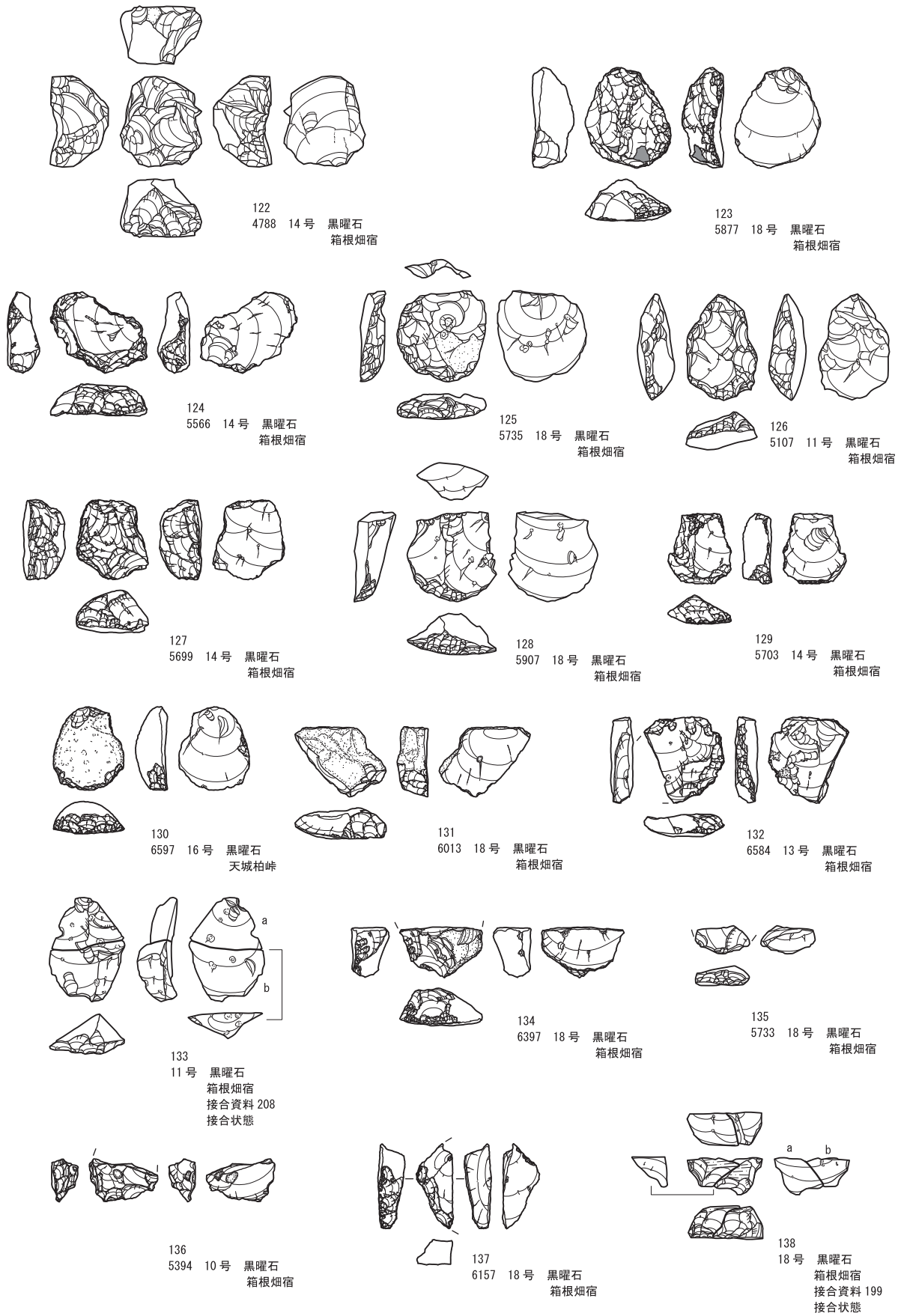


第129図 第XV文化層西尾根 石器集中(2)



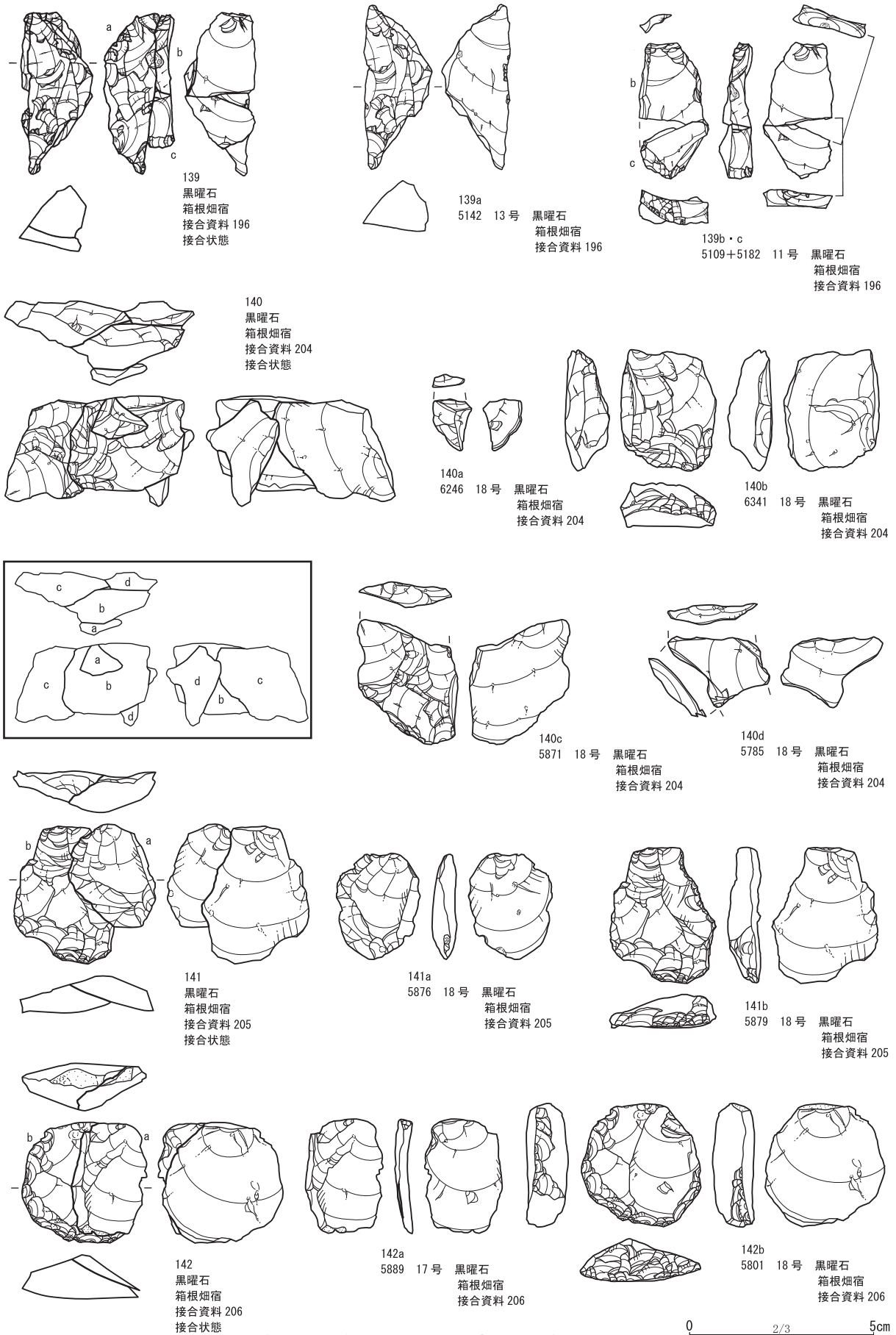
0 2/3 5cm

第130図 第XV文化層西尾根 石器集中(3)

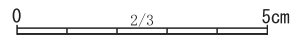
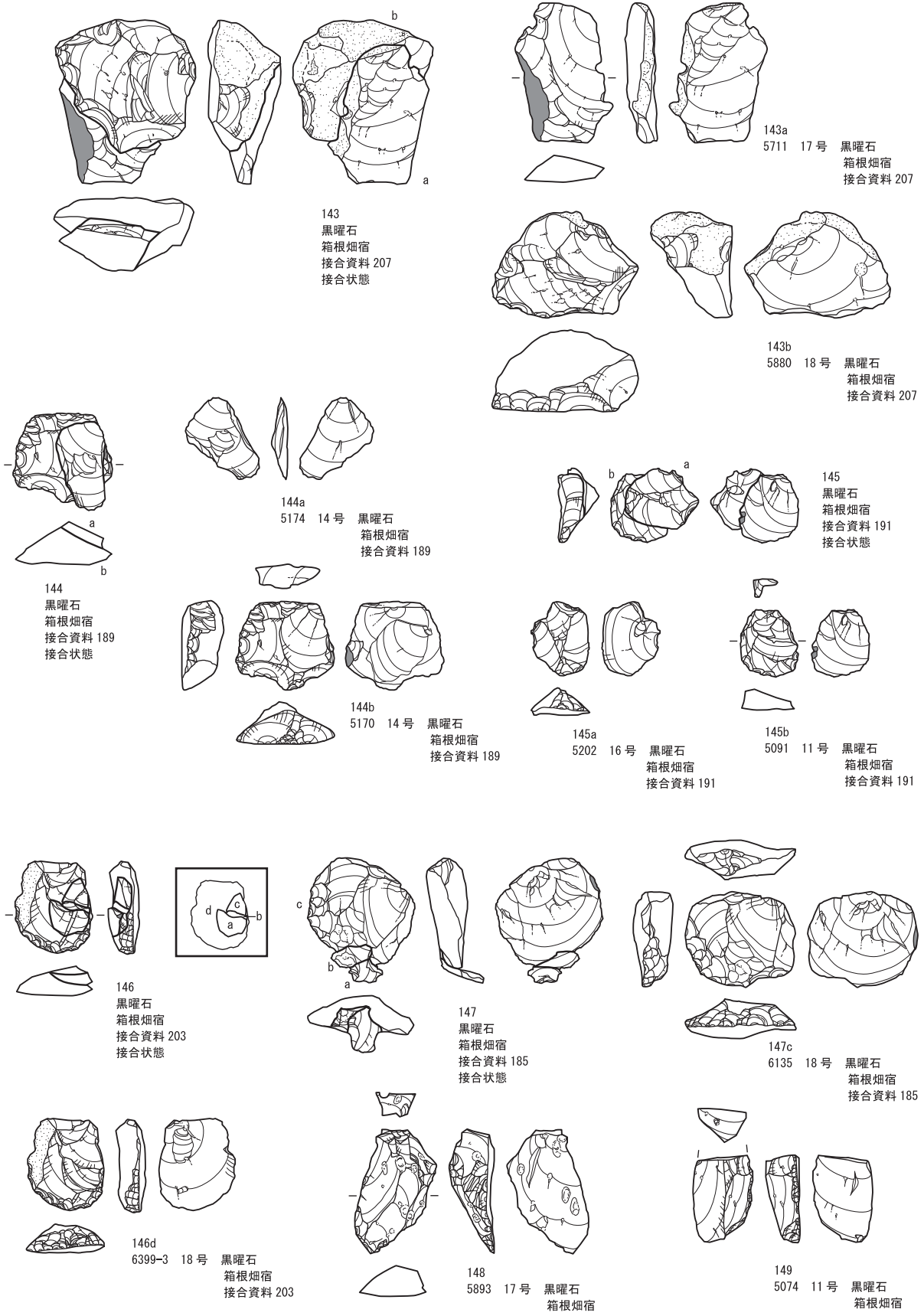


第131図 第XV文化層西尾根 石器集中(4)

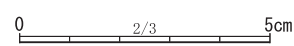
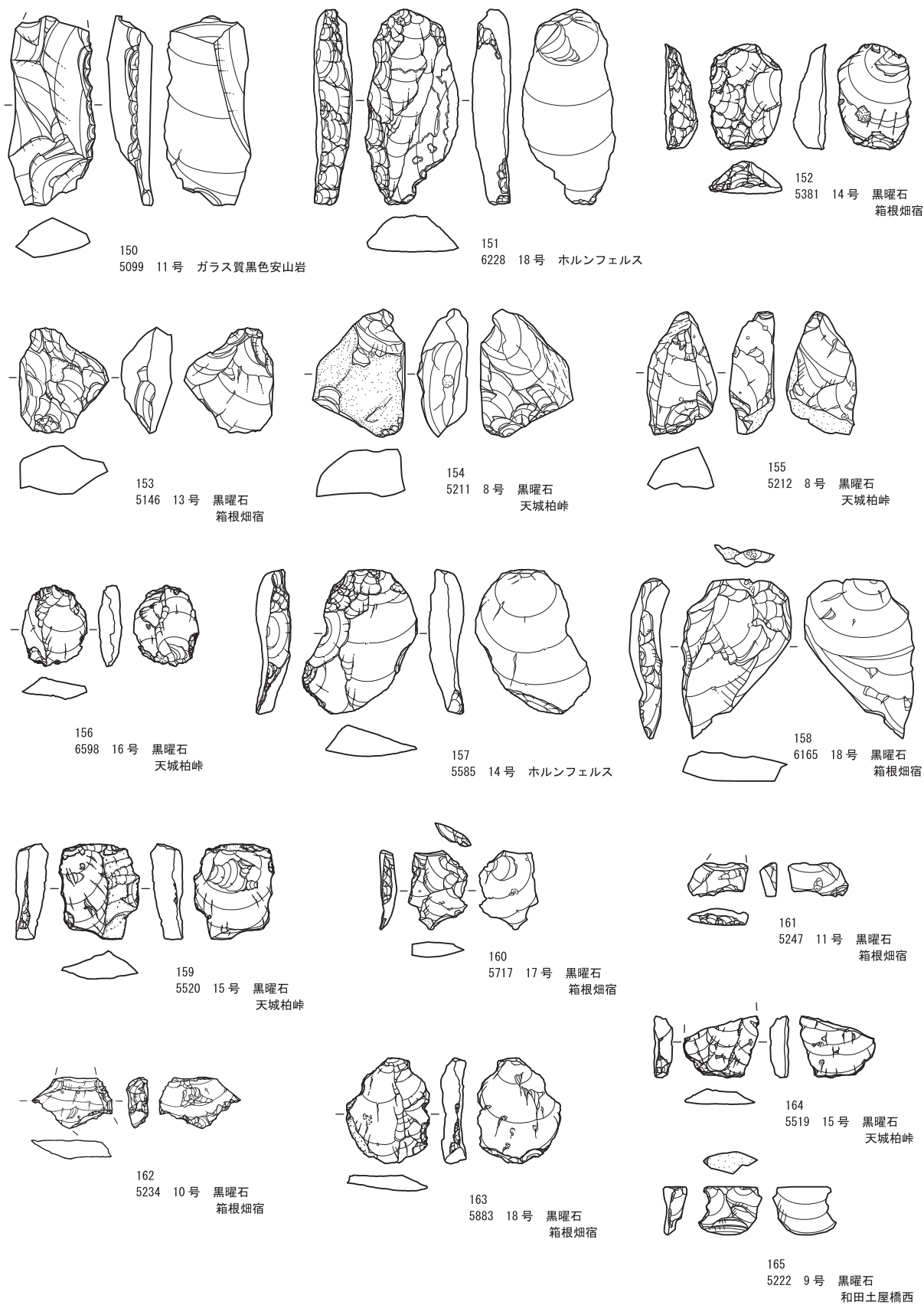
0 2/3 5cm



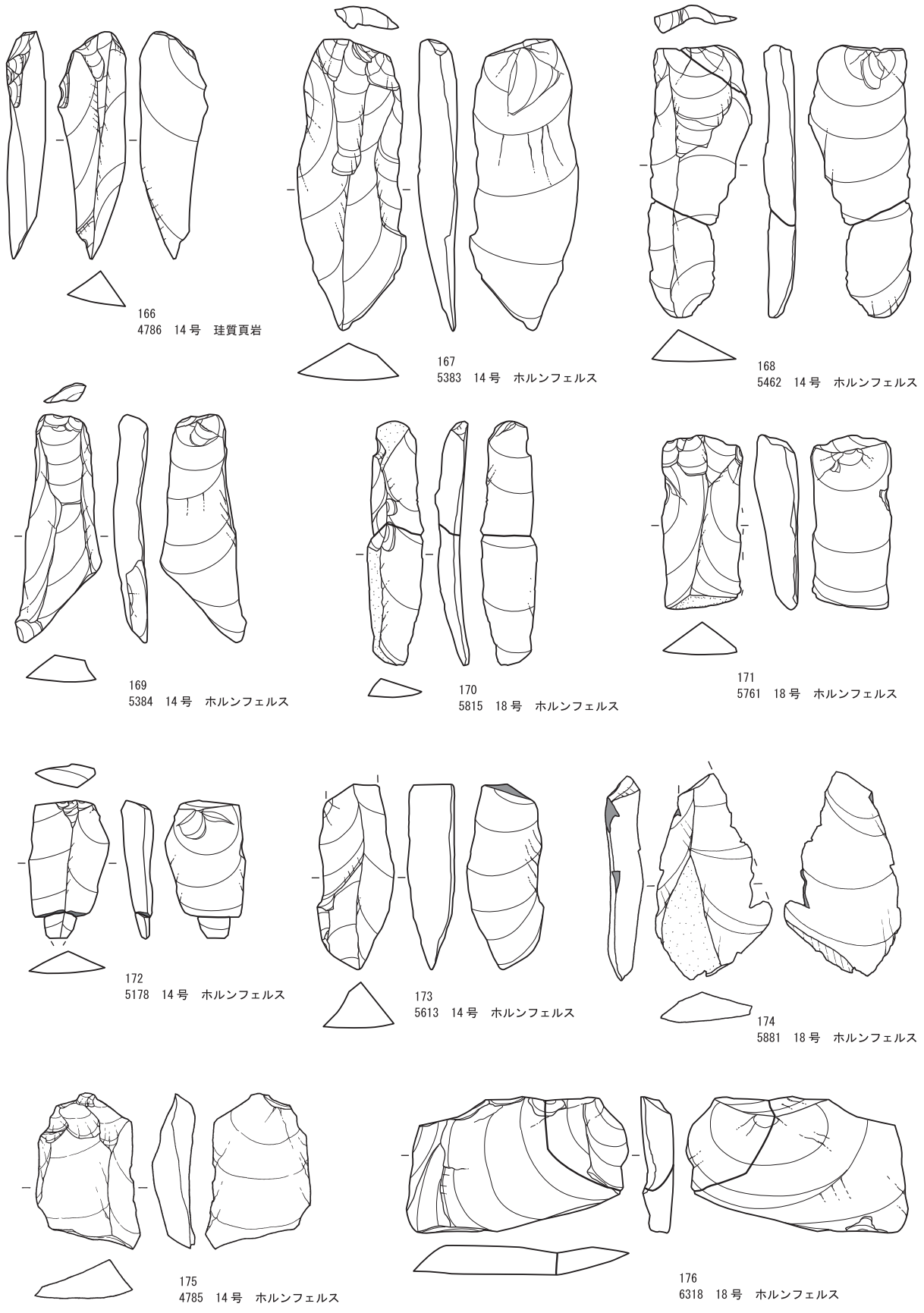
第132図 第XV文化層西尾根 石器集中(5)



第133図 第XV文化層西尾根 石器集中(6)



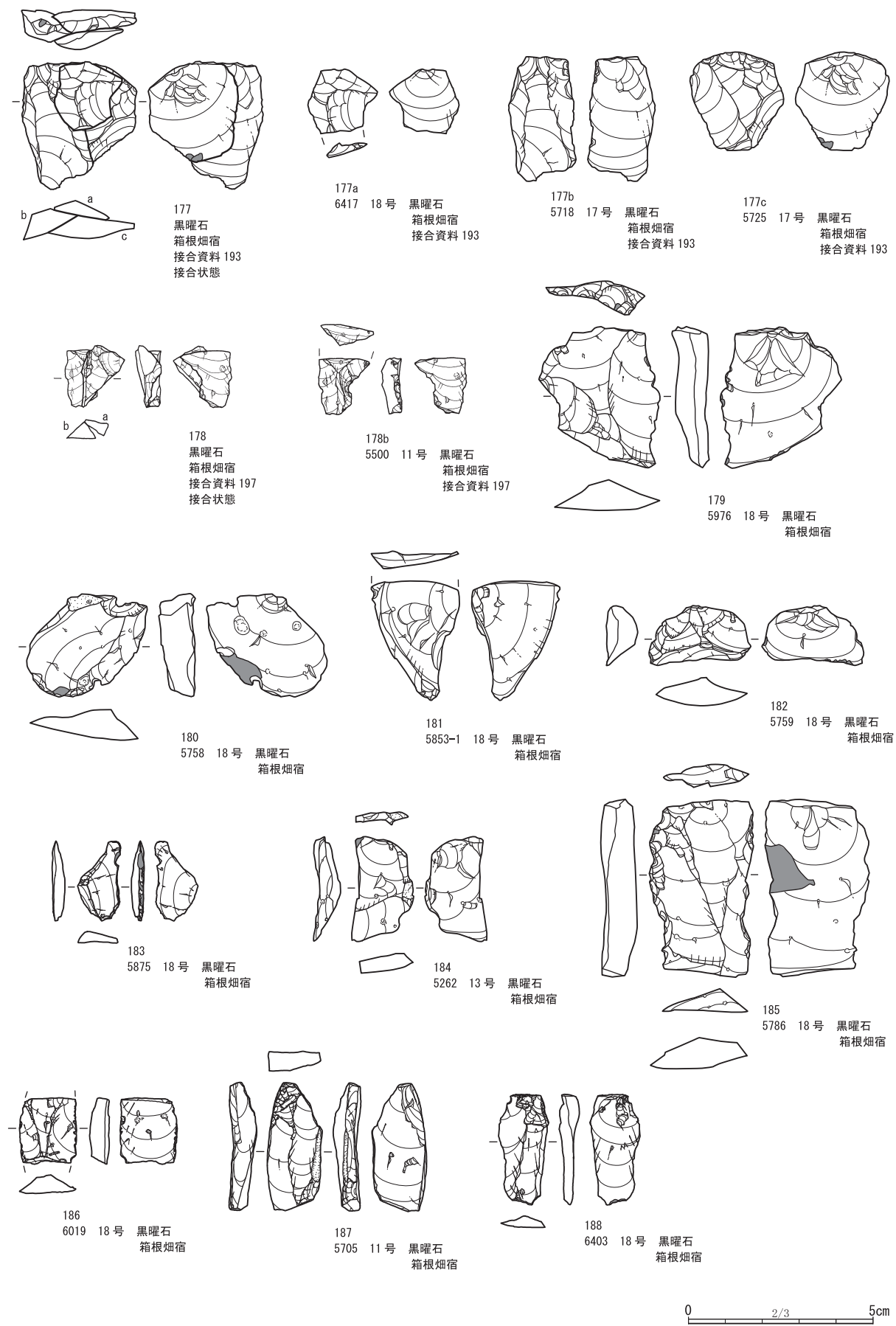
第134図 第XV文化層西尾根 石器集中(7)



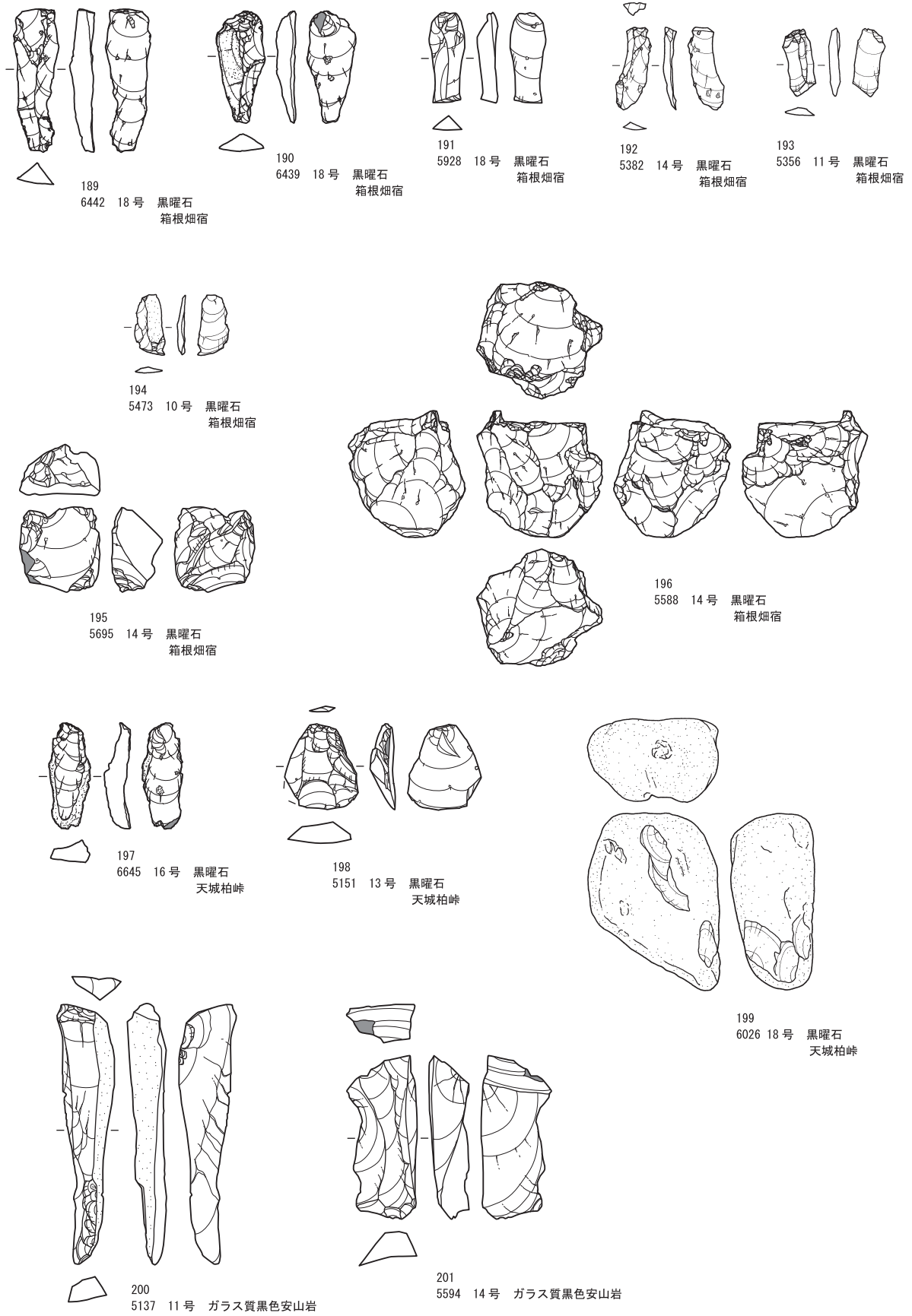
第135図 第XV文化層西尾根 石器集中(8)

0 2/3 5cm



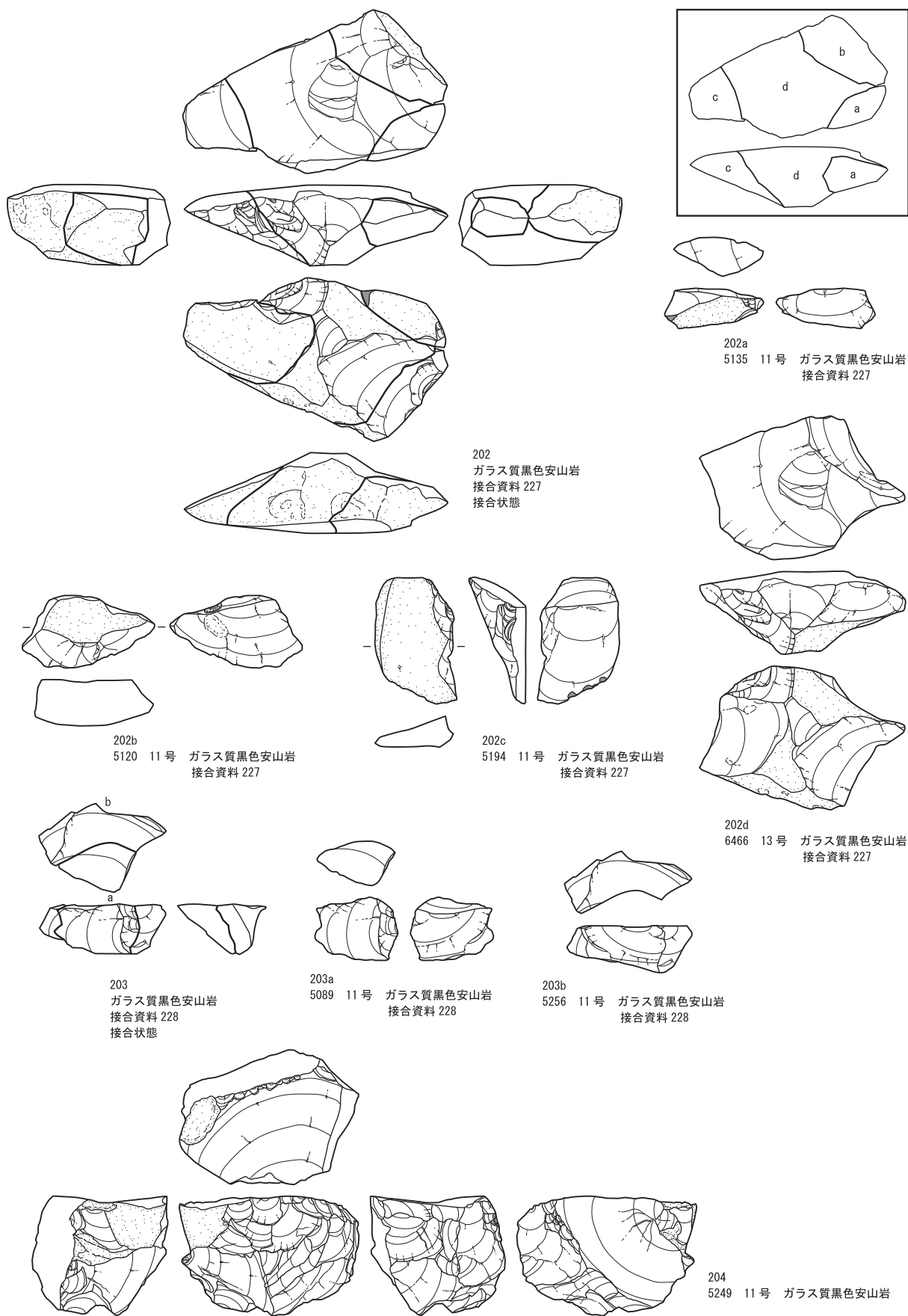


第136圖 第XV文化層西尾根 石器集中(9)



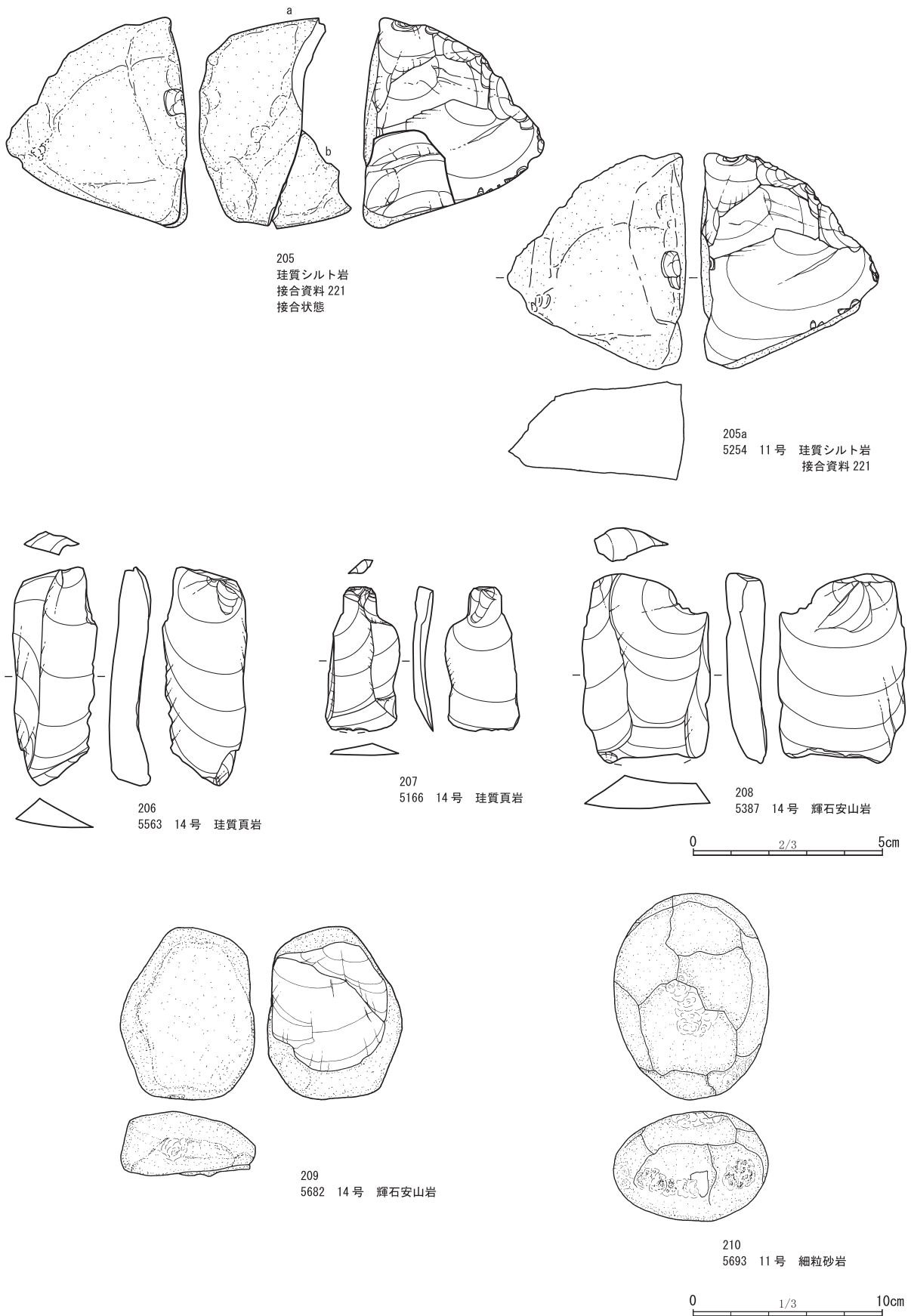
0 2/3 5cm

第137図 第XV文化層西尾根 石器集中 (10)

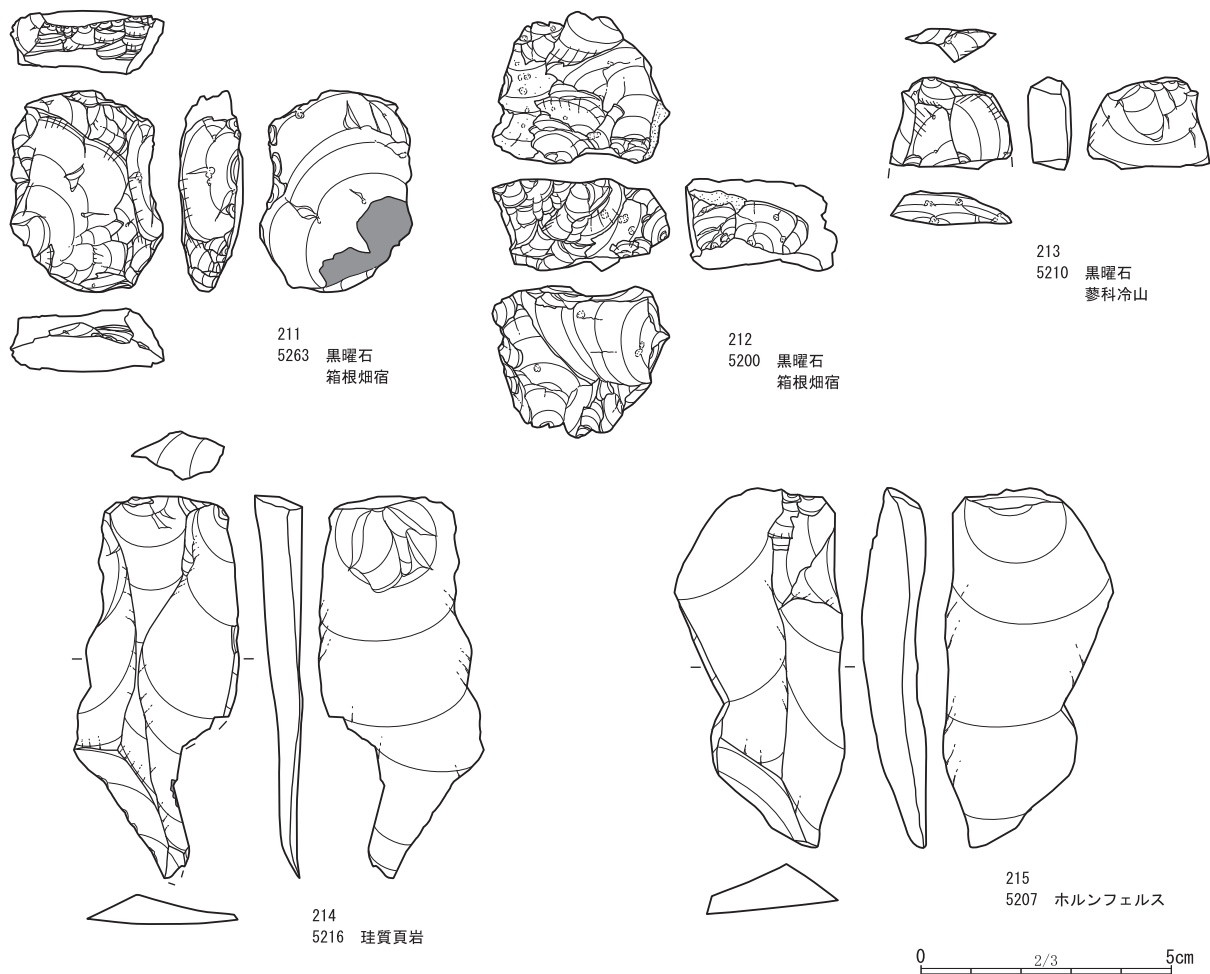


第138図 第XV文化層西尾根 石器集中 (11)

0 2/3 5cm



第139図 第XV文化層西尾根 石器集中 (12)



第140図 第XV文化層西尾根 石器集中外

## 第4節 第XVI文化層

## 概要

休場層直下黒色帯を中心として石器287点、礫2,402点が出土し、石器集中17か所、礫群60基を認定した(第141図、表56)。遺物分布から以下の8群に分けて整理する。

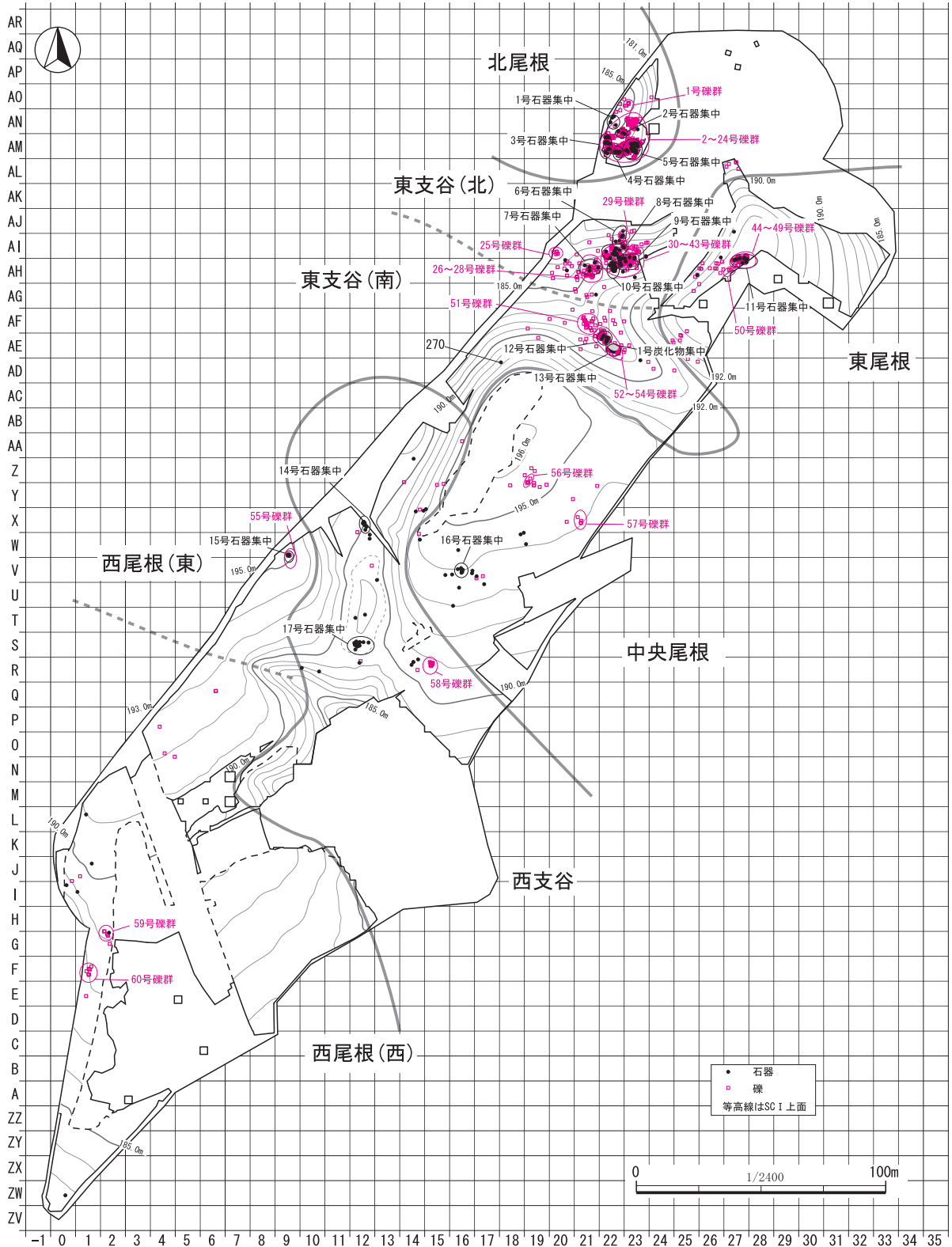
- ①北尾根 1～5号石器集中、1～24号礫群など。
- ②東尾根 11号石器集中、44～50号礫群など。
- ③東支谷(北) 6～10号石器集中、25～43号礫群など。
- ④東支谷(南) 12・13号石器集中、51～54号礫群など。
- ⑤中央尾根 16号石器集中、56・57号礫群など。3つの遺物集中はそれぞれ分散して分布するが、遺物数が少ないためこの群にまとめる。
- ⑥西支谷 14・17号石器集中、58号礫群など。3つの遺物集中は離れて分布するがこの群でまとめる。
- ⑦西尾根(東) 15号石器集中、55号礫群。
- ⑧西尾根(西) 59・60号礫群など。礫群外にも広域に遺物が散在している。

遺物数で本遺跡最大の文化層で、そのうち約9割が礫である。遺物分布は遺跡の北側に偏っており、北尾根、東支谷に約9割が分布し、大規模な礫群が発達している。石器群はホルンフェルス製、天城柏峠産黒曜石製、箱根畑宿産黒曜石製、ガラス質黒色安山岩製などが多い。

表56 第XVI文化層 石器組成

	角錐状石器	ナイフ形石器	切出形石器	台形石器	彫器	搔器	削器	二次加工剥片	石刃	剥片	砕片	石核	礫器	敲石	台石	計
黒曜石	和田鷹山		1			1				2(1)						4(1)
	和田土屋橋西									1						1
	和田土屋橋南						1									1
	和田芙蓉ライト									1(1)						1(1)
	諏訪星ヶ台		1			1				4(1)						6(1)
	蓼科冷山					1	1			4(1)		1				7(1)
	箱根畑宿		1	2	1		2	1		33(4)						40(4)
	天城柏峠		2	2(1)			2	3	1	55(2)			8			73(3)
	産地不明									6	8					14
黒曜石計		5	4(1)	1	1	6	6	1	106(10)	8	9				147(11)	
ガラス質黒色安山岩						2	2	2		14						20
ホルンフェルス	1	3				1	3	1	5	77		8				99
珪質頁岩		1														1
硬質細粒凝灰岩										1						1
流紋岩												1				1
細粒安山岩										2						2
輝石安山岩						1							3	7	1	12
玄武岩															1	1
多孔質玄武岩														1		1
細粒砂岩													1			1
細礫岩														1		1
計	1	9	4(1)	1	1	10	11	4	5	200(10)	8	18	4	9	2	287(11)

括弧内は全体数の内、微細剥離痕のあるものの点数。



第141図 第XVI文化層遺物分布

1. 北尾根の遺物群

(1) 遺物の分布 (第142・143図)

石器59点、礫1,368点が出土した (表57・63)。AM・AN-22・23グリッドを中心に1～5号石器集中、1～24号礫群が分布する。礫群は環状に近い分布を示し、相互に礫接合が多く、10m以上離れた礫群間の接合も確認されている (第155・156図)。

中でも6・10～24号礫群は半環状を呈し、ほぼ連続して分布しており境界は明瞭でない。特に17・20・21号礫群一帯に濃密に分布する。石器群は1号石器集中を除いてこれら礫群と重なって分布しており、ホルンフェルス製を主体に信州・伊豆・箱根産黒曜石製などが伴う。

表57 第XVI文化層北尾根 石器組成

		角錐状石器	ナイフ形石器	搔器	削器	二次加工剥片	石刃	剥片	石核	礫器	敲石	計
黒曜石	和田鷹山			1				2(1)				3(1)
	諏訪星ヶ台							1				1
	蓼科冷山							4(1)	1			5(1)
	箱根畑宿			1				3				4
	天城柏峠								1			1
	産地不明							1				1
	黒曜石計			2				11(2)	2			15(2)
ホルンフェルス	1	2		1	1	1	28	4				38
輝石安山岩									1	4		5
細粒砂岩									1			1
計	1	2	2	1	1	1	39(2)	6	2	4		59(2)

括弧内は全体数の内、微細剥離痕のあるものの点数。

表59 第XVI文化層  
2号石器集中 石器組成

		削器	剥片	計
黒曜石	和田鷹山		1	1
	ホルンフェルス	1	1	2
計		1	2	3

表58 第XVI文化層1号石器集中 石器組成

		ナイフ形石器	剥片	礫器	計
黒曜石	諏訪星ヶ台		1		1
	ホルンフェルス	1	1		2
	細粒砂岩			1	1
計		1	2	1	4

表60 第XVI文化層3号石器集中 石器組成

		角錐状石器	ナイフ形石器	石刃	剥片	石核	敲石	計
黒曜石	蓼科冷山				1			1
	箱根畑宿				1			1
	天城柏峠					1		1
	黒曜石計				2	1		3
	ホルンフェルス	1	1	1	6	3		12
	輝石安山岩						4	4
計		1	1	1	8	4	4	19

表61 第XVI文化層4号石器集中 石器組成

		剥片	石核	礫器	計
黒曜石	蓼科冷山	2(1)	1		3(1)
	ホルンフェルス	4			4
	輝石安山岩			1	1
計		6(1)	1	1	8(1)

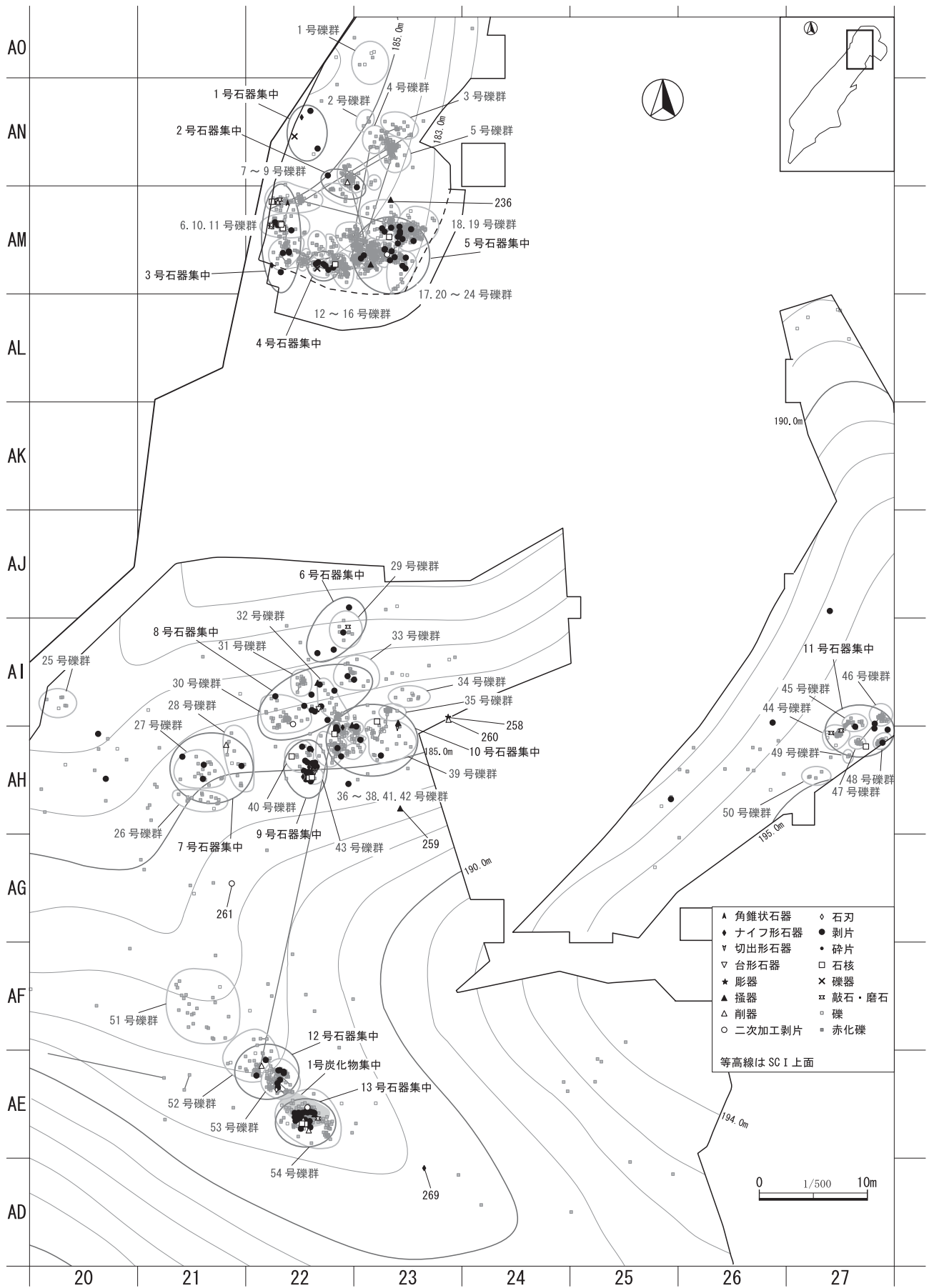
括弧内は全体数の内、微細剥離痕のあるものの点数。

表62 第XVI文化層5号石器集中 石器組成

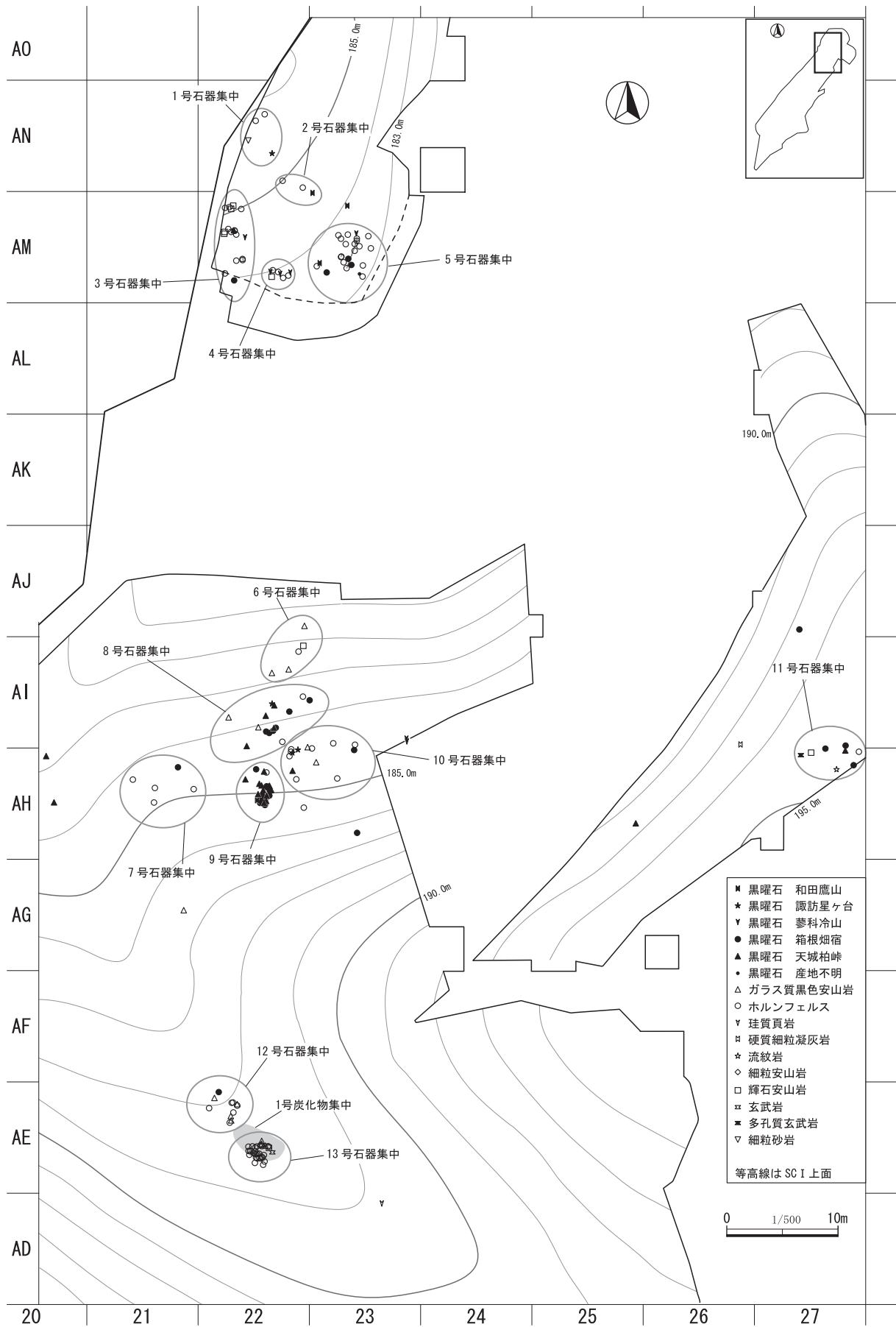
		搔器	二次加工剥片	剥片	石核	計
黒曜石	和田鷹山			1(1)		1(1)
	蓼科冷山			1		1
	箱根畑宿	1		2		3
	産地不明			1		1
	黒曜石計	1		5(1)		6(1)
	ホルンフェルス		1	16	1	18
計		1	1	21(1)	1	24(1)

括弧内は全体数の内、微細剥離痕のあるものの点数。





第142図 第XVI文化層北尾根・東尾根・東支谷（北）・（南）器種別分布



第143図 第XVI文化層北尾根・東尾根・東支谷（北）・（南） 石材別分布

1号石器集中（第144・146図、表58）

AN-22グリッドを中心に出土した石器4点から成る。出土層位は調査時の記録によると休場層直下黒色帯3点、休場層下位1点である。石器はホルンフェルス製2点、諏訪星ヶ台産黒曜石製、細粒砂岩製各1点でナイフ形石器、礫器各1点が含まれる。

2号石器集中（第145・147図、表59）

AN-22・23グリッドの境界付近で出土した石器3点から成る。出土層位は休場層直下黒色帯で、8号礫群と重複する。石器はホルンフェルス製2点、和田鷹山産黒曜石製1点で削器1点が含まれる。

3号石器集中（第148・149図、表60）

AM-22グリッド西部で出土した石器19点から成る。出土層位は休場層直下黒色帯で、6・10・11号礫群と重複する。石器はホルンフェルス製12点、蓼科冷山産・箱根畑宿産・天城柏峠産黒曜石製各1点、輝石安山岩製4点で角錐状石器、ナイフ形石器各1点、敲石4（接合により3）点が含まれる。

4号石器集中（第150・151図、表61）

AM-22グリッド南東部で出土した石器8点から成る。出土層位は休場層直下黒色帯で、15号礫群と重複する。石器はホルンフェルス製4点、蓼科冷山産黒曜石製3点、輝石安山岩製1点で礫器1点が含まれる。

5号石器集中（第152・153図、表62）

AM-23グリッドの境界付近で出土した石器24点から成る。出土層位は休場層直下黒色帯で、18～24号礫群と重複する。石器はホルンフェルス製18点と黒曜石（箱根畑宿産3点、和田鷹山産、蓼科冷山産、産地不明各1点）製で、搔器、二次加工剥片各1点が含まれる。

1号礫群（第154図、表63）

AO-23グリッド南西部で出土した礫5点から成り、うち2点に被熱の痕跡が認められた。出土層位は休場層直下黒色帯である。礫の大きさは平均で長径6.3cm・重量0.08kgである。

2号礫群（第155・156図、表63）

AN-23グリッド北西部で出土した礫4点から成り、うち3点に被熱の痕跡が認められた。出土層位は1点が休場層直下黒色帯、3点が休場層下位である。礫の大きさは最大で長径12.3cm・重量1.1kg、平均で長径9.7cm・重量0.40kgである。

3号礫群（第155・156図、表63）

AN-23グリッドで出土した被熱礫18点から成る。5号礫群の北側に位置し、出土層位は休場層直下黒色帯である。礫は最大で長径17.0cm・重量0.64kg、平均で長径8.6cm・重量0.20kgである。

4号礫群（第155・156図、表63）

AN-23グリッドで出土した被熱礫22点から成る。5号礫群の北西側に位置し、出土層位は休場層直下黒色帯である。礫は最大で長径12.9cm・重量0.31kg、平均で長径7.6cm・重量0.13kgである。

5号礫群（第155・156図、表63）

AN-23グリッドで出土した礫117点から成り、116点に被熱の痕跡が認められた。出土層位は主に休場層直下黒色帯で、2点が休場層下位である。AN-23グリッド内にまとまって分布する2～5号礫群の中で礫が最も密集した部分であり、3・6・8・17号礫群と接合関係がある。礫は最大で長径18.8cm・重量1.7kg、平均で長径8.5cm・重量0.23kgである。

6号礫群（第155・156図、表63）

AM-22グリッド北部で出土した礫59点から成り、56点に被熱の痕跡が認められた。出土層位は主に休場層直下黒色帯で、1点が休場層下位である。南側の10号礫群の他、5・19号礫群と接合関係がある。礫は最大が長径29.0cm・重量7.6kgの垂円礫で、平均で長径10.0cm・重量0.42kgである。

## 7号礫群 (第155・156図、表63)

AM-22グリッド北東部で出土した被熱礫11点から成る。出土層位は主に休場層直下黒色帯である。礫は全て亜角礫で、長径16.2cm・重量1.7kgを最大とし、平均で長径8.1cm・重量0.27kgである。

## 8号礫群 (第155・156図、表63)

AM-22グリッド南東部を中心に出土した被熱礫71点から成る。出土層位は主に休場層直下黒色帯で、5・23号礫群と接合関係がある。礫は大きいもので長径37.7cm・重量7.6kg、長径27.0cm・重量15.2kgの亜角礫があり、平均の大きさは長径9.0cm・重量0.50kgである。

## 9号礫群 (第155・156図、表63)

AN-23グリッド南部から出土した礫3点から成り、うち2点は接合する。全てに被熱の痕跡が認められた。出土層位は休場層直下黒色帯である。礫は長径5～8cmの亜角礫で、平均で長径6.6cm・重量0.93kgである。

## 10号礫群 (第155・156図、表63)

AM-22グリッドから出土した礫75点から成り、71点に被熱の痕跡が認められた。出土層位は主に休場層直下黒色帯で、5点が休場層下位である。礫は長径26.0cm・重量3.3kgの亜角礫が最大で、平均で長径7.5cm・重量0.19kgである。

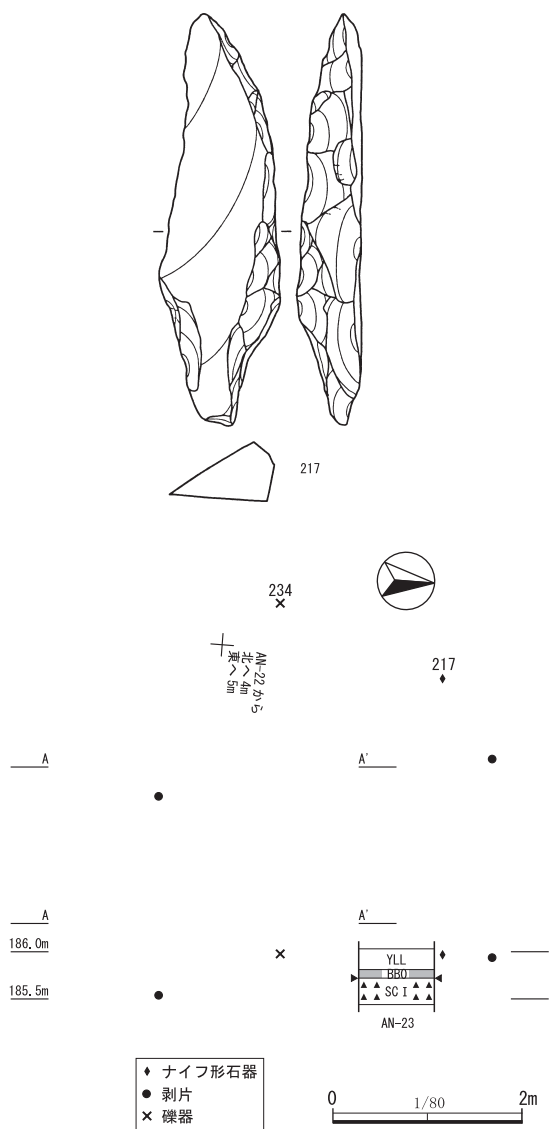
## 11号礫群 (第155・156図、表63)

AM-22グリッドから出土した被熱礫42点から成る。出土層位は休場層直下黒色帯である。礫の大きさは平均で長径8.1cm・重量0.20kgである。

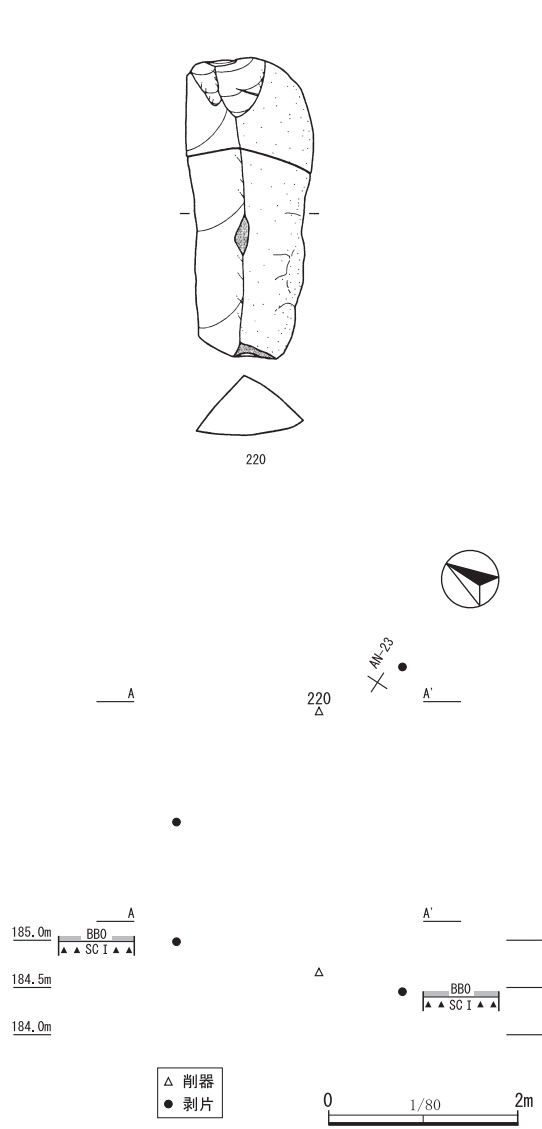
表63 第XVI文化層北尾根 礫群属性

礫群 番号	構成 礫数	赤化					形態			石材					
		完形		非完形			亜角	亜円	円	安 山 岩	輝 石	安 山 岩	多 孔 質	玄 武 岩	多 孔 質
		非赤化	赤化	非赤化	赤化1	赤化2									
1号	5	2	1	1	1	5			3	2					
2号	4		1	1	1	4			3		1				
3号	18		3		12	3	16	2	6	4	4	4			
4号	22		4		9	9	18	4	3	11	3	5			
5号	117		24	1	81	11	97	19	1	27	12	40	38		
6号	59	3	16		36	4	43	13	3	15	13	21	10		
7号	11		1		6	4	11			1		5	5		
8号	71		12		51	8	54	17		32	9	20	10		
9号	3				1	2	3			3					
10号	75	2	30	2	39	2	34	31	10	40	6	15	14		
11号	42		14		23	5	33	7	2	16	2	23	1		
12号	13	1	3		4	5	9	4		8	1	3	1		
13号	11		4		5	2	9	2		5		4	2		
14号	25		10		11	4	15	10		9		10	6		
15号	28		8		17	3	17	10	1	8	2	16	2		
16号	104	2	22	13	53	14	83	17	4	47	13	35	9		
17号	133	1	34	6	57	35	104	27	2	64	11	36	22		
18号	51		14	5	21	11	42	8	1	15	7	13	16		
19号	200		63	2	114	21	158	36	6	66	10	82	42		
20号	83		22		46	15	65	16	2	64	9	8	2		
21号	143	1	36	3	67	36	90	52	1	49	21	43	30		
22号	59	1	16		29	13	51	8		14	16	7	22		
23号	35		5		23	7	29	6		5	5	15	10		
24号	48		15	1	23	9	30	14	4	17	6	15	10		
遺構外	8	2	1		4	1	6	2		2		3	3		

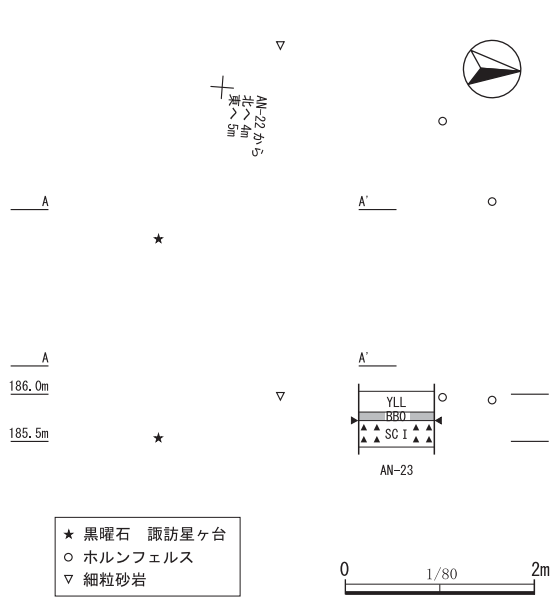
赤化1：全面が赤化 赤化2：礫の外皮のみ赤化



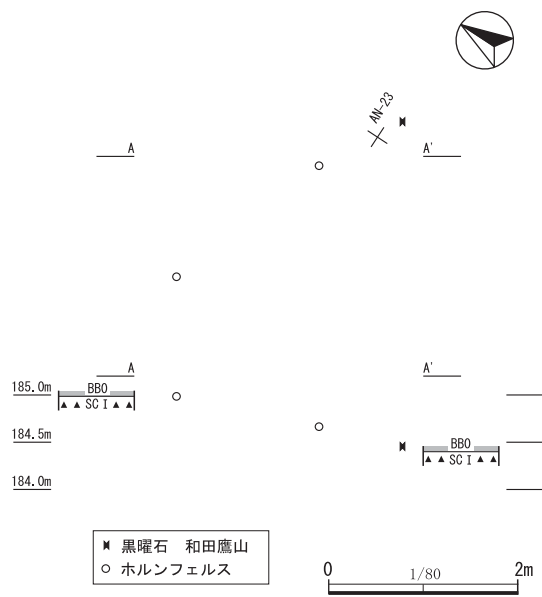
第144図 第XVI文化層1号石器集中 器種別分布



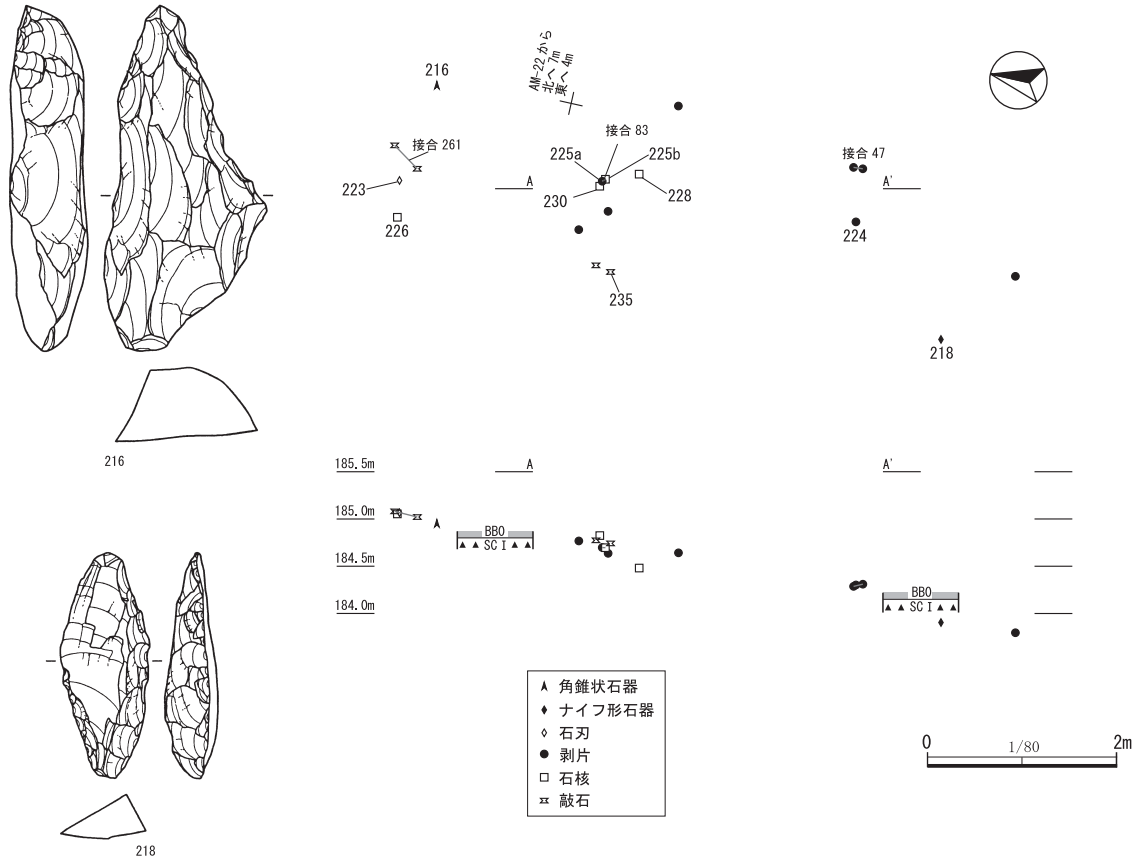
第145図 第XVI文化層2号石器集中 器種別分布



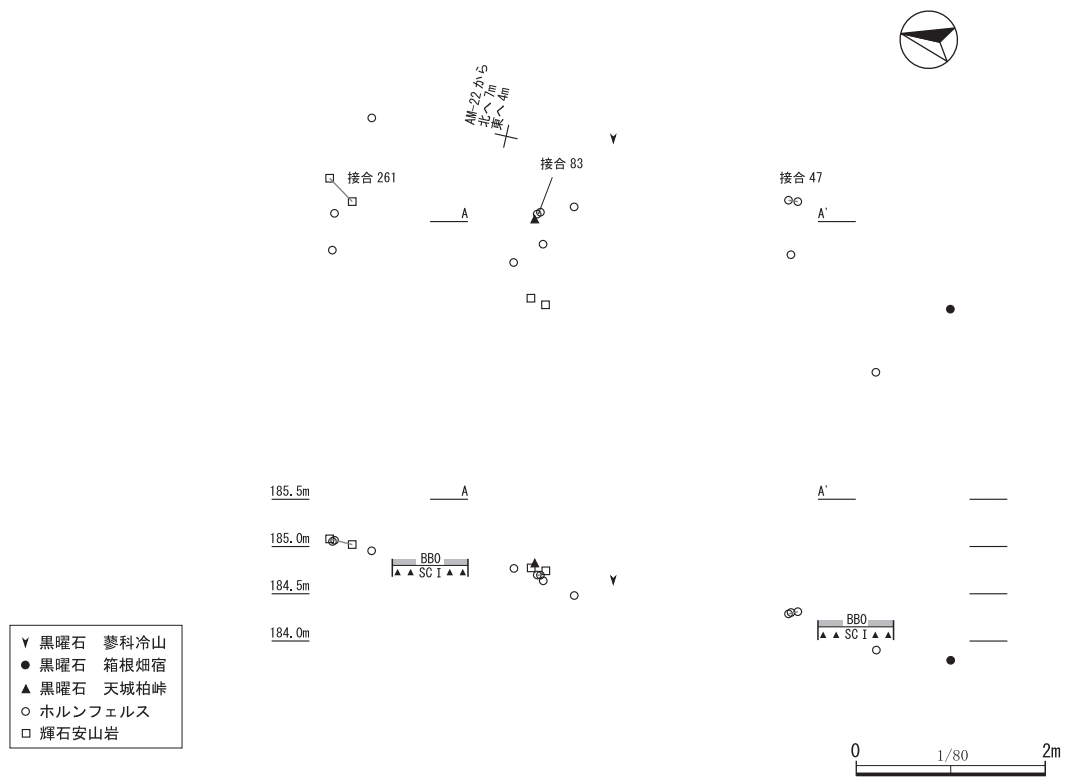
第146図 第XVI文化層1号石器集中 石材別分布



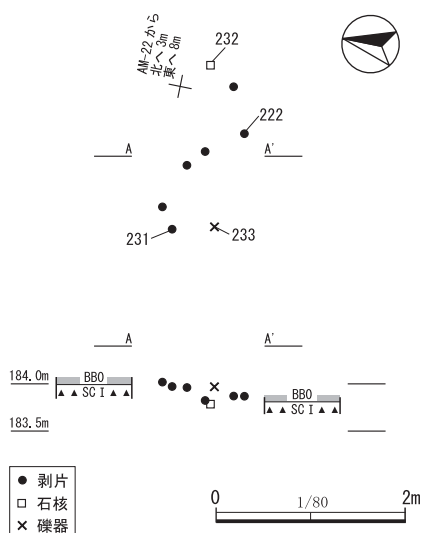
第147図 第XVI文化層2号石器集中 石材別分布



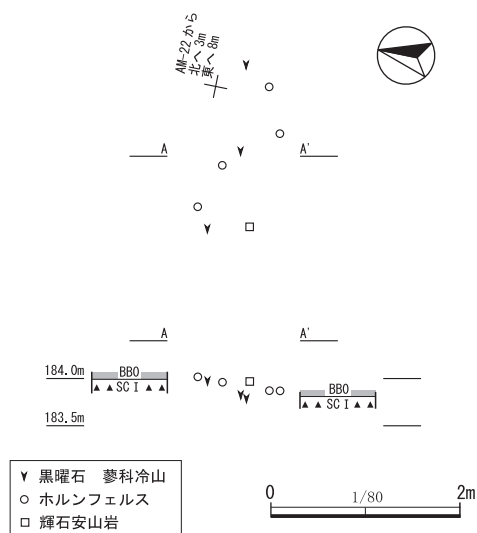
第148図 第XVI文化層3号石器集中 器種別分布



第149図 第XVI文化層3号石器集中 石材別分布



第150図 第XVI文化層4号石器集中 器種別分布



第151図 第XVI文化層4号石器集中 石材別分布

12号礫群 (第155・156図、表63)

AM-22グリッドから出土した礫13点から成り、12点に被熱の痕跡が認められた。出土層位は休場層直下黒色帯である。平均で長径7.9cm・重量0.14kgである。

13号礫群 (第155・156図、表63)

AM-22グリッドから出土した被熱礫11点から成る。出土層位は休場層直下黒色帯である。礫は長径16.9cm・重量0.88kgの亜角礫が最大で、平均で長径10.7cm・重量0.36kgである。

14号礫群 (第155・156図、表63)

AM-22グリッドから出土した被熱礫25点から成る。出土層位は休場層直下黒色帯である。礫は長径18.2cm・重量1.7kgの亜円礫が最大で、平均で長径9.8cm・重量0.38kgである。2個体が16号礫群の礫と接合する。

15号礫群 (第155・156図、表63)

AM-22グリッドから出土した被熱礫28点から成る。出土層位は休場層直下黒色帯である。礫は長径22.8cm・重量4.2kgの亜角礫が最大で、平均で長径7.6cm・重量0.44kgである。

16号礫群 (第155・156図、表63)

AM-22グリッドから出土した礫104点から成り、89点に被熱の痕跡が認められた。出土層位は休場層直下黒色帯である。礫は大きいもので長径21.0cm・重量1.2kg、長径20.2cm・重量1.1kg、長径17.3cm・重量1.8kgの亜角礫があり、平均では長径8.8cm・重量0.25kgである。

17号礫群 (第155・156図、表63)

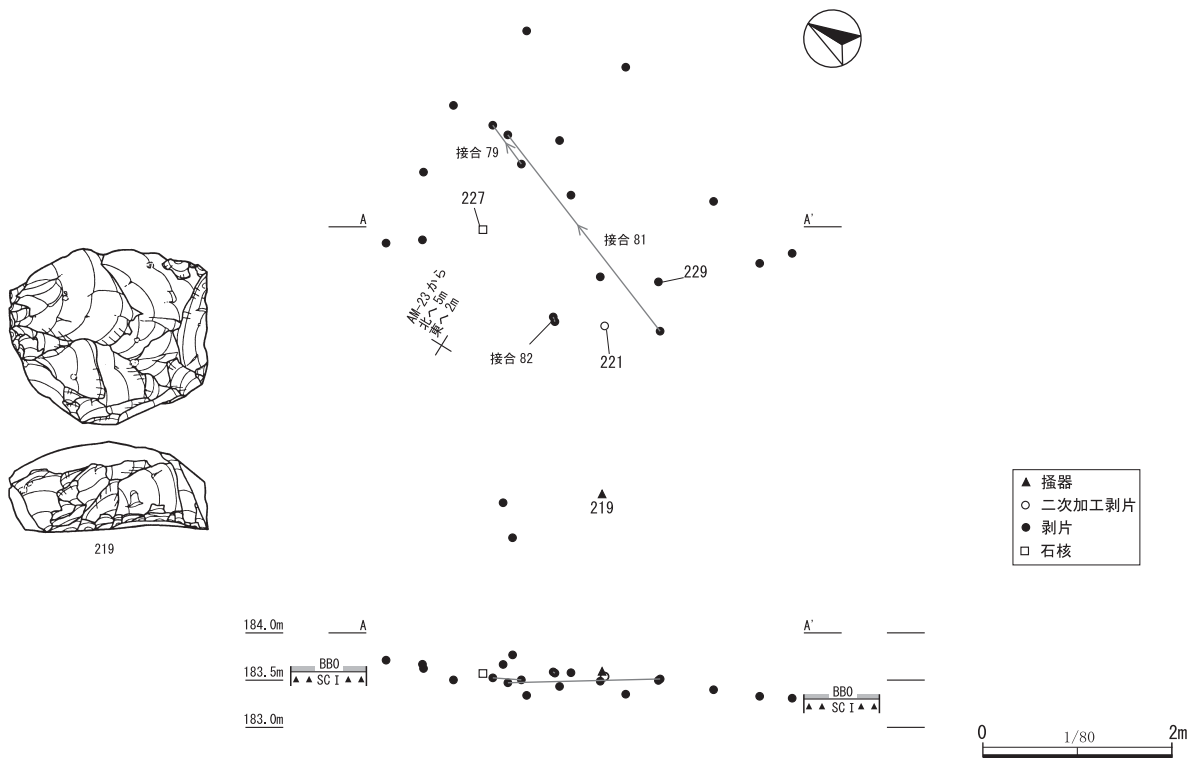
AM-22・23グリッドにかけて出土した礫133点から成り、126点に被熱の痕跡が認められた。出土層位は休場層直下黒色帯である。礫は大きいもので長径19.1cm・重量2.4kg、長径18.5cm・重量1.1kg、長径17.3cm・重量1.9kgの亜角礫があり、平均で長径8.4cm・重量0.20kgである。

18号礫群 (第155・156図、表63)

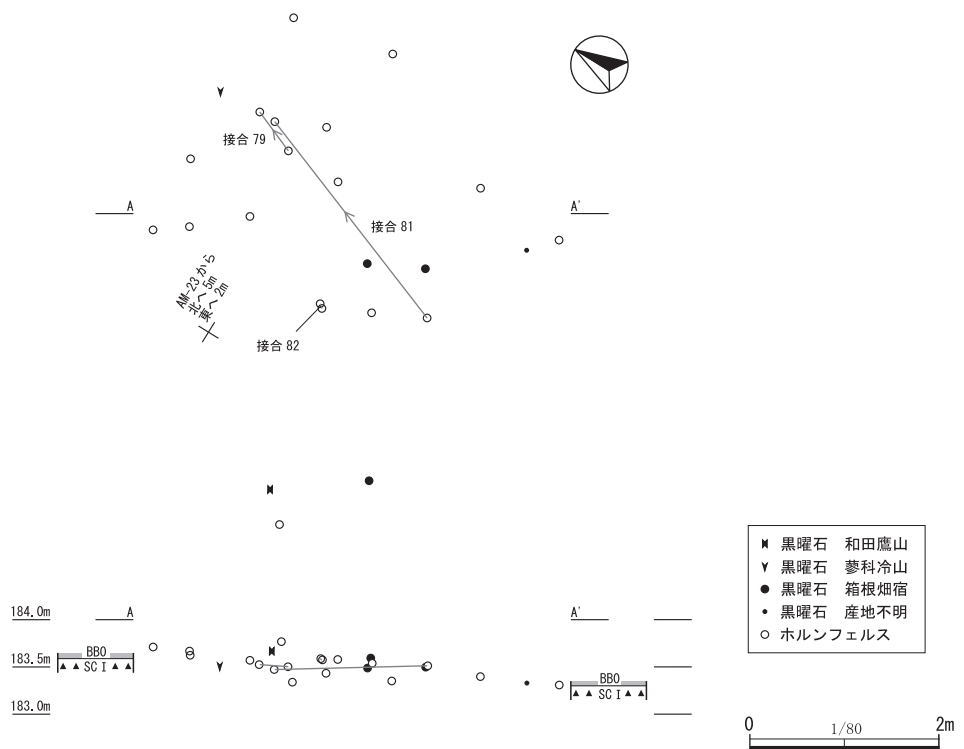
AM-23グリッドから出土した礫51点から成り、46点に被熱の痕跡が認められた。出土層位は休場層直下黒色帯である。平均で長径7.9cm・重量0.13kgである。

19号礫群 (第155・156図、表63)

AM-23グリッドから出土した礫200点から成り、198点に被熱の痕跡が認められた。出土層位は休場

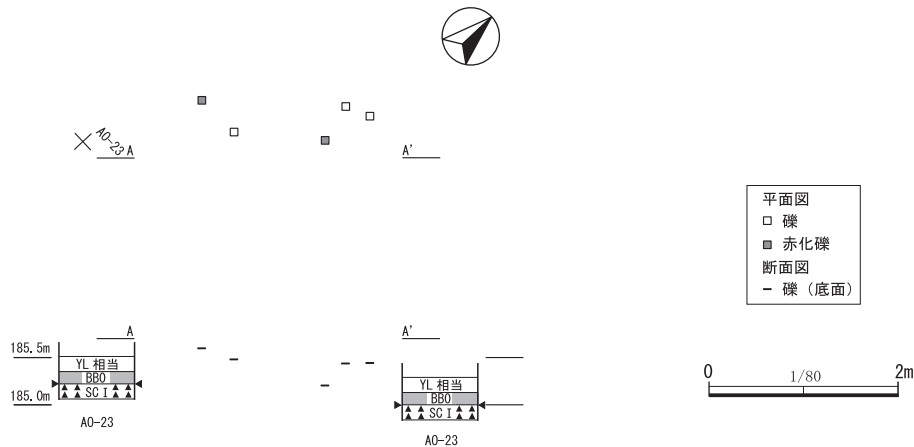


第152図 第XVI文化層5号石器集中 器種別分布



第153図 第XVI文化層5号石器集中 石材別分布





第154図 第XVI文化層1号礫群

層直下黒色帯である。礫は大きいもので長径25.3cm・重量7.6kg、長径15.5cm・重量1.0kgの亜円礫、長径15.2cm・重量1.4kgの亜角礫があり、平均で長径7.5cm・重量0.20kgである。

20号礫群 (第155・156図、表63)

AM-22・23グリッドにかけて出土した被熱礫83点から成る。出土層位は休場層直下黒色帯である。礫は長径16.7cm・重量0.50kgの亜角礫が最大で、平均で長径9.0cm・重量0.26kgである。

21号礫群 (第155・156図、表63)

AM-23グリッドから出土した礫143点から成り、139点に被熱の痕跡が認められた。出土層位は休場層直下黒色帯である。礫は長径24.4cm・重量5.1kgの亜円礫が最大で、その他15cm超が6点あり、平均で長径8.8cm・重量0.28kgである。

22号礫群 (第155・156図、表63)

AM-23グリッドから出土した礫59点から成り、58点に被熱の痕跡が認められた。出土層位は休場層直下黒色帯である。礫は長径23.8cm・重量2.6kgの亜角礫が最大で平均で長径7.9cm・重量0.20kgである。

23号礫群 (第155・156図、表63)

AM-23グリッドから出土した被熱礫35点から成る。出土層位は休場層直下黒色帯である。礫は大きいもので長径16.2cm・重量1.7kg、長径15.3cm・重量1.5kgの亜円礫があり、平均で長径7.9cm・重量0.62kgである。

24号礫群 (第155・156図、表63)

AM-23グリッドから出土した礫48点から成り、47点に被熱の痕跡が認められた。分布は北側にまとまるが、南側の斜面方向へ分散する礫まで含めている。出土層位は休場層直下黒色帯である。礫は大きいもので長径32.5cm・重量3.3kg、長径26.5cm・重量4.2kg、長径23.3cm・重量4.0kgの亜角礫があり、平均で長径11.1cm・重量0.54kgである。

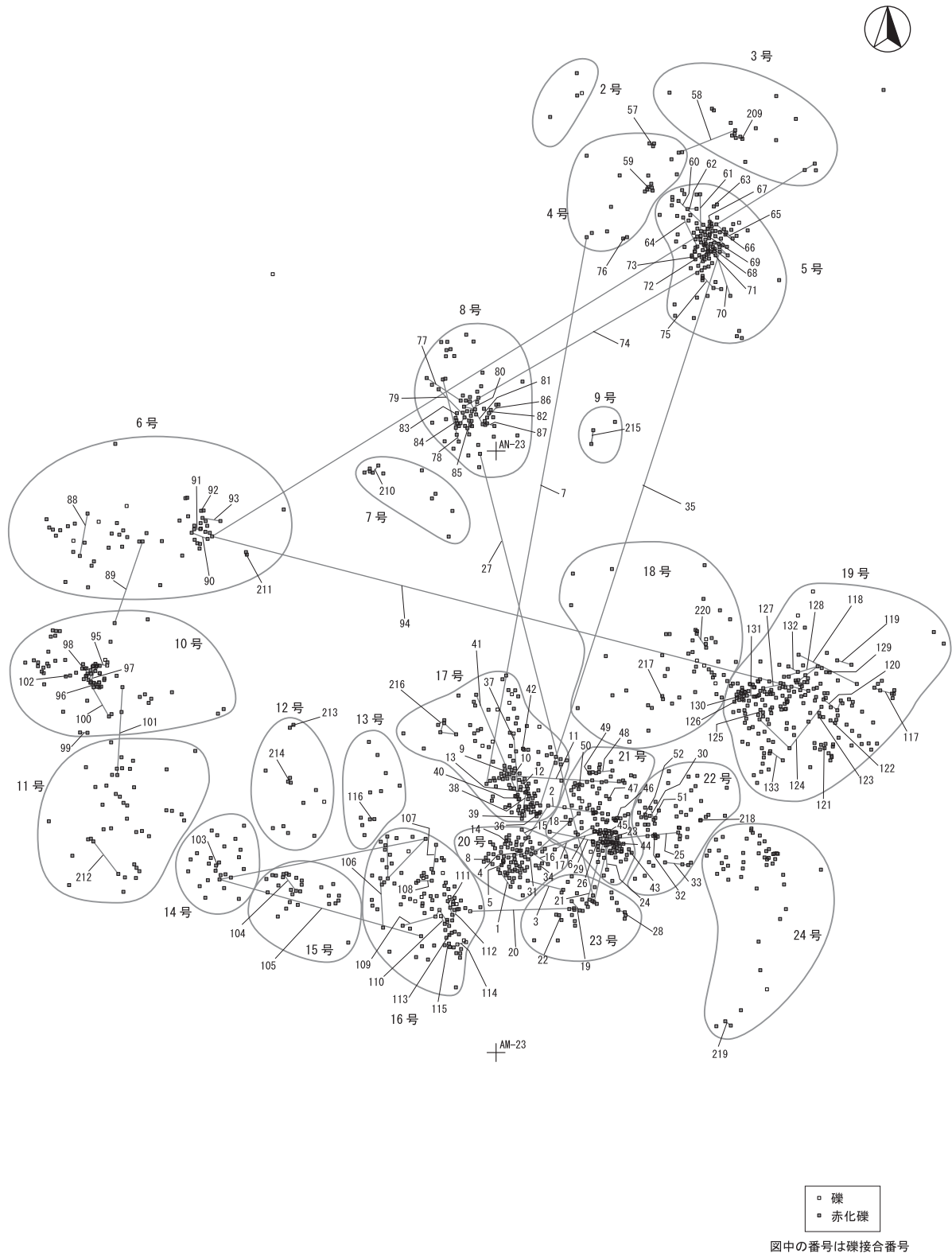
(2) 1～5号石器集中の出土石器 (第157～159図)

角錐状石器 (216)

1点出土した。ホルンフェルス製で、厚手剥片の打面側を基部として両側縁から急斜度加工で整形されており、左側面ではさらに裏面に平坦加工が施されている。

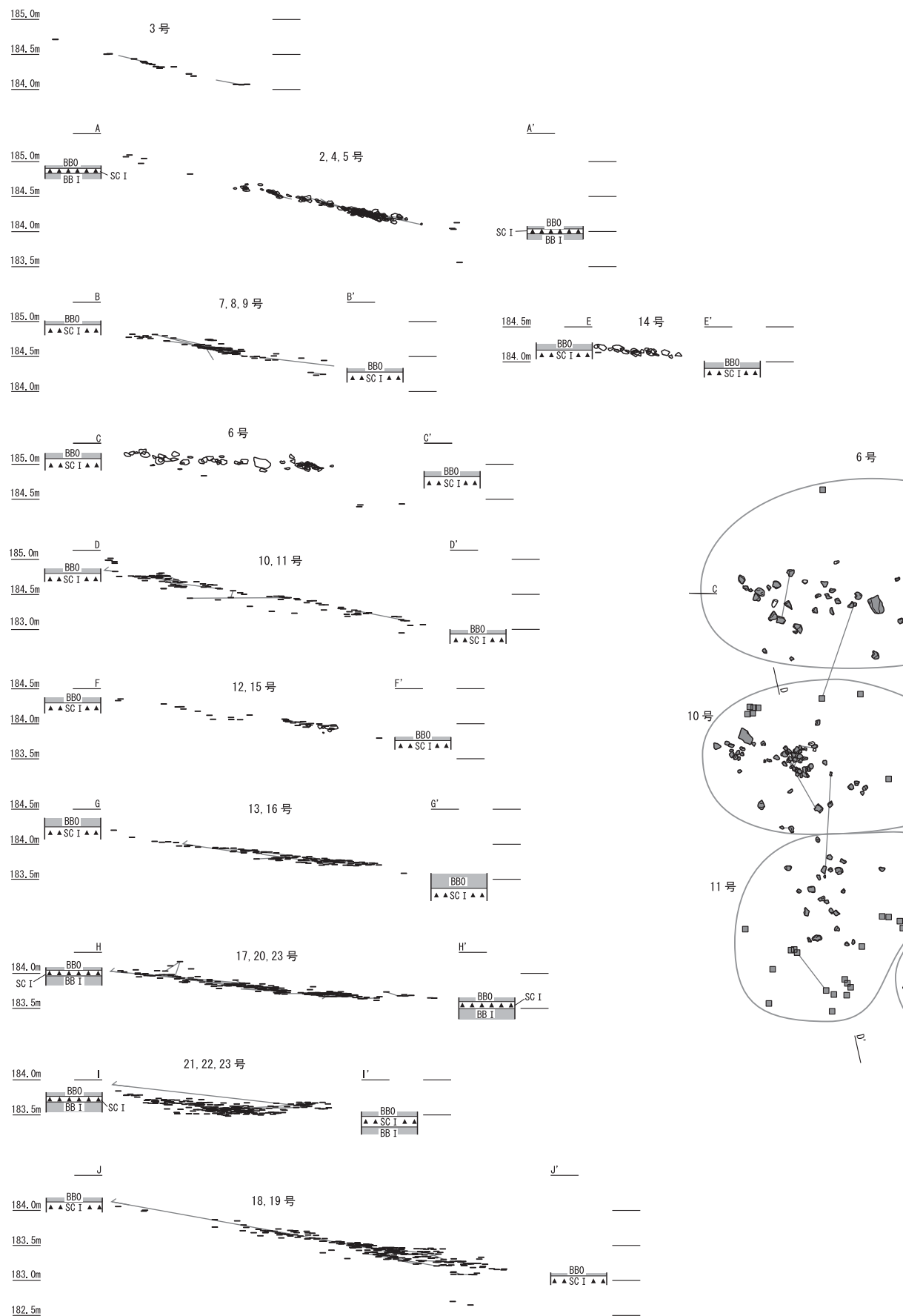
ナイフ形石器 (217・218)

2点出土した。ともにホルンフェルス製、二側縁加工である。217の背部は対向調整で、基部が弱く内湾している。



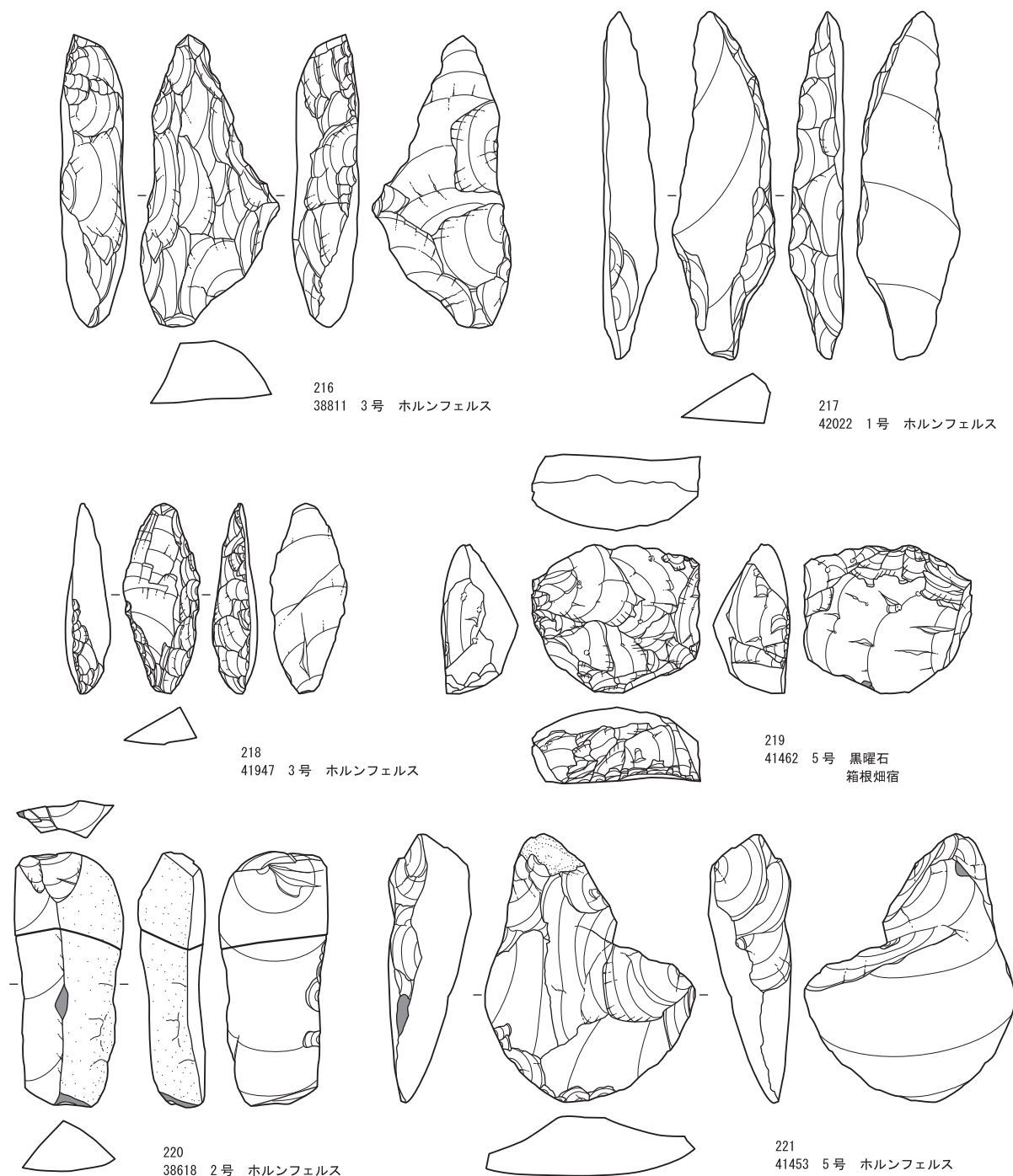
第155図 第XVI文化層2~24号礫群(1)

第4節 第XVI文化層



第156图 第XVI文化層2~24号磔群(2)





第157図 第XVI文化層北尾根 石器集中(1)

0 2/3 5cm

搔器 (219)

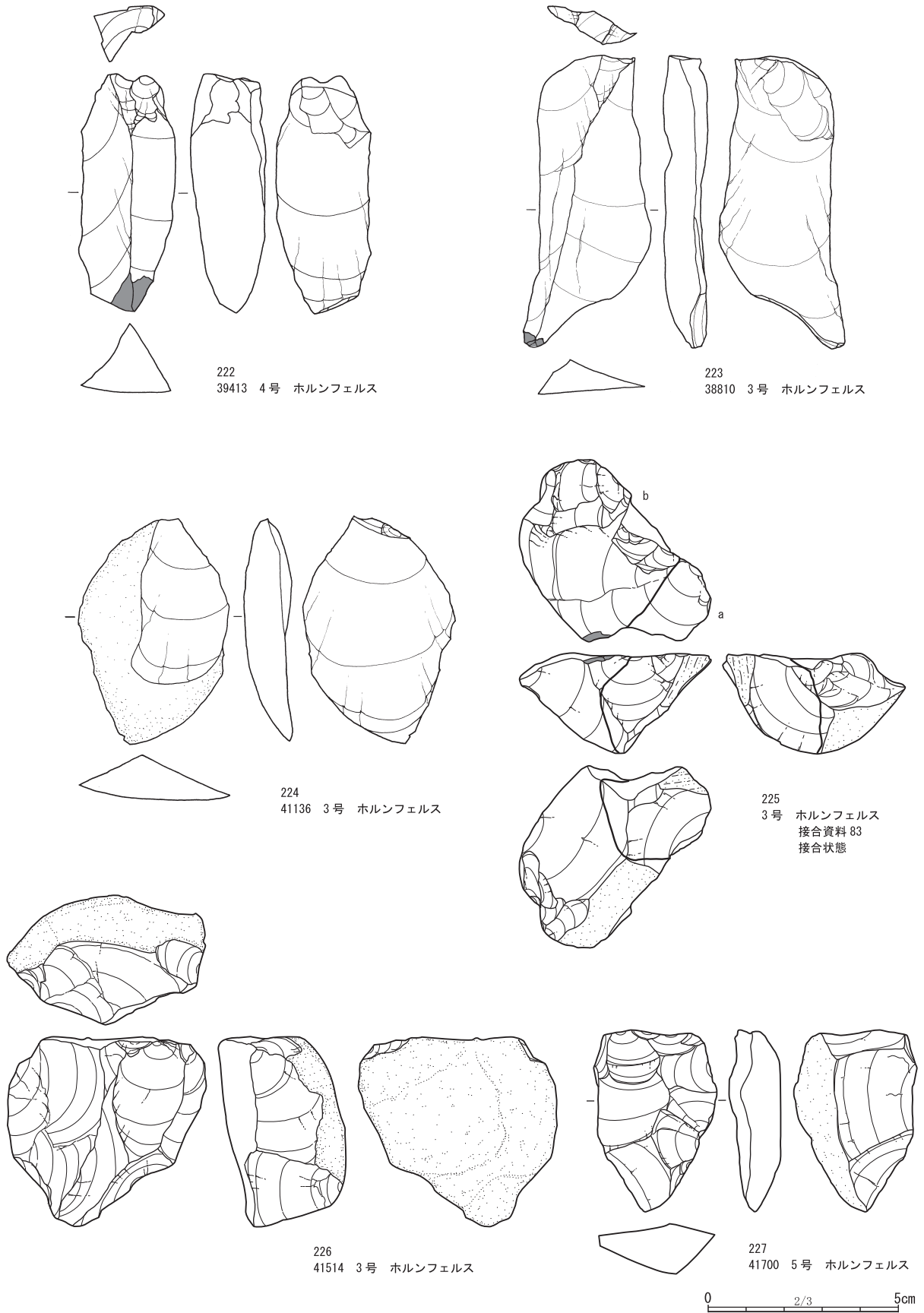
1点出土した。折断した箱根畑産黒曜石製の剥片を素材とし、下縁の背面側と上辺の腹面側に急斜度加工で弧状の刃部が設けられている。

削器 (220)

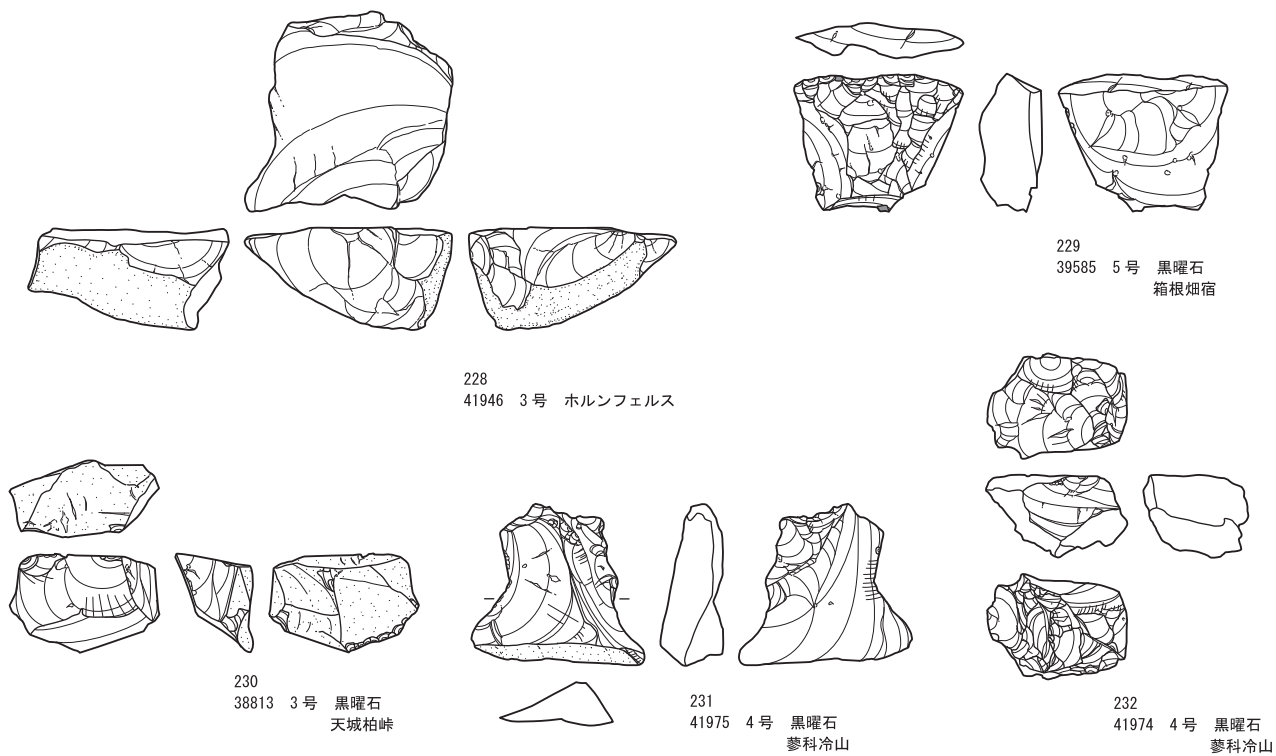
1点出土した。ホルンフェルス製の石刃を素材とし、左側縁腹面側を二次加工したものである。

二次加工剥片 (221)

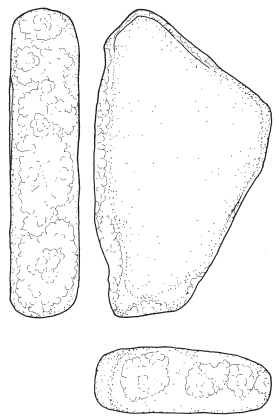
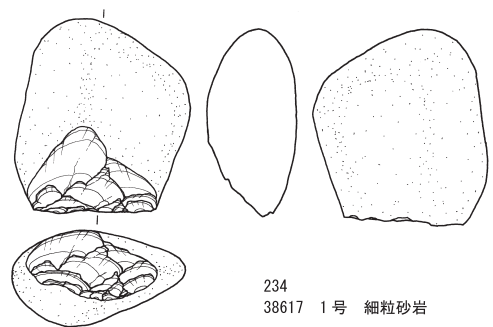
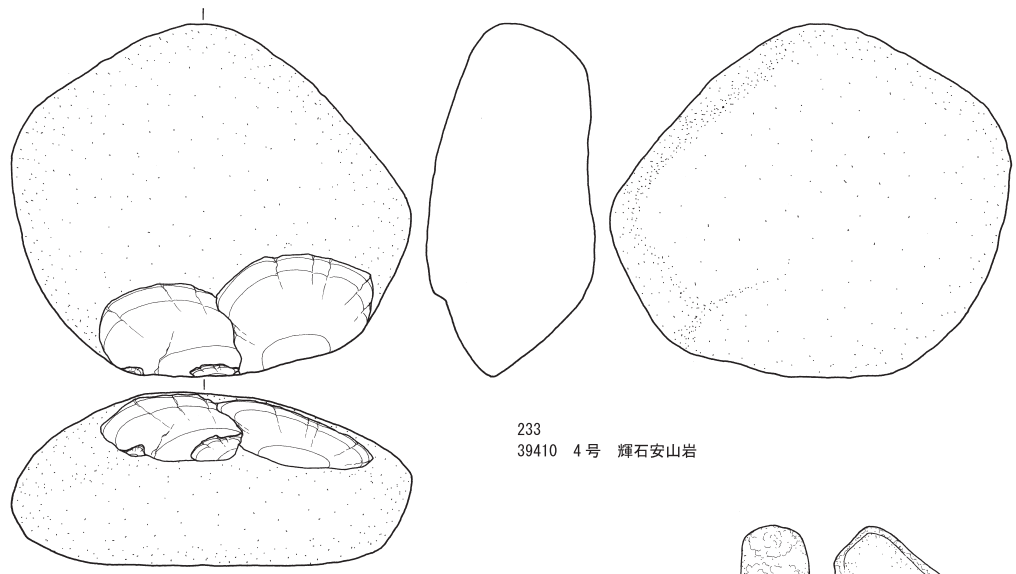
1点出土した。ホルンフェルス製の剥片の末端側に二次加工が認められる。加工部位は弧状を呈し、搔器であった可能性もあるが、風化して加工が判然としないため二次加工剥片に分類した。



第158図 第XVI文化層北尾根 石器集中(2)



0 2/3 5cm



0 1/3 10cm

第159図 第XVI文化層北尾根 石器集中(3)

## 剥片類・石核 (222~232)

石刃1点、剥片39(接合により37)点、石核6点が出土した。222~228はホルンフェルス製の資料である。剥片類は縦長剥片(222)や石刃(223)が少数あるが、大半が不定形の幅広剥片である。224は幅広で打撃軸と基軸とが斜交する剥片である。石核はこれらの剥片に対応した形状のものが出土している。225は上面を打面として寸詰まりの剥片が剥離され、226・227は求心状に剥片剥離が行われている。228は分割礫素材の石核で、分割面を打面として幅広剥片を剥離している。

229~232は黒曜石製の資料である。箱根畑宿産(229)、天城柏峠産(230)、蓼科冷山産(231・232)のものが含まれる。230は角礫素材の石核である。232は消費が進んだ石核で、不規則に剥離が入り、挟み割りが行われた可能性がある。

## 礫器 (233・234)

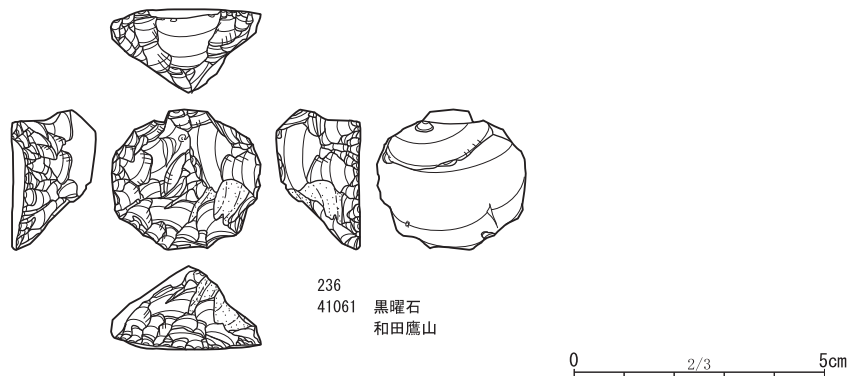
2点出土した。233は輝石安山岩の円礫を素材とするもので、粗い加工で刃部を作出している。234は細粒砂岩の円礫を素材とする。刃部は粗い加工の後、細かい剥離を加えて作出されているが、一部は潰れて階段状剥離となっている。

## 敲石 (235)

4(接合により3)点出土し、そのうち1点を図示した。235は輝石安山岩の垂角礫を利用したもので、板状の礫の側面部に敲打によると見られる凹凸が認められる。図示していない3点も輝石安山岩で同様の形態のものである。

## (3) 石器集中外の出土石器 (第160図)

AM-23グリッド、18号礫群の外れに当たる位置で搔器1点が出土した(236)。和田鷹山産黒曜石製で、素材剥片の折れ面の一部を基部に残し、それ以外は刃部加工がほぼ一周している。



第160図 第XVI文化層北尾根 石器集中外



2. 東尾根の遺物群

(1) 遺物の分布 (第142・143図)

石器12点、礫142点が出土した (表64・66)。遺物の多くはAH・AI-27グリッドにまとまり、この範囲に11号石器集中、44～50号礫群が分布する。その他には、西側のAH-25・26グリッド周辺、及び東尾根の西側斜面にあたるAE-25グリッド周辺に分散して分布する。

11号石器集中 (第161・162図、表65)

AH-27グリッド北西部を中心に出土した石器9点から成る。44～49号礫群と重複して分布するもので、石器自体の分布密度は高くない。出土層位は休場層直下黒色帯から休場層中位である。石器は黒曜石 (箱根畑産3点、天城柏峠産1点など) 製5点、ホルンフェルス製、流紋岩製、輝石安山岩製、多孔質玄武岩製各1点で、敲石2点を含む。

44号礫群 (第163図、表66)

AH-27グリッド北西部で出土した礫32点から成る。礫は大半が径約1mの範囲に29点が密集し、その南西側にやや離れて礫3点が分布する。後者の3点は現地調査の際に回収されなかったため出土位置以外の情報は不明であるが、それ以外の礫には全て被熱の痕跡が認められた。出土層位は休場層直下黒色帯である。礫は長径17.8cm・重量0.37kgのものが最大で、平均で長径10.1cm・重量0.29kgである。

45号礫群 (第163図、表66)

AH・AI-27グリッド境界部で出土した礫23点から成る。礫は1点が現地調査の際に回収されなかったため出土位置以外の情報は不明であり、それ以外の礫22点中21点に被熱の痕跡が認められた。出土層

表64 第XVI文化層東尾根 石器組成

		剥片	碎片	石核	敲石	計
黒曜石	箱根畑産	4(1)				4(1)
	天城柏峠	2(1)				2(1)
	産地不明		1			1
	黒曜石計	6(2)	1			7(2)
ホルンフェルス		1				1
硬質細粒凝灰岩		1				1
流紋岩				1		1
輝石安山岩					1	1
多孔質玄武岩					1	1
計		8(2)	1	1	2	12(2)

括弧内は全体数の内、微細剥離痕のあるものの点数。

表65 第XVI文化層11号石器集中 石器組成

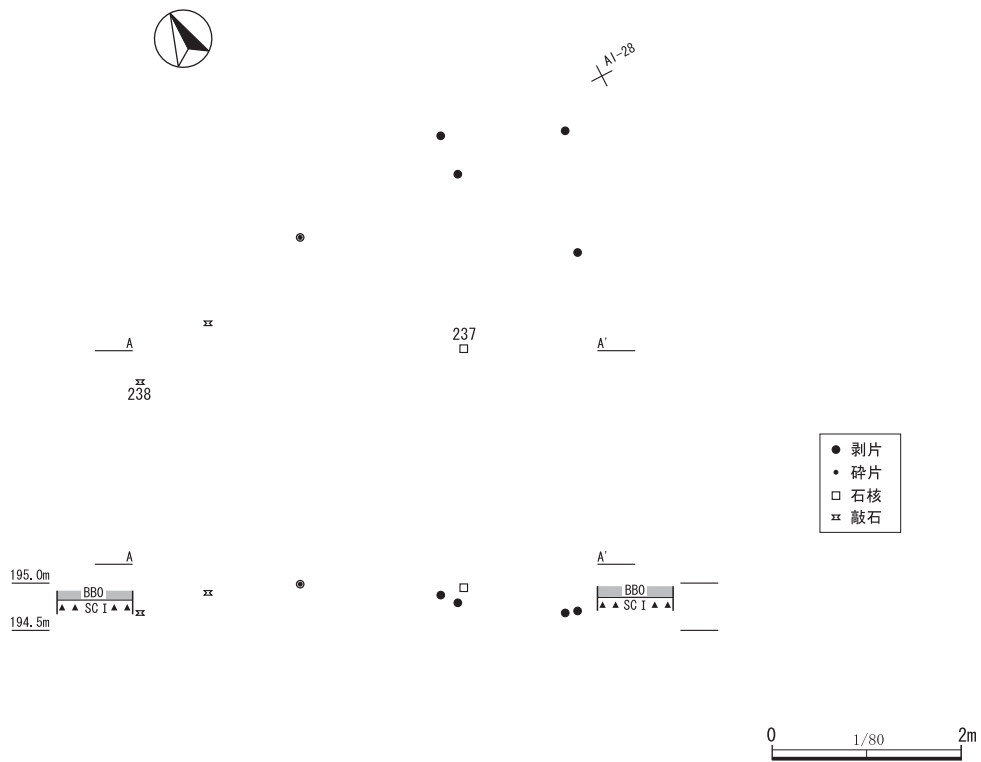
		剥片	碎片	石核	敲石	計
黒曜石	箱根畑産	3(1)				3(1)
	天城柏峠	1				1
	産地不明		1			1
	黒曜石計	4(1)	1			5(1)
ホルンフェルス		1				1
流紋岩				1		1
輝石安山岩					1	1
多孔質玄武岩					1	1
計		5(1)	1	1	2	9(1)

括弧内は全体数の内、微細剥離痕のあるものの点数。

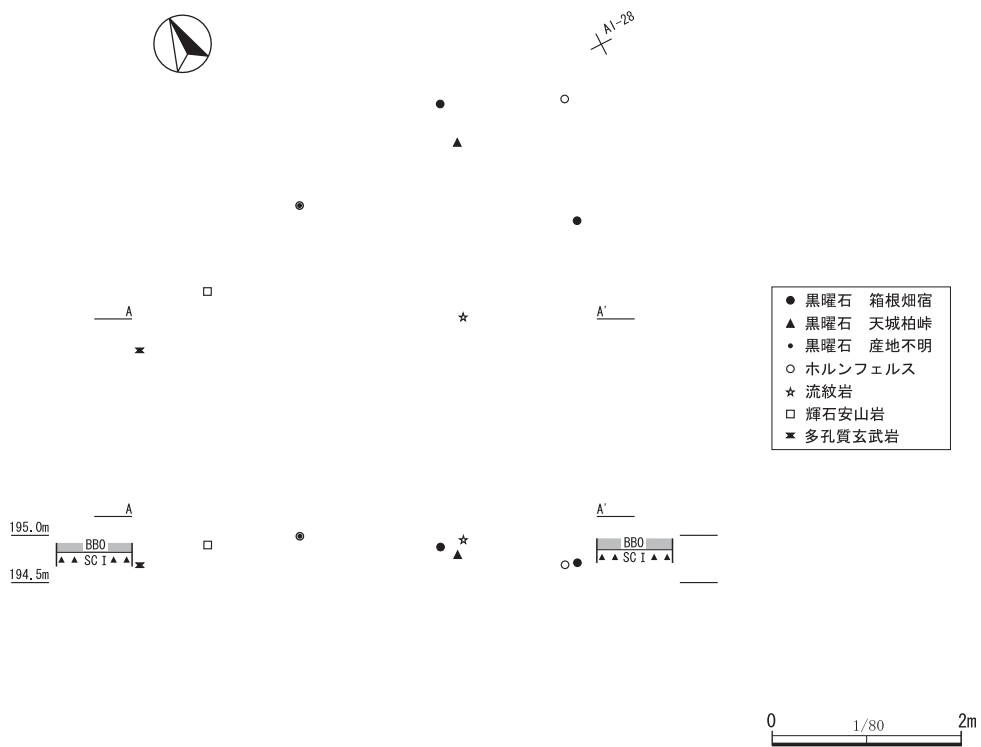
表66 第XVI文化層東尾根 礫群属性

礫群番号	構成礫数	赤化						形態					石材											
		完形			非完形			不明	角	垂角	垂円	円	不明	イト	デイ	安山岩	輝石	安山岩	多孔質	玄武岩	玄武岩	多孔質	不明	
		非赤化	赤化	非赤化	赤化1	赤化2																		
44号	32		11		13	5	3		24	5			3			7	1	7	14	3				
45号	23		6	1	13	2	1		15	5	2	1			4	3	8	7	1					
46号	24		12		11	1			15	5	4				7	3	8	6						
47号	9				5	4			9						1	1	7							
48号	22				19	1	2		19	1		2			2	7	6	5	2					
49号	3						3					3												3
50号	4		1		2	1		1	2	1					3			1						
遺構外	25	1	12		6	2	4		12	8	1	4	1	6	2	4	8	4						4

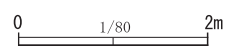
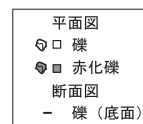
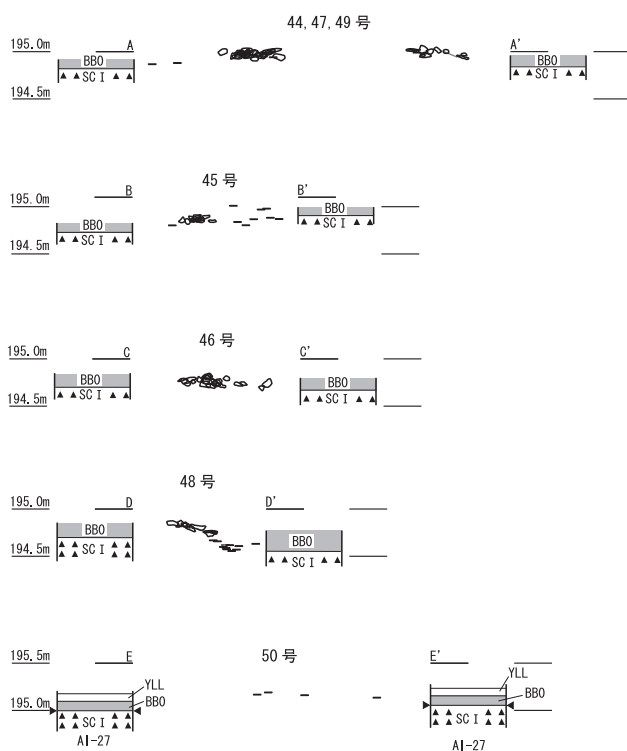
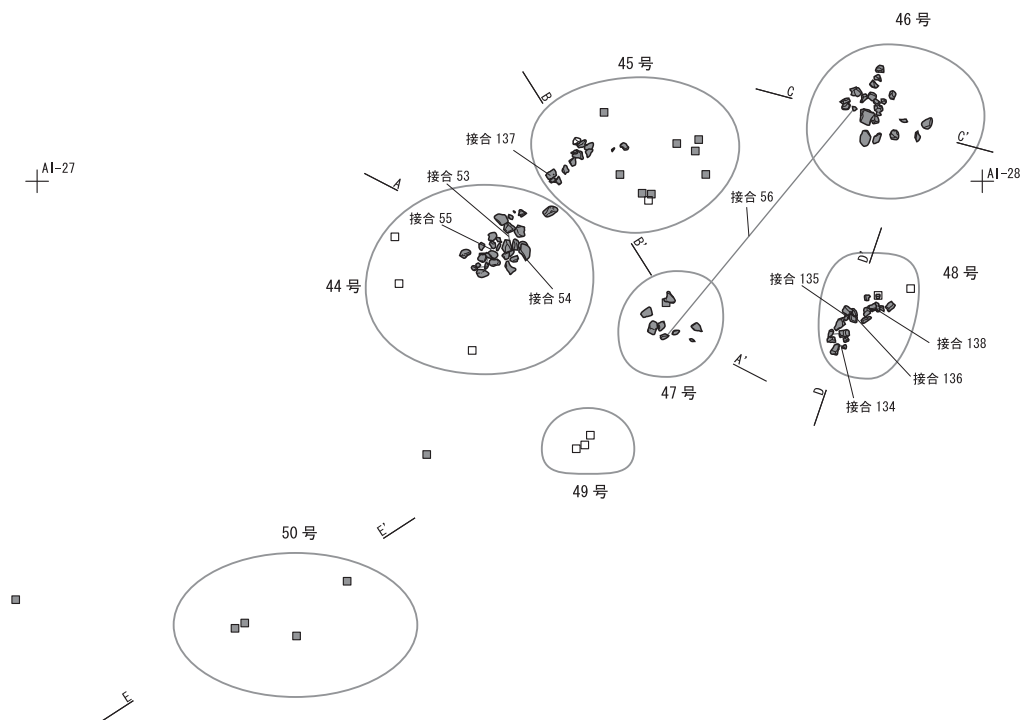
赤化1：全面が赤化 赤化2：礫の外皮のみ赤化



第161図 第XVI文化層11号石器集中 器種別分布



第162図 第XVI文化層11号石器集中 石材別分布



第163图 第XVI文化層44~50号磔群

位は休場層直下黒色帯である。礫の大きさは平均で長径8.6cm・重量0.22kgである。

#### 46号礫群（第163図、表66）

AI-27グリッド南東部で出土した被熱礫24点から成る。出土層位は休場層直下黒色帯である。約3m離れた47号礫群と1個体接合関係がある。礫は長径18.8cm・重量1.1kgのものが最大で、平均で長径10.3cm・重量0.34kgである。

#### 47号礫群（第163図、表66）

AH-27グリッド北部で出土した被熱礫9点から成る。出土層位は休場層直下黒色帯である。約3m離れた46号礫群と1個体接合関係がある。礫は長径13.5cm・重量0.86kgのものが最大で、平均で長径9.4cm・重量0.24kgである。

#### 48号礫群（第163図、表66）

AH-27グリッド北東部で出土した礫22点から成る。礫は2点が現地調査の際に回収されなかったため出土位置以外の情報は不明であるが、それ以外の礫20点に被熱の痕跡が認められた。出土層位は休場層直下黒色帯で、礫は長径15.7cm・重量0.53kgのものが最大で、平均で長径9.0cm・重量0.20kgである。

#### 49号礫群（第163図、表66）

AH-27グリッド北西部で出土した礫3点から成る。出土層位は休場層直下黒色帯である。礫は現地調査の際に回収されなかったため出土位置以外の情報は不明である。

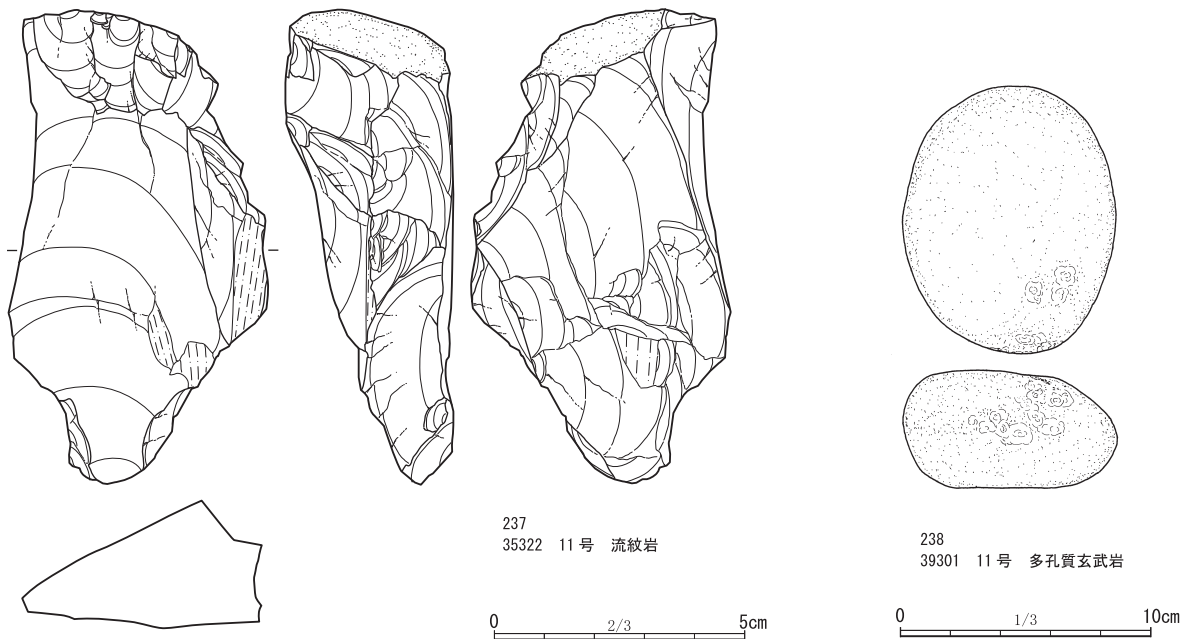
#### 50号礫群（第163図、表66）

AH-27グリッドで出土した被熱礫4点から成る。出土層位は調査時の記録によると休場層下位から中位である。礫の大きさは平均で長径7.8cm・重量0.15kgである。

### （2）出土石器（第164図）

#### 剥片類・石核（237）

11号石器集中で剥片5点、碎片1点、石核1点が出土した他、石器集中外から剥片3点が出土した。このうち石核1点を図示した。237は流紋岩製の石核である。厚手剥片の腹面を作業面に設定し、小型



第164図 第XVI文化層東尾根 石器集中

の剥片が剥離されている。

敲石 (238)

11号石器集中で2点出土し、このうち1点を図示した。238は多孔質玄武岩の亜円礫を利用したもので、下端から表面にかけて敲打痕が認められる。

3. 東支谷 (北) の遺物群

(1) 遺物の分布 (第142・143図)

石器95点、礫461点が出土した (表67・73)。主としてAH-21~23・AI-22・23グリッドに分布するもので、この範囲に6~10号石器集中、25~43号礫群が分布する。分布をさらに細かく見ると、7号石器集中及び26~28号礫群から成る1群と6・8~10号石器集中及び29~43号礫群から成る1群とに分かれるようであり、さらにその周辺にも25号礫群の他、遺物の散在域が広がっている。

石器は主に8・9号石器集中にまとまっている伊豆・箱根産の黒曜石製のものが多く、その他ホルンフェルス製、ガラス質黒色安山岩製のものなどが伴う。

6号石器集中 (第165・166図、表68)

AI-22グリッド北東部を中心に出土した石器5点から成る。29号礫群と重複して分布する。出土層位は調査時の記録では4点が休場層直下黒色帯、1点が休場層下位である。石器はガラス質黒色安山岩製3点、ホルンフェルス製、輝石安山岩製各1点で、敲石1点を含む。

7号石器集中 (第167・168図、表69)

AH-21グリッドから出土した石器5点から成る。27・28号礫群と重複して分布するもので、石器自体の分布密度は高くない。出土層位は調査時の記録では2点が休場層直下黒色帯、3点が休場層下位である。石器はホルンフェルス製4点、箱根畑宿産黒曜石製1点で、削器1点を含む。

8号石器集中 (第169・170図、表70)

AI-22グリッド南部を中心に出土した石器15点から成る。30~33号礫群と重複して分布するもので、石器自体の分布密度は高くない。出土層位は調査時の記録では5点が休場層直下黒色帯、7点が休場層下位、3点が休場層中位である。石器は黒曜石 (箱根畑宿産6点、天城柏峠産4点、諏訪星ヶ台産1点) 製11点、ガラス質黒色安山岩製、ホルンフェルス製各2点で、台形石器、搔器、削器、二次加工剥片各

表67 第XVI文化層東支谷 (北) 石器組成

	ナイフ形石器	切出形石器	台形石器	彫器	搔器	削器	二次加工剥片	剥片	碎片	石核	敲石	計
和田鷹山	1											1
諏訪星ヶ台	1				1			1(1)				3(1)
蓼科冷山				1		1						2
箱根畑宿		2	1		1	1		20(2)				25(2)
天城柏峠	1					1	1	26(1)		3		32(1)
産地不明								1	5			6
黒曜石計	3	2	1	1	2	3	1	48(4)	5	3		69(4)
ガラス質黒色安山岩					1		1	6				8
ホルンフェルス	1				1			13		2		17
輝石安山岩											1	1
計	4	2	1	1	4	3	2	67(4)	5	5	1	95(4)

括弧内は全体数の内、微細剥離痕のあるものの点数。

1点を含む。

9号石器集中 (第171・172図、表71)

AH-22グリッドから出土した石器49点から成る。石器の集中度が高く、この地区の石器の半数以上が含まれる。40・43号礫群と重複して分布し、出土層位は休場層直下黒色帯で、1点のみ休場層下位出土である。石器は黒曜石(天城柏峠産25点、箱根畑宿産16点、和田鷹山産1点など)製48点、ホルンフェルス製1点で、ナイフ形石器3点、切出形石器1点を含む。

10号石器集中 (第173・174図、表72)

AH・AI-22・23グリッドにかけて出土した石器14点から成る。35～39・41・42号礫群と重複して分布するもので、石器自体の分布密度は高くない。出土層位は休場層直下黒色帯であるが、1点休場層上位出土の石器をここに含めた。石器は黒曜石(諏訪星ヶ台産2点、箱根畑宿産、天城柏峠産各1点)製4点、ホルンフェルス製8点、ガラス質黒色安山岩製2点で、ナイフ形石器、切出形石器各1点、搔器2点を含む。

25号礫群 (第175図、表73)

AI-20グリッド南部で出土した礫6点から成り、5点に被熱の痕跡が認められた。出土層位は休場層直下黒色帯である。礫は長径18.4cm・重量0.94kgのものが最大で、平均で長径10.9cm・重量0.31kgである。

26号礫群 (第176図、表73)

AH-21グリッド南部で出土した礫15点から成り、14点に被熱の痕跡が認められた。出土層位は休場層下位で、1点が休場層直下黒色帯、4点が休場層中位から出土した。礫は長径15.7cm・重量1.2kgのものが最大で、平均で長径10.7cm・重量0.47kgである。

27号礫群 (第176図、表73)

AH-21グリッド南部で出土した礫18点から成り、

表68 第XVI文化層6号石器集中 石器組成

	剥片	敲石	計
ガラス質黒色安山岩	3		3
ホルンフェルス	1		1
輝石安山岩		1	1
計	4	1	5

表69 第XVI文化層7号石器集中 石器組成

	削器	剥片	計
黒曜石 箱根畑宿	1		1
ホルンフェルス		4	4
計	1	4	5

表70 第XVI文化層8号石器集中 石器組成

	台形石器	搔器	削器	二次加工剥片	剥片	計
黒曜石 諏訪星ヶ台		1				1
箱根畑宿	1				5(1)	6(1)
天城柏峠			1	1	2	4
黒曜石計	1	1	1	1	7(1)	11(1)
ガラス質黒色安山岩					2	2
ホルンフェルス					2	2
計	1	1	1	1	11(1)	15(1)

括弧内は全体数の内、微細剥離痕のあるものの点数。

表71 第XVI文化層9号石器集中 石器組成

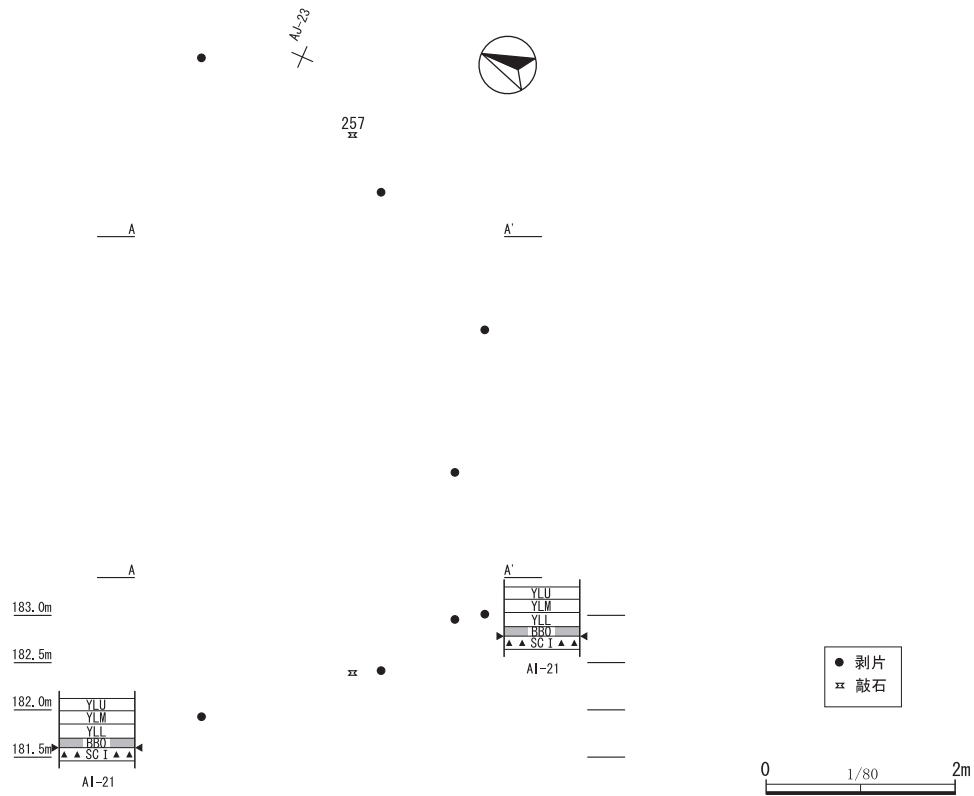
	ナイフ形石器	切出形石器	剥片	碎片	石核	計
黒曜石 和田鷹山	1					1
箱根畑宿		1	15(1)			16(1)
天城柏峠	1		21(1)		3	25(1)
産地不明			1	5		6
黒曜石計	2	1	37(2)	5	3	48(2)
ホルンフェルス	1					1
計	3	1	37(2)	5	3	49(2)

括弧内は全体数の内、微細剥離痕のあるものの点数。

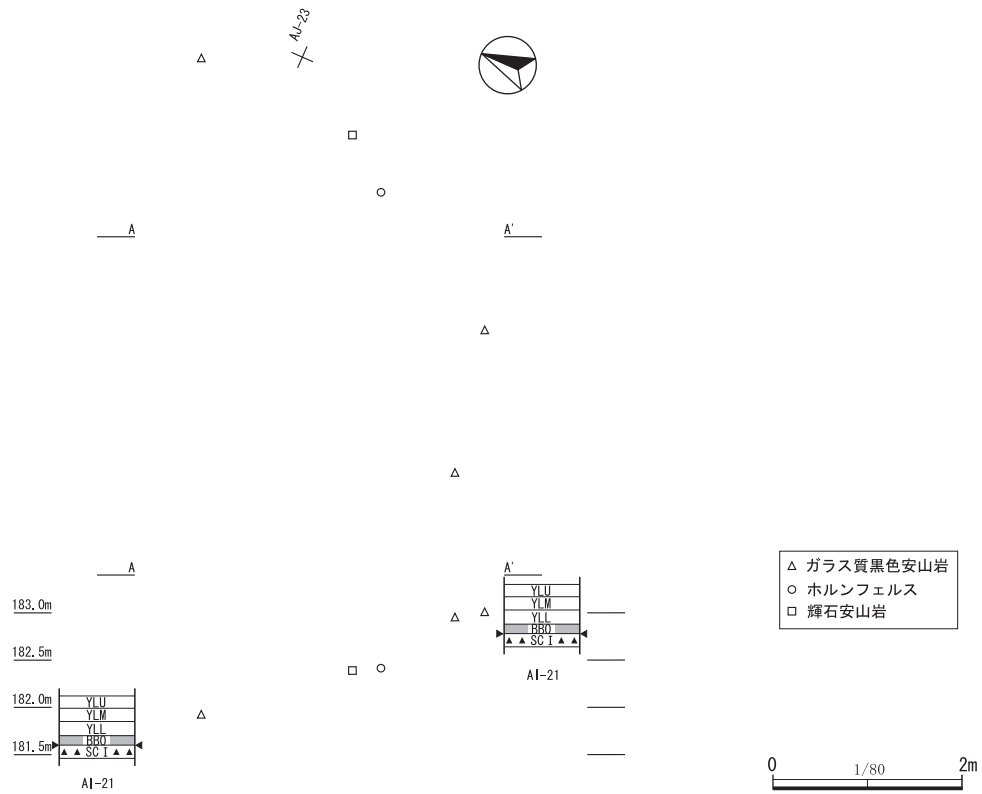
表72 第XVI文化層10号石器集中 石器組成

	ナイフ形石器	切出形石器	搔器	剥片	石核	計
黒曜石 諏訪星ヶ台	1			1(1)		2(1)
箱根畑宿		1				1
天城柏峠				1		1
黒曜石計	1	1		2(1)		4(1)
ガラス質黒色安山岩			1	1		2
ホルンフェルス			1	5	2	8
計	1	1	2	8(1)	2	14(1)

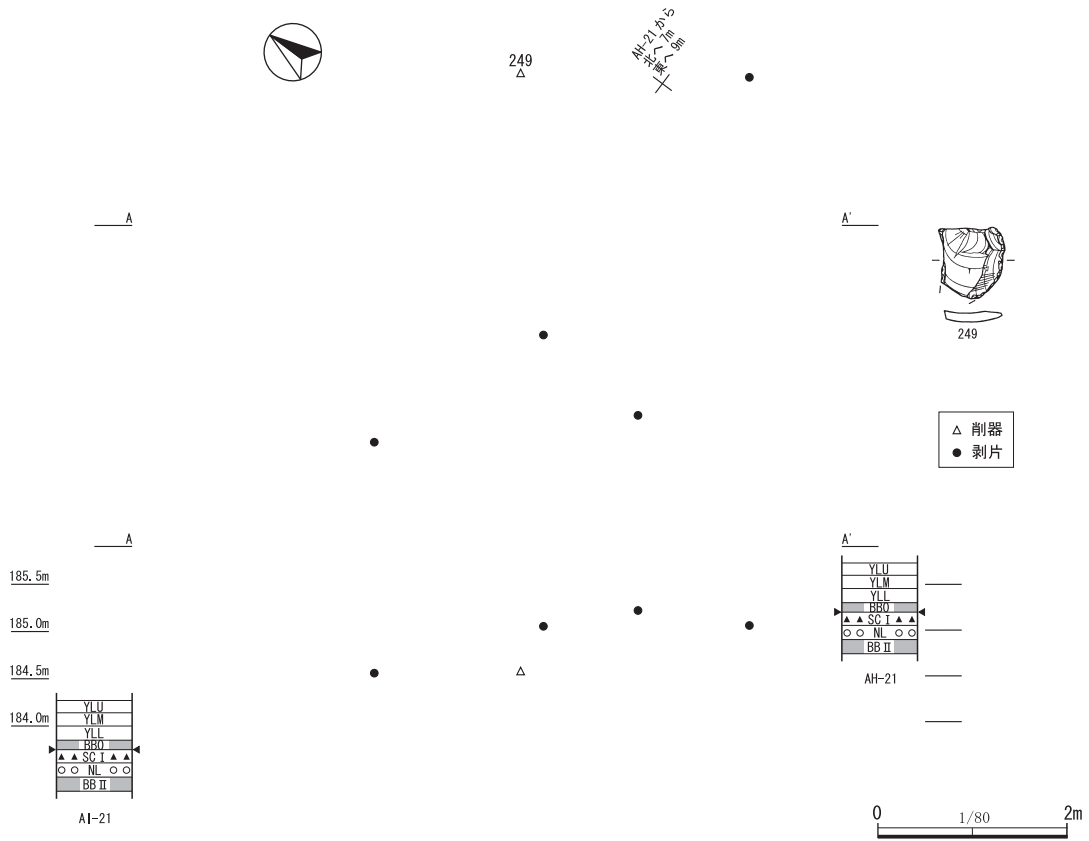
括弧内は全体数の内、微細剥離痕のあるものの点数。



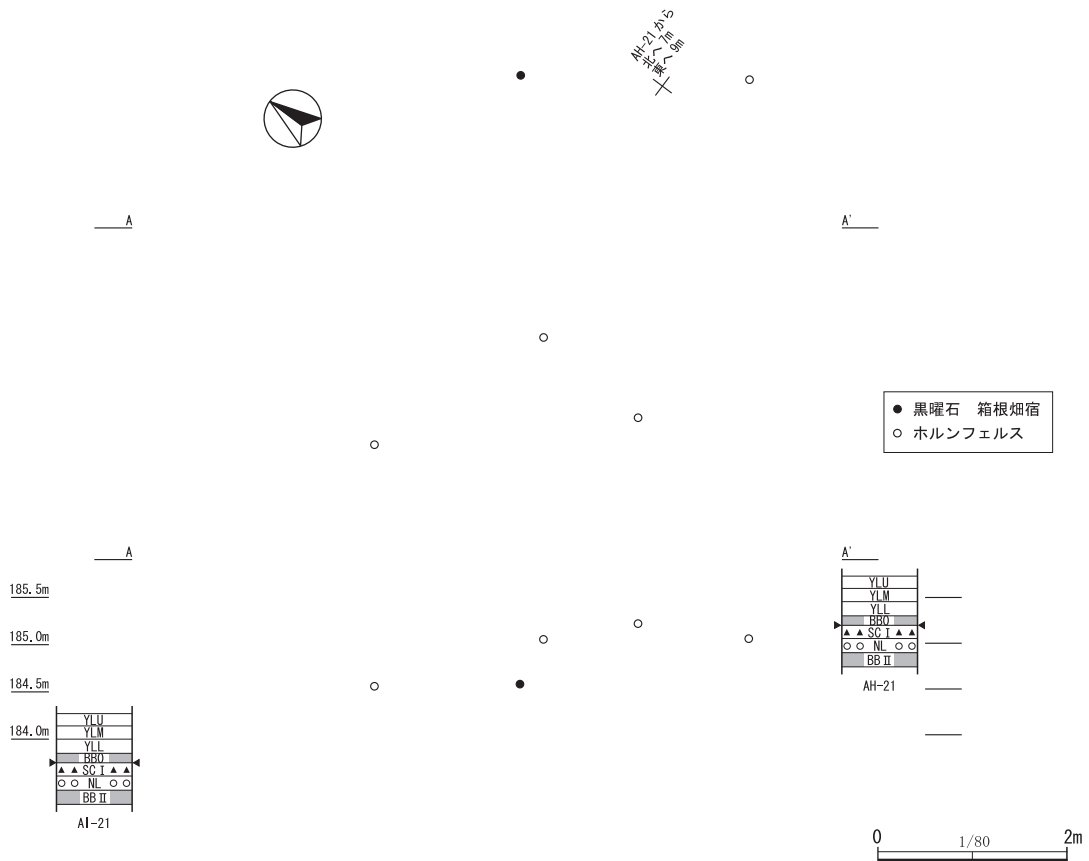
第165図 第XVI文化層6号石器集中 器種別分布



第166図 第XVI文化層6号石器集中 石材別分布

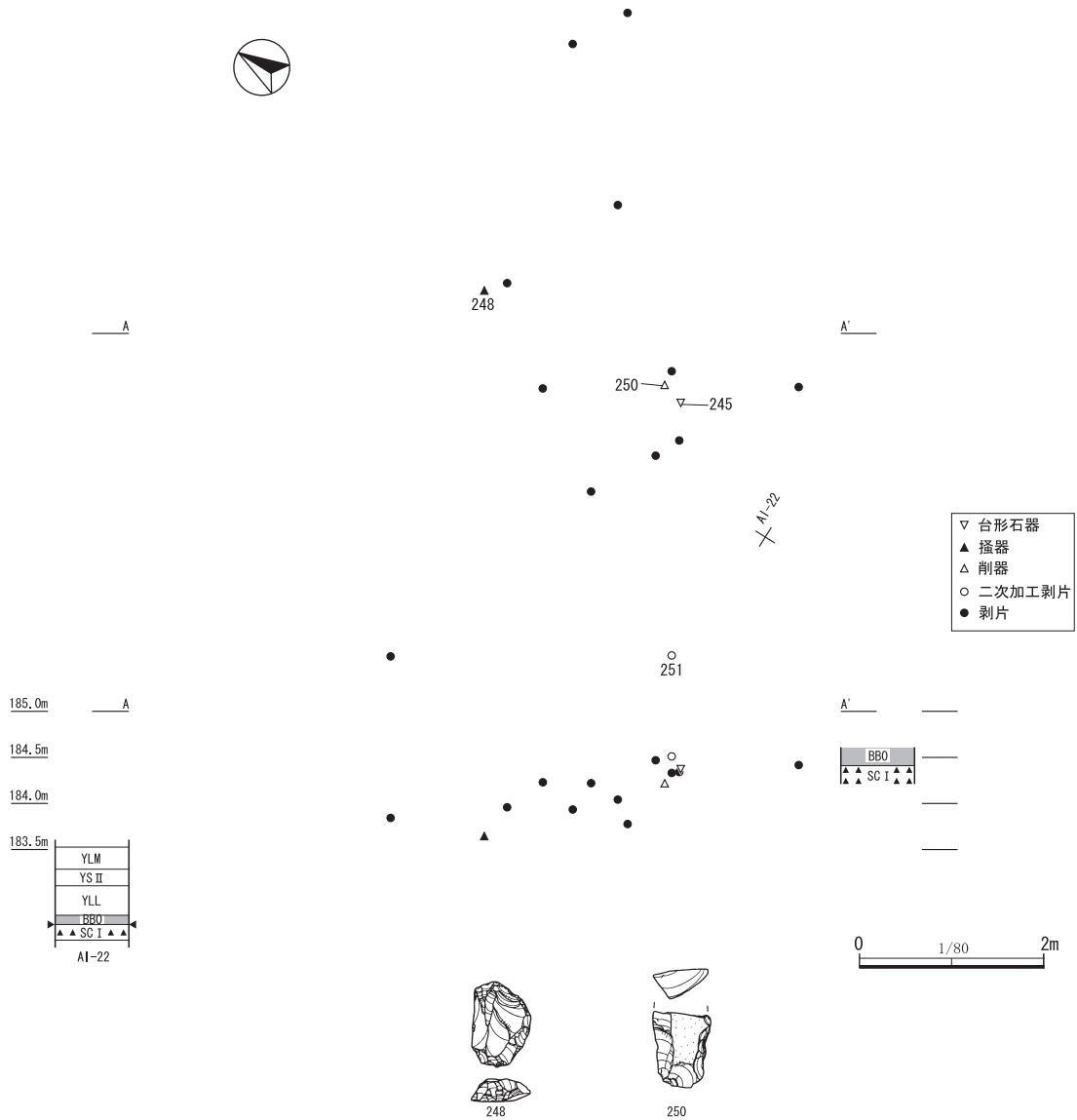


第167図 第XVI文化層7号石器集中 器種別分布



第168図 第XVI文化層7号石器集中 石材別分布





第169図 第XVI文化層8号石器集中 器種別分布

17点に被熱の痕跡が認められた。出土層位は休場層下位である。礫は長径13.4cm・重量0.91kgのものが最大で、平均で長径8.1cm・重量0.18kgである。

28号礫群（第176図、表73）

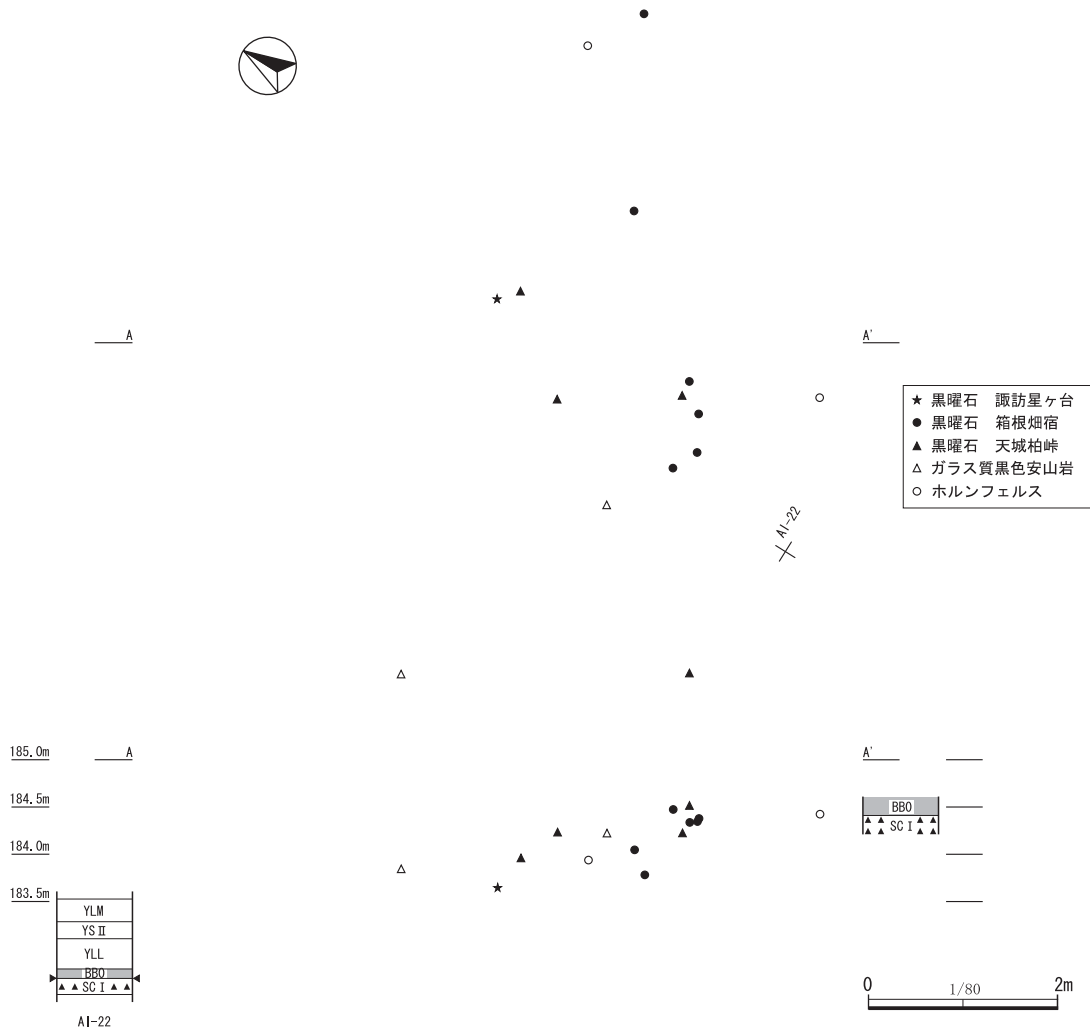
AH-21グリッド東部で出土した礫11点から成り、10点に被熱の痕跡が認められた。出土層位は休場層直下黒色帯である。礫は平均で長径7.4cm・重量0.15kgである。

29号礫群（第177図、表73）

AI-22グリッド北東部で出土した礫8点から成り、7点に被熱の痕跡が認められた。出土層位は休場層直下黒色帯で、1点が休場層下位から出土した。礫は大型のものが多く、長径23.4cm・重量5.6kg、長径22.3cm・重量3.2kg、長径19.6cm・重量2.4kgなどのものがあり、平均で長径15.9cm・重量1.8kgである。

30号礫群（第177図、表73）

AH・AI-22グリッドで出土した礫42点から成り、41点に被熱の痕跡が認められた。出土層位は主に休場層直下黒色帯で、7点が休場層下位から出土した。礫は長径13.1cm・重量0.45kgのものが最大で、平均で長径8.0cm・重量0.19kgである。



第170図 第XVI文化層8号石器集中 石材別分布

31号礫群 (第177図、表73)

AI-22グリッド中央部で出土した被熱礫18点から成る。出土層位は休場層直下黒色帯である。礫は4点の大型亜角礫 (それぞれ長径32.6cm・重量19.9kg、長径54.2cm・重量14.5kg、長径41.3cm・重量15.6kg、長径19.7cm・重量4.5kg) を核とし、平均で長径14.5cm・重量3.1kgである。

32号礫群 (第177図、表73)

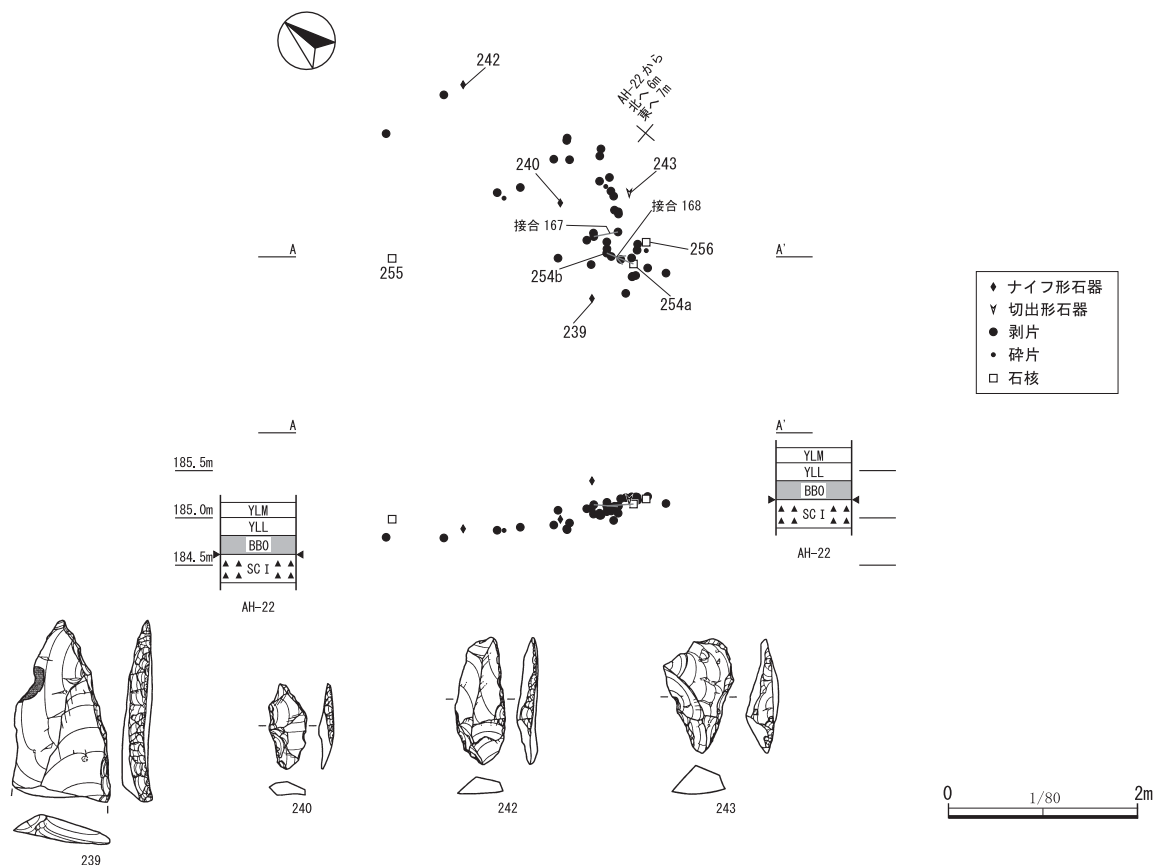
AI-22グリッドで出土した礫35点から成り、34点に被熱の痕跡が認められた。礫は南東側に固まって分布するが、さらに斜面方向に北側へ広がる礫もここに含めた。出土層位は主に休場層直下黒色帯で、5点が休場層下位から出土した。礫は長径14.2cm・重量0.53kgのものが最大で、平均で長径8.3cm・重量0.19kgである。

33号礫群 (第177図、表73)

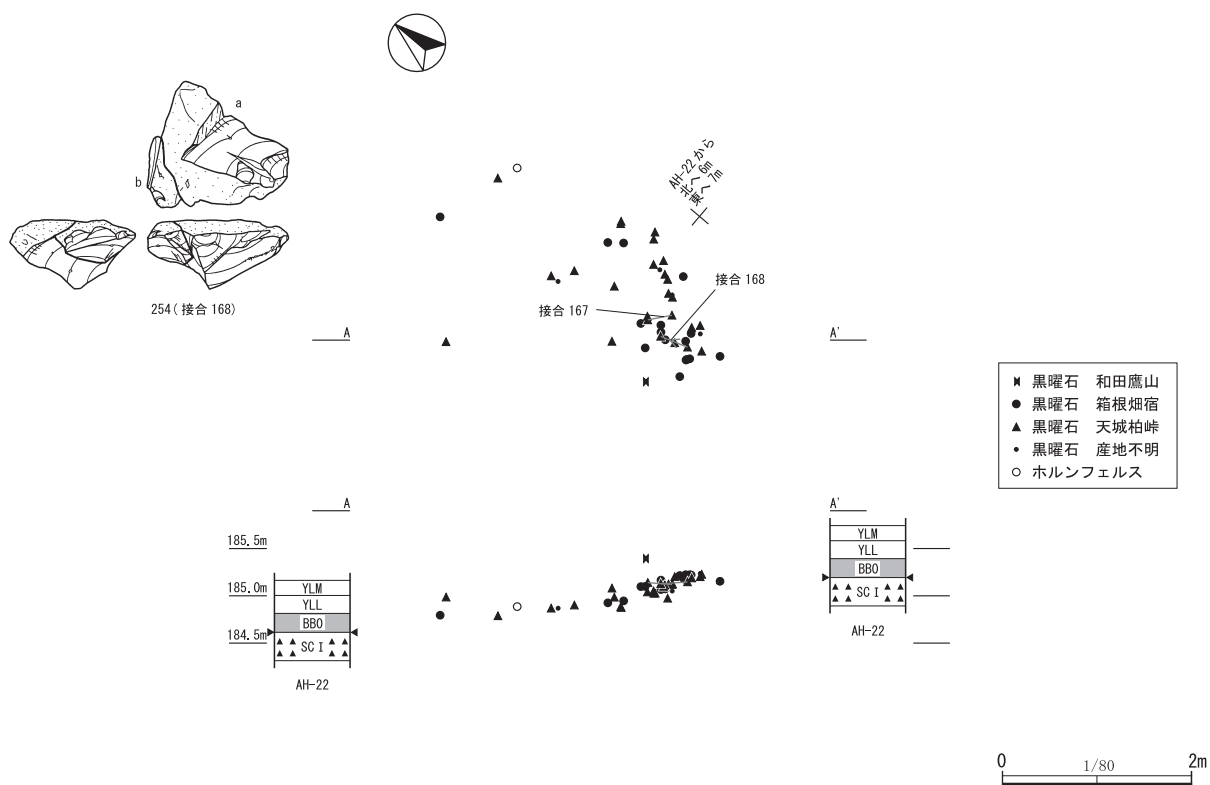
AI-22・23グリッドで出土した礫19点から成り、17点に被熱の痕跡が認められた。10点の礫が密集する箇所を中心に径3mの範囲に分布する。出土層位は14点が休場層下位、5点が休場層直下黒色帯である。礫は長径13.4cm・重量0.24kgのものが最大で、平均で長径9.5cm・重量0.17kgである。

34号礫群 (第177図、表73)

AI-23グリッド南部で出土した礫8点から成り、6点に被熱の痕跡が認められた。出土層位は休場層直下黒色帯である。礫は長径15.0cm・重量0.72kgのものが最大で、平均で長径8.7cm・重量0.23kgである。



第171図 第XVI文化層9号石器集中 器種別分布



第172図 第XVI文化層9号石器集中 石材別分布

247 ▲  
Y  
244



○ ●



252 □

A1-23から  
1m

●

●

▲ 246

A'

◆ 241

● ● ●

□ 253

● ● ●

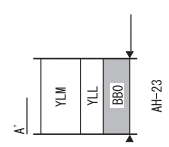
A

185.5m

185.0m

184.5m

184.0m



185.5m

185.0m

184.5m

184.0m

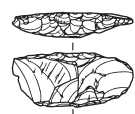
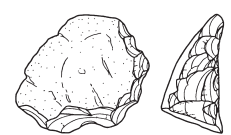


185.5m

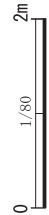
185.0m

184.5m

184.0m



- ◆ ナイフ形石器
- ▽ 切出形石器
- ▲ 掻器
- 剥片
- 石核



第173図 第ⅤⅥ文化層10号石器集中 器種別分布

○

A1-23から  
1m

△

▲

A'

★

○ ●

○ ●

○ ●

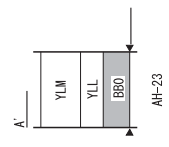
A

185.5m

185.0m

184.5m

184.0m



185.5m

185.0m

184.5m

184.0m



185.5m

185.0m

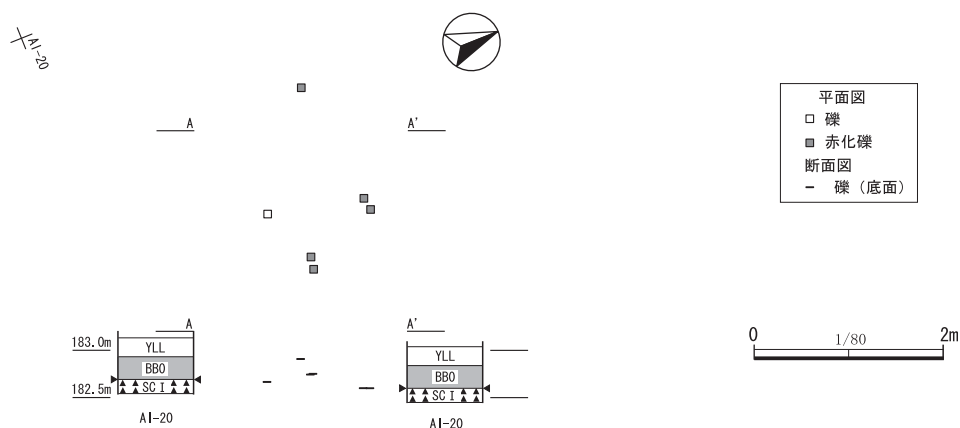
184.5m

184.0m

- ★ 黒曜石 諏訪型ヶ台
- 黒曜石 箱根畑宿
- ▲ 黒曜石 天城和峠
- △ ガラス質黒色安山岩
- ホルンフェルス



第174図 第ⅤⅥ文化層10号石器集中 石材別分布



第175図 第XVI文化層25号礫群

35号礫群 (第177図、表73)

AI-23グリッド南部で出土した被熱礫19点から成る。礫は2点の大型礫（長径15.0cm・重量1.0kg、長径14.0cm・重量2.6kg）を中心にほとんどが径0.6mの範囲にまとまり、うち1点が南の39号礫群の礫と接合する。出土層位は休場層直下黒色帯である。礫の大きさは平均で長径9.9cm・重量0.36kgである。

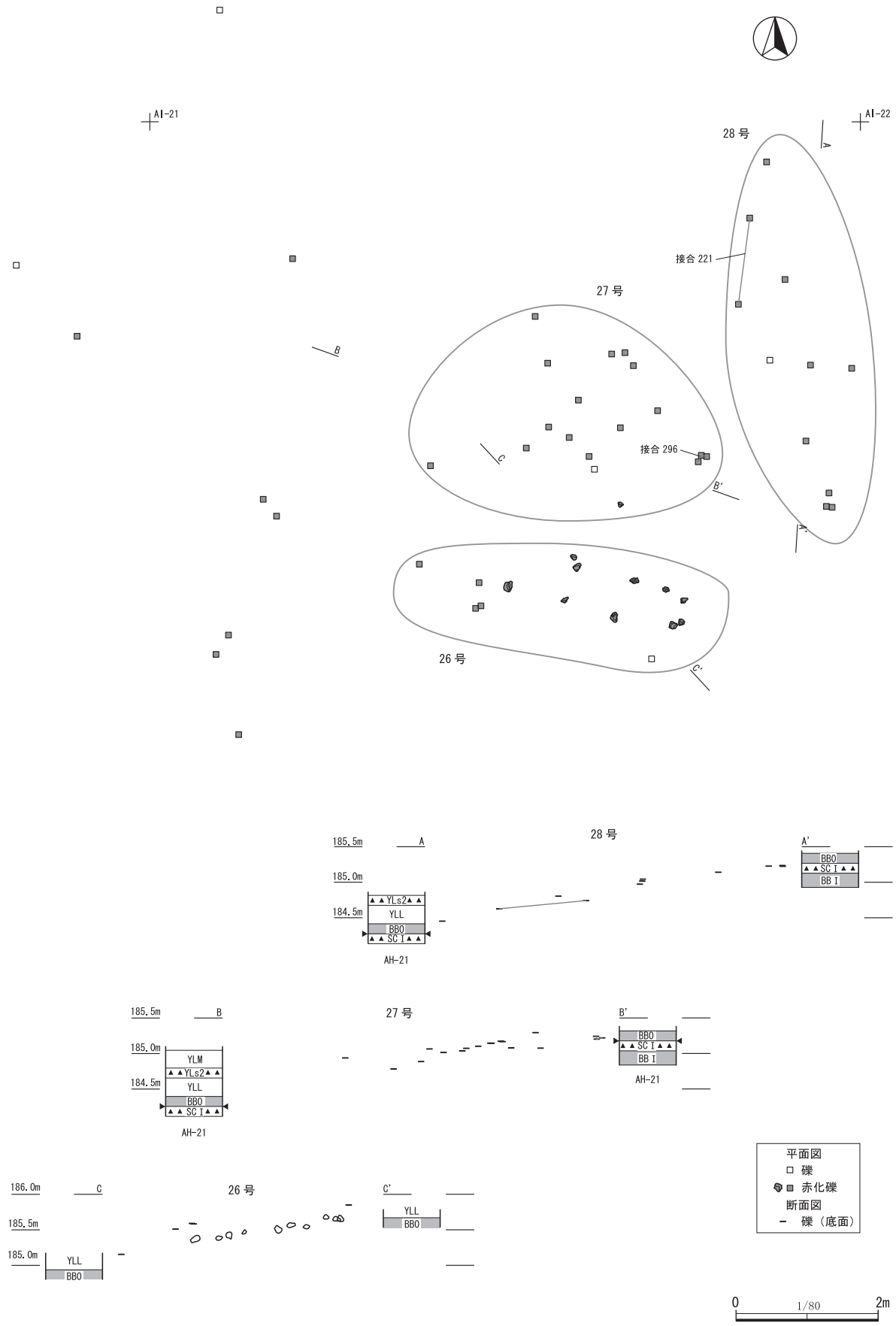
36号礫群 (第177図、表73)

AH・AI-22グリッド境界部で出土した被熱礫52点から成る。出土層位は休場層直下黒色帯である。礫は径1m余りの範囲に大半がまとまり、その外縁部に比較的大型の礫が分布する。長径17.2cm・重量1.4kgのものが最大で、平均で長径8.6cm・重量0.22kgである。

表73 第XVI文化層東支谷（北） 礫群属性

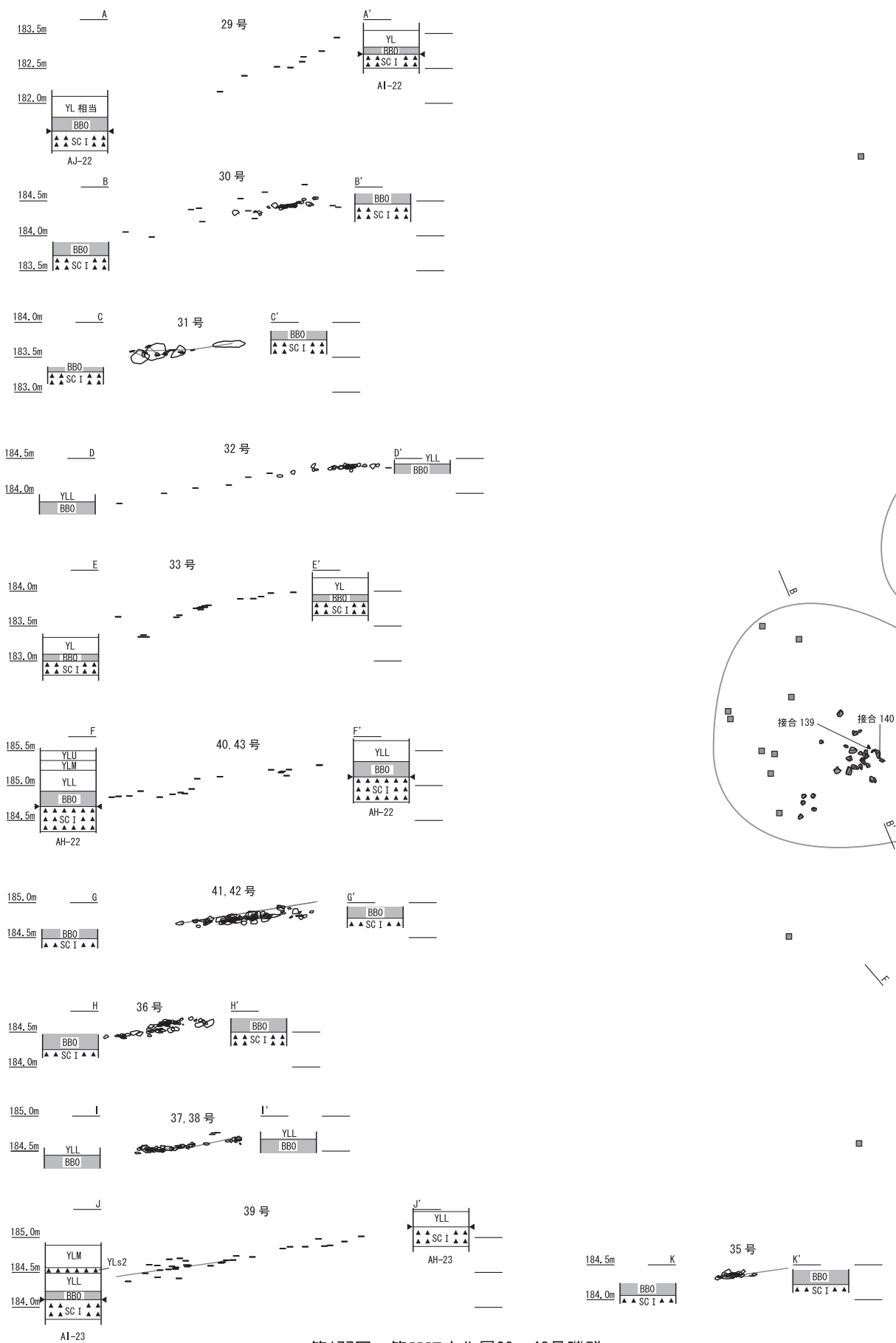
礫群 番号	構成 礫数	赤化							形態					石材									
		完形			非完形				不明	角	亜角	亜円	円	不明	安山 岩	輝石 安山 岩	多孔 質	玄武 岩	玄武 岩	多孔 質	凝灰 岩	火山 礫	不明
		非赤化	赤化	付着物	非赤化	赤化1	赤化2	付着物1															
25号	6		2		1	2	1			4	1	1		2			2	2					
26号	15	1	9			4	1			7	8			4	1		6	4					
27号	18		8		1	7	2			14	4			11	1		3	3					
28号	11	1	2			6	2			6	5			3			6	2					
29号	8	1	4			3				3	5			6			2						
30号	42	1	29			10	2			14	22	6		8	3		23	8					
31号	18		3			14	1		2	16				16			1	1					
32号	35		17		1	11	6			26	9			8	2		9	14	2				
33号	19		5		2	12				13	5	1		8	2		6	3					
34号	8	1	5		1	1				5	2	1		3	1		2	2					
35号	19		4			8	7			17	1	1		8			10	1					
36号	52		23			21	8			31	20	1		18	5		25	4					
37号	29		11	1		9	8			22	6	1		4			11	14					
38号	10		5			2	3			6	4			3	1		3	3					
39号	33	2	7		3	15	6			21	10	2		13	2		13	5					
40号	11		6			5				7	4			6	1		3	1					
41号	58		24			26	7	1		46	12			13	1		23	21					
42号	10		5			3	1	1		5	5			8				2					
43号	7		4			3				1	4	2		5			1	1					
遺構外	52	6	18		3	16	3		6	28	16	2	6	19	3		16	8				6	

赤化1：全面が赤化 赤化2：礫の外皮のみ赤化 付着物1：全面に付着物



第176図 第XVI文化層26~28号礫群

第4節 第XVI文化層



第177图 第XVI文化層29~43号磔群





### 37号礫群 (第177図、表73)

AH-23グリッド北西部付近、36号礫群の東隣で出土した被熱礫29点から成る。出土層位は休場層直下黒色帯である。礫はほぼ径1mの範囲にまとまり、最大で長径16.5cm・重量1.5kg、平均で長径8.9cm・重量0.24kgである。このうち1点が38号礫群の礫と接合する。

### 38号礫群 (第177図、表73)

AH-23グリッド北西部付近で出土した礫10点から成り、全ての礫に被熱の痕跡が認められた。分布は37号礫群の南隣に連続し、東西2群に分かれるようにも見える。出土層位は休場層直下黒色帯である。礫の大きさは平均で長径7.5cm・重量0.12kgである。

### 39号礫群 (第177図、表73)

AH-23グリッド北側を中心に出土した礫33点から成り、28点に被熱の痕跡が認められた。出土層位は休場層直下黒色帯である。径4mの範囲に分布する礫をまとめたもので、北西側でやや分布密度が高い。礫は最大で長径18.3cm・重量1.3kgで、平均で長径9.3cm・重量0.23kgである。

### 40号礫群 (第177図、表73)

AH-22グリッドで出土した被熱礫11点から成る。出土層位は主に休場層直下黒色帯で、2点が休場層下位から出土した。礫は最大のもので長径20.4cm・重量2.0kg。平均で長径10.2cm・重量0.40kg。

### 41号礫群 (第177図、表73)

AH-22グリッドで出土した被熱礫58点から成る。出土層位は休場層直下黒色帯である。礫は径2m余りの範囲で、やや東側に偏ってまとまる。重量の大きいものでは長径18.0cm・重量1.5kg、長径16.2cm・重量1.8kg、長径13.5cm・重量1.1kg、長径13.0cm・重量1.3kgのものがあり、平均で長径10.9cm・重量0.43kgである。東支谷(南)の52号礫群の礫と接合するものが1点ある。

### 42号礫群 (第177図、表73)

AH-22・23グリッド、41号礫群の東、38号礫群の南で出土した被熱礫10点から成る。出土層位は休場層直下黒色帯である。礫は全て長径5～10cmのもので、平均で長径6.9cm・重量0.11kgである。

### 43号礫群 (第177図、表73)

AH-22グリッド、40号礫群の南で出土した被熱礫7点から成る。出土層位は休場層直下黒色帯で礫は長径23.2cm・重量2.6kg、長径16.3cm・重量1.5kgの大型礫2点があり、平均では長径11.4cm・重量0.71kgである。

## (2) 6～10号石器集中の出土石器 (第178・179図)

### ナイフ形石器 (239～242)

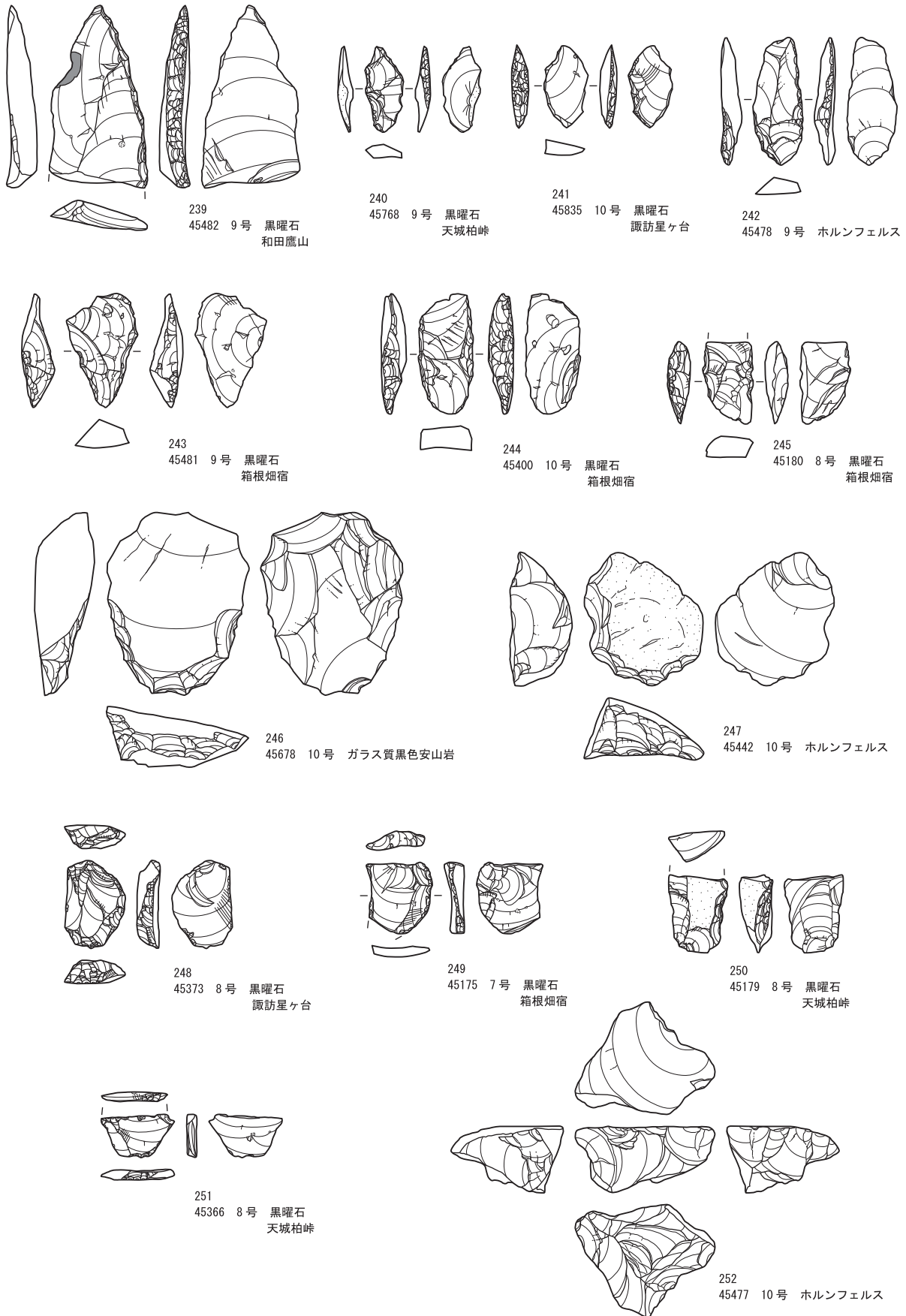
4点出土した。239は和田鷹山産黒曜石製、右側縁に背部加工のあるもので、下半部を折損する。240は天城柏峠産黒曜石製で、素材剥片を横位に使い、平坦な礫打面を左側縁に置くことによって二側縁加工の場合と同様の形態となっている。241は諏訪星ヶ台産黒曜石製、二側縁加工で、背部加工は対向調整となっている。242はホルンフェルス製石刃素材の二側縁加工のもので、素材打面は左側縁の基部加工により除去されている。

### 切出形石器 (243・244)

2点出土した。ともに箱根畑宿産黒曜石製で、素材剥片の打面部とその対辺との二側縁を加工している。但し、244は休場層上位出土で他の石器より出土位置が高く、上位の第XVII文化層などに属する可能性もある。

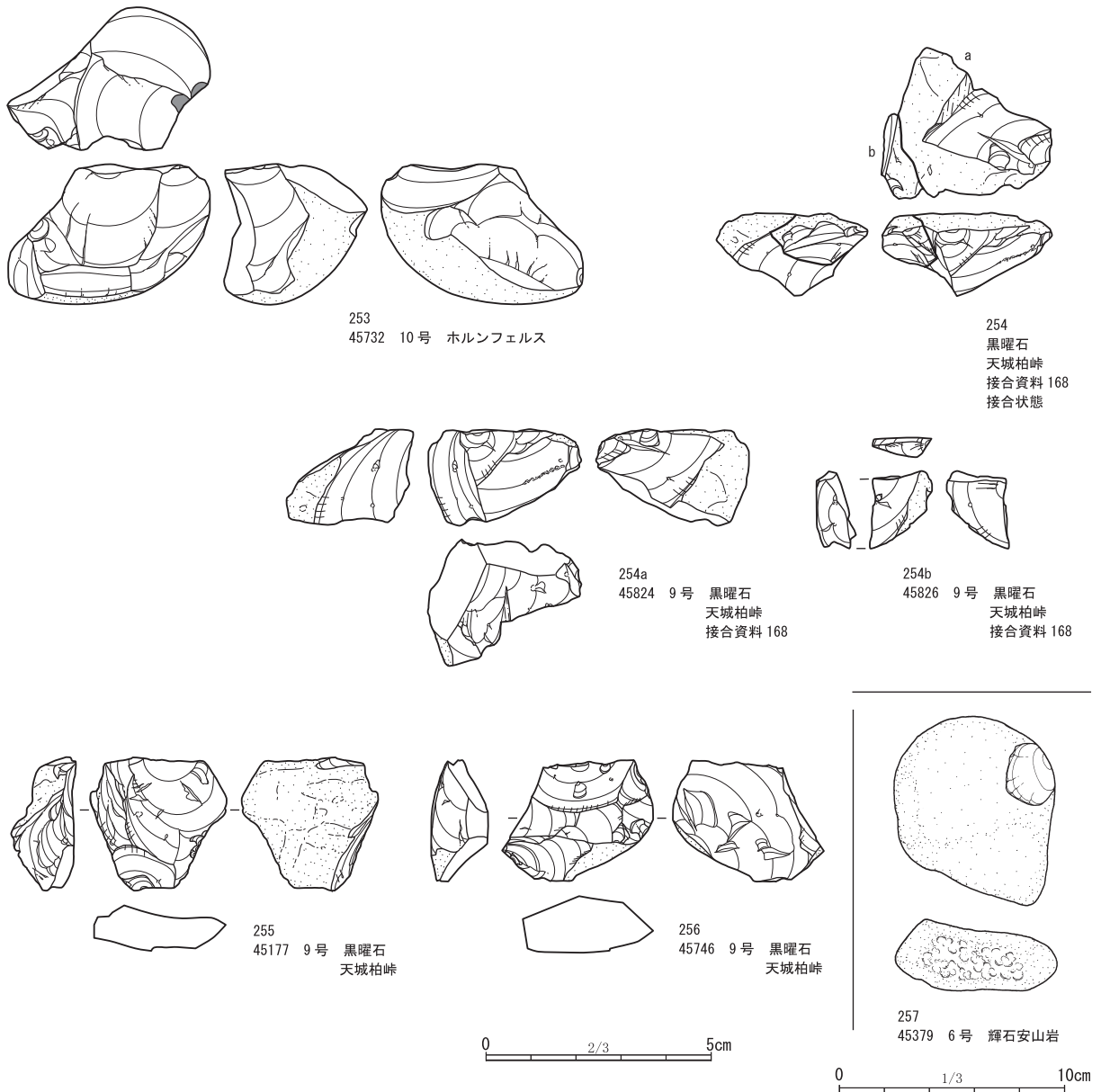
### 台形石器 (245)

1点出土した。箱根畑宿産黒曜石製で、左側縁に急斜度調整を加え、右側縁は素材剥片の折れ面とし



第178図 第XVI文化層東支谷（北）石器集中（1）

0 2/3 5cm



第179図 第XVI文化層東支谷（北）石器集中（2）

ている。

**搔器 (246~248)**

3点出土した。246はガラス質黒色安山岩製、247はホルンフェルス製で、両者とも刃部は粗い加工で作出され鋸歯状を呈している。248は諏訪星ヶ台産黒曜石製の小型剥片の下端部に急斜度加工を施している。また上端部は、素材打面を残してその左側に急斜度加工を施している。

**削器 (249・250)**

2点出土した。249は箱根畑宿産黒曜石製で、末端を折損しているが両側縁に急斜度加工が施されていたようである。250は天城柏峠産黒曜石製で、やや甲高の剥片の一侧縁を加工している。

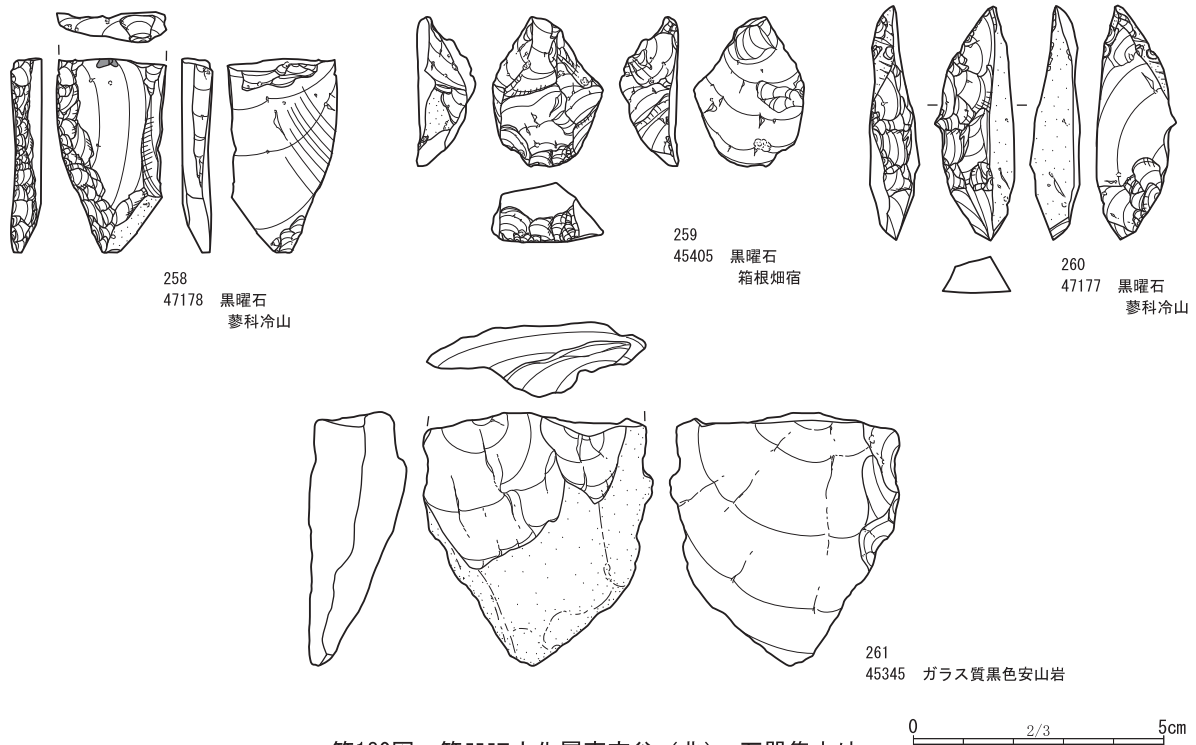
**二次加工剥片 (251)**

1点出土した。天城柏峠産黒曜石製で、剥片の端部と折れ面に二次加工が認められる。

**剥片類・石核 (252~256)**

剥片64（接合により63）点、碎片5点、石核5点が出土した。

252・253はホルンフェルス製の石核である。252は剥片或いは分割礫素材の石核で、上面に素材面が



第180図 第XVI文化層東支谷（北） 石器集中外

残っている。剥片剥離は上面、側面に打面転移して行われている。253は円礫面を残し、主として正面・上面で剥片剥離が行われている。

254～256は天城柏峠産黒曜石製の資料である。254（接合資料168）は1個の石核から剥離された剥片のうち1点（254a）がさらに石核として利用されたものである。254aと254bとは打面が一致せず、両者の剥離の間には打面転移・打面調整の工程が介在している。255・256は石核で、求心状剥離が行われている。256は剥片素材で、裏面は素材腹面である。

#### 敲石（257）

1点出土した。輝石安山岩の扁平な亜円礫を利用し、下面に敲打痕が顕著に見られる他、右側面から剥離が入っている。

#### （3）石器集中外の出土石器（第180図）

石器集中・礫群の周辺部で石器7点が出土している。

#### 彫器（258）

1点出土した。蓼科冷山産黒曜石製で、折断面から右側縁に槌状剥離が行われている。左側縁は連続的な二次加工で整形されており、特に基部側の二次加工はやや急斜度になっている。

#### 搔器（259）

1点出土した。箱根畑宿産黒曜石製の厚手剥片を素材とし、基部に打面を残し、端部に弧状の刃部を設けている。

#### 削器（260）

1点出土した。蓼科冷山産黒曜石製で、幅広の有底剥片を素材とし、素材打面部に急斜度加工を施している。

#### 二次加工剥片（261）

1点出土した。ガラス質黒色安山岩製で、右側縁から腹面に粗い加工が施されている。

4. 東支谷（南）の遺物群

(1) 遺物の分布（第142・143図）

石器46点、礫340点が出土した（表74・77）。AE・AF-21・22グリッドを中心に分布するもので、この範囲に12・13号石器集中、51～54号礫群、1号炭化物集中が分布する。東尾根と中央尾根との間に存在した埋没谷の中にあたり、これら石器集中や礫群は谷筋に沿うように並んで分布している。

石器はホルンフェルス製、次いでガラス質黒色安山岩製のものが多い。

12号石器集中（第181・182図、表75）

AE-22グリッド北西部から出土した石器11点から成る。52・53号礫群と重複し、出土層位は休場層直下黒色帯である。石器はホルンフェルス製6点、ガラス質黒色安山岩製4点、箱根畑宿産黒曜石製1点で、二次加工のある石器は削器1点のみである。

表74 第XVI文化層東支谷（南） 石器組成

		ナイフ形石器	搔器	削器	二次加工剥片	石刃	剥片	石核	台石	計
黒曜石	箱根畑宿						1(1)			1(1)
ガラス質黒色安山岩			1	1	1		6			9
ホルンフェルス				2		1	27	2		32
珪質頁岩		1								1
細粒安山岩							1			1
輝石安山岩			1							1
玄武岩									1	1
計		1	2	3	1	1	35(1)	2	1	46(1)

括弧内は全体数の内、微細剥離痕のあるものの点数。

表75 第XVI文化層  
12号石器集中 石器組成

		削器	石刃	剥片	計
黒曜石	箱根畑宿			1(1)	1(1)
ガラス質黒色安山岩		1		3	4
ホルンフェルス			1	5	6
計		1	1	9(1)	11(1)

括弧内は全体数の内、微細剥離痕のあるものの点数。

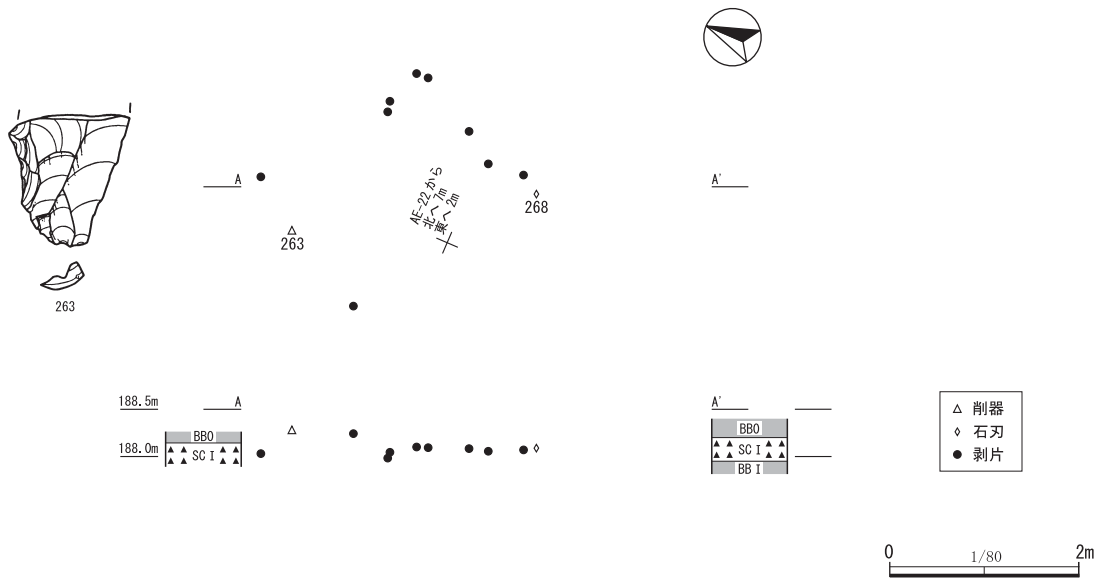
表76 第XVI文化層13号石器集中 石器組成

		搔器	削器	二次加工剥片	剥片	石核	台石	計
ガラス質黒色安山岩				1	2			3
ホルンフェルス			2		22	2		26
細粒安山岩					1			1
輝石安山岩		1						1
玄武岩							1	1
計		1	2	1	25	2	1	32

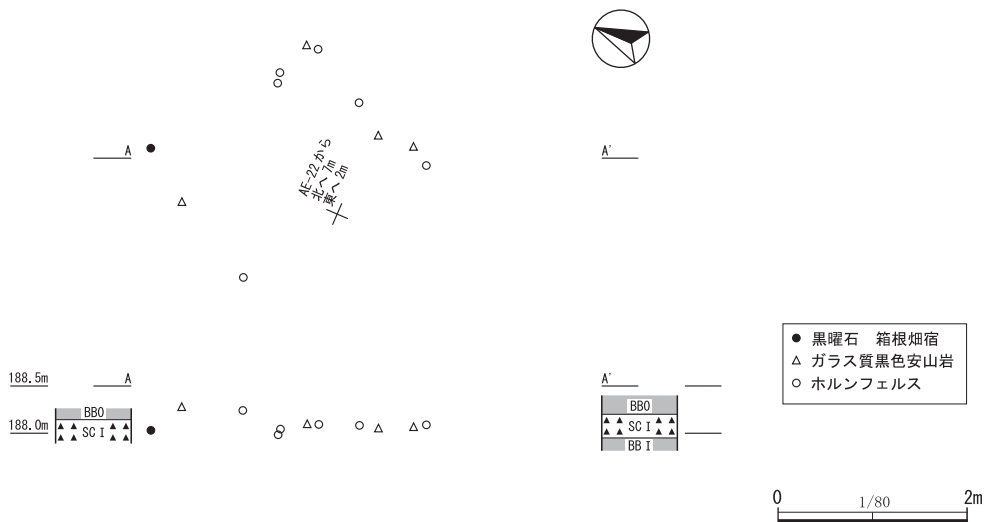
表77 第XVI文化層東支谷（南） 礫群属性

礫群番号	構成礫数	赤化					形態				石材				
		完形		非完形			角	亜角	亜円	円	安山岩	輝石安山岩	多孔質	玄武岩	多孔質
		非赤化	赤化	非赤化	赤化1	赤化2									
51号	23		5	1	10	7		23			7	2	12	2	
52号	42	1	14	1	11	15		34	8		9	1	19	13	
53号	94	1	18		19	56	2	76	15	1	35	11	30	18	
54号	155	9	23	2	37	84		142	13		74	9	40	32	
遺構外	26	3	7	1	6	9		21	5		7	3	11	5	

赤化1：全面が赤化 赤化2：礫の外皮のみ赤化



第181図 第XVI文化層12号石器集中 器種別分布



第182図 第XVI文化層12号石器集中 石材別分布

13号石器集中 (第183・184図、表76)

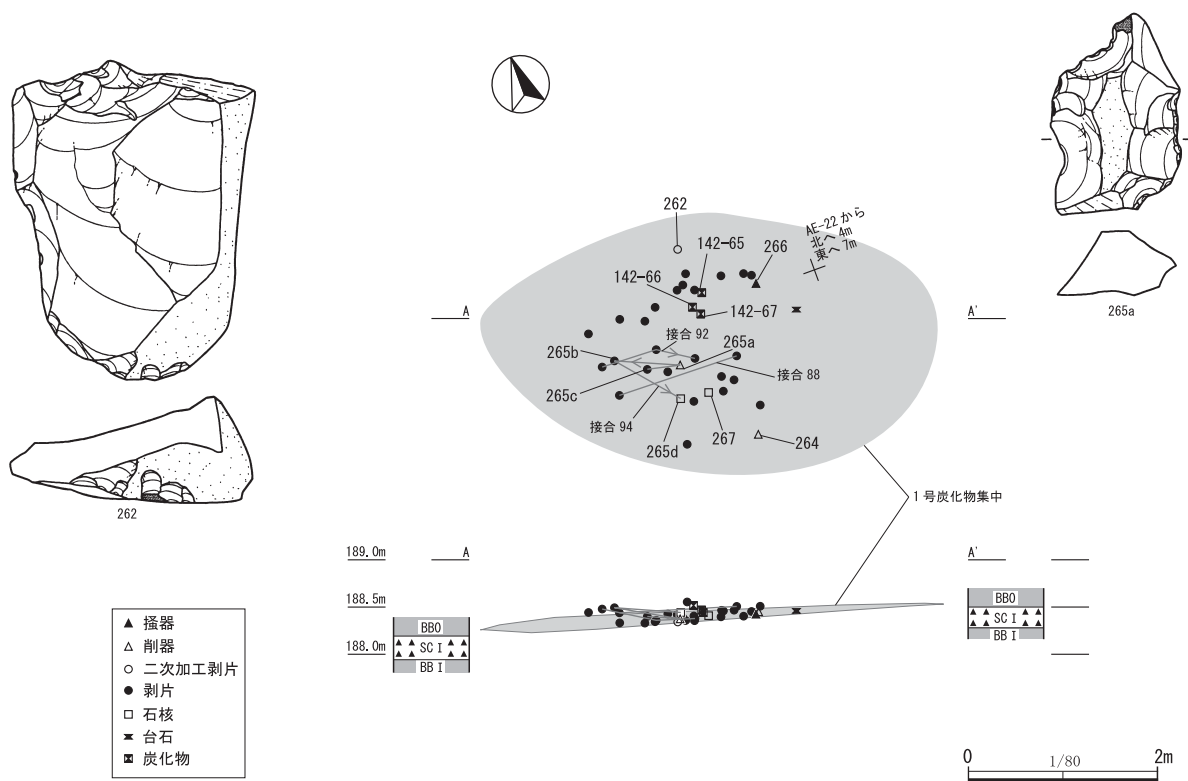
AE-22グリッドから出土した石器32点から成る。54号礫群と重複し、出土層位は休場層直下黒色帯である。石器はホルンフェルス製26点、ガラス質黒色安山岩製3点、細粒安山岩製、輝石安山岩製、玄武岩製各1点で、搔器1点、削器2点、二次加工剥片1点、台石1点が含まれる。

51号礫群 (第185図、表77)

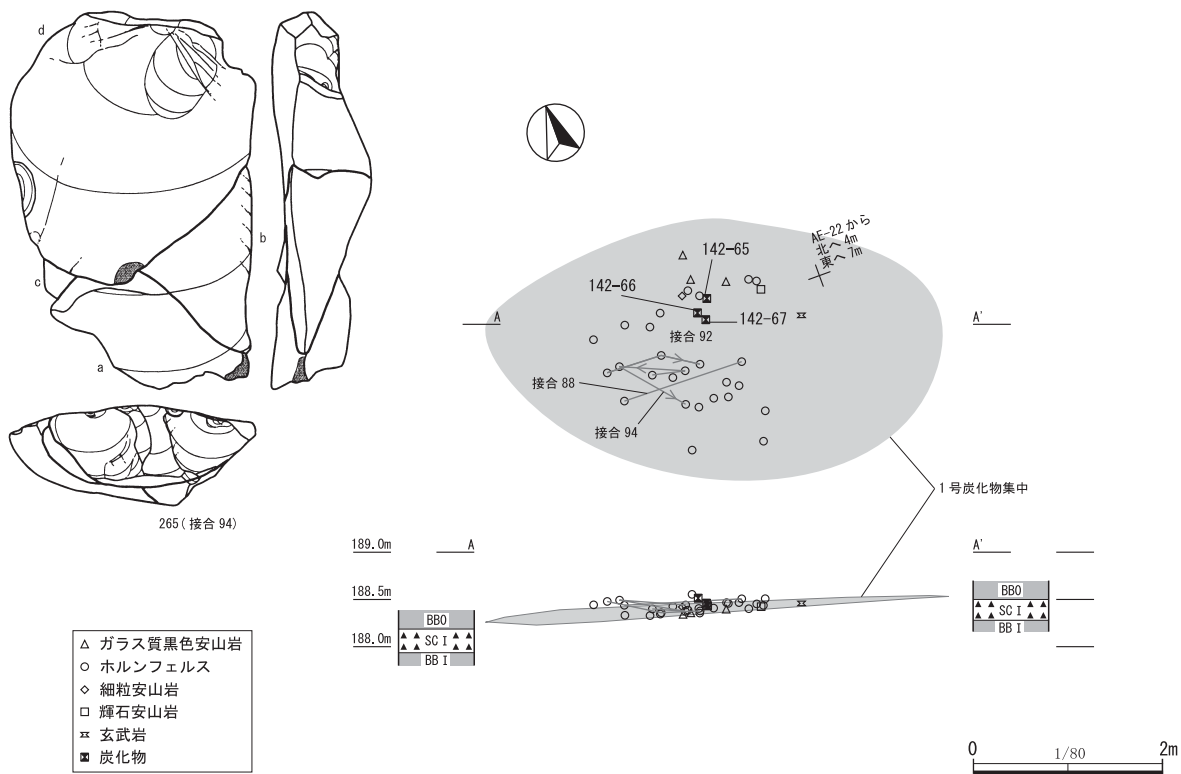
AF-21グリッドで出土した礫23点から成り、22点に被熱の痕跡が認められた。出土層位は調査時の記録によると主に休場層下位で、4点が休場層直下黒色帯出土とされている。礫は3.5×2.5mのやや広い範囲に分布する。長径17.2cm・重量2.2kgのものが最大で、平均で長径9.6cm・重量0.38kgである。

52号礫群 (第186図、表77)

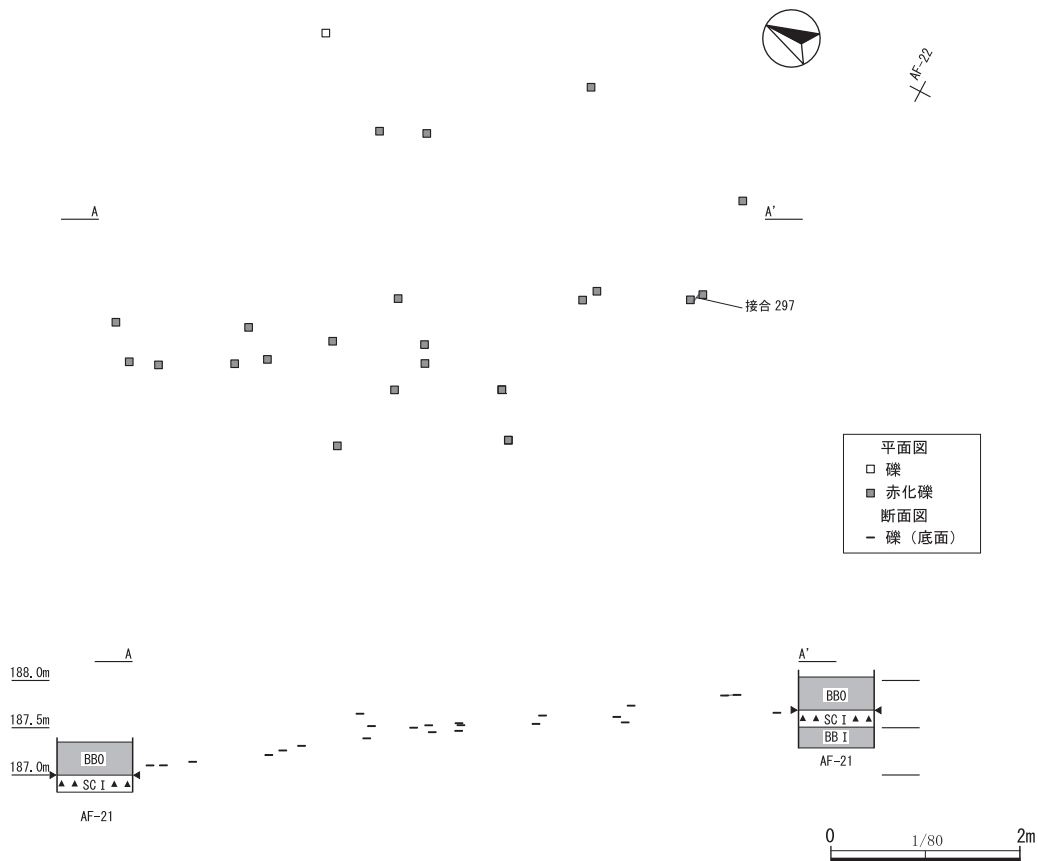
AE-22グリッド北西部付近で出土した礫42点から成り、40点に被熱の痕跡が認められた。出土層位は調査時の記録によると主に休場層下位で、7点が休場層直下黒色帯出土とされている。礫は径4mの範囲に分布し、特に南東側の径1.5m程度の範囲にまとまる。礫は大型のものが多く、長径21.0cm・重量1.5kgのものを始め1.0kg以上のものが7点あり、平均では長径11.1cm・重量0.44kgである。



第183図 第XVI文化層13号石器集中 器種別分布



第184図 第XVI文化層13号石器集中 石材別分布



第185図 第XVI文化層51号礫群

53号礫群 (第186図、表77)

AE-22グリッド北西部で出土した礫94点から成り、93点に被熱の痕跡が認められた。出土層位は調査時の記録によると主に休場層直下黒色帯で、3点が休場層下位出土とされている。礫は径4mの範囲に広がり、東西に長径20.3cm・重量3.2kg、長径21.1cm・重量3.1kgの大型礫が1点ずつ分布する。大きさの平均は長径8.6cm・重量0.27kgである。

54号礫群・1号炭化物集中 (第186図、表77)

54号礫群はAE-22グリッドで出土した礫155点から成り、144点に被熱の痕跡が認められた。出土層位は主に休場層直下黒色帯で、2点が休場層下位出土とされている。平面的には5.5m×4mの範囲に広がり、特に中心部に密集する。礫は長径20.4cm・重量1.3kgのもの、長径17.7cm・重量2.0kgのものなど1.0kg以上が4点あり、平均では長径8.1cm・重量0.21kgである。

1号炭化物集中は54号礫群の中心部と重複して5m×3mの範囲に広がり、礫群の礫とほぼ同一平面で検出された。ここから採取された炭化物試料3点(142-65~67)について放射性炭素年代測定を実施し、それぞれ23,240±90BP、23,410±90BP、23,170±90BPの年代値が得られた。

(2) 12・13号石器集中の出土石器 (第187・188図)

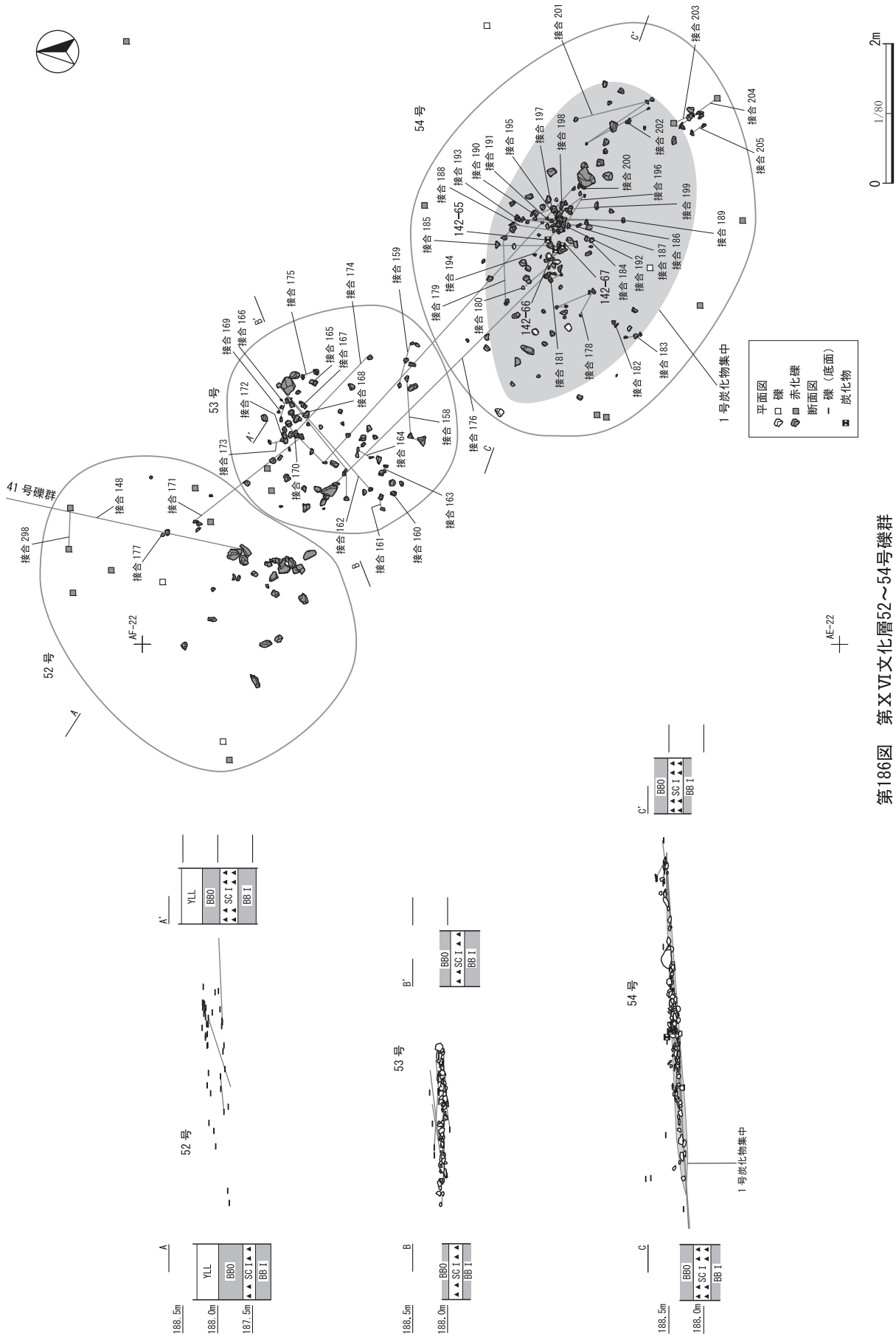
搔器 (262)

1点出土した。輝石安山岩製で、広い打面をもつ剥片を素材とし、端部に限定的に刃部加工を施している。

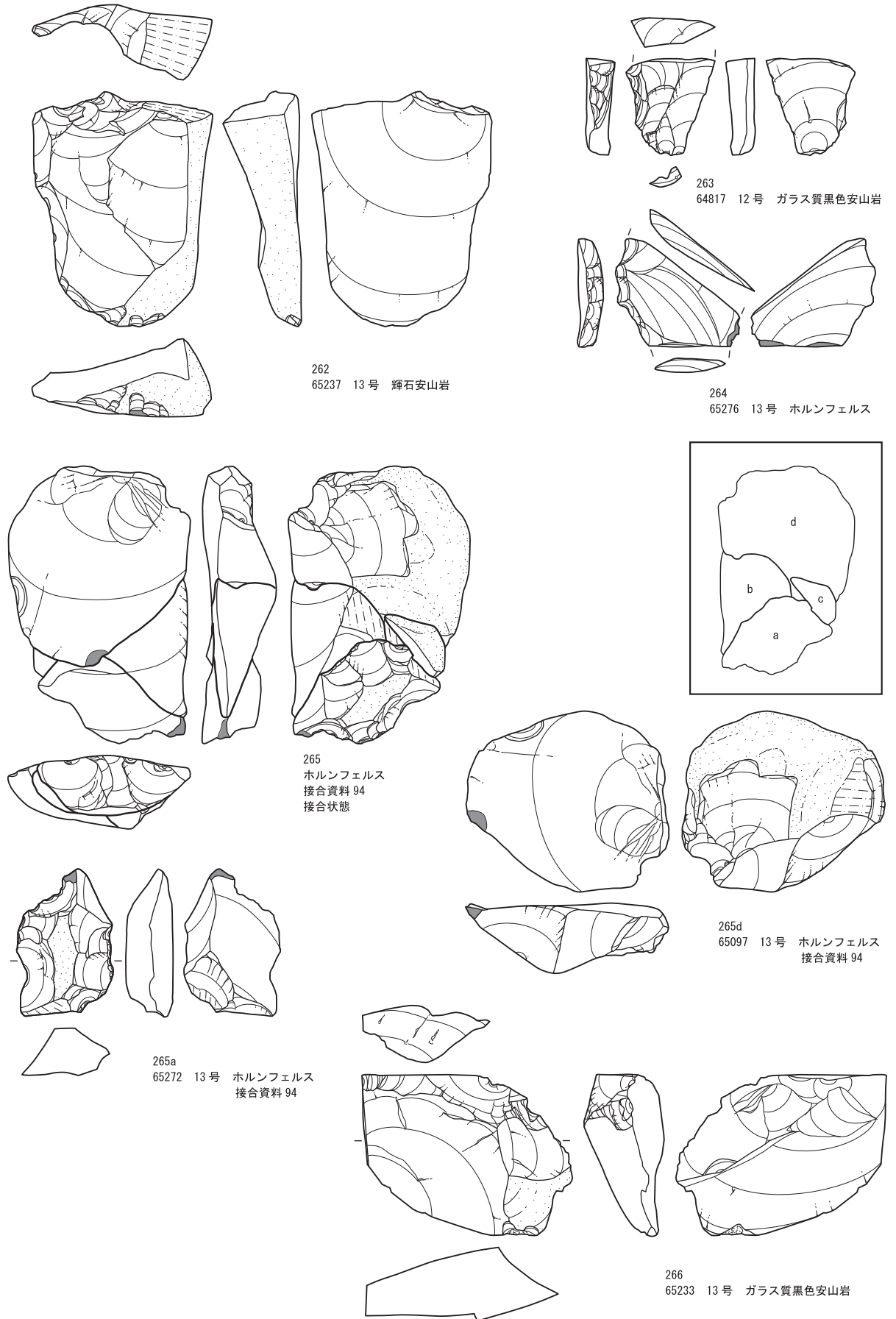
削器 (263~265)

3点出土した。263はガラス質黒色安山岩製の折損品で、基部に打面を残し一側縁に急斜度加工を施

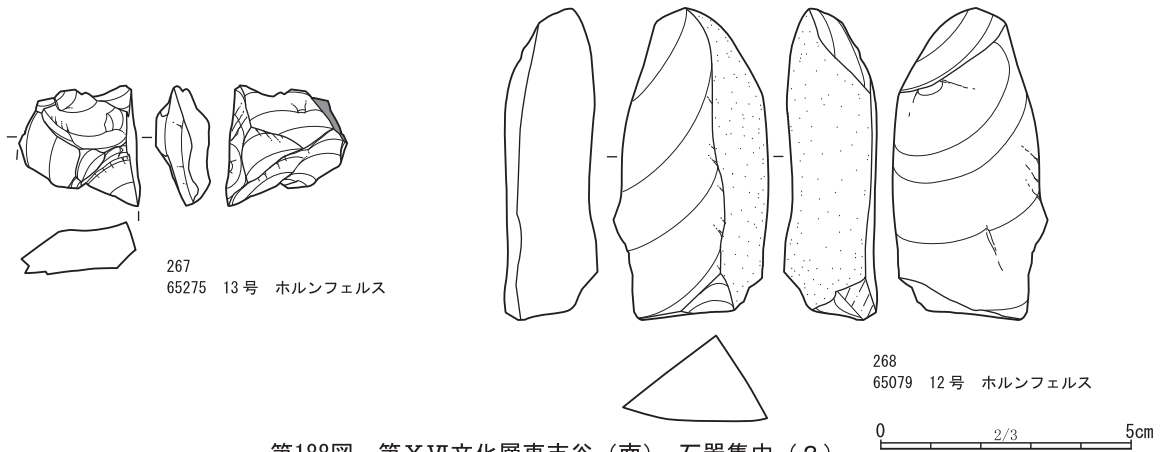




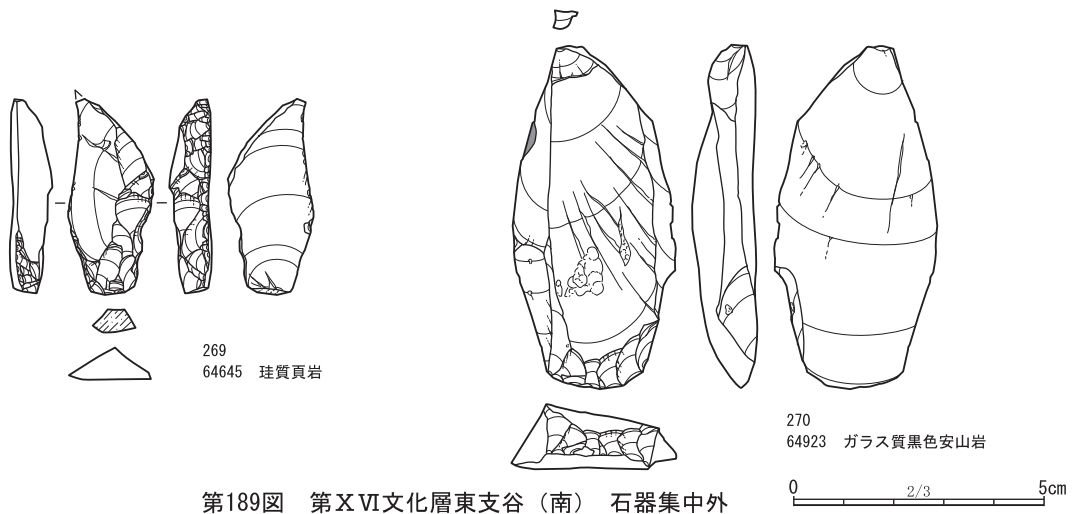
第186図 第XVI文化層52~54号磔群



第187図 第XVI文化層東支谷(南) 石器集中(1)



第188図 第XVI文化層東支谷（南） 石器集中（2）



第189図 第XVI文化層東支谷（南） 石器集中外

している。264は一側縁が粗い加工で鋸歯状に整形されているが、上下を折損している。265（接合資料94）はホルンフェルス製の削器を含む接合資料で、剥片素材の石核から剥片が剥離されている。削器（265a）は両側縁を加工したもので、粗い剥離の後、微小な剥離が加えられている。

#### 二次加工剥片（266）

1点出土した。ガラス質黒色安山岩製厚手剥片の右側縁打面側に数枚の剥離が加えられている。剥離痕のうち1つは長さ1.5cm、幅2cm程度の剥片を剥離したもので、石核であった可能性もある。

#### 剥片類・石核（267・268）

石刃1点、剥片34（接合により32）点、石核2点が出土した。このうち265（接合資料94）の石核1点、剥片2点の他に、ホルンフェルスの資料2点を図示した。267は石核で、表裏に求心状剥離の痕跡が認められ、消費が進んで小型化したものである。268は単剥離打面から剥離された石刃で、剥離角が大きい点の特徴である。ホルンフェルス製の剥片類にはこの他にも薄手の縦長剥片がある。

#### （3）石器集中外の出土石器（第189図）

石器集中外の石器はナイフ形石器、搔器各1点のみである。

269は黒色の珪質頁岩製のナイフ形石器で、基部に打面を残し二側縁加工している。13号石器集中の南東約20m、AD-23グリッドから出土した。

270はガラス質黒色安山岩製の搔器で、縦長剥片の端部に刃部加工を施している。AD-18グリッド出土。この他、AE-22グリッド一括の剥片1点がある。

5. 中央尾根の遺物群

(1) 遺物の分布 (第190・191図)

石器21点、礫24点が出土した(表78・80)。16号石器集中、56・57号礫群が分布するが、それぞれ互いに数10m離れて分布しており、別個に残されたものと考えられる。

石器は天城柏峠産黒曜石製が多く、特に16号石器集中とその周辺にまとまっている。

16号石器集中 (第192・193図、表79)

V-16グリッドを中心に出土した石器8点から成る。出土層位は主に休場層直下黒色帯で、2点が第Iスコリア層出土である。石器は天城柏峠産黒曜石製7点、ガラス質黒色安山岩製1点で、切出形石器、搔器各1点が含まれる。また、石器集中から約10mの範囲で天城柏峠産黒曜石製石器が8点出土し、このうち1点が石器集中内の石器と接合するなど関連性の高い資料と考えられる。

56号礫群 (第194図、表80)

Z-19グリッド北西部付近で出土した被熱礫5点から成る。出土層位は調査時の記録によると主に休場層下位で、1点が休場層直下黒色帯出土とされている。礫の大きさは平均で長径10.4cm・重量0.24kgである。

57号礫群 (第194図、表80)

X-21グリッドで出土した被熱礫4点から成る。出土層位は調査時の記録によると休場層直下黒色帯出土である。礫の大きさは平均で長径7.9cm・重量0.14kgである。

表78 第XVI文化層中央尾根 石器組成

		ナイフ形石器	切出形石器	搔器	剥片	石核	敲石	計
黒曜石	箱根畑宿	1			2			3
	天城柏峠		1	2	9	3		15
	黒曜石計	1	1	2	11	3		18
ガラス質黒色安山岩					1			1
細流安山岩					1			1
細礫岩							1	1
計		1	1	2	13	3	1	21

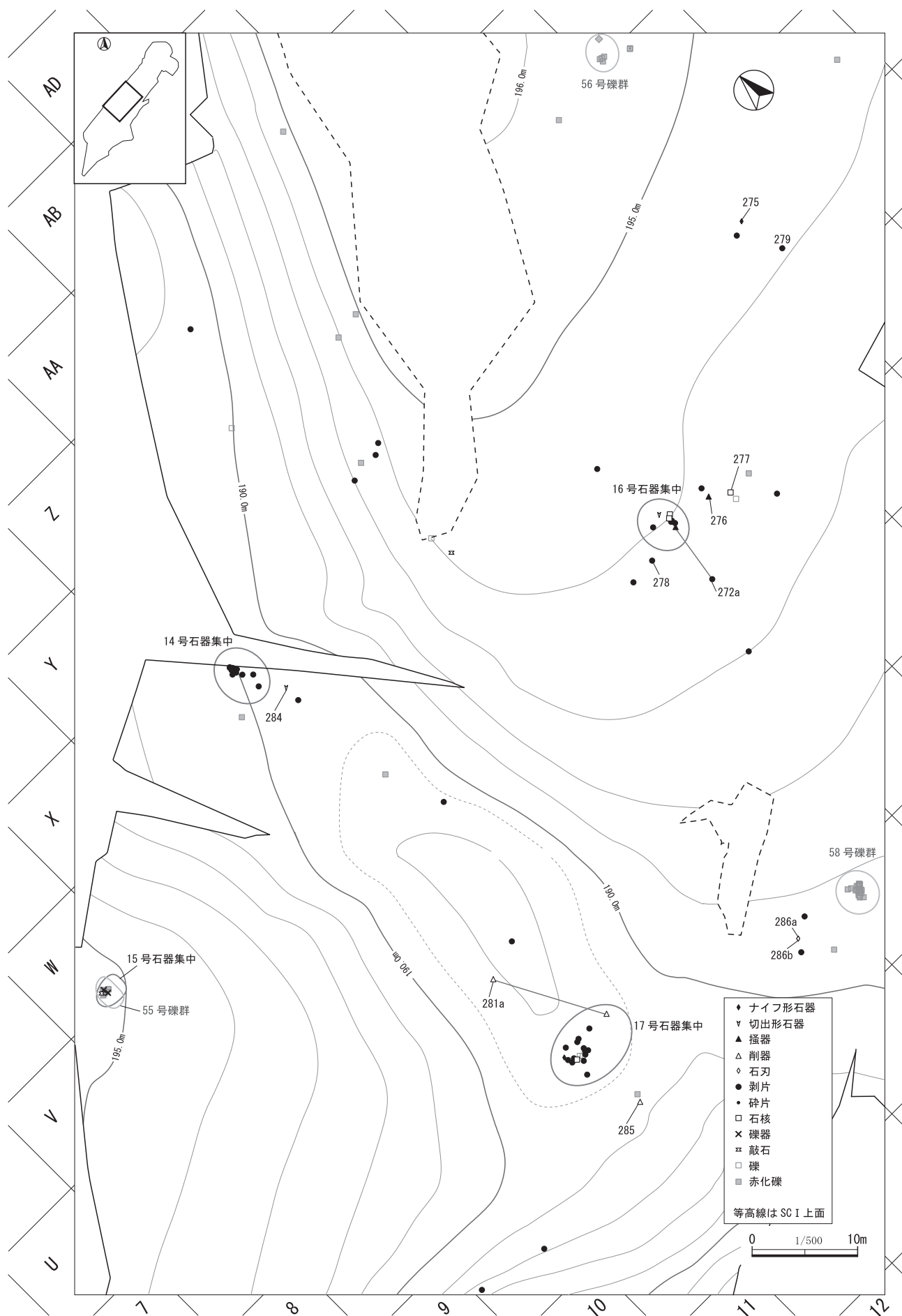
表79 第XVI文化層16号石器集中 石器組成

		切出形石器	搔器	剥片	石核	計
黒曜石	天城柏峠	1	1	3	2	7
ガラス質黒色安山岩				1		1
計		1	1	4	2	8

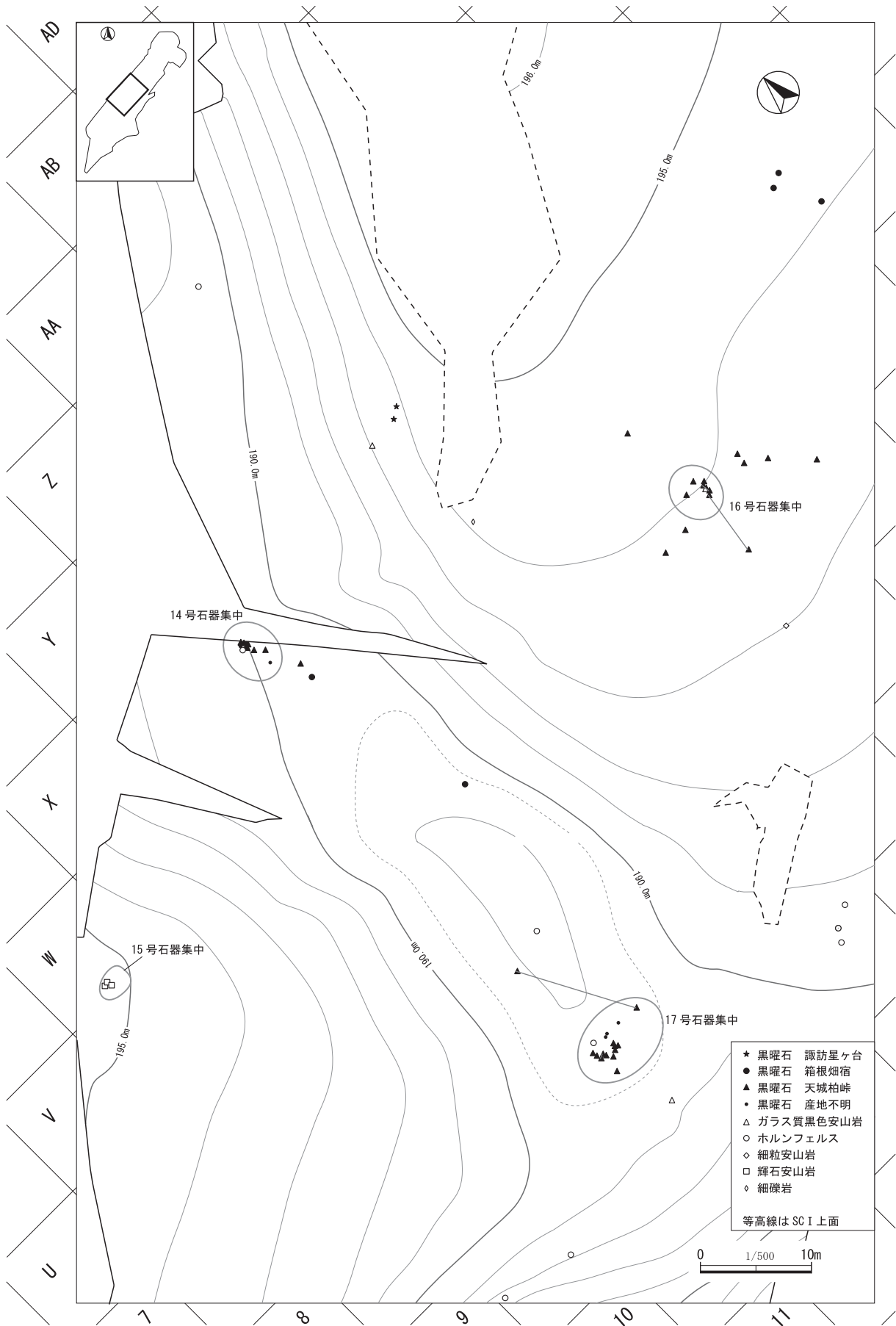
表80 第XVI文化層中央尾根 礫群属性

礫群番号	構成礫数	赤化				形態			石材							
		完形		非完形		垂角	垂円	円	安山岩	輝石	安山岩	多孔質	玄武岩	多孔質	砂岩	硬質
		非赤化	赤化	赤化1	赤化2											
56号	5		4	1		2	3				2	2	1			
57号	4		1	1	2	1	3		2			1	1			
遺構外	15	2	5	7	1	9	5	1	6	1	2	5		1		

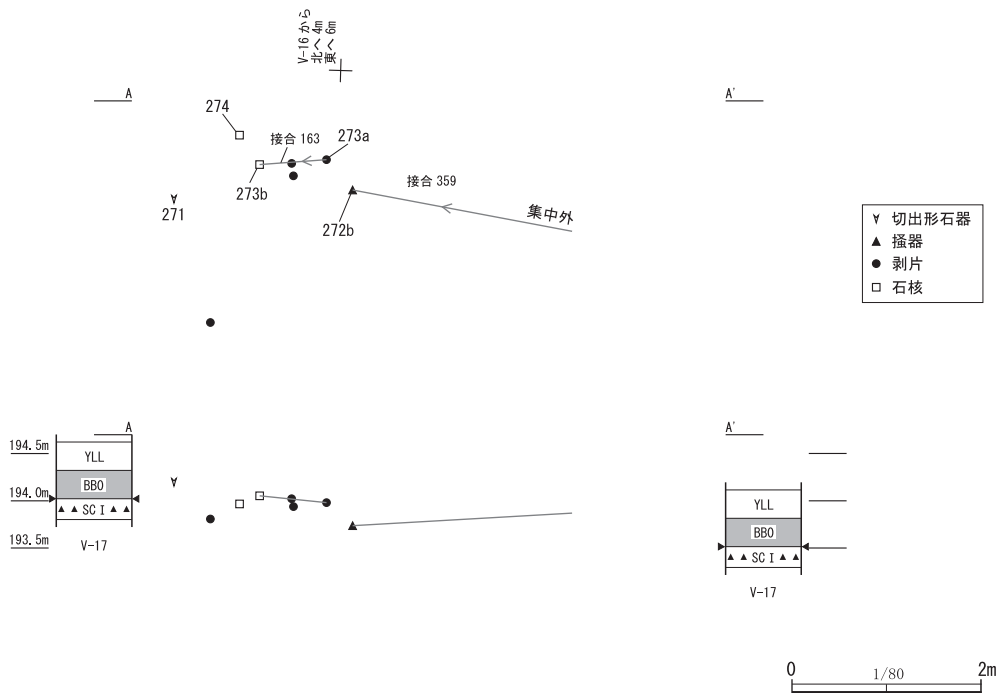
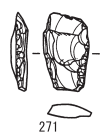
赤化1：全面が赤化 赤化2：礫の外皮のみ赤化



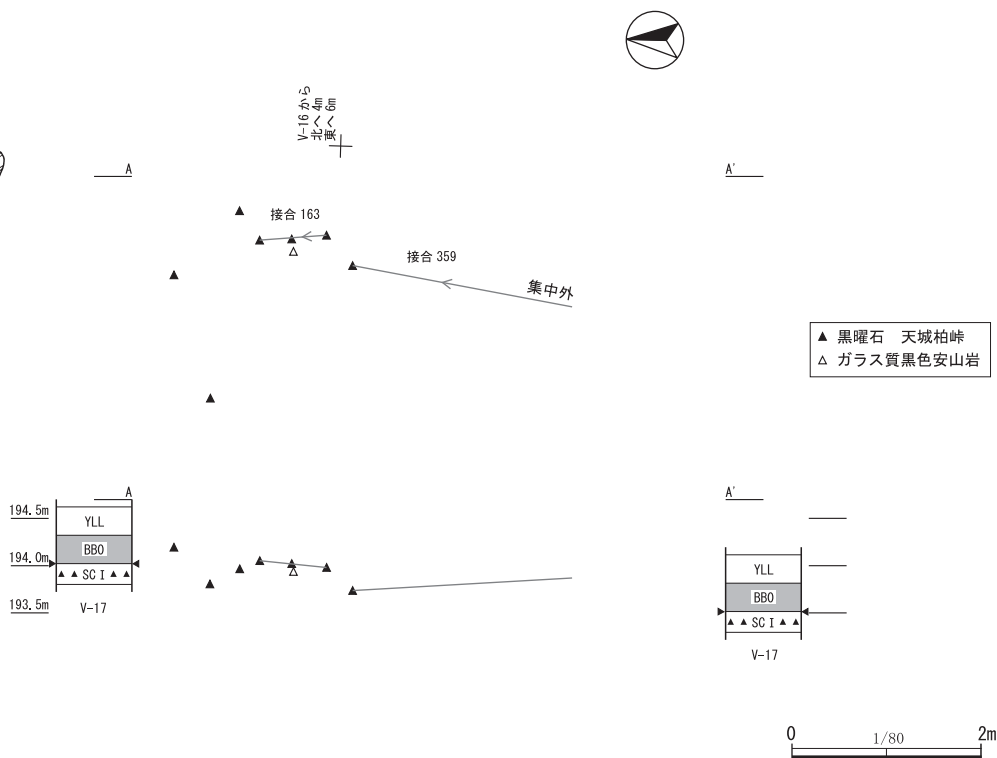
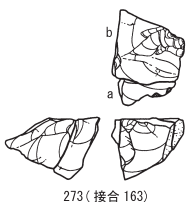
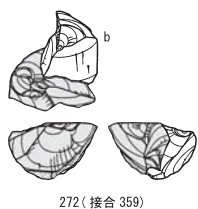
第190図 第XVI文化層中央尾根・西支谷・西尾根（東）器種別分布



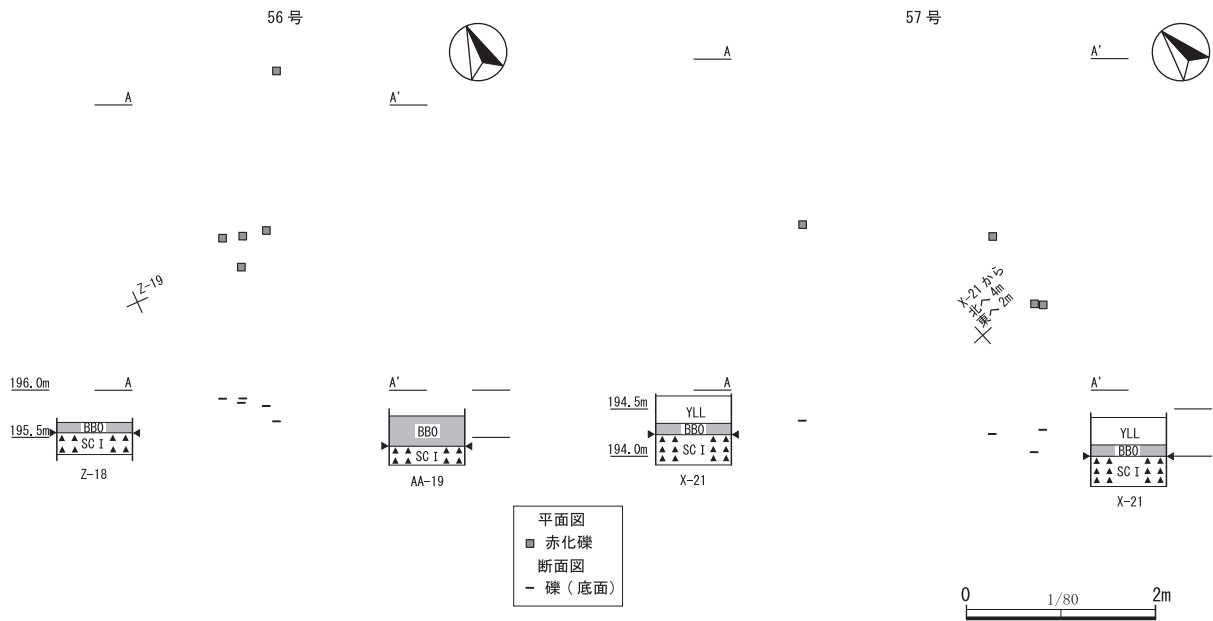
第191図 第XVI文化層中央尾根・西支谷・西尾根（東） 石材別分布



第192図 第XVI文化層16号石器集中 器種別分布



第193図 第XVI文化層16号石器集中 石材別分布



第194図 第XVI文化層56・57号礫群

(2) 16号石器集中の出土石器 (第195図)

切出形石器 (271)

1点出土した。天城柏峠産黒曜石製で、右側面に素材剥片の打面を置き、左側縁を急斜度調整で整形している。背面には右側縁から細かな調整が入っているが、これは僅かに打面と接する範囲以外まで続いており、素材剥片剥離後に加えられた調整である可能性が高い。

搔器 (272)

1点出土した。272 (接合資料359) は同一の単剥離打面から剥離された石器2点から成る。このうち272bは剥片剥離の作業面端部に細かい急斜度調整が施されており、搔器として扱った。

剥片類・石核 (273・274)

剥片4点、石核2点が出土した。273 (接合資料163) は天城柏峠産黒曜石製で、消費の進んだ石核から小型の剥片が剥離されている。274も天城柏峠産黒曜石製の石核で、同じく単剥離打面から小型剥片を剥離している。

(3) 石器集中外の出土石器 (第196図)

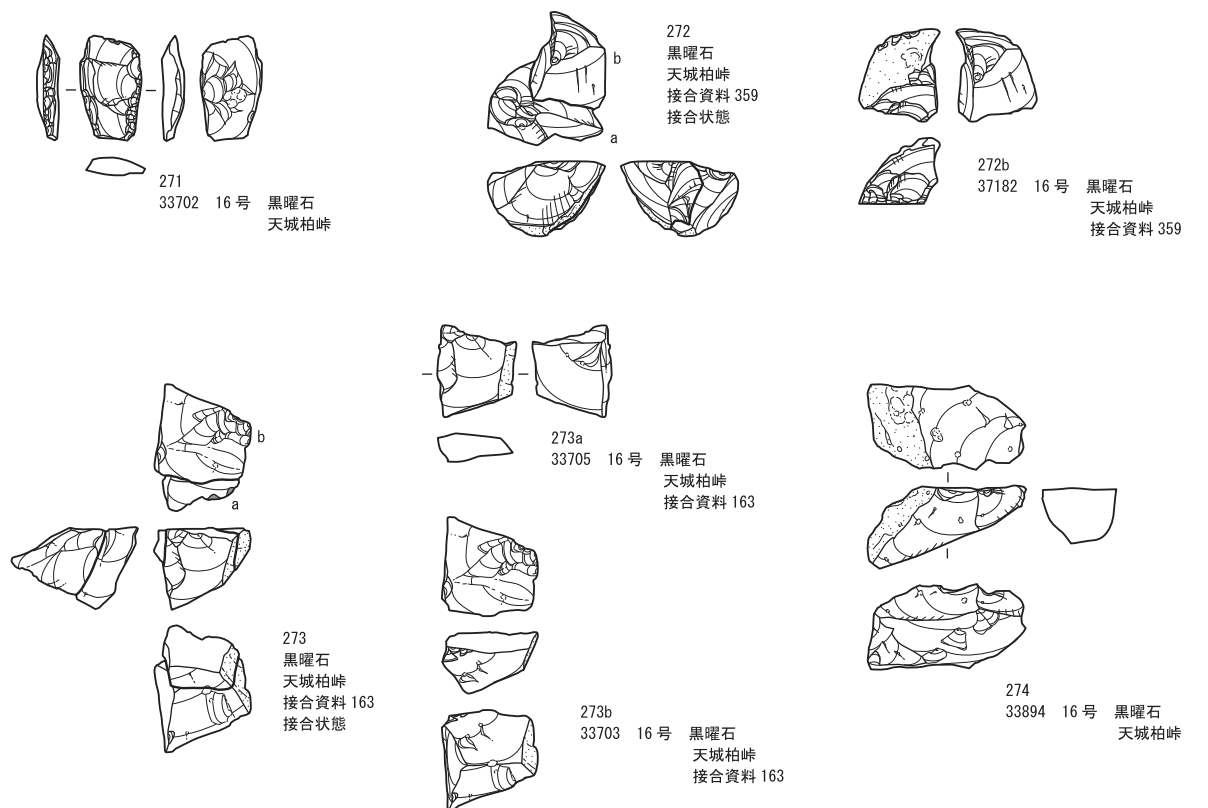
ナイフ形石器、搔器各1点、剥片9点、石核1点、敲石1点が出土した。

275は箱根畑宿産黒曜石製のナイフ形石器基部側破片である。基部に打面を残し、二次加工は左側縁が背面、右側縁は腹面と錯向剥離で調整されている。W-18グリッド出土。

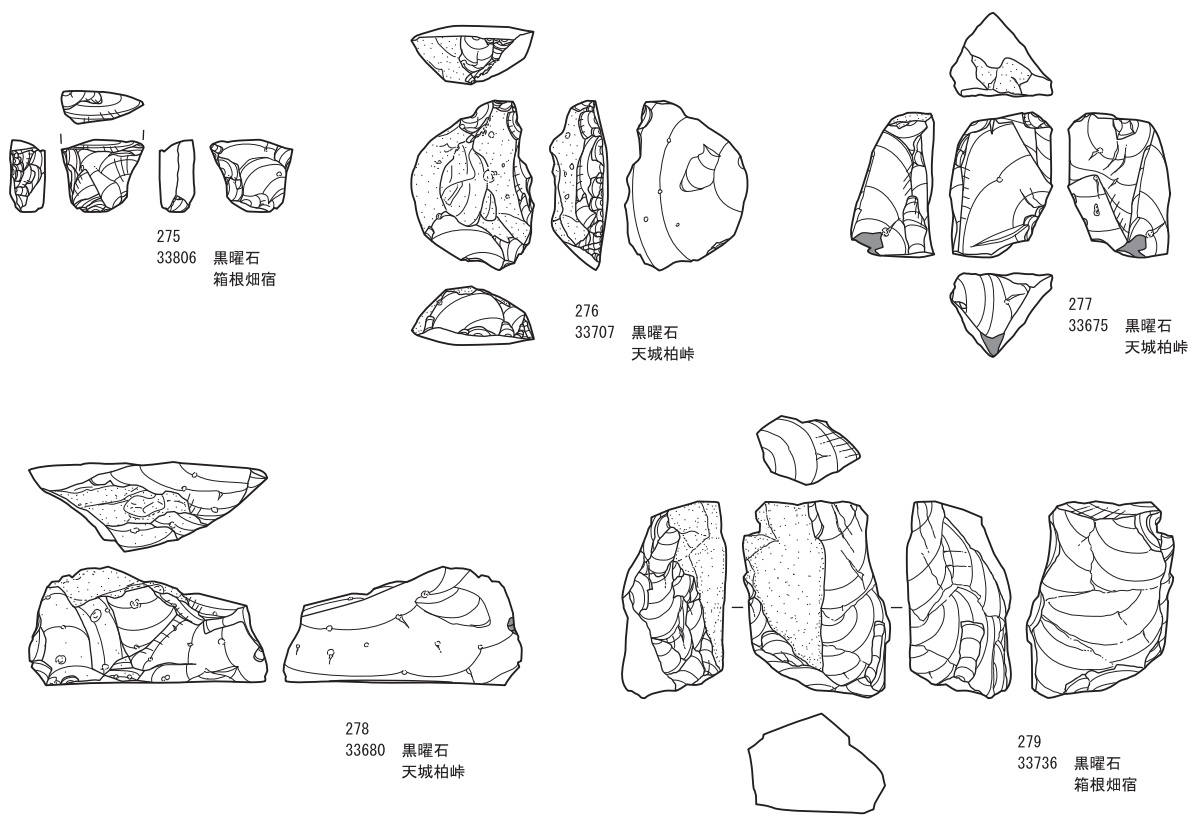
276~278は16号石器集中周辺出土の天城柏峠産黒曜石製石器である。276は搔器で、端部から右側縁に連続した刃部加工がなされている他、基部にも部分的に急斜度調整が施されている。277は石核で、打面転移の繰り返しにより小型のサイコロ状となっている。278は背面から下面に礫面の残る剥片で、天城柏峠産黒曜石製石器の中では大型厚手のものである。

279は箱根畑宿産黒曜石製の剥片である。W-18グリッド出土。





第195図 第XVI文化層中央尾根 石器集中



第195図 第XVI文化層中央尾根 石器集中外

6. 西支谷の遺物群

(1) 遺物の分布 (第190・191図)

石器45点、礫33点が出土した(表81・84)。X-12グリッドに14号石器集中、その90m南側のS-12グリッドに17号石器集中が分布する。石器は両石器集中とも天城柏峠産黒曜石製が大半を占める。また、中央尾根寄りのR-15グリッドに58号礫群が分布する。

この他、中央尾根北側の斜面や西尾根へ入り込む支谷などにも遺物が分布している。

14号石器集中 (第197・198図、表82)

X-12グリッドから出土した石器12点から成る。出土層位は主に休場層直下黒色帯で、3点が休場層下位から出土した。石器は、ホルンフェルス製1点を除き天城柏峠産黒曜石製で、全て剥片類である。

17号石器集中 (第199・200図、表83)

S-12グリッドから出土した石器16点から成る。出土層位は調査時の記録によると主に休場層直下黒色帯で、6点が休場層下位、1点が休場層中位から出土した。石器はホルンフェルス製1点以外は全て黒曜石製である。黒曜石は産地不明のうち1点が他とは異なる透明なものである他は、天城柏峠産と見られる。ナイフ形石器、削器、石核が1点ずつ出土している。

58号礫群 (第201図、表84)

R-15グリッド北西部で出土した被熱礫22点から成る。出土層位は休場層直下黒色帯である。礫は径1.5mの範囲に密集している。礫は比較的大型のものが多く、長径21.7cm・重量2.0kg、長径21.6cm・重量1.5kgのものを始め平均で長径13.9cm・重量0.58kgである。

表81 第XVI文化層西支谷 石器組成

		ナイフ形石器	切出形石器	削器	石刃	剥片	砕片	石核	計
黒曜石	諏訪星ヶ台					2			2
	箱根畑宿					2			2
	天城柏峠	1	1(1)	2		18		1	23(1)
	産地不明					4	2		6
	黒曜石計	1	1(1)	2		26	2	1	33(1)
ガラス質黒色安山岩				1		1			2
ホルンフェルス					2	8			10
計		1	1(1)	3	2	35	2	1	45(1)

括弧内は全体数の内、微細剥離痕のあるものの点数。

表82 第XVI文化層  
14号石器集中 石器組成

		剥片	砕片	計
黒曜石	天城柏峠	8		8
	産地不明	1	2	3
	黒曜石計	9	2	11
ホルンフェルス		1		1
計		10	2	12

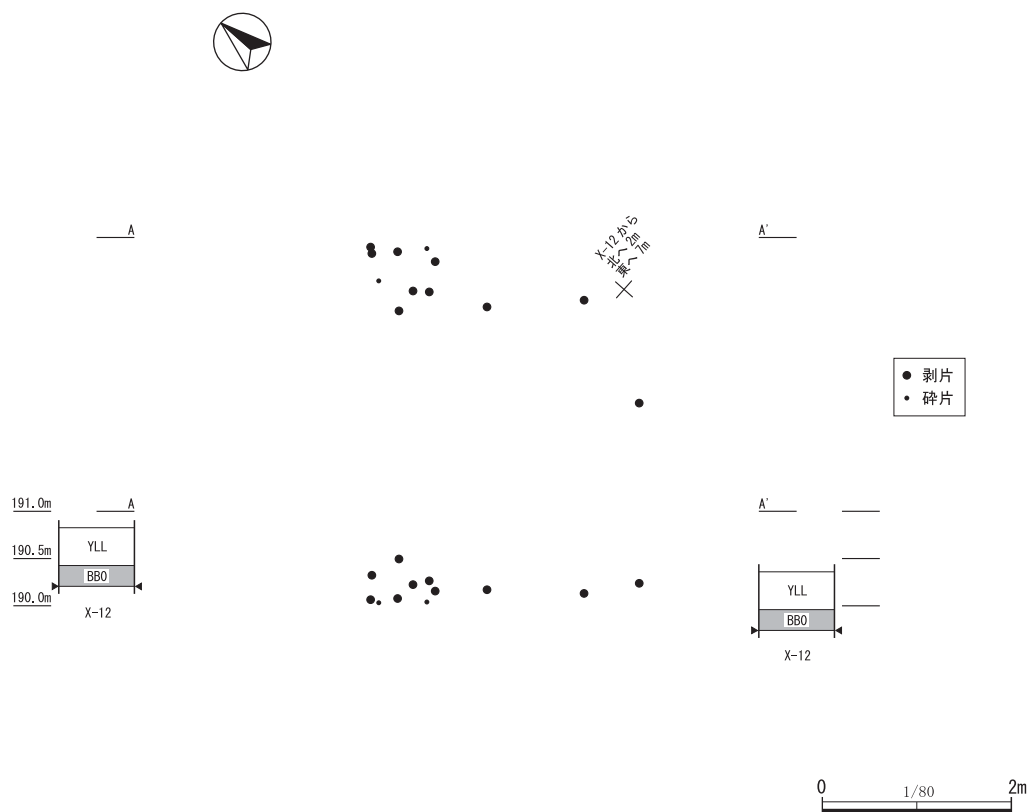
表83 第XVI文化層17号石器集中 石器組成

		ナイフ形石器	削器	剥片	石核	計
黒曜石	天城柏峠	1	1	9	1	12
	産地不明			3		3
	黒曜石計	1	1	12	1	15
ホルンフェルス				1		1
計		1	1	13	1	16

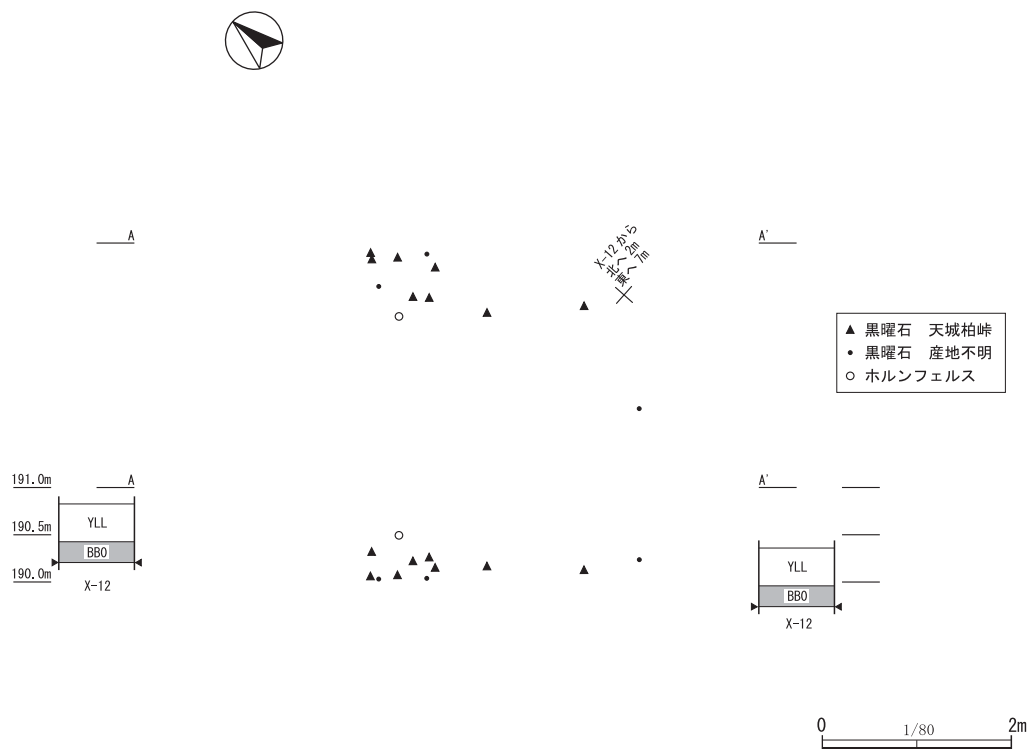
表84 第XVI文化層西支谷 礫群属性

礫群番号	構成礫数	赤化				形態			石材					
		完形		非完形		垂角	垂円	円	安山岩	輝石	安山岩	多孔質	玄武岩	多孔質
		非赤化	赤化	赤化1	赤化2									
58号	22		2	20		21	1		18		2			2
遺構外	11	3	4	2	2	5	5	1	6		1	3		1

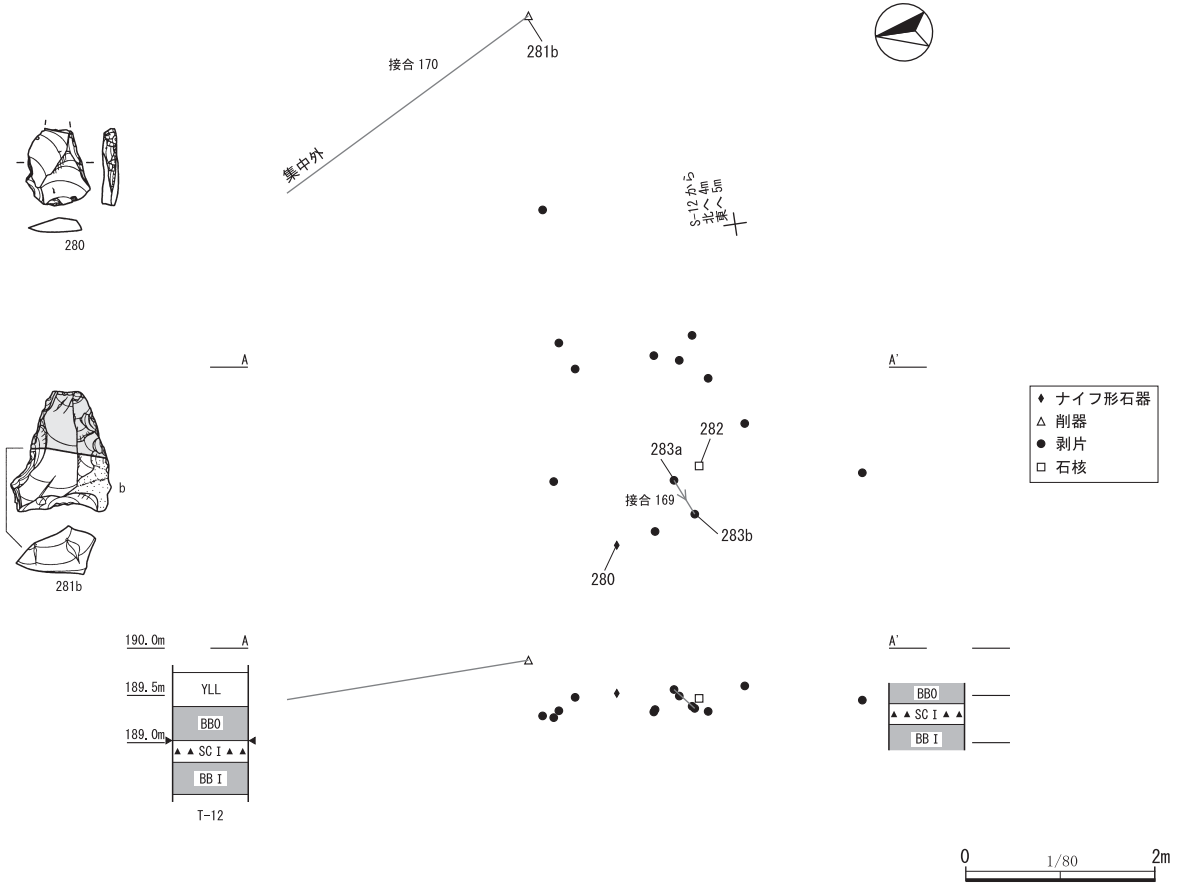
赤化1：全面が赤化 赤化2：礫の外皮のみ赤化



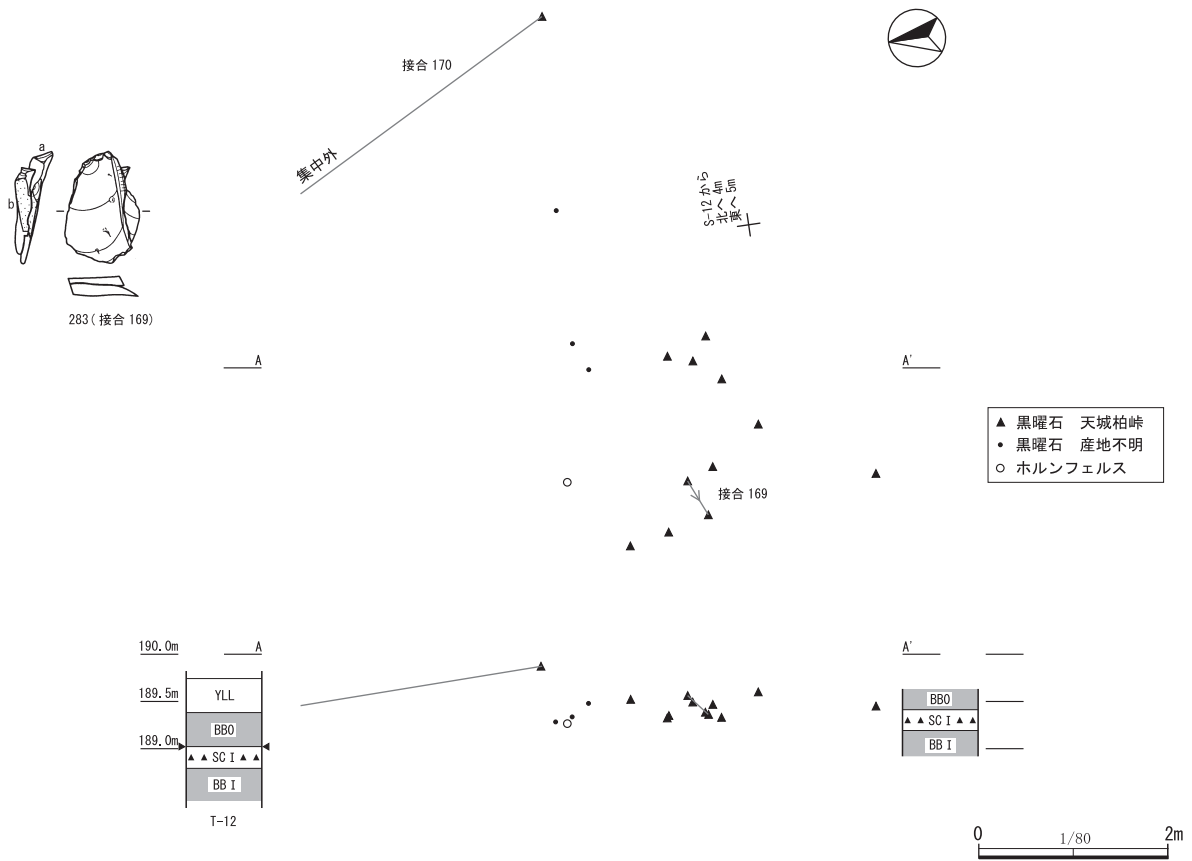
第197図 第XVI文化層14号石器集中 器種別分布



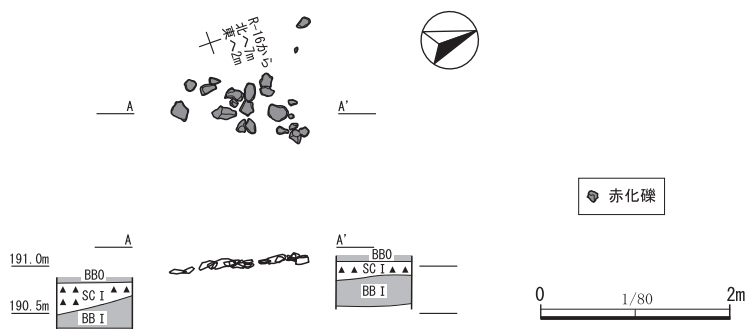
第198図 第XVI文化層14号石器集中 石材別分布



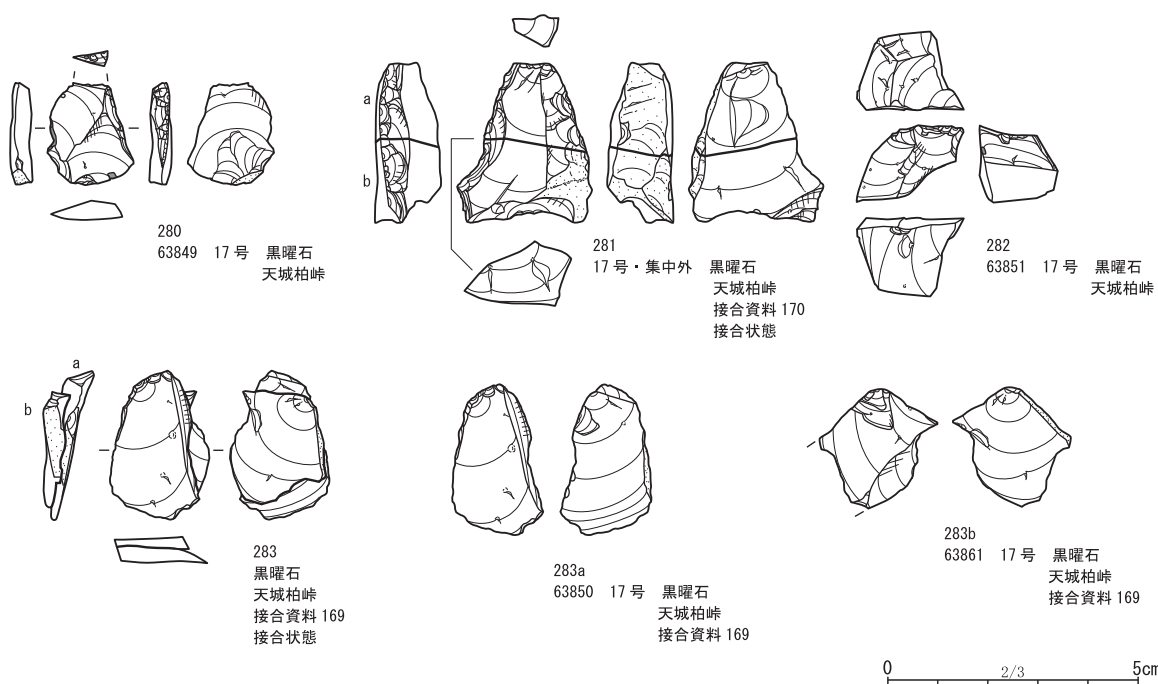
第199図 第XVI文化層17号石器集中 器種別分布



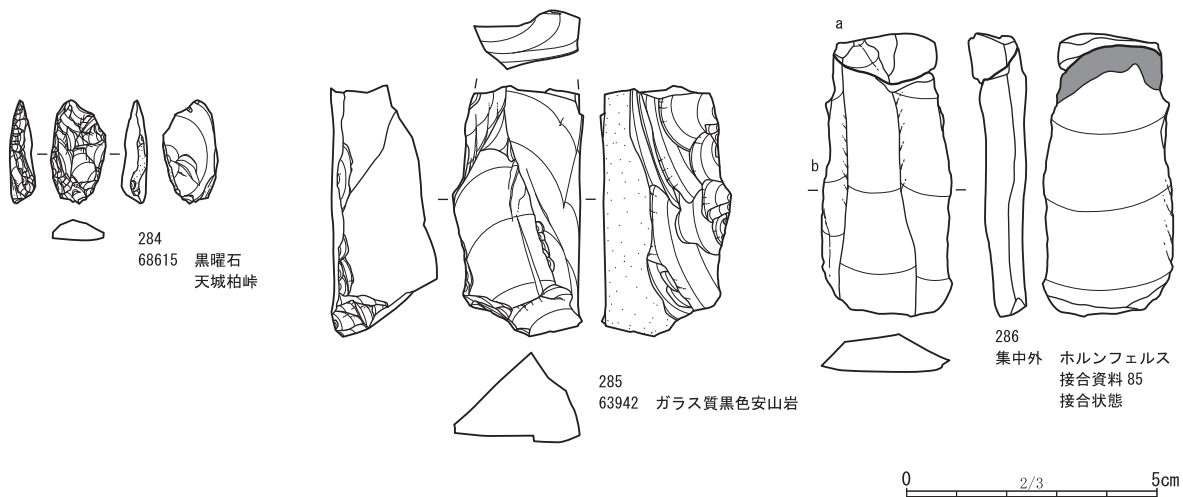
第200図 第XVI文化層17号石器集中 石材別分布



第201図 第XVI文化層58号礫群



第202図 第XVI文化層西支谷 石器集中



第203図 第XVI文化層西支谷 石器集中外

(2) 14号石器集中の出土石器

剥片10点、碎片2点が出土した。長さ・幅ともに3cm以下の比較的小型の資料のみから成り、接合資料は確認できなかった。

(3) 17号石器集中の出土石器 (第202図)

ナイフ形石器 (280)

1点出土した。天城柏峠産黒曜石製で、基部に打面を残して右側縁を加工したもので、先端部を欠いている。

削器 (281)

1点出土した。天城柏峠産黒曜石製で、折損した上半部は石器集中外のT-12グリッドから出土した(接合資料170)。左側縁に僅かに内湾する刃部加工がなされている。

剥片類・石核 (282・283)

剥片13点、石核1点が出土した。

282は天城柏峠産黒曜石製の石核で、打面転移の繰り返しにより小型のサイコロ状となっている。283(接合資料169)は天城柏峠産黒曜石製の剥片2点から成り、上面から側面へ打面を転移する剥離工程を示している。

(4) 石器集中外の出土石器 (第203図)

281の削器を除くと、切出形石器1点、削器1点、石刃2(接合により1)点、剥片12点が出土している。

284は天城柏峠産黒曜石製の切出形石器で、右側面に素材剥片の打面を置き、左側縁を急斜度加工で整形している。刃部にも微細剥離痕が認められる。14号石器集中付近、W-12グリッド出土。

285はガラス質黒色安山岩製の削器で、甲高の剥片の左側縁を二次加工している。器体下半部では急斜度調整が背面側に、上半部では平坦調整が腹面側に行われている。17号石器集中付近、R-12グリッド出土。

286はホルンフェルス製の石刃である。打面部とそれ以外が分かれて出土したが、出土地点は近接している。58号礫群付近、R-14グリッド出土。

7. 西尾根(東)の遺物群

(1) 遺物の分布 (第190・191図)

石器3点、礫11点が出土した(表85・86)。遺物はW-9グリッド南側の15号石器集中、55号礫群に全てまとまっている。

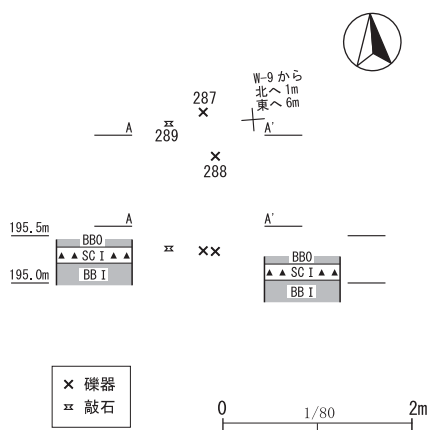
表85 第XVI文化層  
15号石器集中 石器組成

	礫器	敲石	計
輝石安山岩	2	1	3
計	2	1	3

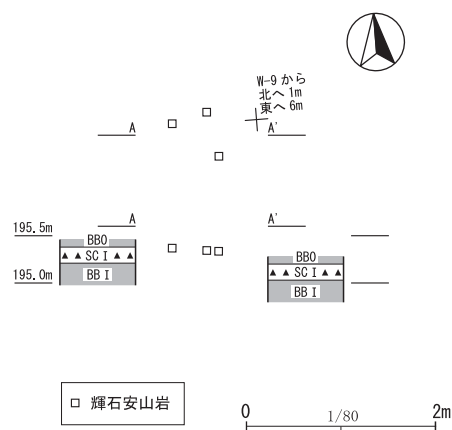
表86 第XVI文化層西尾根(東) 礫群属性

礫群番号	構成礫数	赤化		形態			石材				
		完形	非完形	亜角	亜円	円	安山岩	輝石安山岩	多孔質	玄武岩	多孔質
		赤化	赤化1								
55号	11	10	1	1	4	6	4	1	4	2	

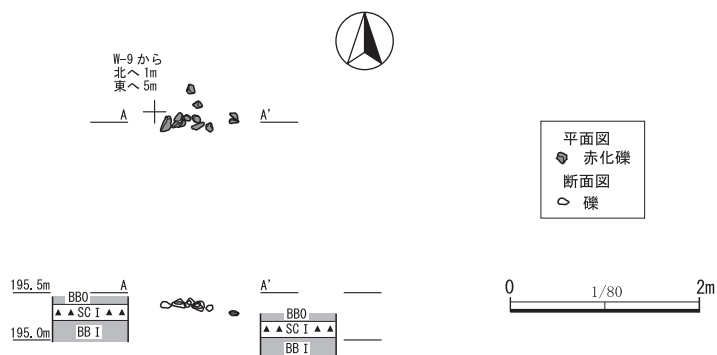
赤化1: 全面が赤化



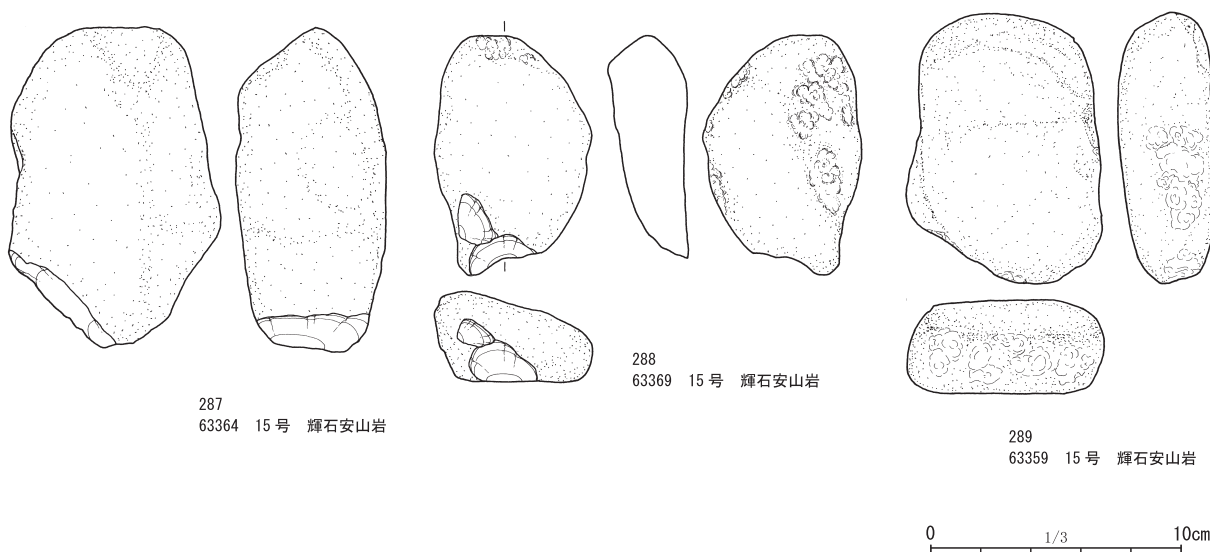
第204図 第XVI文化層15号石器集中 器種別分布



第205図 第XVI文化層15号石器集中 石材別分布



第206図 第XVI文化層55号礫群



第207図 第XVI文化層西尾根(東) 石器集中

## 15号石器集中（第204・205図、表85）

W-9グリッド南側から出土した石器3点から成る。出土層位は休場層直下黒色帯で、55号礫群と重複する。石器は全て輝石安山岩製で礫器2点、敲石1点である。これらは現地調査の段階では全て礫に分類され、55号礫群の構成礫として取り上げられており、それらの礫の中から加工痕や使用痕があるものを抽出したものである。

## 55号礫群（第206図、表86）

W-9グリッドで出土した被熱礫11点から成る。出土層位は休場層直下黒色帯である。礫は1m×0.5mの範囲にまとまる。長径19.3cm・重量1.4kgのものが最大で、平均で長径11.6cm・重量0.51kgである。

## （2）15号石器集中の出土石器（第207図）

## 礫器（287・288）

2点出土した。2点とも輝石安山岩の亜角礫を素材とし、一端を打ち欠いたものである。287は2回の剥離で端部を三角にし、直線的な刃部を設けている。288は平たい礫に僅かな加工が施されているが、裏面や上端に敲打痕が認められ、敲石として機能した可能性もある。

## 敲石（289）

1点出土した。輝石安山岩の亜角礫を用い、図中の下面から右側面に敲打痕と見られる凹凸が顕著に認められる。この他、上面、左側面にも弱い凹凸があり、敲打痕の可能性はある。

## 8. 西尾根（西）の遺物群

## （1）遺物の分布（第208・209図）

石器6点、礫23点が出土した（表87・88）。まとまった遺物分布は礫群2基のみで、G-2グリッド付近に59号礫群、F-1グリッドに60号礫群が分布する。その他、O-4グリッド周辺やJ-1グリッド周辺などに散在する。

## 59号礫群（第210図、表88）

G-2グリッド北西部付近で出土した被熱礫5点から成る。出土層位は休場層下位で、礫は全て長径10cm以上の完形礫から成り、最大のものが長径22.9cm・重量5.4kg、平均で長径16.4cm・重量1.9kgである。

## 60号礫群（第210図、表88）

F-1グリッドで出土した被熱礫9点から成る。出土層位は休場層直下黒色帯である。礫の大きさは平均で長径9.4cm・重量0.25kgである。

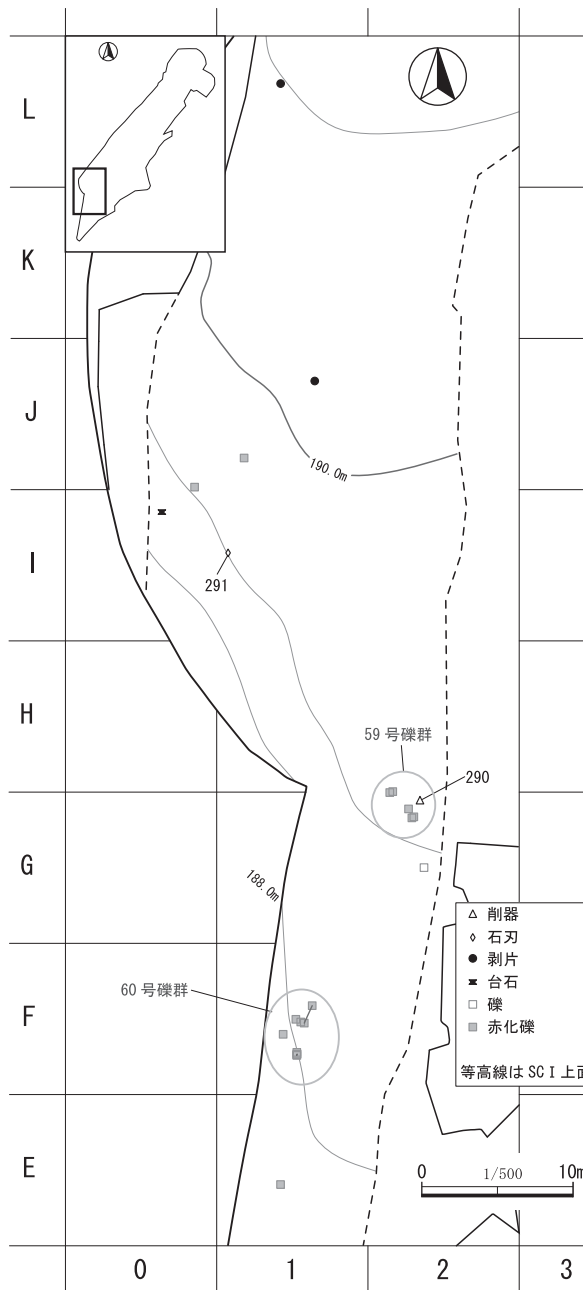
## （2）出土石器（第211図）

出土石器は6点で、全て単独出土であった。このうち2点を図示した。

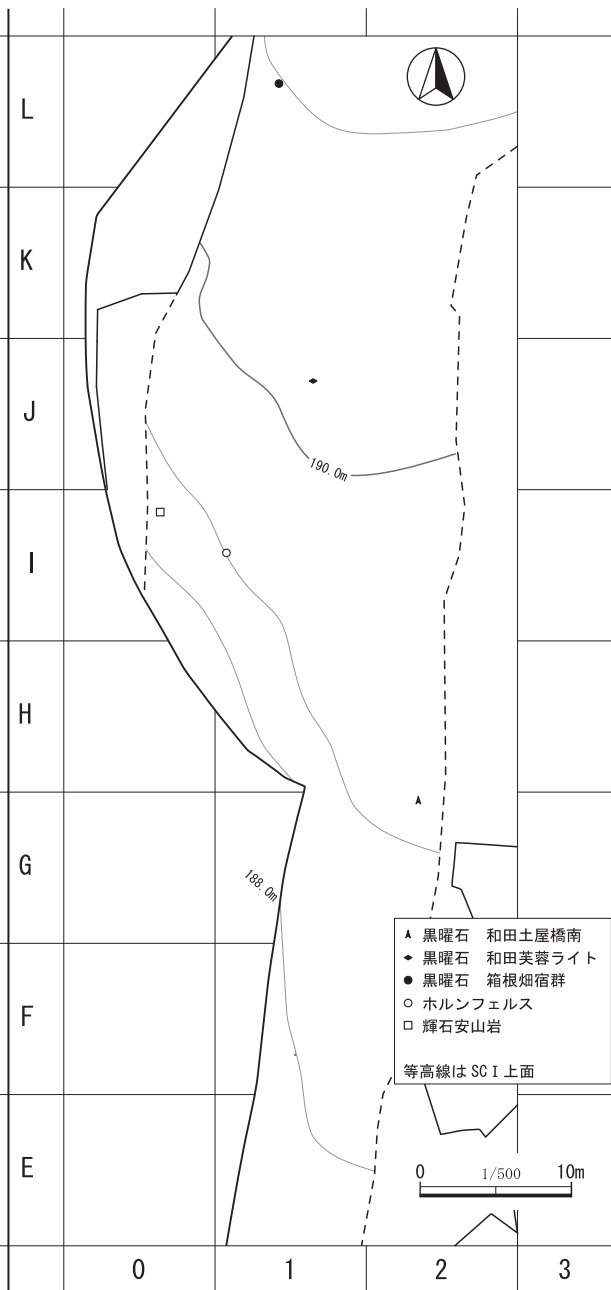
290は和田土屋橋南産黒曜石製の削器である。右側縁の下半部にやや内湾する急斜度加工が施されている。左側縁下半部は斑晶が露わになっているが、それ以外の部分は両側縁とも微細な剥離が認められる。59号礫群付近の休場層下位で出土した。

291はホルンフェルス製の石刃である。I-1グリッド、休場層直下黒色帯から出土した。





第208図 第XVI文化層西尾根（西）器種別分布



第209図 第XVI文化層西尾根（西）石材別分布

表87 第XVI文化層西尾根（西）石器組成

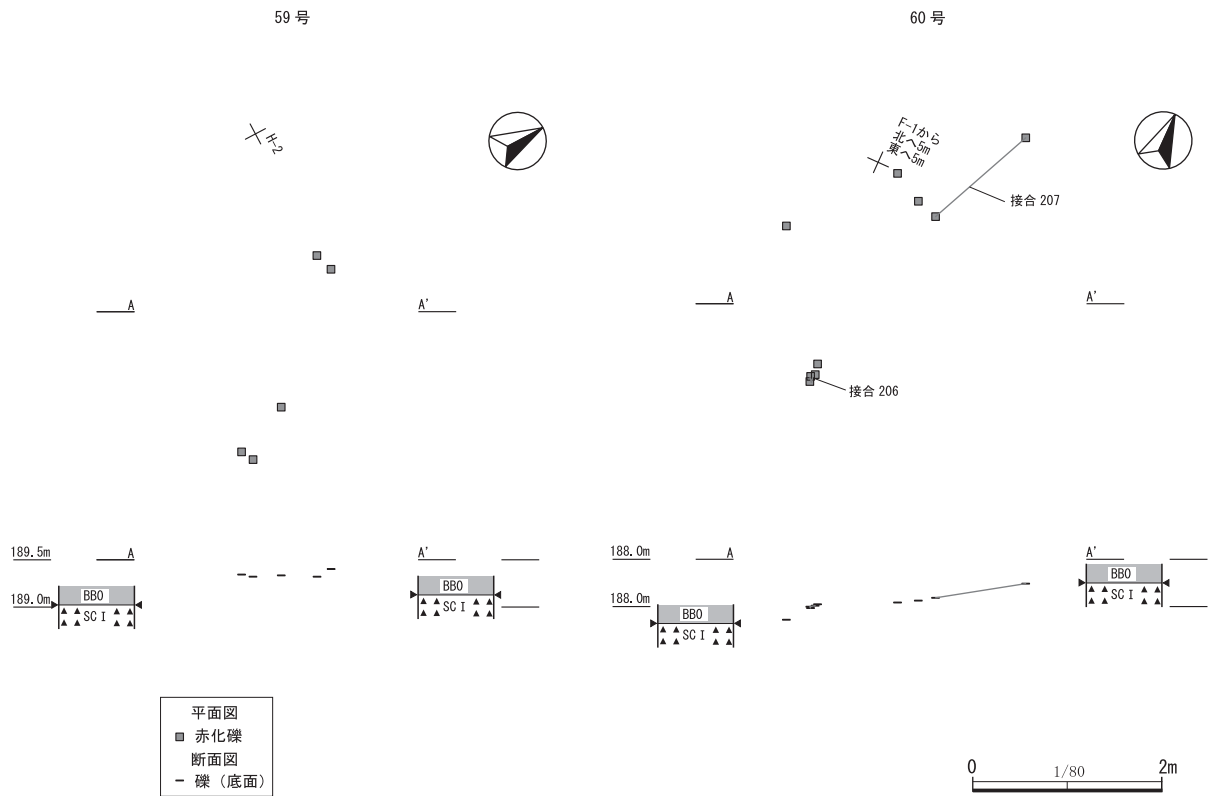
		削器	石刃	剥片	台石	計
黒曜石	和田土屋橋西			1		1
	和田土屋橋南	1				1
	和田芙蓉ライト			1(1)		1(1)
	箱根畑宿			1		1
	黒曜石計	1		3(1)		4(1)
ホルンフェルス			1			1
輝石安山岩					1	1
計		1	1	3(1)	1	6(1)

括弧内は全体数の内、微細剥離痕のあるものの点数。

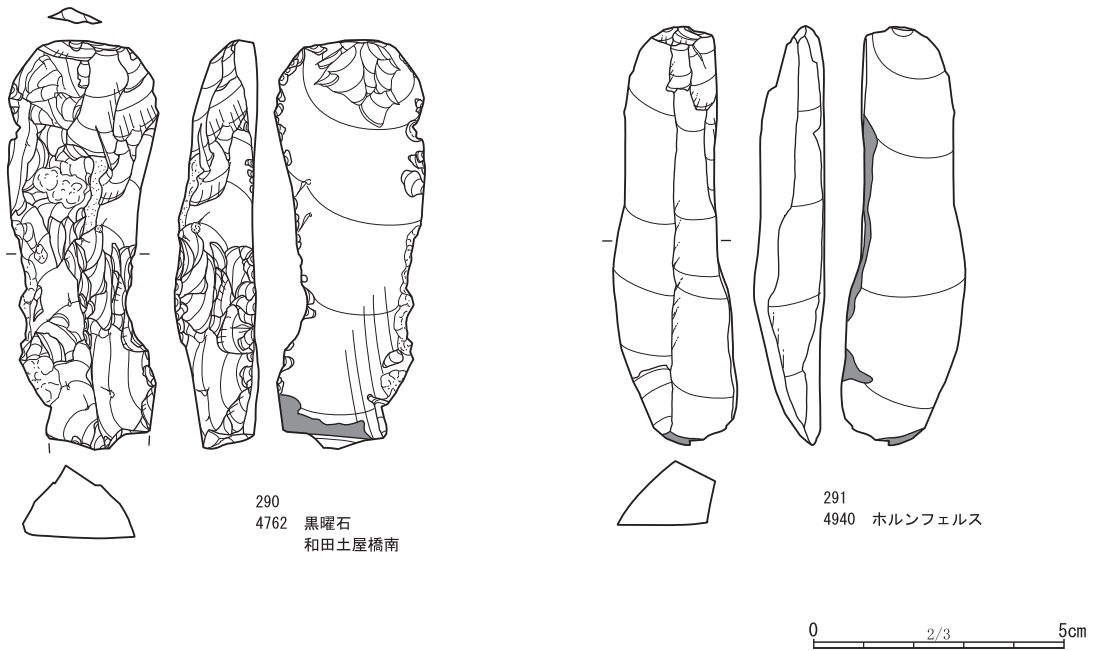
表88 第XVI文化層西尾根（西）礫群属性

礫群番号	構成礫数	赤化				形態		石材				
		完形		非完形		亜角	亜円	安山岩	輝石	安山岩	多孔質	玄武岩
		非赤化	赤化	赤化1	赤化2							
59号	5		5			5		4	1			
60号	9		1	6	2	8	1	5	1		3	
遺構外	9	1	3	4	1	5	4	8	1			

赤化1：全面が赤化 赤化2：礫の外皮のみ赤化



第210図 第XVI文化層59・60号礫群



第211図 第XVI文化層西尾根(西) 石器集中外

## 第5節 第XVII文化層

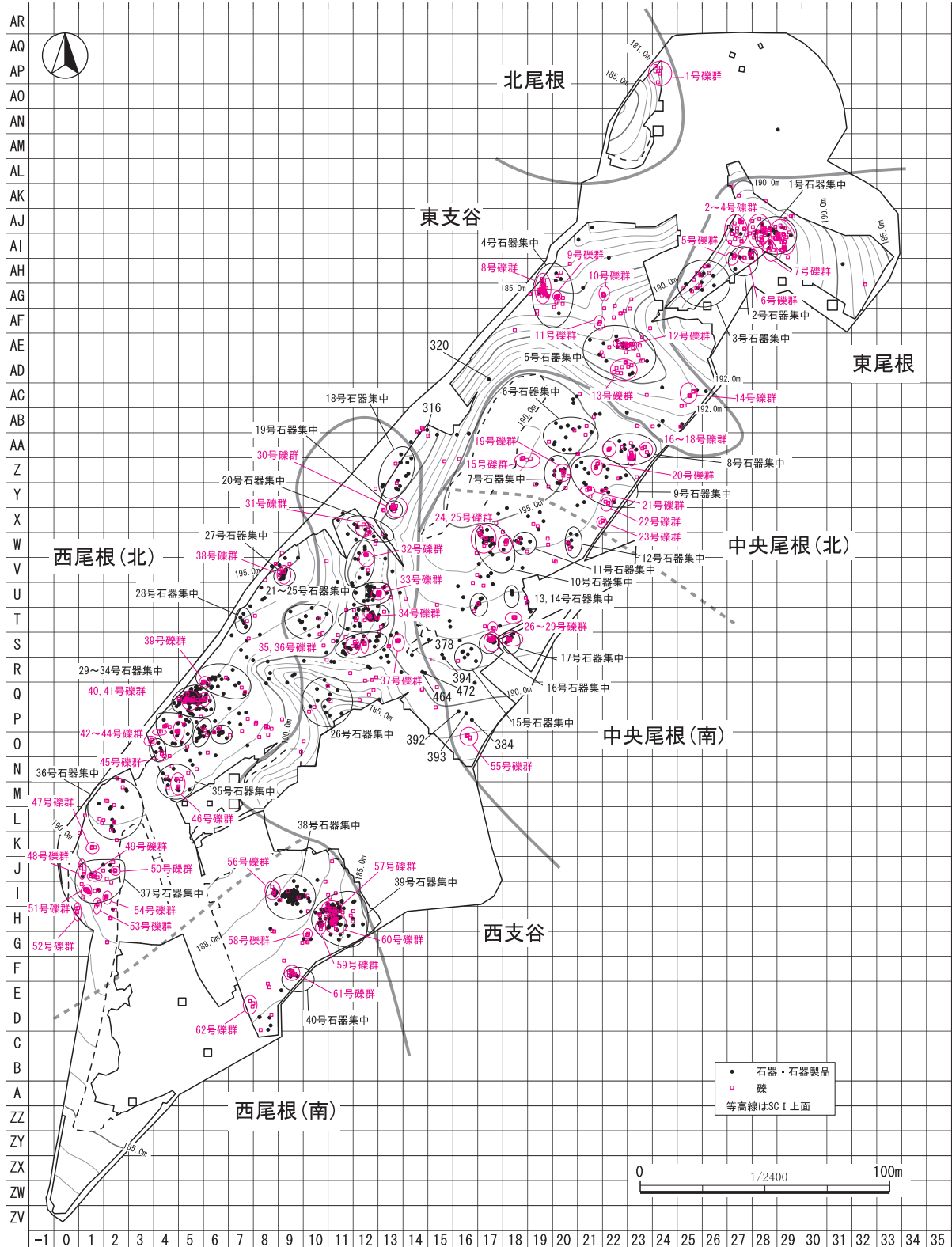
### 概要

休場層中位を中心として石器997点（石製品2点を含む）、礫910点が出土し、石器集中40か所、礫群62基を認定した（第212図、表89）。遺物分布から以下の8群に分けて整理する。

表89 第XVII文化層 石器組成

	石製 装飾品	尖頭 器	ナイフ 形石器	切出形 石器	搔 器	削 器	楔形 石器	基部 加工石 刃	二次 加工剥 片	石 刃	剥 片	碎 片	石 核	礫 器	敲 石	台 石	計	
黒曜石	高原山甘湯沢		1	1													2	
	和田鷹山		4	6(3)		1	4		4	2(1)	22(9)	2	2				47(13)	
	和田小深沢									1	3(1)		1				5(1)	
	和田土屋橋北									1							1	
	和田土屋橋西		1														1	
	和田土屋橋南											2						2
	和田芙蓉ライト		1															1
	和田高松沢													1				1
	諏訪星ヶ台		8	24(3)		1	8	4	6(1)	7(2)	91(15)	1	7					157(21)
	蓼科冷山		1	2			2	3	2(1)		18(1)	3	2					33(2)
	箱根畑宿		2	12			3	1	2		62(8)	1	4					87(8)
	箱根黒岩橋											1						1
	天城柏峠				1							17(3)	1	2				21(3)
	神津島恩馳島							1	1	1	23(4)	1	2					29(4)
産地不明			1		1	2				13(1)	9						26(1)	
黒曜石計		18	46(6)	1	3	19	9	15(2)	12(3)	252(42)	18	21					414(53)	
ガラス質黒色安山岩		6	5			1		2	8	41(1)		4					67(1)	
ホルンフェルス		2	25		1	6	2	5	71	272	1	15			1		401	
チャート							1	1	2	11(5)							15(5)	
硬質頁岩			2			1				2							5	
珪質頁岩									1(1)				2(1)				3(2)	
赤色頁岩													1				1	
頁岩															1		1	
珪質シルト岩			1					1		1							3	
シルト岩													1				1	
珪質岩		1															1	
赤玉石（碧玉）					1		1			4(1)							6(1)	
黄玉石（碧玉）						1											1	
硬質細粒凝灰岩			2(1)								1						3(1)	
軟質細粒凝灰岩											3(1)						3(1)	
緑色凝灰岩								1									1	
流紋岩	2		3						1(1)	7							13(1)	
デイサイト										1							1	
細粒安山岩										12		1					13	
角閃石安山岩															2		2	
輝石安山岩										5		1	11	15	2		34	
玄武岩										1							1	
多孔質玄武岩															2	2	4	
細粒砂岩															1		1	
中粒砂岩										1					1		2	
計	2	27	84(7)	1	5	28	11	2	25(2)	95(5)	614(50)	19	46(1)	11	23	4	997(65)	

括弧内は全体数の内、微細剥離痕のあるものの点数。



第212図 第XVII文化層遺物分布

- ①北尾根 1号礫群など。
- ②東尾根 1～3号石器集中、2～7号礫群など。
- ③東支谷 4・5号石器集中、8～14号礫群など。
- ④中央尾根（北） 6～9号石器集中、15～23号礫群など。
- ⑤中央尾根（南） 10～17号石器集中、24～29・55号礫群など。
- ⑥西支谷 18～26号石器集中、30～37号礫群など。
- ⑦西尾根（北） 27～37号石器集中、38～54号礫群など。
- ⑧西尾根（南） 38～40号石器集中、56～62号礫群など。

遺物は調査区のほぼ全域にわたって分布する。西尾根の30・38・39号石器集中は比較的遺物の密集度が高いが、一般的には遺物の分布密度が低く、まとまりのはっきりしない石器集中が多い。礫群も小規模なものが多く、大半が数点程度の礫から成るものである。

石器は約4割がホルンフェルス製で、次いで諏訪星ヶ台産黒曜石製、箱根畑宿産黒曜石製、ガラス質黒色安山岩製などが多い。一方で1～数点のみ出土した石材もあり、利用石材の種類が多くなっている。

1. 北尾根の遺物群

(1) 遺物の分布 (第213図)

礫6点が出土した(表90)。北尾根の東側斜面にあたるAP-24グリッドにまとまっており、礫群1基(1号礫群)を認定した。

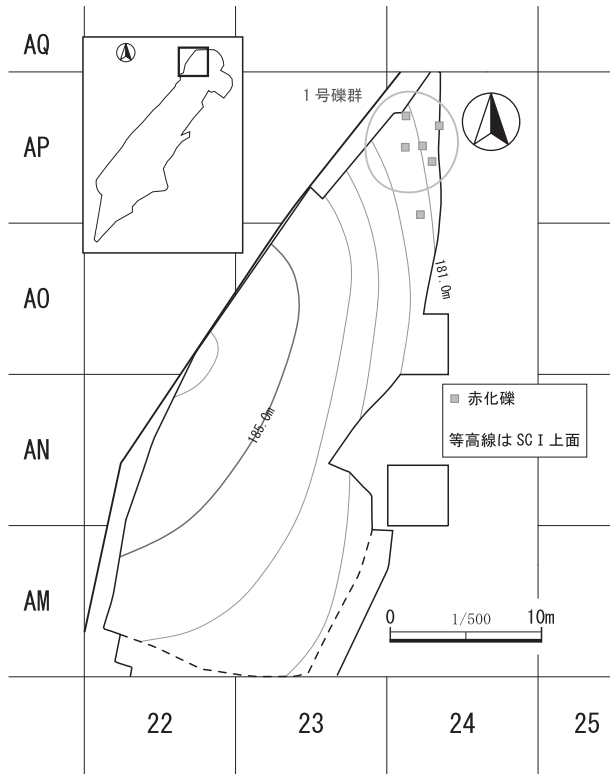
1号礫群(第214図、表90)

AP-24グリッド西部で出土した被熱礫5点から成る。出土層位は調査時の記録によると3点が休

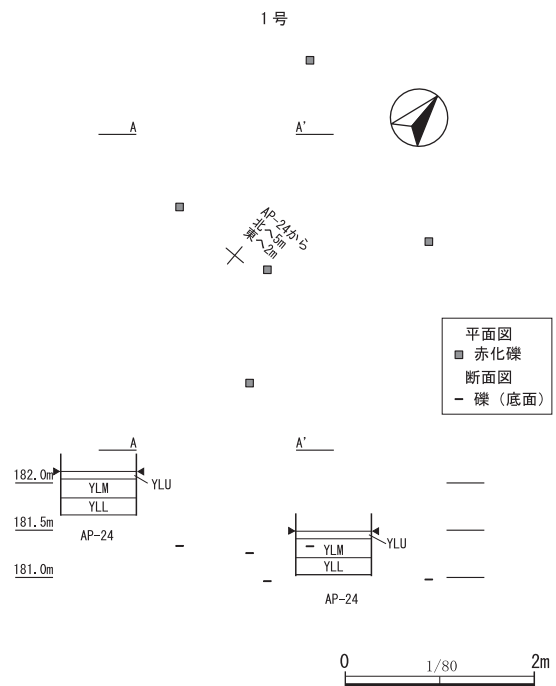
表90 第XVII文化層北尾根 礫群属性

礫群番号	構成礫数	赤化			形態		石材				
		完形		非完形	亜角	亜円	安山岩	輝石	玄武岩	玄武岩	多孔質
		赤化	赤化1	赤化2							
1号	5	2		3	2		3				2
遺構外	1		1		1				1		

赤化1：全面が赤化 赤化2：礫の外皮のみ赤化



第213図 第XVII文化層北尾根遺物分布



第214図 第XVII文化層1号礫群

場層下位、2点が休場層中位である。礫は3.5m×3mのやや広い範囲に分布し、平均で長径8.6cm・重量0.20kgの大きさである。

2. 東尾根の遺物群

(1) 遺物の分布 (第215・216図)

石器44点、礫143点が出土した (表91・95)。AI-27～29グリッド周辺に1・2号石器集中、2～7号礫群がまとまり、その西側AH-25グリッド周辺に3号石器集中が分布する。これらの資料は第XVII文化層に含めてはいるが、尾根上は休場層が30～40cm程度の厚さしかなく、遺物の出土層位には幅があるため、第XVIII文化層に並行する資料が含まれている可能性もある。

1号石器集中 (第217・218図、表92)

AJ-28グリッド南東部を中心に径12.5mの範囲から出土した石器20点から成る。出土層位は上下に分散しており、休場層下位から上位にかけて出土した。3・4・7号礫群と重複する。石器は黒曜石 (和田鷹山産8点、天城柏峠産、神津島恩馳島産各3点など) 製を主体に、輝石安山岩製2点、ガラス質黒色安山岩製1点で、搔器1点、二次加工剥片2点、礫器、敲石各1点が含まれる。

表91 第XVII文化層東尾根 石器組成

		搔器	二次加工剥片	剥片	砕片	石核	礫器	敲石	計
黒曜石	和田鷹山	1	2	7(1)	2				12(1)
	諏訪星ヶ台			4					4
	箱根畑宿		1						1
	天城柏峠			4(1)		2			6(1)
	神津島恩馳島			7					7
	産地不明			1	3				4
	黒曜石計	1	3	23(2)	5	2			34(2)
ガラス質黒色安山岩				2(1)					2(1)
ホルンフェルス				1					1
輝石安山岩							2	5	7
計		1	3	26(3)	5	2	2	5	44(3)

括弧内は全体数の内、微細剥離痕のあるものの点数。

表93 第XVII文化層  
2号石器集中 石器組成

		剥片	計
黒曜石	和田鷹山	3(1)	3(1)
	諏訪星ヶ台	2	2
	神津島恩馳島	4	4
	産地不明	1	1
計		10(1)	10(1)

括弧内は全体数の内、微細剥離痕のあるものの点数。

表92 第XVII文化層1号石器集中 石器組成

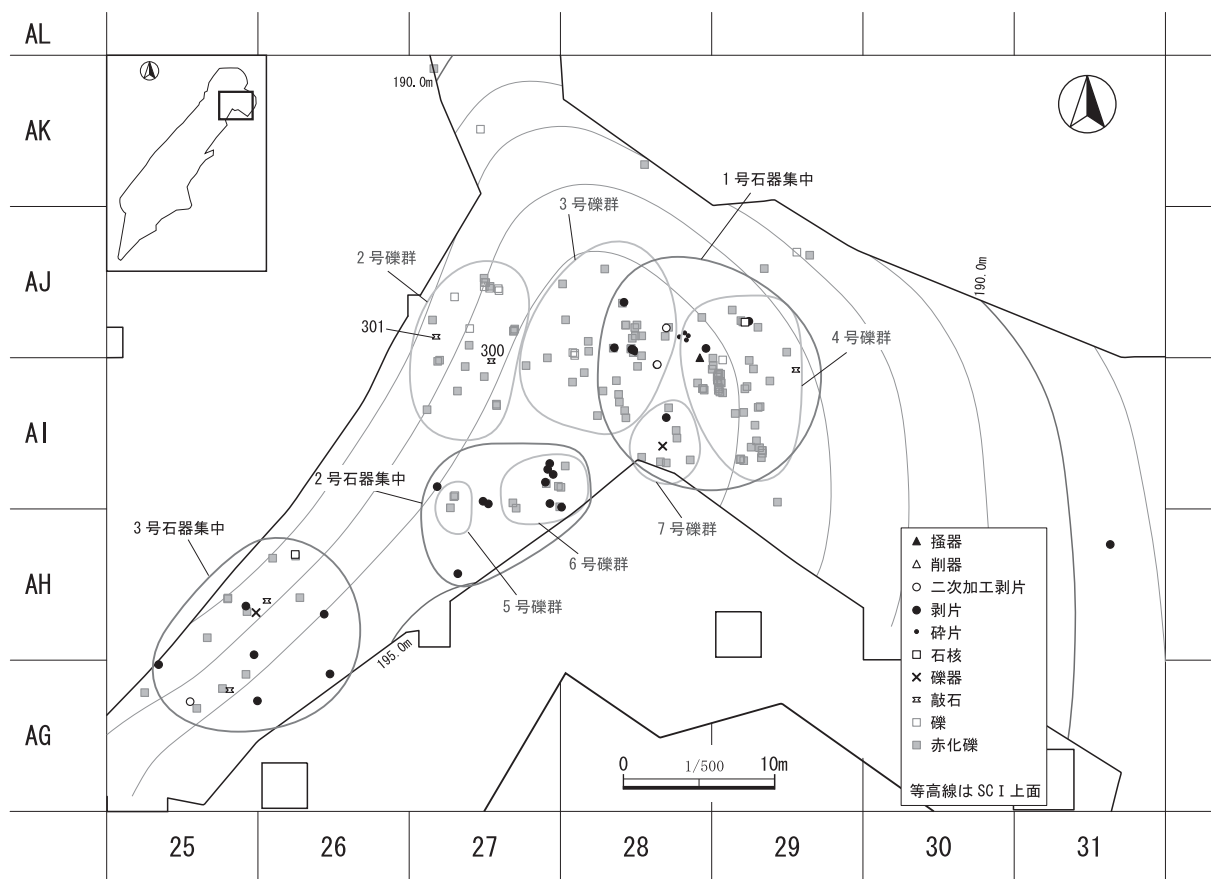
		搔器	二次加工剥片	剥片	砕片	石核	礫器	敲石	計
黒曜石	和田鷹山	1	2	3	2				8
	天城柏峠			2(1)		1			3(1)
	神津島恩馳島			3					3
	産地不明				3				3
	黒曜石計	1	2	8(1)	5	1			17(1)
ガラス質黒色安山岩				1					1
輝石安山岩							1	1	2
計		1	2	9(1)	5	1	1	1	20(1)

括弧内は全体数の内、微細剥離痕のあるものの点数。

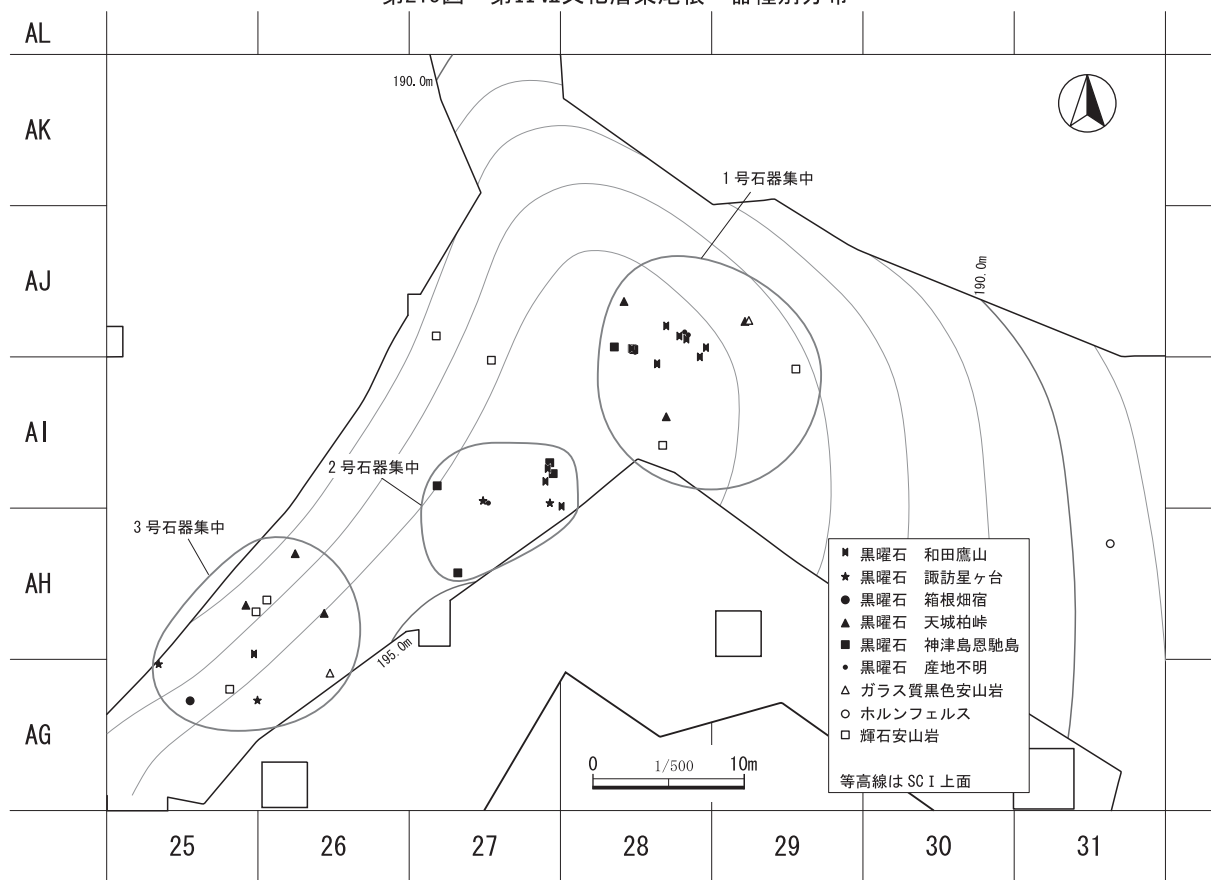
表94 第XVII文化層3号石器集中 石器組成

		二次加工剥片	剥片	石核	礫器	敲石	計
黒曜石	和田鷹山		1				1
	諏訪星ヶ台		2				2
	箱根畑宿	1					1
	天城柏峠		2	1			3
	黒曜石計	1	5	1			7
ガラス質黒色安山岩			1(1)				1(1)
輝石安山岩					1	2	3
計		1	6(1)	1	1	2	11(1)

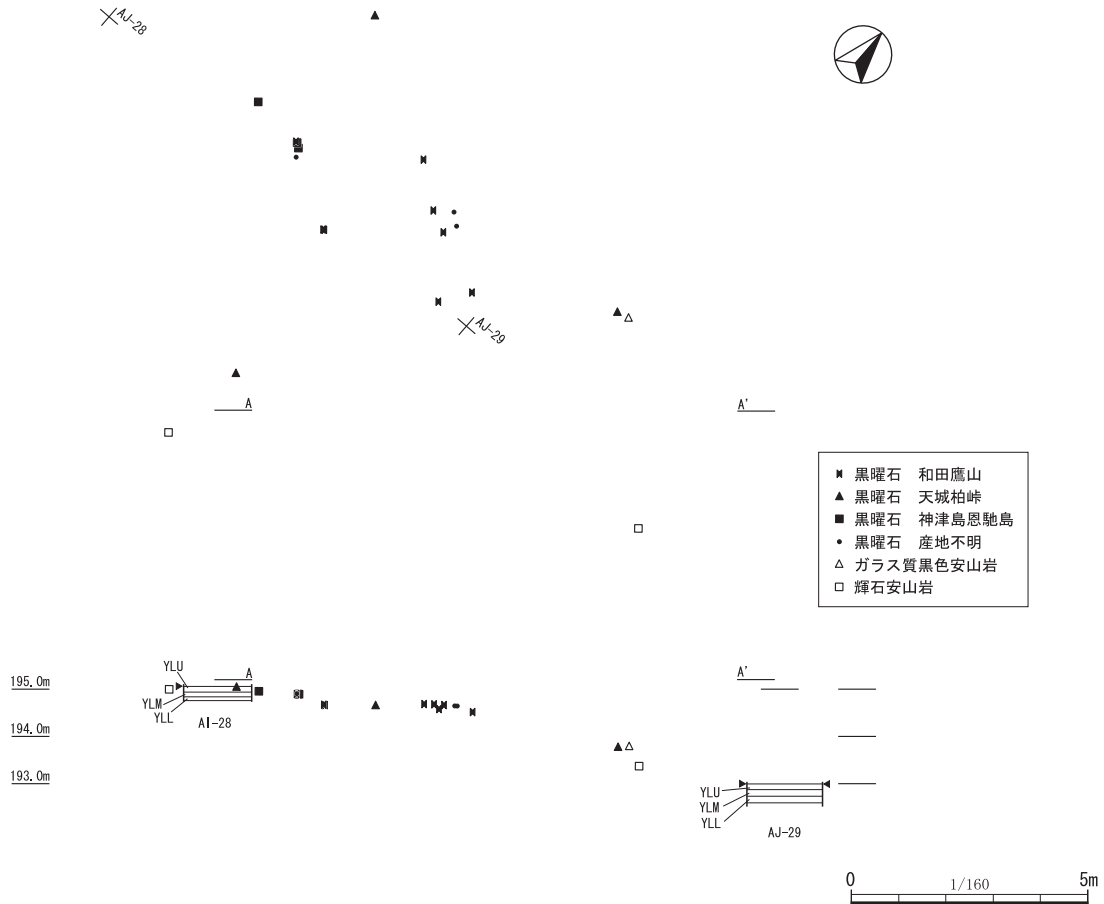
括弧内は全体数の内、微細剥離痕のあるものの点数。



第215図 第XVII文化層東尾根 器種別分布



第216図 第XVII文化層東尾根 石材別分布



第217図 第XVII文化層1号石器集中 石材別分布

2号石器集中 (第219・220図、表93)

AI-27グリッド南側を中心に径10mの範囲から出土した石器10点から成る。出土層位は上下に分散しており、休場層下位から上位にかけて出土した。5・6号礫群と重複する。石器は全て黒曜石（神津島恩馳島産4点、和田鷹山産3点、諏訪星ヶ台産2点など）製の剥片である。

3号石器集中 (第221・222図、表94)

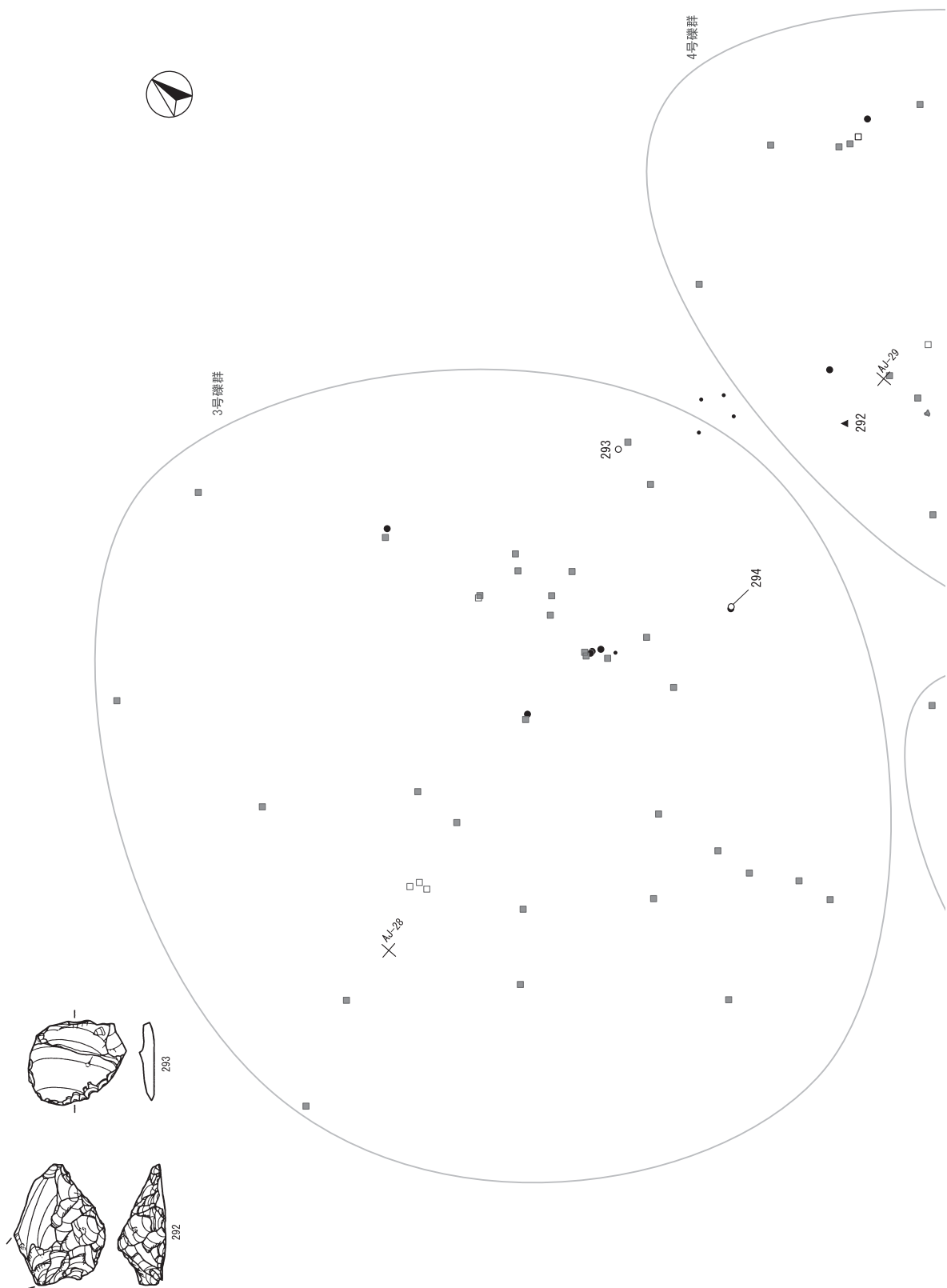
AG・AH-25・26グリッドにわたり径12mの範囲から出土した石器11点から成る。出土層位は調査時の記録によると主に休場層中位で、3点が休場層上位、1点が休場層下位である。石器は黒曜石（天城柏峠産3点、諏訪星ヶ台産2点、和田鷹山産、箱根畑宿産各1点）製を主体に、輝石安山岩製3点、ガラス質黒色安山岩製1点で、二次加工剥片、礫器各1点、敲石2点が含まれる。

また、石器集中の範囲からは礫11点（そのうち10点が被熱礫で、1点は調査時に回収されなかったため不明）が分散して出土した。

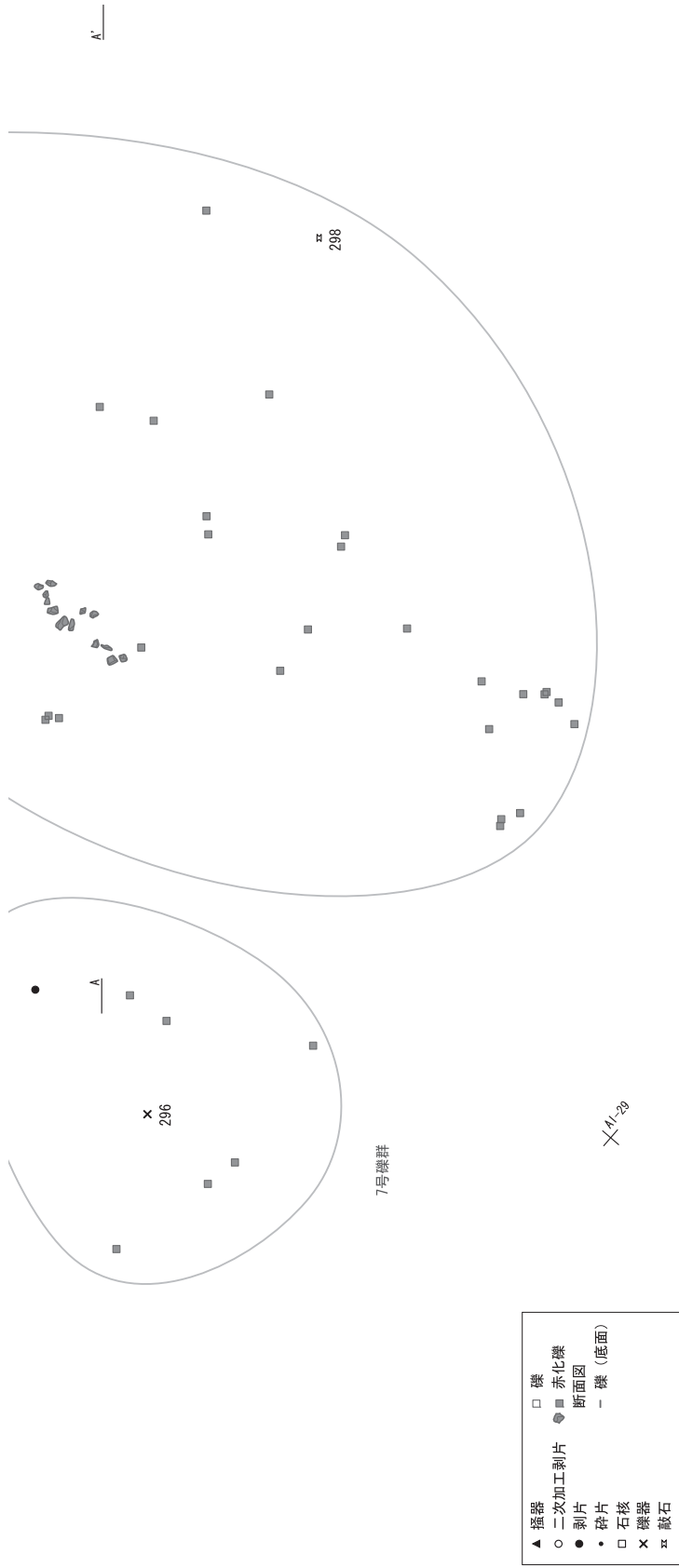
2号礫群 (第223図、表95)

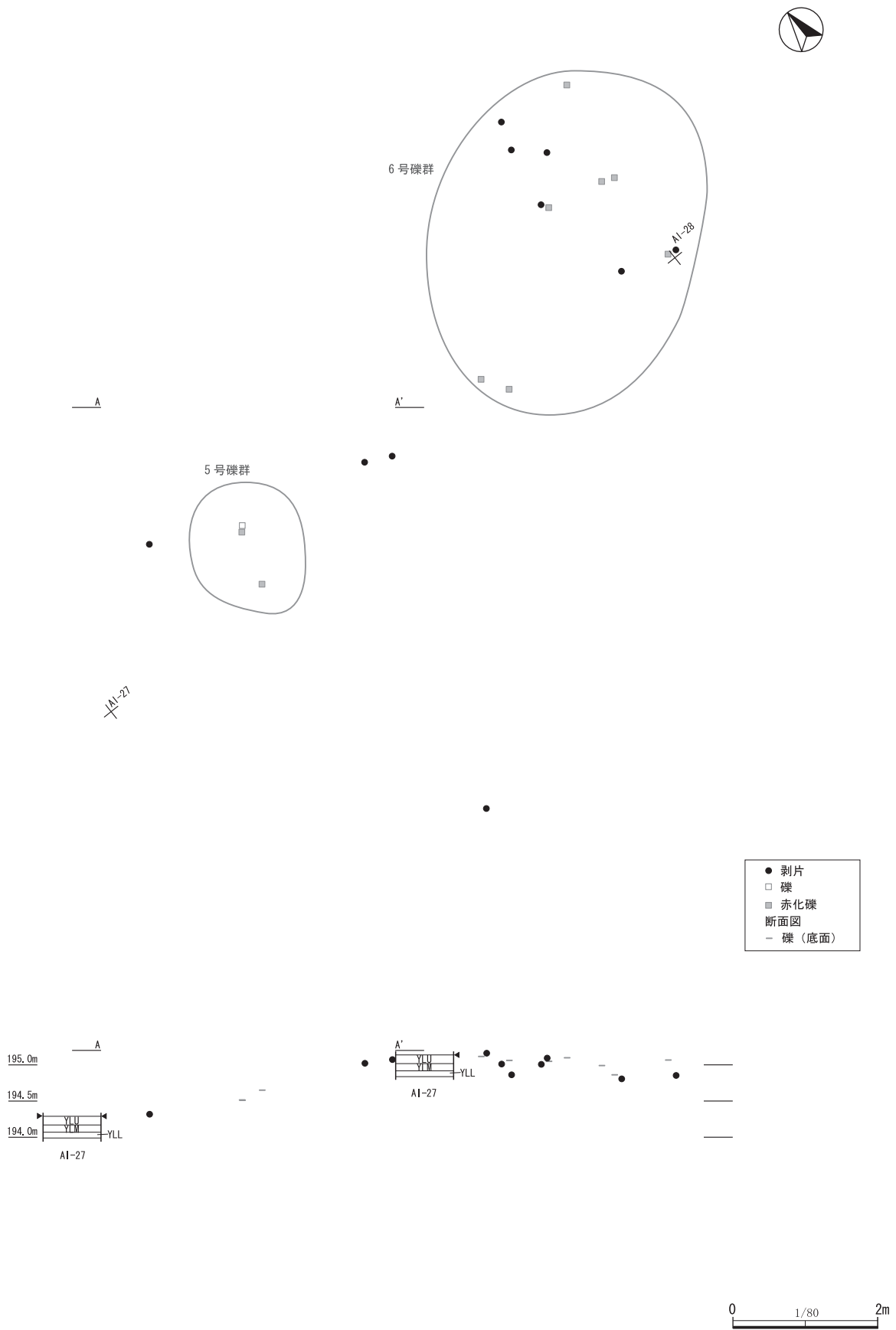
AI・AJ-27グリッドにかけて出土した礫23点から成り、15点に被熱の痕跡が確認できた（但し、調査時に回収されなかった5点は出土位置以外の情報が不明である）。出土層位は調査時の記録によると主に休場層下位であり、休場層直下黒色帯から休場層上位にかけて出土した。長径22.0cm・重量1.5kg、長径14.3cm・重量1.8kg、長径16.7cm・重量1.2kgなどの大型礫の他、長径8～10cmの礫が多く、平均で長径10.9cm・重量0.50kgである。



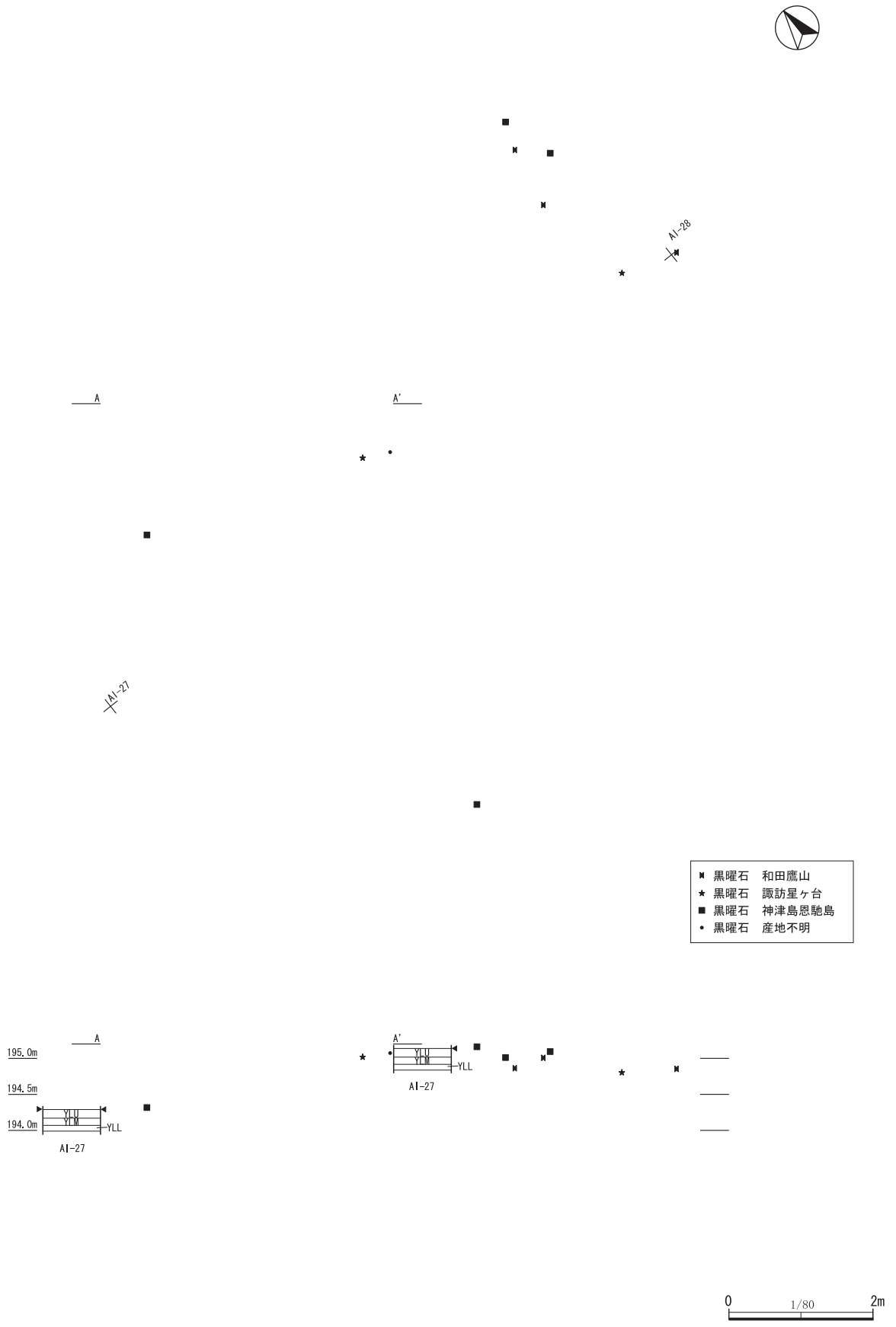


第218図 第XVII文化層1号石器集中 器種別分布、3・4・7号礫群

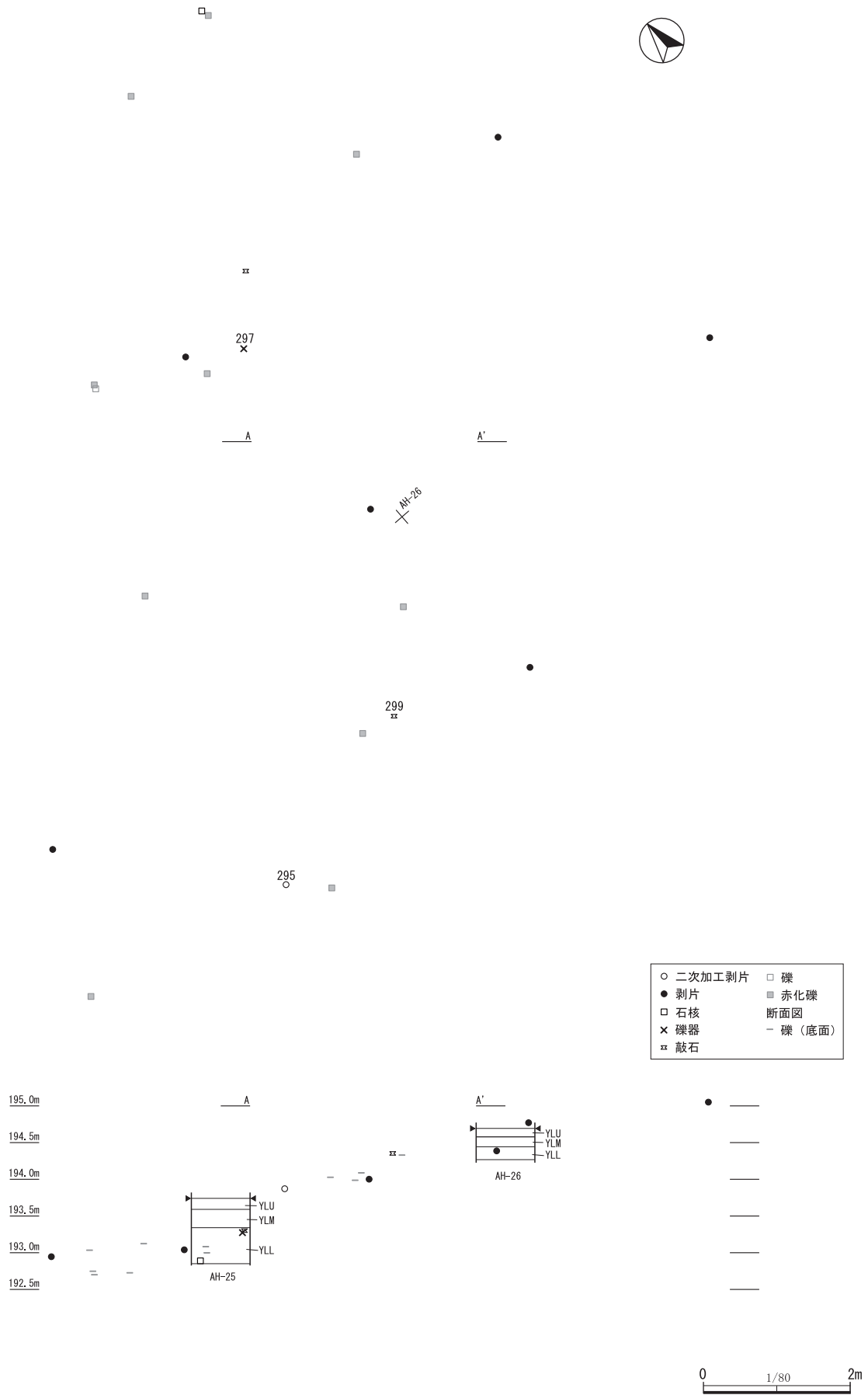




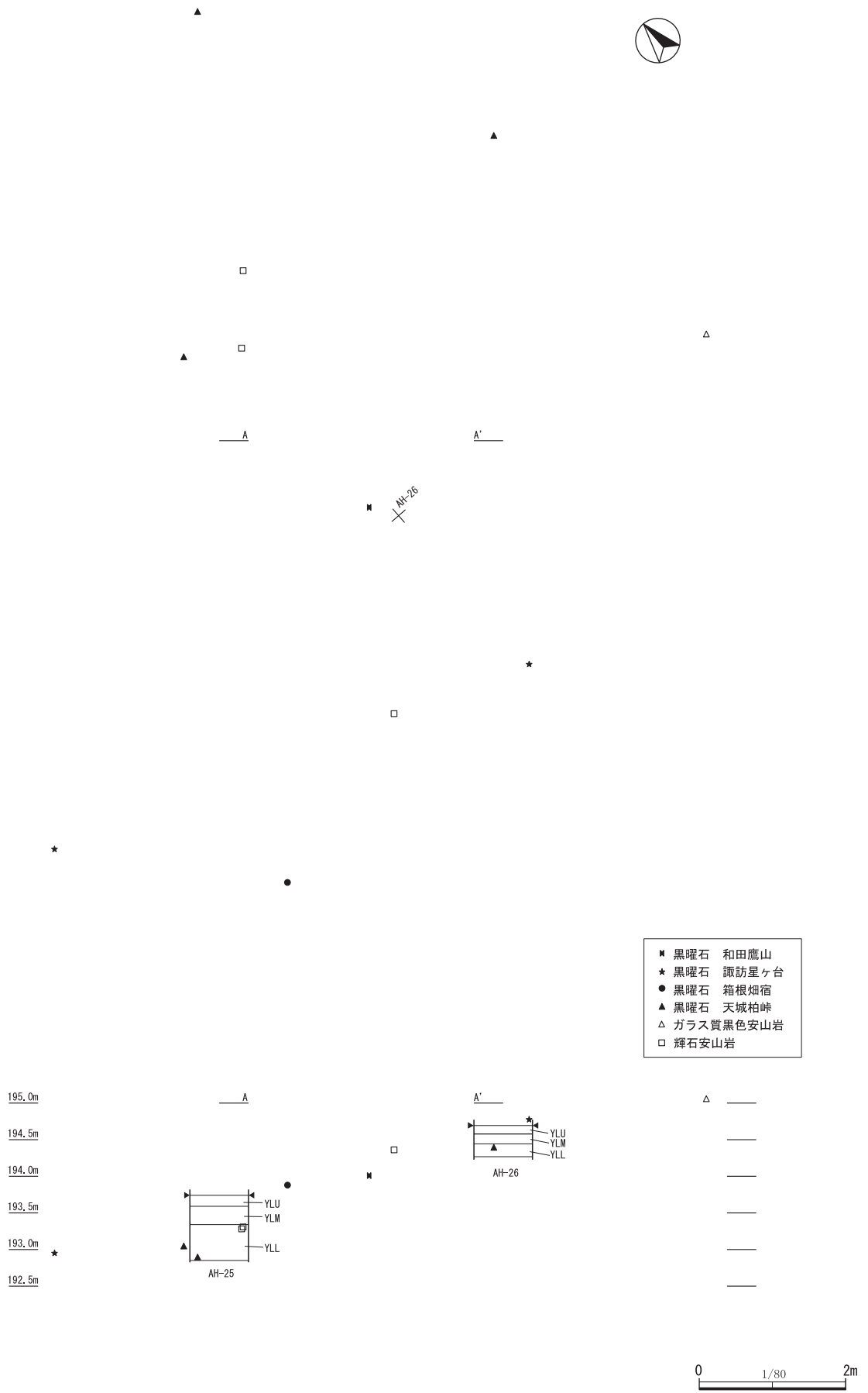
第219図 第XVII文化層2号石器集中 器種別分布、5・6号礫群



第220図 第XVII文化層2号石器集中 石材別分布



第221図 第XVII文化層3号石器集中 器種別分布



第222図 第XVII文化層3号石器集中 石材別分布

3号礫群 (第218図、表95)

AI・AJ-28、AI-27グリッドにかけて径10mの範囲から出土した礫35点から成り、31点に被熱の痕跡が確認できた。出土層位は調査時の記録によると主に休場層下位から中位である。礫は平均で長径8.2cm・重量0.21kgの大きさである。

4号礫群 (第218図、表95)

AI・AJ-28・29グリッドにかけて出土した礫48点から成り、47点に被熱の痕跡が確認できた (但し、調査時に回収されなかった1点は出土位置以外の情報が不明である)。出土層位は調査時の記録によると主に休場層中位から上位であり、4点が休場層下位から出土した。礫は10m×7mの範囲に分布する。長径18.1cm・重量1.7kgが最大で、長径7～10cmの礫が多く、平均では長径9.2cm・重量0.29kgである。

5号礫群 (第219図、表95)

AI-27グリッド南西部で出土した礫3点から成り、2点に被熱の痕跡が確認できた。調査時の記録によると2点が休場層下位、1点が休場層中位から出土した。礫の大きさは平均で長径7.3cm・重量0.22kgである。

6号礫群 (第219図、表95)

AI-27グリッド南東付近で出土した被熱礫7点から成る。調査時の記録によると休場層上位から5点、休場層中位・下位から各1点が出土した。礫の大きさは平均で長径7.8cm・重量0.14kgである。

7号礫群 (第218図、表95)

AI-28グリッド南東部で出土した被熱礫7点から成る。出土層位は調査時の記録によると主に休場層中位で、2点が休場層下位から出土した。礫は径4mの範囲に分布し、長径15.3cm・重量1.1kgのものが最大で、平均で長径9.1cm・重量0.24kgである。

(2) 1～3号石器集中の出土石器 (第224図)

搔器 (292)

1点出土した。和田鷹山産黒曜石製で、厚手のポジ-ポジ剥片を素材としている。

二次加工剥片 (293～295)

3点出土した。293・294は和田鷹山産黒曜石製で、293は左側縁、294は右側縁腹面に二次加工が認められる。295は箱根畑宿産黒曜石製の厚手剥片の末端に部分的な急斜度加工が認められる。

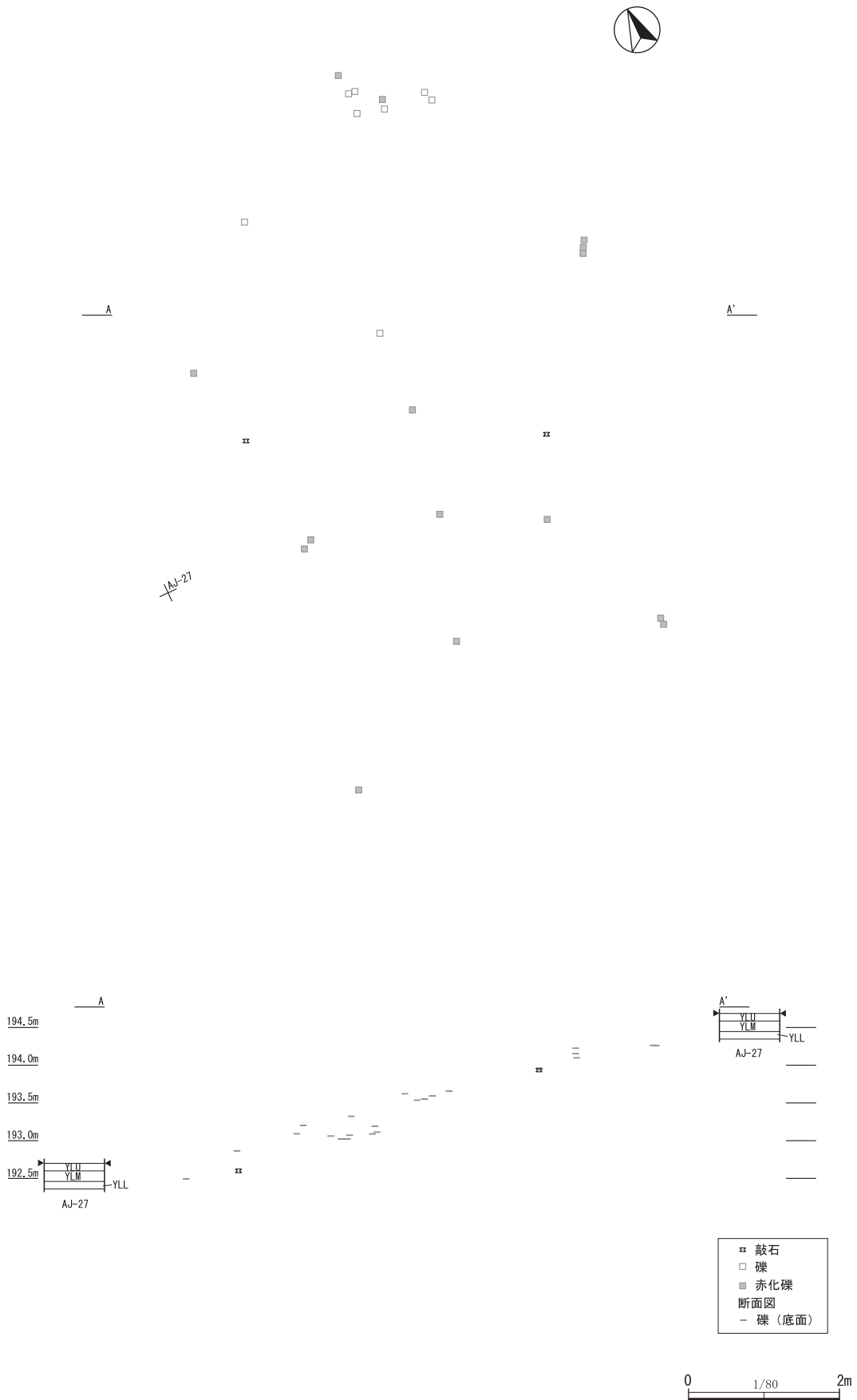
剥片類・石核

剥片25点、碎片5点、石核2点が出土した。ガラス質黒色安山岩製の剥片2点以外は黒曜石製で、和田鷹山産、諏訪星ヶ台産、箱根畑宿産、天城柏峠産、神津島恩馳島産のものを含む。黒曜石製の剥片類

表95 第XVII文化層東尾根 礫群属性

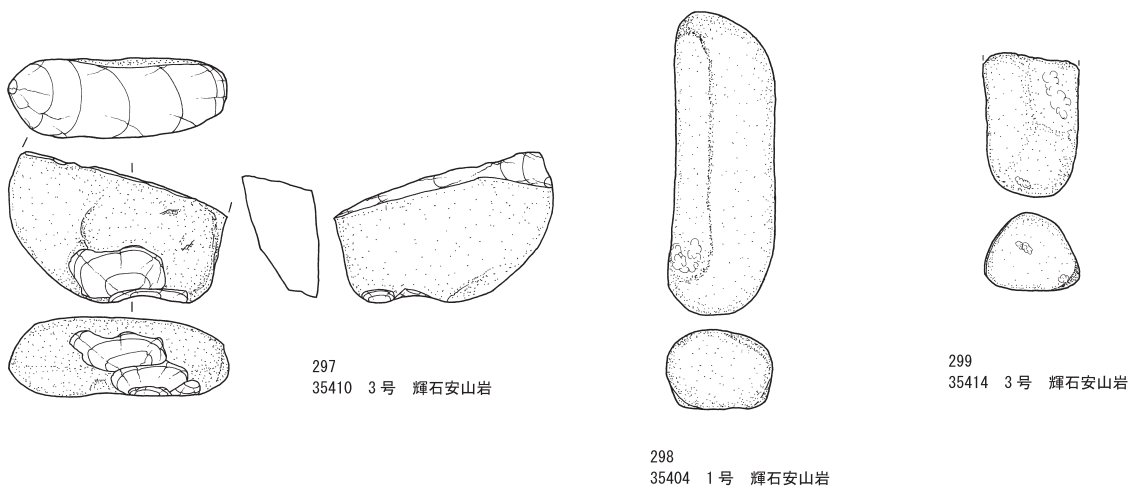
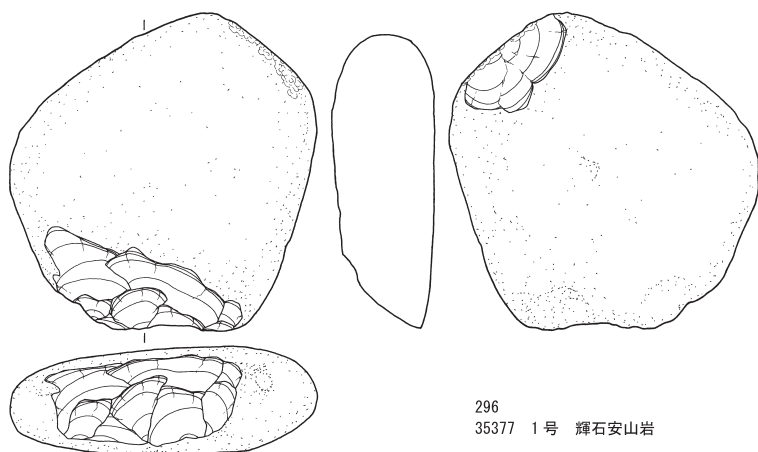
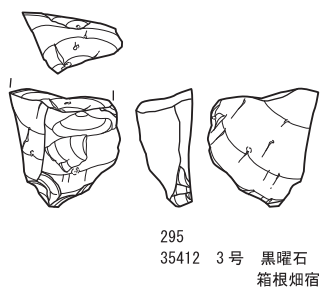
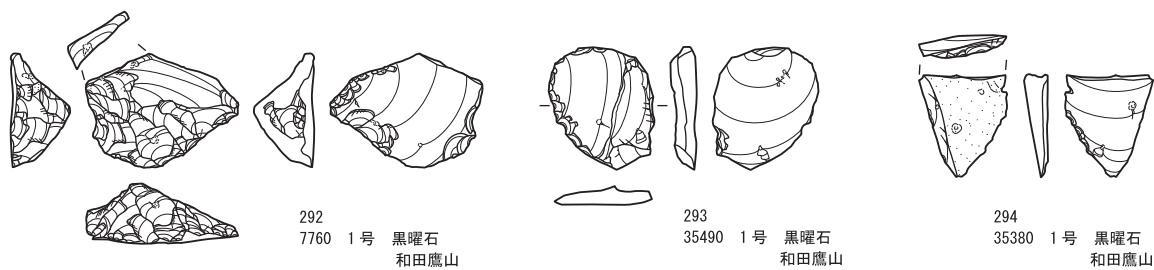
礫群 番号	構成 礫数	赤化								形態				石材								
		完形			非完形					不明	垂角	垂円	円	不明	安山岩	輝石	安山岩	多孔質	玄武岩	玄武岩	多孔質	不明
		非赤化	赤化	付着物	非赤化	赤化1	赤化2	付着物1	付着物2													
2号	23		5	1	3	6	3			5	14	4		5	5	1	3	9	5			
3号	35	1	13		3	9	8	1			23	10	2		15	2	6	12				
4号	48		19	1		12	14		1	1	25	20	2	1	11	7	15	14	1			
5号	3	1	2								1	1	1		2			1				
6号	7		3			1	3				4	3			3	1	1	2				
7号	7					3	4				7				4	2		1				
遺構外	20	2	9			6	2			1	7	9	3	1	10	1	3	5	1			

赤化1：全面が赤化 赤化2：礫の外皮のみ赤化 付着物1：全面に付着物 付着物2：礫の外皮のみに付着物



第223図 第XVII文化層2号礫群





第224図 第XVII文化層東尾根 石器集中

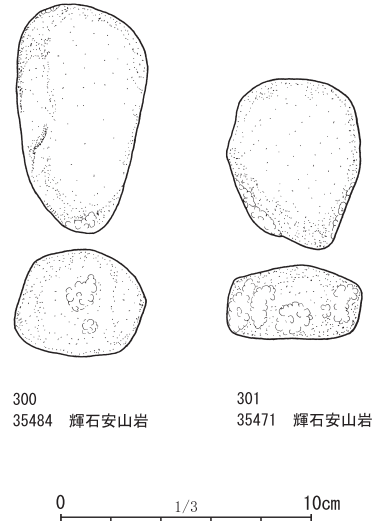
は搔器、二次加工剥片と同様に小型で、大きさは長さ・幅2.5cm以内の範囲に収まるものである。

礫器 (296・297)

2点出土した。ともに輝石安山岩の垂円礫を素材とし、一端に刃部を設けている。296は刃部と反対側に敲打痕が認められる。

敲石 (298・299)

3点出土し、そのうち2点を図示した。298・299ともに輝石安山岩の細長い礫を利用しており、298では下方の側面に、299では末端部と側面とに敲打痕が認められる。



(3) 石器集中外の出土石器 (第225図)

敲石2点、剥片1点が出土した。敲石2点を図示した(300・301)。300は輝石安山岩の垂円礫を素材とし長軸側の端部に敲打痕が認められる。301は輝石安山岩の垂角礫を素材とし長軸側の端部及び側面に敲打痕が認められる。

3. 東支谷の遺物群

第225図 第XVII文化層東尾根 石器集中外

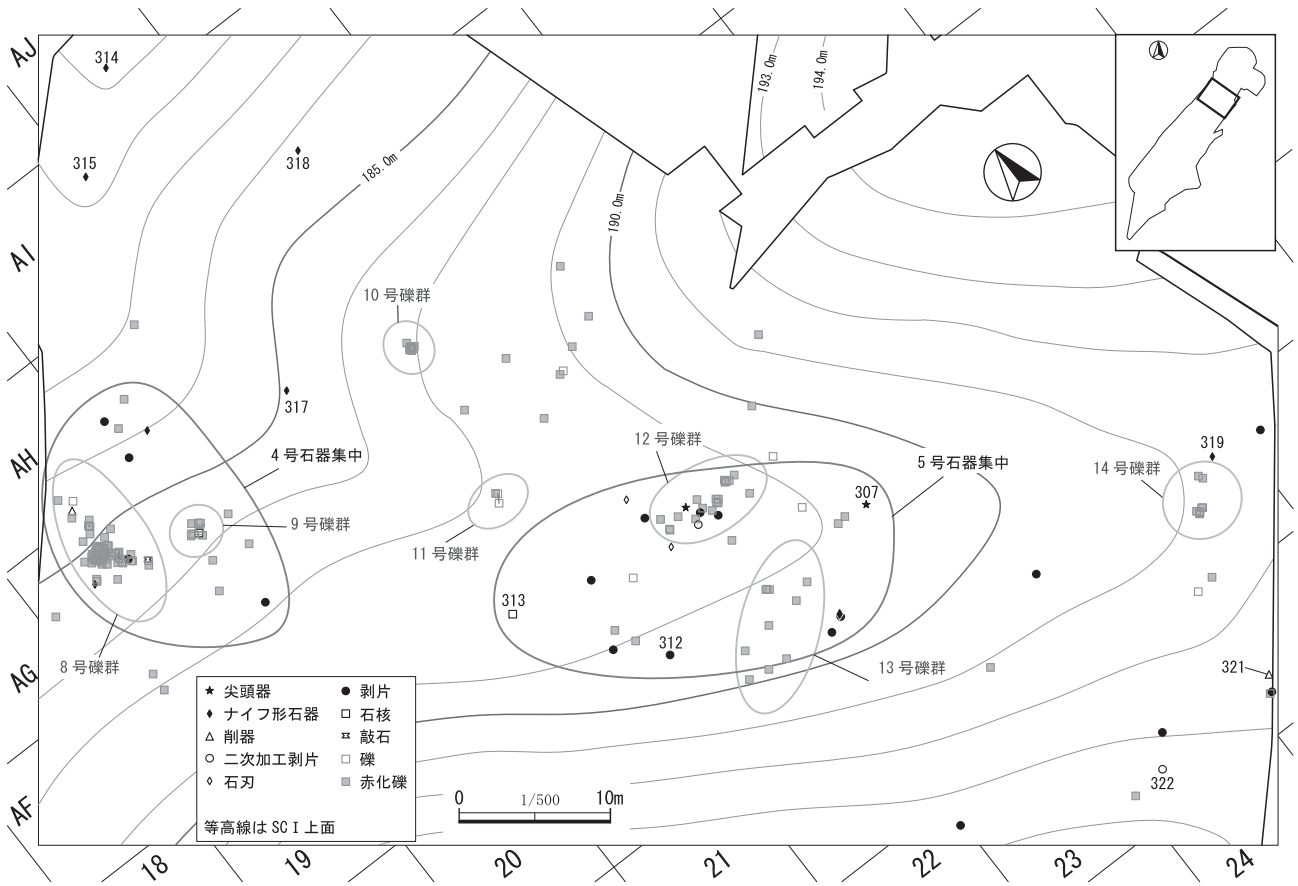
(1) 遺物の分布 (第226・227図)

石器45点、礫170点が出土した(表96・99)。東尾根と中央尾根とを分かち谷筋沿いに4・5号石器集中、8～14号礫群が分布しており、特にAG-19・20グリッド周辺の4号石器集中、8・9号礫群と、AD・AE-22グリッド周辺の5号石器集中、12・13号礫群との2つの密集域が認められる。

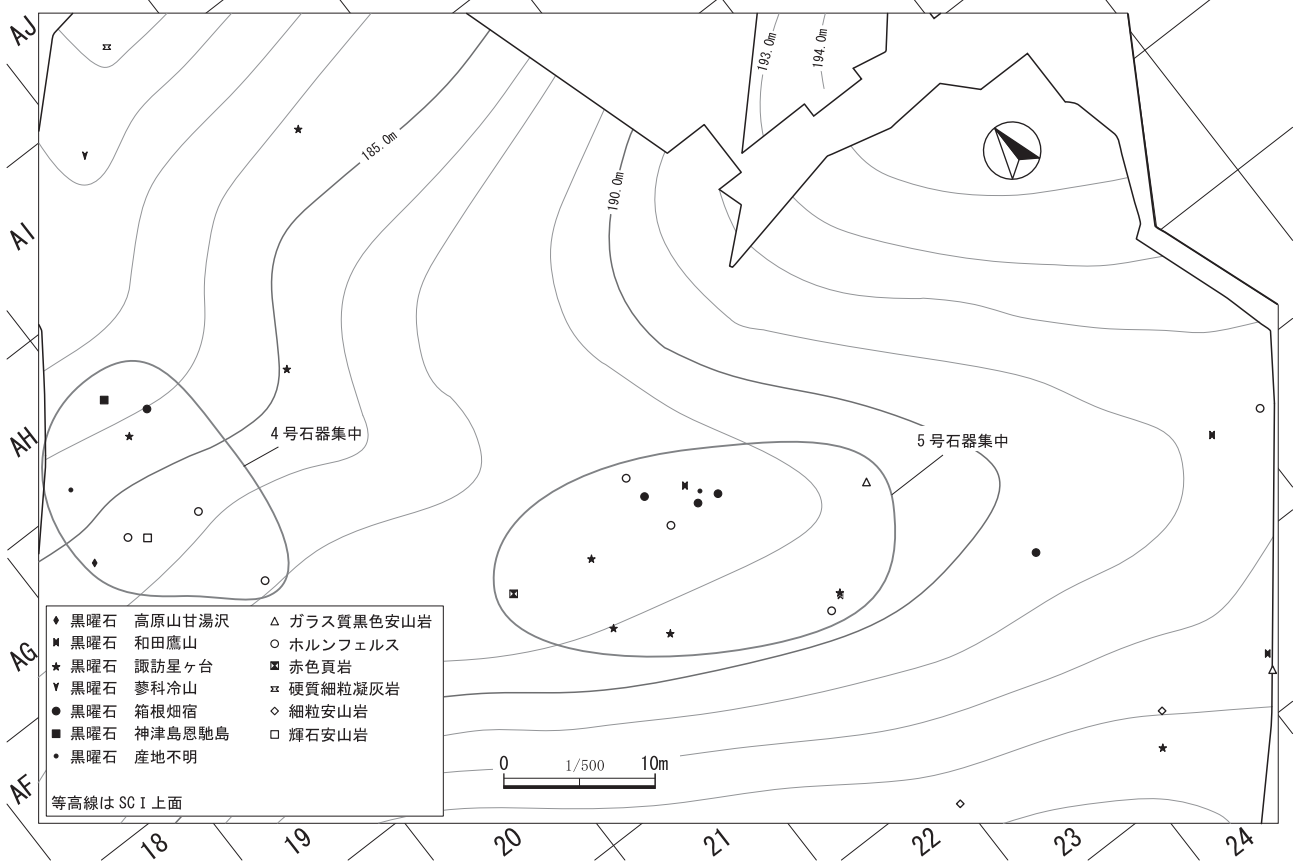
表96 第XVII文化層東支谷 石器組成

	尖頭器	ナイフ形石器	削器	二次加工剥片	石刃	剥片	碎片	石核	敲石	計
高原山甘湯沢		1								1
和田鷹山	1	1	1			1(1)				4(1)
諏訪星ヶ台		4		1		5(2)				10(2)
蓼科冷山		1								1
箱根畑宿		2		1		3(1)				6(1)
神津島恩馳島						4(1)	1			5(1)
産地不明			1			1	1			3
黒曜石計	1	9	2	2		14(5)	2			30(5)
ガラス質黒色安山岩	1					1				2
ホルンフェルス					2	5		1		8
赤色頁岩								1		1
硬質細粒凝灰岩		1								1
細粒安山岩						2				2
輝石安山岩									1	1
計	2	10	2	2	2	22(5)	2	2	1	45(5)

括弧内は全体数の内、微細剥離痕のあるものの点数。



第226図 第XVII文化層東支谷 器種別分布



第227図 第XVII文化層東支谷 石材別分布

4号石器集中（第228～230図、表97）

AG-19グリッド周辺で、南北16mにわたる範囲から出土した石器9点から成る。出土層位は主に休場層中位で、1点が休場層下位、2点が休場層上位から出土した。8・9号礫群と重複して分布する石器群をまとめたもので、石器の分布密度は高くない。石器は高原山甘湯沢産を含む各種産地の黒曜石製5点、ホルンフェルス製3点、輝石安山岩製1点で、ナイフ形石器2点、削器、敲石各1点が含まれる。

5号石器集中（第231～233図、表98）

AD-23・AE-22グリッド周辺で、東西25mにわたる範囲から出土した石器15点から成る。出土層位は主に休場層中位で、1点が休場層下位、3点が休場層上位から出土した他、富士黒土層出土の2点も含めた。12・13号礫群と重複して分布する石器群をまとめたもので、石器の分布密度は高くない。石器は諏訪星ヶ台産、箱根畑宿産などの黒曜石製10点、ホルンフェルス製3点、ガラス質黒色安山岩製、赤色頁岩製各1点で、尖頭器2点、ナイフ形石器、二次加工剥片各1点が含まれる。

8号礫群（第228図、表99）

AG-19グリッド東側を中心に出土した礫71点から成り、うち70点に被熱の痕跡が認められた。出土層位は調査時の記録によると主に休場層中位で、9点が休場層下位、2点が休場層上位から出土した。礫は7.5m×3.5mの範囲に分布し、特に中央の径3mの範囲に密集する。大きさは平均で長径9.3cm・重量0.19kgである。

表97 第XVII文化層4号石器集中 石器組成

	ナイフ形石器	削器	剥片	石核	敲石	計
黒曜石	高原山甘湯沢	1				1
	諏訪星ヶ台		1(1)			1(1)
	箱根畑宿	1				1
	神津島恩馳島			1		1
	産地不明		1			1
	黒曜石計	2	1	2(1)		5(1)
ホルンフェルス			2	1		3
輝石安山岩					1	1
計	2	1	4(1)	1	1	9(1)

括弧内は全体数の内、微細剥離痕のあるものの点数。

表98 第XVII文化層5号石器集中 石器組成

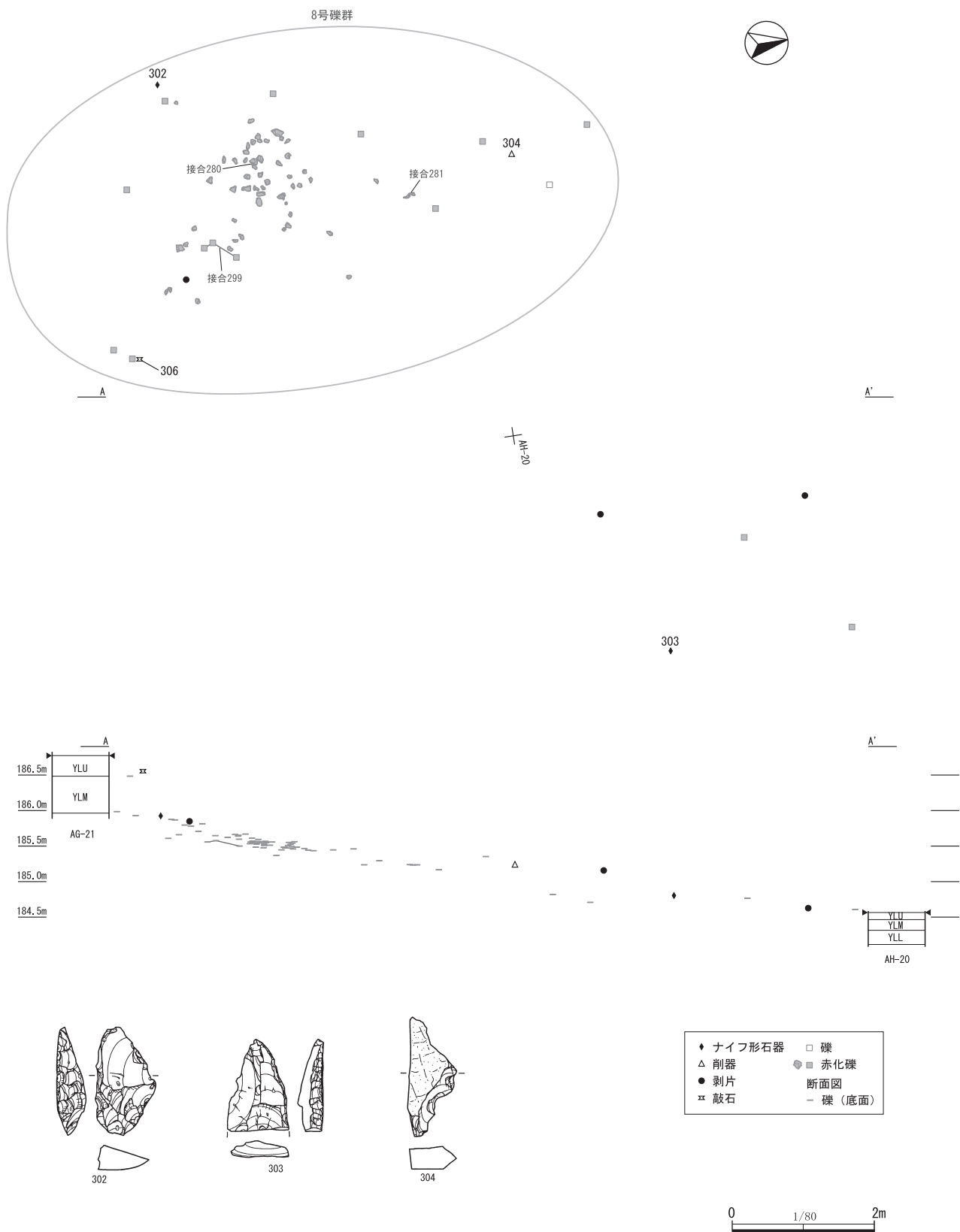
	尖頭器	ナイフ形石器	二次加工剥片	石刃	剥片	石核	計
黒曜石	和田鷹山	1			1(1)		2(1)
	諏訪星ヶ台		1		3(1)		4(1)
	箱根畑宿			1	2(1)		3(1)
	産地不明				1		1
	黒曜石計	1	1	1		7(3)	10(3)
	ガラス質黒色安山岩	1					1
ホルンフェルス				2	1		3
赤色頁岩						1	1
計	2	1	1	2	8(3)	1	15(3)

括弧内は全体数の内、微細剥離痕のあるものの点数。

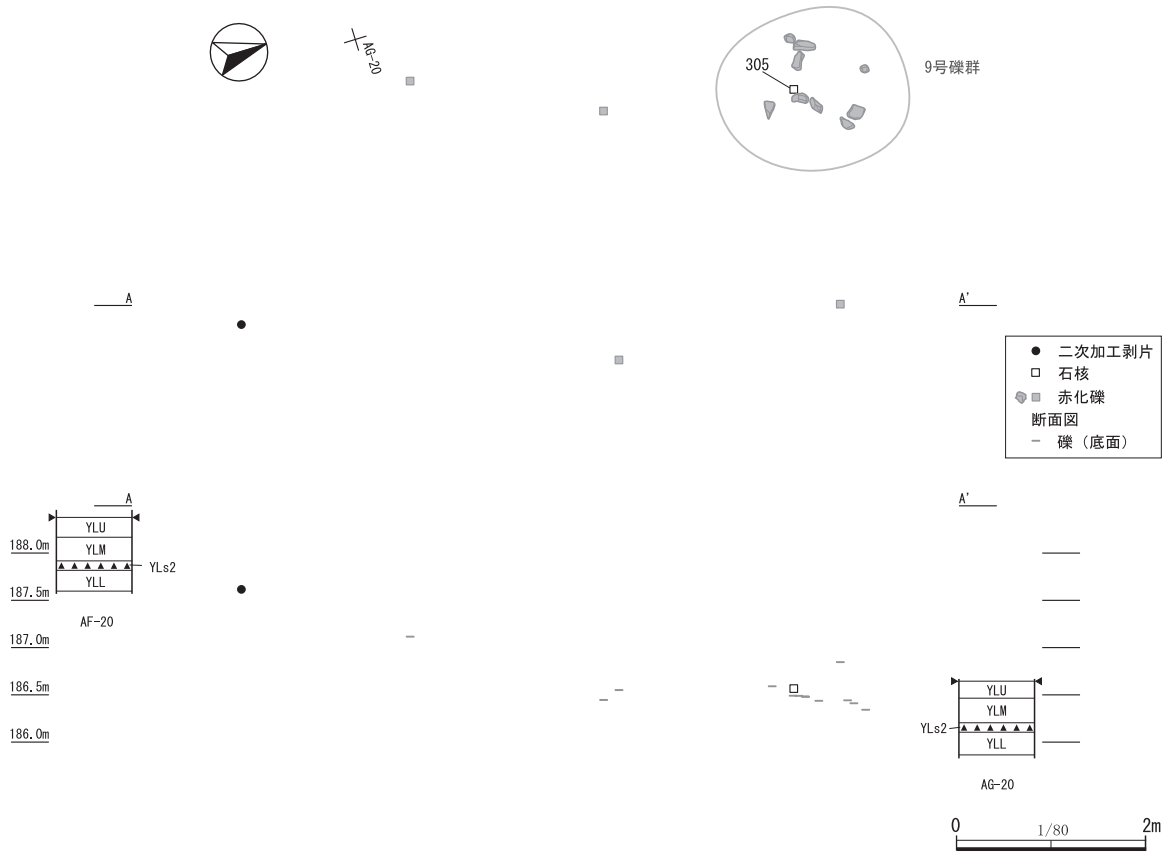
表99 第XVII文化層東支谷 礫群属性

礫群番号	構成礫数	赤化					形態			石材								
		完形		非完形			亜角	垂円	円	イト	デイサ	安山岩	輝石	安山岩	多孔質	玄武岩	玄武岩	多孔質
		非赤化	赤化	非赤化	赤化1	赤化2												
8号	71		22	1	34	14	58	11	2	1	9	5	18	38				
9号	9		8		1		6	3				1	2	6				
10号	10		4	1	5		5	5			5	4	1					
11号	3			2	1		3					2	1					
12号	18		10		5	3	14	4			6	1	5	6				
13号	10		5		2	3	6	3	1		2	1	2	5				
14号	8		3	1	1	3	5	2	1		2	1	5					
遺構外	41	4	20	4	8	5	24	16	1		13		14	14				

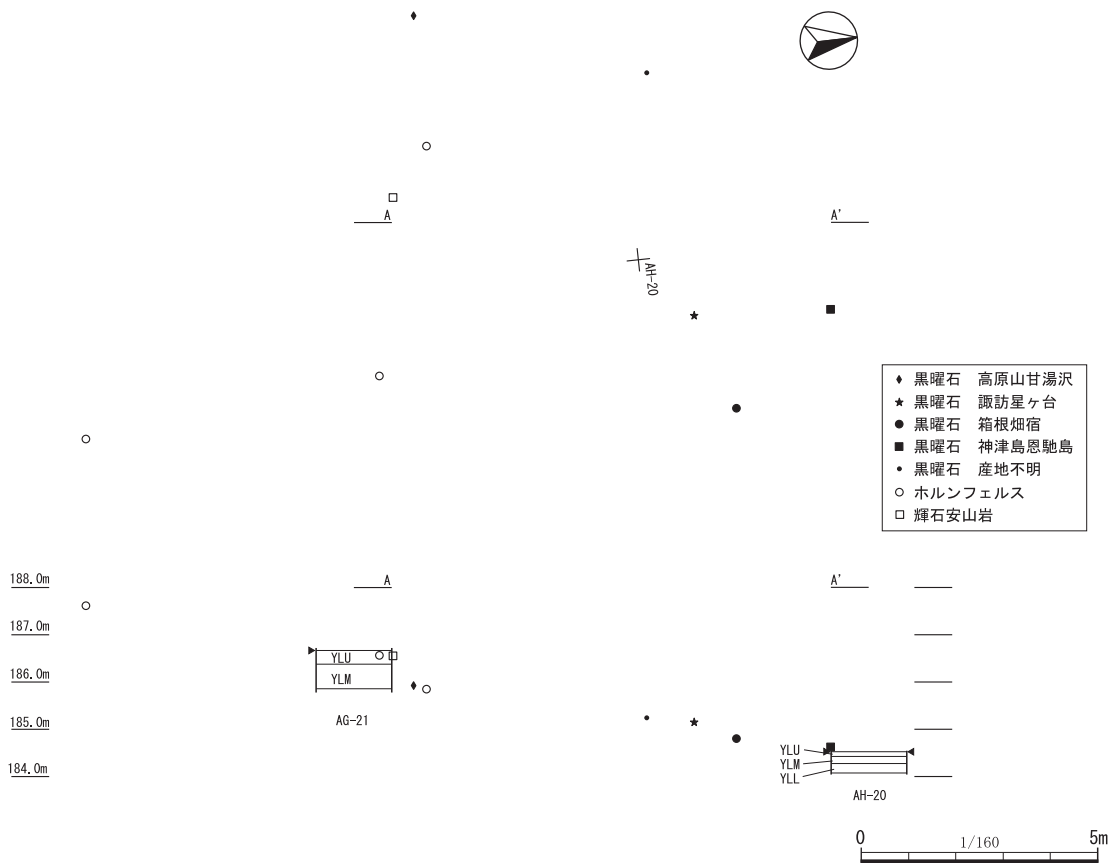
赤化1：全面が赤化 赤化2：礫の外皮のみ赤化



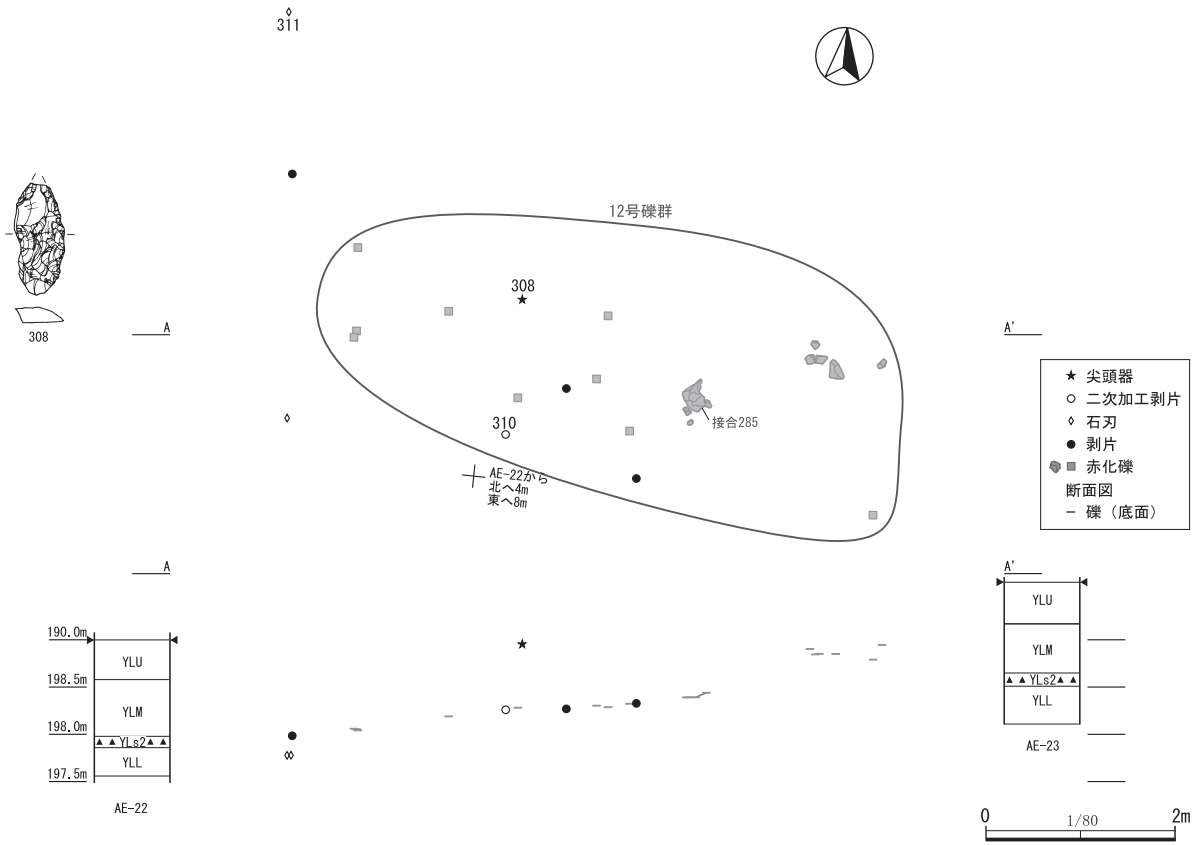
第228図 第XVII文化層4号石器集中 器種別分布(西半部)、8号礫群



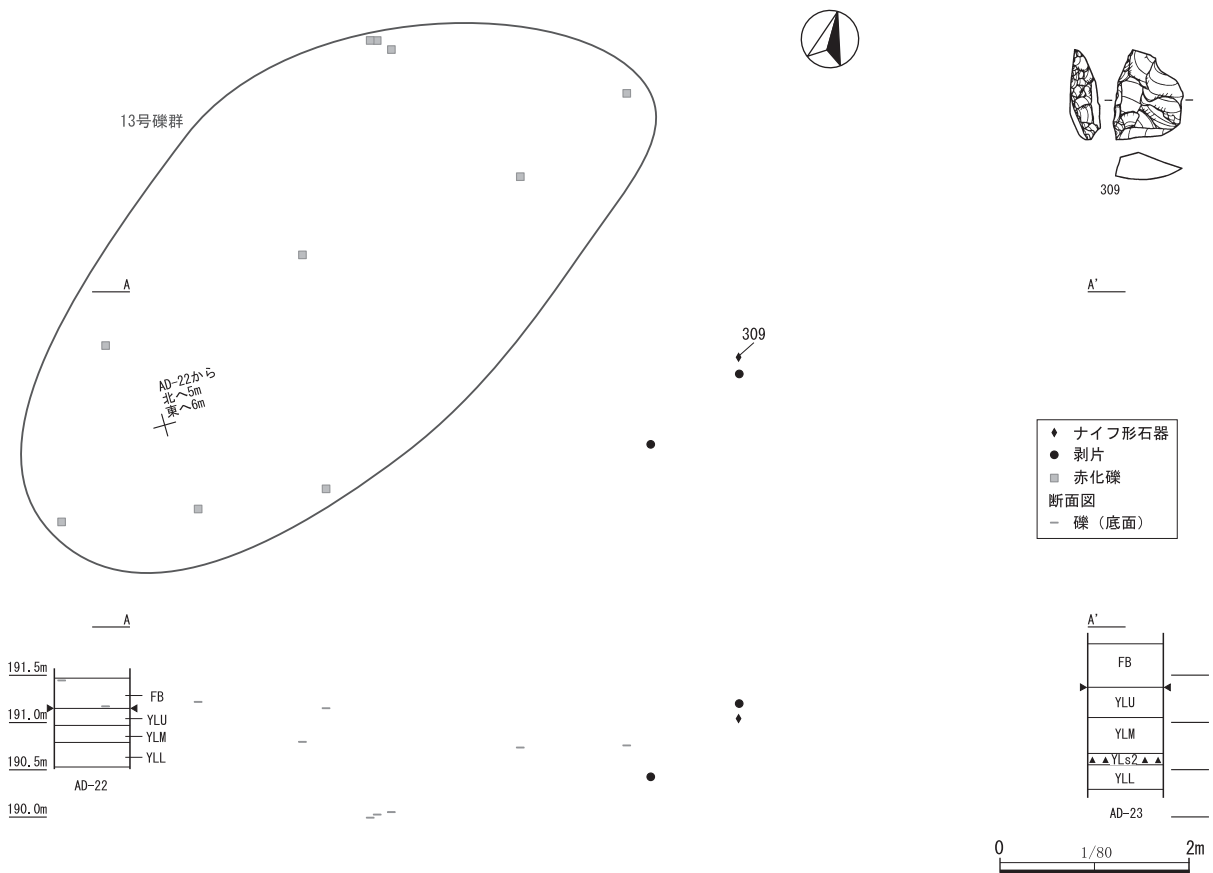
第229図 第XVII文化層4号石器集中 器種別分布（東半部）、9号礫群



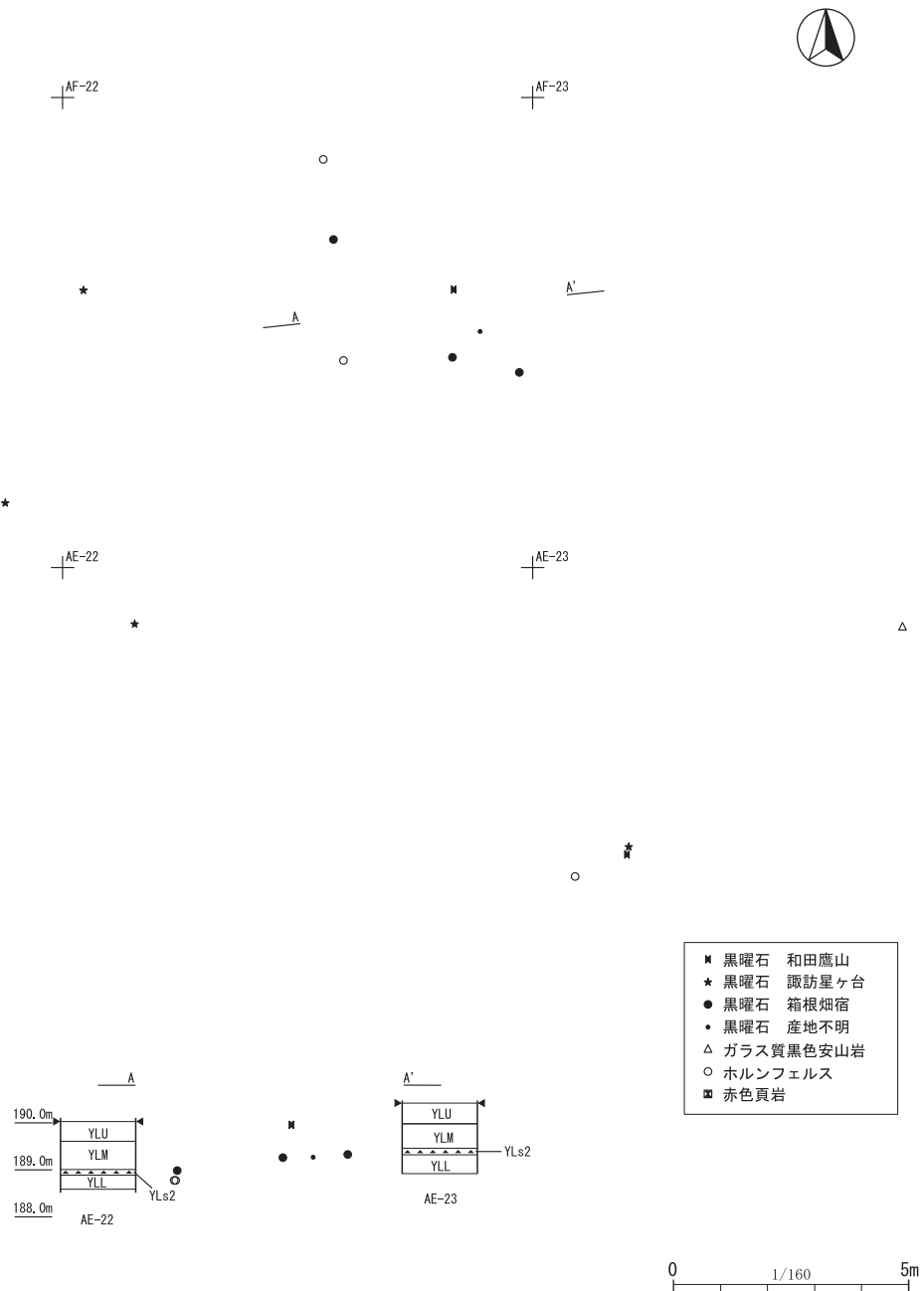
第230図 第XVII文化層4号石器集中 石材別分布



第231図 第XVII文化層5号石器集中 器種別分布(部分)、12号礫群



第232図 第XVII文化層5号石器集中 器種別分布(部分)、13号礫群



第233図 第XVII文化層5号石器集中 石材別分布

9号礫群 (第229図、表99)

AG-20グリッド西部から出土した被熱礫9点から成る。出土層位は休場層中位で、径1m程度の範囲にまとまる。礫は長径20.9cm・重量2.9kg、長径25.5cm・重量2.2kgなど大型礫が多く、平均では長径18.4cm・重量1.6kgである。

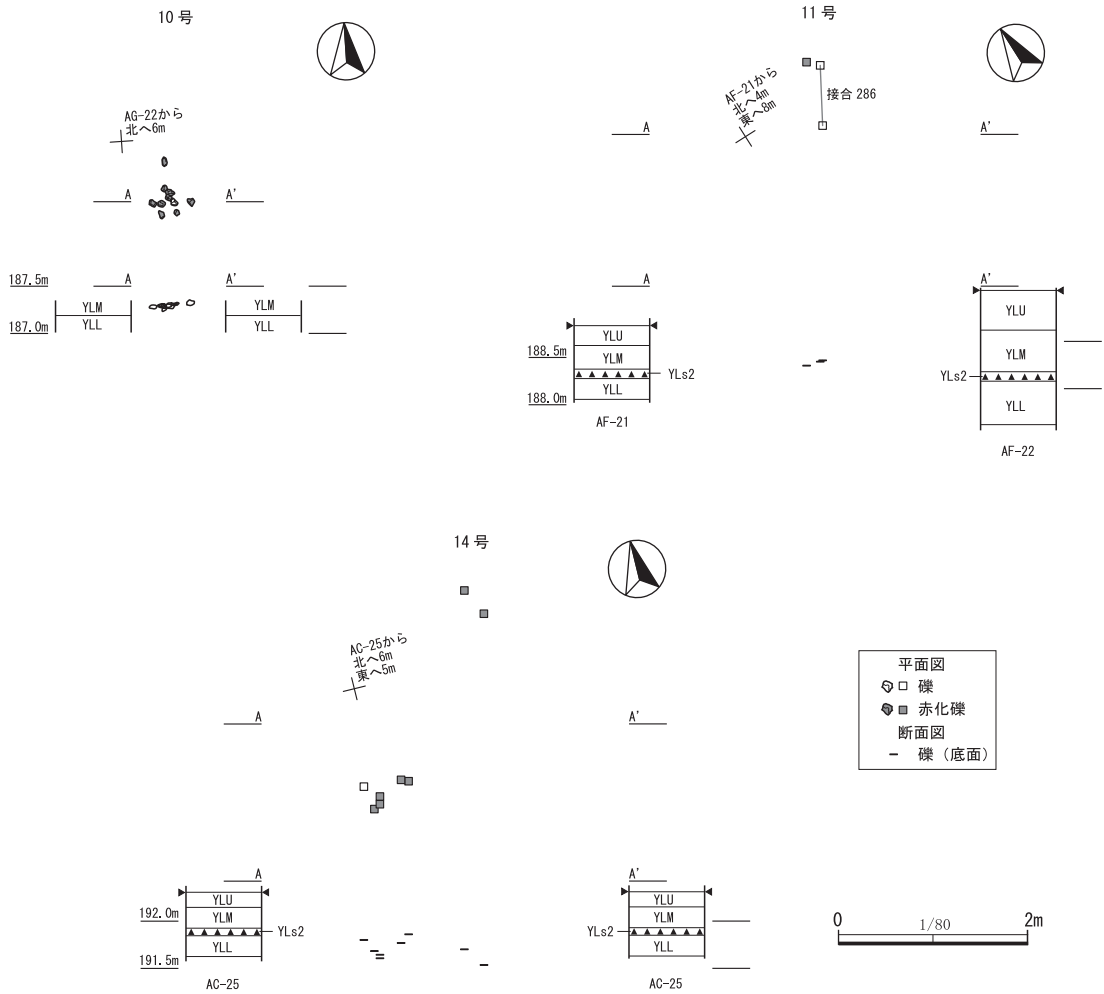
10号礫群 (第234図、表99)

AG-22グリッド西部から出土した礫10点から成り、うち9点に被熱の痕跡が認められた。出土層位は休場層中位で、径0.5mの範囲に大部分がまとまる。礫の大きさは平均で長径7.6cm・重量0.18kgである。

11号礫群 (第234図、表99)

AF-21グリッドから出土した礫3点から成り、うち1点に被熱の痕跡が認められた。出土層位は休場





第234図 第XVII文化層10・11・14号礫群

層中位である。最大の礫が長径17.3cm・重量1.7kg、平均で長径15.6cm・重量1.2kgと比較的大型の礫から成る。

12号礫群 (第231図、表99)

AE-22・23グリッドにかけて出土した被熱礫18点から成る。出土層位は休場層中位で、6m×2mの範囲に分布する。礫は大きいもので長径33.4cm・重量5.1kg、長径23.8cm・重量2.9kgのものがああり、平均で長径11.9cm・重量0.76kgである。

13号礫群 (第232図、表99)

AD-22・23グリッドにかけて出土した被熱礫10点から成る。出土層位は調査時の記録によると主に休場層上位で、3点が休場層中位から出土した。礫は7.5m×3.5mの範囲に広がり、大きいもので長径15.6cm・重量1.5kg、長径12.8cm・重量1.4kg、平均では長径8.4cm・重量0.38kgである。

14号礫群 (第234図、表99)

AC-25グリッドから出土した礫8点から成り、うち7点に被熱の痕跡が認められた。出土層位は調査時の記録によると休場層中位から上位である。礫は径0.5mの範囲にまとまり、また北東側に2m離れて2点が分布する。礫の大きさは平均で長径8.5cm・重量0.19kgである。

(2) 4号石器集中の出土石器 (第235図)

ナイフ形石器 (302・303)

2点出土した。302は高原山甘湯沢産黒曜石製で、素材剥片を斜位に用いて切出形に近い斜刃の形態としている。303は箱根畑産黒曜石製、縦長剥片素材と見られ、右側縁に背部加工を施している。左側縁の刃部は損傷しており、樋状剥離が見られる。

削器 (304)

1点出土した。産地不明(天城柏峠産の可能性が高い)黒曜石の板状礫に急斜度加工を施し、抉入状の刃部を設けている。

剥片類・石核 (305)

剥片4点、石核1点が出土した。石核を図示した(305)。ホルンフェルス製の厚手剥片を素材とし、主として素材の腹面を打面として剥片剥離が行われている。

敲石 (306)

1点出土した。輝石安山岩の亜円礫を利用し、下端の平坦面に敲打痕が認められる。

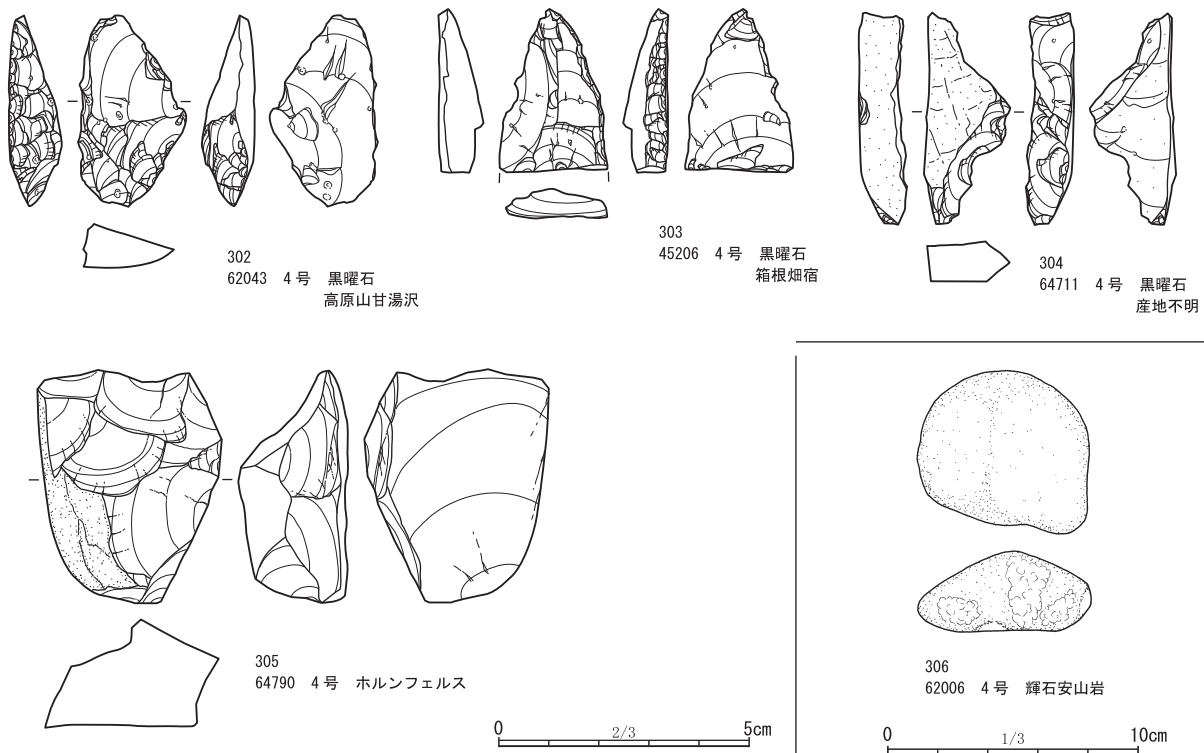
(3) 5号石器集中の出土石器 (第236図)

尖頭器 (307・308)

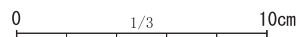
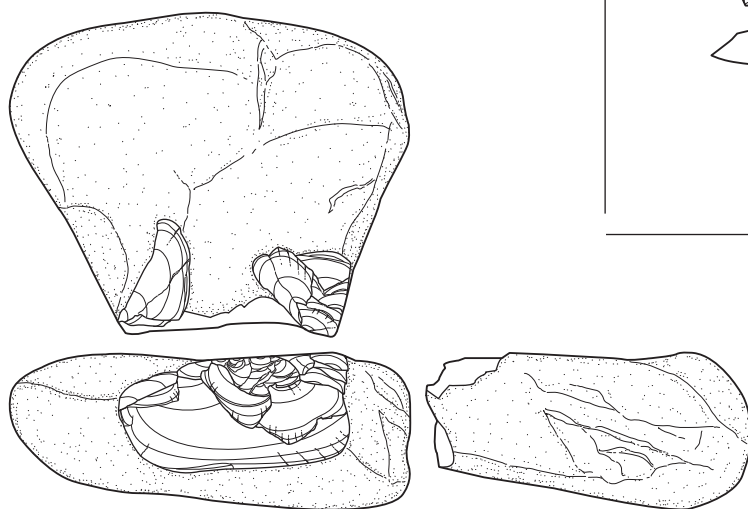
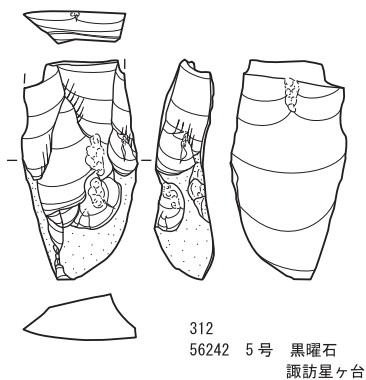
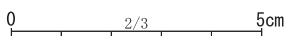
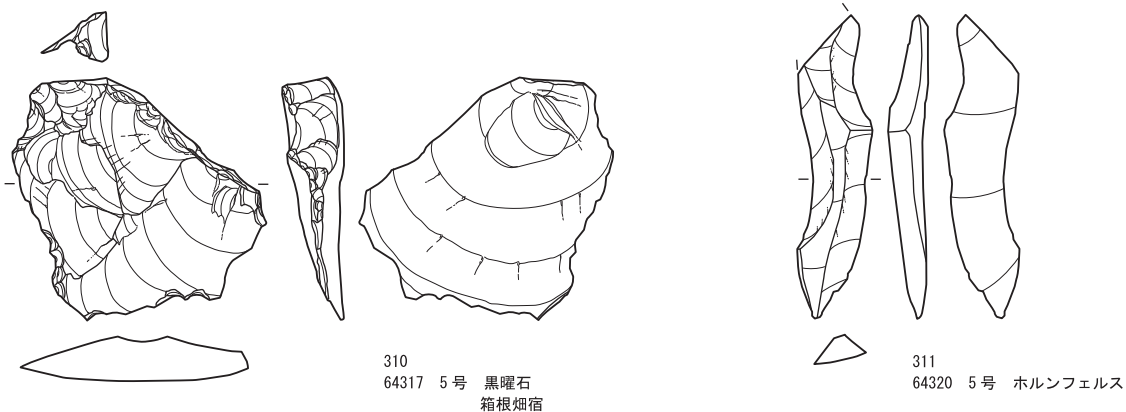
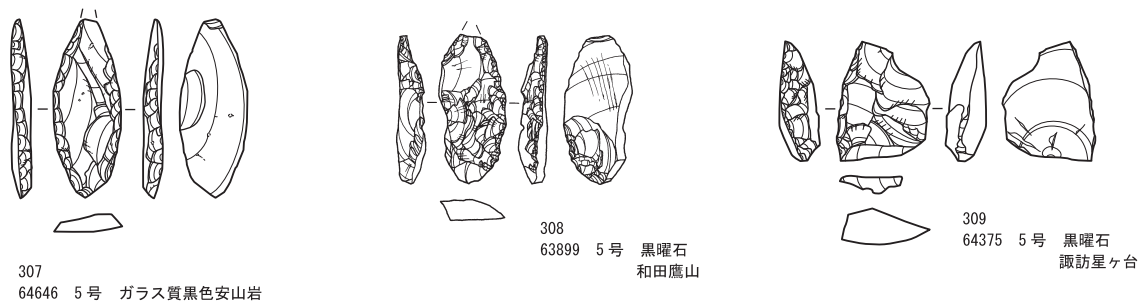
2点出土した。307はガラス質黒色安山岩製で、素材剥片を横位に用いた周縁加工尖頭器である。308は和田鷹山産黒曜石製で、右側縁が裏面平坦加工と通常の背面側への二次加工で整形されているのに対し、左側縁では素材剥片の形状に対応してやや特異な形で加工が成されており、側面に大きく素材面を残し、側面・背面へ稜上調整が加えられている。

ナイフ形石器 (309)

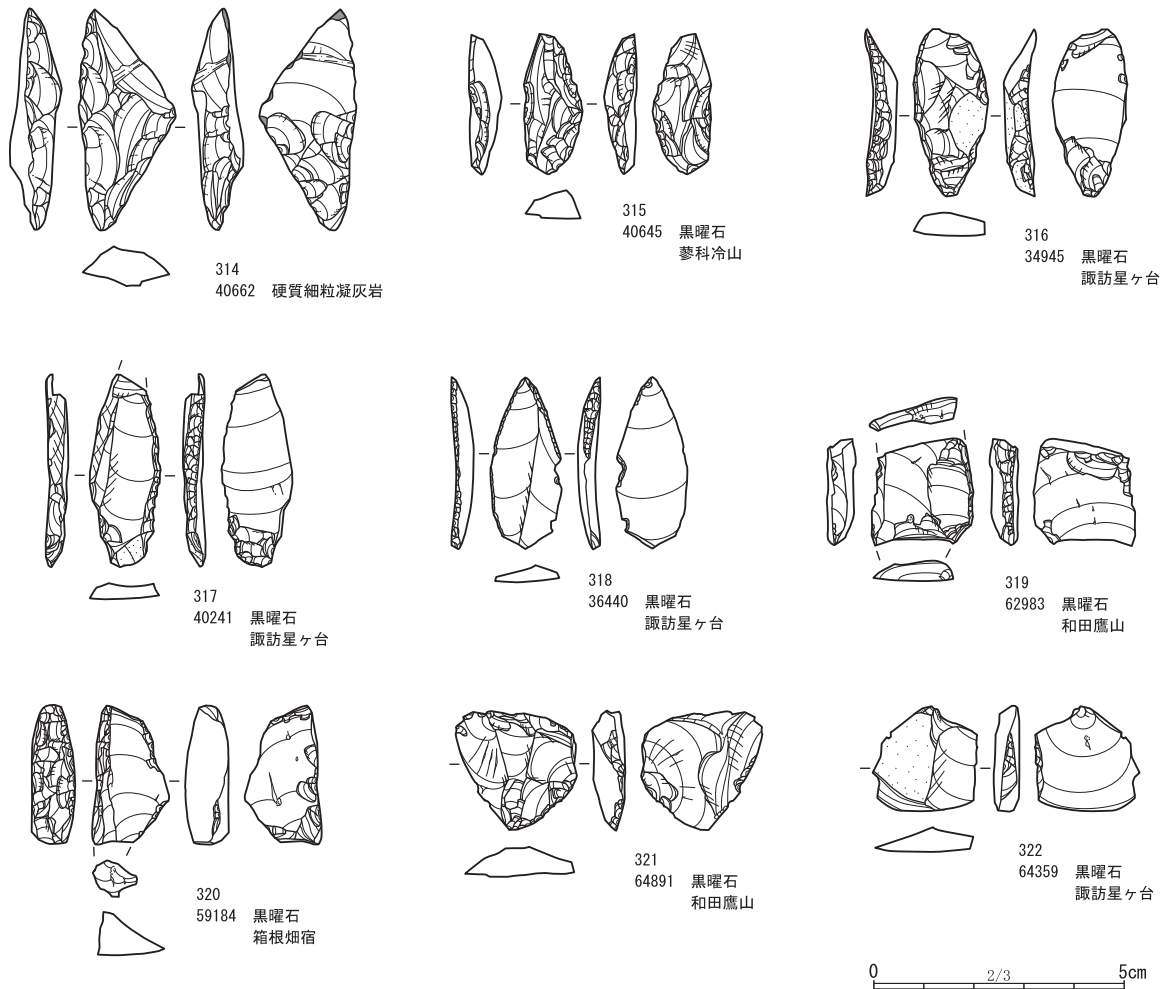
1点出土した。諏訪星ヶ台産黒曜石製で寸詰まりの剥片を素材とし、基部に打面を残し左側縁を背部



第235図 第XVII文化層東支谷 4号石器集中



第236図 第XVII文化層東支谷 5号石器集中



第237図 第XVII文化層東支谷 石器集中外

としている。

#### 二次加工剥片 (310)

1点出土した。箱根畑宿産黒曜石製で、左側縁や末端部に断続的な二次加工が認められる。右側面の剥離痕は石核側面を取り込んだもので、打面再生などに関わる剥片を利用したものと考えられる。

#### 剥片類・石核 (311~313)

石刃2点、剥片8点、石核1点が出土し、これらのうち3点を図示した。311はホルンフェルス製の石刃である。先細りの形態で両設打面石核から剥離されている。ホルンフェルス製石刃は他に背面に円礫面をのこすものが1点出土している。312は諏訪星ヶ台産黒曜石製の剥片である。上部を折損しているが、背面の状態から角礫素材の石核から連続的に縦長剥片を剥離する工程の存在が推測される。同一産地の黒曜石で角礫面の残る縦長剥片が他に2点出土している。313は赤色頁岩製の石核である。垂円礫の一端が垂直に近い剥離角で剥離されているが、同種の石材は他に出土していない。

#### (4) 石器集中外の出土石器 (第237図)

ナイフ形石器7点、削器、二次加工剥片各1点、剥片10点、碎片2点が出土した。

#### ナイフ形石器 (314~320)

314は硬質細粒凝灰岩製、二側縁加工で、背面側の加工の後、裏面基部加工を施されている。AJ-21グリッド出土。315は蓼科冷山産黒曜石製で、素材剥片を横位に用いて二側縁を加工しており、やや甲

高の形態である。AI-21グリッド出土。316～318は諏訪星ヶ台産黒曜石製の二側縁加工ナイフ形石器である。316では先端部に向かって素材自体がかなり薄くなっており、一部欠損している。西支谷との分水嶺に近いAB-14グリッド出土。317は左側縁基部に2段の浅い抉入部がある形態で、裏面基部加工が顕著である。AG-21グリッド出土。318は図中の下端が2枚の折れ面で形成されているが、左側の折れ面は左側縁の加工より古くなっている。このため両側縁の加工で尖頭状となる側を上端とした。AI-22グリッド出土。319は和田鷹山産黒曜石製で、右側縁に背部加工が成されているが、上下両端を欠損している。AC-25グリッド出土。320は箱根畑宿産黒曜石製で、厚手の素材を用い、背部加工は対向調整となっている。AD-17グリッド出土。

削器 (321)

和田鷹山産黒曜石製で、求心状剥離による剥片の打面側縁辺に刃部加工が施されている。AB-25グリッド出土。

二次加工剥片 (322)

諏訪星ヶ台産黒曜石製で、右側面に腹面側への二次加工が認められる。AB-24グリッド出土。

4. 中央尾根（北）の遺物群

(1) 遺物の分布 (第238・239図)

Y～AA-19～23グリッド付近に分布する遺物群で、6～9号石器集中、15～23号礫群などが含まれる。石器61点、礫77点が出土した(表100・105)。第XVIII文化層中央尾根の遺物群と重複している。

6号石器集中 (第240・241図、表101)

AA・AB-20グリッド周辺で出土した石器12点から成る。出土層位は主に休場層中位で、2点が休場層上位から出土した。石器はホルンフェルス製5点、諏訪星ヶ台産黒曜石製4点、チャート製、硬質頁岩製、流紋岩製各1点で、尖頭器2点、ナイフ形石器、二次加工剥片、敲石各1点が含まれる。

表100 第XVII文化層中央尾根（北） 石器組成

	尖頭器	ナイフ形石器	削器	二次加工剥片	石刃	剥片	石核	礫器	敲石	計
和田鷹山					1	2(1)				3(1)
諏訪星ヶ台	2	1		1(1)		4				8(1)
蓼科冷山							1			1
箱根畑宿		1								1
天城柏峠						3(1)				3(1)
神津島恩馳島						6	1			7
産地不明			1							1
黒曜石計	2	2	1	1(1)	1	15(2)	2			24(3)
ガラス質黒色安山岩	1				1					2
ホルンフェルス		2			7	13	2		1	25
チャート					1					1
硬質頁岩						1				1
珪質頁岩							1(1)			1(1)
緑色凝灰岩				1						1
流紋岩						2				2
細粒安山岩						1				1
輝石安山岩						1		1		2
多孔質玄武岩									1	1
計	3	4	1	2(1)	10	33(2)	5(1)	1	2	61(4)

括弧内は全体数の内、微細剥離痕のあるものの点数。

表101 第XVII文化層6号石器集中 石器組成

		尖頭器	ナイフ形石器	二次加工剥片	石刃	剥片	石核	敲石	計
黒曜石	諏訪星ヶ台	2	1	1(1)					4(1)
	ホルンフェルス				1	2	1	1	5
	チャート				1				1
	硬質頁岩					1			1
	流紋岩					1			1
計		2	1	1(1)	2	4	1	1	12(1)

括弧内は全体数の内、微細剥離痕のあるものの点数。

表102 第XVII文化層7号石器集中 石器組成

		石刃	剥片	計
黒曜石	和田鷹山		1	1
	諏訪星ヶ台		2	2
	黒曜石計		3	3
	ホルンフェルス	3	6	9
計		3	9	12

表104 第XVII文化層9号石器集中 石器組成

		尖頭器	削器	石刃	剥片	石核	礫器	敲石	計
黒曜石	諏訪星ヶ台				1				1
	天城柏峠				2(1)				2(1)
	神津島恩馳島				1	1			2
	産地不明		1						1
	黒曜石計		1		4(1)	1			6(1)
	ガラス質黒色安山岩	1		1					2
	ホルンフェルス			1	2	1		4	
	流紋岩				1			1	
	細粒安山岩				1			1	
	輝石安山岩				1		1	2	
	多孔質玄武岩							1	1
計		1	1	2	9(1)	2	1	1	17(1)

括弧内は全体数の内、微細剥離痕のあるものの点数。

表103 第XVII文化層8号石器集中 石器組成

		石刃	剥片	石核	計
黒曜石	和田鷹山	1			1
	蓼科冷山			1	1
	天城柏峠		1		1
	神津島恩馳島		3		3
	黒曜石計	1	4	1	6
	ホルンフェルス	2	2		4
	珪質頁岩			1(1)	1(1)
計		3	6	2(1)	11(1)

括弧内は全体数の内、微細剥離痕のあるものの点数。

表105 第XVII文化層中央尾根(北) 礫群属性

礫群番号	構成礫数	赤化					形態			石材						
		完形		非完形			垂角	垂円	円	安山岩	輝石	安山岩	多孔質	玄武岩	玄武岩	多孔質
		非赤化	赤化	非赤化	赤化1	赤化2										
15号	6		3		3		4	2		1						5
16号	3		2			1	1	1	1				2			1
17号	23		11		10	2	17	6		3	9	1				10
18号	5		5				3	2		3			1			1
19号	5		2		1	2	4	1		3						2
20号	4	1	2	1			4			2	2					
21号	4		3		1		3	1		2			1			1
22号	3		2		1		1	2		1						2
23号	3				3		3			1			1			1
遺構外	21	6	7	2	3	3	13	5	3	5	5		8			3

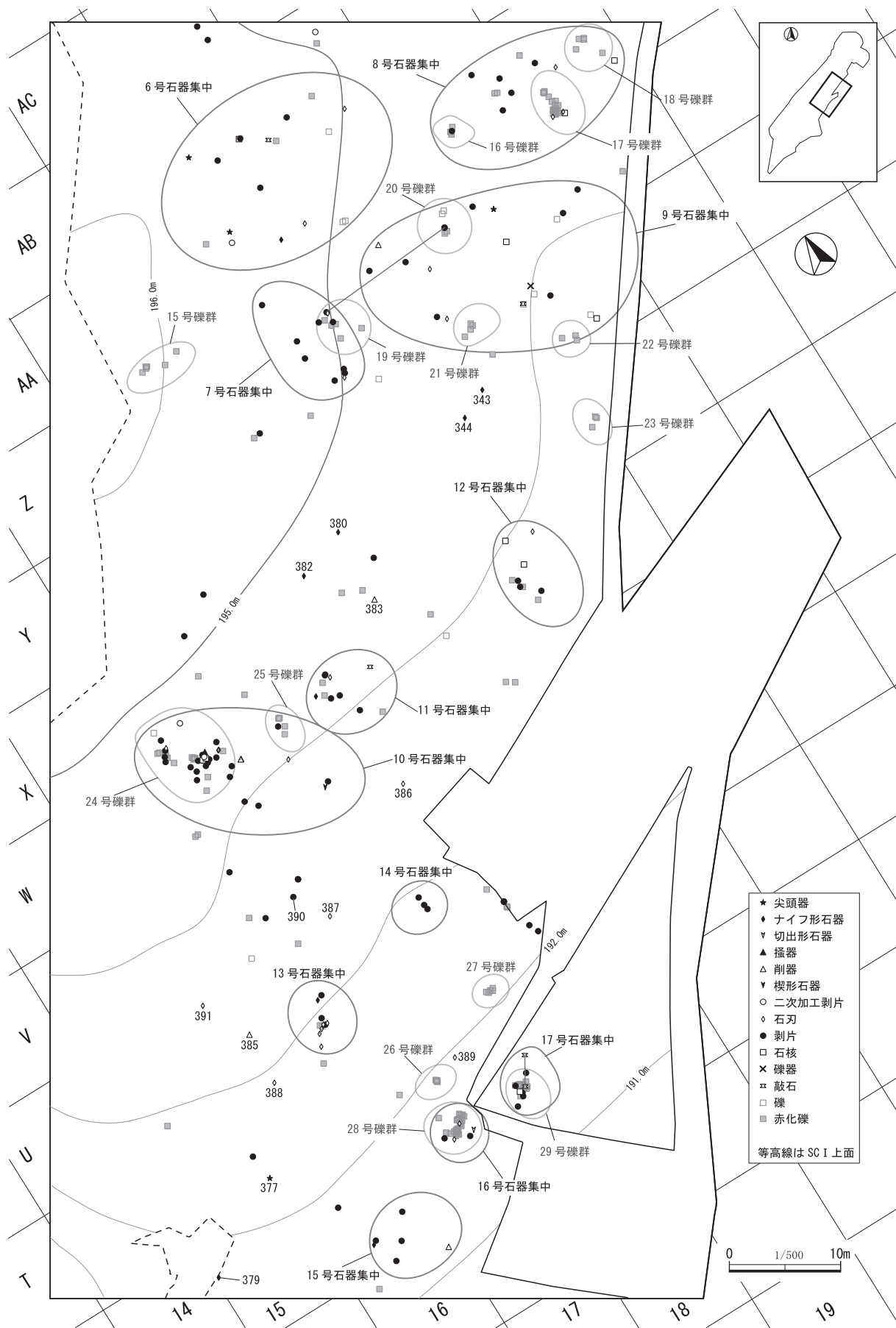
赤化1：全面が赤化 赤化2：礫の外皮のみ赤化

7号石器集中(第242・243図、表102)

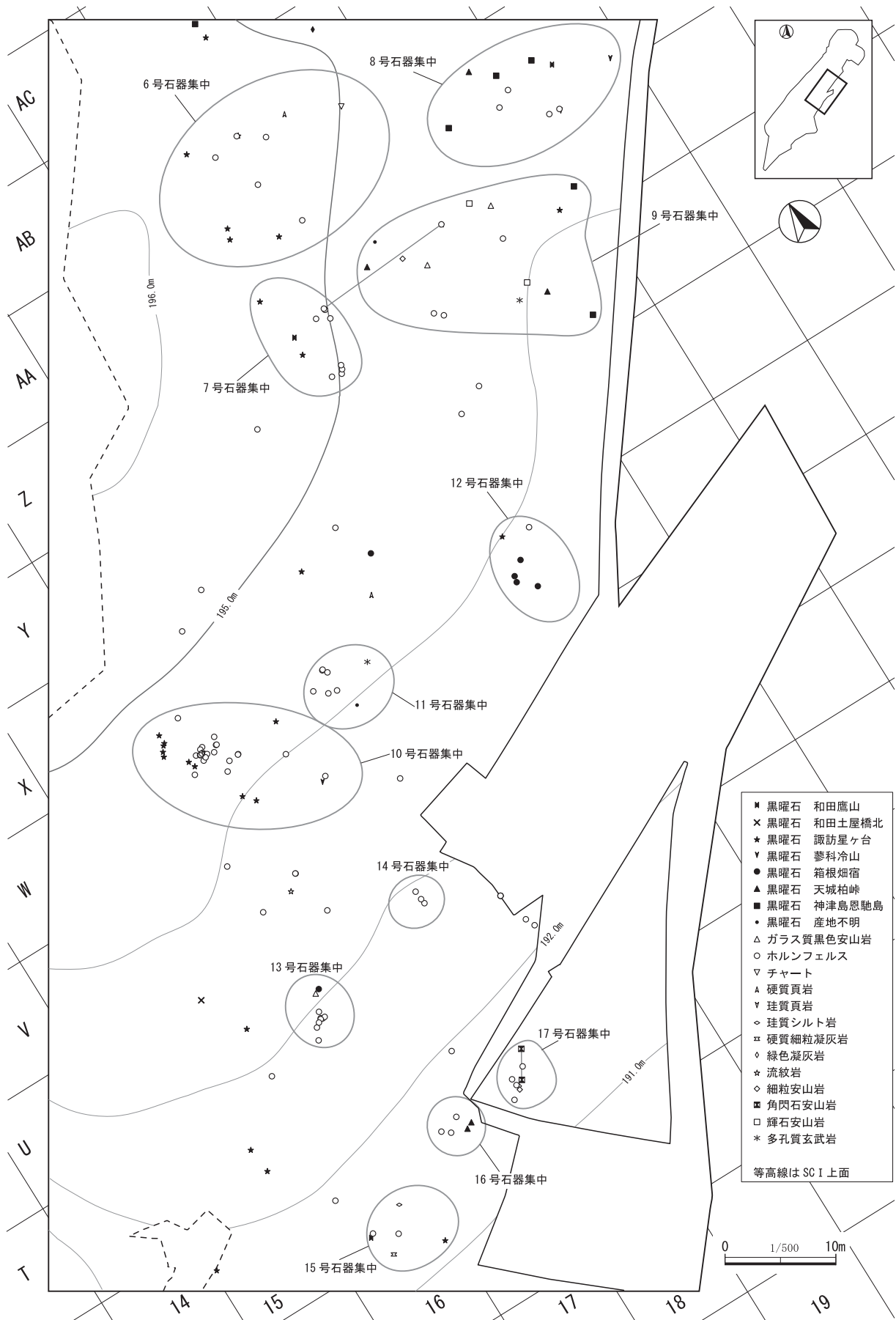
Z-20グリッド周辺で出土した石器12点から成る。出土層位は休場層中位で、19号礫群と重複する。石器はホルンフェルス製9点、諏訪星ヶ台産黒曜石製2点、和田鷹山産黒曜石製1点で、全て剥片類である。

8号石器集中(第244・245図、表103)

AA-22・23グリッド周辺で出土した石器11点から成る。出土層位は主に休場層中位で、16~18号礫

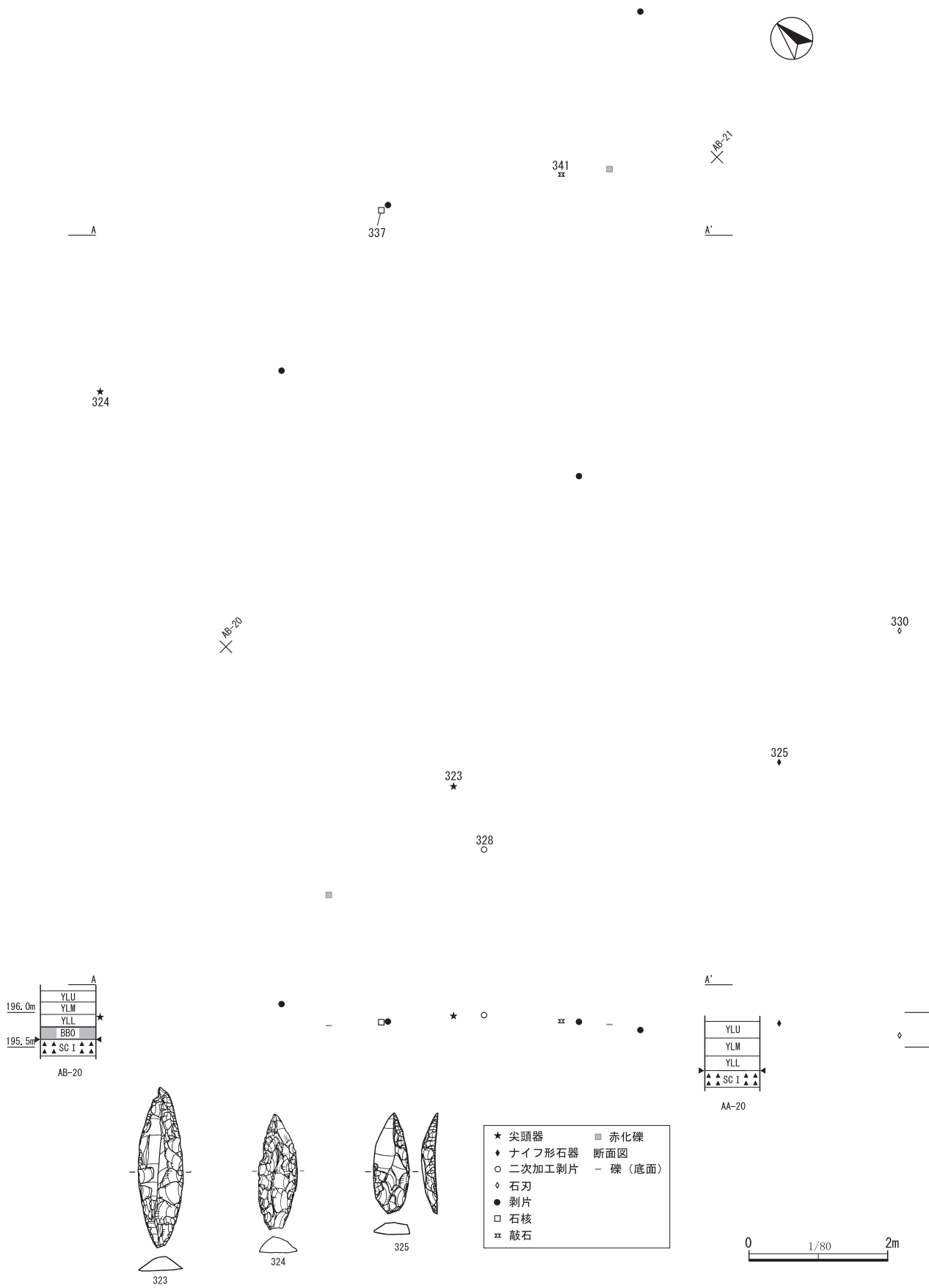


第238図 第XVII文化層中央尾根（北）・（南）器種別分布

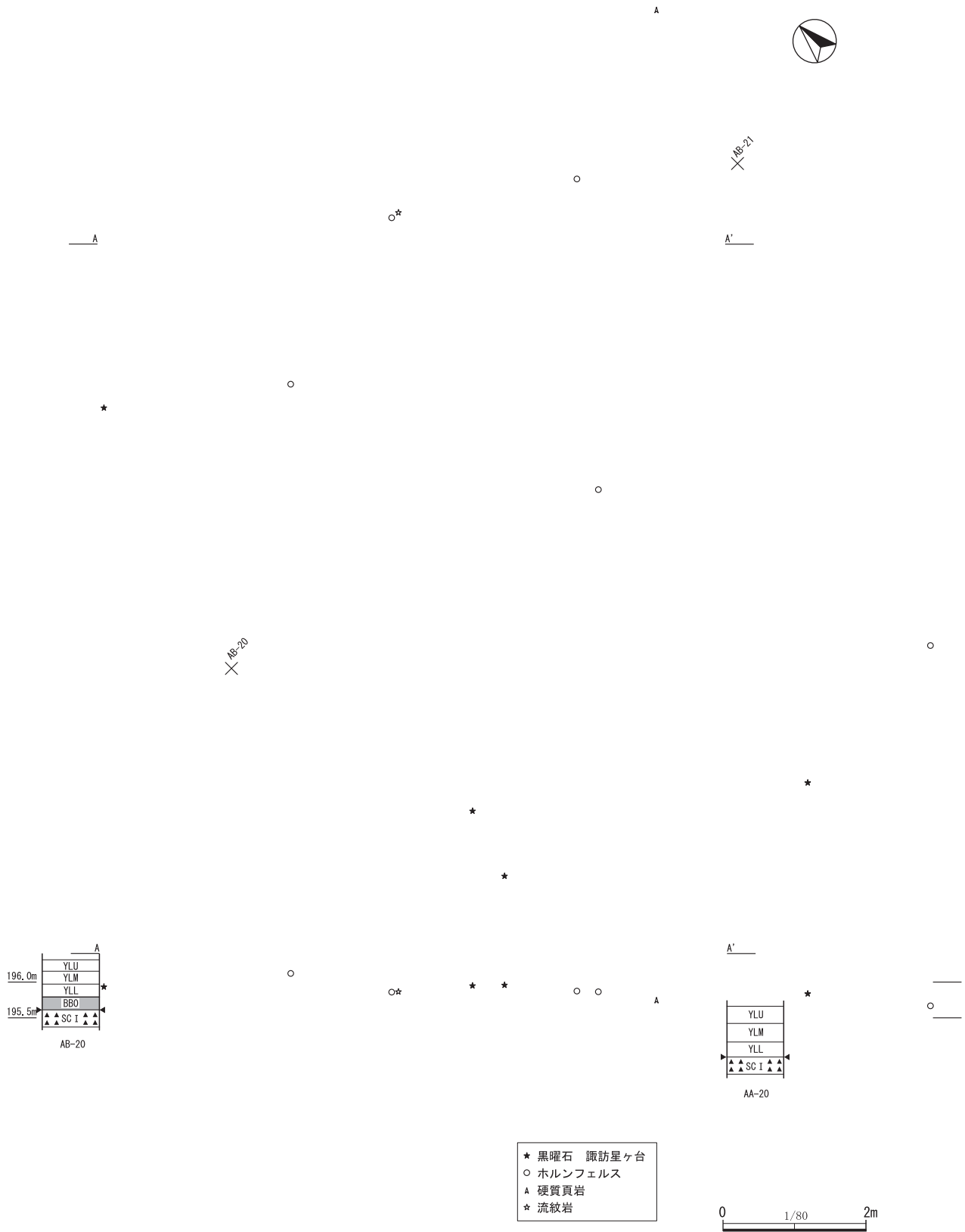


第239図 第ⅩⅦ文化層中央尾根（北）・（南） 石材別分布

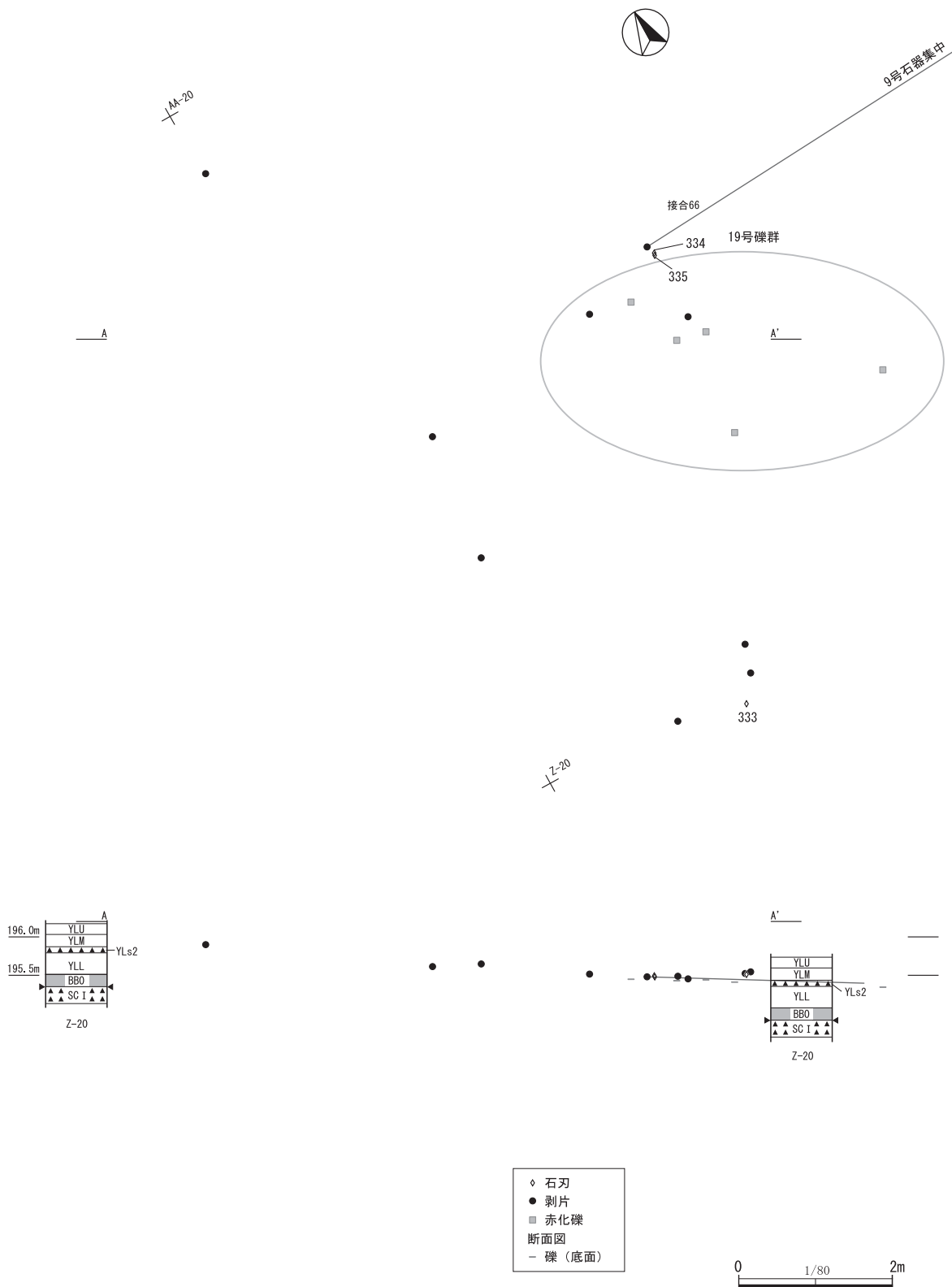




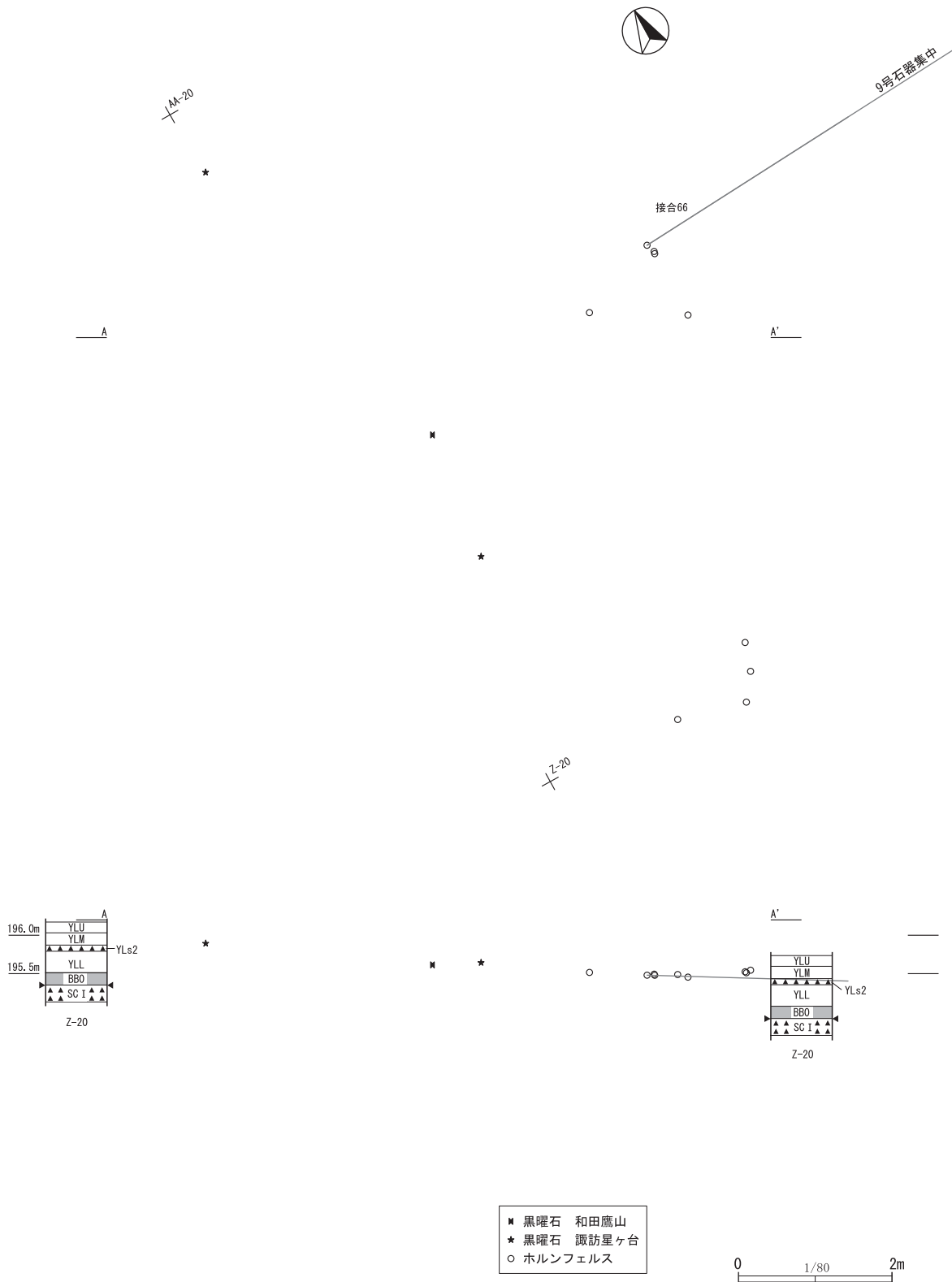
第240図 第XVII文化層6号石器集中 器種別分布



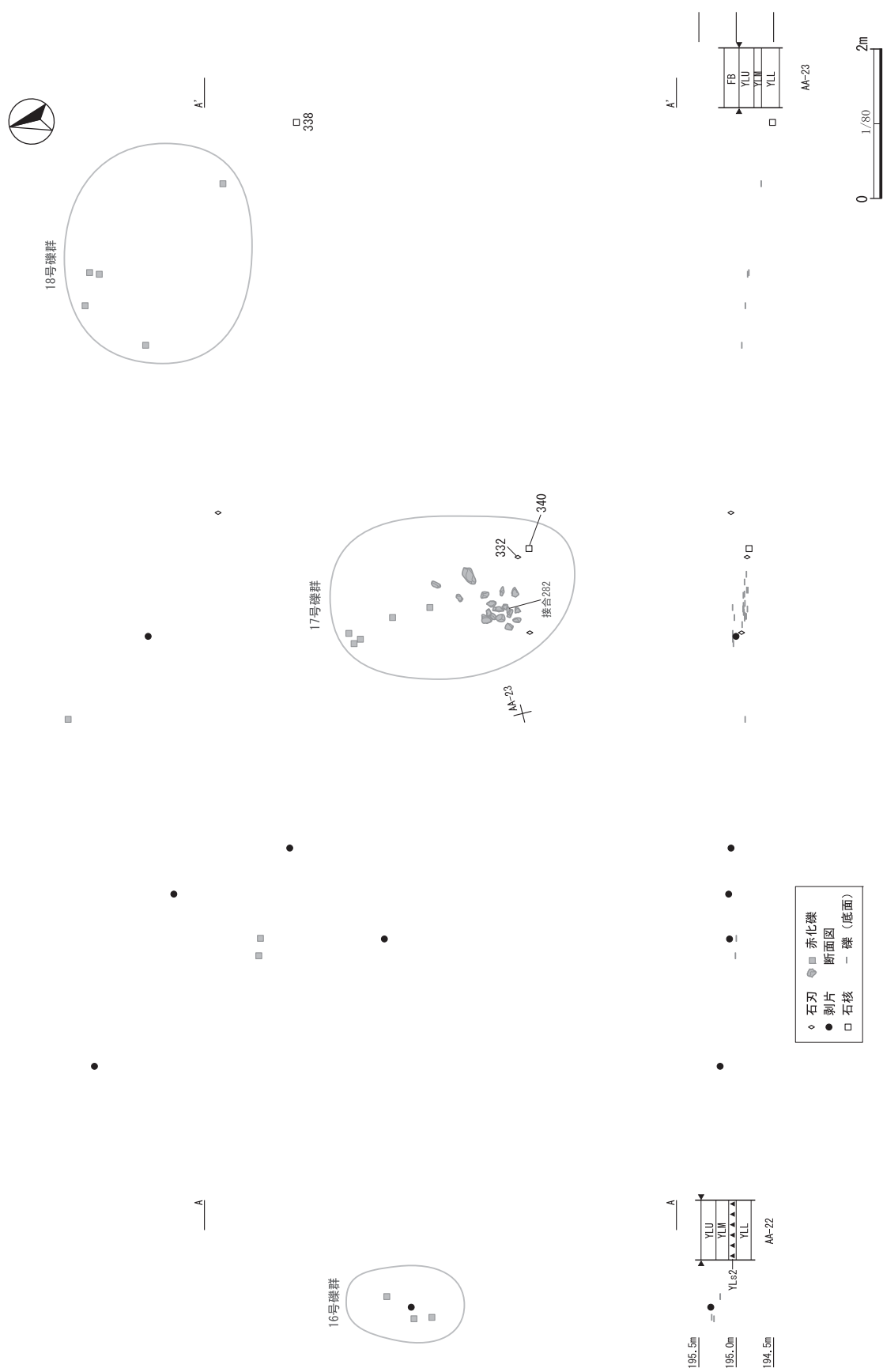
第241図 第XVII文化層6号石器集中 石材別分布



第242图 第XVII文化層7号石器集中 器種別分布、19号礫群



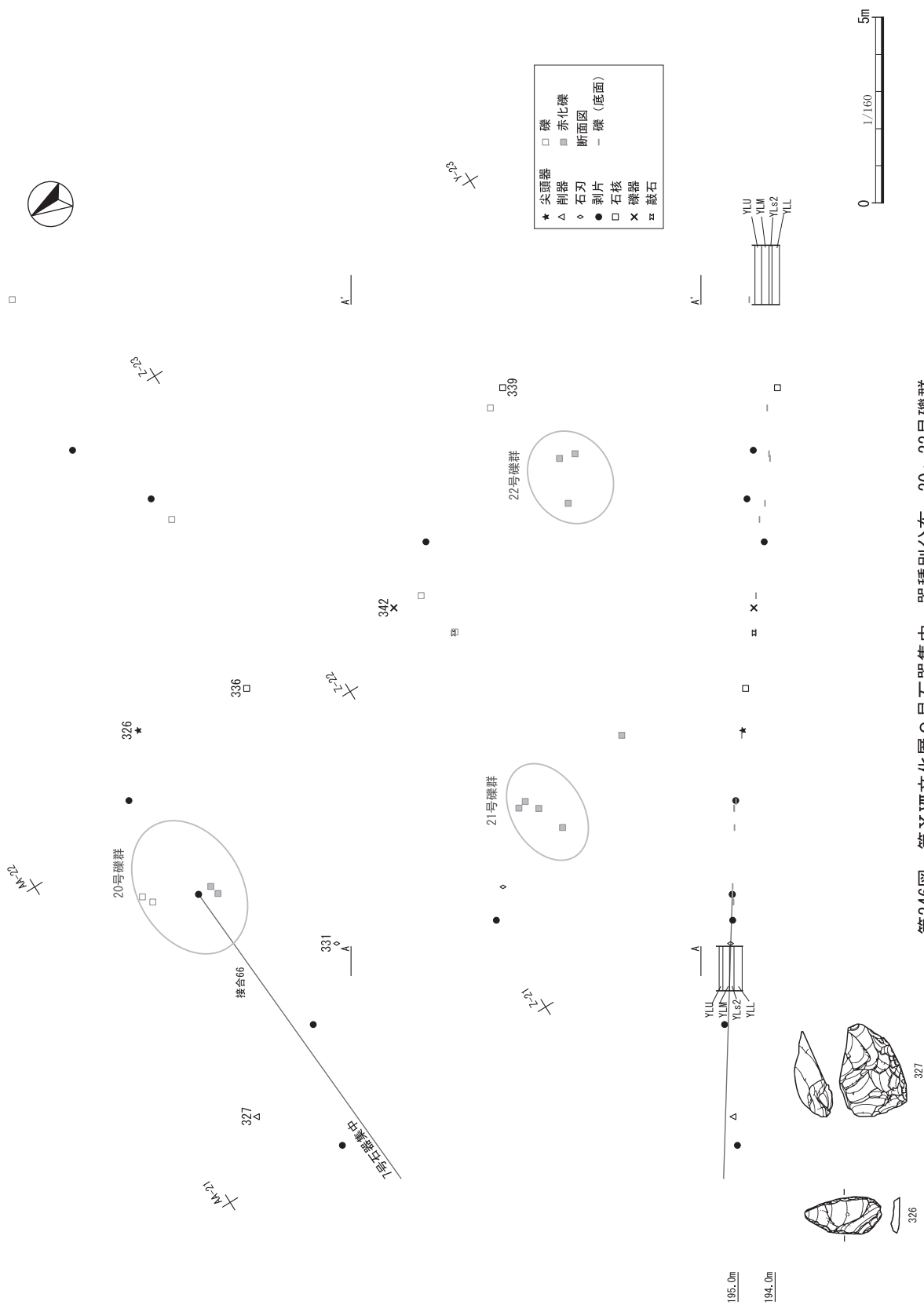
第243図 第XVII文化層7号石器集中 石材別分布



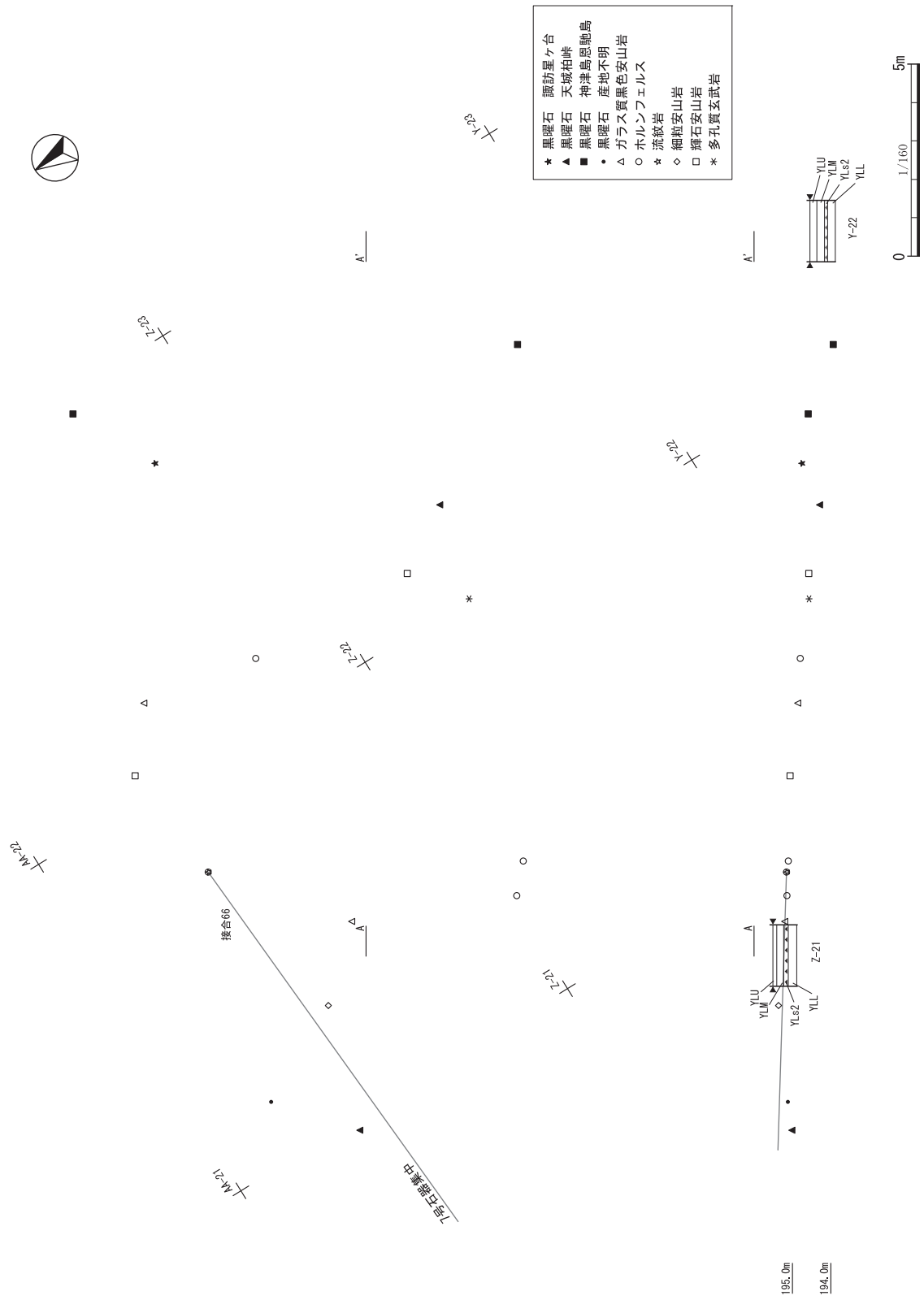
第244图 第XVII文化層8号石器集中 器種別分布、16~18号礫群



第245図 第ⅧⅧ文化層8号石器集中 石材別分布

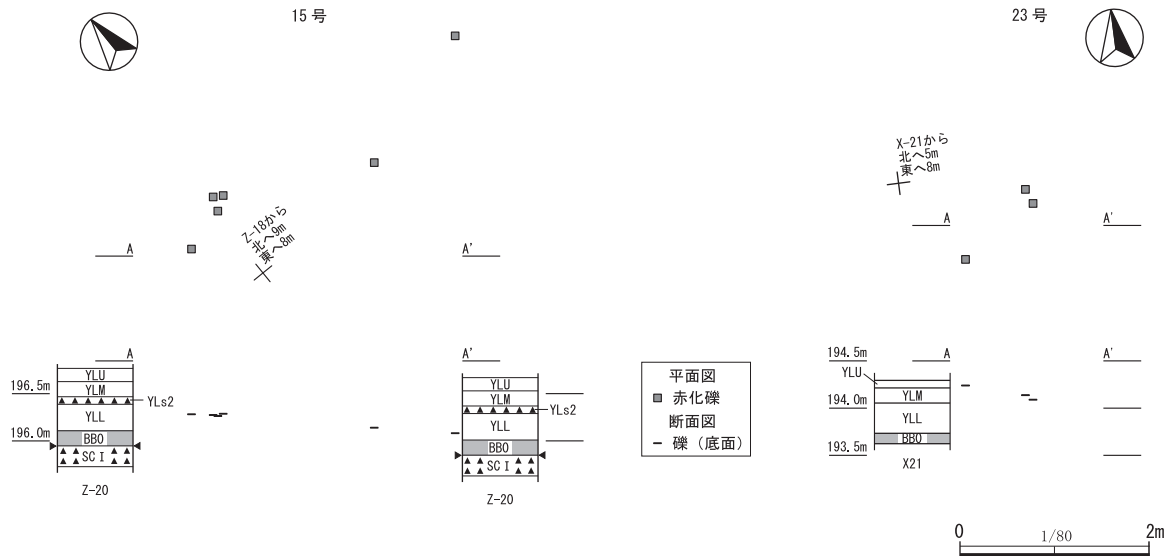


第246图 第XVII文化層9号石器集中 器種別分布、20~22号礫群



第247図 第XVIII文化層9号石器集中 石材別分布





第248図 第XVII文化層15・23礫群

群と重複する。石器は黒曜石（神津島恩馳島産3点、和田鷹山産、蓼科冷山産、天城柏峠産各1点）製6点、ホルンフェルス製4点、珪質頁岩製1点で、剥片類と石核から成る。

9号石器集中（第246・247図、表104）

Y・Z-21・22グリッド周辺で出土した石器17点から成る。出土層位は調査時の記録によると主に休場層中位で、2点が休場層下位出土である。20～22号礫群と重複する。石器は黒曜石（天城柏峠産、神津島恩馳島産各2点、諏訪星ヶ台産1点など）製6点、ホルンフェルス製4点、ガラス質黒色安山岩製、輝石安山岩製各2点、流紋岩製、細粒安山岩製、多孔質玄武岩製各1点で、尖頭器、削器、礫器、敲石各1点が含まれる。

15号礫群（第248図、表105）

Z-18グリッド北東部から出土した被熱礫6点から成る。出土層位は休場層下位である。礫の大きさは平均で長径8.0cm・重量0.11kgである。

16号礫群（第244図、表105）

AA-22グリッド南西部から出土した被熱礫3点から成る。出土層位は調査時の記録によると休場層上位である。礫は最大で長径24.5cm・重量1.7kg、平均で長径12.4cm・重量0.65kgである。

17号礫群（第244図、表105）

Z・AA-23グリッドにかけて出土した被熱礫23点から成る。出土層位は主に休場層中位で、5点が休場層上位出土。礫は南北2.5mにわたって分布するが特に南側の径1mの範囲にまとまり、長径24.8cm・重量3.5kgの大型礫が1点出土している。礫の大きさは平均で長径11.5cm・重量0.51kg。

18号礫群（第244図、表105）

AA-23グリッド南東部で出土した被熱礫5点から成る。出土層位は調査時の記録によると休場層上位である。礫の大きさは平均で長径8.6cm・重量0.23kgである。

19号礫群（第242図、表105）

Z-20グリッドから出土した被熱礫5点から成る。出土層位は休場層中位である。礫の大きさは平均で長径10.8cm・重量0.46kgである。

20号礫群（第246図、表105）

Z-21グリッド北東部で出土した礫4点から成り、うち2点に被熱の痕跡が認められた。出土層位は休場層中位である。礫は長径18.5cm・重量3.2kgの大型礫が1点あり、平均では長径14.0cm・重量1.2kg。

**21号礫群 (第246図、表105)**

Y-21グリッド北側から出土した被熱礫4点から成る。出土層位は調査時の記録によると休場層上位で、礫は最大で長径15.8cm・重量1.2kgのものが1点あり、平均では長径11.7cm・重量0.74kg。

**22号礫群 (第246図、表105)**

Y-22グリッド南西部で出土した被熱礫3点から成る。出土層位は休場層中位である。礫の大きさは平均で長径10.5cm・重量0.48kgである。

**23号礫群 (第248図、表105)**

X-21・22グリッドにかけて出土した被熱礫3点から成る。出土層位は調査時の記録によると休場層上位である。礫は最大で長径24.1cm・重量2.0kgのものが1点あり、平均では長径13.5cm・重量0.98kg。

**(2) 6～9号石器集中の出土石器 (第249～251図)****尖頭器 (323・324・326) ・ナイフ形石器 (325)**

尖頭器は3点、ナイフ形石器は1点が出土した。323～325は諏訪星ヶ台産黒曜石製で、素材の用い方や調整加工が類似するが、加工範囲の差から323・324は尖頭器、325はナイフ形石器に分類した。おそらく石刃状の剥片を素材とし、背面側に素材面が多く残る。323では調整加工がほぼ全周を巡るが、左側縁の加工度がやや低い。324では右側縁先端部が素材縁辺のまま残され、325では左側縁の加工が基部側に限定されている。

326はガラス質黒色安山岩製の周縁加工尖頭器である。基部に打面を残し、素材剥片をやや斜位に用いたものである。

**削器 (327)**

1点出土した。産地不明(畑宿産と見られる)黒曜石製で、広い打面をもつ厚手剥片を素材とし、背面の下半と左側縁腹面が二次加工されている。

**二次加工剥片 (328)**

1点出土した。諏訪星ヶ台産黒曜石製で、打面側を欠損し末端部及び左側縁の一部が二次加工されている。ナイフ形石器の先端側破片である可能性もある。

**剥片類・石核 (329～340)**

石刃10点、剥片28点、石核5点が出土した。

329～335は石刃である。329はチャート製で、比較的狭い打面をもつ。330・332～335はホルンフェルス製のもので、単剥離、或いはわずかに調整加工のある広い打面で、大型厚手のものが多い。このうち334は稜付石刃と見られる。331はガラス質黒色安山岩製で、単剥離打面、大型厚手でありホルンフェルス製と共通した特徴をもつ。

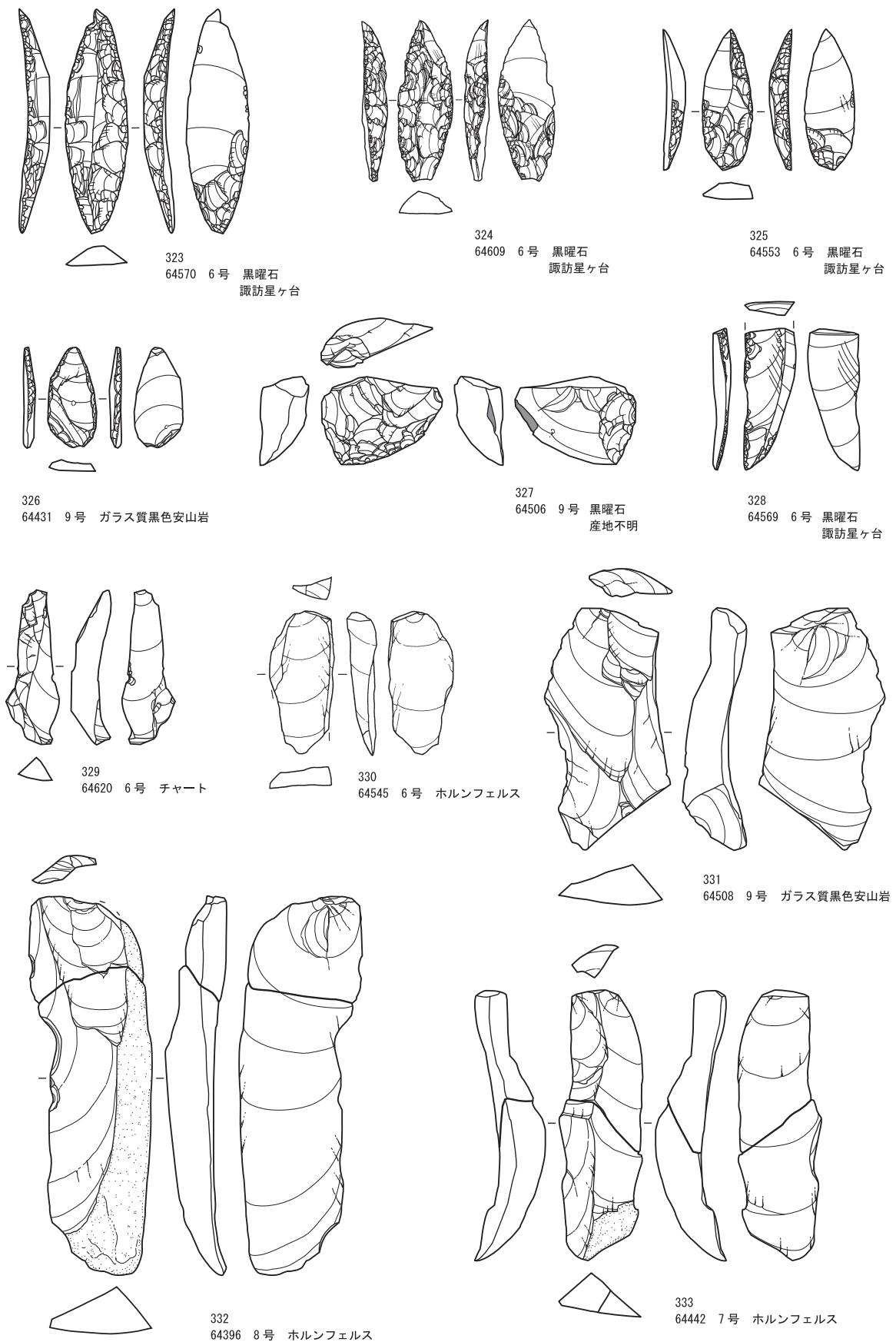
336～340は石核である。336・337はホルンフェルス製で、336は分割した円礫、337は剥片を素材とすると考えられる。338は蓼科冷山産黒曜石製で、分割礫を素材とするブロック状の石核であるが、打面は上面に固定されている。339は神津島恩馳島産黒曜石製、剥片素材の小型品である。340は珪質頁岩製の剥片素材の石核である。底面には素材打面を残し、素材末端側に打面を設けて小口面から剥片剥離を行っている。

**敲石 (341)**

2点出土し、そのうち1点を図示した。341はホルンフェルスの板状に近い亜円礫を利用したもので、下端に鈍角に近い剥離痕が生じている。

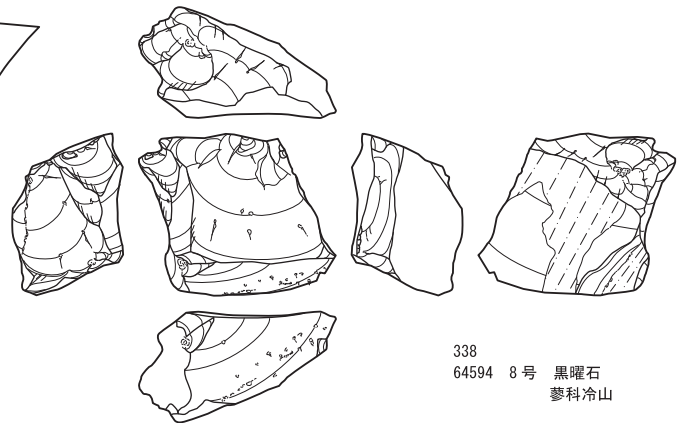
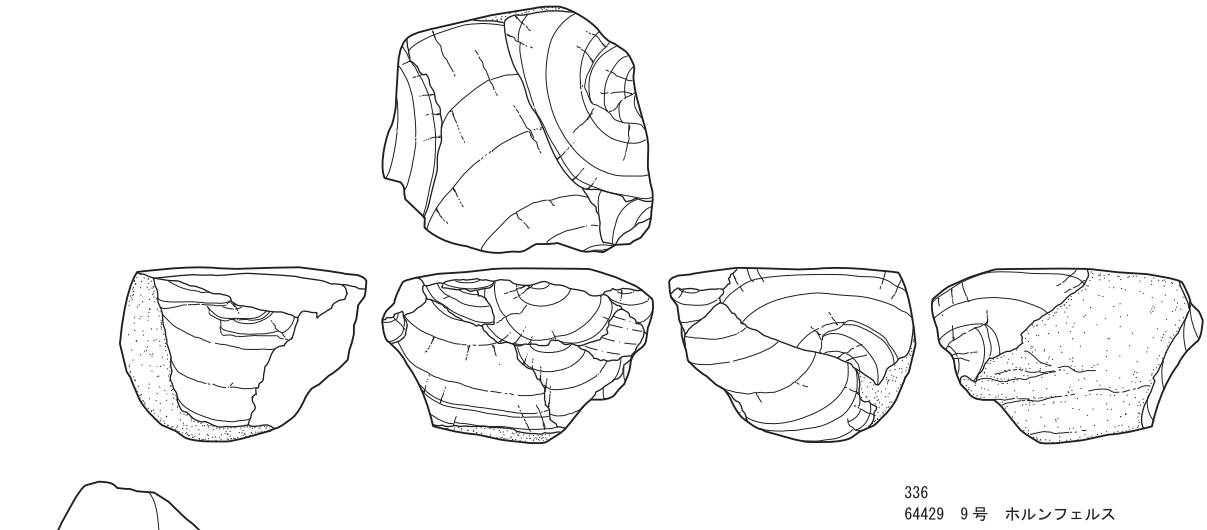
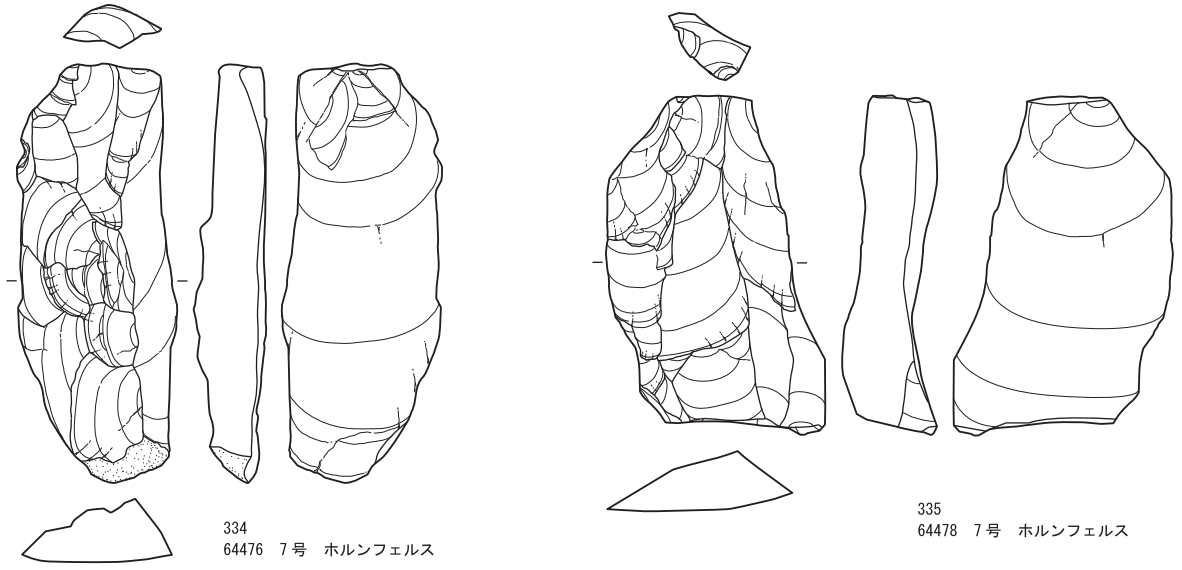
**礫器 (342)**

1点出土した。輝石安山岩の板状の亜角礫を素材とし、下縁から右側縁にかけて刃部加工を施してい



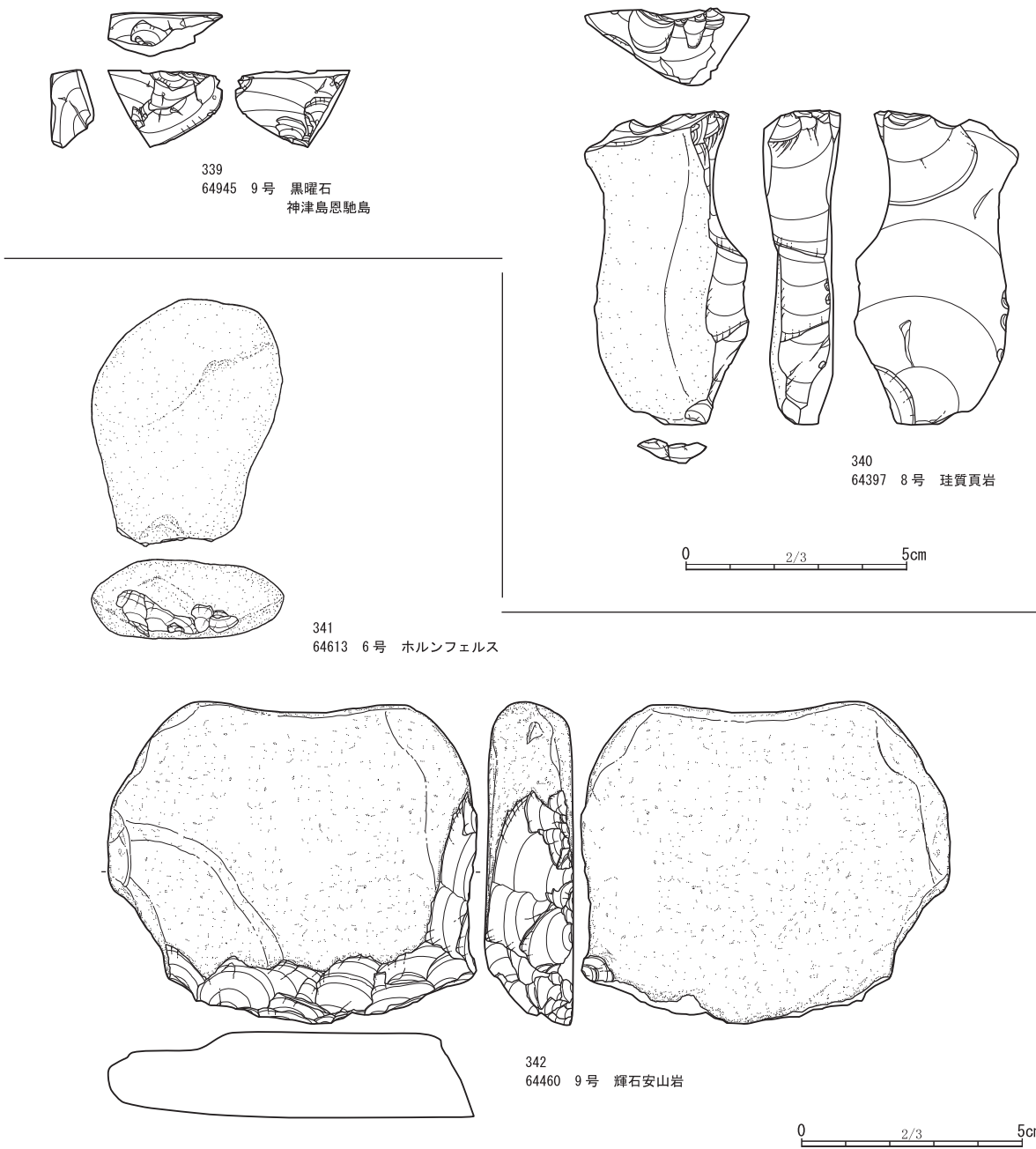
0 2/3 5cm

第249図 第XVII文化層中央尾根（北） 石器集中（1）

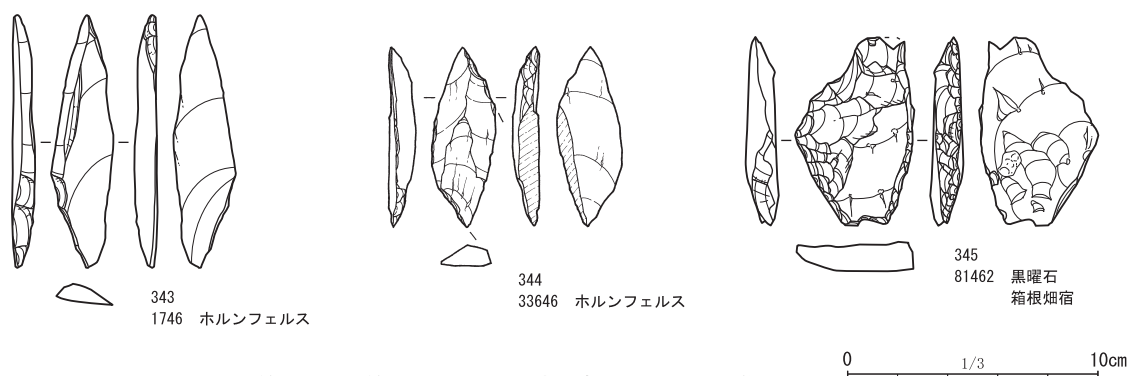


第250図 第XVII文化層中央尾根（北） 石器集中（2）

0 2/3 5cm



第251図 第XVII文化層中央尾根（北） 石器集中（3）



第252図 第XVII文化層中央尾根（北） 石器集中外

る。

(3) 石器集中外の出土石器 (第252図)

ナイフ形石器3点、二次加工剥片1点、剥片5点が出土した。ナイフ形石器のみ図示した(343~345)。

343はホルンフェルスの石刃製で、右側縁先端部と左側縁基部を二次加工している。344はホルンフェルス製で、一部欠損しているが二側縁加工であったと推定される。345は箱根畑宿産黒曜石製で、素材を横位に用い、左側縁に打面を残してその対辺に背部加工を施している。

5. 中央尾根(南)の遺物群

(1) 遺物の分布(第238・239図)

S~W-16~20グリッド付近に分布する遺物群で、10~17号石器集中、24~29・55号礫群などが含まれる。石器115点、礫110点が出土した(表106・115)。

10号石器集中(第253・254図、表107)

W-17グリッド周辺で出土した石器35点から成る。出土層位は主に休場層下位で、10点が休場層中位、6点が休場層上位出土である。南北15m程度の範囲を石器集中に含めたが、石器は特に西側に密集し、この部分に24号礫群が重複する。また、東側に25号礫群が重複して分布する。石器はホルンフェルス製22点、黒曜石(諏訪星ヶ台産10点、蓼科冷山産1点)製11点、珪質頁岩製、珪質シルト岩製各1点で、搔器1点、削器2点、楔形石器1点、二次加工剥片2点が含まれる。

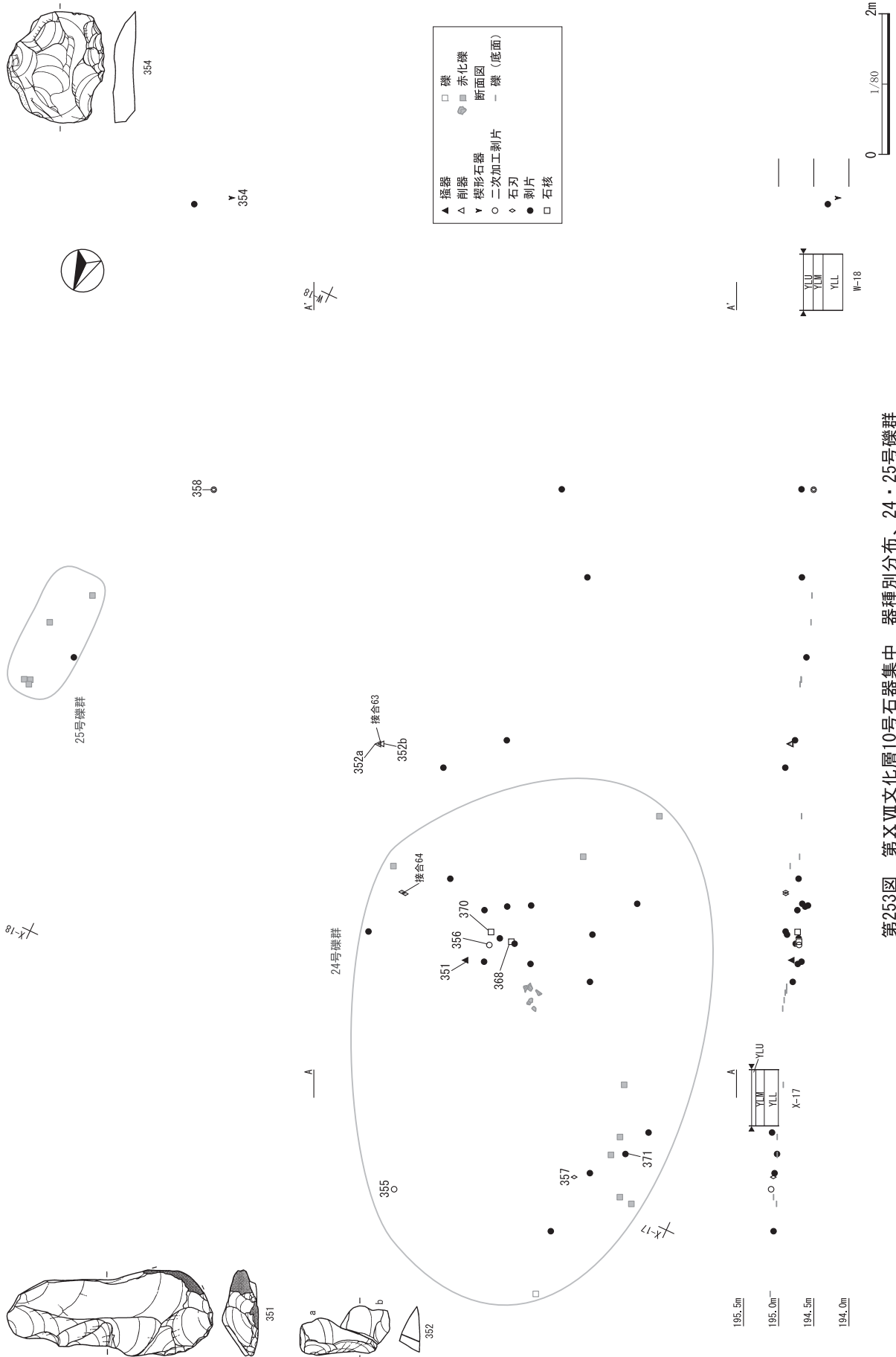
11号石器集中(第255・256図、表108)

10号石器集中の東側、W-18グリッド北東部周辺で出土した石器8点から成る。出土層位は休場層下

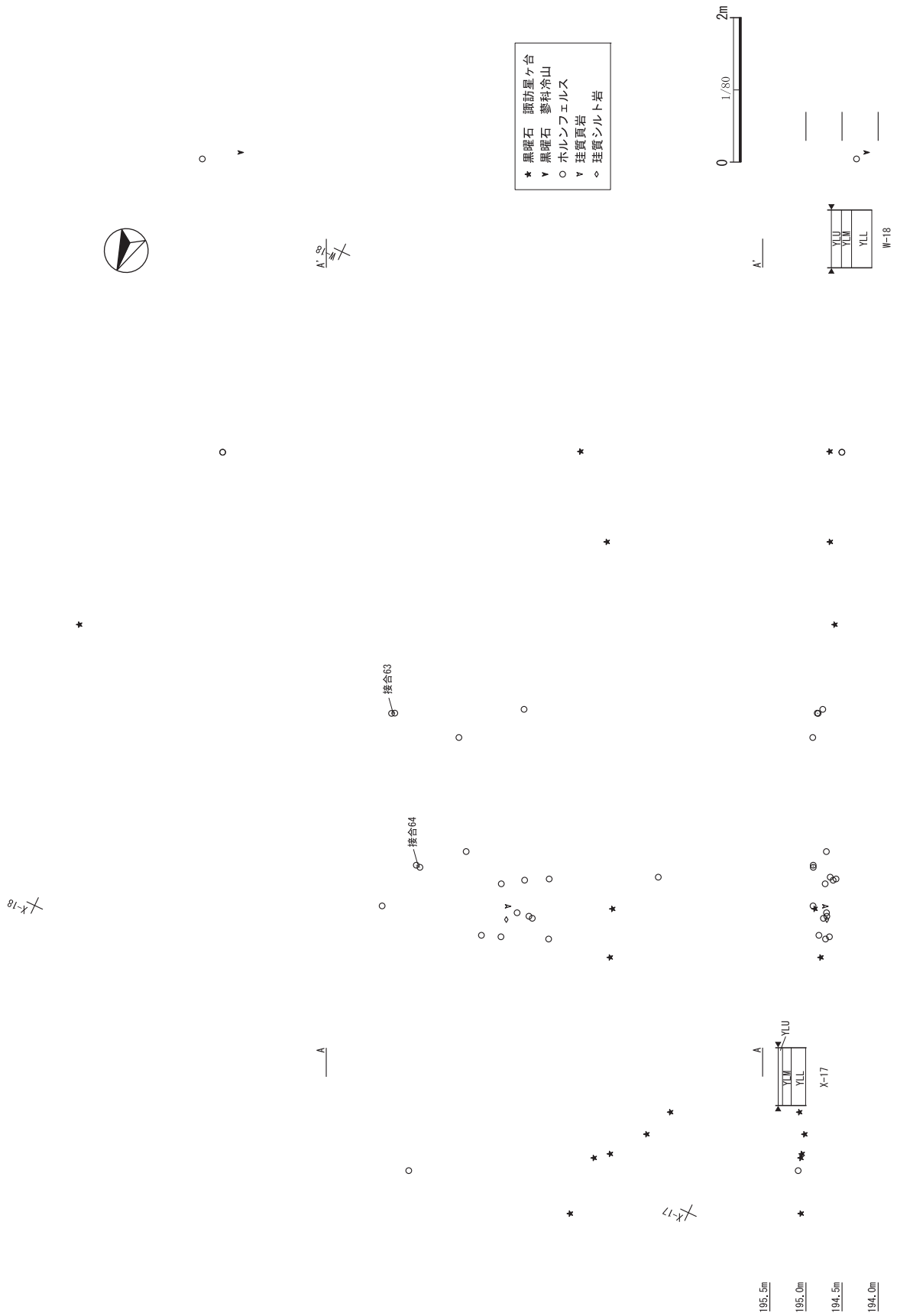
表106 第XVII文化層中央尾根(南) 石器組成

	尖頭器	ナイフ形石器	切出形石器	搔器	削器	楔形石器	二次加工剥片	石刃	剥片	石核	礫器	敲石	計
黒曜石	和田鷹山		2(1)										2(1)
	和田土屋橋北							1					1
	諏訪星ヶ台	1	2			3		1(1)	11(1)	2			20(2)
	蓼科冷山		1			1							2
	箱根畑宿								6	1			7
	天城柏峠			1					1				2
	神津島恩馳島									1			1
	産地不明								1(1)				1(1)
黒曜石計	1	5(1)	1		3	1	2(1)	19(2)	4			36(4)	
ガラス質黒色安山岩		1											1
ホルンフェルス		3		1	2		1	16	41	2			66
硬質頁岩					1								1
珪質頁岩										1			1
珪質シルト岩							1		1				2
硬質細粒凝灰岩									1				1
流紋岩									1				1
細粒安山岩									2				2
角閃石安山岩												2	2
輝石安山岩											1		1
多孔質玄武岩												1	1
計	1	9(1)	1	1	6	1	2	18(1)	65(2)	7	1	3	115(4)

括弧内は全体数の内、微細剥離痕のあるものの点数。



第253图 第XVII文化層10号石器集中 器種別分布、24・25号礫群



第254図 第Ⅶ文化層10号石器集中 石材別分布



表107 第XVII文化層10号石器集中 石器組成

	搔器	削器	楔形石器	二次加工剥片	石刃	剥片	石核	計
黒曜石	諏訪星ヶ台				1(1)	9(1)		10(2)
	蓼科冷山		1					1
	黒曜石計		1		1(1)	9(1)		11(2)
ホルンフェルス	1	2		1	3	14	1	22
珪質頁岩							1	1
珪質シルト岩				1				1
計	1	2	1	2	4(1)	23(1)	2	35(2)

括弧内は全体数の内、微細剥離痕のあるものの点数。

表108 第XVII文化層11号石器集中 石器組成

	ナイフ形石器	石刃	剥片	敲石	計
黒曜石			1(1)		1(1)
産地不明					
ホルンフェルス	1	1	4		6
多孔質玄武岩				1	1
計	1	1	5(1)	1	8(1)

括弧内は全体数の内、微細剥離痕のあるものの点数。

表109 第XVII文化層12号石器集中 石器組成

	石刃	剥片	石核	計
黒曜石	諏訪星ヶ台		1	1
	箱根畑宿		3	4
	黒曜石計		3	5
ホルンフェルス	1			1
計	1	3	2	6

表110 第XVII文化層13号石器集中 石器組成

	ナイフ形石器	石刃	剥片	計
黒曜石			1	1
箱根畑宿				
ガラス質黒色安山岩	1			1
ホルンフェルス	1	5	2	8
計	2	5	3	10

表111 第XVII文化層14号石器集中 石器組成

	剥片	計
ホルンフェルス	3	3
計	3	3

表112 第XVII文化層15号石器集中 石器組成

	ナイフ形石器	削器	剥片	計
黒曜石	和田鷹山	1		1
	諏訪星ヶ台		1	1
	黒曜石計	1	1	2
ホルンフェルス			2	2
珪質シルト岩			1	1
硬質細粒凝灰岩			1	1
計	1	1	4	6

表113 第XVII文化層16号石器集中 石器組成

	切出形石器	石刃	剥片	計
黒曜石			1	2
天城柏峠	1			
ホルンフェルス		2	1	3
計	1	2	2	5

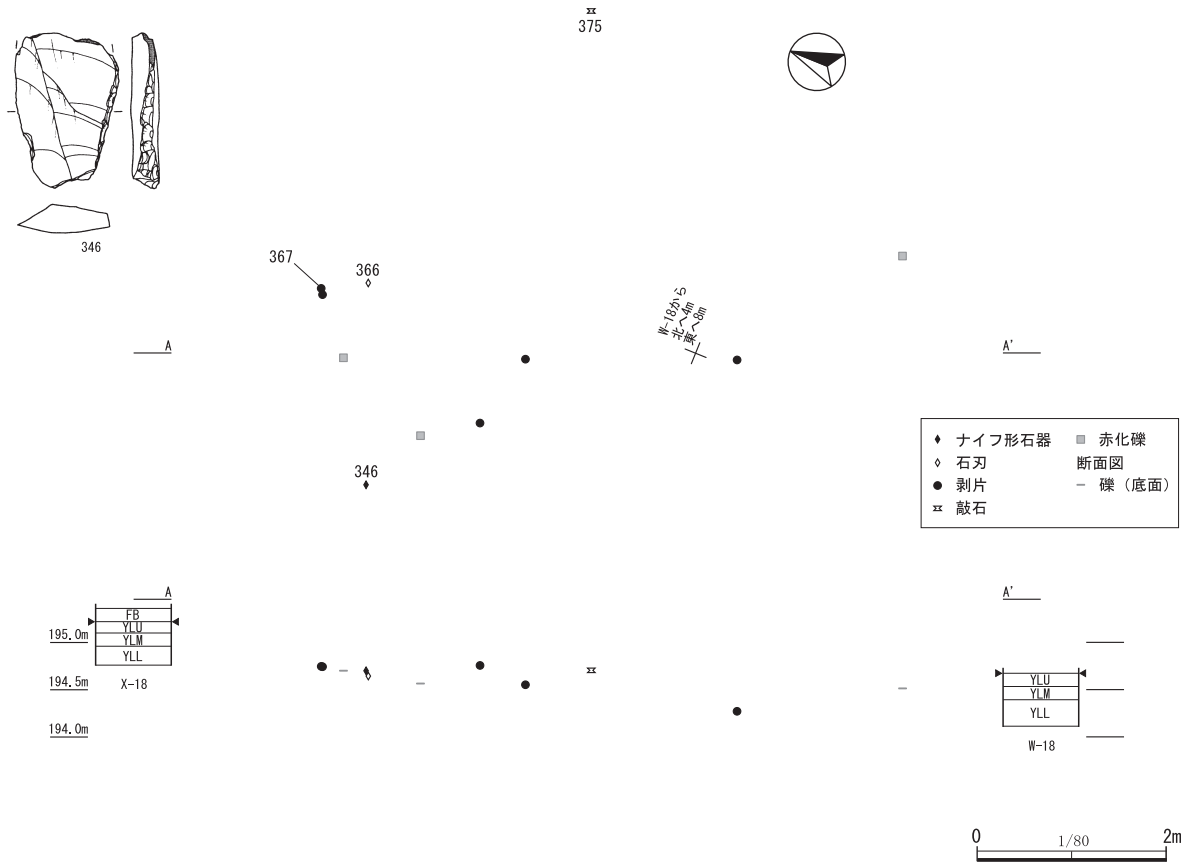
表114 第XVII文化層17号石器集中 石器組成

	剥片	石核	敲石	計
ホルンフェルス	3	1		4
細粒安山岩	2			2
角閃石安山岩			2	2
計	5	1	2	8

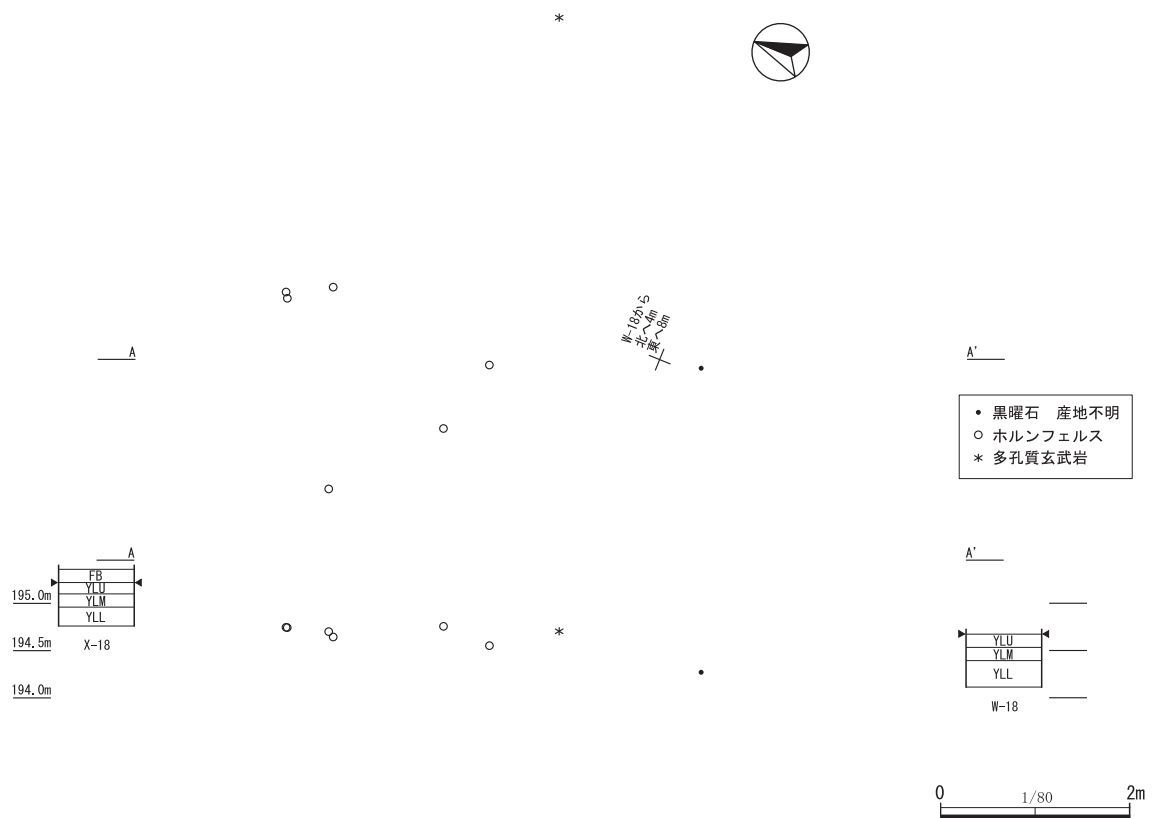
表115 第XVII文化層中央尾根(南) 礫群属性

礫群番号	構成礫数	赤化					形態			石材						
		完形		非完形			垂角	垂円	円	安山岩	輝石	安山岩	多孔質	玄武岩	玄武岩	多孔質
		非赤化	赤化	非赤化	赤化1	赤化2										
24号	14		5	1	7	1	11	3		3	1	5	5			
25号	5		3		2		4	1		1		1	3			
26号	5				5		5			3			2			
27号	5		1		4		1	4		1	1	1	2			
28号	31		4		27		28	3		15	4	4	8			
29号	15		4		7	4	12	2	1	6	5		4			
55号	6		1		5		5	1		4		2				
遺構外	29	3	13		13		18	7	4	10	3	6	10			

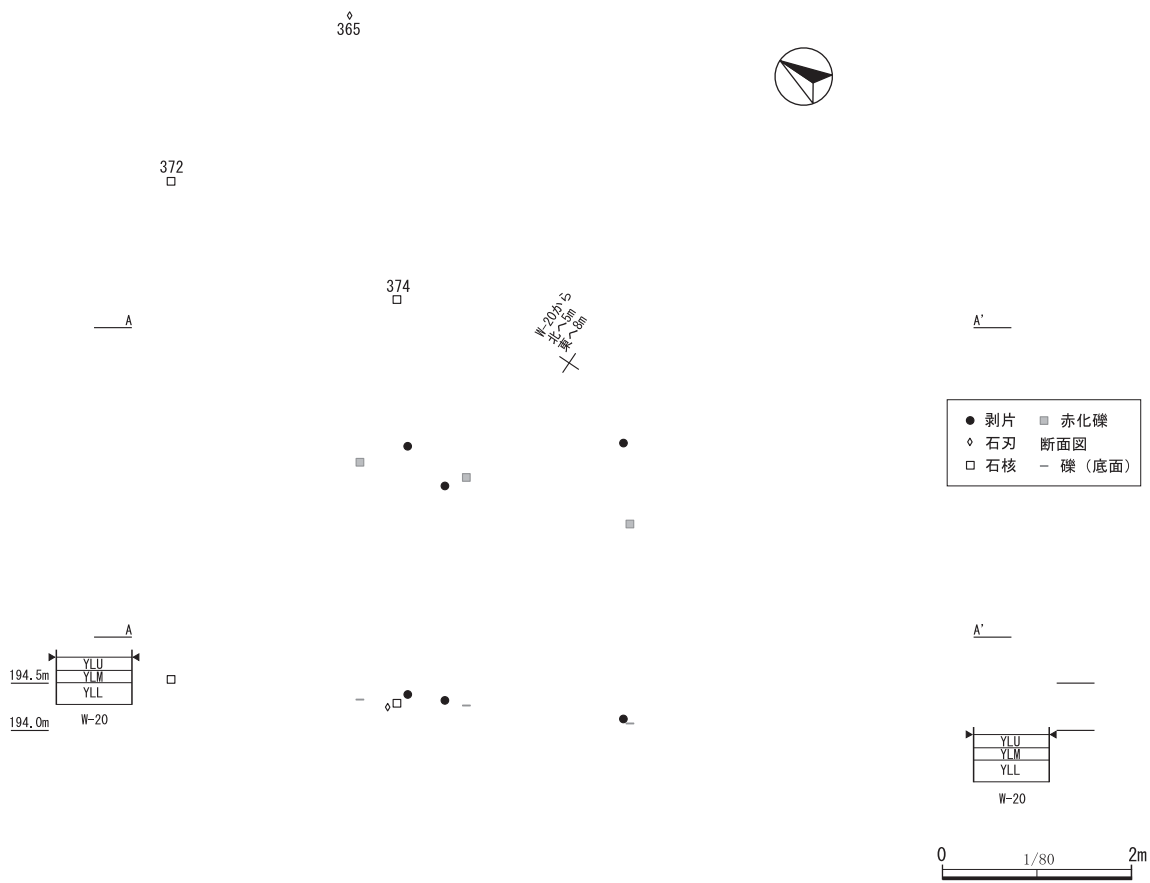
赤化1: 全面が赤化 赤化2: 礫の外皮のみ赤化



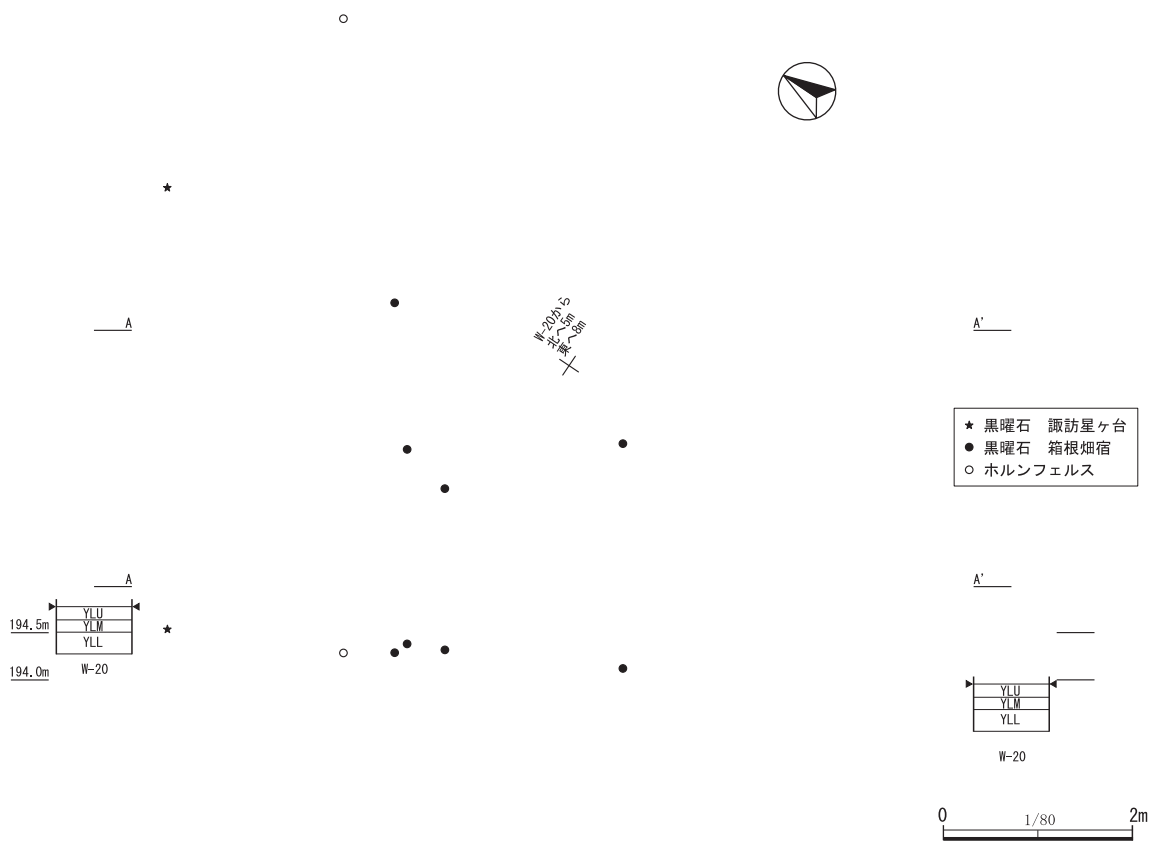
第255図 第XVII文化層11号石器集中 器種別分布



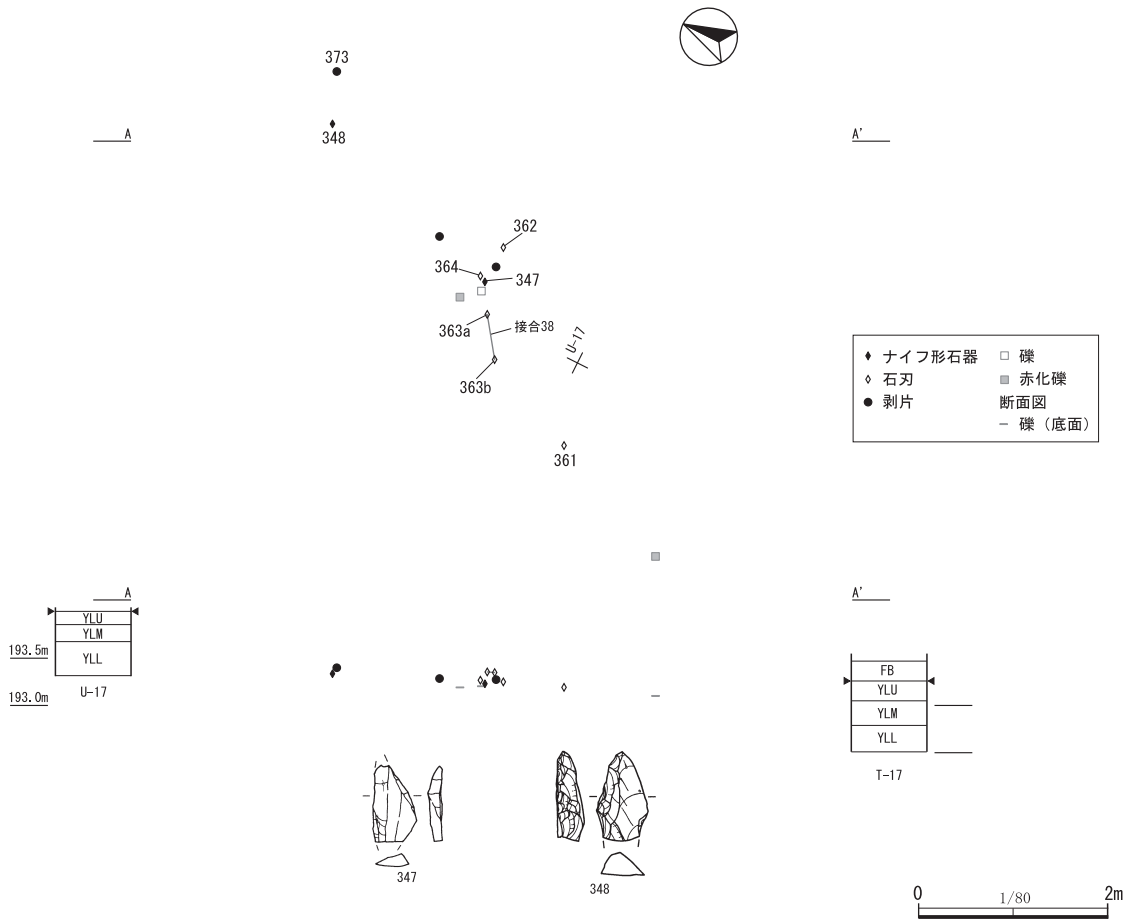
第256図 第XVII文化層11号石器集中 石材別分布



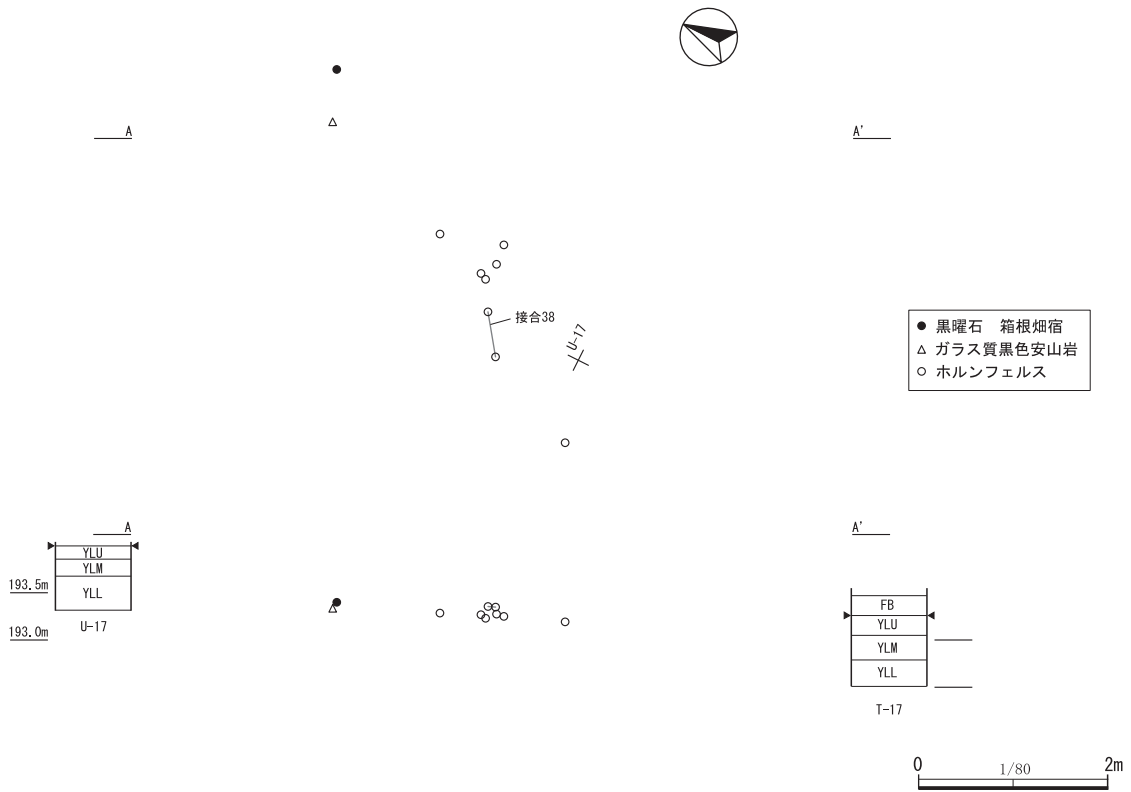
第257図 第XVII文化層12号石器集中 器種別分布



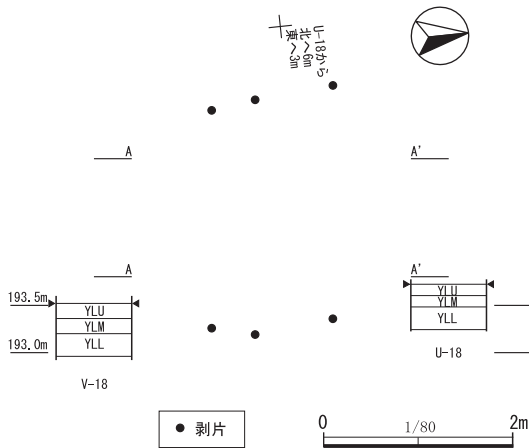
第258図 第XVII文化層12号石器集中 石材別分布



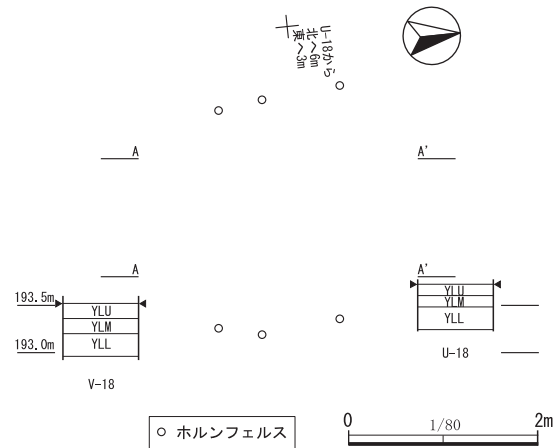
第259図 第XVII文化層13号石器集中 器種別分布



第260図 第XVII文化層13号石器集中 石材別分布



第261図 第XVII文化層14号石器集中  
器種別分布



第262図 第XVII文化層14号石器集中  
石材別分布

位から中位である。石器はホルンフェルス製6点、黒曜石（産地不明）製、多孔質玄武岩製各1点で、ナイフ形石器、敲石各1点が含まれる。

12号石器集中（第257・258図、表109）

W-20グリッド東側で出土した石器6点から成る。出土層位は調査時の記録によると主に休場層中位で、1点が休場層下位出土である。石器は黒曜石（箱根畑宿産4点、諏訪星ヶ台産1点）製5点、ホルンフェルス製1点で、剥片類と石核から成る。

13号石器集中（第259・260図、表110）

U-17グリッド南西部周辺で出土した石器10点から成る。出土層位は休場層下位から中位である。径約5mの範囲を石器集中としたが、特に径1.5mの範囲にまとまる。中心部で礫2点が出土しており、うち1点は被熱した大型亜角礫（長径23.9cm・重量3.5kg）である。石器はホルンフェルス製8点、箱根畑宿産黒曜石製、ガラス質黒色安山岩製各1点で、ナイフ形石器2点が含まれる。

14号石器集中（第261・262図、表111）

U-18グリッドから出土した石器3点から成る。出土層位は休場層下位である。石器はホルンフェルス製剥片3点である。

15号石器集中（第263・264図、表112）

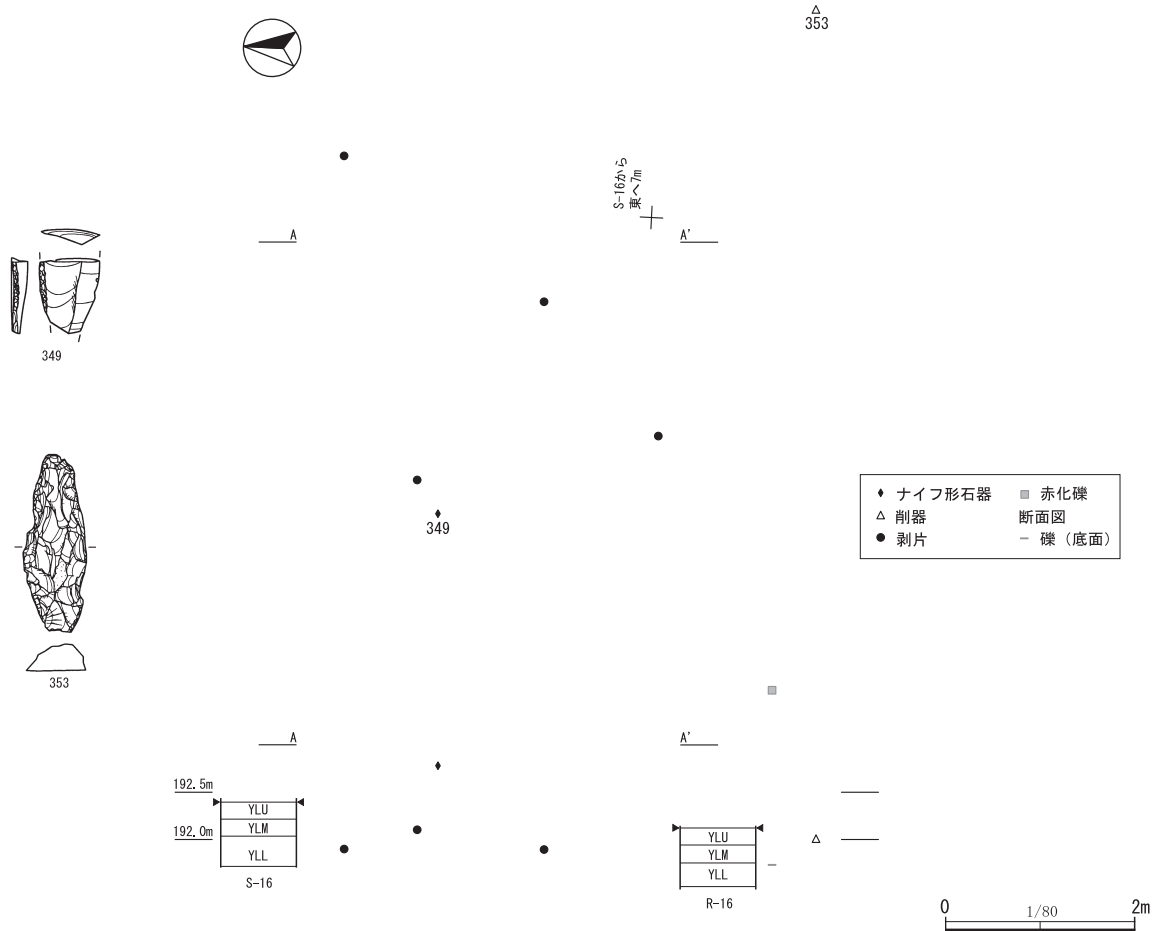
R・S-16グリッドにかけて出土した石器6点から成る。石器はホルンフェルス製2点、諏訪星ヶ台産・和田鷹山産黒曜石製、珪質シルト岩製、硬質細粒凝灰岩製各1点で、ナイフ形石器、削器各1点が含まれる。出土層位は主に休場層中位であるが、ナイフ形石器は黒色土層（6層）、削器は富士黒土層出土である。

16号石器集中（第265・266図、表113）

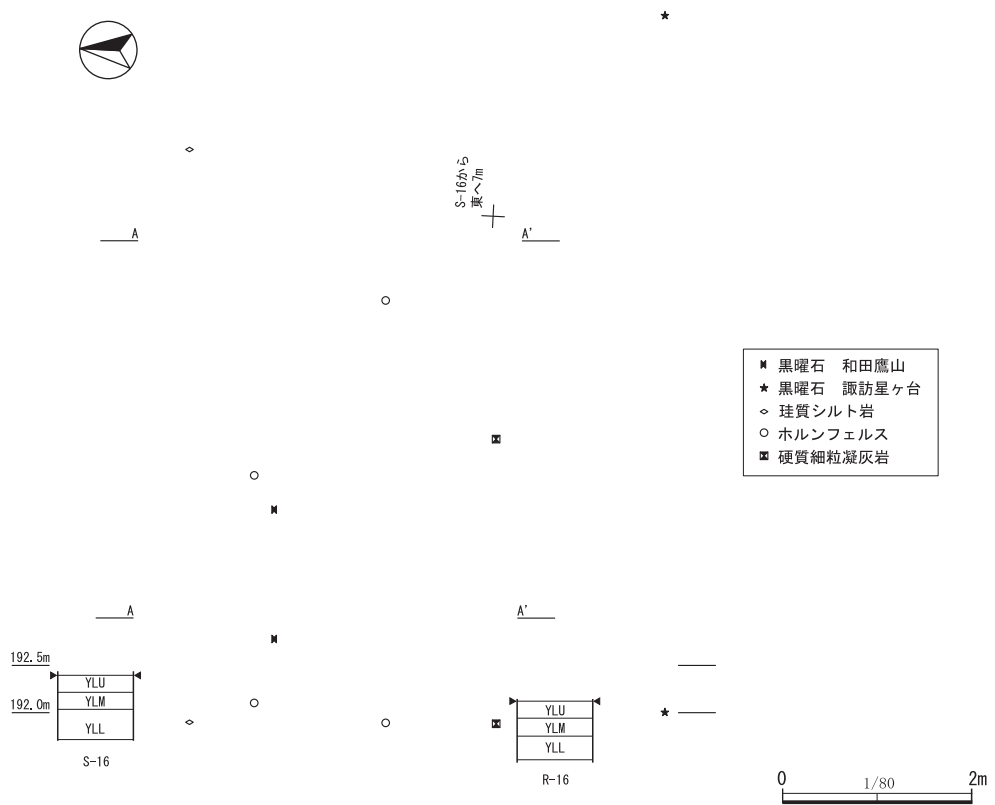
S-17グリッドで出土した石器5点から成る。28号礫群と重複し、出土層位は休場層下位中心で、休場層直下黒色帯、休場層中位からも1点ずつ出土した。石器はホルンフェルス製3点、天城柏峠産黒曜石製2点で、切出形石器1点が含まれる。

17号石器集中（第267・268図、表114）

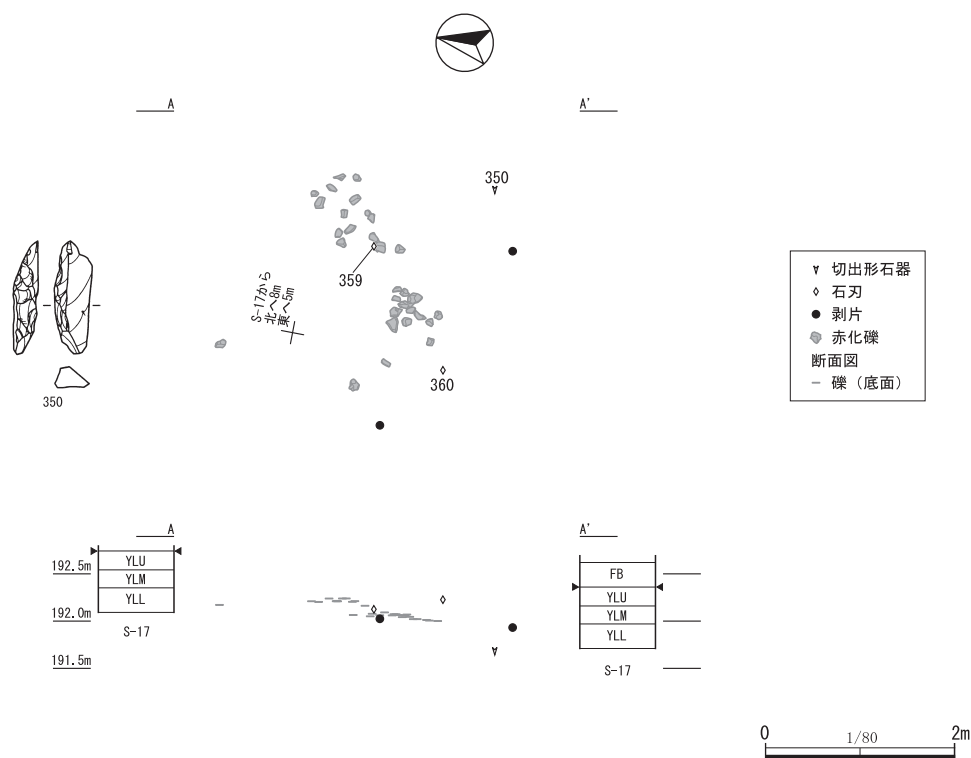
S-18グリッドで出土した石器8点から成り、29号礫群と重複する。出土層位は主に休場層中位で、2点が休場層上位から出土した。石器はホルンフェルス製4点、細粒安山岩製、角閃石安山岩製各2点で、敲石2（接合により1）点が含まれる。



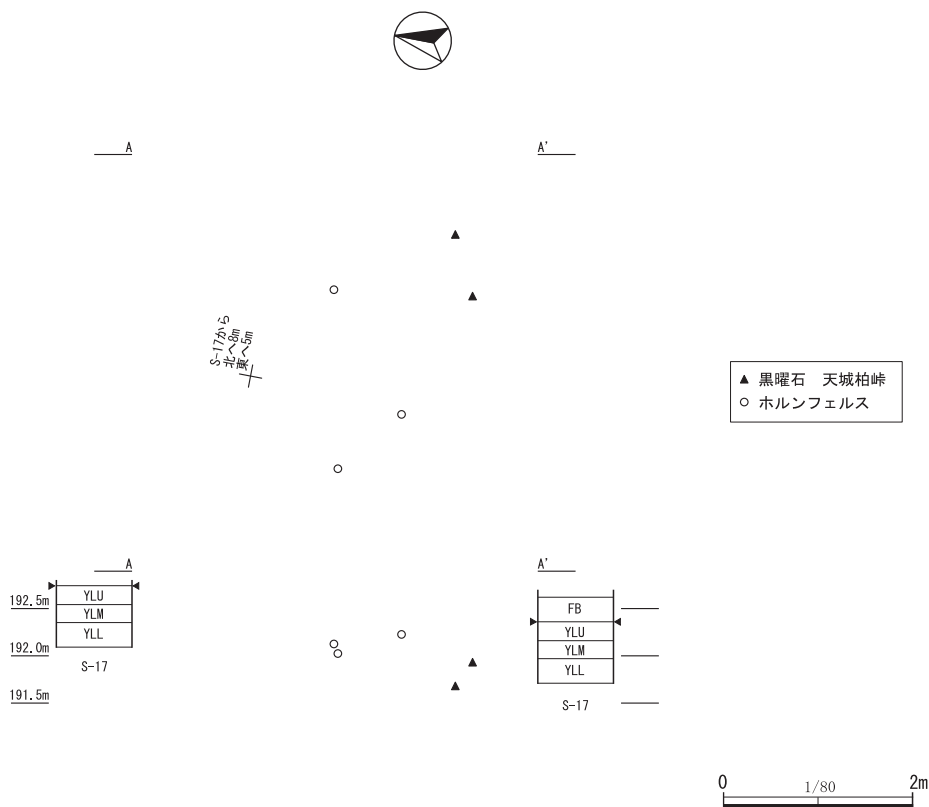
第263図 第XVII文化層15号石器集中 器種別分布



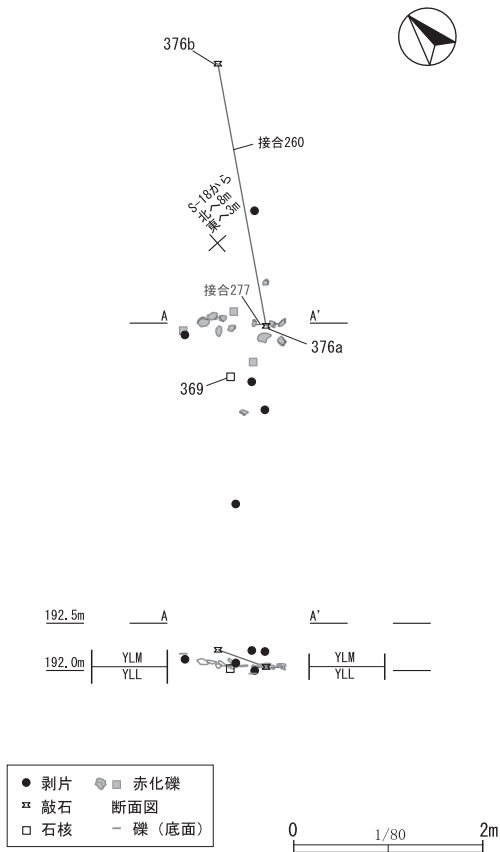
第264図 第XVII文化層15号石器集中 石材別分布



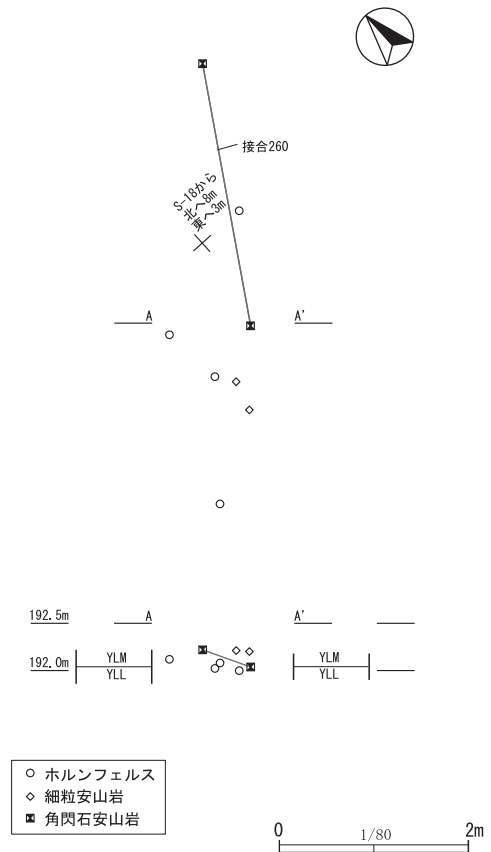
第265図 第XVII文化層16号石器集中 器種別分布、28号礫群



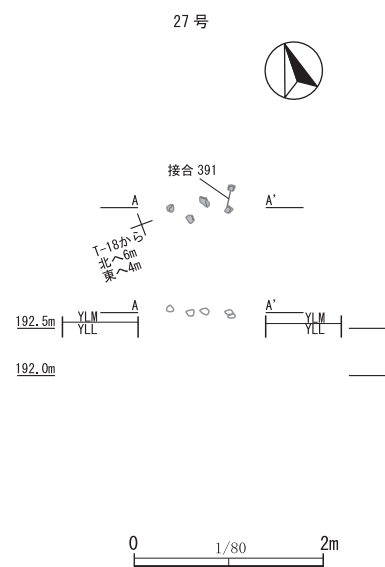
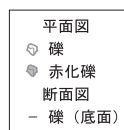
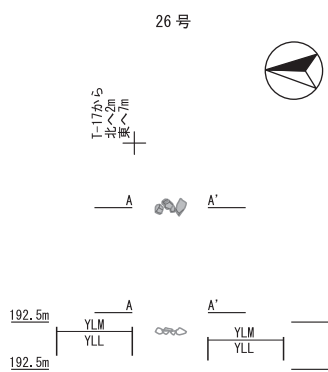
第266図 第XVII文化層16号石器集中 石材別分布



第267図 第XVII文化層17号石器集中器種別分布、29号礫群

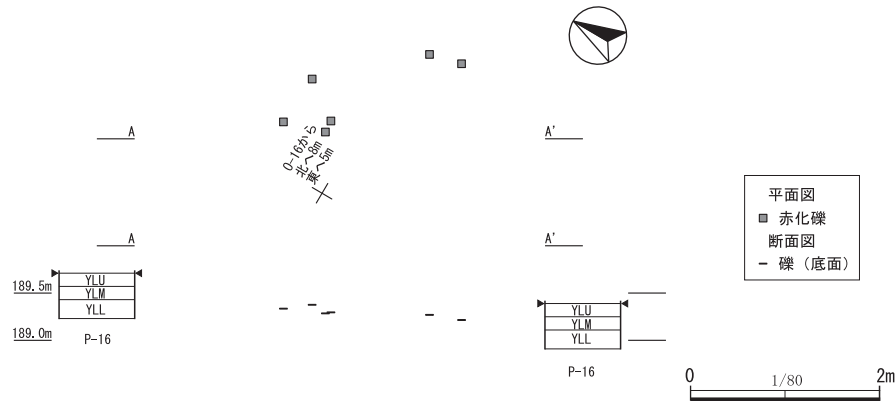


第268図 第XVII文化層17号石器集中石材別分布



第269図 第XVII文化層26・27号礫群





第270図 第XVII文化層55号礫群

24号礫群 (第253図、表115)

W-17グリッド北西側を中心に出土した礫14点から成り、うち13点に被熱の痕跡が認められた。出土層位は調査時の記録によると休場層上位である。5点が径0.5mの範囲にまとまっているが、その周辺を含めて径7mの範囲を礫群としてまとめた。礫の大きさは平均で長径8.4cm・重量0.17kgである。

25号礫群 (第253図、表115)

W-18グリッド西部で出土した被熱礫5点から成る。出土層位は休場層下位である。礫は南北1.5m程度の範囲に分布し、大きさの平均は長径8.5cm・重量0.20kgである。

26号礫群 (第269図、表115)

T-17グリッド南部で出土した被熱礫5点から成る。出土層位は休場層中位で、径0.4m程度の範囲に固まって分布する。礫の大きさは平均で長径11.2cm・重量0.38kgである。

27号礫群 (第269図、表115)

T-18グリッドで出土した被熱礫5点から成る。出土層位は休場層中位で、径0.8m程度の範囲に分布する。礫の大きさは平均で長径9.0cm・重量0.26kgである。

28号礫群 (第265図、表115)

S-17グリッド北側で出土した被熱礫31点から成る。出土層位は休場層下位から中位である。礫の分布は、径1m程度の2つのまとまりから成るようである。西側のまとまりの長径17.0cm・重量1.0kgの礫が最大で、全体の大きさの平均は長径11.1cm・重量0.34kgである。

29号礫群 (第267図、表115)

R-18グリッド北西側から出土した被熱礫15点から成る。出土層位は調査時の記録によると主に休場層中位で、1点のみ休場層上位出土である。礫の大きさは平均で長径9.9cm・重量0.25kgである。

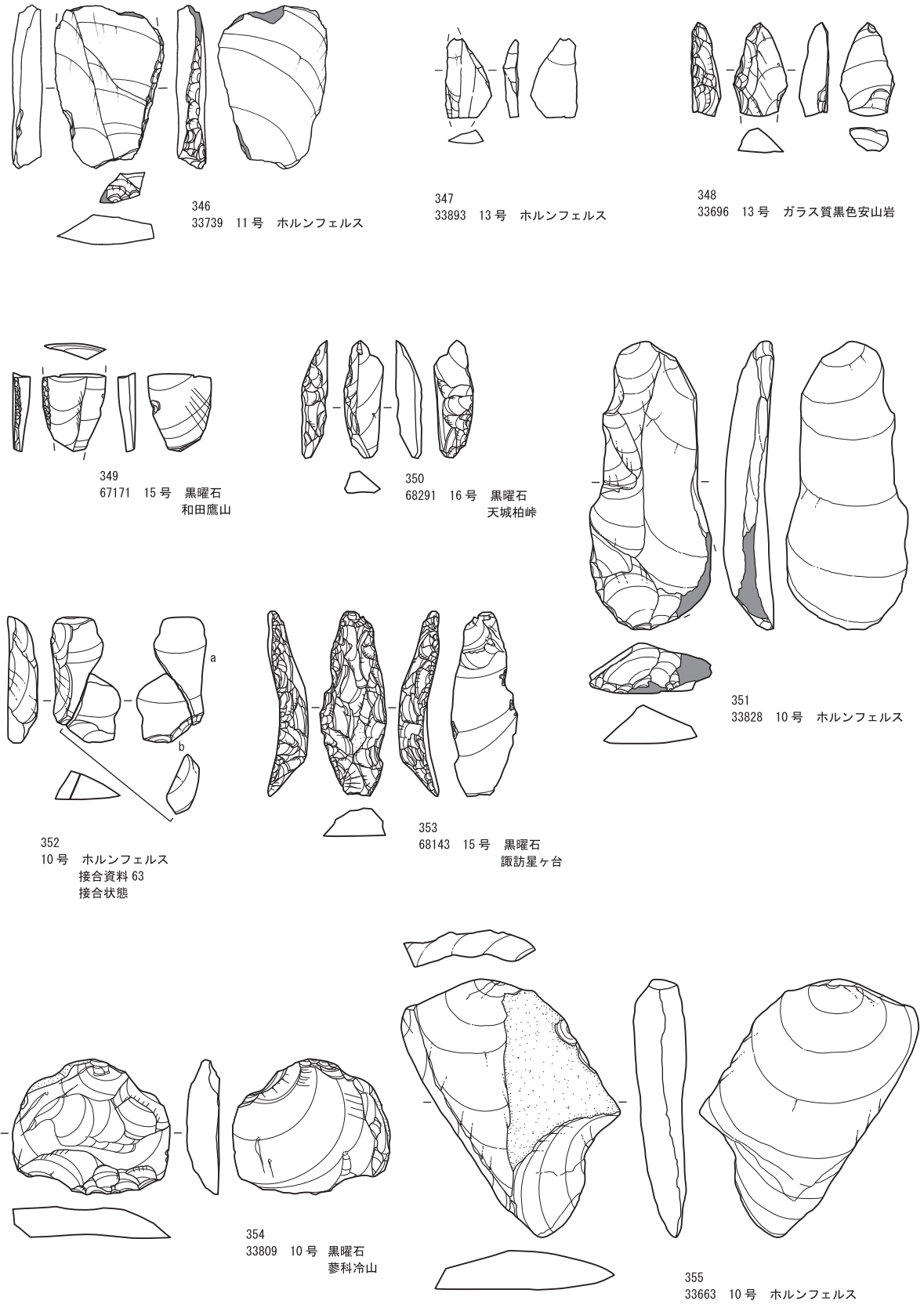
55号礫群 (第270図、表115)

O-16グリッド北東部で出土した被熱礫6点から成る。出土層位は休場層中位である。礫の大きさは平均で長径6.4cm・重量0.73kgである。

(2) 10~17号石器集中の出土石器 (第271~274図)

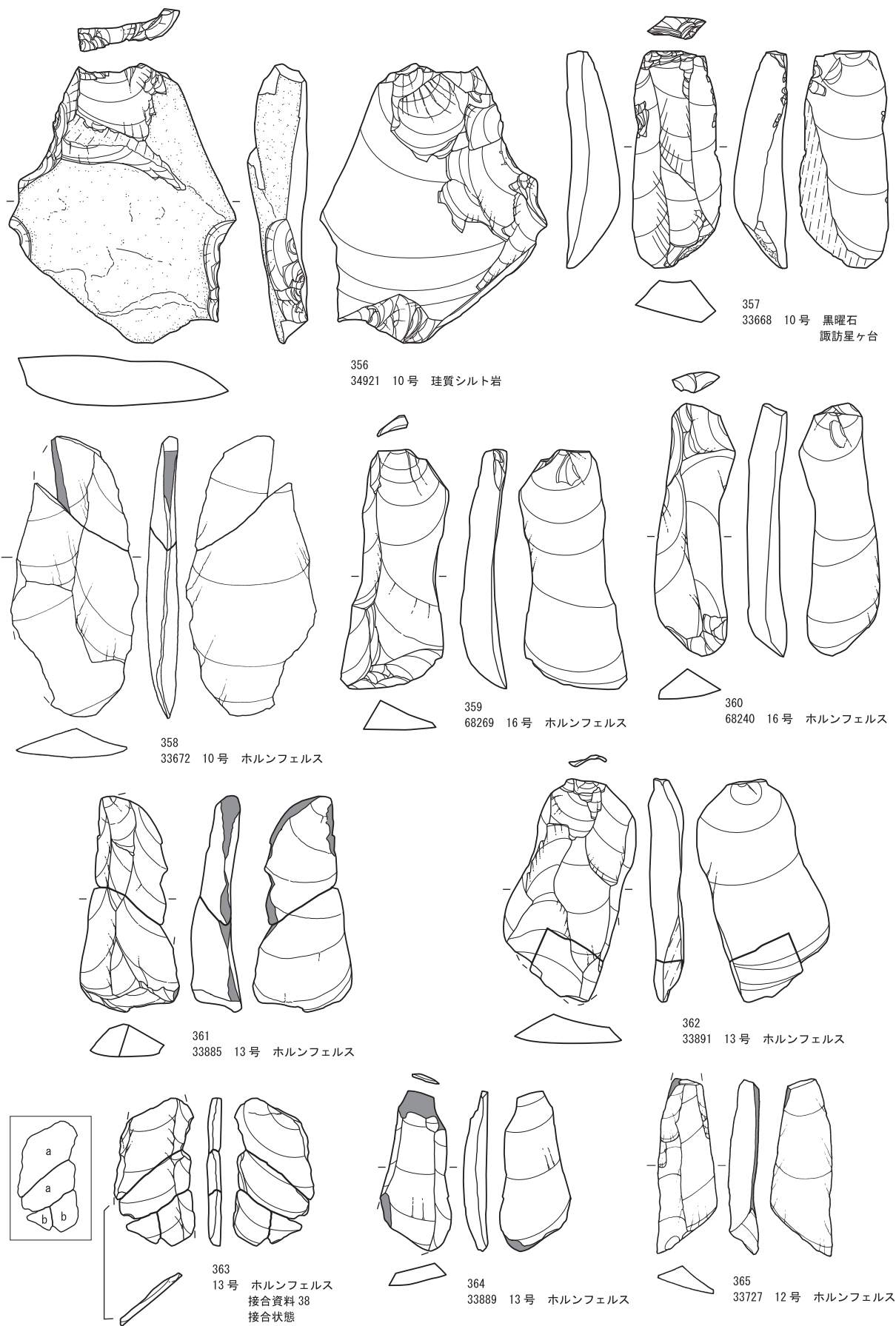
ナイフ形石器 (346~349)

4点出土した。346はホルンフェルス製で、右側縁から基部に急斜度加工され、先端側を欠いている。347はホルンフェルス製で、風化が著しく剥離痕の観察が困難だが急斜度加工で斜めに截断された先端側の破片と見られる。348はガラス質黒色安山岩製で比較的甲高の形態である。349は和田鷹山産黒曜石

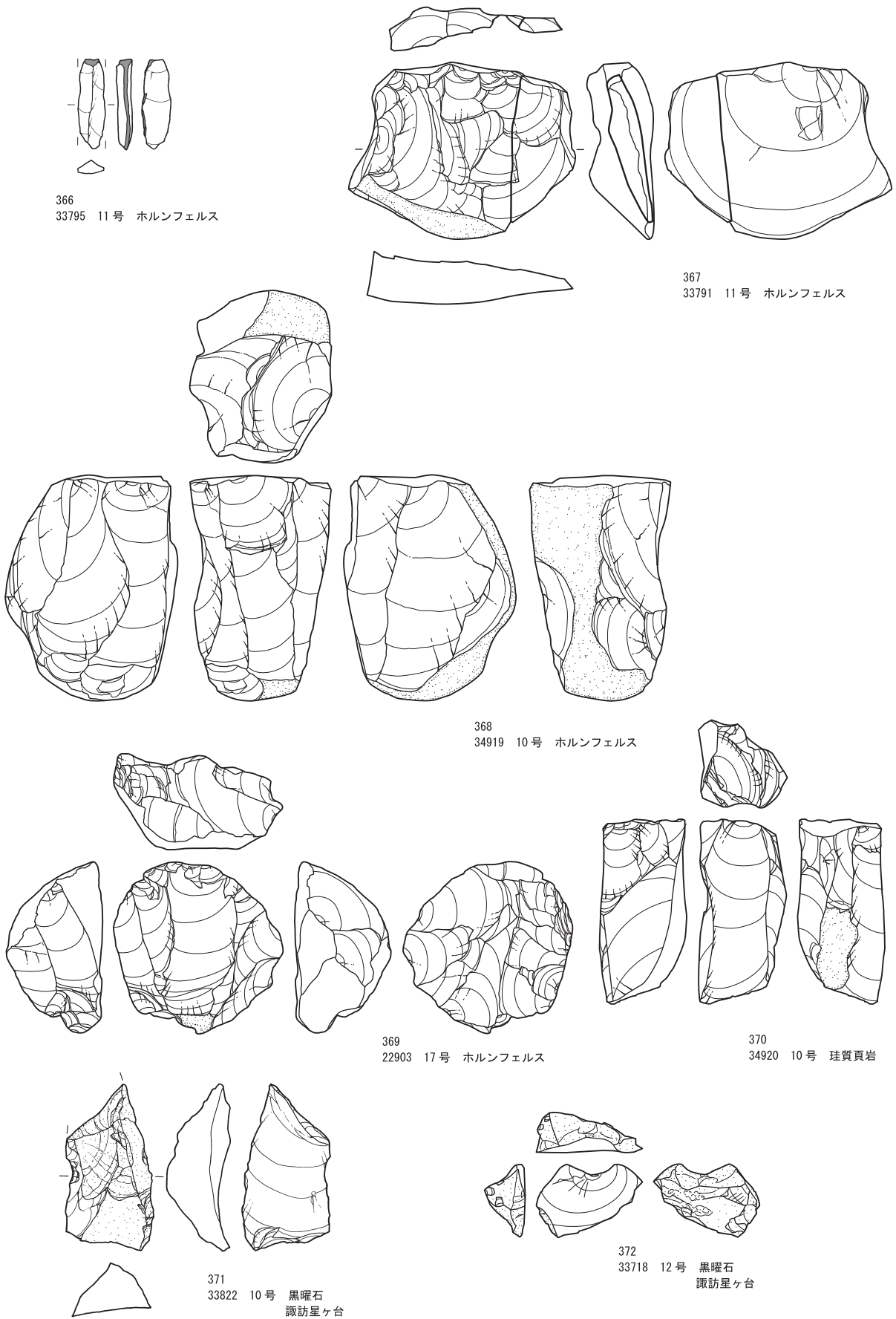


第271図 第ⅤⅦ文化層中央尾根（南） 石器集中（1）

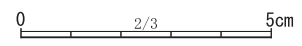
0 2/3 5cm

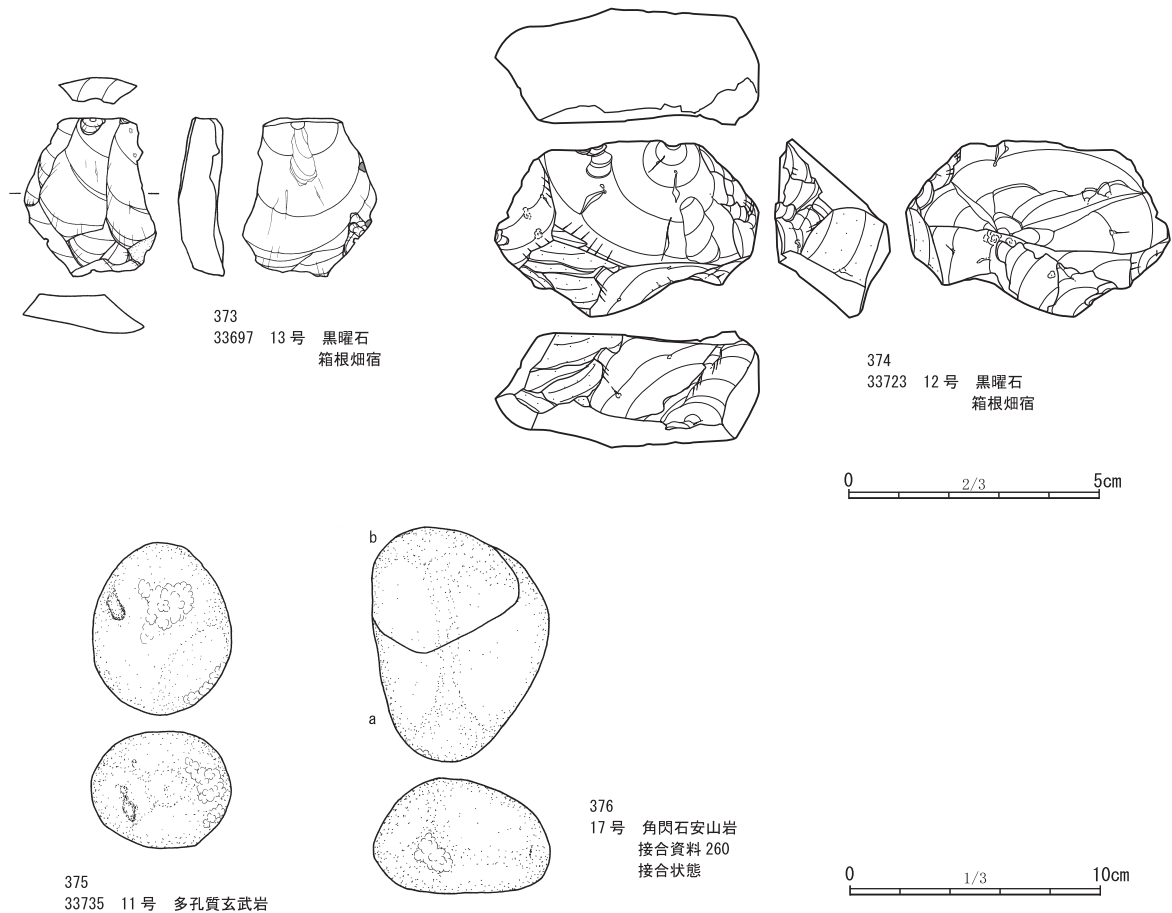


第272図 第XVII文化層中央尾根(南) 石器集中(2)



第273図 第XVII文化層中央尾根(南) 石器集中(3)





第274図 第XVII文化層中央尾根（南） 石器集中（4）

製、石刃素材のものの破片と考えられる。

**切出形石器（350）**

1点出土した。天城柏峠産黒曜石製で、左側縁の対向調整と裏面の平坦剥離によって整形されている。

**搔器（351）**

1点出土した。風化が顕著だがホルンフェルス製の石刃素材で、端部に弧状の刃部を設けている。

**削器（352・353）**

3（接合により2）点出土した。352はホルンフェルス製で風化が著しいが、左側縁に急斜度加工で刃部を設けていた可能性がある。353は諏訪星ヶ台産黒曜石製、剥片素材で両側縁のほぼ全体を加工したものである。

**楔形石器（354）**

1点出土した。蓼科冷山産黒曜石製の剥片素材で、上部と下辺に潰れや剥離痕が認められる。

**二次加工剥片（355・356）**

2点出土した。355はホルンフェルス製の幅広剥片で、右側縁に部分的に剥離痕が認められる。356は珪質シルト岩製で、左側縁上半及び右側縁下半が加工により内湾する形になっていることから削器として利用された可能性が高いが、末端に槓状剥離が施され、左側縁から裏面に平坦加工が入るなど、その他の石器の未製品であった可能性もある。

**剥片類・石核（357～374）**

石刃13（接合により11）点、剥片48点、石核5点が出土した。

357～366は石刃である。357は諏訪星ヶ台産黒曜石製で、右側面に礫面が残っており、石核の側面を取り込んだものと見られる。358～366はホルンフェルス製の石刃である。中央尾根（北）に比べて狭い打面をもつもの（362）、薄手のもの（363・364・366）が含まれている。

367はホルンフェルス製の剥片である。上面、左側面の剥離痕から石核の打面再生剥片であると考えられる。

368・369はホルンフェルス製の石核である。いずれも単設打面で石刃・縦長剥片を剥離しており、作業面が半周以上展開している。370は珪質頁岩製の石核である。石刃・縦長剥片が剥離されており、正面の最終剥離が外反剥離となっている。371・372は諏訪星ヶ台産黒曜石製の剥片及び石核である。石核はかなり小型化したものであるが、371・372のように角礫面が広く残る資料がある。373・374は箱根畑宿産黒曜石製の剥片及び石核である。374は剥片素材石核で、素材腹面を打面としている。

#### 敲石（375・376）

3（接合により2）点出土した。375は多孔質玄武岩の円礫を利用し、下端右側と正面に敲打痕が認められる。376は角閃石安山岩の垂円礫を利用し、下端に敲打痕が認められる。

### （3）石器集中外の出土石器（第275・276図）

石器34点が出土した。

#### 尖頭器（377）

1点出土した。諏訪星ヶ台産黒曜石製の甲高の形態を呈するもので、ほぼ片面加工であるが基部側裏面に平坦加工が入っている。T-15グリッド出土。

#### ナイフ形石器（378～382）

5点出土した。378は和田鷹山産黒曜石製の二側縁加工ナイフ形石器で、背部加工はやや厚く、先端側では対向調整となっている。379は諏訪星ヶ台産黒曜石製の二側縁加工ナイフ形石器の先端から刃部が欠損したものと考えられる。378・379はS-15グリッド出土。380はホルンフェルス製で、石刃の先端部を斜めに截断している。X-19グリッド出土。381は蓼科冷山産黒曜石製、382は諏訪星ヶ台産黒曜石製でいずれも基部側の破片と見られる。381は錯向剥離となっている。381はW-17グリッド（表土一括で正確な出土地点不明）、382はX-19グリッド出土。

#### 削器（383～385）

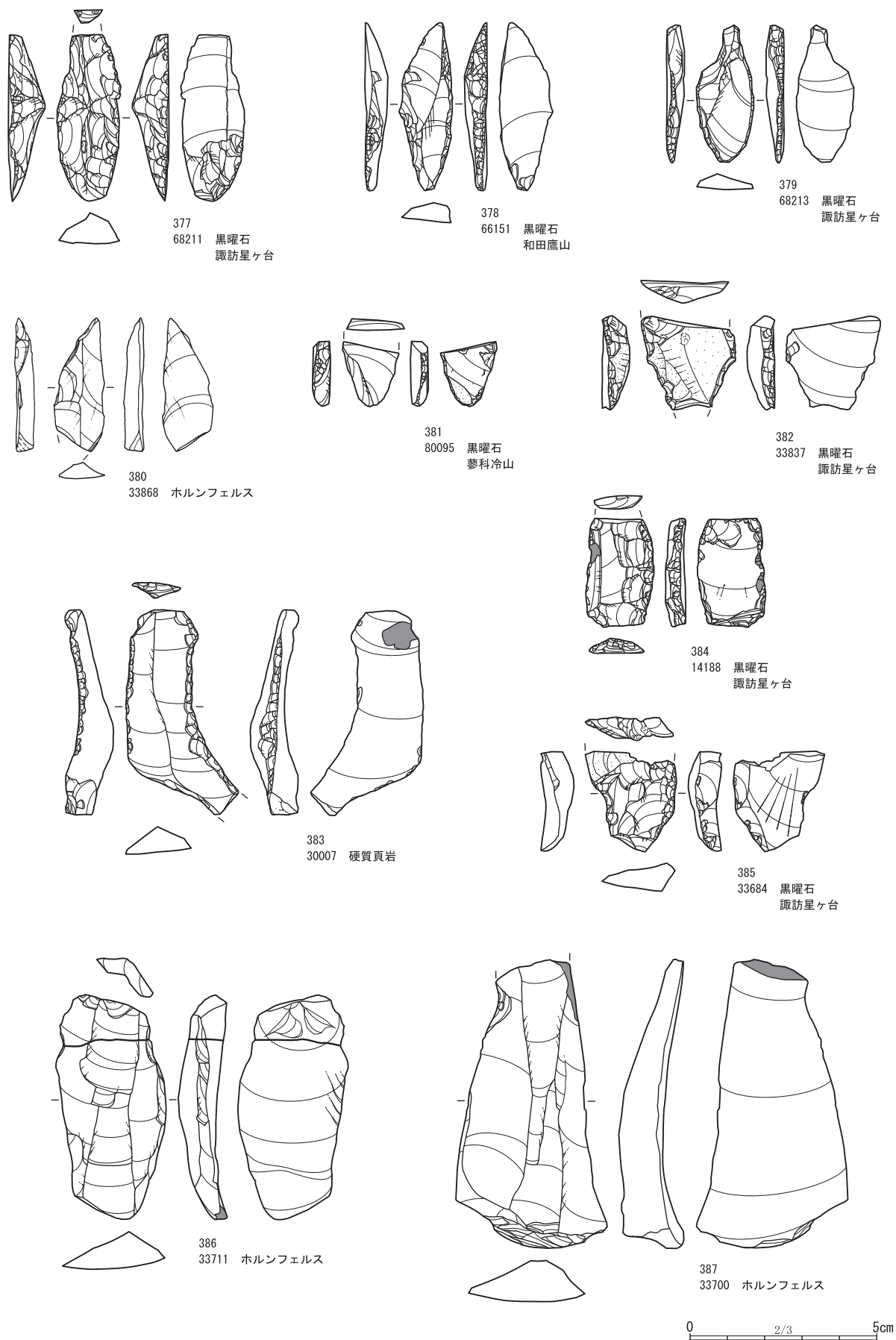
3点出土した。383は硬質頁岩製の石刃の両側縁に二次加工したもので、特に右側縁の加工が深く、内湾する刃部が形成されている。X-19グリッド出土。384は諏訪星ヶ台産黒曜石製で、右側縁に連続的な剥離が加えられ、上下両端が折れ、下面はさらに二次加工されている。尖頭器未製品の可能性も考えられるが、加工が片側縁に集中するため削器として扱った。P-16グリッド出土。385は諏訪星ヶ台産黒曜石製で、左側縁に二次加工で抉入部を設けている他、右側縁の稜上も使用された可能性がある。U-16グリッド出土。

#### 剥片類・石核（386～393）

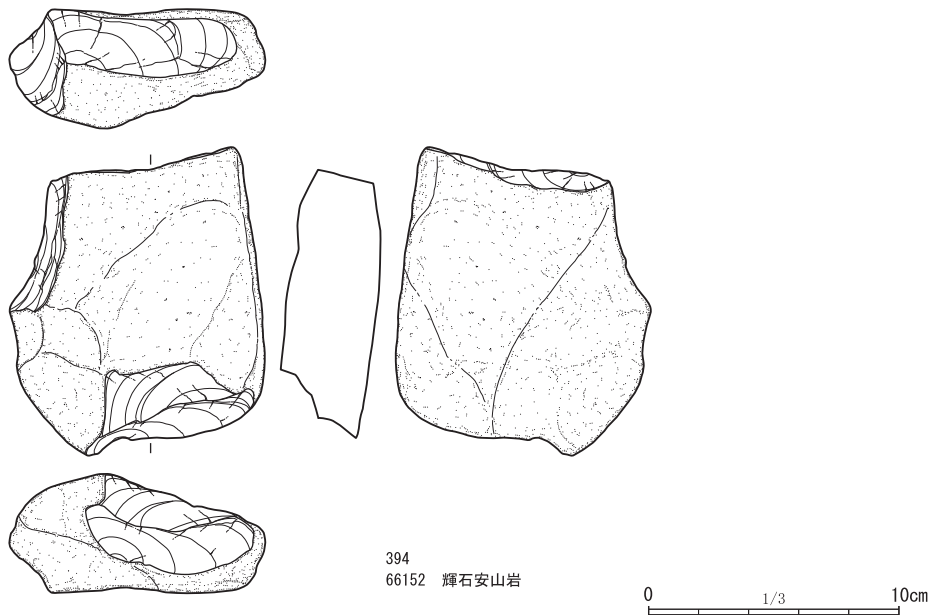
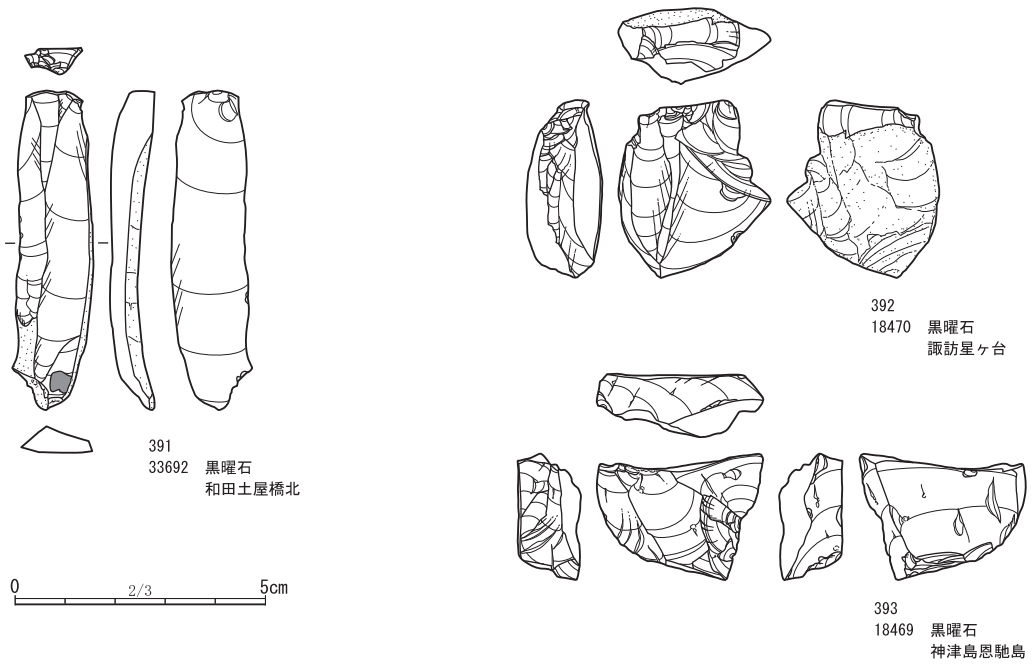
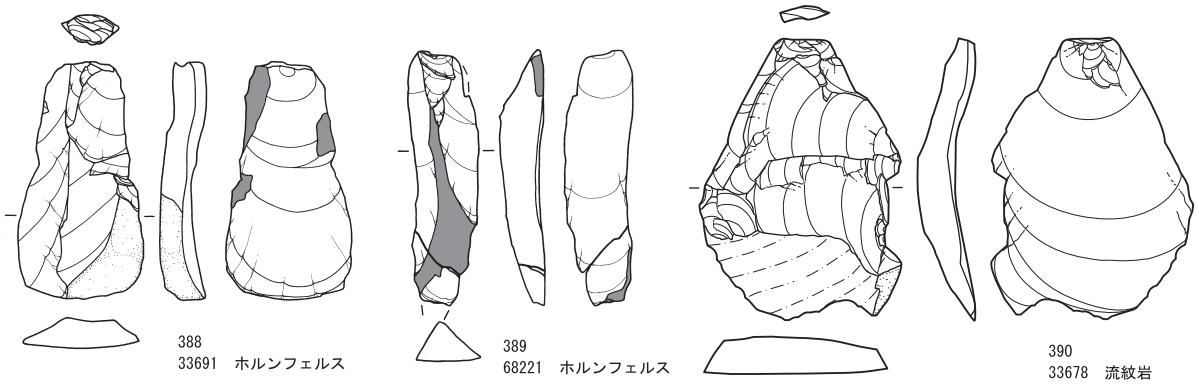
石刃5点、剥片17点、石核2点が出土した。

386～389はホルンフェルス製の石刃である。387は両設打面石核から剥離され末端に石核底面を取り込んでいる。386はV-18グリッド、387はU-17グリッド、388はT-16グリッド、389はT-17グリッド出土。390は流紋岩製の剥片で、単剥離打面で背面は側方からの剥離痕で構成されている。V-17グリッド出土。391は和田土屋橋北産黒曜石製の石刃である。U-16グリッド出土。390・391ともに石材は単体で搬入されたものと見られる。

392は諏訪星ヶ台産黒曜石製の石核である。単剥離打面で裏面に礫面を残す。393は神津島恩馳島産黒

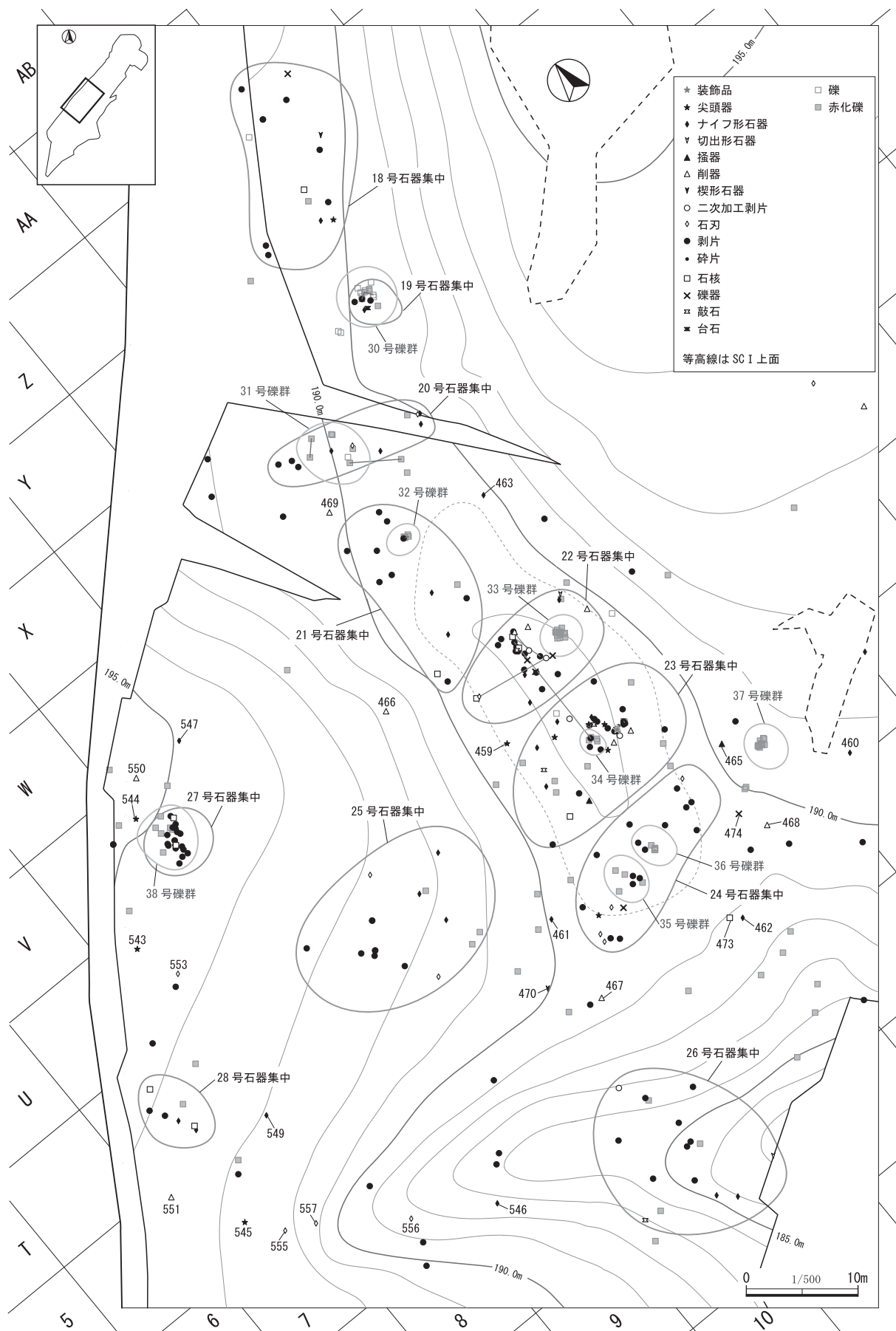


第275図 第XVII文化層中央尾根（南）石器集中外（1）

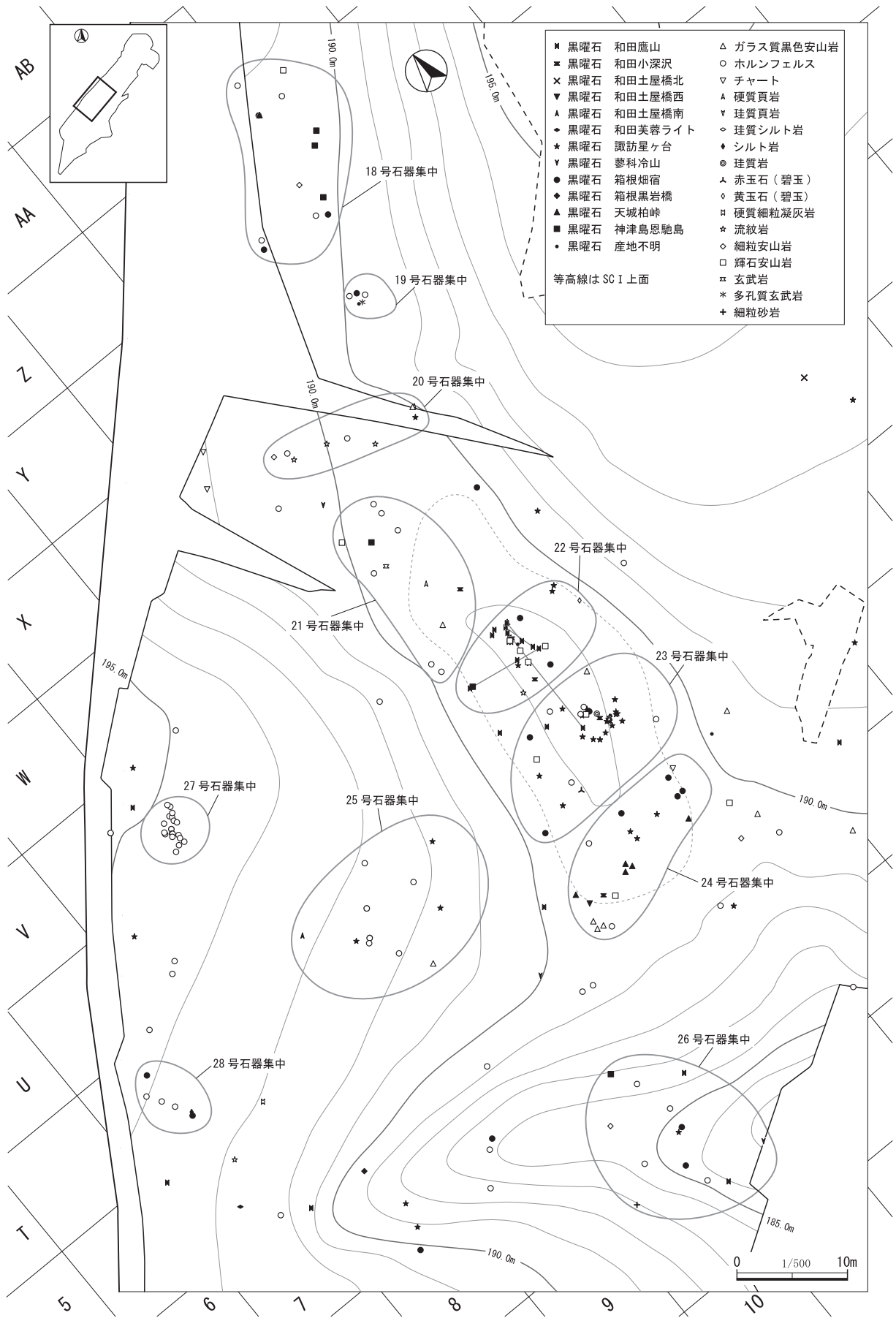


第276図 第Ⅷ文化層中央尾根(南) 石器集中外(2)





第277図 第XVII文化層西支谷・西尾根（北）器種別分布



第278図 第ⅤⅦ文化層西支谷・西尾根（北）石材別分布

曜石製の石核で、作業面は図中の正面に限られ、上面と右側面を打面にして剥片剥離が行われている。392・393ともにP-16グリッド出土。

礫器 (394)

1点出土した。輝石安山岩の扁平な亜円礫の上下両端が加工されている。下端ではやや急斜度の縁辺が作出され、上端では2回の打ち割りで尖った角が作出されている。R-15グリッド出土。

6. 西支谷の遺物群

(1) 遺物の分布 (第277・278図)

東支谷との分水嶺にあたるZ-13グリッド付近から南へ下る支谷とその周辺をまとめる。石器188点(石製品2点を含む)、礫121点が分布している(表116・126)。谷筋に沿って北から南に18~24号石器集中、30~36号礫群が並び、さらに南側の支谷が枝分れする部分に26号石器集中が分布する。また、その周辺の斜面に位置する25号石器集中、37号礫群までを含めた。西支谷では、場所によっては休場層の層厚が1.5mを超えるが、礫群が比較的的に出土したのに対し石器は上下に拡散するように出土し、石器のみでは出土層位が押し難い状況である。

西支谷の石器集中はいずれも遺物の密集度が低く、また接合関係は乏しく、積極的に同時期性が認められない。但し、22~24号石器集中については、旧地形で皿状の窪地となる地形(U・T-12グリッド付近)に対応して分布し、また他の石器集中と異なり黒曜石(諏訪星ヶ台産、和田鷹山産、箱根畑宿産な

表116 第XVII文化層西支谷 石器組成

		石製装飾品	尖頭器	ナイフ形石器	搔器	削器	楔形石器	二次加工剥片	石刃	剥片	碎片	石核	礫器	敲石	台石	計
黒曜石	和田鷹山		2	3(2)		1		2		11(6)		2				21(8)
	和田小深沢								1	3(1)		1				5(1)
	和田土屋橋西		1													1
	和田土屋橋南									1						1
	諏訪星ヶ台		1	8(2)		2		2		19(6)		1				33(8)
	蓼科冷山					1	1	1(1)								3(1)
	箱根畑宿		1	3		1					12					17
	天城柏峠									7(1)	1					8(1)
	神津島恩馳島						1	1	1	3(2)						6(2)
	産地不明			1	1					1	4					7
黒曜石計			5	15(4)	1	5	2	6(1)	2	57(16)	5	4				102(21)
ガラス質黒色安山岩				1		1			4	4						10
ホルンフェルス			1	5		2		2	2	31		2				45
チャート									1	2(1)						3(1)
硬質頁岩				2												2
珪質岩			1													1
赤玉石(碧玉)					1											1
黄玉石(碧玉)						1										1
流紋岩		2		3						1						6
細粒安山岩										3		1				4
輝石安山岩										1			6	3		10
玄武岩										1						1
多孔質玄武岩															1	1
細粒砂岩														1		1
計		2	7	26(4)	2	9	2	8(1)	9	100(17)	5	7	6	4	1	188(22)

括弧内は全体数の内、微細剥離痕のあるものの点数。

ど) 主体であるなど、一定のまとまりを見出すことができる。

そこで、次項以降で述べる出土石器については基本的に石器集中ごとに記載し、22～24号石器集中については一括して扱うこととする。したがって、石器集中ごとの石器の器種・石材組成についても次項以降で述べ、ここでは出土位置や層位について簡潔にまとめる。

18号石器集中 (第279・280図、表117)

Z-13・14グリッド付近から出土した石器14点から成る。出土層位は主に休場層中位で、4点が休場層上位、1点が休場層下位に及んでいる。

19号石器集中 (第281・282図、表118)

X-13グリッド北部付近から出土した石器5点から成る。出土層位は主に休場層中位で、1点が休場層下位出土である。30号礫群(休場層中位出土)と重複し、合わせて径3m程度の範囲に分布がまとまる。

20号石器集中 (第283・284図、表119)

X-12、W-12・13グリッドにかけて出土した石器9点から成る。出土層位は主に休場層中位で、4点が休場層上位、1点が休場層下位に及んでいる。石器は東西約13.5mの範囲に広がっており、31号礫群(休場層中・下位出土)と重複する。

21号石器集中 (第285・286図、表120)

V・W-12グリッド付近から出土した石器12点から成る。出土層位は主に休場層中位で、3点が休場層上位、2点が休場層下位から出土した。石器は南北約17mの範囲に広がっており、32号礫群(休場層中位出土)と重複する。

表117 第XVII文化層18号石器集中 石器組成

		尖頭器	ナイフ形石器	楔形石器	剥片	砕片	石核	礫器	計
黒曜石	箱根畑宿	1			2				3
	天城柏峠				1	1			2
	神津島恩馳島			1	2(1)				3(1)
	黒曜石計	1		1	5(1)	1			8(1)
ホルンフェルス			1		3				4
細粒安山岩							1		1
輝石安山岩								1	1
計		1	1	1	8(1)	1	1	1	14(1)

括弧内は全体数の内、微細剥離痕のあるものの点数。

表119 第XVII文化層20号石器集中 石器組成

		ナイフ形石器	石刃	剥片	計
黒曜石	諏訪星ヶ台	1			1
	ガラス質黒色安山岩		1		1
ホルンフェルス			1	1	2
硬質頁岩		1			1
流紋岩		2		1	3
細粒安山岩				1	1
計		4	2	3	9

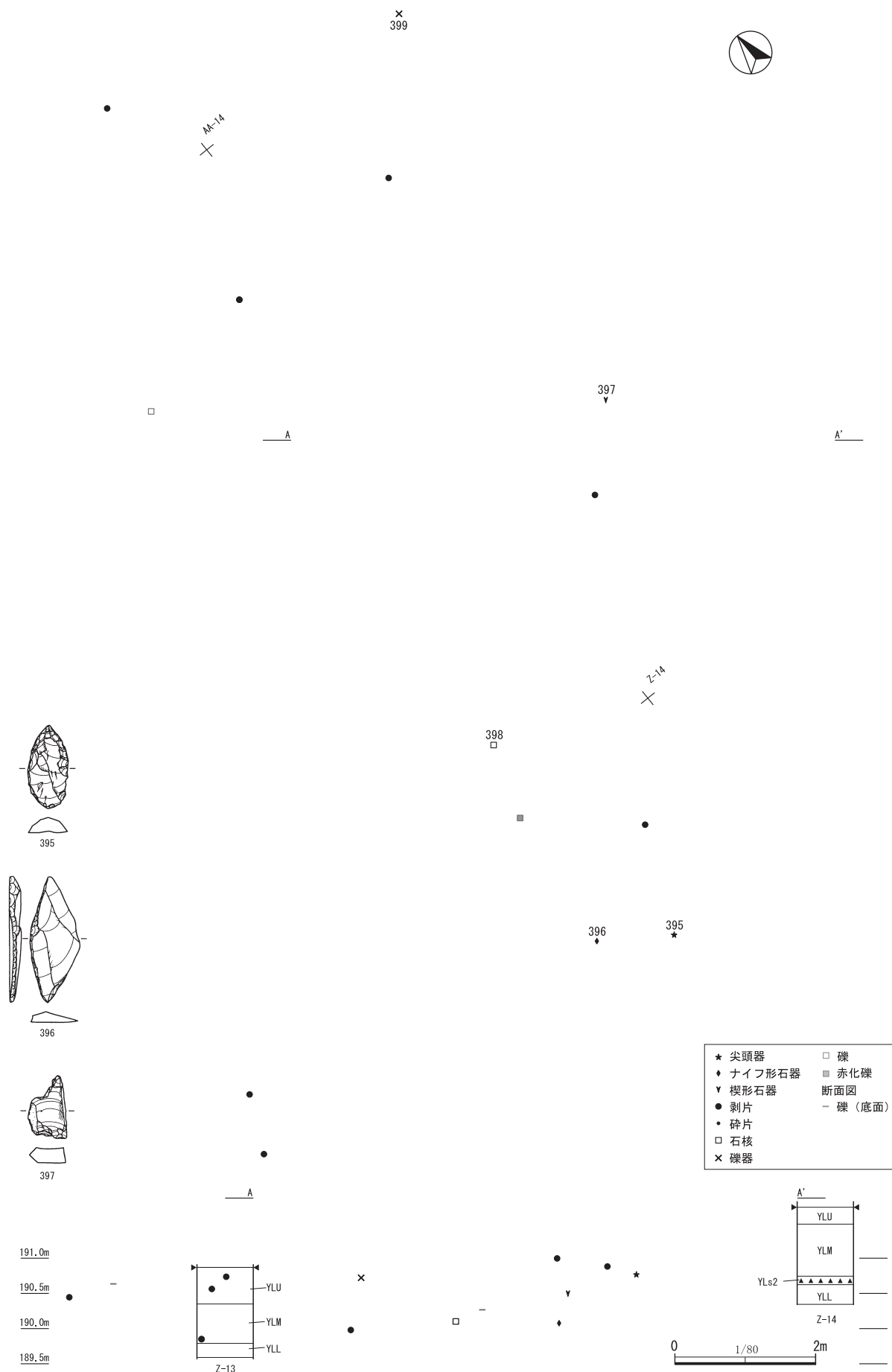
表118 第XVII文化層19号石器集中 石器組成

		ナイフ形石器	剥片	台石	計
黒曜石	箱根畑宿		1		1
	産地不明	1			1
	黒曜石計	1	1		2
ホルンフェルス			2		2
多孔質玄武岩				1	1
計		1	3	1	5

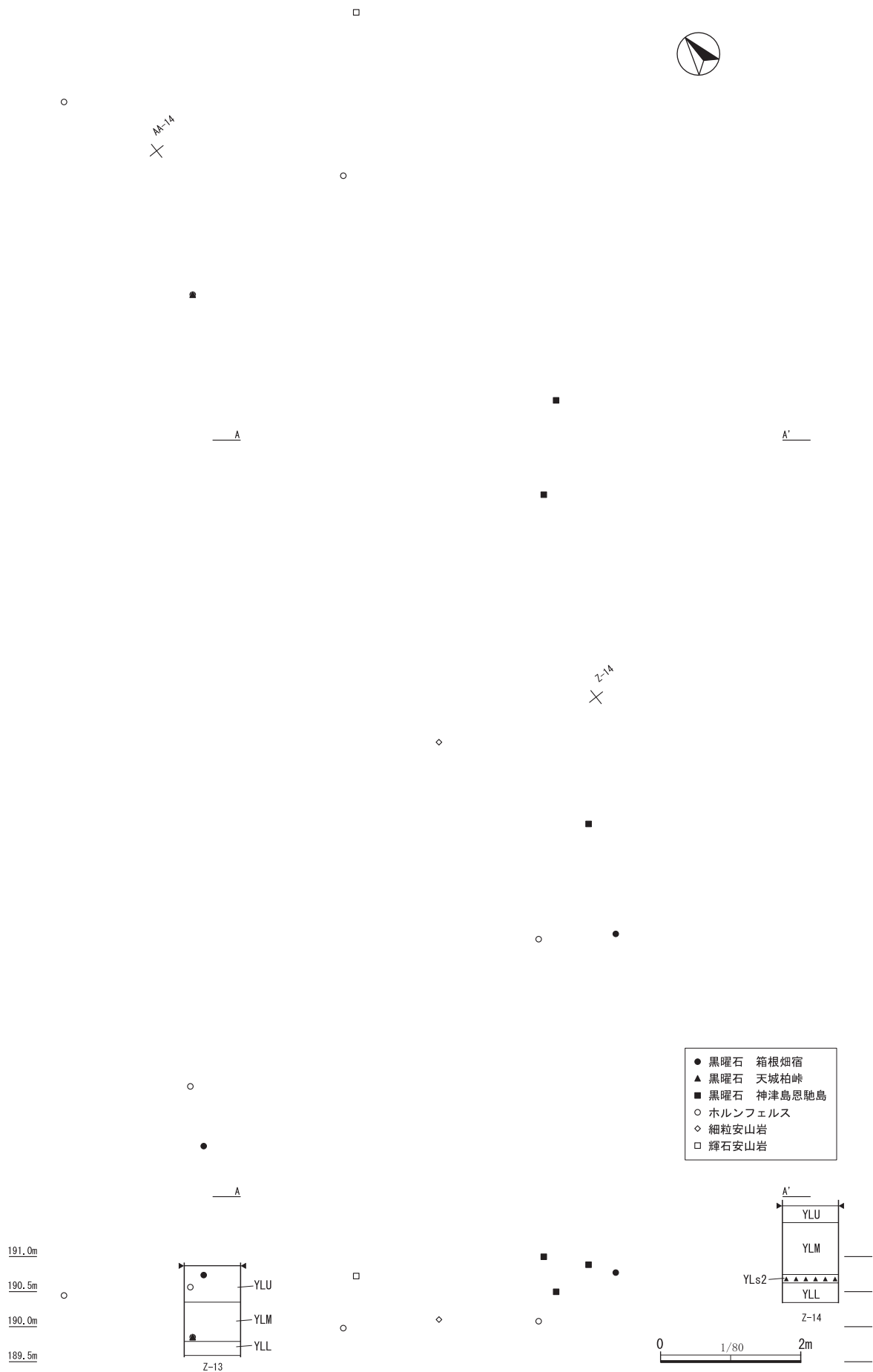
表120 第XVII文化層21号石器集中 石器組成

		ナイフ形石器	剥片	石核	計
黒曜石	和田小深沢		1		1
	神津島恩馳島		1(1)		1(1)
	黒曜石計		2(1)		2(1)
ガラス質黒色安山岩		1			1
ホルンフェルス			5	1	6
硬質頁岩		1			1
輝石安山岩			1		1
玄武岩			1		1
計		2	9(1)	1	12(1)

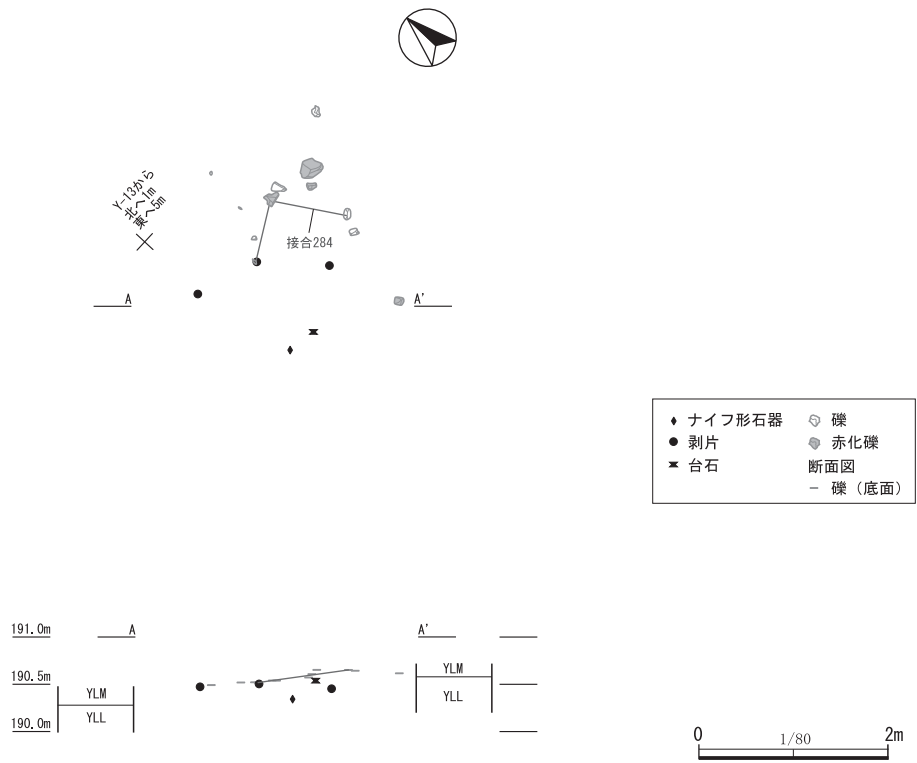
括弧内は全体数の内、微細剥離痕のあるものの点数。



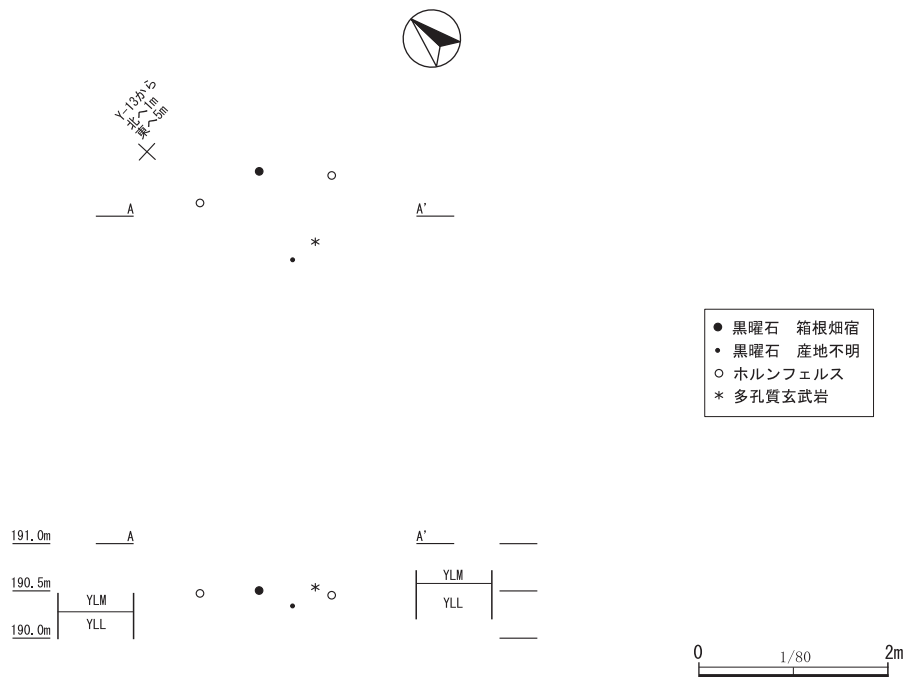
第279図 第XVII文化層18号石器集中 器種別分布



第280図 第XVII文化層18号石器集中 石材別分布



第281図 第XVII文化層19号石器集中 器種別分布、30号礫群



第282図 第XVII文化層19号石器集中 石材別分布

22号石器集中（第287・288図、表121）

U-12・13グリッドから出土した石器31点から成る。出土層位は調査時の記録によると主に休場層中位で、5点が休場層上位、1点が休場層下位から出土した（垂直分布図と合致しないように見えるが、中央部が谷底にあたり、地形が緩やかに落ち込む）。石器は東西約13mの範囲に広がるが、特に中央部にやや密集し、この部分に隣接して33号礫群（休場層中位出土）が分布する。

23号石器集中（第289・290図、表122）

T-12グリッド周辺から出土した石器41点から成る。出土層位は調査時の記録によると主に休場層中位で、6点が休場層上位、1点が休場層下位から出土し、また栗色土層出土の1点もここに含めた（中央部が谷底にあたり、地形が緩やかに落ち込む）。石器は東西約15mの範囲に広がるが、特に中央部にやや密集し、重複して34号礫群（休場層中位出土）が分布する。

24号石器集中（第291・292図、表123）

S-11・12グリッド付近で出土した石器21点から成る。出土層位は調査時の記録によると主に休場層

表121 第XVII文化層22号石器集中 石器組成

		ナイフ形石器	削器	二次加工剥片	石刃	剥片	石核	礫器	敲石	計
黒曜石	和田鷹山		1	2		9(6)	2			14(6)
	和田小深沢					1	1			2
	諏訪星ヶ台	3(1)				1(1)				4(2)
	箱根畑宿		1			1				2
	天城柏峠					1(1)				1(1)
	神津島恩馳島				1					1
	産地不明					1				1
	黒曜石計	3(1)	2	2	1	14(8)	3			25(9)
黄玉石（碧玉）		1							1	
流紋岩	1								1	
輝石安山岩							3	1	4	
計	4(1)	3	2	1	14(8)	3	3	1	31(9)	

括弧内は全体数の内、微細剥離痕のあるものの点数。

表123 第XVII文化層 24号石器集中 石器組成

		尖頭器	石刃	剥片	礫器	計
黒曜石	和田小深沢		1			1
	和田土屋橋西	1				1
	諏訪星ヶ台			3		3
	箱根畑宿			4		4
	天城柏峠			5		5
	黒曜石計	1	1	12		14
	ガラス質黒色安山岩		2	1		3
ホルンフェルス			2		2	
チャート		1			1	
輝石安山岩				1	1	
計	1	4	15	1	21	

表122 第XVII文化層23号石器集中 石器組成

		石製装飾品	尖頭器	ナイフ形石器	搔器	削器	二次加工剥片	剥片	砕片	石核	敲石	計
黒曜石	和田鷹山		1					1				2
	和田小深沢							1(1)				1(1)
	諏訪星ヶ台		1	1		2	2	12(4)		1		19(4)
	箱根畑宿			1				2				3
	産地不明								4			4
	黒曜石計		2	2		2	2	16(5)	4	1		29(5)
ガラス質黒色安山岩								1			1	
ホルンフェルス		1	2					2			5	
珪質岩		1									1	
赤玉石（碧玉）				1							1	
流紋岩	2										2	
輝石安山岩											2	
計	2	4	4	1	2	2	19(5)	4	1	2	41(5)	

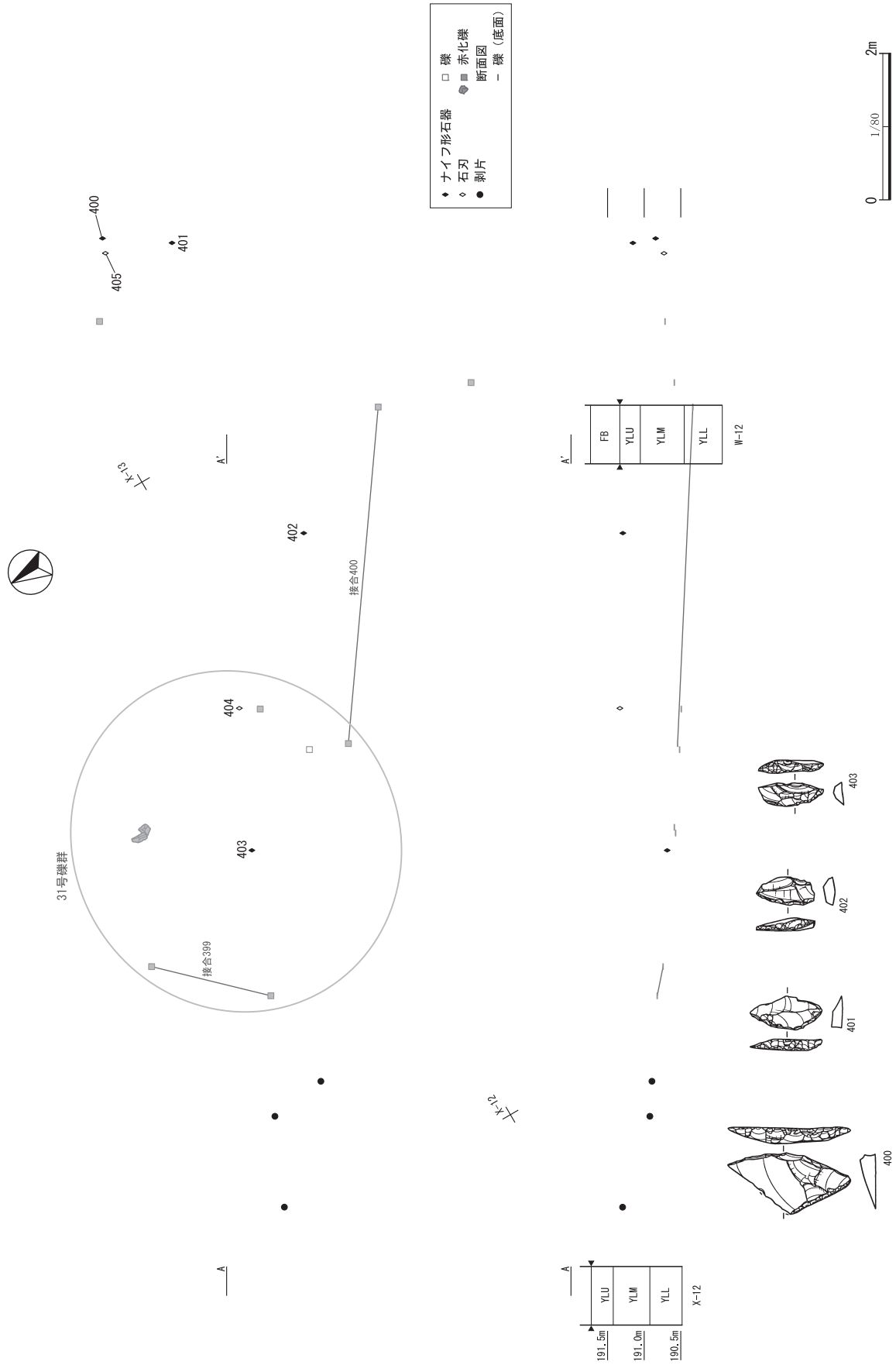
括弧内は全体数の内、微細剥離痕のあるものの点数。

表124 第XVII文化層 25号石器集中 石器組成

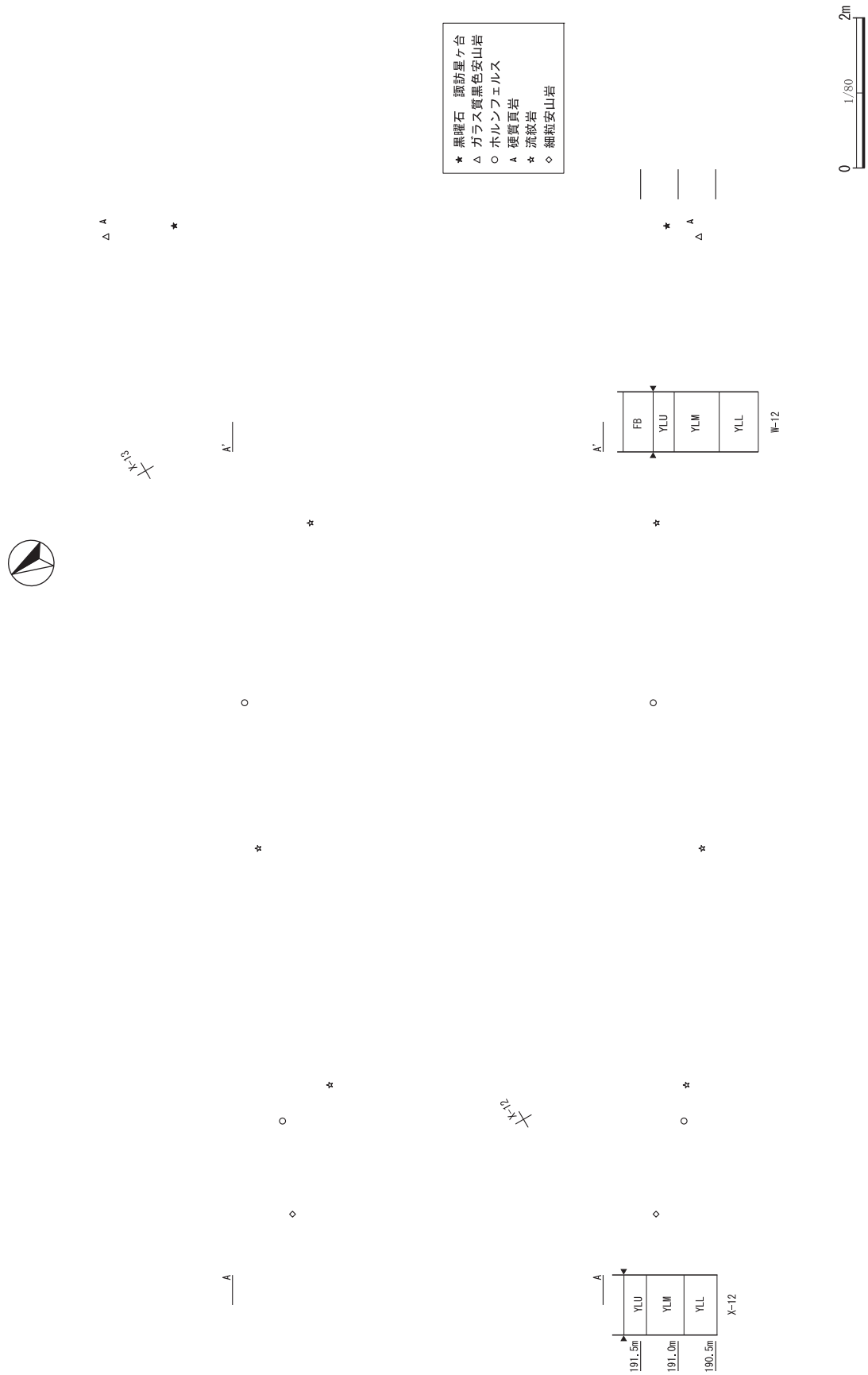
		ナイフ形石器	石刃	剥片	計
黒曜石	和田土屋橋南			1	1
	諏訪星ヶ台	2(1)		1	3(1)
	黒曜石計	2(1)		2	4(1)
ガラス質黒色安山岩		1		1	
ホルンフェルス	1	1	6	8	
計	3(1)	2	8	13(1)	

括弧内は全体数の内、微細剥離痕のあるものの点数。

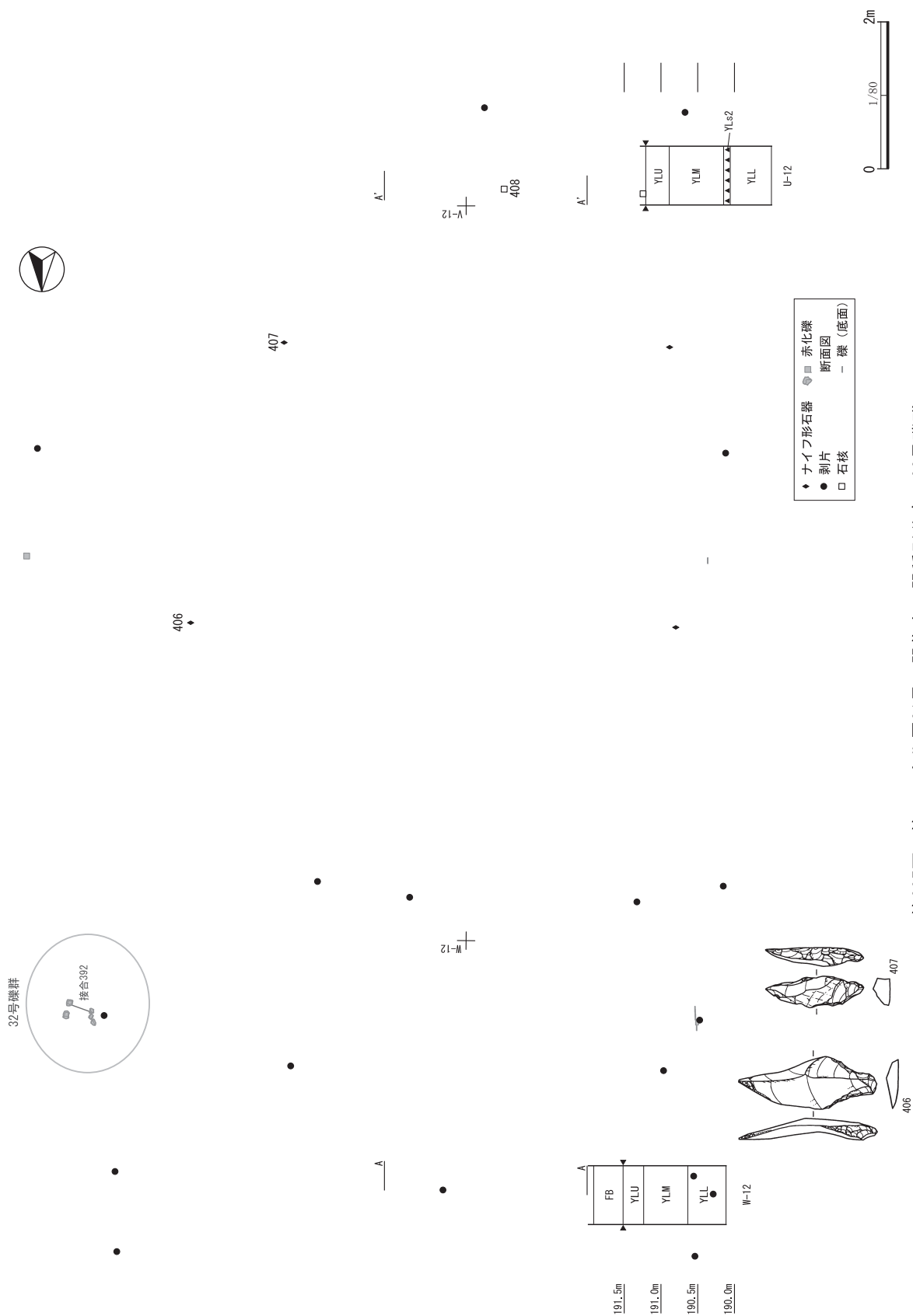




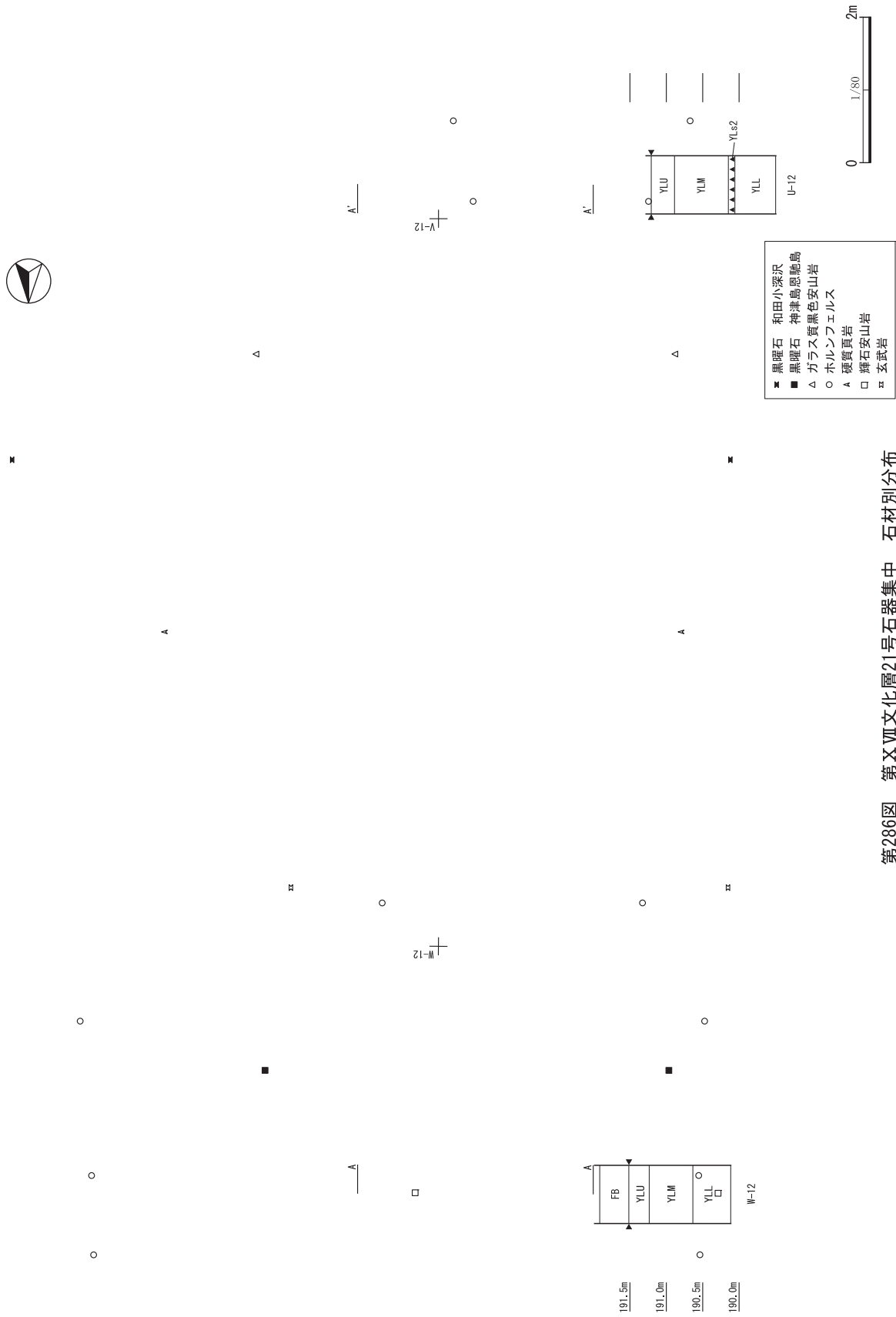
第283図 第XVII文化層20号石器集中 器種別分布、31号礫群



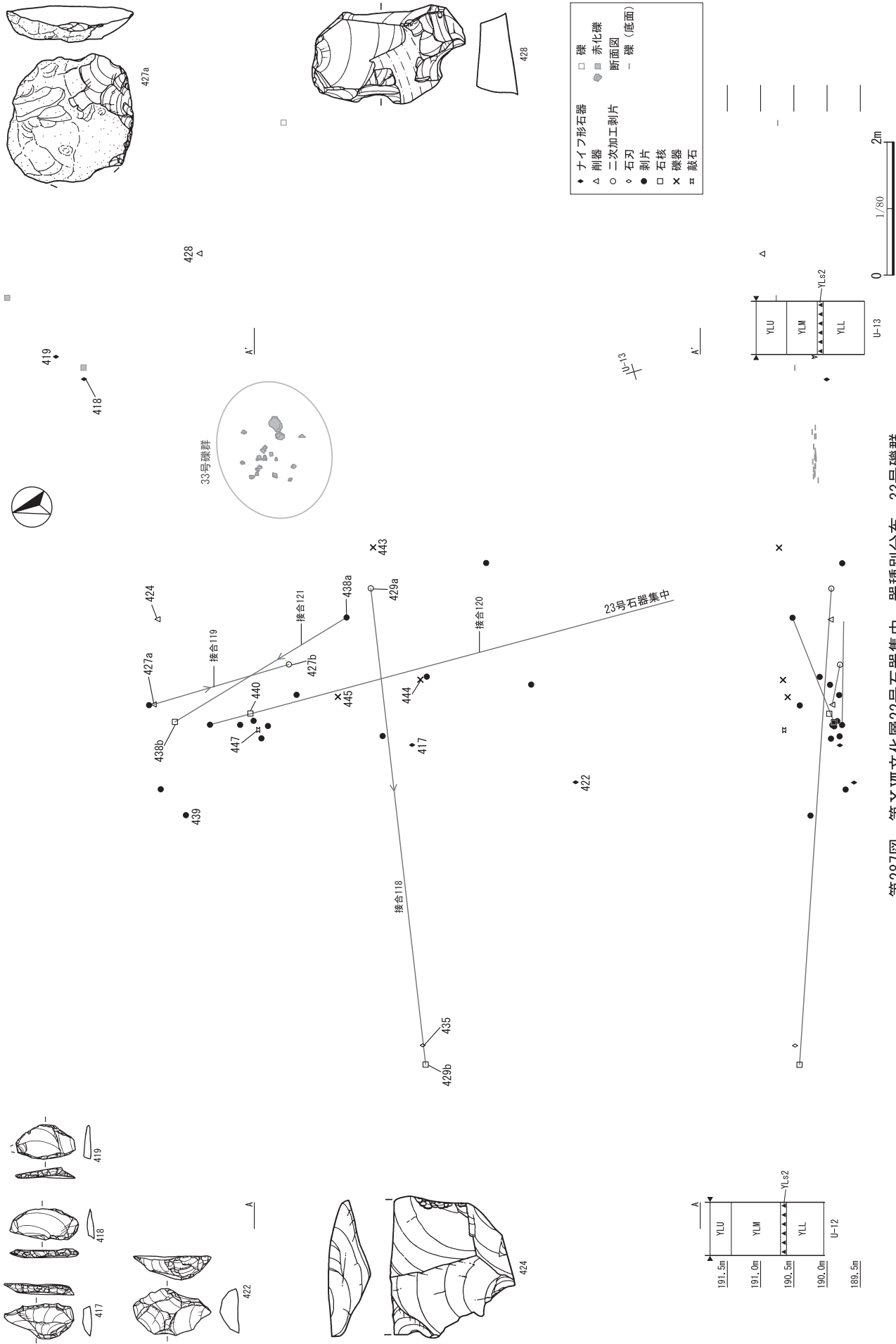
第284図 第XVII文化層20号石器集中 石材別分布



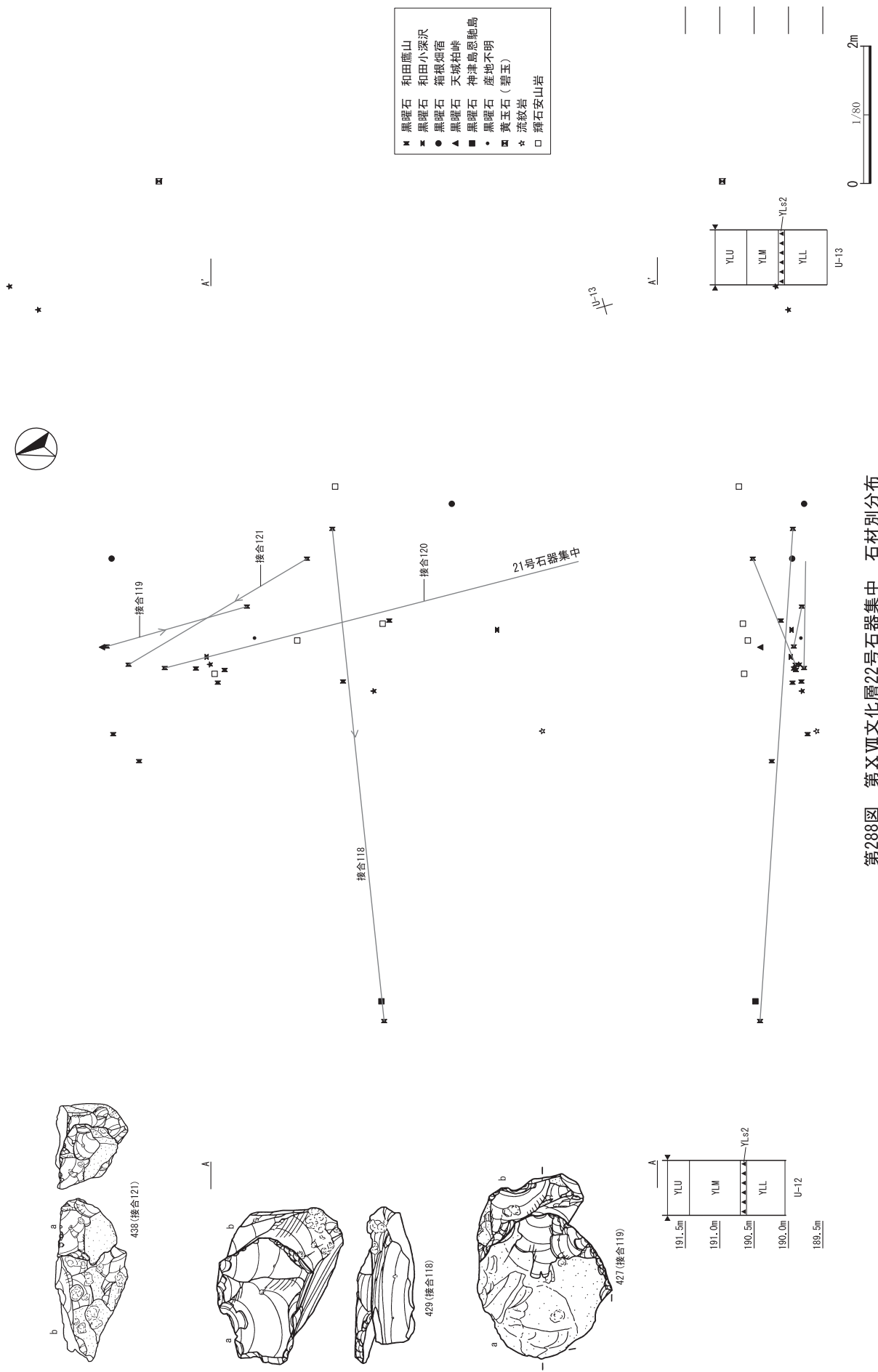
第285図 第XVII文化層21号石器集中 器種別分布、32号礫群



第286図 第Ⅷ文化層21号石器集中 石材別分布

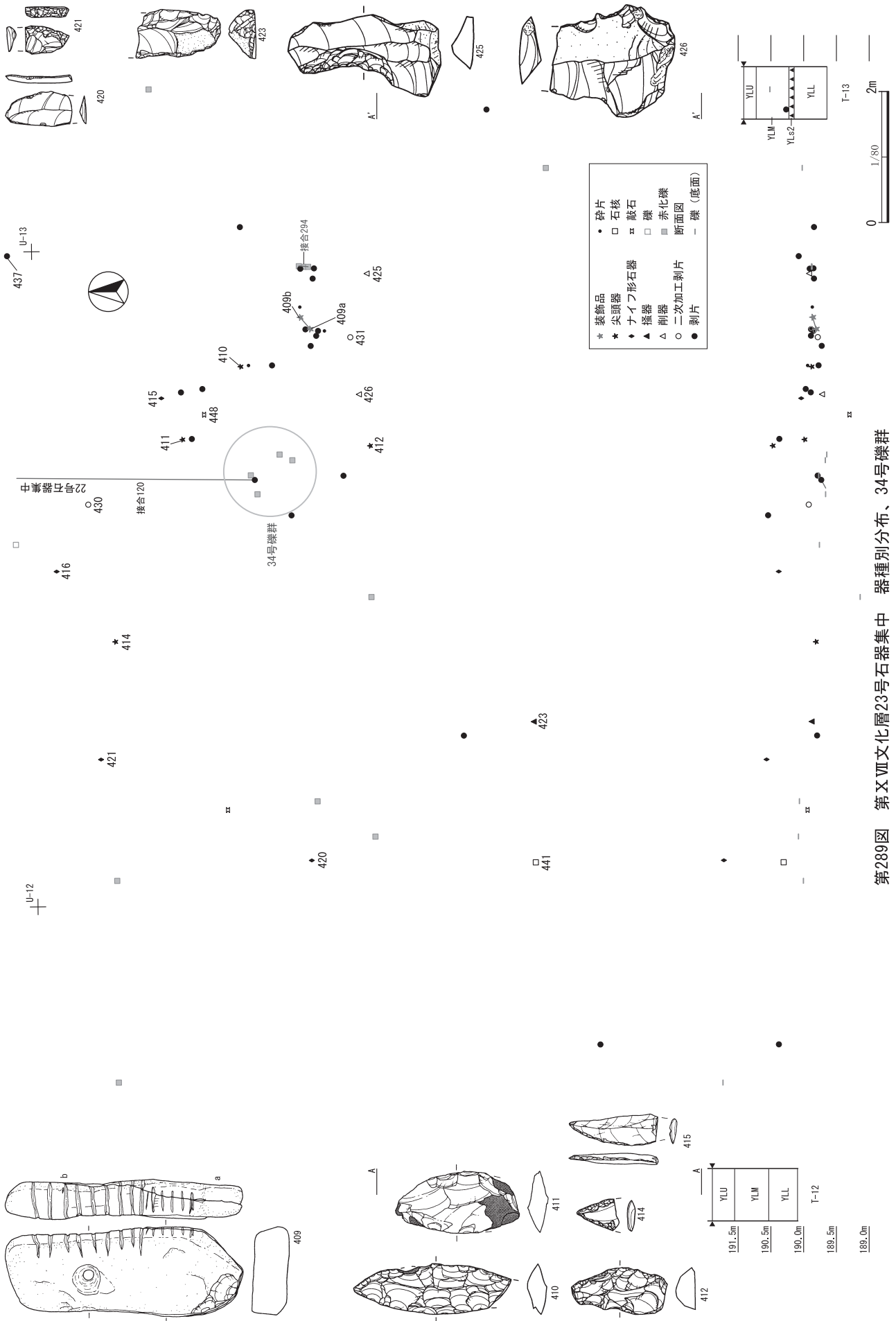


第287図 第XVII文化層22号石器集中 器種別分布、33号礫群

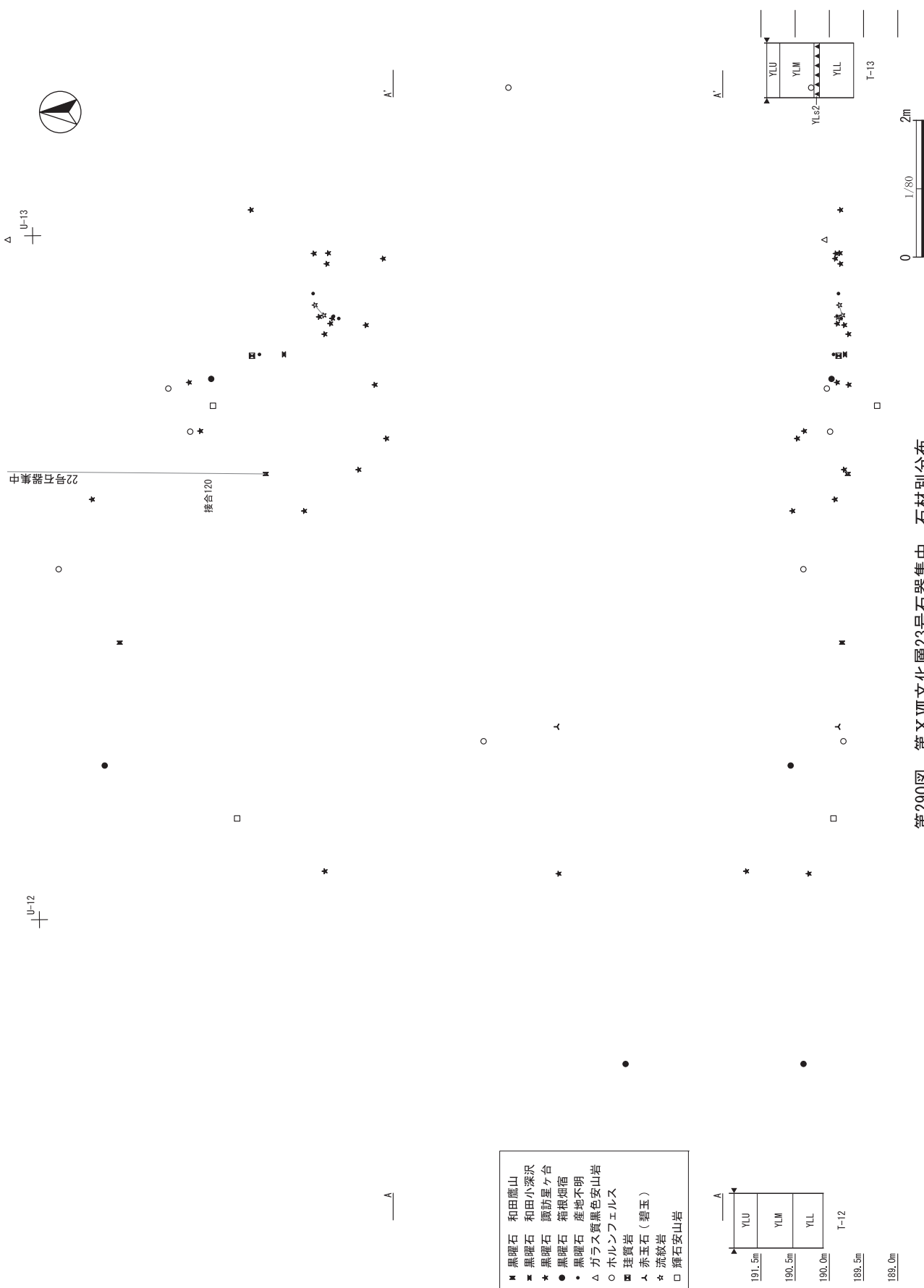


- |   |          |        |
|---|----------|--------|
| ■ | 黒曜石      | 和田雁山   |
| ▲ | 黒曜石      | 和田小深沢  |
| ● | 黒曜石      | 稻根畑宿   |
| ▲ | 黒曜石      | 天城柏峠   |
| ■ | 黒曜石      | 神津高尾船島 |
| ● | 黒曜石      | 産地不明   |
| ■ | 黄玉石 (碧玉) |        |
| ★ | 流紋岩      |        |
| □ | 輝石安山岩    |        |

第288図 第ⅤⅦ文化層22号石器集中 石材別分布

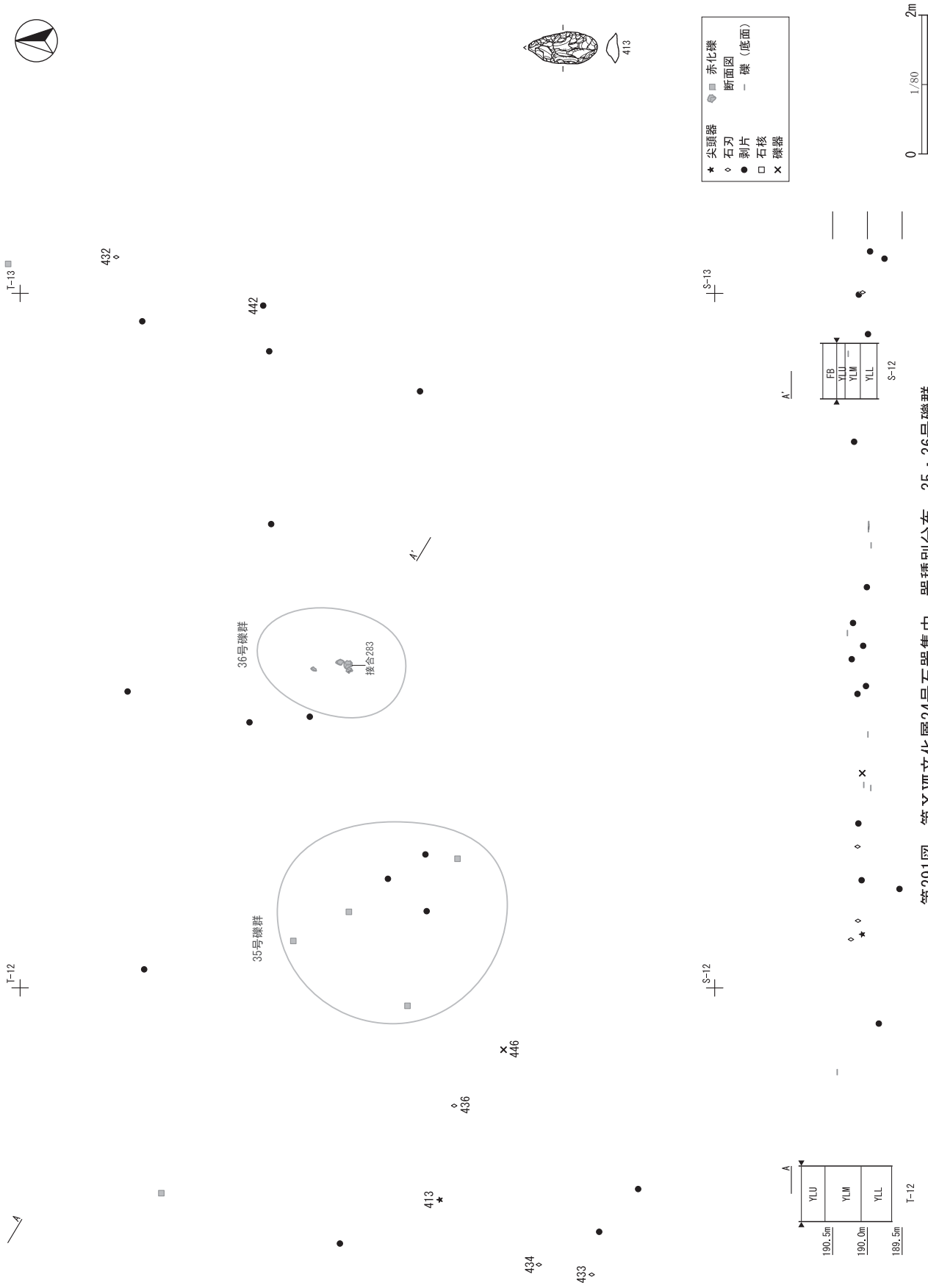


第289図 第XVII文化層23号石器集中 器種別分布、34号碟群

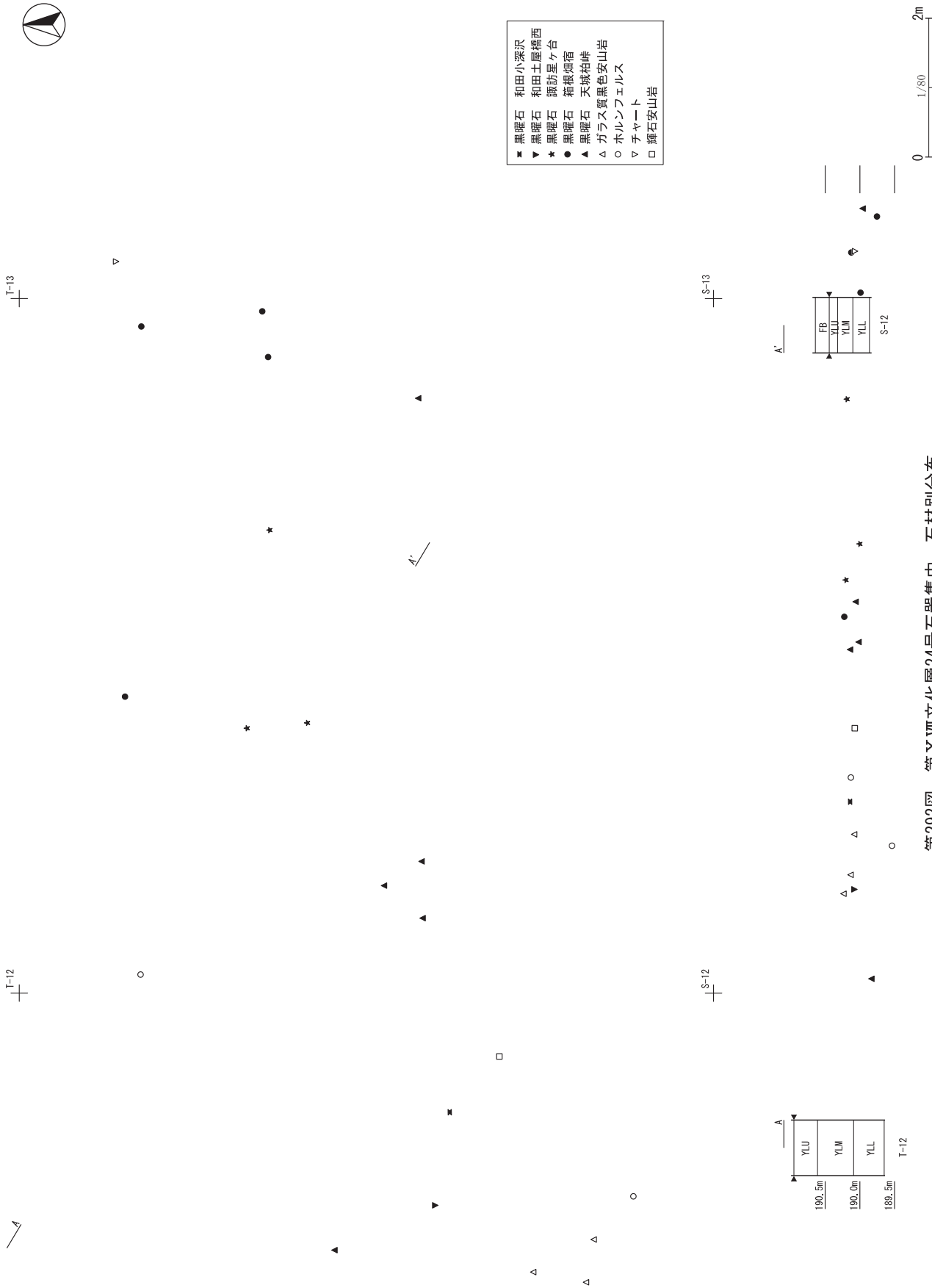


第290図 第XⅣ文化層23号石器集中 石材別分布

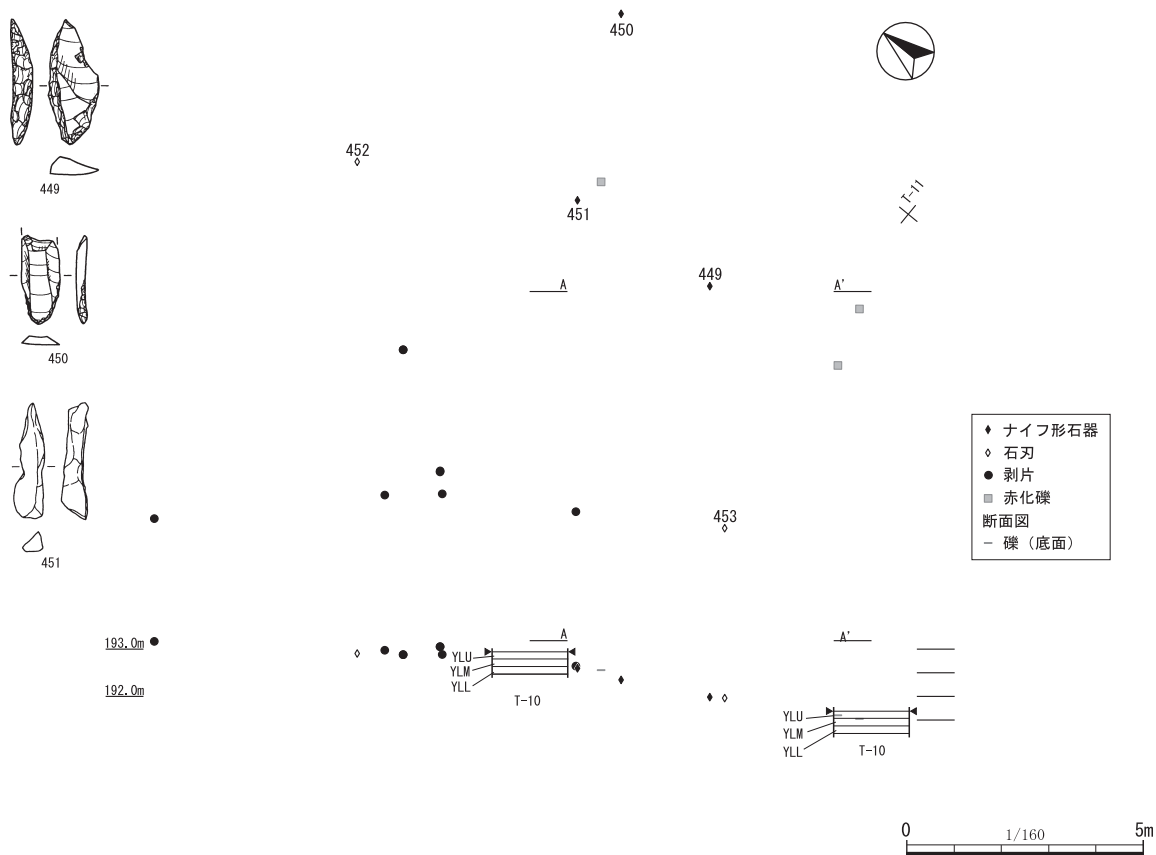




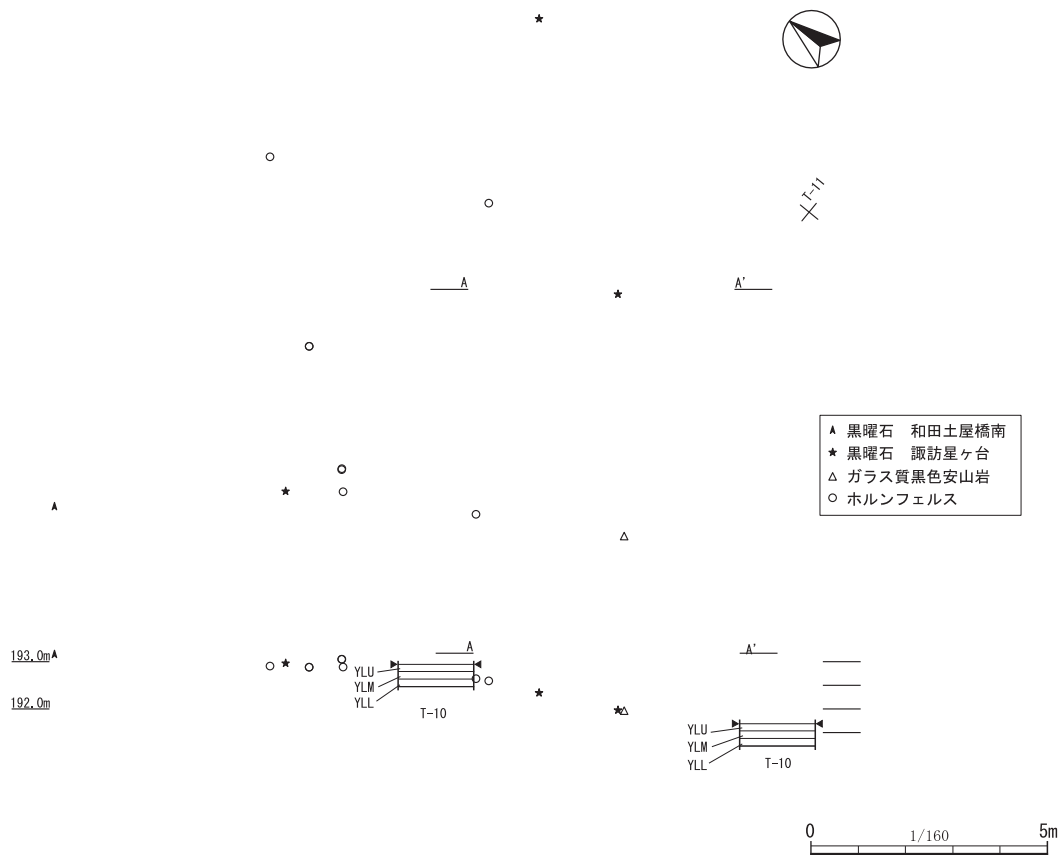
第291图 第XVII文化層24号石器集中 器種別分布、35・36号燧石群



第292図 第Ⅷ文化層24号石器集中 石材別分布



第293図 第XVII文化層25号石器集中 器種別分布



第294図 第XVII文化層25号石器集中 石材別分布

中位で、3点が休場層下位から出土した（中央部が谷底にあたり、地形が緩やかに落ち込む）。石器は東西約16mの範囲に広がり、中央部に重複して35・36号礫群（休場層中位出土）が分布する。

25号石器集中（第293・294図、表124）

S-10・T-9・10グリッドにかけて出土した石器13点から成る。出土層位は調査時の記録によると主に休場層下位で、4点が休場層直下黒色帯、1点が休場層中位から出土した。分布は径13m程度の範囲に広がる。石器はホルンフェルス製8点、黒曜石（諏訪星ヶ台産3点、和田土屋橋南産1点）製4点、ガラス質黒色安山岩製1点で、ナイフ形石器3点が含まれる。

26号石器集中（第295・296図、表125）

Q-10グリッド周辺から出土した石器13点から成る。谷の落ち込み部分にあたり、出土層位は調査時の記録によると主に休場層中位で、2点が休場層下位、別の2点が休場層上位から出土した。分布は径15m程度の範囲に広がる。石器は黒曜石（和田鷹山産、箱根畑宿産各2点、諏訪星ヶ台産、蓼科冷山産、神津島恩馳島産各1点）製7点、ホルンフェルス製4点、細粒安山岩製、細粒砂岩製各1点で、ナイフ形石器、二次加工剥片各2点、敲石1点が含まれる。

表125 第XVII文化層  
26号石器集中 石器組成

		ナイフ形石器	二次加工剥片	剥片	敲石	計
黒曜石	和田鷹山	1		1		2
	諏訪星ヶ台			1		1
	蓼科冷山		1(1)			1(1)
	箱根畑宿			2		2
	神津島恩馳島		1			1
	黒曜石計	1	2(1)	4		7(1)
ホルンフェルス		1		3		4
細粒安山岩				1		1
細粒砂岩					1	1
計		2	2(1)	8	1	13(1)

括弧内は全体数の内、微細剥離痕のあるものの点数。

30号礫群（第281図、表126）

X-13グリッド北部付近から出土した礫12点から成り、うち4点に被熱の痕跡が認められた。出土層位は休場層中位である。最も北側の1点のみ休場層直下黒色帯出土である。礫は最大のもので長径25.0cm・重量8.2kg、平均では長径10.9cm・重量1.3kgである。

31号礫群（第283図、表126）

X-12グリッド南部周辺で出土した礫7点から成り、うち6点に被熱の痕跡が認められた。出土層位は調査時の記録によると休場層下位から中位である。礫は分散して出土した。長径21.5cm・重量1.5kg、長径15.3cm・重量1.5kgの大型礫を含み、平均では長径12.4cm・重量0.65kgである。

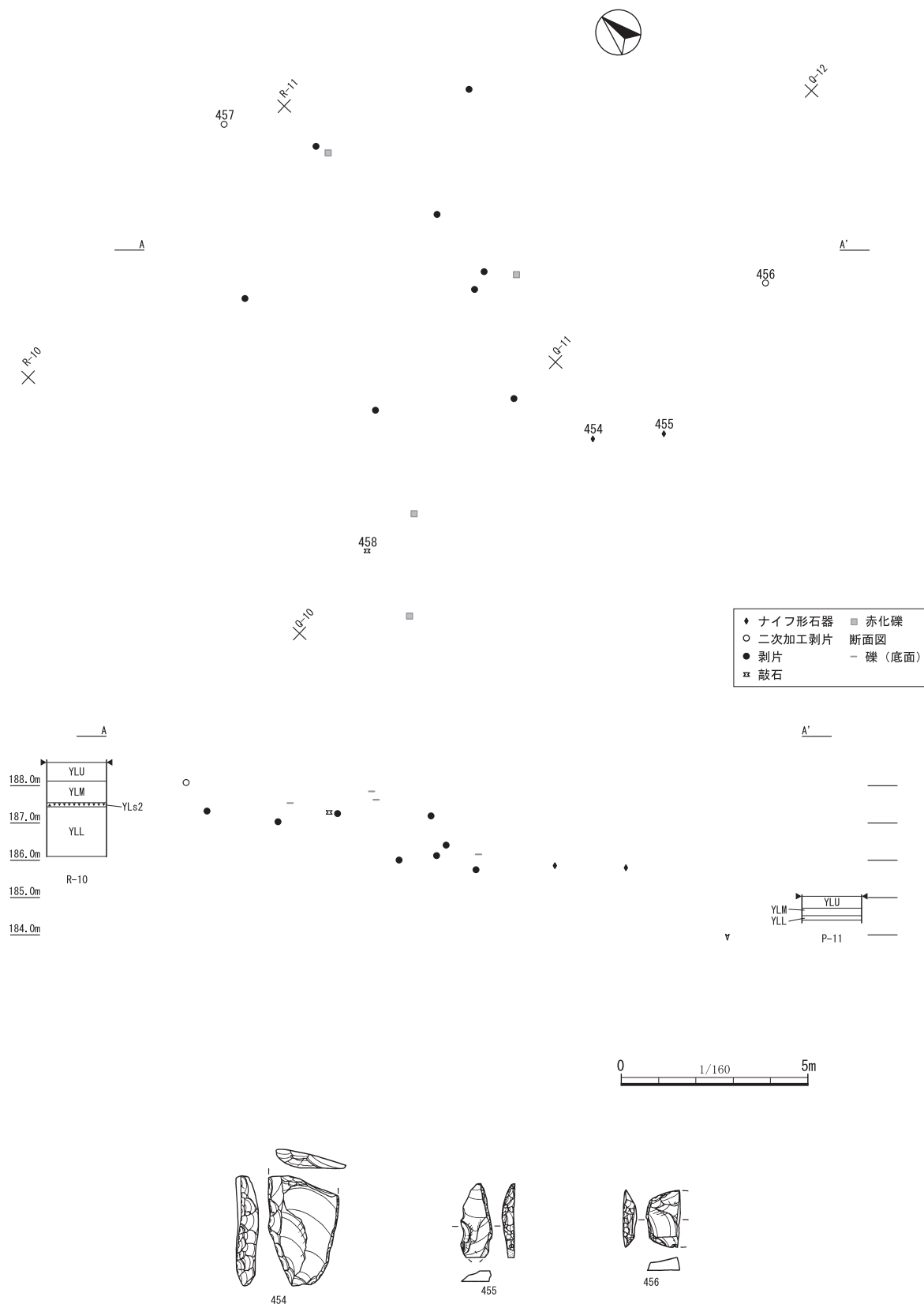
32号礫群（第285図、表126）

W-12グリッド南部で出土した被熱礫5点から成る。出土層位は休場層中位である。礫は径0.5mの範囲にまとまって分布する。礫の大きさは平均で長径9.1cm・重量0.21kgである。

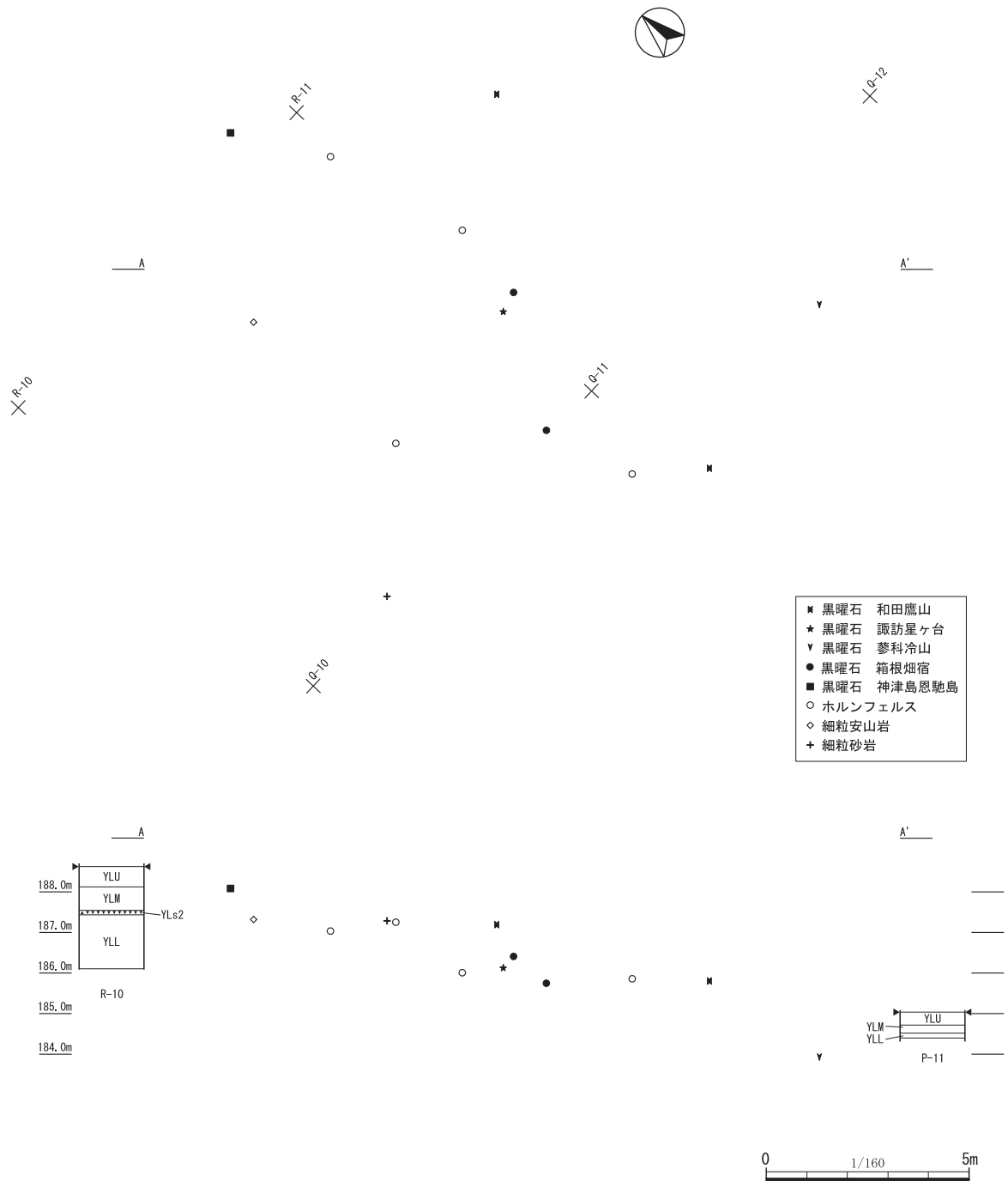
表126 第XVII文化層西支谷 礫群属性

礫群番号	構成礫数	赤化					形態				石材						
		完形		非完形			角	垂角	垂円	円	安山岩	輝石安山岩	多孔質	玄武岩	玄武岩	多孔質	岩斑レイ
		非赤化	赤化	非赤化	赤化1	赤化2											
30号	12	4		4	4		1	9	2		6	1	5				
31号	7	1	1		5			6	1		1		4	2			
32号	5		1		4			5			1		3	1			
33号	19		14		3	2		14	5		5	1	6	7			
34号	4		2		1	1		3	1		2	1	1				
35号	4		1			3		3	1		1	1		2			
36号	5		2		2	1		3	1	1	2		1	2			
37号	12		11		1			7	5		1	2	3	6			
遺構外	53	4	20	2	19	8		36	15	2	20	6	11	15	1		

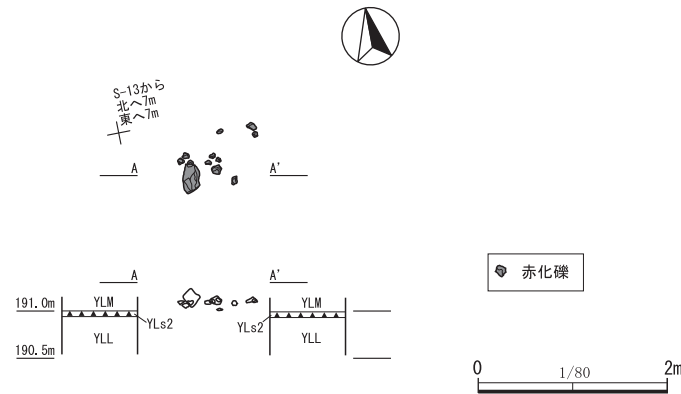
赤化1：全面が赤化 赤化2：礫の外皮のみ赤化



第295図 第XVII文化層26号石器集中 器種別分布



第296図 第Ⅶ文化層26号石器集中 石材別分布



第297図 第XVII文化層37号礫群

### 33号礫群 (第287図、表126)

U-13グリッド西部で出土した被熱礫19点から成る。出土層位は休場層中位である。礫は長径25.6cm・重量5.4kg及び長径13.6cm・重量1.3kgの大型礫2点と長径6～10cmのものが径約1mの範囲に分布し、平均では長径8.6cm・重量0.45kgである。

### 34号礫群 (第289図、表126)

T-12グリッドにかけて出土した被熱礫4点から成る。出土層位は休場層中位である。礫の大きさは平均で長径10.0cm・重量0.24kgで、径0.8m程度の範囲に分布する。

### 35号礫群 (第291図、表126)

S-12グリッド西側付近で出土した被熱礫4点から成る。出土層位は休場層中位である。長径27.0cm・重量1.4kgの大型礫が1点あり、平均では長径13.8cm・重量0.63kgである。

### 36号礫群 (第291図、表126)

S-12グリッドから出土した被熱礫5点から成る。出土層位は休場層中位である。礫は径0.6mの範囲に分布し、大きさは平均で長径10.3cm・重量0.39kgである。

### 37号礫群 (第297図、表126)

S-13グリッド東部で出土した被熱礫12点から成る。出土層位は休場層中位で、長径31.7cm・重量6.8kgの大型礫1点と5～11cmの礫11点が径約1mの範囲に分布する。大きさの平均は長径9.5cm・重量0.75kgである。

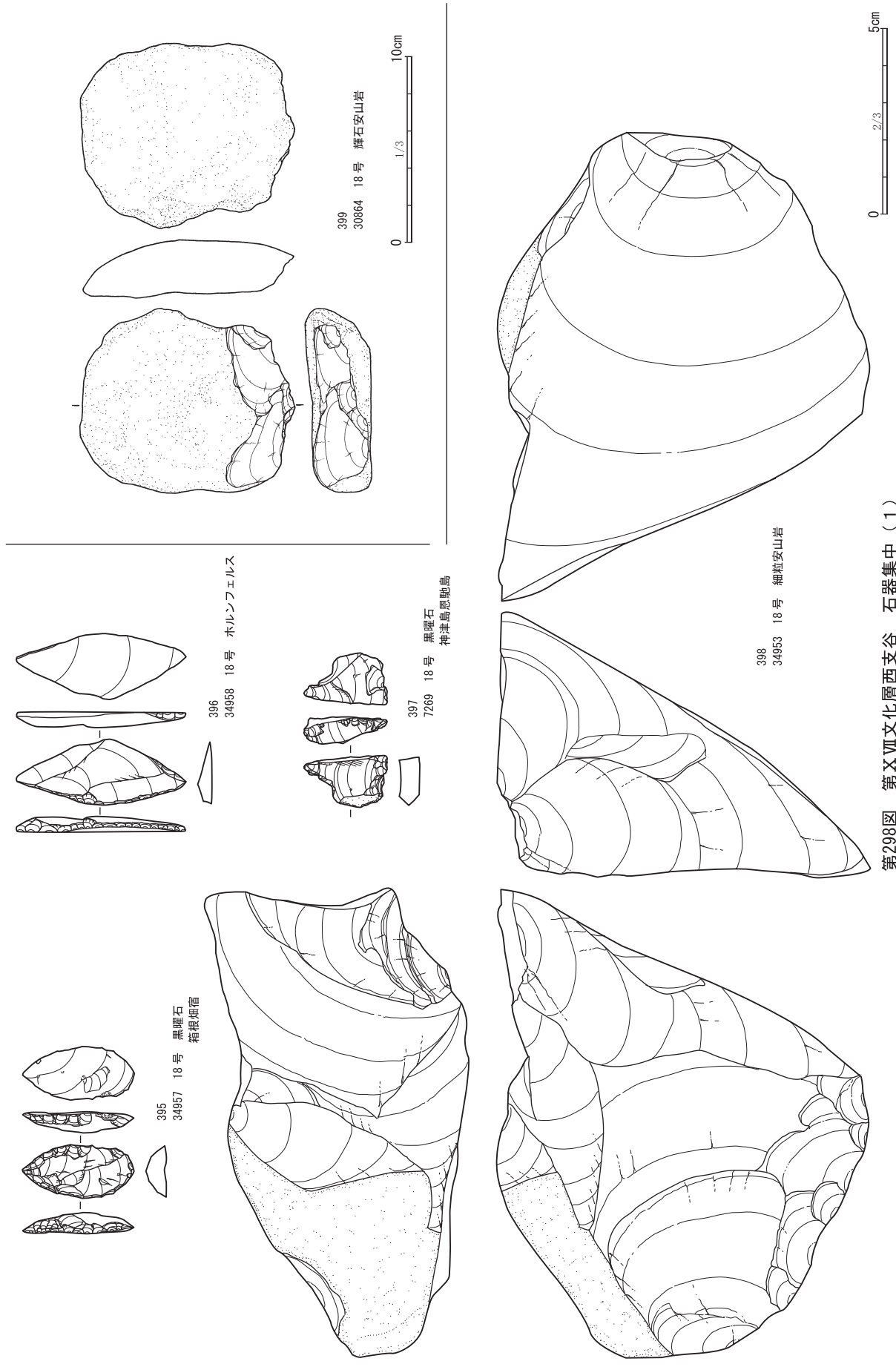
## (2) 18号石器集中の出土石器 (第298図)

尖頭器、ナイフ形石器、楔形石器各1点、剥片8点、碎片1点、石核1点、礫器1点が出土した。以下の5点を図示した。

395は箱根畑宿産黒曜石製の尖頭器である。素材剥片を斜位に用い、周縁加工で整形されている。396はホルンフェルス製のナイフ形石器である。石刃素材、二側縁加工で打面側を先端としている。397は神津島恩馳島産黒曜石製の楔形石器である。剥片素材で上下に潰れが認められる。398は細粒安山岩製の石核である。399は輝石安山岩製の礫器である。扁平な垂円礫を素材とし下端に片刃の刃部を設けている。

## (3) 19号石器集中の出土石器

ナイフ形石器1点、剥片3点、台石1点が出土した。実測図は掲載していない。



第298図 第ⅤⅦ文化層西支谷 石器集中(1)



(4) 20号石器集中の出土石器 (第299図)

ナイフ形石器 (400~403)

4点出土した。400は硬質頁岩製、二側縁加工で、幅広の素材を大きく截断したものと見られ、横断面は背部側が厚くなっている。401は諏訪星ヶ台産黒曜石製の小型二側縁加工ナイフ形石器だが、裏面に基部調整が加えられている。402は流紋岩製で、基部に打面を残して二側縁を加工している。403は流紋岩製で素材剥片を横位に用い、打面側縁辺を対向調整で整形し、対辺にはやや平坦な調整を加えている。

剥片類 (404・405)

石刃2点、剥片3点が出土し、石刃2点を図示した。404はホルンフェルス製、単剥離打面で背面の左半分が礫面であり、405はガラス質黒色安山岩製で、複剥離打面で端部に礫面が残っている。

(5) 21号石器集中の出土石器 (第299図)

ナイフ形石器2点、剥片9点、石核1点が出土した。

406は硬質頁岩製のナイフ形石器である。基部両側縁に内湾する形に加工している他、先端部左側縁も僅かに二次加工している。407はガラス質黒色安山岩製のナイフ形石器である。素材剥片を横位に用い、二側縁を加工している。408はホルンフェルス製の石核である。右側面に広く礫面を残し、正面側では主として上面を打面とした剥片剥離が行われ、一方裏面では側方から剥離が行われている。

(6) 22~24号石器集中の出土石器 (第300~303図)

前記した通り、石材・分布の連続性から22~24号石器集中の出土石器は一括して扱う。3つの石器集中で合わせて石製品2点を含む石器93点が出土した。

石製装飾品 (409)

2 (接合により1) 点出土した。流紋岩製で、表面は風化して白色になっている。剥片石器に用いられている緻密で硬質な石質のものと異なり、比重が軽く軟質である。扁平な礫を素材とし、両側面及び下面は研磨により面取りされ、右側面に線を刻んでいる。また正面の中央よりやや上方部が穿孔されている。

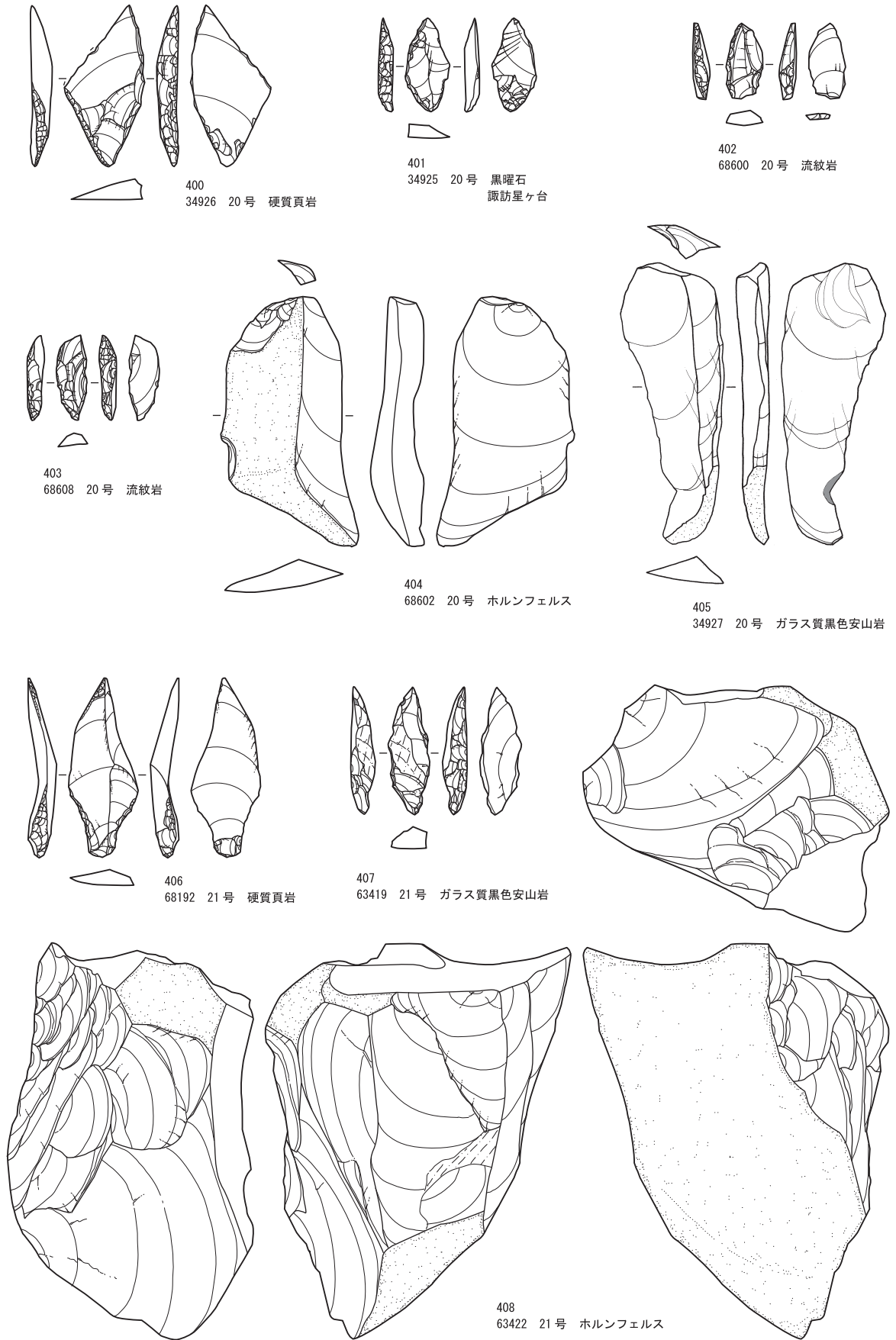
線刻は主だったものが14条あり、このうち上方の9条は刻みが深く、また表裏面に回り込む形で施されている。下方の5条は比較的浅く、長さも側面の幅に収まる範囲に止まる。線刻は断面V字型に刻まれており、底部には線状の加工痕が認められる。また、これらの線刻と平行して細かい線が何箇所か確認できる。最も顕著なのは下から1番目の線刻が二重になっている部分であるが、それ以外に上から3番目の線刻に短い刻みが伴い、9番目と10番目の間に細かい刻みがある他、2~3条の微かな刻みが平行する。さらに図示できなかつた微かなものを入れると、上方から1・6・13番目にも細かい刻みが伴っている。

穿孔は表裏両面から行われており、同心円状の加工痕が顕著に認められる。孔は外側が広く、中央でくびれる断面形で、表裏の穿孔の位置が僅かにずれており、孔のくびれ部はやや斜めになっている。

図中正面下端が剥落している他、裏面の下半部は大きく剥落しており、その破片は約20cm離れて出土した。

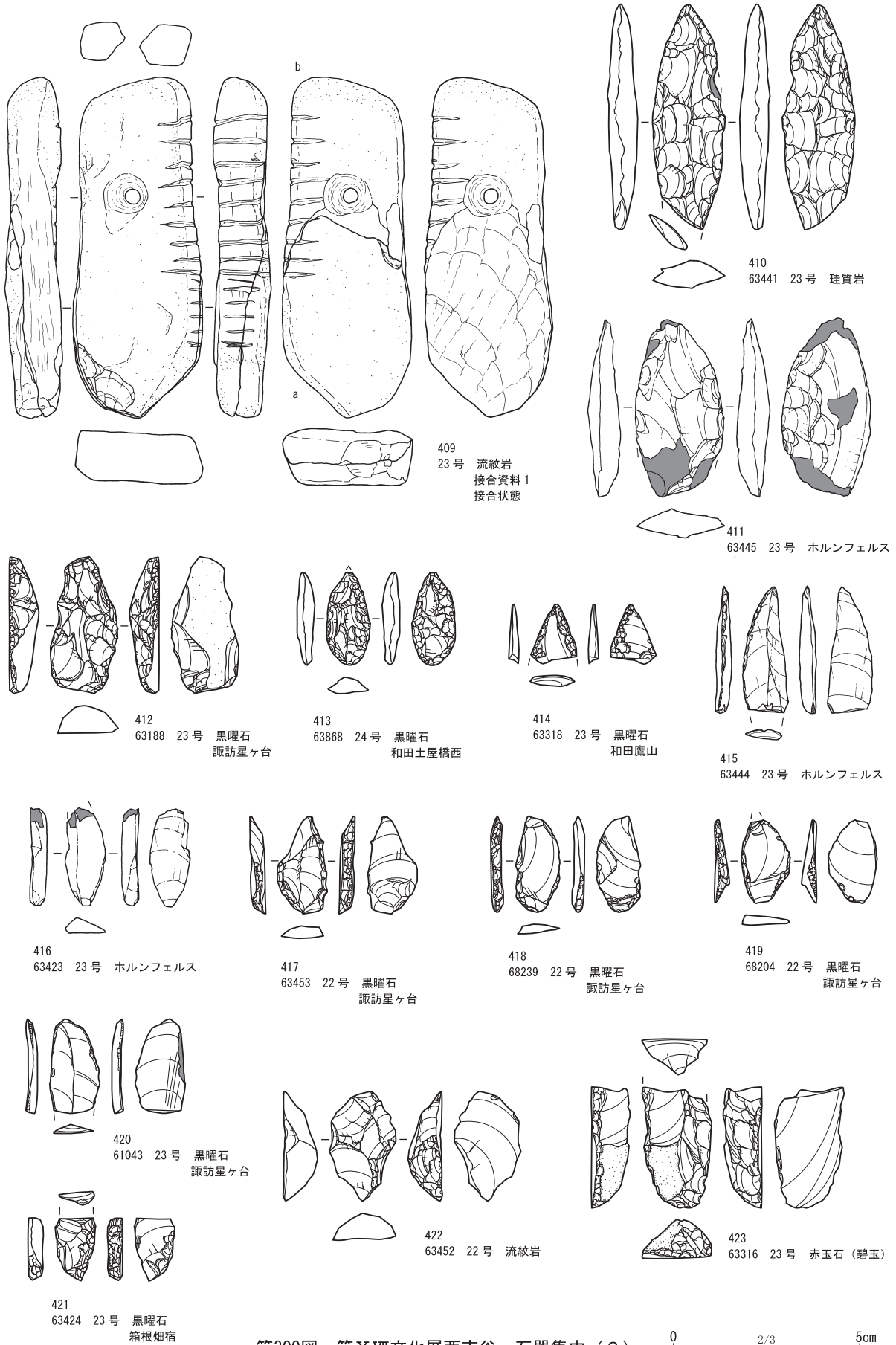
尖頭器 (410~414)

5点出土した。410は珪質岩製で両面加工である。411はホルンフェルス製で、風化により剥離痕の観察が困難だが、素材剥片を横位に用いた半両面加工と見られる。412は諏訪星ヶ台産黒曜石製の片面加工尖頭器で、裏面及び基部に角礫面が残る。先端部は折れた後、折れ面に二次加工が入っているが、尖頭形に整形するには至っていない。413は和田土屋橋西産黒曜石製の両面加工尖頭器である。414は和田鷹山産黒曜石製で、周縁加工尖頭器の先端部破片と見られる。



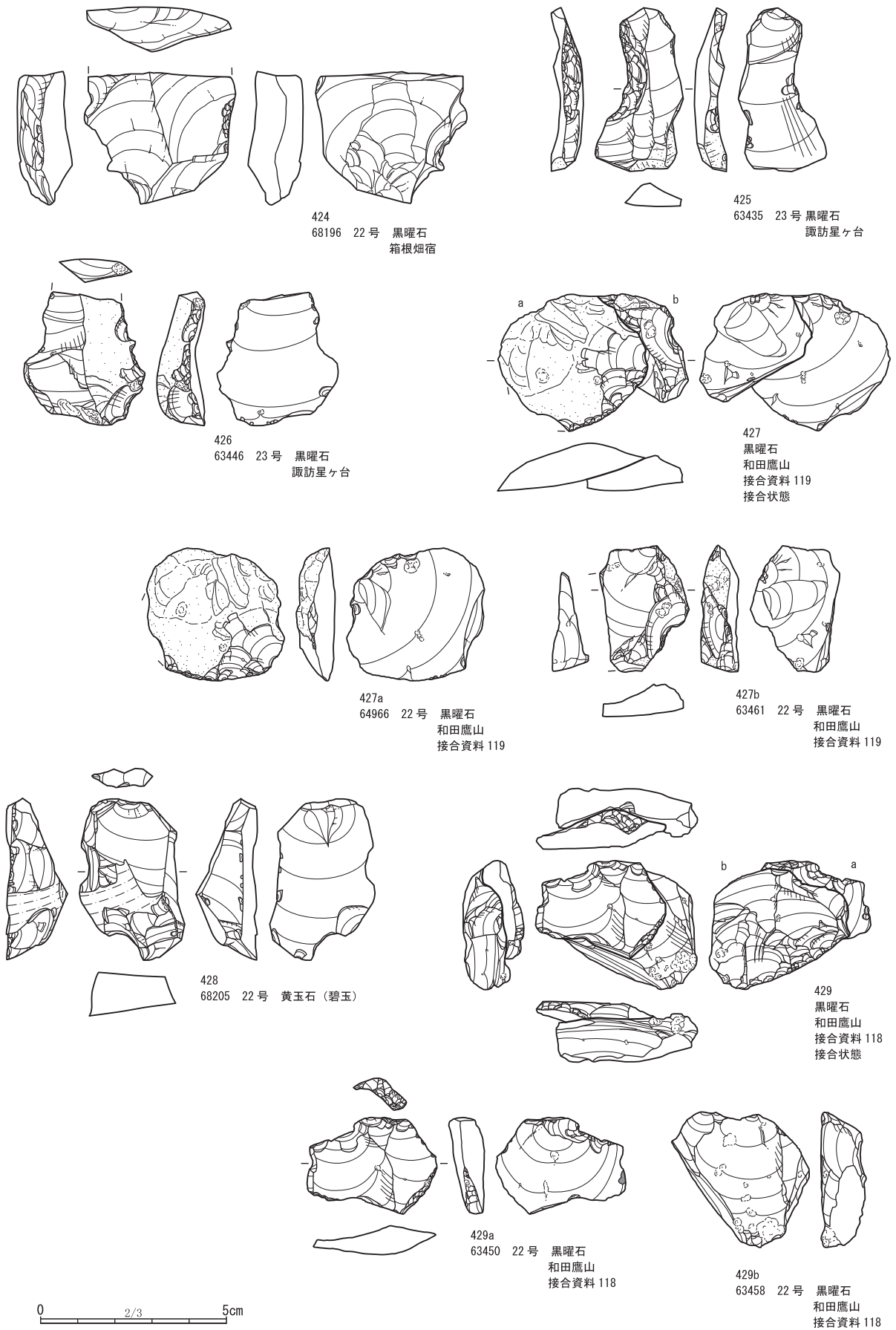
第299図 第XVII文化層西支谷 石器集中(2)

0 2/3 5cm

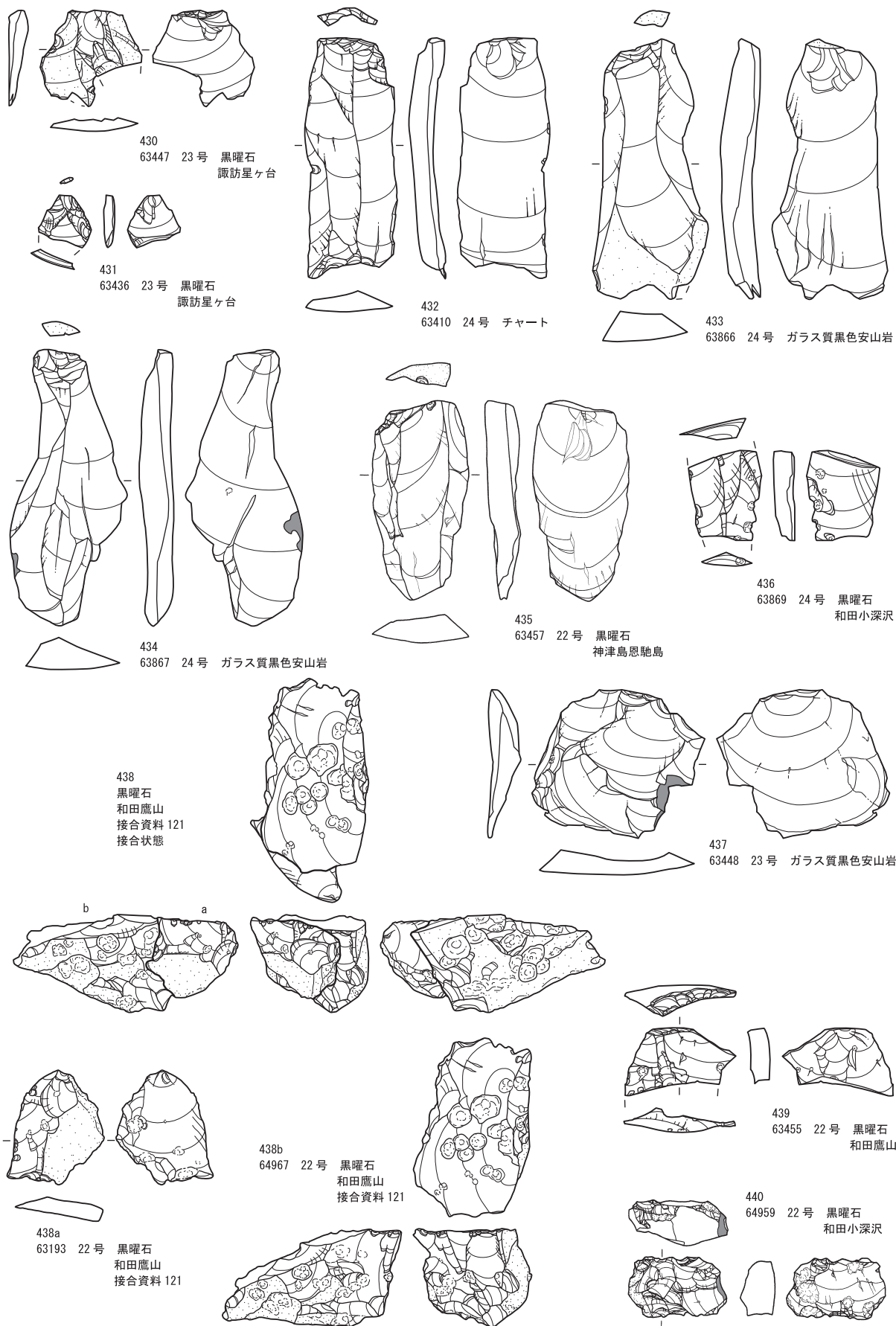


第300図 第XVII文化層西支谷 石器集中(3)

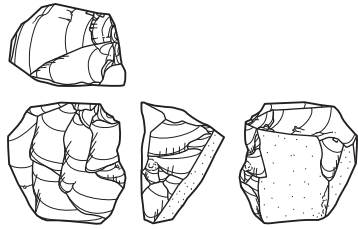
0 2/3 5cm



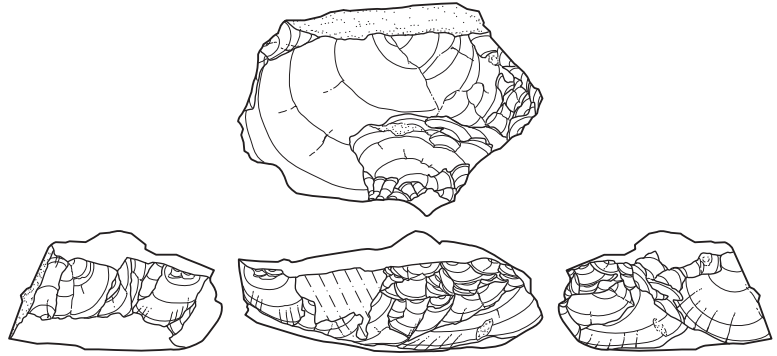
第301図 第XVII文化層西支谷 石器集中(4)



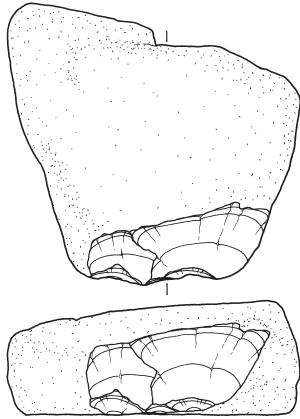
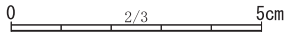
第302図 第XVII文化層西支谷 石器集中(5)



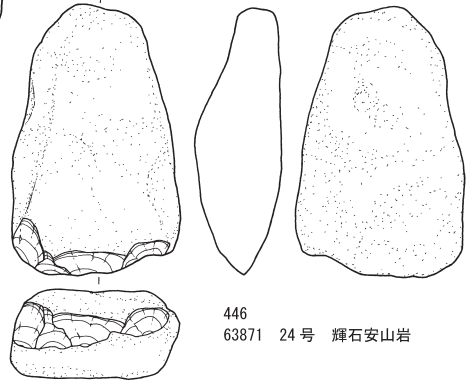
441  
63314 23号 黒曜石  
諏訪星ヶ台



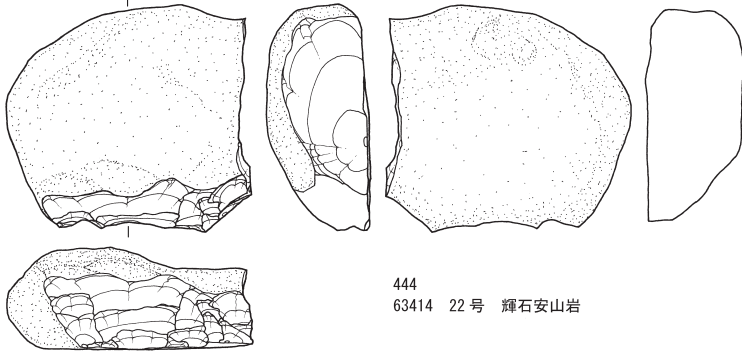
442  
63879 24号 黒曜石  
箱根畑宿



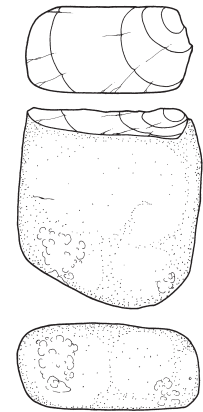
443  
63192 22号 輝石安山岩



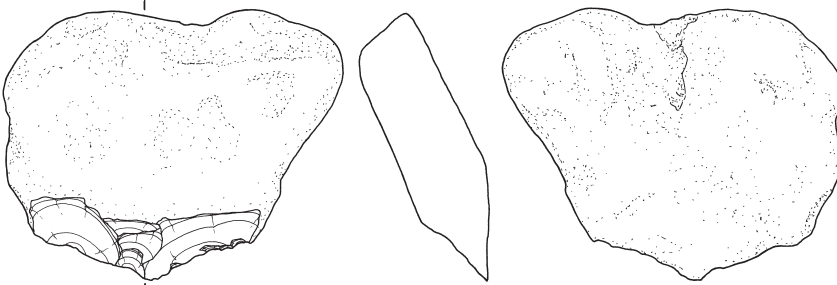
446  
63871 24号 輝石安山岩



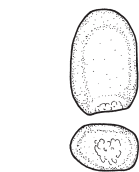
444  
63414 22号 輝石安山岩



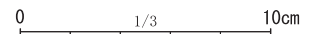
447  
63418 22号 輝石安山岩



445  
63415 22号 輝石安山岩



448  
64311 23号 輝石安山岩



第303図 第XVII文化層西支谷 石器集中(6)

### ナイフ形石器 (415~422)

8点出土した。415はホルンフェルス製の石刃素材で、左側縁の先端側を加工している。416はホルンフェルス製で風化が著しく剥離面の観察が困難であるが、基部側の破片と見られる。417~420は諏訪星ヶ台産黒曜石製の二側縁加工ナイフ形石器である。417は左側縁の基部に素材打面が一部残されている。418は素材剥片の打面側を加工して先端を整形するとともに基部両側縁を加工している。419も同様に素材の打面側を先端として背部加工を行っている。420は薄手の石刃素材で、微小な調整が連続的に加えられている。421は箱根畑宿産黒曜石製で、右側縁に通常の背部加工、左側縁に裏面へ平坦加工がなされている。422は流紋岩製の甲高の剥片を素材とし、打面側に厚形の調整加工を加えて整形している。

### 搔器 (423)

1点出土した。赤玉石製で加工は折損部を除く全周にわたり、特に右側縁を大きく加工している。

### 削器 (424~426・427a・428)

5点出土した。424は箱根畑宿産黒曜石製で、右側縁にはやや平坦な加工、左側縁は腹面に粗い加工の後急斜度調整がなされている。基部に打面を残す。425・426は諏訪星ヶ台産黒曜石製で、急斜度調整により2~3か所の抉入部が連続する刃部が形成されている。427(接合資料119)は和田鷹山産黒曜石製の削器(427a)と二次加工剥片(427b)の接合資料である。壱円礫から長さ・幅が同等な幅広・寸詰まりの剥片が剥離されている。427aでは末端側の縁辺を中心に鋭角的な刃部が作出されている。428は黄玉石製の厚手剥片を素材とし、左側縁に2箇所 of 抉入部を設けている。

### 二次加工剥片 (427b・429~431)

4点出土した。427bは右側縁打面側に微小な剥離が加えられている。429(接合資料118)は二次加工剥片(429a)と石核(429b)との接合資料で、427と同様幅広・寸詰まりの剥片が剥離されている。430・431は諏訪星ヶ台産黒曜石製である。430は左側縁に数枚の剥離で小型の抉入部が作られている。431は右側縁打面側に加工があり、何らかの石器の破片の可能性もある。

### 剥片類・石核 (432~442)

石刃5点、剥片48点、碎片4点、石核4点が出土した。

432~436は石刃である。432はチャート製で複剥離打面である。433・434はガラス質黒色安山岩製で、打面は礫面だが頭部調整がなされている。435は神津島恩馳島産黒曜石製で、背面右端の剥離痕は風化が進んでおり自然面の可能性もある。436は和田小深沢産黒曜石製で、左側縁に微細剥離痕が認められる。

437はガラス質黒色安山岩製の剥片である。複剥離打面で弱く湾曲する側面観から、第XVIII文化層に含まれる大型尖頭器の調整剥片の可能性も考えられる資料であるが、この種の剥片は西支谷ではこの1点しか出土していない。

438(接合資料121)は剥片と石核から成る和田鷹山産黒曜石の接合資料である。斑晶の多い石質で、礫面を除去した後、単剥離打面から剥片剥離が行われている。一方で和田鷹山産黒曜石では、439の剥片や前出の429のように打面調整が顕著な例も認められる。

440は和田小深沢産黒曜石製の石核である。斑晶の多い石材であるが、消費が進んで小型化している。

441は諏訪星ヶ台産黒曜石製の石核である。作業面は図中の上面を利用した後、正面に転移したものと考えられる。いずれの面でも剥片剥離は一方向に行われている。

442は箱根畑宿産黒曜石製の石核である。盤状の剥片を素材とし、主として素材剥片の背面を打面として剥片剥離が行われている。

### 礫器 (443~446)

4点出土した。全て輝石安山岩製で、扁平な礫の一端に片刃の刃部を設けている。

**敲石 (447・448)**

3点が出土し、全て輝石安山岩である。そのうち2点を図示した。447は直方体状の垂角礫の下端部を用いている。448は長円形の垂円礫の下端に敲打痕が認められ、敲石としては小型のものである。

**(7) 25号石器集中の出土石器 (第304図)****ナイフ形石器 (449～451)**

3点出土した。449・450は諏訪星ヶ台産黒曜石製である。449は二側縁加工で背部加工は対向調整によっており、裏面基部加工が成されている。450は基部の右側縁と裏面に調整加工が成されているが、左側縁は欠損のため明らかでない。451はホルンフェルス製で、風化のため詳細は不明であるが右側縁に背部加工が成されていたものと推測される。

**剥片類 (452・453)**

石刃2点、剥片8点が出土し、石刃2点を図示した。452はホルンフェルス製、単剥離打面をもつ大型石刃で、側縁の一部に剥離痕が認められる。453はガラス質黒色安山岩製で調整打面をもつ。

**(8) 26号石器集中の出土石器 (第304図)**

ナイフ形石器2点、二次加工剥片2点、剥片8点、敲石1点が出土した。以下の5点を図示した。

454・455はナイフ形石器である。454はホルンフェルス製の基部側破片で、両側縁を加工している。455は和田鷹山産黒曜石製で、背部加工は先端側が稜上調整となっている。

456・457は二次加工剥片である。456は蓼科冷山産黒曜石製で、素材剥片の打面部が急斜度加工で整形されており、何らかの石器の破片と考えられる。457は神津島恩馳島産黒曜石製で、厚手剥片の端部腹面側に平坦加工が施されている。

458は敲石で、細粒砂岩の扁平礫の一端に敲打痕が認められる。

**(9) 石器集中外の出土石器 (第305・306図)**

尖頭器1点、ナイフ形石器5点、搔器1点、削器4点、楔形石器1点、二次加工剥片2点、剥片13点、石核1点、礫器1点が出土した。

**尖頭器 (459)**

1点出土した。和田鷹山産黒曜石製の剥片素材である。素材剥片は縦に折断したものと見られ、右側面にその折れ面が残っている。U-12グリッド、22・23号石器集中付近で出土した。

**ナイフ形石器 (460～464)**

460・461は和田鷹山産黒曜石製である。460は加工が左側縁を中心とし、右側縁には比較的浅い加工が入っている。基部右側縁に素材打面を残し、裏面に平坦調整が加えられている。S-14グリッド出土。461は二側縁加工で、裏面基部加工が顕著である。S-11グリッド出土。462は諏訪星ヶ台産黒曜石製で、基部は僅かに打面を残して両側縁を加工し、先端部は左側縁を斜めに截断している。R-12グリッド出土。463・464は箱根畑宿産黒曜石製である。463は二側縁加工であるが基部側が折損している。V-13グリッド出土。464は同様のナイフ形石器の先端部破片と考えられる。R-14グリッド出土。

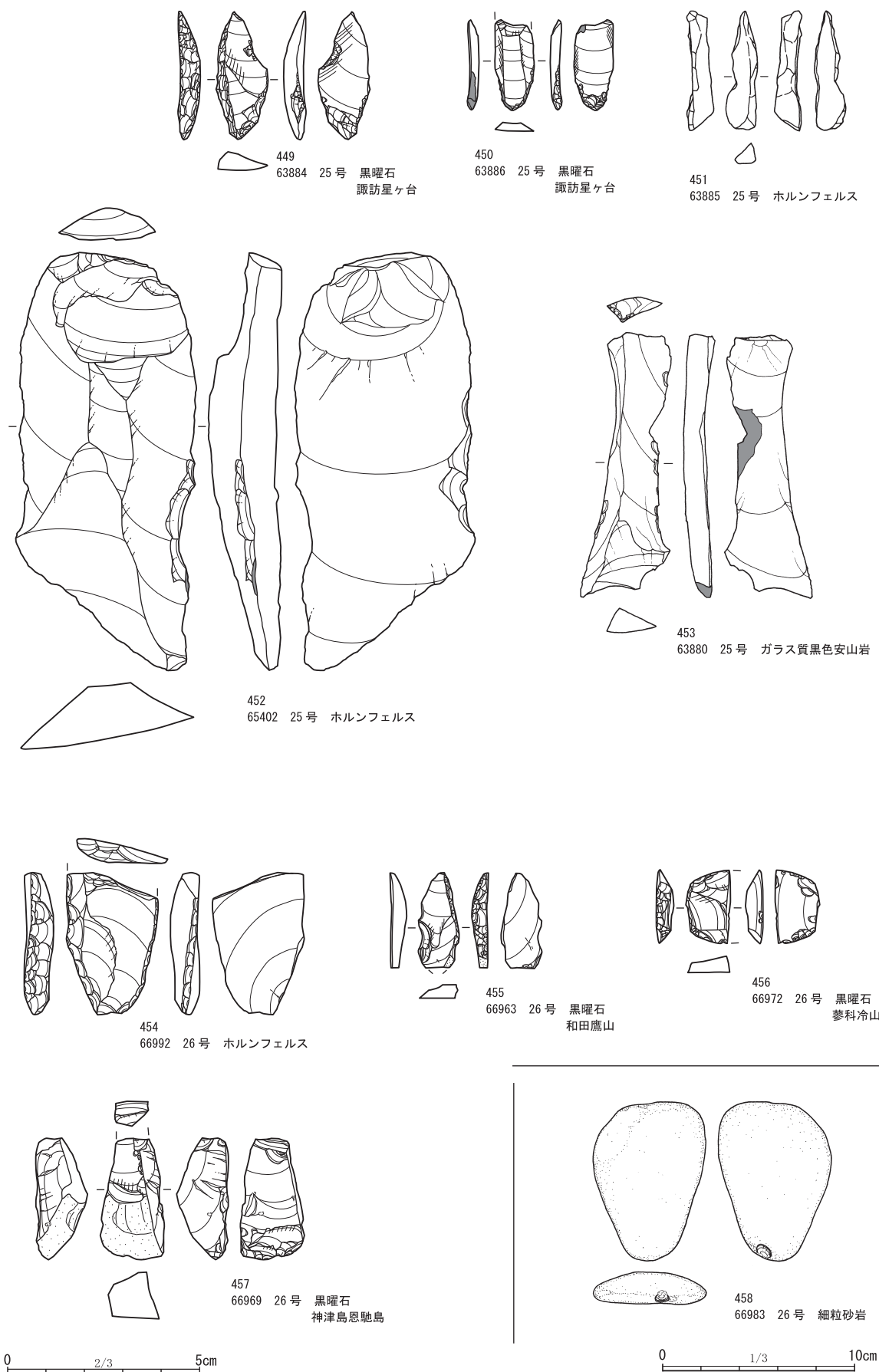
**搔器 (465)**

1点出土した。産地不明(畑宿産と見られる)黒曜石製の刃部側破片である。S-13グリッド出土。

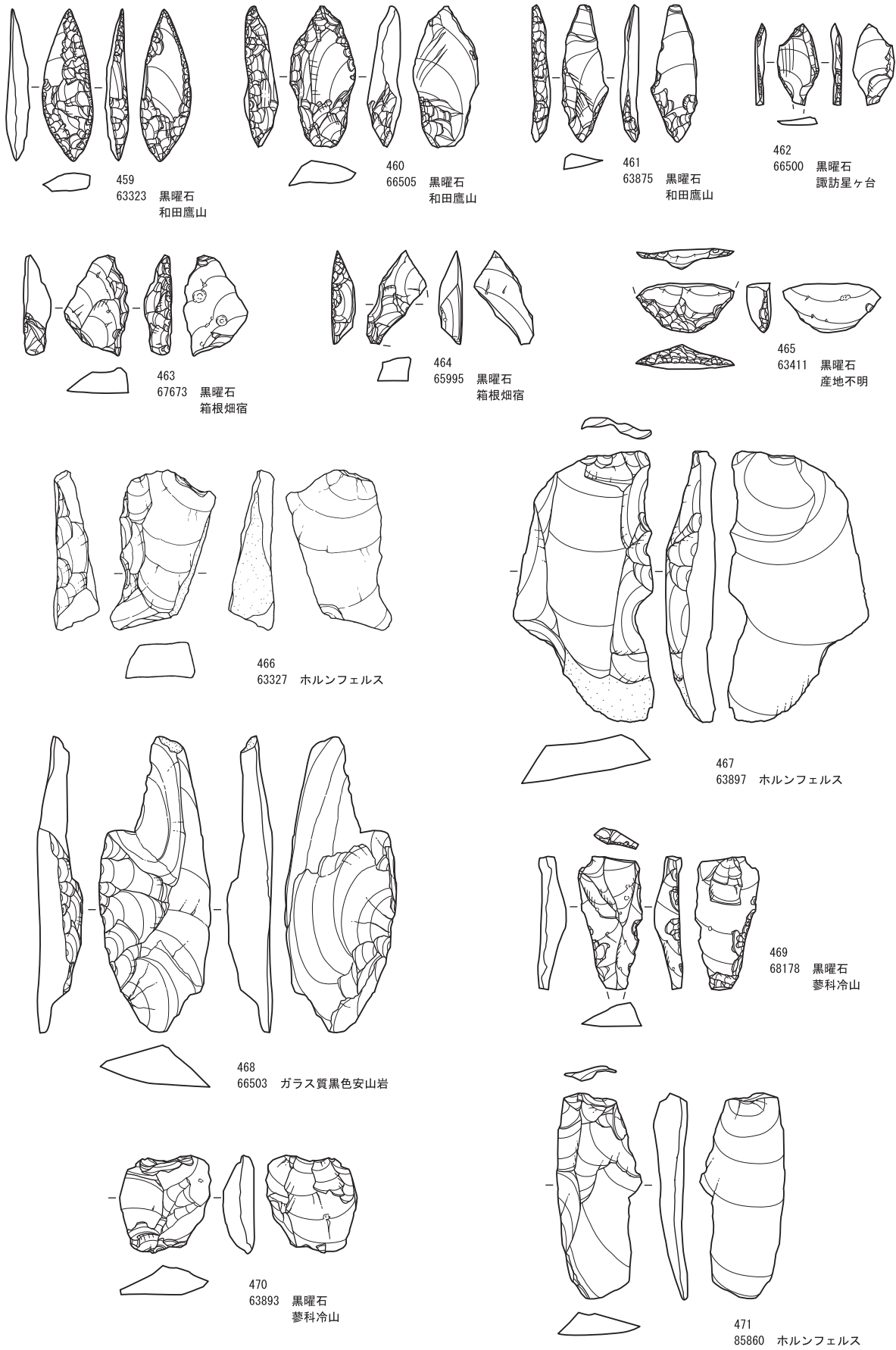
**削器 (466～469)**

466・467はホルンフェルス製で、一側縁に粗い加工で刃部を設けている。466はV-11グリッド、467はR-11グリッド出土。468はガラス質黒色安山岩製の幅広剥片を素材とし、打面側縁辺に平坦剥離を加

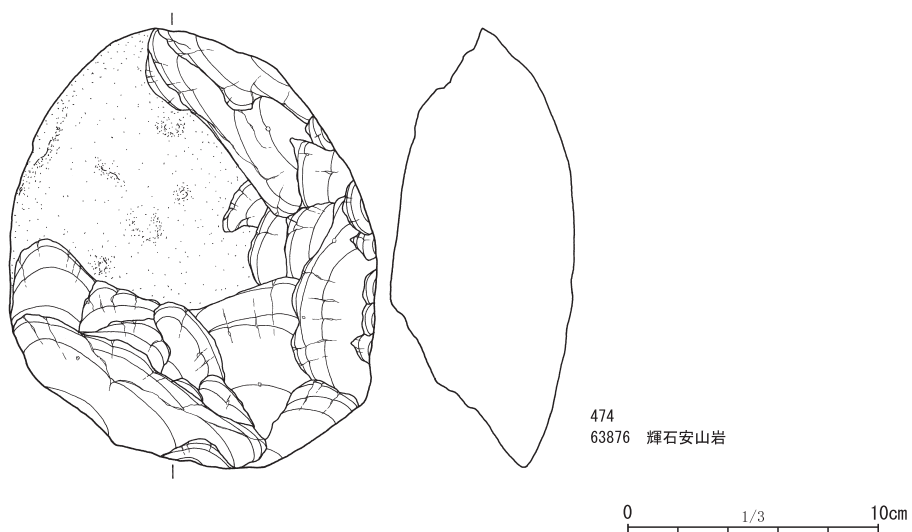
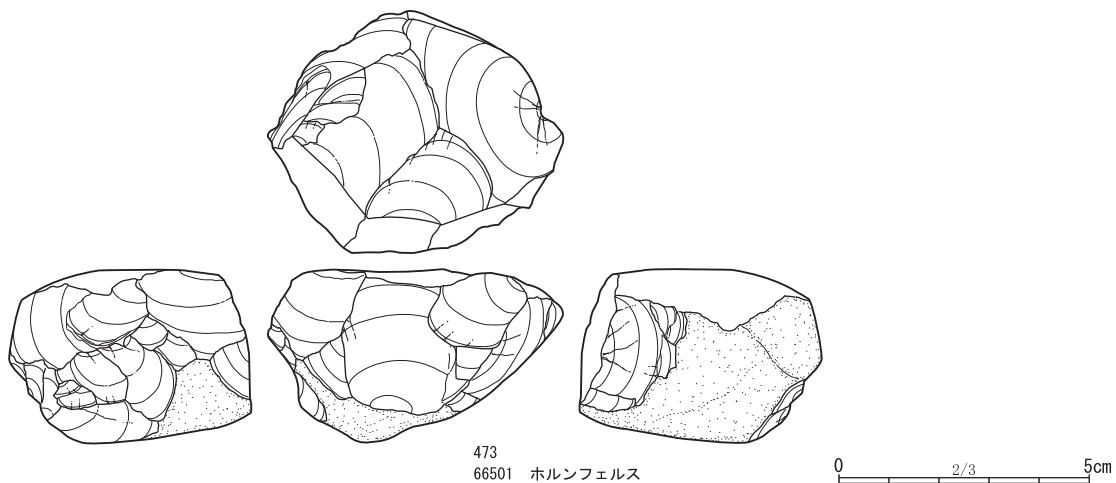
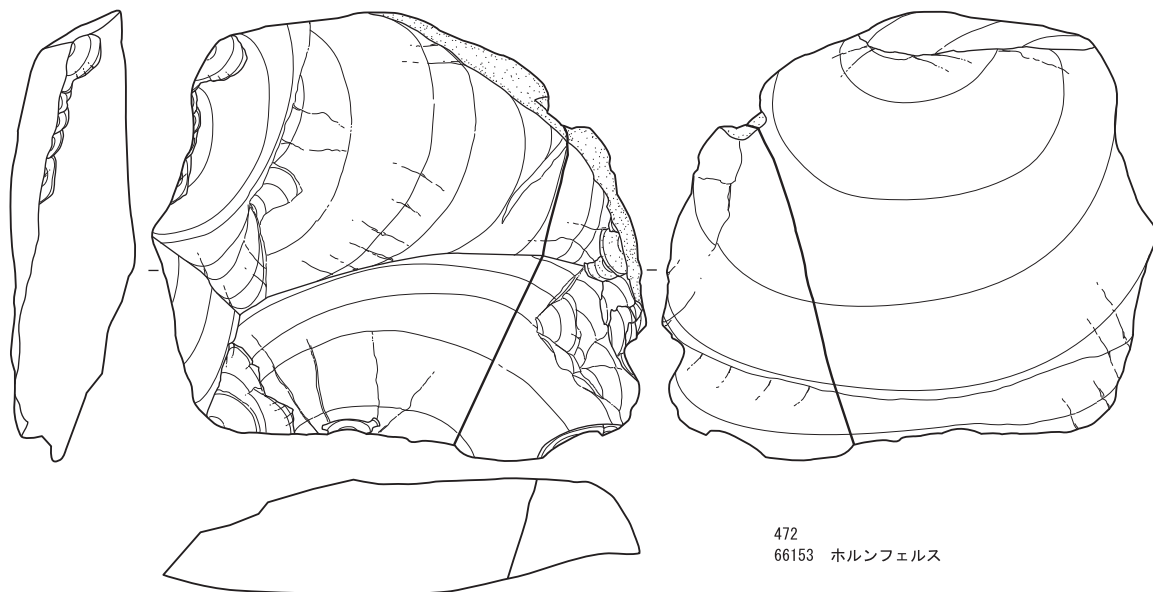




第304図 第XVII文化層西支谷 石器集中(7)



第305図 第XVII文化層西支谷 石器集中外(1)



第306図 第XVII文化層西支谷 石器集中外(2)

えている。S-13グリッド出土。469は蓼科冷山産黒曜石製で、先細りの縦長剥片を素材として左側縁腹面に平坦加工を入れており、背面にも断続的に加工がなされている。W-12グリッド出土。

#### 楔形石器 (470)

1点出土した。蓼科冷山産黒曜石製で、上下端に潰れや階段状剥離が認められる。S-10グリッド出土。

#### 二次加工剥片 (471・472)

2点出土した。ともにホルンフェルス製で、471は石刃の基部右側縁に平坦剥離が、472は大型剥片の基部左側縁に平坦剥離が入っている。Q-11グリッド（表土一括で正確な出土地点不明）、R-14グリッド出土。

#### 剥片類・石核 (473)

剥片13点、石核1点が出土した。石核1点を図示した。473はホルンフェルスの亜円礫を素材とする石核で、打面転移の繰り返しにより作業面が図中の正面、上面、左側面、裏面に展開している。R-12グリッド出土。

#### 礫器 (474)

1点出土した。輝石安山岩製で被熱により全面が赤く変色している。片面加工で、加工は上端から右側縁、下端にまで巡っている。S-13グリッド出土。

### 7. 西尾根（北）の遺物群

#### (1) 遺物の分布 (第277・278・307・308図)

西尾根の北側部分で、北東から南西方向へ列状に分布する遺物群で、27～37号石器集中、38～54号礫群である。石器283点、礫193点が出土した（表127・139）。分布はさらに幾つかの群に分けて捉えることができる。

そこで、次項以降で述べる出土石器については遺物が最も密集するM～R-4～7グリッド付近（29～35号石器集中、39～46号礫群）、その北東側の27・28号石器集中と38号礫群、南西側の36・37号石器集中と47～54号礫群に分けて整理する。

#### 27号石器集中 (第309・310図、表128)

V-9グリッド西側から出土した石器20点から成る。出土層位は主に休場層中位であるが、休場層直下黒色帯出土の1点も含めた。南北約4mの範囲に分布し、38号礫群と重複する。石器は全てホルンフェルス製である。

#### 28号石器集中 (第311・312図、表129)

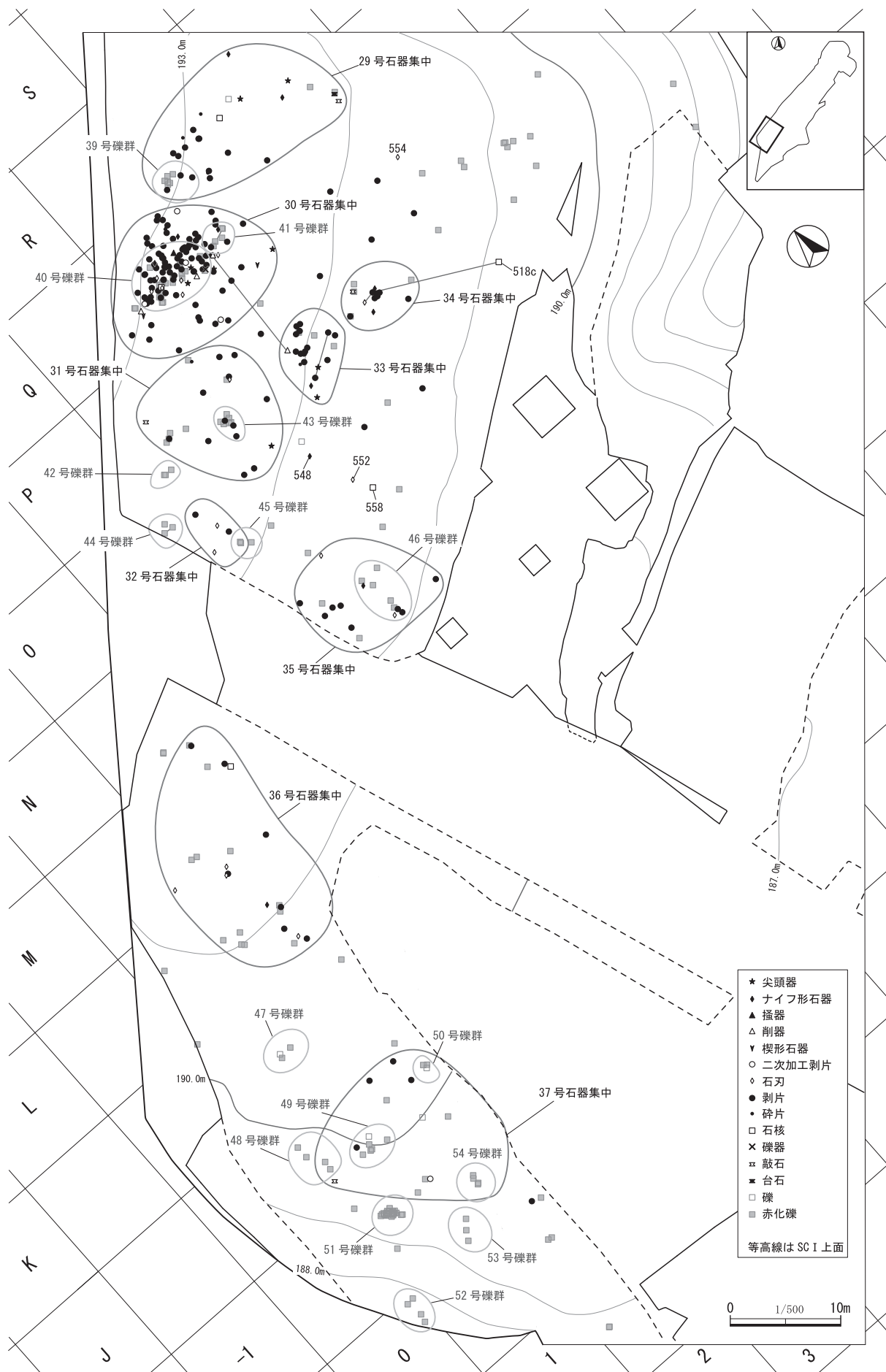
T-7グリッドから出土した石器6点から成る。出土層位は主に休場層中位で、1点が休場層上位から出土した。分布は南北約5.5mの範囲に広がる。石器はホルンフェルス製3点、箱根畑宿産黒曜石製2点、シルト岩製1点で、ナイフ形石器2点が含まれる。

#### 29号石器集中 (第313・314図、表130)

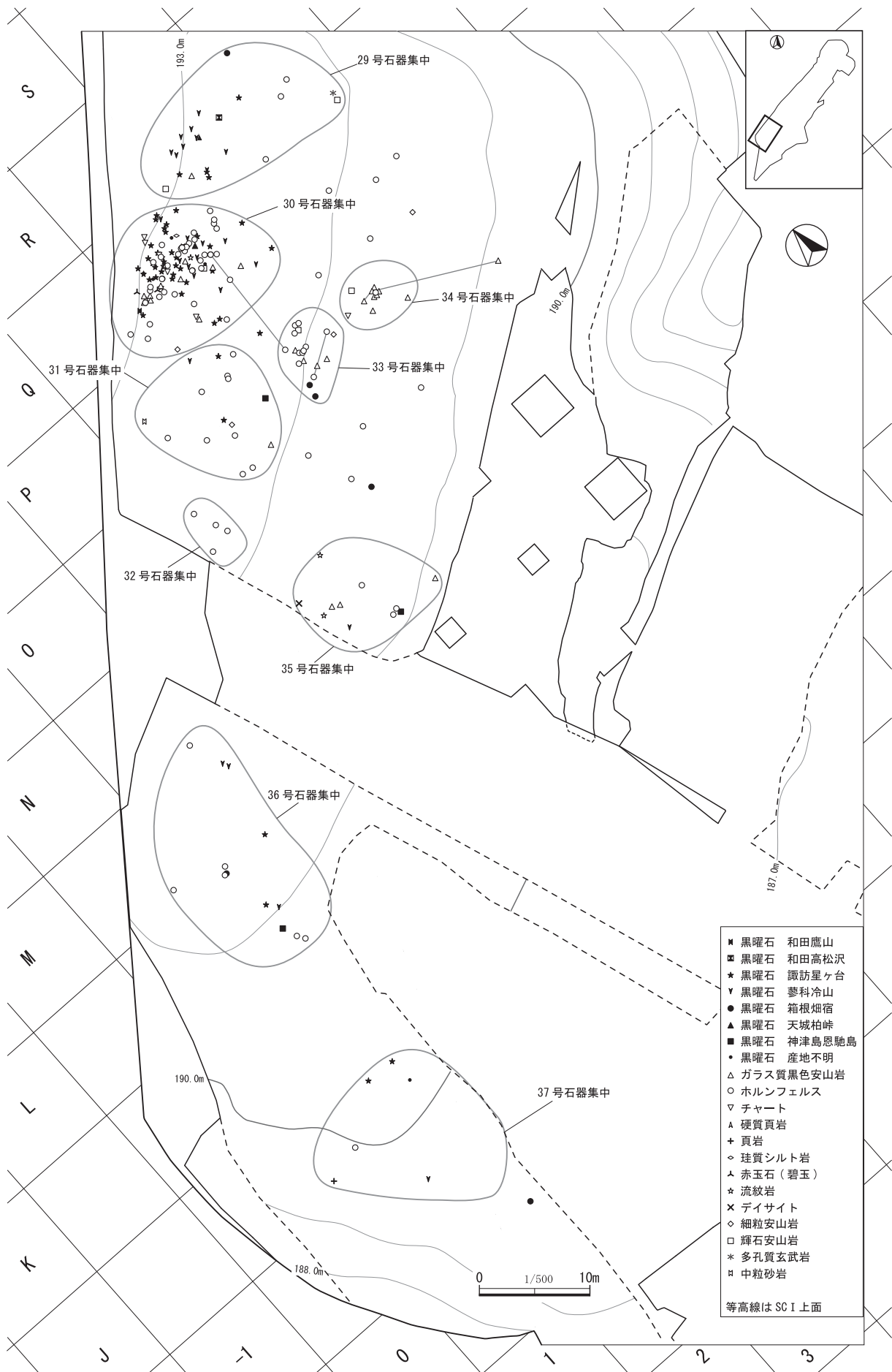
Q-5～7、R-6・7グリッドにかけて出土した石器23点から成る。出土層位は休場層直下黒色帯から休場層上位に及ぶが、休場層中位が主体である。分布は東西約16mの範囲に広がり、西側で39号礫群と重複する。石器は黒曜石（蓼科冷山産9点、諏訪星ヶ台産4点、和田高松沢産、箱根畑宿産、天城柏峠産各1点）製が主体で、ホルンフェルス製3点、輝石安山岩製2点、ガラス質黒色安山岩製、多孔質玄武岩製各1点で、尖頭器、ナイフ形石器各2点、敲石、台石各1点が含まれる。

#### 30号石器集中 (第315・316図、表131)

Q-5グリッドを中心に出土した石器118点から成る。出土層位は調査時の記録によると主に休場層中位で、1点が休場層直下黒色帯、1点が休場層下位、6点が休場層上位から出土した。径約14mの範囲



第307図 第XVII文化層西尾根（北）器種別分布



第308図 第XVII文化層西尾根(北) 石材別分布

表127 第XVII文化層西尾根（北） 石器組成

		尖頭器	ナイフ形石器	搔器	削器	楔形石器	二次加工剥片	石刃	剥片	碎片	石核	礫器	敲石	台石	計
黒曜石	和田鷹山	1			2			1(1)							4(1)
	和田芙蓉ライト	1													1
	和田高松沢										1				1
	諏訪星ヶ台	4	2	1	1	1	2	4	36(6)	1					52(6)
	蓼科冷山	1			1	1	1		18(1)	3	1				26(1)
	箱根畑宿	1	3						4(2)		2				10(1)
	箱根黒岩橋								1						1
	天城柏峠								2						2
	神津島恩馳島								3(1)						3(1)
	産地不明								5						5
	黒曜石計	8	5	1	4	2	3	5(1)	69(10)	4	4				105(11)
ガラス質黒色安山岩	3	2				2	2	18		2				29	
ホルンフェルス	1	8		2		1	14	90	1	2				119	
チャート								6(2)						6(2)	
硬質頁岩								1						1	
頁岩												1		1	
珪質シルト岩		1												1	
シルト岩										1				1	
赤玉石（碧玉）								3(1)						3(1)	
硬質細粒凝灰岩		1(1)												1(1)	
流紋岩							1(1)	3						4(1)	
デイサイト								1						1	
細粒安山岩								4						4	
輝石安山岩								2			1	2		5	
多孔質玄武岩													1	1	
中粒砂岩												1		1	
計	12	17(1)	1	6	2	6	22(2)	197(13)	5	9	1	4	1	283(16)	

括弧内は全体数の内、微細剥離痕のあるものの点数。

表128 第XVII文化層  
27号石器集中 石器組成

		二次加工剥片	剥片	石核	計
ホルンフェルス		1	17	2	20
計		1	17	2	20

表129 第XVII文化層  
28号石器集中 石器組成

		ナイフ形石器	剥片	石核	計
黒曜石	箱根畑宿	1		1	2
ホルンフェルス		1	2		3
シルト岩				1	1
計		2	2	2	6

表130 第XVII文化層29号石器集中 石器組成

		尖頭器	ナイフ形石器	剥片	碎片	石核	敲石	台石	計
黒曜石	和田高松沢					1			1
	諏訪星ヶ台	1		2	1				4
	蓼科冷山			7(1)	2				9(1)
	箱根畑宿		1						1
	天城柏峠			1					1
黒曜石計	1	1	10(1)	3	1			16(1)	
ガラス質黒色安山岩			1						1
ホルンフェルス	1	1	1						3
輝石安山岩			1				1		2
多孔質玄武岩								1	1
計	2	2	13(1)	3	1	1	1	1	23(1)

括弧内は全体数の内、微細剥離痕のあるものの点数。

表131 第XVII文化層30号石器集中 石器組成

	尖頭器	ナイフ形石器	搔器	削器	楔形石器	二次加工剥片	石刃	剥片	石核	礫器	計
黒曜石	和田鷹山			1							1
	諏訪星ヶ台	2	1	1		1	2	3	27(5)		37(5)
	蓼科冷山	1			1	1			8		11
	天城柏峠								1		1
	産地不明								4		4
黒曜石計	3	1	1	2	2	2	3	40(5)		54(5)	
ガラス質黒色安山岩	1					2	1	6	1		11
ホルンフェルス		2		1			2	35			40
チャート								5(1)			5(1)
硬質頁岩								1			1
珪質シルト岩		1									1
赤玉石(碧玉)								3(1)			3(1)
流紋岩								1			1
細粒安山岩								1			1
輝石安山岩									1	1	1
計	4	4	1	3	2	4	6	92(7)	1	1	118(7)

括弧内は全体数の内、微細剥離痕のあるものの点数。

表133 第XVII文化層32号石器集中 石器組成

	石刃	剥片	計
ホルンフェルス	2	2	4
計	2	2	4

表132 第XVII文化層31号石器集中 石器組成

	尖頭器	石刃	剥片	砕片	敲石	計
黒曜石	諏訪星ヶ台		2			2
	蓼科冷山			1		1
	神津島恩馳島			1(1)		1(1)
	黒曜石計			3(1)	1	4(1)
ガラス質黒色安山岩	1					1
ホルンフェルス		1	8			9
細粒安山岩			1			1
中粒砂岩					1	1
計	1	1	12(1)	1	1	16(1)

括弧内は全体数の内、微細剥離痕のあるものの点数。

表134 第XVII文化層33号石器集中 石器組成

	尖頭器	ナイフ形石器	削器	剥片	砕片	計
黒曜石	箱根畑宿	1	1			2
ガラス質黒色安山岩		1		3		4
ホルンフェルス			1	9	1	11
細粒安山岩				1		1
輝石安山岩				1		1
計	2	1	1	14	1	19

表135 第XVII文化層34号石器集中 石器組成

	ナイフ形石器	石刃	剥片	敲石	計
ガラス質黒色安山岩	2	1	5		8
ホルンフェルス			1		1
チャート			1(1)		1(1)
輝石安山岩				1	1
計	2	1	7(1)	1	11(1)

括弧内は全体数の内、微細剥離痕のあるものの点数。

	ナイフ形石器	石刃	剥片	計
黒曜石	蓼科冷山		1	1
	神津島恩馳島		1	1
	黒曜石計		2	2
ガラス質黒色安山岩			3	3
ホルンフェルス	1	1	1	3
流紋岩		1(1)	1	2(1)
デイサイト			1	1
計	1	2(1)	8	11(1)

括弧内は全体数の内、微細剥離痕のあるものの点数。



表137 第XVII文化層  
36号石器集中 石器組成

		ナイフ形石器	石刃	剥片	石核	計
黒曜石	諏訪星ヶ台	1		1(1)		2(1)
	蓼科冷山			2	1	3
	箱根畑宿			1		1
	神津島恩馳島			1		1
	黒曜石計	1		5(1)	1	7(1)
ホルンフェルス			4	2		6
計		1	4	7(1)	1	13(1)

括弧内は全体数の内、微細剥離痕のあるものの点数。

表138 第XVII文化層  
37号石器集中 石器組成

		二次加工剥片	剥片	敲石	計
黒曜石	諏訪星ヶ台		2		2
	蓼科冷山	1			1
	産地不明		1		1
	黒曜石計	1	3		4
	ホルンフェルス			1	
頁岩				1	1
計		1	4	1	6

括弧内は全体数の内、微細剥離痕のあるものの点数。

表139 第XVII文化層西尾根（北） 礫群属性

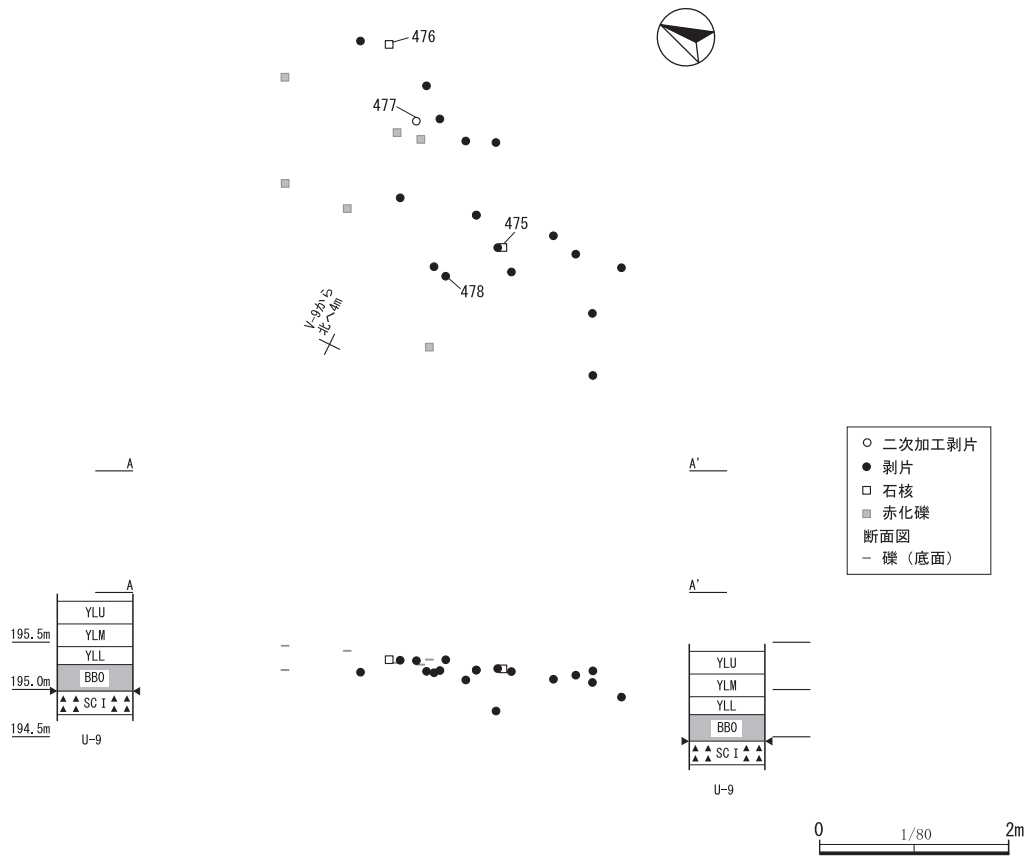
礫群番号	構成礫数	赤化					形態				石材													
		完形		非完形			不明	亜角	亜円	円	不明	イト	デイサ	安山岩	輝石	安山岩	多孔質	玄武岩	玄武岩	多孔質	閃緑岩	砂岩	中粒	不明
		非赤化	赤化	非赤化	赤化1	赤化2																		
38号	6		1		4	1		5	1					2	1	1	2							
39号	6		4		2			3	3					1	2		3							
40号	20		11		7	2		16	3	1				7	2	3	7						1	
41号	5		1		1	3		5						1	3		1							
42号	3		2		1			3						2			1							
43号	6		6					5	1					4			2							
44号	3				3				3					3										
45号	3		2		1			2	1								2	1						
46号	5		2		2	1		2	1	2				2			1	2						
47号	3		2	1				1	1	1				1	1								1	
48号	4		1		2	1		4						2			2							
49号	6		1	1		4		5	1					4	1	1								
50号	3		2				1		2		1						1	1						1
51号	33		11		16	6		25	8					12	16	2	3							
52号	4		3			1		2	2					2	2									
53号	3		2			1		2	1					3										
54号	4		2		2			2	2						2	1	1							
遺構外	76	1	39	2	25	8	1	51	13	11	1	1	37	9	10	17	1							1

赤化1：全面が赤化 赤化2：礫の外皮のみ赤化

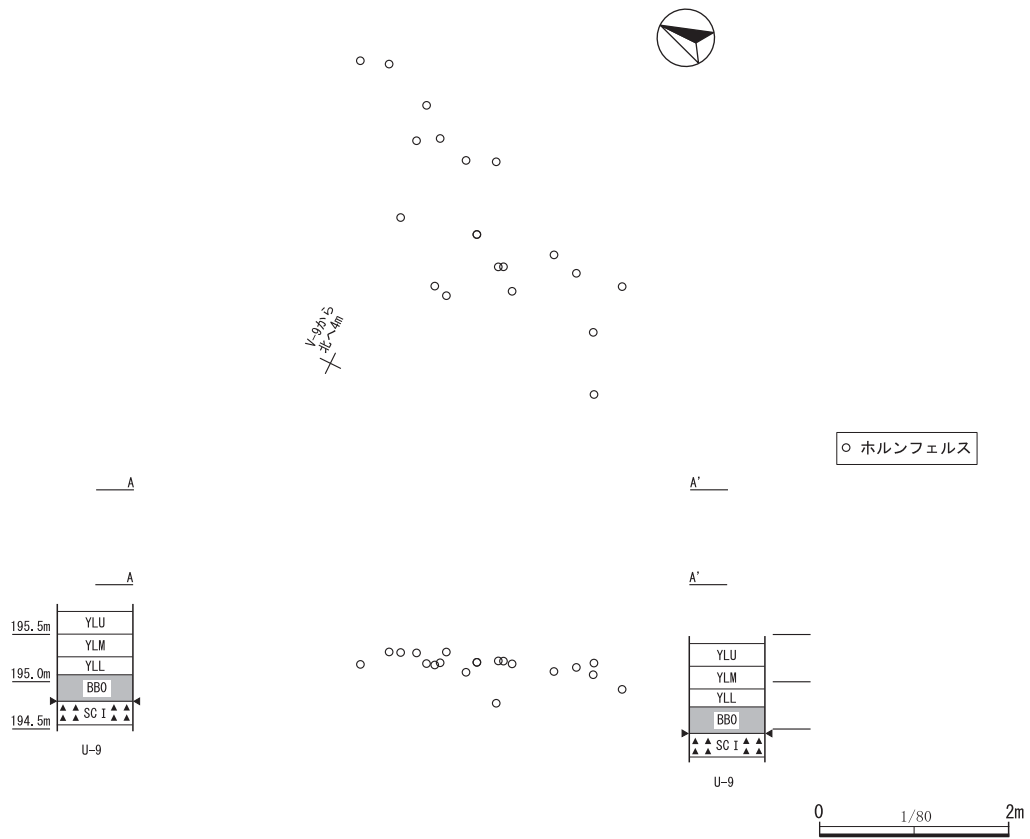
を石器集中に含めたが、特に北半部に密集し、40・41号礫群が重複する。石器は黒曜石（諏訪星ヶ台産37点、蓼科冷山産11点、和田鷹山産、天城柏峠産各1点など）製が主体で、ホルンフェルス製40点、ガラス質黒色安山岩製11点、チャート製5点、赤玉石製3点、硬質頁岩製、珪質シルト岩製、流紋岩製、細粒安山岩製、輝石安山岩製各1点であり、ホルンフェルス1個体が33号石器集中との間で接合する。

尖頭器、ナイフ形石器各4点、搔器1点、削器3点、楔形石器2点、二次加工剥片4点が含まれる。31号石器集中（第317・318図、表132）

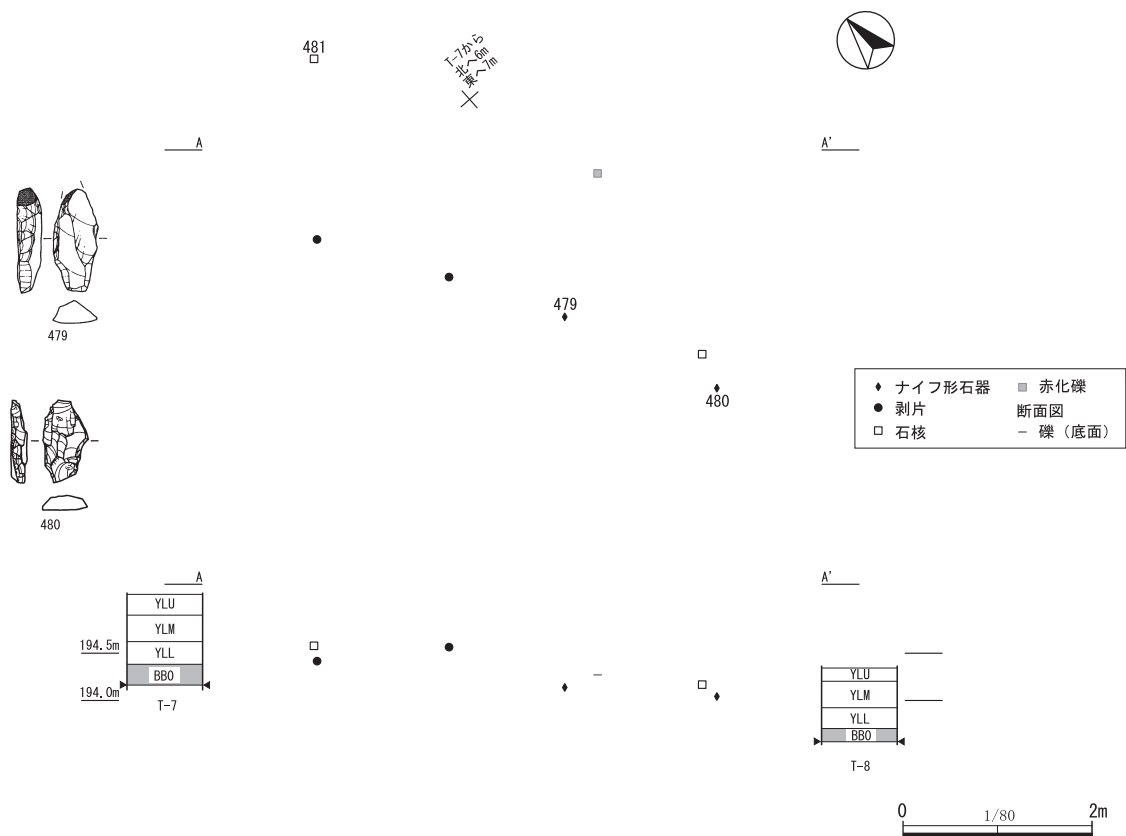
○P-4・5グリッドにかけて出土した石器16点から成る。出土層位は調査時の記録によると主に休場層中位で、1点が休場層下位、4点が休場層上位から出土した。径約12mの範囲にやや分散した分布を示し、中心部に43号礫群が重複する。石器はホルンフェルス製9点、黒曜石（諏訪星ヶ台産2点、蓼科冷山産、神津島恩馳島産各1点）製4点、ガラス質黒色安山岩製、細粒安山岩製、中粒砂岩製各1点で、尖頭器、敲石が各1点含まれる。



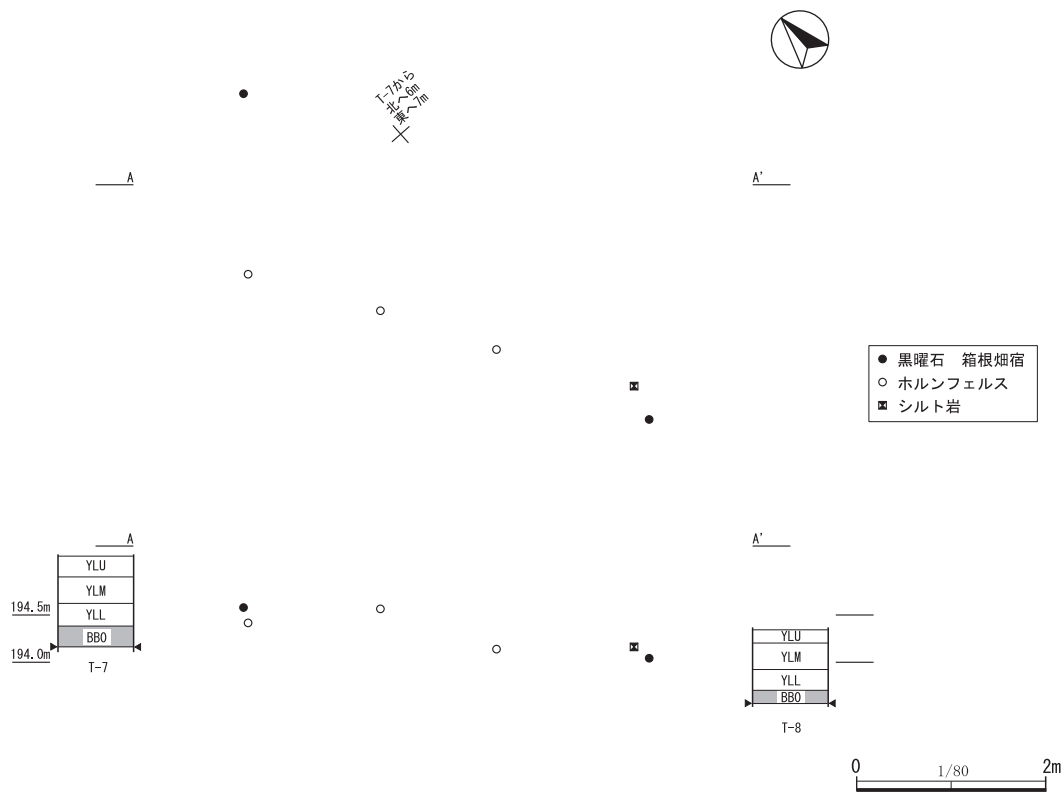
第309図 第XVII文化層27号石器集中 器種別分布、38号礫群



第310図 第XVII文化層27号石器集中 石材別分布



第311図 第XVII文化層28号石器集中 器種別分布



第312図 第XVII文化層28号石器集中 石材別分布

**32号石器集中 (第319・320図、表133)**

O-4グリッド西部から出土した石器4点から成る。出土層位は調査時の記録によると2点が休場層直下黒色帯、2点が休場層中位である。分布は南北4mの範囲に広がり、これに隣接して42・44・45号礫群が分布する。石器は全てホルンフェルス製である。

**33号石器集中 (第321・322図、表134)**

O・P-5・6グリッドにかけて出土した石器19点から成る。出土層位は調査時の記録によると主に休場層中位で、休場層下位・上位から各1点が出土した他、富士黒土層出土の2点もここに含めた。石器はホルンフェルス製11点、ガラス質黒色安山岩製4点、箱根畑宿産黒曜石製2点、細粒安山岩製、輝石安山岩製各1点で、尖頭器2点、ナイフ形石器、削器各1点が含まれる。

**34号石器集中 (第323・324図、表135)**

O-6グリッドを中心に出土した石器11点から成る。出土層位は調査時の記録によると主に休場層中位で、休場層下位から1点が出土した。石器はガラス質黒色安山岩製8点、ホルンフェルス製、チャート製、輝石安山岩製各1点で、ナイフ形石器2点、敲石1点が含まれる。

**35号石器集中 (第325・326図、表136)**

M-4・5、N-4グリッドにかけて出土した石器11点から成る。出土層位は調査時の記録によると主に休場層中位で、休場層直下黒色帯、休場層上位からそれぞれ1点が出土した。石器はガラス質黒色安山岩製、ホルンフェルス製各3点、流紋岩製2点、蓼科冷山産・神津島恩馳島産黒曜石製、デイサイト製各1点で、ナイフ形石器1点が含まれる。

**36号石器集中 (第327・328図、表137)**

L・M-2グリッド周辺から出土した石器13点から成る。出土層位は調査時の記録によると主に休場層中位で、休場層下位から1点、休場層上位から3点が出土した。石器は黒曜石（蓼科冷山産3点、諏訪星ヶ台産2点、箱根畑宿産、神津島恩馳島産各1点）製7点とホルンフェルス製6点で、ナイフ形石器1点が含まれる。また、この石器集中の範囲では長径23.2cm・重量3.9kgの大型亜角礫を含む礫が散在していた。

**37号石器集中 (第329・330図、表138)**

J-1・2グリッド周辺から出土した石器6点から成る。この区域では礫が多く出土しており（48～54号礫群など）、これらの礫に伴う石器をまとめたもので、石器のみの分布密度は低い。出土層位は調査時の記録によると休場層中位である。石器は黒曜石（諏訪星ヶ台産2点、蓼科冷山産1点など）製4点、ホルンフェルス製、頁岩製各1点で、二次加工剥片、敲石各1点が含まれる。

**38号礫群 (第309図、表139)**

V-9グリッド西側から出土した被熱礫6点から成る。出土層位は主に休場層中位で、1点が休場層下位出土である。径3.5m程度の範囲に分散し、礫の大きさは平均で長径9.6cm・重量0.24kgである。

**39号礫群 (第313図、表139)**

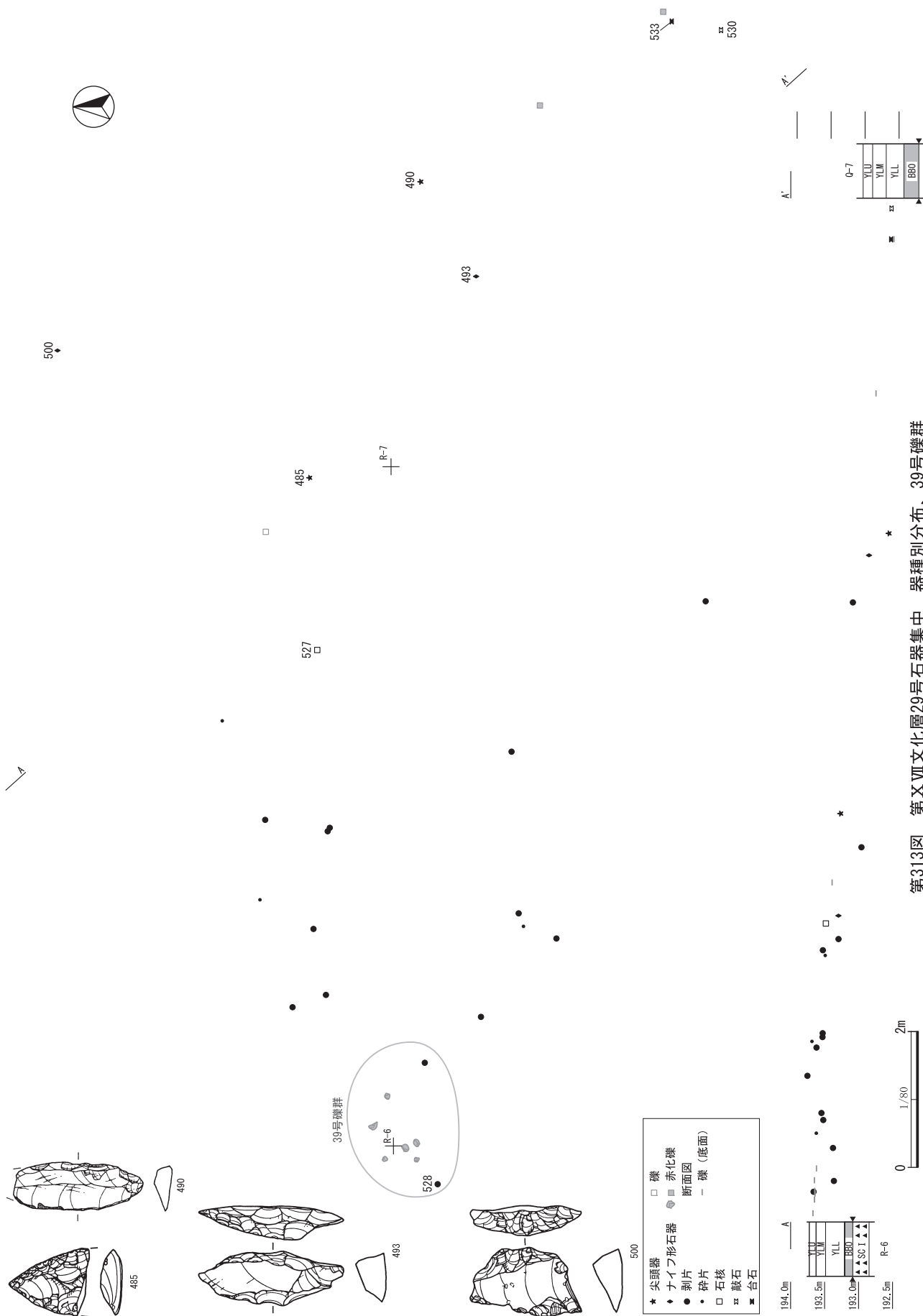
Q・R-5・6グリッドにかけて出土した被熱礫6点から成る。出土層位は調査時の記録によると休場層中位である。径1m程度の範囲にまとまって分布し礫の大きさは平均で長径9.9cm・重量0.35kgである。

**40号礫群 (第315図、表139)**

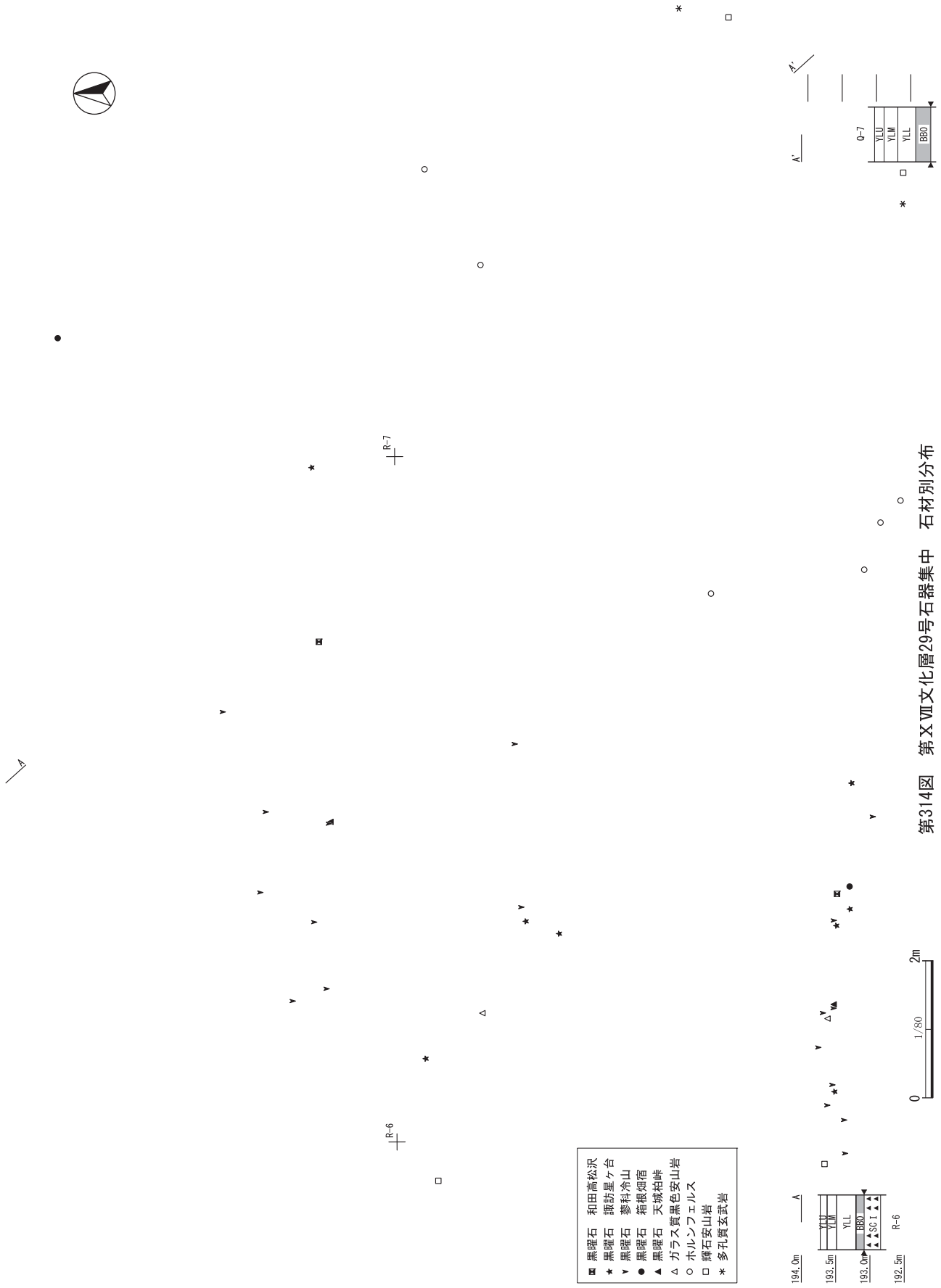
Q-5グリッドで出土した被熱礫20点から成る。出土層位は休場層下位から中位で、東側に分布する礫の方が下位から出土している。径5.5mの範囲に分散し、礫の大きさは平均で長径8.9cm・重量0.22kg。

**41号礫群 (第315図、表139)**

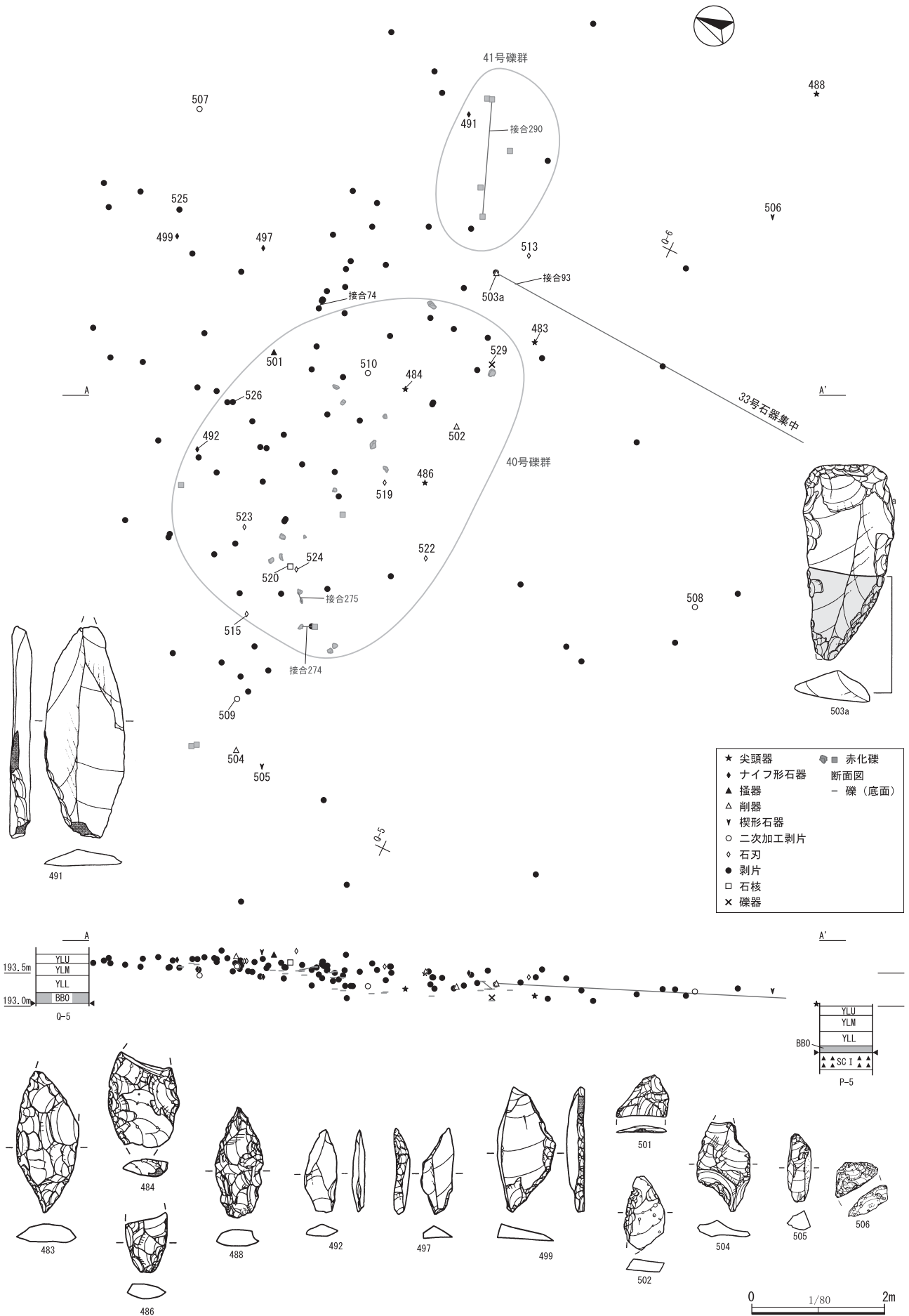
Q-5・6グリッド西側から出土した被熱礫5点から成る。出土層位は休場層中位である。分布は径2mの範囲に分散し、礫の大きさは平均で長径8.8cm・重量0.20kgである。



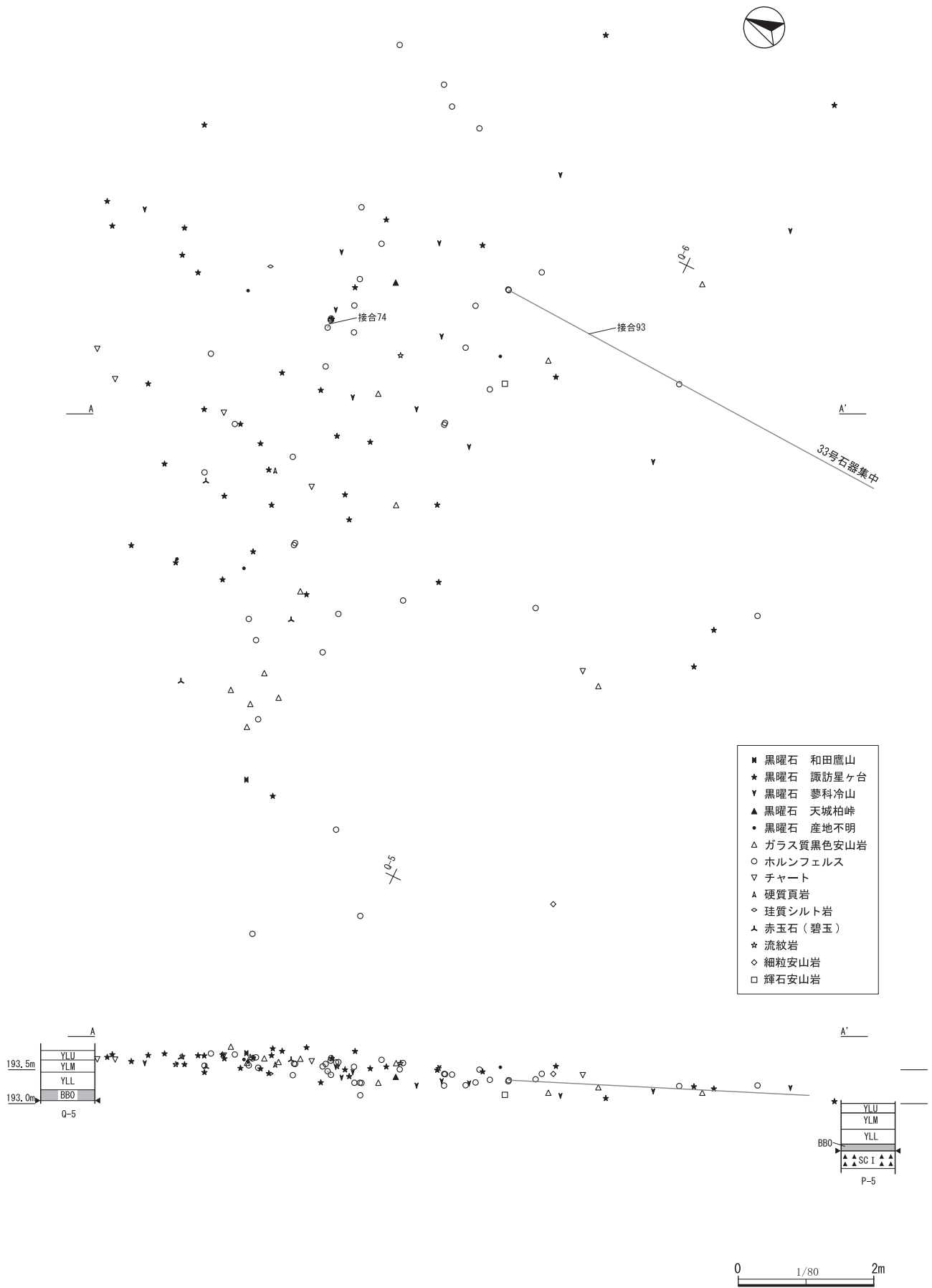
第313図 第XVII文化層29号石器集中 器種別分布、39号礫群



第314図 第XⅣ文化層29号石器集中 石材別分布

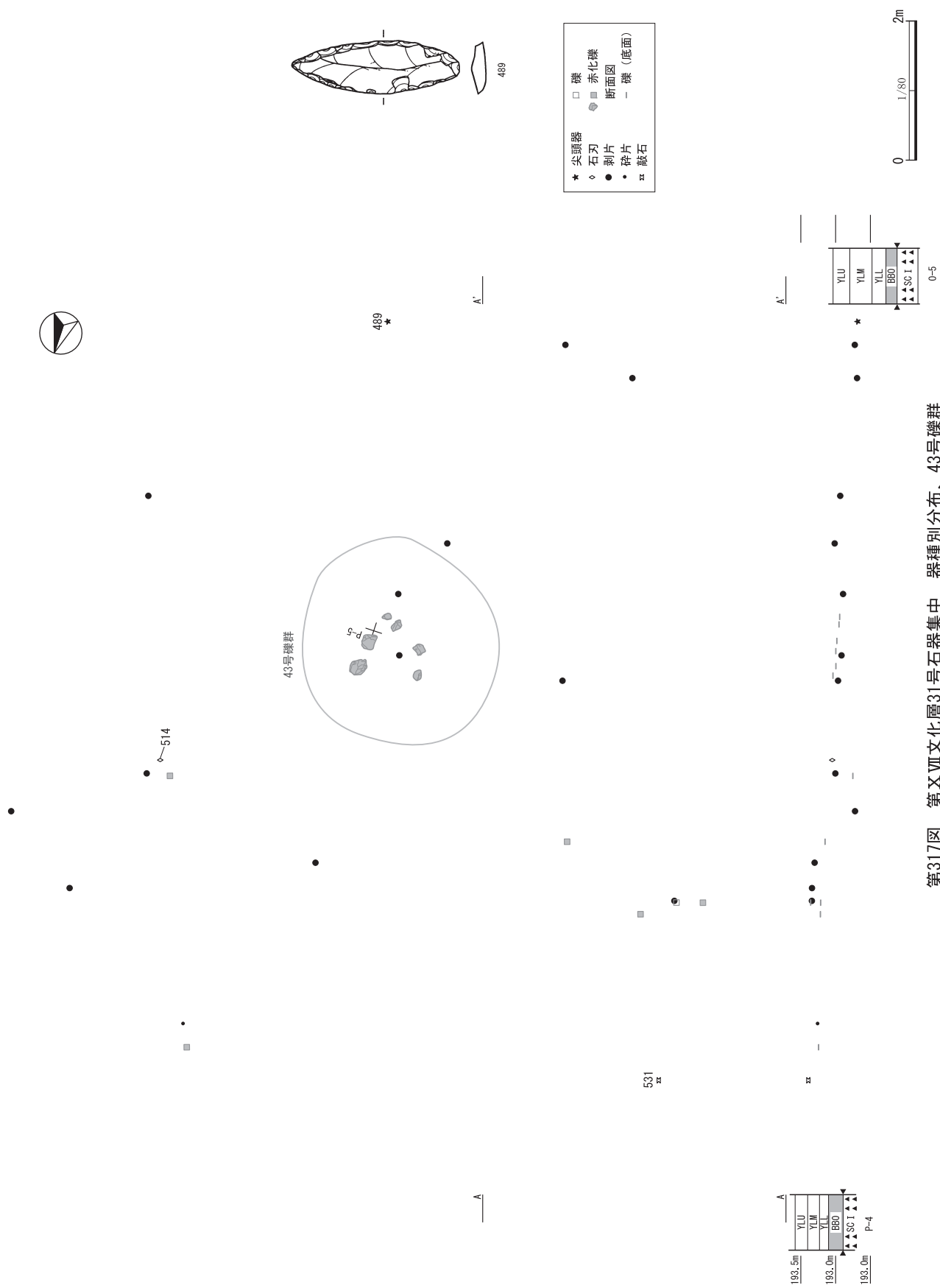


第315図 第XVII文化層30号石器集中 器種別分布、40・41号礫群

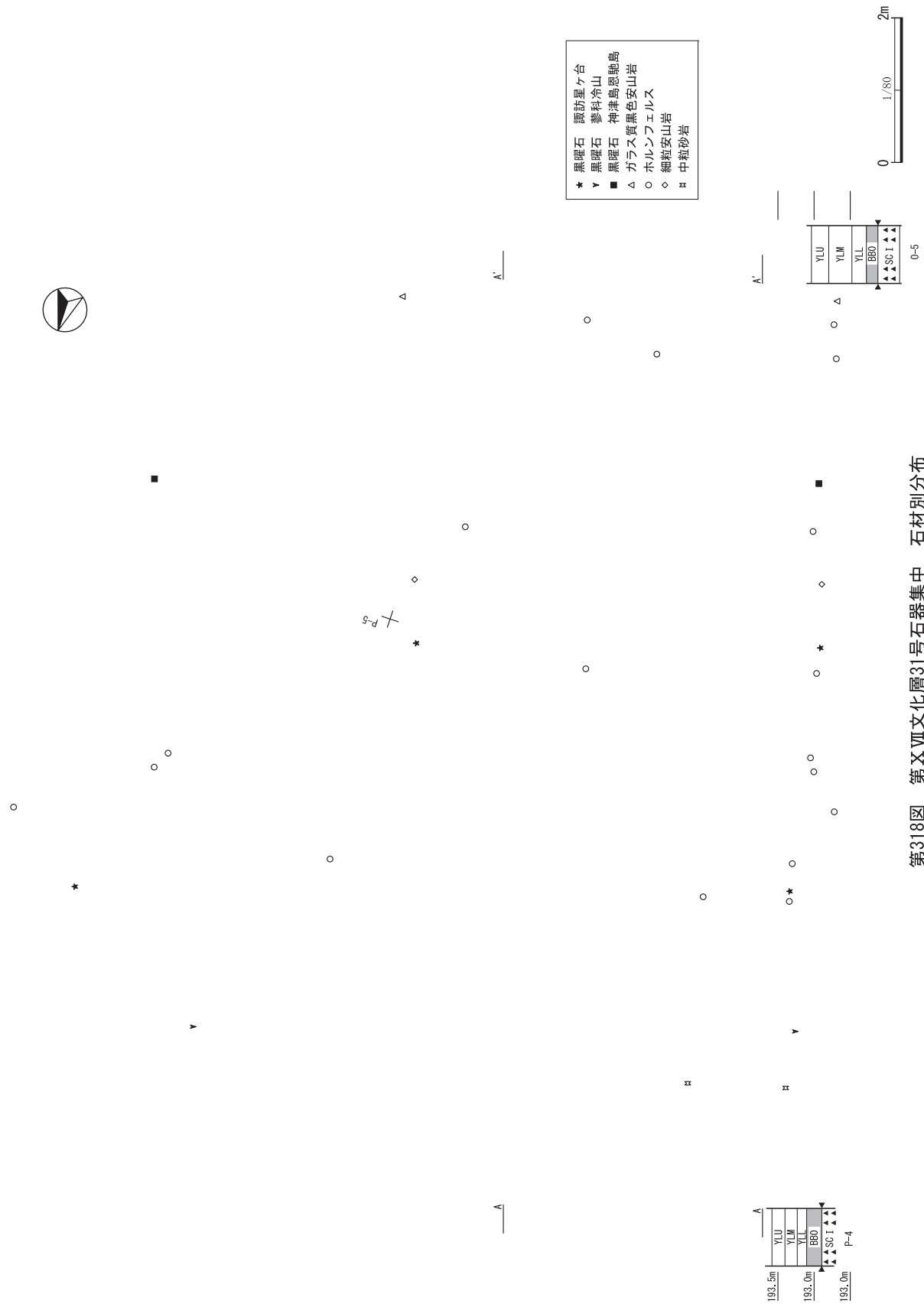


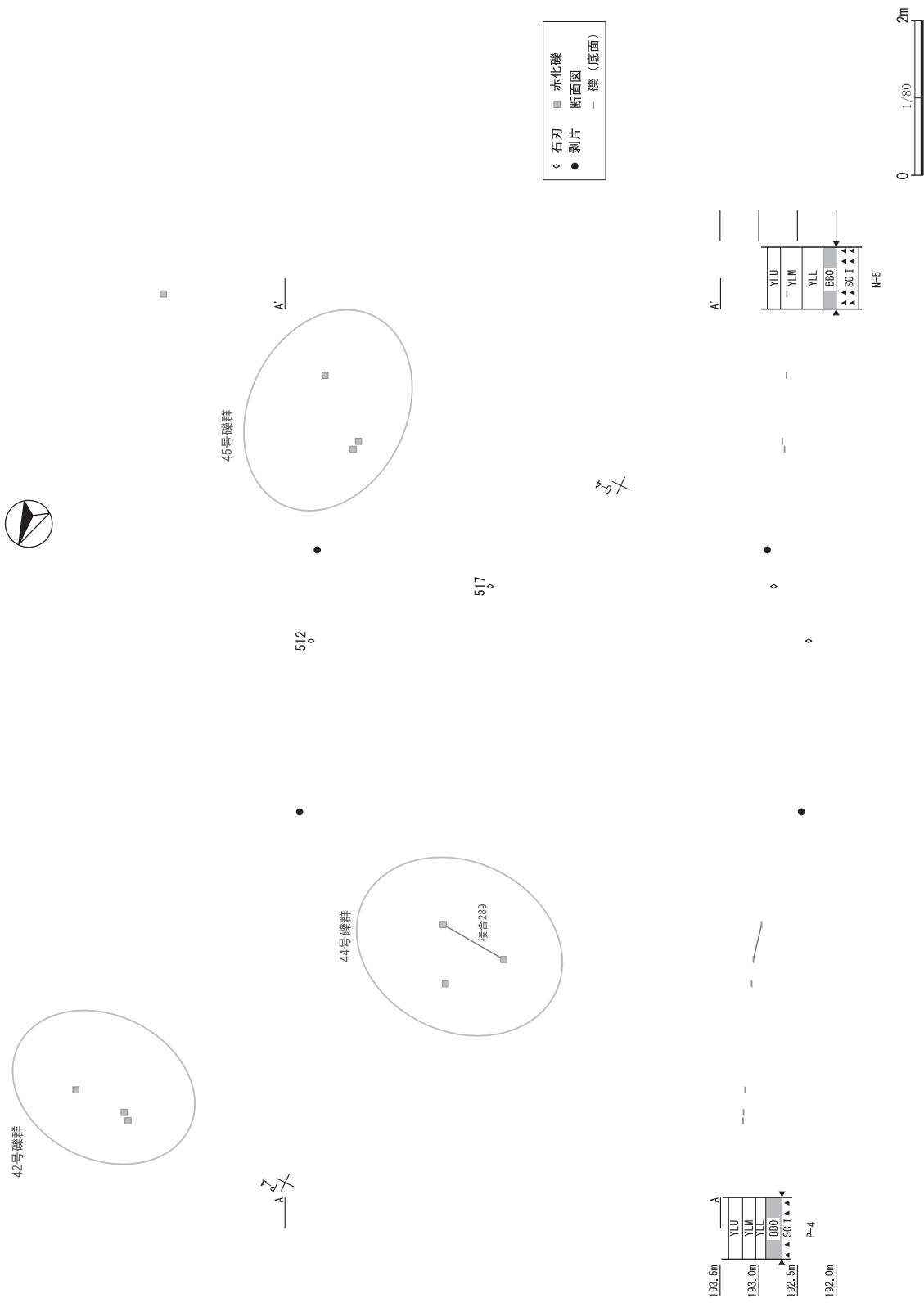
第316図 第Ⅶ文化層30号石器集中 石材別分布





第317図 第XVII文化層31号石器集中 器種別分布、43号礫群

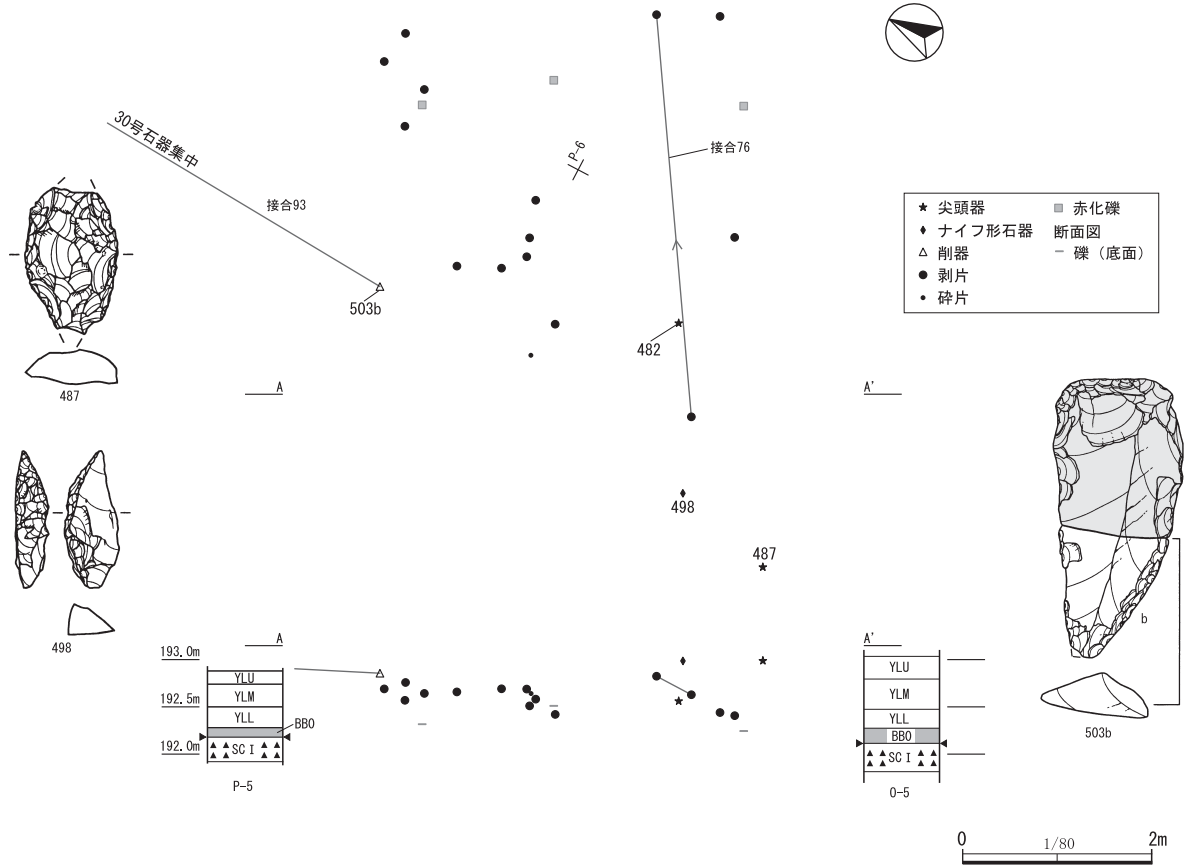




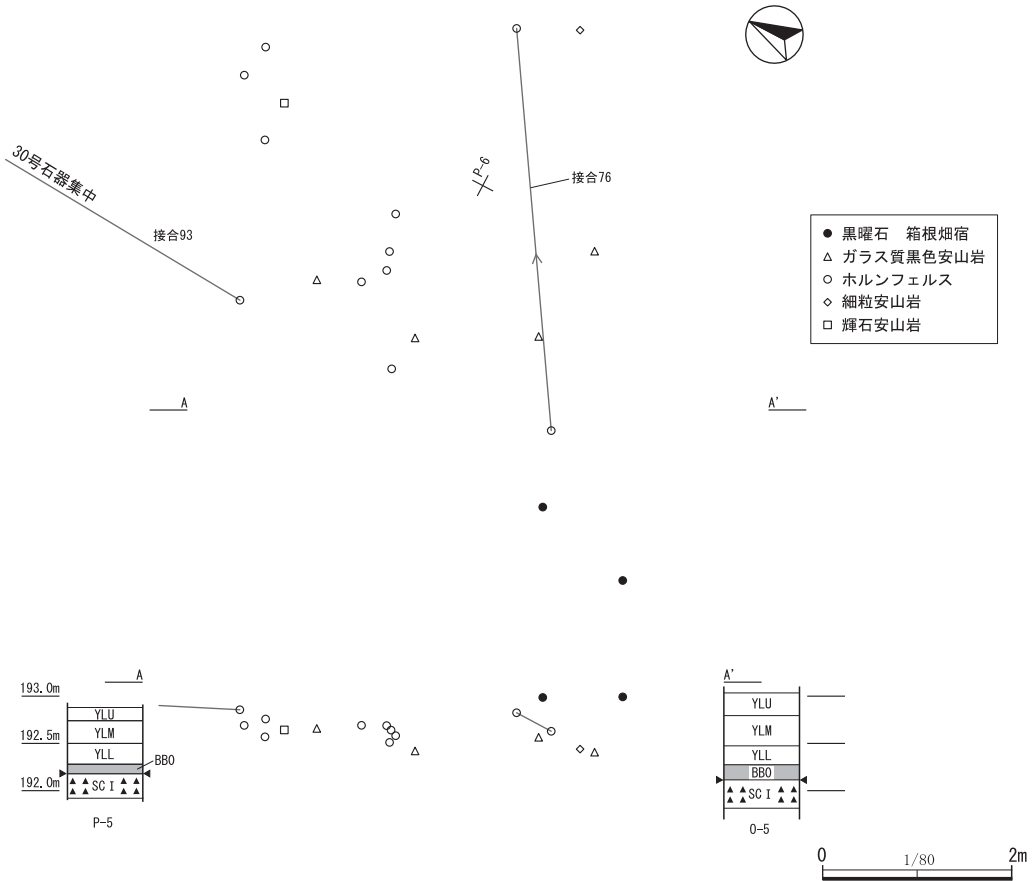
第319图 第XVII文化層32号石器集中 器種別分布、42・44・45号礫群



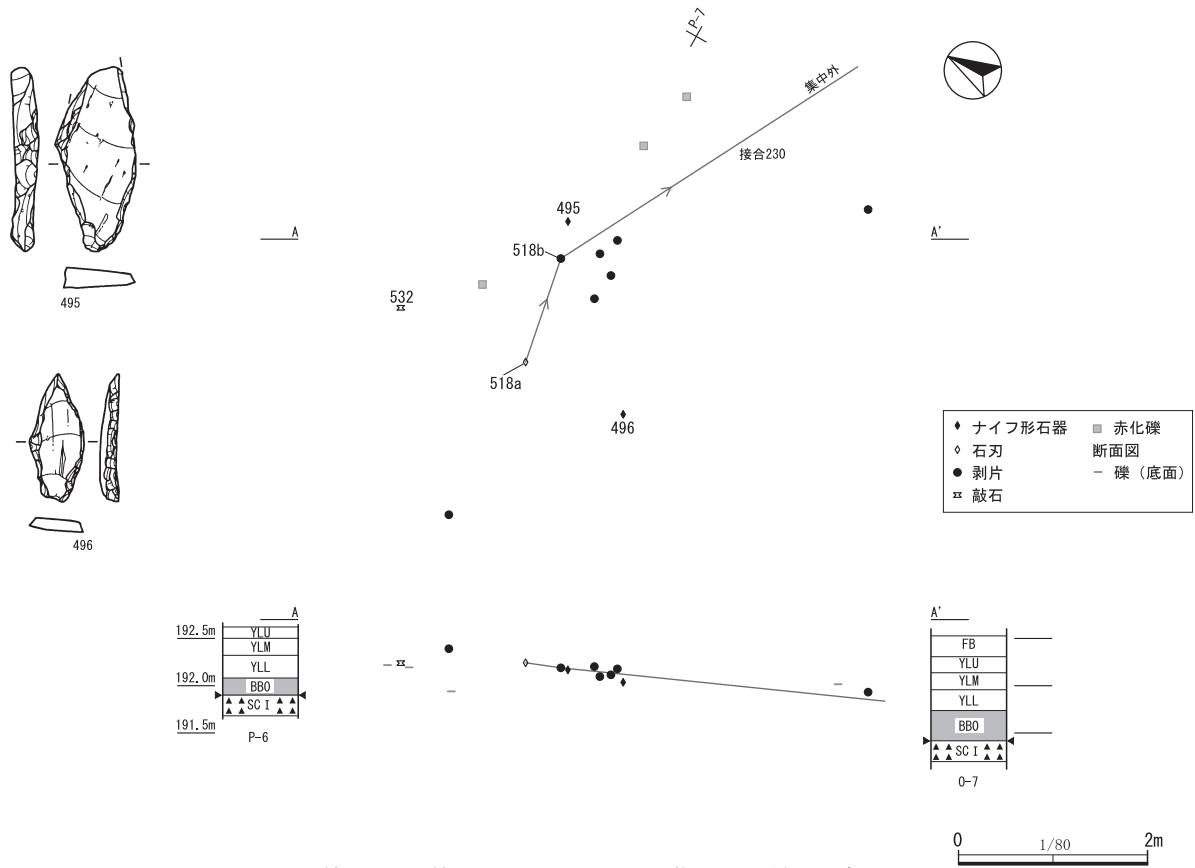
第320図 第XVII文化層32号石器集中 石材別分布



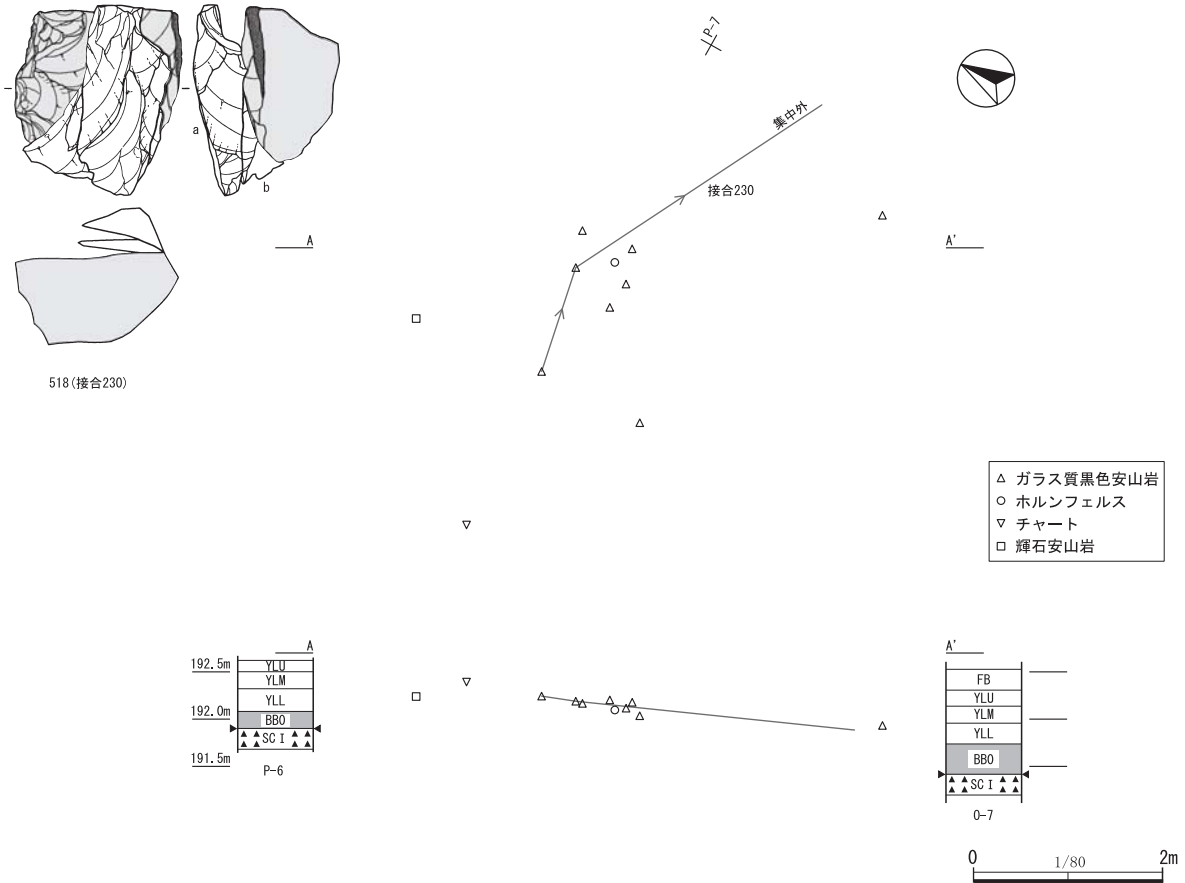
第321図 第XVII文化層33号石器集中 器種別分布



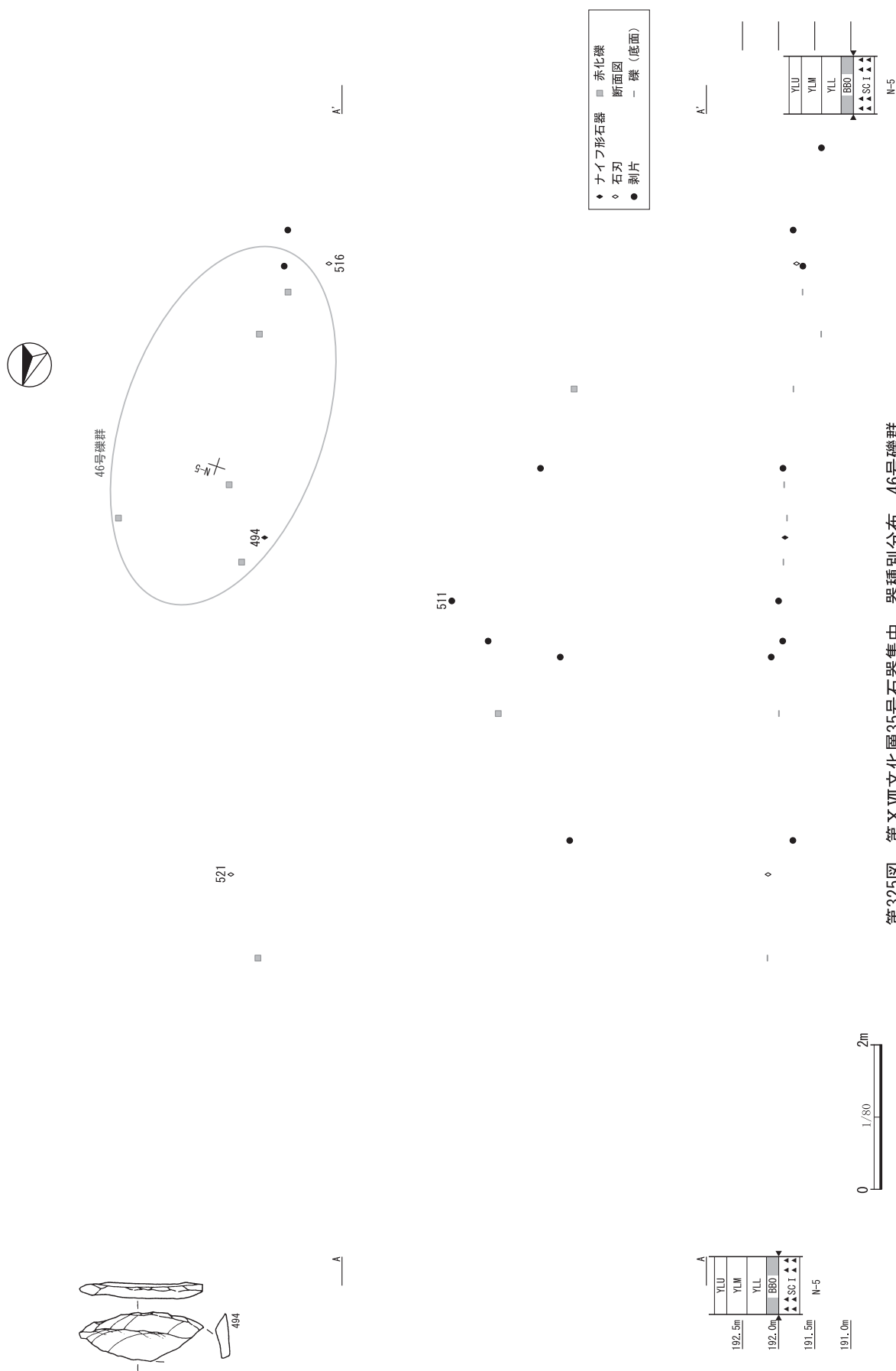
第322図 第XVII文化層33号石器集中 石材別分布



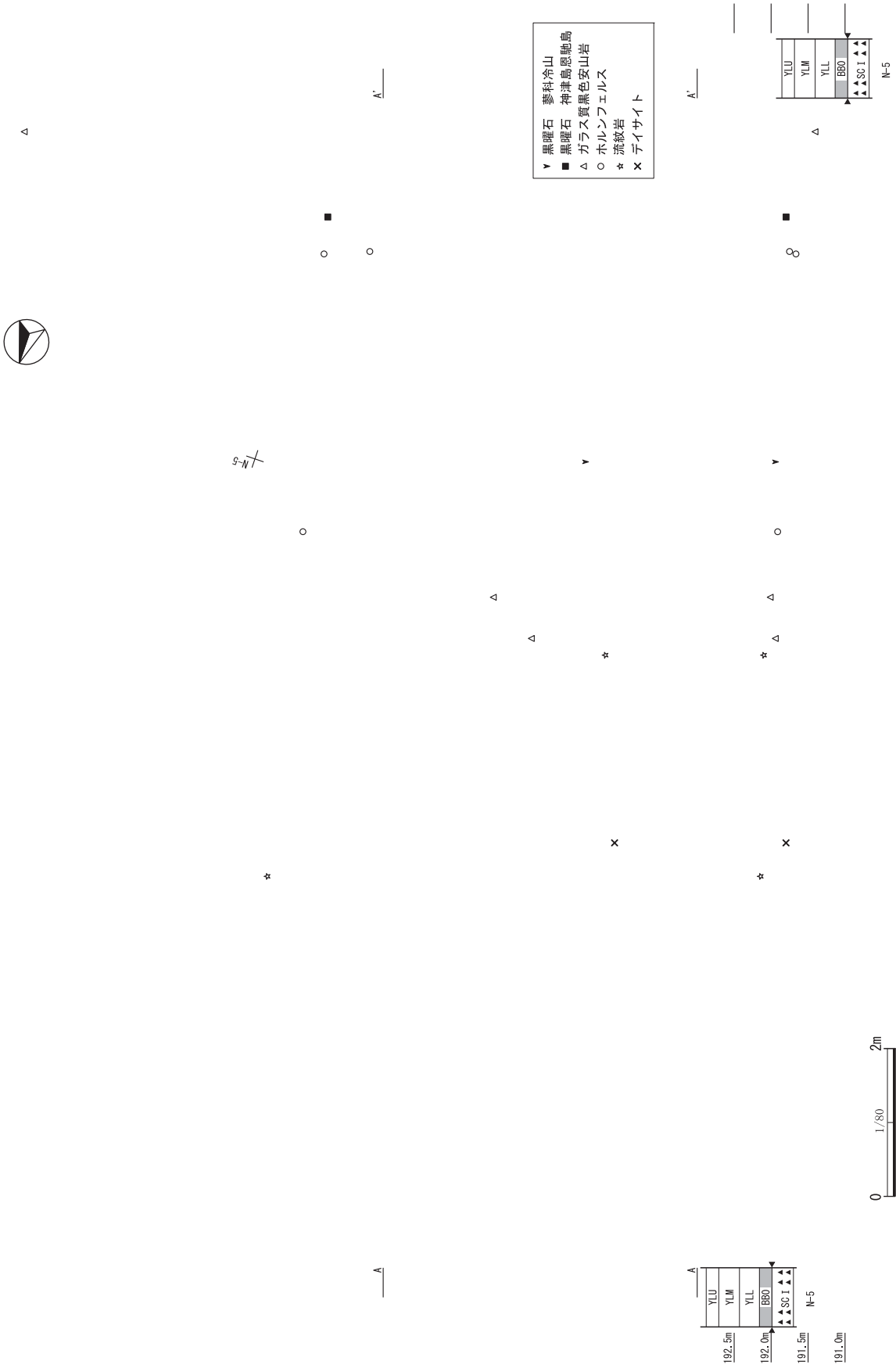
第323図 第XVII文化層34号石器集中 器種別分布



第324図 第XVII文化層34号石器集中 石材別分布



第325図 第XVII文化層35号石器集中 器種別分布、46号礫群

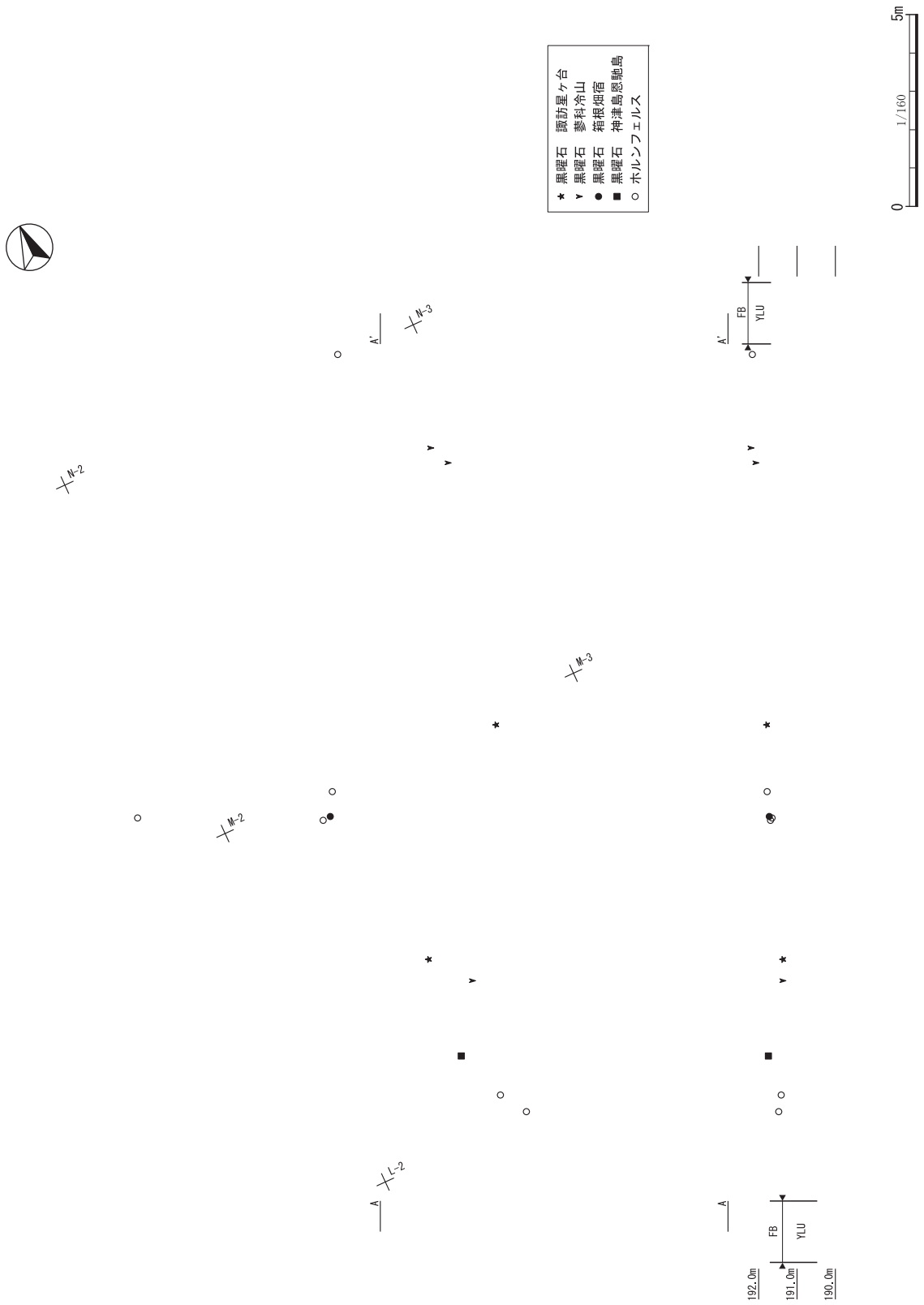


第326図 第Ⅷ文化層35号石器集中 石材別分布

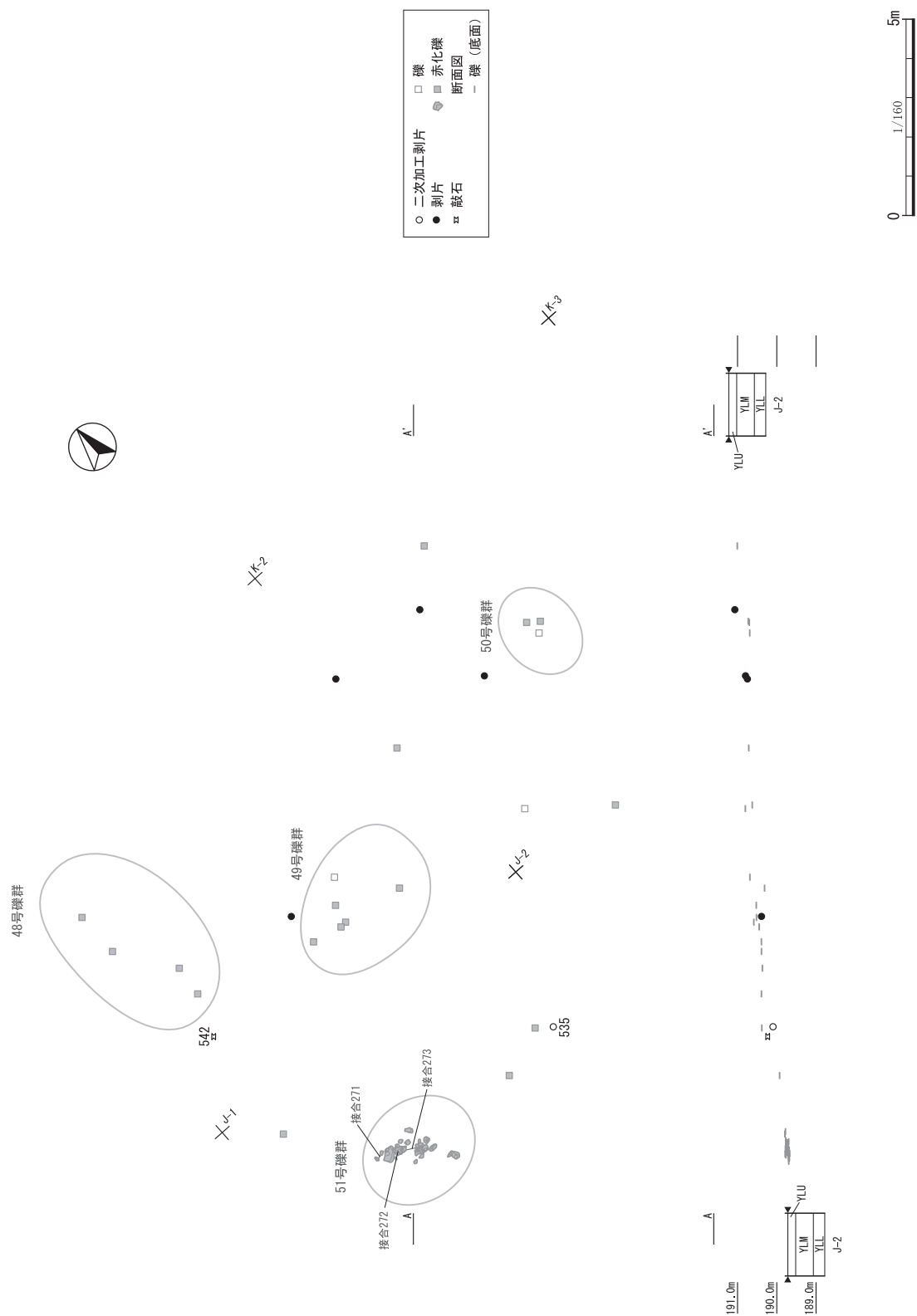




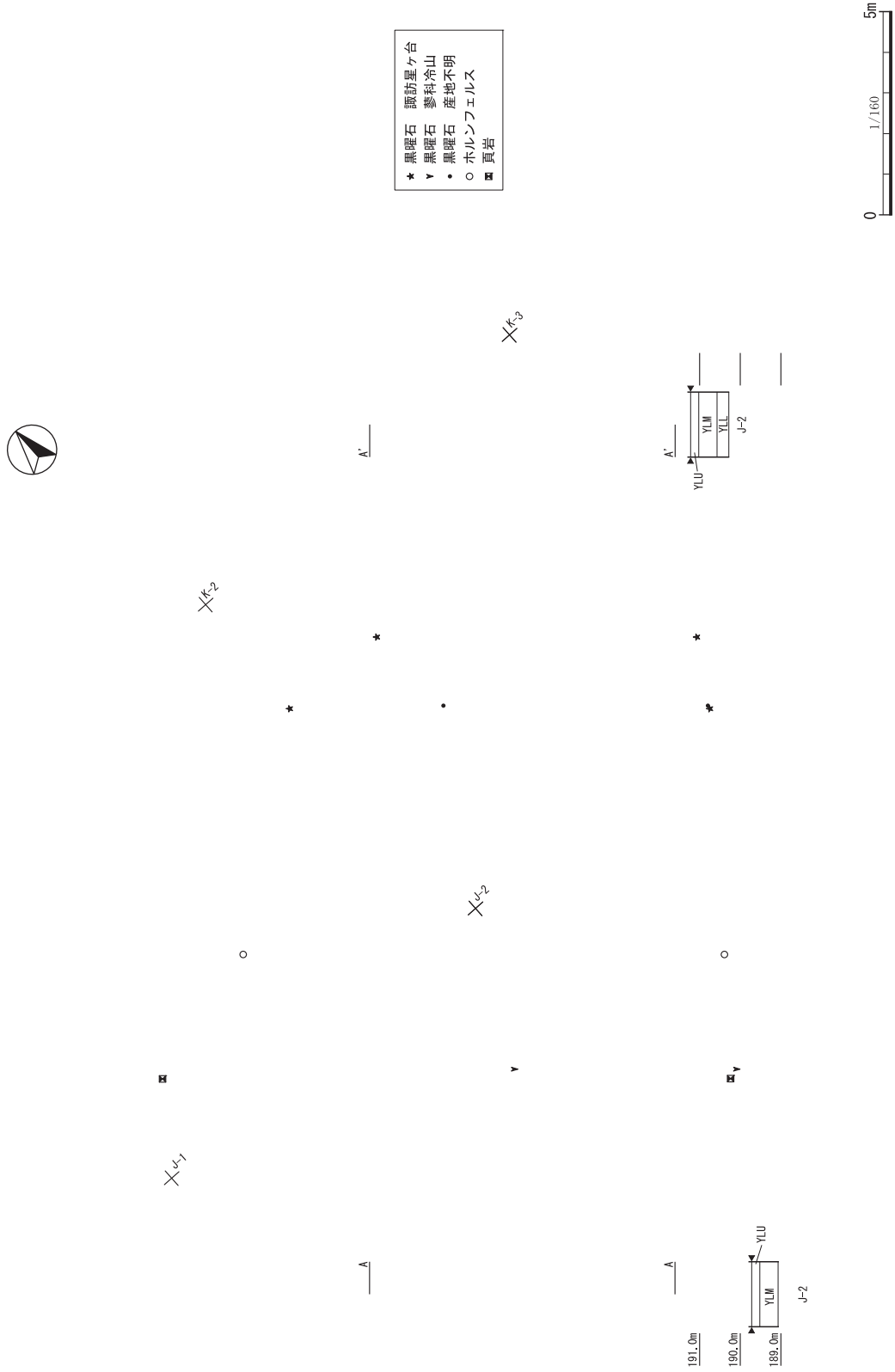
第327図 第XVII文化層36号石器集中 器種別分布



第328図 第XVII文化層36号石器集中 石材別分布



第329图 第XVII文化層37号石器集中 器種別分布、48~51号礫群



第330図 第XVII文化層37号石器集中 石材別分布

42号礫群 (第319図、表139)

P-4グリッド南西部から出土した被熱礫3点から成る。出土層位は休場層中位である。東西約1mの範囲に分布し、礫の大きさは平均で長径11.1cm・重量0.64kgである。

43号礫群 (第317図、表139)

O-4グリッド南東部を中心に出土した被熱礫6点から成る。出土層位は休場層中位である。径1mの範囲に、「コ」の字形に並んで出土した。長径27.5cm・重量7.5kgのものを最大に比較的大型の礫が多く、平均では長径19.4cm・重量3.2kgである。

44号礫群 (第319図、表139)

O-3グリッド東部から出土した被熱礫3点から成る。出土層位は休場層中位である。長径23.3cm・重量1.2kgの大型礫と2点の破砕礫が径1mの範囲に分布し、礫の大きさは平均で長径13.8cm・重量0.65kg。

45号礫群 (第319図、表139)

O-4グリッド南部から出土した被熱礫3点から成る。出土層位は休場層中位である。礫は径1mの範囲に分布し、長径16.5cm・重量1.2kgが最大で、平均で長径10.6cm・重量0.67kgである。

46号礫群 (第325図、表139)

M・N-4・5グリッドにかけて出土した被熱礫5点から成る。出土層位は主に休場層中位で、1点が休場層下位出土である。礫は南北4mの範囲に分布し、平均で長径8.7cm・重量0.22kgの大きさである。

47号礫群 (第331図、表139)

K-1グリッドから出土した礫3点から成り、うち2点に被熱の痕跡が認められた。出土層位は調査時の記録によると休場層直下黒色帯から休場層下位である。休場層の堆積が薄い箇所のため垂直分布図の土層図とは対応しない部分がある。比較的大型の被熱礫2点(長径16.6cm・重量1.1kgと長径12.8cm・重量1.1kg)があり、平均では長径11.4cm・重量0.74kgである。

48号礫群 (第329図、表139)

J-1グリッド西側から出土した被熱礫4点から成り、南北4m程度の範囲に分布する。出土層位は休場層中位である。礫は平均で長径10.6cm・重量0.27kgの大きさである。

49号礫群 (第329図、表139)

J-1グリッド南部から出土した礫6点から成り、うち5点に被熱の痕跡が認められた。径約3mの範囲に分布する。出土層位は休場層中位から上位だが、1点のみ休場層下位出土である。礫は平均で長径9.2cm・重量0.15kgの大きさである。

50号礫群 (第329図、表139)

J-2グリッドから出土した礫3点から成り、うち2点に被熱の痕跡が認められた。径約0.5mの範囲にまとまり、出土層位は休場層中位である。礫は平均で長径11.5cm・重量0.76kgの大きさである。

51号礫群 (第329図、表139)

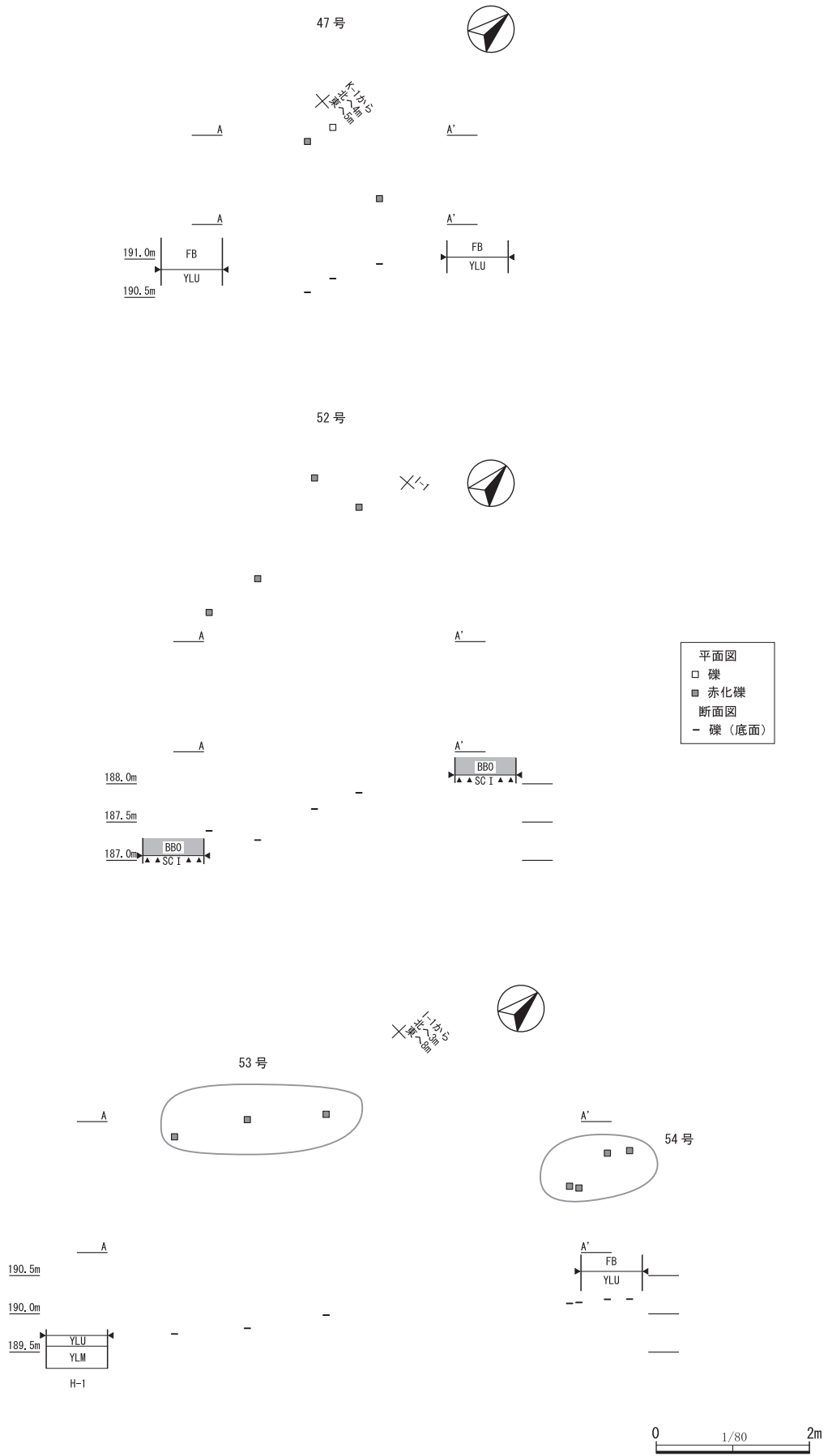
I-1グリッドから出土した被熱礫33点から成る。径約2m×1mの範囲に分布し、2つの密集部に分けられる。出土層位は調査時の記録によると主に休場層下位だが、1点のみ休場層中位出土である。礫は長径19.3cm・重量2.6kgが最大で、平均で長径7.8cm・重量0.20kgの大きさである。

52号礫群 (第331図、表139)

H-0グリッド北東部から出土した被熱礫4点から成り、南北2.5mの範囲に分布する。出土層位は休場層直下黒色帯から休場層中位である。礫は平均で長径14.0cm・重量0.60kgの大きさである。

53号礫群 (第331図、表139)

I-1グリッド南東部から出土した被熱礫3点から成る。出土層位は休場層下位から中位である。礫は約1mずつおいて直線的に並ぶ。中央が最大の礫で長径16.6cm・重量1.8kgであり、礫の大きさは平均



第331図 第XVII文化層47・52~54号磔群

で長径11.2cm・重量0.78kgである。

#### 54号礫群（第331図、表139）

I-2グリッド西部から出土した被熱礫4点から成る。出土層位は休場層中位である。礫は南北約1mの範囲に分布し、礫の大きさは平均で長径11.7cm・重量0.63kgである。

#### （2）27号石器集中の出土石器（第332図）

ホルンフェルス製の二次加工剥片1点、剥片17点、石核2点が出土した。

475・476は石核で、いずれも打面転移を繰り返してブロック状になっており、裏面側に円礫面が残されている。477は二次加工剥片で、右側縁打面側に腹面への二次加工が認められる。478は剥片である。単剥離打面で寸詰まりの形態のものが多い。

#### （3）28号石器集中の出土石器（第332図）

##### ナイフ形石器（479・480）

2点出土した。ともに二側縁加工で基部に平坦面を残すという類似した形態を呈する。479はホルンフェルス製、やや甲高の形態で背部加工も厚い。480は箱根畑宿産黒曜石製で、基部に打面を残している。

##### 剥片類・石核（481）

剥片2点、石核2点が出土した。石核1点を図示した。481は箱根畑宿産黒曜石製の石核である。剥片素材で折れ面を打面として剥片剥離が行われている。

#### （4）29～35号石器集中の出土石器（第333～337図）

##### 尖頭器（482～490）

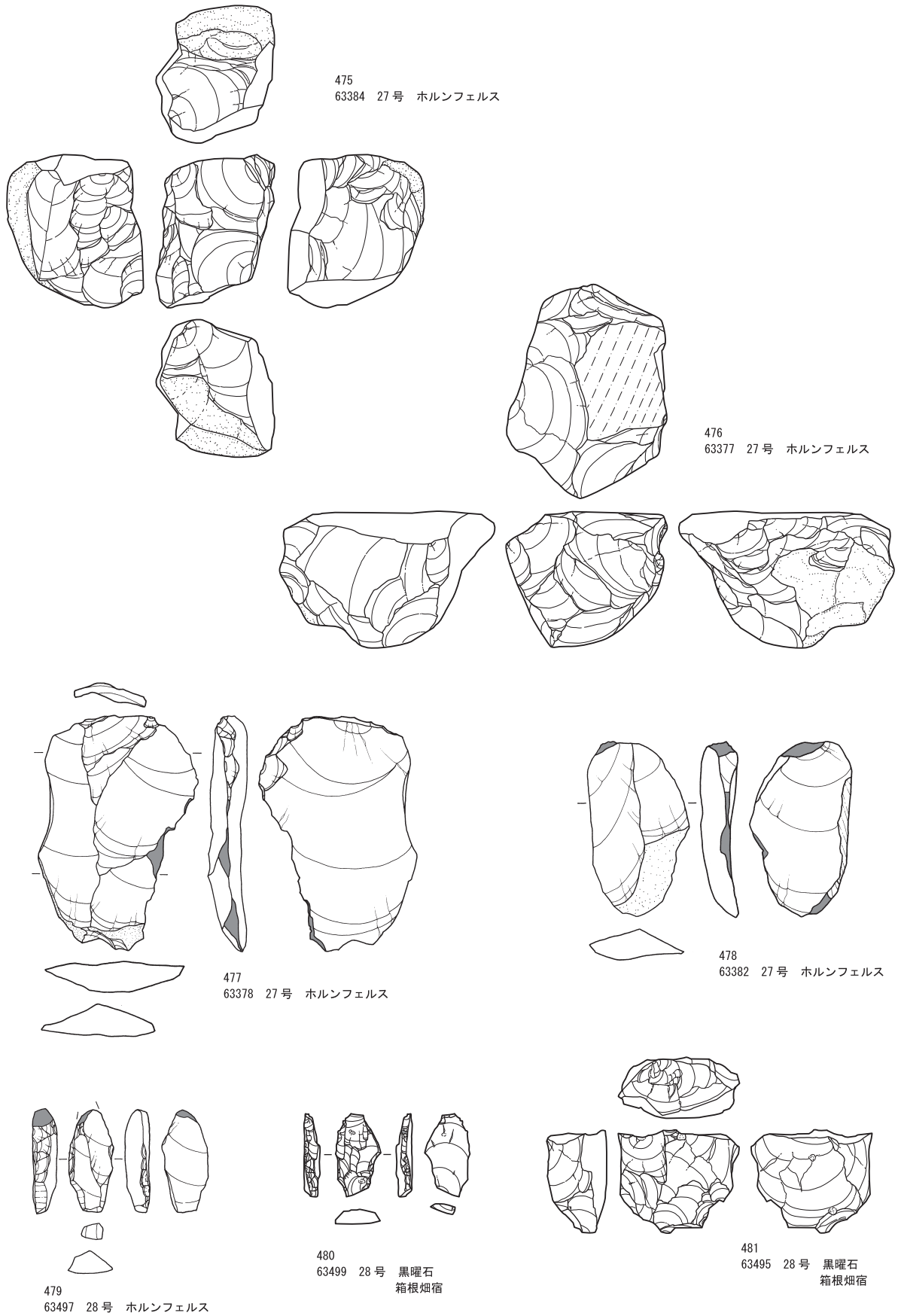
9点出土した。482～487は両面加工尖頭器である。482・483はガラス質黒色安山岩製、484は蓼科冷山産黒曜石製、485・486は諏訪星ヶ台産黒曜石製、487は箱根畑宿産黒曜石製である。482のみは素材面が広く残されており、幅広剥片を横位に用いたものと見られる。488は片面加工尖頭器である。諏訪星ヶ台産黒曜石製で素材剥片を斜位に用い、器体の上半は垂直に近い急斜度加工で、下半はやや緩斜度の粗い加工で整形されている。489・490は周縁加工尖頭器である。縦長剥片を縦位に用い、錯向剥離で整形されている。

##### ナイフ形石器（491～500）

10点出土した。491～494はホルンフェルス製である。491は石刃製の基部加工ナイフ形石器で、基部には打面を残している。492は風化により稜線や剥離痕が不明瞭になっているが、右側縁の基部と左側縁の先端側を加工した二側縁加工ナイフ形石器であったと推測される。493は素材剥片を横位に用いた二側縁加工ナイフ形石器で、背部は分厚く対向調整となっている。494は風化が著しく下部が欠損しているが、石刃素材で右側縁が背部加工であったと見られる。495・496はガラス質黒色安山岩製の二側縁加工ナイフ形石器で、495は左側縁の基部加工に稜上調整が行われており、496は基部に打面を一部残して加工されている。497は珪質シルト岩製で、右側縁基部と左側縁先端側を加工した二側縁加工ナイフ形石器である。498は箱根畑宿産黒曜石製で、左側縁には対向調整により背部加工がなされ、右側縁には裏面に基部加工が成されている。499は諏訪星ヶ台産黒曜石製で、左側縁は折断面であり、右側縁が二次加工されているが、先端側は欠損している。500は箱根畑宿産黒曜石製、一側縁加工で、下端部は折れ面がさらに加工されている。

##### 搔器（501）

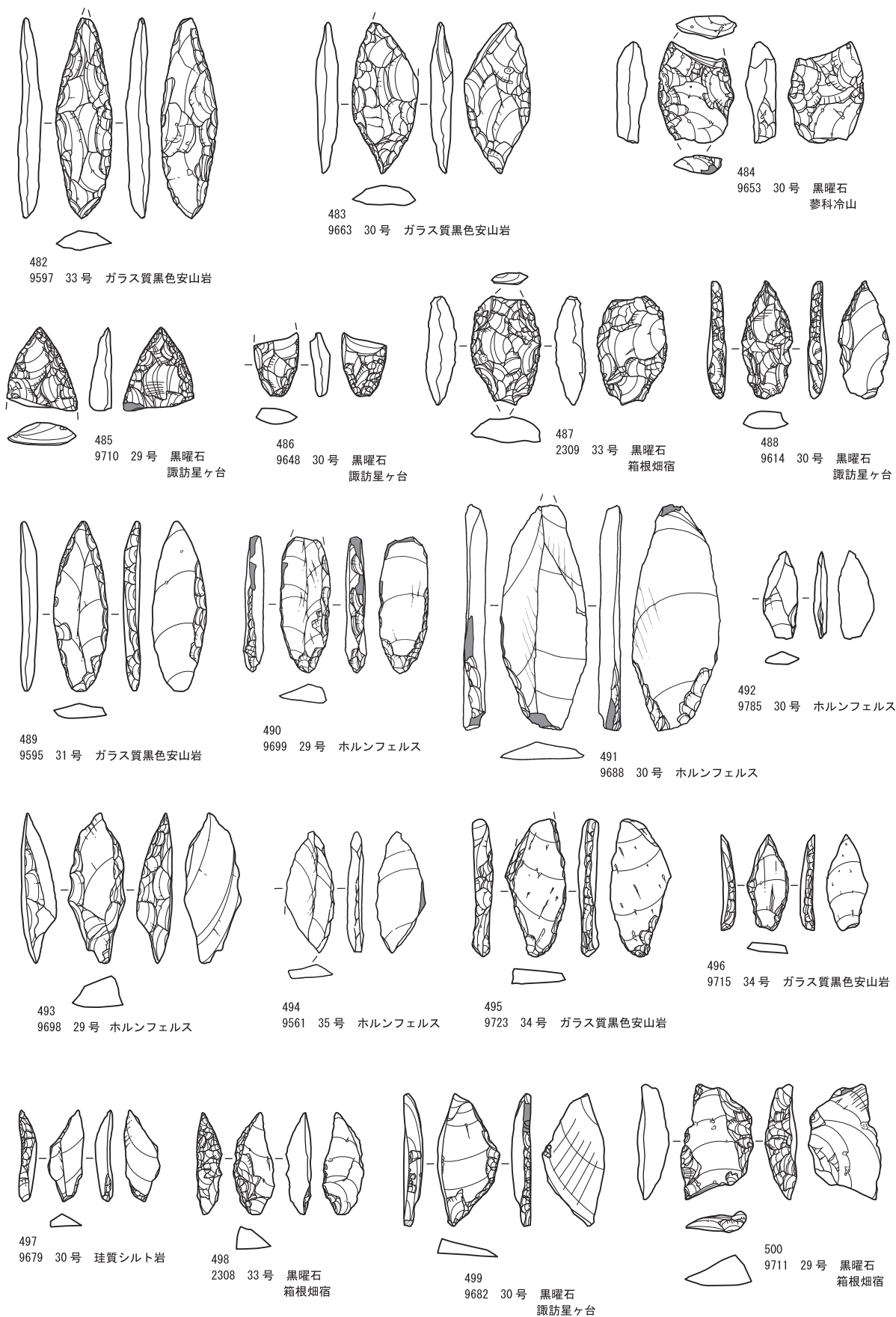
1点出土した。諏訪星ヶ台産黒曜石製で、右側縁に急斜度加工が入っているが下半部を欠損している。



0 2/3 5cm

第332図 第XVII文化層西尾根(北) 石器集中(1)





0 2/3 5cm

第333図 第XVII文化層西尾根（北）石器集中（2）

**削器 (502~504)**

4 (接合により3) 点出土した。502は蓼科冷山産黒曜石製で、縦長剥片の一侧縁を加工している。503はホルンフェルス製で、単剥離打面で大型厚手の石刃の右側縁に外湾する刃部を設けている。504は和田鷹山産黒曜石製で、下端部に抉入状の刃部を設けている。

**楔形石器 (505・506)**

2点出土した。505は諏訪星ヶ台産黒曜石製で、角柱状の形態で上下方向から剥離が入っている。506は蓼科冷山産黒曜石製で下半部を欠くが、残存部では上方及び右側方から剥離が入っており、縦横2方向で使用されたものと推測される。

**二次加工剥片 (507~510)**

4点出土した。507・508は諏訪星ヶ台産黒曜石製である。507は打面側の両側縁が二次加工されているが、器体下部を折損している。508は小型剥片の両側縁に微小な剥離が加えられている。509・510はガラス質黒色安山岩製である。509は右側縁の背面側に平坦剥離が入っている。510は寸詰まりな剥片の末端部左側に数枚の剥離が入っている。

**剥片類・石核 (511~528)**

石刃12点、剥片148 (接合により146) 点、碎片5点、石核2点が出土した。

511はガラス質黒色安山岩製の幅広剥片である。左側面に表→裏方向の剥離痕が複数認められ (裏面図の右側部分)、打面再生剥片の可能性はある。

512~517はホルンフェルス製の石刃である。ホルンフェルスは大半が不定形剥片であったが、石刃が6点含まれていた。打面部が残損している512~515では打面がかなり小さいことが分かる。

518~520はガラス質黒色安山岩製の石刃・縦長剥片剥離に関わる資料である。518 (接合資料230) は石刃、剥片、石核各1点から成る。単剥離打面から石刃 (518a)、縦長剥片 (518b) と、上面を打面として剥片剥離が行われ、その後同じ作業面を利用して求心剥離が行われている (518c)。石核 (518c) のみ石器集中外のO-7グリッドから出土した。519は石刃で、打面及び左側面が礫面である。520は石核で、正面では両設打面から比較的縦長の剥片が剥離されているが、裏面では幅広の剥片が剥離されている。

521は流紋岩製の石刃である。単剥離打面で両側縁に微細な剥離が認められる。

522~526は諏訪星ヶ台産黒曜石製の資料である。522~524は石刃で、打面調整や頭部調整が顕著な傾向が認められる。525・526は剥片である。諏訪星ヶ台産黒曜石の石刃は3点のみで、こうした寸詰まりの剥片が多数出土している。

527は和田高松沢産黒曜石製の石核である。剥片素材で、折断面を打面としている。

528は輝石安山岩製の剥片である。垂角礫の角から剥離されたもので、風化のため判然としないが腹面は一部が二次加工されている可能性がある。

**礫器 (529)**

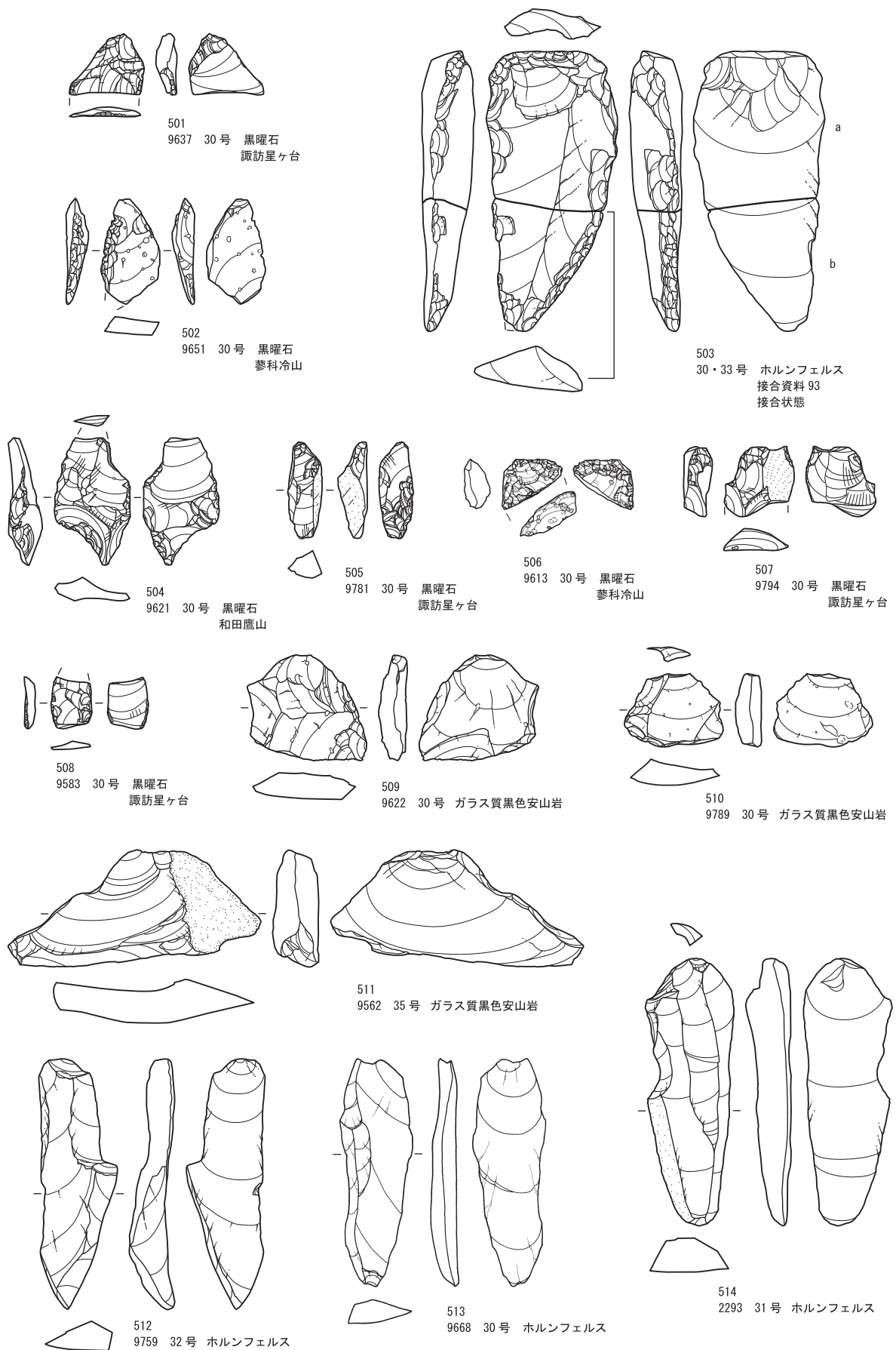
1点出土した。扁平な面のある輝石安山岩を素材とし、一辺に片刃の刃部を設けている。刃部は中央が突出した形態となっている。

**敲石 (530~532)**

3点出土した。530・532は輝石安山岩製の扁平な垂角礫を利用しており、530は下面・側面に、532は下面・側面・正面に敲打痕が認められる。531は中粒砂岩の円礫を利用しており、長軸側の一端に敲打痕が認められる。

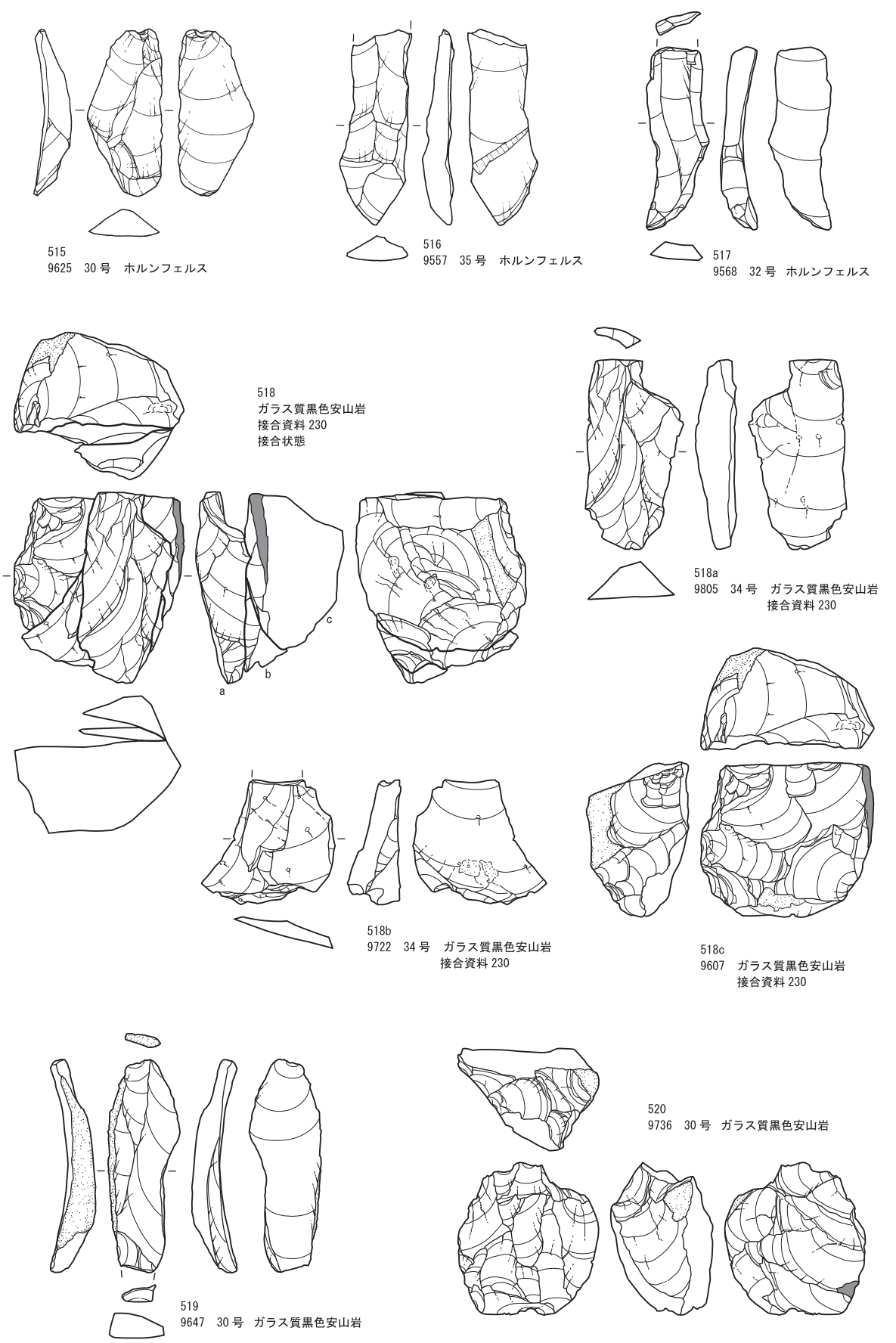
**台石 (533)**

1点出土した。多孔質玄武岩の扁平な垂円礫を利用したもので、表面は半分が浅く丸い窪みに覆われている。29号石器集中の南東の外れから出土した。



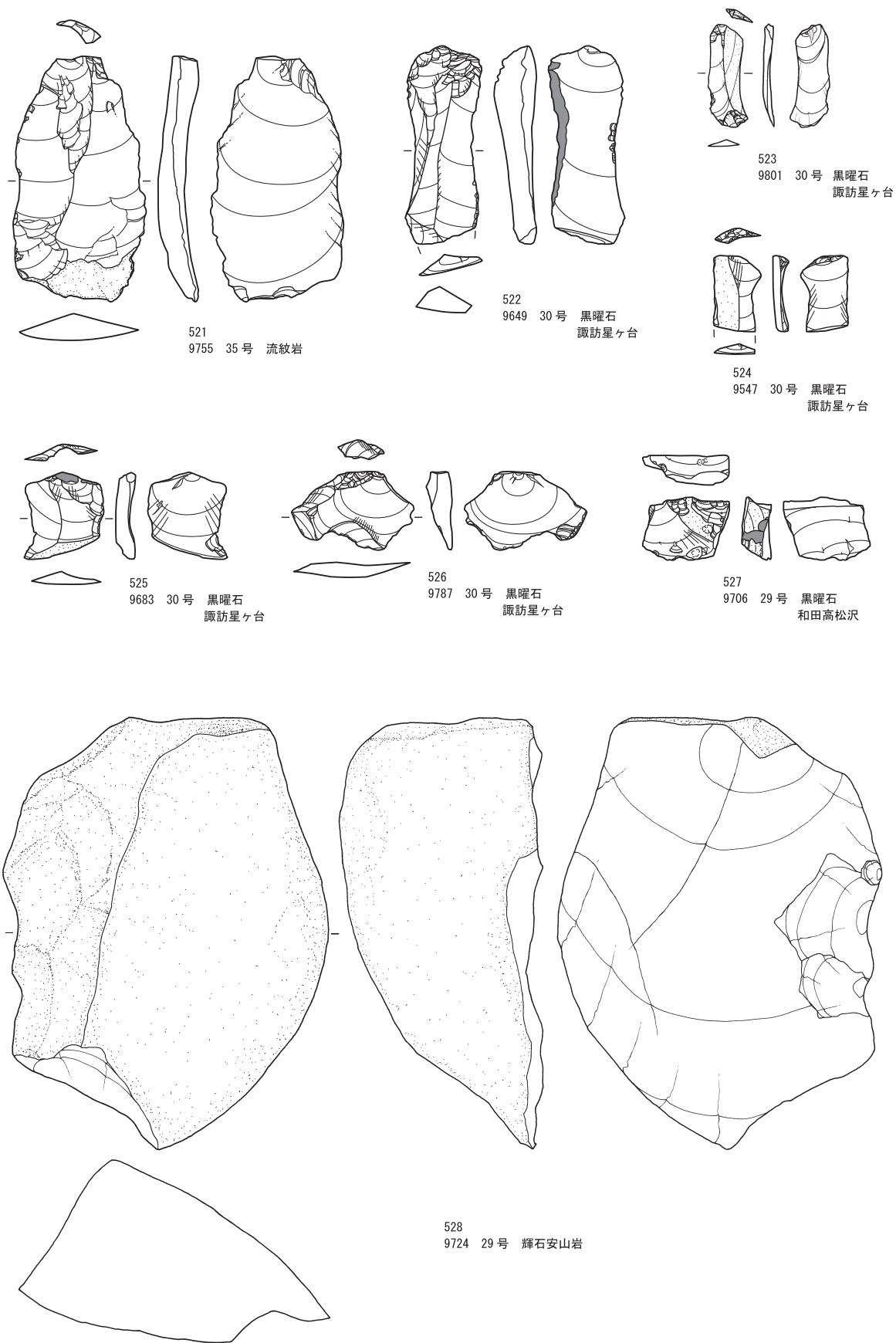
第334図 第XVII文化層西尾根（北）石器集中（3）

0 2/3 5cm

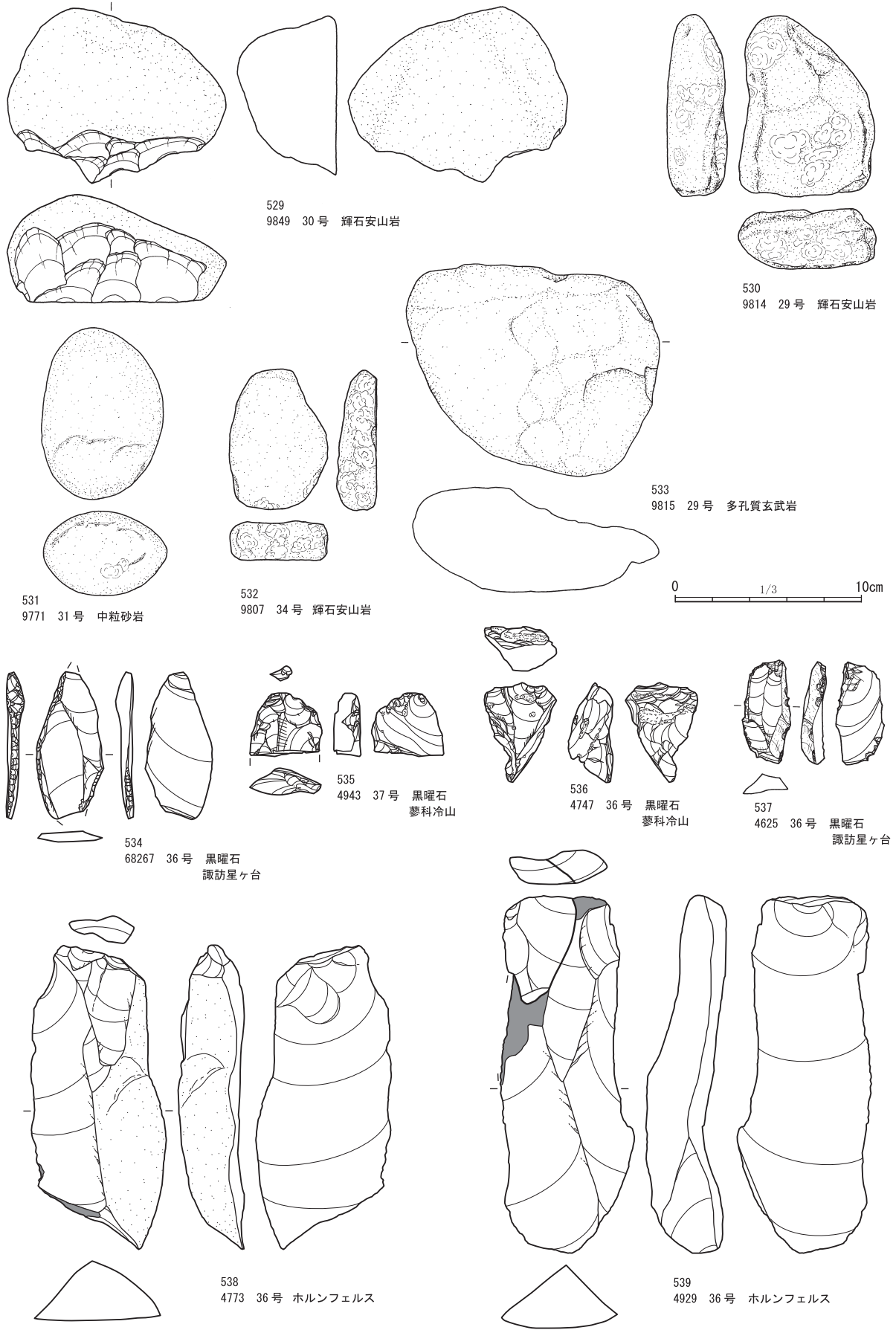


第335図 第ⅩⅦ文化層西尾根（北）石器集中（4）

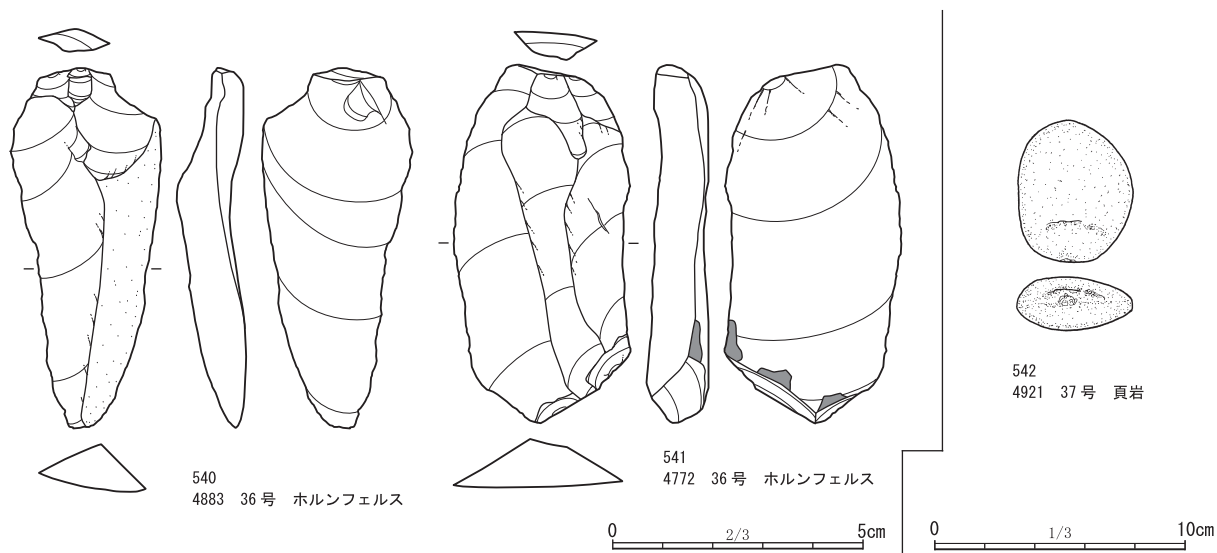
0 2/3 5cm



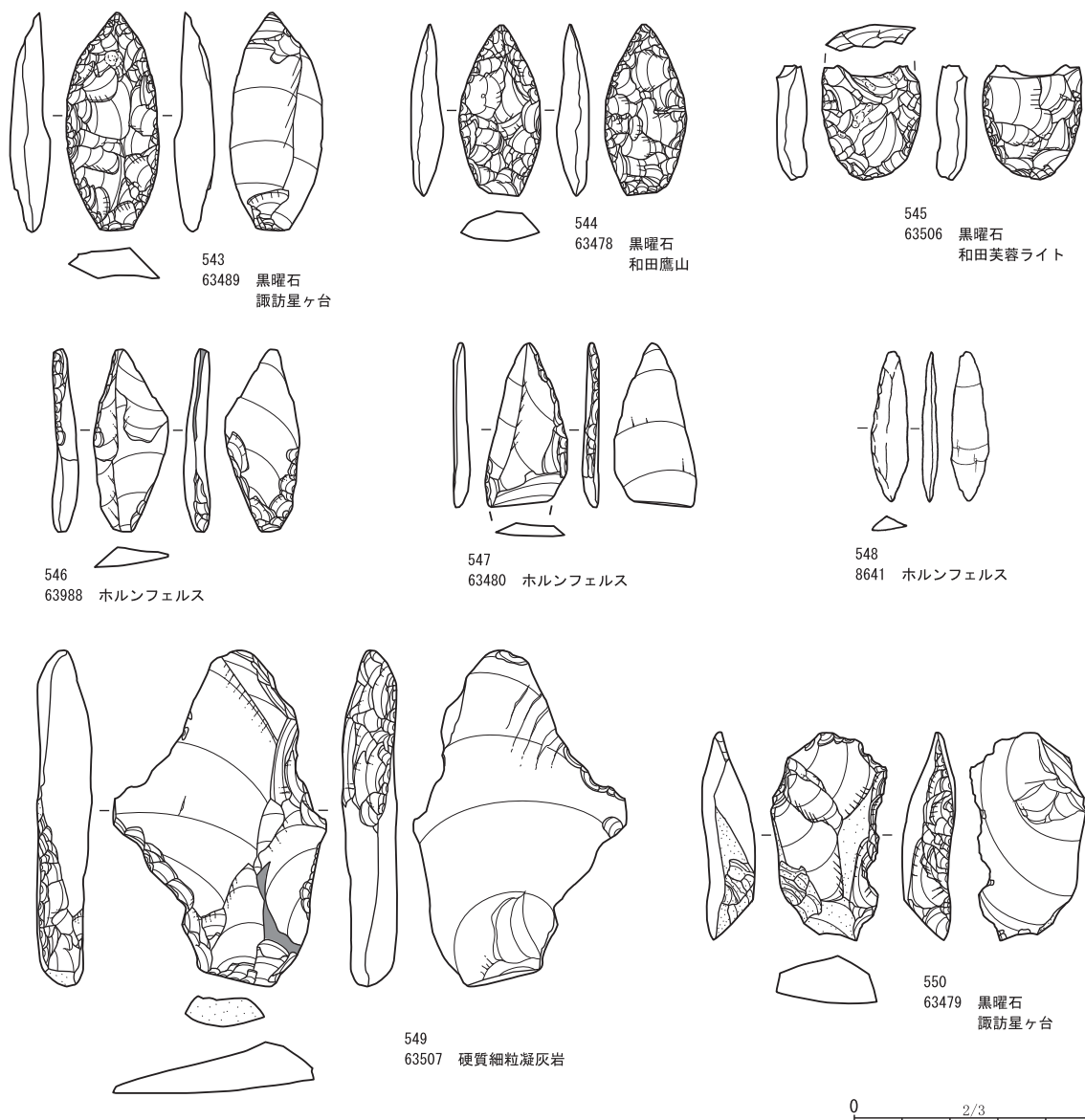
第336図 第XVII文化層西尾根（北）石器集中（5）



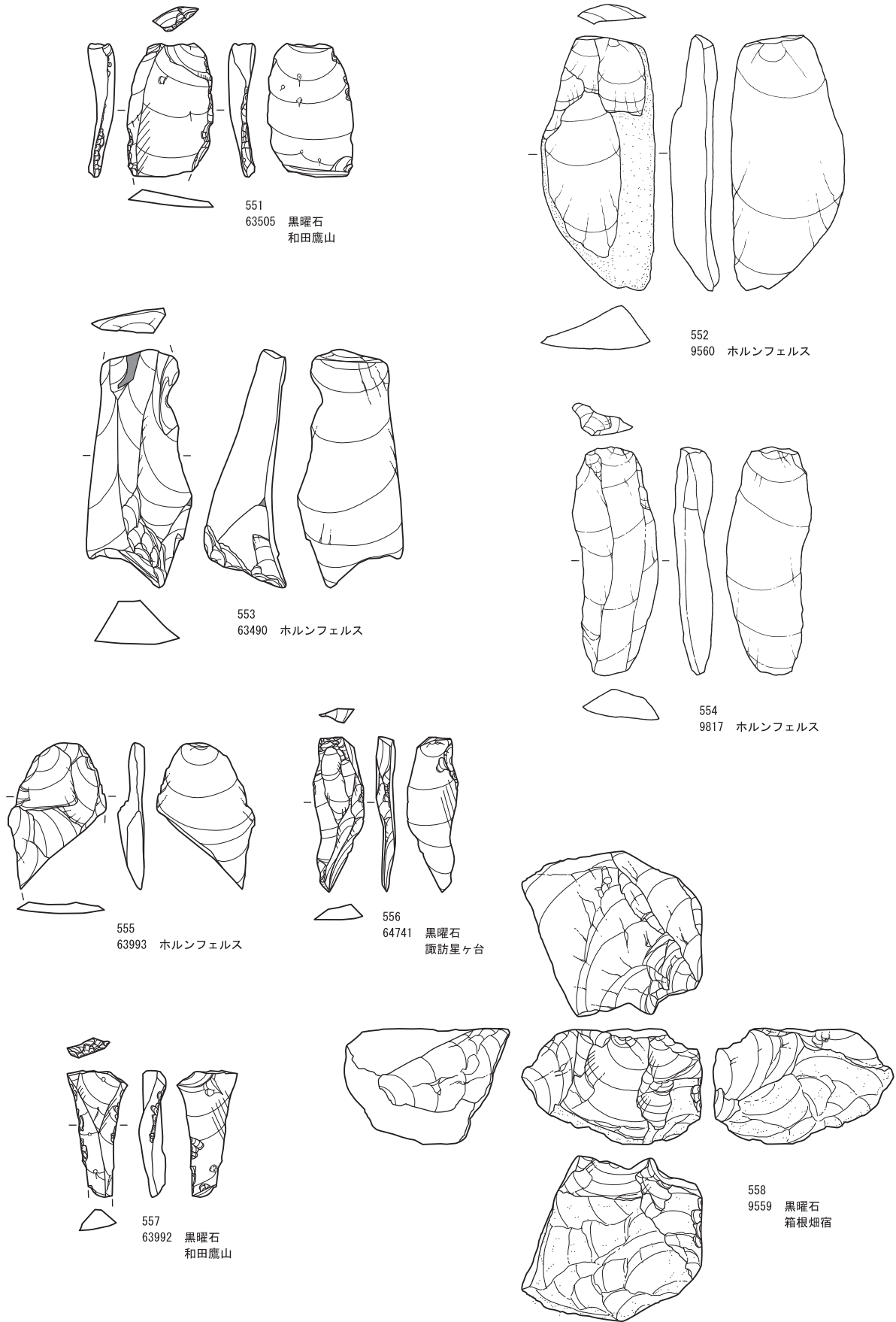
第337図 第XVII文化層西尾根（北）石器集中（6）



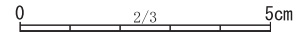
第338図 第XVII文化層西尾根（北）石器集中（7）



第339図 第XVII文化層西尾根（北）石器集中外（1）



第340図 第ⅤⅦ文化層西尾根（北） 石器集中外（2）





(5) 36・37号石器集中の出土石器 (第337・338図)

ナイフ形石器 (534)

1点出土した。諏訪星ヶ台産黒曜石製の石刃を素材に二側縁を加工したもので、背部加工は先端側が対向調整となっている。

二次加工剥片 (535)

1点出土した。蓼科冷山産黒曜石製で、右側縁の一部に急斜度加工が認められる。

剥片類・石核 (536～541)

石刃4点、剥片11点、石核1点が出土した。石刃4点、剥片1点、石核1点を図示した。

536は蓼科冷山産黒曜石製の石核で、消費が進んで小型化している。図の正面が主たる作業面で、上方からの剥離と、裏面を打面とした側方からの剥離が行われている。

537は諏訪星ヶ台産黒曜石製の剥片である。右側面には角礫面が残り、両側縁には微細な剥離痕が断続している。

538～541はホルンフェルス製の石刃である。大型厚手のもので、単剥離打面で頭部調整が少ない。

敲石 (542)

1点出土した。頁岩の扁平な円礫を利用したもので、長軸側の一端に敲打痕が認められる。

(6) 石器集中外の出土石器 (第339・340図)

尖頭器 (543～545)

3点出土した。543は諏訪星ヶ台産黒曜石製の片面加工尖頭器である。裏面は基部側と先端部に二次加工がある以外は素材面である。素材面はポジ面1枚から成るのではなく、右側の面がポジ面で、左側のネガ面に切られる形となっている。U-8グリッド出土。544は和田鷹山産黒曜石製、545は和田芙蓉ライト産黒曜石製の両面加工尖頭器である。裏面が相対的に平坦な加工となっており、表の方が凸になる断面形を呈する。544はV-9グリッド、545はS-7グリッド出土。

ナイフ形石器 (546～549)

4点出土した。546はホルンフェルス製の二側縁加工ナイフ形石器で、裏面下半部に平坦加工が廻っている。Q-9グリッド出土。547・548はホルンフェルス製で風化により稜線が不明瞭になっているが、二側縁加工のものと見られる。547はV-9グリッド、548はO-5グリッド出土。549は硬質細粒凝灰岩製で、基部に打面を残し、主として右側縁の基部側と左側縁の先端側を加工している。S-8グリッド出土。

削器 (550・551)

2点出土した。550は諏訪星ヶ台産黒曜石製で、右側縁に急斜度加工で抉入状の刃部を設けている。V-9グリッド出土。551は和田鷹山産黒曜石製の縦長剥片を素材とし、左側縁の下方に刃部を設けているが、下端部は折損している。この他、右側縁にも部分的に剥離痕が認められる。S-7グリッド出土。

剥片類・石核 (552～558)

石刃6点、剥片19点、石核2点が出土した。このうち34号石器集中出土石器と接合する石核1点は石器集中出土石器とともに第335図518に掲載した。その他の石刃6点、石核1点を図示した。

552～555はホルンフェルス製の石刃である。552～554は大型厚手の石刃で、553は石核底面を大きく取り込んでいる。一方555は折損しているが比較的薄手で狭い打面をもつ。552はN-5グリッド、553はU-8グリッド、554はP-7グリッド、555はR-7グリッド出土。

556は諏訪星ヶ台産黒曜石製、557は和田鷹山産黒曜石製の石刃で、側縁に微細剥離痕が断続している。

558は箱根畑宿産黒曜石製の石核である。分割礫素材と見られ、分割面を打面として剥片剥離が行われている。

8. 西尾根（南）の遺物群

(1) 遺物の分布（第341・342図）

西尾根の南側に分布する遺物群で、石器261点、礫90点が出土した（表140・144）。遺物の大部分はG～I-8～12グリッドに位置する38・39号石器集中、56～58号礫群に含まれる。その南側に40号石器集中と61号礫群、62号礫群などが分布する。

表140 第XVII文化層西尾根（南） 石器組成

		尖頭器	ナイフ形石器	削器	楔形石器	基部加工石刃	二次加工剥片	石刃	剥片	砕片	石核	敲石	台石	計
黒曜石	高原山甘湯沢	1												1
	和田鷹山								1					1
	和田土屋橋南								1					1
	諏訪星ヶ台		7(1)	2	3			2(1)	12		4			30(2)
	箱根畑宿		3	2	1				37(5)	1	1			45(5)
	産地不明								4	1				5
	黒曜石計	1	10(1)	4	4			2(1)	55(5)	2	5			83(7)
ガラス質黒色安山岩		1	1					1	16		2			21
ホルンフェルス			7			2	1	30	91		6			137
チャート					1		1		3(2)					5(2)
珪質頁岩								1(1)						1(1)
赤玉石（碧玉）					1				1					2
軟質細粒凝灰岩									3(1)					3(1)
輝石安山岩									1		1	4	2	8
中粒砂岩									1					1
計		2	18(1)	4	6	2	2	34(2)	171(8)	2	14	4	2	261(11)

括弧内は全体数の内、微細剥離痕のあるものの点数。

38号石器集中（第343～346図、表141）

I-9グリッドを中心に出土した石器84点から成る。出土層位は主に休場層中位であるが、上下の層に分散し、休場層直下黒色帯及び富士黒土層からも1点ずつ出土している。径約15mの範囲に分布するが、I-8グリッドの56号礫群と重なる部分（a）と、その東側、I-9グリッドを中心とする部分（b）との2つの密集部に分けられる。前者ではホルンフェルスが主体で輝石安山岩や箱根畑宿産黒曜石が伴い、ナイフ形石器1点、台石2点などが出土した。後者ではホルンフェルス、諏訪星ヶ台産黒曜石が主体でガラス質黒色安山岩やチャートが伴い、ナイフ形石器7（接合により6）点、削器2点、楔形石器5点、二次加工剥片1点が出土した。39号石器集中との接合資料がホルンフェルスで1個体ある。

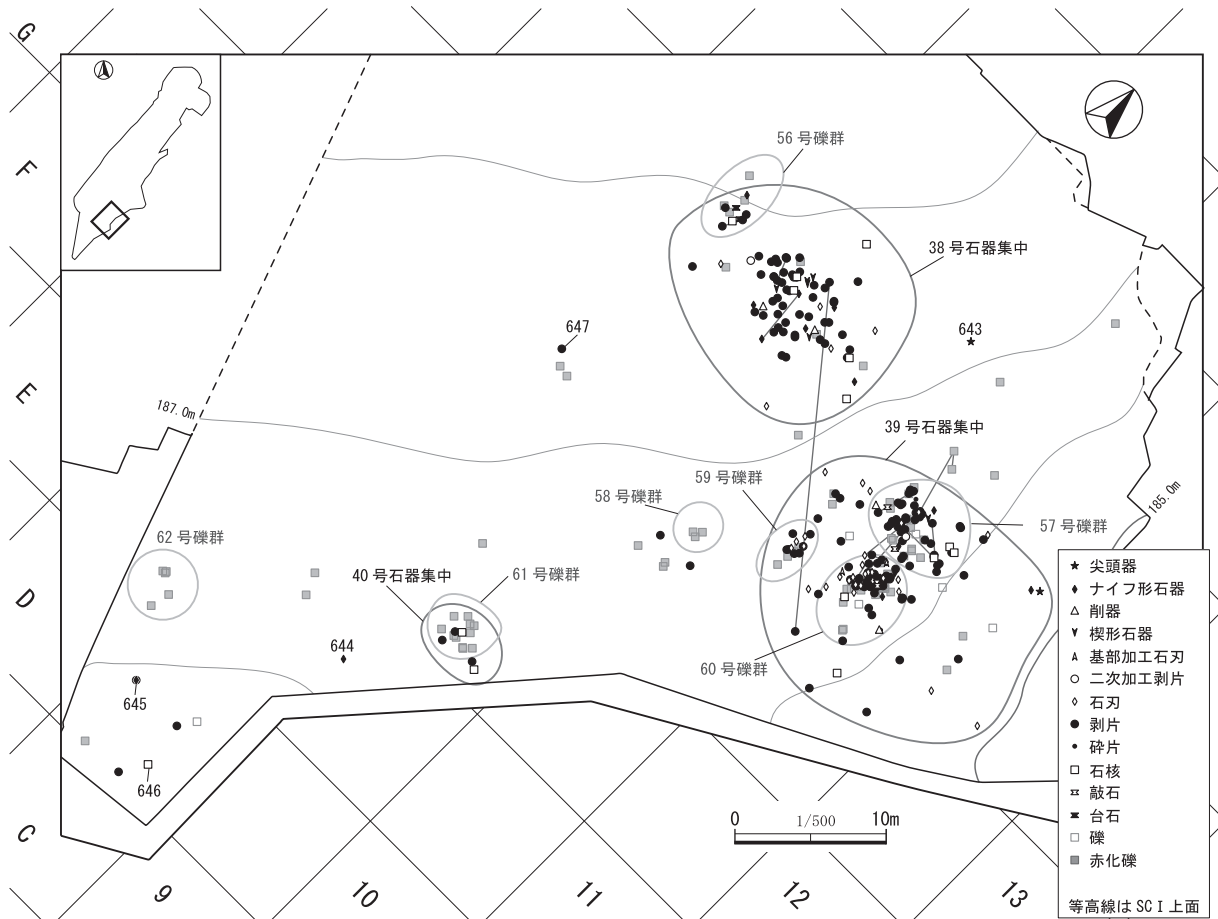
39号石器集中（第347～352図、表142）

H-11グリッドを中心に出土した石器162点から成る。出土層位は主に休場層中位で、29点が休場層下位、2点が休場層上位出土である。径約20mの範囲に分布するが、やはり複数の密集部に分けて捉える

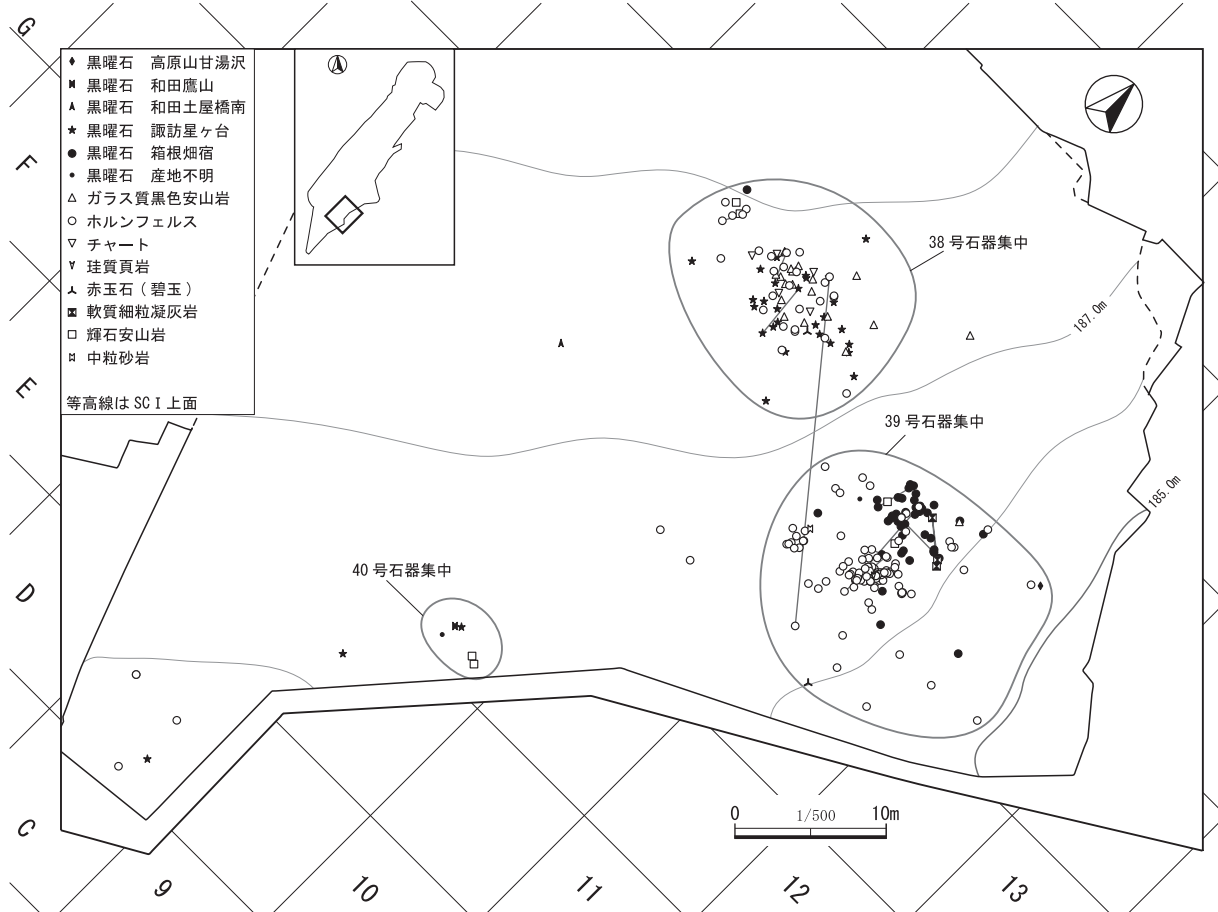
表141 第XVII文化層38号石器集中 石器組成

		ナイフ形石器	削器	楔形石器	二次加工剥片	石刃	剥片	石核	台石	計
黒曜石	諏訪星ヶ台	6(1)	2	3		2(1)	12	2		27(2)
	箱根畑宿	1								1
	産地不明						1			1
	黒曜石計	7(1)	2	3		2(1)	13	2		29(2)
ガラス質黒色安山岩		1				1	15	2		19
ホルンフェルス						2	24	2		28
チャート				1	1		3(2)			5(2)
赤玉石（碧玉）				1						1
輝石安山岩									2	2
計		8(1)	2	5	1	5(1)	55(2)	6	2	84(4)

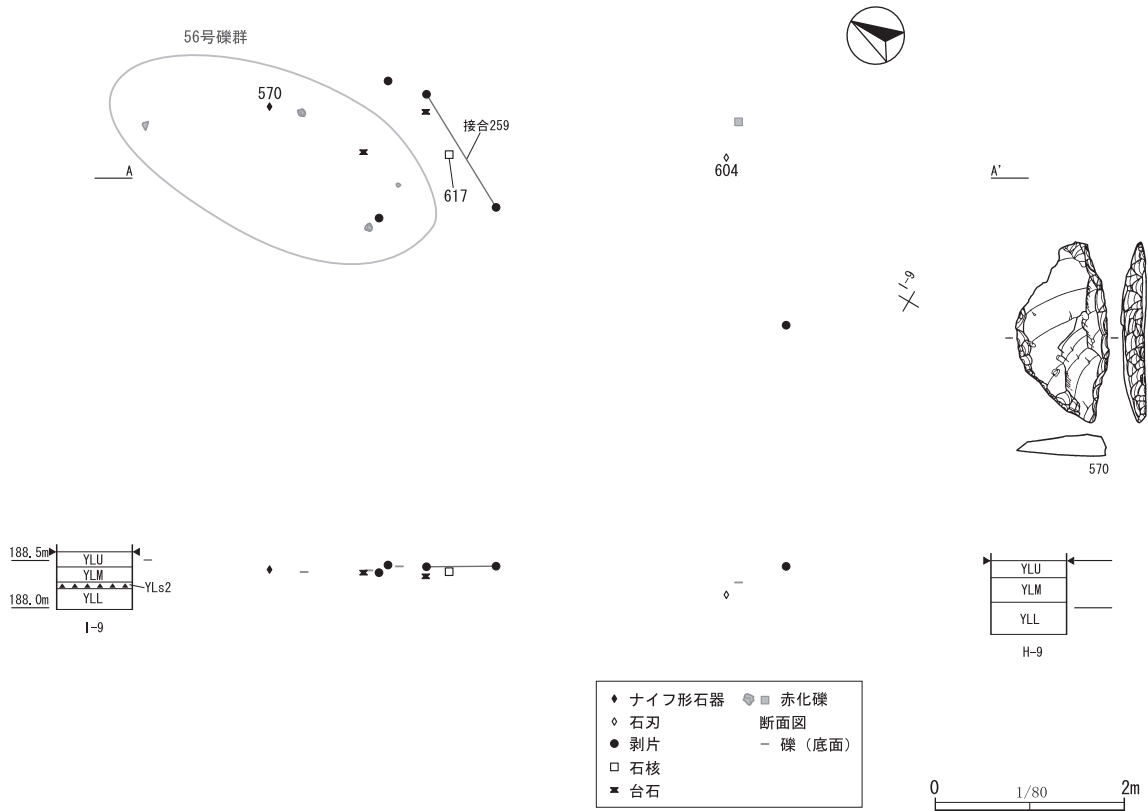
括弧内は全体数の内、微細剥離痕のあるものの点数。



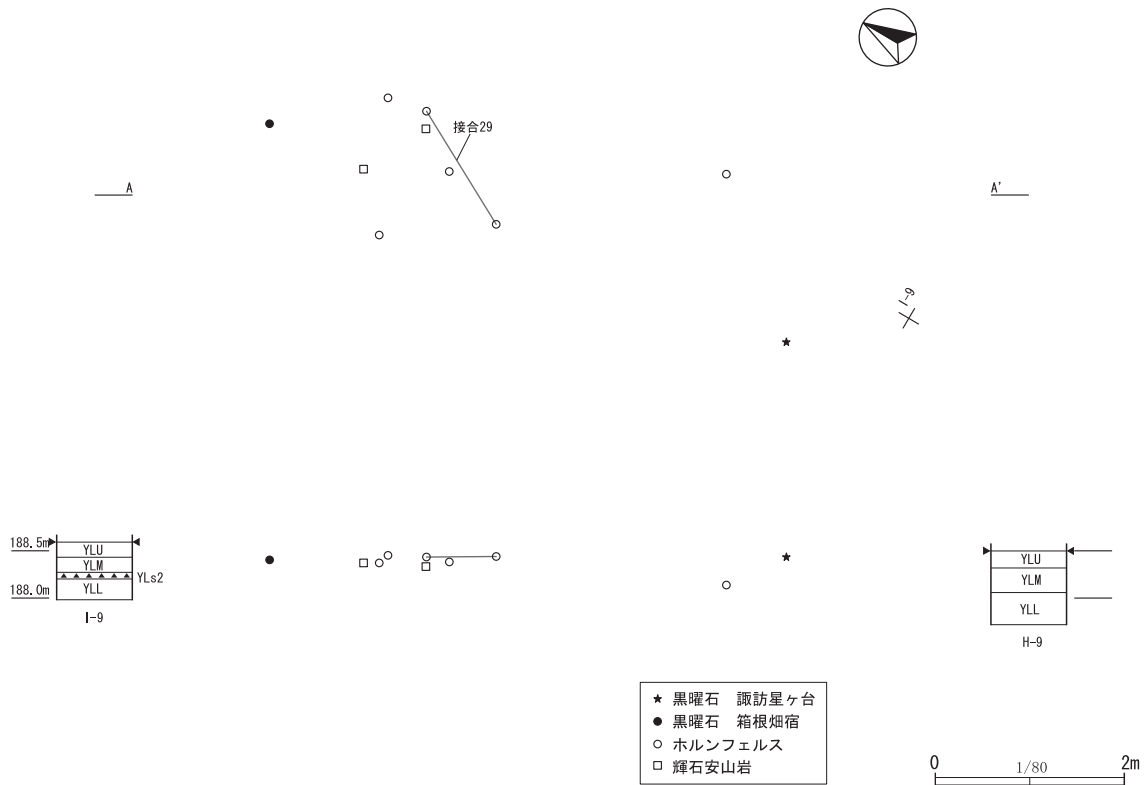
第341図 第XVII文化層西尾根（南）器種別分布



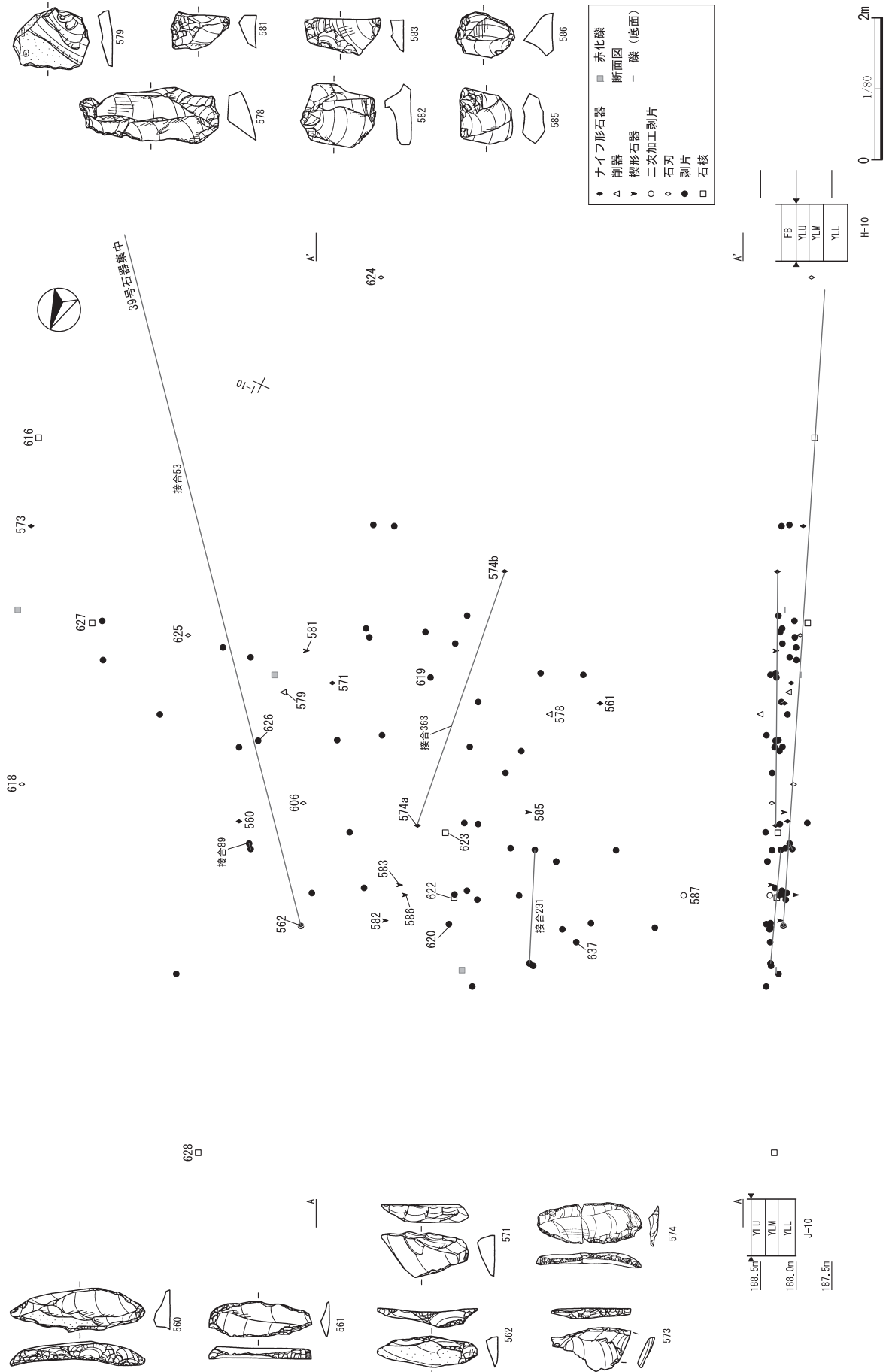
第342図 第XVII文化層西尾根（南）石材別分布



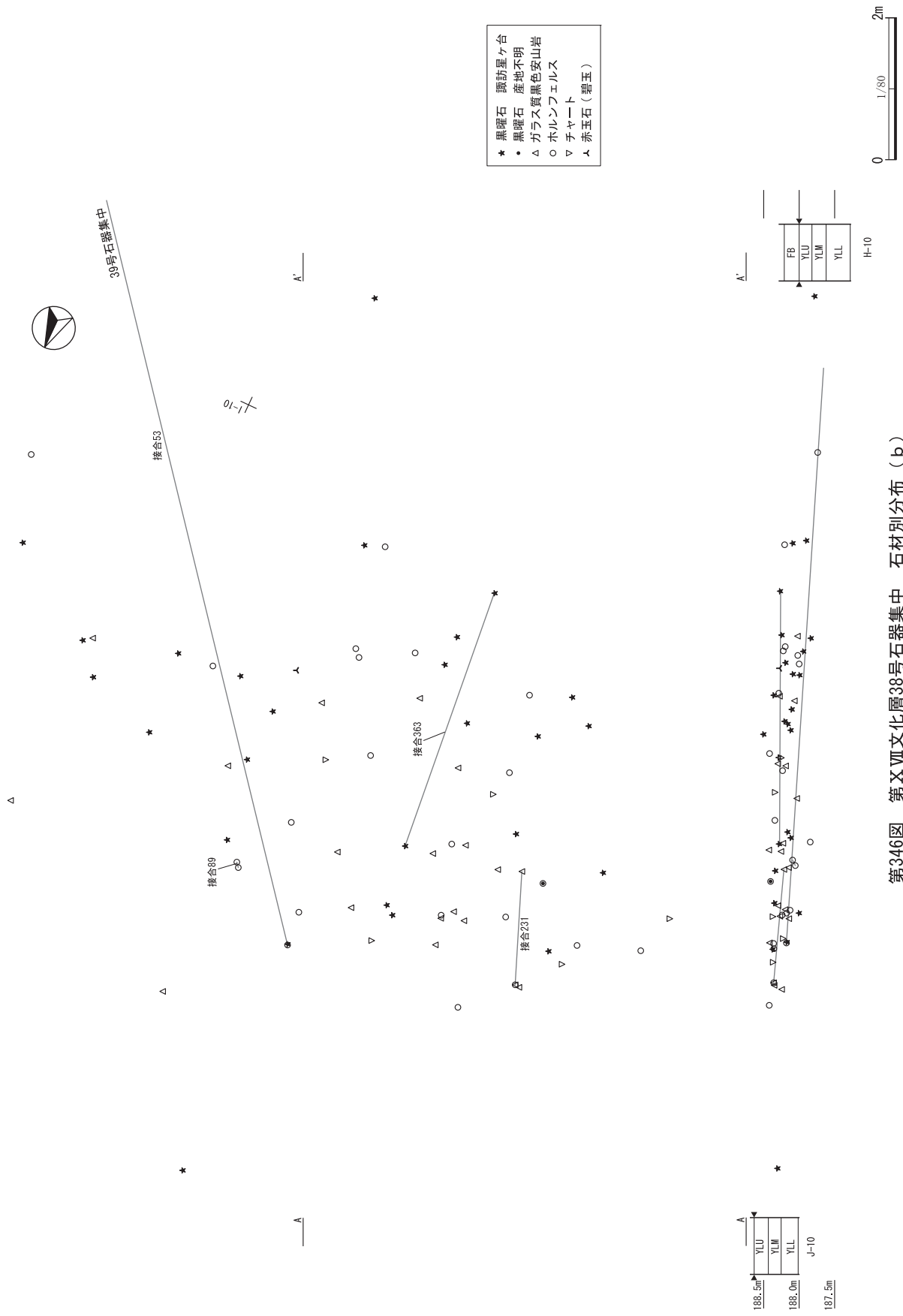
第343図 第XVII文化層38号石器集中 器種別分布(a)、56号礫群



第344図 第XVII文化層38号石器集中 石材別分布(a)



第345図 第XVII文化層38号石器集中 器種別分布 (b)



第346図 第ⅤⅦ文化層38号石器集中 石材別分布 (b)

事ができ、59号礫群と重なる西側の密集部（a）、57号礫群と重なる北側の密集部（b）、60号礫群と重なる南側の密集部（c）に分けられる。西側密集部（a）はホルンフェルスが主体で箱根畑宿産黒曜石、中粒砂岩が1点ずつ出土している。北側密集部（b）は箱根畑宿産黒曜石が主体で、ホルンフェルス、輝石安山岩、軟質細粒凝灰岩などが伴う。

ナイフ形石器3点、削器、

楔形石器、二次加工剥片各1点、敲石2点が出土した他、密集部の外れから高原山甘湯沢産黒曜石製の尖頭器が1点出土した。南側密集部（c）はホルンフェルス主体で箱根畑宿産黒曜石、赤玉石、輝石安山岩などが伴い、ナイフ形石器5点、基部加工石刃2点、削器1点、敲石2点が出土した。

40号石器集中（第353・354図、表143）

F-9グリッドを中心に出土した石器5点から成る。出土層位は休場層下位で、61号礫群が重複して分布する。石器は黒曜石（和田鷹山産、諏訪星ヶ台産各1点など）製3点、輝石安山岩製2点である。

56号礫群（第343図、表144）

I-8グリッド北東部で出土した被熱礫4点から成る。南北2.5mの範囲に分布し、出土層位は休場層中位である。礫は平均で長径7.3cm・重量0.20kgの大きさである。

57号礫群（第349図、表144）

H-11グリッド北西部を中心に出土した礫15点から成り、14点に被熱の痕跡が認められた。出土層位は主に休場層下位で2点が休場層中位出土である。4.5m×2.5mの範囲に分散した分布を示す。礫は長径33.3cm・重量6.5kgのものが最大で、平均で長径11.4cm・重量0.84kgである。

表142 第XVII文化層39号石器集中 石器組成

	尖頭器	ナイフ形石器	削器	楔形石器	基部加工石刃	二次加工剥片	石刃	剥片	砕片	石核	敲石	計
箱根畑宿		2	2	1				2	1			3
産地不明								39(5)	2	1		48(5)
黒曜石計	1	2	2	1								
ガラス質黒色安山岩							1					1
ホルンフェルス		6			2	1	28	62		4		103
珪質頁岩							1(1)					1(1)
赤玉石（碧玉）								1				1
軟質細粒凝灰岩								3(1)				3(1)
輝石安山岩											4	4
中粒砂岩								1				1
計	1	8	2	1	2	1	29(1)	107(6)	2	5	4	162(7)

括弧内は全体数の内、微細剥離痕のあるものの点数。

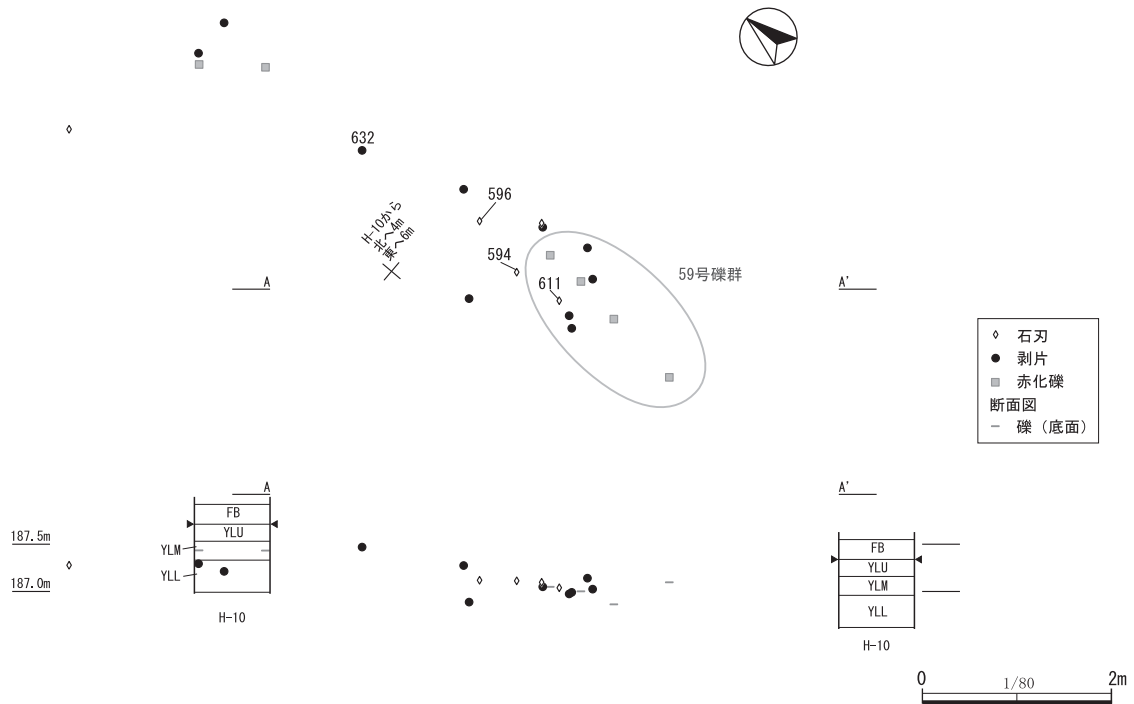
表143 第XVII文化層40号石器集中 石器組成

	剥片	石核	計
和田鷹山		1	1
諏訪星ヶ台		1	1
産地不明	1		1
黒曜石計	2	1	3
輝石安山岩	1	1	2
計	3	2	5

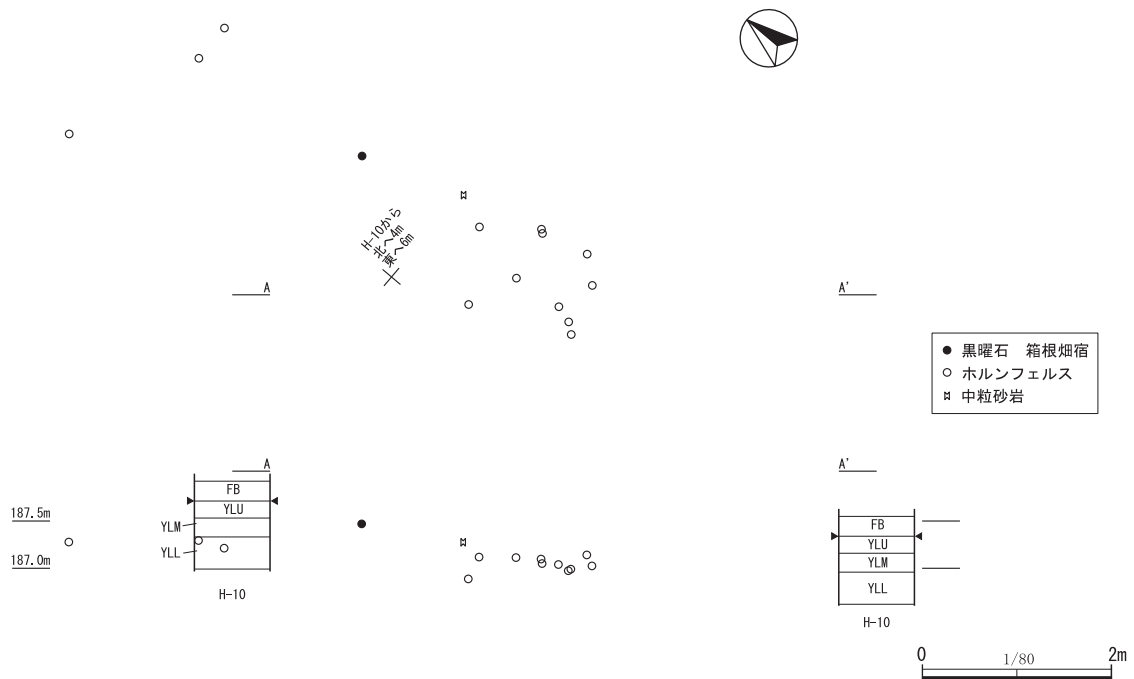
表144 第XVII文化層西尾根（南） 礫群属性

礫群番号	構成礫数	赤化					形態			石材							
		完形		非完形			垂角	垂円	円	イト	デイサ	安山岩	輝石	安山岩	多孔質	玄武岩	多孔質
		非赤化	赤化	非赤化	赤化1	赤化2											
56号	4		3		1			3	1			3			1		
57号	15	1	10		3	1	1	9	5			5	1		5	4	
58号	3		3				2	1				1			2		
59号	4		3		1		1	3				1			1	2	
60号	21	1	12		8		8	12	1			7			5	9	
61号	11		5		5	1	6	2	3			4			4	3	
62号	5		3		2		2	2	1			1	1		2	1	
遺構外	27	3	16	1	6	1	10	13	4	1		15	2		3	6	

赤化1：全面が赤化 赤化2：礫の外皮のみ赤化



第347図 第XVII文化層39号石器集中 器種別分布 (a)、59号礫群



第348図 第XVII文化層39号石器集中 石材別分布 (a)

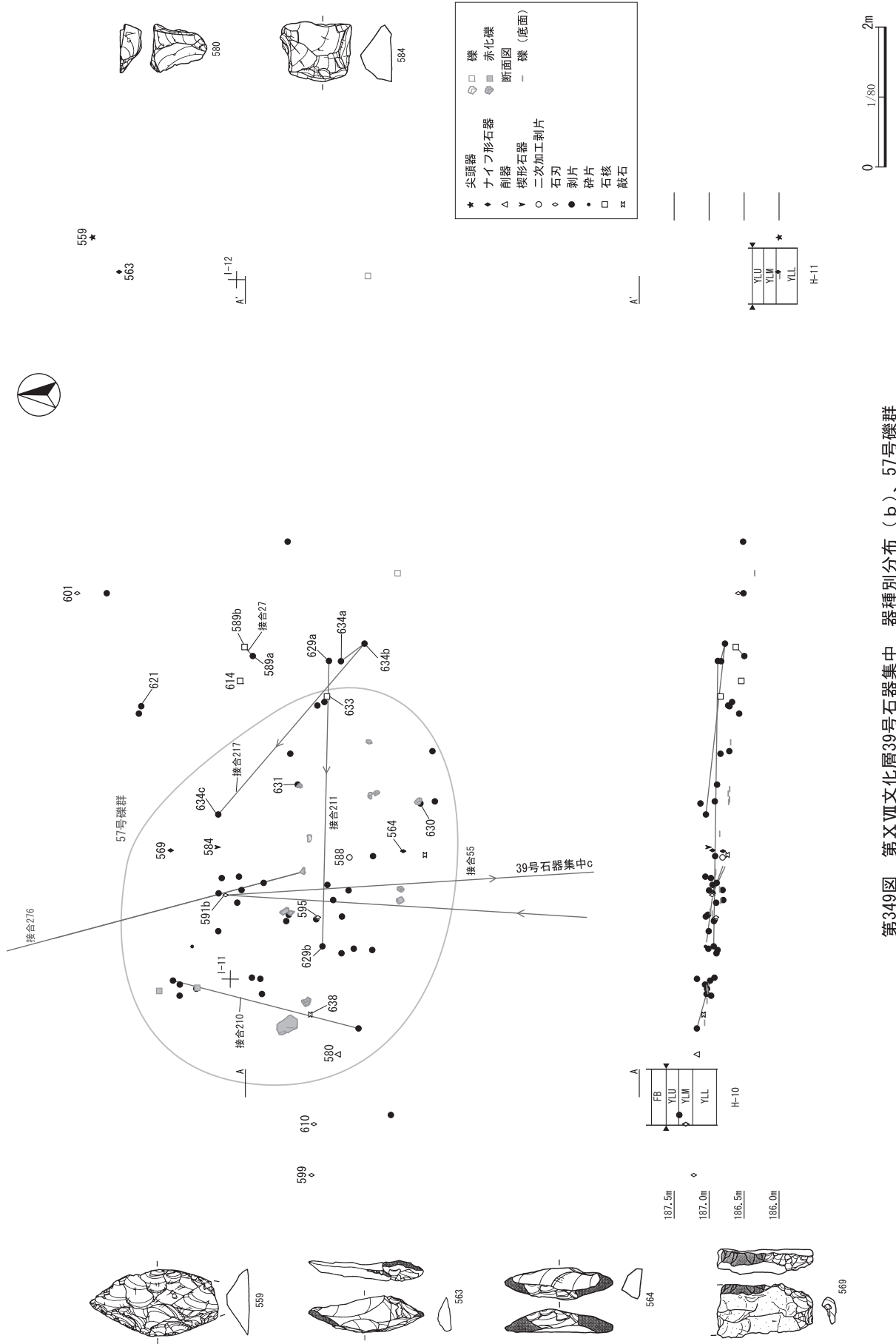
58号礫群 (第355図、表144)

G-10グリッド北西部で出土した被熱礫3点から成る。出土層位は休場層中位である。径0.8mの範囲に配された礫は長径22.3cm・重量2.4kg、長径23.4cm・重量1.9kgのものがあるなど比較的大型で、平均で長径20.2cm・重量1.7kgの大きさである。また、南側の礫群外にも被熱礫が散在していた。

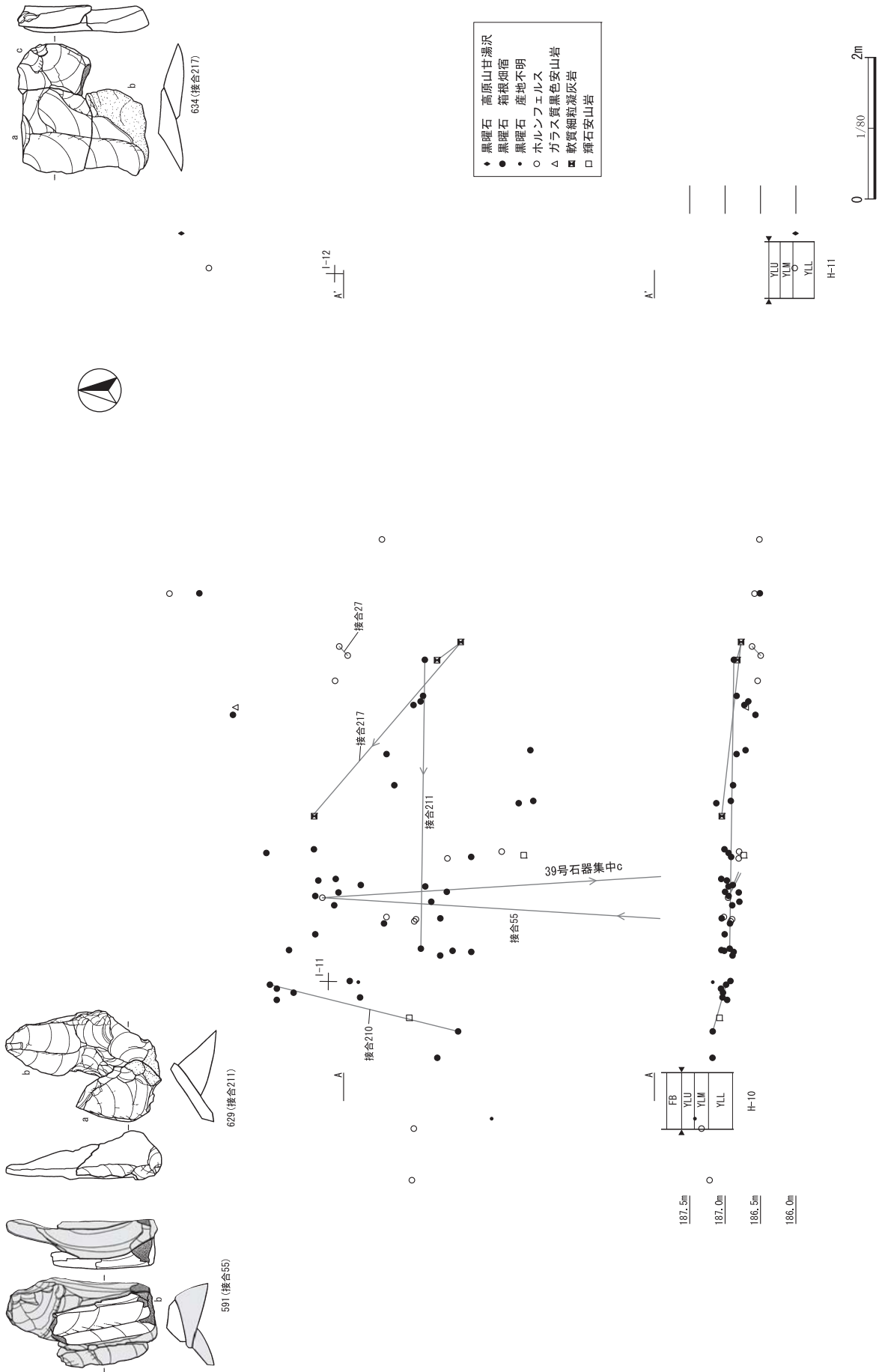
59号礫群 (第347図、表144)

H-10グリッド北東部で出土した被熱礫4点から成る。出土層位は主に休場層中位で1点が休場層下位出土である。礫は南北2mにわたってほぼ直線状に並び平均で長径8.9cm・重量0.36kgの大きさである。

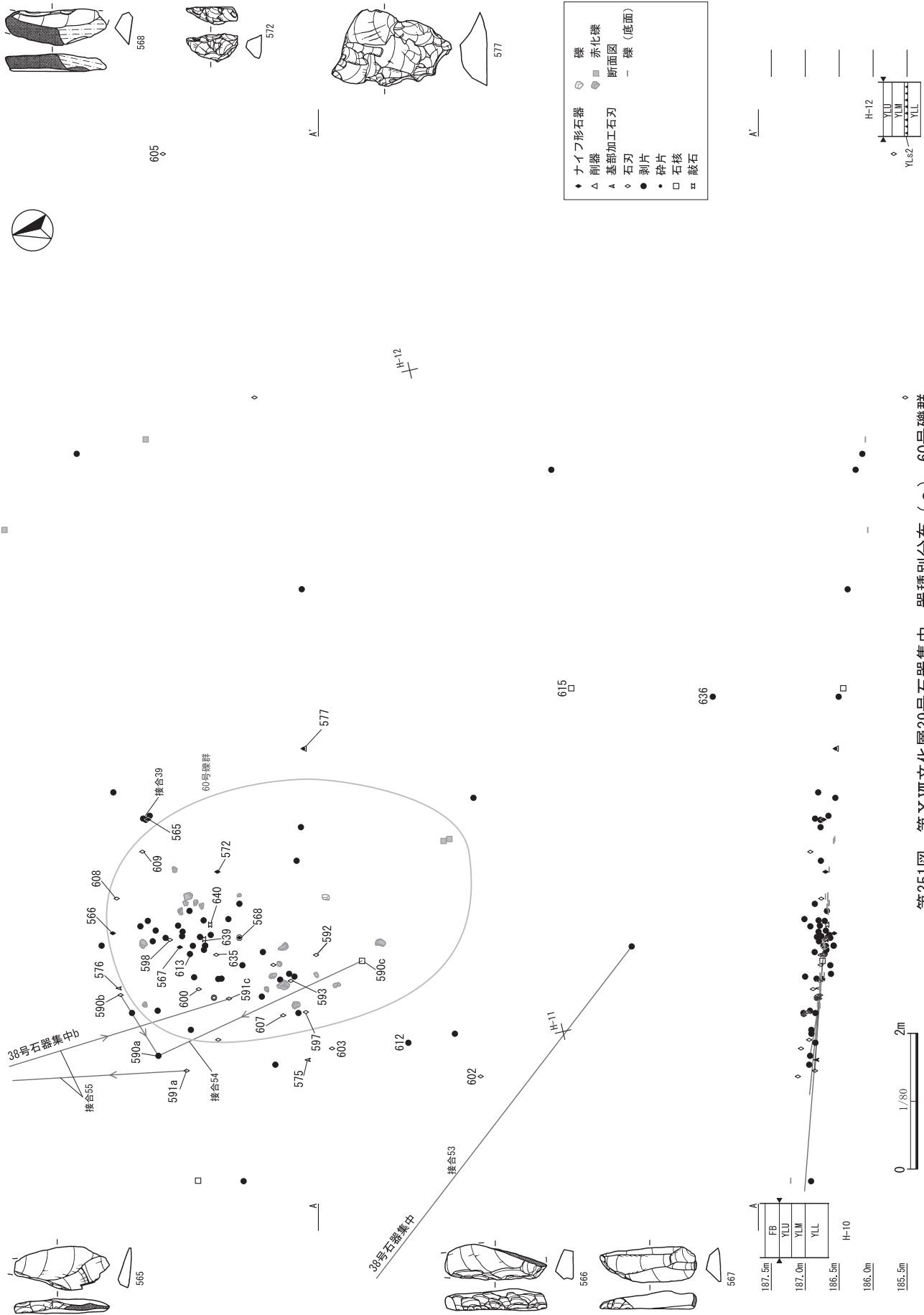




第349図 第XVII文化層39号石器集中 器種別分布 (b)、57号礫群



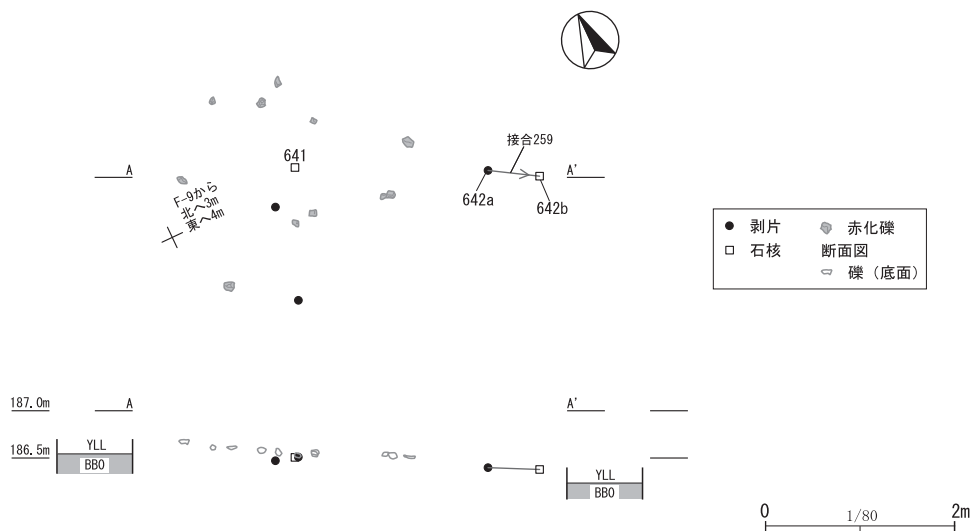
第350図 第ⅤⅦ文化層39号石器集中 石材別分布 (b)



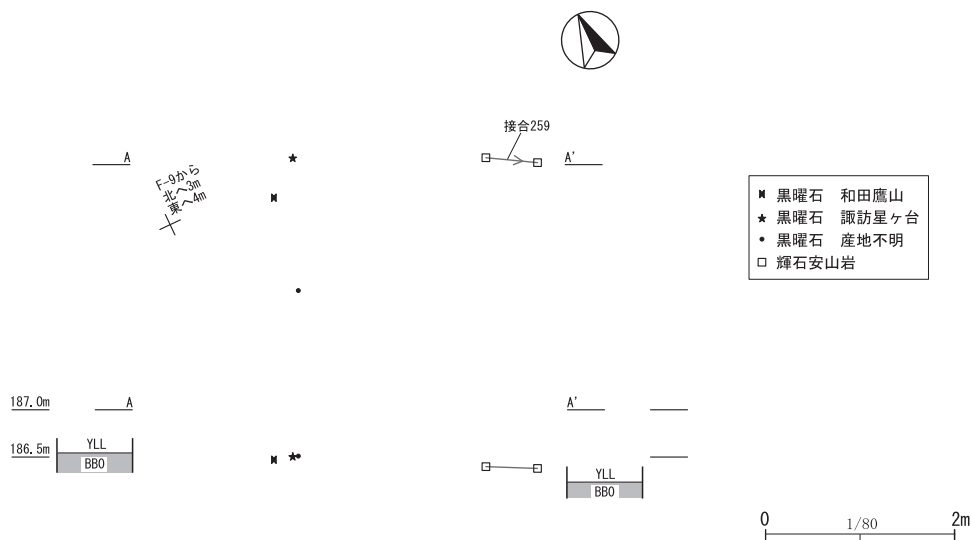
第351図 第XVII文化層39号石器集中 器種別分布(c)、60号礫群



第352図 第ⅤⅦ文化層39号石器集中 石材別分布 (c)



第353図 第XVII文化層40号石器集中 器種別分布、61号礫群



第354図 第XVII文化層40号石器集中 石材別分布

60号礫群 (第351図、表144)

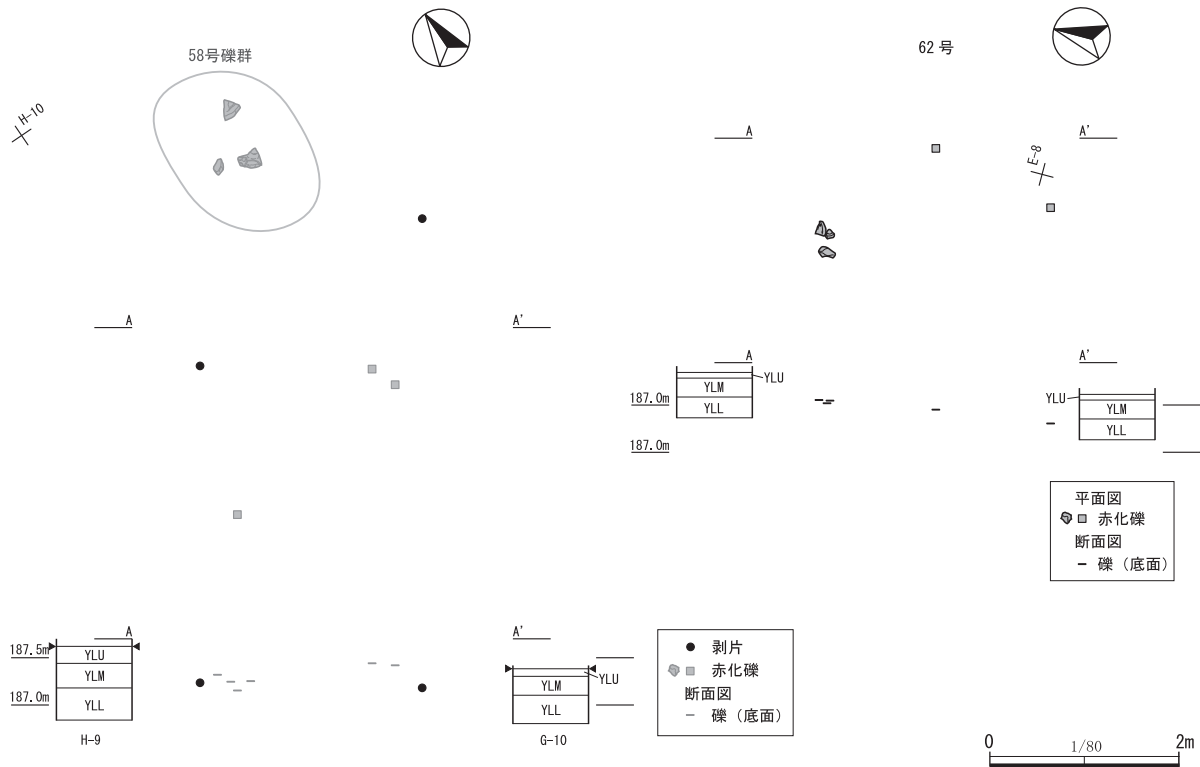
H-11グリッド南西側で出土した礫21点から成り、うち20点に被熱の痕跡が認められた。出土層位は主に休場層下位で、2点が休場層中位出土である。礫は5m×3mの範囲に散在し、平均で長径10.1cm・重量0.47kgの大きさである。

61号礫群 (第353図、表144)

F-9グリッド南部で出土した被熱礫11点から成る。出土層位は主に休場層下位である。礫は径2.5m程度の範囲に分布し、平均で長径9.5cm・重量0.27kgの大きさである。

62号礫群 (第355図、表144)

E-7グリッド南東部付近で出土した被熱礫5点から成る。出土層位は休場層中位の下部である。長径18.0cm・重量1.9kgのものをはじめ、長径15cm以上の比較的大型の礫3点が1箇所にとまり、その南側に礫2点が散在する。礫は平均で長径13.4cm・重量0.91kgの大きさである。



第355図 第XVII文化層58・62号礫群

(2) 38・39号石器集中の出土石器 (第356～364図)

尖頭器 (559)

1点出土した。高原山甘湯沢産黒曜石製、片面加工で、側縁は微小な加工で細かく整形されている。39号石器集中の北東側の外れから出土した。

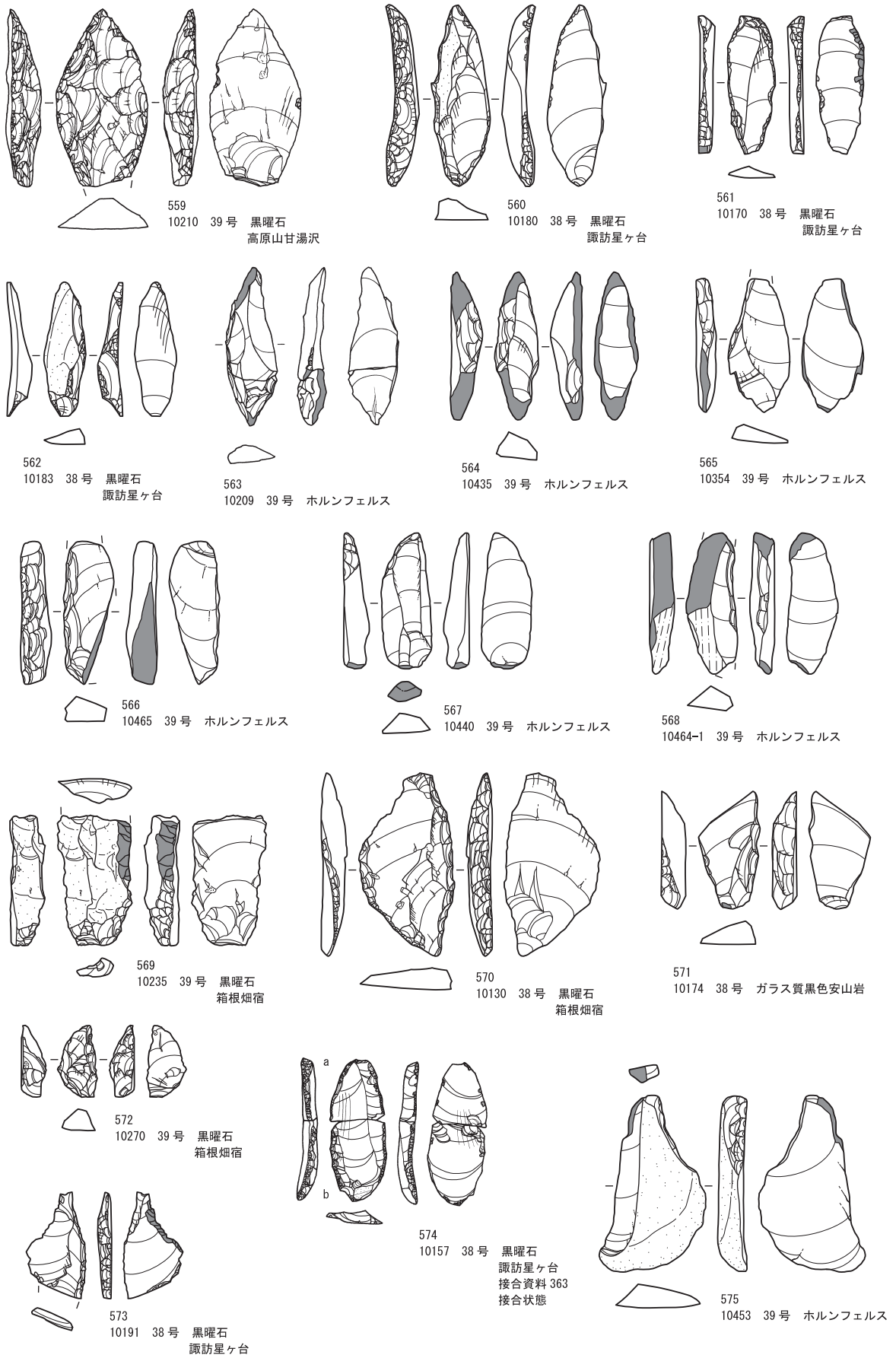
ナイフ形石器 (560～574)

16 (接合により15) 点出土した。

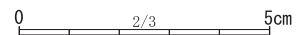
560～562・573・574は諏訪星ヶ台産黒曜石製である。560～562は二側縁加工のものである。560は右側縁に刃部を残し、左側縁を厚い背部としている。刃部には微細剥離痕が認められる。561は左側縁の基部側と右側縁の先端側が厚い加工となっているが、その他の部分にも微細な剥離があり、ほぼ全周を剥離が巡っている。先端部の加工は側縁よりも新しく、折損などの後に再加工された可能性が考えられる。562は加工範囲が限られており、右側縁の先端部・中央部、左側縁の基部を加工している。573は一側縁が加工されているが、先端部と基部が欠損している。先端から裏面へ槌状剥離が入っている。574は石刃素材、二側縁加工のもので、中央よりやや先端側で折れている。先端側破片 (574a) では折れ面に加工が入っている。

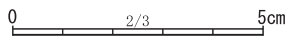
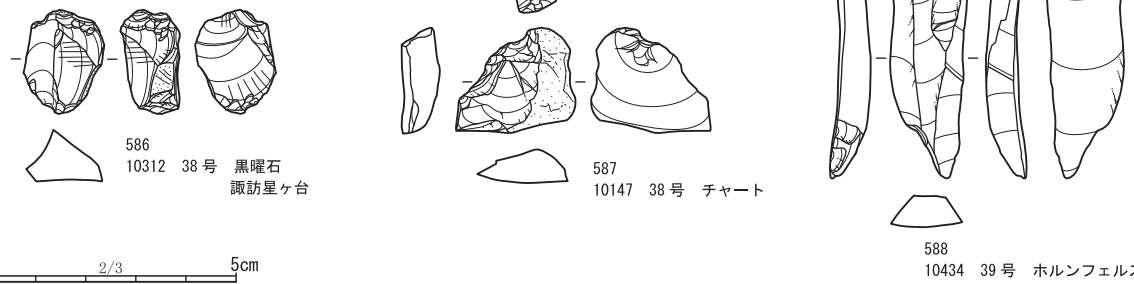
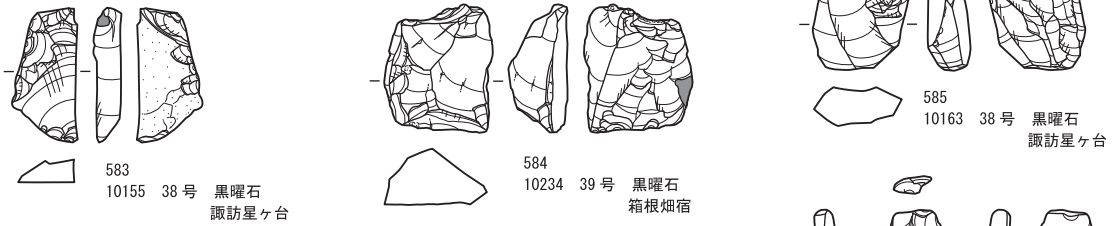
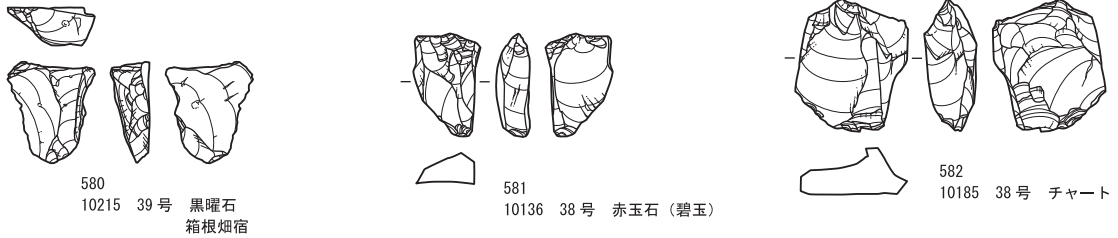
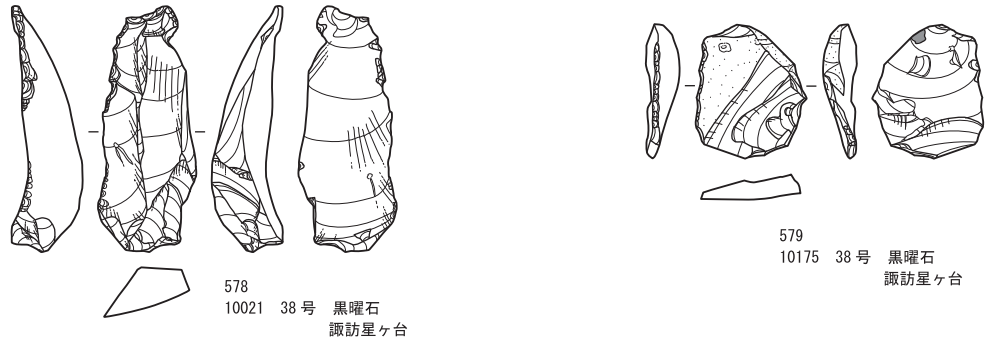
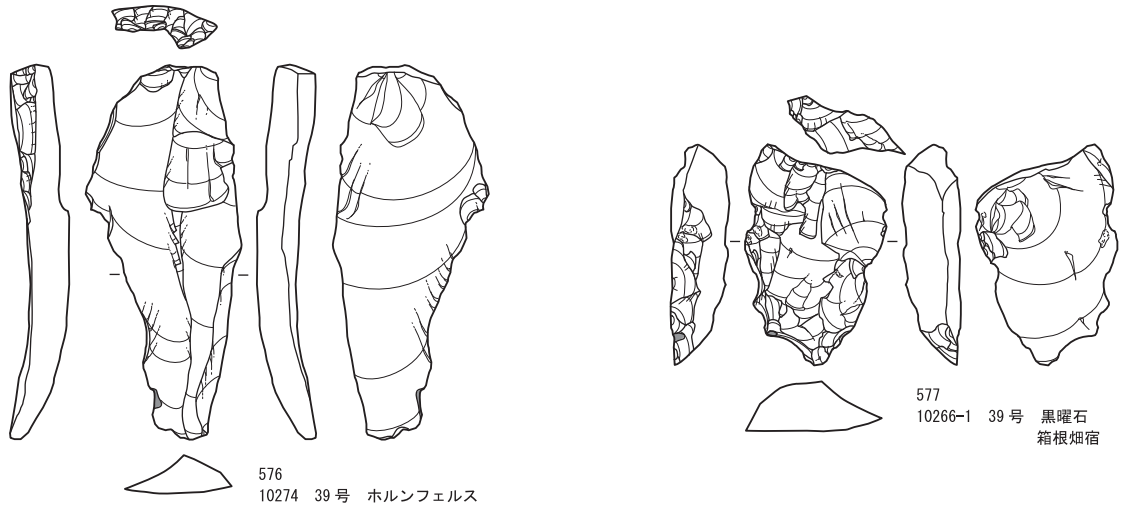
563～568はホルンフェルス製のもので、風化のため剥離痕の判別が困難なものが多い。563～565は二側縁加工のものと思われ、564では背部加工が対向調整となっている。567は石刃の先端部を斜めに截断したもので、基部には打面が残されているが、この部分は風化により劣化している。566・568は一側縁が加工されているが、基部・先端が折損している。

569・570・572は箱根畑宿産黒曜石製のものである。569は基部に打面を残して右側縁を加工しているが、先端側が折損し、右側縁の上半も欠損している。570は幅広剥片を素材として二側縁を加工したもので、基部は打面部分を除去して尖基に整形されている。572は厚手・小型のもので、左側縁基部に素材打面を置き、右側縁を加工している。



第356図 第XVII文化層西尾根(南) 石器集中(1)





第357図 第ⅤⅦ文化層西尾根(南) 石器集中(2)



571はガラス質黒色安山岩製、二側縁加工で、斜刃で切出形に近い形を呈する。

#### 基部加工石刃 (575・576)

2点出土した。ともにホルンフェルス製である。575は背面の大部分が礫面であり、厳密には石刃とは言い難いが、右側縁基部を内湾する形に加工している。576は調整打面の石刃で、左側縁基部が部分的に二次加工されている。

#### 削器 (577～580)

4点出土した。577・580が箱根畑宿産黒曜石製、578・579が諏訪星ヶ台産黒曜石製である。577は左側縁に粗い加工で鋸歯状の刃部が設けられている。578は左側縁の基部側が二次加工されており、末端側の縁辺にも微細剥離痕が認められる。579は左側縁に微小な剥離が連続している。580は素材剥片の打面側に急斜度調整で弱く内湾する刃部が作出されている。

#### 楔形石器 (581～586)

6点出土した。581が赤玉石製、582がチャート製、583・585・586は諏訪星ヶ台産黒曜石製、584は箱根畑宿産黒曜石製である。基本的に上下から剥離が入っているが、583は側方から入る剥離痕も認められ、使用・挟み割りの方向を90度回転させたことが分かる。585は下端に平坦面が残る。

#### 二次加工剥片 (587・588)

2点出土した。587はチャート製で、左側縁の打面側が部分的に加工されている。588はホルンフェルス製で、石刃の先端部を抉入状に加工したものである。

#### 剥片類・石核 (589～637)

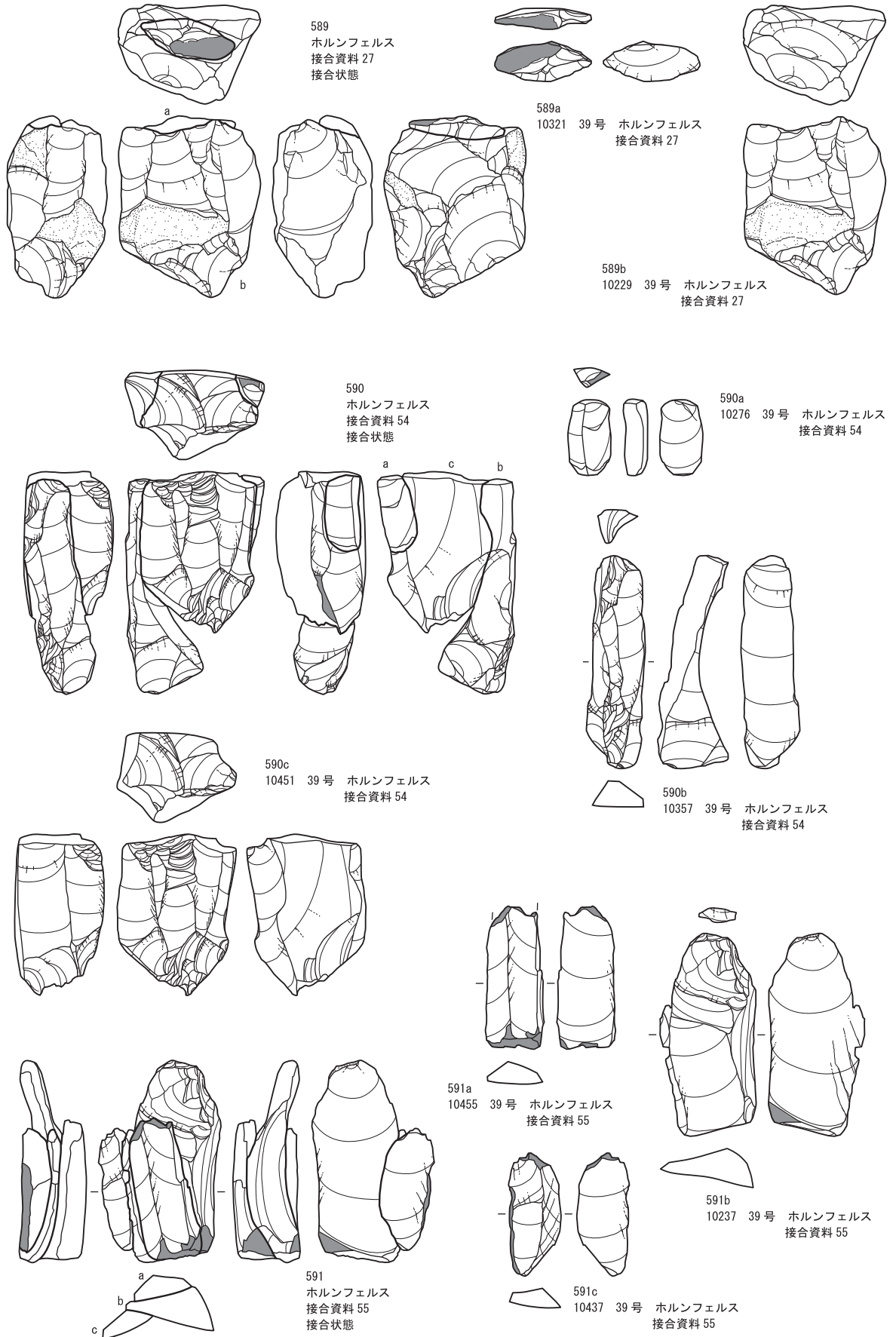
石刃34点、剥片162(接合により155)点、碎片2点、石核11点が出土した。

589～617はホルンフェルス製の資料である。589(接合資料27)は剥片、石核各1点から成り、寸詰まりの剥片が剥離された石核(589b)に打面調整剥片(589a)が接合している。590(接合資料54)は石刃、剥片、石核各1点から成る。石刃核(590c)の両端から剥片(590a)、石刃(590b)が剥離されており、590aは外反剥離(ヒンジ・フラクチャー)を起こして寸詰まりな形態となり、590bは内反剥離を起こして石核底部を大きく剥離している。その後石核(590c)には下縁調整が行われている。591(接合資料55)は同一方向に剥離された石刃3点から成る。592～611は石刃である。打面は比較的狭いものが多く、593のように頭部調整の顕著なものもある。背面の剥離痕はほとんどが上方からのものであり、下方からの剥離痕のあるもの(604・608)は少ない。609・610は背面の中央稜が側方からの剥離痕で構成されており、稜付石刃と考えられる。612・613は剥片である。613は石刃核の作業面再生剥片と考えられる。614～617は石核である。614は両設打面の石核で、作業面に縦長の剥離痕が残されていることから石刃剥離が行われたものと考えられるが、最終段階では寸詰まりの剥片が剥離されている。615～617は専ら幅広剥片が剥離された石核である。615・616は垂円礫素材で、裏面から下面に礫面が残る。617は厚手剥片を素材とする石核で、裏面が素材腹面に相当する。

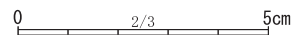
618～623はガラス質黒色安山岩製の資料で、618は石刃、619～621は剥片、622・623は石核である。ガラス質黒色安山岩製の石刃は1点のみで、剥片、石核などに石刃やその製作と関連しそうな資料は出土していない。619は側面に石核の作業面を取り込んだ剥片であり、621も石核の作業面再生に関連する剥片の可能性はある。石核(622・623)はいずれも打面転移を繰り返して剥片剥離が全体に及び、小型化したものである。

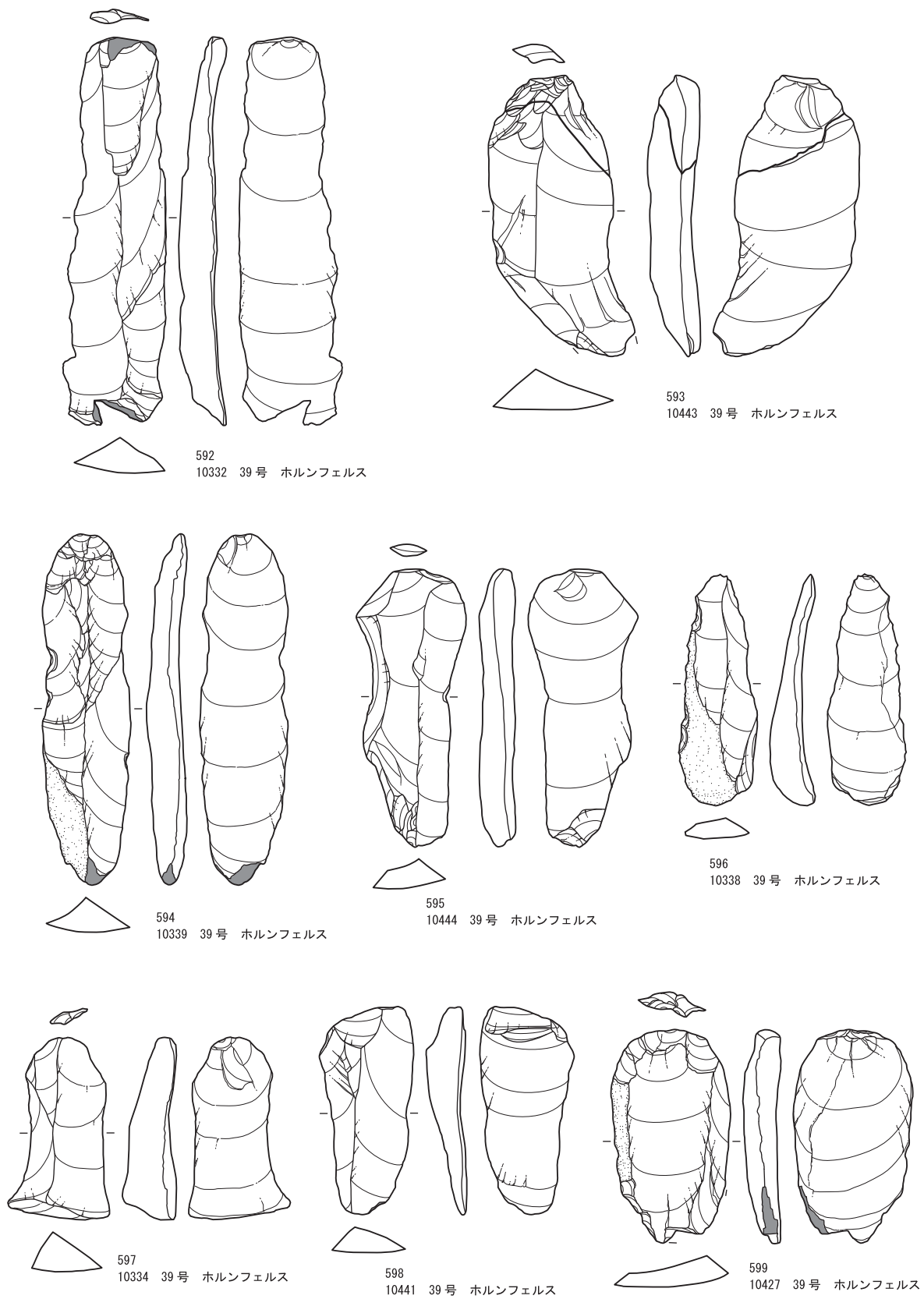
624～628は諏訪星ヶ台産黒曜石製の資料で、624・625は石刃、626は剥片、627・628は石核である。剥片類は小型のものが多く、624以外は全て長さ3cm以下であり、石核も小型化している。628は流理構造が発達して層状に不純物が入る石質であり、剥片も小型のものしか剥離されていない。

629～633は箱根畑宿産黒曜石製の資料で、629～632が剥片、633が石核である。剥片は幅広不定形の



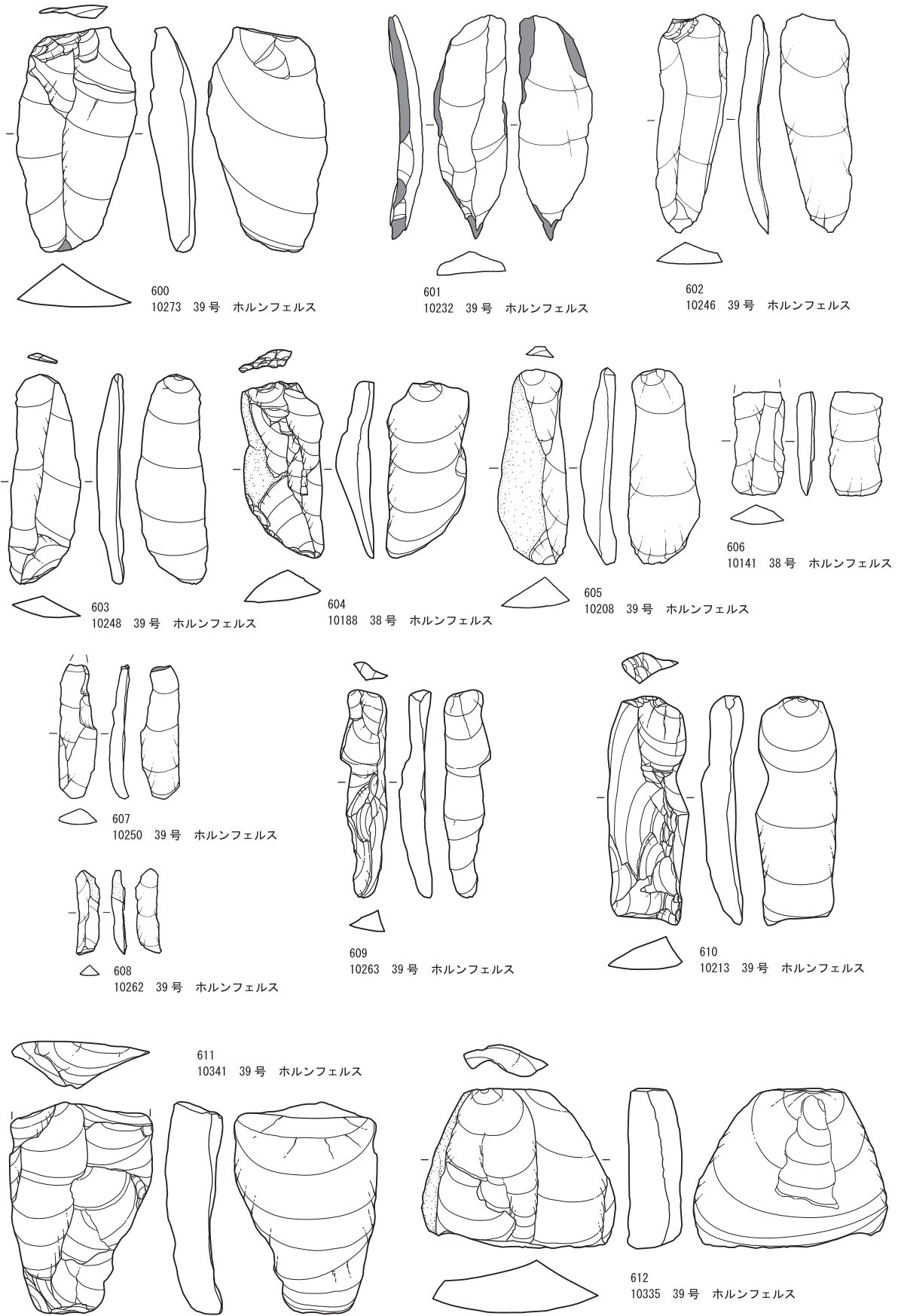
第358図 第XVII文化層西尾根(南) 石器集中(3)





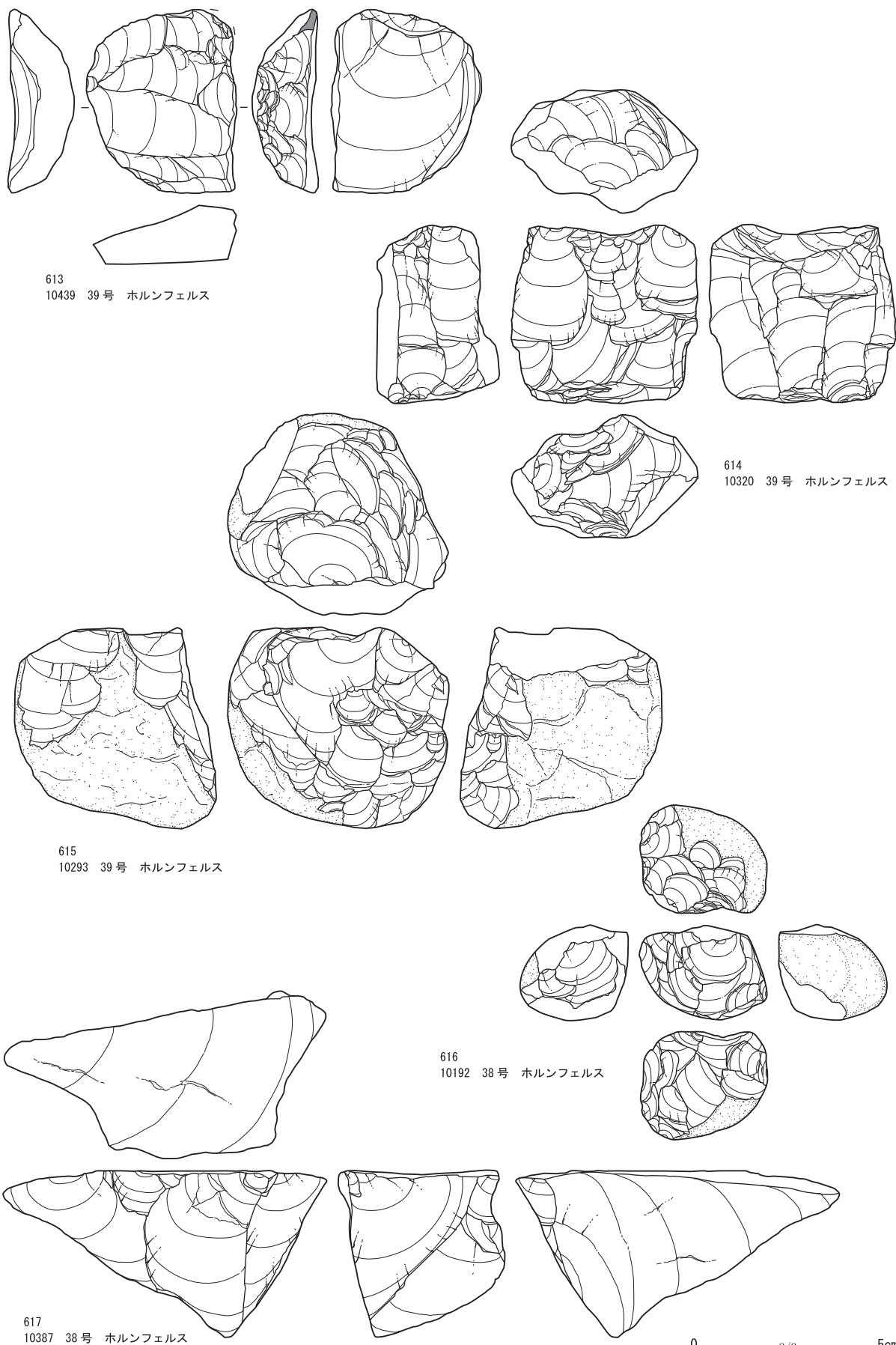
第359図 第XVII文化層西尾根(南) 石器集中(4)

0 2/3 5cm



第360図 第XVII文化層西尾根(南) 石器集中(5)

0 2/3 5cm



613  
10439 39号 ホルンフェルス

614  
10320 39号 ホルンフェルス

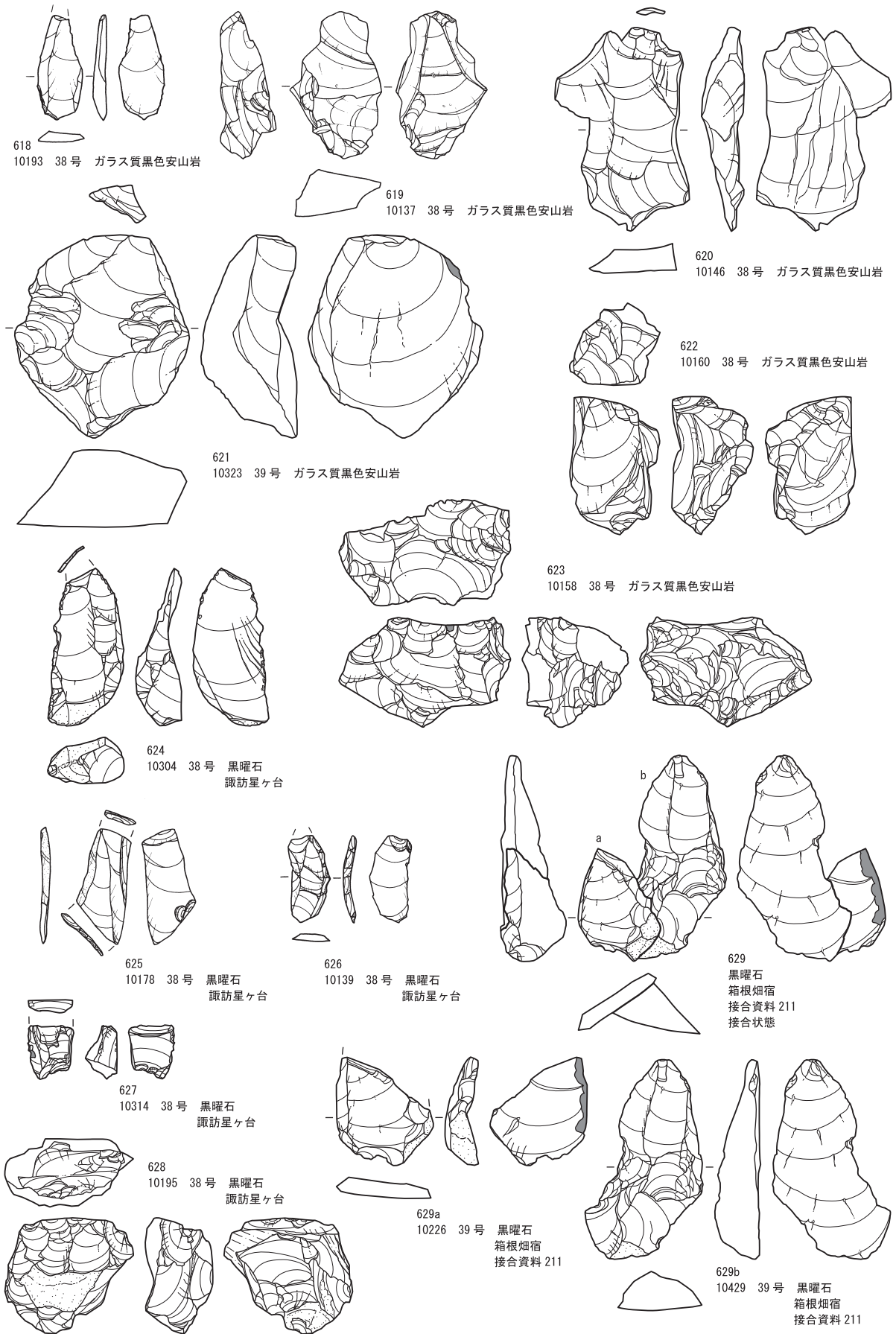
615  
10293 39号 ホルンフェルス

616  
10192 38号 ホルンフェルス

617  
10387 38号 ホルンフェルス

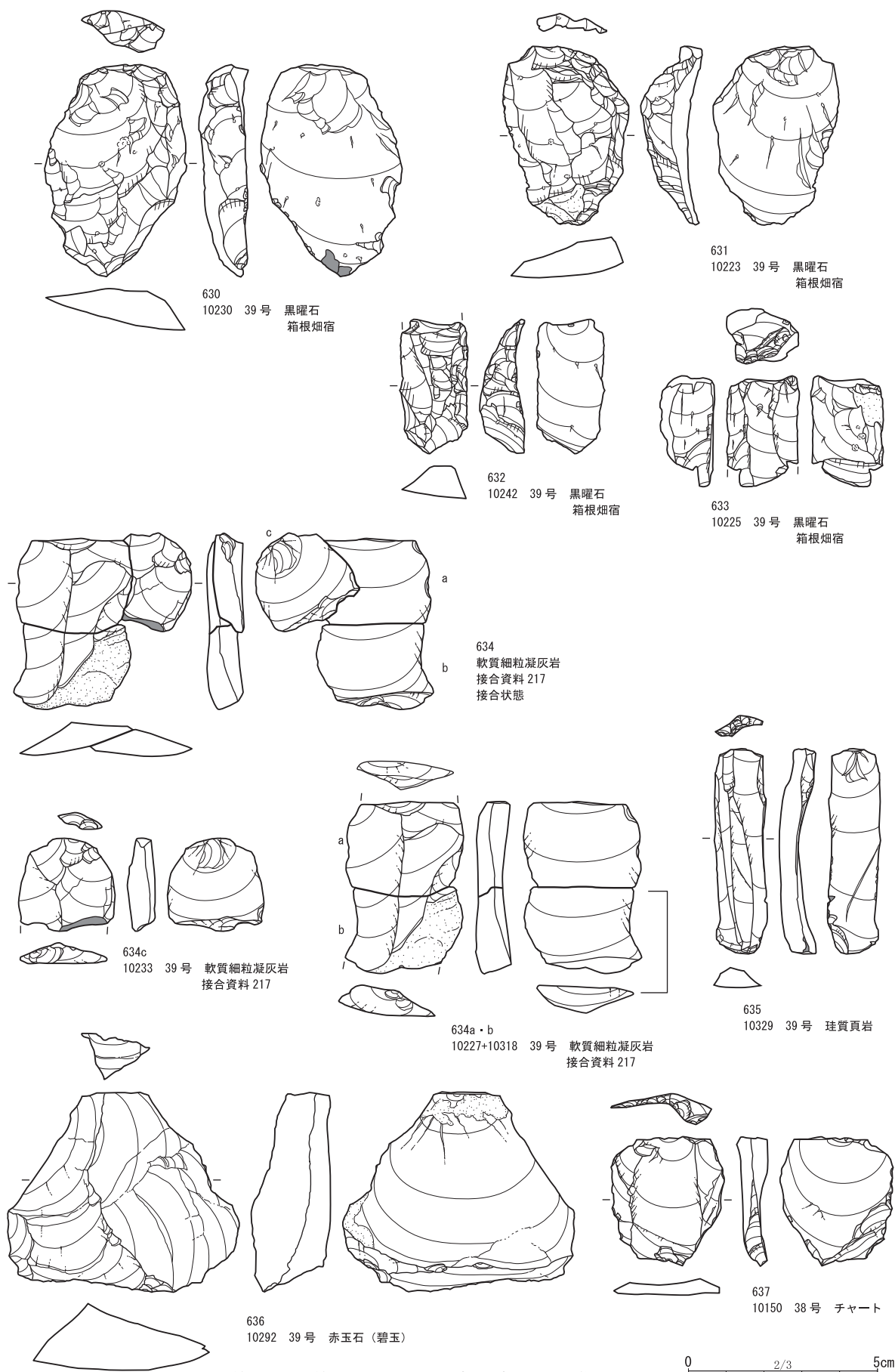
第361図 第XVII文化層西尾根(南) 石器集中(6)

0 2/3 5cm



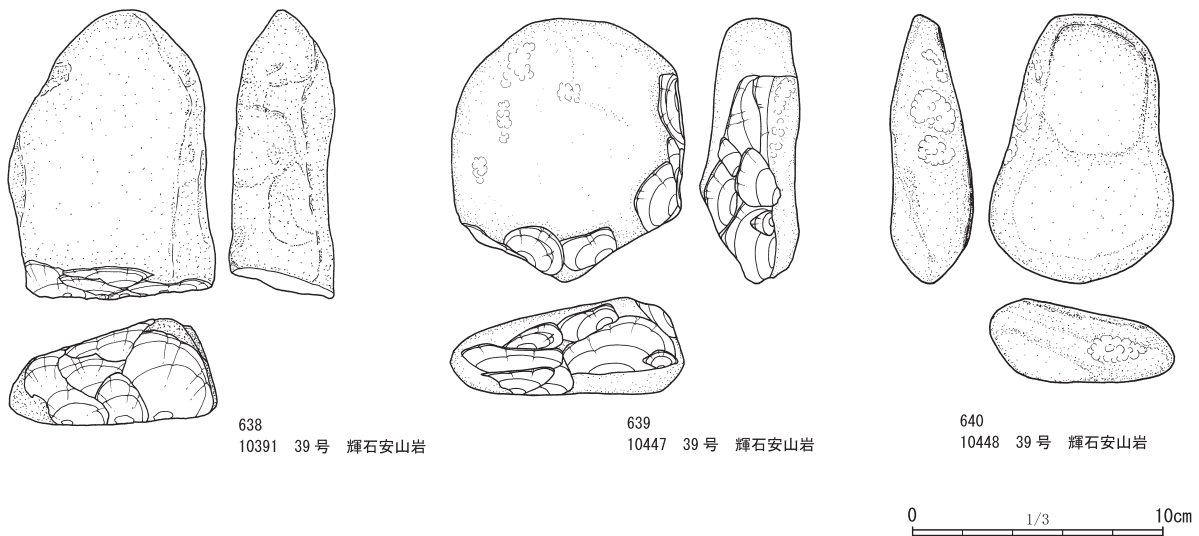
第362図 第XVII文化層西尾根(南) 石器集中(7)

0 2/3 5cm



第363図 第XVII文化層西尾根(南) 石器集中(8)

0 2/3 5cm



第364図 第XVII文化層西尾根(南) 石器集中(9)

ものが多いが、図示したように縦長のものも含まれている。背面剥離痕は剥片の剥離方向と同一方向の場合が多く、縦長剥片が一定量製作されたことが分かる。631はそうした縦長剥片を剥離する石核の底部を取り込んだものと推測される。633は下部が折損しているが角柱状を呈し、こうした縦長剥片の製作に関わるものと見られる。

634～637はその他の少数出土した石材の資料である。634(接合資料217)は軟質細粒凝灰岩製の剥片3点から成る。このうち2点は折れ面で接合するため個体数では剥片2点の接合で、縦長剥片を連続的に剥離する工程を示す。635は珪質頁岩製の石刃である。灰色で、白色の節理が入る石質であり、同じ石質のものは出土していない。切子打面で末端部には礫面が残る。636は赤玉石製の剥片である。大型厚手で、581(楔形石器)よりも粗粒であり、やはり同石質のものは出土していない。637はチャート製の剥片である。緑色の部分と赤褐色の部分斑状を呈する緻密な石質のもので、左側縁に微細な剥離痕が認められる。

#### 敲石(638～640)

4点出土し、そのうち3点を図示した。全て輝石安山岩の扁平礫を利用したものである。638は下端部が垂直な剥離面で構成されており、639は下辺から側縁にかけて剥離が生じているが、鋭角的な刃部が形成されているのではなく、敲打により生じた剥離と見られる。被熱により全面が赤化している。640は下端及び左側面に敲打痕が認められる。

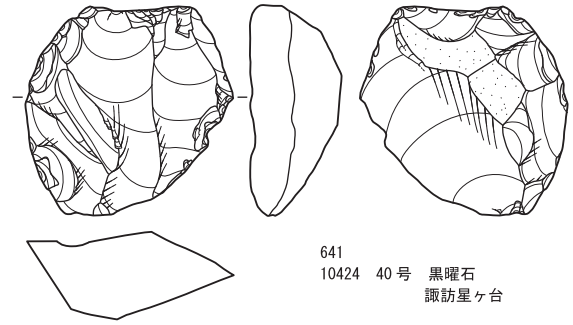
#### (3) 40号石器集中の出土石器(第365図)

剥片3点、石核2点が出土した。

641は諏訪星ヶ台産黒曜石製の石核で、打面転移を繰り返しながら縦長剥片が剥離されている。正面にあたる最後の作業面は剥片剥離によって平らになっており、裏面側が凸状の亀甲形を呈している。

642(接合資料259)は輝石安山岩製の剥片、石核各1点から成る。板状の垂角礫を素材とし、正面から幅広剥片を剥離している。

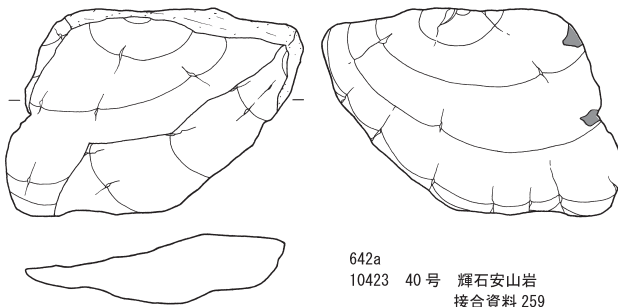
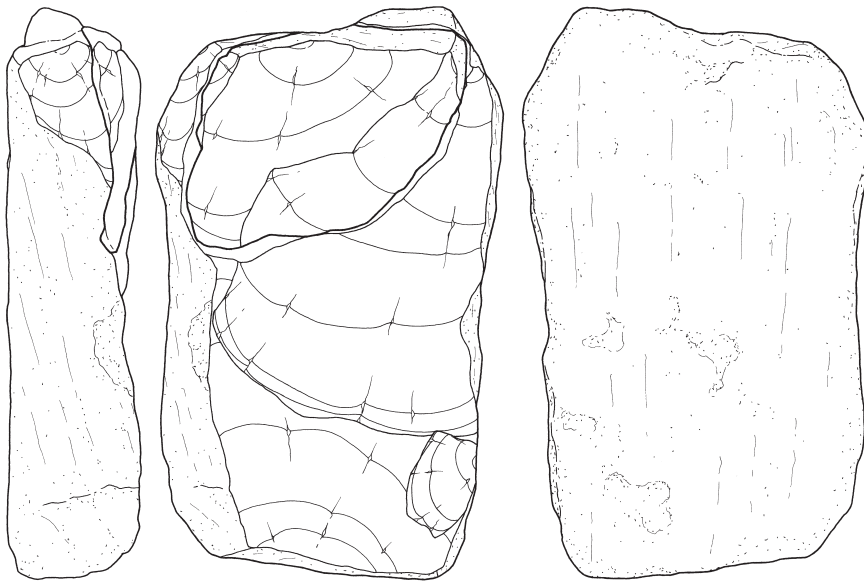




641  
10424 40号 黒曜石  
諏訪星ヶ台

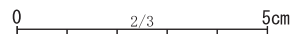


642  
輝石安山岩  
接合資料 259  
接合状態

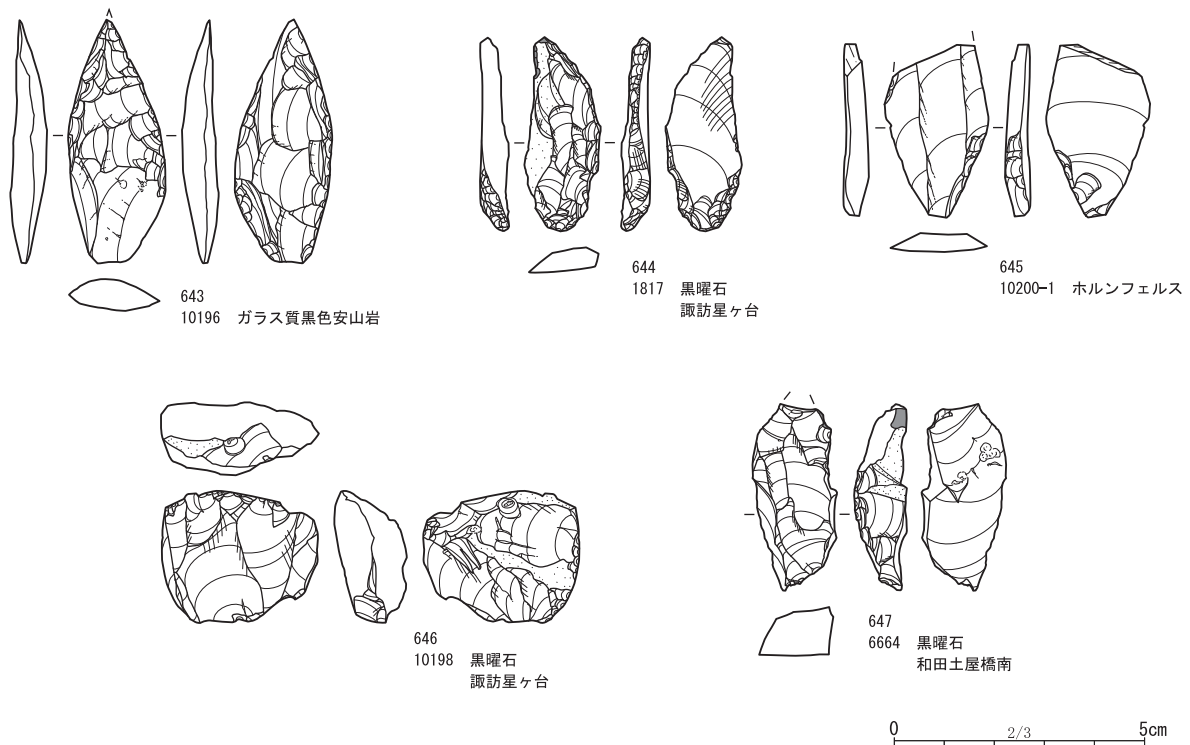


642a  
10423 40号 輝石安山岩  
接合資料 259

642b  
10379 40号 輝石安山岩  
接合資料 259



第365図 第XVII文化層西尾根(南) 石器集中(10)



第366図 第XVII文化層西尾根（南） 石器集中外

（4）石器集中外の出土石器（第366図）

尖頭器（643）

1点出土した。ガラス質黒色安山岩製で、素材剥片を横位に用い両面加工したもので、裏面に一部素材面が残っている。J-10グリッド出土。

ナイフ形石器（644・645）

2点出土した。644は諏訪星ヶ台産黒曜石製、二側縁加工であるが、右側縁の基部側は素材剥片の側面をそのまま利用し、左側縁の基部加工を腹面側に入れるという変則的な加工となっている。E-9グリッド出土。645はホルンフェルス製の石刃を素材とし、右側縁に基部加工を入れている。器体上部は折れているが、左側縁の上部にも加工が認められる。D-8グリッド出土。

剥片類・石核（646・647）

剥片6点、石核1点が出土した。剥片、石核各1点を図示した。

646は諏訪星ヶ台産黒曜石製の石核である。正面では上下方向に剥片が剥離されているが、裏面ではこれに対し垂直な方向で剥片剥離が行われている。D-8グリッド出土。

647は和田土屋橋南産黒曜石製の剥片である。背面と右側面で異なる方向の剥離痕が残されており、打面・作業面転移を繰り返して石材が消費されていったことが窺える。H-8グリッド出土。

## 第6節 第XVIII文化層

### 概要

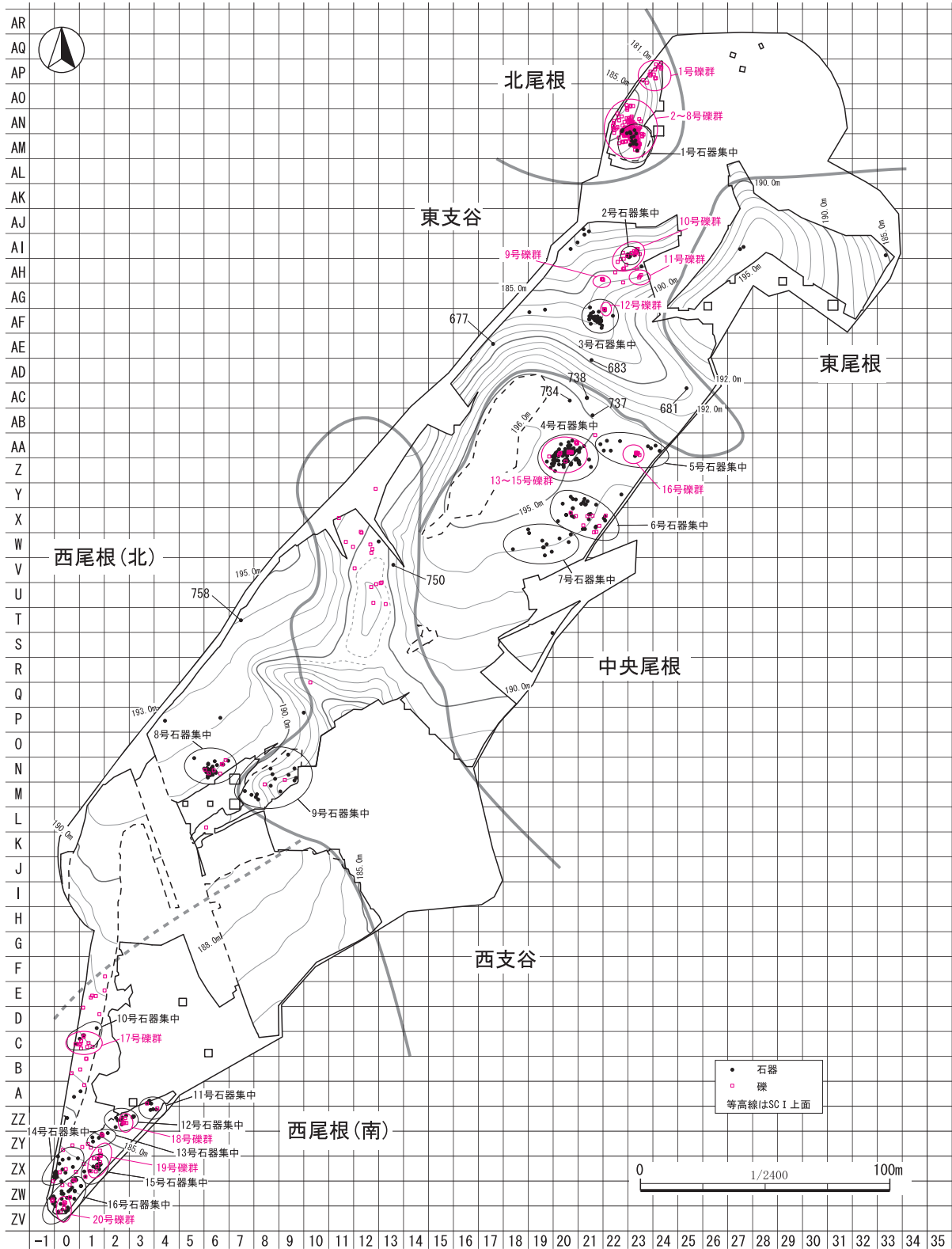
休場層中位～上位を中心として石器463点、礫527点が出土し、石器集中16か所、礫群20基を認定した(第367図、表145)。遺物分布から以下の7群に分けて整理する。

- ①北尾根 1号石器集中、1～8号礫群など。
- ②東尾根 石器3点が散在。
- ③東支谷 2・3号石器集中、9～12号礫群など。
- ④中央尾根 4～7号石器集中、13～16号礫群など。
- ⑤西支谷 9号石器集中など。
- ⑥西尾根(北) 8号石器集中など。
- ⑦西尾根(南) 10～16号石器集中、17～20号礫群など。

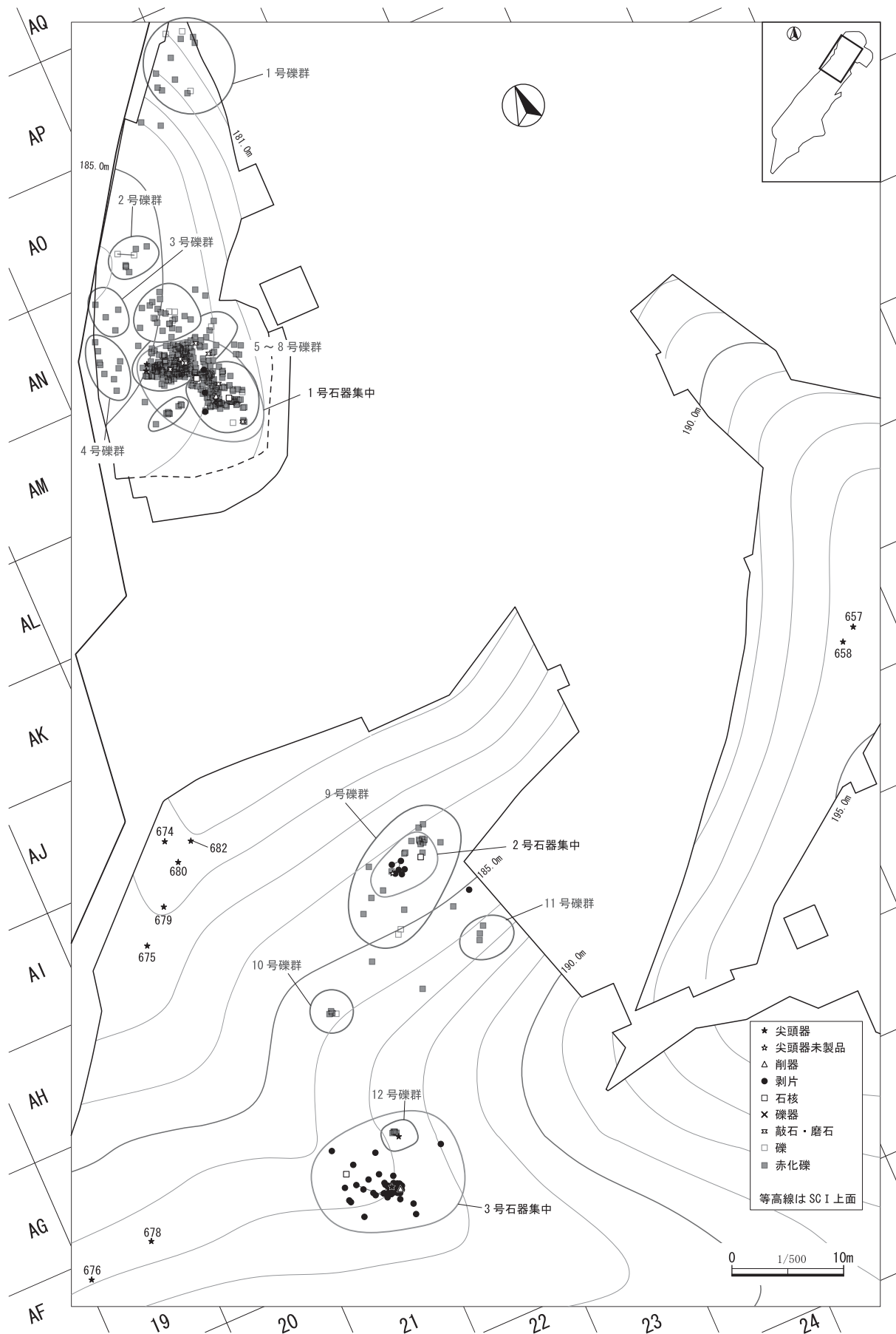
表145 第XVIII文化層 石器組成

		尖頭器	尖頭器未製品	ナイフ形石器	切出形石器	台形石器	搔器	削器	石錐	楔形石器	二次加工剥片	石刃	細石刃	剥片	碎片	石核	礫器	敲石	磨石	台石	計	
黒曜石	和田鷹山	3	1	1				1						6(3)	1						13(3)	
	和田小深沢													1							1	
	諏訪星ヶ台	2	1	1				2				2(1)	1	7	2						18(1)	
	蓼科冷山	2						1			1			8(2)							12(2)	
	箱根畑宿	4	1	1	1		2	1						38(1)	3						51(1)	
	箱根黒岩橋							2						1(1)							3(1)	
	天城柏峠		1											4	1						6	
	神津島恩馳島	2	1			1		1		1	3	1	1	19(2)	3	2					35(2)	
	産地不明													17	2							19
	黒曜石計	13	5	3	1	1	2	8	1	1	4	3(1)	2	101(9)	8	6						158(10)
ガラス質黒色安山岩	12	3					3	1		4			71(1)	6	1						101(1)	
ホルンフェルス	6	2	1								2		128		8						147	
チャート	1		1																		2	
珪質頁岩	4						1														5	
頁岩	1																				1	
珪質シルト岩	3												2	1							6	
玉髄							1														1	
赤玉石(碧玉)													7								7	
軟質細粒凝灰岩		1																			1	
流紋岩	1												5(1)	1(1)							7(2)	
細粒デイサイト	1												1								2	
細粒安山岩													2					1			3	
輝石安山岩													4			1	7				12	
多孔質安山岩																				1	1	
玄武岩																		2		1	3	
多孔質玄武岩																	3	1			4	
粗粒玄武岩																	1				1	
中粒砂岩																	1				1	
計		42	11	5	1	1	2	13	1	1	8	5(1)	2	321(11)	14	17(1)	1	15	1	2	463(13)	

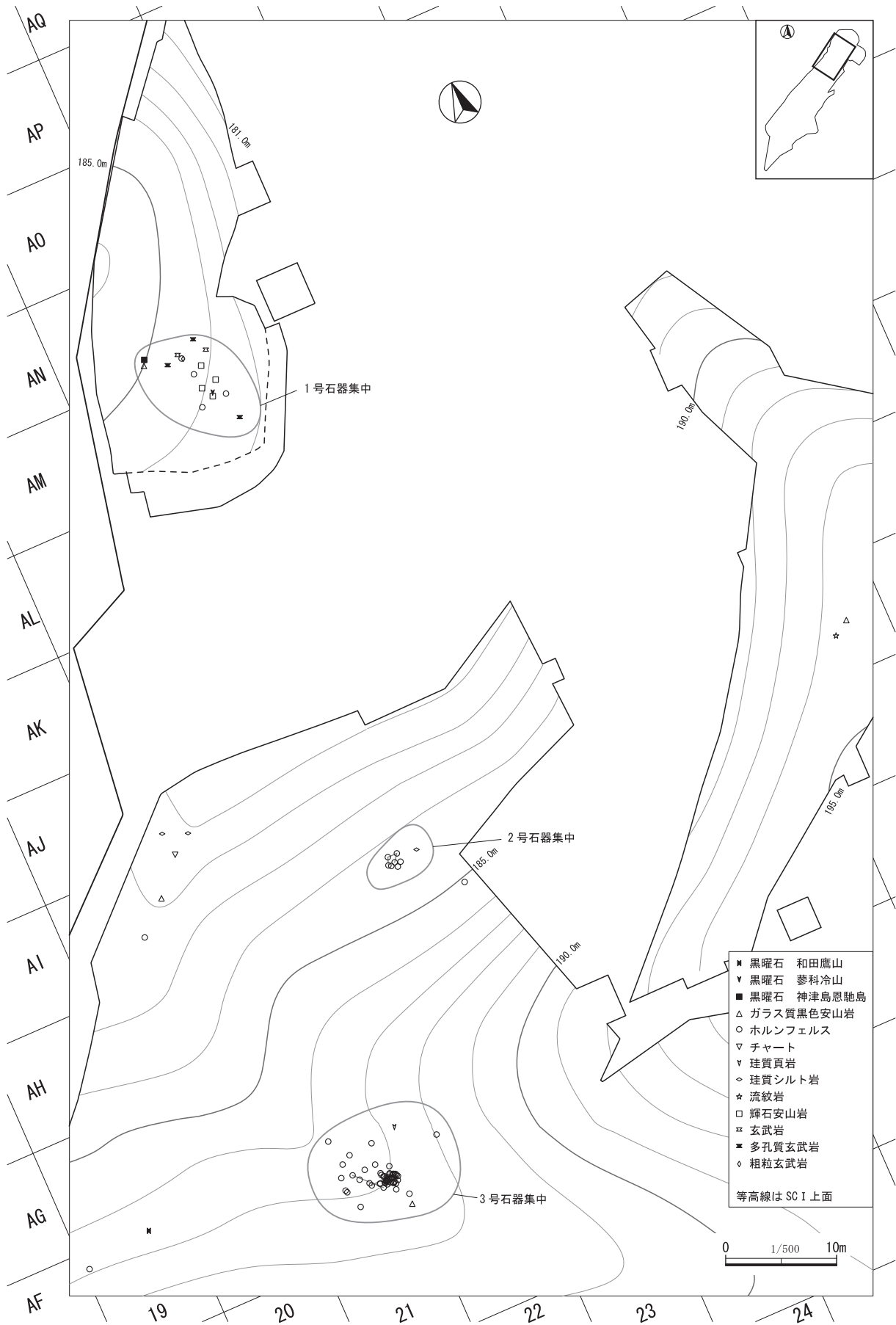
括弧内は全体数の内、微細剥離痕のあるものの点数。



第367図 第Ⅷ文化層遺物分布



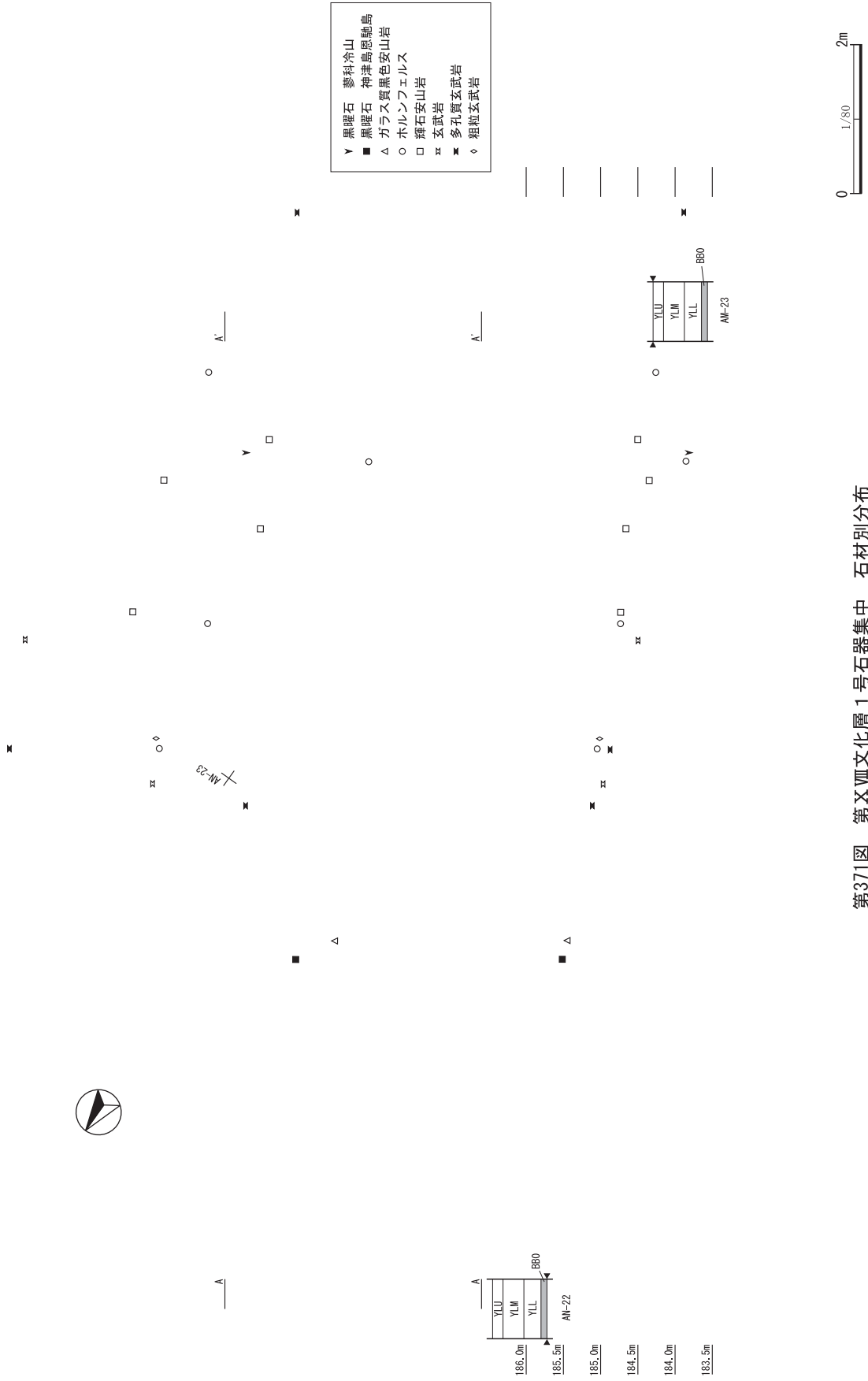
第368図 第XVIII文化層北尾根・東尾根・東支谷 器種別分布



第369図 第XⅦ文化層北尾根・東尾根・東支谷 石材別分布



第370圖 第XVIII文化層1号石器集中 器種別分布



第371図 第ⅧⅧ文化層1号石器集中 石器材別分布



尖頭器主体の石器群から成る文化層であり、石器はホルンフェルス製、ガラス質黒色安山岩製のものが多く、その他に各種産地の黒曜石、珪質頁岩、チャートなど様々な石材が利用されている。石器集中は第XⅧ文化層に比べて分布密度が高くまとまりがはっきりしている。礫群は北尾根に大規模なものが分布しており、6・8号礫群のように構成礫数が100点を超えるものもある。

### 1. 北尾根の遺物群

#### (1) 遺物の分布 (第368・369図)

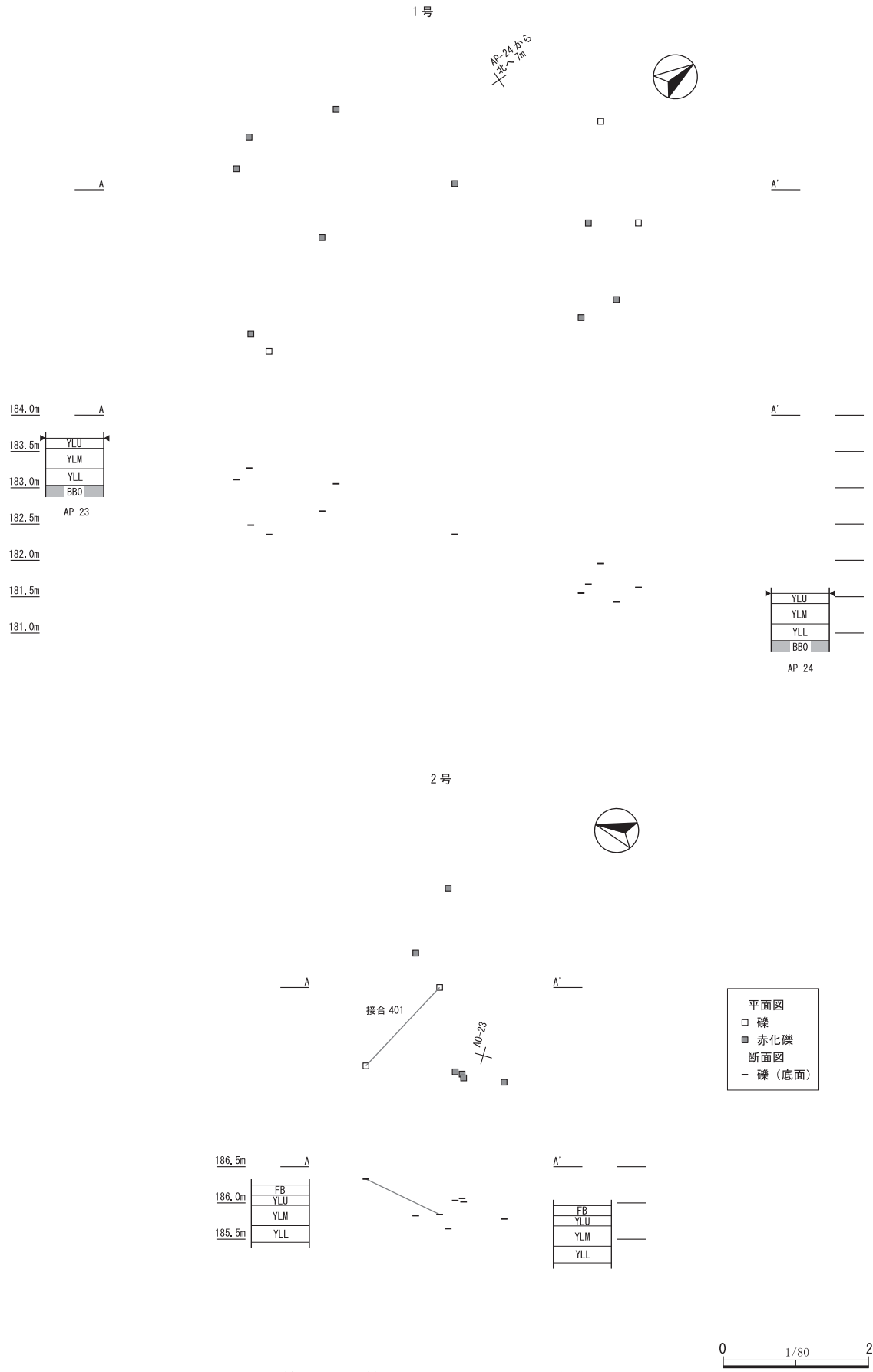
石器17点、礫360点が出土した(表146・147)。北側のAP-23・24グリッド付近に1号礫群など、南側のAM・AN-22・23グリッドに1号石器集中、2～8号礫群などが分布する。特に南側の6・8号礫群は礫が密集し、ほぼ連続して分布している。

#### 1号石器集中 (第370・371図、表146)

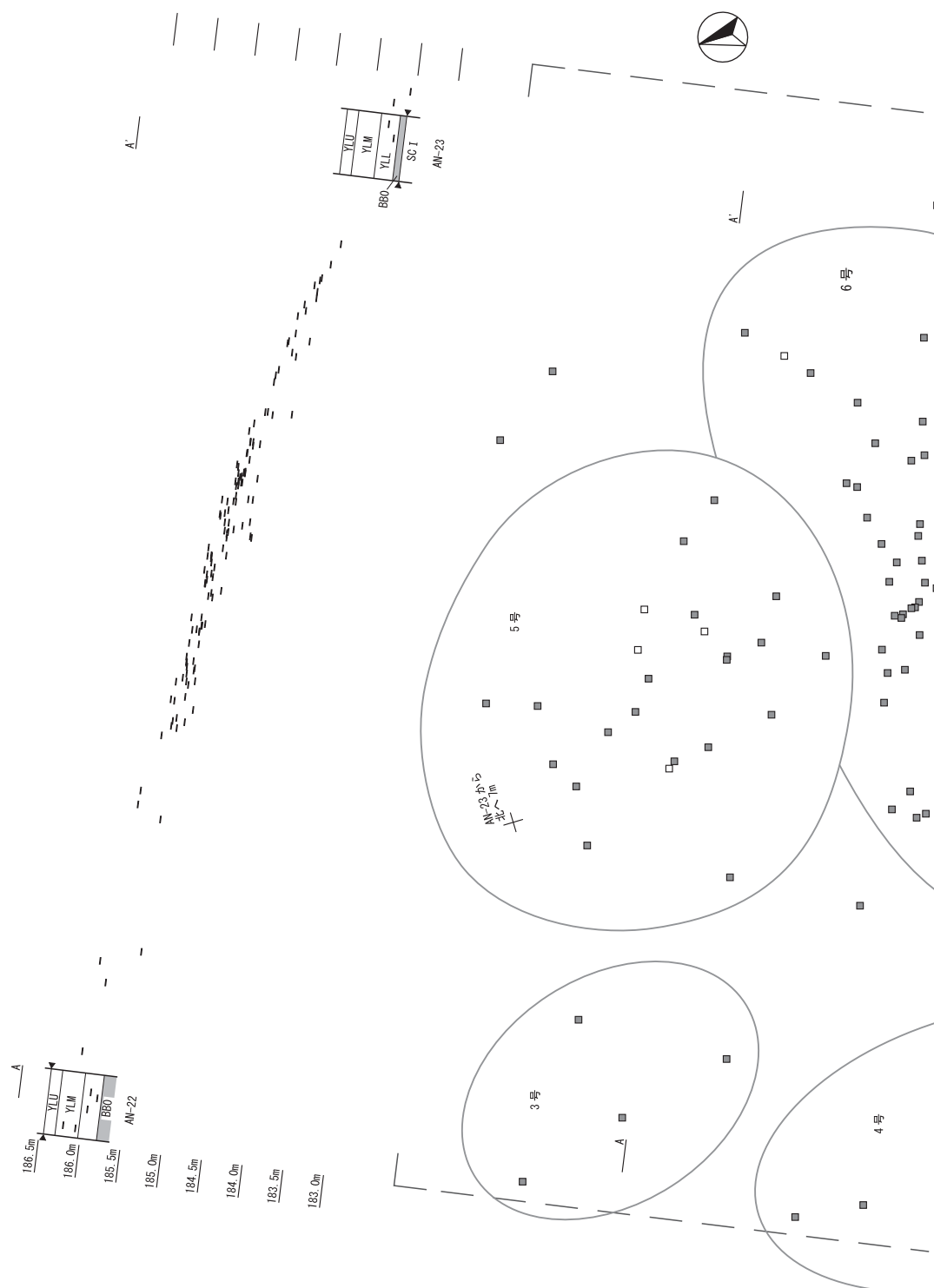
AM-23、AN-22・23グリッドにかけて出土した石器17点から成る。出土層位は休場層中位から上位である。南北10mの範囲にわたって分布し、6・8号礫群と重複する。石器はホルンフェルス製、輝石安山岩製各4点、多孔質玄武岩製3点、玄武岩製2点、蓼科冷山産・神津島恩馳島産黒曜石、ガラス質黒色安山岩製、粗粒玄武岩製各1点で、尖頭器2点、削器1点の他、礫器1点、敲石6点、磨石1点と礫石器の割合が高くなっている。

表146 第XⅧ文化層1号石器集中 石器組成

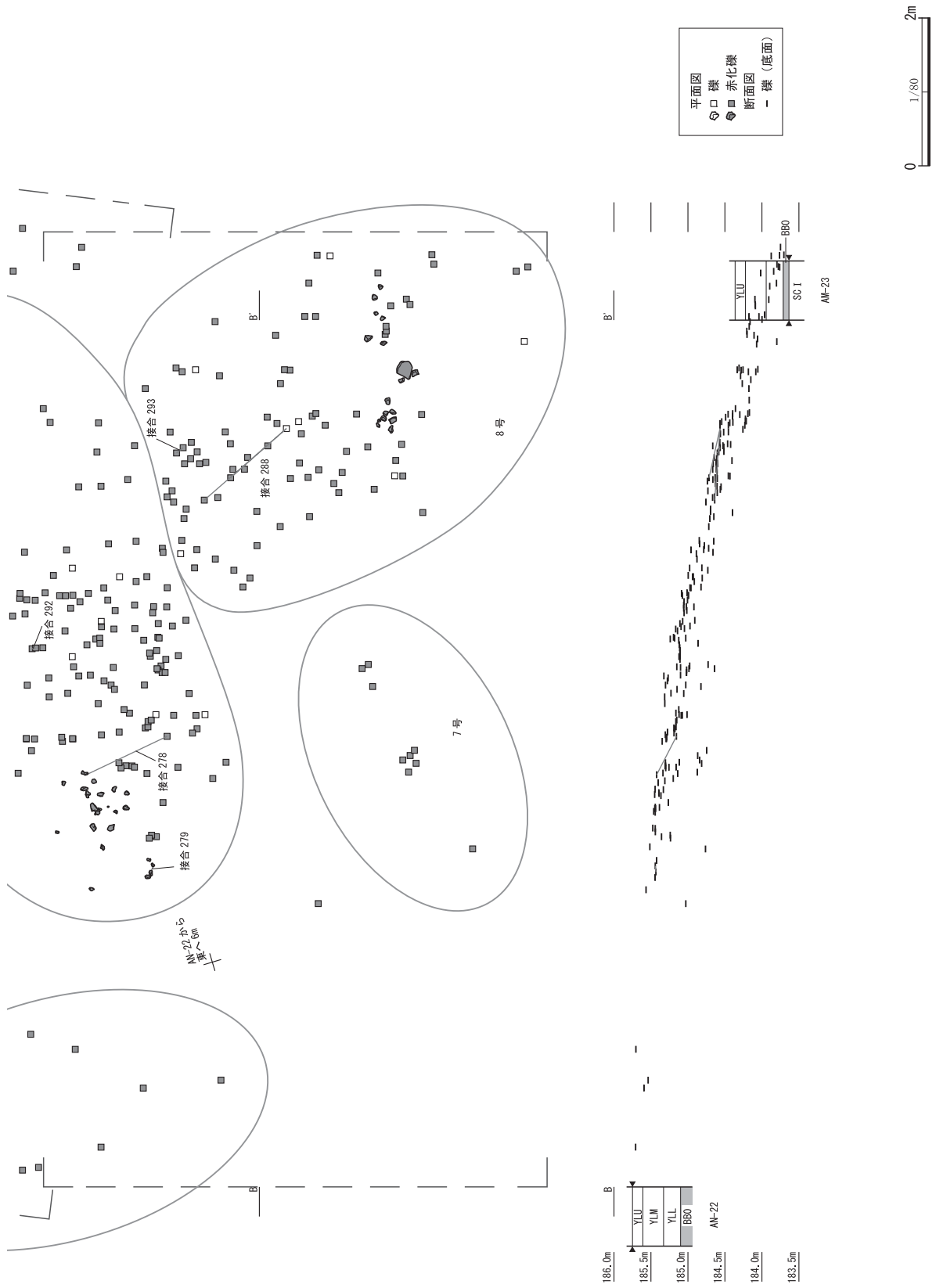
		尖頭器	削器	剥片	石核	礫器	敲石	磨石	計
黒曜石	蓼科冷山		1						1
	神津島恩馳島	1							1
	黒曜石計	1	1						2
ガラス質黒色安山岩		1							1
ホルンフェルス				1	3				4
輝石安山岩				2		1	1		4
玄武岩							2		2
多孔質玄武岩							2	1	3
粗粒玄武岩							1		1
計		2	1	3	3	1	6	1	17



第372図 第XVIII文化層1・2号磔群



第373図 第XⅧ文化層3～8号礫群



1号礫群 (第372図、表147)

AP-24グリッド西側を中心に出土した礫12点から成り、9点に被熱の痕跡が認められた。出土層位は調査時の記録によると休場層上位である。礫は5.5m×3.5mの範囲に散在し、大きさは最大が長径22.4cm・重量3.4kgで、平均で長径11.7cm・重量0.69kgである。

2号礫群 (第372図、表147)

AO-22グリッド南東部を中心に出土した礫8点から成り、6点に被熱の痕跡が認められた。出土層位は調査時の記録によると主に休場層中位で1点が富士黒土層出土である。礫は径2.5mの範囲に分布し、平均で長径6.7cm・重量0.068kgの大きさで軽量のものが多い。

3号礫群 (第373図、表147)

AN-22グリッド北側で出土した被熱礫4点から成る。出土層位は休場層中位から上位である。礫は南北3mの範囲に散在し、平均で長径8.7cm・重量0.24kgの大きさである。

4号礫群 (第373図、表147)

AN-22グリッドで出土した被熱礫9点から成る。出土層位は調査時の記録によると休場層上位である。礫は南北5mの範囲に散在し、平均で長径8.2cm・重量0.38kgの大きさであり、長径17.6cm・重量2.5kgの大型礫が1点ある。

5号礫群 (第373図、表147)

AN-23グリッド西側を中心に出土した礫24点から成り、20点に被熱の痕跡が認められた。出土層位は調査時の記録によると休場層中位から上位である。礫は径5mの範囲に分布し、平均で長径7.0cm・重量0.16kgの大きさである。

6号礫群 (第373図、表147)

AM・AN-22・23にかけて出土した礫179点から成り、171点に被熱の痕跡が認められた。出土層位は調査時の記録によると休場層中位から上位である。礫は8m×3.5mの範囲に分布し、特に西側に密集する。一方、礫分布が比較的疎らな北東側、AN-23グリッド内に6号礫群で最大級の大型礫4点(それぞれ長径32.8cm・重量9.8kg、長径24.3cm・重量4.4kg、長径23.0cm・重量4.5kg、長径14.4cm・重量2.3kg)が分布する。全体では長径10cm以下の礫の割合が高く、平均で長径7.9cm・重量0.29kgである。

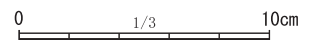
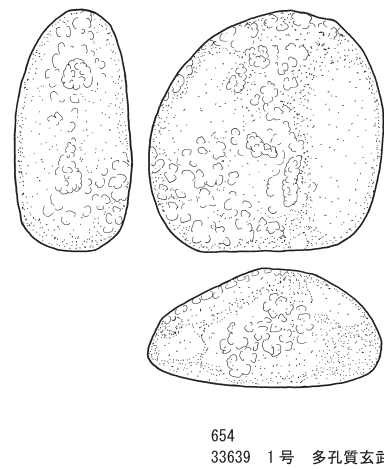
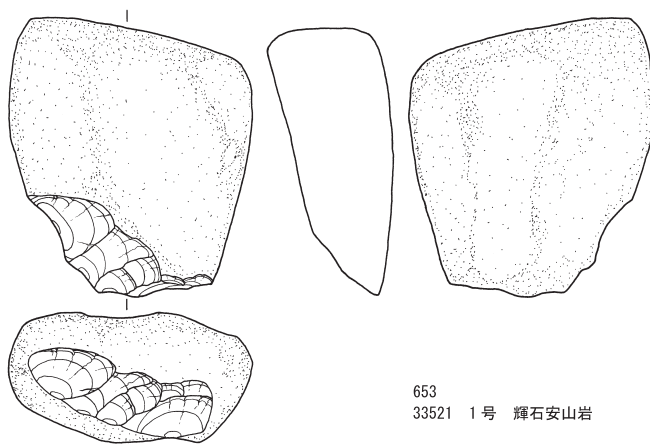
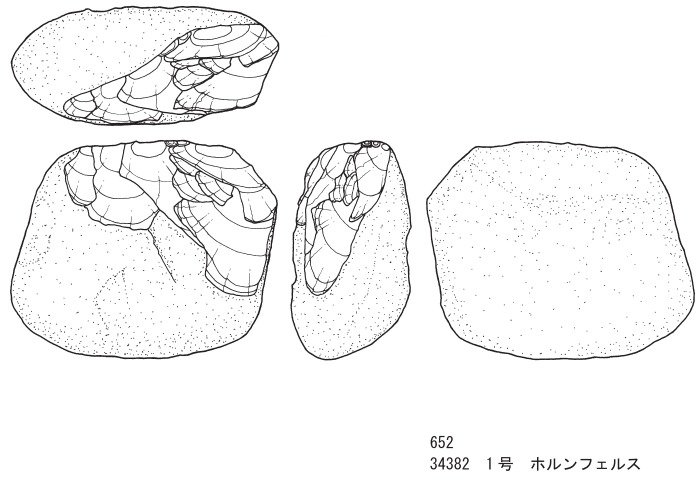
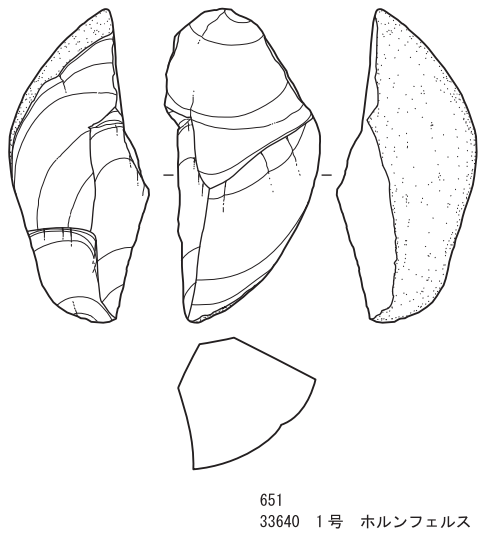
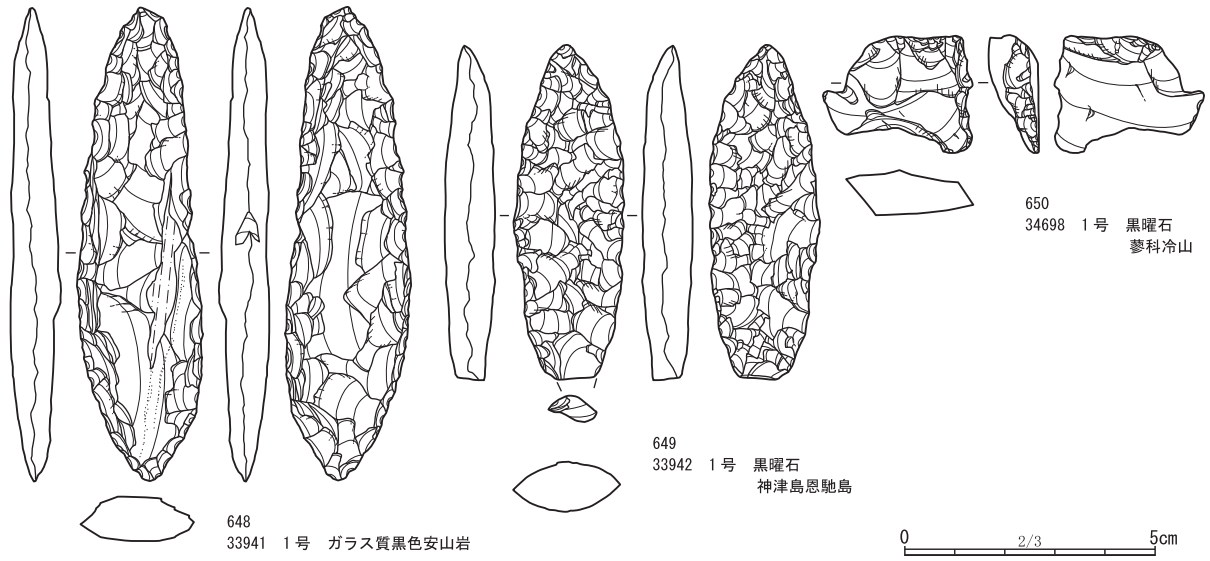
7号礫群 (第373図、表147)

AM-22グリッドで出土した被熱礫9点から成る。出土層位は調査時の記録によると主に休場層上位で、休場層下位・中位からも1点ずつ出土している。礫は東西3mの範囲で、3箇所に分かれて分布し、平均で長径8.6cm・重量0.23kgの大きさである。

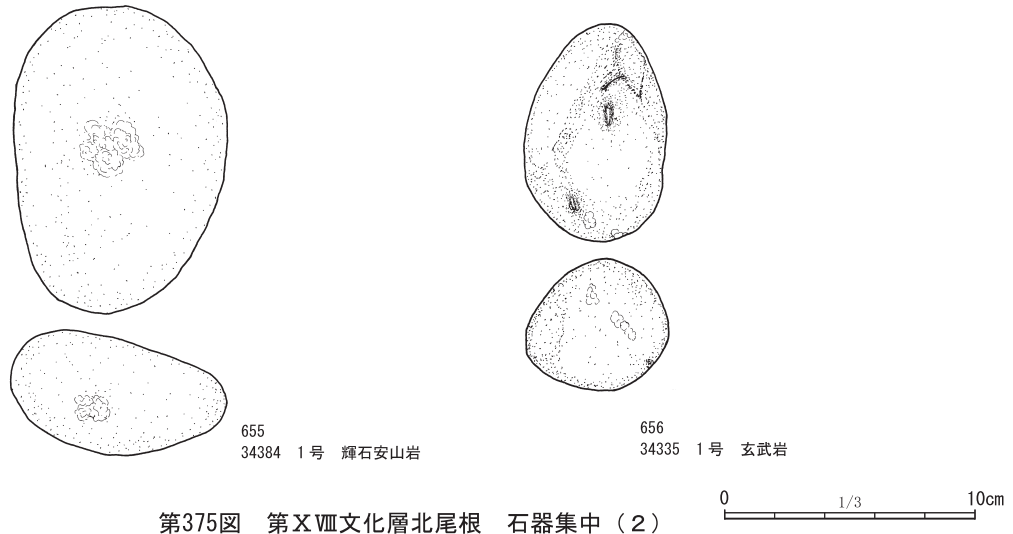
表147 第XVIII文化層北尾根 礫群属性

礫群番号	構成礫数	赤化					形態			石材												
		完形		非完形			垂角	垂円	円	安山岩	輝石	安山岩	多孔質	玄武岩	玄武岩	多孔質	レイ岩	細粒斑	凝灰岩	火山礫	砂岩	中粒
		非赤化	赤化	非赤化	赤化1	赤化2																
1号	12	2	3	1	2	4	9	3		6	3	1	2									
2号	8		2	2	2	2	5	1	2	2			4								2	
3号	4		3		1		3	1				2	1	1								
4号	9		4		5		8	1		3	2		4									
5号	24	2	14	2	5	1	11	10	3	4	3	4	13									
6号	179	6	94	2	47	30	102	67	10	36	22	45	74	1	1							
7号	9		6		2	1	3	6			5	1	3									
8号	105	5	58	2	22	18	61	35	9	33	7	26	38					1				
遺構外	10		6		3	1	6	4		2	3	1	4									

赤化1: 全面が赤化 赤化2: 礫の外皮のみ赤化



第374図 第ⅩⅧ文化層北尾根 石器集中(1)



第375図 第XⅧ文化層北尾根 石器集中(2)

### 8号礫群(第373図、表147)

AM-23グリッド西側で出土した礫105点から成り、98点に被熱の痕跡が認められた。出土層位は調査時の記録によると休場層下位から上位に及ぶが、休場層中位が主体である。分布は6号礫群とほぼ連続して、6×4mの範囲にまとまる。礫は長径22.7cm・重量4.7kgのものが最大で、平均で長径8.6cm・重量0.30kgである。

#### (2) 1号石器集中の出土石器(第374・375図)

##### 尖頭器(648・649)

2点出土した。648はガラス質黒色安山岩製、両面加工で基部側に最大幅がくる長狭な形態である。側縁部の調整剥離はしばしば階段状剥離となっている。649は神津島恩馳島産黒曜石製、両面加工である。調整加工に、器体中央まで至る細長い剥離が連続して加えられているという特徴があることから、縄文時代草創期に位置づけられる可能性がある。

##### 削器(650)

1点出土した。蓼科冷山産黒曜石製で、右側縁に急斜度加工で鋸歯状の刃部が設けられている他、上辺も打面を除去して二次加工が行われている。

##### 剥片類・石核(651・652)

剥片3点、石核3点が出土した。石核2点を図示した。651はホルンフェルスの分割礫を素材とする。正面の下半と左側面の上部は分割面と見られ、少数の剥片が剥離されたのみとなっている。652はホルンフェルスの扁平な亜円礫を素材とし、剥離角の大きい剥片が剥離されている。

剥片は輝石安山岩製2点、ホルンフェルス製1点で、尖頭器製作に関連するものは含まれない。

##### 礫器(653)

1点出土した。輝石安山岩の扁平な亜角礫を利用し、下端に粗い加工で刃部を設けている。

##### 敲石・磨石(654～656)

敲石6点、磨石1点が出土した。そのうち敲石3点を図示した。654は多孔質玄武岩の亜円礫を利用したもので、正面、下面、左側面の広い範囲に敲打痕が認められる。655は輝石安山岩の扁平な円礫を利用したもので、下端部と正面の中央部に敲打痕が認められる。656は玄武岩の円礫を利用したもので、下端部に敲打痕が認められる。

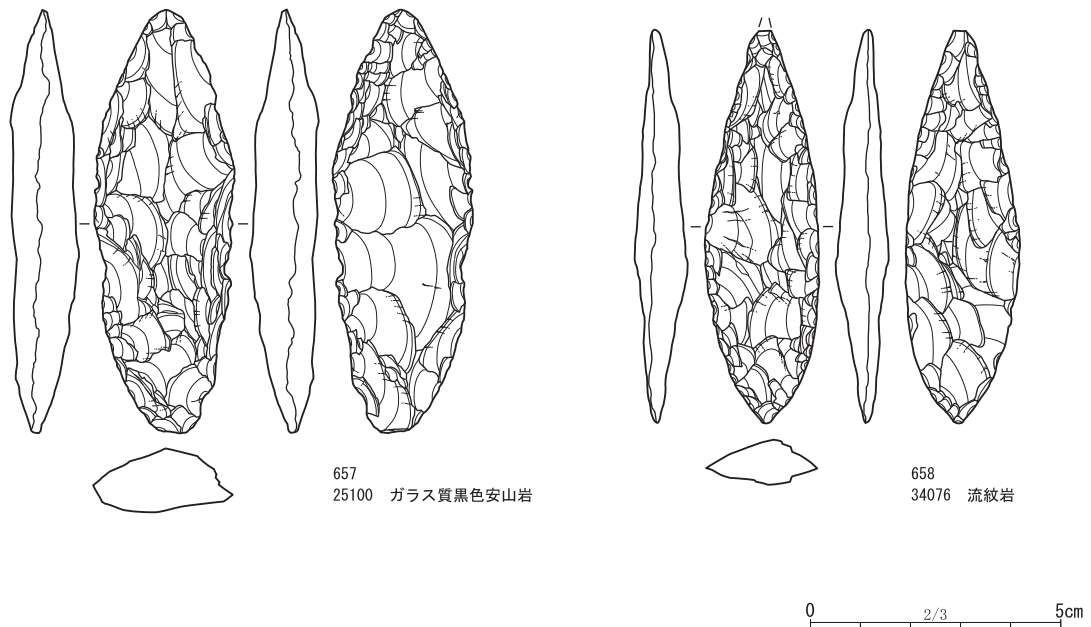
2. 東尾根の遺物群

(1) 遺物の分布 (第368・369図)

石器3点のみをこの文化層に位置づけた(表148)。東尾根では休場層下位から上位にかけて第XVII文化層の遺物が出土している。それらと重複するAI-27グリッドで尖頭器2点が出土したが、より上層の富士黒土層に包含されていたため第XVIII文化層に含めた。また、東尾根の東斜面を下ったAI-33グリッドの休場層上位より細粒安山岩製剥片1点が出土した。

(2) 出土石器 (第376図)

657はガラス質黒色安山岩製の尖頭器である。両面加工だが調整剥離はしばしば階段状剥離となるなど、やや粗い状態である。658は流紋岩製の尖頭器である。両面加工で、微小な加工を全周に施して形態が整えられている。



第376図 第XVIII文化層東尾根 石器集中外

表148 第XVIII文化層東尾根 石器組成

	尖頭器	剥片	計
ガラス質黒色安山岩	1		1
流紋岩	1		1
細粒安山岩		1	1
計	2	1	3



3. 東支谷の遺物群

(1) 遺物の分布 (第368・369図)

石器82点、礫36点が出土した (表149・152)。AH・AI-22・23グリッド付近に2号石器集中と10・11号礫群が、AF-21グリッド周辺に3号石器集中と12号礫群が分布する。石器集中はいずれも尖頭器とその製作に関わる資料が主体の石器群から成っている。

2号石器集中 (第377・378図、表150)

AI-22・23グリッドにかけて出土した石器8点から成り、9号礫群が重複して分布する。出土層位は主に休場層上位で、2点が休場層中位出土である。尖頭器未製品1点を含むホルンフェルス製の7点は径1.5mの範囲にまとまる。9号礫群の礫はその東側で特に密集し、この礫密集範囲で珪質シルト岩製の石核が出土している。

3号石器集中 (第379・380図、表151)

AF-21グリッド周辺で出土した石器63点から成る。出土層位は調査時の記録によると休場層中位が主体であるが、遺物の垂直分布と旧地形測定の結果とを対比すると、主に休場層上位に包含されていた可能性が高い。分布は径9.5mの範囲に広がるが、特に中心の径2mの範囲に密集し、またこの密集部分の北東側に12号礫群が分布する。

石器は珪質頁岩製2点、ガラス質黒色安山岩製1点の他は全てホルンフェルス製である。ホルンフェルスは明らかに石質の異なる資料を含んでおり、以下の5種に石質を分類し、分布図に示した。

- ホルンフェルス1：風化面は灰色を呈する。表面は風化による劣化が進行せず硬質である。
- ホルンフェルス2：風化面は黄灰色を呈する。風化が進行し、表面が脆く層状に剥落する。
- ホルンフェルス3：風化面は黄白色を呈する。風化が進行し、表面が脆い。
- ホルンフェルス4：風化面は灰白色を呈する。表面はやや脆い。石核1点のみ。
- ホルンフェルス5：風化面が褐色～黄褐色を呈する。表面は硬質。剥片1点のみ。

ホルンフェルス1・3は尖頭器調整剥片が含まれ、ホルンフェルス2には尖頭器と調整剥片が含まれており、3号石器集中のホルンフェルス製資料には、少なくとも3個体以上の尖頭器製作に関わる資料が含まれていると考えられる。

9号礫群 (第381図、表152)

AH-22、AI-22・23グリッドにかけて出土した礫21点から成り、うち19点に被熱の痕跡が認められた。出土層位は調査時の記録によると主に休場層中位で1点が休場層下位出土である。礫は径10mの範囲に分布し、特に北東側にまとまる。礫は最大で長径33.5cm・重量8.5kg、平均で長径9.8cm・重量0.76kg。

10号礫群 (第382図、表152)

AH-21グリッド南東部付近で出土した礫4点から成り、うち3点に被熱の痕跡が認められた。出土

表149 第XⅧ文化層東支谷 石器組成

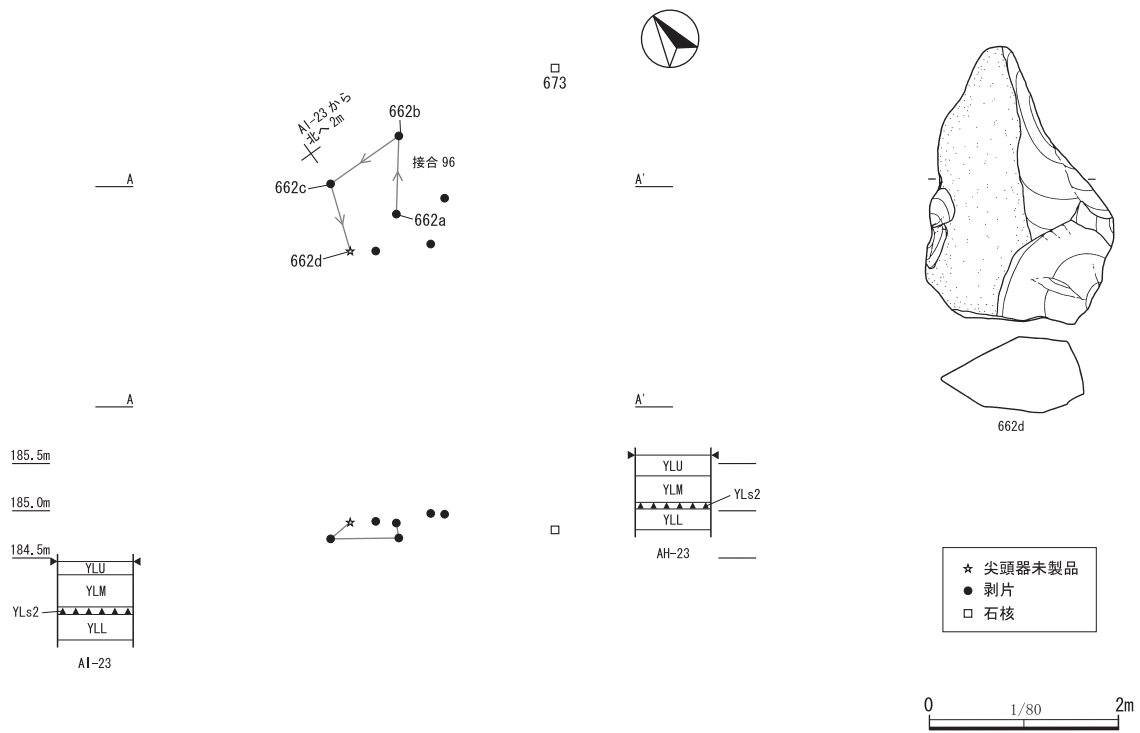
		尖頭器	尖頭器未製品	削器	剥片	石核	計
黒曜石	和田鷹山	1	1				2
ガラス質黒色安山岩		1			1		2
ホルンフェルス		4	1		65	2	72
チャート		1					1
珪質頁岩		1		1			2
珪質シルト岩		2				1	3
計		10	2	1	66	3	82

表150 第XⅧ文化層2号石器集中 石器組成

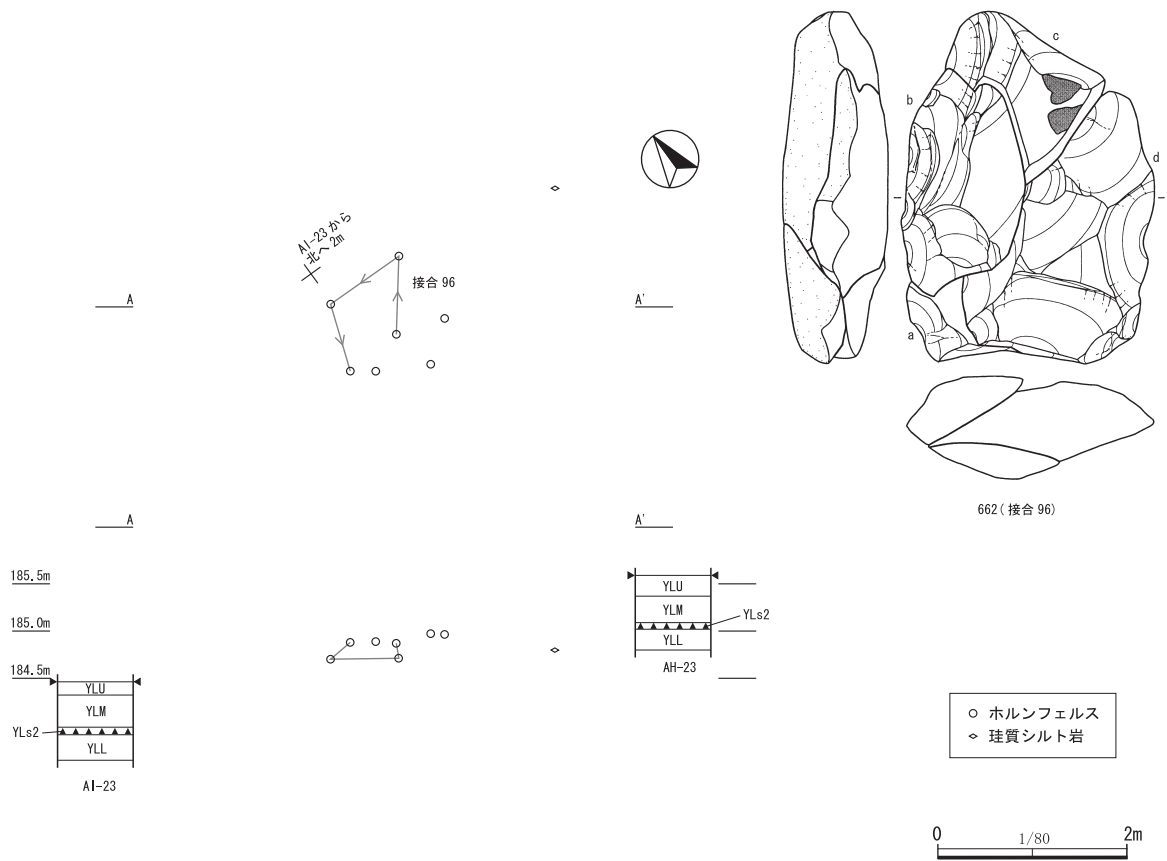
	尖頭器未製品	剥片	石核	計
ホルンフェルス	1	6		7
珪質シルト岩			1	1
計	1	6	1	8

表151 第XⅧ文化層3号石器集中 石器組成

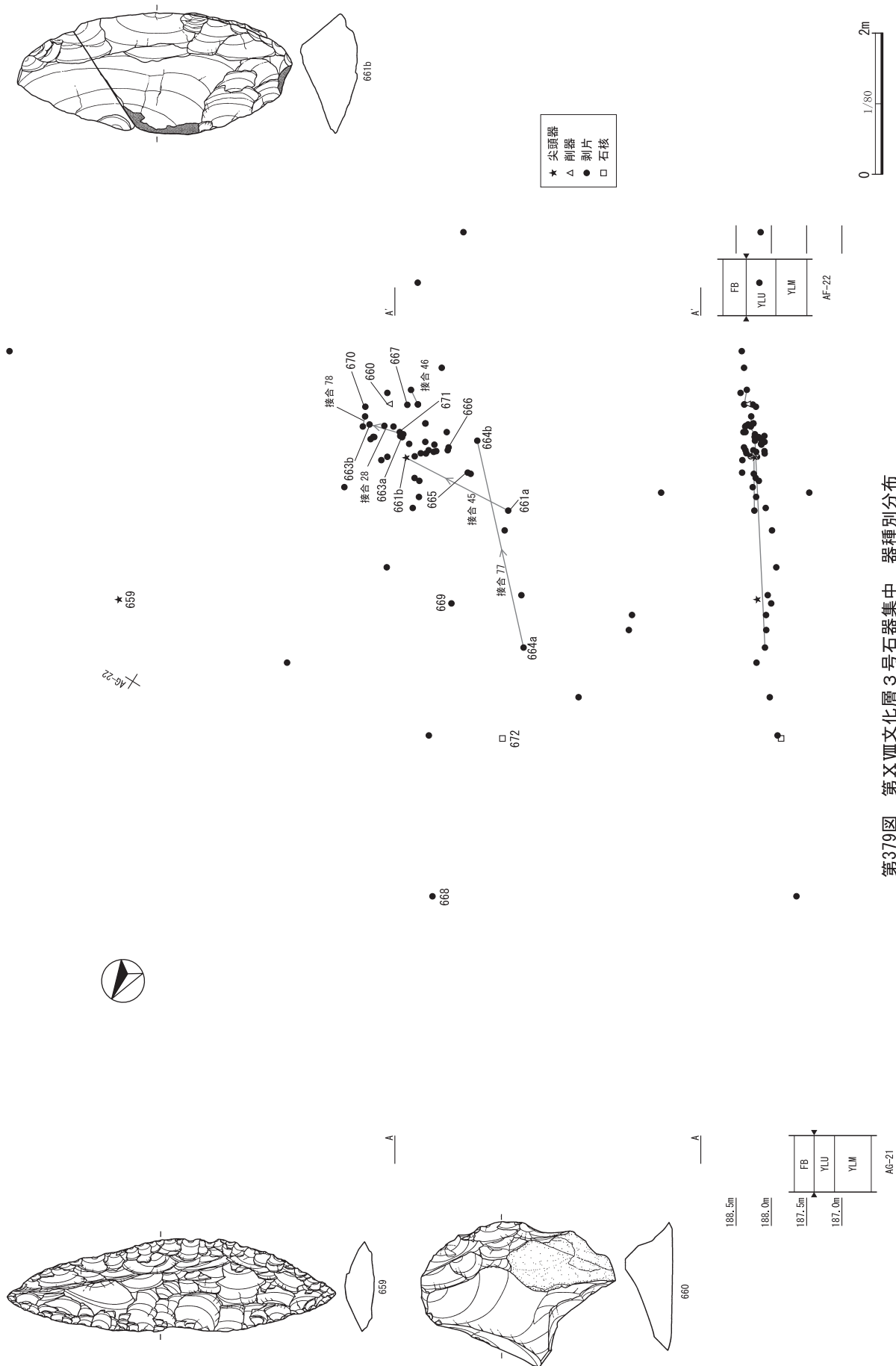
	尖頭器	削器	剥片	石核	計
ガラス質黒色安山岩			1		1
ホルンフェルス	1		58	1	60
珪質頁岩	1	1			2
計	2	1	59	1	63



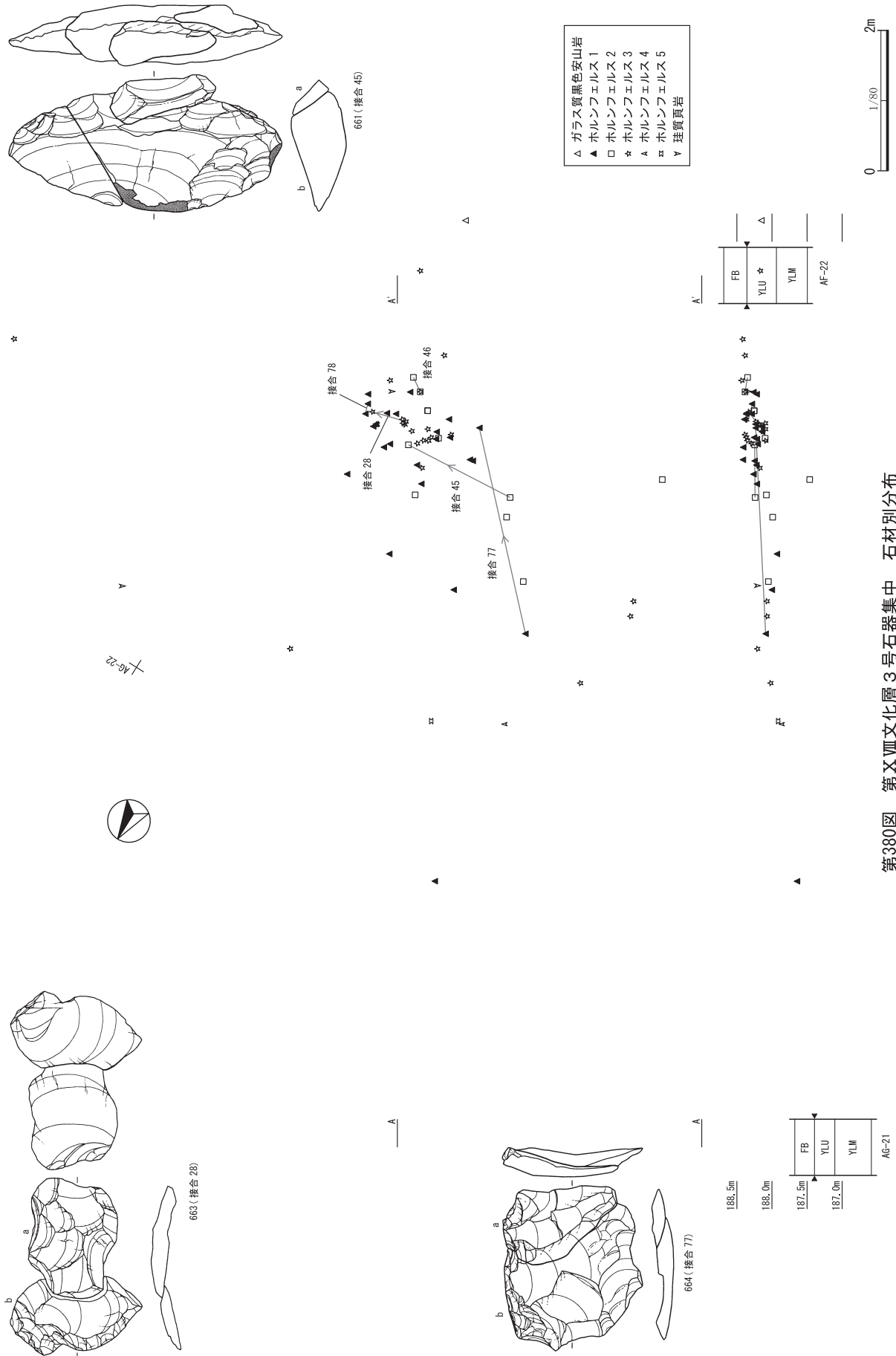
第377図 第ⅩⅧ文化層2号石器集中 器種別分布



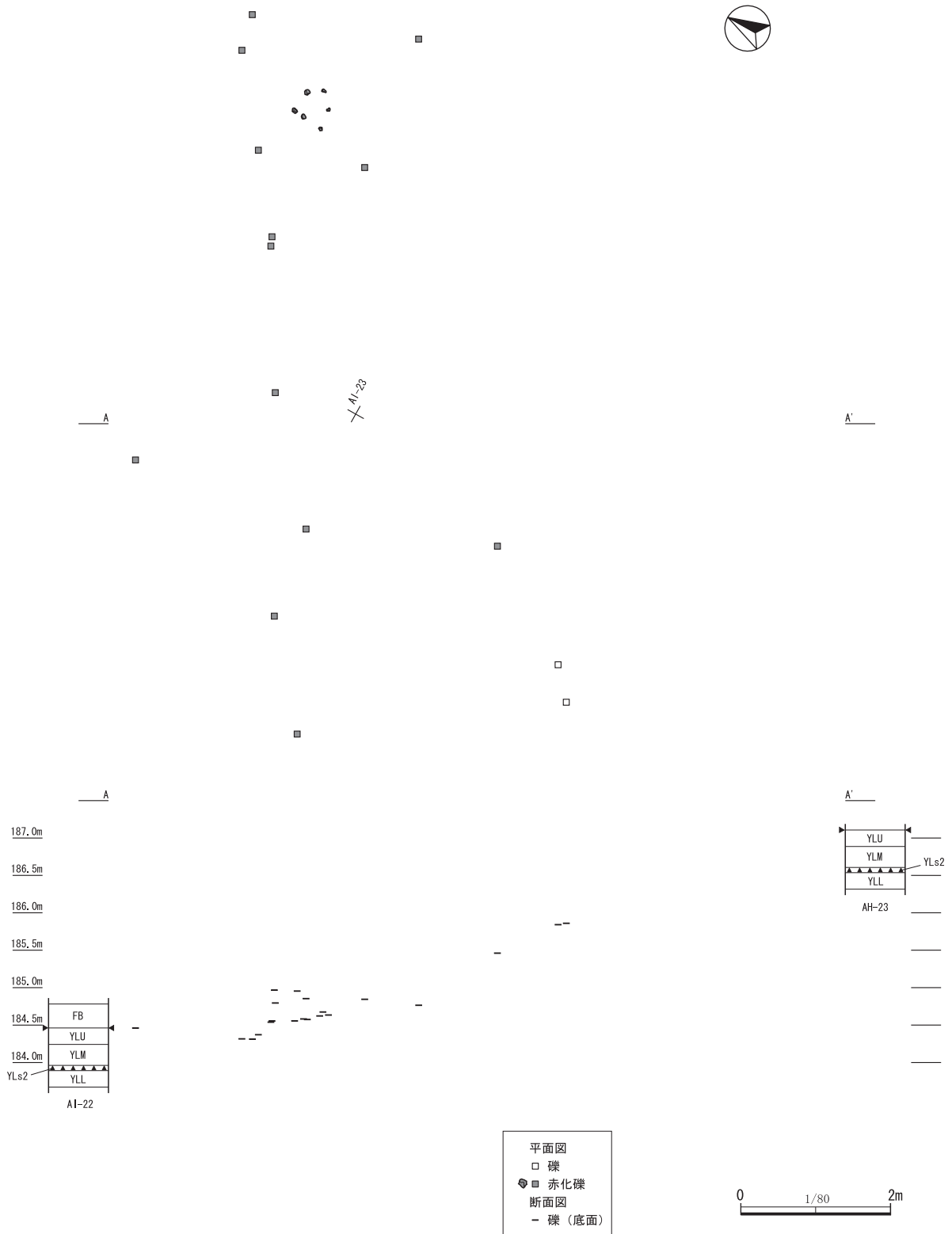
第378図 第ⅩⅧ文化層2号石器集中 石材別分布



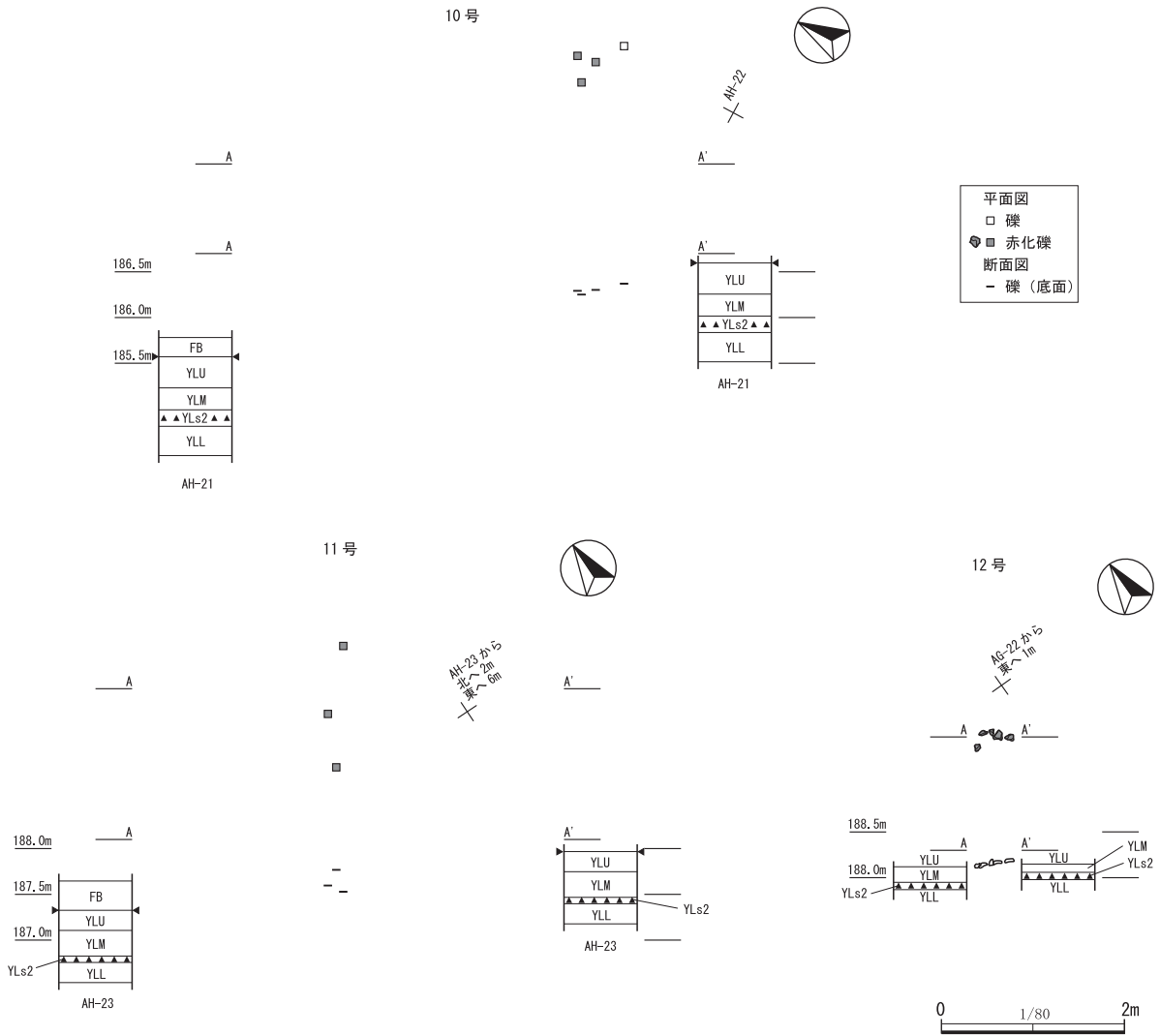
第379図 第XVIII文化層3号石器集中 器種別分布



第380図 第Ⅷ文化層3号石器集中 石材別分布



第381図 第XVIII文化層9号磔群



第382図 第ⅩⅧ文化層10～12号礫群

表152 第ⅩⅧ文化層東支谷 礫群属性

礫群 番号	構成 礫数	赤化					形態			石材					
		完形		非完形			垂角	垂円	円	安山 岩	輝石 安山 岩	多孔 質	玄武 岩	玄武 岩	多孔 質
		非赤化	赤化	非赤化	赤化1	赤化2									
9号	21	2	14		4	1	9	12		7		9	5		
10号	4		3	1			2	2		2		1	1		
11号	3		2			1		1	2	2		1			
12号	5		2		3		5				1		4		
遺構外	3		2		1		1	2				2	1		

赤化1：全面が赤化 赤化2：礫の外皮のみ赤化

層位は調査時の記録によると主に休場層中位で1点が休場層上位出土である。礫は長径22.0cm・重量4.6kgの大型礫を中心にまとめ、平均で長径15.3cm・重量1.6kgである。

11号礫群（第382図、表152）

AH-23グリッド南部で出土した被熱礫3点から成る。出土層位は休場層上位である。礫は数10cmずつ置いてほぼ直線状に並び、平均で長径8.3cm・重量0.26kgの大きさである。

### 12号礫群（第382図、表152）

AF-22グリッド北西部で出土した被熱礫5点から成る。出土層位は休場層上位である。礫は径0.4mの範囲にまとまり、平均で長径9.4cm・重量0.19kgの大きさである。

#### （2）2・3号石器集中の出土石器（第383～386図）

##### 尖頭器・尖頭器未製品（659・661・662）

3点出土した。659は珪質頁岩製の尖頭器である。暗灰色で白色の節理が入る石質であり、両面加工で右側が少し張り出す左右非対称の形態である。661（接合資料45）は尖頭器に調整剥片1点が接合したものである。ホルンフェルス製（石質はホルンフェルス2）で、平面形は木葉形であるが、厚みがあり素材面が広く残されていることから尖頭器製作の最終段階に近い未製品である可能性がある。662（接合資料96）は尖頭器未製品1点と剥片3点から成る。ホルンフェルス製で、表面は風化し、黄灰色で暗灰色・黄褐色の帯が入るものであり、3号石器集中のホルンフェルス1～5とは異なる個体であると見られる。加工は片側に集中しており、裏面は礫面が広く残されている。

##### 削器（660）

1点出土した。珪質頁岩製で、暗灰色で白色の節理が入る、659と類似した石質である。厚手剥片の右側縁表裏に二次加工があるが、加工は粗く、尖頭器製作の初期段階の未製品である可能性もある。

##### 剥片（663～671）

65点出土した。大半が尖頭器の調整加工に関連する剥片と見られる。2号石器集中では前出の662（接合資料96）のように礫面を多く残す資料が出土しているが、3号石器集中出土の剥片は、背面が多方向からの剥離痕で構成され礫面が残されていないなど、加工が進んだ段階で剥離されたものと考えられる。図示した資料はホルンフェルス製の尖頭器調整剥片である。

663～667は比較的大型の剥片で、石質は664・665・667がホルンフェルス1、663・666がホルンフェルス3である。663（接合資料28）は対向する側縁から剥離された剥片2点から成り、もとの尖頭器は幅6cm以上あったと推定される。664（接合資料77）は剥片2点から成る。加工の粗い段階で剥離されたと考えられ、打面と背面の成す角度が大きく、背面、打面には階段状剥離となっている箇所がある。665～667にも同様な特徴が見られ、打面と背面の成す角が大きく、厚手の両面体から剥離されたものと推定される。また666は単剥離打面であり、片面の加工が進んでいない段階で剥離されたものと見られる。

668～671は小型の剥片で、石質は668～670がホルンフェルス1、671がホルンフェルス3である。より加工の進んだ両面体から剥離されたものと考えられ、全体的に薄く、打面も狭くなっている。

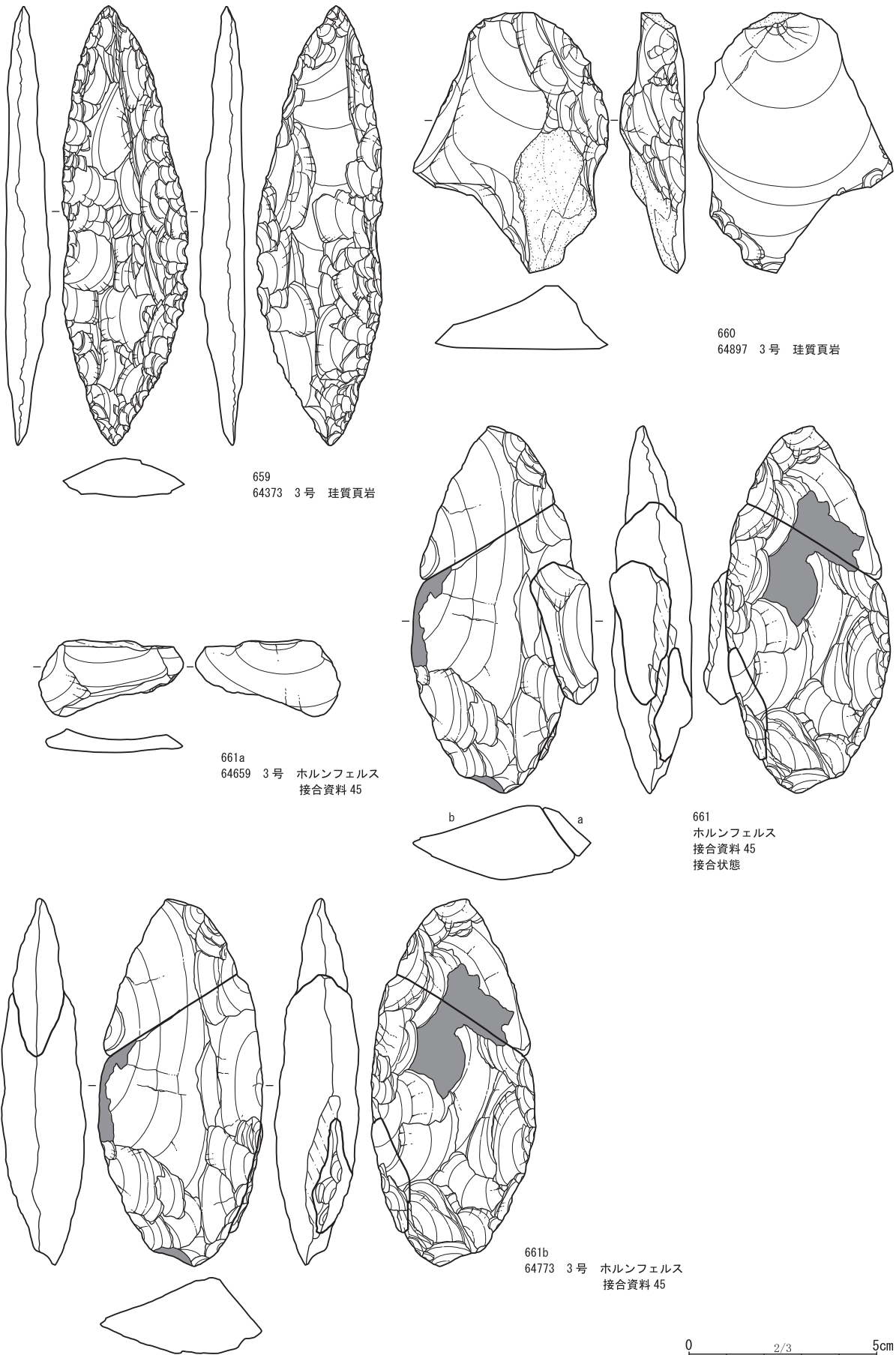
##### 石核（672・673）

2点出土した。672はホルンフェルスの円礫の一端から幅広の剥片を剥離している。673は珪質シルト岩の円礫を素材とし、上面に打面を設けてやや縦長の剥片が剥離されている。2点とも尖頭器製作との関連性は薄いものと見られる。

#### （3）石器集中外の出土石器（第387図）

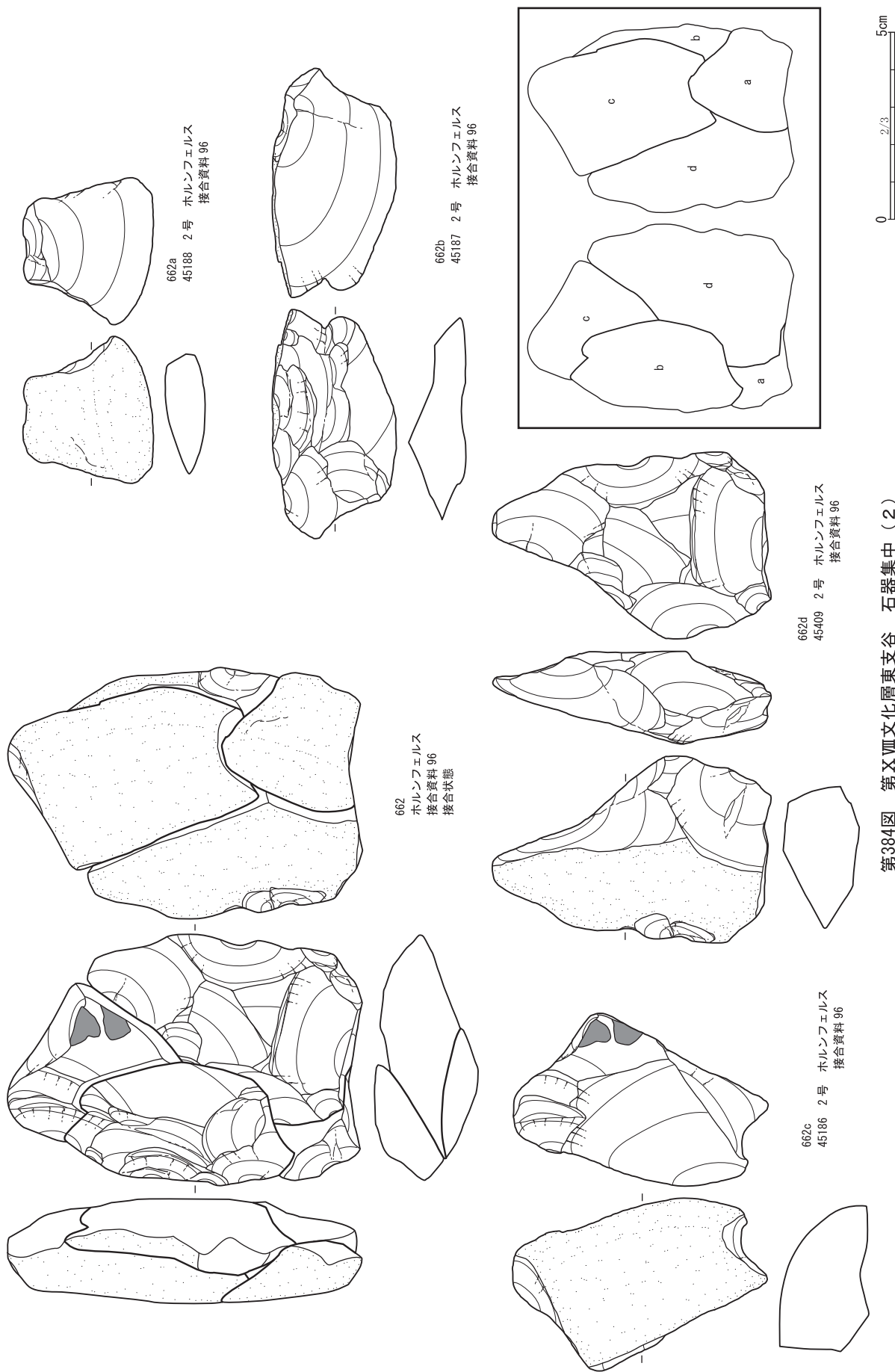
##### 尖頭器・尖頭器未製品（674～682）

9点出土した。674は珪質シルト岩製の大型両面加工尖頭器の破片で、完形では長さ10cm以上であった可能性がある。AJ-21グリッド出土。675～680は長さ5cm前後の両面加工尖頭器である。675～677はホルンフェルス製で、675はAI-20、676はAF-19、677はAE-17グリッド出土である。675は正面の調整加工が階段状剥離となり、中央部に厚みが残る形態となっている。678は和田鷹山産黒曜石製で、先端

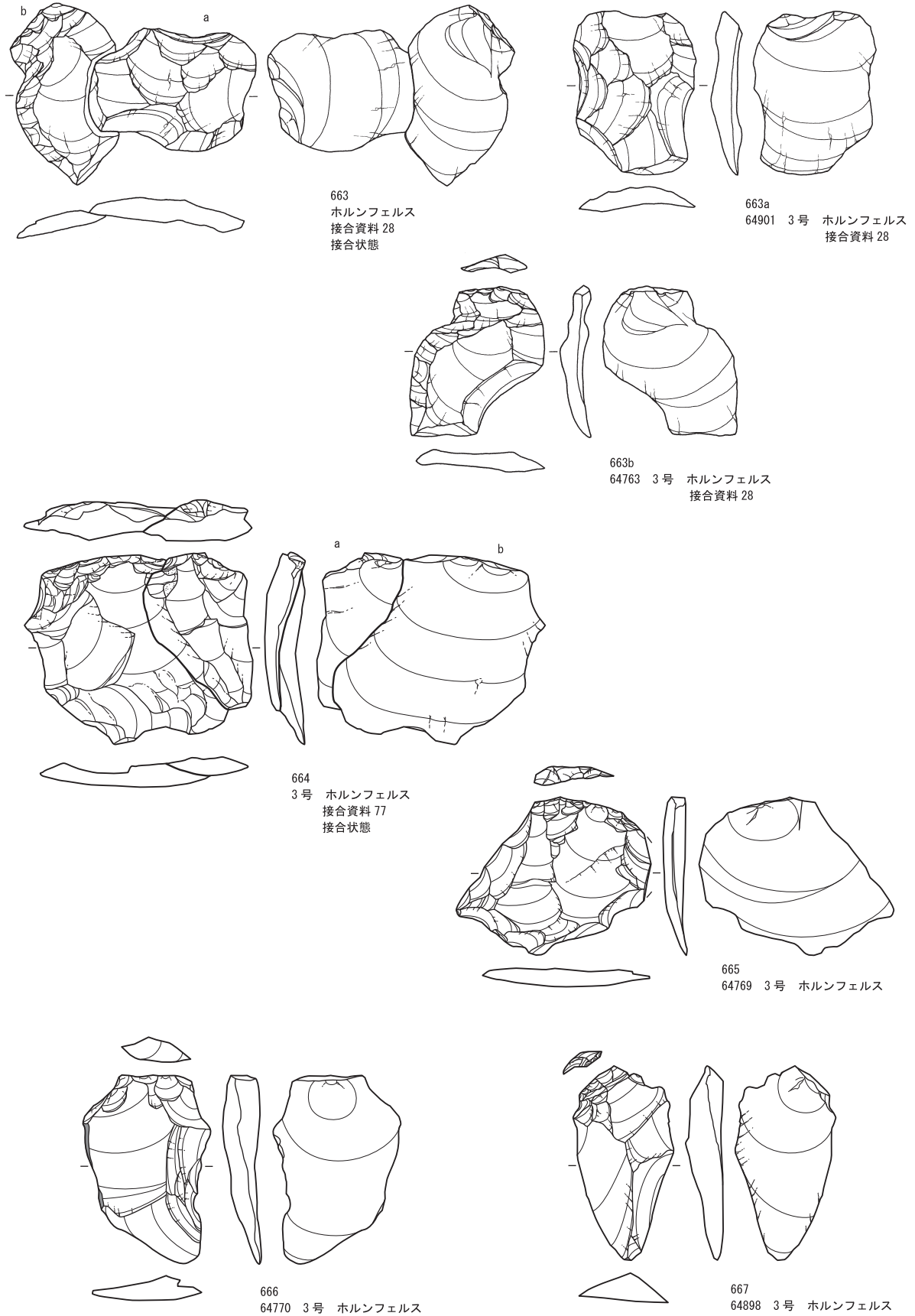


第383図 第ⅩⅧ文化層東支谷 石器集中(1)



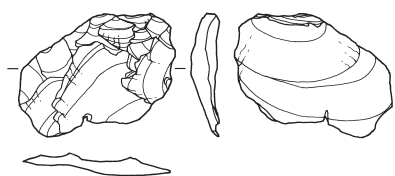


第384図 第XVIII文化層東支谷 石器集中 (2)

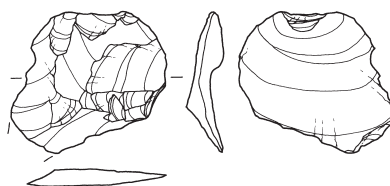


第385図 第XVIII文化層東支谷 石器集中(3)

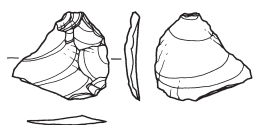
0 2/3 5cm



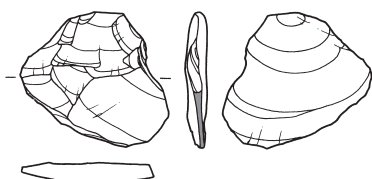
668  
64663 3号 ホルンフェルス



669  
64665 3号 ホルンフェルス



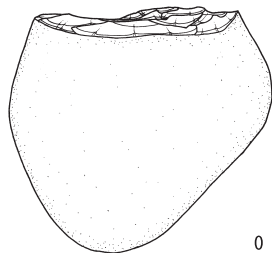
670  
64908 3号 ホルンフェルス



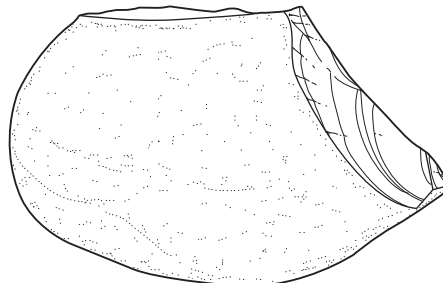
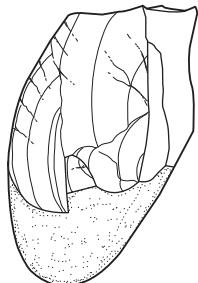
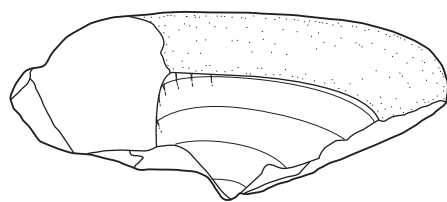
671  
64766 3号 ホルンフェルス



672  
64661 3号 ホルンフェルス



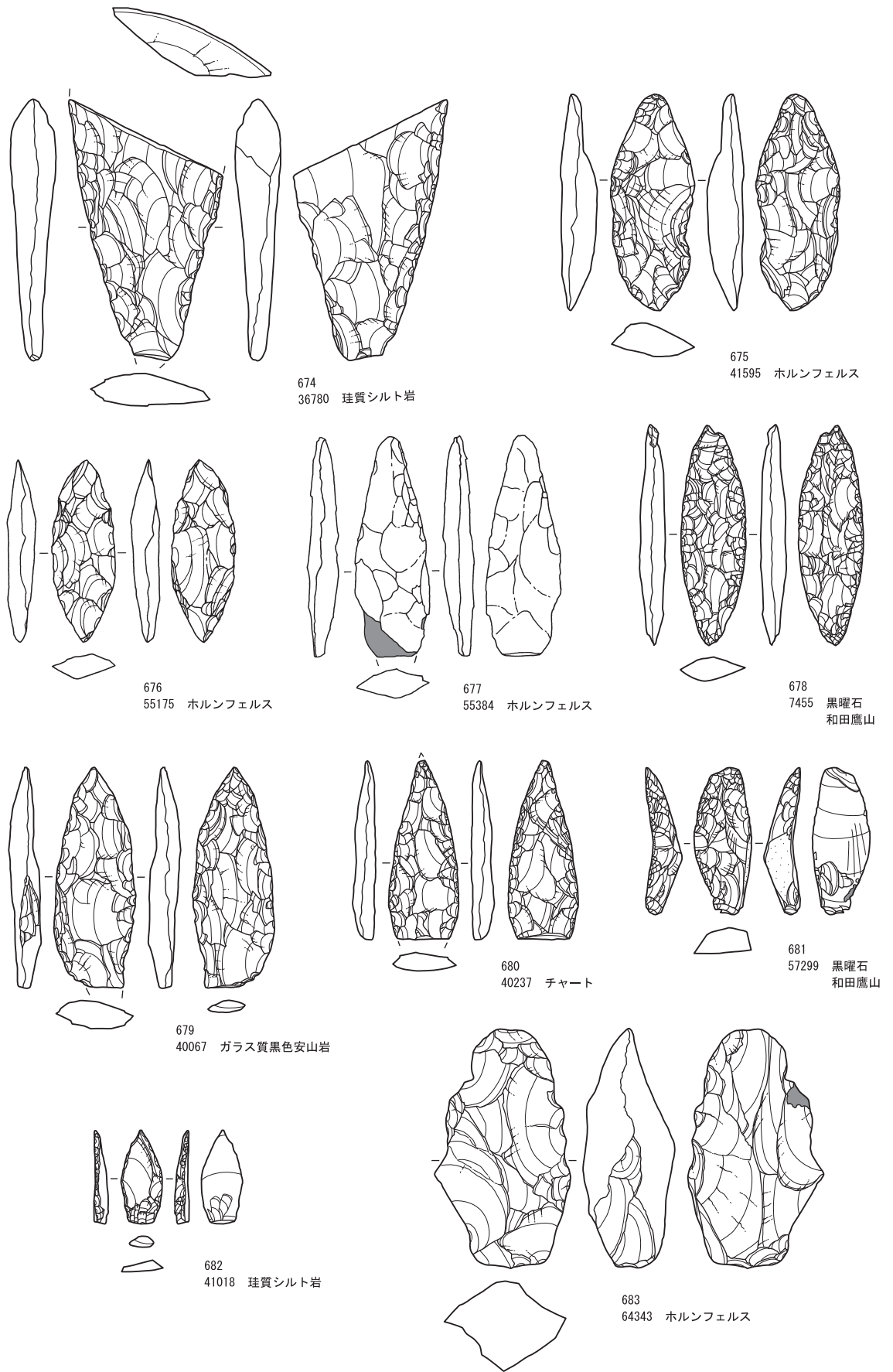
0 1/3 10cm



673  
45224 2号 珪質シルト岩

0 2/3 5cm

第386図 第XVIII文化層東支谷 石器集中(4)



第387図 第ⅤⅧ文化層東支谷 石器集中外

部は槌状剥離（衝撃剥離の可能性はある）が数条入って破損している。AF-19グリッド出土。679はガラス質黒色安山岩製で、左側縁の一部が階段状剥離で分厚くなっている。AI-20グリッド出土。680はチャート製で、薄手に仕上げられており、基部を欠損している。AI-21グリッド出土。681は和田鷹山産黒曜石製、片面加工であるが、加工が全周に及ばず礫面が残っていることから未製品であると考えられる。AC-25グリッド出土。682は珪質シルト岩製の周縁加工尖頭器である。基部に打面を残し、背面側のみを加工している。AJ-21グリッド出土。

剥片類・石核（683）

剥片がAH-23グリッドで1点、石核がAD-21グリッドで1点出土した。683はホルンフェルス製の両面体石核で、厚手であるが尖頭器未製品の可能性もある。

4. 中央尾根の遺物群

(1) 遺物の分布（第388・389図）

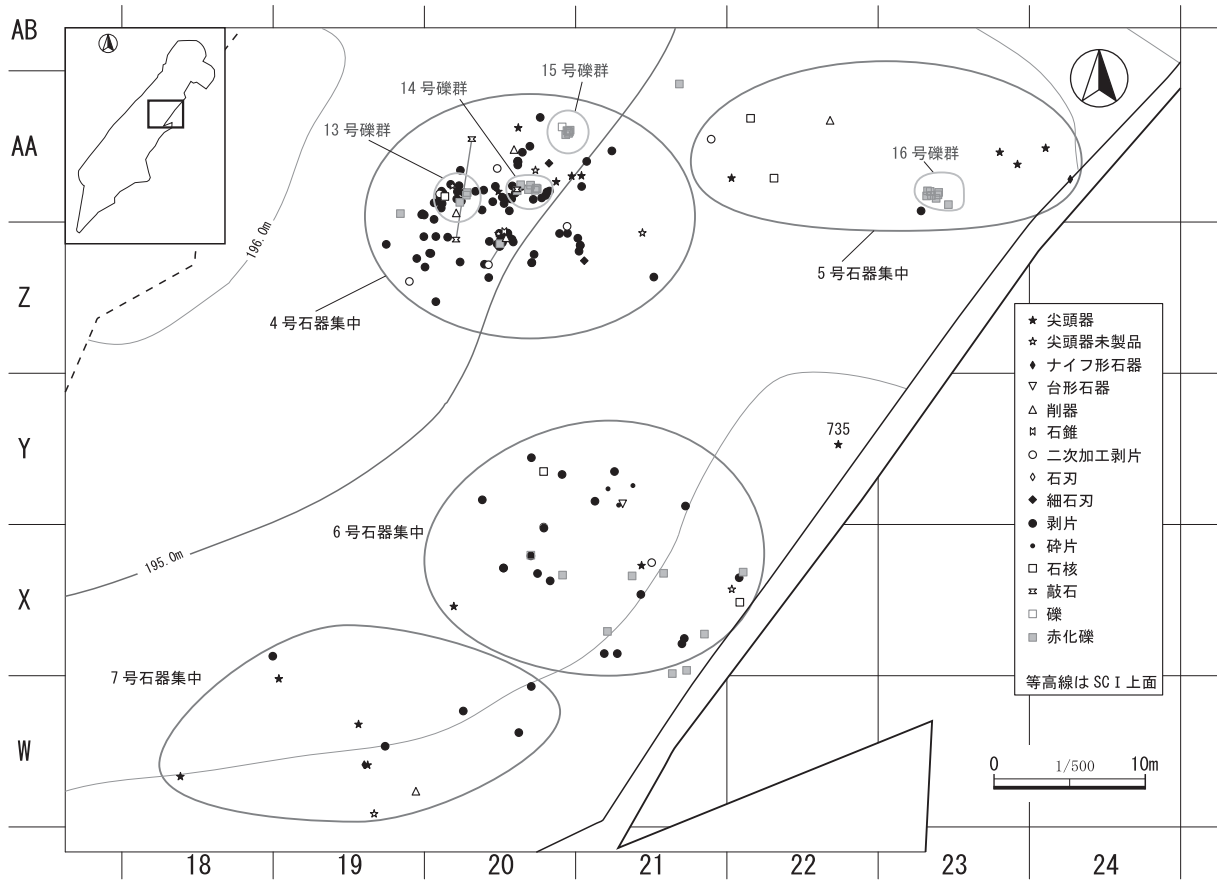
石器185点、礫37点が出土した（表153・158）。遺物の大半はW～AA-19～23グリッド周辺の4～7号石器集中、13～16号礫群にまとまって分布する。

本章第1節で述べたとおり、この地区では第XⅧ文化層の遺物群が同範囲に重複して出土しており、一部の資料が混在している可能性がある。また、細石刃を含む神津島恩馳島産黒曜石製石器も同範囲から出土しており、第XⅨ文化層の石器群との関係も検討を要するところであった。この点については、神津島恩馳島産黒曜石製石器が休場層中位を中心に出土しており、その他の石器群と上下に分離することは困難な状態であったため、上層に位置づけられる富士黒土層出土の細石刃のみを第XⅨ文化層に含め、それ以外は第XⅧ文化層に含めることとした。結果として休場層中位出土の細石刃1点が第XⅧ文

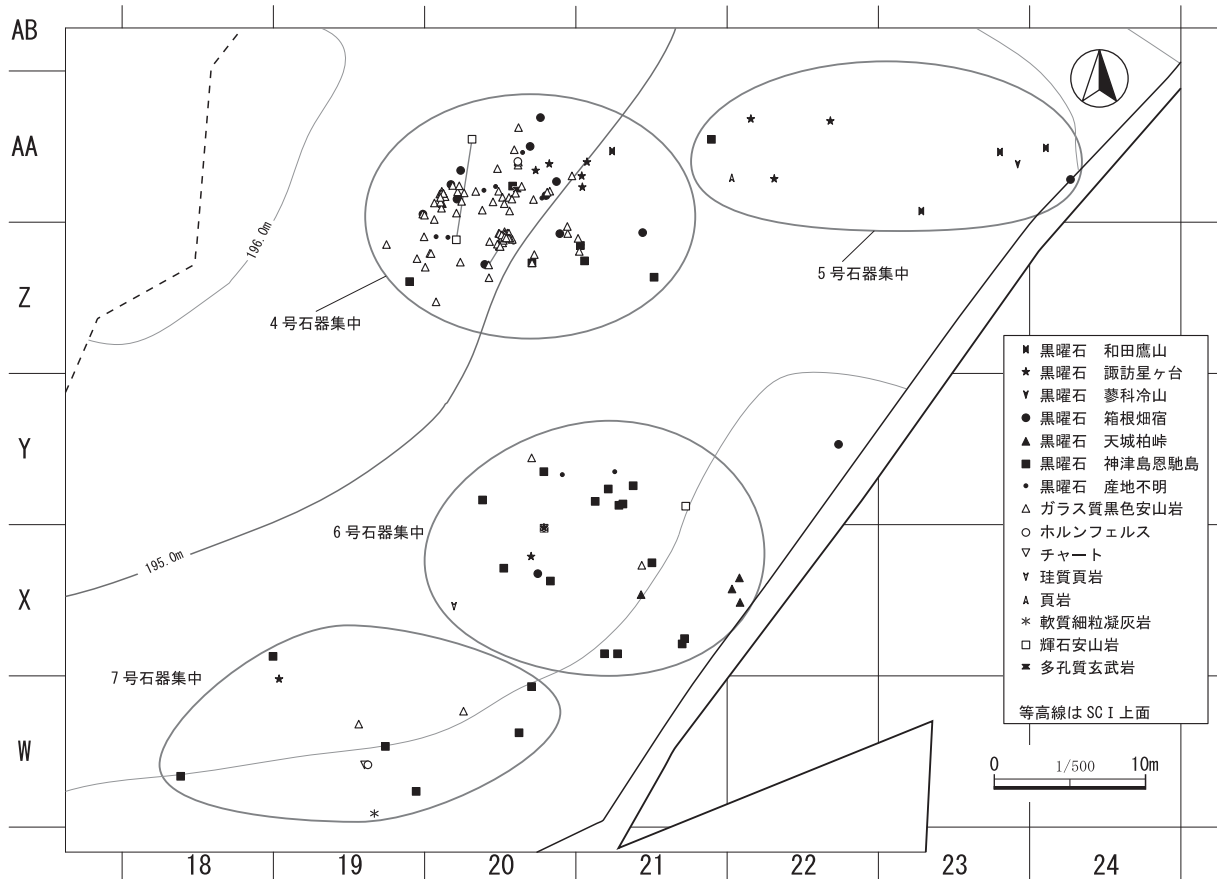
表153 第XⅧ文化層中央尾根 石器組成

	尖頭器	尖頭器未製品	ナイフ形石器	台形石器	削器	石錐	二次加工剥片	石刃	細石刃	剥片	砕片	石核	敲石	計
黒曜石	和田鷹山	2								2				4
	諏訪星ヶ台	2	1			1			1	5		2		12
	蓼科冷山	1												1
	箱根畑宿	2	1	1						10(1)				14(1)
	天城柏峠		1							3		1		5
	神津島恩馳島	1	1		1	1		3	1	1	18(2)	3	2	32(2)
	産地不明									16	1			17
	黒曜石計	8	4	1	1	2		3	1	2	54(3)	4	5	85(3)
ガラス質黒色安山岩	5	2			3	1	4		68(1)	6	1		90(1)	
ホルンフェルス	1								1				2	
チャート			1										1	
珪質頁岩	1												1	
頁岩	1												1	
軟質細粒凝灰岩		1											1	
輝石安山岩										1		2	3	
多孔質玄武岩												1	1	
計	16	7	2	1	5	1	7	1	2	124(4)	10	6	3	185(4)

括弧内は全体数の内、微細剥離痕のあるものの点数。



第388図 第Ⅷ文化層中央尾根 器種別分布



第389図 第Ⅷ文化層中央尾根 石材別分布

化層に含まれている。

4号石器集中（第390・391図、表154）

Z-20グリッド周辺で出土した石器125点から成る。出土層位は休場層中位から上位で、3点が富士黒土層出土である。石器分布は13～15号礫群と重複し、径16mの範囲に広がるが、特に中央部の径8mの範囲に密集する。石器はガラス質黒色安山岩製84点、黒曜石（箱根畑宿産11点、諏訪星ヶ台産、神津島恩馳島産各6点、和田鷹山産、天城柏峠産各1点など）製37点、輝石安山岩製2点、ホルンフェルス製、多孔質玄武岩製各1点で、尖頭器・尖頭器未製品9点、削器3点、石錐1点、二次加工剥片5点が含まれる。ガラス質黒色安山岩で尖頭器製作が行われた石器集中であり、また箱根畑宿産黒曜石でも尖頭器の調整加工が一部行われた可能性がある。

5号石器集中（第392・393図、表155）

AA-22・23グリッド周辺で出土した石器10点から成り、出土層位は休場層中位から富士黒土層に及ぶ。4号石器集中の東側の斜面上、東西24mの範囲に散在する石器をまとめたもので、同範囲には16号礫群もある。石器は黒曜石（和田鷹山産、諏訪星ヶ台産各3点、蓼科冷山産、箱根畑宿産、神津島恩馳島産各1点）製9点、頁岩1点で、尖頭器4点、ナイフ形石器、削器、二次加工剥片各1点が含まれる。

表154 第XⅧ文化層4号石器集中 石器組成

		尖頭器	尖頭器未製品	削器	石錐	二次加工剥片	細石刃	剥片	碎片	石核	敲石	計
黒曜石	和田鷹山							1				1
	諏訪星ヶ台	1	1				1	3				6
	箱根畑宿	1	1					9(1)				11(1)
	天城柏峠							1				1
	神津島恩馳島					1	1	4				6
	産地不明							12				12
	黒曜石計	2	2			1	2	30(1)				37(1)
ガラス質黒色安山岩		3	2	3	1	4		64	6	1		84
ホルンフェルス								1				1
輝石安山岩											2	2
多孔質玄武岩											1	1
計		5	4	3	1	5	2	95(1)	6	1	3	125(1)

括弧内は全体数の内、微細剥離痕のあるものの点数。

表155 第XⅧ文化層5号石器集中 石器組成

		尖頭器	ナイフ形石器	削器	二次加工剥片	剥片	石核	計
黒曜石	和田鷹山	2				1		3
	諏訪星ヶ台			1			2	3
	蓼科冷山	1						1
	箱根畑宿		1					1
	神津島恩馳島				1			1
	黒曜石計	3	1	1	1	1	2	9
頁岩		1						1
計		4	1	1	1	1	2	10

6号石器集中（第394・395図、表156）

X-20・21グリッド周辺で出土した石器30点から成る。出土層位は主に休場層中位から休場層上位であり、分布は径24m程度の範囲に広がる。石器は黒曜石（神津島恩馳島産15点、天城柏峠産4点、諏訪星ヶ台産2点、箱根畑宿産1点など）製26点、ガラス質黒色安山岩製2点、珪質頁岩製、輝石安山岩製各1点で、尖頭器・尖頭器未製品3点、台形石器、二次加工剥片各1点が含まれる。

7号石器集中（第396・397図、表157）

W-19・20グリッド周辺で出土した石器12点から成る。出土層位は主に休場層中位から富士黒土層であり、分布は東西24m程度の範囲に広がる。石器は黒曜石（神津島恩馳島産6点、諏訪星ヶ台産1点）製7点、ガラス質黒色安山岩製2点、ホルンフェルス製、チャート製、軟質細粒凝灰岩製各1点で、尖頭器・尖頭器未製品5点、ナイフ形石器、削器各1点が含まれる。

13号礫群（第398図、表158）

AA-20グリッド南西部で出土した被熱礫3点から成る。出土層位は休場層上位である。礫は長径18.8cm・重量4.1kgの大型礫の両脇に1点ずつ分布する形で、礫の大きさは平均で長径16.3cm・重量1.9kgである。

14号礫群（第398図、表158）

AA-20グリッド南東部で出土した被熱礫7点から成る。1.5m×0.5mの範囲に広がり、出土層位は休場層上位である。礫は平均で長径8.2cm・重量0.28kgの大きさである。

15号礫群（第398図、表158）

AA-20グリッド北東部で出土した礫7点から成り、うち6点に被熱の痕跡が認められた。分布は径0.6mの範囲にまとめられ、出土層位は休場層上位である。礫は平均で長径8.9cm・重量0.34kgの大きさである。

表156 第ⅩⅧ文化層6号石器集中 石器組成

	尖頭器	尖頭器未製品	台形石器	二次加工剥片	剥片	砕片	石核	計
黒曜石	諏訪星ヶ台				2			2
	箱根畑宿				1			1
	天城柏峠	1			2		1	4
	神津島恩馳島		1	1	9(2)	3	1	15(2)
	産地不明				3	1		4
	黒曜石計	1	1	1	17(2)	4	2	26(2)
	計	2	1	1	1	19(2)	4	2
ガラス質黒色安山岩	1				1			2
珪質頁岩	1							1
輝石安山岩					1			1

括弧内は全体数の内、微細剥離痕のあるものの点数。

表157 第ⅩⅧ文化層7号石器集中 石器組成

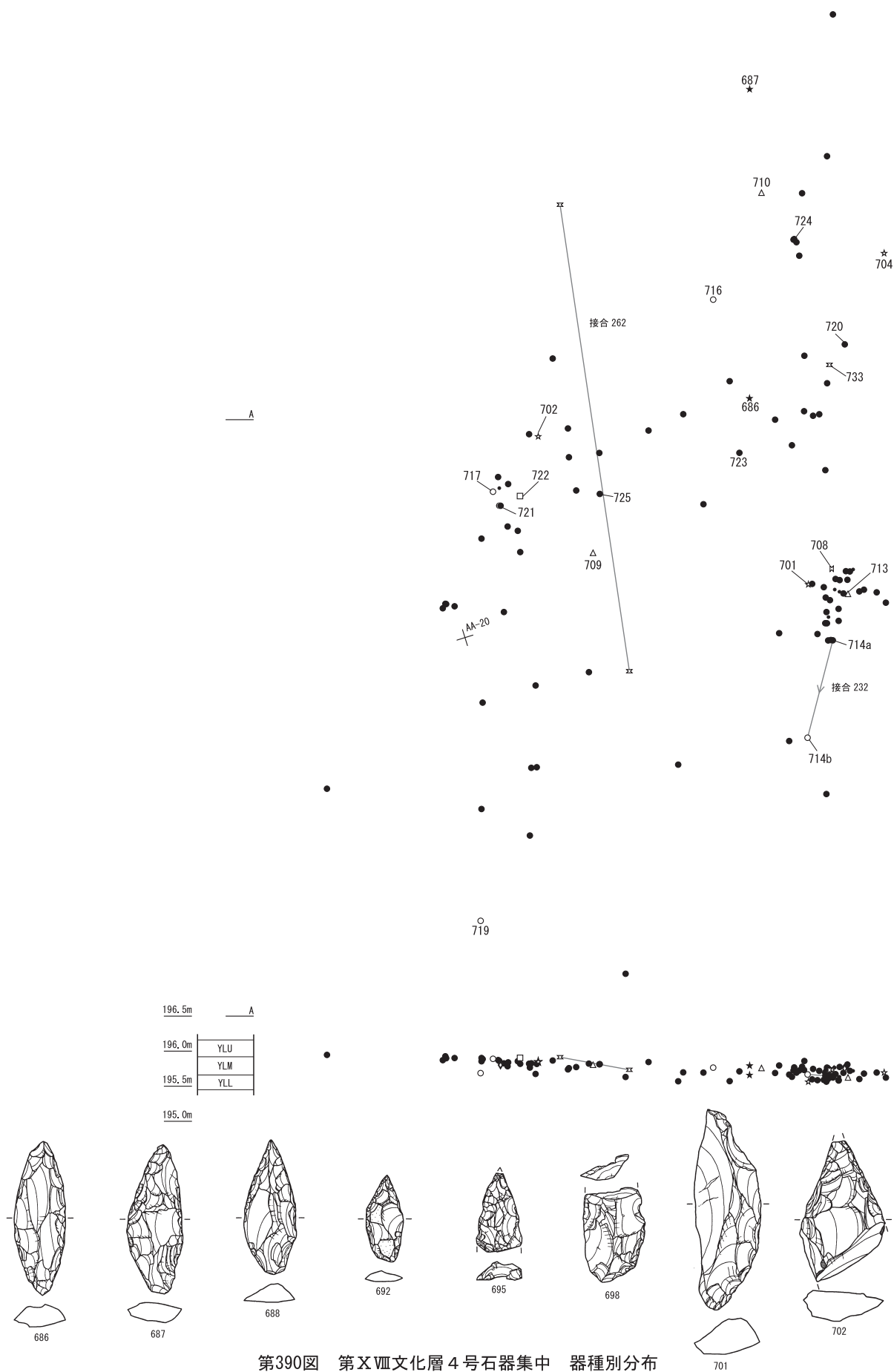
	尖頭器	尖頭器未製品	ナイフ形石器	削器	剥片	計
黒曜石	諏訪星ヶ台	1				1
	神津島恩馳島	1		1	4	6
	黒曜石計	2		1	4	7
ガラス質黒色安山岩	1				1	2
ホルンフェルス	1					1
チャート			1			1
軟質細粒凝灰岩		1				1
計	4	1	1	1	5	12

表158 第ⅩⅧ文化層中央尾根 礫群属性

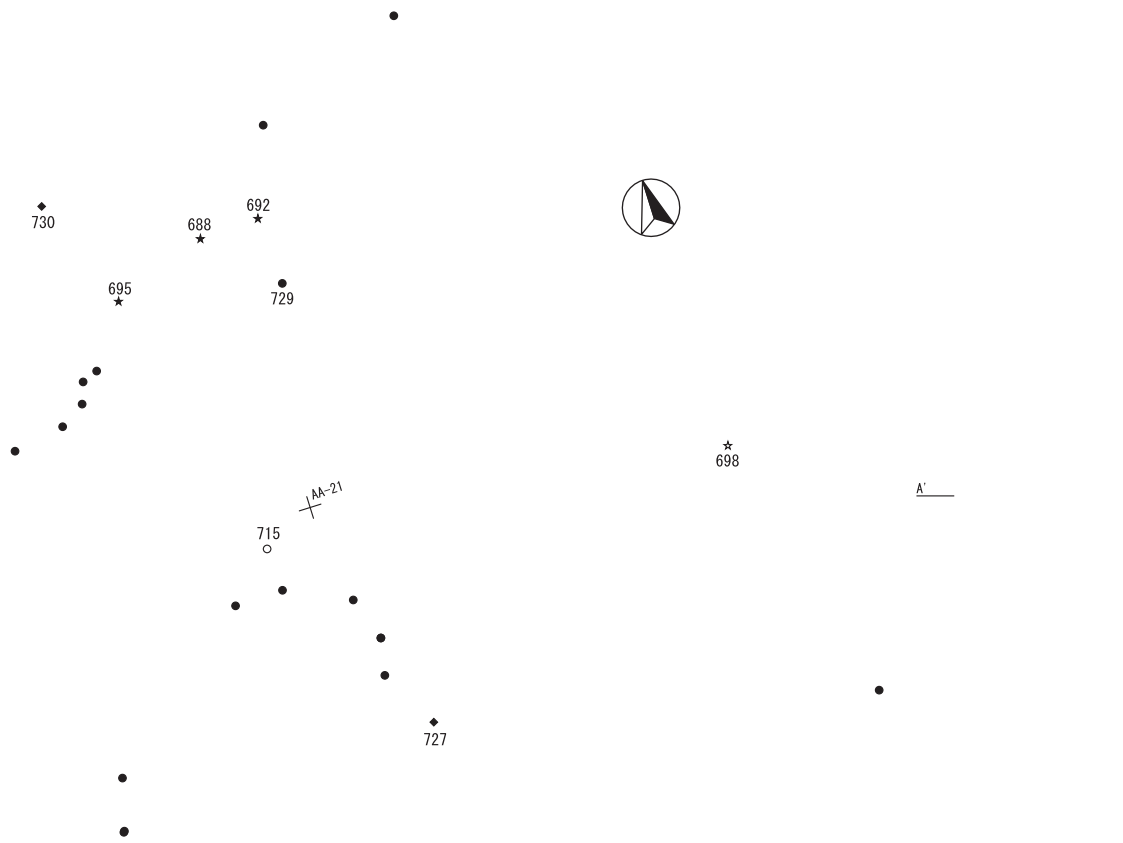
礫群番号	構成礫数	赤化					形態				石材					
		完形		非完形			角	亜角	亜円	円	安山岩	輝石安山岩	多孔質玄武岩	多孔隙玄武岩	イト	アブラ
		非赤化	赤化	赤化1	赤化2	付着物2										
13号	3		2		1		2	1				1	2			
14号	7		6	1		1		1	5	1		2	3	1		
15号	7	1	5	1			5	2		2		2	3			
16号	8		6	2			7	1		2	1	1	4			
遺構外	12	1	6	4		1	7	5		4		4	4			

赤化1：全面が赤化 赤化2：礫の外皮のみ赤化 付着物2：礫の外皮のみに付着物

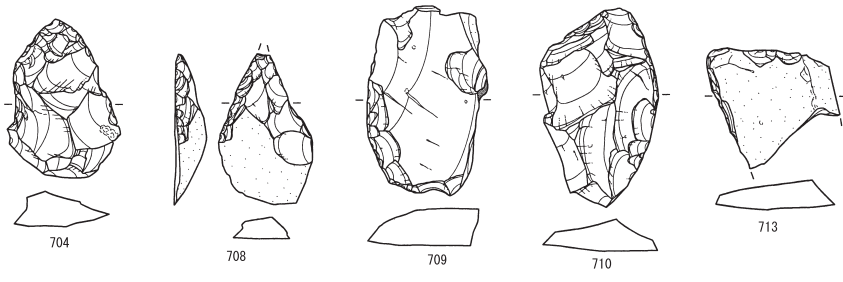




第390图 第XVIII文化層4号石器集中 器種別分布

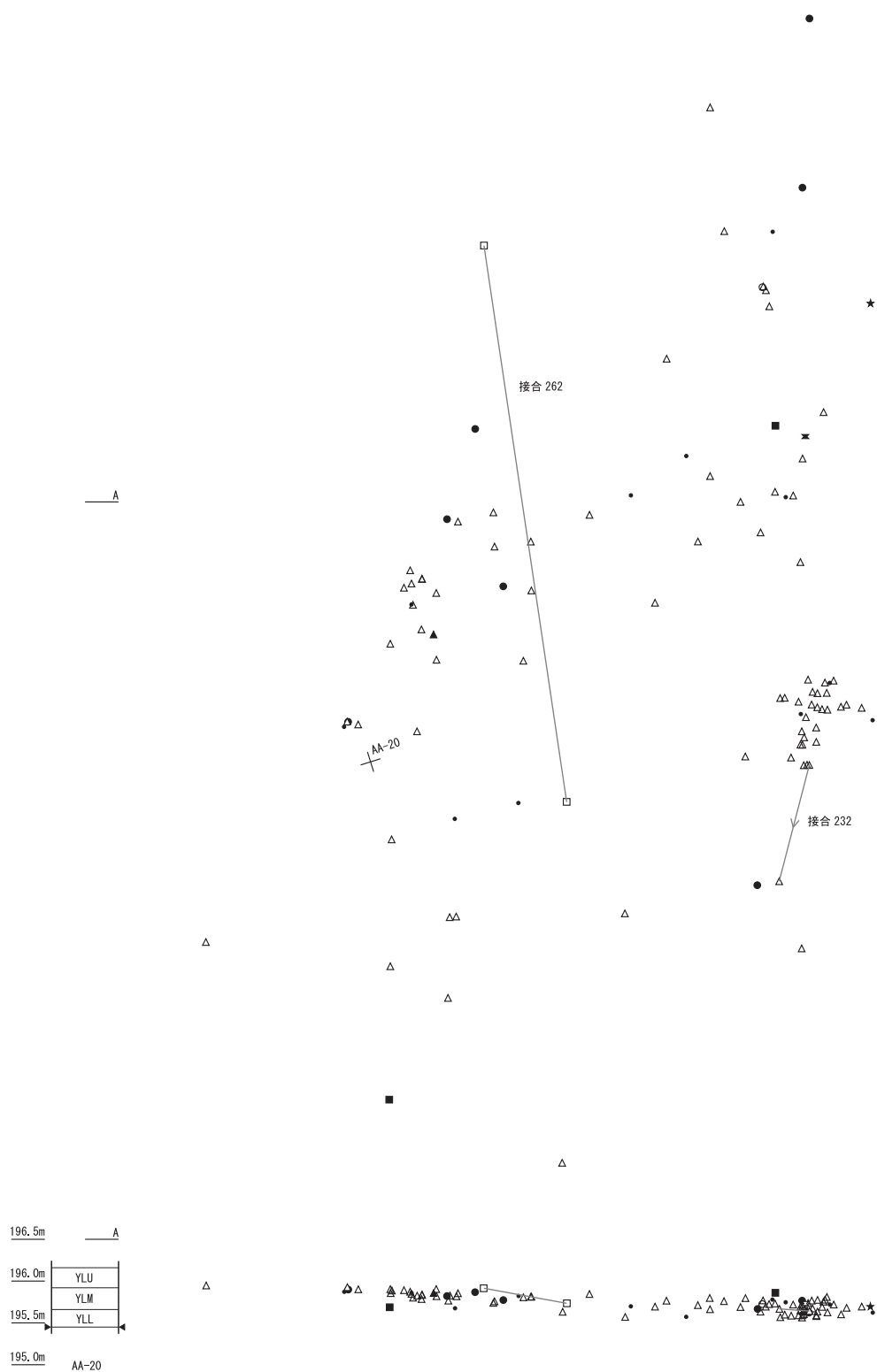


- ★ 尖頭器
- ☆ 尖頭器未製品
- △ 削器
- ⊠ 石錐
- 二次加工剥片
- ◆ 細石刃
- 剥片
- 碎片
- 石核
- ⊗ 敲石

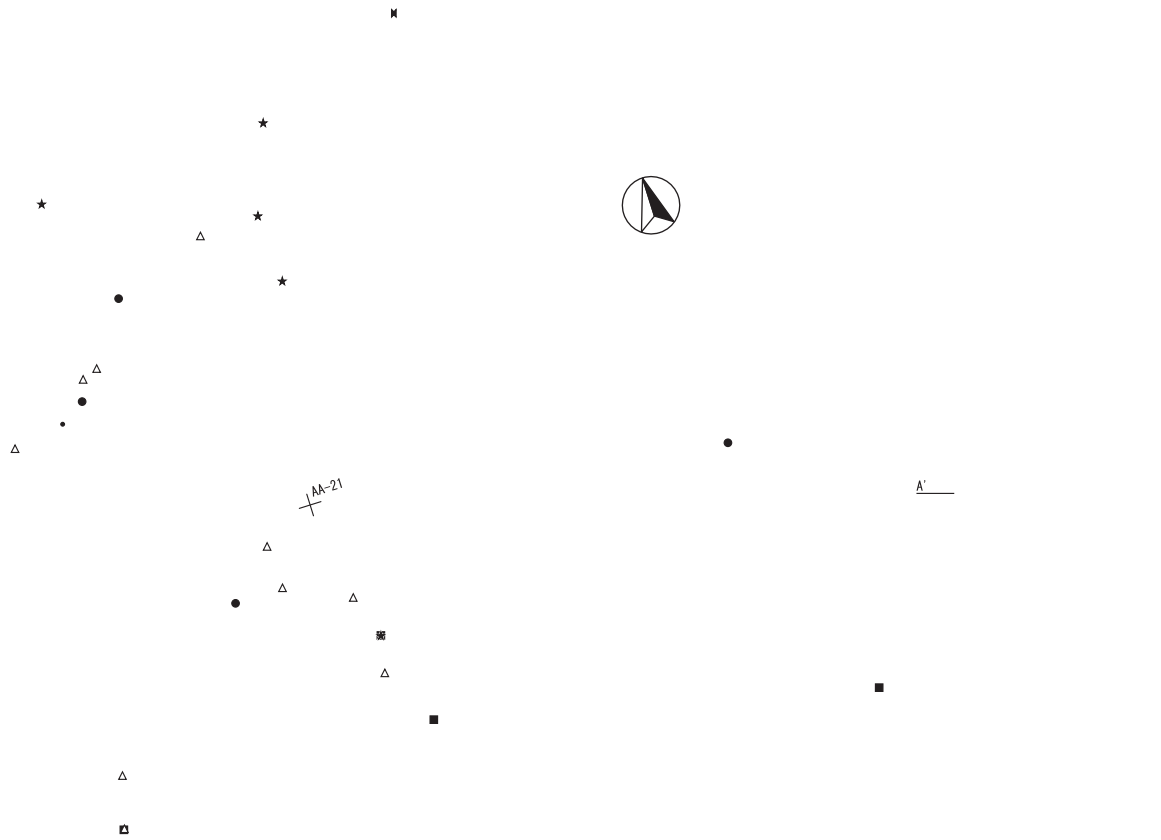


YLU	_____
YLM	_____
YLL	_____

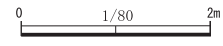


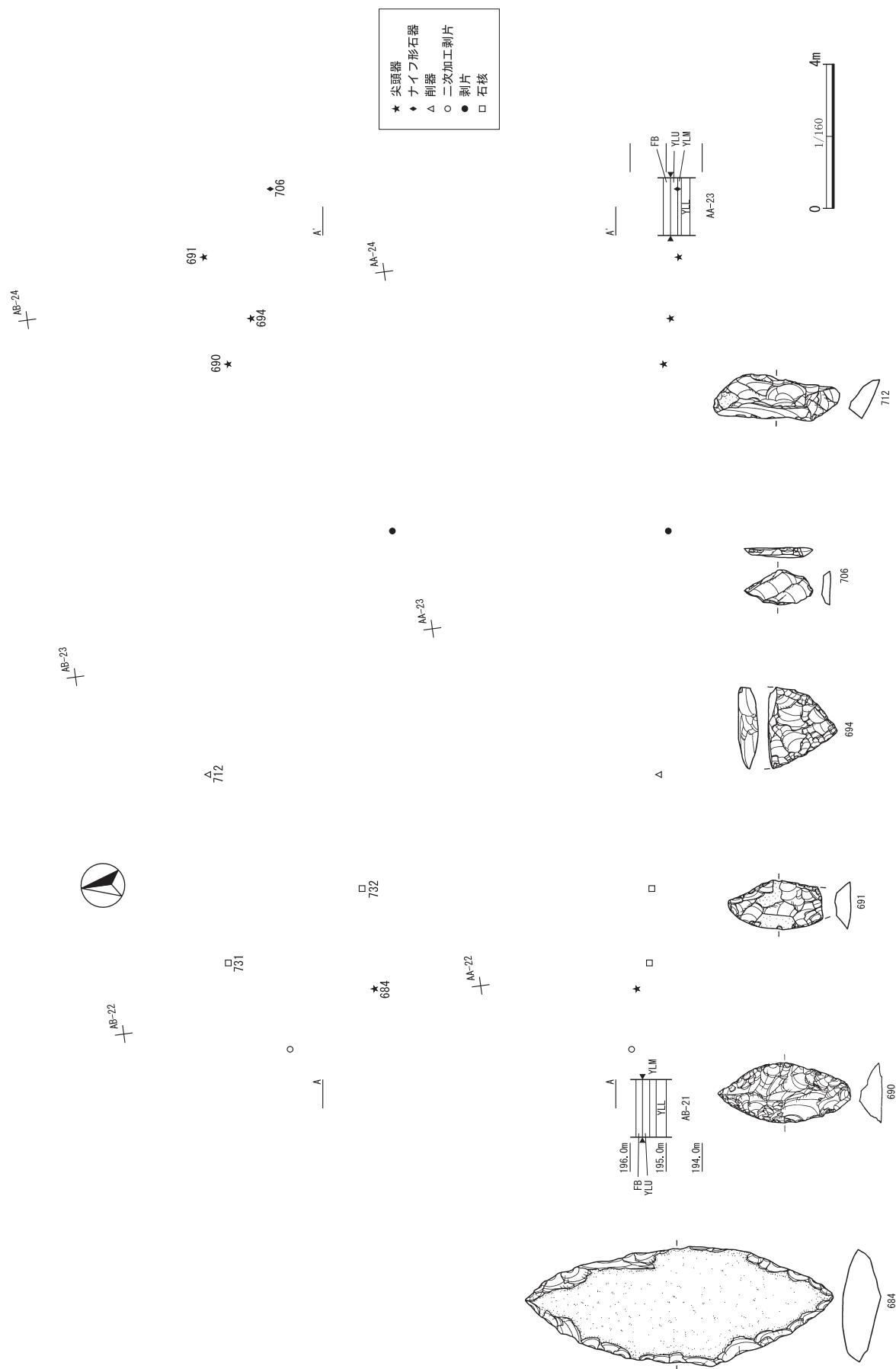


第391図 第XVIII文化層4号石器集中 石材別分布



- |   |           |        |
|---|-----------|--------|
| ✕ | 黒曜石       | 和田鷹山   |
| ★ | 黒曜石       | 諏訪星ヶ台  |
| ● | 黒曜石       | 箱根畑宿   |
| ▲ | 黒曜石       | 天城柏峠   |
| ■ | 黒曜石       | 神津島恩馳島 |
| ● | 黒曜石       | 産地不明   |
| △ | ガラス質黒色安山岩 |        |
| ○ | ホルンフェルス   |        |
| □ | 輝石安山岩     |        |
| ✕ | 多孔質玄武岩    |        |

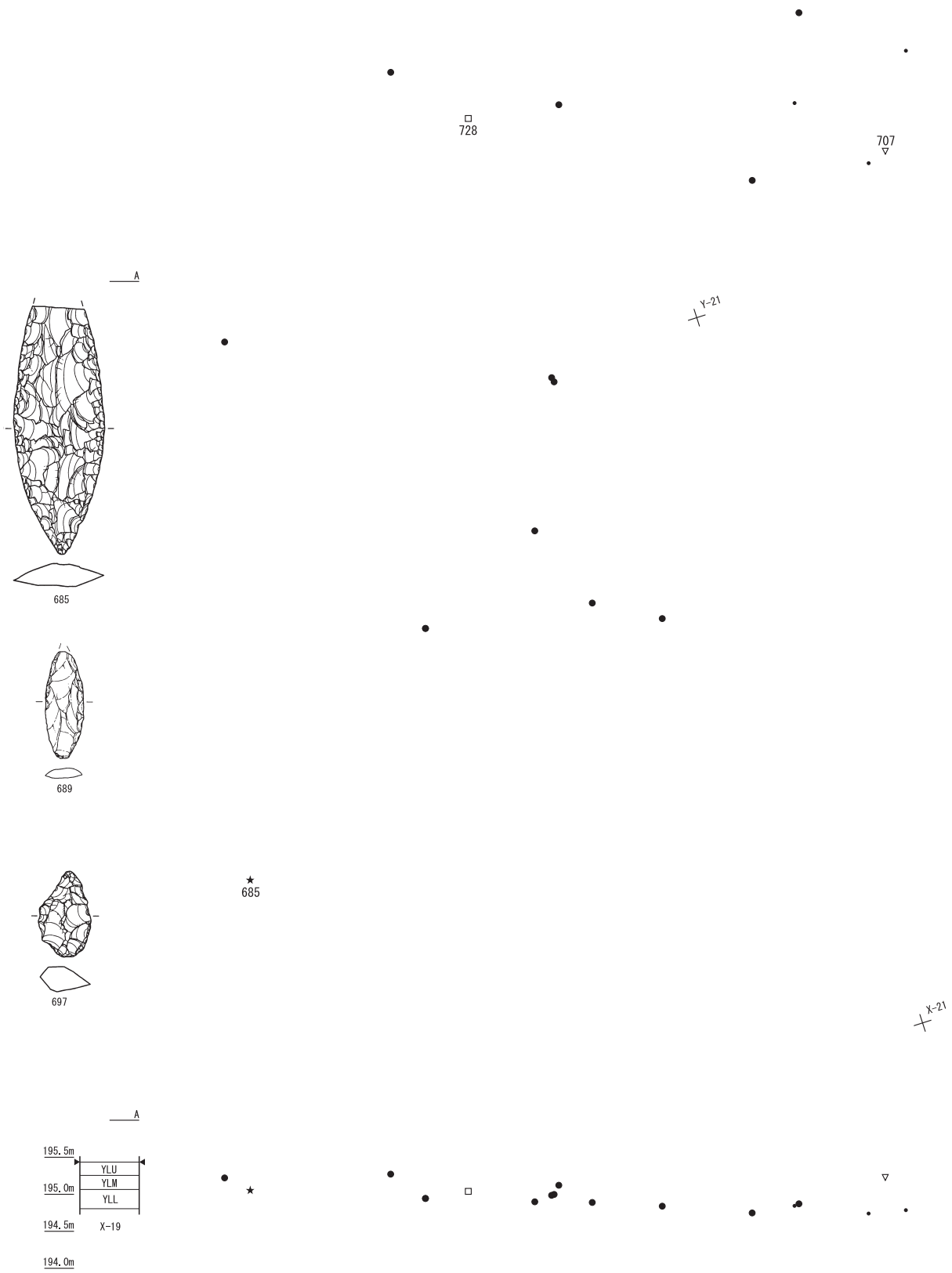




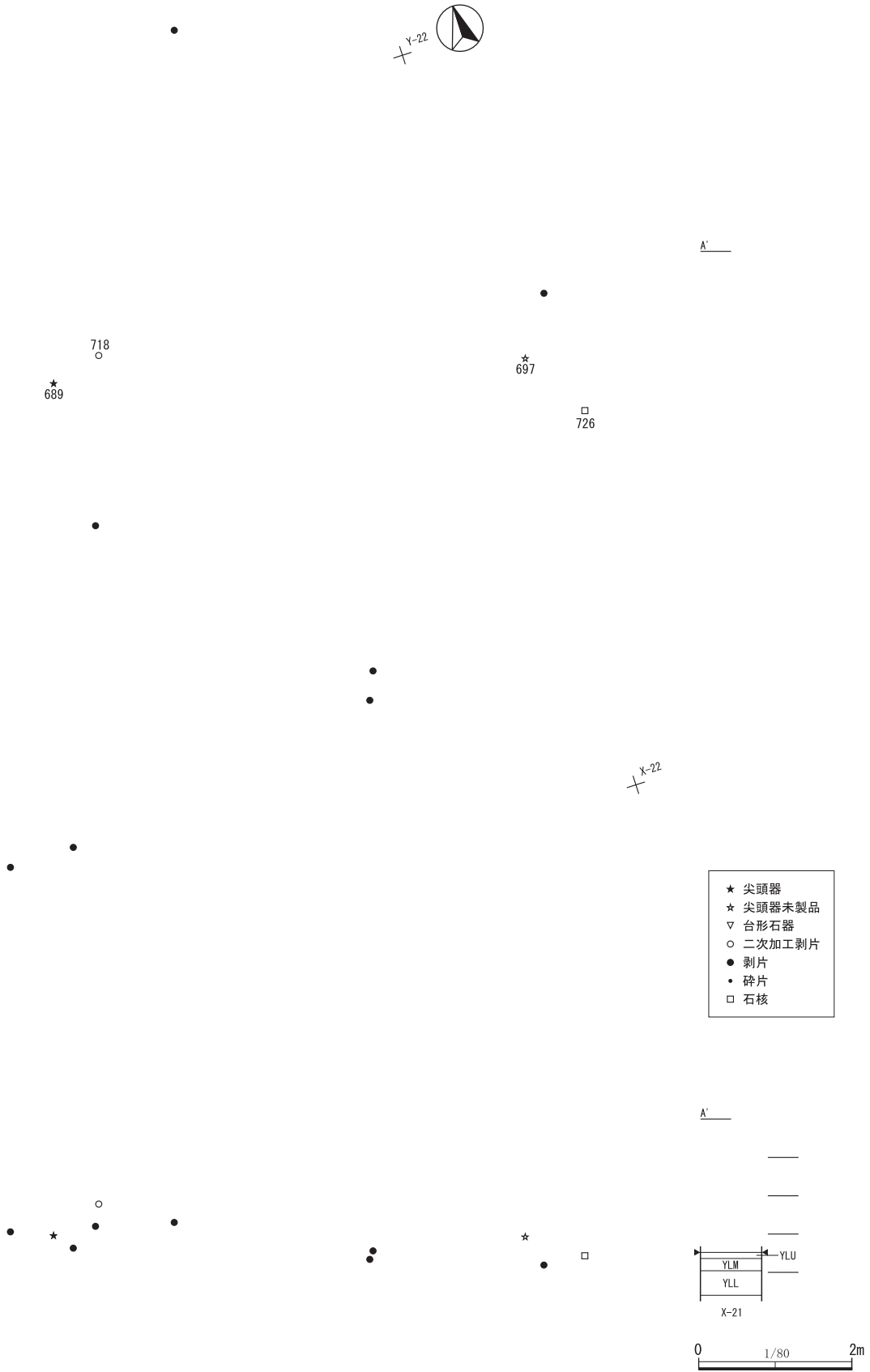
第392図 第XVIII文化層5号石器集中 器種別分布



第393図 第Ⅷ文化層5号石器集中 石材別分布



第394図 第XVIII文化層6号石器集中 器種別分布

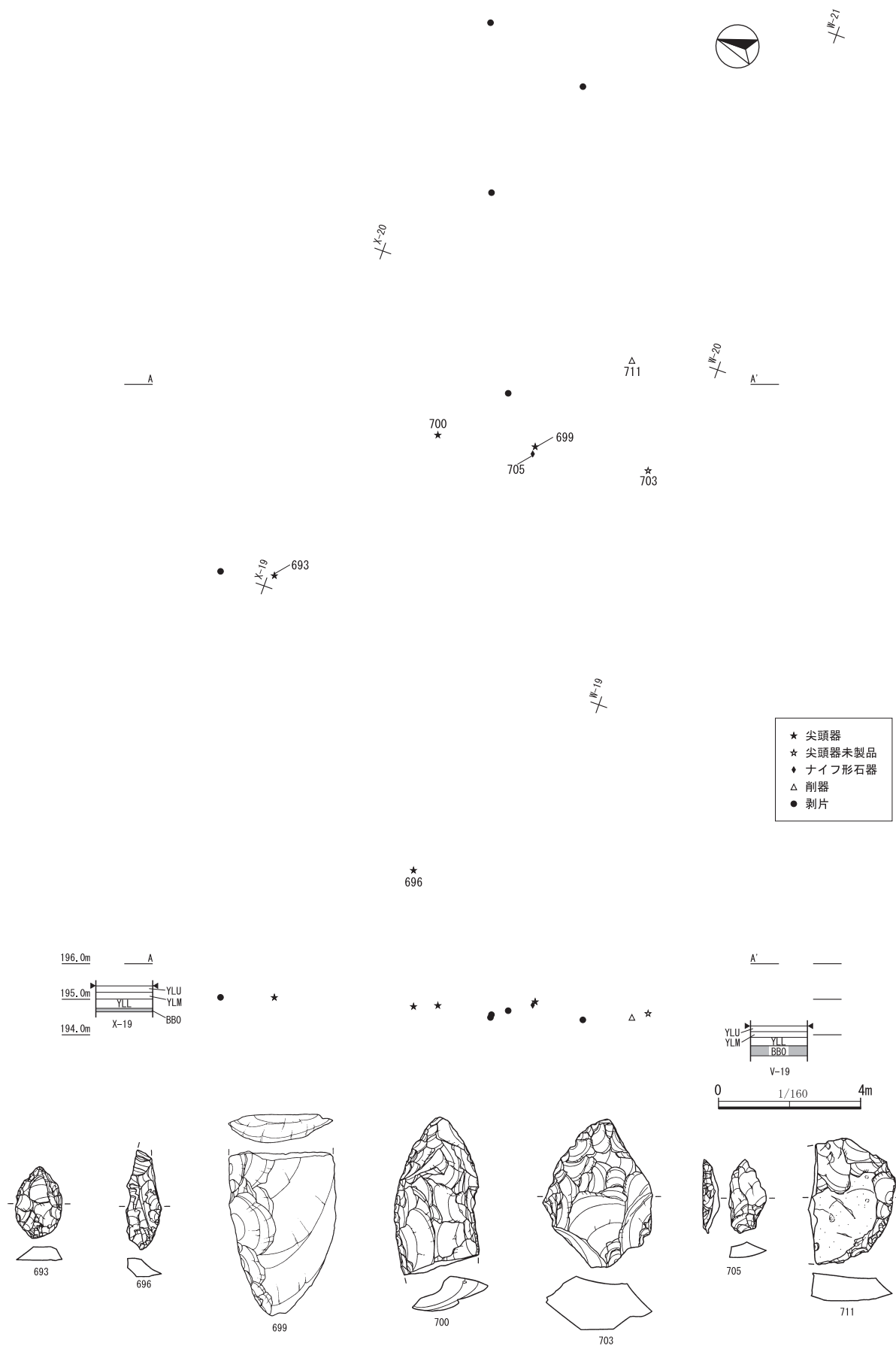






第395図 第XVIII文化層6号石器集中 石材別分布

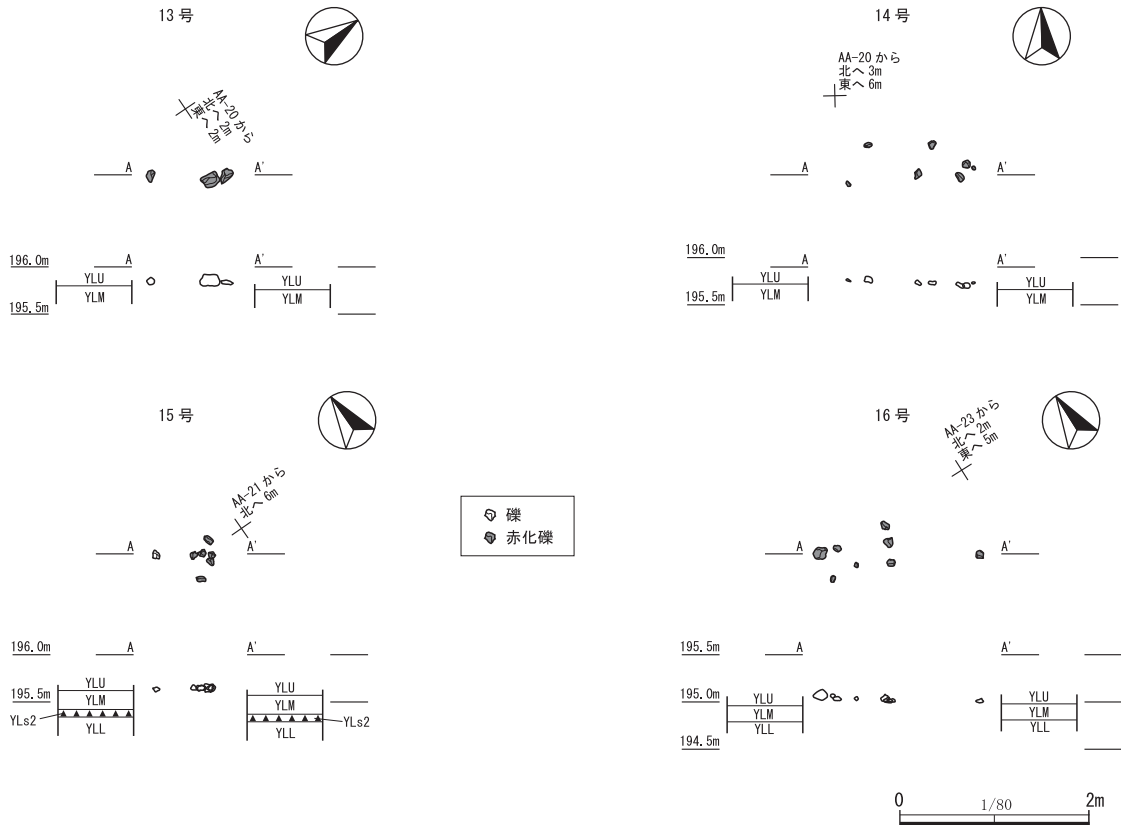




第396図 第XVIII文化層7号石器集中 器種別分布



第397図 第ⅩⅧ文化層7号石器集中 石材別分布



第398図 第XⅧ文化層13～16号礫群

16号礫群（第398図、表158）

AA-23グリッド南部で出土した被熱礫8点から成る。分布は東端に長径13.3cm・重量1.9kgの礫を配して1.8m×0.5mの範囲に広がり、出土層位は休場層上位である。礫は平均で長径8.5cm・重量0.44kgの大きさである。

（2）4～7号石器集中の出土石器（第399～402図）

尖頭器・尖頭器未製品（684～704）

21点出土した。頁岩類で長さ10cm程度の大型品、ガラス質黒色安山岩で5～10cm程度の中型品、黒曜石で5cm以下の小型品と、利用石材と尖頭器の大きさには一定の相関関係が認められる。

684は頁岩製で、正面には広く円礫面が残り、裏面は粗い加工で整形した後、細かい剥離で周縁部を調整している。全般的に加工が荒く、未製品の可能性もある。685は珪質頁岩製の両面加工尖頭器で薄く整形加工されており、弱く反っている。686～689はガラス質黒色安山岩製の尖頭器である。686は半両面加工で、素材剥片を横位に用い、裏面は素材打面側を加工している。687は両面加工で左側縁が張り出す非対称形を呈する。688は片面加工で、素材打面側を斜めに折断した剥片を素材としており、その折れ面が右側縁の一部残されている。689は剥片素材、周縁加工で、左側縁下半は腹面、それ以外は背面を加工している。690・691は和田鷹山産黒曜石製、片面加工で、691では背面に礫面が残されている。692・693は諏訪星ヶ台産黒曜石製で、裏面には平坦加工を入れ、表面を急斜度加工している。692は素材剥片を横位に用いたもので、表面側に反っている。694は蓼科冷山産黒曜石製の両面加工尖頭器の破片で、厚さが薄いのに対して幅広の形態となっている。695は箱根畑宿産黒曜石製で、裏面に平坦加工、表面に急斜度加工がなされ、甲高な形態である。696は神津島恩馳島産黒曜石製で、両面加工尖

頭器の破片と見られるが、破損度が大きく詳細は不明である。

697～704は尖頭器未製品と考えられる資料である。折損している資料も多く、製作途上で廃棄されたものもあると見られる。697は天城柏峠産黒曜石製、両面加工であるが、左側縁の厚みが減じられておらず、側面に平坦部が残るなど鋭利な縁辺が形成されていない。698は箱根畑宿産黒曜石製、両面加工であるが、全体的に加工が粗く正面左側縁の加工が進展していない状態である。699はホルンフェルス製で、背面が礫面の剥片を素材とするが、加工が粗く素材腹面側に未加工の部分が多く残ることから未製品に分類した。700～702はガラス質黒色安山岩製である。やはり全体的に加工が粗く、700は左側縁正面と右側縁裏面が階段状剥離で大きく抉られ断面形が不整になり、701は右側縁の厚みが減じられておらず左側縁には加工が及んでいない。702も左側縁は階段状剥離が連続しており鋭利な縁辺が形成されていない。703は軟質細粒凝灰岩製の粗割りされた両面調整体で、縁辺部の加工は進んでいない。704は諏訪星ヶ台産黒曜石製で、先端部は薄く鋭利に整形されているが、基部は分厚いまま残されている。

#### ナイフ形石器 (705・706)

2点出土した。705はチャート製で基部に打面を残し二側縁を加工したもの、706は箱根畑宿産黒曜石製、二側縁加工で基部には素材折れ面が残されている。2点ともに重複して分布する第XVII文化層の石器群に伴う可能性もあるが、より上層の富士黒土層出土のため第XVIII文化層に含めた。

#### 台形石器 (707)

1点出土した。両側縁を加工し、残る縁辺には微細剥離痕が断続している。

#### 石錐 (708)

1点出土した。ガラス質黒色安山岩製、片面加工で、尖頭器未製品の可能性もあるが先端側のみ細かく整形し、下半部は未加工となっていることから石錐に分類した。

#### 削器 (709～713)

5点出土した。709・710はガラス質黒色安山岩製で、緩斜度加工で一側縁に刃部を設けている。711は神津島恩馳島産黒曜石製で、折損品であるが残存部には両面加工の刃部が巡っている。712は諏訪星ヶ台産黒曜石製の剥片の右側縁に急斜度加工で刃部を設けている。また左側縁にも微細な剥離痕が認められる。713はガラス質黒色安山岩製で、急斜度加工で薄手の刃部を設けている。

#### 二次加工剥片 (714～719)

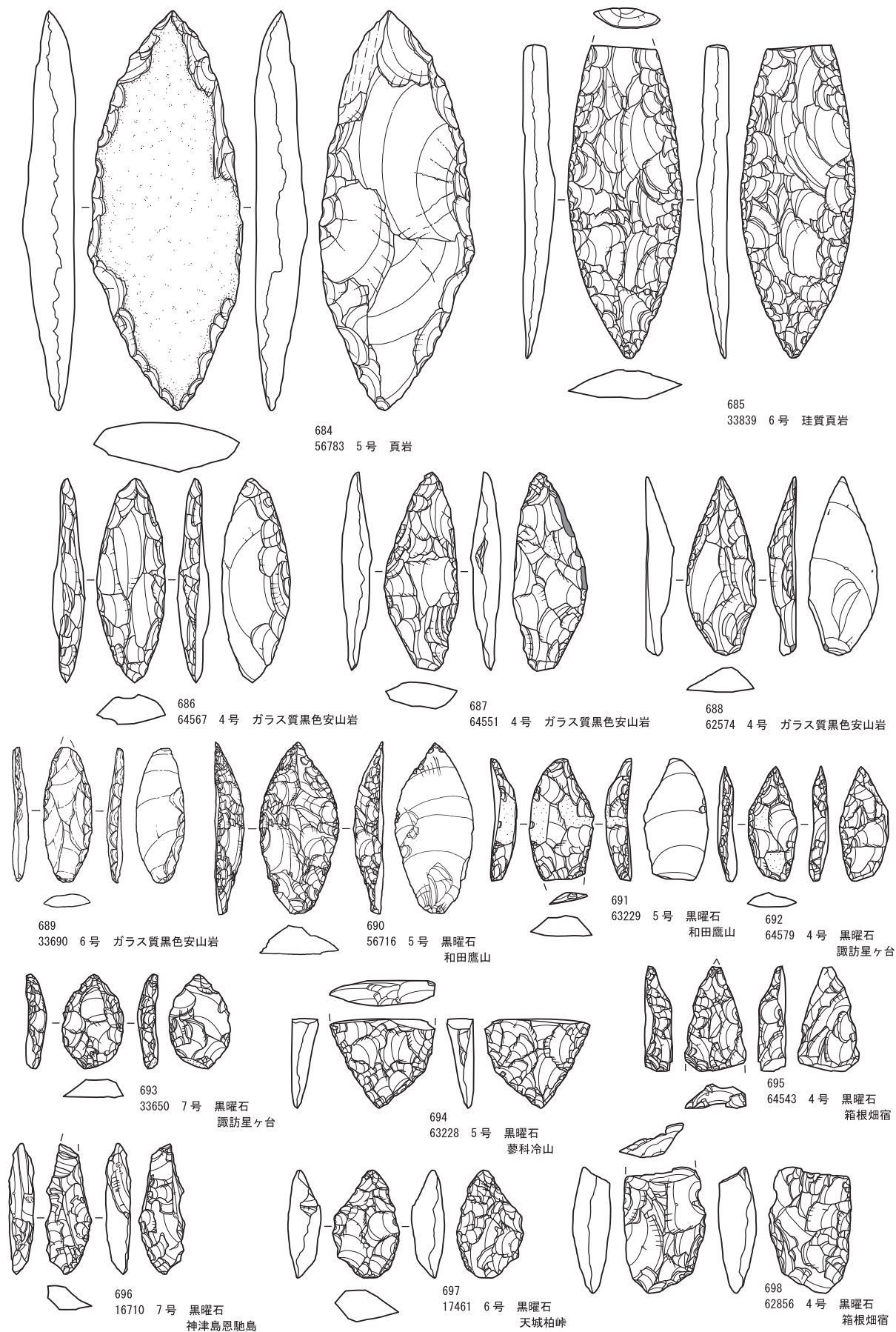
7点出土し、そのうち6点を図示した。714～717はガラス質黒色安山岩製の資料である。714（接合資料232）は二次加工剥片（714b）と、加撃方向が逆向きの剥片（714a）とが接合したものである。714bは打面側の縁辺に急斜度調整が加えられている。715・716も剥片の打面側縁辺が二次加工されている。717は厚手の幅広剥片の縁辺に部分的な二次加工が認められる。加工が断片的であったり折損していたりするため明らかではないが、これらの資料の多くは尖頭器製作に関連するものの可能性が高い。比較的厚手の716・717などは素材から尖頭器製作を行う初期段階の資料と考えられる。

718・719は神津島恩馳島産黒曜石製で、それぞれ下端部に部分的な急斜度調整が加えられている。

#### 剥片類・石核 (720～732)

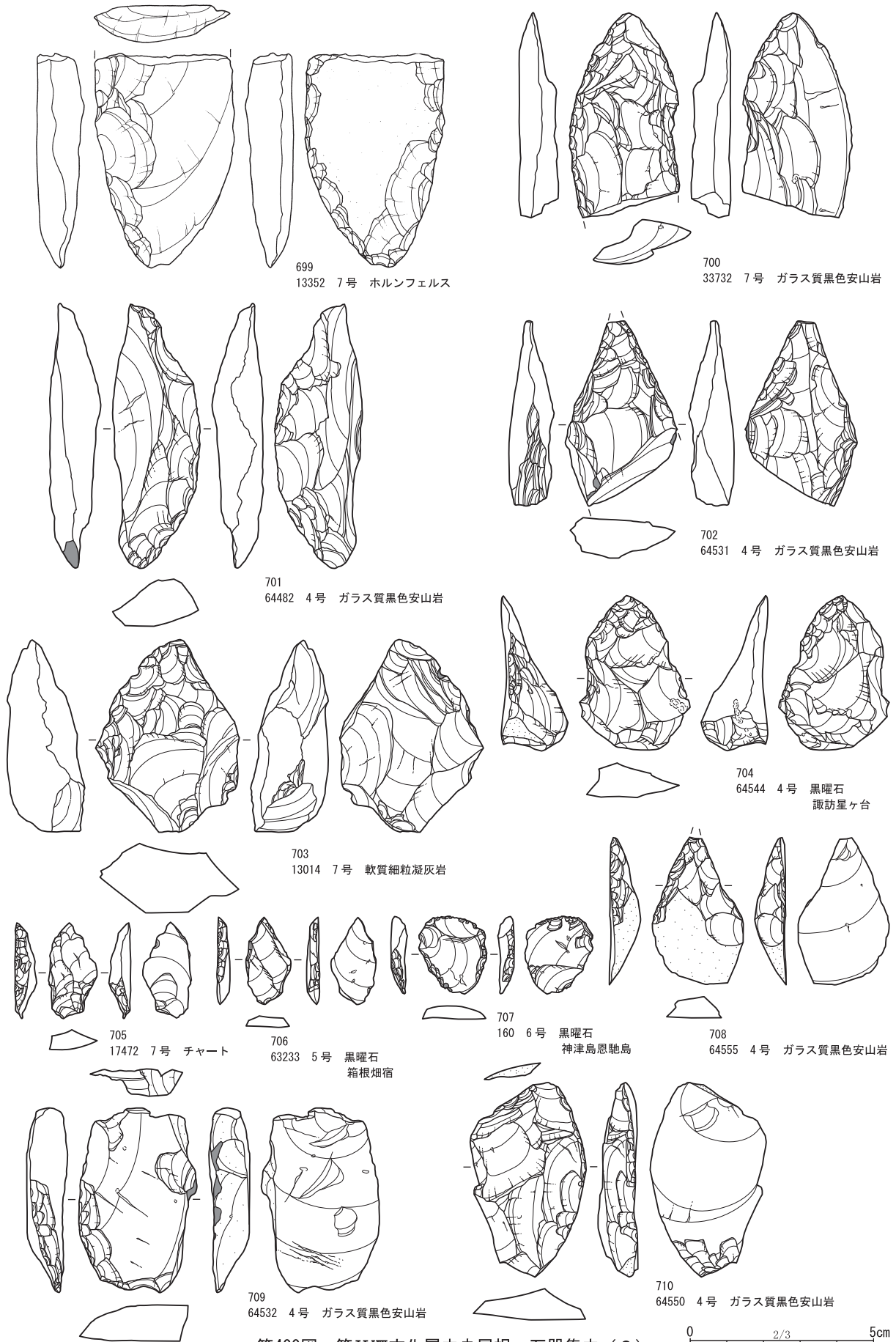
細石刃2点、剥片120点、碎片10点、石核5点が出土した。

720～725はガラス質黒色安山岩製の資料である。二次加工剥片の項で触れたように、ガラス質黒色安山岩製の資料には尖頭器製作に関わると考えられる石器が多く含まれている。720・721、723～725は剥片で、比較的大型の剥片（720・721）では尖頭器製作の初期段階で生じたものか目的的な剥片か判別がつきにくい、小型の剥片（723～725）には薄手で腹面側へ弱く湾曲した、尖頭器の調整加工で生じる剥片の特徴をもつものも多く見られる。722は厚手の剥片を素材とする両面体石核であるが、尖頭器未製品である可能性もある。



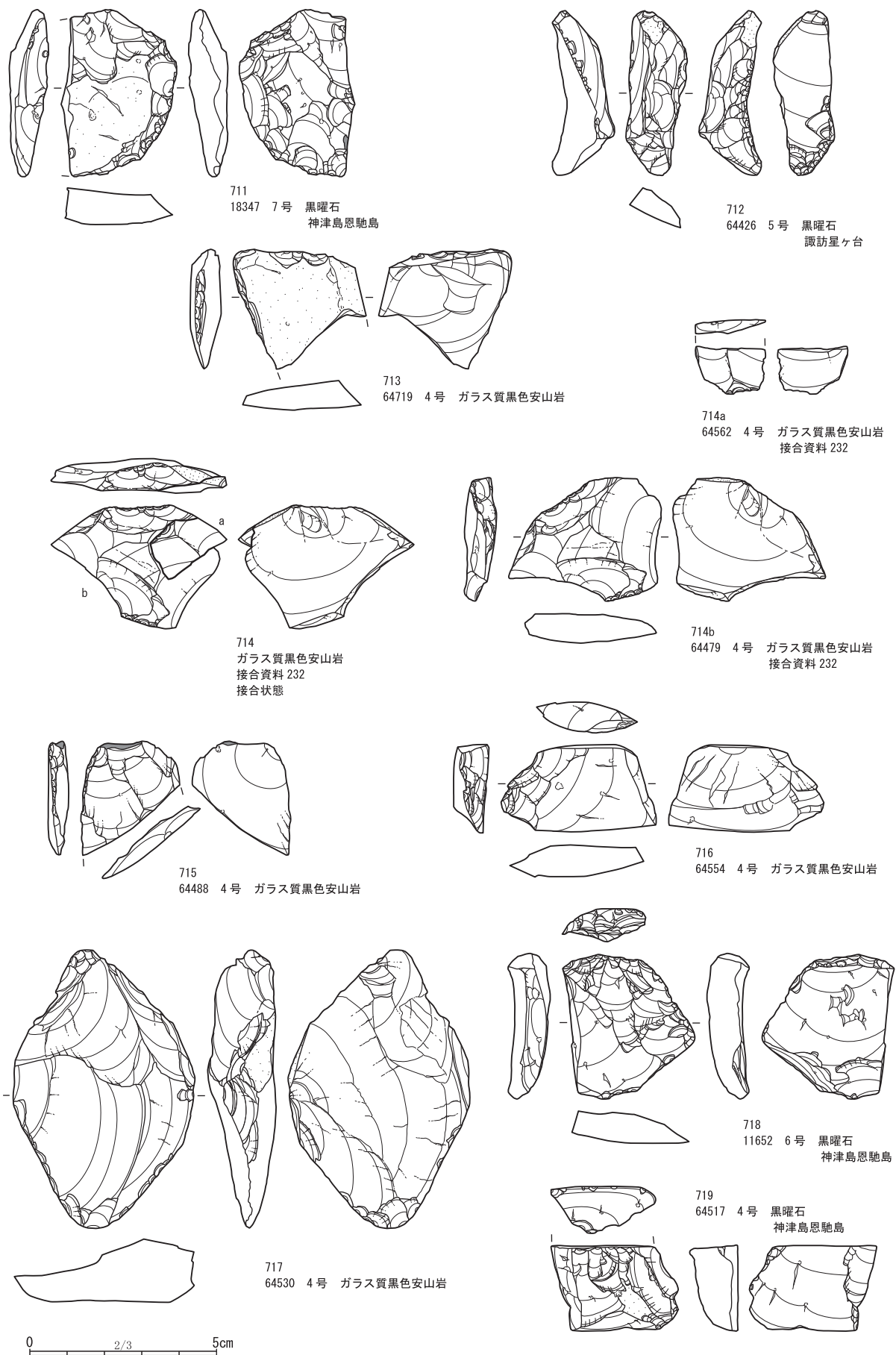
第399図 第XVIII文化層中央尾根 石器集中(1)

0 2/3 5cm

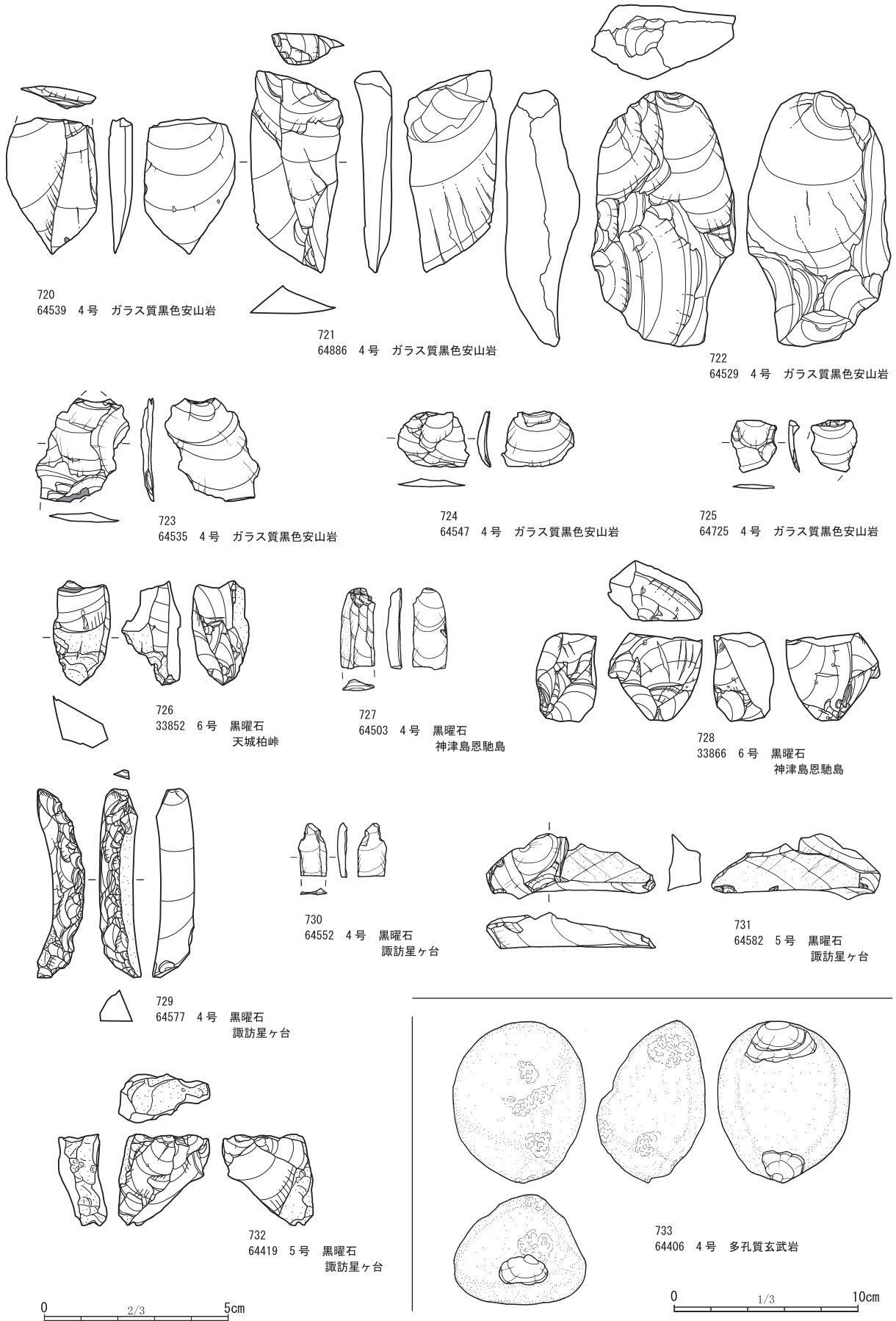


第400図 第Ⅷ文化層中央尾根 石器集中(2)

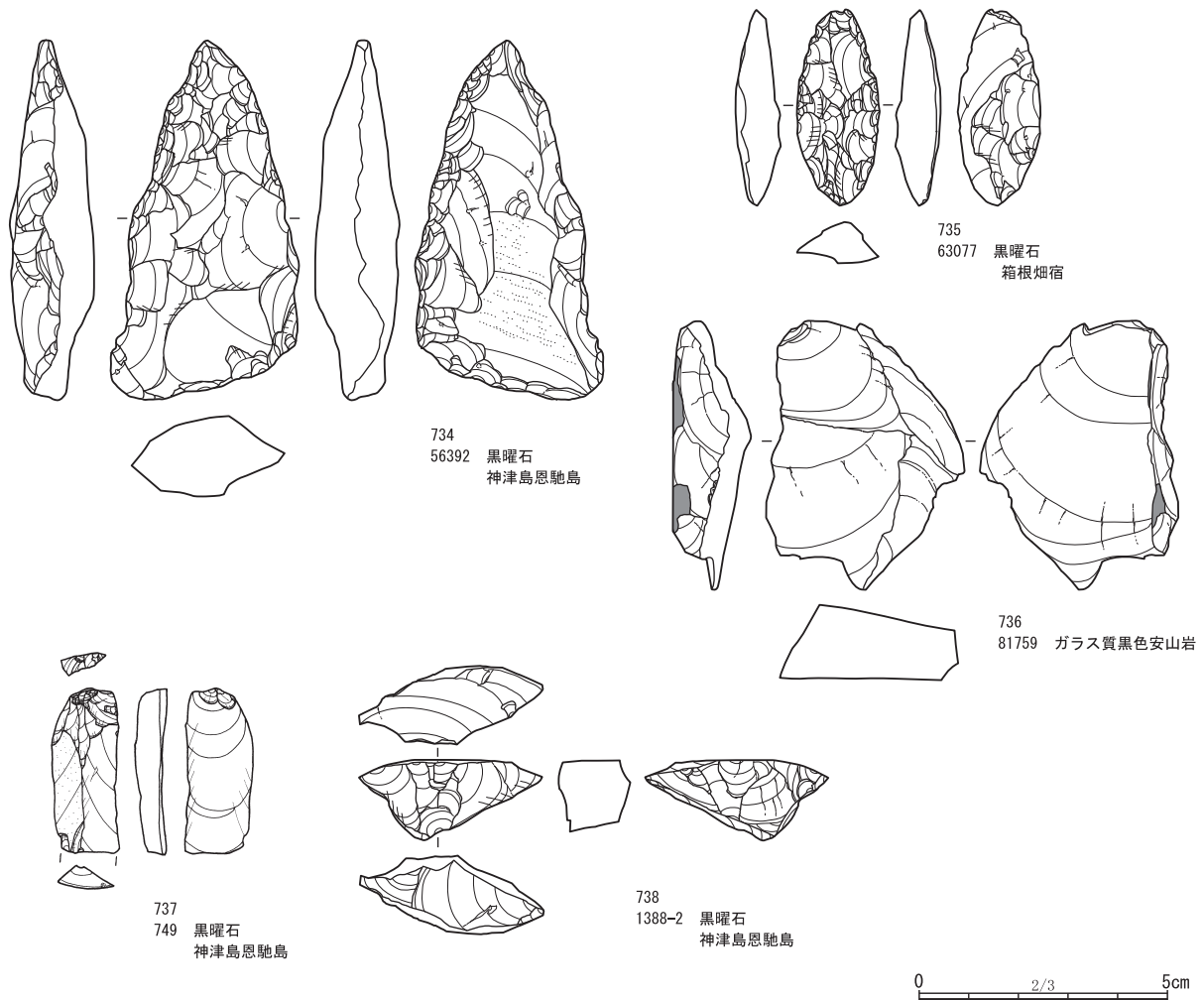




第401図 第XVIII文化層中央尾根 石器集中(3)



第402図 第ⅤⅧ文化層中央尾根 石器集中(4)



第403図 第XⅧ文化層中央尾根 石器集中外

726～732は黒曜石製の資料である。尖頭器などに比して剥片類・石核の出土量は少ないが、和田鷹山産、諏訪星ヶ台産、蓼科冷山産、箱根畑宿産、天城柏峠産、神津島恩馳島産の各産地のものが出土している。726は天城柏峠産黒曜石製の石核である。小型の原石を利用したもので表裏両面に角礫面が残る。727・728は神津島恩馳島産黒曜石製の資料である。727は細石刃で、背面左側は角礫面、打面側は階段状剥離が重なった状態となっている。728は石核で、消費が進んで小型化している。上面はポジ面で、折損或いは分割したものと考えられる。729～732は諏訪星ヶ台産黒曜石製の資料である。729は急斜度加工により整形された稜の部分を剥離した剥片である。730は細石刃であるが、折損しており全体の形状は明らかでない。小型の剥片石核から偶発的に剥離されたものの可能性もある。731・732は石核である。731は分割した板状礫を素材とし、732も小型の角礫を素材とするものと考えられる。

敲石 (733)

3 (接合により2) 点出土した。そのうち1点を図示した。733は多孔質玄武岩の円礫を利用したもので、正面や上下に使用の痕跡が認められ、上下両端には剥離が生じている。

(3) 石器集中外の出土石器 (第403図)

尖頭器・尖頭器未製品 (734・735)

2点出土した。734は神津島恩馳島産黒曜石製で、正面先端部は細かく加工されているが他の部分の

加工は粗く、未製品と考えられる。富士黒土層出土であり、第XⅧ文化層より新しい時期に位置づけられる可能性もある。AC-20グリッド出土。735は箱根畑宿産黒曜石製で甲高な形態を呈し、裏面は平坦加工で調整されている。

#### 剥片類・石核 (736~738)

石刃1点、剥片4点、石核1点が出土した。

736はガラス質黒色安山岩製の剥片で、厳密な出土位置は不明だが、4号石器集中が分布するAA-20グリッド出土である。厚手で尖頭器の素材として搬入された可能性がある。737は神津島恩馳島産黒曜石製の石刃である。背面の左半部が角礫面であり、第XⅧ・XⅨ文化層で細石刃として扱っているものより大型・厚手である。AB-21グリッド出土。738は神津島恩馳島産黒曜石製の石核である。打面はボジ面で、小型の剥片が剥離されている。AC-21グリッド出土。

### 5. 西支谷の遺物群

#### (1) 遺物の分布 (第367・404・405図)

石器17点、礫19点が出土した (表159・161)。主たる遺物の分布域は2箇所に分かれる。

1つはU~X-11~13グリッドに分布するもので、石器2点、礫15点が散在する。礫は15点中14点が被熱礫で、分散しているため礫群にはしていないが、長径10cm超の比較的大型の礫が多い。礫は最大のものが長径23.0cm・重量7.0kg、平均で長径13.7cm・重量1.2kgである。

もう1つはM・N-8・9グリッド付近の小支谷内で、石器15点、礫2点が分布する。石器は9号石器集中としてまとめた。

その他、Q-10グリッド、Y-12グリッドから礫が1点ずつ出土している。

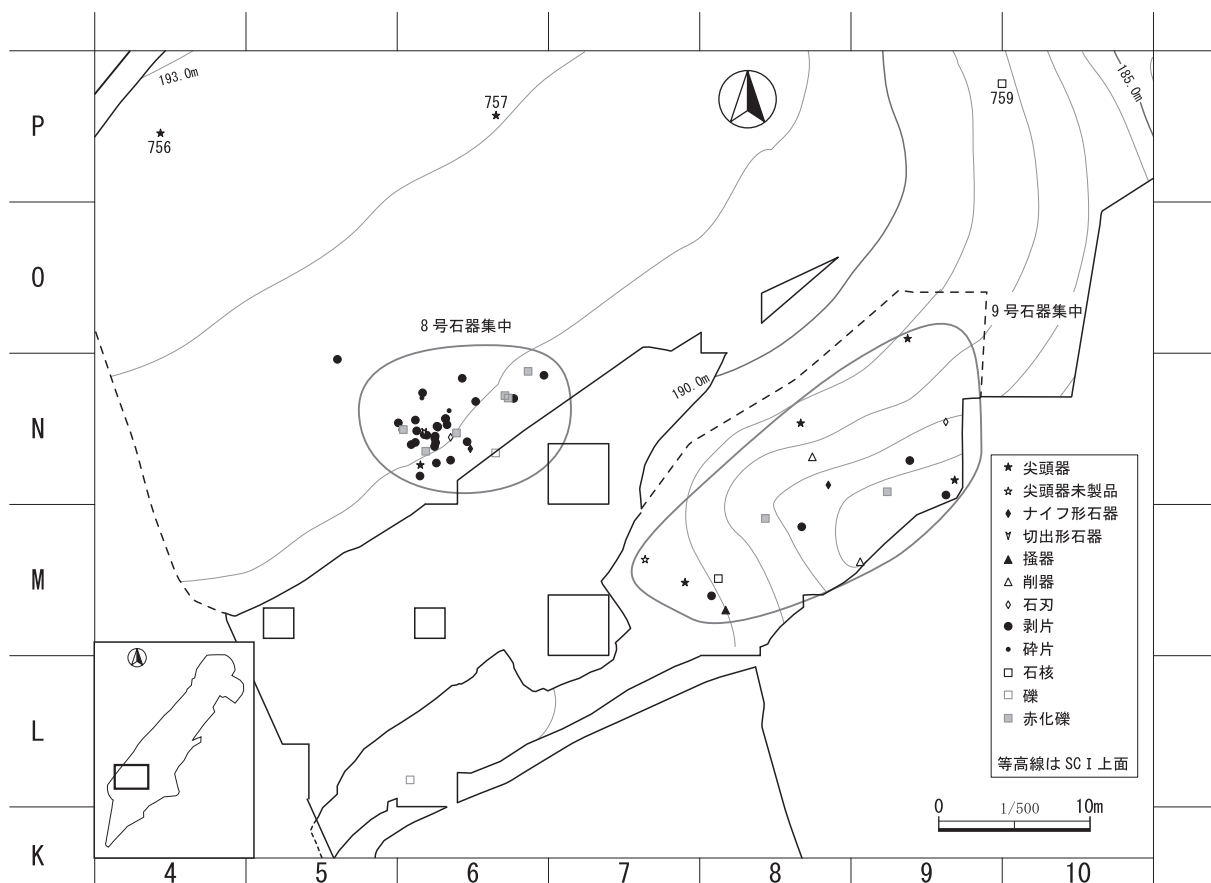
#### 9号石器集中 (第406・407図、表160)

M・N-8・9グリッド周辺で出土した石器15点から成り、分布は22m×10mの範囲に広がる。出土層位は調査時の記録によると主に休場層上位で、2点が休場層中位、3点が富士黒土層である。石器は黒曜石 (蓼科冷山産、箱根畑宿産各2点、和田鷹山産1点) 製5点、ホルンフェルス製4点、ガラス質黒色安山岩製、珪質頁岩製各2点、玉髄製、細粒安山岩製各1点で、尖頭器・尖頭器未製品5点、ナイフ形石器1点、搔器1点、削器2点である。

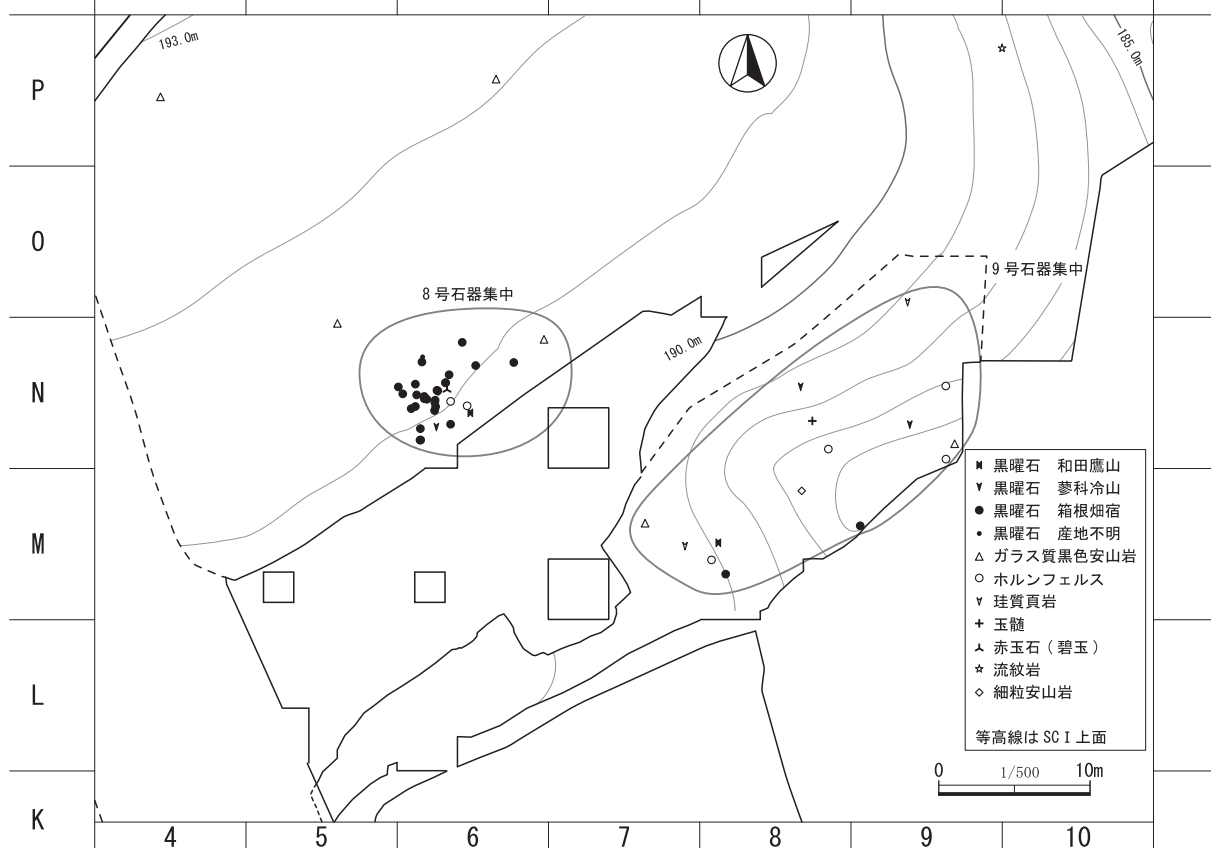
9号石器集中が位置する小支谷を遡った尾根上には8号石器集中が位置するが、構成石器・石材の共通性は低いため、ここからの遺物が流れ込んだ可能性は低い。ホルンフェルス製のナイフ形石器や石刃などはむしろ本来は第XⅦ文化層に属する資料の可能性が高く、したがって第XⅦ文化層から第XⅧ文化層の遺物が混在している可能性があるが、層位的な分離は困難であるため一括して扱う。

表159 第XⅧ文化層西支谷 石器組成

		尖頭器	尖頭器未製品	ナイフ形石器	搔器	削器	石刃	剥片	石核	計
黒曜石	和田鷹山								1	1
	蓼科冷山	1						1		2
	箱根畑宿				1	1				2
	神津島恩馳島							1		1
	黒曜石計	1			1	1		2	1	6
ガラス質黒色安山岩		1	1							2
ホルンフェルス				1			1	2		4
珪質頁岩		2								2
玉髄						1				1
細粒デイスサイト		1								1
細粒安山岩								1		1
計		5	1	1	1	2	1	5	1	17



第404図 第XⅧ文化層西支谷・西尾根（北）器種別分布



第405図 第XⅧ文化層西支谷・西尾根（北）石材別分布

(2) 9号石器集中の出土石器 (第408・409図)

尖頭器・尖頭器未製品 (739~743)

5点出土した。739はガラス質黒色安山岩製の両面加工尖頭器である。木葉形で両側縁は中央部が裏面側へ弱く湾曲している。740は珪質頁岩製の両面加工尖頭器である。折損しているが、残存部の長さだけで11.8cmあり、長幅比が5:1以上の長狭な形態を呈する。741はガラス質黒色安山岩製の尖頭器未製品である。厚手剥片を素材とし、両面加工で右側縁は鋭利な縁辺が形成されているが、左側縁は垂直に立ち上がる礫面が残されるなど加工が進展していない。742は蓼科冷山産黒曜石製の片面加工尖頭器である。厚手剥片を素材として急斜度加工で整形しており、基部には折断面を残している。743は珪質頁岩製で、正面は全面を加工しているが、裏面は素材面が広く残されている。上半部は折損した後、折れ面をさらに加工している。

ナイフ形石器 (744)

1点出土した。ホルンフェルス製で、基部は折損しているが、一側縁が加工されている。

搔器 (745)

1点出土した。箱根畑宿産黒曜石製で、右側縁を急斜度加工により弧状に整形している。尖頭器未製品の可能性もある。

削器 (746・747)

2点出土した。746は箱根畑宿産黒曜石製で、厚手剥片を折断し両側縁に急斜度加工を施している。747は玉髓製で、縦長剥片を素材とし両側縁に急斜度加工で刃部を設けている。

剥片類・石核 (748・749)

石刃1点、剥片4点、石核1点が出土した。

748はホルンフェルス製の石刃である。749は和田鷹山産黒曜石製の石核である。正面・右側面の剥離痕が新鮮であり、他の面は風化が進んでいる。

(3) 石器集中外の出土石器 (第410図)

尖頭器1点、剥片1点が出土した。

750は細粒デイサイト製の両面加工尖頭器である。加工はやや粗く、正面側が凸になっている。V-13グリッド出土。

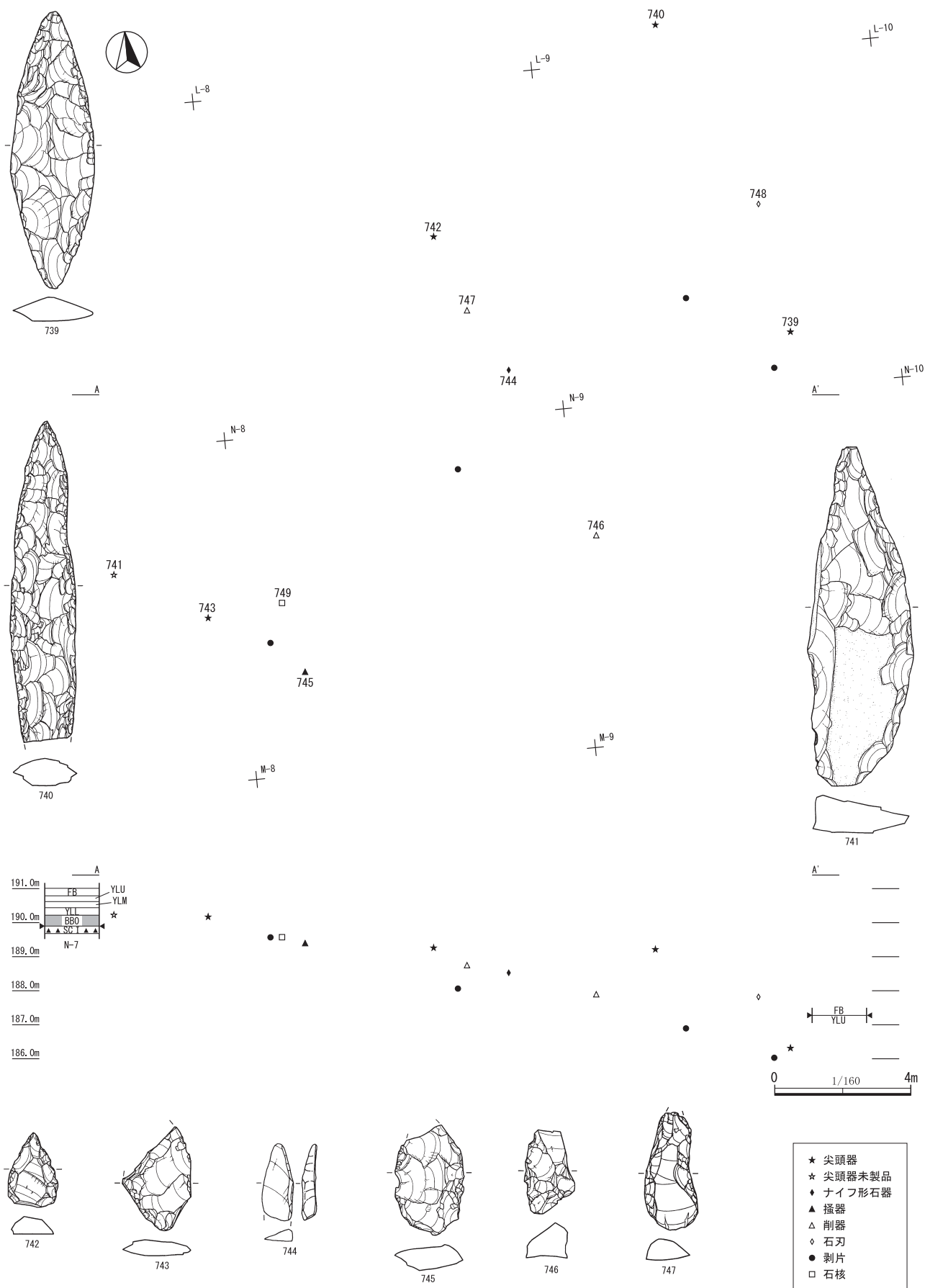
表160 第XVIII文化層9号石器集中 石器組成

		尖頭器	尖頭器未製品	ナイフ形石器	搔器	削器	石刃	剥片	石核	計
黒曜石	和田鷹山								1	1
	蓼科冷山	1						1		2
	箱根畑宿				1	1				2
	黒曜石計	1			1	1		1	1	5
ガラス質黒色安山岩		1	1							2
ホルンフェルス				1			1	2		4
珪質頁岩		2								2
玉髓						1				1
細粒安山岩								1		1
計		4	1	1	1	2	1	4	1	15

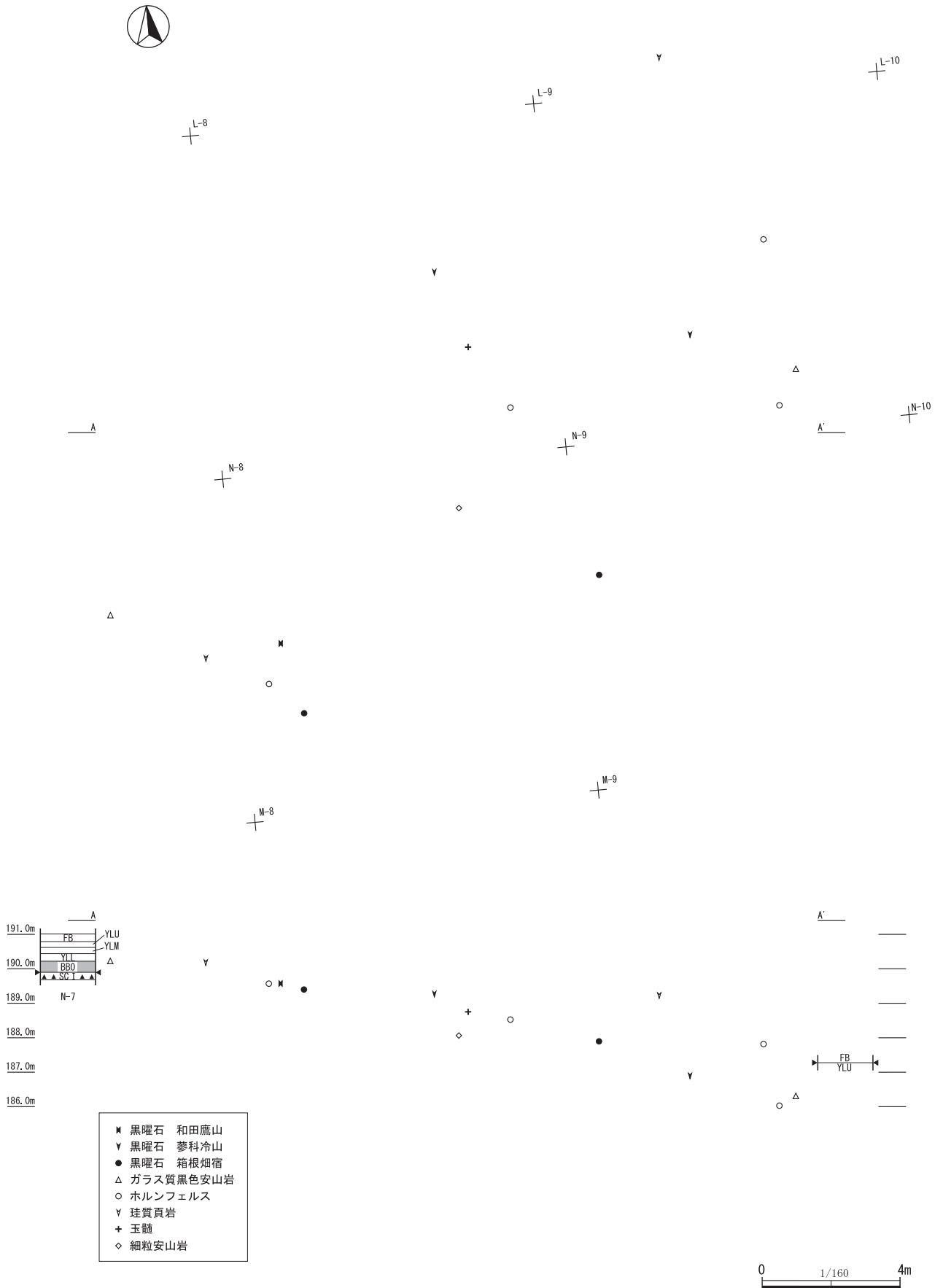
表161 第XVIII文化層西支谷 礫群属性

礫群番号	構成礫数	赤化			形態			石材				
		完形	非完形		垂角	垂円	円	安山岩	輝石安山岩	多孔質	玄武岩	多孔質
		赤化	非赤化	赤化1								
遺構外	19	9	2	8	13	5	1	6	1	7	5	

赤化1: 全面が赤化

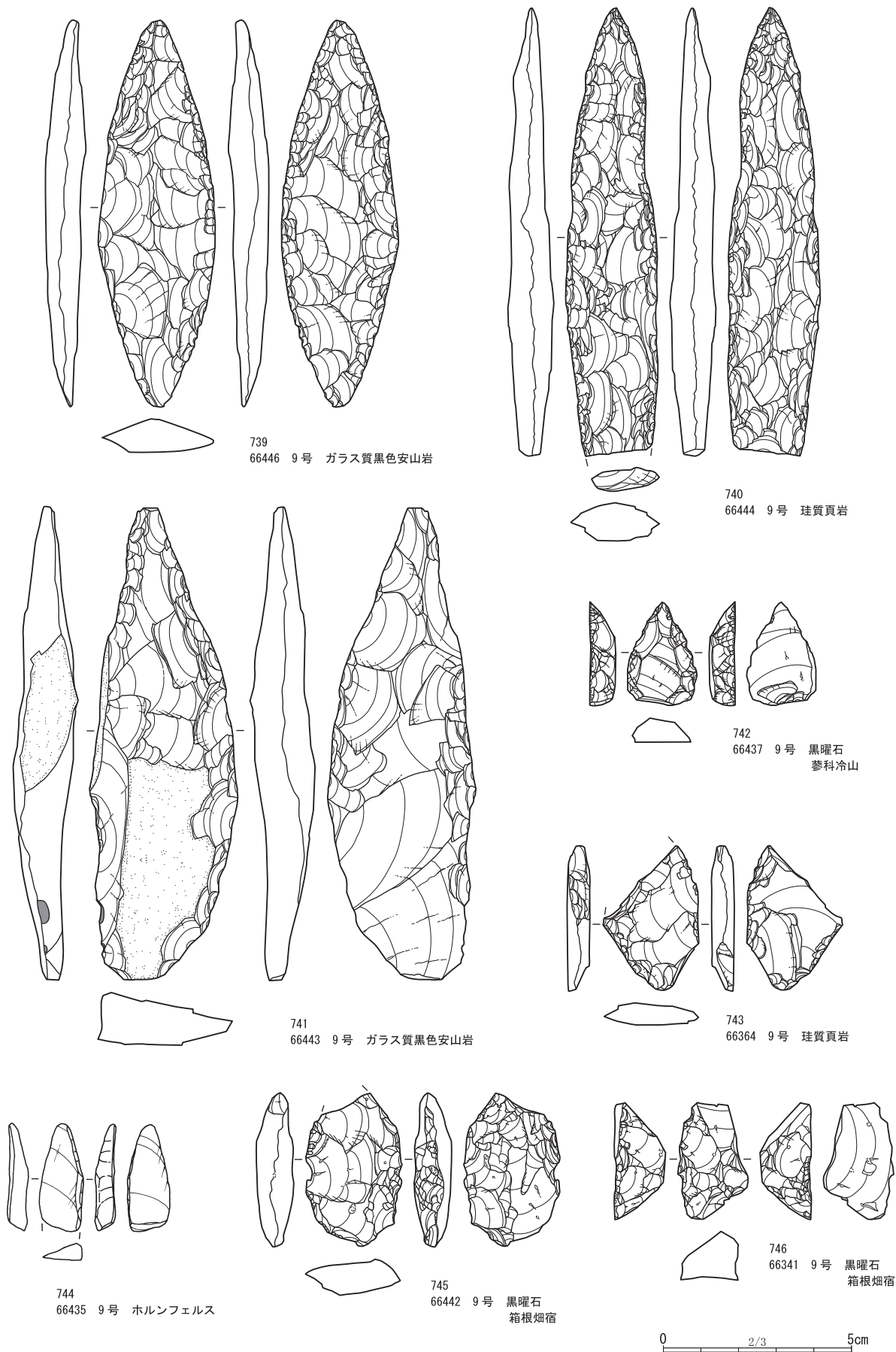


第406図 第XVIII文化層9号石器集中 器種別分布

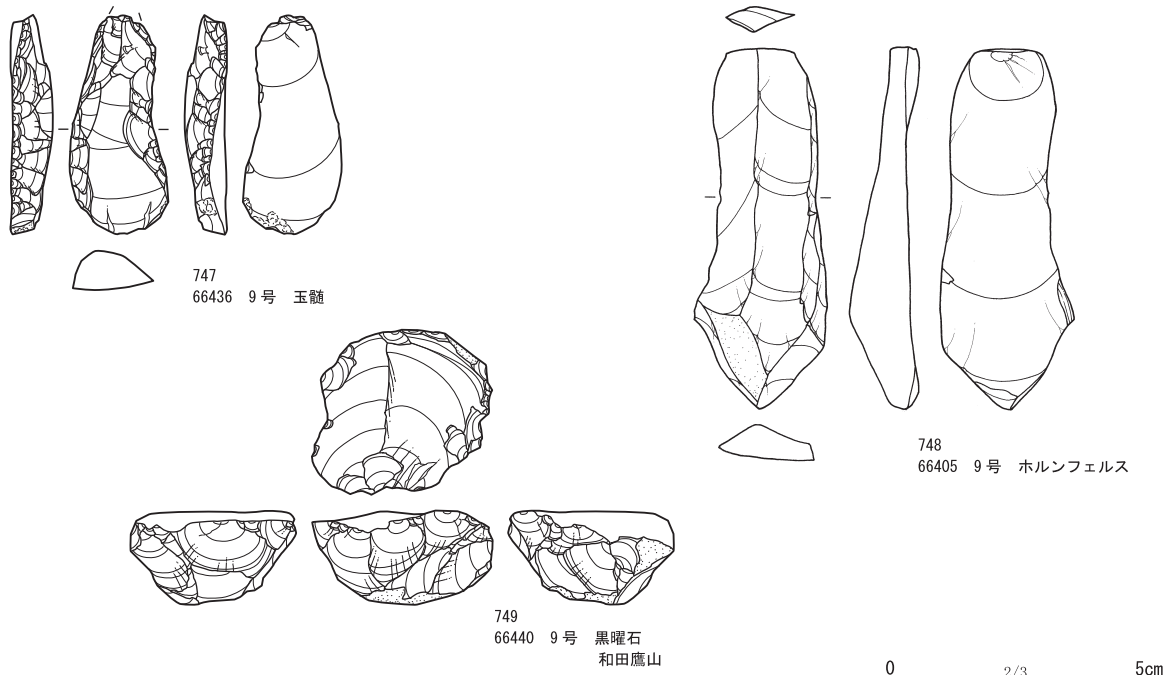


第407図 第Ⅷ文化層9号石器集中 石材別分布

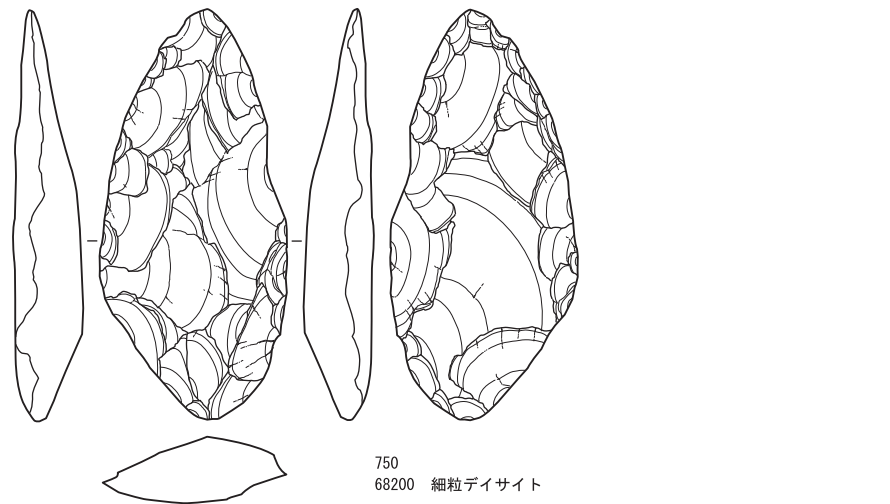




第408図 第XVIII文化層西支谷 石器集中(1)



第409図 第XⅧ文化層西支谷 石器集中(2)



第410図 第XⅧ文化層西支谷 石器集中外

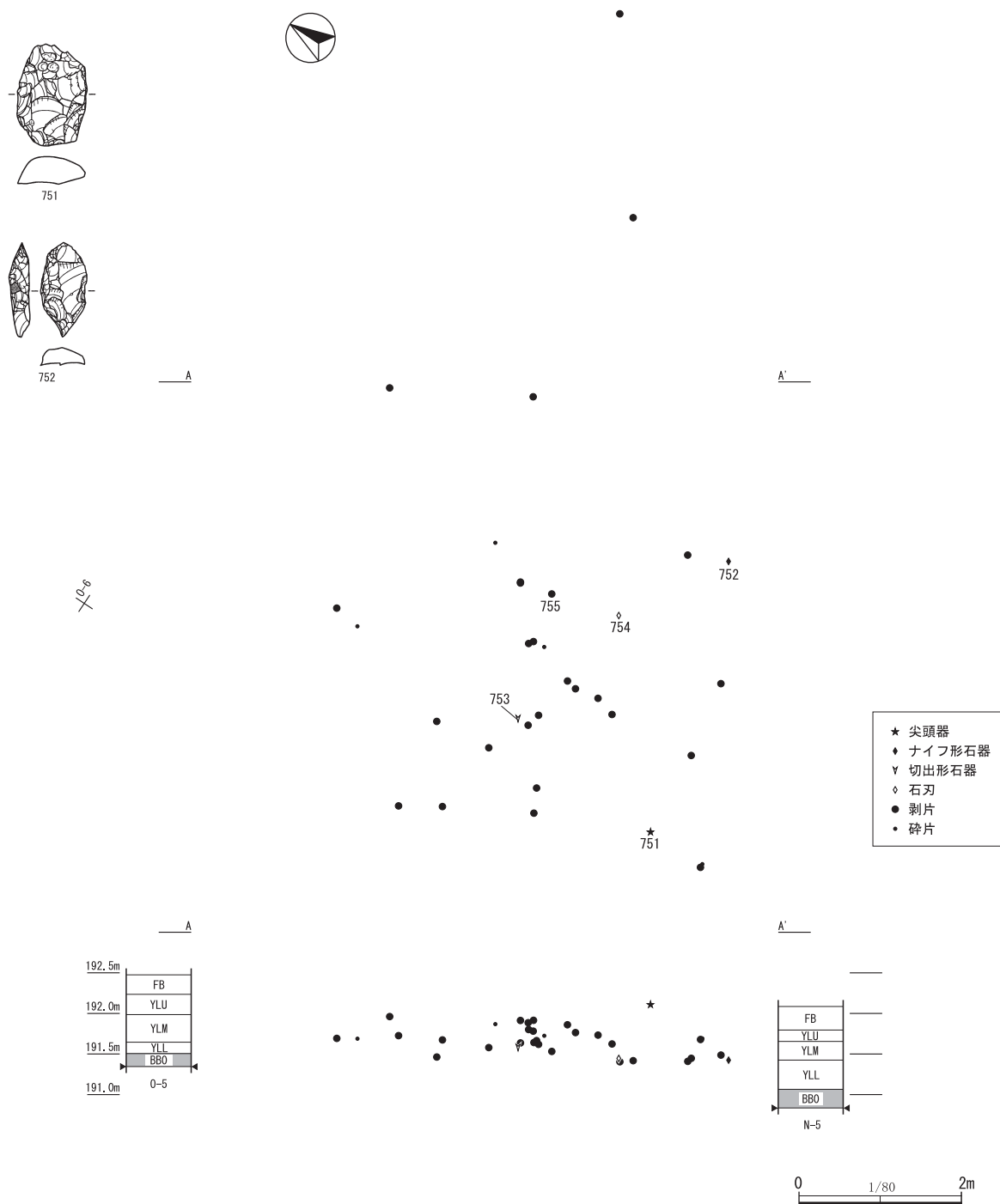
## 6. 西尾根(北)の遺物群

### (1) 遺物の分布(第404・405図)

石器39点、礫8点が出土した(表162・164)。遺物の大半は8号石器集中などN-6グリッド付近に分布する。

### 8号石器集中(第411・412図、表163)

N-6グリッドで出土した石器34点から成る。出土層位は主に休場層中位から上位である。石器は径約5mの範囲にまとまるが、その周辺に分布するものまで含めた。石器は黒曜石(箱根畑宿産26点、和田鷹山産、蓼科冷山産各1点など)製30点、ホルンフェルス製2点、ガラス質黒色安山岩製、赤玉石製各1点で、尖頭器、ナイフ形石器、切出形石器各1点が含まれる。



第411図 第XVIII文化層8号石器集中 器種別分布

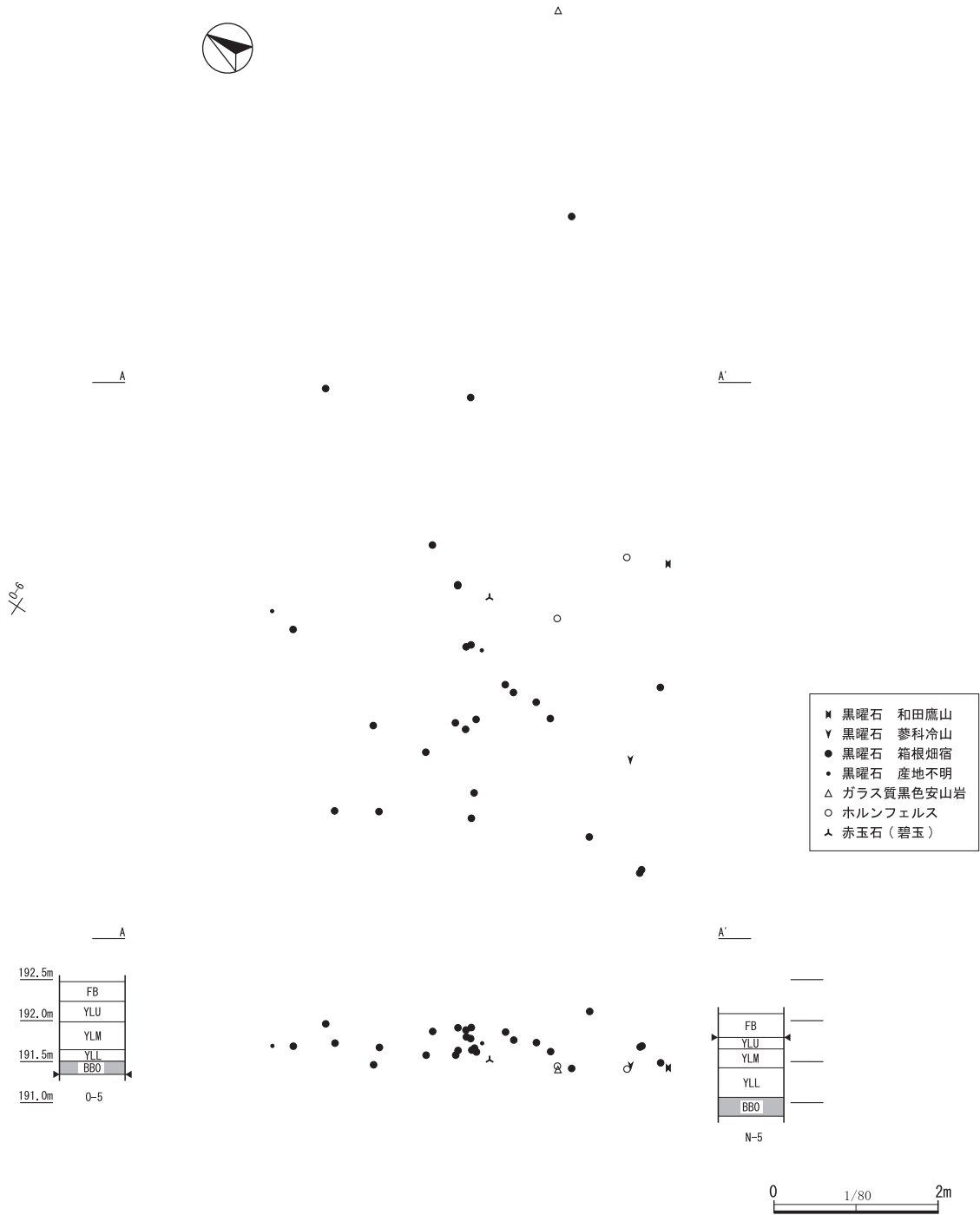
(2) 8号石器集中の出土石器 (第413図)

尖頭器 (751)

1点出土した。箱根畑宿産黒曜石製、両面加工であるが裏面の加工が平坦で、正面側が凸になる形態である。先端を欠損している。

ナイフ形石器 (752)

1点出土した。和田鷹山産黒曜石製、二側縁加工で、基部はV字に交差した素材剥片の側面と折れ面を残している。

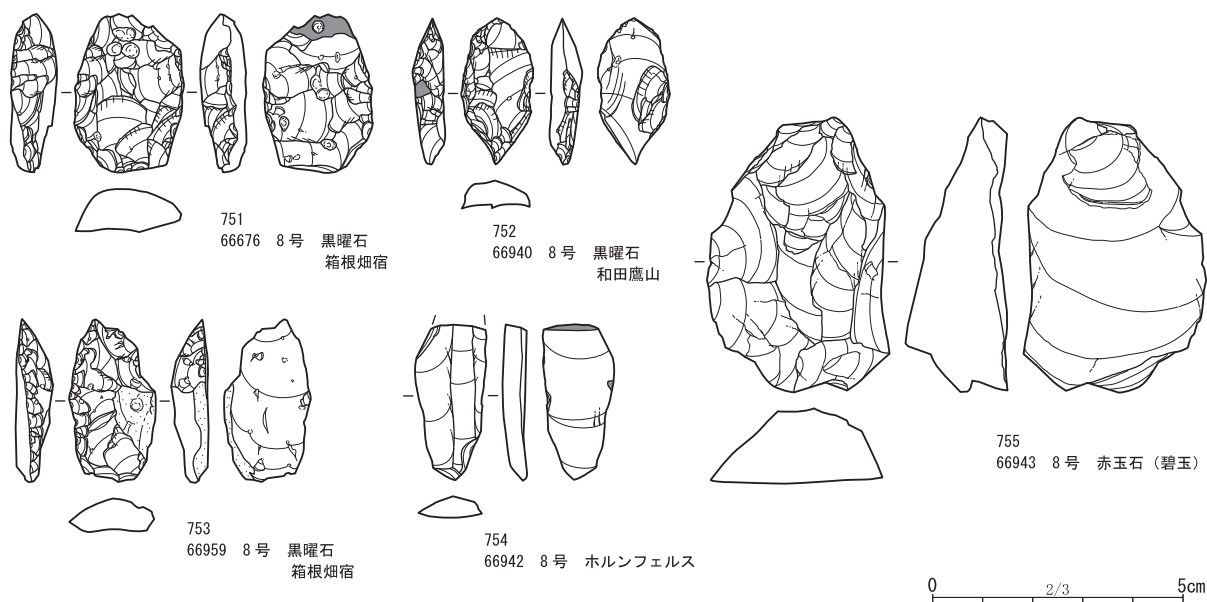


切出形石器 (753)

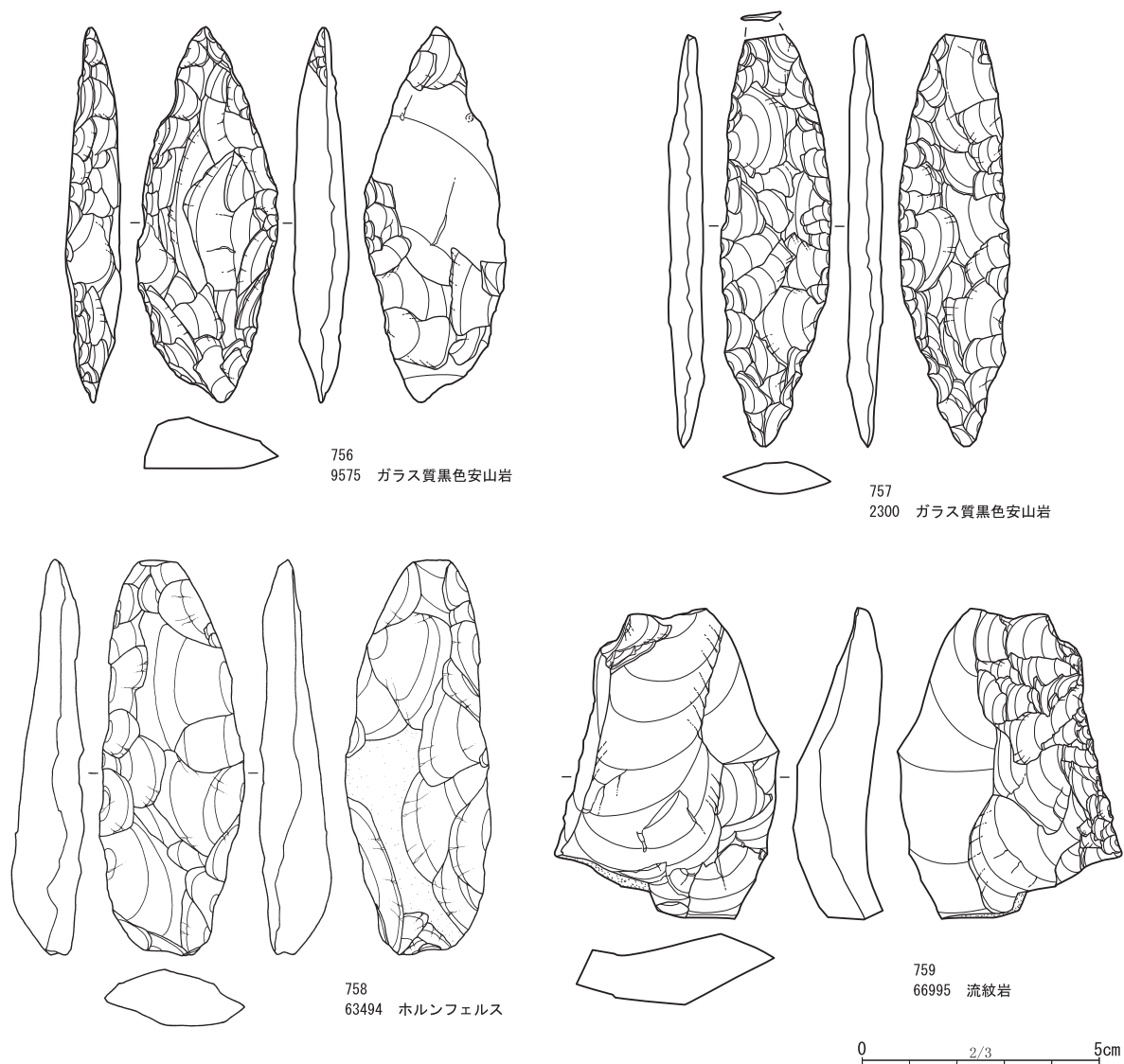
1点出土した。箱根畑宿産黒曜石製で、左側縁は基部から先端まで加工し、右側縁は平坦な礫面を残して部分的に加工し、先端部に僅かに斜刃の刃部を残している。

剥片類 (754・755)

石刃1点、剥片26点、碎片4点が出土した。剥片類は大部分が箱根畑宿産黒曜石製で、長さ5cm台、3cm台が各1点あるが、それ以外は3cm以下の小型の剥片である。その他、蓼科冷山産黒曜石製、ガラス質黒色安山岩製、ホルンフェルス製、赤玉石製の資料が1点ずつ出土している。



第413図 第XVIII文化層西尾根（北）石器集中



第414図 第XVIII文化層西尾根（北）石器集中外

754はホルンフェルス製の石刃である。幅1.4cm程度の小型のものである。755は赤玉石製の剥片で、厚手・大型であるが単独出土である。

(3) 石器集中外の出土石器 (第414図)

尖頭器3点、剥片1点、石核1点が出土した。

756～758は尖頭器である。756はガラス質黒色安山岩製で、主として正面側が加工され、断面はD字状を成す。裏面には基部側と先端に平坦加工が入る。P-4グリッド出土。757はガラス質黒色安山岩製、両面加工で薄手・長狭な形態のものである。左右非対称な形態で左側縁基部に屈曲部があることから縄文時代草創期の有茎尖頭器の未製品であった可能性もある。P-6グリッド、富士黒土層出土。758はホルンフェルス製、両面加工である。風化により剥離痕がやや不明瞭になっているが先端が尖らず加工はやや粗いようであり、厚手で一部に礫面が残っていることから、未製品であった可能性もある。T-7グリッド出土。

759は流紋岩製の石核である。剥片の左側縁部を打面として腹面で剥片剥離が行われている。P-9グリッド出土。

7. 西尾根 (南) の遺物群

(1) 遺物の分布 (第415・416図)

石器120点、礫67点が出土した (表165・173)。遺物分布はZV～E-1～4グリッドの範囲に広がる。全体的に遺物の分布密度は低い、相対的に密な部分をもとに石器集中を設定した。北側に10号石器集中・17号礫群が分布し、南側に11～16号石器集中、18～20号礫群が並ぶ。この部分は調査区の南端部にあたり、遺物は調査区外まで広がっていた可能性がある。

10号石器集中 (第417・418図、表166)

C-1グリッド北西部周辺から出土した石器5点から成る。17号礫群付近から出土した石器をまとめたもので、出土層位は主に休場層中位から上位である。石器は輝石安山岩製2点、神津島恩馳島産黒曜石製、ガラス質黒色安山岩製、多孔質安山岩製各1点で、尖頭器、楔形石器、台石各1点と敲石2点から成る。

11号石器集中 (第419・420図、表167)

A-3、ZZ-3・4グリッドにかけて出土した石器10点から成る。出土層位は主に休場層中位である。

表162 第XVIII文化層西尾根 (北) 石器組成

	尖頭器	ナイフ形石器	切出形石器	石刃	剥片	砕片	石核	計
和田鷹山		1						1
黒曜石					1			1
蓼科冷山					21	3		26
箱根畑宿	1		1		1	1		2
産地不明					1	1		2
黒曜石計	1	1	1		23	4		30
ガラス質黒色安山岩	2				2			4
ホルンフェルス	1			1	1			3
赤玉石 (碧玉)					1			1
流紋岩							1(1)	1(1)
計	4	1	1	1	27	4	1(1)	39(1)

括弧内は全体数の内、微細剥離痕のあるものの点数。

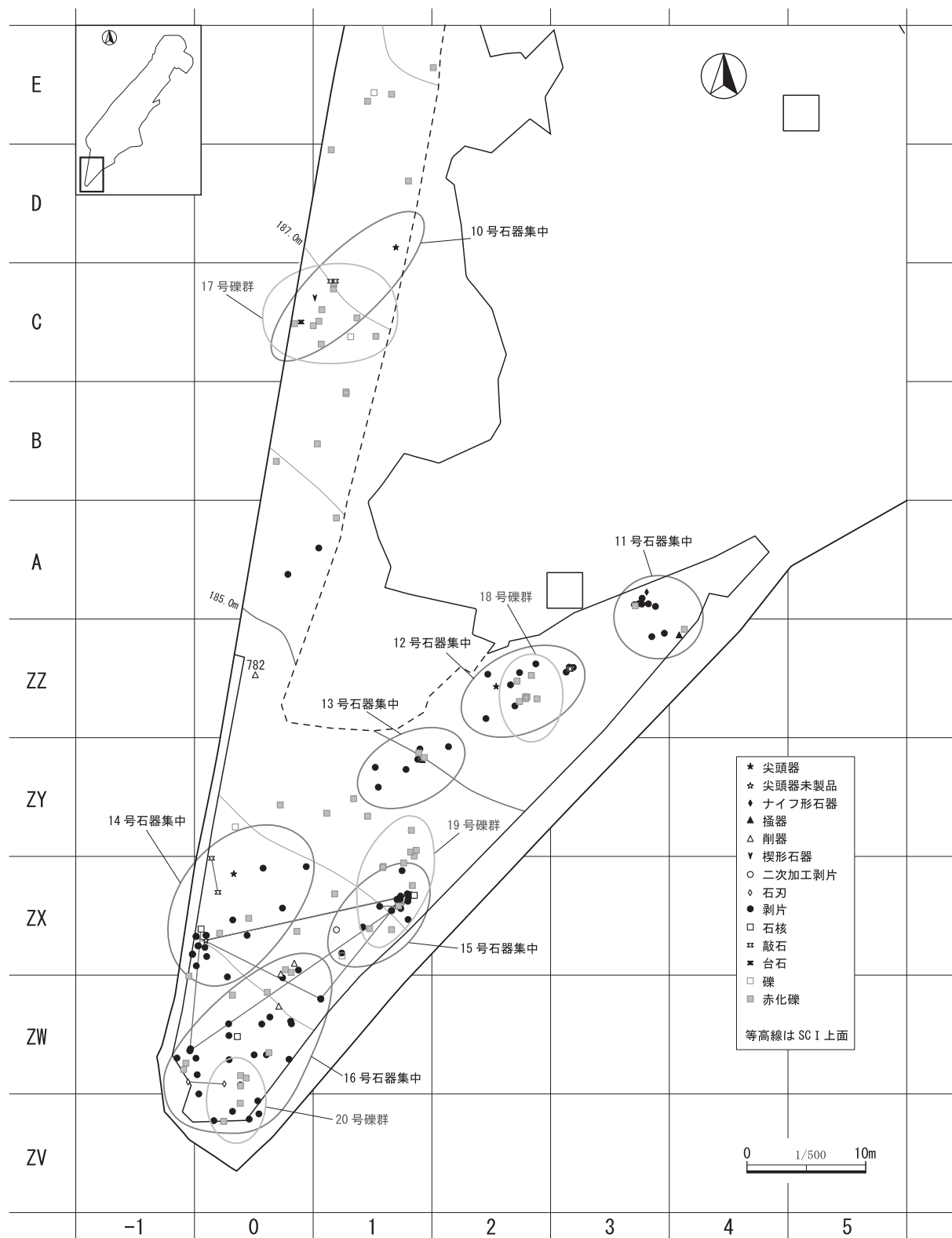
表163 第XVIII文化層8号石器集中 石器組成

	尖頭器	ナイフ形石器	切出形石器	石刃	剥片	砕片	計
和田鷹山		1					1
黒曜石					1		1
蓼科冷山					21	3	26
箱根畑宿	1		1		1	1	2
産地不明					1	1	2
黒曜石計	1	1	1		23	4	30
ガラス質黒色安山岩					1		1
ホルンフェルス				1	1		2
赤玉石 (碧玉)					1		1
計	1	1	1	1	26	4	34

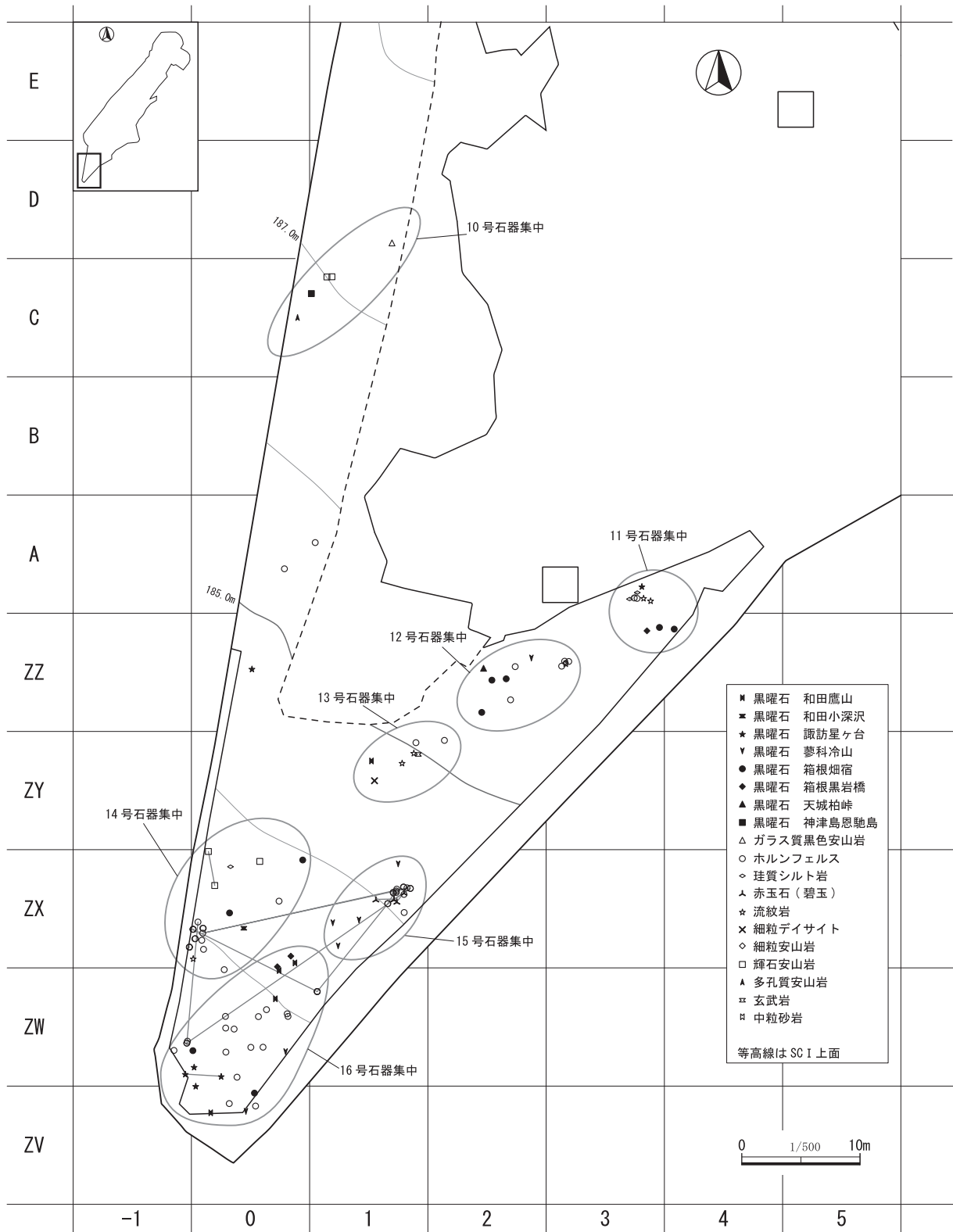
表164 第XVIII文化層西尾根 (北) 礫群属性

礫群番号	構成礫数	赤化				形態			石材			
		完形		非完形		垂角	垂円	円	安山岩	輝石	玄武岩	多孔質
		非赤化	赤化	非赤化	赤化1							
遺構外	8	1	3	1	3	4	3	1	4	4		

赤化1: 全面が赤化

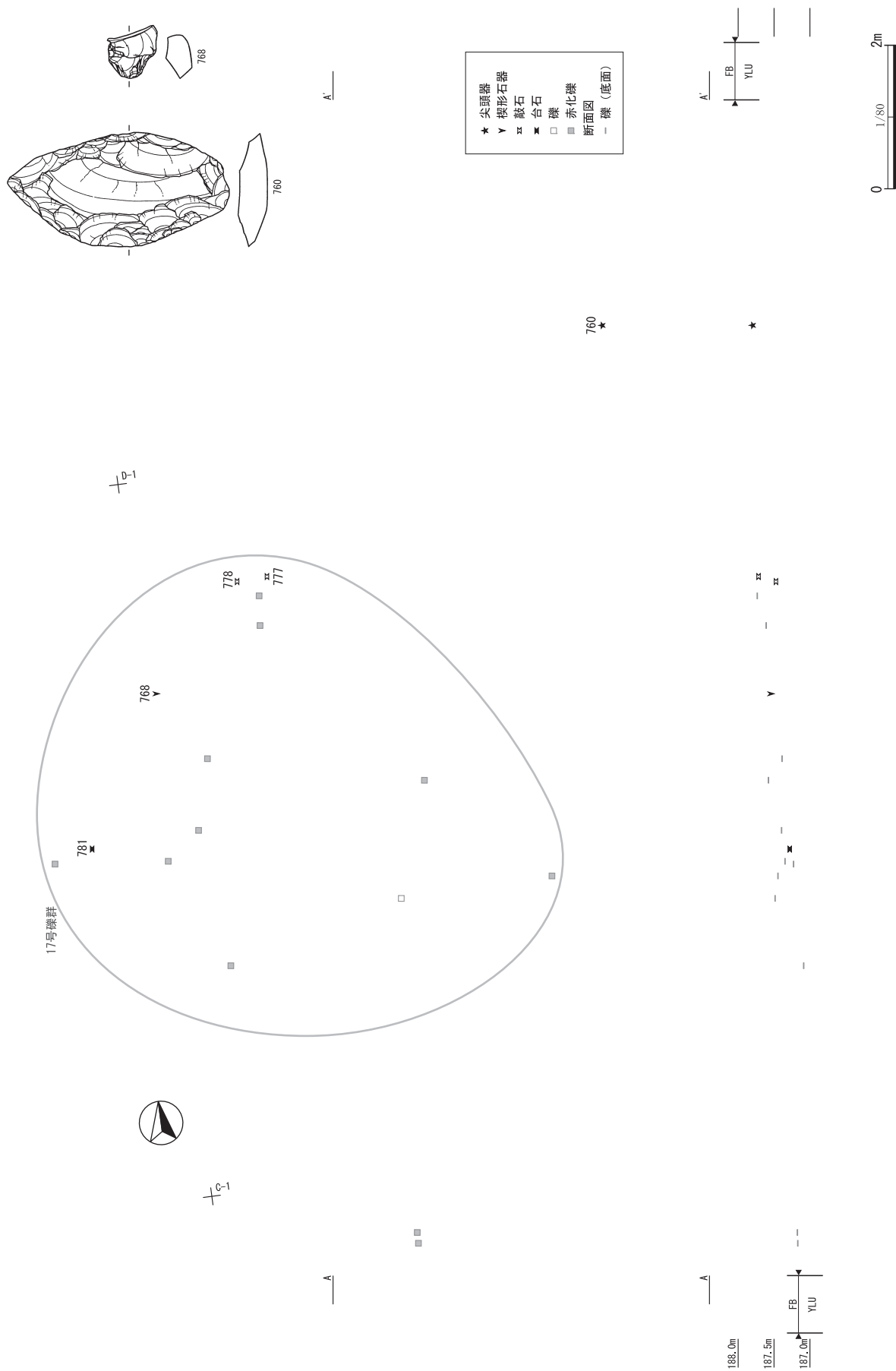


第415図 第XVIII文化層西尾根（南）器種別分布

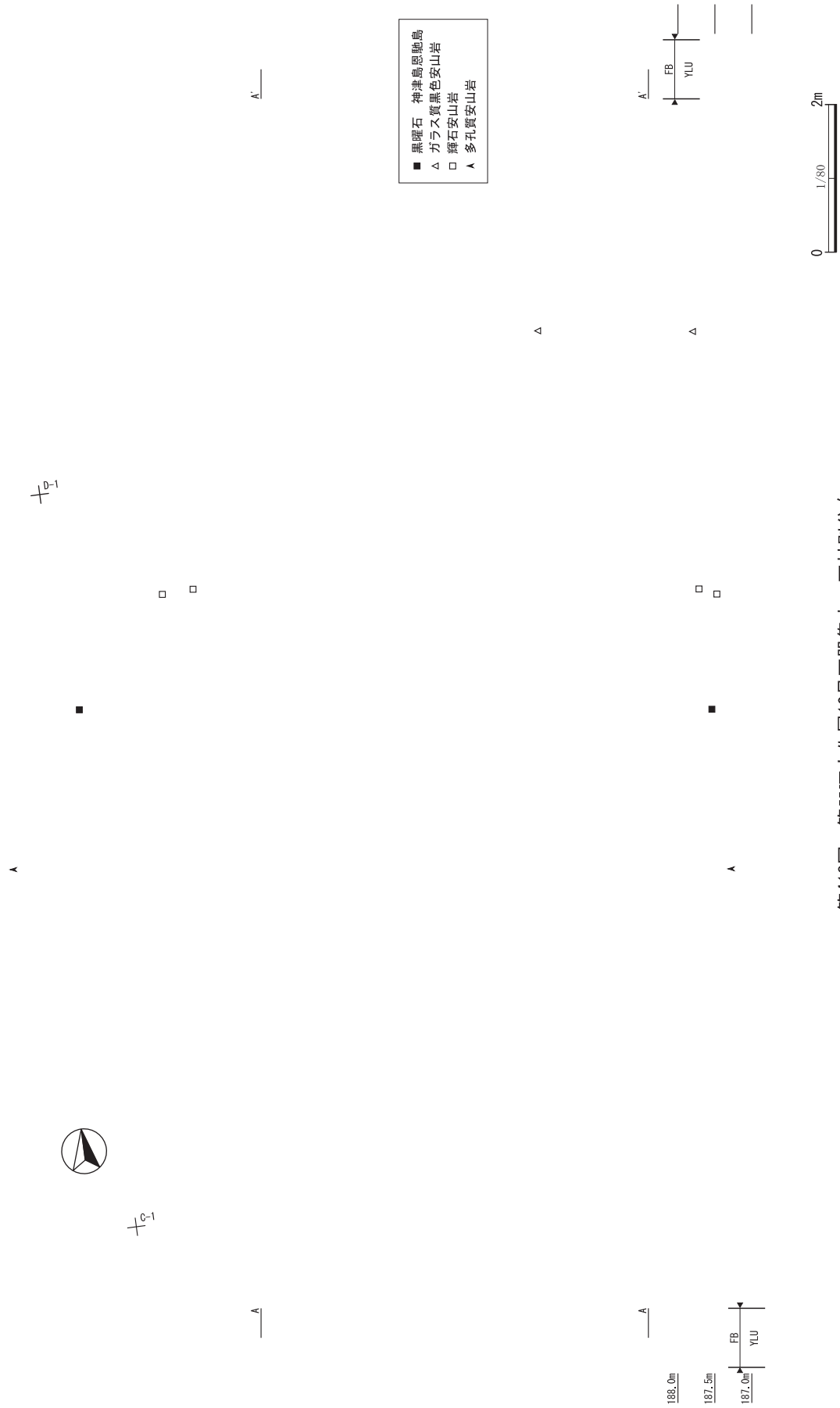


第416図 第XVIII文化層西尾根(南) 石材別分布

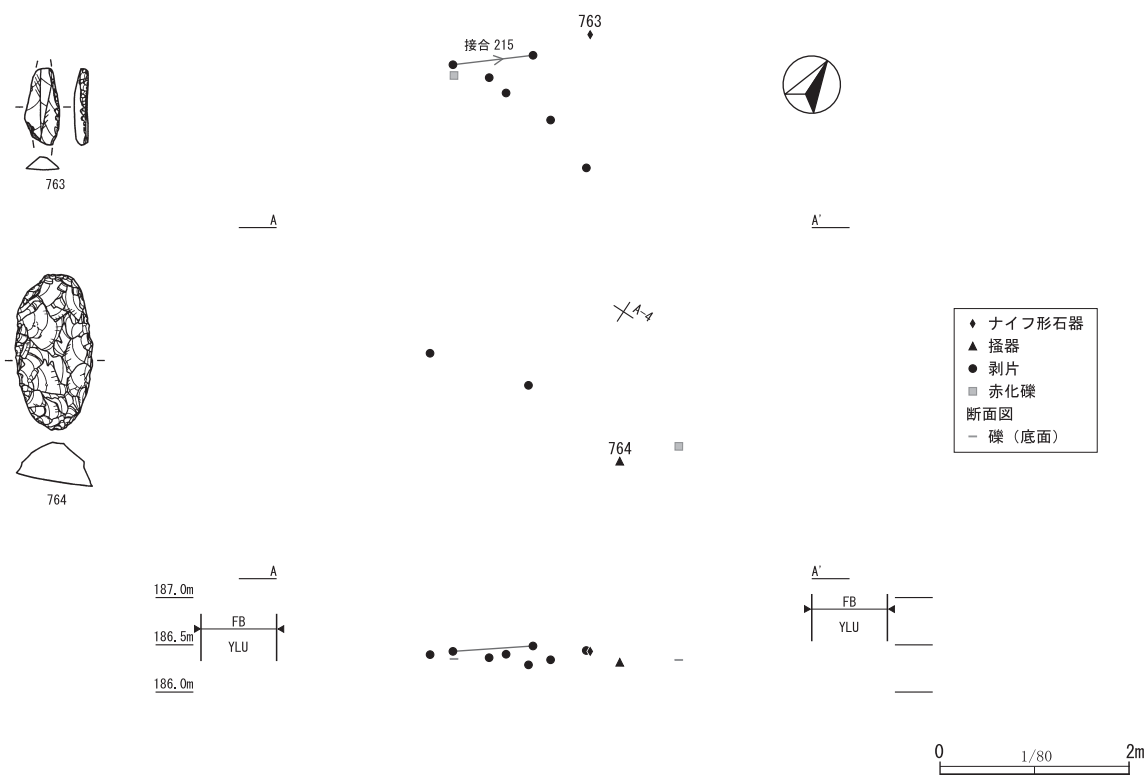




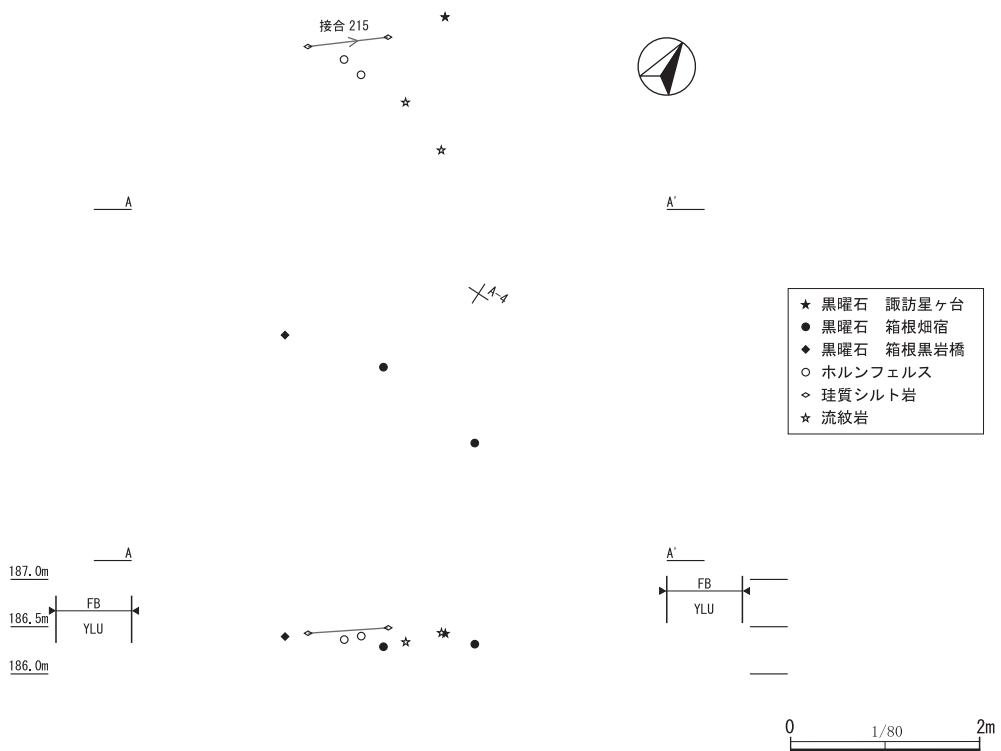
第417図 第XVIII文化層10号石器集中 器種別分布、17号礫群



第418図 第Ⅷ文化層10号石器集中 石材別分布



第419図 第XVIII文化層11号石器集中 器種別分布



第420図 第XVIII文化層11号石器集中 石材別分布

表165 第Ⅷ文化層西尾根（南） 石器組成

		尖頭器	尖頭器未製品	ナイフ形石器	搔器	削器	楔形石器	二次加工剥片	石刃	剥片	石核	敲石	台石	計
黒曜石	和田鷹山					1				4(3)				5(3)
	和田小深沢									1				1
	諏訪星ヶ台			1		1			2(1)	2				6(1)
	蓼科冷山							1		6(2)				7(2)
	箱根畑宿	1			1					7				9
	箱根黒岩橋					2				1(1)				3(1)
	天城柏峠									1				1
	神津島恩馳島						1							1
黒曜石計	1		1	1	4	1	1	2(1)	22(6)				33(7)	
ガラス質黒色安山岩	1													1
ホルンフェルス		1								58	3			62
珪質シルト岩	1									2				3
赤玉石（碧玉）										6				6
流紋岩										5(1)				5(1)
細粒デイサイト										1				1
細粒安山岩												1		1
輝石安山岩										1		4		5
多孔質安山岩													1	1
玄武岩													1	1
中粒砂岩												1		1
計		3	1	1	1	4	1	1	2(1)	95(7)	3	6	2	120(8)

括弧内は全体数の内、微細剥離痕のあるものの点数。

表166 第Ⅷ文化層10号石器集中 石器組成

		尖頭器	楔形石器	敲石	台石	計
黒曜石	神津島恩馳島		1			1
	ガラス質黒色安山岩	1				1
	輝石安山岩			2		2
	多孔質安山岩				1	1
計		1	1	2	1	5

表167 第Ⅷ文化層11号石器集中 石器組成

		ナイフ形石器	搔器	剥片	計
黒曜石	諏訪星ヶ台	1			1
	箱根畑宿		1	1	2
	箱根黒岩橋			1(1)	1(1)
	黒曜石計	1	1	2(1)	4(1)
	ホルンフェルス			2	2
	珪質シルト岩			2	2
	流紋岩			2	2
計		1	1	8(1)	10(1)

括弧内は全体数の内、微細剥離痕のあるものの点数。

表168 第Ⅷ文化層12号石器集中 石器組成

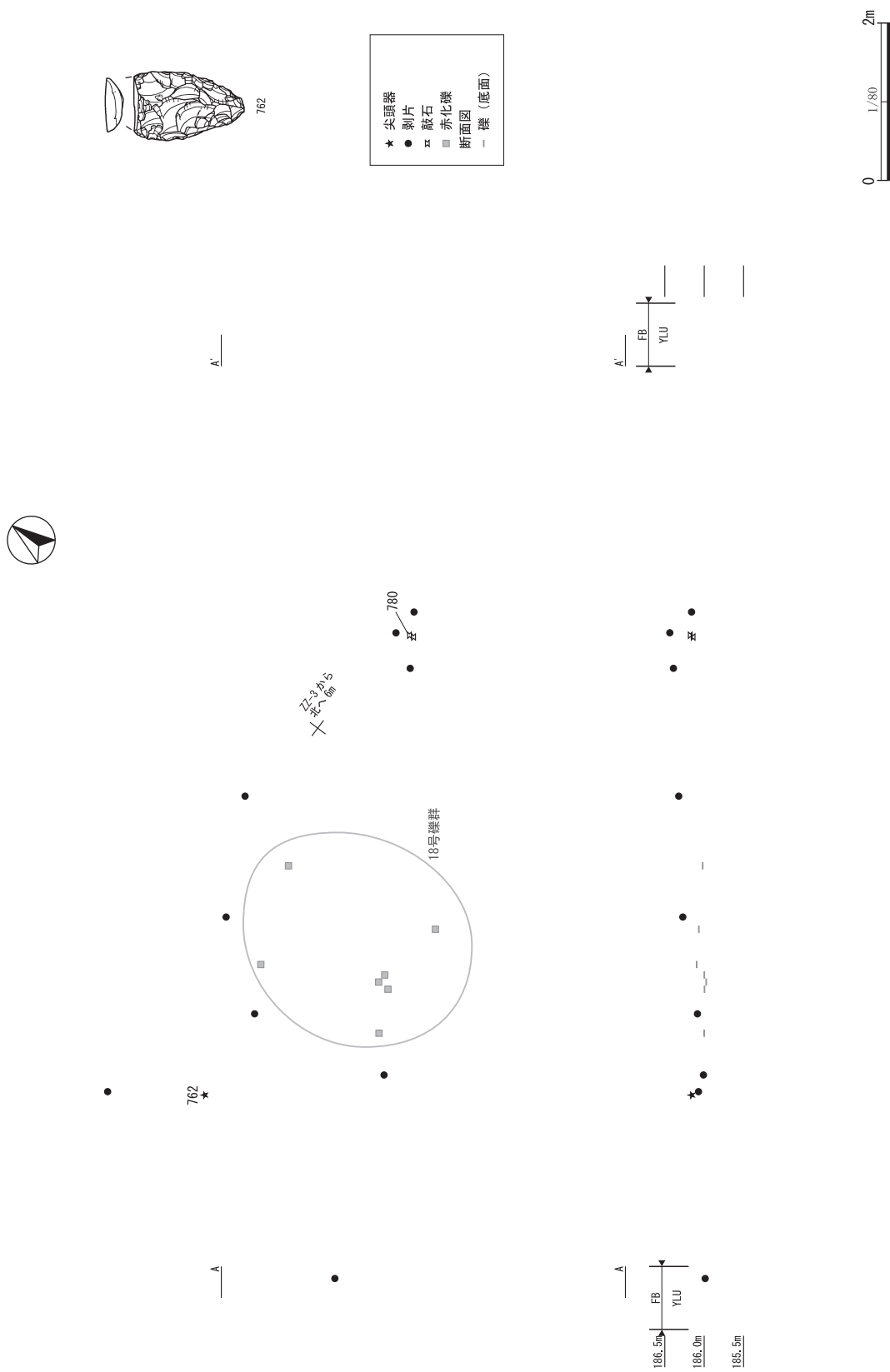
		尖頭器	剥片	敲石	計
黒曜石	蓼科冷山		1(1)		1(1)
	箱根畑宿	1	2		3
	天城柏峠		1		1
	黒曜石計	1	4(1)		5(1)
	ホルンフェルス		5		5
	細粒安山岩			1	1
	中粒砂岩			1	1
計		1	9(1)	2	12(1)

括弧内は全体数の内、微細剥離痕のあるものの点数。

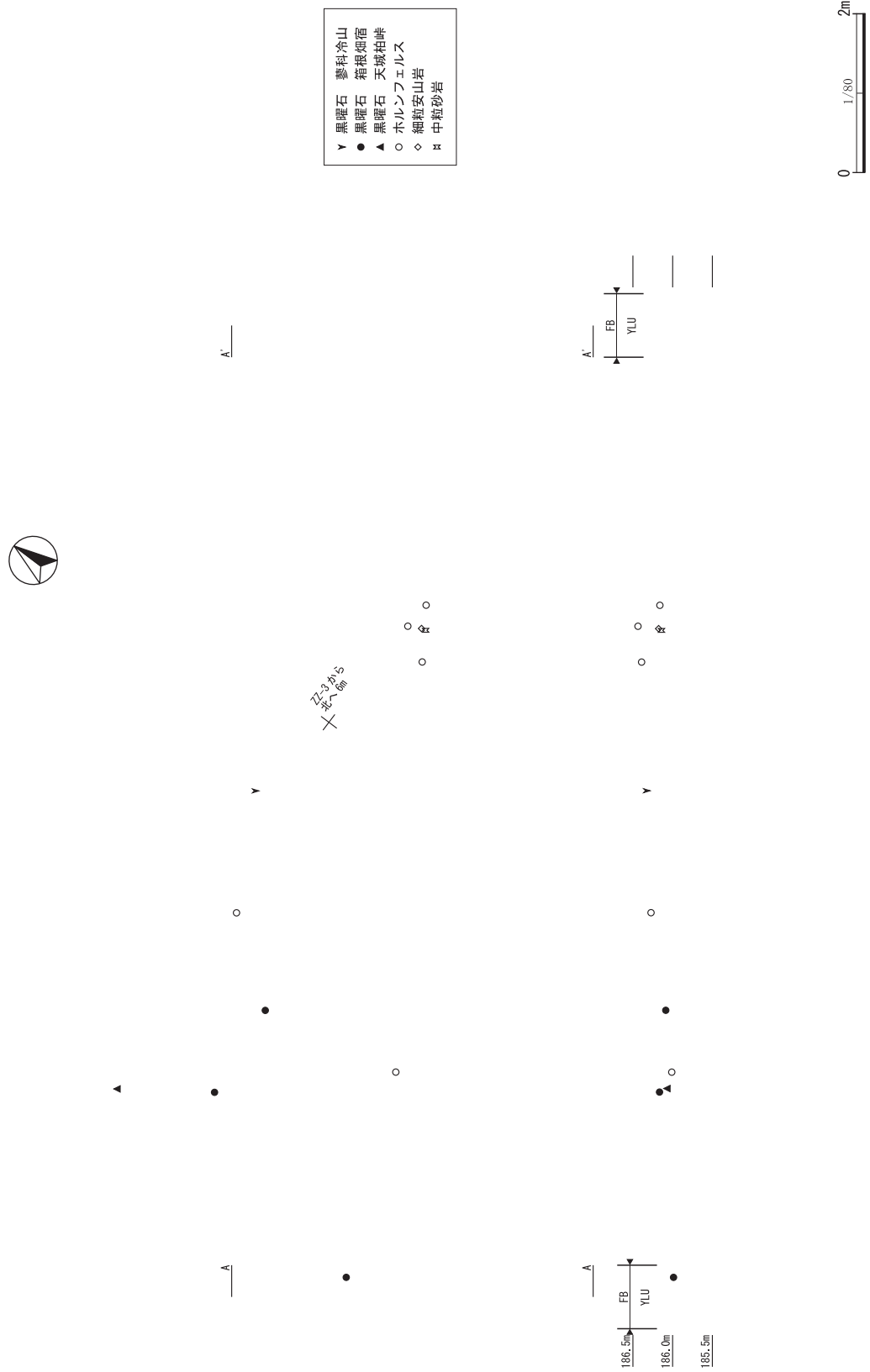
表169 第Ⅷ文化層13号石器集中 石器組成

		剥片	台石	計
黒曜石	和田鷹山	1(1)		1(1)
	ホルンフェルス	2		2
	流紋岩	2		2
	細粒デイサイト	1		1
	玄武岩		1	1
計		6(1)	1	7(1)

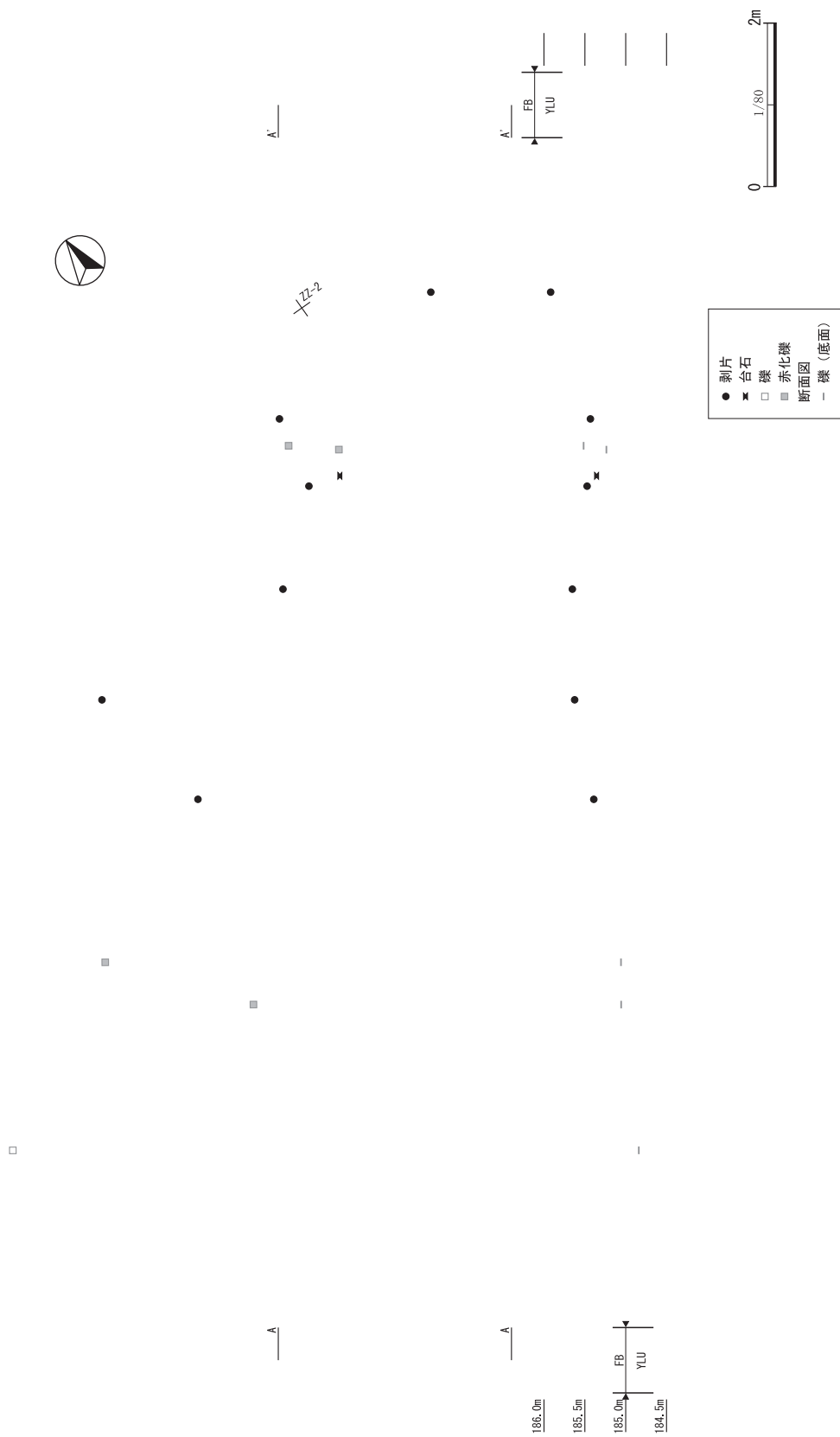
括弧内は全体数の内、微細剥離痕のあるものの点数。



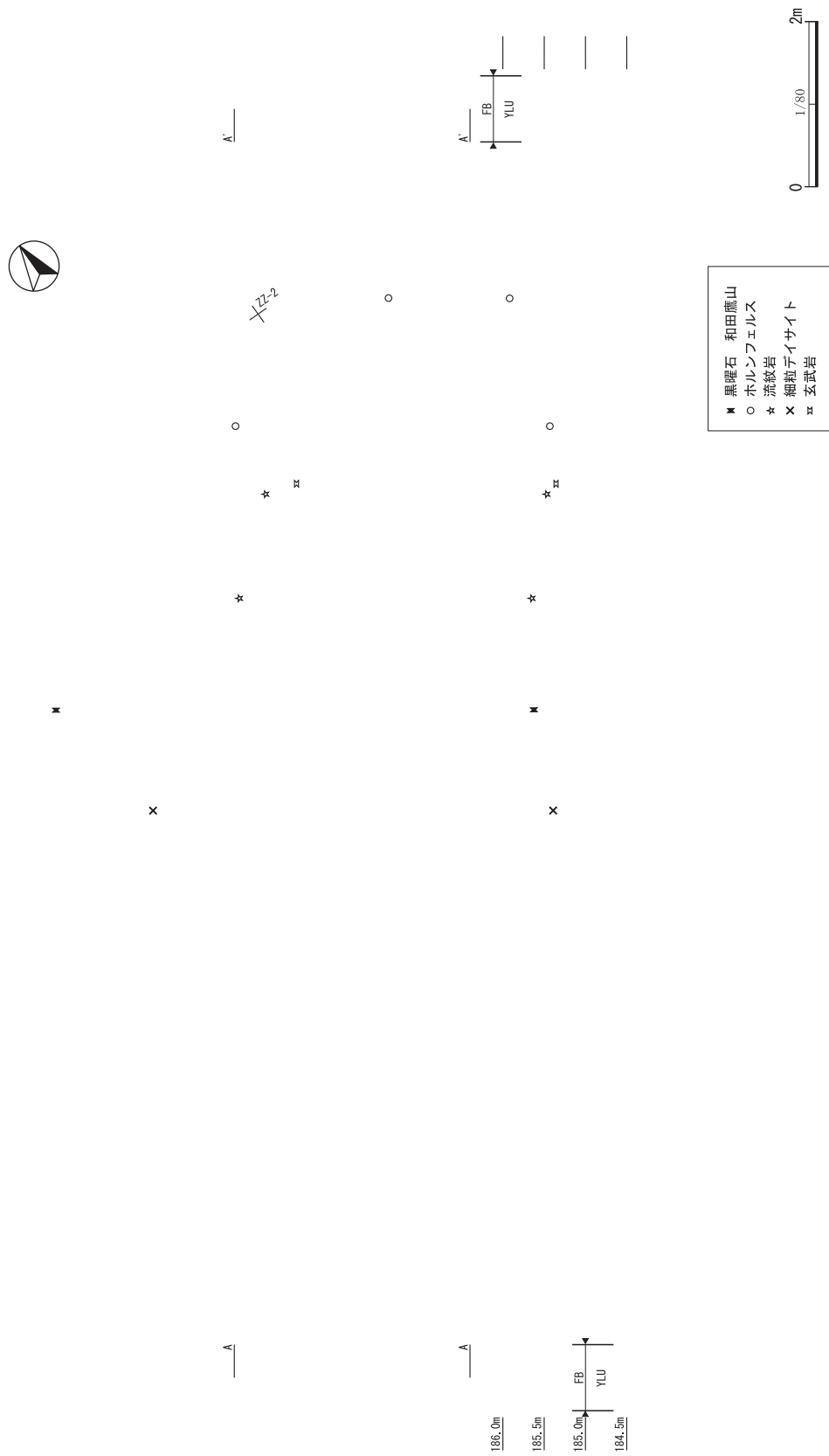
第421图 第XVIII文化層12号石器集中 器種別分布、18号礫群



第422図 第Ⅷ文化層12号石器集中 石材別分布

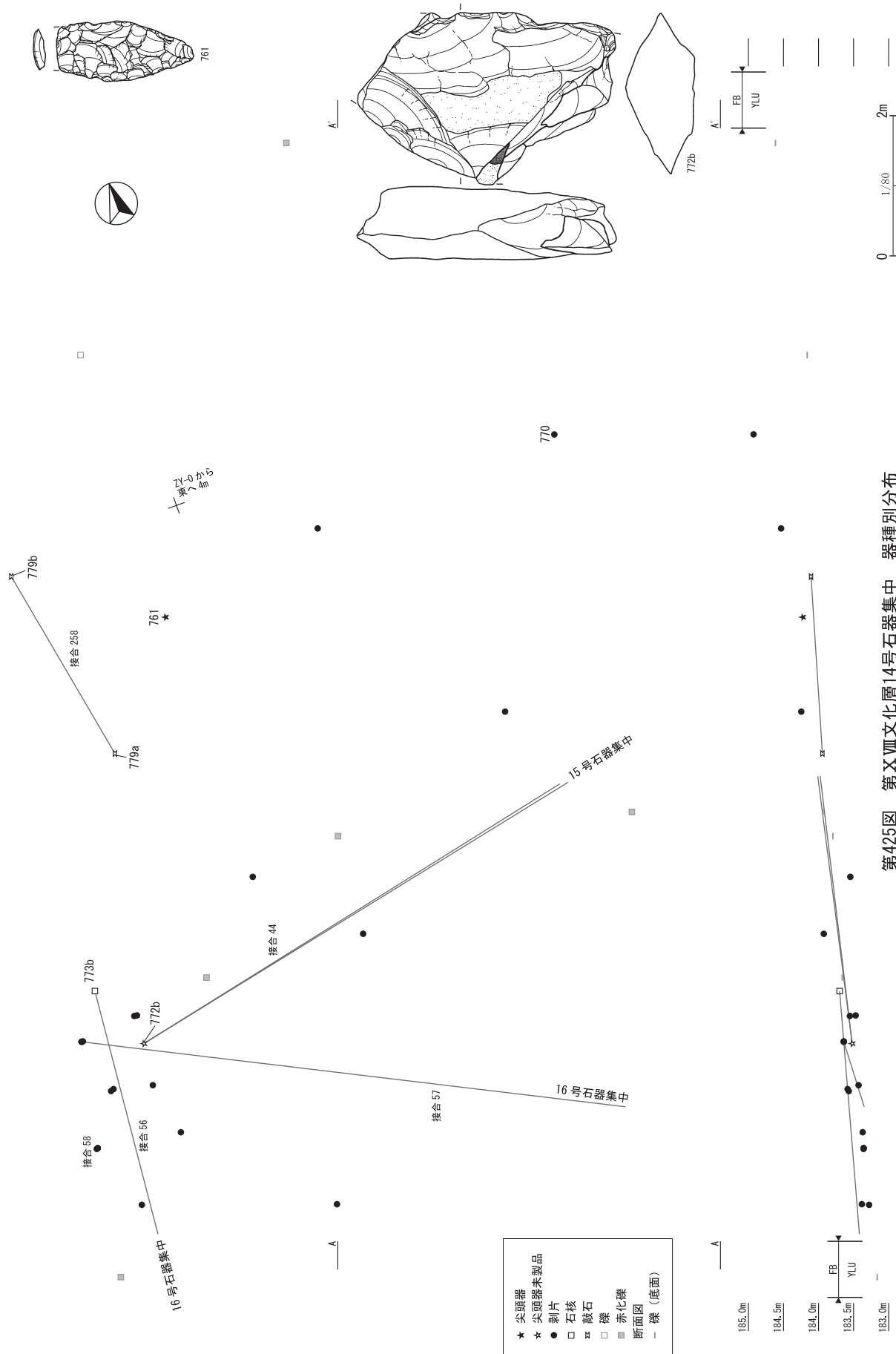


第423図 第XVIII文化層13号石器集中 器種別分布

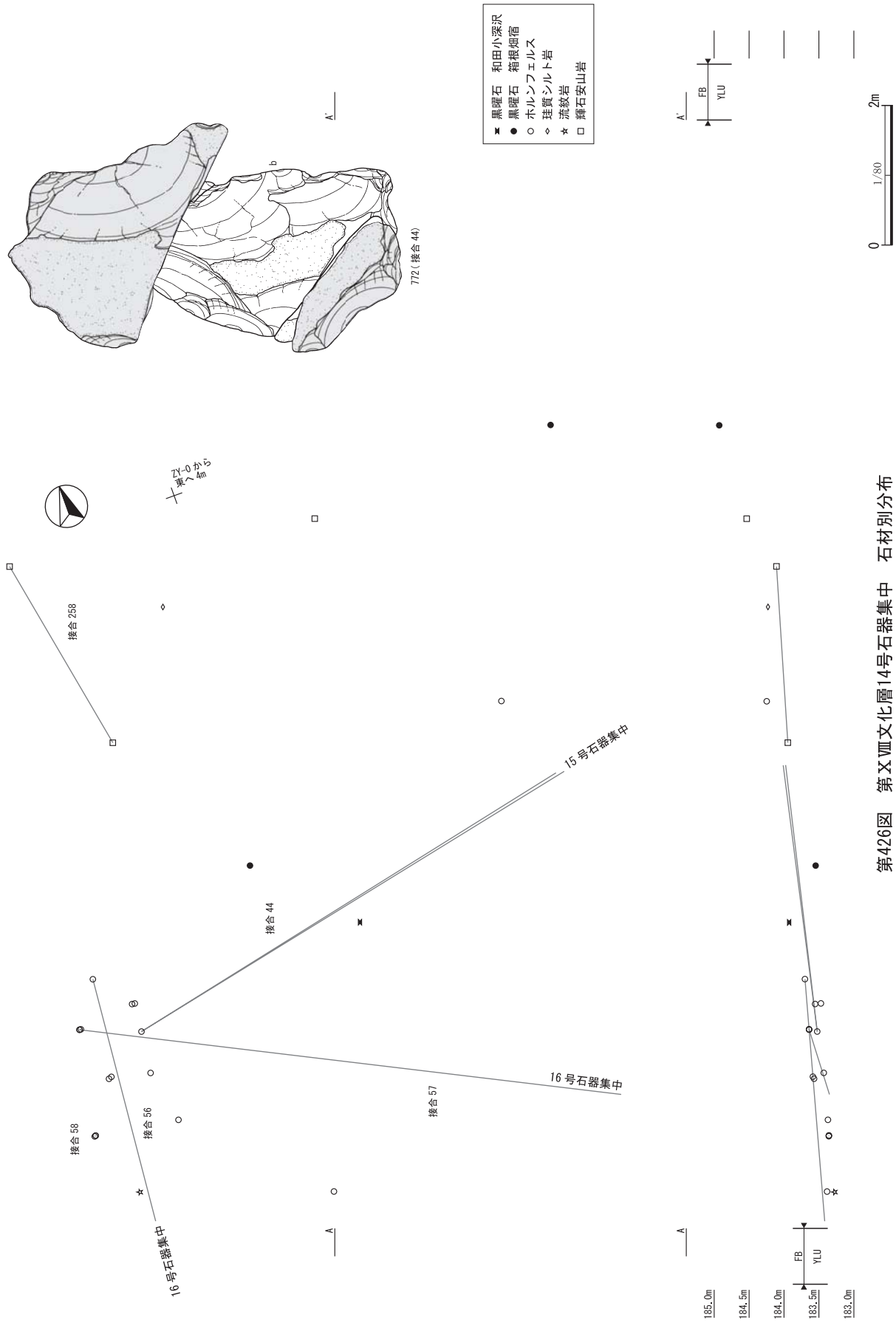


第424図 第Ⅷ文化層13号石器集中 石材別分布

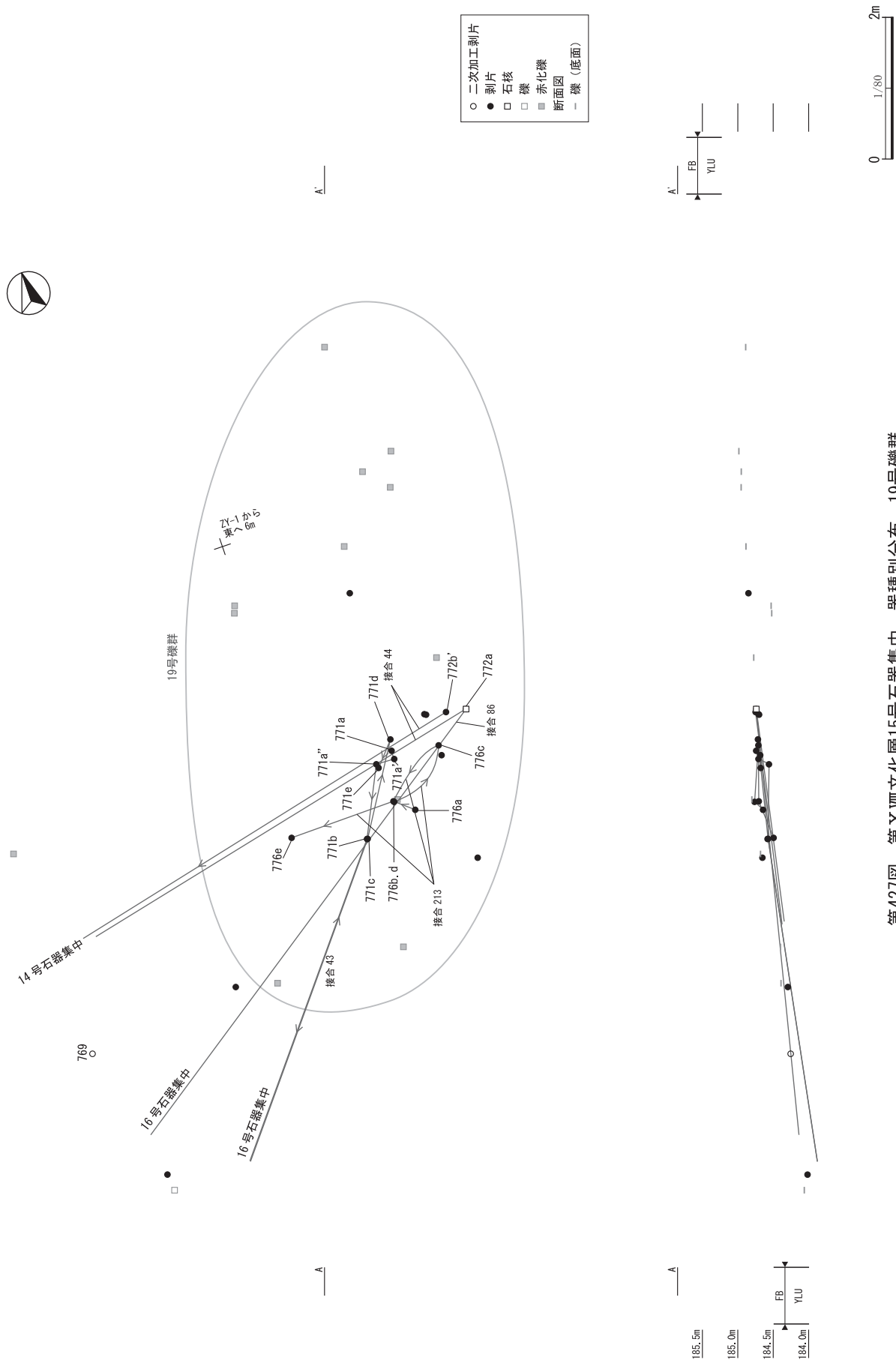




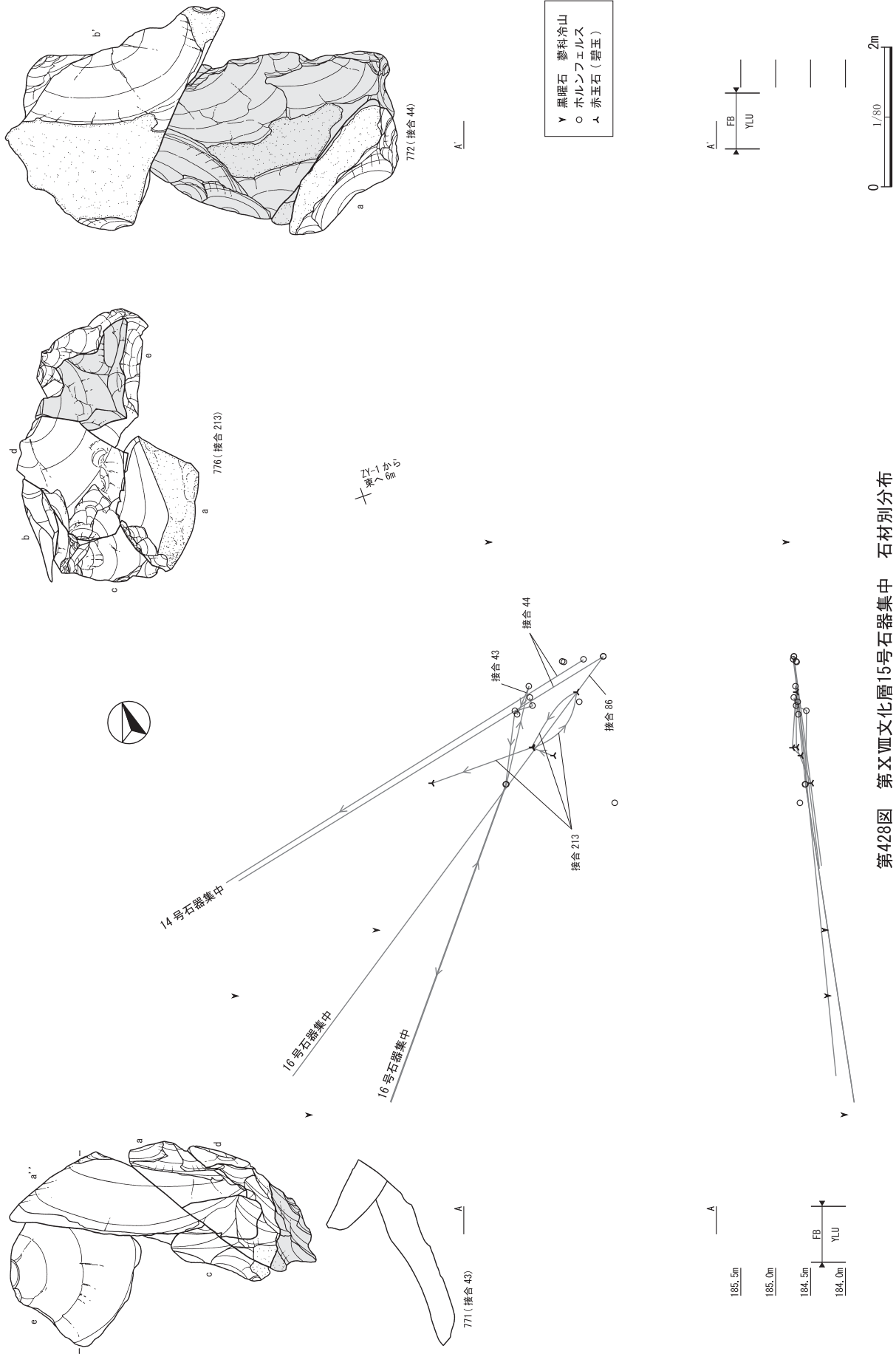
第425図 第XVIII文化層14号石器集中 器種別分布



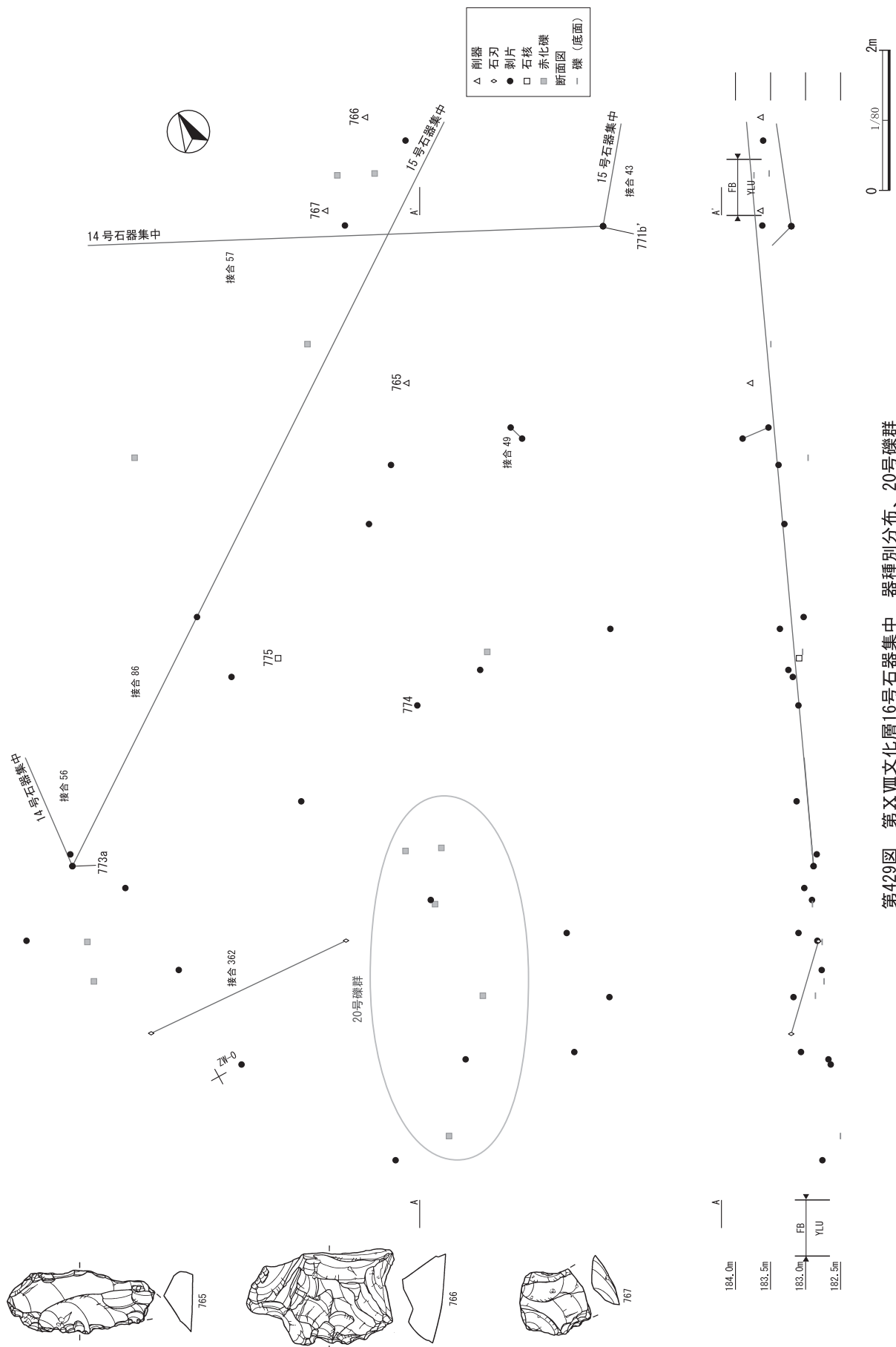
第426図 第Ⅷ文化層14号石器集中 石材別分布



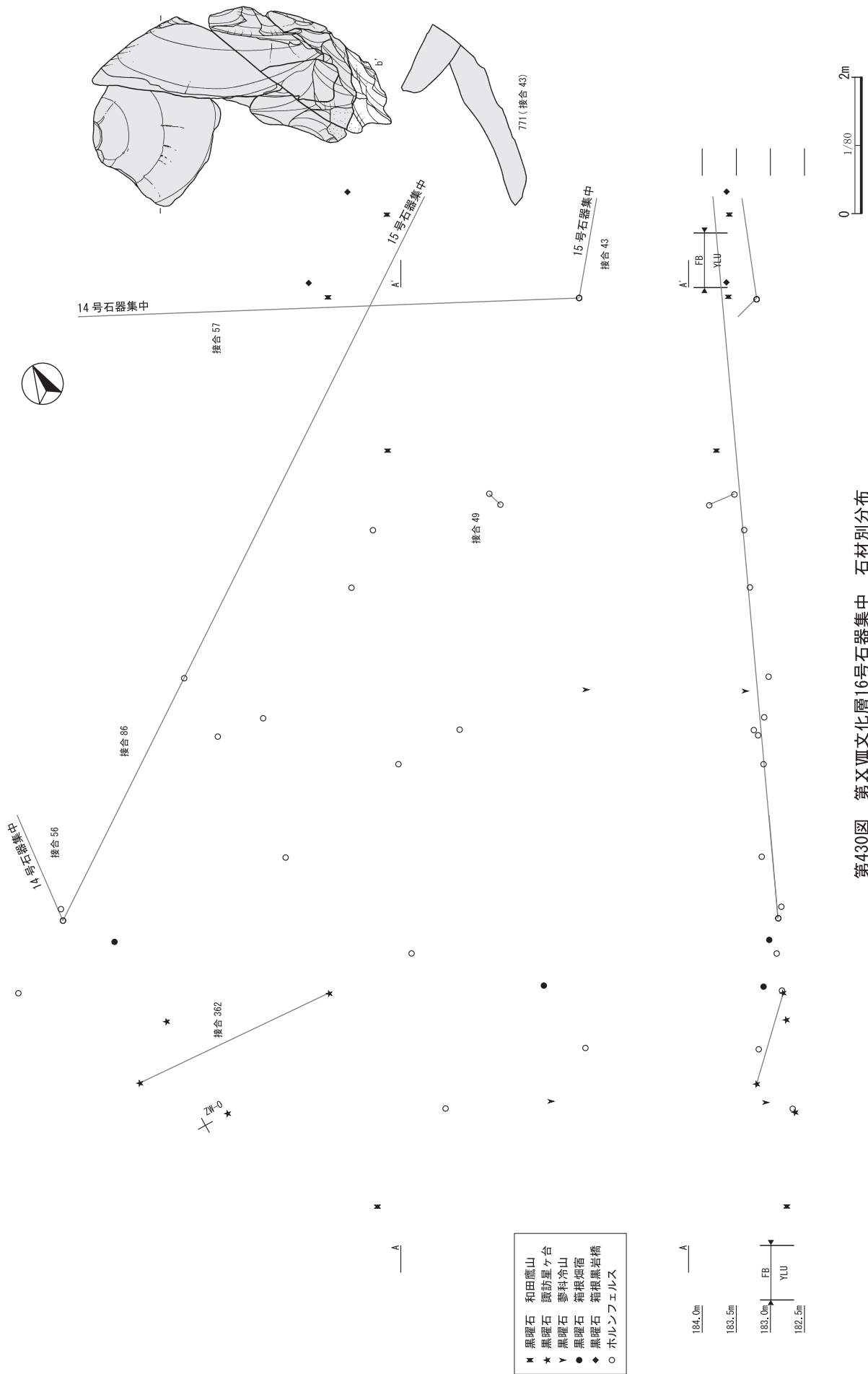
第427図 第XⅧ文化層15号石器集中 器種別分布、19号礫群



第428図 第Ⅷ文化層15号石器集中 石材別分布



第429图 第XVIII文化層16号石器集中 器種別分布、20号碟群



第430図 第Ⅷ文化層16号石器集中 石材別分布

石器は黒曜石（箱根畑宿産2点、諏訪星ヶ台産、箱根黒岩橋産各1点）製4点、ホルンフェルス製、珪質シルト岩製、流紋岩製各2点で、ナイフ形石器、搔器が各1点含まれる。

12号石器集中（第421・422図、表168）

ZZ-2・3グリッドにかけて出土した石器12点から成る。18号礫群と重複して分布し、出土層位は休場層中位である。石器は黒曜石（箱根畑宿産3点、蓼科冷山産、天城柏峠産各1点）製5点、ホルンフェルス製5点、細粒安山岩製、中粒砂岩製各1点で、尖頭器1点、敲石2点が含まれる。

13号石器集中（第423・424図、表169）

ZY-1グリッド北東側付近で出土した石器7点から成る。出土層位は休場層下位から上位である。石器はホルンフェルス製、流紋岩製各2点、和田鷹山産黒曜石製、細粒デイサイト製、玄武岩製各1点で、台石1点が含まれる。

14号石器集中（第425・426図、表170）

ZX-0グリッド周辺から出土した石器25点から成る。出土層位は主に休場層中位である。石器はホルンフェルス製17点、黒曜石（箱根畑宿産2点、和田小深沢産1点）製3点、輝石安山岩製各3点、珪質シルト岩製、流紋岩製各1点で、尖頭器・尖頭器未製品2点、敲石2（接合により1）点が含まれる。ホルンフェルスの接合資料3個体があり、15・16号石器集中出土石器との間で接合する。

15号石器集中（第427・428図、表171）

ZX-1グリッドで出土した石器23点から成る。出土層位は主に休場層中位である。石器はホルンフェルス製14点、赤玉石製5点、蓼科冷山産黒曜石製4点で、二次加工剥片1点が含まれる。赤玉石5点は接合して1個体となる他、ホルンフェルスの接合資料3個体がある。

表170 第XⅧ文化層14号石器集中 石器組成

		尖頭器	尖頭器未製品	剥片	石核	敲石	計
黒曜石	和田小深沢			1			1
	箱根畑宿			2			2
	黒曜石計			3			3
ホルンフェルス			1	15	1		17
珪質シルト岩		1					1
流紋岩				1(1)			1(1)
輝石安山岩				1		2	3
計		1	1	20(1)	1	2	25(1)

括弧内は全体数の内、微細剥離痕のあるものの点数。

表171 第XⅧ文化層15号石器集中 石器組成

		二次加工剥片	剥片	石核	計
黒曜石	蓼科冷山	1	3(1)		4(1)
ホルンフェルス			13	1	14
赤玉石（碧玉）			5		5
計		1	21(1)	1	23(1)

括弧内は全体数の内、微細剥離痕のあるものの点数。

表172 第XⅧ文化層16号石器集中 石器組成

		削器	石刃	剥片	石核	計
黒曜石	和田鷹山	1		3(2)		4(2)
	諏訪星ヶ台		2(1)	2		4(1)
	蓼科冷山			2		2
	箱根畑宿			2		2
	箱根黒岩橋	2				2
	黒曜石計	3	2(1)	9(2)		14(3)
ホルンフェルス				19	1	20
計		3	2(1)	28(2)	1	34(3)

括弧内は全体数の内、微細剥離痕のあるものの点数。

表173 第XⅧ文化層西尾根（南） 礫群属性

礫群番号	構成礫数	赤化					形態			石材								
		完形		非完形			亜角	亜円	円	イト	デイサ	安山岩	輝石	安山岩	多孔質	玄武岩	玄武岩	多孔質
		非赤化	赤化	非赤化	赤化1	赤化2												
17号	10		8	1	1		7	3					6	1	2		1	
18号	7		4		3		6		1	1			2	2	1		1	
19号	11		5		4	2	8	3					4	4	1		2	
20号	5		3		1	1	3	2					3	1			1	
遺構外	34	2	17	2	10	3	26	6	2				15	7	4		8	

赤化1：全面が赤化 赤化2：礫の外皮のみ赤化

あり、うち2個体はそれぞれ14・16号石器集中出土石器との間で接合するものである。

#### 16号石器集中（第429・430図、表172）

ZW-0グリッド周辺から出土した石器34点から成る。出土層位は休場層中位を中心に休場層直下黒色帯から富士黒土層に及ぶ。石器はホルンフェルス製20点、黒曜石（和田鷹山産、諏訪星ヶ台産各4点、蓼科冷山産、箱根畑宿産、箱根黒岩橋産各2点）製14点で、削器3点が含まれる。石器集中内で接合する諏訪星ヶ台産黒曜石の接合資料が1個体ある他、ホルンフェルスの接合資料5個体があり、うち4個体はそれぞれ14・15号石器集中出土石器との間で接合する。

#### 17号礫群（第417図、表173）

C-1グリッドを中心に出土した礫10点から成り、9点に被熱の痕跡が認められた。出土層位は調査時の記録によると休場層中位から上位で、1点が休場層下位出土である。礫は径7mの範囲に散在し、平均で長径10.6cm・重量0.34kgの大きさである。

#### 18号礫群（第421図、表173）

ZZ-2グリッド南東側で出土した被熱礫7点から成る。出土層位は調査時の記録によると休場層中位である。長径23.4cm・重量2.9kgの大型礫を中心に礫3点が1箇所にとまり、全体はその周辺を含めた径2.5m程度の範囲に分布する。礫の大きさは平均で長径11.1cm・重量0.66kgである。

#### 19号礫群（第427図、表173）

ZX・ZY-1グリッドにかけて出土した被熱礫11点から成る。出土層位は調査時の記録によると主に休場層中位で、2点が休場層下位出土である。南北9mにおよぶ範囲を礫群としたが、礫は北側に多く分布する。礫は平均で長径9.0cm・重量0.21kgの大きさである。

#### 20号礫群（第429図、表173）

ZV・ZW-0グリッドにかけて出土した被熱礫5点から成る。出土層位は調査時の記録によると主に休場層中位で、1点が休場層下位出土である。礫は長径16.5cm・重量3.2kgの大型礫が1点で、平均して長径10.0cm・重量0.93kgの大きさであり、南北約4mの範囲に散在していた。

### （2）10～16号石器集中の出土石器（第431～436図）

#### 尖頭器（760～762）

3点出土した。760はガラス質黒色安山岩製、両面加工で厚手の剥片を素材とする。761は珪質シルト岩製、両面加工で先端部を欠く。最大幅が器体下半に位置する形態であったと見られる。762は箱根畑宿産黒曜石製、片面加工である。正面の中央部には折れ面から数条の剥離が入っている。

この他、剥片類・石核と接合する尖頭器未製品が1点（772b）ある。これについては「剥片・石核類」の項で接合資料と共に記載する。

#### ナイフ形石器（763）

1点出土した。諏訪星ヶ台産黒曜石製で小型の石刃を素材とする二側縁加工のものである。

#### 搔器（764）

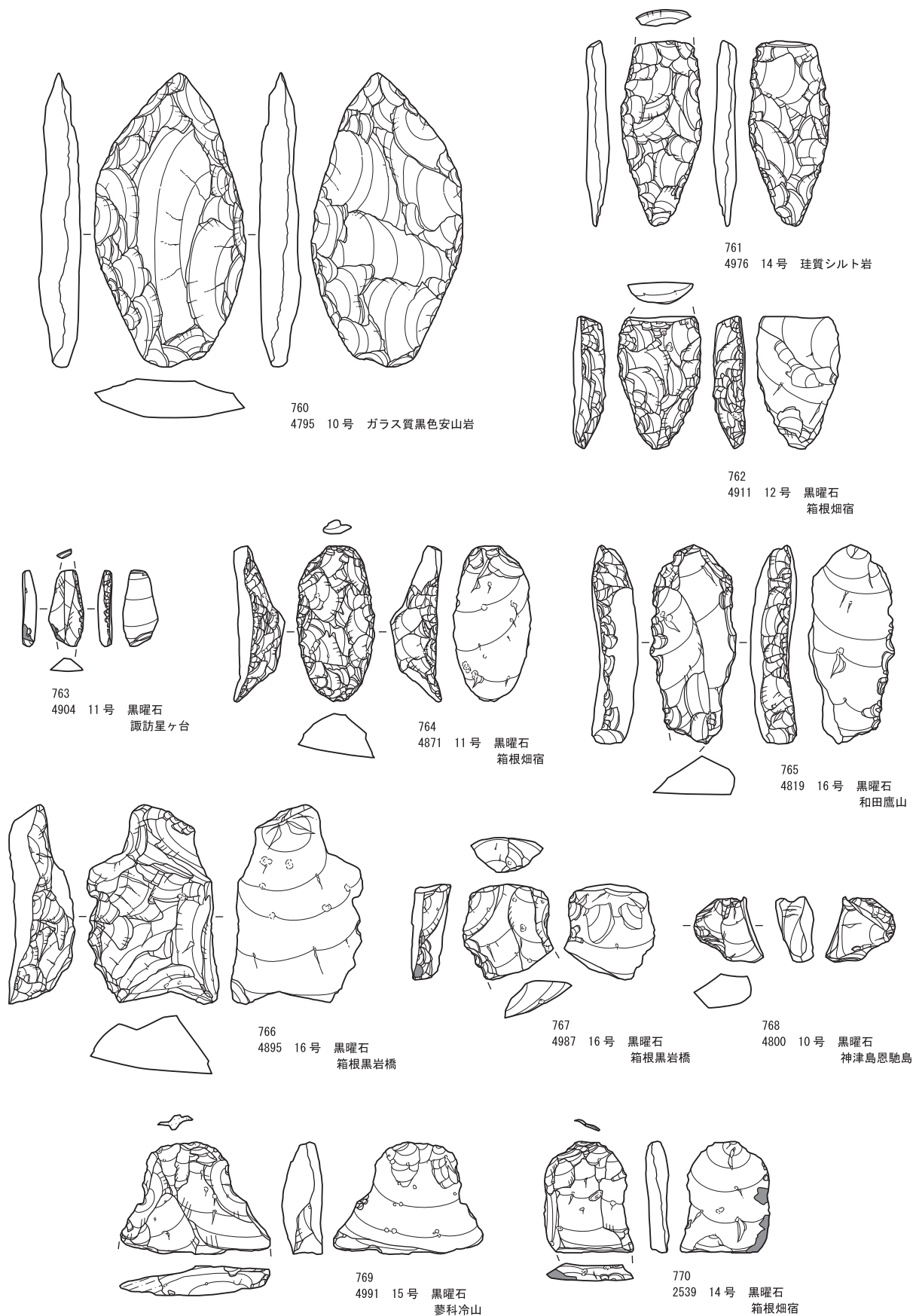
1点出土した。箱根畑宿産黒曜石製で、基部に打面を残し両側縁から先端にかけて急斜度加工で弧状の刃部を設けている。甲高な形態だが先端部ではかなり薄くなり、裏面側へ湾曲している。

#### 削器（765～767）

3点出土した。765は和田鷹山産黒曜石製のやや厚手の石刃素材で両側縁を加工したものである。調整加工の形態から、図中の右側縁全体と左側縁基部とを加工した、右側縁を背部とするナイフ形石器であった可能性が高いが、左側縁刃部にも加工が連続していることから削器に転用されたものと解釈した。

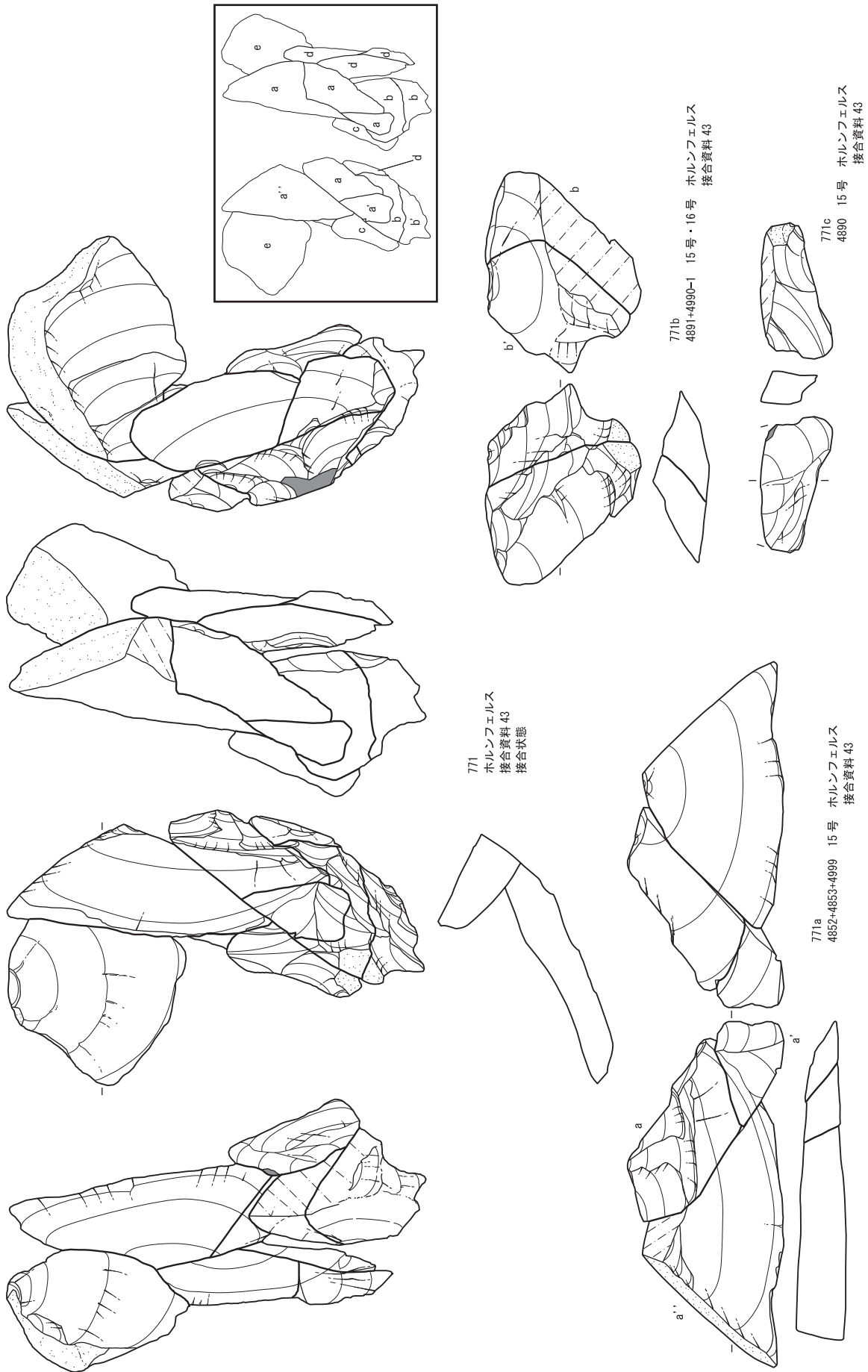
766は箱根黒岩橋産黒曜石製で、斑晶を多量に含むあまり質の良くない石材を利用している。厚手の



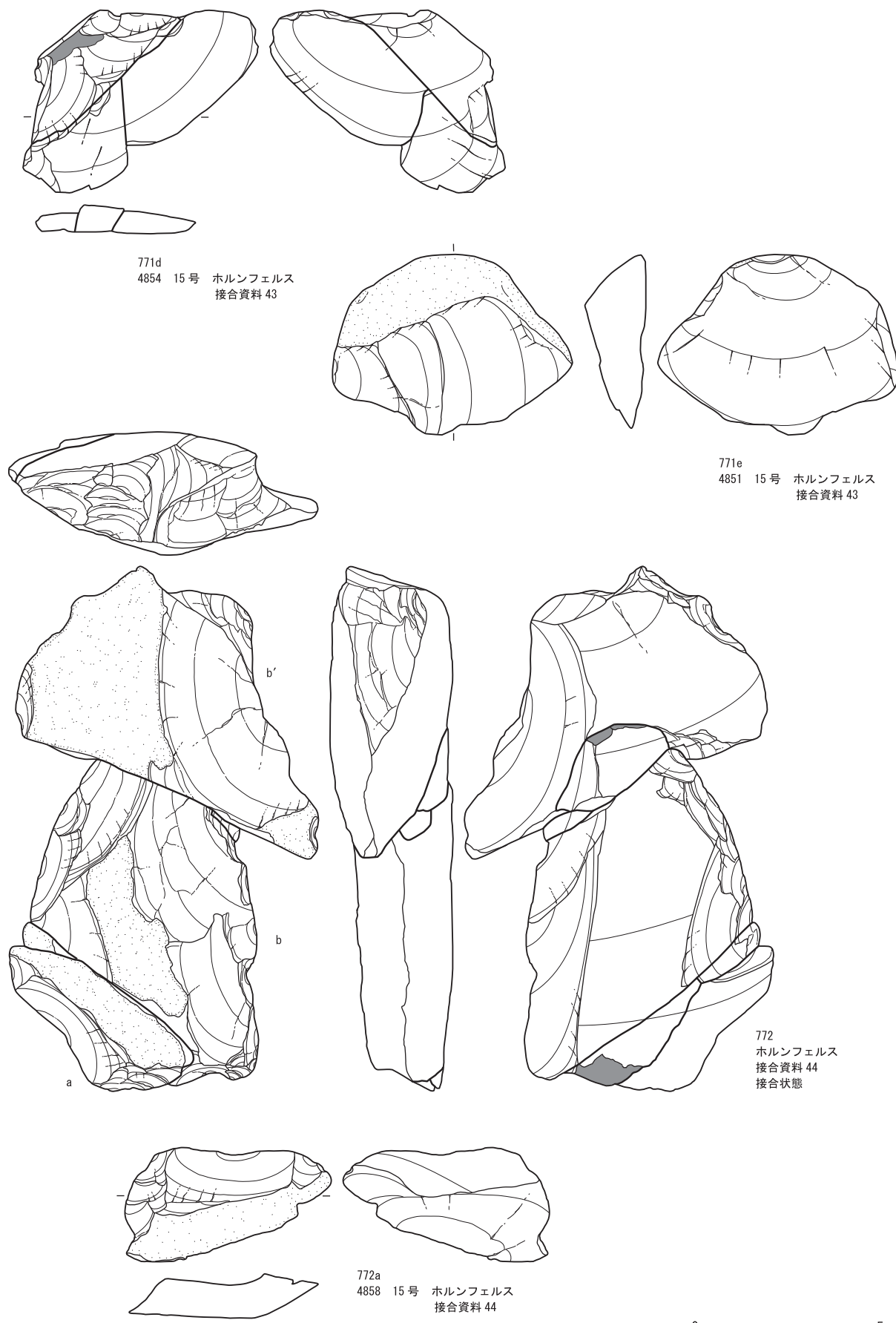


第431図 第XVIII文化層西尾根(南) 石器集中(1)

0 2/3 5cm

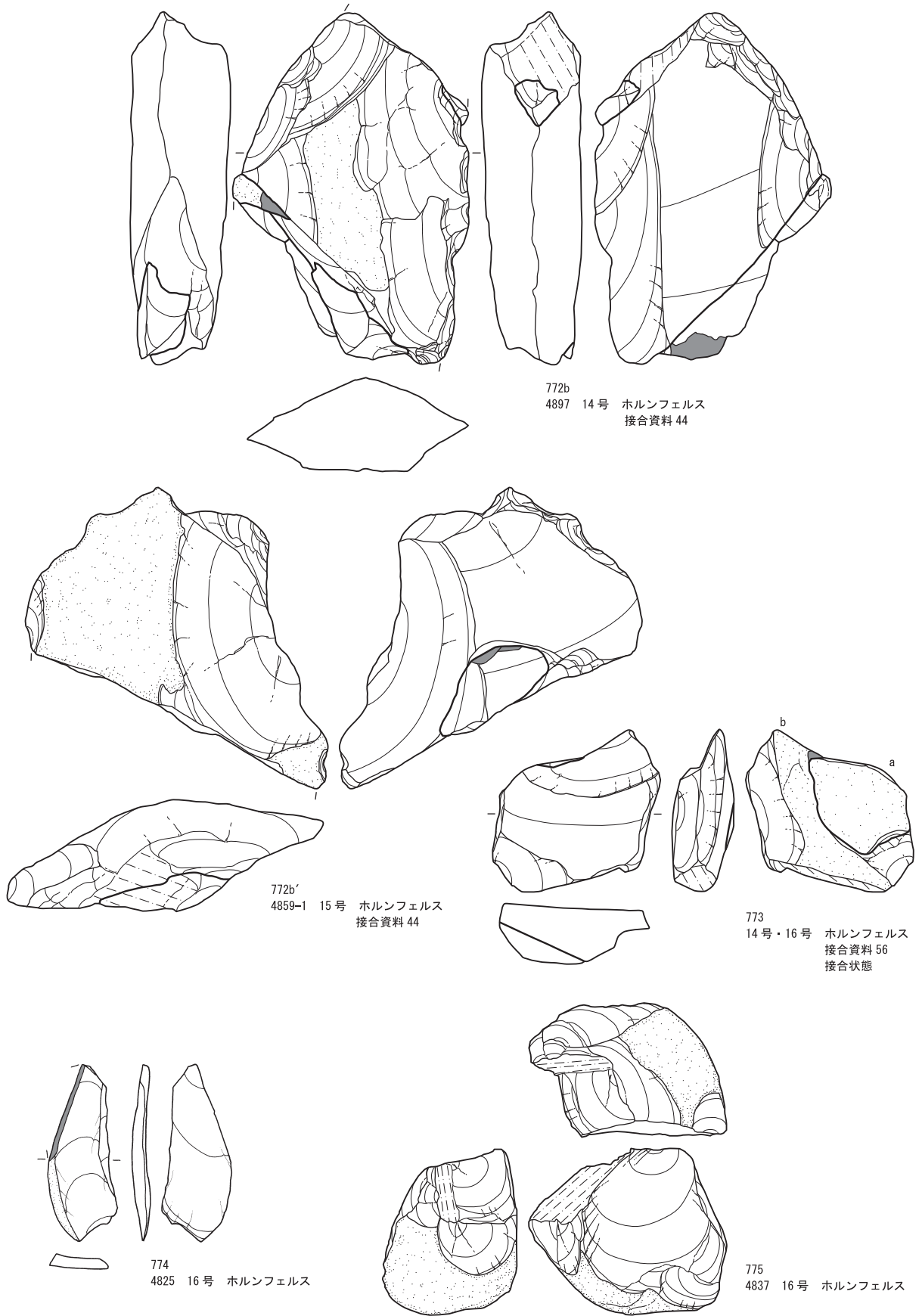


第432図 第Ⅷ文化層西尾根(南) 石器集中(2)



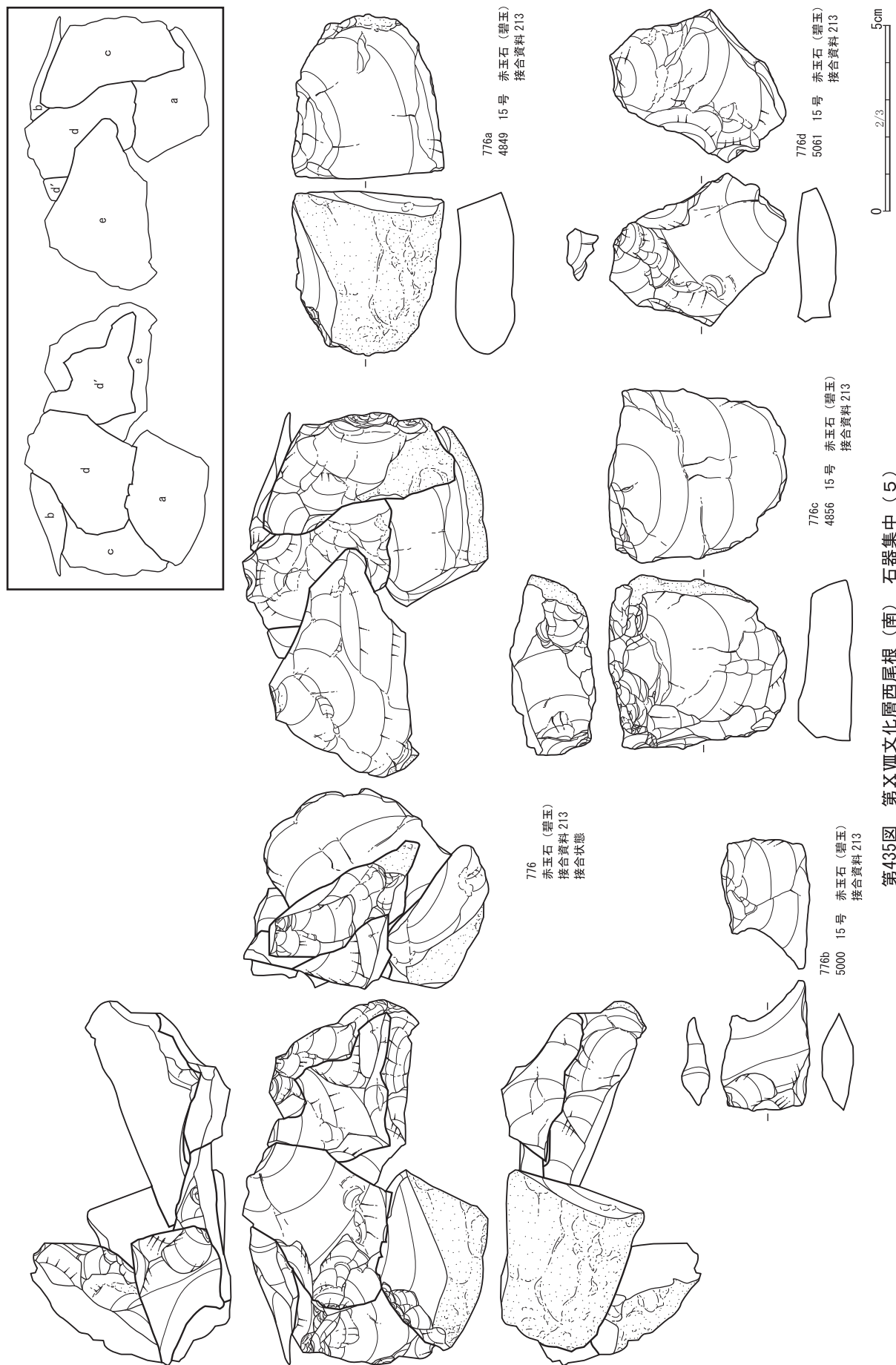
0 2/3 5cm

第433図 第XVIII文化層西尾根(南) 石器集中(3)

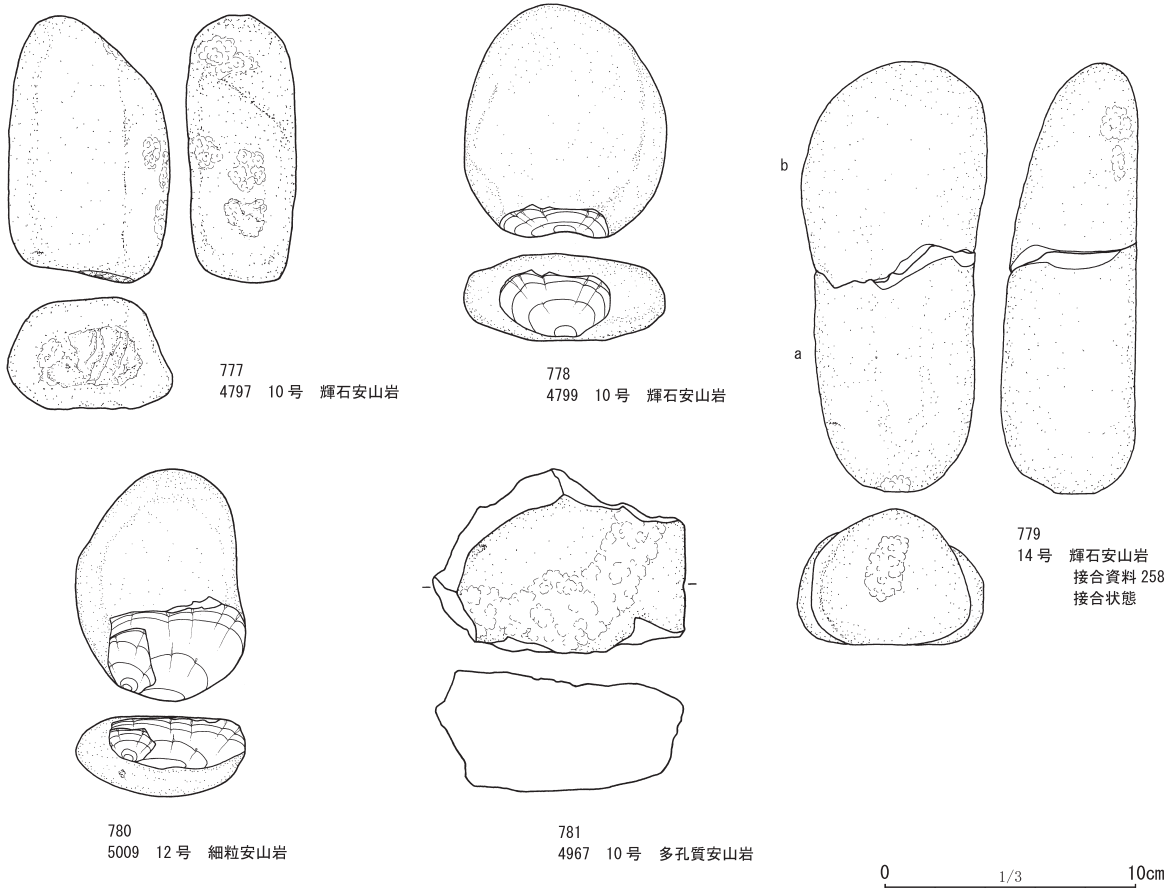
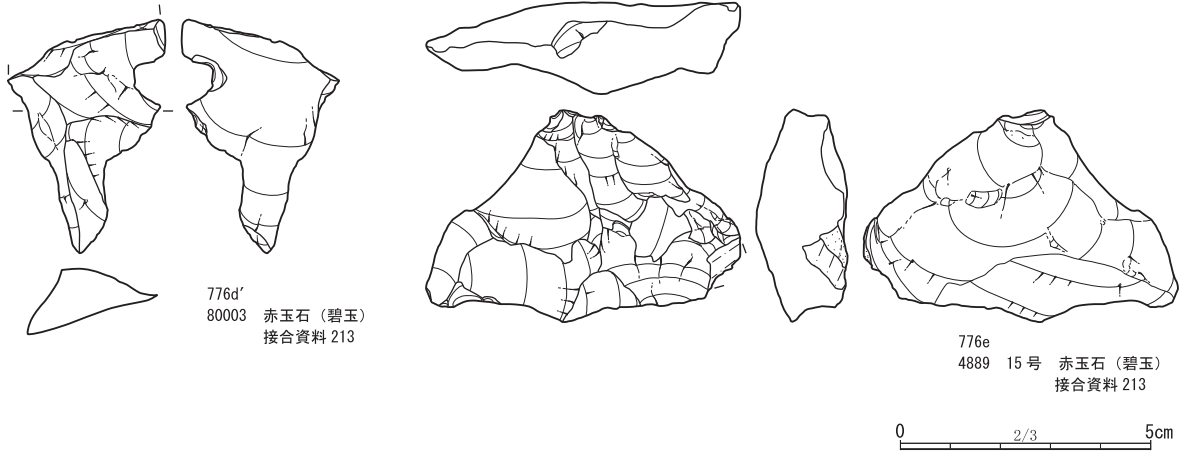


0 2/3 5cm

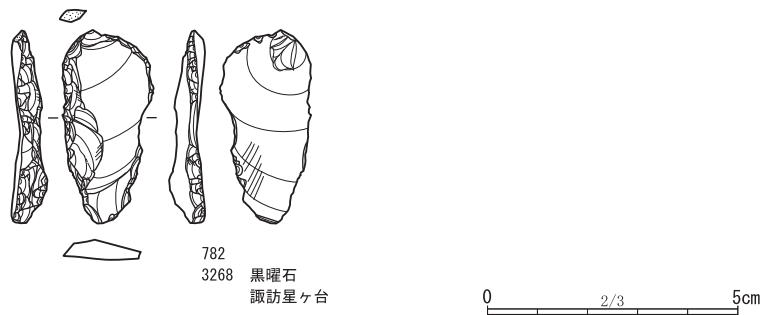
第434図 第Ⅷ文化層西尾根(南) 石器集中(4)



第435図 第XVIII文化層西尾根(南) 石器集中(5)



第436図 第ⅤⅧ文化層西尾根 (南) 石器集中 (6)



第437図 第ⅤⅧ文化層西尾根 (南) 石器集中外

剥片素材で左側縁に鋸歯状の刃部を設けている。767は箱根黒岩橋産黒曜石製で766と類似した石材である。縦長剥片の左側縁を加工したものと見られるが、下半部は折損している。

#### 楔形石器 (768)

1点出土した。神津島恩馳島産黒曜石製で上下から剥離が入り、下端には平坦面がある。

#### 二次加工剥片 (769)

1点出土した。蓼科冷山産黒曜石製で、両側縁に1回の大きな剥離を加えており、それによって形成された抉入部やその周辺に微細剥離痕が顕著に認められる。

#### 尖頭器未製品・剥片類・石核 (770～776)

剥片92(接合により81)点、石核3点が出土した。また、剥片及び石核と接合する尖頭器未製品が1点ある。

770は箱根畑宿産黒曜石製の剥片で、打面は小さく頭部調整が顕著で縦長の形態である。箱根畑宿産黒曜石製の剥片は11・12・14・16号石器集中から1～2点ずつ出土しているが全て不定形なものである。

771・772はホルンフェルス製の尖頭器製作に関連すると考えられる資料である。771(接合資料43)は剥片5点から成る。分割礫で交互剥離が行われており、両面加工尖頭器を割り出す工程に関わる資料と考えられる。見つかっているのは分割礫の外側部分を剥離した剥片のみで、これによって製作された両面加工の石器は見つかっていない。772(接合資料44)は尖頭器未製品、石核、剥片各1点から成る。板状の大型剥片を素材として両面から加工したもので、772bから772b'が折断ないしは折損し、また772aが剥離されている。772bは772b'が折断された後、両側縁からの加工により幅が減じられており、尖頭器未製品と考えられる。また772b'は側縁の厚みを減じるような加工はほとんど行われていないが、上面・側面から剥片剥離が行われており、石核に分類した。

773～775はホルンフェルス製で、尖頭器製作との関連性が薄いと考えられる資料である。773(接合資料56)は剥片、石核各1点から成る。主に正面・裏面を作業面として剥片剥離が行われているが、773aの剥片は接合面が節理面であり、剥離によるものか風化・劣化による剥落によるものか成因が判然としない。774は縦長の剥片、775は幅広剥片を剥離した石核で右側面から下面に円礫面が残されている。ホルンフェルス製の剥片は大半が幅広剥片で、774のように偶発的に生じた縦長剥片が一部混在している。

776(接合資料213)は赤玉石製の剥片5点、石核1点から成る。この地区で出土した赤玉石製石器の全てが接合した。但し776d'は出土位置不明の一括資料である。打面転移を繰り返しながら剥片剥離が行われており、接合した剥片は全て異なる打面から剥離されている。図中の裏面側に当たる部分の剥片の多くが見つかっていない。

#### 敲石 (777～780)

6点出土し、そのうち4点を図示した。777は輝石安山岩のやや扁平な垂円礫を利用し、下端及び右側面に敲打痕が認められる。778は輝石安山岩のやや扁平な円礫を利用しており、下端に剥離痕が生じている。779は輝石安山岩の細長い円礫を使用したもので、下端、及び上方の側面に敲打痕が認められる。780は細粒安山岩の扁平な円礫を利用したもので、下端から割れた剥離痕が認められる。

#### 台石 (781)

2点出土し、そのうち1点を図示した。781は多孔質安山岩の板状の垂角礫を利用したもので、一方の面には使用痕の可能性のある凹凸が認められる。破片であり法量は小さい。図示していない1点は玄武岩の直方体状の角礫を利用したもので、長径19.8cm・重量4.4kgの大きさである。

### (3) 石器集中外の出土石器 (第437図)

削器1点、剥片2点が出土した。また、一括取り上げで出土位置不明の剥片が1点ある(776d'、接

合資料213に含まれる)。

782は諏訪星ヶ台産黒曜石製の削器である。基部に打面を残し、両側縁を加工したもので、765との類似性が認められるが、こちらは両側縁とも急斜度加工である。但し、左側縁の方が部分的に対向調整を用いるなど厚くなっている。末端は折れ面であるが右側縁からの加工によって切られている。

## 第7節 第XIX文化層

### 概要

富士黒土層を中心として出土した細石刃石器群をまとめたもので、石器21点が出土した(表174)。主たる出土層位は富士黒土層であるが、一部は休場層中・上位から出土した。

### 1. 遺物群

#### (1) 遺物の分布(第438図)

東支谷のAI-21グリッド付近に1号石器集中が分布する。それ以外では調査区内に散在して出土しているが、中央尾根に細石刃等が比較的多く分布する。これらは神津島恩馳島産黒曜石製のものが多い。第XVIII文化層中央尾根の石器群にも神津島恩馳島産黒曜石製の石器が分布していることから、両文化層の石器については一部が分離しきれず、混在しているものが含まれている可能性がある。

なお、表土一括として回収した石器が4点あり、これらについては分布図中に位置を示していない。

#### 1号石器集中(第439図、表175)

AI-21グリッドを中心に出土した石器6点から成る。出土層位は全て富士黒土層であるが、東支谷の谷筋に沿った分布を示しており、出土位置は流されて移動した地点の可能性がある。石器は全て黒曜石(神津島恩馳島産5点、蓼科冷山産1点)製である。

#### (2) 1号石器集中の出土石器(第440図)

#### 細石刃核(783・784)

2点出土した。ともに神津島恩馳島産黒曜石製である。783では図中の正面から右側面にかけて細石刃剥離痕が認められ、主として上方から剥離されている。正面は打面側上端が潰れ、階段状剥離が重なっており、下端でも縁辺の潰れが認められることから挟み割りが行われた可能性がある。784は単設打面

表174 第XIX文化層 石器組成

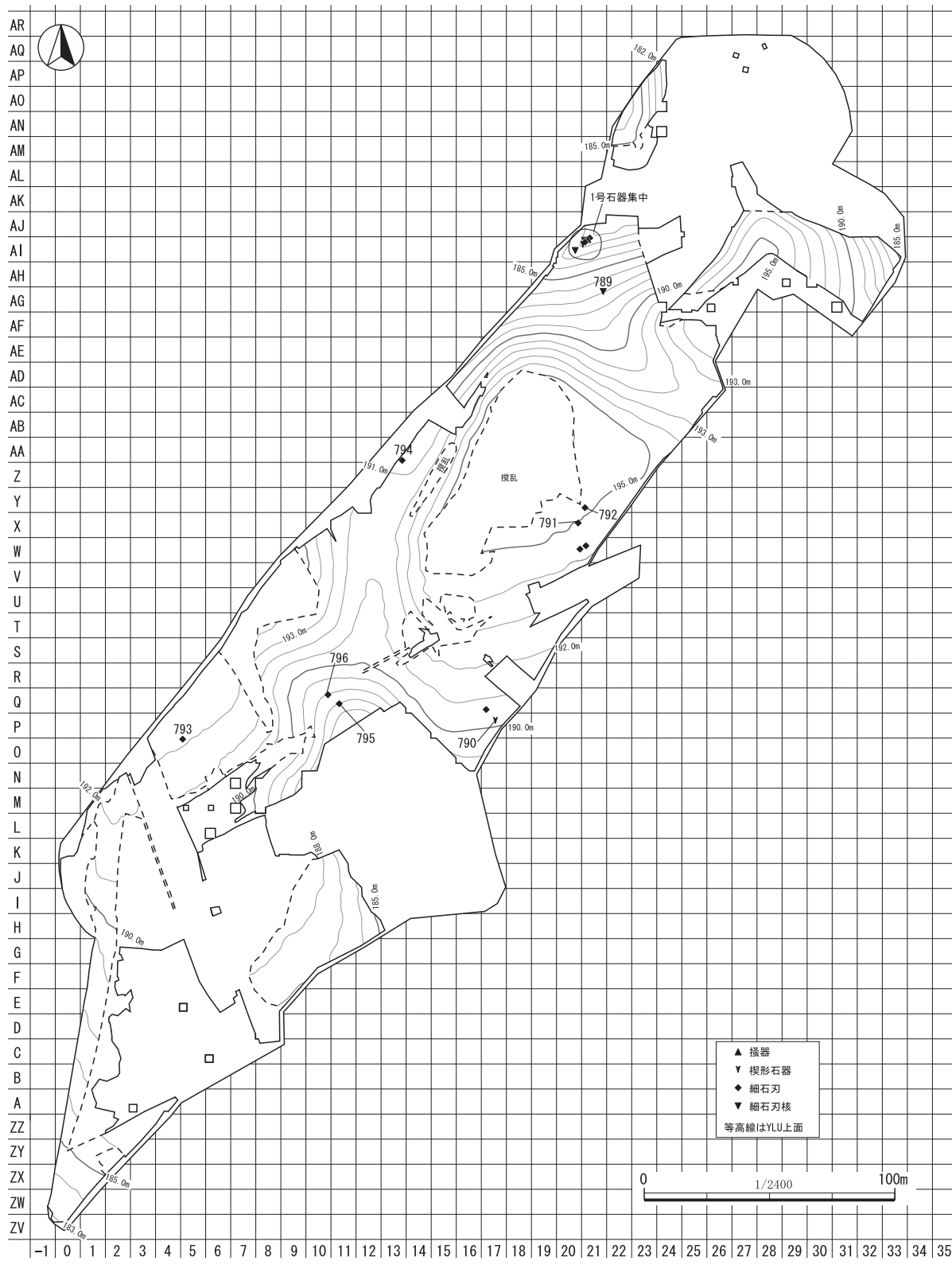
		搔器	楔形石器	細石刃	細石刃核	計
黒曜石	諏訪星ヶ台				1	1
	蓼科冷山	1				1
	天城柏峠			1		1
	神津島恩馳島		2	14	2	18
計		1	2	15	3	21

括弧内は全体数の内、微細剥離痕のあるものの点数。

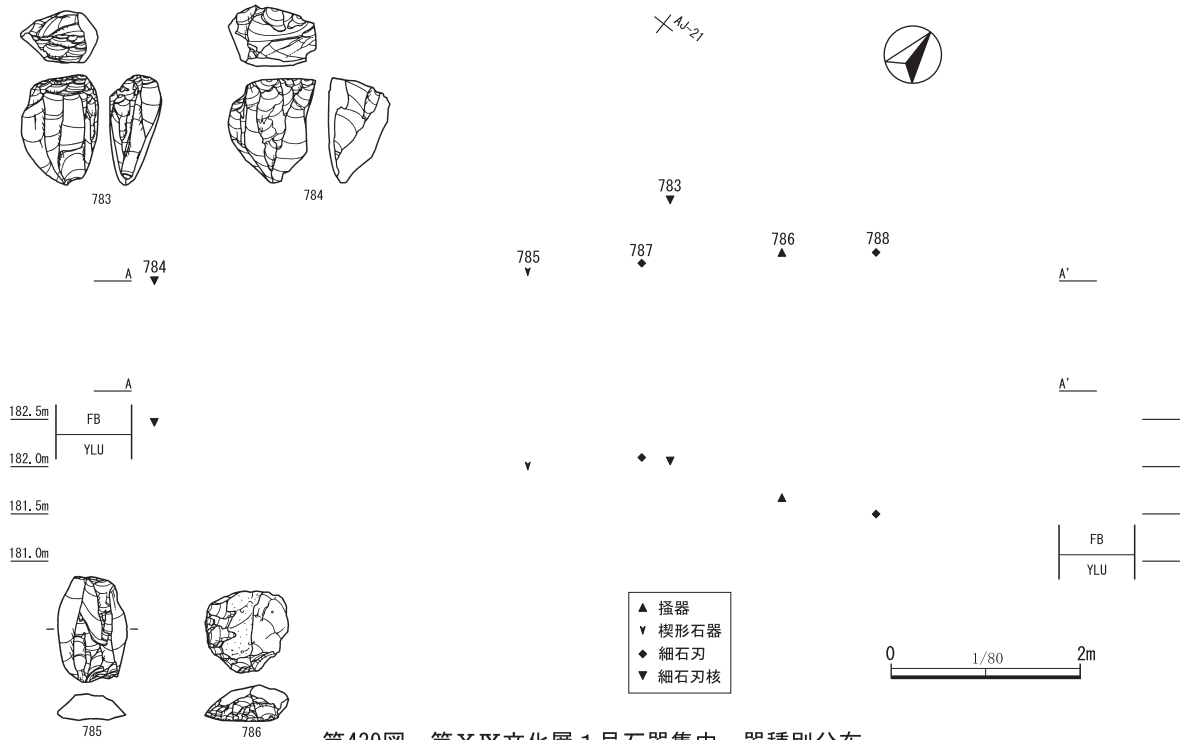
表175 第XIX文化層1号石器集中 石器組成

		搔器	楔形石器	細石刃	細石刃核	計
黒曜石	蓼科冷山	1				1
	神津島恩馳島		1	2	2	5
計		1	1	2	2	6





第438図 第X区文化層遺物分布



第439図 第X区文化層1号石器集中 器種別分布

で細石刃剥離痕は正面側に限られ、両側面には礫面や素材面と見られる平坦な剥離面が残されている。裏面は調整加工により平坦に整形されている。

**楔形石器 (785)**

1点出土した。神津島恩馳島産黒曜石製で、上下の縁辺が潰れて階段状剥離となっている。正面には縦長の剥離痕が多く認められることから、細石刃核から転用された可能性がある。

**搔器 (786)**

1点出土した。蓼科冷山産黒曜石製で、打面を残し左側縁から下端にかけて刃部加工が行われている。刃部加工は下端部がより急斜度なものとなっている。

**細石刃 (787・788)**

2点出土した。ともに神津島恩馳島産黒曜石製で、ほぼ完形で極小の打面をもつ。

**(3) 石器集中外の出土石器 (第441図)**

**細石刃核 (789)**

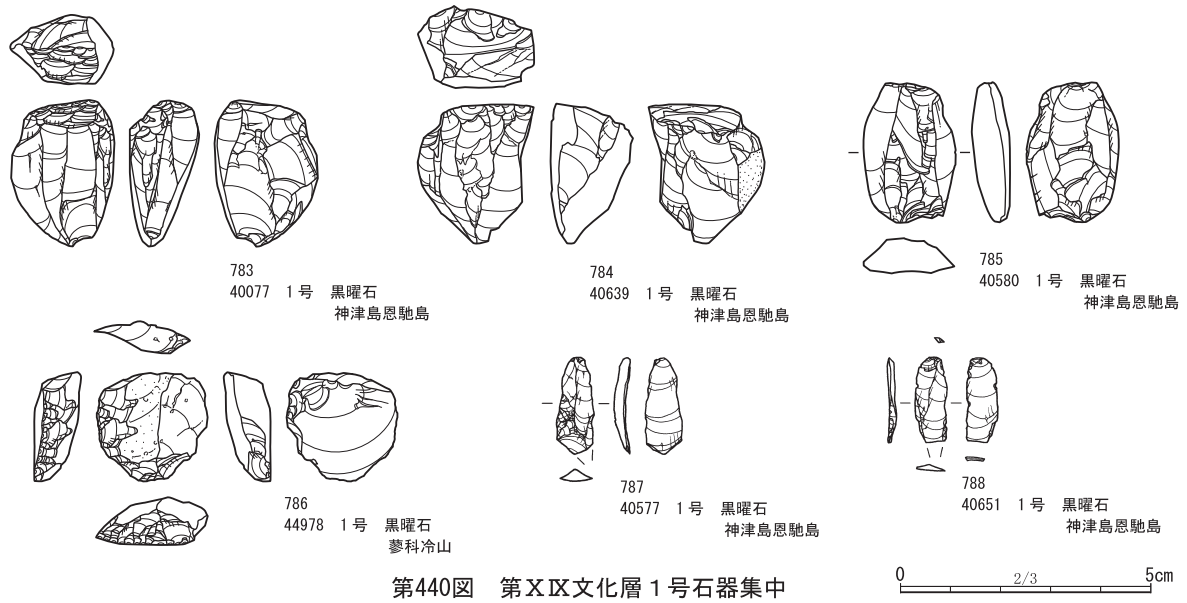
1点出土した。諏訪星ヶ台産黒曜石製、単設打面で作業面は正面側を半周しており、裏面には礫面が多く残っている。打面は作業面側を中心に調整が入っている。AG-21グリッド出土。

**楔形石器 (790)**

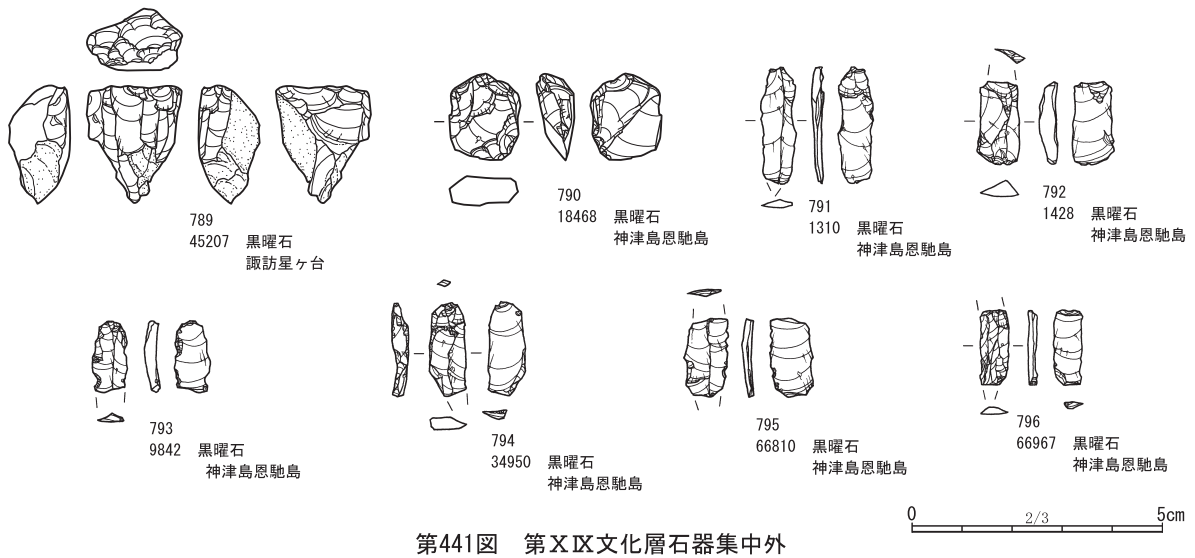
1点出土した。神津島恩馳島産黒曜石製で、上下から剥離痕が入っており、上部には一部平坦面が残っている。P-17グリッド出土。

**細石刃 (791~796)**

13点出土し、そのうち6点を図示した。天城柏峠産黒曜石製が1点(図示していない)ある他は全て神津島恩馳島産黒曜石製である。折損しているものが多く、残存長は1~2cm程度となっている。



第440図 第X区文化層1号石器集中



第441図 第X区文化層石器集中外

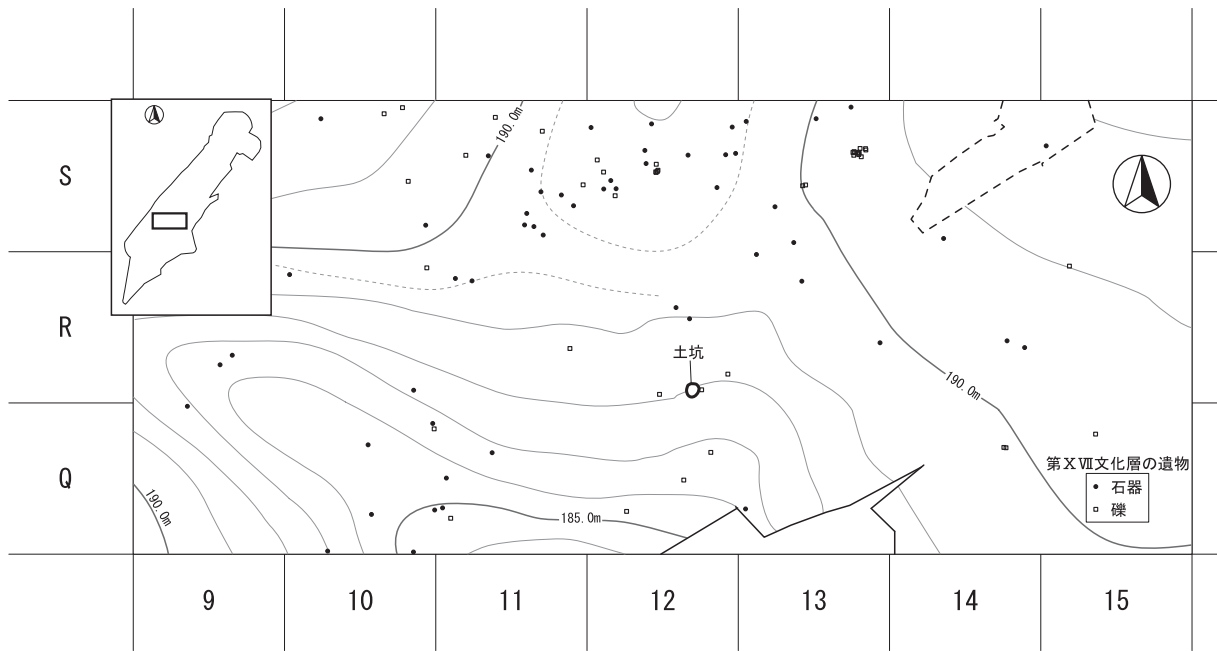
## 第8節 休場層の土坑

### 概要

休場層直下黒色帯上面を検出面とする土坑が1基検出された(第442図)。時期的には第XVI～XVIII文化層に並行する時期に位置づけられると考えられるが、土坑はちょうど石器・礫等の遺物が疎らな地点に位置している。位置図は第XVII文化層の遺物とともに示した。帰属文化層が不明確なため、遺物とは別にここで提示する。

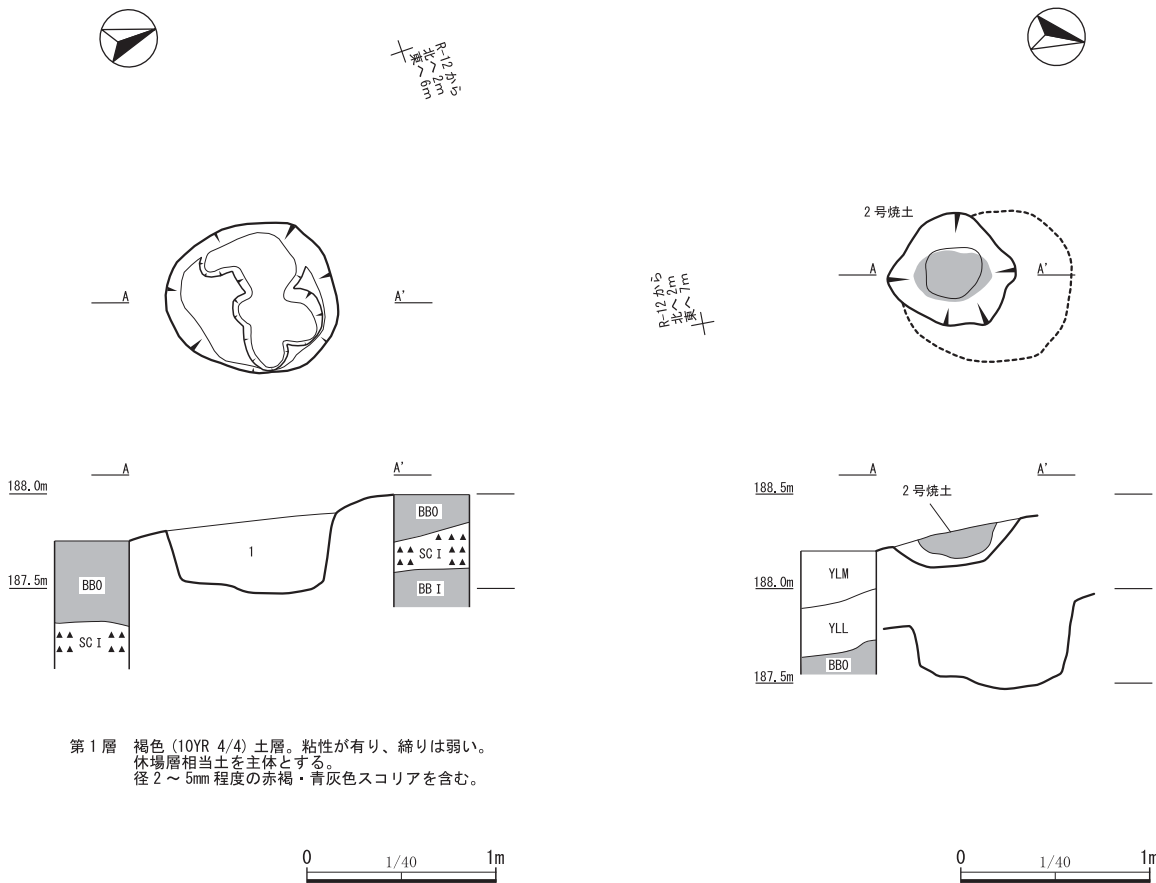
### 土坑(第443・444図)

R-12グリッド南東部で検出された(調査時の遺構名はSF110)。検出面は休場層直下黒色帯上面であるが、本来の掘り込み面はこれより上位であった可能性が高い。縄文時代の遺構である可能性も考えられたが、これに重複して約40cm上位に、休場層上面を検出面とする縄文時代の2号焼土(FP39)があり、想定される掘り込み面の上限が休場層中に来ることから旧石器時代の所産として捉えた。



第442図 休場層の土坑の位置

0 1/500 10m



第1層 褐色(10YR 4/4)土層。粘性が有り、締りは弱い。休場層相当土を主体とする。径2~5mm程度の赤褐・青灰色スコリアを含む。

第443図 休場層の土坑

第444図 休場層の土坑と縄文時代2号焼土との位置関係

## 第9節 縄文時代初頭の遺物

### 概要

縄文時代草創期前半に属すると考えられる尖頭器・有茎尖頭器が35点出土している（表176）。出土層位は富士黒土層が主であるが、休場層や栗色土層など上下の層からも出土している。これらに伴うと考えられる土器は出土しておらず、尖頭器以外の石器も明らかに共伴するものは見られない。

#### 1. 遺物の分布（第445図）

調査区内の広い範囲にわたって散在しているが、尾根部よりも谷部から多く出土する傾向が認められ、特に東支谷周辺から多く出土している。

#### 2. 出土石器（第446～448図）

##### 有茎尖頭器（797～828）

797～804は幅に比して長い、特に長狭な形態のもので、身部の両側縁は平行に近く、逆刺は発達せず緩やかに屈曲して短い逆三角形の茎部となる。802は基部側を欠くが、側縁が細かい鋸歯状を成すことから有茎尖頭器と判断される。797～800がホルンフェルス製、801・803が珪質頁岩製、802・804はガラス質黒色安山岩製である。

805・806は797～804より身部が短い、同様の茎部をもつものである。805はホルンフェルス製、806はガラス質黒色安山岩製。807～812は両側縁が直線的で長狭な三角形の身部をもち、茎部はより強く内湾するものである。808は輝石安山岩製で、剥片石器にはあまり用いられない石材であるが有茎尖頭器には稀に利用される。その他、807は珪質頁岩製、809は硬質細粒凝灰岩製、810・811はホルンフェルス製、812はガラス質黒色安山岩製である。

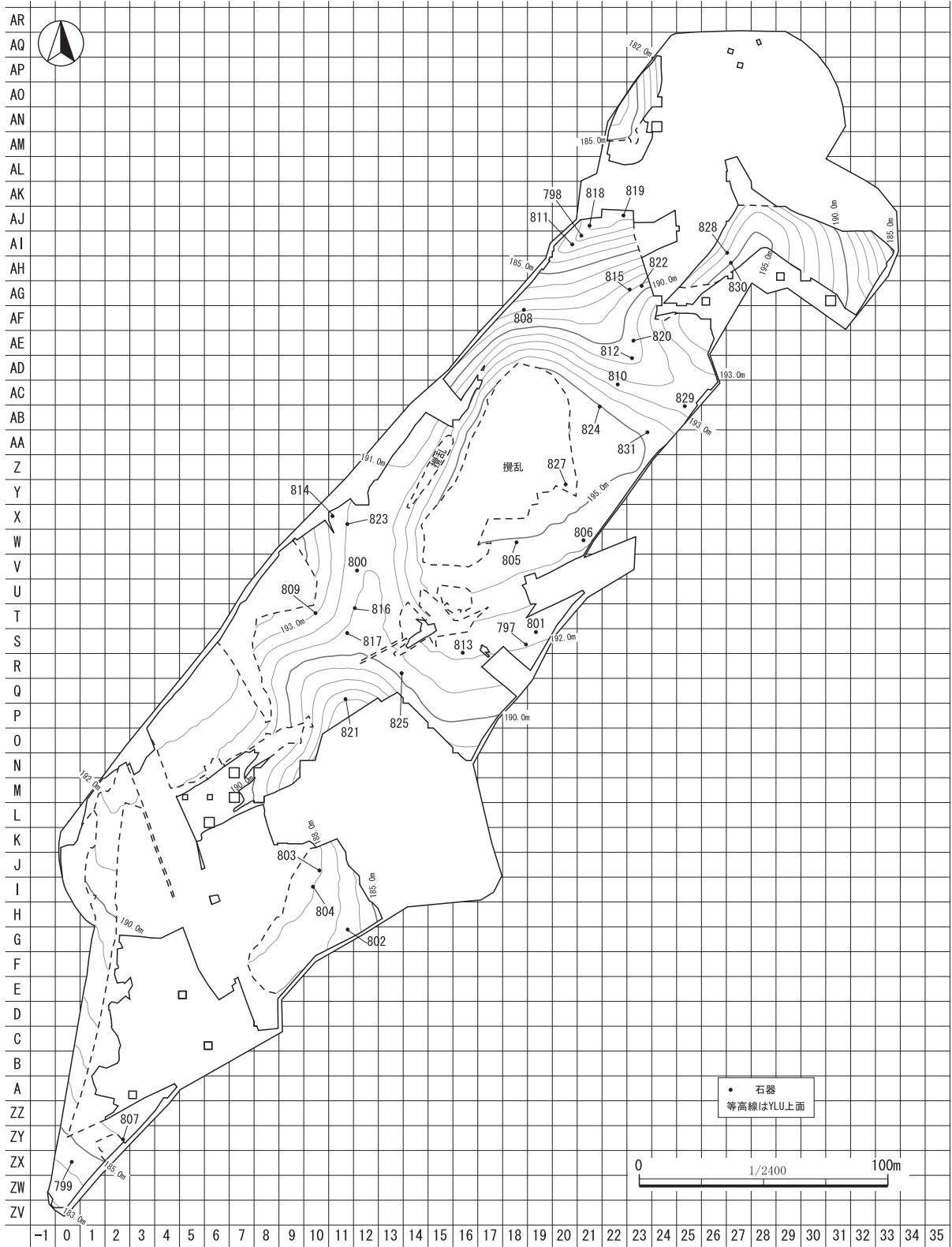
813～822は身部と茎部との境界が強く屈曲し、逆刺が明瞭な形態のものである。813～816は身部の両側縁が緩く外湾するもの、817～822は身部の両側縁が直線的なものである。813は珪質シルト岩製、814は珪質頁岩製、815・817・819はガラス質黒色安山岩製、816は細粒安山岩製、818・820はホルンフェルス製、821は硬質細粒凝灰岩製、822は天城柏峠産黒曜石製である。

823～826は身部の下半が緩やかに内湾し、逆刺が側方へ突き出す形態のものである。823・825はガラス質黒色安山岩製、824は神津島恩馳島産黒曜石製、826は諏訪星ヶ台産黒曜石製である。

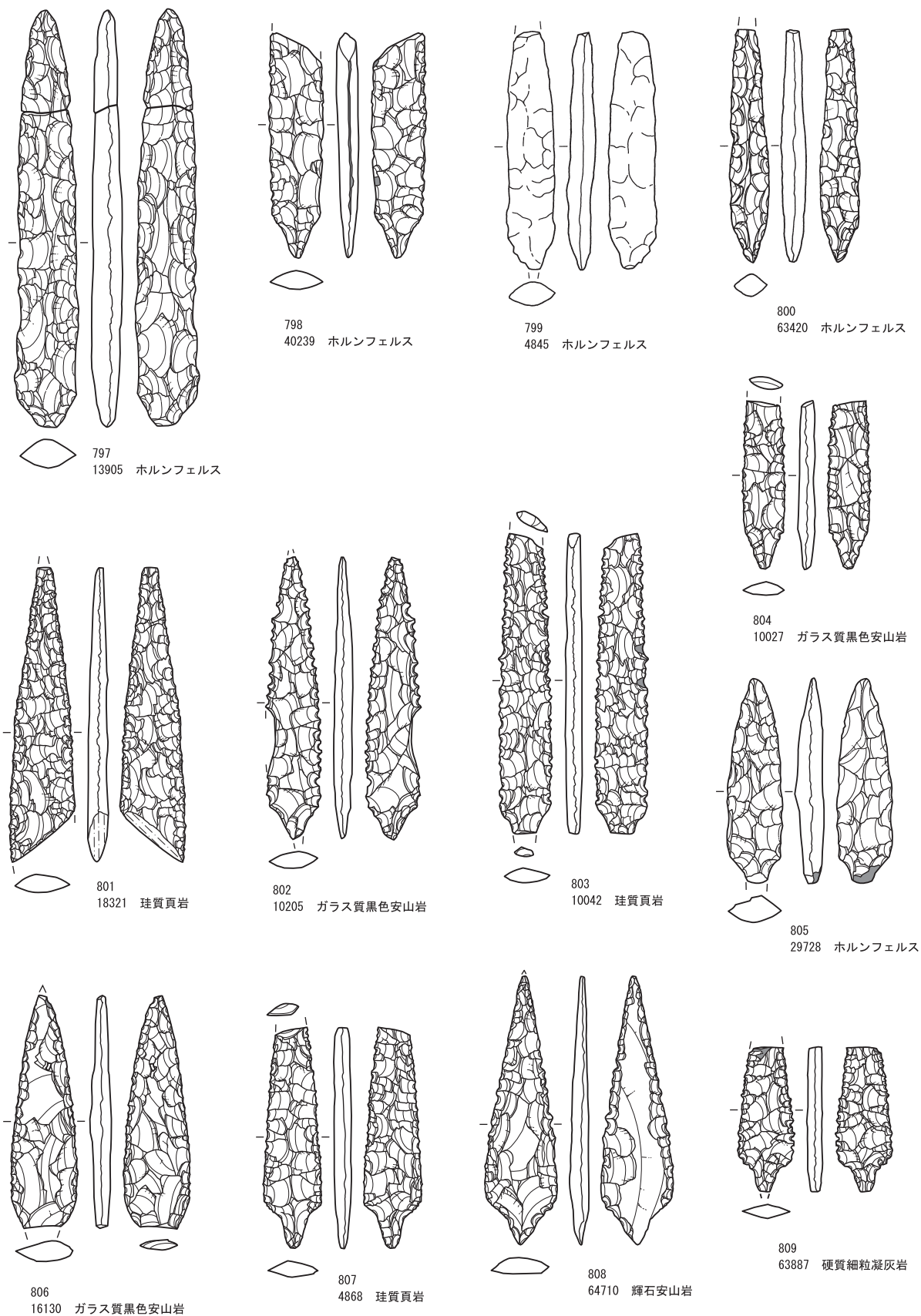
827・828は身部と茎部との境界が明瞭に屈曲し、そこから基部までは両側縁が直線的で逆三角形の茎部となるものである。827は甲高の形態で未製品の可能性がある。827はチャート製、828は神津島恩馳島産黒曜石製である。

##### 尖頭器・尖頭器未製品（829～831）

829・830は神津島恩馳島産黒曜石製の両面加工尖頭器である。第XVIII文化層の大形尖頭器における最終段階の加工は、縁辺部に細かい剥離がほぼ全周を廻るものであるが、これらの尖頭器では最終段階の加工は器体中央部付近まで及ぶ細長い剥離となっており、両者の製作方法の違いが現れている。831は神津島恩馳島産黒曜石製で、加工が粗く未製品と考えられる。

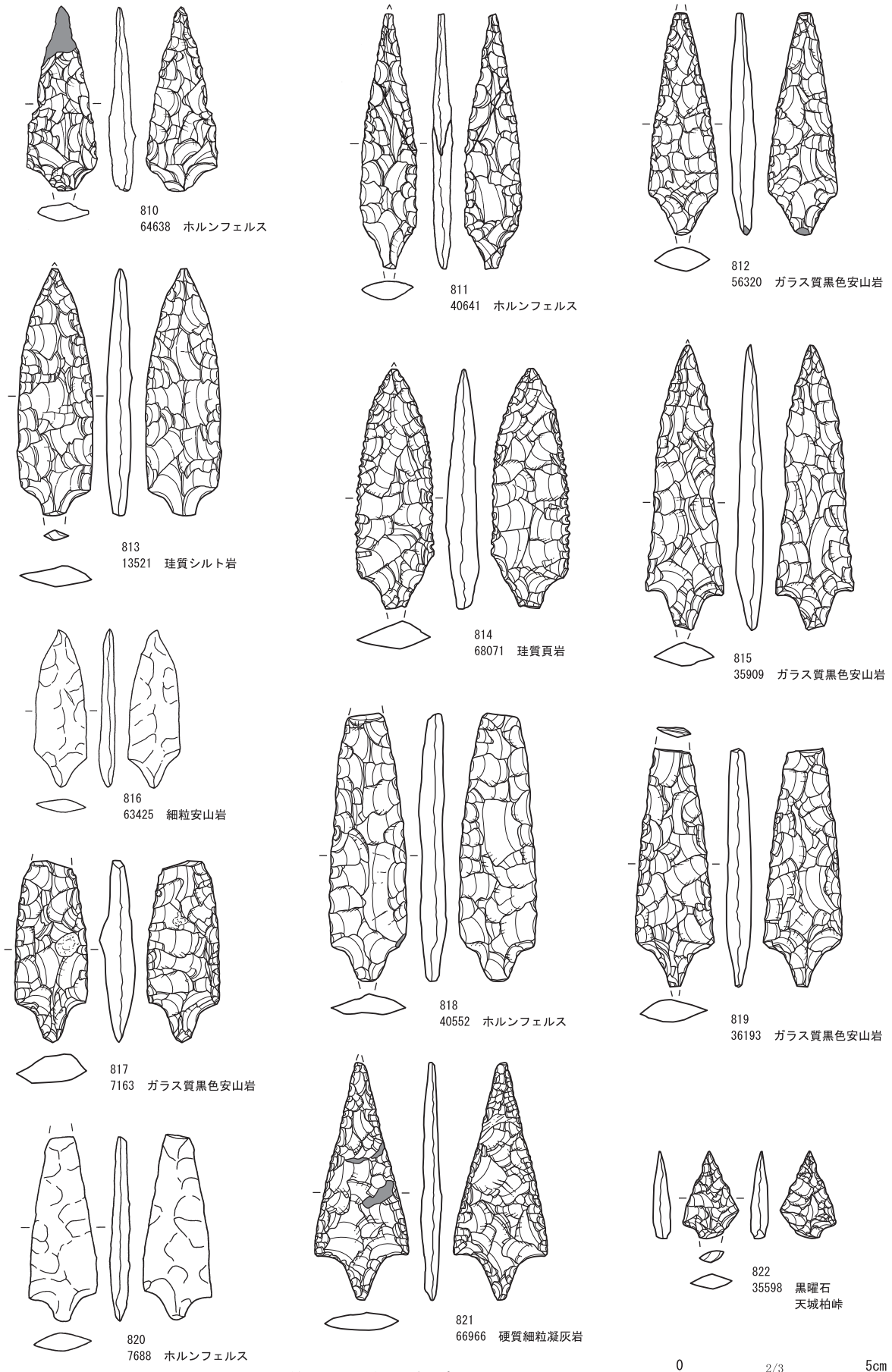


第445図 縄文時代初頭の遺物分布

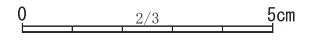


第446図 縄文時代初頭の石器（1）

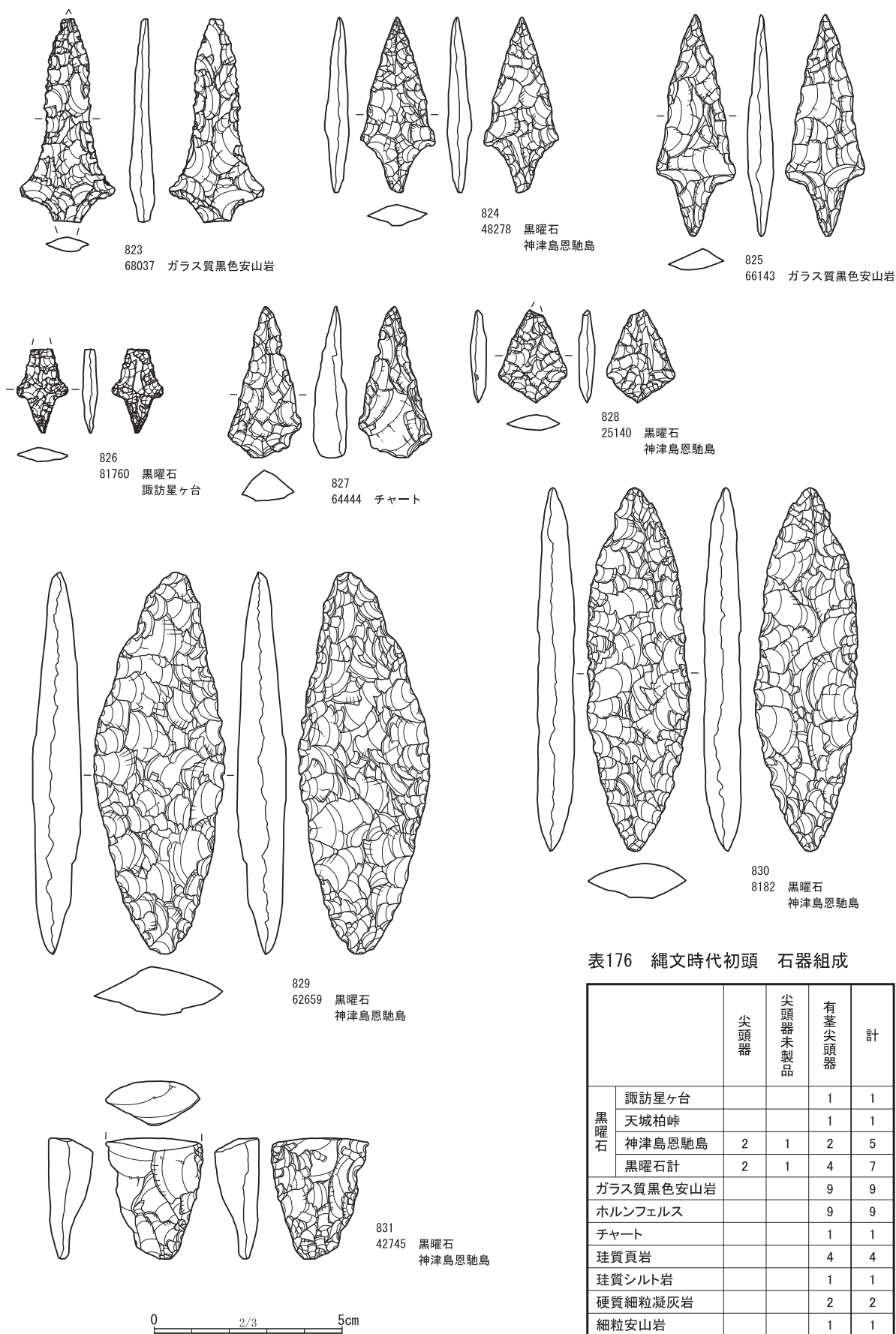
0 2/3 5cm



第447図 縄文時代初頭の石器（2）







第448図 縄文時代初頭の石器 (3)

表176 縄文時代初頭 石器組成

	尖頭器	尖頭器未製品	有茎尖頭器	計
黒曜石				
諏訪星ヶ台			1	1
天城柏峠			1	1
神津島恩馳島	2	1	2	5
黒曜石計	2	1	4	7
ガラス質黒色安山岩			9	9
ホルンフェルス			9	9
チャート			1	1
珪質頁岩			4	4
珪質シルト岩			1	1
硬質細粒凝灰岩			2	2
細粒安山岩			1	1
輝石安山岩			1	1
計	2	1	32	35

## 第10節 表採・一括等の遺物

## 概要

技術形態学的特徴から旧石器時代～縄文時代初頭の所産と考えられるが、表採資料、或いは表土や攪乱、縄文時代早期以降の遺構覆土など、原位置から大きく遊離した状態で出土した資料をここにまとめる。

## 1. 出土遺物（第449図、表177）

## 尖頭器（832～842）

832は神津島恩馳島産黒曜石製の両面加工で折損しており、また右側縁がやや歪であるが調整加工からみて縄文時代草創期のものと考えられる。表採資料。833～835はガラス質黒色安山岩製の両面加工尖頭器である。833はAA-20グリッド表土一括、834は表採資料である。835は加工が周縁部に止まるもので、基部は折損しているが括れていたようであり、有茎尖頭器であった可能性がある。攪乱出土。836は蓼科冷山産黒曜石製、両面加工で、裏面が平坦な加工で覆われ、正面がやや凸になる形態である。縄文時代の住居跡（SB07）覆土出土。837は和田鷹山産黒曜石製で、裏面の基部側の厚みを平坦加工で除去し、断面D字状に整形している。攪乱出土。838は箱根畑宿産黒曜石製で、素材剥片を横位に用いて片面を加工している。攪乱出土。839は諏訪星ヶ台産黒曜石製で、素材打面を基部に残し、ほぼ片面加工であるが裏面の基部側に平坦調整を加えている。攪乱出土。840は蓼科冷山産黒曜石製、周縁加工で、両側縁を急斜度加工で整形している。富士黒土層一括資料。841は神津島恩馳島産黒曜石製で、裏面に平坦調整は成されているが主たる加工は正面側で、断面D字状に整形されている。攪乱出土。842は和田鷹山産黒曜石製、片面加工で、大きな斑晶の位置で折損している。攪乱出土。832・835は縄文時代草創期のものと考えられ、それ以外は第XVII、或いは第XVIII文化層に関連するものと考えられる。

## ナイフ形石器（843～845）

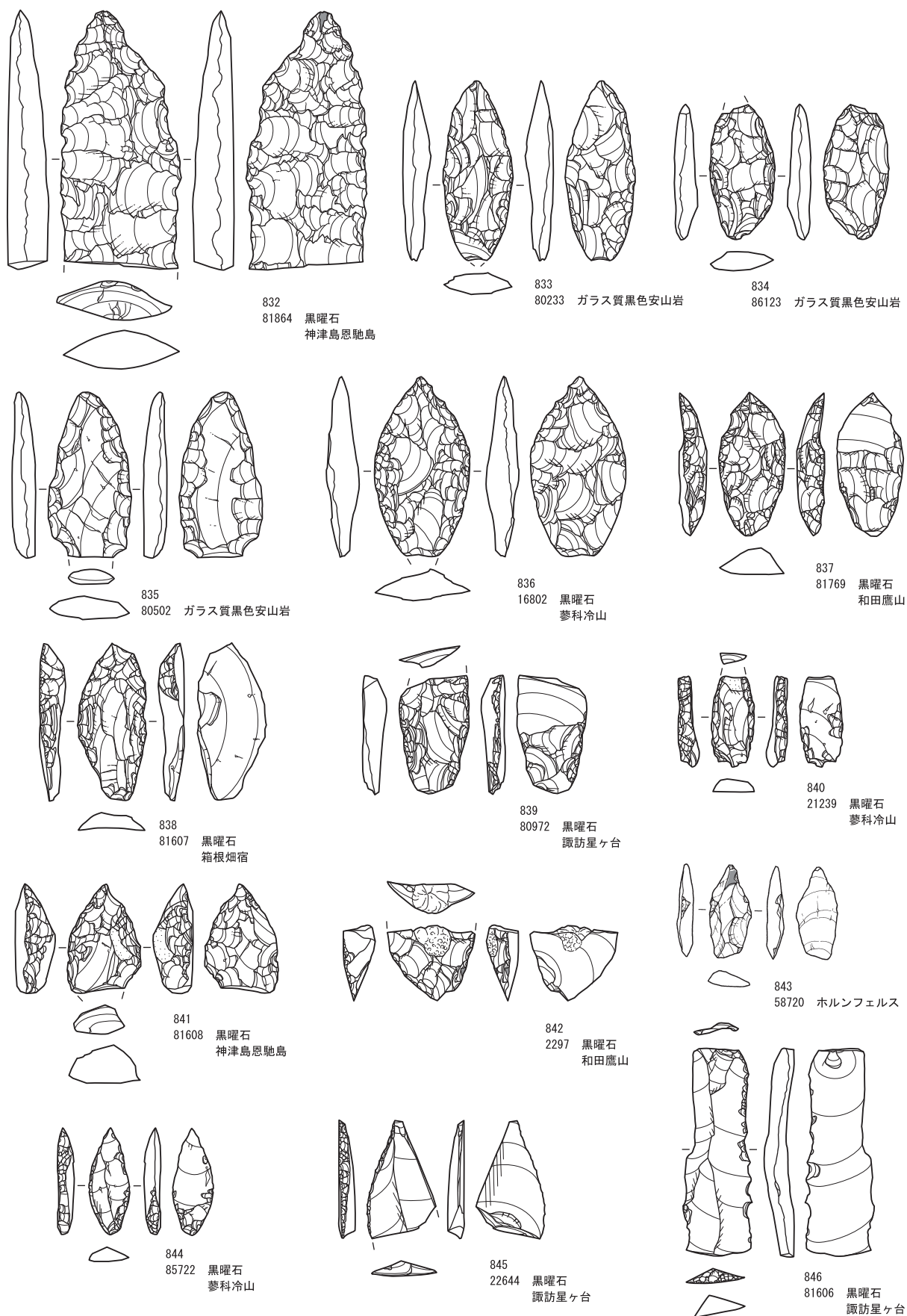
843はホルンフェルス製で、風化により剥離面が不明瞭になっているが、先細りの縦長剥片に部分的な調整を施したものと考えられる。縄文時代の住居跡（SB24）覆土出土。844は蓼科冷山産黒曜石製、石刃素材で二側縁を加工したものである。裏面基部が平坦調整され、刃部には微細剥離痕が認められる。表土一括資料。845は諏訪星ヶ台産黒曜石製で、左側縁に背部加工があり、基部側が折損している。縄文時代の住居跡（SB12）覆土出土。以上は第XVII文化層に関連するものと考えられる。

## 石刃（846）

諏訪星ヶ台産黒曜石製で、左側縁に剥離痕が認められる。また、末端部はほぼ垂直な加工でほぼ直線的に整形されている。攪乱出土。第XVII文化層に関連するものと考えられる。

表177 表採・一括等 石器組成

		尖頭器	ナイフ形石器	石刃	細石刃	計
黒曜石	和田鷹山	2				2
	諏訪星ヶ台	1	1	1		3
	蓼科冷山	2	1			3
	箱根畑宿	1				1
	天城柏峠				1	1
	神津島恩馳島	2			1	3
	黒曜石計	8	2	1	2	13
ガラス質黒色安山岩		3				2
ホルンフェルス			1	1		2
計		11	3	2	2	18



第449図 表採・一括等の遺物

0 2/3 5cm

# 第5章 まとめ

## 第1節 遺跡と文化層の概観

富士石遺跡は後期旧石器時代から中世にわたる複合遺跡である。本書にはそのうち、後期旧石器時代後半期の遺構・遺物及び縄文時代初頭の石器群を収録した。後期旧石器時代の遺構・遺物は上部ローム最下部の第I文化層から第IX文化層まで19の文化層に区分されているが、このうち第I黒色帯から富士黒土層に相当する第XIV文化層から第IX文化層が後期旧石器時代後半期にあたる。

後期旧石器時代後半期の文化層の設定については遺物の出土層位に基づいて行い、出土状況からは先後関係のつけられない遺物群をまとめたものである。各文化層の遺物は複数の尾根・谷を含む範囲に広がり、同じ出土層準であっても地点によって利用石材や技術形態学的特徴の異なる石器群が残されている場合がしばしば認められた(表178)。すなわち、本書で「文化層」としてまとめた石器群は単一の居住痕跡を反映したものである可能性は低く、場合によっては相当の時間差のある遺物が含まれている可能性を考慮する必要があるものと捉えられる。「文化層」の捉え方についてはこれまで様々に論じられてきたところであるが、結局のところ遺跡から出土した石器群の分離の仕方には分析の視点によって幾つもの方法があり得る(長沼正 2010)ということになる。しかし、行動論研究においても編年研究においても一括性の高い遺物群を抽出する必要があると考えられる。

広範囲に及ぶ調査区の各地点から重層的に遺物が出土していることを鑑みれば富士石遺跡では反復的に居住が繰り返されたものと見なされる。遺物は累積的に遺されており、そこから一括資料を抽出しようとするのは現実的でないかもしれない。これは休場層内の石器群(第XVII・XVIII文化層)について特に当てはまる。

本書ではひとまず石器集中を単位とし、地形などから類推して文化層内の石器群をさらに分節化した。その中には一括性の高いと考えられる遺物群もあればそうでないものも含まれている。次節ではこうした点を念頭において各文化層の石器群の概要をまとめることにする。

表178 各文化層の石器群

出土層位	文化層	地 区	特徴的な遺物
BB I 下部	XIV	北尾根・中央尾根・西支谷	小型ナイフ形石器/搔器/(大型石刃)
BB I 上部~SC I	XV	東尾根(南)	石刃製基部加工ナイフ形石器/削器
		中央尾根・西尾根[・北尾根・西支谷?]	角錐状石器/厚形背部加工のナイフ形石器/搔器
BB0	XVI	北尾根・東支谷(南)	角錐状石器/搔器
		東支谷(北)・中央尾根・西支谷	小型ナイフ形石器/切出形石器/搔器
YLM	XVII	中央尾根(南)・西尾根(南)	二側縁加工ナイフ形石器など石刃製石器
		中央尾根(北)	片面加工尖頭器(石刃製?)/ナイフ形石器/石刃
		東支谷・西支谷(22~24号石器集中)・西尾根(北)	尖頭器/小型ナイフ形石器/削器
YLM~YLU	XVIII	西尾根(北)	尖頭器/小型ナイフ形石器
		東支谷・中央尾根・西尾根(南)	尖頭器
YLU~FB	XIX		細石刃/搔器
		縄文時代初頭・第XVIII文化層の尖頭器の一部?	尖頭器/有茎尖頭器

※文化層内の区分の上下は必ずしも時間的前後関係を示すものではない。

## 第2節 富士石遺跡の石器群の変遷

### 1. 第XIV文化層

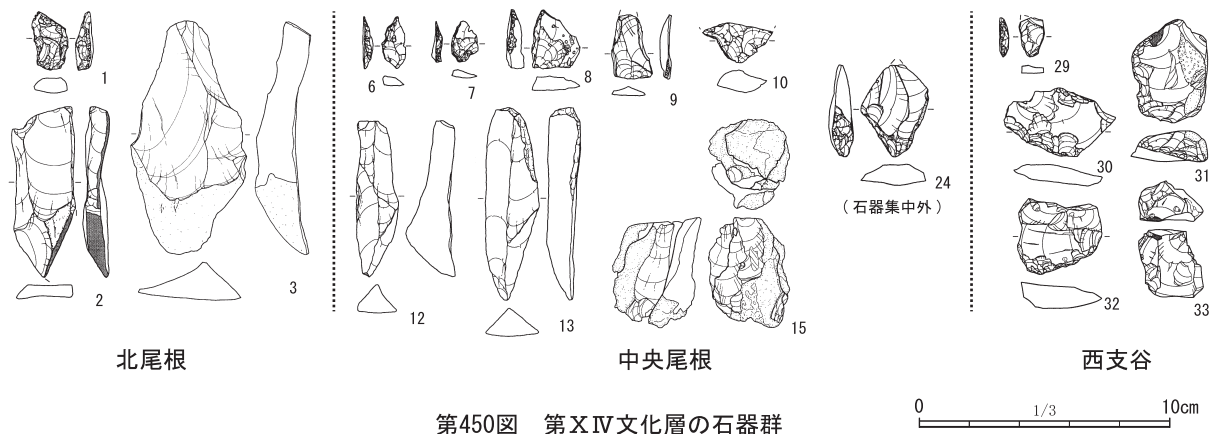
#### (1) 石器群の概要 (第450図)

第I黒色帯下部から出土した石器185点、礫92点から成る。石器群は総じて小規模であるが、中央尾根、西支谷で比較的まとまった石器群が出土しており、北尾根、西尾根でも少数の石器群が出土した。

北尾根の石器群、及び中央尾根の石器群では一側縁加工ナイフ形石器や基部加工ナイフ形石器とホルンフェルス製の大型石刃との組み合わせが見られる。一方、西支谷の石器群は黒曜石主体の石器群で小型二側縁加工ナイフ形石器、搔器、削器、楔形石器から成る石器群で、大型石刃は伴わない。

#### (2) 年代と編年的位置付け

この文化層では年代測定データが比較的豊富に得られており、北尾根 $25,020 \pm 90$  BP、中央尾根 $24,680 \pm 90$  BP、西支谷 $24,550 \pm 90 \sim 25,060 \pm 100$  BPと、おおよそ $24,500 \sim 25,000$  BP (約 $29,500 \sim 30,000$  cal BP) の範囲に収まる年代が得られている。小型ナイフ形石器を主体とする石器群は複数の遺跡で第I黒色帯下部から出土しており、桜畑上遺跡(第二東名関連)第V文化層(静岡県埋蔵文化財調査研究所2009c)、陣場上B遺跡第II文化層(長泉町教育委員会1994)、清水柳北遺跡第I黒色帯1~4号ブロック(沼津市教育委員会1989)などの例がある。このうち桜畑上遺跡ではほぼ同様の炭素年代が得られている。



第450図 第XIV文化層の石器群

### 2. 第XV文化層

#### (1) 石器群の概要 (第451図)

第I黒色帯上部から第Iスコリア層を中心として出土した石器1,448点、礫307点から成る。石器集中を形成する規模の石器群は北尾根、東尾根(北・南)、中央尾根、西支谷、西尾根等の各地点で出土したが、その大部分を占めるのが西尾根の石器群である。

西尾根の石器群は大小の基部加工ナイフ形石器、二側縁加工ナイフ形石器と搔器を主体とし、角錐状石器1点が伴う他、ホルンフェルス製の石刃も出土している。中央尾根の石器群は西尾根の石器群に比してかなり小規模なものであるが、同様の組成をもつものと言える。中央尾根の石器集中外から出土した大型の角錐状石器(81)は石器集中に比較的近い地点で出土し、石材も共通することから石器集中の資料に関連づけられる可能性がある。

一方、東尾根(南)の石器群は角錐状石器、基部加工ナイフ形石器、石刃製の削器などから成る。ナ

イフ形石器は、西尾根、中央尾根のものが基部に打面を広く残すものが多かったのに対して、基部を細く仕上げたもので、石刃製削器の存在とともにやや異質な印象を受ける石器群である。

その他の地点では搔器・削器類や石刃などが出土している他、角錐状石器やナイフ形石器が石器集中外で散発的に出土している（註1）。

（2）年代と編年的位置付け

年代値は、中央尾根で23,980±90 BP、西支谷で23,770±90 BP、24,140±100 BP、西尾根で23,890±90 BP、23,960±90 BPと、24,000 BP（約29,000 cal BP）前後の値でまとまっている。

第XV文化層のうち、西尾根や中央尾根の石器群のように厚型の背部加工をもつナイフ形石器や基部加工のナイフ形石器に搔器や少数の角錐状石器が伴う石器群は第I黒色帯上部から出土する石器群の中でも典型的なもので、類例としてはイラウネ遺跡第II文化層（長泉町教育委員会 1986）、上ノ池遺跡第III文化層（静岡県埋蔵文化財調査研究所 1998）などが挙げられる。

その他の地点の石器群もおおよそ同時期の資料と考えられる。但し、東尾根（南）の石器群については直接対比できる資料がない。下ノ大窪遺跡第II文化層（静岡県埋蔵文化財調査研究所 2008a）の石刃製の削器などから成る石器群に近い時期とすれば、時期が少し古くなる可能性もある。



第451図 第XV文化層の石器群

3. 第XVI文化層

（1）石器群の概要（第452図）

休場層直下黒色帯から出土した石器287点、礫2,402点から成る。但し、富士石遺跡では基本的に休場

層直下黒色帯が不明瞭で、沼津市域で確認されている層序と単純に対比することはできない。

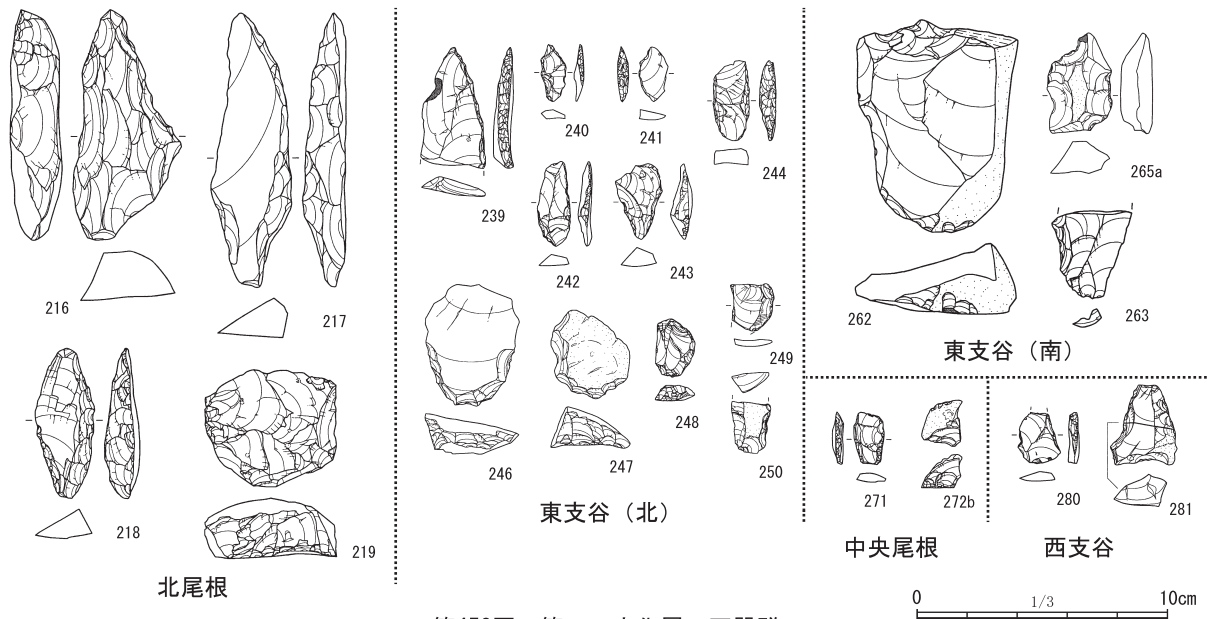
この文化層は大規模な礫群に特徴付けられ、特に北尾根では環状に近い分布を示す。これに対し石器群は小規模なものにとどまる。この文化層の石器群には大きく分けて2つの様相が認められる。1つは北尾根の石器群で、大型の角錐状石器や厚形の二側縁加工ナイフ形石器から成る。もう1つは小型のナイフ形石器主体の石器群である。東支谷（北）の石器群は一側縁・二側縁加工ナイフ形石器や切出形石器など小型の資料主体である。但し、大型のナイフ形石器（239）はこの地区では唯一の和田鷹山産黒曜石製で、出土位置が他の石器よりやや上層であることなどから、別時期の資料の可能性も考えられる。この他にも中央尾根、西支谷でも小型のナイフ形石器や切出形石器を伴う石器群が出土している。

また、東支谷（南）の石器群では複刃削器（265a）が出土しており、他の資料と比べ小型で加工が粗いため断定はできないが角錐状石器の製作技術と関連する資料の可能性はある。

### （2）年代と編年的位置付け

年代測定データは東支谷（南）で $23,170 \pm 90 \sim 23,410 \pm 90$  BPと近接した値が得られている。東支谷（北）と礫1個体が接合し、近接した時期に残された可能性を示している。

第XVI文化層北尾根の石器群は中見代第II遺跡第V層（沼津市教育委員会 1988）、野台南遺跡第IV文化層（静岡県埋蔵文化財調査研究所 2009a）などに代表される、角錐状石器に特徴付けられる石器群である。一方、東支谷（北）、中央尾根、西支谷など小型のナイフ形石器、切出形石器を主体とする石器群は類例が少ないものの、桜畑上遺跡（東駿河湾環状道路関連）第III文化層（静岡県埋蔵文化財調査研究所 2010b）などが挙げられる。



第452図 第XVI文化層の石器群

## 4. 第XVII文化層

### （1）石器群の概要（第453図）

休場層下～中位を中心に出土した石器997点、礫910点から成る。他の文化層に比べると調査区内に広く薄く分布する傾向があると言えるが、一部に遺物の密集度の高い範囲が存在する。但し、第XVII文化層は第XVIII文化層と出土層位が重複するため両者の分離が不明瞭な箇所がある。全般的な傾向として、第XVII文化層は石刃製の石器の割合が高いという特徴があるが、石器群は地区ごとに多様な様相を見せている。剥片類のみで構成され特徴が抽出できない石器群や小規模な石器集中を除いた、まとまった資



第453図 第Ⅶ文化層の石器群

料から成る石器群には以下のようなものがある。

①西尾根 (南)、中央尾根 (南) の石器群

西尾根 (南) の石器群はホルンフェルスの石刃を主体とする石器群で、連続的な石刃剥離を示す接合資料等を多く含む一方、一般的剥片剥離技術に関連する資料も一定量認められる。ナイフ形石器は石刃素材の二側縁加工、一側縁加工のものが主体で、切出形に近い形態のもの (571) が少数伴う。また、



集中部の外縁部より高原山産黒曜石製の片面加工尖頭器1点が出土している（註2）。

中央尾根（南）でもホルンフェルス製の石刃や石刃石核が比較的まとまって出土しているが、ナイフ形石器は欠損品が多く、型式学的な検討は難しい。

#### ②中央尾根（北）の石器群

尖頭器・ナイフ形石器は石刃素材の可能性があり、素材刃部の残存度の差から別器種に分類したが、形態的に類似し機能的に近いと考えられる。このような石刃素材の片面加工尖頭器は片平山遺跡（三島市教育委員会 1990）、上原遺跡（函南町教育委員会 2001）などの石刃石器群に伴う例が知られており、①に近い時期に位置づけられる。

#### ③西支谷（22～24号石器集中）、西尾根（北）の石器群

西支谷では分布的なまとまりのはっきりしない石器集中・礫群が点々と分布しているが、この中では22～24号石器集中が比較的まとまっており、一括性が高いと考えられる。尖頭器や小型のナイフ形石器から成る石器群であり、石製装飾品（第454図1）が伴う。ナイフ形石器には多様な形態が含まれ、縦長剥片だけでなく幅広剥片も素材として利用されている。石刃は少数のみ出土している。

西尾根（北）の石器群は27～37号石器集中から成るが、遺物分布に粗密があり、さらにいくつかの単位に分節される可能性が高い。特に29～35号石器集中が密集したまとまりを示す。石刃や石刃素材の石器が多いが、共伴する石核や接合資料には石刃状剥片・縦長剥片剥離が部分的にしか認められない。ナイフ形石器も石刃製が主体となる西尾根（南）の石器群と異なり、周縁加工尖頭器や基部加工のナイフ形石器、小型の二側縁加工ナイフ形石器など種々の形態のものが含まれている。

#### ④東支谷の石器群

東支谷では小型の尖頭器やナイフ形石器を含む石器群が出土しており、ナイフ形石器には高原山産黒曜石製のものが1点含まれていた。石刃やそれを素材とする石器はほとんど含まれない。

### （2）年代と編年的位置付け

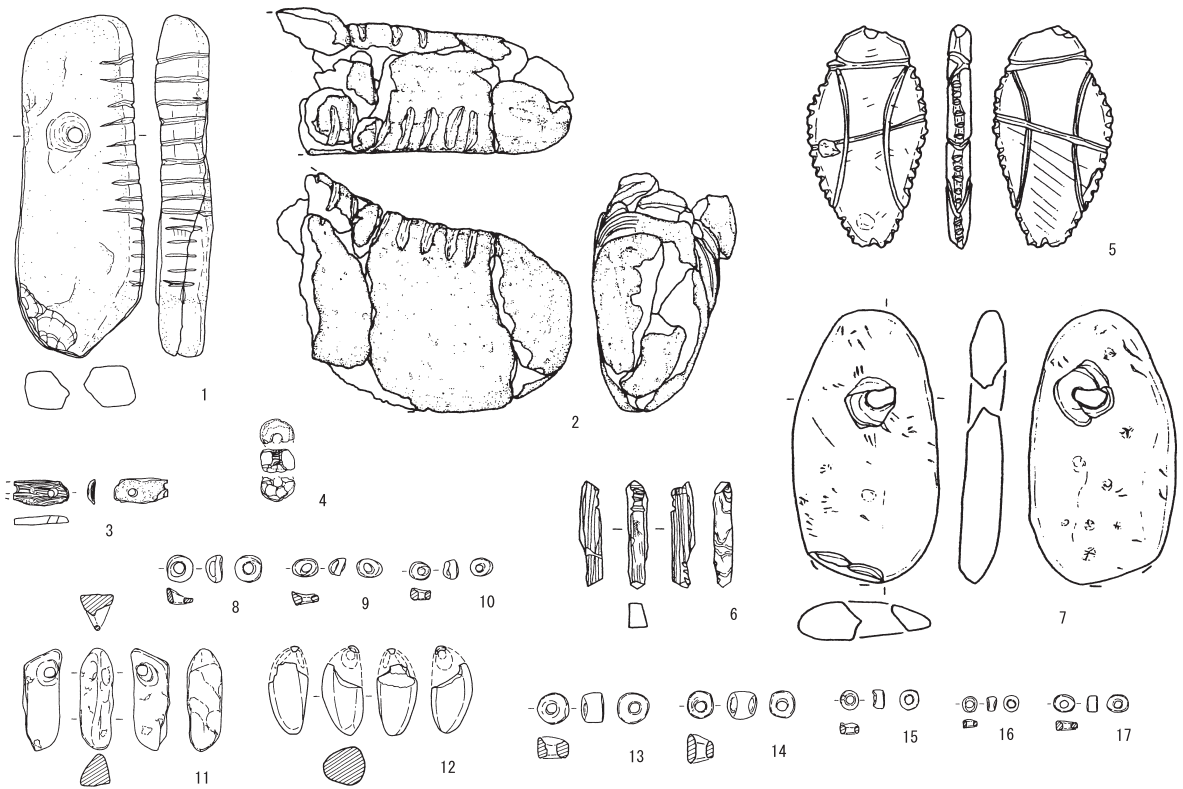
第XVII文化層の石器群はいずれも休場層中位を中心に出土している。層厚の異なる尾根部と谷部とでは出土層位の差を捉えにくいこともあり、層的に分離することはできないが、石器群の技術形態学的特徴からは①・②が関東の砂川期、③・④がナイフ形石器終末期にほぼ相当するものと考えられる。近隣の遺跡では前者が梅ノ木沢遺跡第IX文化層、後者が同第X文化層に対比される。

本遺跡では第XVII～XIX文化層の出土層準ではまとまった炭化物の出土がなく、年代値を得ることはできなかった。全般的に愛鷹山麓では休場層の炭素年代のデータが少なく、AMS法に限ると向田A遺跡（静岡県埋蔵文化財調査研究所 2007b）の休場層出土の石囲炉（約19,000BP）の事例が挙げられる程度である（註3）。この遺構には石刃石器群が共伴しており、第XVII文化層の石器群では上記の①の石器群と対比されるものと考えられる。

### （3）第XVII文化層の石製装飾品について（第454図）

第XVII文化層の石製装飾品は、板状で表裏から穿孔され、側面に線刻があるもので、垂飾の可能性が考えられる。西支谷の尖頭器や小型のナイフ形石器などを主体とする石器集中から出土したことから、前項で述べた通りナイフ形石器終末期への位置づけが想定される。そこで、現在までに国内で知られている装飾品類との編年・年代的関係についてまとめておく。

垂飾・玉や彫刻品といった象徴的表現に関連する遺物は、後期旧石器時代以降、シベリアや中国北部など主にユーラシア大陸北方地域の遺跡で多く見つかっており、石の他、骨牙、卵殻など有機質のものも素材として利用されている。国内の資料については最近、長沼孝氏（2010）により資料の集成と検討



1: 富士石遺跡、2・4: 柏台1遺跡、3: オバルベツ2遺跡、5・7: 峠山牧場I遺跡A地区  
6: 柏山館遺跡、8-12: 湯の里4遺跡、13-17: ピリカ遺跡

第454図 日本列島の後期旧石器時代の装飾品・芸術品

が行われているが、日本列島では有機質遺物が遺存しにくいこともあってか同種の遺物は少ない。

資料数が多いのは北海道で、湯の里4遺跡（北海道埋蔵文化財センター 1985a）、美利河1遺跡（同 1985b）、柏台1遺跡（同 1999）、オバルベツ2遺跡（北海道文化財保護協会 1999）で小玉や垂飾が出土している。素材は大陸産の可能性が指摘されているかんらん岩の他、琥珀、片岩等で、垂飾が長径2 cm程度、小玉は径1 cm以下といずれも小型のものである。これらは蘭越型細石刃核や峠下型細石刃核に関連する細石刃石器群、すなわち北海道における細石刃石器群の前期前葉（山田 2006）の石器群に伴うもので、AMS法による炭素年代によると20,000～21,000 BP前後とされる。

その他、類似の資料としては柏台1遺跡の「線刻のある石製品」がある。やや扁平な礫を研磨し線刻を加えたもので、ウシなどの動物をかたどった可能性が考えられている。穿孔の有無や厚みなど相違点はあるものの研磨した礫の片側面に線刻を入れる点で富士石遺跡の資料と類似する。しかし、共伴する資料は不定形剥片石器群で、これは先述の細石刃石器群よりさらに年代が遡るものと考えられている。

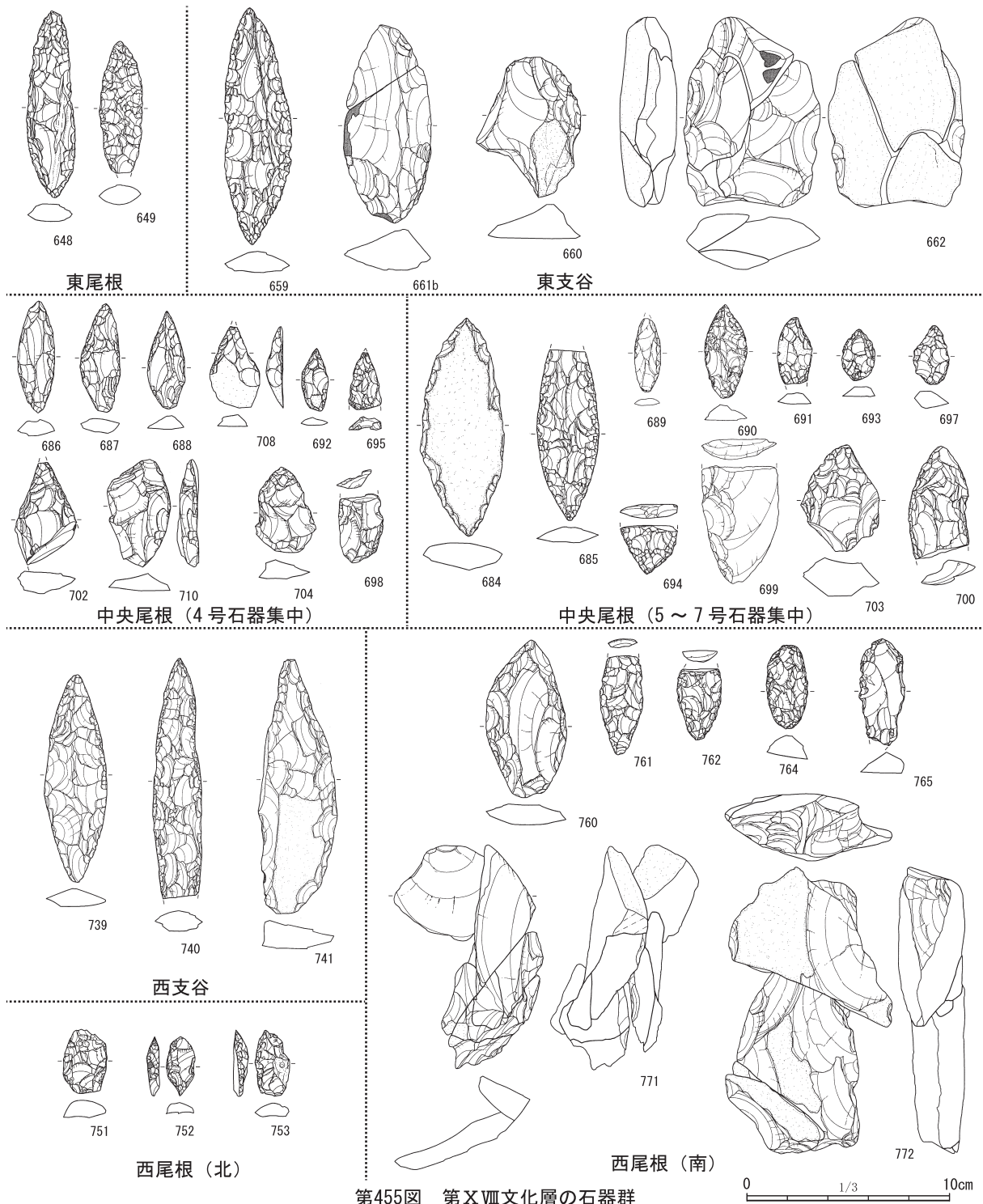
本州では岩手県の2遺跡で資料が見つかった。柏山館遺跡II a（下）文化層（岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター 1996）の線刻石製品破片は二側縁加工ナイフ形石器などと共伴し、南関東の砂川期に並行すると考えられる。峠山牧場I遺跡A地区（同 1999）では有孔の石製垂飾、線刻石製品（ともに滑石片岩製）が出土している。搔器や大型石刃を伴う石器群で、南関東のIV層下部・V層上部に並行するものと考えられる（註4）。

ここに挙げた装飾品類は基本的に後期旧石器時代の後半期にまとまる。南関東の砂川期が炭素年代で19,000 BP前後であることを考慮すると、北海道を中心に南関東のIV層下部・V層上部並行期のものが多く、本州側の資料は相対的に新しいものと考えられ最南端の出土例にあたる富士石遺跡の資料は上記

の中では最も新しい時期に位置づけられる。本州側の資料が少ないために立ち入った解釈を行うことはできないが、この時期の愛鷹山麓は高原山産黒曜石製石器の散発的な出土など、石器石材の交換・流通が変化していることから明らかなように地域間の社会的関係が変化したものと考えられ、精神的な活動と社会との関連を考える上で示唆的な事例と考えられる。

5. 第XⅧ文化層

(1) 石器群の概要 (第455図)



第455図 第XⅧ文化層の石器群

休場層中～上位を中心に出土した石器463点、礫527点から成る。中・大型の尖頭器を含む石器群が主体であるが、第XVII文化層と同様に異なる特徴をもつ石器群が認められる。具体的には以下のように区分して捉えることができる。

#### ①西尾根（北）の石器群

小型尖頭器、ナイフ形石器、切出形石器などから成る石器群で、箱根畑宿産黒曜石が主体となっている。第XVIII文化層の他の地区とは異なり、石器集中からは中・大型の尖頭器が出土していない。

#### ②東支谷、中央尾根、西尾根（南）の石器群

中・大型の両面加工尖頭器が主体の石器群である。

東支谷の石器群はホルンフェルスにより尖頭器製作が行われたもので、2号石器集中では粗く祖形を作り出す段階の1個体、3号石器集中ではそれより加工が進んだ段階の資料3個体以上が含まれている。尖頭器製作に直接には関連しないと考えられる石核を除くと、尖頭器やその調整剥片には礫面が見られず、粗い整形の後の素材が搬入されていたものと考えられる。

中央尾根の石器群はガラス質黒色安山岩製の尖頭器や尖頭器未製品、調整剥片などがまとめて出土したもので、東支谷の石器群と同様に素材を搬入して製作が行われたものと考えられる。第XVII文化層の石器群と重複するため混在している可能性は排除できないが、少なくとも4号石器集中を中心にまとまっているガラス質黒色安山岩製の尖頭器関連資料はこの文化層に含められる。一方、5～7号石器集中などを中心に分布する神津島恩馳島産黒曜石製や諏訪星ヶ台産黒曜石製石器などは厳密には4号石器集中とは別個に遺された石器群である可能性も考えられる。

西尾根（南）の石器群もホルンフェルスによる尖頭器製作に関わる資料を含むと考えられるが、前2者の石器群とはやや異なる。ホルンフェルスの分割礫からの打ち割りを示す資料や板状礫からの加工を示す資料など、より尖頭器素材に近い段階の工程を示す資料が含まれる一方で、それより工程の進んだ段階で生じる調整剥片はほとんど出土しなかった。

#### ③東尾根の石器群

礫群に伴う形で長狭な形態の両面加工尖頭器が出土している。

#### ④西支谷の石器群

大小の尖頭器やナイフ形石器などから成る。谷部への落ち込み部分に相当する位置に分布することから、尾根上から石器が流れ込んだりしている可能性もあるが、谷筋の上方に位置する西尾根の石器群とは構成石材が異なっている。

### （2）年代と編年的位置付け

出土層位が休場層中位から上位であり、第XIX文化層の細石刃石器群（富士黒土層出土が多い）よりも相対的に下位に位置づけられることから、第XVII文化層のナイフ形石器終末期石器群に後続して発達した尖頭器石器群が主体であると考えられる。但し、前項における石器群の区分に対応して時期差のある資料が含まれているようである。

#### ①西尾根（北）の石器群

出土地点が近接する第XVII文化層西尾根（北）の石器群よりも出土層位が上位であるが、第XVII文化層に近い内容を持ち、他の資料に比して古い時期に位置づけられる。

#### ②東支谷、中央尾根、西尾根（南）の石器群

本文化層の主体を成す大・中型の尖頭器に特徴付けられる石器群であり、次項で改めて採り上げるが、相模野台地のL1H層から出土する尖頭器石器群に対比されるものと考えられる。愛鷹・箱根山麓では信頼できる年代測定データに乏しいが、相模野台地の用田南原遺跡第II文化層（かながわ考古学財団

2004) で17,000BP前後の年代値が得られている。

### ③北尾根の石器群

出土した尖頭器のうち、黒曜石製のものは二次加工の形態から縄文時代草創期後半の押圧縄文土器期に属する可能性が考えられる。但し、石器・礫は基本的に休場層から出土しているため、石器群全体が草創期に属するとは考えにくい。

### ④西支谷の石器群

小型の尖頭器などは西尾根の石器群と近い位置づけが考えられる。但し、長狭な形態の大型尖頭器(789~741)は縄文時代草創期初頭まで時期が下の可能性が考えられる。

## (3) 愛鷹・箱根山麓の尖頭器石器群について

愛鷹・箱根山麓における後期旧石器時代終末期の尖頭器石器群の位置づけについてはかねてから問題となってきたところである。神奈川県相模野台地では、尖頭器石器群がナイフ形石器終末期以降、細石刃石器群出現期に位置づけられる(主としてL1H層から出土する)石器群と、それより新しい縄文時代草創期に位置づけられる(主としてL1S層から出土する)石器群とが存在することが明らかにされているが、愛鷹・箱根山麓の尖頭器石器群は細石刃石器群以前に位置づけられるのか、或いは縄文時代草創期に位置づけられるのか明らかではなかった。

前項で述べた通り、富士石遺跡の第XVIII文化層東支谷、中央尾根、西尾根(南)の尖頭器石器群は出土層位や他の文化層の石器群との関係から、細石刃石器群に先行する時期に位置づけられ、相模野台地L1H層の尖頭器石器群に対比されるものとして捉えた。

一方、富士石遺跡に近接する梅ノ木沢遺跡でも尖頭器石器群が出土している(第XII文化層)が、この石器群は報告書では縄文時代草創期として捉えられている(静岡県埋蔵文化財調査研究所 2010d)。確かに硬質頁岩製の大型両面調整尖頭器は薄手で精緻な調整加工であり、神子柴系尖頭器として位置づけられるかも知れないが、資料の主体を成す箱根畑宿産黒曜石製の資料については必ずしも縄文時代草創期の資料とは言えないように見受けられる。出土層位も細石刃石器群が下位の第XI文化層として位置づけられているが実際にはほぼ重複しており、層位的な上下関係は明瞭ではない。このことから、富士石遺跡第XVIII文化層東支谷、中央尾根、西尾根(南)の尖頭器石器群と同じく、細石刃石器群に先行する石器群として位置づけることも可能と考えられる。

愛鷹・箱根山麓の尖頭器石器群で、尖頭器とその製作に関連する資料が1,000点以上の規模で出土している遺跡としては山中城跡三ノ丸第1地点(三島市教育委員会 1995)、梅ノ木沢遺跡がある。山中城跡三ノ丸第1地点では箱根畑宿産黒曜石、ガラス質黒色安山岩製の尖頭器が多数出土しており、1個体であるが剥片素材の尖頭器未製品と石核との接合資料も確認されている。梅ノ木沢遺跡でも尖頭器と剥片の接合資料が得られている。

これらに対して、富士石遺跡第XVIII文化層東支谷、中央尾根、西尾根(南)の各地点の石器群はかなり小規模な石器群となっている。例えば中央尾根では、尖頭器石器群と確実に関連する4号石器集中のガラス質黒色安山岩製について見ると、尖頭器、尖頭器未製品、両面加工の石核など尖頭器に関連する可能性のあるものが6点、削器などその他の剥片石器が8点であるのに対し剥片類は70点にとどまっている。その他の地点の石器群も100点以下の石器から構成される数箇所程度の石器集中から成っており、少なくとも大量の尖頭器が集約的に製作された場とは考えられない。

この他にも、愛鷹・箱根山麓には尖頭器石器群と考えられる遺跡が幾つかあるが、山中城跡三ノ丸第1地点、梅ノ木沢遺跡以外では比較的小規模なものにとどまっている。富士石遺跡では長泉町調査地点(長泉町教育委員会 1989)でも尖頭器と調整剥片から成る石器群が出土している。調査範囲が限定され

ているが、今回の調査地と同様の小規模な尖頭器製作地点が存在したことが窺われる。拓南東遺跡（沼津市教育委員会 1998）では珪質頁岩製の尖頭器と調整剥片の接合資料が得られている。それ以外のナイフ形石器等の石器群との共伴関係が問題となるが、小規模な尖頭器製作地点の可能性のある資料として挙げられる。また、東山遺跡第Ⅱ文化層（三島市教育委員会 2004）でも尖頭器がまとまって出土しているが、この石器群に伴う剥片類は少なく石器製作の痕跡に乏しい。

この他、大越遺跡（熱海市教育委員会 1995）でも尖頭器製作に関連する石器集中が出土している。尖頭器未製品と石核との接合資料も存在するが、尖頭器関連の石器群は比較的小規模である。

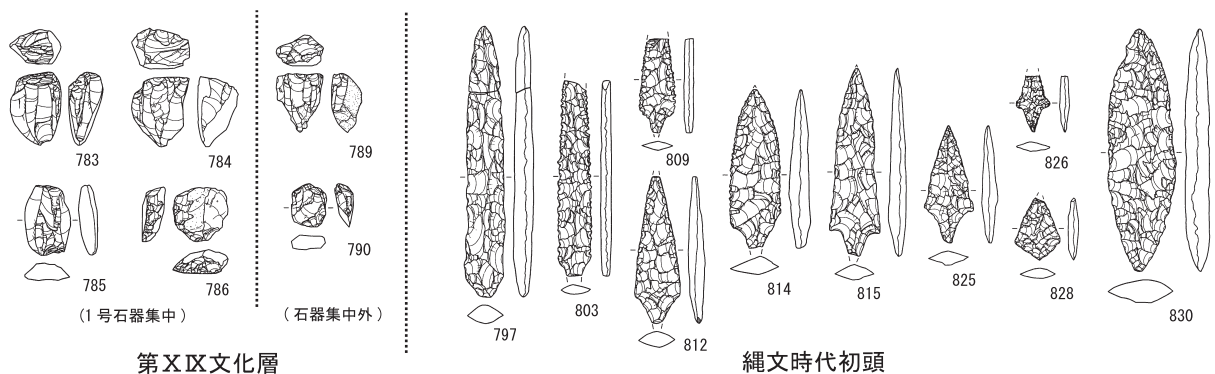
尖頭器製作は工程別異所戦略的な傾向が強く、原石の搬入から調整加工までの各段階の工程が異なる地点に残される傾向にある。愛鷹・箱根山麓の遺跡では、原石から加工が行われた遺跡が少なく、主として尖頭器製作工程の後半段階部分、すなわち尖頭器未製品から調整加工を行った遺跡が点在していたものと捉えられる。とは言え、それ以前の時期と比較して遺跡が減少し、全般的に小規模化していることは明らかである。一方、同時期の相模野台地では尖頭器石器群の遺跡が多く見つかっている他、宮ヶ瀬サザランケ遺跡第Ⅲ文化層（かながわ考古学財団 1996）、用田南原遺跡第Ⅱ文化層（かながわ考古学財団 2004）、月見野上野遺跡第1地点第Ⅳ文化層（大和市教育委員会 1986）、中村遺跡C区（中村遺跡調査団 1987）など、1000点以上の石器で構成され、複数の石器集中から成る大規模な遺跡も多い。このことから、当該期の愛鷹・箱根山麓では相模野台地に比べて大幅な人口減少が生じていたのではないかと推定される。現在に至るまでこの時期に相当する尖頭器石器群の存在が不明瞭な状況にあったのにはこうした遺跡の減少が背景にあったものと考えられる。

## 6. 第Ⅹ区文化層（第456図）

富士黒土層を中心に出土した石器21点から成る。細石刃、細石刃核を主体とする細石刃石器群である。1号石器集中ではやや粗い弧状の刃部をもつ搔器（786）と細石刃核から転用されたと考えられる楔形石器（785）が細石刃石器群に伴うものと見られる。この他、大半の資料が調査区内に散在して出土したため遺物の共伴関係等は不明な点が多い。

## 7. 縄文時代初頭（第456図）

縄文時代草創期前半の隆線土器に伴う時期のものと考えられる有茎尖頭器が32点出土した。長狭な形態のものが多く（797・803など）、また側縁が細かい鋸歯状を成す形態のものも比較的多い（803・809など）。愛鷹山麓の他の多くの遺跡と同様、尖頭器類のみが単独で出土したもので、土器や剥片類などの共伴資料は確認されていない。この他、神津島恩馳島産黒曜石の両面加工尖頭器（830）が3点出土している。単独出土であるが剥離痕など形態的特徴から押圧縄文系土器群に伴う尖頭器である可能性が高い。



第456図 第Ⅹ区文化層・縄文時代初頭の石器群

註

1. この他、第47図24のナイフ形石器（基部加工尖頭形石器）は南関東V層上部並行期に類例が広い地域に分布する型式の石器として注目される資料である（森先 2007）が、石器集中から外れて単独出土したものであり共伴する石器群等の検討は難しい。
2. 高原山産黒曜石は同種の石材が他に出土しておらず、出土位置も石器の密集域からやや外れたものであるため、厳密にはホルンフェルス製石刃石器群と共伴するかは不明である。
3. この他、梅ノ木沢遺跡でも休場層出土炭化物の年代測定が行われているが、複数の文化層が重複しており、炭化物と共伴する石器群が明らかではない。
4. 日本列島で発見された石製装飾品の可能性がある資料の最古の事例はIX層下部出土の千葉県出口・鐘塚遺跡の資料2点であるが、欠損・風化・摩耗のため装飾品とは断定し難く、顔料原材料とする指摘（長沼孝 前掲）もある。

参考文献

〔論文〕

- 愛鷹ローム団研グループ 1969「愛鷹山麓のローム層：東名高速道路工事現場を中心として」『第四紀研究』第8巻第1号、10-21頁
- 長沼 孝 2010「装飾品と顔料」『講座日本の考古学2 旧石器時代（下）』、青木書店、201-225頁
- 長沼正樹 2010「いわゆる「ナイフ形石器文化」をめぐる学説史と方法論的展望：関東平野南部の台地別層位編年に着目して」『論集忍路子』Ⅲ、忍路子研究会、37-58頁
- 森先一貴 2007「角錐状石器の広域展開と地域間変異：西南日本後期旧石器時代後半期初頭の構造変動論的研究」『旧石器研究』第3号、日本旧石器学会、85-109頁
- 山田 哲 2006『北海道における細石刃石器群の研究』、六一書房
- 由井将雄・藤井敏嗣 1983「愛鷹火山の地質」『地震研究所彙報』Vol.64、東京大学地震研究所、347-389頁

〔報告書・調査報告等〕

- 熱海市教育委員会 1995『大越遺跡』
- 岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター 1996『柏山館遺跡発掘調査報告書』岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第242集
- 岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター 1999『峠山牧場I遺跡A地区発掘調査報告書』岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第291集
- かながわ考古学財団 1996『宮ヶ瀬遺跡群VI サザランケ（No.12）遺跡』かながわ考古学財団調査報告8
- かながわ考古学財団 2004『用田南原遺跡』かながわ考古学財団調査報告168
- 函南町教育委員会 2001『上原遺跡』
- 笹津海祥・瀬川裕市郎・関野哲夫・杉山治夫 1976「清水柳遺跡の土器と石器」『沼津市歴史民俗資料館紀要』1、沼津市歴史民俗資料館、3-80頁
- 静岡県埋蔵文化財調査研究所 1985『茶ノ木畑遺跡』静岡県埋蔵文化財調査研究所調査報告第8集
- 静岡県埋蔵文化財調査研究所 1997『北神馬土手遺跡他I』静岡県埋蔵文化財調査研究所調査報告第74集
- 静岡県埋蔵文化財調査研究所 1998『上ノ池遺跡』静岡県埋蔵文化財調査研究所調査報告第99集
- 静岡県埋蔵文化財調査研究所 2000『池田B遺跡』静岡県埋蔵文化財調査研究所調査報告第122集
- 静岡県埋蔵文化財調査研究所 2003a『鉄平遺跡』静岡県埋蔵文化財調査研究所調査報告第137集
- 静岡県埋蔵文化財調査研究所 2003b『大岡元長窪線関連遺跡I』静岡県埋蔵文化財調査研究所調査報告第138集
- 静岡県埋蔵文化財調査研究所 2003c『寺林遺跡・虎杖原古墳』静岡県埋蔵文化財調査研究所調査報告第142集

- 静岡県埋蔵文化財調査研究所 2004 『上松沢平遺跡』 静岡県埋蔵文化財調査研究所調査報告第145集
- 静岡県埋蔵文化財調査研究所 2006 『西山遺跡 第二東名No.2地点』 静岡県埋蔵文化財調査研究所調査報告第170集
- 静岡県埋蔵文化財調査研究所 2007a 『佛ヶ尾遺跡 第二東名No.147地点』 静岡県埋蔵文化財調査研究所調査報告第175集
- 静岡県埋蔵文化財調査研究所 2007b 『向田A遺跡 第二東名No.140地点』 静岡県埋蔵文化財調査研究所調査報告第178集
- 静岡県埋蔵文化財調査研究所 2008a 『下ノ大窪遺跡 第二東名No.146地点』 静岡県埋蔵文化財調査研究所調査報告第190集
- 静岡県埋蔵文化財調査研究所 2008b 『老平遺跡 第二東名No.145地点』 静岡県埋蔵文化財調査研究所調査報告第192集
- 静岡県埋蔵文化財調査研究所 2008c 『裾野市富沢・桃園の遺跡群』 静岡県埋蔵文化財調査研究所調査報告第193集
- 静岡県埋蔵文化財調査研究所 2009a 『大岡元長窪線関連遺跡Ⅲ』 静岡県埋蔵文化財調査研究所調査報告第205集
- 静岡県埋蔵文化財調査研究所 2009b 『梅ノ木沢遺跡Ⅱ』 静岡県埋蔵文化財調査研究所調査報告第206集
- 静岡県埋蔵文化財調査研究所 2009c 『桜畑上遺跡 第二東名No.1地点』 静岡県埋蔵文化財調査研究所調査報告第208集
- 静岡県埋蔵文化財調査研究所 2009d 『丸尾北遺跡』 静岡県埋蔵文化財調査研究所調査報告第210集
- 静岡県埋蔵文化財調査研究所 2010a 『細尾遺跡 (第二東名No.141地点)』 静岡県埋蔵文化財調査研究所調査報告第222集
- 静岡県埋蔵文化財調査研究所 2010b 『桜畑上遺跡Ⅰ (旧石器時代～縄文時代草創期編)』 静岡県埋蔵文化財調査研究所調査報告第224集
- 静岡県埋蔵文化財調査研究所 2010c 『富士石遺跡Ⅰ 第二東名No.142地点 旧石器時代(AT下位)編』 静岡県埋蔵文化財調査研究所調査報告第232集
- 静岡県埋蔵文化財調査研究所 2010d 『梅ノ木沢遺跡Ⅲ (旧石器時代編2・縄文時代草創期編)』 静岡県埋蔵文化財調査研究所調査報告第233集
- 静岡県埋蔵文化財調査研究所 2011 『八分平E遺跡 第二東名No.141-2地点』 静岡県埋蔵文化財調査研究所調査報告第243集
- 裾野市 1992 『裾野市史 第1巻 資料編 考古』
- 長泉町 1971 『長泉町郷土誌』
- 長泉町 1992 『長泉町史 上巻』
- 長泉町教育委員会 1976 『陣場上・平畦遺跡』
- 長泉町教育委員会 1978 『西願寺遺跡(A地区)・長久保城址(二の丸)』
- 長泉町教育委員会 1979 『下長窪上野遺跡』
- 長泉町教育委員会 1990 『上山地遺跡』
- 長泉町教育委員会 1981 『八分平B・富士石遺跡』
- 長泉町教育委員会 1986 『中尾・イラウネ・野台』
- 長泉町教育委員会 1989 『富士石遺跡群』
- 長泉町教育委員会 1994 『平畦遺跡・陣場上B遺跡』
- 長泉町教育委員会 2001 『木戸遺跡・中見代遺跡・東野Ⅱ橋下遺跡』
- 長泉町教育委員会 2006 『追平B遺跡』
- 中村遺跡発掘調査団 1987 『中村遺跡』
- 沼津市教育委員会 1981 『尾上イラウネ遺跡発掘調査報告書』 沼津市文化財調査報告書第23集



第2節 富士石遺跡の石器群の変遷

- 沼津市教育委員会 1982 『一般国道246号裾野バイパス埋蔵文化財発掘調査報告書』 沼津市文化財調査報告書第27集
- 沼津市教育委員会 1985a 『寺林南遺跡発掘調査報告書』 沼津市文化財調査報告書第33集
- 沼津市教育委員会 1985b 『埋蔵文化財発掘調査報告書』 沼津市文化財調査報告書第35集
- 沼津市教育委員会 1988 『土手上・中見代第Ⅱ・第Ⅲ遺跡発掘調査報告書』 沼津市文化財調査報告書第43集
- 沼津市教育委員会 1989 『清水柳北遺跡発掘調査報告書その2』 沼津市文化財調査報告書第48集
- 沼津市教育委員会 1990a 『大谷津遺跡発掘調査報告書』 沼津市文化財調査報告書第50集
- 沼津市教育委員会 1990b 『広合遺跡（e区）・ニッ洞遺跡（a区）発掘調査報告書』 沼津市文化財調査報告書52集
- 沼津市教育委員会 1992 『尾上イラウネ遺跡発掘調査報告書Ⅱ』 沼津市文化財調査報告書第53集
- 沼津市教育委員会 1993 『ニッ洞遺跡（b・c区）発掘調査報告書』 沼津市文化財調査報告書第54集
- 沼津市教育委員会 1996 『柏葉尾遺跡発掘調査報告書』 沼津市文化財調査報告書第61集
- 沼津市教育委員会 1998 『拓南東遺跡発掘調査報告書』 沼津市文化財調査報告書第65集
- 沼津市教育委員会 2002 『尾上イラウネ北遺跡（第2次）発掘調査報告書』 沼津市文化財調査報告書第81集
- 北海道文化財保護協会 1999 『長万部町オバルベツ2遺跡』 北海道文化財保護協会埋蔵文化財発掘調査報告書第11集
- 北海道埋蔵文化財センター 1985a 『湯の里遺跡群』 北海道埋蔵文化財センター調査報告第18集
- 北海道埋蔵文化財センター 1985b 『今金町美利河1遺跡』 北海道埋蔵文化財センター調査報告第23集
- 北海道埋蔵文化財センター 1999 『千歳市柏台1遺跡』 北海道埋蔵文化財センター調査報告第138集
- 三島市教育委員会 1990 『三島スプリングスCCゴルフ場内埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅰ』
- 三島市教育委員会 1995 『山中城跡三ノ丸第1地点』
- 三島市教育委員会 2004 『南山遺跡 東山遺跡 香音Ⅱ-D遺跡 奥山遺跡』
- 大和市教育委員会 1986 『月見野遺跡群上野遺跡第1地点』 大和市文化財調査報告書第21集

# 報告書抄録

ふりがな	ふじいしいせき							
書名	富士石遺跡Ⅱ 第二東名No.142地点 旧石器時代(AT上位)～縄文時代初頭編							
副書名	第二東名建設事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書							
巻次	長泉町-10 (第1分冊)							
シリーズ名	静岡県埋蔵文化財センター調査報告							
シリーズ番号	第3集							
編著者名	中村雄紀							
編集機関	静岡県埋蔵文化財センター							
所在地	〒422-8002 静岡県静岡市駿河区谷田23番20号 TEL 054-262-4261 (代)							
発行年月日	西暦 2012年1月31日							
ふりがな 所収遺跡	ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	発掘 期間	発掘 面積	発掘 原因
		市町	遺跡番号					
ふじいしいせき 富士石遺跡	しずおかけん 静岡県 すんとうぐん 駿東郡 ながいずみちよう 長泉町 ひがしの はちぶ 東野八分 だいら 平 ほか 285-18他	22342		35° 9' 53"	138° 52' 44"	2000.11 ～ 2001.03  2001.07 ～ 2001.08  2001.10 ～ 2005.01  2007.11 ～ 2009.03	52,365㎡	記録保 存調査
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物			特記事項	
富士石遺跡	集落	後期旧石器時代  縄文時代 初頭	石器集中 礫群 土坑	石製装飾品・尖頭器・角錐状石器・ナイフ形石器・切出形石器・台形石器・彫器・搔器・削器・石錐・楔形石器・基部加工石刃・石刃・細石刃・剥片・碎片・細石刃核・石核・原石・礫器・敲石・磨石・台石  有茎尖頭器・尖頭器				
<p>要約 富士石遺跡は後期旧石器時代から中世にわたる複合遺跡である。本書ではそのうち後期旧石器時代後半、第Ⅰ黒色帯から休場層、及び縄文時代初頭の調査成果を収録した。後期旧石器時代後半の資料は第Ⅳ～Ⅸの6枚の文化層に整理しており、特に第Ⅴ文化層(第Ⅰ黒色帯上部)で大規模な石器製作跡が調査された他、第Ⅷ文化層では尖頭器石器群のまとまった資料が得られた。また、第Ⅶ文化層では国内では出土例の少ない石製装飾品が出土しており、旧石器時代の芸術表現や精神生活の一端を示す資料として特筆される。</p>								

静岡県埋蔵文化財センター調査報告 第3集

## 富士石遺跡Ⅱ

第二東名No.142地点  
旧石器時代(AT上位)～縄文時代初頭編  
第二東名建設事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書  
長泉町-10  
(第1分冊)

平成24年1月31日発行

編集・発行 静岡県埋蔵文化財センター  
〒422-8002 静岡県静岡市駿河区谷田23-20  
TEL 054-262-4261 (代)  
FAX 054-262-4266

印刷所 大和印刷株式会社  
静岡県裾野市深良3642番地の12  
TEL 055-965-4100

